長崎県文化財調査報告書　第93集

# 九州横断自動車道建設に伴う
# 埋蔵文化財緊急発掘調査報告書
# VI

1989

長崎県教育委員会

# 序

埋蔵文化財の保存と活用は，歴史と伝統に基づく特色ある地方文化の形成に大きな役割を果たすものであります。

県教育委員会は，各種の開発事業に際し，その都度協議・調整を行い，多くの埋蔵文化財の保存に務めてまいりました。

九州横断自動車道（大村～嬉野間）の建設についても，計画段階から種々協議を重ね，可能な限り埋蔵文化財の現状保存に務めていただきましたが，最終的にルート上に所在する18遺跡については記録保存を図ることとし，県教育委員会は日本道路公団の要請を受け昭和60年から昭和62年までの3年間緊急発掘調査を実施いたしました。

この調査報告書はその成果を取りまとめたもので，通巻第VI分冊として，野田古墳他6遺跡を収録いたしました。残りの11遺跡についても年次計画に基づき逐次刊行の予定であります。本書を埋蔵文化財の保護，活用並びに学術研究の資料として役立てていただければ幸いです。

平成元年3月31日

長崎県教育委員会教育長
伊藤　昭六

# 例　言

1．本書は，九州横断自動車道建設工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書の第VI分冊である。

調査は長崎県教育庁文化課が日本道路公団福岡建設局の依頼を受け，昭和60年度から62年度まで実施した。

今次報告する遺跡と編集責任者は下記のとおりである。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ① | 野田古墳 | 大村市 | 昭和61年調査 | 宮崎 |
| ② | 東光寺遺跡 | 〃 | 昭和60年調査 | 町田 |
| ③ | 野中墓地・野中遺跡 | 東彼杵町 | 昭和61・62年調査 | 町田 |
| ④ | 宮田A遺跡 | 〃 | 昭和61年調査 | 高野 |
| ⑤ | 名切A遺跡 | 〃 | 〃 | 町田 |
| ⑥ | 名切D遺跡 | 〃 | 〃 | 伴 |
| ⑦ | 松山A遺跡 | 〃 | 昭和61・62年調査 | 安楽 |

2．本書は，各遺跡ごとに分担執筆し，執筆者名は各項文末に記した。

3．本書の総括編集は高野が担当した。

4．出土遺物は，現在全て長崎県文化課が保管の任にあたっている。

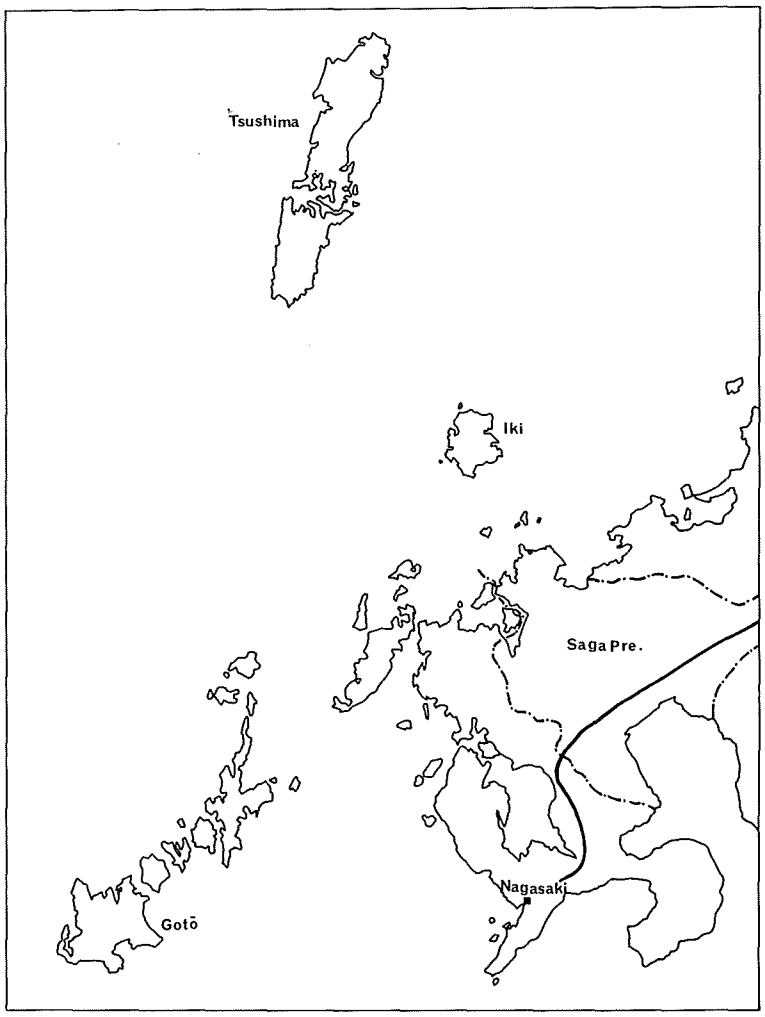
# 総目次

序
例言

頁

Ⅰ．発掘調査の端緒と経過……5
Ⅱ．遺跡の地理的環境……13
Ⅲ．大村地区の調査……19
　周辺の歴史的環境……21
　野田古墳……29
　東光寺遺跡……109
Ⅳ．東彼杵地区の調査……135
　周辺の歴史的環境……137
　野中墓地・野中遺跡……143
　宮田A遺跡……287
　名切D遺跡……447
　名切A遺跡……479
　松山A遺跡……493

# I　発掘調査の端緒と経過




九州横断自動車道ルート図

Fig. 1　調査地点位置図（■ 今回報告分）

# Ⅰ　発掘調査の端緒と経過

全国的な高速道路建設の要請の中で，昭和41年長崎市と大分市を結ぶ総延長250kmの九州高速横断自動車道路が計画された。

これを受けて，本県では先ず長崎市と大村市を結ぶ17.6kmが着工されることとなり，当該区域内に含まれる文化財の保護についての折衝が行なわれることとなった。

その結果，保存不可能な29遺跡については事前に発掘調査を実施することになり，昭和50年～56年にかけて緊急調査が実施された。その成果については既に報告したとおりである。[註1]

一方，大村市から以北の延長部分については，一時中断の状態であったが，昭和53年第２期工事として大村市と佐賀県嬉野町の間21.6kmについての建設計画が採択された。

経過については以下のとおりである。

昭和53年７月　道路公団九州地方建設局長より長崎県知事宛，環境アセスに対する意見要請。
同　　年７月　道路公団あて回答(文化財保護に対する配慮要請)。
昭和54年８月　県道路建設課長より文化課長あて関連公共事業調査依頼。
同　　年８月　予定路線内一部について分布調査(遺跡18箇所回答)。一次調査
同　　年11月　残り予定路線について分布調査(遺跡38箇所回答)。二次調査
昭和57年１月　道路公団より文化庁長官へ事前協議。
同　　年２月　県教育長より道路公団あて発掘調査を指示。
昭和58年４月　道路公団より県教育長あて決定路線内の文化財調査依頼。
同　　年４月　分布調査。三次調査
同　　年６月　道路公団あて最終回答。

以上の経過を踏まえ，最終的に路線内に含まれることとなった18遺跡について，発掘調査を実施することとなった。各遺跡の調査概要は表のとおりである。(Tab.　1，２)　　(高野)

**註１**

長崎県教育委員会　1981　「九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　Ⅰ」　長崎県文化財調査報告書　第54集
長崎県教育委員会　1982　「九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　Ⅱ」　長崎県文化財調査報告書　第56集
長崎県教育委員会　1983　「九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　Ⅲ」　長崎県文化財調査報告書　第64集
長崎県教育委員会　1984　「九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　Ⅳ」　長崎県文化財調査報告書　第69集
長崎県教育委員会　1985　「九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅴ」　長崎県文化財調査報告書　第72集

Tab. 1 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査総括一覧表

| No. | 遺跡名 | 所在地 | 面積(m²) | 調査期間 | 遺跡の概要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 坂口館跡 | 大村市荒瀬町 | 分布面積 3,040m²<br>調査面積 3,040m² | ①61.3.3～3.27<br>②61.4.7～5.31<br>③62.2.9～3.28<br>④62.4.6～6.2<br>⑤62.8.18～9.30 | キリシタン大名大村純忠（1586没）の終焉の地。泉水のみ現存する。中世と近世の様々な柱穴群が検出されたが、純忠との直接的資料となるかは今後検討を要する。 |
| 2 | 葛城野田A遺跡 | 大村市鬼橋町 | 分布面積 23,000m²<br>調査面積 5,200m² | （葛城）61.4.21.～11.7<br>（野田A）<br>①61.11.12～62.3.20<br>②62.4.6～6.5 | （葛城）標高50mの丘陵上の位置し野田A遺跡と対峙する。鞍部には比較的良好な遺物包含層が残存しており、かなり広範囲に分布している。幼児の埋葬甕棺5基は県下でも貴重な例である。<br>（野田A）江戸時代の墓を11基検出した。その中に僧侶の墓と推定される墓がある。 |
| 3 | 野田B遺跡 | 大村市野田町 | 分布面積 550m²<br>調査面積 212m² | 61.9.29～10.6 | 標高40mの丘陵上に位置する。遺物包含層は開墾時の削平で消失したものと考えらる。 |
| 4 | 野田古墳 | 大村市野田町 | 分布面積 2,340m²<br>調査面積 2,390m² | 61.6.16～9.19 | 開墾によりかなりの損壊を受けていた。封土はなく石室が天井石を欠いた状態で1基露出していた。7世紀の群集墳中の1基と考えられ、台地上の浅い谷の西側に2基追加確認した。玄室（遺体を安置する部屋）は、床に板石を敷きつめていた。副葬品の出土は少ない。 |
| 5 | 野田の久保遺跡 | 大村市立福寺町<br>弥勒寺町 | 分布面積 5,270m²<br>調査面積 4,100m² | ①61.10.7～62.3.20<br>②62.4.6～6.2 | 丘陵平坦部および南面するなだらかな傾斜地に遺物の散布が多く見られる。縄文時代から弥生時代にかけて営まれた遺跡である。 |
| 6 | 上八龍遺跡 | 大村市弥勒寺町 | 分布面積 3,450m²<br>調査面積 1,380m² | 62.1.13～3.26 | 丘陵斜面上に位置し浅い谷を挟んでA，B地区に区別される。A地区の状況は良くなかったが、B地区は良好な遺物包含層が残存しており、多くの遺物が出土した。また、柱穴群の検出により生活址も確認した。 |
| 7 | 東光寺遺跡 | 大村市内原1丁目 | 分布面積 2,500m²<br>調査面積 750m² | 60.10.28～12.7 | 標高約125mの丘陵上に位置する。遺跡は開墾時の損壊を受けていたが、台地の辺縁部には縄文時代早期と晩期の比較的良好な遺物の包含状況が見られた。 |
| 8 | 長石遺跡 | 大村市松原3丁目 | 分布面積 450m²<br>調査面積 212m² | 60.11.25～12.6 | ゆるやかに傾斜する標高約140mの丘陵先端部に位置する。遺物包含層の大半は開墾等により消滅していた。遺跡の中心は調査区の東側と推察される。 |
| 9 | 里郷遺跡 | 東彼杵郡東彼杵町里郷 | 分布面積 12,730m²<br>調査面積 6,065m² | ①60.12.5～61.3.27<br>②61.4.7～5.31 | 標高約117mの丘陵上に形成された縄文時代を主体とした遺跡。遺物としては、旧石器時代から近世までと幅広い時代にわたって出土している。遺跡は広範囲に形成されているが、かなり損壊を受けていた。 |
| 10 | 大久保遺跡 | 東彼杵郡東彼杵町平似田郷 | 分布面積 2,730m²<br>調査面積 624m² | 60.9.2～10.31 | 標高約65mの緩やかな尾根上に位置する。良好な縄文時代の遺物包含層が確認されたが、削平・石取り等後世の人為的撹乱によりかなりの損壊を受けていた。 |
| 11 | 野中墓地 | 東彼杵郡東彼杵町瀬戸郷 | 分布面積 190m²<br>調査面積 190m² | 61.12.13 | 標高約55mの丘陵上に祠られている。墓碑には、元禄年間の紀年銘が刻まれているが、単なる拝み墓で、遺体埋葬墓地は別地と考えられる。 |
| 12 | 野中遺跡 | 東彼杵郡東彼杵町瀬戸郷 | 分布面積 5,000m²<br>調査面積 2,520m² | ①62.3.2～3.18<br>②62.4.6～4.21 | 野中墓地と同じ立地にある。墓地改葬中に縄文時代の遺物が発見され、遺跡の存在が確認された。<br>縄文時代の包含層はごく一部の狭い範囲に堆積していたが、遺跡の主体は中～近世であり建物跡が検出された。 |

| 遺物・遺構等 | 時代 | 調査担当 | 整理担当 | 報告年 |
|---|---|---|---|---|
| ・縄文式土器<br>・石器（石鏃・石匙・剥片）<br>・輸入陶磁器・近世陶磁器<br>【建物址・箱式石棺】<br>遺物総点数　4,460点 | ・縄文時代<br>・弥生時代<br>◎中世<br>・近世 | 副島・宮崎・立平<br>福田・本田・浦田<br>長嶋・村川 | 副島・宮崎<br>村川 | 1991 |
| ・ナイフ形石器・縄文式土器<br>・石器（石鏃・掻器・剥片）<br>【柱穴・土壙・甕棺・墓穴】<br>遺物総点数　33,700点 | ◎縄文時代<br>・弥生時代<br>◎近世 | 藤田・立平・川畑 | 藤田・立平 | 1990 |
| ・縄文式土器<br>・石器（石鏃・石核・剥片）<br>・陶磁器<br>遺物総点数　85点 | ◎縄文時代<br>・近世 | 宮崎・福田 | 宮崎 | 1990 |
| ・縄文式土器・石器<br>・須恵器・陶磁器片<br>【円墳・横穴式石室】<br>遺物総点数　930点 | ・縄文時代<br>◎古墳時代 | 宮崎・福田・本田 | 宮崎・福田<br>本田 | 本書 |
| ・縄文式土器・弥生式土器<br>・石器類・陶磁器片<br>【不定形土壙・柱穴群・甕棺】<br>遺物総点数　110,000点 | ◎縄文時代<br>・弥生時代<br>・近世 | 高野・久原・川道 | 高野 | 1990 |
| ・縄文式土器・弥生式土器<br>・石器類<br>【柱穴群】<br>遺物総点数　12,000点 | ◎縄文時代<br>・弥生時代 | 久原・伴 | 伴 | 1991 |
| ・縄文式土器<br>・石器（石鏃・剥片）<br>・近世陶磁器<br>遺物総点数　9,000点 | ◎縄文時代<br>・近世 | 安楽・町田 | 安楽・町田 | 本書 |
| ・石器類（石核・剥片）<br>・須恵器片<br>・陶磁器片<br>・土錘<br>遺物総点数　294点 | ◎縄文時代<br>・古墳時代<br>・近世 | 宮崎・草野 | 宮崎 | 1990 |
| ・ナイフ形石器・縄文式土器<br>・石器類（石鏃・掻器・削器）<br>・陶磁器片<br>【住居址・土壙墓・集石遺構】<br>遺物総点数　35,000点 | ・旧石器時代<br>◎縄文時代<br>・近世 | 高野・久原・川道<br>福田・川畑・小野 | 高野・小野 | 1991 |
| ・ナイフ形石器<br>・石槍<br>・縄文式土器<br>・石器類（石鏃・剥片等）<br>遺物総点数　15,300点 | ・旧石器時代<br>◎縄文時代 | 藤田・久原・川畑 | 藤田 | 1991 |
| ・古銭（寛永通宝）<br>・土瓶<br>遺物総点数　4点 | ◎近世 | 田川・宮崎 | 宮崎 | 本書 |
| ・縄文式土器<br>・石器類（磨製石斧・剥片等）<br>・陶磁器片<br>【柱穴群・土壙】<br>遺物総点数　1,500点 | ・縄文時代<br>・弥生時代<br>◎中世<br>◎近世 | 副島・町田・村川<br>小野 | 町田・村川<br>小野 | 本書 |

【　】内は遺構　　◎主体となる時代

Tab. 2　九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査総括一覧表

| No | 遺跡名 | 所在地 | 面積(m²) | 調査期間 | 遺跡の概要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 13 | 小蘭城跡 | 東彼杵郡東彼杵町瀬戸郷 | 分布面積 2,470m²<br>調査面積 4,800m² | 61.11.25～62.3.27 | 標高約30mの海岸段丘上に位置する。大村郷村記に「小蘭城」の記録がある。調査の結果、城跡の遺構の他に、それ以降の近世の屋敷跡が存在したと考えられる。また、16世紀頃の墓4基（その内3基には人骨が埋納されたまま）を検出した。 |
| 14 | 宮田A遺跡 | 東彼杵郡東彼杵町千綿宿郷 | 分布面積 1,960m²<br>調査面積 1,720m² | 61.6.16～9.26 | 千綿川の堆積作用で作出された沖積地と微高地上に縄文時代後・晩期から弥生時代中期にかけて形成され集落址・生活址が付近に存在すると考えられる。<br>特に、扁平打製石斧の出土量が多く（400本）、農耕と関連する生産背景が注目される。 |
| 15 | 外園遺跡 | 東彼杵郡東彼杵町千綿宿郷 | 分布面積 4,170m²<br>調査面積 3,225m² | 61.3.3～6.11 | 標高約65～80mの緩やかに傾斜する丘陵上に位置する。縄文時代中期から晩期の遺物の出土があったが、遺跡の主体は中世～近世に至る時期と考えられる。<br>小礫を集めた集石土壙や帯状の石敷遺構・石垣等の遺構の検出があるが、いづれも性格不明。 |
| 16 | 名切D遺跡 | 東彼杵郡東彼杵町千綿宿郷 | 分布面積 4,790m²<br>調査面積 1,100m² | 61.8.25～10.9 | 標高約60～70mの丘陵斜面上に位置する。遺跡の主体部は町営グランドの下にあり、調査区域は辺縁部と考えられる。遺物包含層は流失していた。 |
| 17 | 名切A遺跡 | 東彼杵郡東彼杵町彼杵宿郷 | 分布面積 640m²<br>調査面積 335m² | 61.4.21～5.10 | 標高約60mの丘陵上に位置しており、遺物の散布はわずかに見られるが、遺物包含層が流失してしまっており、地山までの深度が浅く状況は良くなかった。 |
| 18 | 松山A遺跡 | 東彼杵郡東彼杵町彼杵宿郷 | 分布面積 8,110m²<br>調査面積 5,125m² | ①61.7.7～62.3.20<br>②62.4.6～6.19 | 標高約70mの丘陵上に位置する。谷部に面した斜面上に形成されている。かなり広範囲に分布しており多くの遺物が出土している。<br>特に、石鏃の出土量の多さには注目され、石槍60点の出土は県下最多例である。 |

| 合　計 | ・分布面積　83,390m²　・調査面積　42,988m² |
|---|---|

| 遺物・遺構等 | 時　代 | 調査担当 | 整理担当 | 報告年 |
|---|---|---|---|---|
| ・縄文式土器・石器類<br>・陶磁器類（中世・近世）<br>【空壕2条・石垣・土壙・集石・遺構土器溜】<br>遺物総点数　50,000点 | ・縄文時代<br>・弥生時代<br>◎中世<br>◎近世 | 町田・福田・村川<br>本田・伴・小野 | 町田・村川<br>伴・小野 | 1991 |
| ・縄文式土器・弥生式土器<br>・石器類<br>【集石土壙・不明土壙】<br>遺物総点数　28,900点 | ・縄文時代<br>◎弥生時代 | 高野・久原・川道 | 高野・川道<br>宮崎 | 本書 |
| ・縄文式土器・石器類<br>・輸入陶磁器類<br>【柱穴群・集石土壙・石敷遺構・石垣】<br>遺物総点数　12,000点 | ・縄文時代<br>◎中世<br>・近世 | 安楽・藤田・町田<br>浦田・長嶋 | 安楽・藤田<br>町田 | 1990 |
| ・縄文式土器<br>・石器類（石鏃・剥片等）<br>・陶磁器片<br>遺物総点数　8,000点 | ◎縄文時代<br>・近世 | 町田・伴 | 町田・伴 | 本書 |
| ・縄文式土器<br>・石器類（剥片）<br>遺物総点数　500点 | ◎縄文時代 | 町田・浦田 | 町田 | 本書 |
| ・ナイフ形石器・縄文式土器<br>・石器類（石鏃・剥片・石斧）<br>・石鍋片・陶磁器類<br>【集石遺構・土壙】<br>遺物総点数　65,000点 | ・旧石器時代<br>◎縄文時代<br>・近世 | 安楽・浦田・長嶋 | 安楽 | 本書 |

遺物総点数　386,673点

【　】内は遺構　　◎主体となる時代

本年度報告遺跡の発掘調査ならびに整理作業担当者は下記の通りである。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 高野晋司 | 長崎県教育庁文化課主任文化財保護主事 | | |
| 安楽　勉 | 〃 | 〃 | |
| 副島和明 | 〃 | 〃 | |
| 宮崎貴夫 | 〃 | 〃 | |
| 町田利幸 | 〃 | 文化財保護主事 | |
| 久原巻二 | 〃 | 指導主事 | (現長崎県立島原高等学校教諭) |
| 川道　寛 | 〃 | 〃 | (現長崎県立西陵高等学校教諭) |
| 福田一志 | 〃 | 文化財研究員 | (現長崎県立長崎工業高等学校教諭) |
| 浦田和彦 | 〃 | 〃 | (現長崎県立壱岐高等学校教諭) |
| 本田秀樹 | 〃 | 〃 | (現長崎県立富江高等学校教諭) |
| 長嶋　徹 | 〃 | 〃 | (現長崎県立長崎南高等学校教諭) |
| 村川逸朗 | 〃 | 文化財調査員 | (現長崎県教育庁文化課文化財保護主事) |
| 伴耕一朗 | 〃 | 〃 | |
| 小野ゆかり | 〃 | 〃 | |

# II　遺跡の地理的環境

## 1．地理的環境

本報に関わる地域は，大村市北部から東彼杵郡東彼杵町にかけての長崎県本土部の中東部に当る。東は佐賀県，西は大村湾に面し，南は諫早市，北は佐賀県・東彼杵郡川棚町がある。

大村市は大村湾の南東岸に位置し，面積126.45㎢，人口72,039（昭和63年12月末）は，県内8市中それぞれの6位・4位である。昭和17年県内5番目の市として市制を施行した。東に多良山系の山波があり，東高西低の地勢を呈している。多良山系からは深い谷を穿って郡川が西流し，大村扇状地をつくって市の主な生活舞台を提供している。

994（正暦5）年藤原直澄が入って大村氏の藩祖となり，郡川河口近くに本拠を構えたが，大村純忠により三城，その子喜前によって玖島城が築かれた。純忠は，キリシタン大名として知られ，長崎開港や天正遣欧少年使節を派遣したりしている。玖島城址の東部地区には，藩校五教館御成門や武家屋敷が残り，江戸時代の面影を伝えている。明治30年に放虎原に陸軍歩兵連隊が置かれ，大正12年には海軍航空隊も開設されて大村は軍都の様相を呈した。現在も自衛隊基地として受け継がれている。大村湾に浮ぶ箕島には，世界初の海上空港として長崎空港が設けられた。九州横断自動車道の建設など高速交通体系が次第に整うにつれ地域浮揚の要素が増大し，臨空港型の工業立地や農業の集約化など県央の中核地域として地域の変容が起りつつある。従って人口も昭和40年以来増加傾向がつづいている。産業別就業人口をみると，第一次産業12.4%，第二次産業20.8%，第三次産業66.7%となっており，県平均（17.3,23.3,59.3）と比べ第一次産業が少なく，

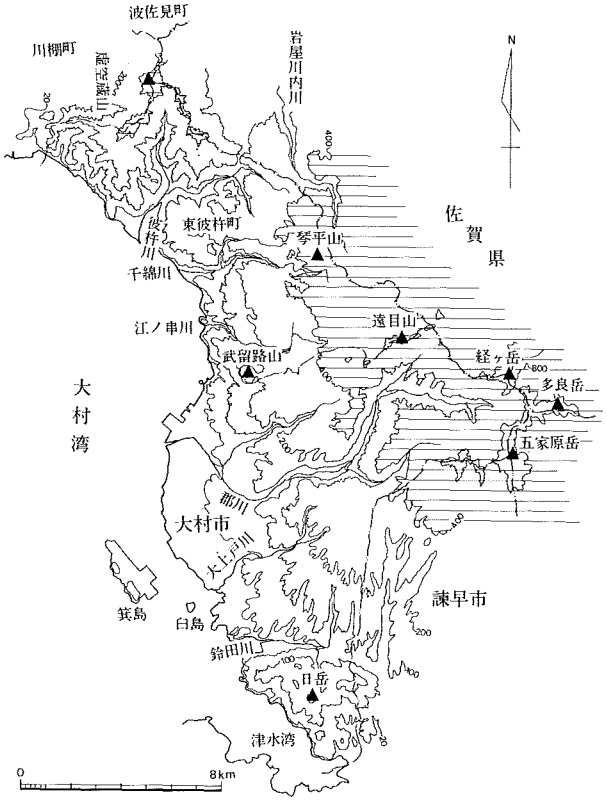



Fig.2　周辺概念図

第三次産業が多い[註1]。市の行政・経済や文化面での機関のほとんどは大村平野南部の市街地に集中し，近世以来の中心機能を継承している。

東彼杵町は，大村湾の北東岸にあり，北西－南東方向の海岸線を一長辺とする略平行四辺形の町域をもつ。面積74.21㎢，人口10,387（昭和63年12月末）。全体に山がちで，南東部の遠目山（849ｍ）を最高所とし，北及び西へ高度を逓減して多良山系の山地・溶岩台地がつづき，彼杵川をはさんで北には虚空蔵山塊が占めている。海岸に沿って大音琴・彼杵・千綿や里のまとまった集落がほぼ等距離で並び，国道・ＪＲ大村線がこれらを結んでいる。その他彼杵川の河谷や丘陵状の山麓傾斜面にも古い集落がみられる。産業別就業人口は，第一次産業31.5％，第二次産業26.9％、第三次産業41.5％で，県平均に比べ第一次産業が多く，第三次産業が少ない。大村市と好対称をなす。第一次産業は，農業・林業がさかんで，中でも県内の51.6％もの茶園面積をもつ県内一のお茶どころとして知られる。彼杵が町の中心地で江戸時代の長崎街道の宿駅として発達した。今も国道34号，205号が分岐し，九州横断道のインターチェンジが建設されており，交通要衝として今も昔も変らない。

大村市・東彼杵町両地域は，多良山系や虚空蔵山などの山々が広い面積を占め，大村扇状地や彼杵川河口部などに平野がみられるだけである。これらの基盤をなすのは，第三紀の堆積岩（杵島層群）で，彼杵川の谷底などに一部みられる。この上に安山岩や玄武岩質の火山性岩石が何層も噴出して，複雑な地形区をつくっている[註2]。

多良山系は，経ケ岳（1076ｍ）を最高峰とする火山で，有明海と大村湾との間に噴出し，諫早地峡で狭まりながら島原半島や長崎・西彼杵半島を肥前半島胴部と繋いでいる。基底部には玄武岩や変朽安山岩があり，その上に安山岩質の火山岩が噴出して，五家原岳（1058ｍ），多良岳（983ｍ），経ケ岳（1075ｍ），遠目山（849ｍ）や郡岳（826ｍ）などの溶岩円頂丘群が形成されている。これらの諸峰が郡川上流の黒木谷をとり囲むようにみられるところから，黒木の盆地状地形を火口とする考えもある。大村市と東彼杵町との境界付近には，美麗な武留路山（341ｍ）や飯盛山（335ｍ），鉢巻山（335ｍ）があり，寄生火山としての性格をもつ。

多良山系北部は玄武岩が広く，溶岩台地となる。大野原台地と呼ばれる高位の玄武岩台地と中位の赤木台地とに分類される。大野原台地は，遠目山や郡岳の北麓に県境にそって広がり，琴平山や大野原を中心とした標高400ｍほどのゆるやかに起伏する台地で，一部は自衛隊の演習場として利用されている。北から彼杵川・塩田川支流の岩屋川内川，西から千綿川が深い谷を刻み，台地に上る所に大きな遷移点がみられる。赤木台地は，彼杵川と千綿川とにはさまれた標高200ｍ内外の台地である。両台地とも周辺に急斜面が発達し，地形区の境界に溜池がみられ，茶園の土地利用が広いなどの共通点がみられる。

多良山系の南部は有明海へゆるやかに裾をひく山麓面が発達して，放射状の多くの谷がみられる。この山麓地形は，多良火山初期に噴出した火山泥流（火山砕屑岩）によるもので，西端

は大村扇状地にも接しておりFig. 3にもみえる。鈴田川以南は第三紀層の丘陵に日岳などの玄武岩がのこって平頂性の山地となっている。

虚空蔵山地は，東彼杵町の北部を占める山地で輝石安山岩・集塊岩状安山岩や安山岩質凝灰角礫岩などの安山岩質溶岩からなる。主峰の虚空蔵山（608.5m）ほか不動山・高見岳などの峰がいくつかに分かれ，Fig. 4のとおり侵食谷が樹枝状に深く入り込み，開析が進んでいることを示している。山容は壮年期性を呈し，山頂はビュート状に尖っている。

山地や台地の周辺にはゆるやかな起伏の山麓地形がみられる。大村市街地の東方，江ノ串川から彼杵川にかけての海岸沿いによく発達している。本報に関わる九州横断道はこの緩斜面をぬって走るため，山麓端に立地する遺跡が大半を占める。

以上の山地地形を切って流れる諸河川は，東高西低の地勢を反映して西へ流れて大村湾へ注ぐものばかりである。郡川・彼杵川や千綿川などを代表的河川としてあげることができる。

郡川は当地域最大の河川で，延長14.6km，流域面積54.7km²を測る。多良岳の西麓に源をもち，多良火山に深いV字谷をつくる。黒木盆地の出口には萱瀬ダムが多目的ダムとして建設され，長崎市へも送水されている。中流で南川内川，下流で佐奈川内川などの比較的大きな支流を集めて河道を広げ，大村湾へ注ぐ。田下の集落付近からは，両岸に細長く河岸段丘が発達し，坂口以下は大村扇状地となる。大村平野の大部分を占める大村扇状地は，扇頂の坂口から約135°の角で半径4kmにわたって西へ開いており，坂口（標高45m）から約1/100のゆるい傾斜をもつ。扇端は海に没しているといわれる。最終氷期の海面低下期に形成されと考えられ，主に多良火山から供給された砂礫層は150mをこす[註3]という。郡川はかっては扇状地の主軸にそって西へ直流

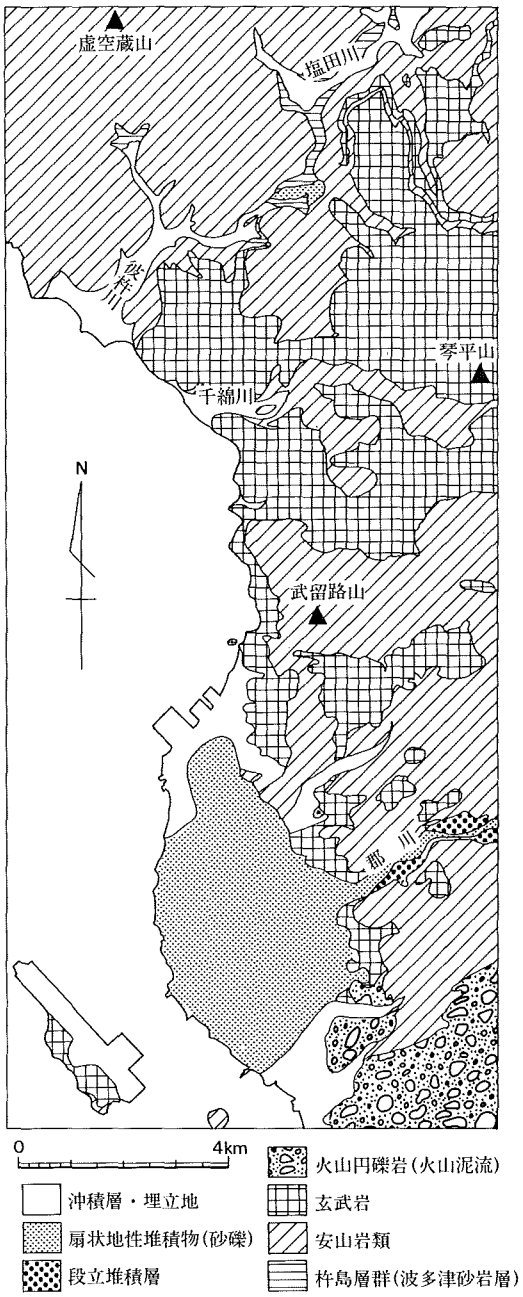



Fig.3　周辺の地質図

しており，旧河道を示す小凹凸が扇頂から放射状にみられる。完新世の海面上昇にともない基準面が変動して旧扇状地は侵食を受けることとなり，郡川の河道は北転して一段低い新しい扇状地をつくって今日に至っている。一段高い旧扇状地は畑の土地利用が多く，新扇状地は主に水田に利用されている。また海進にともなって海岸近くの扇面は，一部侵食を受け，波食台をつくっている。現在の河道の下流部には，自然堤防の微高地があり，川端・竹松遺跡などの縄文・弥生時代遺跡がみられ[註4]，地形発達史をうかがうことができる。河口部には沖田三角州と呼ばれる扇状地状三角州がみられ，条里制地割が認められている。大村扇状地南部の大上戸川河口部にも小三角州が形成され，同様に条里遺構がみられる。両地域周辺には古墳も多く，水田可耕地をもつ大村扇状地の両扇側から開発が進んだことが知られる。扇央部は地下水位が深く開発が遅れたが、江戸時代になって千葉ト枕による放虎原開拓が有名である。

彼杵川は延長6.8km，流域面積25.4km²，東彼杵町北半部を流域とする。大野原台地北部の中山を水源とし，北西流する支流を合わせて西へ向きを変え，次第に広い河谷となる。虚空蔵山南麓を侵食する川内川を合流して西南へ向きを転じ，大村湾へ注ぐ。中流域には３～４段の河岸段丘が断片的にみられ，低位面の残りがよい。扇状地性の山麓堆積面も谷底平野に接して一部みられる。下流部はやや広い低平地となる。標高20ｍ以下には流路の変動を示す旧河道があり，５ｍの等高線は河道部で下流に凸となり，荒れ川の性格をもつ扇状地性，あるいは天井川の性格をもつ平野であることを示している。この平野が東彼杵町最大の平地で，東彼杵町の中心部をのせている。下流部両岸には，彼杵川古墳群，上杉古墳群やひさご塚などの古墳があり，縄文

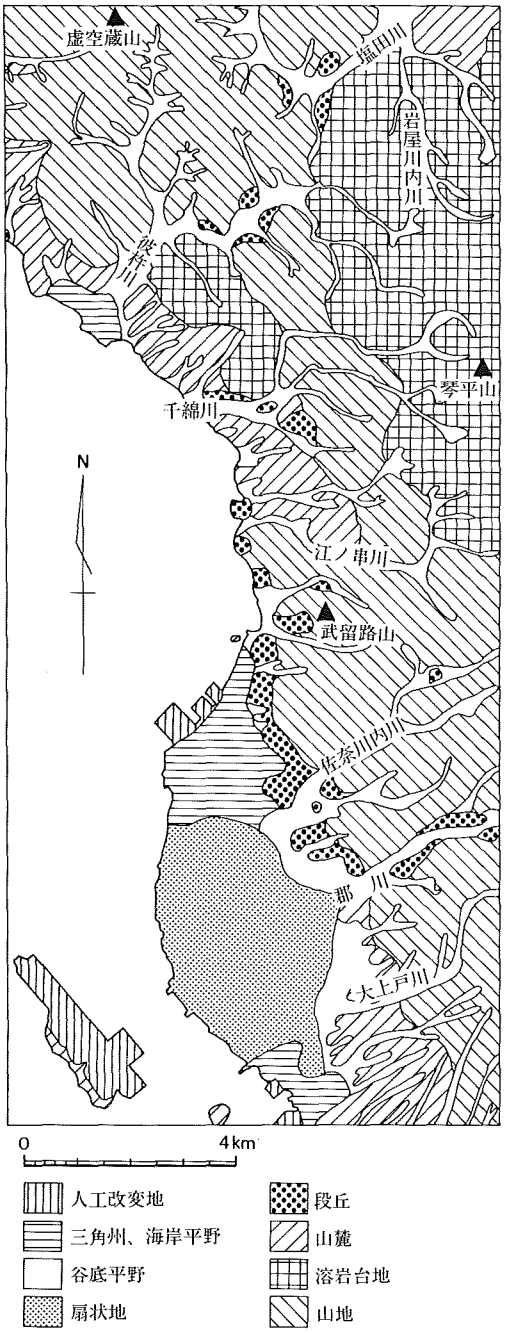



Fig.4　周辺の地形分類図

～古墳時代の住居址・墳墓群を検出した白井川遺跡，中世の輸入陶磁器などを多量に出土した岡遺跡などがあり[註5]，開発の古さを物語っている。

千綿川は延長2.8km，流域面積27.5km²，東彼杵町の中央部を流域とする。遠目山北麓に源を発し，玄武岩台地を侵食して西へ流れ，標高400m以下の中流に滝や淵の連続する渓谷美をつくっている。幕末の儒者広瀬淡窓はここを訪れ，48の淵にそれぞれ命名し，龍の勢になぞらえて龍頭泉と総称したという。東彼杵町を代表する観光地となり，夏には流しそうめんや鯉料理とともに涼を求める人々でにぎあう。江ノ串川にも大樽滝・小樽滝があり，佐奈川内川の裏見ノ滝，大上戸川の山田ノ滝などいずれも下位の火山砕屑岩と上位の安山岩や玄武岩との侵食の差から生じたものである。千綿川の下流部にも細長い谷底平野があり，河道が左岸山麓に寄るため，右岸に段丘が認められ，宮田遺跡が占地している。河口部に千綿宿の集落がある。

これらの河川が流れ込む大村湾は，西彼杵半島に抱かれた閉鎖的海湾で，佐世保湾との間に針尾島があり，狭い針尾瀬戸・早岐瀬戸で通じるのみである。南北26km，東西11km，面積320km²，周囲280km。中央部でも20mと比較的浅い。西彼杵半島側には多くの島や支湾があり，リアス式の出入りの多い海岸線をなしている。東海岸にあたる大村・東彼杵側は，大村扇状地や彼杵川三角州などの堆積作用も活発で，単調な海岸線をしている。ナマコ・イワシ・エビなどの沿岸漁業や真珠・ハマチ・タイ・マダイなどの養殖業でも知られる。湾内には24水系35河川が流入しており，生活排水の増加や自然海岸の減少などによって地先水域の汚染が進行し問題となっている。

この地域にナイフ形石器が盛行した旧石器時代の後期ごろは，寒冷で著しく海面が低下していたという。そのころは大村湾はひとつの盆地をなし，今湾内に注ぐ諸河川はひとつになって流れ出ていた。完新世になるころ湾内に海水が進入してきたと考えられる。　　（久原）

**註**　1．長崎県（1987）「第34版長崎県統計年鑑」その他の統計も本書による。
2．　〃　（1973）「土地分類基本調査　大村」
〃　（1975）「　　〃　　早岐」
3．田中正央（1977）「大村扇状地の地形」『日本大学農獣医学部一般教養研究紀要No.13』
4．長崎県教育委員会（1987）「長崎県遺跡地図」『長崎県文化財調査報告書第87集』
5．東彼杵町教育委員会（1988）「岡遺跡」『東彼杵町文化財調査報告書第２集』

参考文献　大村史談会（1977）「大村史談　上・中・下巻」
角川書店　（1987）「角川日本地名大辞典　42長崎県」

# III　大村地区の調査

野田古墳
東光寺遺跡

## III　大村地区の調査

周辺の歴史的環境（Fig. 7）

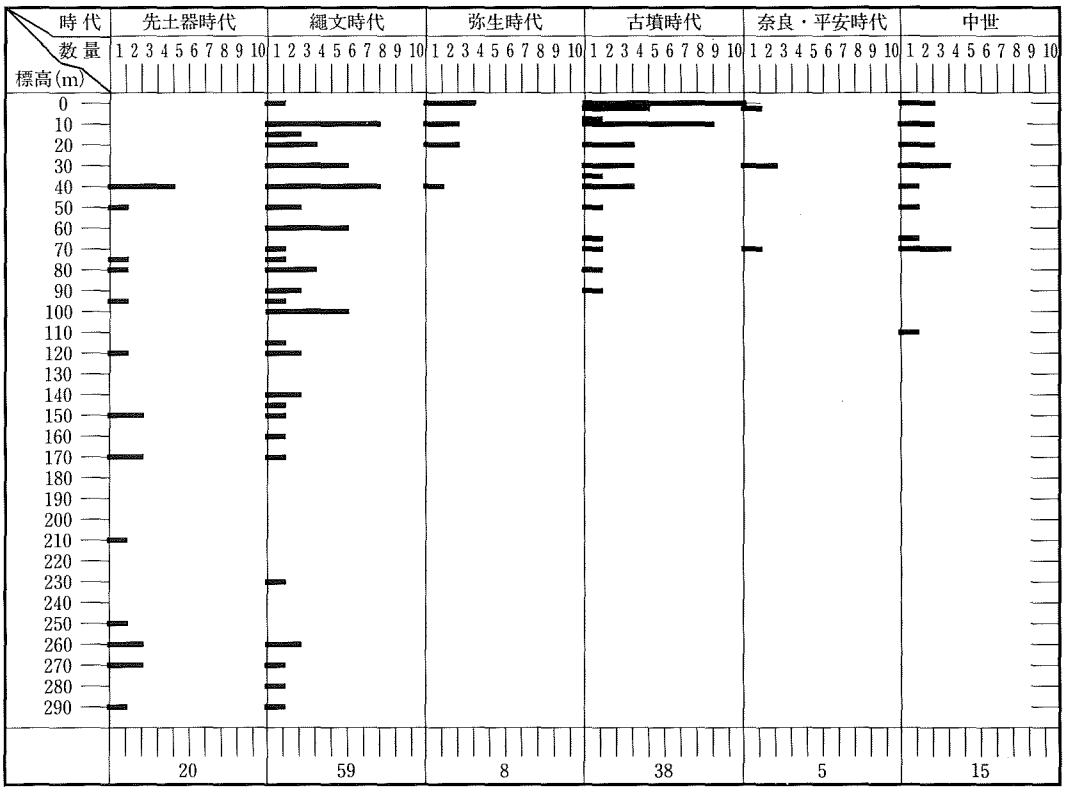
大村市は，県央部に位置し，面積126.45kmを有する，県下で4番目の人口を持つ田園都市である。現在市内には212箇所の遺跡が知られているが，これは面積比からすると0.587km²に1箇所であり，県下平均の1.236km²に1箇所の割合からすると2倍強の平均値を示す。

九州横断自動車道は，多良山系から派生した各丘陵中央部付近の緩傾斜を横切る形で突き抜けることになる。標高にして50m～90mラインである。一方，大村市に置ける遺跡の等高線別の遺跡頻度を見ると，Tab. 3に見る如く各時代別に差は見られるが，50m以下に集中する傾向があり，この点横断道のルートは遺跡密集地帯は避けていることになる。

ここでは，今回調査した地域の周辺遺跡についてのみ概要を説明しておきたい。

先土器時代の遺物は，20か所程で採集されている。等高線別に特に集中ラインは認められないが，250mを越す高地に多い事実が指摘される。これらの中には，多様な細石核を出土したことで著名な**4**・野岳遺跡も含まれる。[註1]（Fig. 5）

Tab. 3 大村市等高線別遺跡頻度



縄文時代の遺跡が最も多く周知されているが，その内容については，殆ど不明であったが，最近の調査によって，少しづつ分かってきた。等高線別では100m以下の地域に圧倒的に分布するが，250mを越す地域にも散見される。時期が分かる例では，晩期の資料が増えてきており，**86**の黒丸遺跡[註2]では，晩期後半の甕棺墓地に加えて扁平打製石斧が多量に出土するなど，集落の存在も推定されている。当遺跡は，郡川下流域の大村扇状地の先端部分に位置し，標高は3～4mである。縄文時代の資料の他，弥生時代，古墳時代，中世の資料も多く，また条理制の地名も残るなど，古代大村の中心的な遺跡である。(Fig. 6)

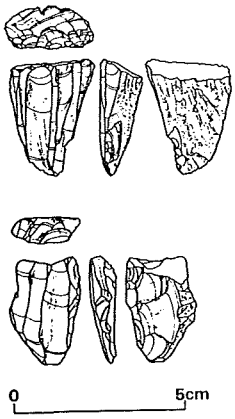



Fig.5　野岳遺跡出土細石核

弥生時代の遺跡は8遺跡が知られている。その殆どが標高20m以下の郡川流域の扇状地にある。何れも1978年の黒丸遺跡の調査以来注目されてきたもので，特に**92**の富の原遺跡[註3]では，300,000m²にも及ぶ面積が遺跡として推定されており，この範囲には甕棺，石棺を主体とする墓地が2箇所と住居址を含む集落が確認されている。弥生中期から後期前半の資料が大半であるが，遺物のなかには，甕棺内から鉄戈が3本出土するなど，その遺跡範囲の広大さを考え合わせると，県央部に於ける一大弥生遺跡の拠点の様相をもつものと言えよう。(Fig. 8)

古墳は38基が残存しているが，戦前戦後を通じ相当数が破壊された模様である。

著名な古墳としては，昭和39年小田富士雄氏等によって調査され，5世紀の石棺系横口式石室であることが確認された**63**・黄金山古墳[註4]がある。この他，残存する例では，付近で最大級の**94**・鬼の穴古墳[註5]などが知られているが，旧状を留めている古墳は無い。　古墳では無いが，古墳時代に属する遺跡としては，**59**・稗田遺跡[註6]と**12**・大堂遺跡[註7]が好例である。稗田遺跡は1987年の農業改善事業に伴う緊急調査によって，弥生時代の資料と共に，古式土師器，及びその時期

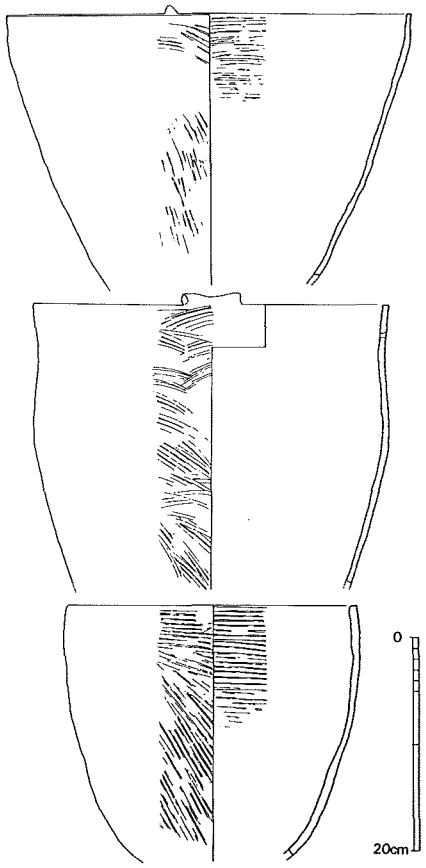



Fig.6　黒丸遺跡出土甕棺

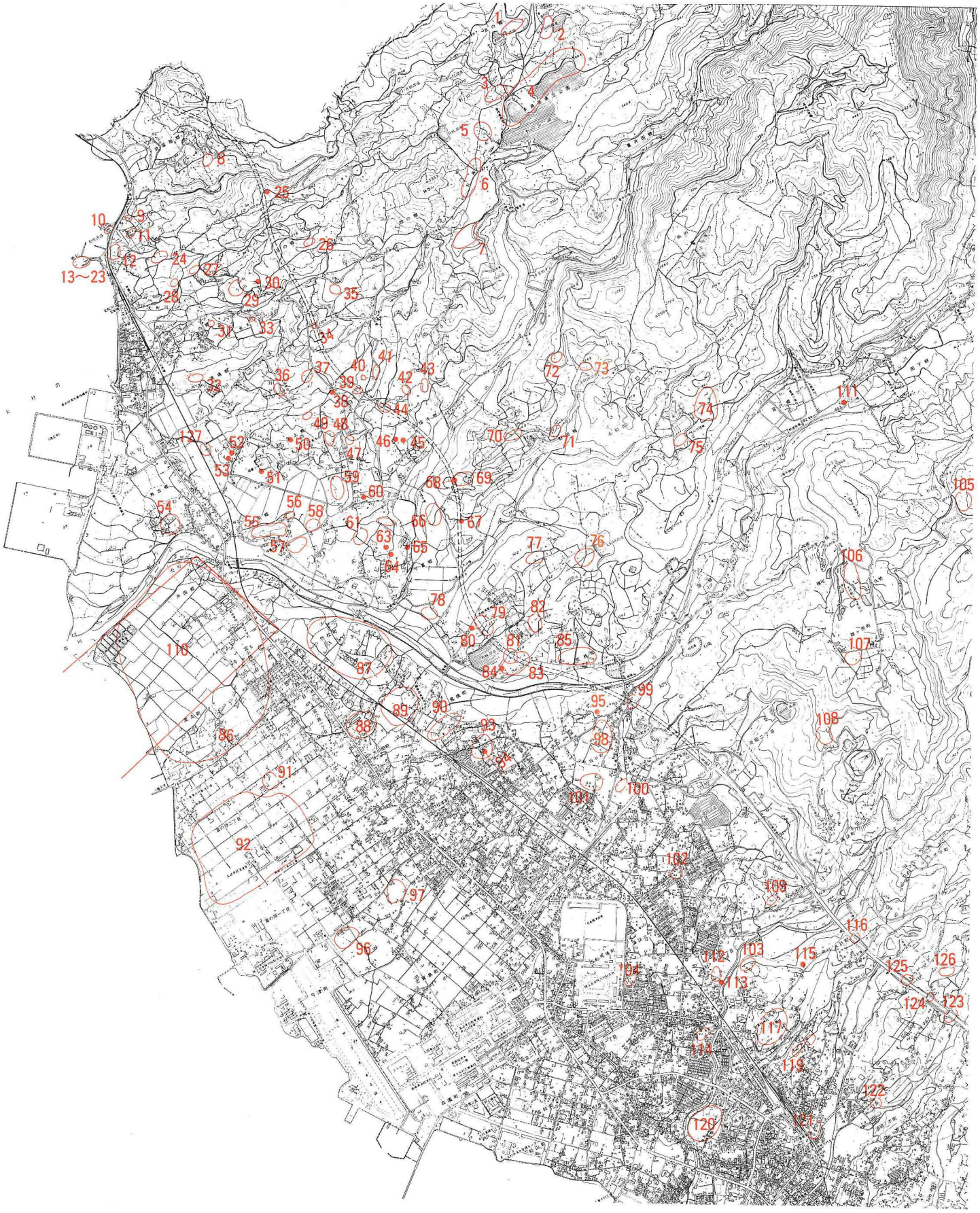



Fig.7　周辺遺跡分布図（大村市）　23－24

の住居址が発見されている。

大堂遺跡は，1976年当該地区の圃場整備に伴う緊急調査によって，5世紀の土師器と7世紀代の須恵器が出土している。

最近，圃場整備に関わる低湿地の調査が増える傾向にあり，これまで空白であった時代の歴史資料が増えつつある。

郡川周辺には中世の寺院跡が多い。所謂，郡七山十坊と称されるものであるが，註6文献に詳しい。　　（高野）

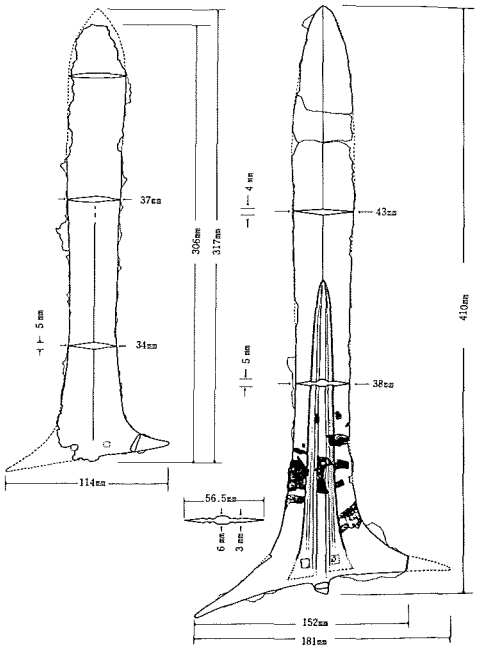



Fig.8　富の原遺跡出土鉄戈

註1　鈴木忠司　「野芥遺跡の細石核と西南日本における細石刃文化」　古代文化 23－8　1971

2　大村市・黒丸遺跡調査会　「黒丸遺跡」 1980

3　長崎県大村市教育委員会　「富の原」　大村市文化財調査報告書　第12集　1987

4　小田富士雄　「長崎県大村市・黄金山古墳調査報告」九州考古学39・40

5　長崎県教育委員会　「長崎県埋蔵文化財調査集報　III」　長崎県文化財調査報告書 第50集　1980

6　長崎県大村市・稗田遺跡調査会　「稗田遺跡」　1988

7　長崎県教育委員会　「長崎県埋蔵文化財調査集報　II」　長崎県文化財調査報告書 第45集　1979

Tab. 4 大村市遺跡地名表①

| 番　号 | 遺跡名 | 遺跡所在地 | 立　　地 | 出土遺物 | 時代 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 御伊勢堂塊遺跡 | 大村市東野岳町久津石920, 921 | 台地 標高 280m～300m | 石鏃, 黒曜石剥片, サヌカイト剥片 | 縄文 | |
| 2 | 後平原遺跡 | 〃 〃 〃後平原1025, 1026 | 〃 〃 290m～〃 | | 先土器・縄文 | |
| 3 | 御伊勢堂遺跡 | 〃 〃 〃御伊勢堂849 | 〃 〃 270m～290m | 黒曜石剥片 | 〃 〃 | |
| 4 | 野岳遺跡 | 〃 〃1097－2県立野岳公園内 | 〃 〃 260m～280m | 磨石棒, 磨石器剥片, ナイフ型石器, 曽畑式土器 | 〃 〃 | 12 |
| 5 | 鏡山遺跡 | 〃 〃 鏡山 | 〃 〃 270m～〃 | マイクロコア, マイクロブレイド, サヌカイト, フレイク, サヌカイトコア, 黒曜石コア | 先土器 | |
| 6 | 野岳平遺跡 | 〃 野岳町野岳平 | 〃 〃 260m～270m | 石核, スクレイパー, 剥片, マイクロブレイド, 石鏃, 他 | 先土器・縄文 | |
| 7 | 丸尾遺跡 | 〃 丸尾1640－1, 1640－2 | 〃 〃 250m | ナイフ型石器, 石核, スクレイパー, 石刀, 石鏃, 他 | 〃 | |
| 8 | 野中遺跡 | 〃 武留路町野中 | 丘陵 〃 80m～90m | 黒曜石剥片 | 縄文 | |
| 9 | 久津石棺群C地点 | 〃 松原二丁目石見317 | 台地 〃 10m | | 古墳 | |
| 10 | 久津石棺群D地点 | 〃 〃 二丁目小川 | 〃 〃 0m～10m | | 〃 | |
| 11 | 久津石棺群B地点 | 〃 〃 〃 小川251 | 〃 〃 10m～20m | | 〃 | 13 |
| 12 | 久津石棺群A地点 | 〃 〃 〃 久津216 | 〃 〃 10m | | 〃 | 13 |
| 13 | 鹿の島古墳群1号墳 | 〃 〃 〃 松原鹿の島 | 島 〃 0m～10m | | 〃 | |
| 14 | 鹿の島古墳群2号墳 | 〃 〃 〃 〃 | 〃 〃 〃 〃 | | 〃 | |
| 15 | 鹿の島古墳群3号墳 | 〃 〃 〃 〃 | 〃 〃 〃 〃 | | 〃 | |
| 16 | 鹿の島古墳群4号墳 | 〃 〃 〃 〃 | 〃 〃 〃 〃 | | 〃 | |
| 17 | 鹿の島古墳群5号墳 | 〃 〃 〃 〃 | 〃 〃 〃 〃 | | 〃 | |
| 18 | 鹿の島古墳群6号墳 | 〃 〃 〃 〃 | 〃 〃 〃 〃 | | 〃 | |
| 19 | 鹿の島古墳群7号墳 | 〃 〃 〃 〃 | 〃 〃 〃 〃 | | 〃 | |
| 20 | 鹿の島古墳群8号墳 | 〃 〃 〃 〃 | 〃 〃 〃 〃 | | 〃 | |
| 21 | 鹿の島古墳群9号墳 | 〃 〃 〃 〃 | 〃 〃 〃 〃 | | 〃 | |
| 22 | 鹿の島古墳群10号墳 | 〃 〃 〃 〃 | 〃 〃 〃 〃 | | 〃 | |
| 23 | 鹿の島古墳群11号墳 | 〃 〃 〃 〃 | 〃 〃 〃 〃 | | 〃 | |
| 24 | 久保田遺跡 | 〃 〃 〃 久保田710 | 台地 〃 40m～50m | 黒曜石剥片 | 縄文 | |
| 25 | 長石遺跡 | 〃 〃 三丁目長石 | 丘陵 〃 140m | 〃 | 〃 | |
| 26 | 地炉石遺跡 | 〃 〃 〃 地炉石 | 台地 〃 145m～150m | 〃 | 〃 | |
| 27 | 西の谷遺跡 | 〃 〃 〃 西の谷 | 丘陵 〃 40m | 〃 | 〃 | |
| 28 | 尾ノ上遺跡 | 〃 〃 二丁目尾ノ上 | 〃 〃 30m | 〃 | 〃 | |
| 29 | 今山・中野遺跡 | 〃 〃 三丁目今山・中野 | 台地 〃 60m～70m | 〃 | 〃 | |
| 30 | 延命寺跡 | 〃 〃 三丁目今山 | 〃 〃 70m～80m | 五輪塔 | 奈良～中世 | 8, 14 |
| 31 | 南遺跡 | 〃 〃 一丁目南 | 〃 〃 90m～100m | 黒曜石剥片 | 縄文 | |
| 32 | 大忠平遺跡 | 〃 草場町大忠平667, 673 | 〃 〃 20m～30m | | 〃 | |
| 33 | 東光寺跡 | 〃 松原一丁目東光寺 | 〃 〃 70m | | 中世 | |
| 34 | 東光寺遺跡 | 〃 〃 〃 | 〃 〃 116m～120m | 黒曜石剥片 | 縄文 | 23 |
| 35 | 中谷遺跡 | 〃 野岳町中谷 | 〃 〃 158m～160m | 〃 | 〃 | |
| 36 | 下松尾遺跡 | 〃 草場町下松尾362 | 丘陵 〃 50m～60m | 〃 | 〃 | |
| 37 | 上松尾遺跡 | 〃 草場町上松尾153, 154 | 台地 〃 80m～90m | 〃 | 〃 | |
| 38 | 八龍古墳 | 〃 弥勒寺町上八龍 | 丘陵 〃 90m | | 古墳 | 2 |
| 39 | 上八龍B遺跡 | 〃 〃 | 〃 〃 100m～110m | 黒曜石剥片 | 縄文 | |
| 40 | 釈迦の峰遺跡 | 〃 〃 釈迦の峰 | 〃 〃 110m～120m | | 中世 | |
| 41 | 中田平遺跡 | 〃 〃 中田平 | 〃 〃 120m～130m | 黒曜石剥片 | 縄文 | |
| 42 | 八ツ久保遺跡 | 〃 立福寺町八ツ久保 | 〃 〃 100m～110m | 〃 | 〃 | |
| 43 | 金石原遺跡 | 〃 弥勒寺町金石原 | 〃 〃 〃 | 〃 | 〃 | |
| 44 | 赤木遺跡 | 〃 立福寺町赤木 | 〃 〃 90m～100m | 〃 | 〃 | |
| 45 | 赤木五輪塔 | 〃 〃 松山開 | 〃 〃 70m～80m | | 中世 | |
| 46 | 立福寺松山開 | 〃 〃 〃 | 台地 〃 70m | | 古墳 | |
| 47 | 弥勒寺跡 | 〃 弥勒寺町清水 | 〃 〃 30m～40m | | 中世 | 8 |
| 48 | 弥勒寺線刻石仏群 | 〃 〃 赤坊園 | 〃 〃 〃 〃 | 首から上の頭部のみ3体, 座像6体 | 〃 | |
| 49 | 深山遺跡 | 〃 矢上町深山111～114 | 丘陵 〃 60m～70m | 黒曜石剥片 | 縄文 | |
| 50 | 山の上石棺 | 〃 〃 山の上 | 台地 〃 30m～40m | | 古墳 | |
| 51 | 強力遺跡 | 〃 〃 強力 | 平野 〃 10m～20m | | 〃 | |
| 52 | 石走古墳群1号墳 | 〃 〃 石走 | 台地 〃 10m | 滑石製経筒片, 青磁片 | 〃・中世 | |
| 53 | 石走古墳群2号墳 | 〃 〃 〃 | 低台地 〃 〃 | | 〃 | |
| 54 | 好武城跡 | 〃 寿古町好武 | 台地 〃 10m | 黒曜石剥片, 土器片 | 縄文・中世 | 1, 7, 15 |
| 55 | 今富城跡 | 〃 皆同町古城 | 〃 〃 20m | 〃 | 中世 | 1 |
| 56 | 中牟田遺跡 | 〃 〃 中牟田 | 平野 〃 10m～20m | 〃 | 縄文 | |
| 57 | 冷泉遺跡 | 〃 今富町冷泉 | 台地 〃 〃 〃 | 〃 土師器 | 古墳 | |
| 58 | 皆同郷古城石棺 | 〃 皆同町古城 | 平野 〃 10m | | 〃 | |
| 59 | 稗田遺跡 | 〃 弥勒寺町稗田 | 台地 〃 10m～20m | 黒曜石剥片, tool, | 縄文・弥・古 | 21 |
| 60 | 憩場石棺遺跡 | 〃 〃 野中(22) | 〃 〃 20m～30m | 〃 (流れ込み), 弥生後期前半の土器 | 古墳 | 16 |
| 61 | 帯取遺跡 | 〃 今富町帯取 | 平野 〃 30m～40m | 〃 | 縄文 | |
| 62 | 鳥越遺跡 | 〃 〃 鳥越 | 台地 〃 50m～60m | 〃 | 〃 | |
| 63 | 黄金山古墳 | 〃 〃 帯取 | 〃 〃 40m | 鉄刀, 鉄鏃, 刀子, 土師器, 須恵器 | 古墳 | 17 |
| 64 | 地堂古墳 | 〃 〃 地堂614 | 〃 〃 30m～40m | | 〃 | |
| 65 | 大村市今富のキリシタン墓碑 | 〃 〃 〃 | 〃 〃 〃 〃 | | 中生 | 18 |
| 66 | 中田遺跡 | 〃 〃 中田 | 平野 〃 20m～30m | 黒曜石剥片 | 弥生・古墳 | |
| 67 | 野田B遺跡 | 〃 野田町山田822－イ, 822－ロ, 823 | 台地 標高40m～50m | 〃 ナイフ型石器 | 先土器 | |

Tab. 5 大村市遺跡地名表②

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 68 | 野田古墳 | 大村市野田町大村田4332 | 丘陵　標高80m | 須恵器(杯蓋1,坏身3) | 古墳 | 2,23 |
| 69 | 大村田遺跡 | 〃　〃　大村田 | 台地　〃　70m～100m | 黒曜石剥片 | 縄文 | |
| 70 | 平原B遺跡 | 〃　〃　平原 | 丘陵　〃　100m | 〃 | 〃 | |
| 71 | 中高野遺跡 | 〃　〃　中高野1180－3 | 〃　〃　100m～110m | 〃 | 〃 | |
| 72 | 四方白遺跡 | 〃　〃　四方白1226 | 〃　〃　150m～160m | 石核,ポイント,ナイフ型石器,黒曜石剥片 | 先土器 | |
| 73 | 赤似田堤遺跡 | 〃　〃　石坂1435 | 〃　〃　120m | 〃 | 先土器・縄文 | |
| 74 | 宮代遺跡 | 〃　宮代町米山 | 〃　〃　170m～190m | ナイフ型石器,石鏃,スクレイパー,黒曜石剥片 | 〃　〃 | |
| 75 | 米ノ山遺跡 | 〃　〃　〃 | 〃　〃　140m～150m | 黒曜石コア・剥片 | 縄文 | |
| 76 | 大似田堤遺跡 | 〃　荒瀬町大似田 | 〃　〃　80m～90m | 黒曜石剥片,縄文土器片,マイクロブレイド | 先土器・縄文 | |
| 77 | 山田遺跡 | 〃　〃　山田476～513 | 〃　〃　65m～70m | ナイフ型石器,黒曜石剥片,古墳時代土器片,他 | 〃・古墳・中世 | |
| 78 | 岩名遺跡 | 〃　今富町岩名 | 平野　〃　20m～30m | 弥生土器片,黒曜石剥片 | 弥生 | |
| 79 | 野田遺跡 | 〃　鬼橋町野田340 | 台地　〃　50m～60m | 石核,粗石核,スクレイパー,黒曜石剥片 | 先土器 | |
| 80 | 葛城古墳 | 〃　〃　葛城 | 〃　〃　40m～50m | | 古墳 | 2 |
| 81 | 葛城堤遺跡 | 〃　〃　〃 | 〃　〃　〃 | ポイント,黒曜石剥片 | 先土器 | |
| 82 | 水頭遺跡 | 〃　〃　水頭346 | 丘陵　〃　60m～70m | 石核,黒曜石剥片,石鏃 | 縄文 | |
| 83 | 山下遺跡 | 〃　〃 | 〃　〃　40m～50m | 石鏃,〃,弥生土器片 | 先土器～弥生 | |
| 84 | 山下中世墓群 | 〃　荒瀬町 | 台地　〃　40m～45m | 中世土器片,人骨,近世陶磁器,黒曜石石核 | 縄文・中世・近世 | |
| 85 | 荒瀬遺跡 | 〃　〃 | 扇状地　〃　50m | 黒曜石剥片 | 〃 | |
| 86 | 黒丸遺跡 | 〃　黒丸町～沖田郷316～246 | 〃　〃　0m～10m | 縄文土器・石器,甕棺,弥生土器・石器,他 | 縄文～古墳・中世・近世 | 5 |
| 87 | 竹松遺跡 | 〃　竹松町 | 〃　〃　10m～20m | 石包丁 | 〃 | |
| 88 | 竹松小学校遺跡 | 〃　宮小路1丁目竹松小学校内 | 〃　〃　10m～20m | 打製石斧,磨製石斧 | 〃 | |
| 89 | 平野遺跡 | 〃　〃 | 〃　〃　20m～30m | 土師器,黒曜石剥片古墳 | 古墳 | |
| 90 | 立小路遺跡 | 〃　〃　立小路 | 〃　〃　〃　〃 | 石鏃,〃 | 縄文 | |
| 91 | 蔦木遺跡 | 〃　富の原2丁目蔦木 | 〃　〃　0m～10m | | 弥生・古墳 | |
| 92 | 富の原常盤遺跡 | 〃　〃　常盤,広野 | 〃　〃　〃　〃 | 甕棺,土器,石斧,鉄戈2本 | 弥生 | 6 |
| 93 | 小路口遺跡 | 〃　小路口本町下小路口 | 〃　〃　30m～40m | | 縄文 | |
| 94 | 鬼の穴古墳 | 〃　〃　〃　492 | 〃　〃　30m | 須恵器片 | 古墳 | 2 |
| 95 | 上小路口古墳 | 〃　小路口町坂口 | 〃　〃　40m～50m | | 〃 | 2 |
| 96 | 今津遺跡 | 〃　今津町草木原 | 〃　〃　10m | 黒曜剥片 | 縄文・弥生 | |
| 97 | 原口・山下遺跡 | 〃　原口町山下 | 〃　〃　15m | 〃 | 〃 | |
| 98 | 坂口・内高野遺跡 | 〃　坂口町内高野 | 〃　〃　40m～10m | 〃 | | |
| 99 | 坂口館跡 | 〃　荒瀬郷大門 | 〃　〃　50m | | 中世 | 1、7 |
| 100 | チサイノ木遺跡 | 〃　池田2丁目チサイノ木 | 〃　〃　30m～40m | 石鏃,黒曜石剥片 | 縄文 | |
| 101 | 坂口・横道遺跡 | 〃　坂口町坂口・横道 | 〃　〃　〃　〃 | 黒曜石剥片 | 〃 | |
| 102 | タブノ木原遺跡 | 〃　池田新町タブノ木原 | 〃　〃　20m～30m | 〃 | 〃 | |
| 103 | 柴田遺跡 | 〃　三城町柴田 | 台地 | 石鉏,ob剥片,須恵器,土師器,五輪塔 | 〃 古墳・中世 | |
| 104 | 乾馬場遺跡 | 〃　古町2丁目裏馬場 | 平野　標高10m～20m | 磨製石斧,土器片 | 〃 | |
| 105 | 狸ノ尾遺跡 | 〃　雄ケ原町字狸ノ尾 | 谷間　〃　210m～220m | 有柄刃器 | 先土器 | 3 |
| 106 | 雄ケ原遺跡 | 〃　〃　雄ケ原951－1,2 | 丘陵端　〃　170m～200m | 横型石匙,尖頭器,縦長剥片,押型文 | 縄文 | |
| 107 | 菖蒲ケ谷遺跡 | 〃　〃　菖蒲ケ谷1315 | 台地上　〃　230m～240m | 黒曜石剥片 | 〃 | |
| 108 | ホーズキ谷遺跡 | 〃　池田2丁目ホーズキ谷1662,1663 | 〃　〃　150m | 細石核,石鏃,剥片 | 先土器、縄文 | |
| 109 | 野口遺跡 | 〃　上諏訪町野口 | 丘陵上　〃　60m～70m | 黒曜石剥片 | 縄文 | |
| 110 | 沖田黒丸条里遺構 | 〃　黒丸町～沖田郷 | 扇状地　〃　0m～10m | | 平安・中世 | |
| 111 | 田下キリシタン墓碑 | 〃　田下郷下田下355 | 台地 | | 中世 | |
| 112 | 陣の内遺跡 | 〃　諏訪1丁目陣の内 | | | 縄文 | |
| 113 | 長久寺跡 | 〃　〃　〃 | 平野 | | 中世 | 8 |
| 114 | 杭出津遺跡 | 〃　水田町水田 | 〃　標高9m～11m | 石鏃 | 縄文 | |
| 115 | 琴平神社古墳 | 〃　水計町大園寺 | 丘陵　〃　50m～54m | | 古墳 | 9 |
| 116 | 上水計遺跡 | 〃　〃　上水計 | 〃 | | 先土器・縄文 | 10 |
| 117 | 三城跡 | 〃　三城町 | 〃　標高30m | | 平安・中世 | 1,7 |
| 118 | 武部遺跡 | 〃　武部町佐古 | 〃　〃　40m～50m | 黒曜石 | 先土器・縄文 | |
| 119 | 小佐古遺跡 | 〃　〃　小佐古 | 〃　〃　32m～38m | 石棺 | 古墳 | 22 |
| 120 | 大上戸川条里遺構 | 〃　水主田2丁目～西三城町 | 扇状地　〃　4m～6m | | 奈良・平安 | 11 |
| 121 | 八幡神社遺跡 | 〃　武部町 | 〃　〃　10m | | 古墳 | |
| 122 | 川内郷鬼塚遺跡 | 〃　赤佐古町鬼塚 | 丘陵 | | 〃 | |
| 123 | 鵐石遺跡 | 〃　徳泉川内町鵐石 | 〃 | | 縄文 | 10 |
| 124 | 桜A遺跡 | 〃　赤佐古町鉢久保 | 台地　標高76m～84m | | 先土器・縄文 | 10 |
| 125 | 桜B遺跡 | 〃　徳泉川内町桜 | 丘陵　〃　60m～76m | | 縄文 | 10 |
| 126 | 足形遺跡 | 〃　〃　足形 | 〃　〃　94m～102m | | 先土器・縄文 | |
| 127 | 大堂遺跡 | 〃　皆同郷大堂 | 扇状地　〃　3m | 土師器 | 古墳 | 16 |

**参考文献**


1　新人物往来社「日本城郭体系　17」1980
2　長崎県教育委員会「長崎県埋蔵文化財調査集報　III」長崎県文化財調査報告書　第50集　1980
3　長崎県教育委員会「長崎県遺跡地図」長崎県文化財調査報告書　第87集　1987
4　『大村家記』・『深江記』
5　大村市・黒丸遺跡調査会「黒丸遺跡調査報告書」1980
6　大村市教育委員会「富の原常磐遺跡発掘調査報告書」1981
7　『郷村記』
8　長崎県教育委員会「諫早・大村・北高来郡の文化財」長崎県文化財調査報告書　第53集　1980
9　長崎県教育委員会「九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　II」長崎県文化財調査報告書　第56集　1982
10　長崎県教育委員会「九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　I」長崎県文化財調査報告書　第54集　1981
11　土肥　利男「多良山麓の研究」1956
12　鎌木　義昌他「九州地方の先土器文化」『日本の考古学I』所収　河出書房　1975
13　長崎県教育委員会「長崎県埋蔵文化財調査集報　I」長崎県文化財調査報告書　第35集　1987
14　「紫山延命縁起」『大村史話』所収
15　「大村記」
16　長崎県教育委員会「長崎県埋蔵文化財調査週報　II」長崎県文化財調査報告書　第45集　1979
17　小田富士雄「長崎県大村市・黄金山古墳調査報告」『九州考古学』39・40　1979
18　長崎県教育委員会「長崎県の文化財　下」1970
19　長崎県東彼杵郡東彼杵町教育委員会「岡遺跡」東彼杵町文化財調査報告書　第2集　1988
20　1989年報告書刊行予定
21　稗田遺跡調査会「稗田遺跡」1988
22　大村市教育委員会「小佐古石棺群」大村市文化財調査報告書　第13集　1988
23　本書

# 野田古墳

# 本文目次

Ⅰ　立地と経緯……35
1．地理的位置……35
2．調査経緯……35
Ⅱ　古墳の調査……37
1．調査概要……37
2．1号墳……39
①　遺構……39
②　遺物……43
3．2号墳……45
①　遺構……45
②　遺物……45
4．3号墳……49
①　遺構……49
②　遺物……49
5．その他の遺物……49
Ⅲ　谷部の調査……56
1．調査概要……56
2．土層……58
3．遺物……58
①　Ⅰ区……58
②　Ⅱ区……58
③　Ⅲ区……59
④　Ⅳ区……66
Ⅳ　総　括……69
1．縄文時代における遺跡の様相について……69
2．古墳出土の土器について……71
①　1号墳出土土器……71
②　2号墳出土土器……71
③　3号墳出土土器……72
④　まとめ……72
3．古墳の様相について……72
4．おわりに……73

# 挿図目次

Fig. 1　野田古墳地形図（1/2,000）……36
Fig. 2　野田古墳周辺調査区域図（1/1,000）……37
Fig. 3　周辺地形図（1/400）……38
Fig. 4　1号墳石室実測図①（1/40）……40
Fig. 5　1号墳石室実測図②（1/40）……41
Fig. 6　1号墳出土土器①（1/3）……43
Fig. 7　1号墳出土土器②（1/3）……44
Fig. 8　1号墳出土鉄器（1/2）……44
Fig. 9　鉄器付着敷石（1/3）……44
Fig.10　2号墳出土土器（1/3）……45
Fig.11　2号墳石室実測図①（1/40）……46
Fig.12　2号墳石室実測図②（1/40）……47
Fig.13　3号墳遺物出土状況（1/10）……50
Fig.14　3号墳石室実測図（1/40）……51
Fig.15　3号墳出土土器（1/3）……53
Fig.16　3号墳出土砥石（1/4）……53
Fig.17　その他の遺物①（1/2・1/3）……54
Fig.18　その他の遺物②（2/3）……54
Fig.19　その他の遺物③（1/3）……55
Fig.20　谷部調査区図（1/1,000）……56
Fig.21　谷部地区土層図（1/80）……57
Fig.22　Ⅰ区出土石器（2/3）……58
Fig.23　Ⅱ区出土土器（1/2）……59
Fig.24　Ⅱ区出土石器（2/3）……59
Fig.25　Ⅲ区出土土器（1/2）……60
Fig.26　Ⅲ区出土石器①（2/3）……62
Fig.27　Ⅲ区出土石器②（2/3）……63
Fig.28　Ⅲ区出土石器③（1/3）……64
Fig.29　Ⅲ区出土石器④（1/3）……65
Fig.30　Ⅳ区出土石器①（2/3）……67
Fig.31　Ⅳ区出土石器②（1/3）……67
Fig.32　野田古墳出土土器分類図……70

# 表 目 次

Tab. 1　野田古墳石室計測表 ……39
Tab. 2　打製石斧・礫器等計測表 ……68

# 図版目次

PL. 1　野田古墳遠景（南西から）・野田古墳近景（南西から） ……77
PL. 2　調査区全景（北東から）・古墳群全景（東から） ……78
PL. 3　調査区近景（南から）・安山岩の転石群（南東から） ……79
PL. 4　調査風景（全景・III区・IV区付近） ……80
PL. 5　2号墳調査風景（南から）・3号墳調査風景（南から） ……81
PL. 6　1号墳調査前（南から・東から） ……82
PL. 7　1号墳石室全景（南から）・1号墳石室側面（西から） ……83
PL. 8　1号墳石室側面（東から）・1号墳石室（玄室から羨道を見る） ……84
PL. 9　1号墳石室部分（羨道部から玄室を見る・玄室から羨道部を見る・奥壁） ……85
PL.10　2号墳石室全景（南から）・2号墳側面（東から） ……86
PL.11　2号墳石室側面（西から）・2号墳石室（背面から羨道を見る） ……87
PL.12　2号墳玄室（南から・北から） ……88
PL.13　2号墳石室部分 ……89
PL.14　2号墳石室部分 ……90
PL.15　3号墳石室（石室正面・石室側面・石室背面） ……91
PL.16　3号墳石室正面（南から）・3号墳石室側面（西から） ……92
PL.17　3号墳玄室（北から・西から） ……93
PL.18　3号墳玄室側石（西から・東から） ……94
PL.19　3号墳遺物出土状況（南から・東から） ……95
PL.20　I区全景・II区全景・土層壁面 ……96
PL.21　III区全景・土層壁面・IV区全景 ……97
PL.22　1号墳出土土器（1/2） ……98
PL.23　2号墳・3号墳出土土器（1/2） ……99
PL.24　1号墳・3号墳出土鉄器・石器 ……100
PL.25　丘陵部その他の遺物 ……101
PL.26　I～III区出土遺物 ……102
PL.27　III区出土石器①（1/1） ……103
PL.28　III区出土石器②（1/1） ……104

PL.29　III区出土石器③（1/2）……105
PL.30　III区出土石器④（1/2）……106
PL.31　IV区出土石器（1/1・1/2）……107

# I　立地と経緯

## 1．地理的位置

本遺跡は，大村市北部の野田町に所在する。多良山系から西に向かって伸びた標高70～80mの丘陵先端斜面部に立地する。眼下には，佐奈川内川が形成した沖積平地と大村扇状地が見渡せ，大村湾とさらにその向こうには西彼杵半島の山々を望むことができる。

佐奈川内川下流域の沖積地をはさんで，西側の標高40～50mの丘陵上には黄金山古墳，地堂古墳が存在し，約1km北西方面には石室構造が類似した八龍古墳，1.7km北西には前方後円墳の石走1号墳，円墳の同2号墳，1.2km南西には横穴式石室の葛城古墳などが散在しており，これら多良山系丘陵部の古墳群は個々の位置づけがなされてはいないが，大づかみに一つのグループとしてとらえることも可能であろう。

また，古墳を含めて標高100mほどまでの丘陵地には，縄文時代の遺物包含地である大村田遺跡が存在しており，今回調査において谷部地区を中心に出土した先土器時代から縄文時代の遺物は，大村田遺跡の流れをくむものと考えてよいだろう。

当地周辺は，ミカン畑として利用されているが，昭和37年頃に重機を入れて造成したものである。この際に，古墳が発見され石室が残されていたものが今回1号墳としたもので，従来から野田古墳と呼ばれていたものである。この他にも，古墳に使用されていたような石材が出たところもあったといわれており，本来は古墳群を形成していた可能性があった。

## 2．調査経緯

今回調査以前に，昭和50年8月の「長崎県埋蔵文化財発掘技術者講習会」において研修教材として横穴式石室の実測を行ったが，その成果は昭和55年に『長崎県埋蔵文化財調査集報III』のなかにまとめられた[註1]。このなかには，昭和37年開墾時出土した須恵器4点（Fig. 6）が図示され，藤田和裕氏は，この1号墳について両袖式の横穴式石室で，ドーム状の天井を構築していたことなどを報告されている。

今回調査は，古墳群の検出を主眼として，昭和61年6月16日～9月19日にわたって調査を行い，2,390m²を発掘した。その結果，従来知られていた1号墳の他に，2基の古墳（2号・3号墳）が新たに発見され，古墳群をなしていたことが判明した（Fig. 1）。また，谷部地区を中心として先土器時代から縄文時代の遺物包含層が確認されたことも成果の一つであろう。（宮　崎）

註1　藤田和裕「II　ひさご塚古墳：鬼の穴古墳・野田古墳」『長崎県埋蔵文化財調査集報III』　長崎県文化財調査報告書第50集　長崎県教育委員会　1980

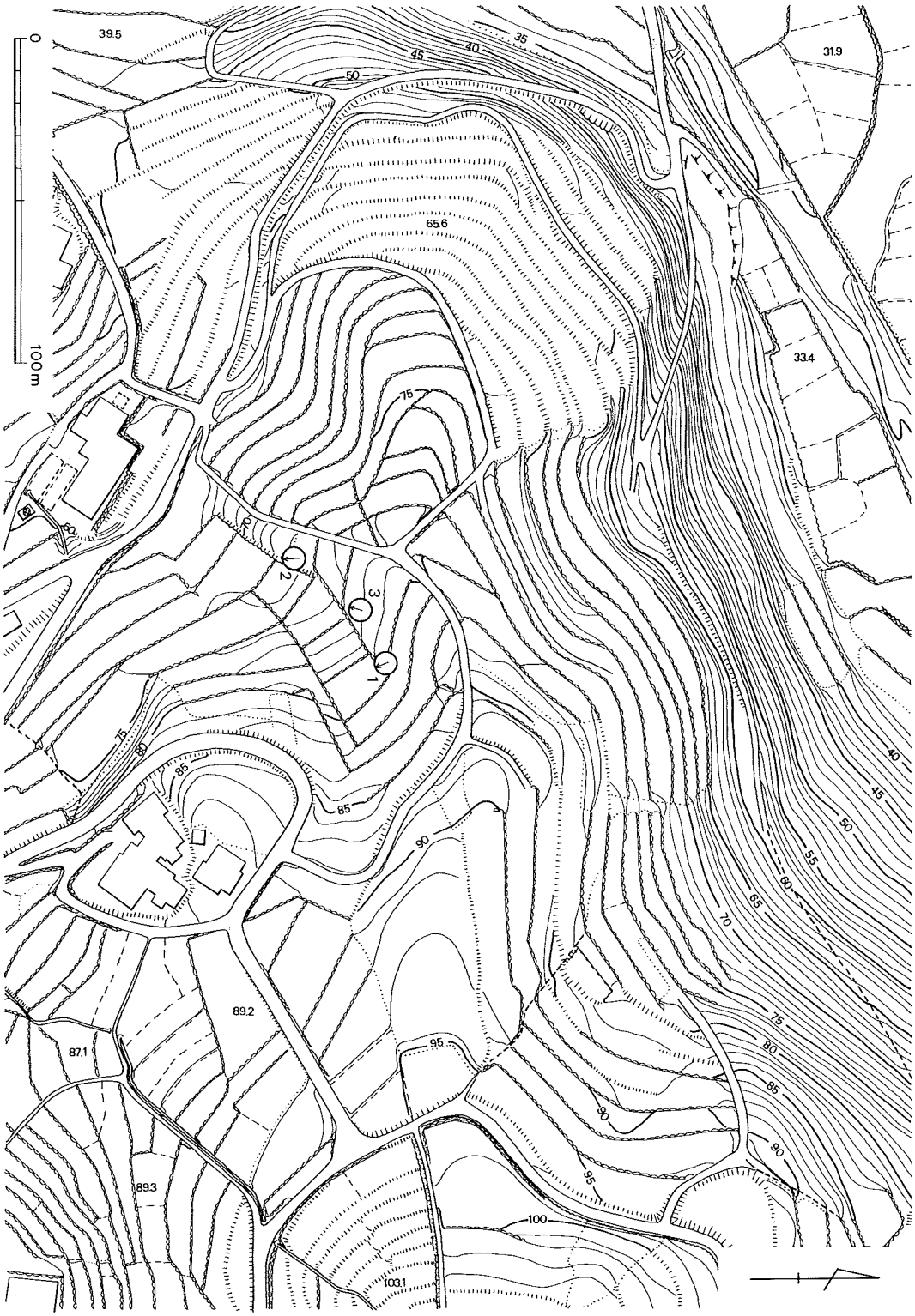



Fig. 1　野田古墳周辺地形図（1/2,000）

# II　古墳の調査

## 1．調査概要

現地は南西に開いた小さな谷をはさんで北側と南側に丘陵斜面が広がっている。当初から古墳の石室が露出していた１号墳が，谷間頂部付近の北側丘陵に位置しており，調査の主眼が古墳群の検出であるため，両側の丘陵部をできるだけ広く剝ぎ取るように調査区を設定し発掘を実施した。Ｆ～Ｊの４～10区については，確認のためバックフォーによる剝ぎ取りを行った。

その結果，Ｅ７区に２号墳が，Ｄ４区に３号墳が確認され，Ｃ３区の１号墳とともに，谷へ向かって開口した横穴式石室の古墳が北側丘陵斜面に３基検出することができた。

３基とも墳丘はなく，石室上部はほとんど消滅している。ミカン畑造成の際壊されたものと思われ，３号墳は玄室部分しか存在していない。１号墳と３号墳は約18ｍ，３号墳と２号墳は約25ｍ，１号墳と２号墳は約43ｍの距離に位置している。

以下，各古墳の内容についてみていきたい。　（宮　崎）

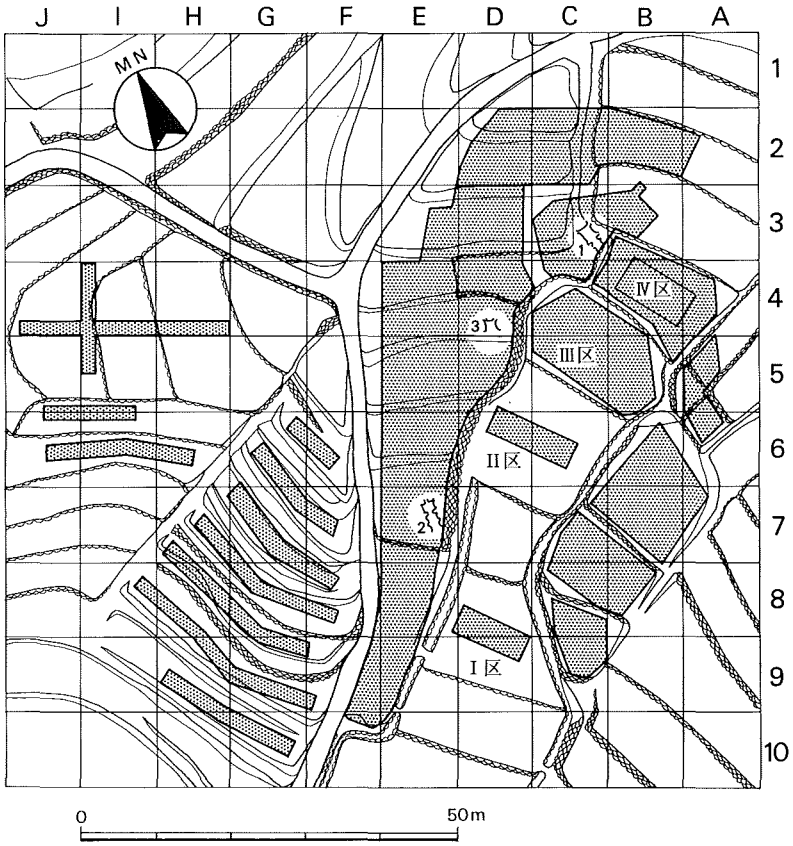



Fig. 2　野田古墳調査区域図（1/1,000）

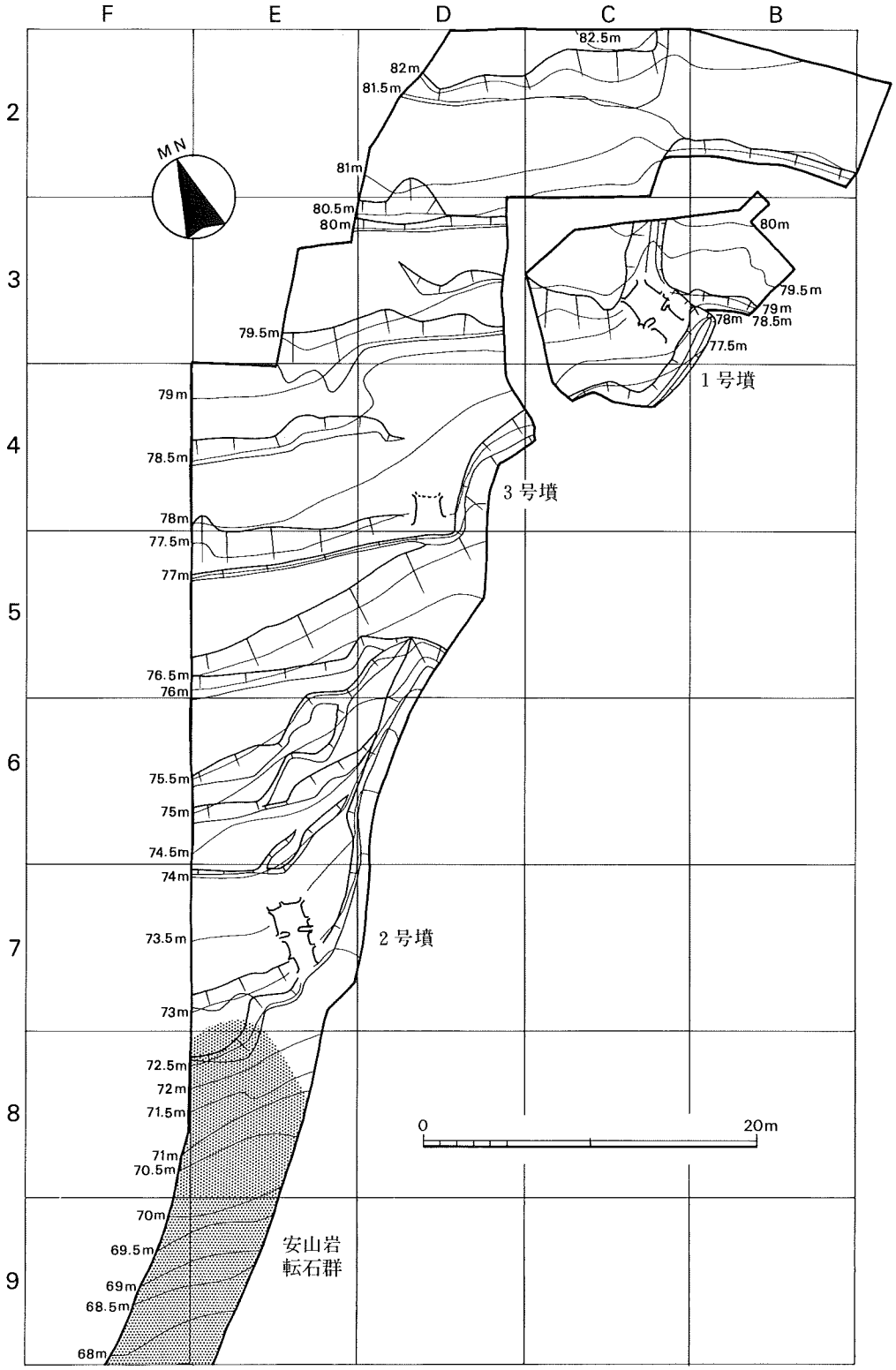



Fig. 3　周辺地形図（1/400）

## 2．1号墳

### ① 遺　構（Fig.4・5）

1号墳は所謂「野田古墳」として従来から知られていた古墳である。昭和50年に県教委の手で石室の実測等が行なわれており，今回の調査では石室の床面検出と掘り方の確認を主眼に行った。

当墳はこの古墳群の中でも最奥部，標高79m程の斜面に立地する。墳丘は残存せず，石室も天井部を欠失し，下部構造の腰石と玄室奥壁上に石積みを一段残すのみである。周囲に当墳の転石がみられないことなどから判断して，かなり以前から露出していたものと考える。他の古墳はミカン畑造成時に埋没していたことを考え合わせると，石室規模の大きい当墳だけが残されていたのであろう。

内部主体は両袖式の横穴式石室で，主軸はN－18°－W南南東に開口する。石室全長は3.61m，うち玄室長は東側壁部で2.02m，西側壁部で1.94mを測る。幅は奥壁部で1.72m，玄門部は2.02mで，全体としては不整方形のプランを呈する。

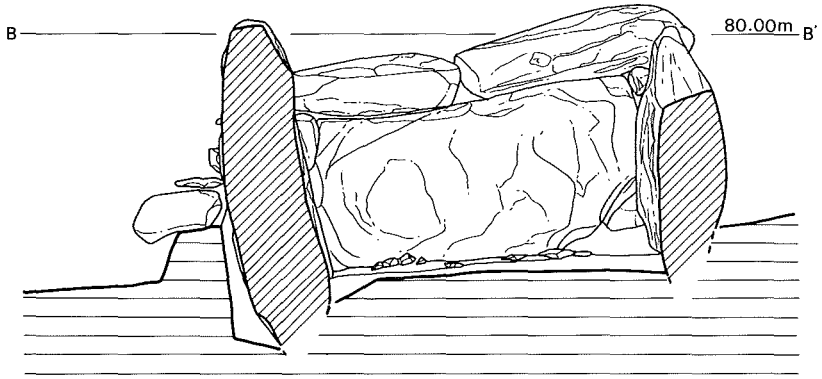
腰石には玄室・羨道部とも，それぞれ一枚岩を用いるのが大方だが，玄室東側壁では2枚の石が使われている。東西両側壁の長さを調整するために補塡されたものか。前述のとおり，玄室奥壁ではこの上に2枚の石が内へせり出すような感じで積み重ねられ，持ち送り状の天井部をなしていた可能性がある。

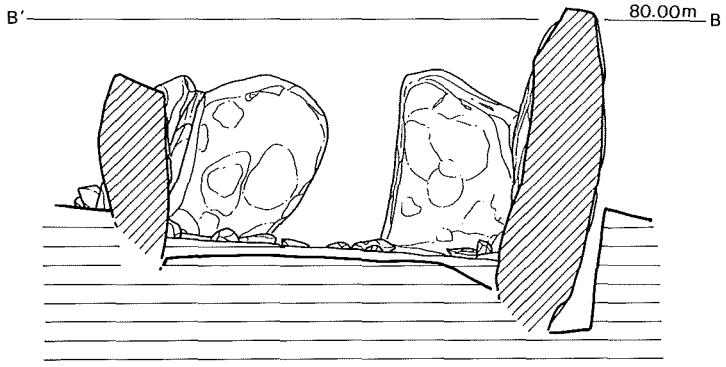
玄室床面は大小の敷石と思われるものが残っていたが，かなり荒らされており，原位置を保つものはほとんどない。不明鉄製品が玄室南西部で出土している。

玄門部では東側袖石が石室内へ大きく倒れ込み，入り口の幅が狭くなっている。玄門幅0.6m玄門高は1m程か。羨道部は現存長1.3m前後，幅約1.5mで，玄室幅よりやや狭くなっている。床面は攪乱が著しい。10～20cm大の石が散在し，かなり掘り返されたのがわかる。敷石かどう

Tab.1　野田古墳石室計測表　（単位：m）

| 石墳番号 | 石室形態 | 主軸方位 | 石室全長 | 玄門 | | 玄室 | | 羨道 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 現存高 | 現存幅 | 現存長 | 現存幅 | 現存長 | 現存幅 |
| 1号墳 | 横穴式石室 | N-18°-W | 3.61 | 左1.01<br>右0.96 | 0.6 | 左1.94<br>右2.02 | 奥1.72<br>前2.02 | 左1.37<br>右1.30 | 奥1.54<br>前1.48 |
| 2号墳 | 横穴式石室 | N- 7°-E | 4.04 | 左0.80<br>右0.68 | 0.4 | 左1.44<br>右1.63 | 奥1.68<br>前1.84 | 左2.24<br>右1.92 | 奥1.44<br>前1.04 |
| 3号墳 | 横穴式石室 | N-26°-E | 2.04 | ———<br>——— | 0.62 | 左1.62<br>右1.27 | 奥1.61<br>前1.67 | ———<br>——— | ———<br>——— |



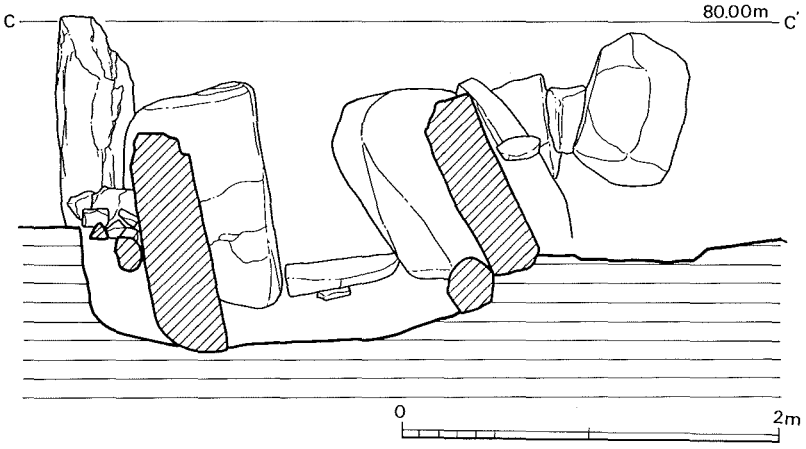




Fig. 4　1号墳石室実測図①（1/40）

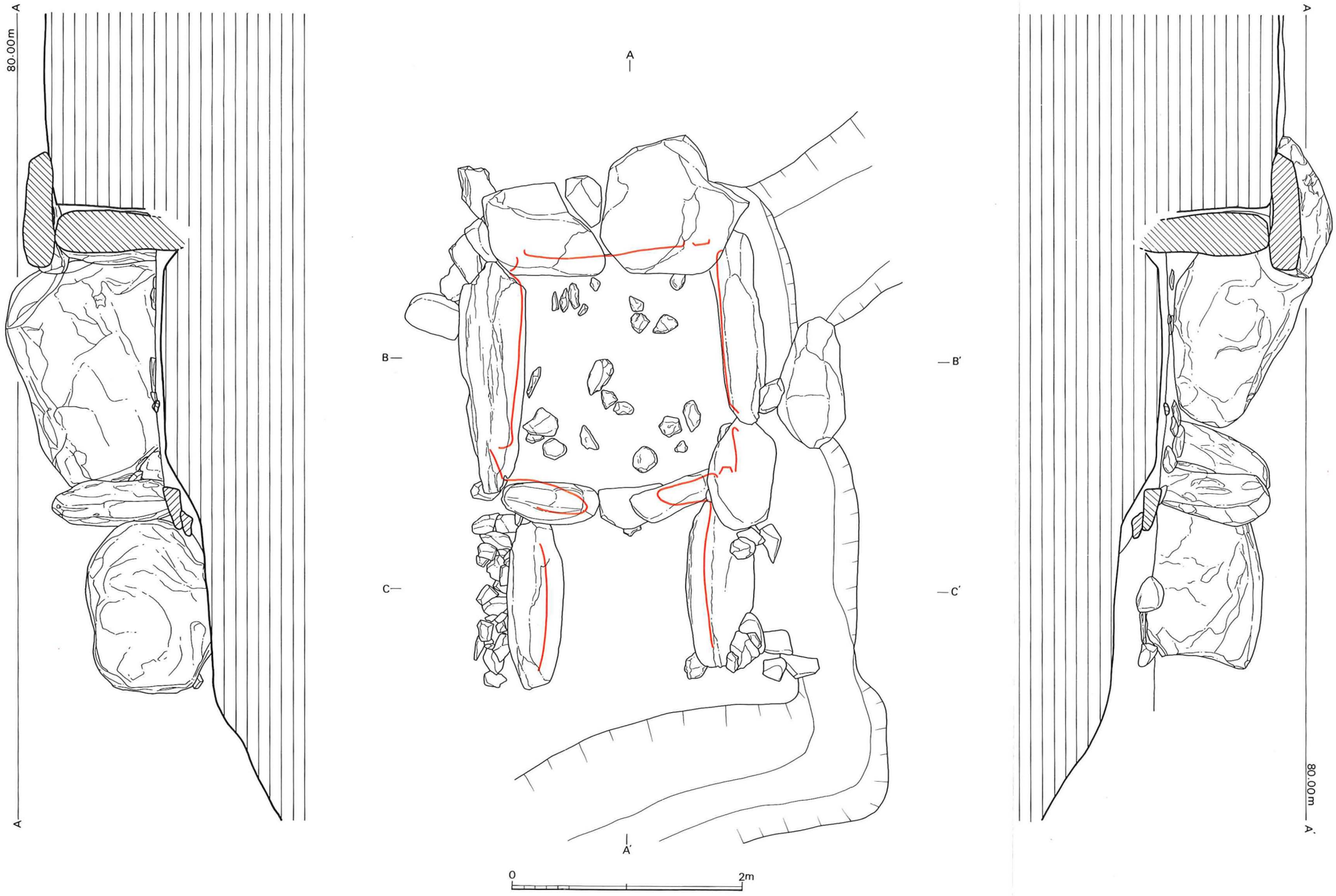



Fig. 5　1号墳石室実測図②（1/40）

かは不明。

石室の掘り方は腰石際まで及び，玄室腰石での裏込めはほとんどみられない。羨道の方は腰石中位付近で，小振りの砕石による裏込めがみられた。（本　田）

② 遺　物

**土器**（Fig. 6 ・ 7）

Fig. 6 は，昭和37年開墾時出土のもので，藤田氏報告の実測図を借用させてもらった。いずれも須恵器で，**1** は杯蓋，**2** は杯身，**3** ・ **4** は小形杯身である。詳細は報告を参照されたい。

Fig. 7 は今回調査で出土したもので，9 点とも須恵器である。

**1** は内面かえりをもつ杯蓋片である。上部を欠失するがつまみをもつものと考えられる。外面灰色，内面は灰褐色を呈する。周辺出土。**2** ・ **3** は有高台杯である。**2** は口縁部片で，外面灰白色，内面灰色を呈する。周辺出土。**3** はふんばりをもつ高台部片である。内底面は指ナデを施す。にぶい赤褐色を呈する。羨道部出土。**4** は小形杯の高台底部片である。上面は接合部から剝落している。茶色っぽい灰色を呈し，細かい白色砂を含みザングリとした胎土である。

**5** は高杯杯部片である。平坦な外底面はろくろ右廻りのヘラケズリ，内底面は静止ナデを施している。外底面にはヘラ記号状のキズがはいるが，ヘラ記号かは不明。

**6** ～ **9** は平瓶と思われる。**6** ・ **7** は口縁部，**8** は体部，**9** は底部破片である。**6** は薄手づくりでやや甘い。にぶい赤褐色～褐灰色を呈する。**7** は口縁上部がやや内湾ぎみにおさめられる。復元口径は11.8cmを測り，**6** より大きい。外面上部に 2 条の浅い沈線を施している。外面は褐灰色，内面は灰色を呈する。**6** ・ **7** は周辺出土。**8** ・ **9** は色調・胎土の特徴から同一個体と考えられ，灰褐色～にぶい橙色を呈する。**9** は周辺出土。**8** はＤ２区２層出土。

**不明鉄器**（Fig. 8 ・ 9）

Fig. 8 は，玄室から出土した鉄器である。撥形をなし，先端が少々欠落している。厚さは 2 mmほどしかなく，やや湾曲している。長さ6.9cm，幅4.9cmを測る。短甲の一部分の可能性をもつが明確でない。

Fig. 9 は，玄室の敷石に使用された石に鉄器が付着したものである。付着面が敷石上面であったのであろう。長さ 4 cm，幅 2 cmほどの薄い鉄片であるが，形状がいま一つはっきりしない。（宮　崎）

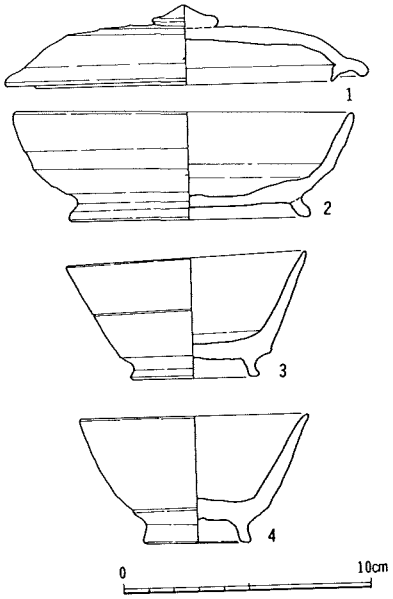



Fig. 6　1 号墳出土土器①（1/3）

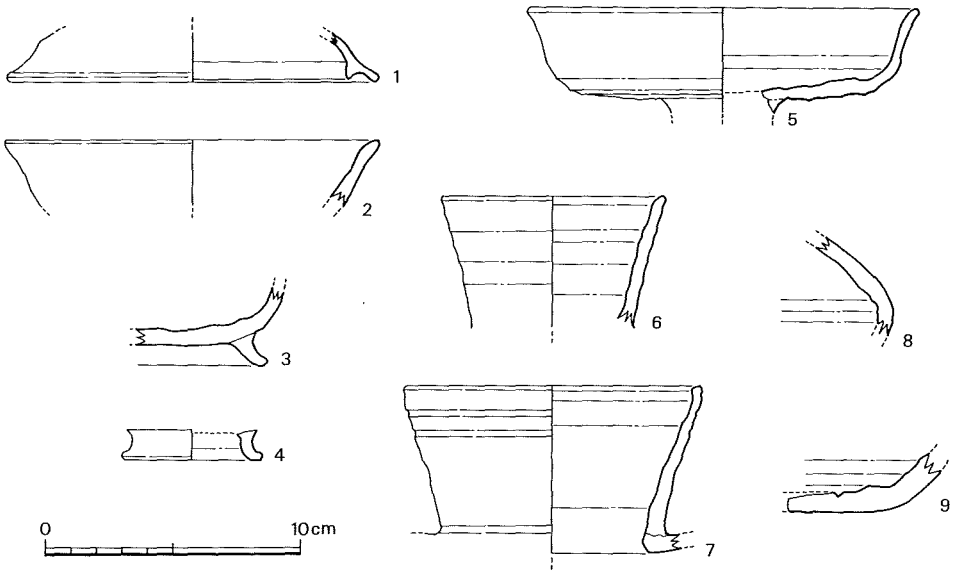



Fig. 7　1号墳出土土器②（1/3）

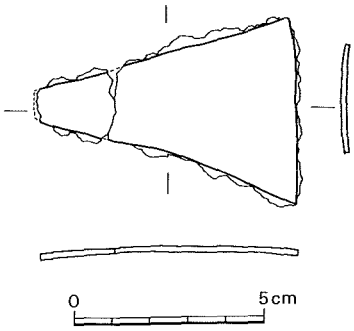



Fig. 8　1号墳出土鉄器（1/2）

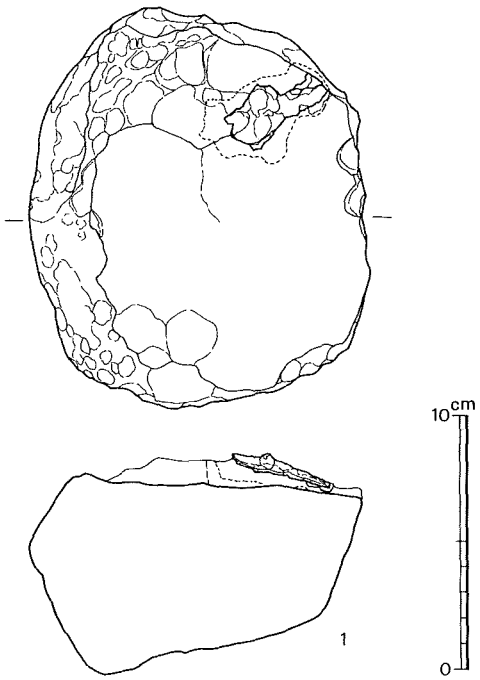



Fig. 9　鉄器付着敷石（1/3）

3．2号墳

① 遺　構（Fig.11・12）

2号墳は当古墳群の中でも最も南に位置し，標高は73mを測る。調査前はミカン畑で，石室の露頭も全くみられていなかった。調査の結果，上部を削平された腰石と石積みの一部を残した状態の古墳が確認されるに至った。

当墳の内部主体は単室両袖式の横穴式石室で，主軸はN-7°-E，南西部に開口する。前庭部を大きく削平されているが，石室全長は推定でも4m程になる。

玄室は約1.6m四方の方形プランを呈し，両側壁は1枚，奥壁と東側壁は2枚の腰石を用いて構築する。東側壁の場合，腰石1枚では長さが足らず，もう1枚石を継ぎ足して調整を図っている。玄室の腰石上には積石が1段分残り，北西隅のそれは天井部へ向かって三角持ち送りをなすよう置かれている。積石はいずれもうまくレベル調整がなされており，天井部は全体で一気に持ち送られていったのであろう。

床面は多少の凹凸はあるものの，10～20cm大の礫が一面に敷かれている。敷石は玄門付近で薄く，四隅にいくほど厚い。数度の出入りがあったのかもしれない。

玄門部では厚さ20cm内外の石材を立て袖石としている。袖石は羨道側に置かれた石によって支えられ，頑丈に構築されている。西側と東側の袖石には25cm程の比高差があり，東側袖石上に何等かのレベル調整を施さなければならなかったろう。玄門幅0.4mを測る。

羨道部は東西それぞれ2枚の腰石が据えられ，西側壁には一部積石が残る。上部削平のため石積みは乱れているが，積石は大きめの石の小口を内面に向け，隙間を板状石で充塡している。腰石の裏込めが良好に残っているのは東側部分である。腰石中へ上位にかけて礫がみられた。周囲には同じような石が地山に貼り付くような感じで残存している。隙間を埋めたり，石を支えたりといった役目よりも，地盤や積石の補強・安定を図るといったものであろう。床面での敷石は見られない。土器が細片で散在しているのは，早くから撹乱を受けていたせいかもしれない。

前庭部には大振りの塊石が集中している個所がある。積石の一部が崩れ落ちたものか，閉塞に用いられたものが判別し難い。羨道床面がかなり掘り返されているのを考えると，以前からここも破壊を受けていたのであろう。

（本　田）

② 遺　物

**土器**（Fig.10）

羨道部から出土した小形高杯である。脚部を欠失するが，裾端部がはね上がるところに特徴をもつ。口縁はややいびつで復元口径8.4cm。灰白色を呈する。（宮　崎）

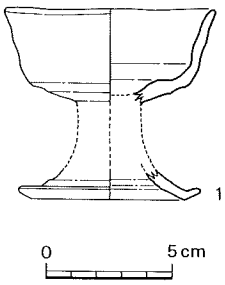
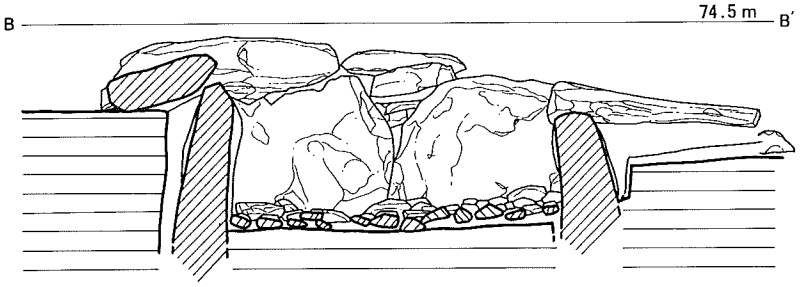
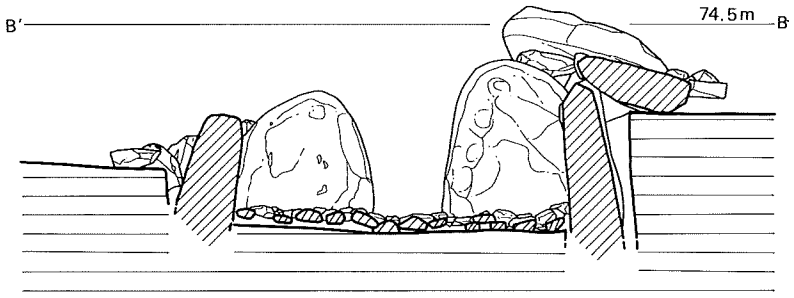
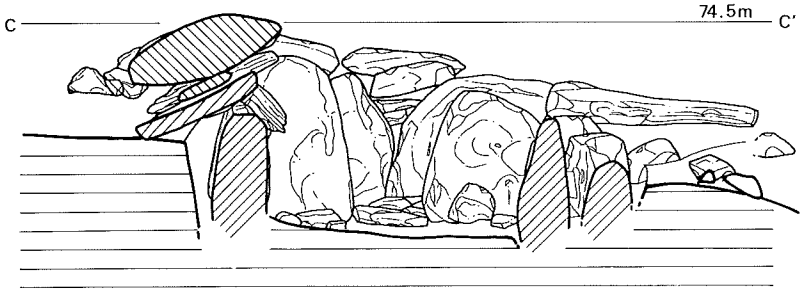



Fig.10　2号墳出土土器（1/3）



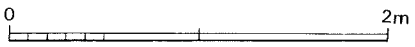




Fig.11　2号墳石室実測図①（1/40）

Fig.12　2号墳石室実測図②（1/40）

**4．3号墳**（Fig.13・14）

① 遺　構

3号墳は1．2号墳の中間に位置し，標高78m付近の斜面に立地する。当墳も2号墳同様，ミカン畑の造成によって天井部と羨道部を削平され，地下に埋没していた。発見当初は玄室奥壁が石室内へ完全に倒れ込み，破壊の様子を物語る。調査の結果，旧状をとどめていたのは玄室両側壁の腰石以下であることが判明した。

内部主体は掘り方から考えて，両袖式の横穴式石室であろう。主軸をN－26°－Eにとり，南西に開口する。玄室は約1．6m四方で，ほぼ方形プランを呈する。規模は2号墳よりもやや大きい。腰石には奥壁・両側壁共に大きな一枚岩を用いている。ただ東側壁は西側壁よりも若干短く，他の古墳同様に，もう1枚腰石を据えて調整を行っていたのかもしれない。

石室の掘りかたは，他の古墳と比べ奥壁部分で広い。腰石スレスレに掘り方が残る他とは，様相を異にしている。腰石の裏込めは下位～中位程から行われ，基部には石をつめてさらに固定する。袖石，腰石の周囲には，掘り方に沿って支えとなる石が置かれていた。

床面には敷石が残り，上面にはやや大きめの，下面には5～10cm大の礫を敷く。床面中央部では幾分敷石が薄くなっている。副葬品と思われる土師器，須恵器は，東袖石の抜き跡内で出土した。本来は玄室南東隅に置かれていたものが，袖石等の倒壊時に流れ込んだのであろう。

玄門部の袖石は完全に抜かれていたが，框石は残存していた。これから推定すると，玄門幅は0.6mくらいか。1号墳と同程度であろう。（本　田）

② 遺　物（Fig.15・16）

**土器**（Fig.15）

**1**～**4**が須恵器，**5**は土師器である。

**1**はほぼ完形の杯蓋である。内面かえりを有するが，天井部にはつまみは無い。天井部には沈線上のヘラ記号がはいる。天井部内面には不定方向の静止ナデを施している。最大部径12.2cm，器高2.7cmを測る。灰色を呈し，1～4mmの砂粒を多く含んでいる。玄室南隅一括出土土器のP1である。**2**は杯蓋小片である。0.5mm～4mm大の砂粒を含み，焼成軟質で，粗雑なつくりである。外面は灰黄褐色，内面はにぶい赤褐色を呈する。周辺出土。

**3**・**4**は，杯身である。**3**は完形の杯身。外面は著しく風化を受け摩耗している。体外面に1カ所沈線状のヘラ記号がはいる。内底面には不定方向の静止ナデが施される。灰色の色調を呈するが，外面はらせん状に灰白色の鎬がはいる。0.5～4mm大の砂粒を含み，焼成はやや甘く，あまり丁寧なつくりではない。口径12.3cm，器高3.9cmを測る。一括出土土器のP2である。**4**は，口縁から体部にかけての破片で，復元口径は12cmを測る。体下半は風化を受け摩滅している。淡灰色を呈し，0.5～3mmの砂粒を含み，焼成は軟質である。P3である。

**5**は，1/3ほどを欠失する土師器皿である。復元口径20.1cm，器高4.3cmを測る。外面は風化が著しいが，低部付近には部分的に丹塗りが残っている。内面は平滑ナデ仕上げされる。にぶ

い橙色を呈し，１㎜大の赤色砂を含むが胎土はわりと精良である。本来は，外面丹塗りの皿であったと思われる。一括出土土器のＰ４である。

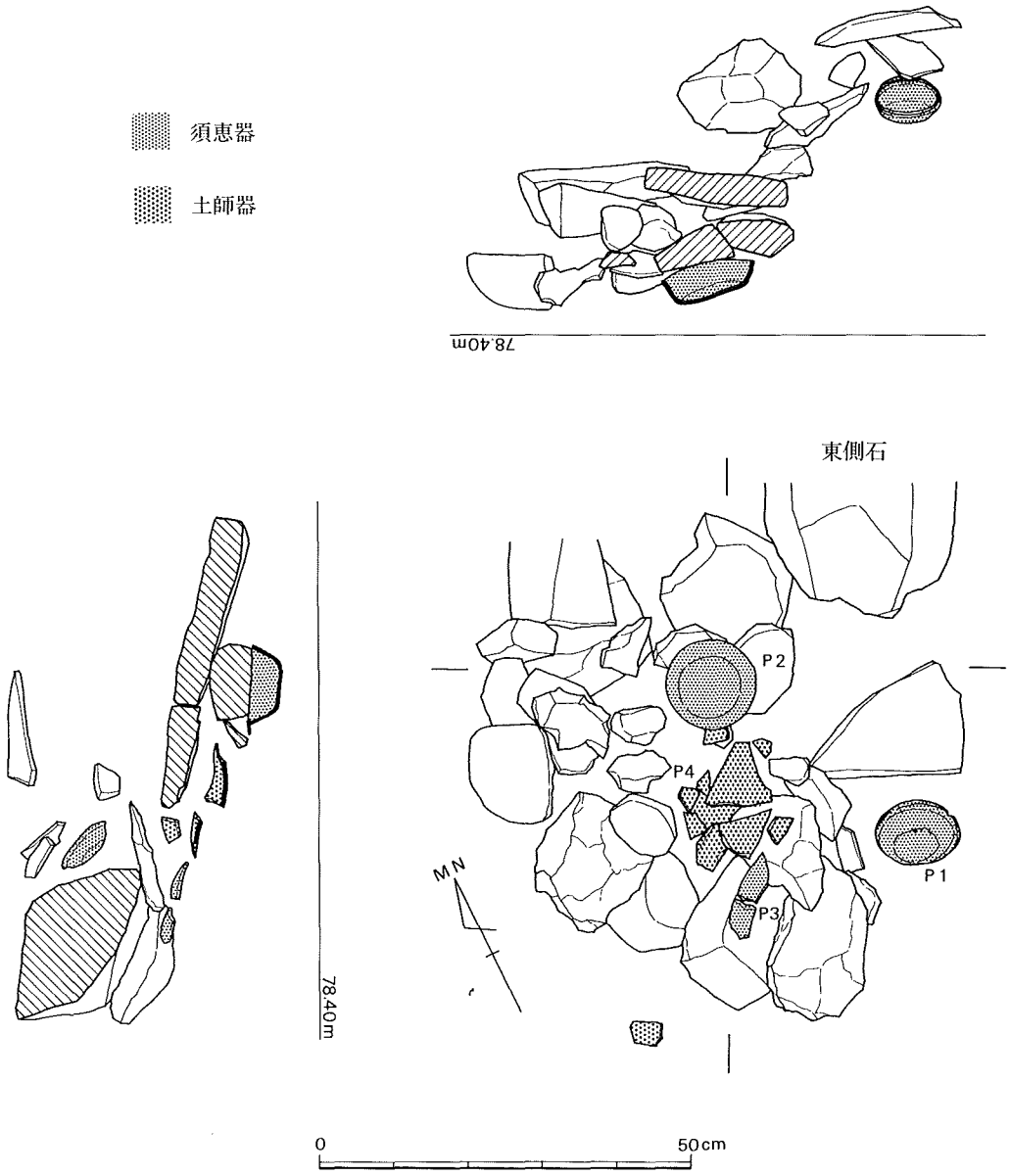



Fig.13　3号墳遺物出土状況（1/10）

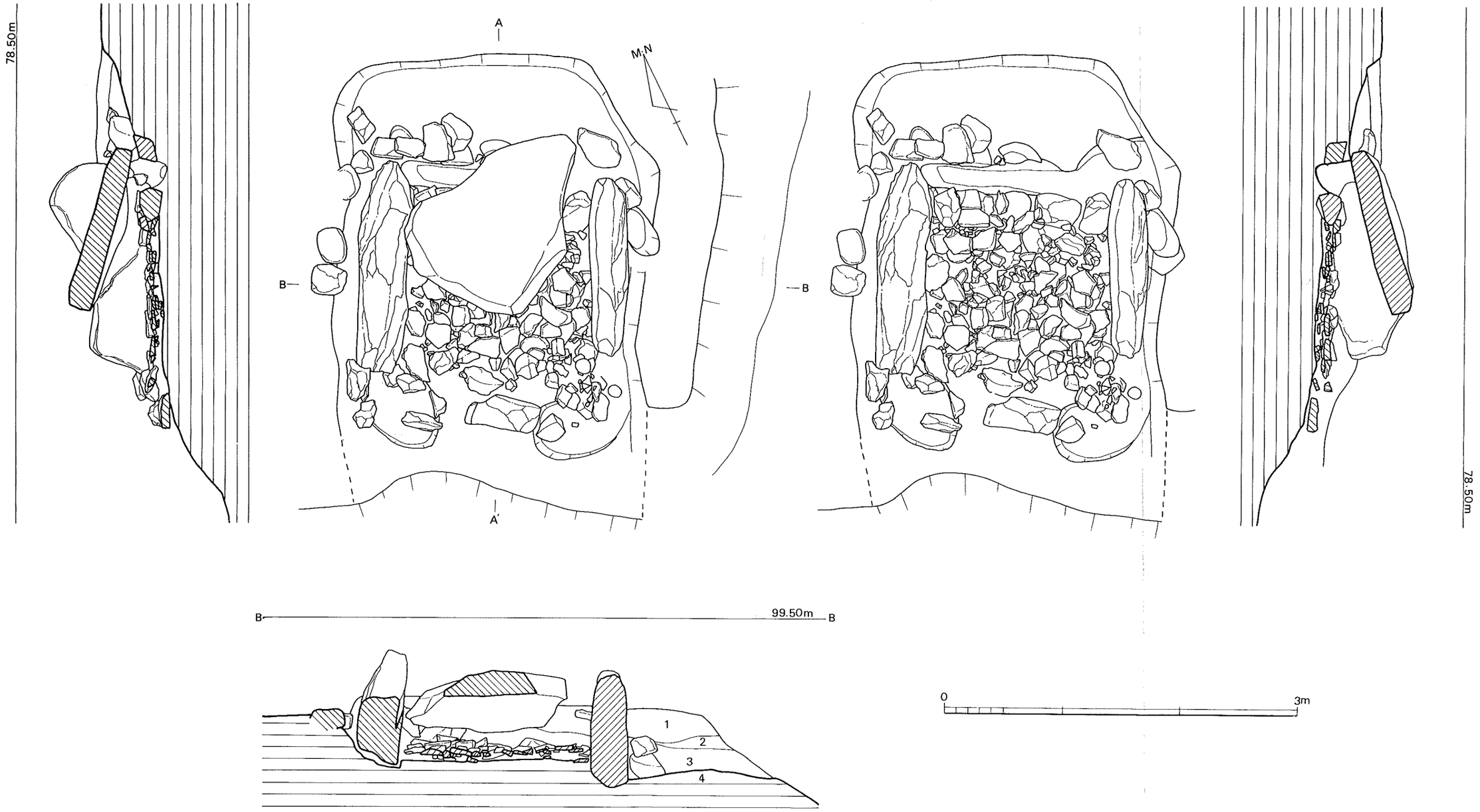



Fig.14　3号墳石室実測図（1/40）

**石器**（Fig.16）

不整形状の砥石である。長さ24.6cm，幅15cm，厚さ3.6cm，重さ1700ｇを測る。砥石面は，表・裏面と一側面に認められる。側面に細い溝状の凹み，裏面に幅2.5cmほどの溝状の凹みがみられる。わりときめ細かい砂岩で，上砥として用いられたものであろう。向って左側の玄門の抜け跡付近から立った状況で出土した。玄門の袖石を固定するための石として転用されたものと考えられる。（宮　崎）

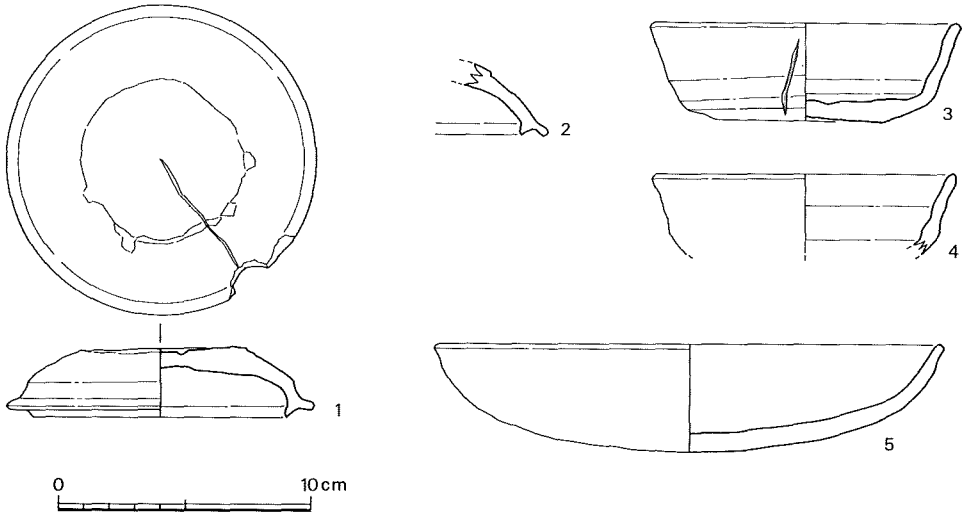



Fig.15　3号墳出土土器（1/3）

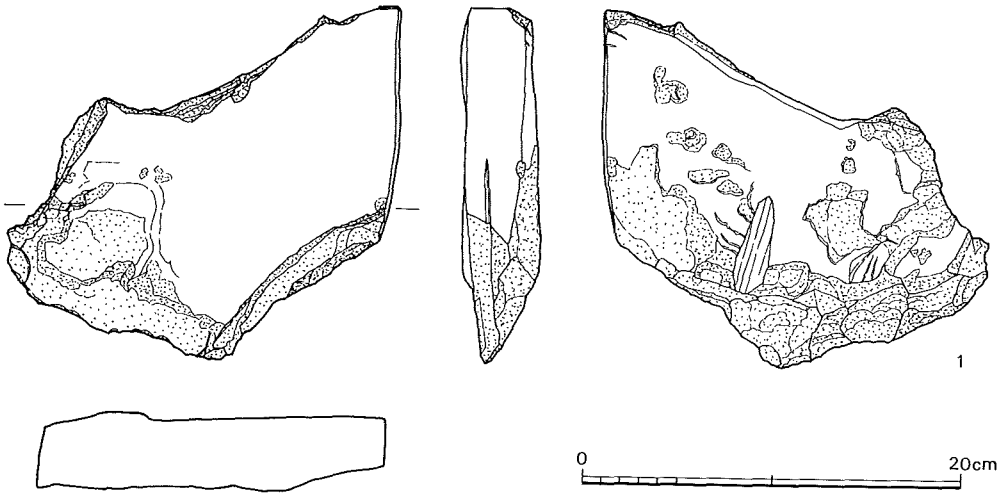



Fig.16　3号墳出土砥石（1/4）

## 5．その他の遺物

ここでは，直接１～３号墳に関係しないもので，丘陵部で出土した遺物をとりあげる。

**土器**（Fig.17）

**1**は，須恵器瑞小片と考えられる資料である。外面には波状文を施す。灰白色を呈する。表採資料である。

**2**は，竜泉窯系の青磁椀の底部破片である。高台部から高台内部は無釉で，他は灰オリーブ色の釉がかかる。無文椀であり，森田勉・横田賢次郎氏分類[註1]の椀Ｉ－１類であろう。１号墳の周辺から出土。中世輸入陶磁器は，他に12点出土しており，青磁７点，青白磁２点，青花３点がある。青磁は，口縁に電文帯をもつ椀，細線蓮弁文椀，体部で屈曲する皿などがある。青白磁は２点が同一個体と思われ，瓶の体部片であろう。青花は，小野正敏氏分類[註2]の椀D群，皿C群，盃と考えられるものがみられる。（宮　崎）

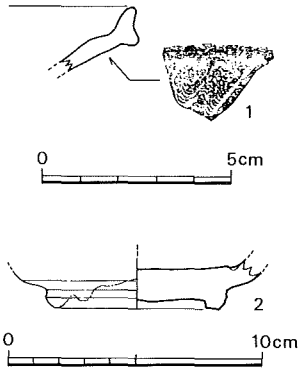



Fig.17　その他の遺物①（1/2・1/3）

**石器**（Fig.18・19）

谷部以外の丘陵部より，縄文時代の鋸歯縁をもつ石鏃・異形石器・石斧等，旧石器時代の所産と思われる剥片とナイフ形石器などが出土している。

Fig.18の**1**のナイフ形石器は漆黒色黒曜石を使用し，ブランティング加工後，表裏に平坦剥離を加え，基部を薄く仕上げている。この平坦剥離は，一度ブランティング加工を施した後であり，かなり執拗な加工であるため再生加工であるとも考えられる。当遺跡出土のナイフ形石器の中においては大形のものである。**4**は所謂異形石器と呼ばれるもので，つまみ状の突起に対

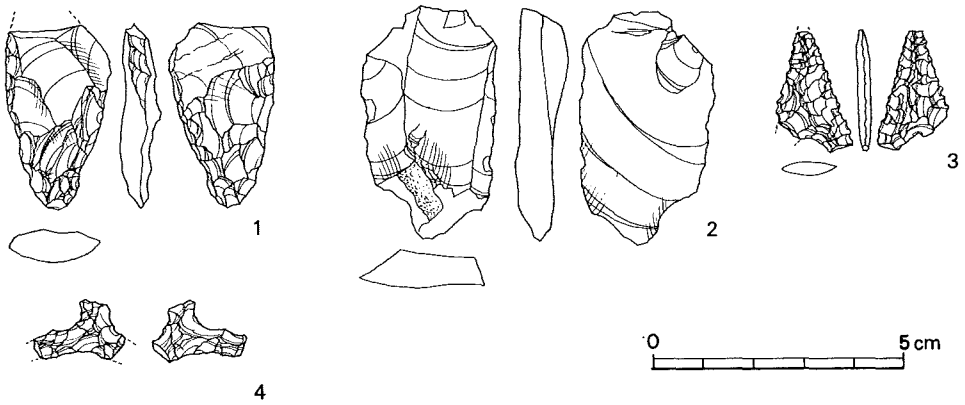



Fig.18　その他の遺物②（2/3）

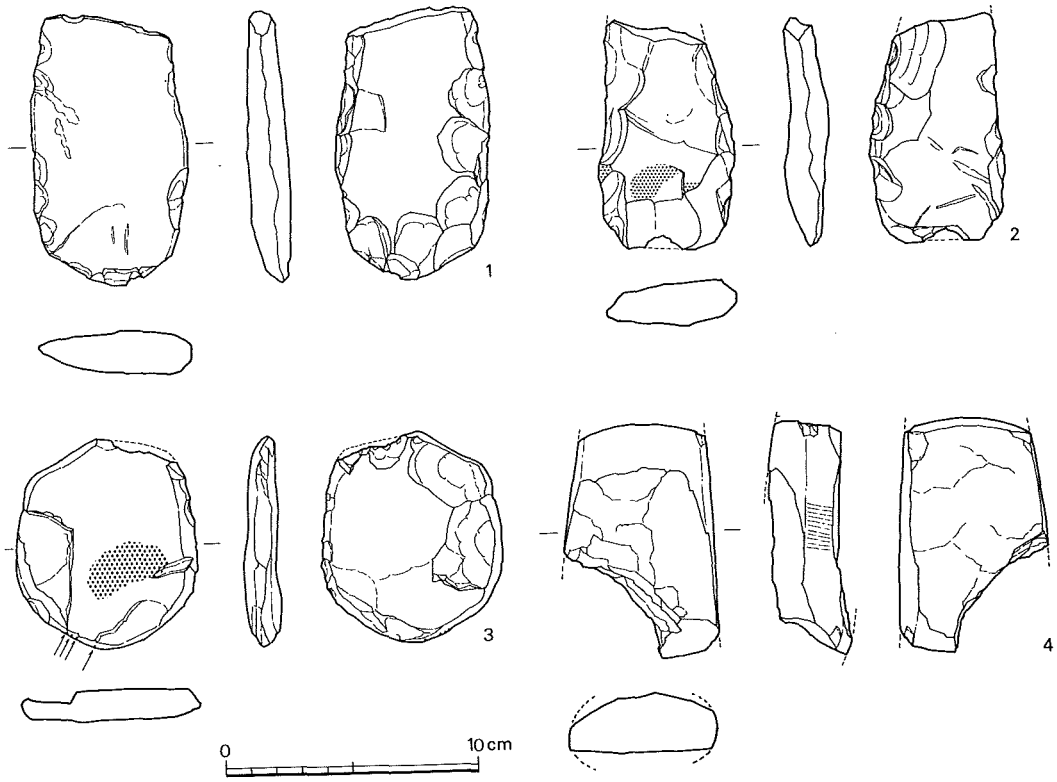



Fig.19　その他の遺物③（1/3）

して左右対称の脚状のものを作りだしている。異形石器と通常呼唱されているが，各遺跡で単一的に出土するのみで，その機能等については不明である。

Fig.19の **1** ～ **4** は，扁平打製石斧・円盤状石製品・磨製石斧である。 **3** の円盤状石製品は，側辺部に4ケ所の線状痕がはいっており，上面に媒の付着が認められる。 **4** の磨製石斧は，遺跡東側での表採で，当遺跡唯一の磨製石斧であるため，扁平打製石斧の一群とは時期を異にするものと思われる。側面には緊縛による痕跡がみられる。　（福　田）

註1　森田勉・横田賢次郎「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』九州歴史資料館　1978

2　小野正敏「15～16世紀の染付碗，皿の分類と年代」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会　1982

# III　谷部の調査

## 1．調査概要

現地は，幅17～20mの狭い谷が南西に開口し，両側が丘陵傾斜面になっている。谷上端部の北側斜面に１号墳が存在しており，未確認の古墳群が傾斜面に展開していることが推測された。１号墳は谷に向かって羨道がのびているところから，谷部調査の当初の主目的は墓道の確認のために調査壙を設定したことに始まる。丘陵部発掘の排土場確保の意味からも最初になされた作業であった。

まず，D区付近に４×10mの調査壙（Ｉ区），C・D区に４×12mの調査壙（II区）を設定した。Ｉ区は良好な状況は見られなかったが，II区において縄文土器，石器などが多数出土し，縄文時代の遺物包含層の存在が明確になったため，谷上部にIII区とIV区を設定した。

III区は173m²を発掘し，縄文時代の包含層の下部に先土器時代の遺物包含層がとらえられた。IV区は136m²を掘り下げ，さらに５×10mの調査壙を設けて，遺物包含層を掘り下げた。

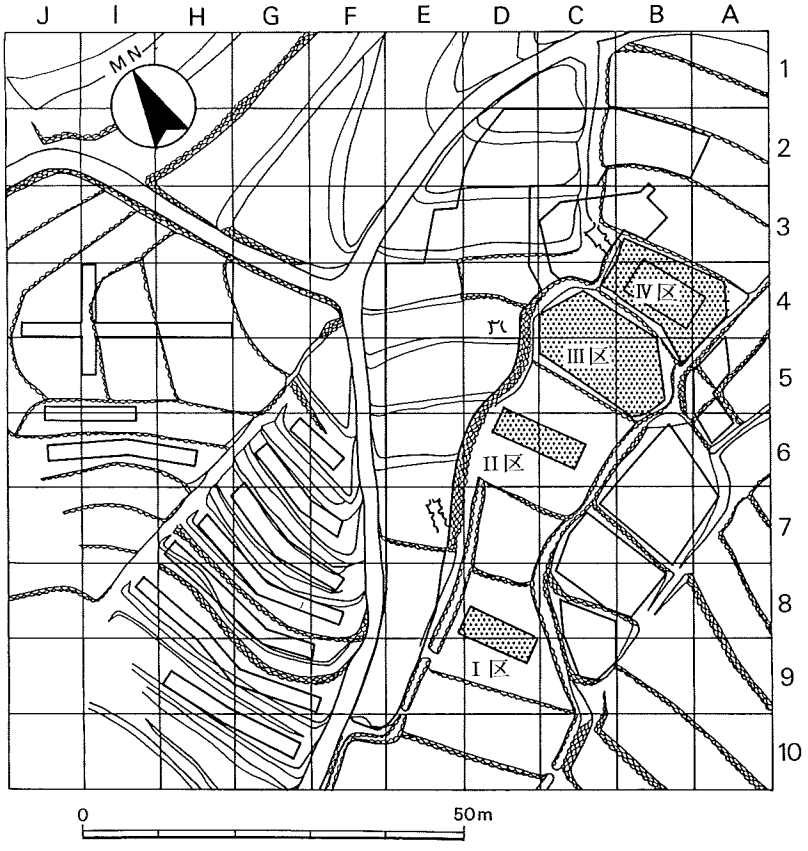



Fig.20　谷部調査区図（1/1,000）

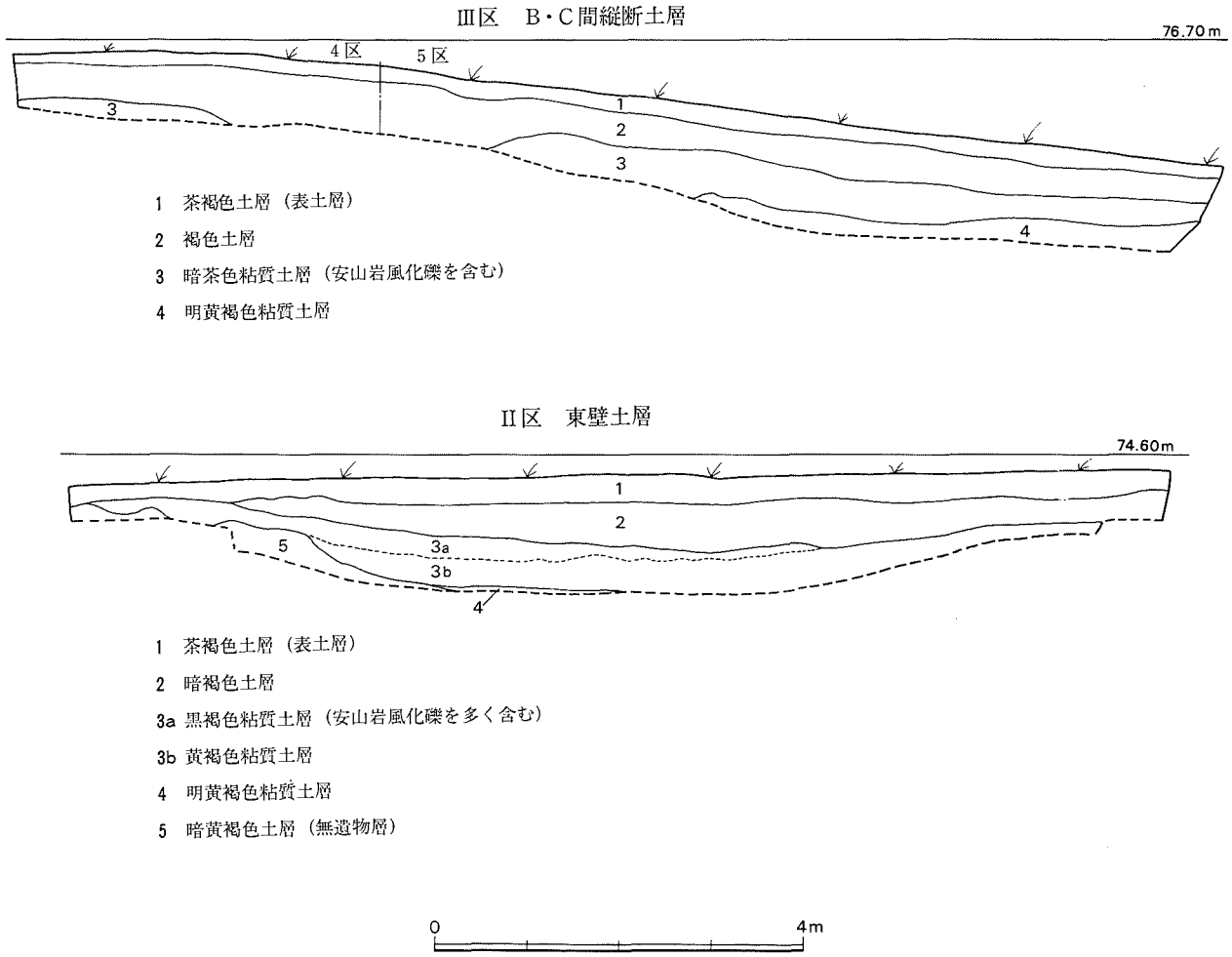



Fig.21　谷部地区土層図（1/80）

その結果，墓道遺構の確認はできなかったが，谷部地区を中心として先土器時代から縄文時代の遺物包含層が確認された。谷部地区の調査面積は397m²である。

## 2．土　層（Fig.21）

Ⅰ区は，表土上面から40cmほどで安山岩礫を多量に含む基盤が検出され，20cmほど黄茶色土層が堆積していたが，陶磁器が混在するなど遺物包含層ではなかった。主な遺物として，表土層から黒耀石製の剥片鏃がみられたにすぎない。

Ⅱ区では，１～５層の土層堆積がみられた。中央付近が凹み，旧谷地形をあらわしている。１層は茶褐色の耕作土で軟弱な土層である。２層は暗褐色土であまりしまりのない畑土の土層である。３a・３ｂ層は縄文時代の包含層である。３a層は黒褐色粘質土で，安山岩の風化礫（豆粒大）を多量に含んでいる。３ｂ層は黄褐色粘質土で，粘性が強い。４層は先土器時代の包含層で極めて粘性が強い。５層は暗黄褐色の安山岩風化土層で，硬くしまり，基盤直上に堆積する層で無遺物層である。

Ⅲ区は，１～４層の土層堆積していった状況がとらえられ，B・C間縦断土層では，7.5%ほどの傾斜をもっている。１層は茶褐色の耕作土層である。２層は褐色土でしまりのない土層である。３層は縄文時代の遺物包含層。暗茶色粘質土層で，安山岩の風化小礫を含んでいる。４層は先土器時代の遺物包含層で，薄く堆積しており，粘性が強い。

Ⅳ区は，Ⅲ区と同様に１～３層の堆積がみられたが，３層は20cmほどしかなく，安山岩の風化層があらわれ，４層は残っていなかった。３層は遺物包含層であるが，縄文土器は細片ばかりで，時期が明確に判るものはなかった。（宮　崎）

## 3．遺　物

### ①　Ⅰ　区

**石器**（Fig.22）

Ⅰ区では大形礫の流れ込みが多く，定形的な石器は剥片鏃１点のみである。剥片鏃は後期に特徴的な石器であるが，所謂縦長剥片などの出土はみられなかった。（福　田）

### ②　Ⅱ　区

**土器**（Fig.23）

Ⅱ区からは139点の土器が出土しており，そのうち縄文土器108点，弥生土器・土師器４点，中・近世陶磁器27点に分けられる。３層から出土した縄文土器は17点あるが，細片が多く図示できたのは１点である。

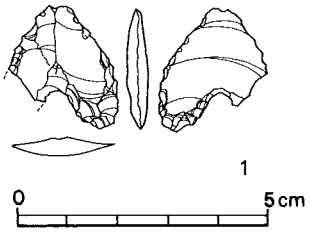


Fig.22　Ⅰ区出土石器（2/3）

１は，晩期浅鉢の口縁部小片である。全体に風化を受

け器表が剝落しもろくなっている。口唇外方には沈線が１条めぐる。橙色を呈し，１～２㎜大の白色砂を多く含み，若干赤色砂を含む。（宮　崎）

**石器**（Fig.24）

石器は98点出土している。そのうち４点を図示した。**1**は幅広の剝片の稜上までブランティング面が存在するナイフ形石器である。**3**は灰白色黒曜石を使用した石鏃である。（福　田）

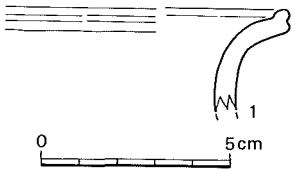



Fig.23　II区出土土器（1/2）

③III　区

**土器**（Fig.25）

III区では，687点の土器が出土した。そのうち，縄文土器は522点，弥生土器・土師器は21点，須恵器は５点，中･近世陶磁器は139点出土している。このうち，遺物包含層である３層から出土した縄文土器は348点である。しかし，細片が多く図示できたのは11点にすぎない。

**1**は，３㎝ほどの小片であり風化を受けているが，４条の沈線が観察できる。橙色を呈し，胎土に結晶片岩を多く含んでいる。焼成は甘い。前期曽畑式と思われる。

**2**～**4**は，中期阿高式系の土器群である。**2**・**3**は口縁部片，**4**は胴部片である。**2**は，山形突起を有するもので，上端には２条の刻目と斜めに細い沈線がはいる。外面には太形凹文が縦と横に施されている。外面は明赤褐色，内面は暗赤褐色を呈し，１～３㎜大の滑石を多量に含む。**3**は平坦な口縁部にジグザグに刻目を施すもので，外面には太形凹文が施されている。明赤褐色を呈し，0.5～４㎜大の滑石を多く含んでいる。**4**は，横位に３条の太形凹文を施すもので，裏面は風化を受け剝落している。明赤褐色を呈し，１～３㎜大の滑石を多く含んでいる。

**5**～**9**は，晩期に属するものと考えられる。**5**～**7**は深鉢破片である。**5**は，口縁から急速にすぼまる形状で，外面は横位に条痕が施される粗製の深鉢である。明赤褐色～橙色を呈し，器表は風化のため亀甲状のヒビがはいっている。**6**は頸部付近の破片で，器表は風化を受け調

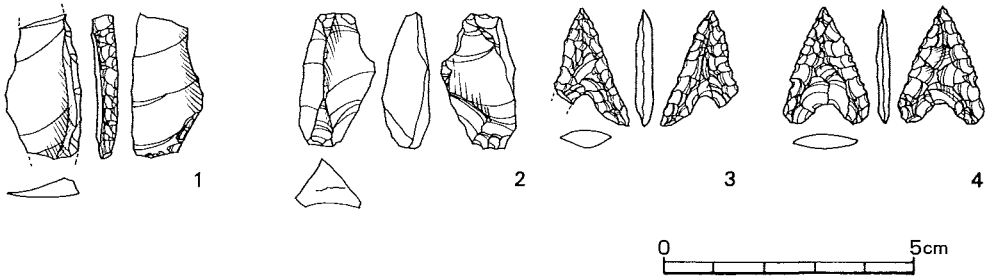



Fig.24　II区出土石器（2/3）

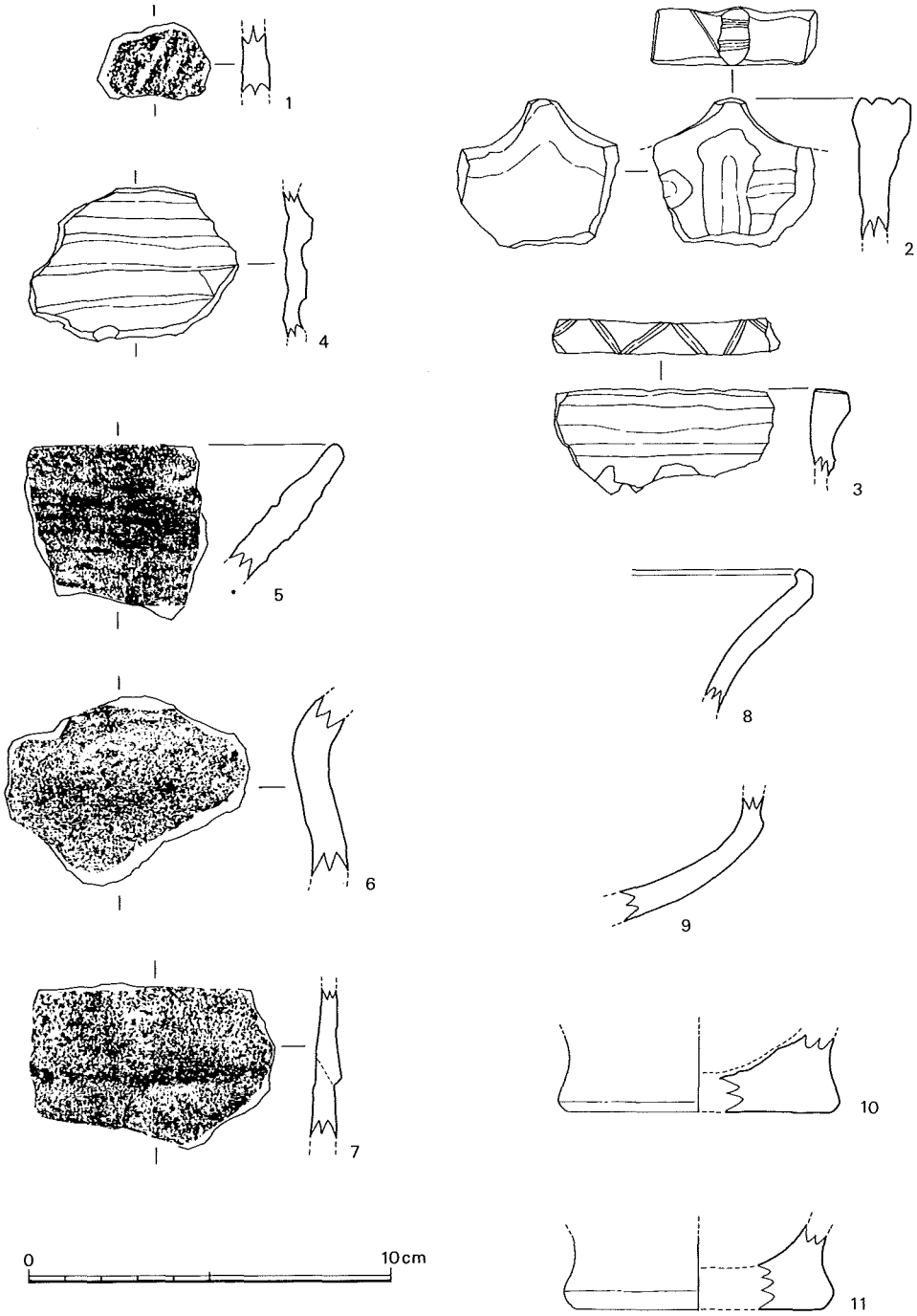



Fig.25　III区出土土器（1/2）

整は明瞭ではない。にぶい赤褐色を呈し，白色砂，角閃石を含んでいる。**7**は，深鉢胴体部片であるが傾きは明瞭でない。器表は風化を受け剝落し薄くなっているようである。明褐色を呈し，１～２㎜大の石英砂を多く含んでいる。**8**・**9**は，精製浅鉢破片である。**8**は口縁部片で，口唇付近は内方に屈曲している。平滑なナデ仕上げされているが，器表は亀甲状のヒビがはいる。橙色を呈し，１～２㎜大の白色砂をわりと含む。**9**は，屈曲する体部片である。表裏とも平滑ナデ仕上げされるが，亀甲状の細かいヒビがはいっている。にぶい褐色を呈し，１～２㎜大の白色砂をわりと含んでいる。

**10**・**11**は，深鉢底部である。**10**は，全体に風化を受けており，内面は剝落している。また，下底面には鯨の脊骨圧痕とも思える凹みがうかがえるが，風化のため明瞭ではない。外面は橙色，内面はにぶい赤褐色を呈する。１～３㎜大の結晶片岩，白色砂をわりと含む。**11**は，全体が風化を受け磨耗しているが，ナデ仕上げであろう。橙色を呈し，１～２㎜大の白色・赤色砂，１㎜大の結晶片岩を含んでいる。**10**・**11**ともに阿高式系の深鉢であろう。　　（宮　崎）

**石器**（Fig.26～29）

Ⅲ区では傾斜面ではあるが，他の地区に比べ包含層がいくらか残っており，遺物量も一番多く出土している。このことについては，Ⅰ区・Ⅱ区の平坦面に遺物が少ないということからも，Ⅲ区より東側に本来も生活の場があり，それらが傾斜面にそって流れ出て，谷部最深部であるⅢ区に堆積したものと考えられる。Ⅲ区出土の石器は，石鏃・掻器・石核・楔形石器・打製石斧・ナイフ形石器・細石刃等が出土している。

石鏃については，Fig.26に図化したように，**9**・**12**の鍬形鏃，**13**・**14**・**15**の局部磨製鏃等，縄文早前期に比定される石鏃の他は特徴的なものは見られないが，他の石鏃は比較的薄身で緻密な調整を施したものが多い。石核（Fig.26－**16**・**17**）のうち**16**は，晩期に特徴的な多面体で，平坦打面という特徴を持ったものである。また他の地区からも出土しているが，Fig.26－**19**のような楔形石器も出土している。

Ⅲ区下部には僅かな旧石器時代の遺物包含層が認められ，包含層よりナイフ形石器・細石刃等の出土が認められた。Fig.27－**20**・**24**は共に灰青色の黒耀石を使用し，かなり風化が進んでいる。**24**のナイフ形石器については，部厚い礫面付着の半円形の剝片を素材としてもので，**23**のような縦長剝片を素材にしたものとは，かなりの相違を見せる。これらナイフ形石器に伴う剝片として，Fig.27－**18**があげられよう。表面が求心的な旧剝離面に覆われ，全体的に薄身である点，日ノ岳遺跡・西輪久道遺跡等，台形石器の出土する遺跡において見られる剝片として捉えられよう。

Ⅲ区出土の石器の中で，特に目立つものとして打製石斧，所謂扁平打製石斧が13点出土している点が挙げられる。石材としては玄武岩・安山岩等を使用し，節理面を利用し周辺加工を施しているため，形態においてほぼ短冊型を呈するものを主体といる。

Fig.28－**1**～**8**は所謂扁平打製石斧であるが，器体中央部あるいは下部に擦痕が認められるも

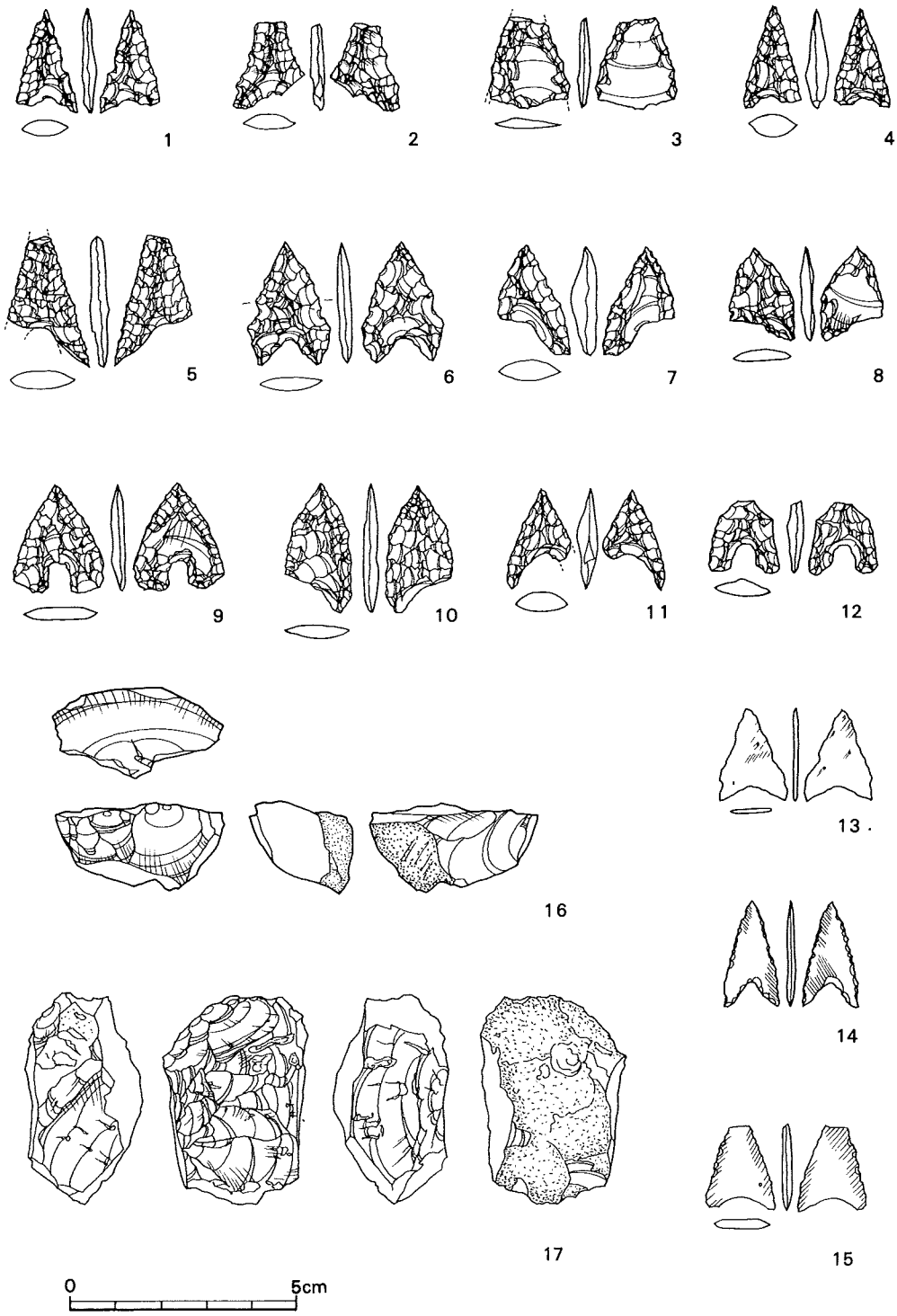



Fig.26　III区出土石器①（2/3）

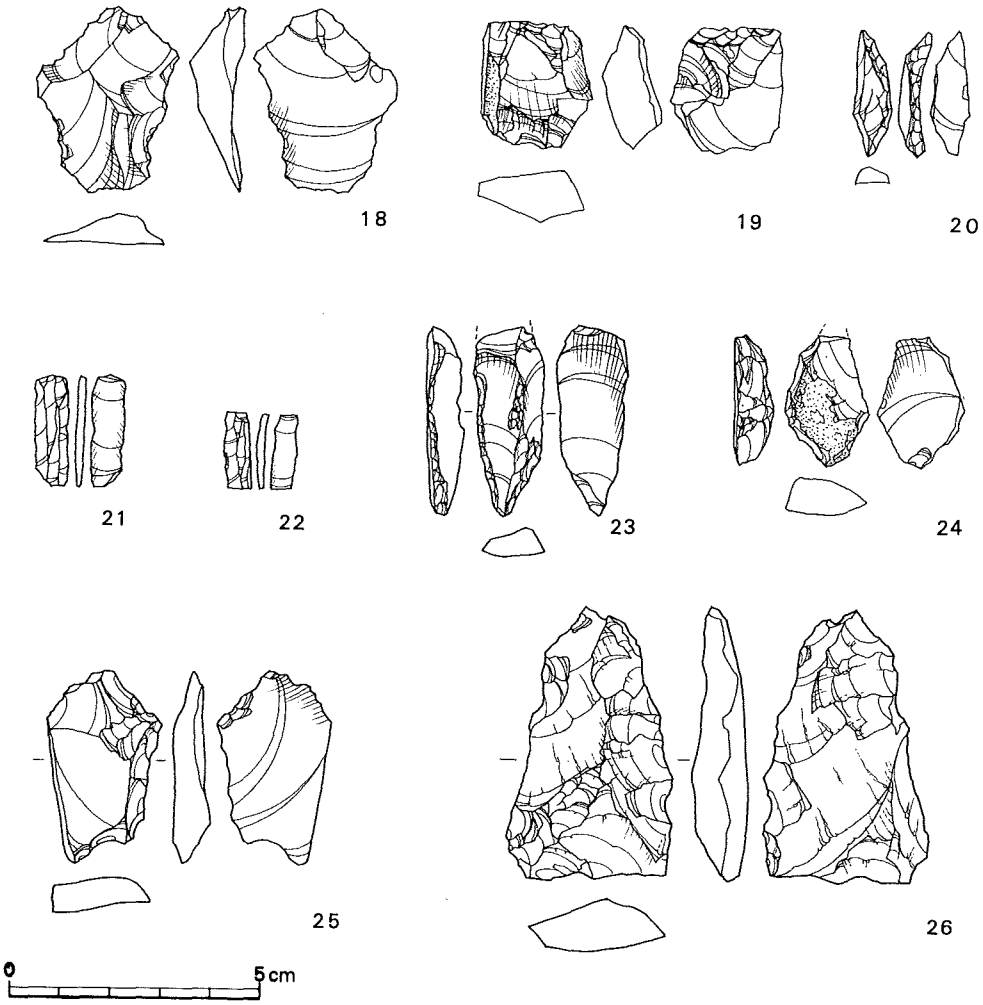



Fig.27　III区出土石器②（2/3）

の**1**・**2**・**3**・**4**と，器体中央部より折損しているもの**2**・**4**・**5**・**6**などがある。**7**・**8**の資料は礫を素材としたのか，全体的に厚みがあり，刃部が丸みをもち幅広になるもので，他のものと機能を異にする可能性がある。

Fig.29－**1**は大形の打製石斧で，器体の3分の1ほどで折れているものが接合したものであるが，右側下部に擦痕が認められる。扁平なものとは機能的に相違したであろうことが予想される資料である。**3**は結晶片岩を使用したもので，十字形石器の可能性も考えられる。**4**は硬砂岩製の磨石で，大半は欠損し3分の1ほどの破片である。側面には敲打痕が認められる。

（福　田）

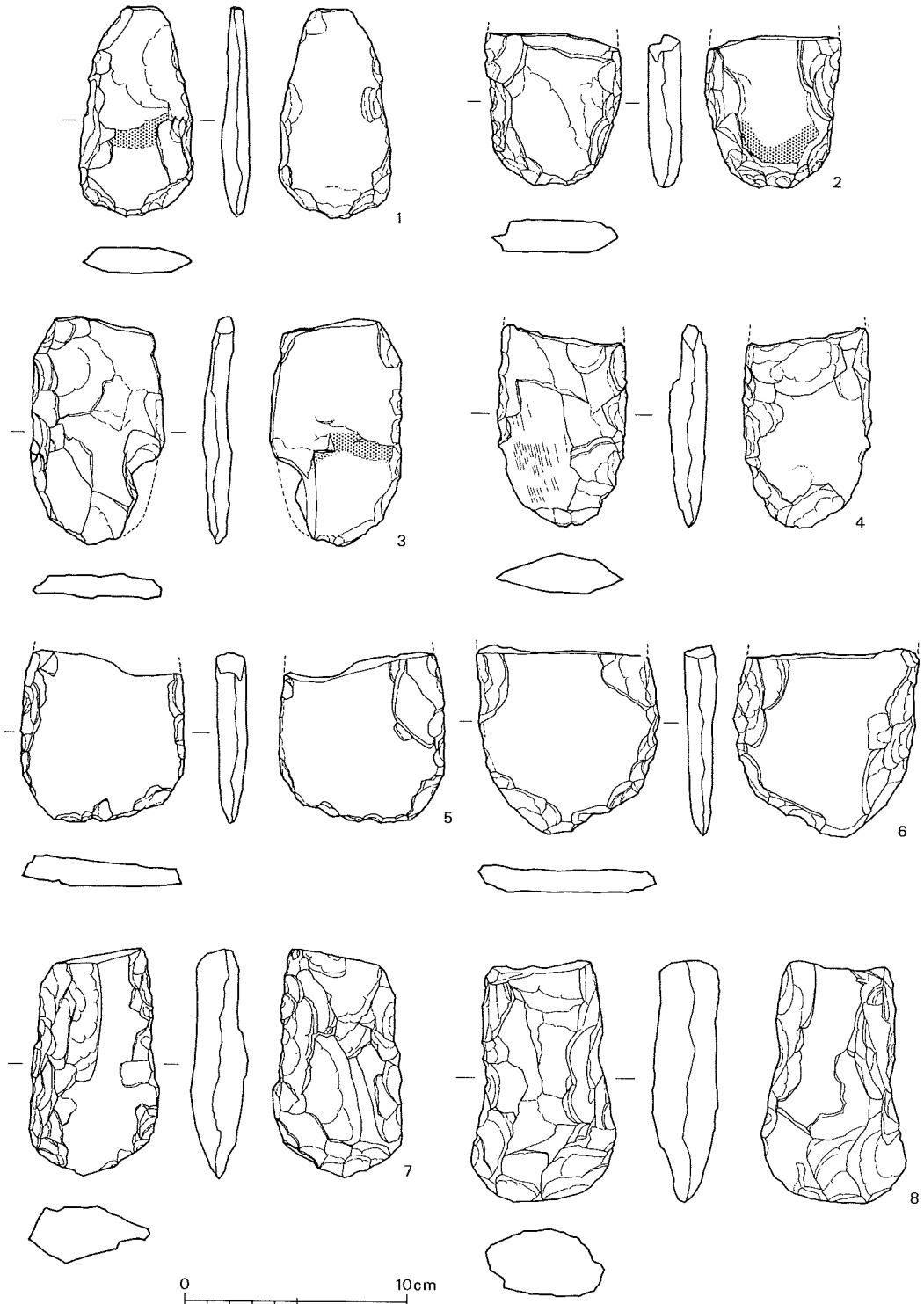



Fig.28　III区出土石器③（1/3）

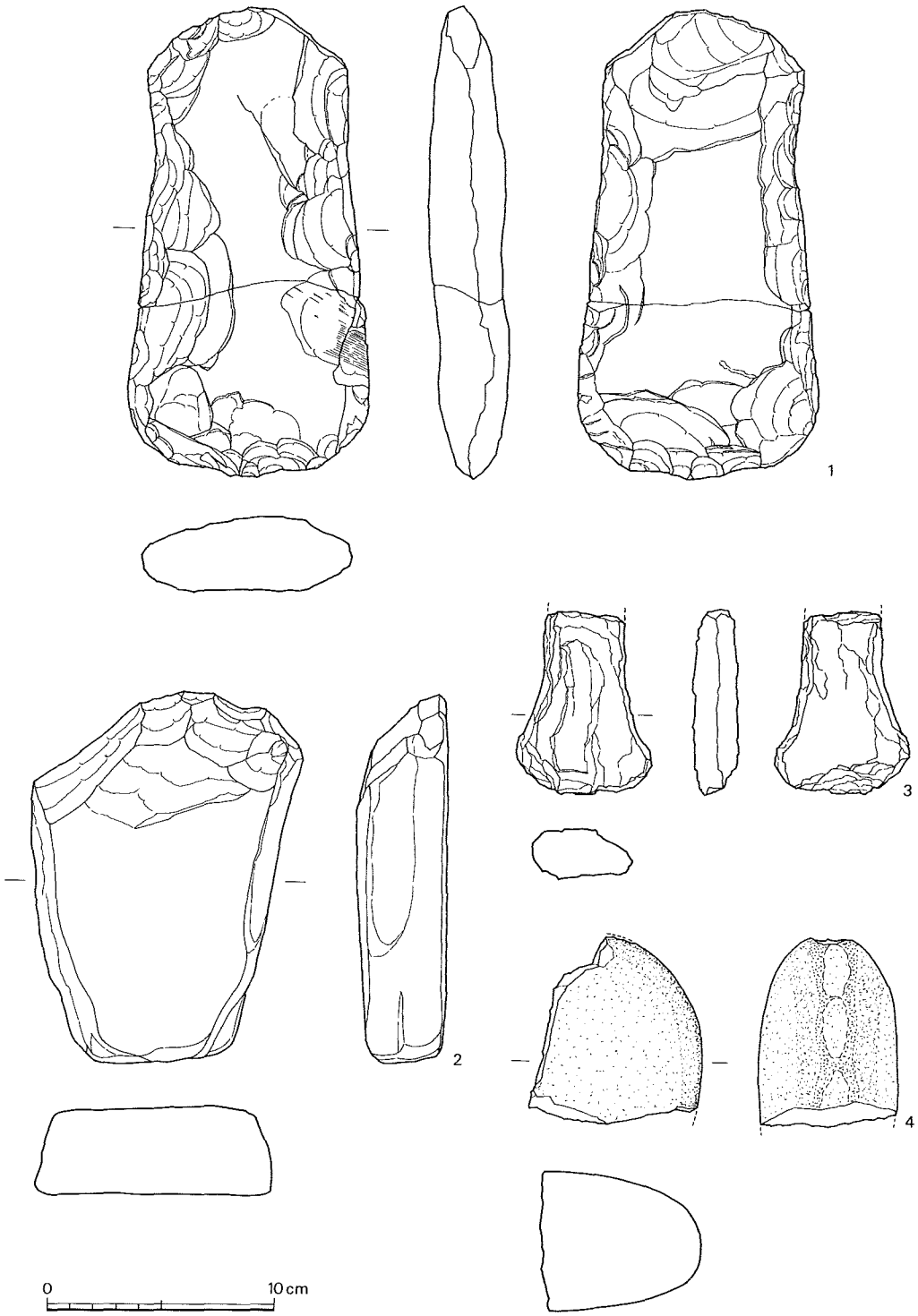



Fig.29　III区出土石器④（1/3）

④ Ⅳ 区

**土器**

Ⅳ区では315点の土器が出土した。縄文土器77点，土師器９点，須恵器４点，中･近世陶磁器225点に区分できる。そのうち，３層の遺物包含層から出土した縄文土器は16点であるが，全て細片で図示できなかった。なお，１号墳との関連で，同一個体と考えられる須恵器１点はFig. 7に図示した。 （宮 崎）

**石器**（Fig.30・31）

Ⅳ区出土の石器は，旧石器時代の遺物が他区に比べて多く出土しているが，明確な包含層は確認できず，３層から縄文時代の遺物と混在して出土している。

Fig.30の**1**の台形石器はバチ状に整形されているものの，ブランティング加工のみで整形され，平坦剥離を一切使用していない点で技術的に所謂台形様石器とは相違する。類似例としては，諫早市の柿崎遺跡[註1]にあるが，時期的なものについては明らかではない。**2**の石器については，細石核と思われるが，背面の調整の有り方，打面が線上になっている点など疑問点も多い。遺跡全体から見れば，細石刃の数は多いので，細石器文化の存在が否定できないため，この資料を細石核として捉えた。ナイフ形石器は**3**・**4**の２点の出土がある，２点ともに先端部を欠損しており，全体の形状は確認できないが，２点共に，薄手の剥片を使用しており，細かなブランティングを施した中型のナイフである。この他に10の剥片などが旧石器時代の遺物として挙げられよう。

縄文時代については，灰白色の黒曜石を多用することが当遺跡でうかがえる。

Fig.31は扁平打製石斧である。正面左側面に節理面を残し，節理面以外を周辺加工して仕上げている。風化が著しく使用痕は確認しにくいが，刃部面は丸く磨滅している。 （福 田）

註１ 福田一志他「柿崎遺跡」『九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ』長崎県文化財調査報告書第54集 長崎県教育委員会 1981

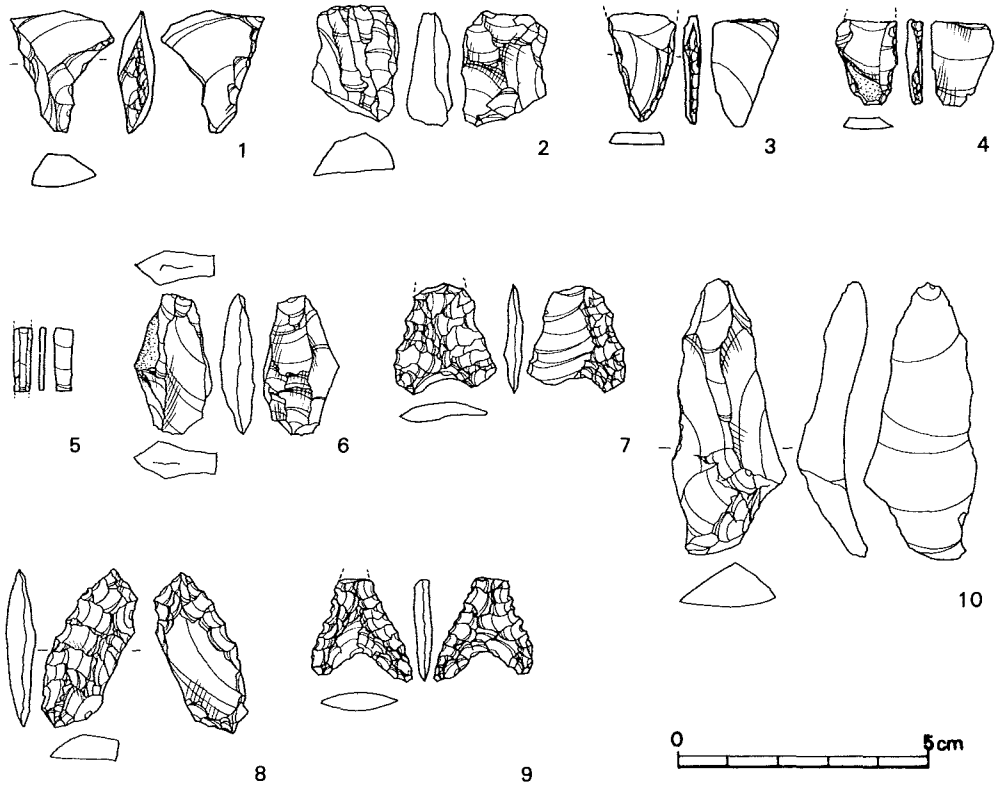



Fig.30　IV区出土石器①（2/3）

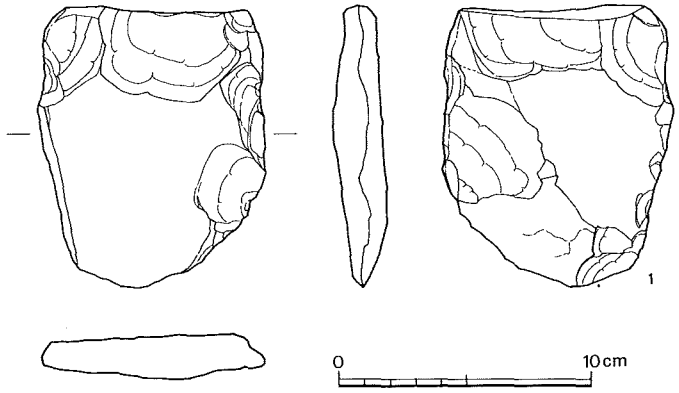



Fig.31　IV区出土石器②（1/3）

Tab. 2　打製石斧・礫器等 計測表

| 挿図番号 | 長さ(cm) | 幅 (cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 特　　徴 |
|---|---|---|---|---|---|
| Fig-29-1 | 20.6 | 10.7 | 3.4 | 978 | 大形の打製石斧で、器体$\frac{1}{3}$ほどで欠損したものの接合資料である。全体的に風化が著しいが側辺に使用痕が認められる。 |
| 2 | 16.2 | 11.5 | 4.0 | 1,130 | 厚みのある素材の一端に刃部を設けた大形の礫器である。全体的に風化が著しいが、他の打製石斧と同様な節理面を利用した素材を使用している。 |
| 3 | 8.0 | 5.9 | 1.9 | 95 | 十字形石器の未製品と思われる。<br>結晶片岩を使用 |
| 4 | 8.3 | 7.4 | 6.2 | 530 | 敲打痕を周囲に残す、たたき石の破片である。 |
| Fig-28-1 | 9.4 | 5.0 | 1.3 | 60 | 比較的小形のもので、洋梨状を呈す、3と同様なところに使用痕が認められる。 |
| 2 | 6.8 | 5.9 | 1.5 | 83 | 3・4と同様なタイプで長楕円形を呈す。刃部直上に使用痕を認める。 |
| 3 | 10.1 | 5.9 | 1.3 | 85 | 図上での表面を入念に周辺加工を行ない、裏面は節理をほぼ残す。<br>中央部に使用痕が認められる。 |
| 4 | 8.5 | 5.6 | 1.6 | 80 | 素材の節理が厚かったせいか、入念な加工を施している。又、節理面に使用痕が認められる。 |
| 5 | 7.5 | 7.4 | 1.4 | 90 | 横広の刃部をもつもので、大きさに比べ器体が薄いことを特徴とする。<br>加工は周辺のみにとどまり、節理面を多く残す。 |
| 6 | 8.1 | 8.2 | 1.5 | 120 | 5と同様なタイプで、5と同様な部分で欠損している。 |
| 7 | 8.7 | 5.3 | 1.6 | 88 | 8の石斧と同様に部厚く、刃部が丸くなる |
| 8 | 10.5 | 5.7 | 2.9 | 235 | 他の打製石斧に比べ部厚く、刃部を丸く作り出している。<br>基部を欠損 |
| Fig-31-1 | 10.9 | 9.0 | 2.0 | 225 | 5・6と同様なタイプで、調整自体は粗く作り出している。 |

# Ⅳ　総　括

## 1．縄文時代における遺跡の様相について

石器については，縄文時代のものを主体とするが，出土土器が前期～晩期にわたり，その中でも中期と晩期の土器を中心とするところから，石器についても中期と晩期の様相を濃く残すものが多いと考えられる。

しかし，縄文時代の石器研究の遅れから，出土した剝片石器を分類すること自体危険性を伴うものと思われる。また，事実，当遺跡出土の石鏃においては，積極的にその形態及び技術から型式差を求めることはできない状態にある。もちろん石鏃という機能的に完成された石器が大幅に変化したとは考えられないし，単一文化層からの出土でないため，当遺跡の石鏃については，中期及び晩期に属する可能性が高いものとして捉えておくに留どめたい。ただ，局部磨製鏃・鍬形鏃などの出土から，当遺跡が早期から利用されていた可能性は否定できない。

このような中において，晩期の石器として現在捉えられている扁平打製石斧の多数の出土は当遺跡が晩期を主体とすると考えられる一つの要因となっており，また遺跡の立地における特異性から扁平打製石斧による作業の在り方を考える上でも注目される。というのも，当遺跡は丘陵間の小さな谷部斜面に位置し，涌水点をひかえ水はけが悪いなど，そこをベースとしたとは考えにくい点があり，そこでの扁平打製石斧の作業自体を想起させる環境にある。

まずこれらのことを考える前に，同じく大村市に存在する黒丸遺跡[(註1)]とを比較しながら検討していくことにする。黒丸遺跡は晩期のほぼ単純遺跡で，カメ棺墓や多数の扁平打製石斧を出土している大規模な遺跡である。立地的には，大村扇状地の標高２～７mの平地に営まれており，付近に集落が存在したことは疑いないだろう。

これに対し，当遺跡は先述したごとく，丘陵斜面上の標高70mに位置し，出土遺物も黒丸遺跡に比べ少量であり，遺跡自体も小規模な営みであったに違いない。黒丸遺跡をベースキャンプとするならば，当遺跡はキャンプサイト的な機能をもっていたことが考えられる。もちろん黒丸遺跡と直接的に関係をもっていたというわけではなく，この遺跡の周辺にベースとなる遺跡があり，そこからなんらかの作業のために，当地を選んだと考えられないだろうか。当遺跡と同様に小規模な晩期遺跡は，今回調査された横断道路線の中にいくつか散見することができる。これら小規模な遺跡は，いずれも山あいの狭少な地に立地し，やや大規模なものは，低地の平坦面に立地しているようである。

扁平打製石斧について見れば，その使用法は同様であったであろうが，その立地の差から対象物に変化があったものと考えられよう。黒丸遺跡の報告の中でも遺跡のまとめとして，「打製石斧の多量出土や石庖丁形石器等，遺跡の立地を考え合わせれば，そこには狩猟採集の生活から新たな経済基盤への移行姿勢がうかがえる」としているように，晩期の遺跡が石器組成上か

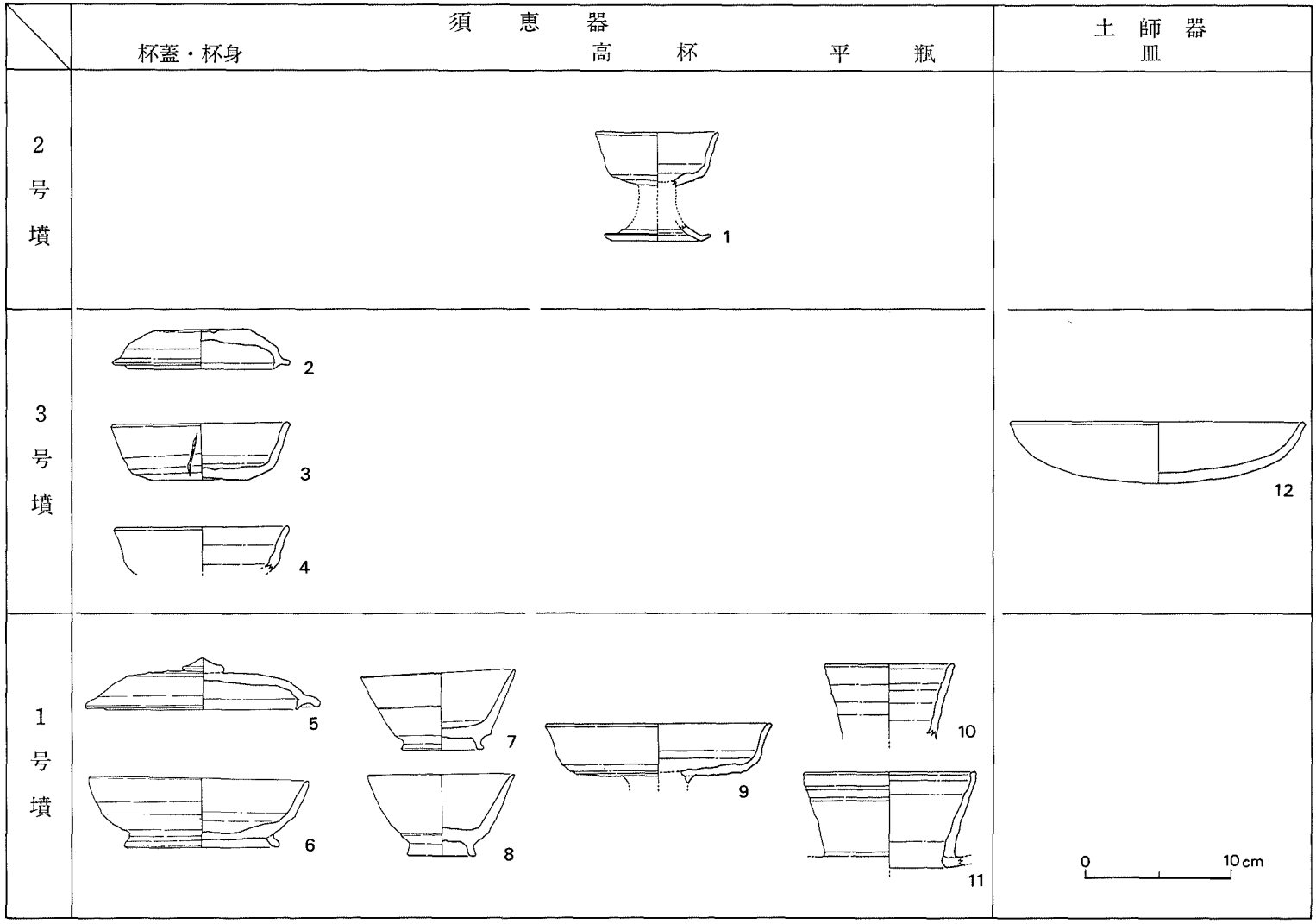



Fig.32　野田古墳出土土器分類図

らも，次の文化への準備段階を示している反面，当遺跡のようなキャンプサイトを経営し，依然，経済上の基盤が狩猟採集に依存して行かなければならなかった晩期像が小規模な遺跡中に求めることができよう。（福　田）

2．古墳出土の土器について（Fig.32）

今回調査によって，1号～3号墳の石室および周囲から出土した古墳時代の土器は71点である。そのうち形状がある程度分かり図化できたのは15点にすぎない。昭和55年報告分の3点を加えても，決して恵まれた資料とはいえないが，ここでは各古墳ごとの出土品について，その特徴などを整理し，編年的な見通しを立てたい。

①　1号墳出土土器（**5**～**11**）

3基の古墳出土品のなかでは形状の判る個体が多い。器種別にみると，杯蓋，有高台杯，高杯，平瓶がある。

杯蓋5は，身受けかえりを有するもので，やや扁平で中央部を突起させる宝珠状の鈕である。有高台杯は，口径13.5cmのもの（**6**）と小形品（**7**・**8**）がある。**6**は，丸みをもつ体部にふんばりをもつ高台が付く。**7**と**8**は，直線的に開く体部に高台が付く。高杯**9**は，脚部を欠失するが低脚の高坏と考えられる。平瓶は直線的に開く口縁部片である。

杯蓋**5**とセットになる有高台杯**6**および高杯**9**は，福岡県太宰府市長浦窯跡[註2]出土品に類似例がみられる。小形の有高台杯は，福岡県筑紫郡那珂川町観音山古墳群[註3]24号墳，朝倉郡三輪町仙道古墳群[註4]7号墳などにみられるが，両者とも**5**・**6**と同様な形態の坏蓋，有高台杯と共伴している。

**5**・**6**のような杯蓋，有高台杯は，小田富士雄氏編年[註5]のVIa期といわれていたもので，長浦窯跡出土品は，報告者の高橋章氏によって7世紀中葉あるいはそれよりやや下る時期に位置つけられている。

②　2号墳出土土器（**1**）

羨道部から小形高杯が出土品したにすぎない。脚中位を欠失している。

類似例は，小田氏編年のIV期のものが，福岡市堤ヶ浦古墳群[註6]5号墳，筑紫郡那珂川町観音山古墳群27号墳から出土し，IV～V期のものが，福岡市下和白塚原古墳群[註7]2号墳，VIa期のものが，福岡県田川市伊田狐塚横穴群[註8]B－1号墳から出土している。

これらのなかでは，杯部の形態が下和白塚原古墳群のものに近いと思われるが，裾端部をはね上げる特徴は異なっている。裾端部をはね上げるものはIIIb期のものによく見られる特徴であるので，古い形態を残すものであろうか。ただ，IIIb期の資料は杯部下半に平行沈線を有しており，**1**の高杯は，小田氏編年のIV期～V期に包括されるものと考えておきたい。

③　3号墳出土土器（**2**～**4**・**12**）

器種別に，須恵器杯蓋と杯身，土師器皿がある。

**2**の杯蓋は，身受けかえりをもつが，天井部に鈕は無い。1号墳の杯蓋**5**に比べると，口径12.2cmと小さい。また天井部は平坦で，体部との境界は明瞭である。**3**の杯身は，底部と体部の境界付近が丸みをもち，体部が直線的にのびるものである。口径は12.3cmを測り，杯蓋**2**よりやや大きいが，**2**と同形態の蓋がセットになると考えられる。**2**は丸底の土師器皿で，外面には丹塗りを施している。

これらに類似する資料として福岡県春日市門田遺跡2号住居跡(註9)一括出土土器をあげることができる。宝珠状鈕の杯蓋と有高台坏のセットは無く，杯蓋・杯身・土師器皿のいずれも3号墳出土品と酷似している資料である。報告では，小田氏編年のV期に比定され，7世紀前半の年代に位置づけられている。

しかし，V期の杯蓋・杯身については，福岡県田川郡大任町狐塚古墳群(註10)では，杯蓋はa類とb類に区別され，大形の方であるa類でも最大部径11cm，それとセットになる杯身は口径10.5cmである。したがって，V期の杯蓋・杯身は，門田2号住居跡一括品のものに比較し，小形であり，門田遺跡資料はV期よりも後出することが考えられる。

④　まとめ

以上，1～3号墳出土器群の特徴と様相について見てきた。それをまとめると，1号墳出土品は長浦窯跡出土品に対比され，7世紀中葉あるいはそれよりやや下る時期に比定される。2号墳出土品はIV～V期に包括される資料。3号墳出土品は門田2号住居跡出土品に対比され，V期よりも後出する資料ということになる。3号墳出土品は1号墳出土品より古相の様相をもつことが推察されるところから，2号墳出土品（7世紀前半）→3号墳出土品（7世紀中頃）→1号墳出土品（7世紀中葉よりやや下る時期）という編年的位置づけができよう。

また，各古墳の出土品をみると，出土土器での型式差がほとんどないことがあげられる。したがって，当古墳群は，長期にわたる追葬は行われず，比較的短期間のうちに，小規模で家族墓的な古墳が次々と築造されていたことが考えられる。　（宮　崎）

## 3．古墳の様相について

当古墳群を概括してみると，おおよそ次のようなことがいえる。

ひとつは，石室のプランがほぼ方形をなすということである。その際，玄室の規模を規定する基準とされるのは，奥壁と西側壁である。この両壁の腰石の長さで玄室の広さが決定され，東側壁が貧弱な印象を受けるのはそのせいであろう。どの古墳も石室西側部分の構築が優先されているのは，斜面という立地条件の下，石室の強度を考慮に入れてのことかもしれない。2号墳だけは奥壁部の腰石が2枚で，他に比べ巨石を用いずに構築されている。また，作りも非常に丁寧で，全体に小じんまりとまとまっている。1・3号墳の大ざっぱな構築とは少々趣を異にするが，これは時期差としてとらえておきたい。出土遺物から判断して，2号墳が当古墳群の中では古く比定され，時期が新しくなるに従って粗雑化の傾向をたどるものと思われる。

石室の構造上でいうと，天井部が持ち送り状をなすのもひとつの特徴であろう。3号墳では推定だが，1・2号墳は積石の遺存状況から持ち送り状の天井部であったことがうかがえる。完存する古墳が数少ない大村市内にあっては，貴重な資料の一つといえるだろう。

弥生時代以来，古墳時代前半まで，石棺墓主体の墓制が根強い大村地区は，横穴式古墳への移行後は不明な部分が多いのが現状である。なかでも，後期～終末期古墳の実態は，遺跡や調査等資料不足から，これまであまり究明されていなかった。今回の調査の結果，当古墳群の北西丘陵上に立地する八龍古墳(註11)も同様の石室構造を持つなど，共通項を確認するに至り，もっと幅広い視野で古墳群を把握しなければならないことを痛感した。今後，資料の増加を待って郡川周辺域の古墳群の探求，ひいては古墳文化の解明に検討を加えていくことにしたいと思っている。（本　田）

## 4．おわりに

今回の調査によって，従来知られていた古墳に加えて新たに2基の古墳が検出された。3基の古墳は，7世紀前葉から後葉にかけて継起的に築造された小規模な単室の横穴式石室墳である。3基とも，谷の北側丘陵縁辺に立地し，谷に向かって開口しており，構造・構築法に多くの共通点が認められるところから，被葬者は親縁的な関係にあったことが推測され，一つの単位としての小規模な群集墳ととらえることができる。本県本土部においては，大規模な群集墳を形成することがなく，大古墳群を生み出しえない経済的基盤の弱さをうかがえるが，野田古墳においても同様の状況をみることができる。

また，各古墳ごとの出土品は，型式差・時期差をもたず一括性の強いことが指摘できる。したがって，築造の順位についても出土土器の変遷と同様に考えてよいと思われる。すなわち，2号墳→3号墳→1号墳の順に丘陵傾斜面下方から築造されていったことが考えられる。下から築造された理由の一つとして，2号墳直下に安山岩の転礫が集中している場所があり，そこから古墳の石材に適したものを選んで調達したことが考えられないだろうか。そうすると，古墳は石材供給地から次第に遠方へ築造されていったことになる。

谷部においては，旧石器時代～縄文時代の遺物包含層が確認された。大村田遺跡の範囲に包括されることも考えられるが，遺物の組成，立地の上からみると，谷頭の湧水点に営まれたキャンプサイトであったことが考えられる。

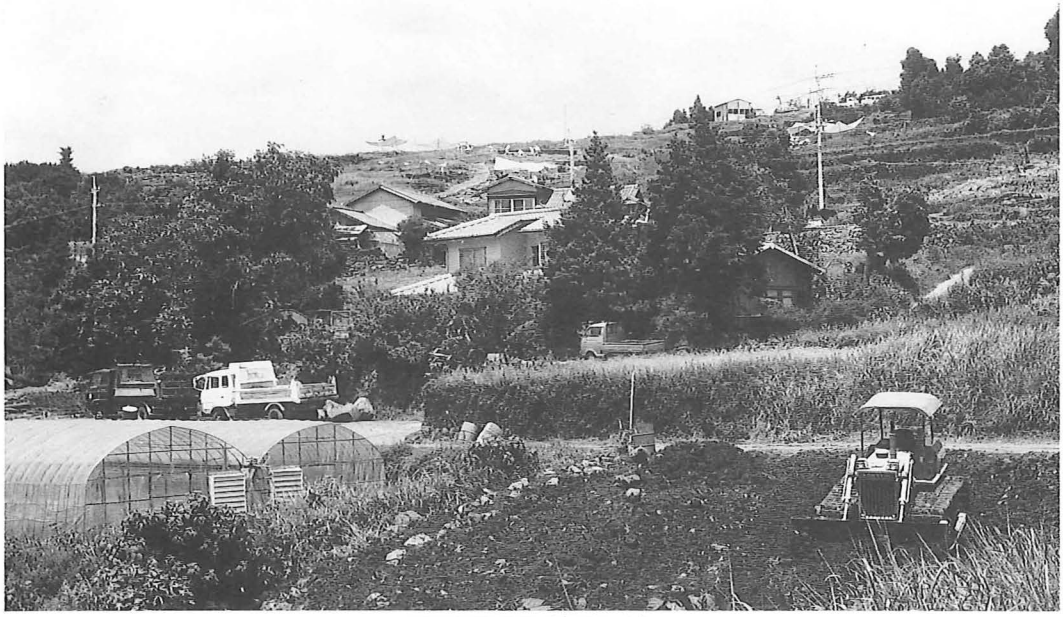
最後になったが，多くの方々の助力によって事故もなく無事に発掘が終了し，ここに野田古墳の報告書をまとめることができた。末筆ながら記して感謝の意を表します。（宮　崎）

註１　稲富裕和編『黒丸遺跡』大村市黒丸遺跡調査会　1980
２　亀井明徳・高橋章「向佐野・長浦窯の調査」『九州縦貫自動車関係埋蔵文化財調査報告VI』福岡教育委員会　1975
３　柳田康雄編『山陽新幹線関係埋蔵調査報告第５集』　福岡教育委員会　1978
４　石山勲編『仙道古墳群』福岡県文化財調査報告書第78集　福岡教育委員会　1987
５　小田富士雄他『八女古窯跡群調査報告Ⅰ～Ⅳ』八女教育委員会　1969～1972
６　吉留秀敏編『堤ヶ浦古墳群発掘調査報告書』　福岡市埋蔵文化財調査報告書第151集　福岡市教育委員会　1987
７　山崎純男・山口譲治『下和白塚原古墳群』　福岡市埋蔵文化財調査報告書第55集　福岡市教育委員会　1980
８　柳田康雄編『夏吉古墳群・清瀬横穴群・伊田狐横穴群』　田川市文化財調査報告書第２集　田川市教育委員会　1983
９　井上裕弘編『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告書第３集』　福岡市教育委員会　1977
10　川述昭人「狐塚古墳群出土の須恵器について」『狐塚古墳群II』　大任町文化財調査報告書第２集　1978
11　昭和61年大村市教育委員会調査。調査担当者稲富裕和氏御教示。

# PLATES

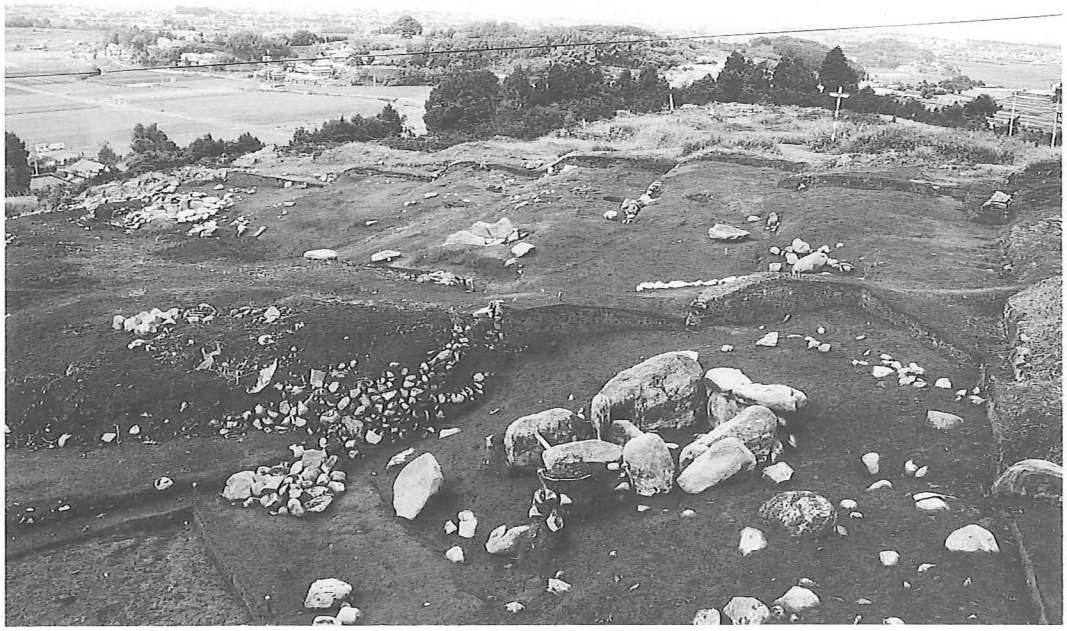
# (野 田 古 墳)

野田古墳遠景（南西から）



野田古墳近景（南西から）

調査区全景（北東から）

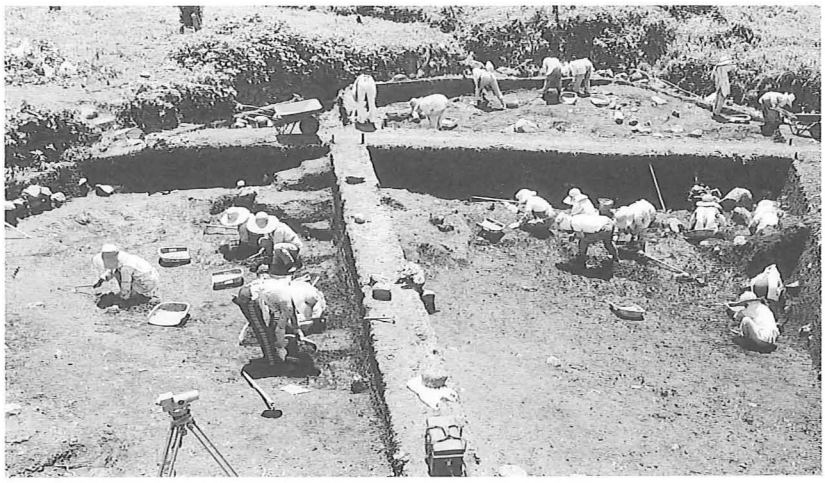


古墳群全景（東から）

調査区近景（南から）

安山岩の転石群（南東から）

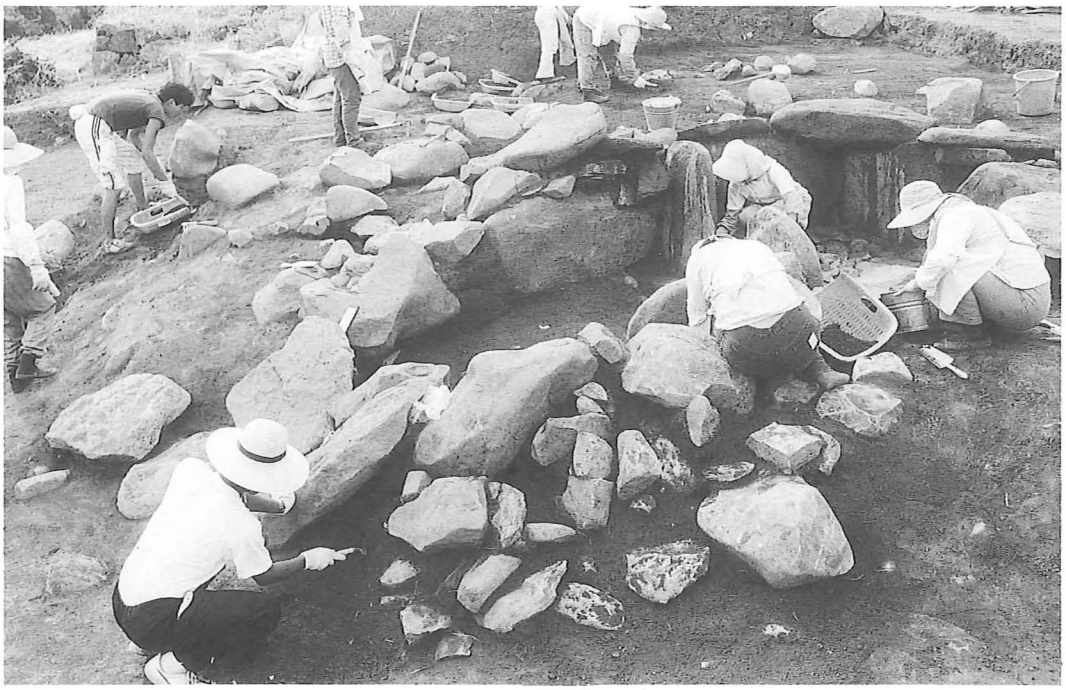
全景（東から）



Ⅲ区（南西から）

Ⅳ区付近（南から）

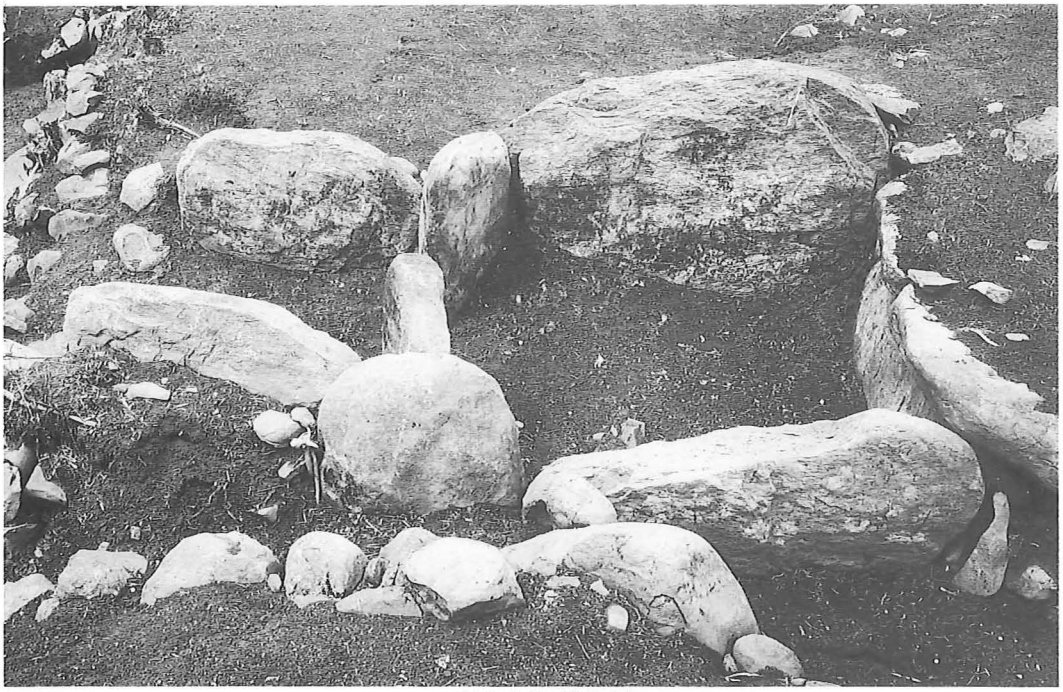
調査風景



2号墳調査風景（南から）

3号墳調査風景（南から）

1号墳調査前（南から）



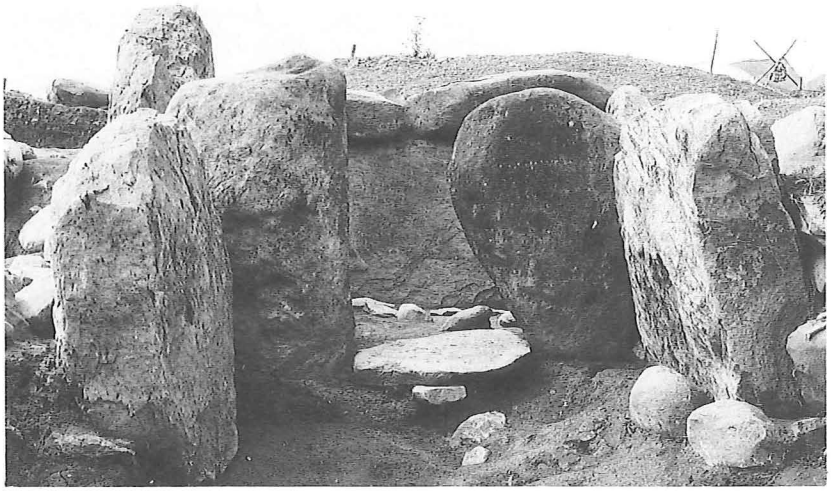
1号墳調査前（東から）

1号墳石室全景（南から）

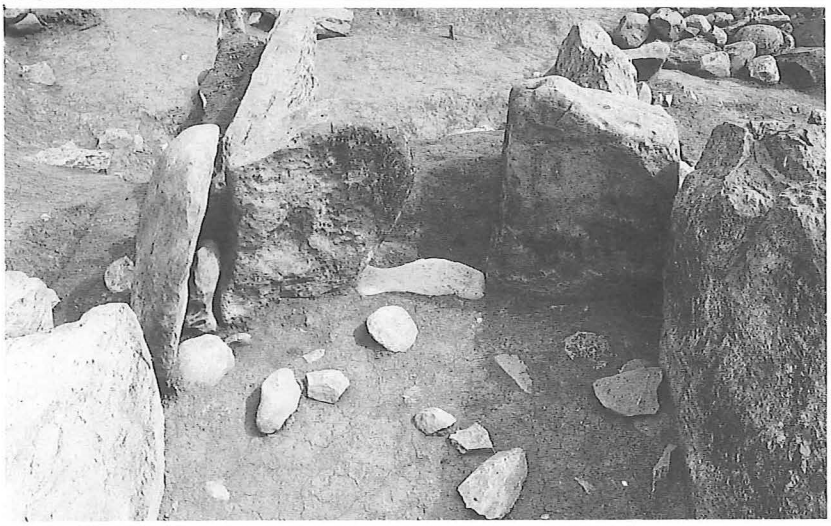
1号墳石室側面（西から）

1号墳石室側面（東から）

1号墳石室（玄室から羨道を見る）



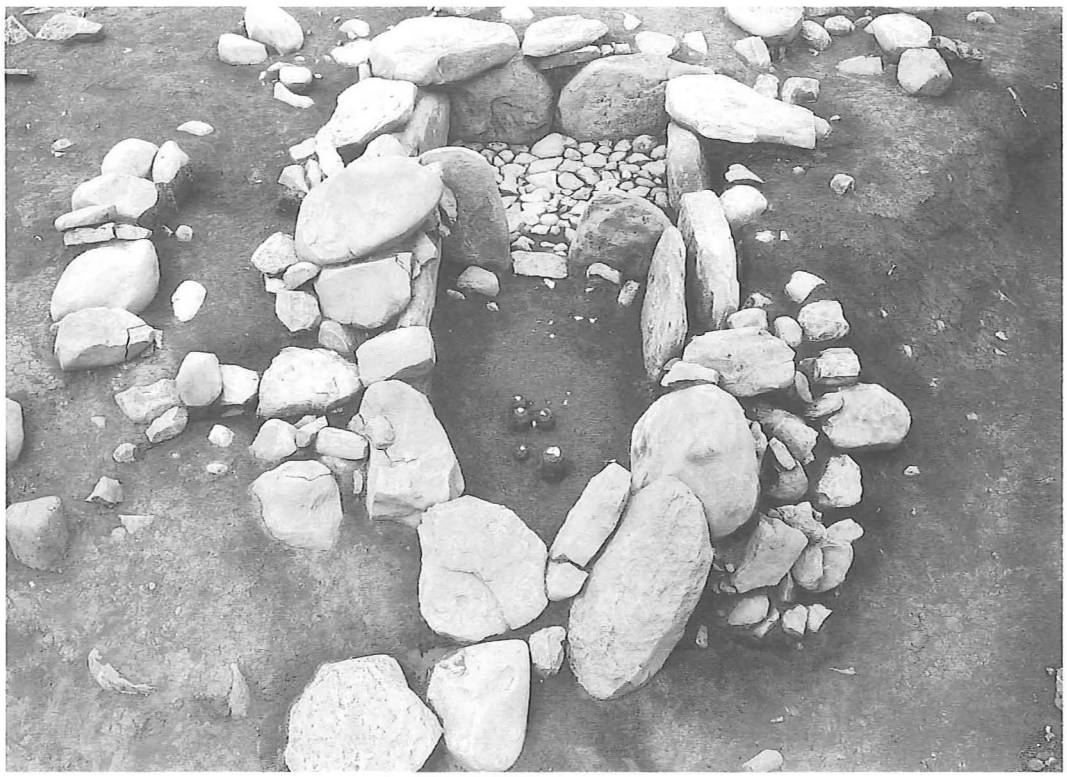
羨道部から玄室を見る



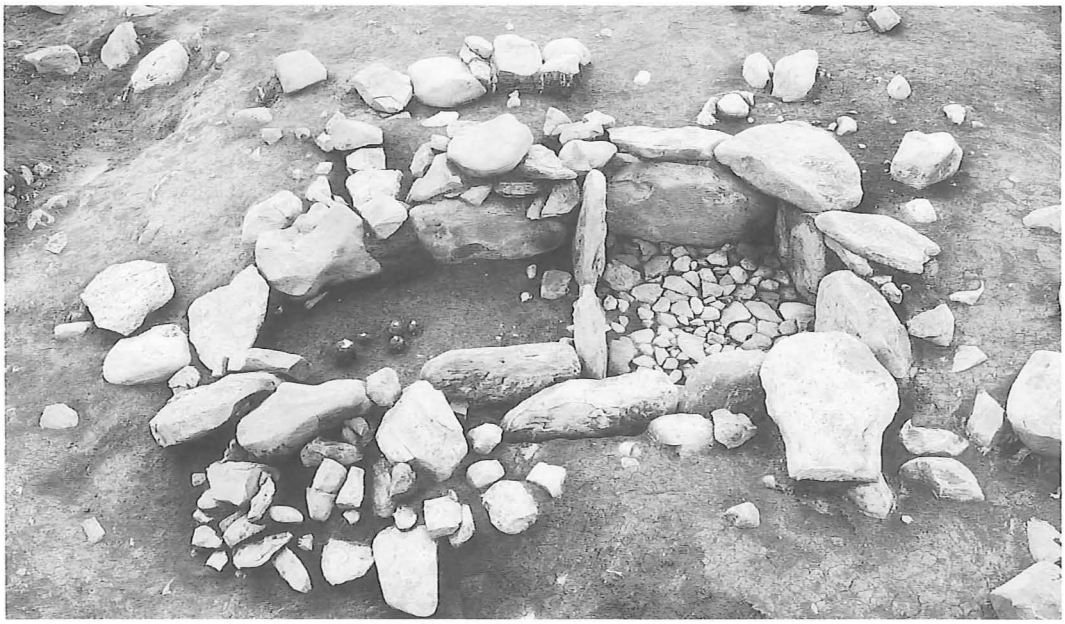
玄室から羨道部を見る

奥壁

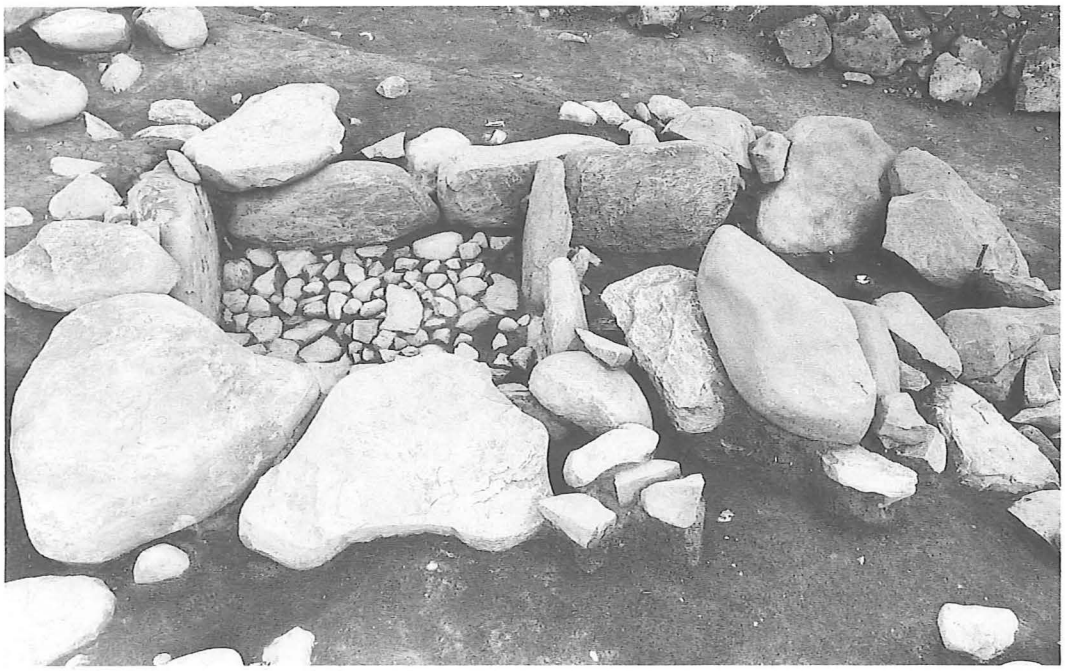
1号墳石室部分



2号墳石室全景（南から）



2号墳石室全景（東から）

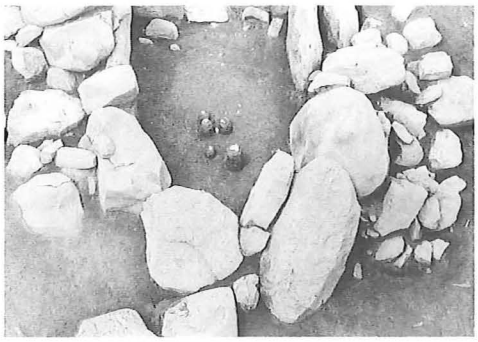


2号墳石室側面（西から）

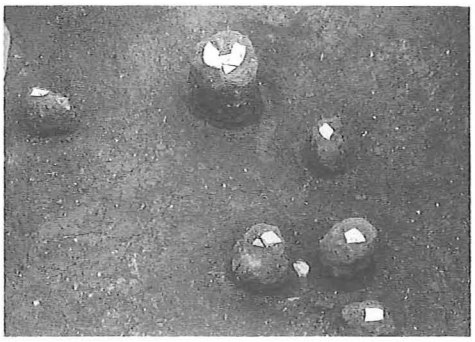
2号墳石室（背面から羨道を見る）

2号墳玄室（南から）

2号墳玄室（北から）

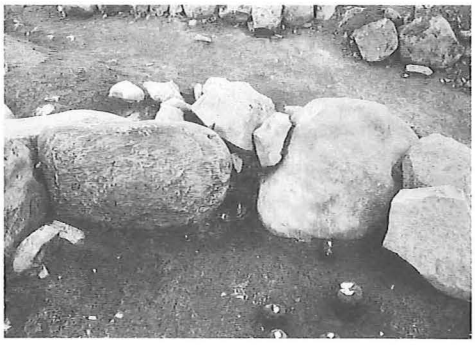


閉塞の状況（南から）



羨道遺物出土状況（南から）

羨道（東から）



羨道（西から）

玄室から羨道を見る

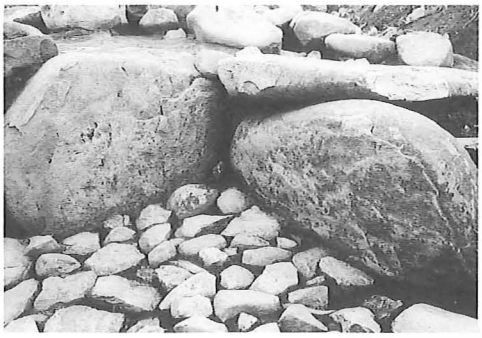
羨道から玄室を見る

背面から羨道を見る

奥壁（南から）

2号墳石室部分

玄室北西隅



玄室北東隅

玄室南東隅

玄室南西隅

玄室（西から）

玄室（東から）

羨道側壁裏側（西から）

羨道側壁裏側（東から）

2号墳石室部分

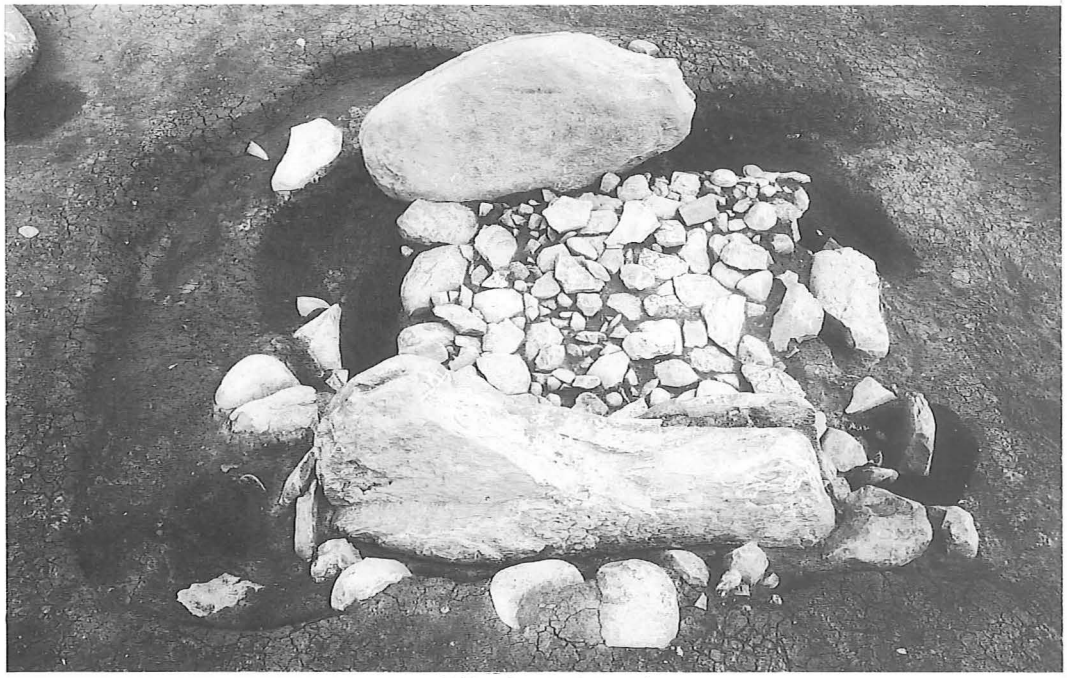
石室正面
（南から）

石室側面
（西から）

石室背面
（北から）

3号墳石室

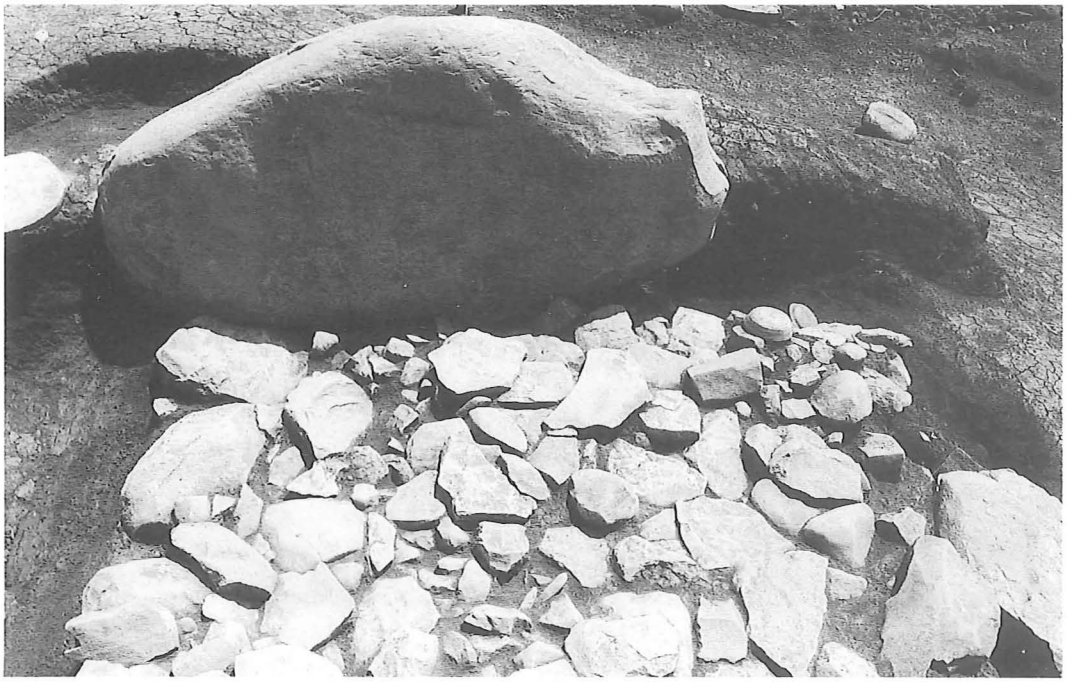
3号墳石室正面（南から）



3号墳石室側面（西から）

3号墳玄室（北から）

3号墳玄室（西から）

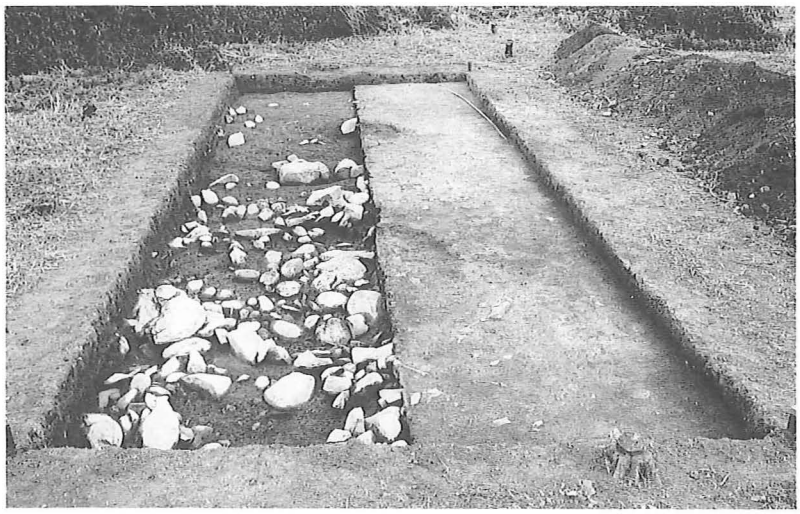


3号墳玄室側石（西から）

3号墳玄室側石（東から）

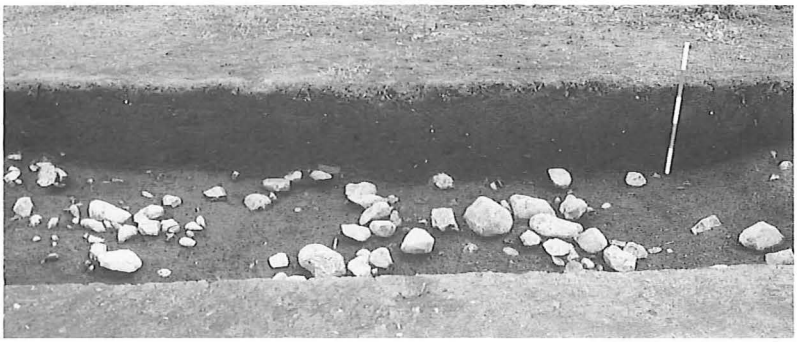
3号墳遺物出土状況（南から）

3号墳遺物出土状況（東から）



I区全景
（南から）

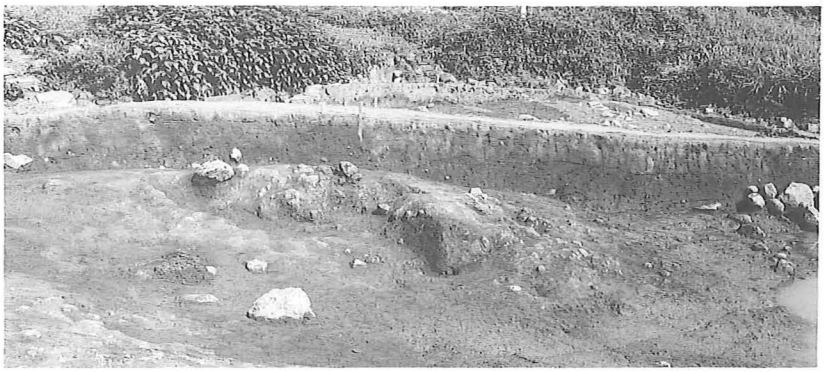
II区全景
（北から）



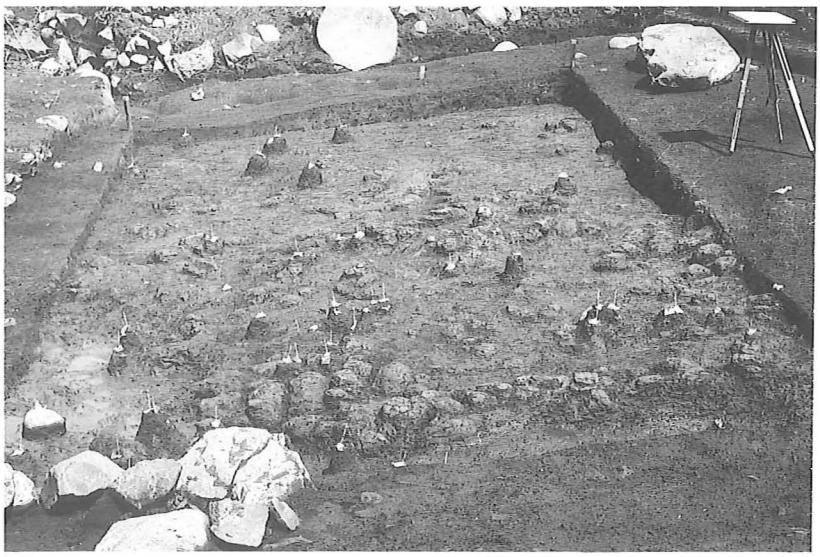
II区土層壁面
（東から）

I区全景・II区全景・土層壁面

Ⅲ区全景
（南から）

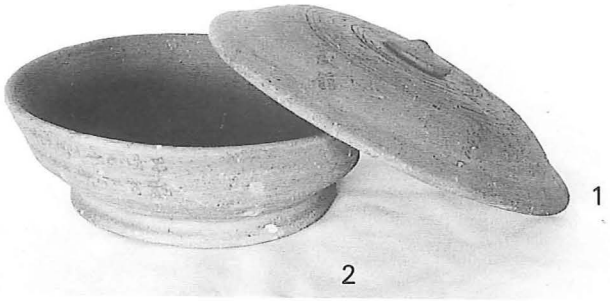


Ⅲ区土層壁面
（北西から）

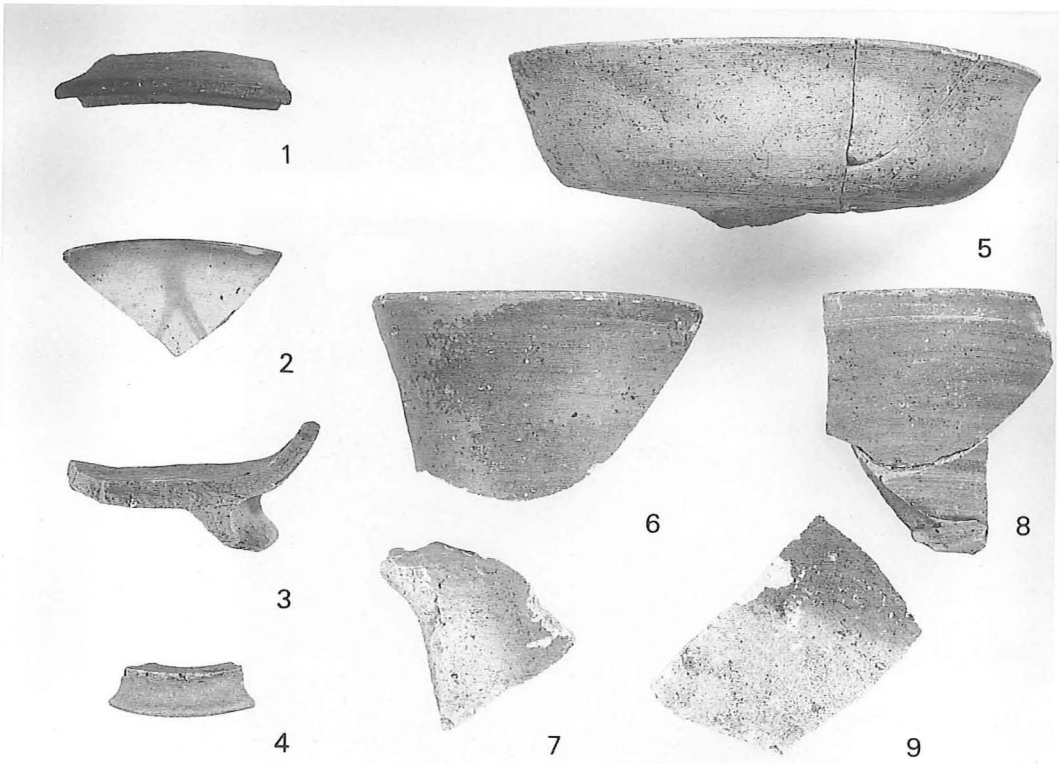


Ⅳ区全景
（北から）

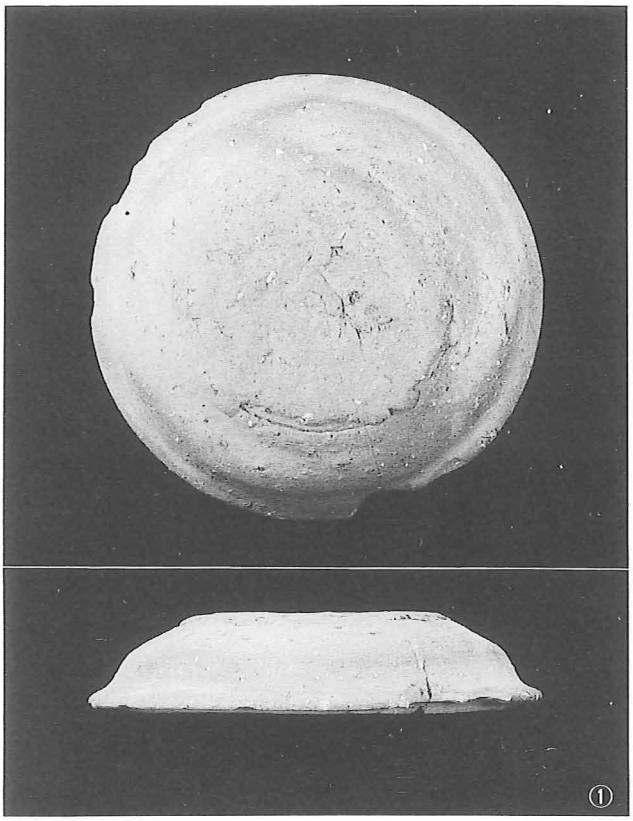
Ⅲ区全景・土層壁面・Ⅳ区全景

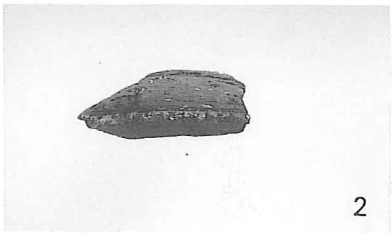


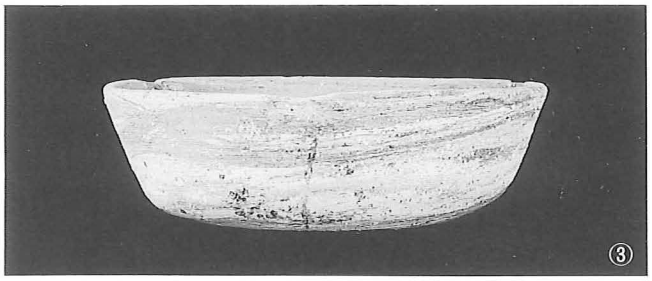
1～4
昭和55年報告分土器

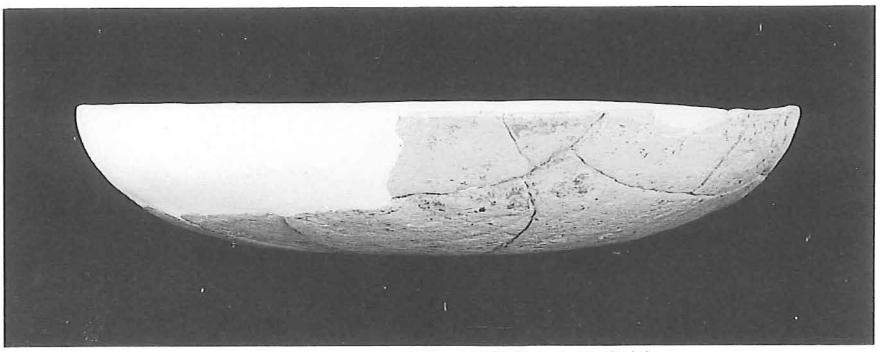



1号墳出土土器（1/2）

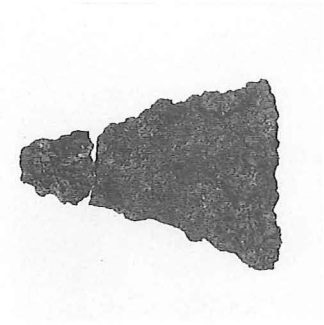


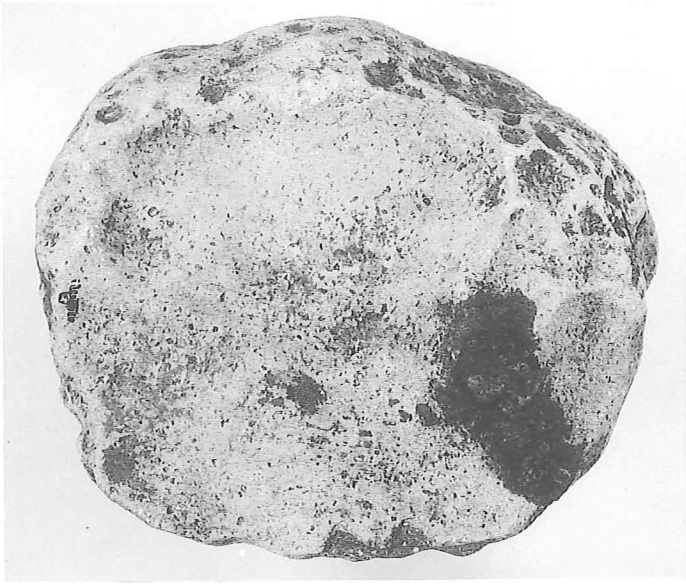


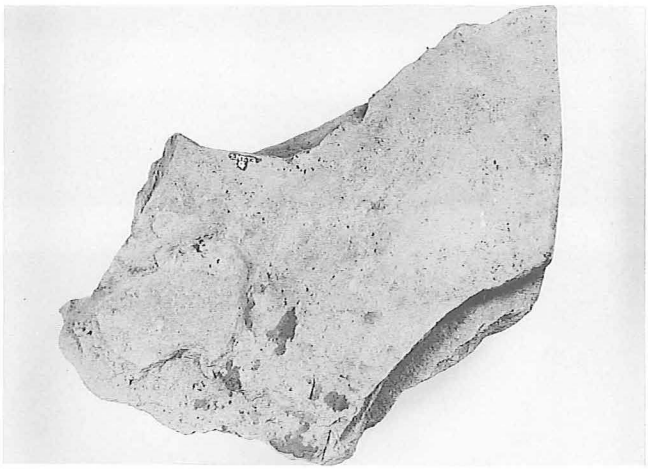

2号墳・3号墳出土土器（1/2）



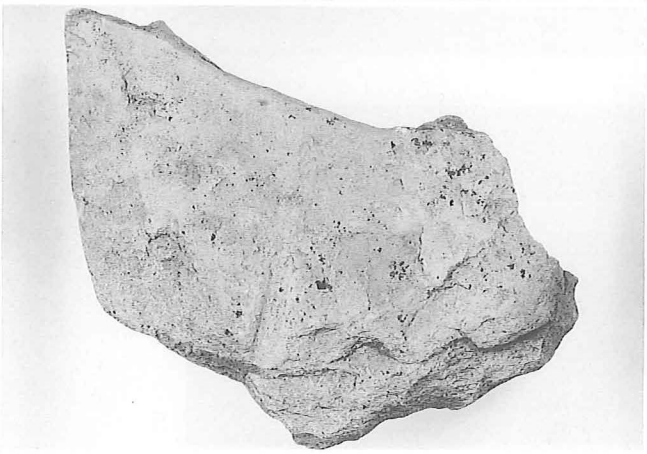
1号墳出鉄器（1/2）



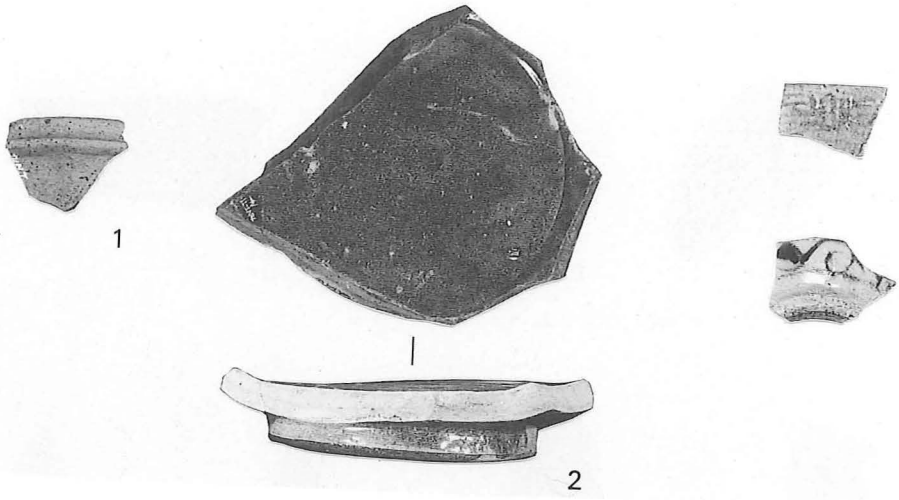
鉄器付着敷石（1/2）



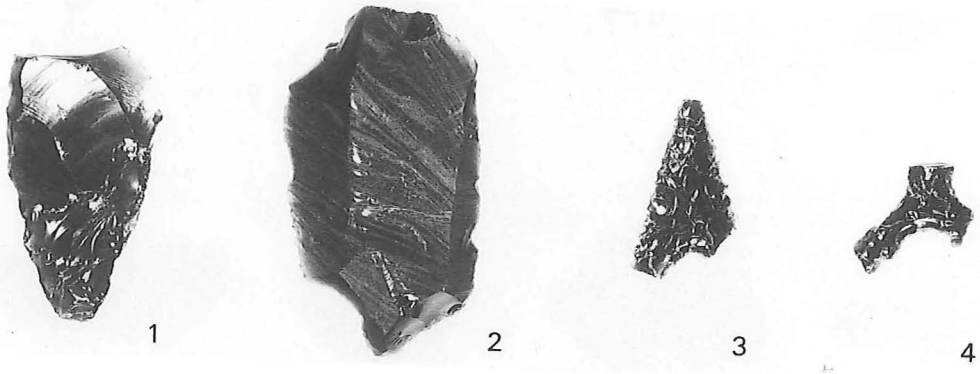
3号墳出土砥石（1/3）



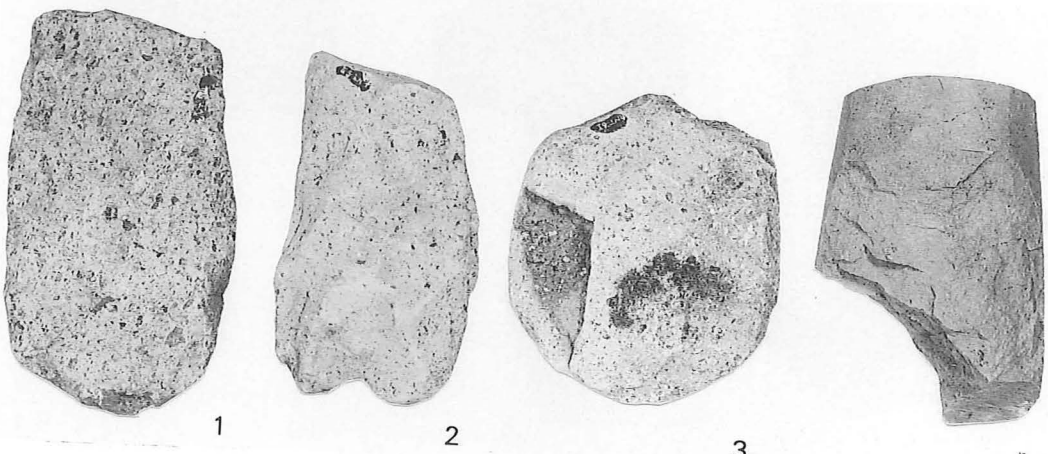
1号墳・3号墳出土鉄器・石器




(1/2)




(1/1)

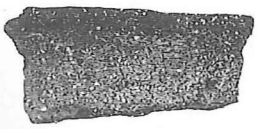



丘陵部その他の遺物

(1/2)

1

Ⅰ区出土石器(1/1)



1

Ⅱ区出土土器(1/2)

1

2

3

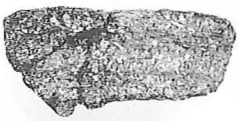
4

Ⅱ区出土石器 (1/1)

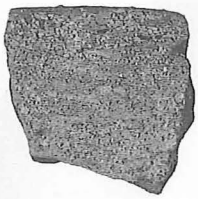
1

4

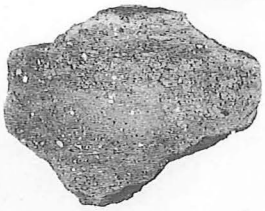
2



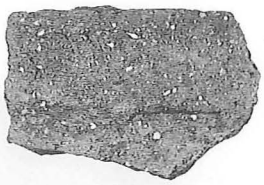
3



5



6

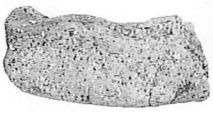


7

8

9

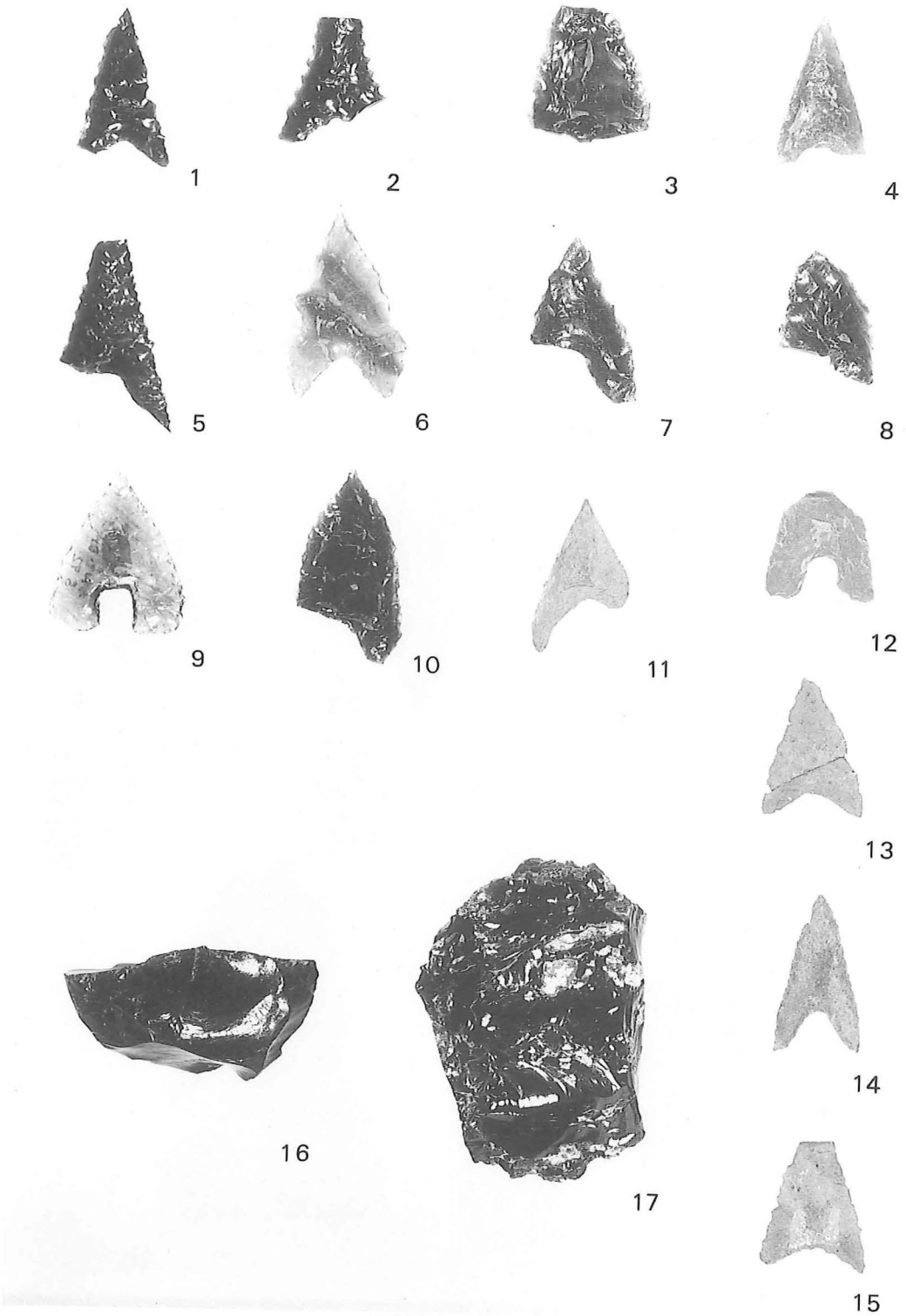
10



11

Ⅰ～Ⅲ区出土遺物

Ⅲ区出土土器 (1/2)




III区出土石器①（1/1）

18

19

20

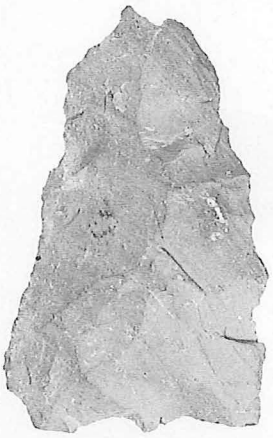
21

22

23

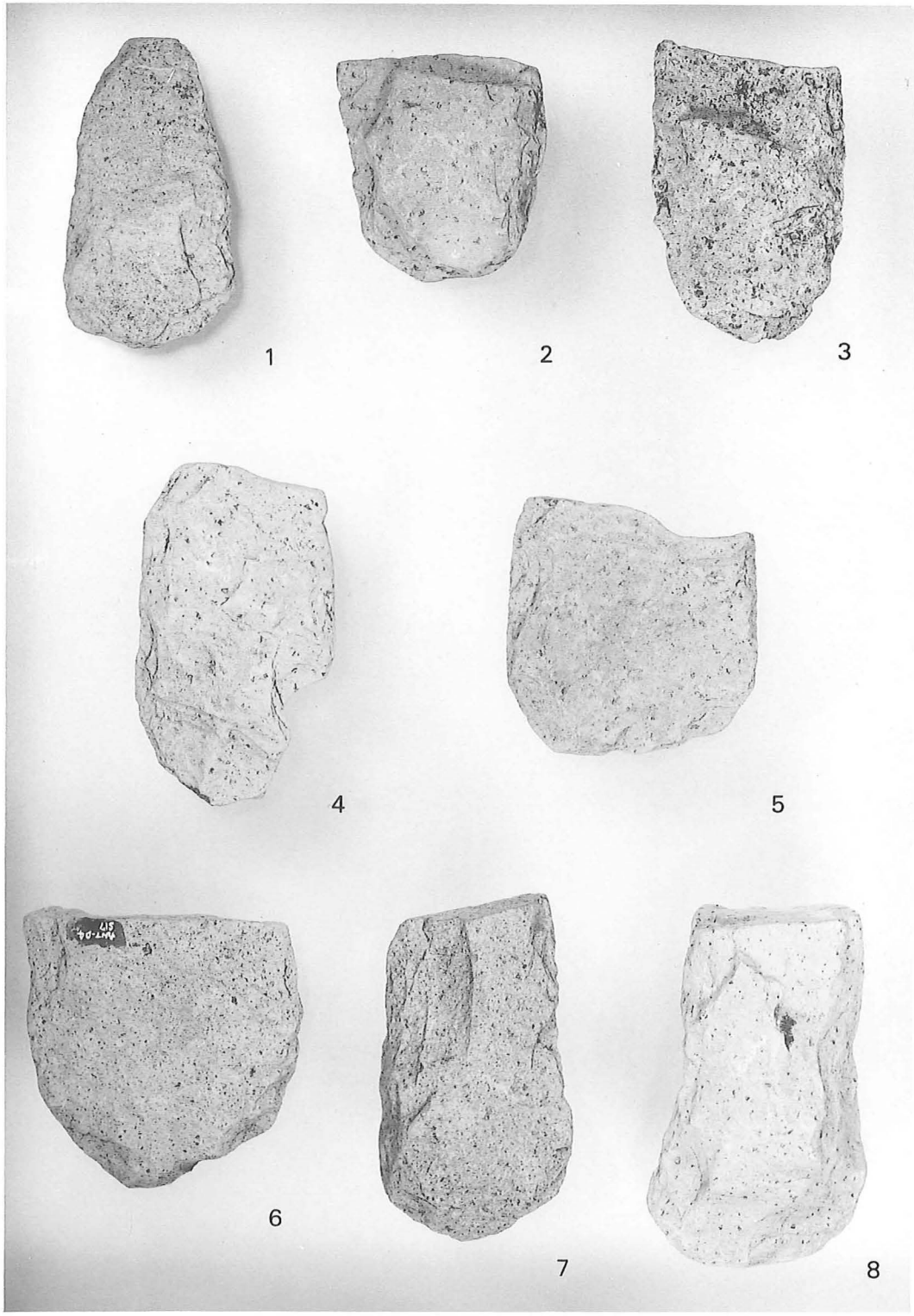
24

25

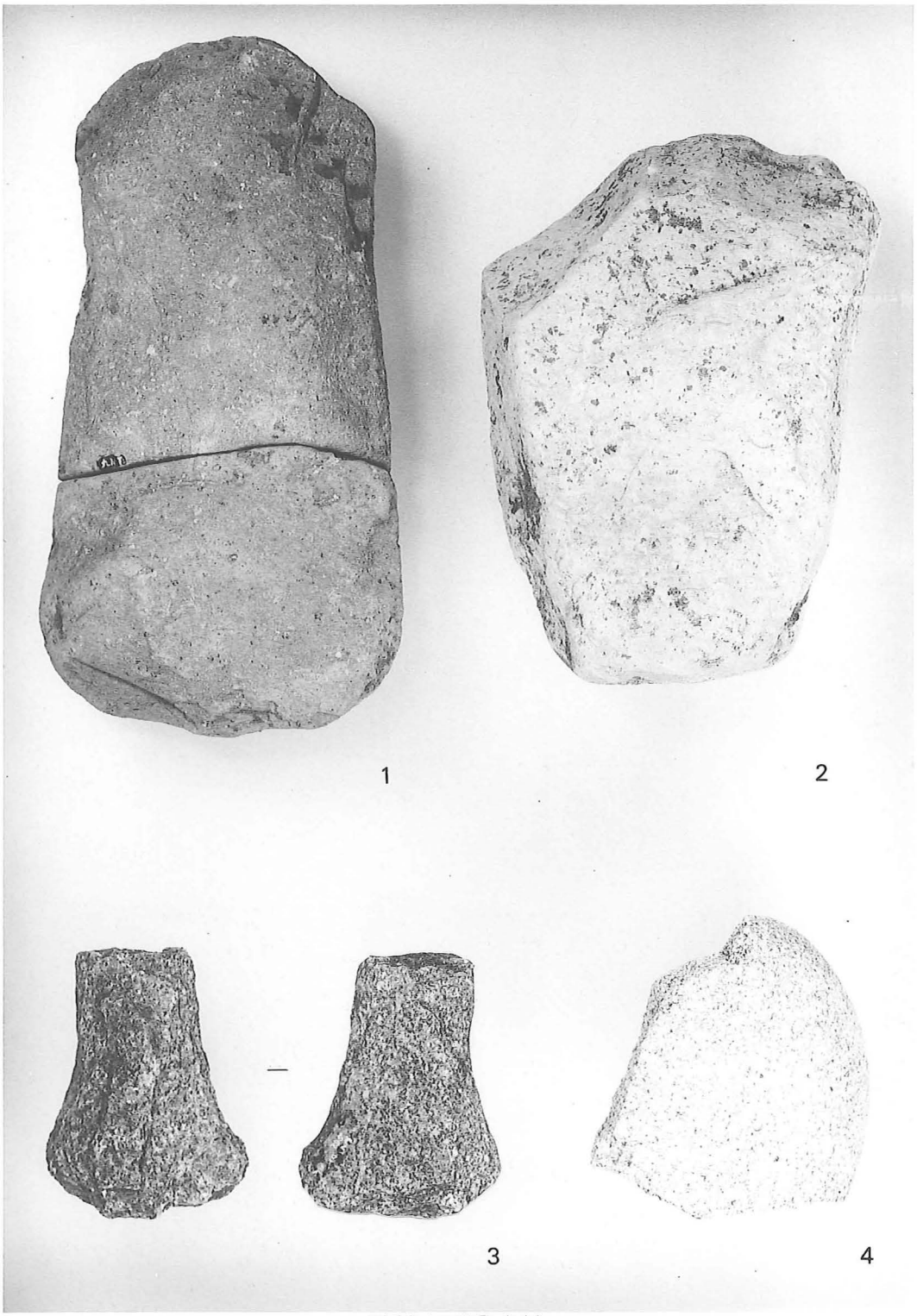


26

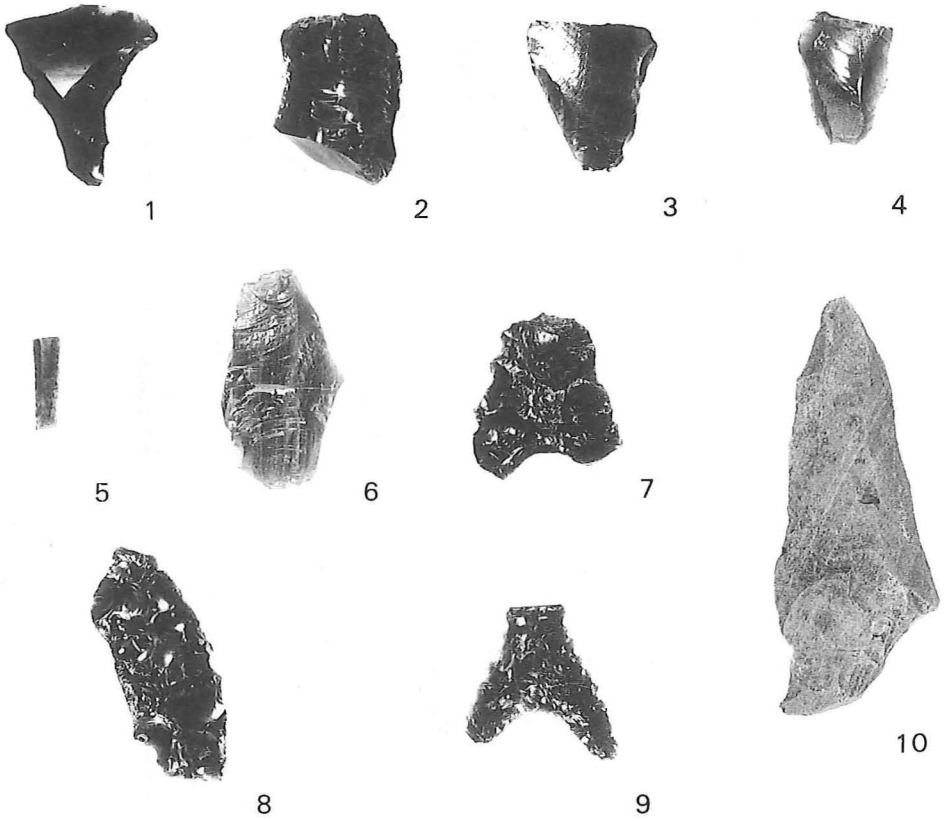
III区出土石器②（1/1）

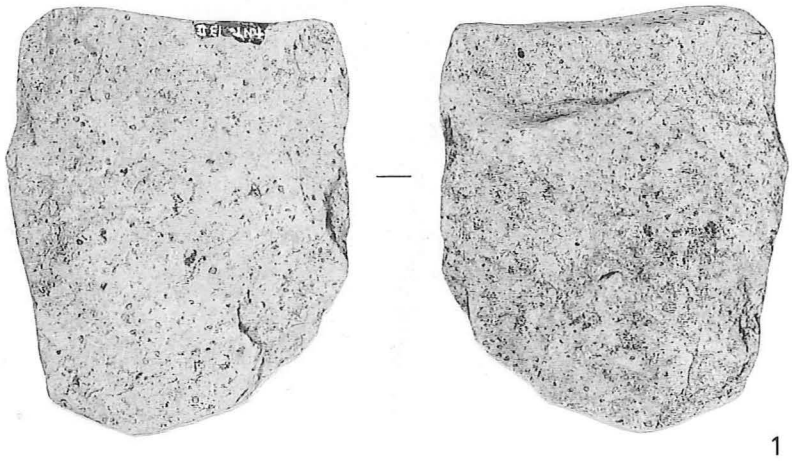



III区出土石器③（1/2）




III区出土石器④（1/2）




IV区出土石器（1/1・1/2）

# 東光寺遺跡

# 本文目次

Ⅰ　調　査 ……113
　1．地理的位置 ……113
　2．調査の概要 ……114
　3．土層 ……114
Ⅱ　出土遺物 ……114
　1．遺物 ……114
　2．土器 ……114
　3．石器 ……117
Ⅲ　総　括 ……119

# 挿図目次

Fig.1　遺跡の位置図 ……113
Fig.2　調査配置図 ……115
Fig.3　土層図 ……116
Fig.4　縄文土器実測図 ……118
Fig.5　出土石器① ……120
Fig.6　出土石器② ……121
Fig.7　出土石器③ ……122
Fig.8　出土石器④ ……123
Fig.9　出土石器⑤ ……124

# 図版目次

PL.1　遺跡遠景・調査風景 ……127
PL.2　Ｇ－２５区北壁東壁土層 ……128
PL.3　Ｌ－１３区北壁東壁土層 ……129
PL.4　遺物出土状況・調査終了 ……130
PL.5　出土土器（２／３） ……131
PL.6　石器①（１／１） ……132
PL.7　石器②（１／１） ……133
PL.8　石器③（１／２） ……134

# Ⅰ　調査

## 1．地理的位置（Fig.1）

遺跡は、大村市松原１丁目に所在する。県道大村－嬉野線が分断し大村湾を一望する標高120～126mの傾斜丘陵に地位置する。周辺には室町時代七山として栄えた廃寺が点在するがすぐ下方には東光寺遺跡が大村市指定史跡として残されている。　（安楽）

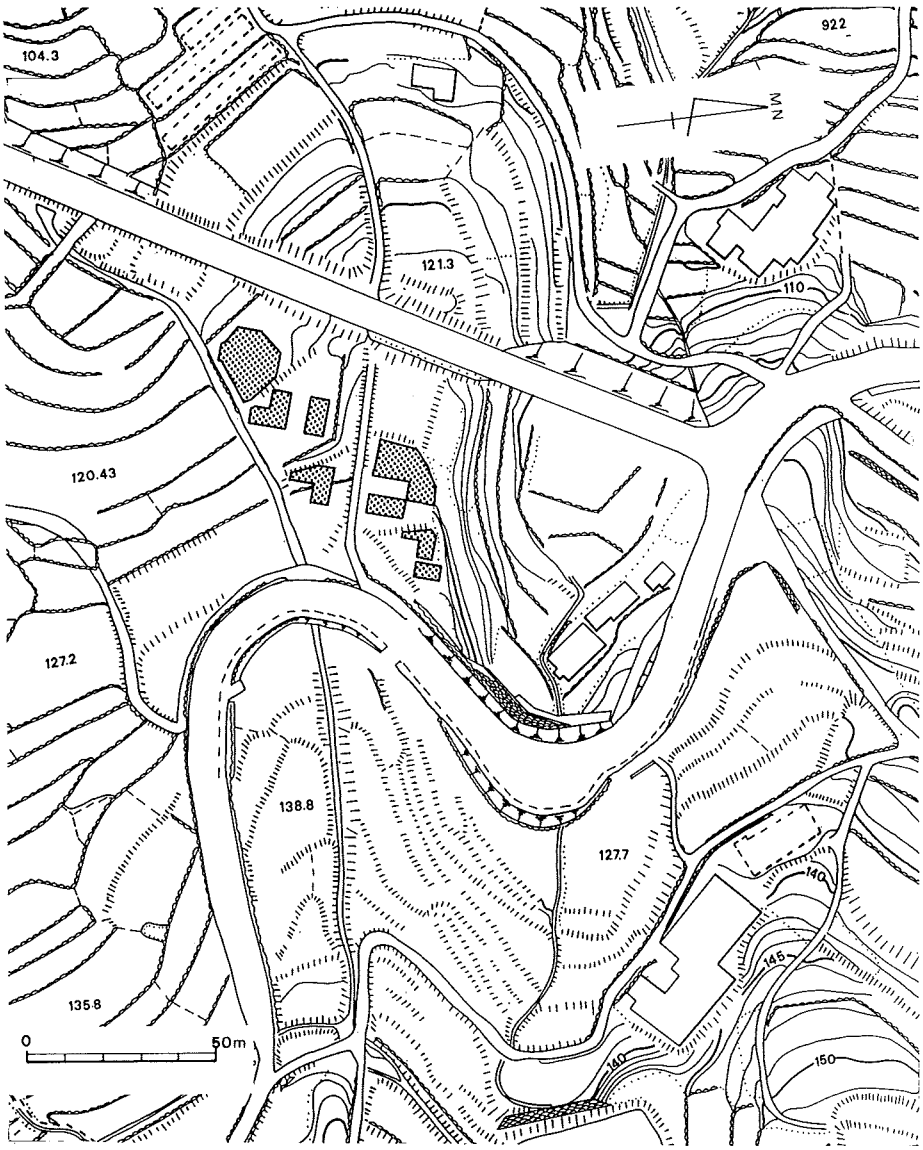



Fig.1　遺跡の位置図（1/2,000）

2．調査の概要（Fig.2）

昭和60年10月28日～12月７日の間に、遺跡の対象面積2,500㎡の内750㎡を調査実施した。調査区は畑、水田、ミカン畑などが耕作されており地表面はすべて平坦化され、自然地形は残されていない。工事路線大村市四ノ郷地区の中心杭（STA45 ＋95.084）を起点として５×５m区画のグリッドを設定、南北を1.2.3…、東西をA.B.C…の記号を付した。

発掘は標高126mの畑から行ったが随所に切り盛りが見られ良好な包含状態を認められなかった。遺物が包蔵された地点は台地の縁辺部に限られ、縄文時代早期、中期、晩期の土器や石器が得られた。また、H･I･J･K･Lの標高120mのミカン畑でも土器や石器の出土があった。

（町田）

3．土層（Fig.3、PL.2,3）

調査概要でふれたように、台地縁辺にわずかに縄文時代の遺物を包蔵する地区が認められた程度で、撹乱が遺跡全体に及んでいた。

G－2、L-12区が土層の堆積状況をあらわしており、これらを記述するにとどめる。

１層：表土層

２層：撹乱層（赤色、紫色の安山岩風化礫混入）

３層：茶褐色粘質土層（縄文時代の包含層）

４層：赤褐色粘度質層（風化礫を含む）

５層：礫の岩盤

以上が遺跡の土層状況であった。（町田）

# II　出土遺物

1．遺物

遺物出土総点数は、8,796点その内、剥片類及び石器を含めて7,481点、土器、陶磁器類が1,315点の出土があった。

時期的には、縄文時代の遺物が多くを占めている。また中・近世の陶磁器等の遺物は小片が出土するに留まり本報告では中・近世の遺物は省略する。（町田）

2．土器（Fig.4，PL.5）

土器の出土は遺物包含層が極めて悪いこともあり、小破片まで含めて総数200点余りに留まっている。わずかな出土のなかでも、時期的には、早期、中期、晩期の３時期に区別できる。

**早期の土器**（１～３）

**1** は無文土器の胴部、やや下部がすぼまる形状を呈している。外面は赤褐色、内面は黄土色焼成は甘く、全体的に脆い。**2** は底部に近い部分で、尖底状を呈すると思われ、厚みを増している。外面は茶褐色、内面は黒色、胎土には白い砂粒や粗い粒子を含み焼成甘く脆い。**3** は２

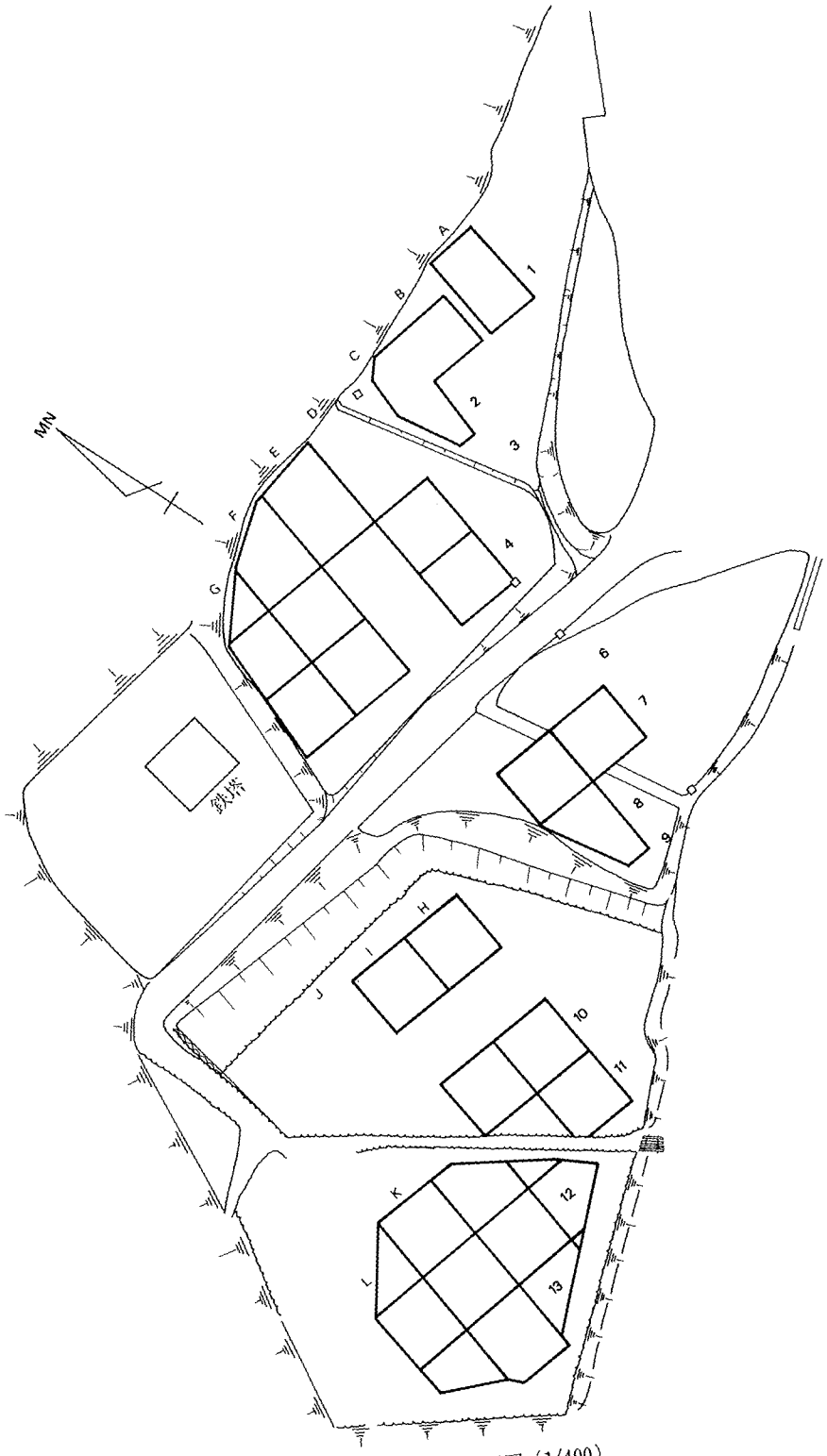



Fig.2　調査配置図（1/400）

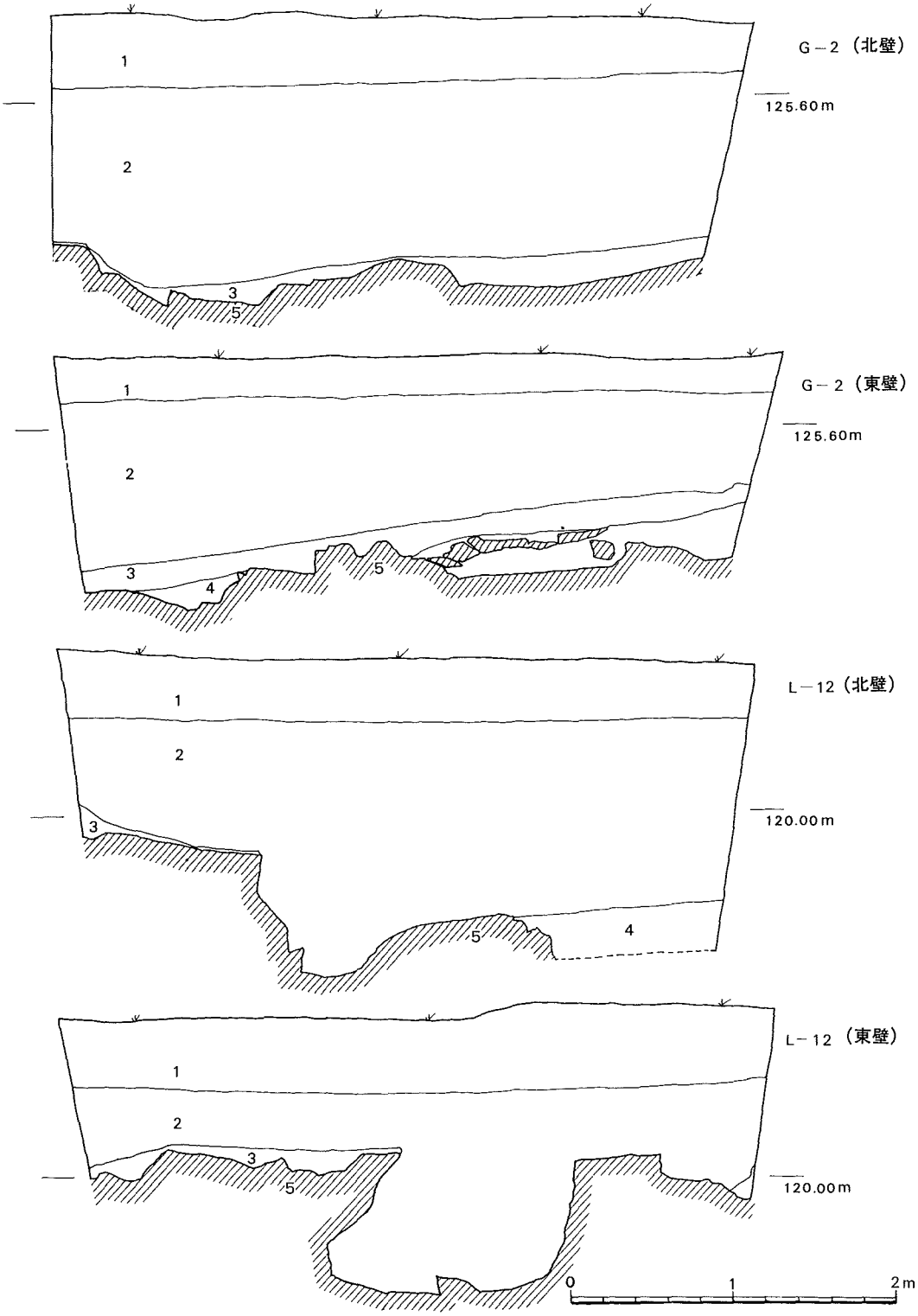

G－2（北壁）
125.60m
1
2
3
5
G－2（東壁）
125.60m
1
2
3
4
5
L－12（北壁）
120.00m
1
2
3
4
5
L－12（東壁）
120.00m
1
2
3
5
0
1
2m

Fig.3　土層図（1/40）

と同様尖底に近い部分と考えられ、焼成、胎土も類似している。この３点の土器は無文土器であるが、胎土、焼成、風化の状況から考えると、押型文土器に伴うものであろう。

**中期の土器**（４～６）

**4**は無文で器壁薄く胎土には滑石を若干含み、よくしまっている。内外ともに暗褐色を呈し焼成は良好。この土器は器壁の薄いことなどを考えると、前期の土器という感じをもつ。**5**は口縁部である。やや外に開きかげんで、胎土には粗目の滑石を多く含み、胎土はよくしまっている。内外面とも茶褐色を呈する。**6**は滑石を多く含むが、色調は内外とも黄土色、やや焼成甘い。底部に近く、接合部ではずれている。滑石を含む土器は小破片も含めて数点出土しているが、文様を有するものはない。阿高式系統の土器であろう。

**晩期の土器**（７～21）

**7**は浅鉢口縁部で風化しており器壁がザラザラしているが、黒色磨研の土器である。頸部から口縁部は低く立ち上がり端部は尖り気味に丸くおさめられている。**8**・**9**は口縁部、ともに端部は丸くおさめられ、外面には条痕を有している。**8**は器壁やや厚く暗茶褐色を呈しているが、**9**は黄褐色、胎土には雲母片を含み、焼成良好。**13**～**18**は、胴部片である。胎土、焼成とも**10**～**12**の土器と同様である。**18**だけが、浅い沈線が一条認められる。**19**～**21**は底部、**19**は立ち上がり部が欠け、特徴が見られないが、わずかに上げ底気味である。外面は赤褐色を呈し、非常に脆い。**20**は小破片で特徴がないが、立ち上がりがくびれず、真直ぐおりている。**21**は立ち上がり部がくびれ、胴部にかけてふくらむのが推察される。内面には条痕様のものが数条施されている。底はやや上げ底気味で胎土、焼成とも良好。

東光寺遺跡では晩期の土器が数の上では多くを占める。晩期の位置については、特徴的な破片が少ないので判断しかねるが、**7**の浅い鉢を見る限りにおいては後葉の時期におかれると考えられる。（安楽）

３．石器（Fig.5～9、PL.6～8）

報告にあげた石器は55点ある。器種別では、石鏃、スクレイパー、石斧、石核、タタキ石、砥石等がそれぞれ出土している。

**石鏃**（１～26）

**1**～**6**の石鏃は表裏ともに、細部調整されているものである。**7**～**12**は局部磨製石鏃。**13**～**15**は先端部が鈍角で、剝離も荒い。**16**は出土石鏃の中で、もっとも小型のものである。**23**は剝片利用の石鏃。**18**～**22**と**24**～**26**の遺物は欠損品である。

**スクレイパー**（27～38）

**27**は両面ともに細部に渡る加工調整行う。**28**は正面の加工ほどこすが、裏面には上部と下部に一部整形を加えるのみである。**29**縁辺に細部調整をおこない、刃部刃こぼれ痕を残す。**30**は正面左側自然面を残し、他は正裏ともに調整加工おこなう。**31**は正面右側に、こまかなリタッチを認める。下部欠損する。**32**はラウンドスクレイパーにあたるもので、中央に向かって、正

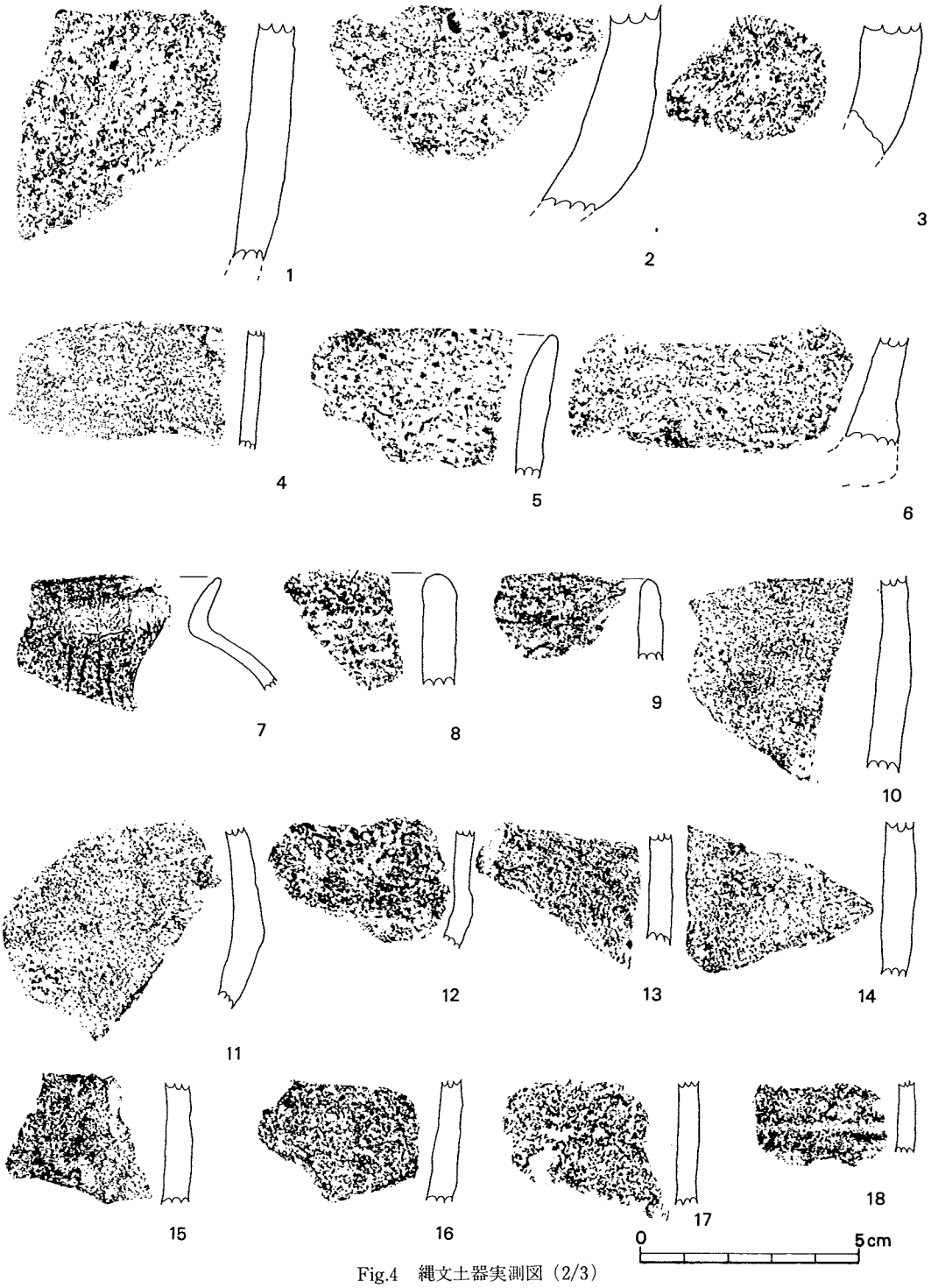



Fig.4　縄文土器実測図（2/3）

裏ともに剥離整形をほどこす。**33**灰緑色をした黒曜石を素材にした断面カマボコ状をなす。**34**下部自然面残す。細部調整を正面右側縁及び上部に行う。裏面上部に剥離をほどこすが、主要剥離面残す。**35**正面右側縁にツマミ状の突起を作出し、左側縁にも同様なものがあったと思われるが、**38**乳白色をした黒曜石を素材にし、上部にツマミを持つ。正裏側縁より調整する。

尖頭器状石器（39・40）

**39**は正面上部小さな調整をほどこし、下部は一部自然面を残す。**40**正裏ともに大きな剥離痕を残し、裏面左右側縁に整形を加える。

**大型のスクレイパー**（41・42）

**41**は掻器である。正面右側縁に二次調整行う。**42**ラウンドスクレイパーの大型で、周辺より加工ほどこし、裏面主要剥離面おおきく残す。また、かなりの厚みを持つ。

**磨製石斧**（43）

刃部を鋭く磨きだしている。刃の部分残し欠損する。

**石核**（44～50・52）

**44**上部のみ剥離おこない、他は自然面残す。**45**残核を利用してスクレイパーに転用したと考えられる。**46**上部剥離の後、裏面の自然面不要のため廃棄されたものであろう。**47**多方面より剥離された残核である。**48**裏面と側縁上部より加撃剥離されるが、正面自然面におく。**49**上面自然面残しそのまま上部より下部に向かって加撃する。上面、裏面自然面残す。４面の剥離痕を持ち黒色を呈する玄武岩質の素材である。

**ブレード**（51）

ハリ質安山岩の素材を使用する。

**スリ石・磨石・砥石**（53～55）

**53**スリ石、正面中央部が使用され滑らかになる。**54**磨石、安山岩製。**55**砥石、５面を使用し、中央に使用による凹みがある。（町田）

## III　総括

遺跡は近年土地基盤の改良が行われており、主に遺構、遺物等を包蔵する層が削平されていた。

ただ、台地縁辺に縄文時代の遺物包含層が若干残っていたものの、遺構等を検出するまでには至らなかった。遺物では、縄文早期から晩期にかけての土器片、石器が出土した。（町田）

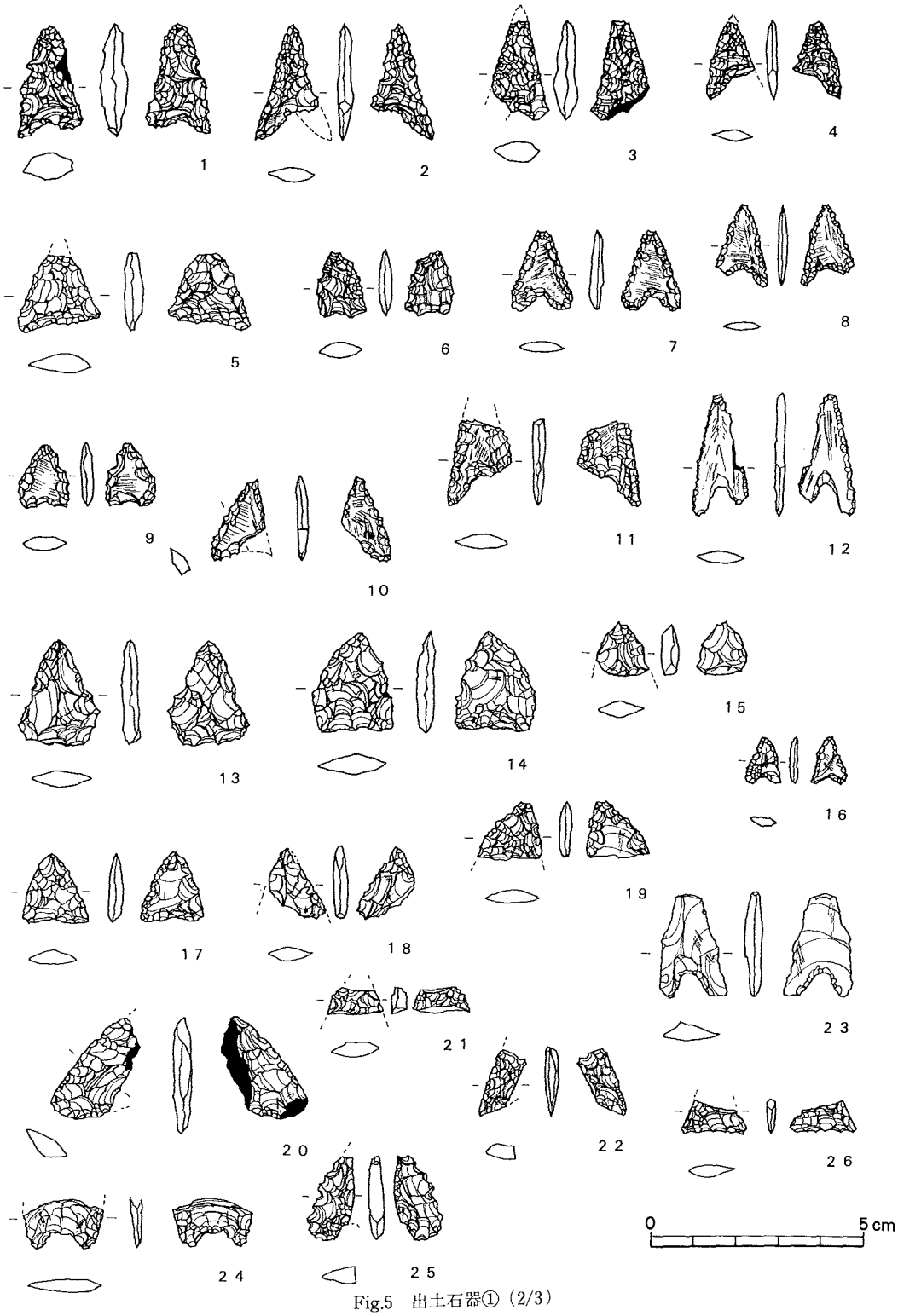



Fig.5　出土石器①（2/3）

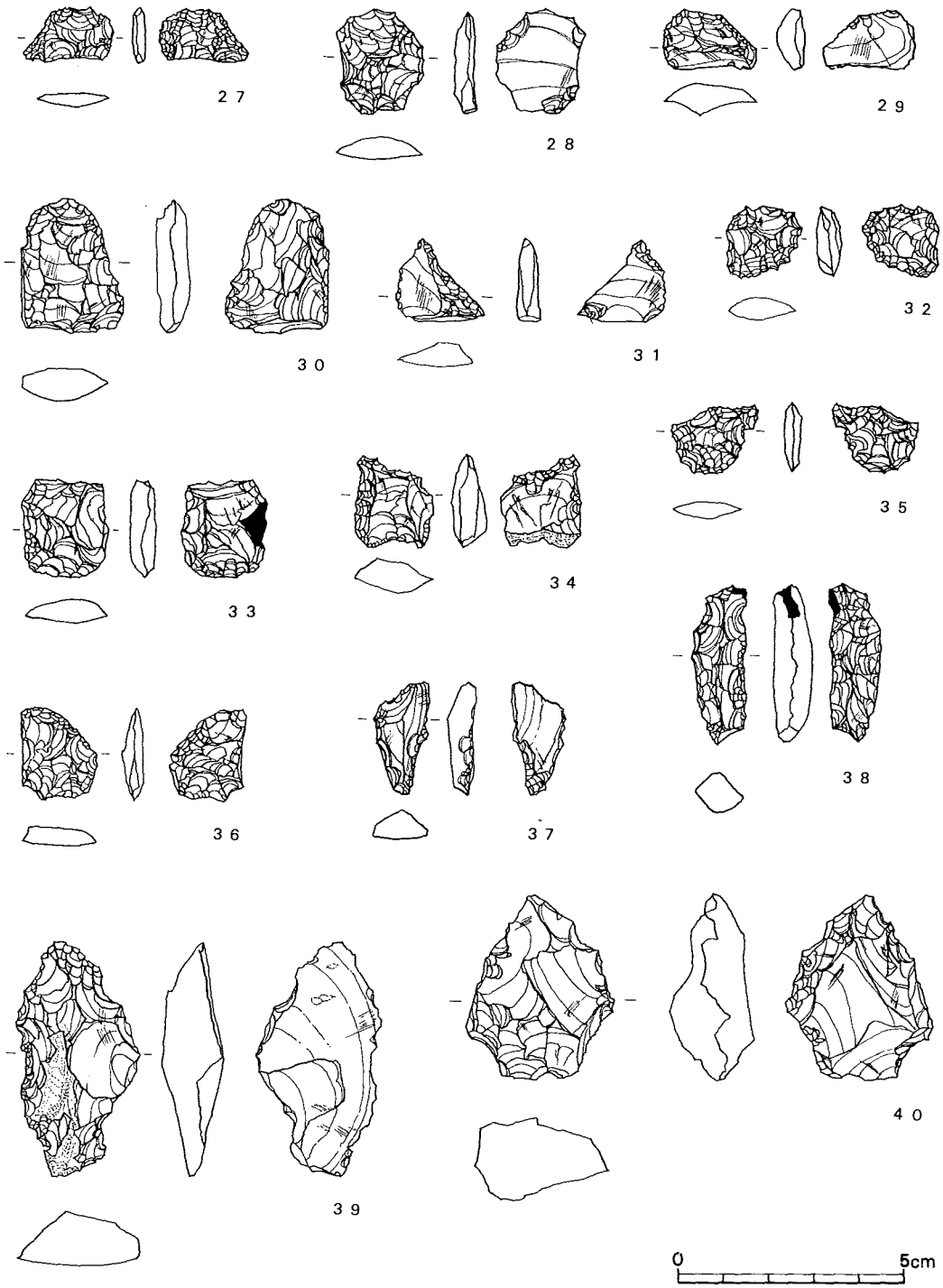



Fig.6　出土石器②（2/3）

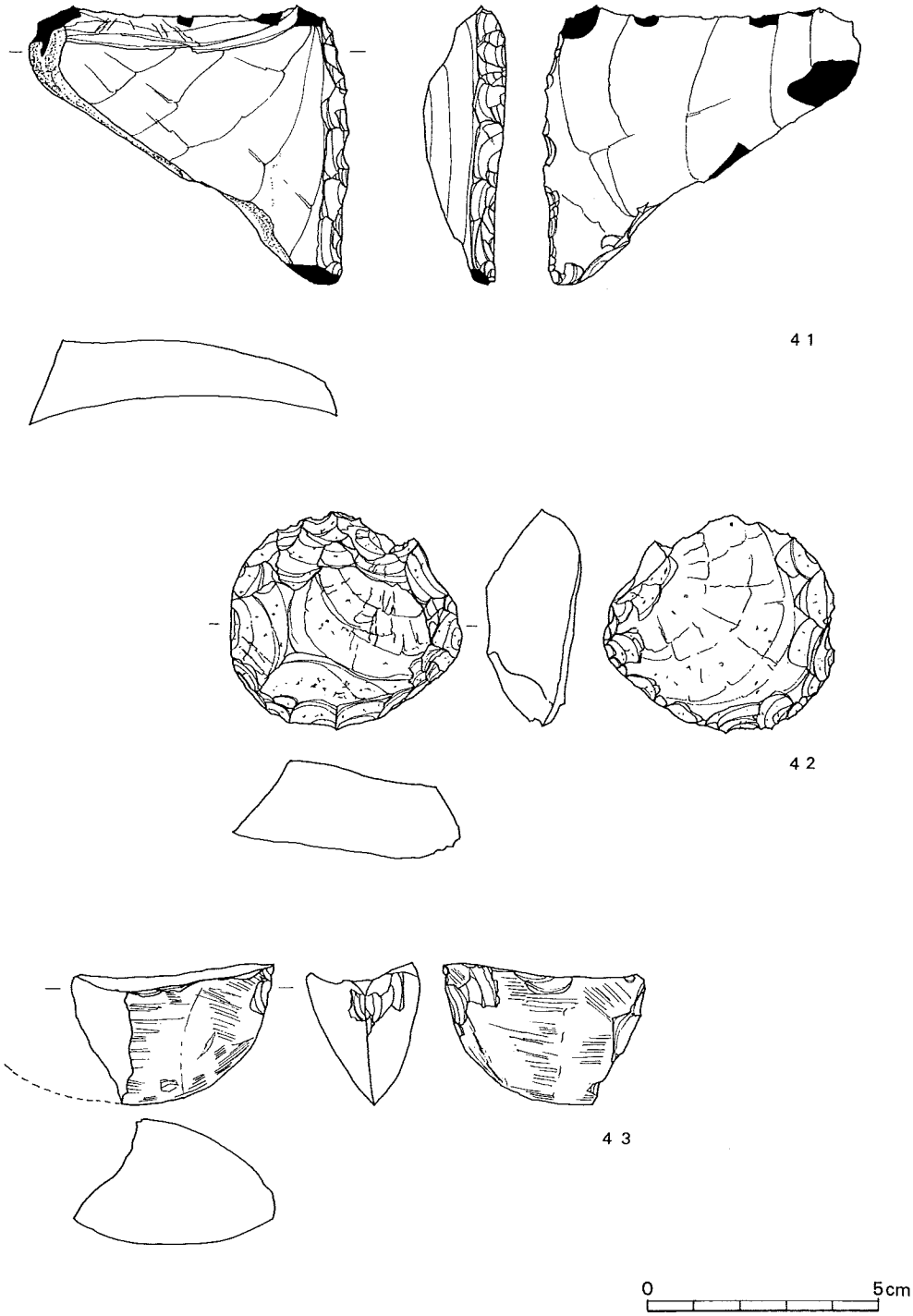



Fig.7　出土石器③（2/3）

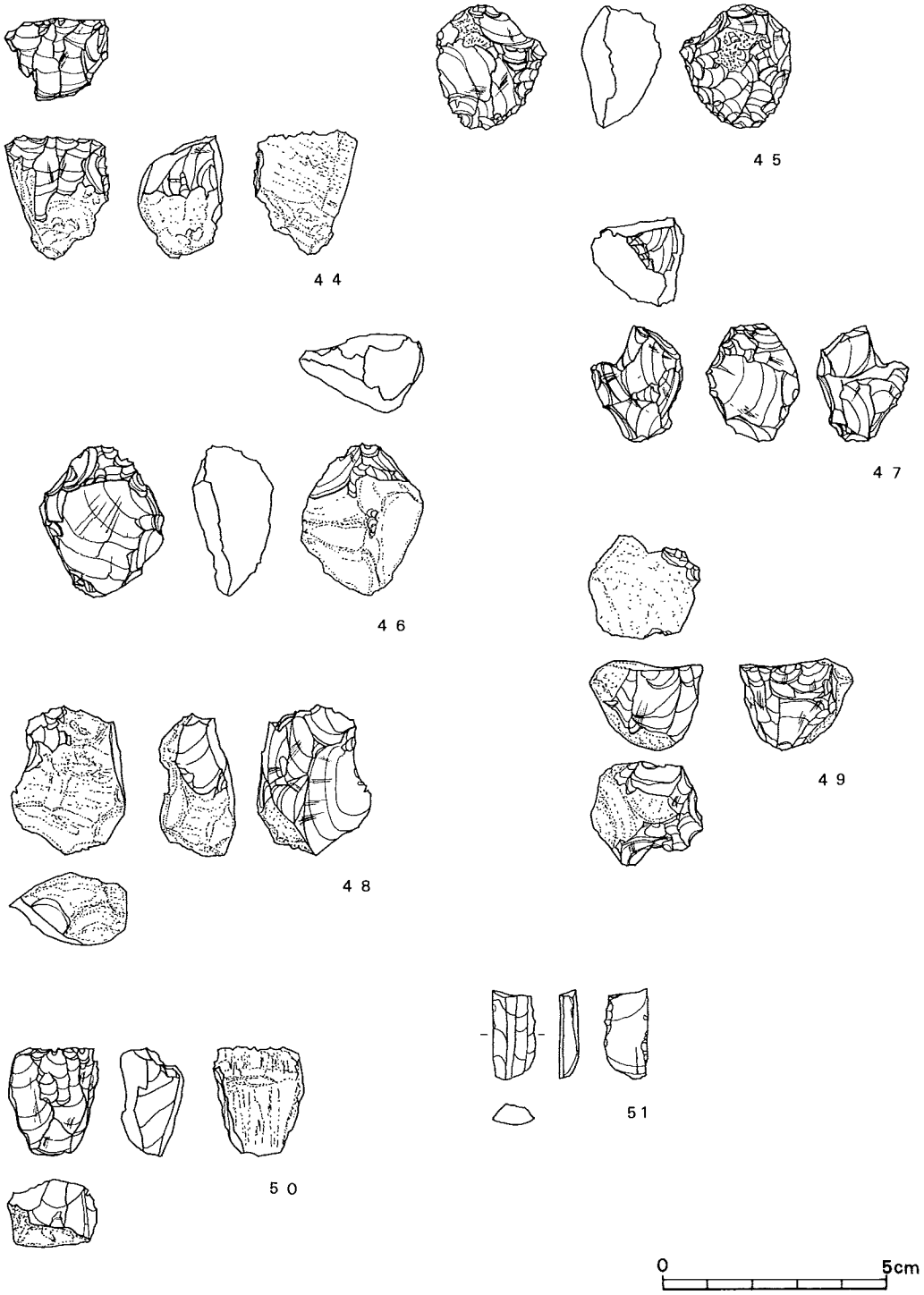
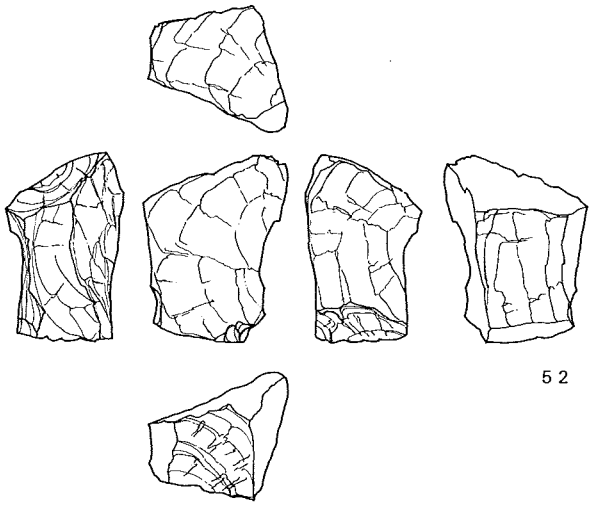
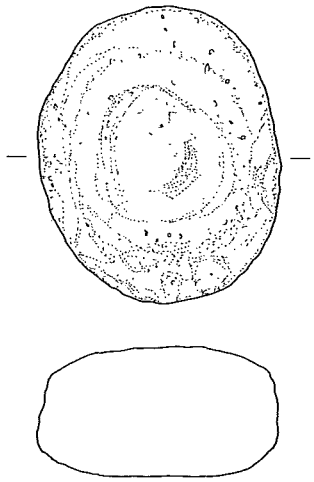


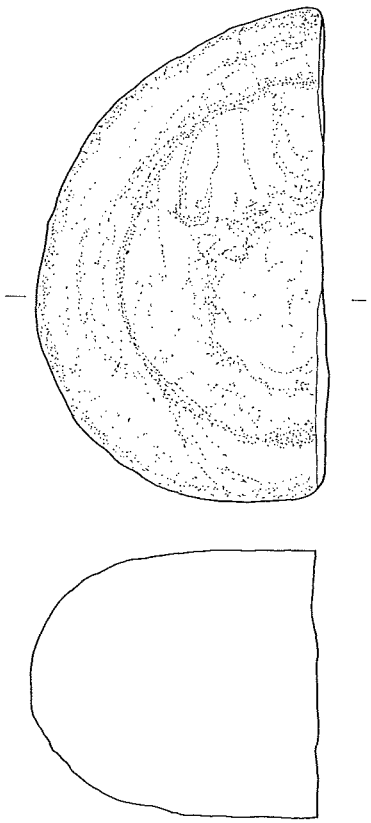

Fig.8　出土石器④（2/3）



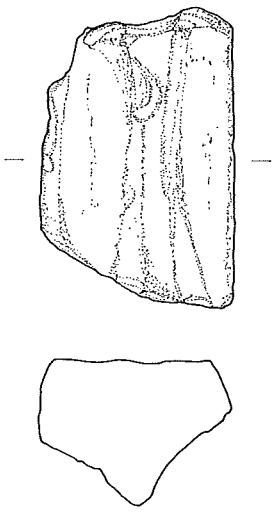
5 2



5 3



5 4



5 5

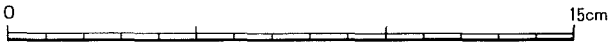
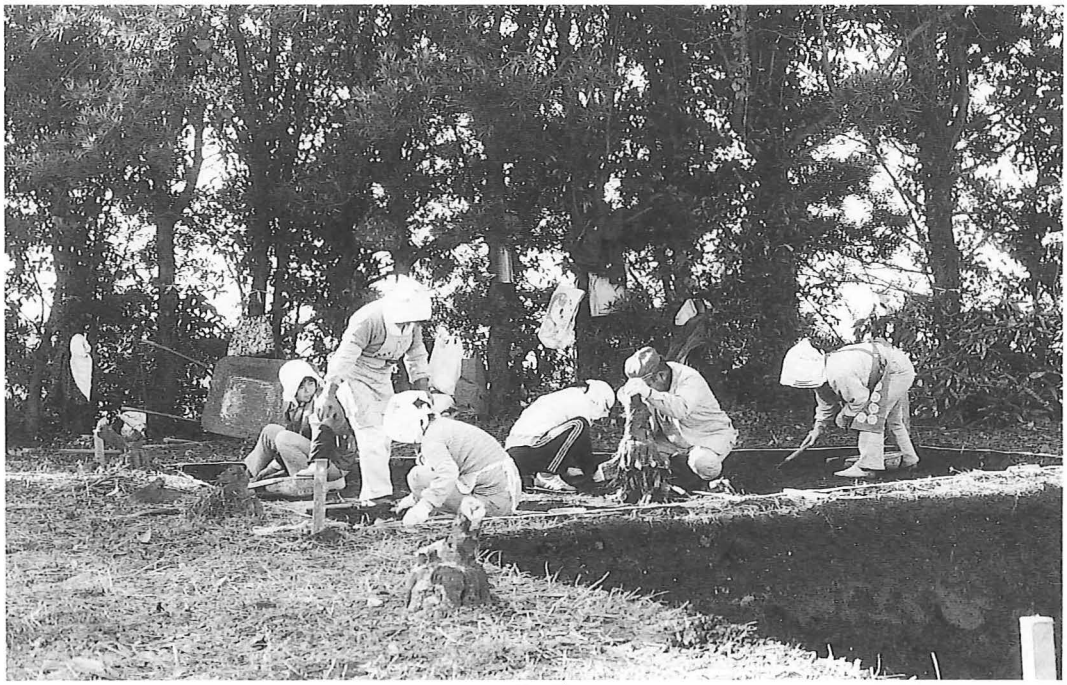



Fig.9　出土石器⑤（1/2）

# PLATES

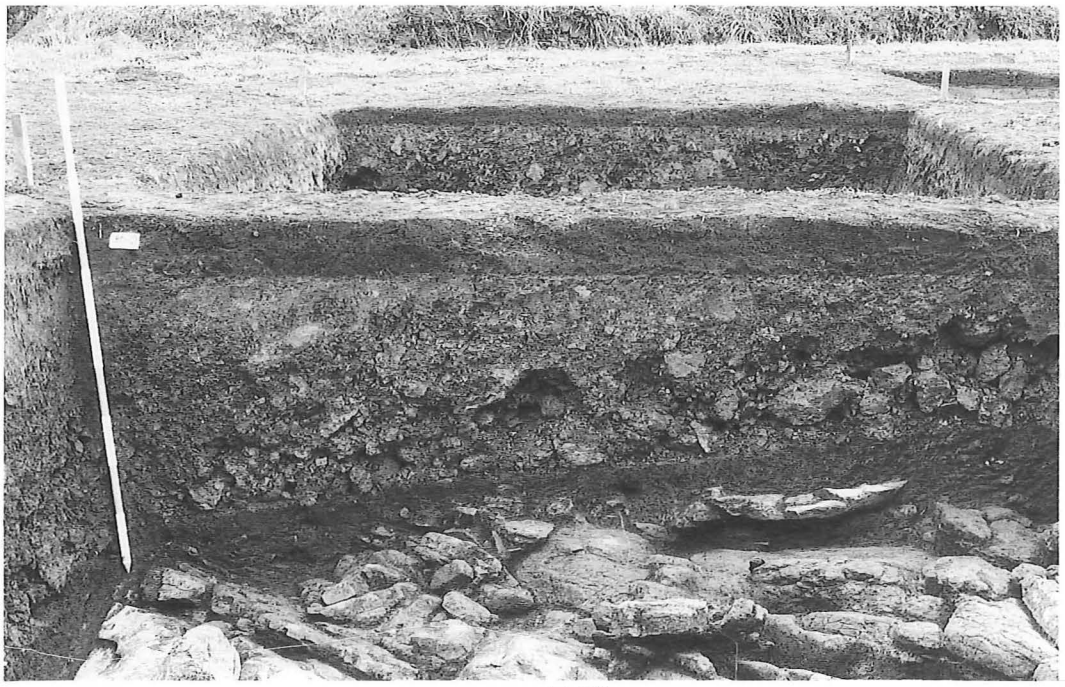
# (東光寺遺跡)

遺跡遠景（南から北）



調　査

G－2区北壁

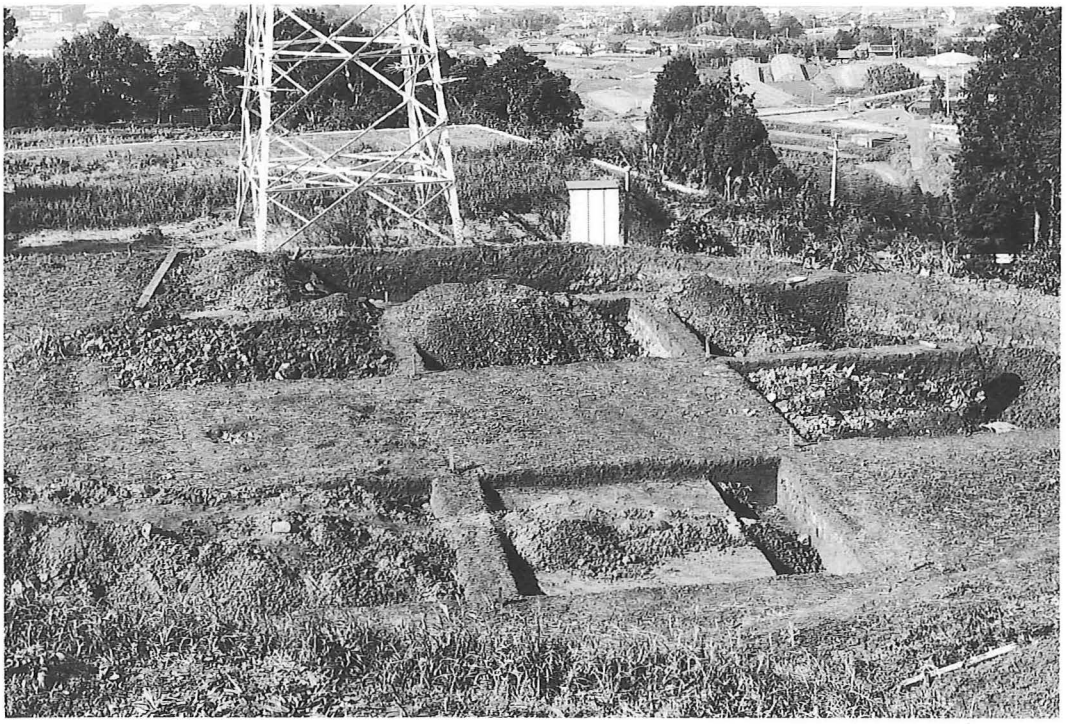


G－2区東壁

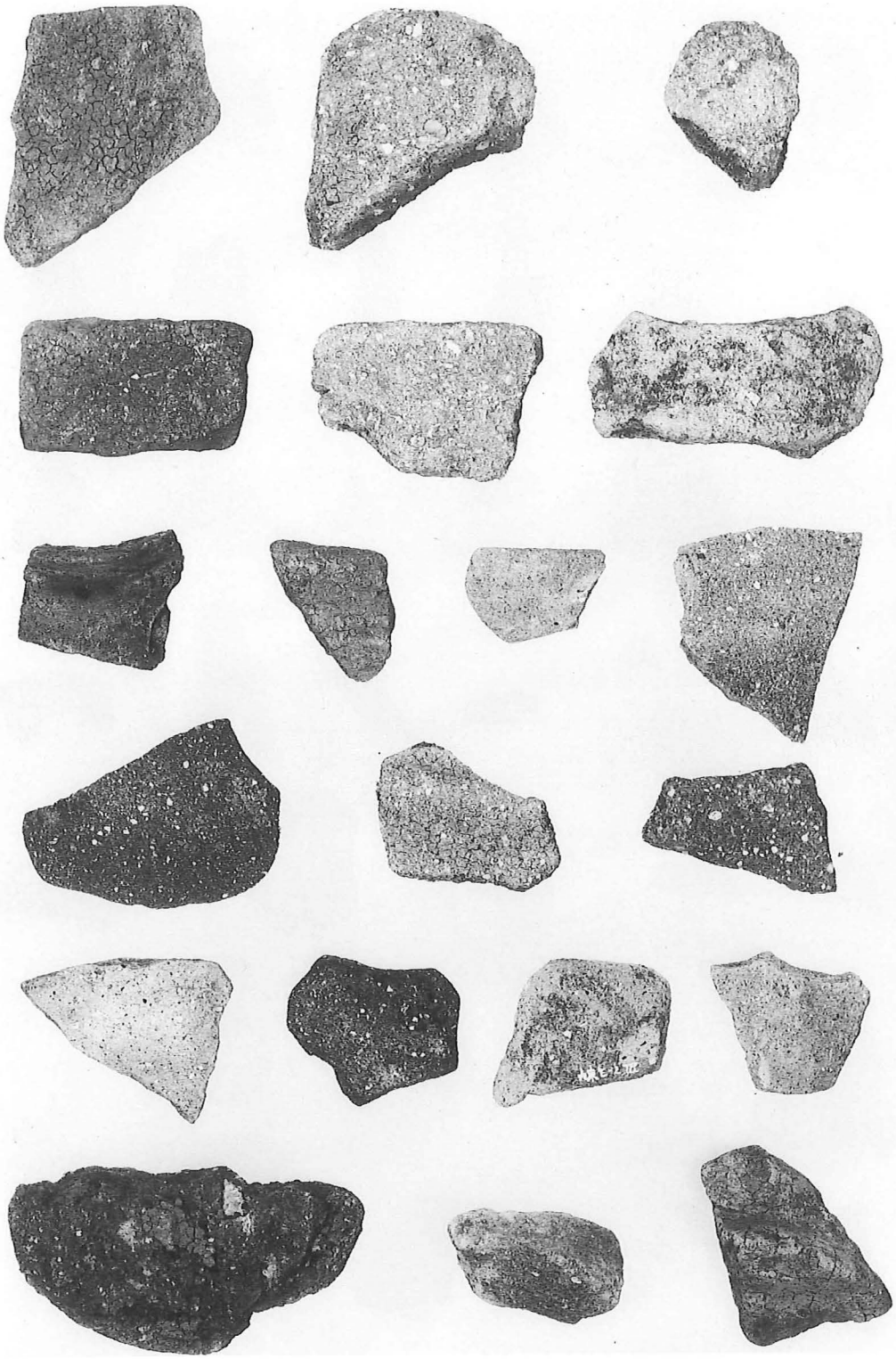
L－12区北壁

L－12区東壁

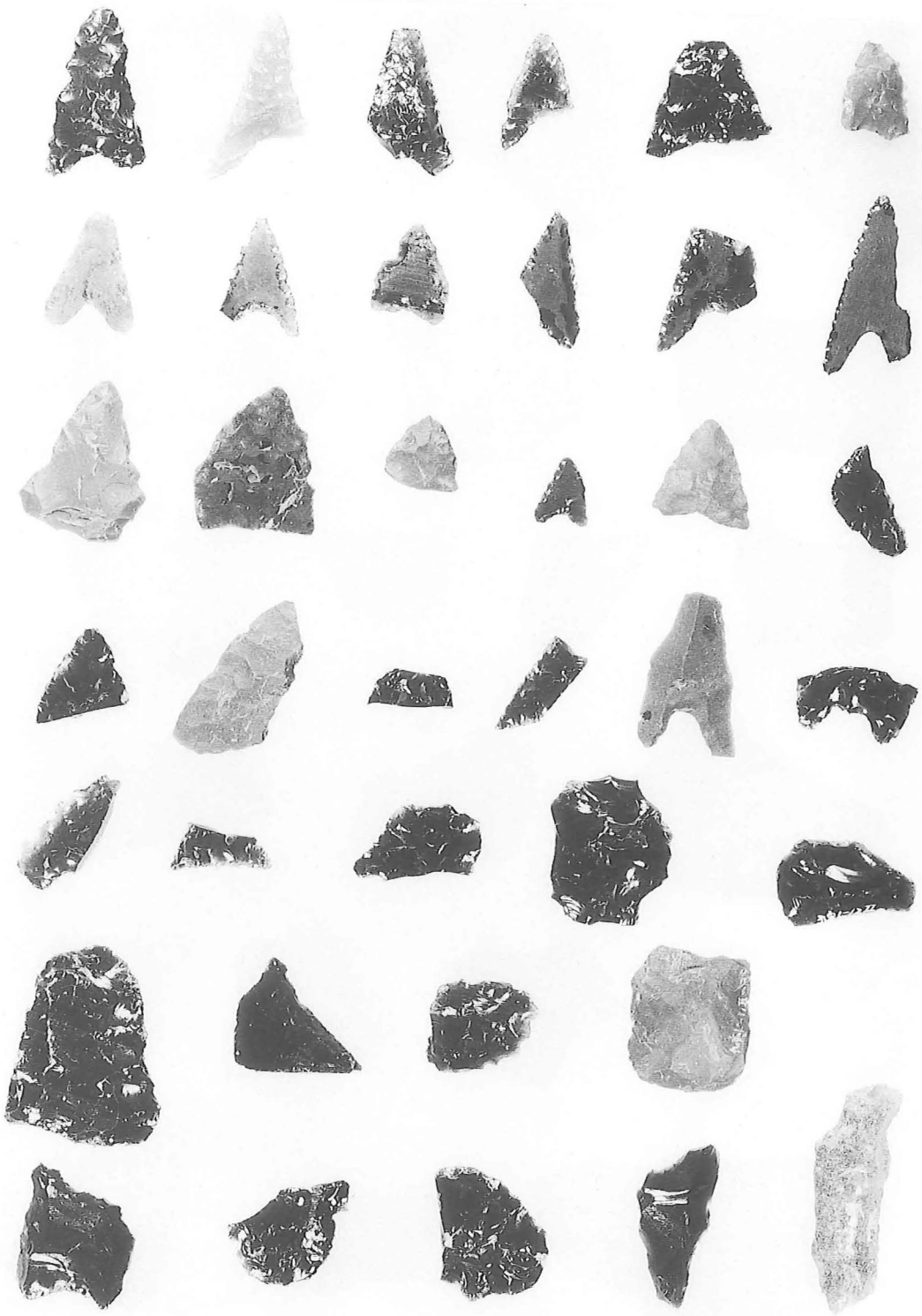
遺物出土状況



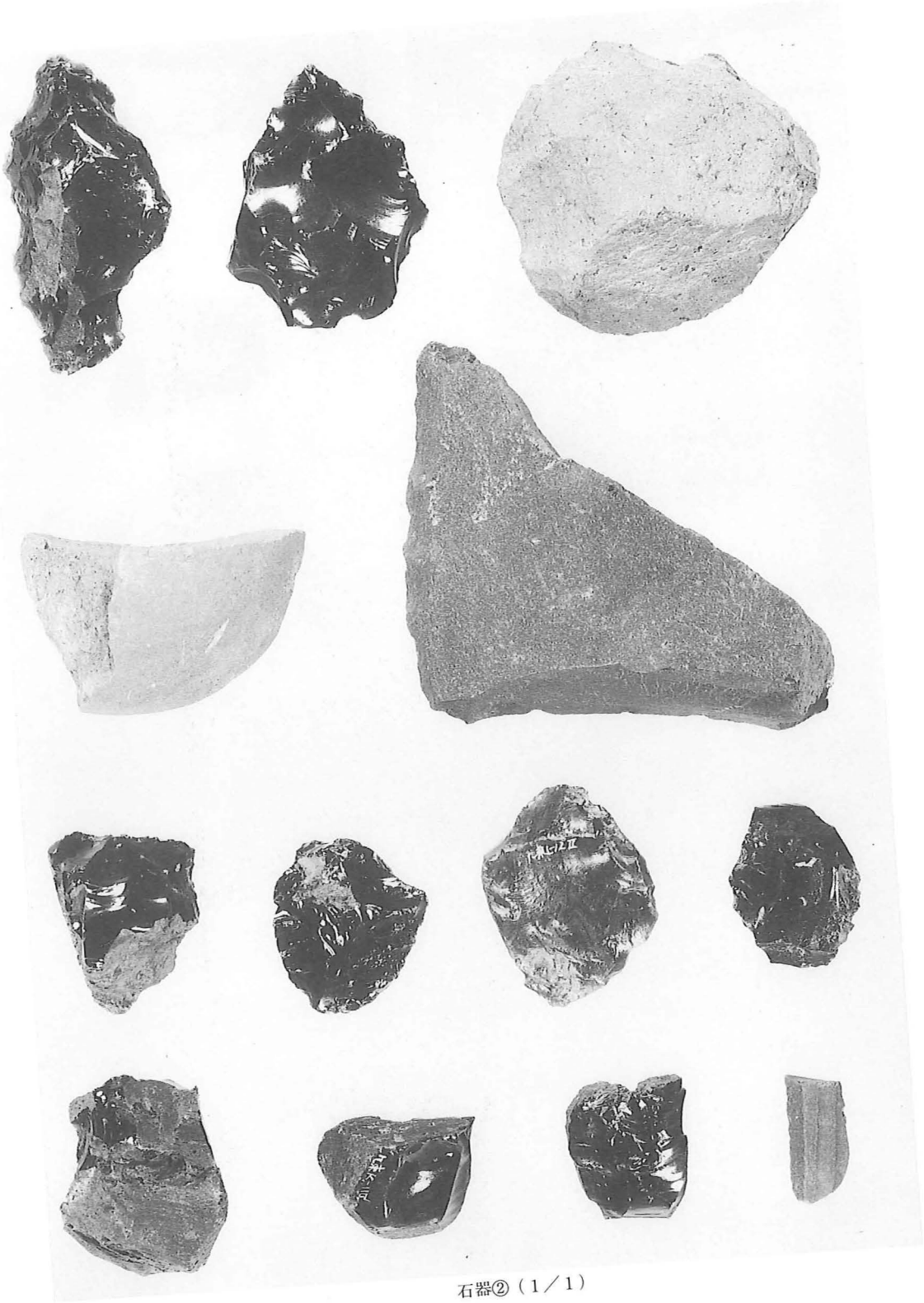
調査終了



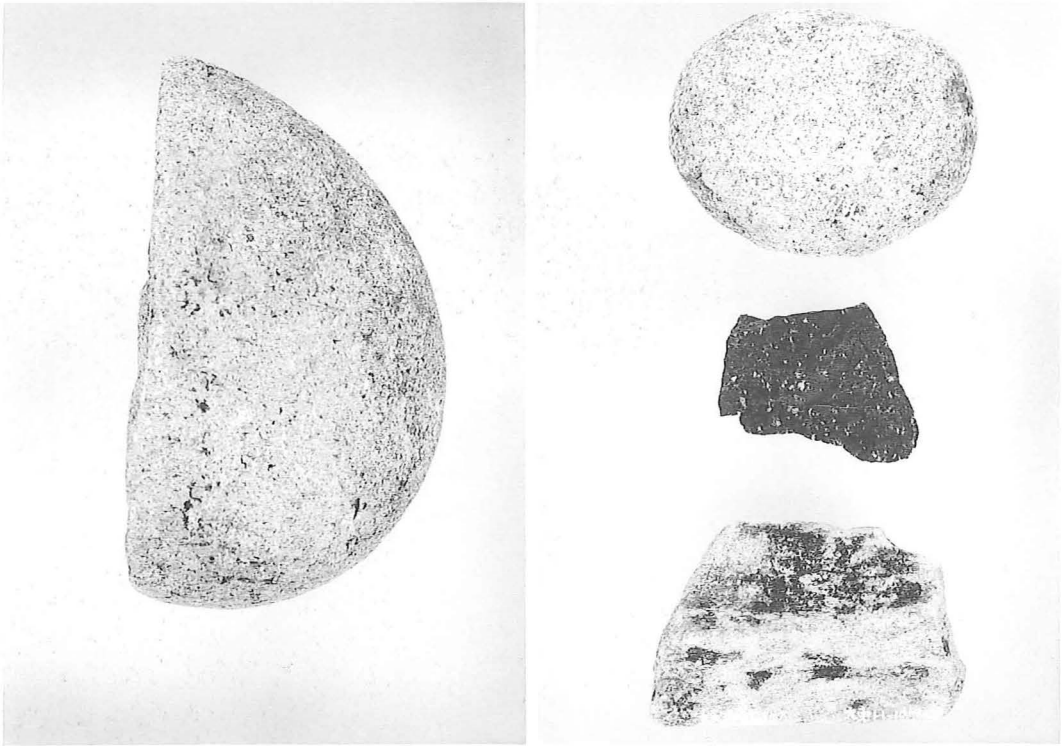
出土土器（2／3）



石器①（1／1）



石器②（1／1）



石器③（1／2）

# Ⅳ　東彼杵地区の調査

野中墓地・野中遺跡
宮田Ａ遺跡
名切Ａ遺跡
名切Ｄ遺跡
松山Ａ遺跡

# Ⅳ東彼杵地区の調査

**周辺の歴史的環境**（Fig. 1）

東彼杵町は，東側に多良山系，北に虚空蔵山塊に接する。これらの山系から伸びる丘陵は，西に位置する大村湾に急傾斜をもって没する。町内には彼杵川，千綿川を除いて谷を開析する程の川も無く，従ってこの両河川流域を除くと扇状地は発達せず平地は殆ど見られない。

現在，町内には67の遺跡が周知されている。時期的に複合している分まで合計すると95遺跡となるが，その内訳は，先土器時代24，縄文時代43，弥生時代２，古墳時代13，古代，中世10箇所となる。（Tab. 1， 2）

先土器時代の遺物は，各所から万遍なく出土するが，**62**の百貫遺跡や**39**・足形遺跡，**42**・蕪堤遺跡等を中心とする遺跡群は有望である。これらの遺跡は，標高350ｍを越すなだらかな高地性の台地上に，点々としかも広範囲に分布する。ナイフ形石器，剥片尖頭器，台形様石器，細石核等の石器が採集されており，地点によっては良好な包含層が認められるという。

縄文時代の遺跡は43箇所と最も多いが，大半の遺跡の内容は不明のままであった。しかし，今回の九州横断自動車道建設に伴う事前の調査では，幾つかの興味ある遺跡が新たに発掘された。まず，**19**・松山Ａ遺跡[註1]では，先土器時代の資料に加えて，縄文時代の石器が８万点以上出土している。明瞭な土器が無いのが惜しまれるが，集石遺構や数千点を越す石鏃の出土は異彩である。当遺跡は，彼杵川下流域の扇状地を見下ろす標高60ｍ程の丘陵上に位置している。至近距離には沢もあり，狩猟地としても適地であったのだろう。

縄文晩期の資料も新たに発見された。**30**・宮田Ａ遺跡[註2]，**64**・野中遺跡[註3]では晩期後半から末に至る土器がある程度まとまって出土した。特に宮田Ａ遺跡では土器類に加え，扁平打製石斧が300本以上も一度に出土している。この種の石器は，耕作に関係がある掘削道具として捉えられており，当該地に置ける稲作農耕の受容を考える上で重要な資料になるものと考えられる。

弥生時代の遺跡も従来まで確認されていなかった。まだ僅か２箇所にしか過ぎないが，上述宮田Ａ遺跡では，中期から後期の土器類が，そして**67**・白井川遺跡[註4]では圃場整備に先立つ調査で，中期から後期にいたる住居址と墓地が確認された。台地上中心の調査から最近は低湿地を広範囲に調査する事例も多くなり，更に好資料の発見が期待される。

古墳は現在８基が残存している。その全てが，彼杵川流域の扇状地に群在して分布しているが，後世の開田によりかなり破壊されており，旧状をとどめたものは殆ど無い。これらの中にあって，**18**・彼杵の古墳（通称ひさご塚古墳[註5]）は比較的良好な形で残っている。全長約52ｍ，後円部径29.5ｍ，前方部の幅７ｍ，高さは後円部で6.2ｍ，前方部で2.6ｍあり，手鏡のような形をしている。本来は前方部がもっと大きかったものと思われるが，水田耕作によって少しつづ削り取られたのであろう。明治年間に２度にわたり主体部が開けられ，鉄刀，鉄，玉類が出土したらしいが，詳細は不明である。

最近の圃場整備に伴う水田部の調査は，これまで文献だけに頼らざるをえなかった時代の空白を、遺物で検証し得る資料を提供している。

**66**・岡遺跡[註6]では，数千点に上る中世土器が出土した。中でも白磁碗を中心とする輸入陶磁器は，11世紀後半から12世紀前半のものが一番多く，以降14世紀まで希薄ながらも引き続き使用されている事がわかっている。また，青温石製の五輪塔や宝篋印塔の発見は，不明であった中世寺院の位置や彼杵地方の中世の様相をしるうえで重要なポイントとなる。　（高野）

註1　本書掲載

2　〃

3　〃

4　1989年報告書刊行予定

5　長崎県教育委員会　「長崎県埋蔵文化財調査集報　III」　長崎県文化財調査報告書　第50集　1980

6　長崎県東彼杵町教育委員会　「岡遺跡」東彼杵町文化財調査報告書　第2集　1988

表文献

1　新人物往来社　「日本城郭体系　17」　1980

2　長崎県教育委員会　「長崎県埋蔵文化財調査集報　III」　長崎県文化財調査報告書　第50集　1987

3　長崎県教育委員会　「長崎県遺跡地図」　長崎県文化財調査報告書　第87集　1987

4　『大村家記』・『深江記』

5　長崎県東彼杵郡東彼杵町教育委員会　「岡遺跡」　東彼杵町文化財調査報告書　第2集　1988

6　1989年報告書刊行予定

7　本書

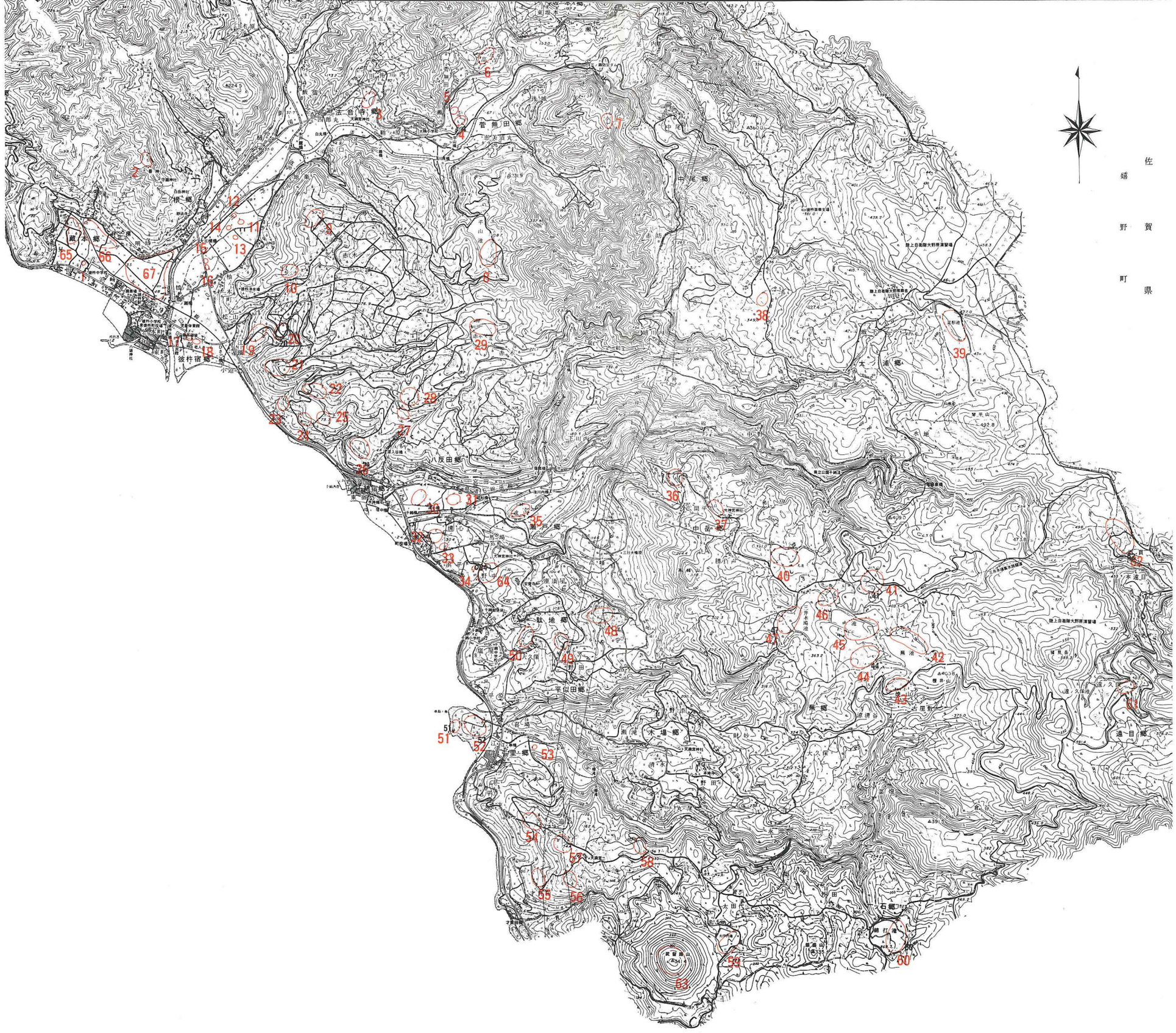
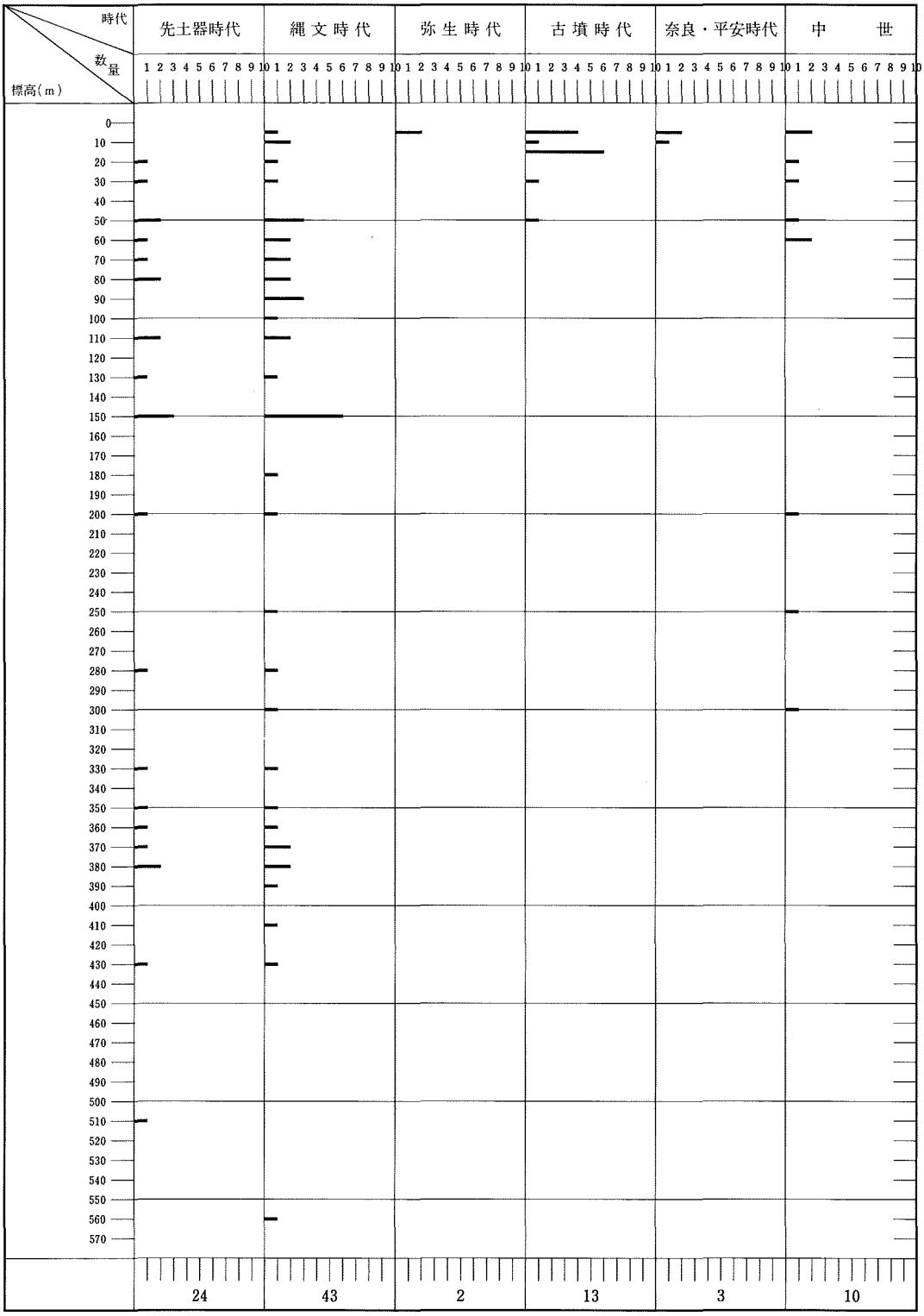



Fig.1　周辺遺跡分布図（東彼杵町）

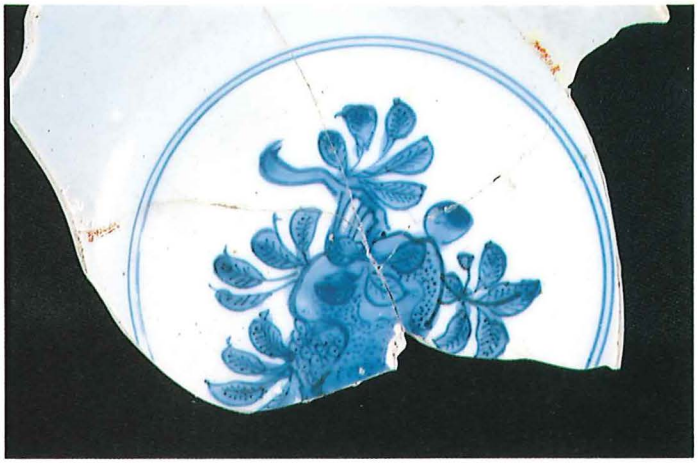
Tab. 1　東彼杵町等高線別遺跡頻度



Tab. 2　東彼杵町遺跡地名表

| 番号 | 遺跡名 | 遺跡所在地 | 立地 | 出土遺物 | 時代 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 島田五輪塔群 | 東彼杵町蔵本郷島田 | 平野　標高5m | 五輪塔 | 中世 | |
| 2 | 松岳城 | 〃　三根郷 | 山　標高200m | | 〃 | 1 |
| 3 | 川井川内遺跡 | 〃　法音寺郷字川井川内 | 台地　標高60m | 黒曜石剥片、青磁 | 縄文、中世 | |
| 4 | 菅無田B遺跡 | 〃　菅無田郷菅無田 | 〃　〃　90m | 〃 | 〃 | |
| 5 | 菅無田A遺跡 | 〃　〃　〃 | 〃　〃　〃 | 〃 | 〃 | |
| 6 | 高吉遺跡 | 〃　坂本郷 | 丘陵　〃　150m | 黒曜石片 | 先土器・縄文 | |
| 7 | 重(かさね)の城 | 〃　〃 | 山　標高250m | | 中世 | 1 |
| 8 | 平山池遺跡 | 〃　菅無田郷平山 | 池・平地　標高150m | | 縄文 | |
| 9 | 牛の頭(うしのと) | 〃　赤木牛の頭 | 丘陵　標高150m | 黒曜石片、石斧、石鏃 | 〃 | |
| 10 | 赤木遺跡 | 〃　三根郷赤木 | 〃　〃　100m～120m | 〃 | 〃 | |
| 11 | 彼杵川古墳群第4号墳 | 〃　〃　字上杉 | 平野　〃　15m | | 古墳 | |
| 12 | 彼杵川古墳群第3号墳 | 〃　〃　〃 | 〃　〃　〃 | | 〃 | |
| 13 | 彼杵川古墳群第2号墳 | 〃　〃　〃 | 〃　〃　〃 | | 〃 | |
| 14 | 彼杵川古墳群第1号墳 | 〃　〃　〃 | 〃　〃　〃 | | 〃 | |
| 15 | 上杉古墳群1号 | 〃　〃　〃 | 〃 | | 〃 | |
| 16 | 上杉古墳群2号 | 〃　〃　〃 | 〃　標高5m | | 〃 | |
| 17 | ワレ権現塚古墳 | 〃　宿郷古金谷 | 〃　〃　10m | | 〃 | |
| 18 | 彼杵の古墳 | 〃　〃　古金屋道上 | 〃 | 鉄刀(2)、鉄鏃(多量) | 〃 | 2 |
| 19 | 松山A遺跡 | 〃　彼杵宿郷松山 | 丘陵　標高50m～73m | | 先土器・縄文 | 7 |
| 20 | 松山B遺跡 | 〃　〃　〃 | 〃　〃　80m～90m | | 〃　〃 | |
| 21 | 名切E遺跡 | 〃　〃　名切 | 〃　〃　90m～100m | 黒曜石片 | 縄文 | |
| 22 | 名切C遺跡 | 〃　〃　〃 | 〃　〃　80m～90m | | 先土器・縄文 | |
| 23 | 名切A遺跡 | 〃　〃　〃 | 〃　〃　50m | | 〃　〃 | 7 |
| 24 | 名切B遺跡 | 〃　〃　〃 | 台地先端部附近　標高30m～40m | 石核、石鏃、スクレイパー、黒曜石剥片 | 〃　〃 | 3 |
| 25 | 名切D遺跡 | 〃　〃　〃 | 台地　標高70m～80m | 黒曜石片 | 〃　〃 | |
| 26 | 外園遺跡 | 〃　千綿宿郷 | 丘陵　〃　〃 | 〃 | 縄文 | |
| 27 | 平(ダイラ)A遺跡 | 〃　〃　県立女子農学園 | 〃　〃　110m | | 先土器・縄文 | |
| 28 | 平B遺跡 | 〃　〃　〃 | 〃　〃　130m～140m | | 〃　〃 | |
| 29 | 赤木池遺跡 | 〃　〃　二木赤木池 | 〃　〃　180m | 黒曜石片、縄文晩期、弥生、古墳 | 縄文 | |
| 30 | 宮田A遺跡 | 〃　〃　宮田 | 平野　〃　10m | 〃 | 〃 | 7 |
| 31 | 宮田B遺跡 | 〃　〃　〃 | 〃　〃　〃 | | 〃 | |
| 32 | 小園城 | 〃　宿郷 | 丘陵　〃　30m | | 中世 | 1 |
| 33 | 瀬戸古墳 | 〃　瀬戸郷瀬戸 | 台地　〃　30m | | 古墳 | |
| 34 | 東彼杵町のキリシタン墓碑 | 〃　〃　1413 | 丘陵　〃　50m | | 近世 | |
| 35 | 小峰城 | 〃　〃 | 山　〃　60m～70m | | 中世 | 1 |
| 36 | 広間平遺跡 | 〃　中岳郷広間平 | 丘陵　〃　250m | | 縄文 | |
| 37 | 三井木場遺跡 | 〃　〃　三井木場 | 〃　〃　300m | | 〃 | |
| 38 | 太ノ原遺跡 | 〃　太ノ浦郷太ノ原 | 台地　〃　330m | 黒曜石剥片 | 先土器・縄文 | |
| 39 | 足形遺跡 | 〃　遠目郷足形 | 〃　〃　430m | 黒曜石片、石鏃 | 〃　〃 | |
| 40 | かのまる池遺跡 | 〃　中岳郷かのまる池 | 丘陵　〃　360m | | 〃　〃 | |
| 41 | 幸十遺跡 | 〃　〃　幸十山 | 台地　〃　410m | 黒曜石片 | 縄文 | |
| 42 | 蕪堤遺跡 | 〃　蕪郷蕪堤 | 丘陵　〃　370m | 黒曜石剥片 | 先土器・縄文 | |
| 43 | 蕪郷遺跡 | 〃　〃 | 台地　〃　380m | 黒曜石 | 〃　〃 | |
| 44 | 倉谷遺跡 | 〃　〃　倉谷 | 〃　〃　390m | | 縄文 | |
| 45 | 中池遺跡 | 〃　中岳郷中池 | 〃　〃　380m | | 先土器・縄文 | |
| 46 | 四ツ池遺跡 | 〃　蕪郷大久保、中岳郷四ツ池 | 〃　〃　370m | | 縄文 | |
| 47 | 三井木場池遺跡 | 〃　中岳郷三井木場 | 丘陵　〃　350m | | 先土器・縄文 | |
| 48 | 八幡遺跡 | 〃　馭地郷馭地 | 〃　〃　150m～160m | 黒曜石片 | 〃　〃 | |
| 49 | 野田遺跡 | 〃　〃 | 〃 | | 〃　〃 | |
| 50 | 大久保遺跡 | 〃　〃 | 〃　標高60m | 黒曜石片 | 〃　〃 | |
| 51 | 串島古墳 | 〃　里郷串の島 | 岬　〃　15m | | 古墳 | |
| 52 | 串島遺跡 | 〃　〃　〃 | 台地　〃　20m | 黒曜石片 | 先土器・縄文・中世 | 1 |
| 53 | 里郷積石塚 | 〃　〃　平 | 平野　〃　10m | | 平安 | |
| 54 | 里遺跡 | 〃　〃 | 台地　〃　110m | 黒曜石片 | 先土器・縄文 | |
| 55 | 千綿才貫田古墳群 | 〃　〃　才貫田 | 丘陵　〃　50m | | 古墳 | |
| 56 | 鋒ノ久保 | 〃　一ツ石郷鋒ノ久保 | 〃　〃　90m | 黒曜石片 | 縄文 | |
| 57 | 平見高野 | 〃　〃　平見高野 | 〃　〃　150m | 黒曜石剥片 | 先土器・縄文 | |
| 58 | 一ツ石台地遺跡 | 〃　〃　台地 | 台地　〃　150m | 〃 | 縄文 | |
| 59 | 太田代池遺跡 | 〃　〃　太田代池 | 丘陵　〃　200m | 〃 | 先土器・縄文 | |
| 60 | 綿打池遺跡 | 〃　〃　綿打池 | 〃　〃　280m | マイクロコア | 〃　〃 | |
| 61 | 久保遺跡 | 〃　遠目郷字下遠目久保 | 山麓　〃　560m | 黒曜石片 | 縄文 | |
| 62 | 百貫遺跡 | 〃　〃　大野原 | 台地　〃　510m | | 先土器 | |
| 63 | 武留路山城 | 〃　武留路郷 | 山頂　〃　300m～341m | | 中世 | 4 |
| 64 | 野中遺跡 | 〃　瀬戸郷瀬戸 | 丘陵　〃　50m～70m | 磨製石斧、黒曜石片 | 縄文 | 7 |
| 65 | 島田遺跡 | 〃　蔵本郷字島田 | 〃　〃　5m～10m | 青・白磁、須恵器、弥生式土器 | 弥生～中世 | |
| 66 | 岡遺跡 | 〃　〃　字岡 | 〃　〃　〃　〃 | 弥生式土器、須恵器、土師器、青・白磁、他 | 中世 | 5 |
| 67 | 白井川遺跡 | 〃　〃　字白井川 | 平野・微高地　標高5m～10m | 縄文式土器、同平打製石斧、石皿、石鏃、他 | 縄文～中世 | 6 |

# 野中墓地・野中遺跡



大明成化年製

# 本文目次

Ⅰ　調査 ……153
　1．地理的位置 ……153
　2．調査の概要 ……154
　3．土層 ……159
Ⅱ　遺構 ……160
　1．野中墓地 ……160
　2．第二次調査 ……160
Ⅲ　出土遺物 ……178
　1．野中墓地 ……178
　2．第一次調査 ……178
　3．第二次調査 ……189
Ⅳ　総括 ……242

# 挿図目次

Fig. 1　野中墓地・野中遺跡調査区位置図(1/2, 000) ……153
Fig. 2　調査配置図及び遺構配置図（1/900） ……155
Fig. 3　第二次調査土層図（1/60） ……157
Fig. 4　野中墓地石塔図（1/20） ……160
Fig. 5　縄文時代及び中世遺物出土のpit群 ……161
Fig. 6　1号遺構（土壙）（1/20）・(検出状況) ……162
Fig. 7　中世時代の建物跡及びpit群・土壙 ……163
Fig. 8　2号遺構（焼土塊）（1/40）・(検出状況) ……164
Fig. 9　3号遺構（土壙墓）（1/20）・(検出状況) ……166
Fig.10　近世建物跡及びpit群・土壙墓（1/200） ……169
Fig.11　5号遺構（土壙墓）（1/20）・(検出状況) ……171
Fig.12　6号遺構（土壙墓）（1/20） ……173
Fig.13　7号遺構（建物跡）（1/80）・(検出状況) ……174
Fig.14　V－10区・pit 2（1/20） ……176
Fig.15　8号遺構（建物跡）（1/20） ……177
Fig.16　第一次調査出土、陶磁器・石鍋(1/3)円盤状陶磁製品・釘(1/2)・銭(1/1) ……179
Fig.17　第一次調査出土石器（2/3） ……181
Fig.18　第一次調査出土石器（2/3） ……182

Fig.19　第一次調査出土石器（2/3）……184
Fig.20　第一次調査出土石器（2/3）……185
Fig.21　第一次調査出土石器（2/3）……186
Fig.22　第二次調査出土土器①（1/2）……190
Fig.23　第二次調査出土土器②（1/2）……191
Fig.24　第二次調査出土土器③１号遺構（土壙）（1/2）……192
Fig.25　Ⅴ－11区pit２すり鉢・鉢出土状況……193
Fig.26　第二次調査出土土器④（1/3）……194
Fig.27　第二次調査出土土器⑤（1/3）……195
Fig.28　第二次調査出土土器⑥（1/3）……196
Fig.29　第二次調査土師質・瓦質土器・グリッド別出土点数……199
Fig.30　第二次調査近世陶磁器・グリッド別出土点数……199
Fig.31　第二次調査出土石器①（2/3）……202
Fig.32　第二次調査出土石器②（2/3）……203
Fig.33　第二次調査出土石器③（2/3）……204
Fig.34　第二次調査出土石器④（2/3）……205
Fig.35　第二次調査出土石器⑤（2/3）……206
Fig.36　第二次調査出土石器⑥（2/3）……207
Fig.37　第二次調査出土石器⑦（2/3）……208
Fig.38　第二次調査出土石器⑧（2/3）……209
Fig.39　第二次調査出土石器⑨（2/3）……210
Fig.40　第二次調査出土石器⑩（2/3）……211
Fig.41　第二次調査出土石器⑪（2/3）……212
Fig.42　第二次調査出土石器⑫（2/3）……213
Fig.43　第二次調査出土石器⑬（2/3）……214
Fig.44　第二次調査出土石器⑭（2/3）……215
Fig.45　第二次調査出土石器⑮（2/3）……216
Fig.46　第二次調査出土石器⑯（2/3）……217
Fig.47　第二次調査出土石器⑰（2/3）……218
Fig.48　第二次調査出土石器⑱（2/3）……219
Fig.49　第二次調査出土石器⑲（2/3）……220
Fig.50　第二次調査出土石器⑳（2/3）……221
Fig.51　第二次調査出土石器㉑（2/3）……222
Fig.52　第二次調査出土石器㉒（2/3）……223

Fig.53　第二次調査出土石器㉓（2/3）……224
Fig.54　第二次調査出土石器㉔（2/3）……225
Fig.55　第二次調査出土石器㉕（2/3）……226
Fig.56　第二次調査出土石器㉖（2/3）……227
Fig.57　第二次調査出土石器㉗（2/3）……228
Fig.58　第二次調査出土石器㉘（2/3）……229
Fig.59　第二次調査出土石器㉙（1/3）……230
Fig.60　第二次調査出土石器㉚（1/3）……231
Fig.61　第二次調査出土石器㉛（1/3）……232
Fig.62　第二次調査出土石器㉜（2/3）……233
Fig.63　第二次調査出土石器㉝（2/3）……234
Fig.64　第二次調査出土石器㉞（2/3）……235

# 表目次

Tab. 1　第一次調査出土石器計測表……187
Tab. 2　第一次調査出土石器計測表（石鏃）……187
Tab. 3　第二次調査出土遺物一覧表①……197
Tab. 4　第二次調査出土遺物一覧表②……198
Tab. 5　第二次調査中・近世遺物層位別一覧……200
Tab. 6　第二次調査出土石器計測表……236
Tab. 7　第二次調査出土石器計測表……237
Tab. 8　第二次調査出土石器計測表……238
Tab. 9　第二次調査出土石器計測表……239
Tab.10　第二次調査出土石器計測表……240
Tab.11　第二次調査出土石器計測表……241
Tab.12　第二次調査出土石器計測表……242

# 図版目次

PL. 1　遺跡近景 ……245
PL. 2　野中墓地立会調査 ……246
PL. 3　第一次調査 ……247
PL. 4　第二次調査 ……248
PL. 5　土層 ……249
PL. 6　第二次調査pit群 ……250
PL. 7　第二次調査pit群 ……251
PL. 8　第二次調査遺構検出状況 ……252
PL. 9　遺物出土状況 ……253
PL.10　第一次調査出土陶磁器・石鍋・円盤状陶磁製品（1/2）釘・銭（1/1） ……254
PL.11　第二次調査出土土器①（1/2） ……255
PL.12　第二次調査出土土器②１号遺構（1/2） ……256
PL.13　第二次調査出土遺物 ……257
PL.14　第二次調査出土遺物 ……258
PL.15　第二次調査出土遺物 ……259
PL.16　第一次調査出土石器①（1/1） ……260
PL.17　第一次調査出土石器②（1/1） ……261
PL.18　第一次調査出土石器③（1/1） ……262
PL.19　第一次調査出土石器④（1/1） ……263
PL.20　第二次調査出土石器①（1/1） ……264
PL.21　第二次調査出土石器②（1/1） ……265
PL.22　第二次調査出土石器③（1/1） ……266
PL.23　第二次調査出土石器④（1/1） ……267
PL.24　第二次調査出土石器⑤（1/1） ……268
PL.25　第二次調査出土石器⑥（1/1） ……269
PL.26　第二次調査出土石器⑦（1/1） ……270
PL.27　第二次調査出土石器⑧（1/1） ……271
PL.28　第二次調査出土石器⑨（1/1） ……272
PL.29　第二次調査出土石器⑩（1/1） ……273
PL.30　第二次調査出土石器⑪（1/1） ……274
PL.31　第一次調査出土石器⑫（1/1） ……275
PL.32　第一次調査出土石器⑬（1/1） ……276

PL.33　第二次調査出土石器⑭（1/1）……277
PL.34　第二次調査出土石器⑮（1/1）……278
PL.35　第二次調査出土石器⑯（1/1）……279
PL.36　第二次調査出土石器⑰（1/1）……280
PL.37　第二次調査出土石器⑱（1/1）……281
PL.38　第二次調査出土石器⑲（1/2）……282
PL.39　第二次調査出土石器⑳（1/2）……283
PL.40　第二次調査出土石器㉑（1/1）……284
PL.41　第二次調査と終了……285
PL.42　東彼杵町のキリシタン墓碑……286

# Ⅰ　調査

## 1．地理的位置

遺跡は，東彼杵町瀬戸郷字久保谷に所在する。位置的には，多良岳山系から大村湾に向かって延びる標高50～57ｍの舌状台地端部にある。遺跡に至るには，海岸に隣接する千綿駅より徒歩10分，階段状の水田を右手に見ながら北西の台地を登りつめる。周囲には水田が耕作され，遺跡東側10ｍほどの範囲に野中墓地がある。また，農道を挟んで西側には，「元和７年」銘の県指定文化財のキリシタン墓碑がある。　(町田)

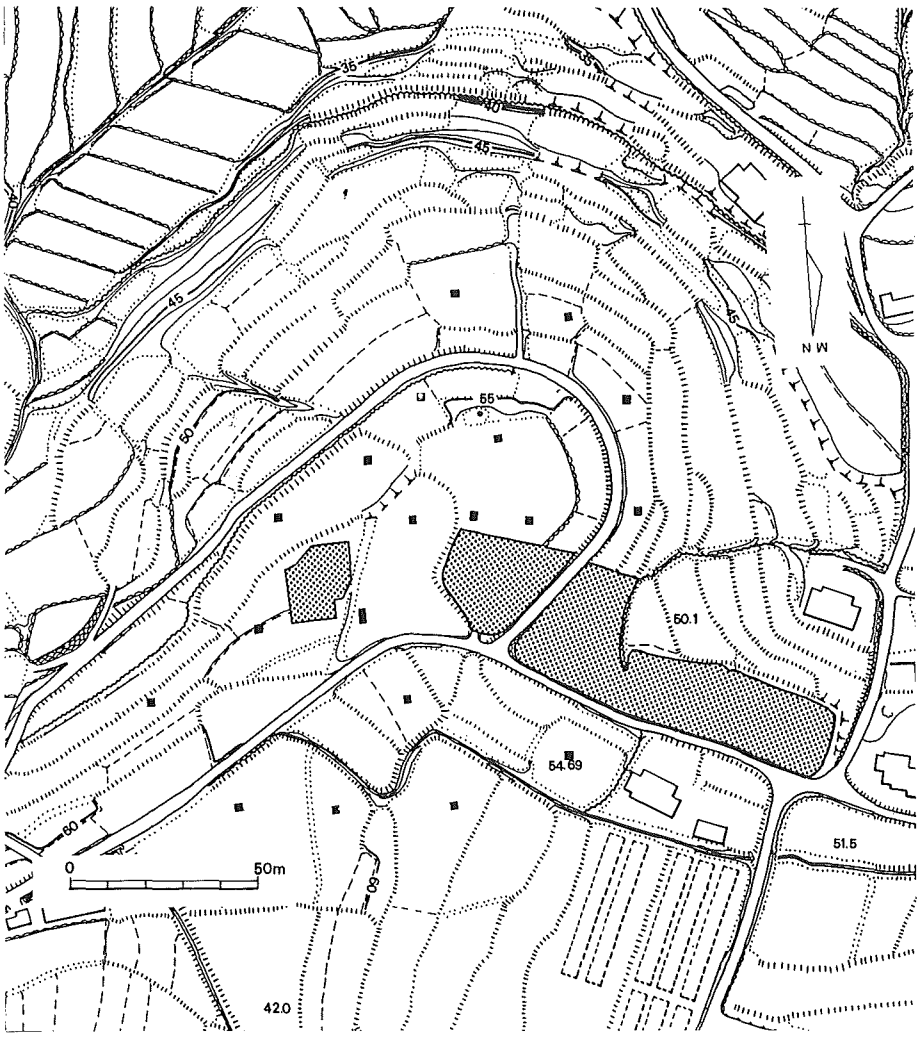



Fig. 1　野中墓地・野中遺跡調査区位置図　（1/2,000）

## 2．調査の概要

調査は，３回にわけて行なっている。当初，野中墓地（近世）が横断道路の路線内にあり，この立会調査を実施した。そのおり，縄文時代の遺物が出土した。この報告を受けて，第一次調査を実施した。その結果，縄文時代から近世までの重要な遺構，遺物が包蔵されていることが判明した。そのため，昭和61年度の事業で遺跡全体の調査を終えることができず，昭和62年度事業として，第二次調査を実施した。以下順次調査の概要にはいる。　（町田）

**野中墓地**

墓地は，以前に大半の改葬がなされていたが，「元禄六年」と「貞亨元年」銘の墓碑が建つており，この２基の石塔の移築改葬作業に伴って，昭和61年12月13日に立会調査を実施した。

墓碑を解体したところ，台座の直下には赤褐色の粘質土層が現われ，墓穴等の施設は認められなかった。墓穴が無いので，この土層を掘り続けたが，落ち込みは検出されず，整層状況の土層堆積がみられた。１ｍほど掘り下げ，磨製石斧１点（Fig.53）と黒曜石砕片が，出土した。このことによって，近辺一帯に縄文時代の遺跡の存在が予察されることとなった。　（宮崎）

**第一次調査**

調査の発端の野中墓地の立会調査中に縄文時代の遺物（石斧）が出土したため，路線内の第一次調査を行なうことになり，昭和62年３月２日～昭和62年３月18日まで実施した。

野中墓地（190㎡）周辺は千綿パーキングエリアとして，広範囲（約7.5ha）にまたがっての開発計画であったが，地形的要因から判断して，約5,000㎡の範囲を対象に試掘壙（２ｍ×２ｍ）を26箇所設定し，調査を実施した。（遺構面確認のため，試掘壙の２ｍ×５ｍを４箇所と２ｍ×８ｍを１箇所程拡張を行なった）

調査の結果は，試掘壙TP－１，TP－10，TP－５に縄文時代晩期および中世の遺物，TP－11に中世の柱穴群，TP－12・13に近世の遺構と遺物が検出され，縄文時代から中世・近世に至る複合遺跡であることが明らかになった。

更に，遺跡の拡がりは，約2,500㎡程の分布範囲を示すことが確認された。

また，第一次調査時にTP－１，TP－５付近を拡張して調査を実施し，TP－１以西については，機械力にて表土剝ぎを行い，昭和62年度に継続調査を実施することになった。

Ａ～Ｄ－１～４区（TP－５拡張区）・Ｊ，Ｋ－１～３区（TP－１付近）の調査拡張区の調査は東西南北に各５ｍ方眼のグリットを組み，南から北へ１～16と東から西へＡ～Ｚ・Ａ～Ｂと呼称して使用した。

この調査区は縄文～中世に至る遺物の出土に伴い拡張したもので，520㎡について調査を実施し終了した。　（副島）

**第二次調査**

昭和61年度実施した調査の結果から，遺跡の拡がりが予察される範囲を機械力によって表土

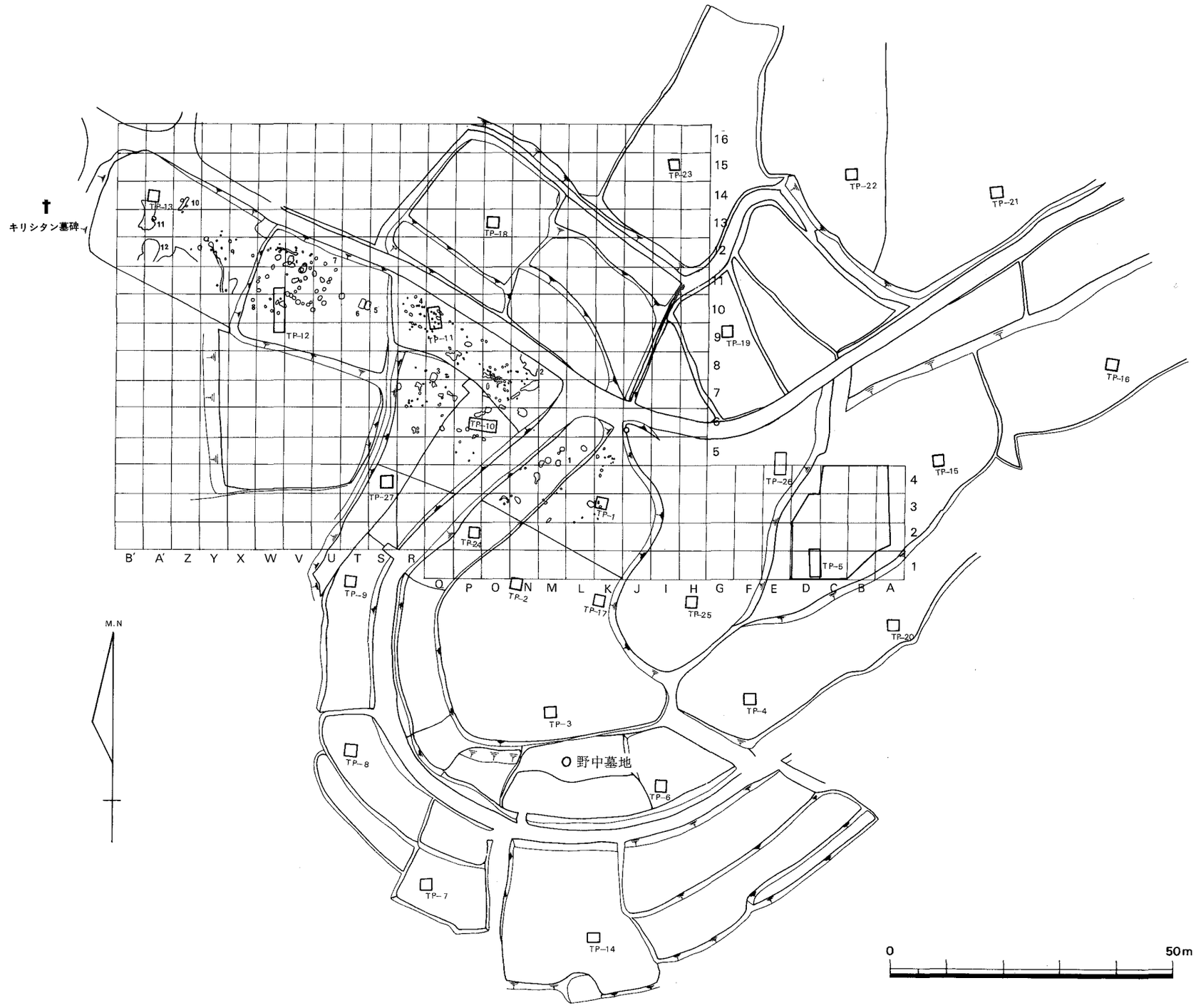



Fig. 2　調査配置図及び遺構配置図（1/900）

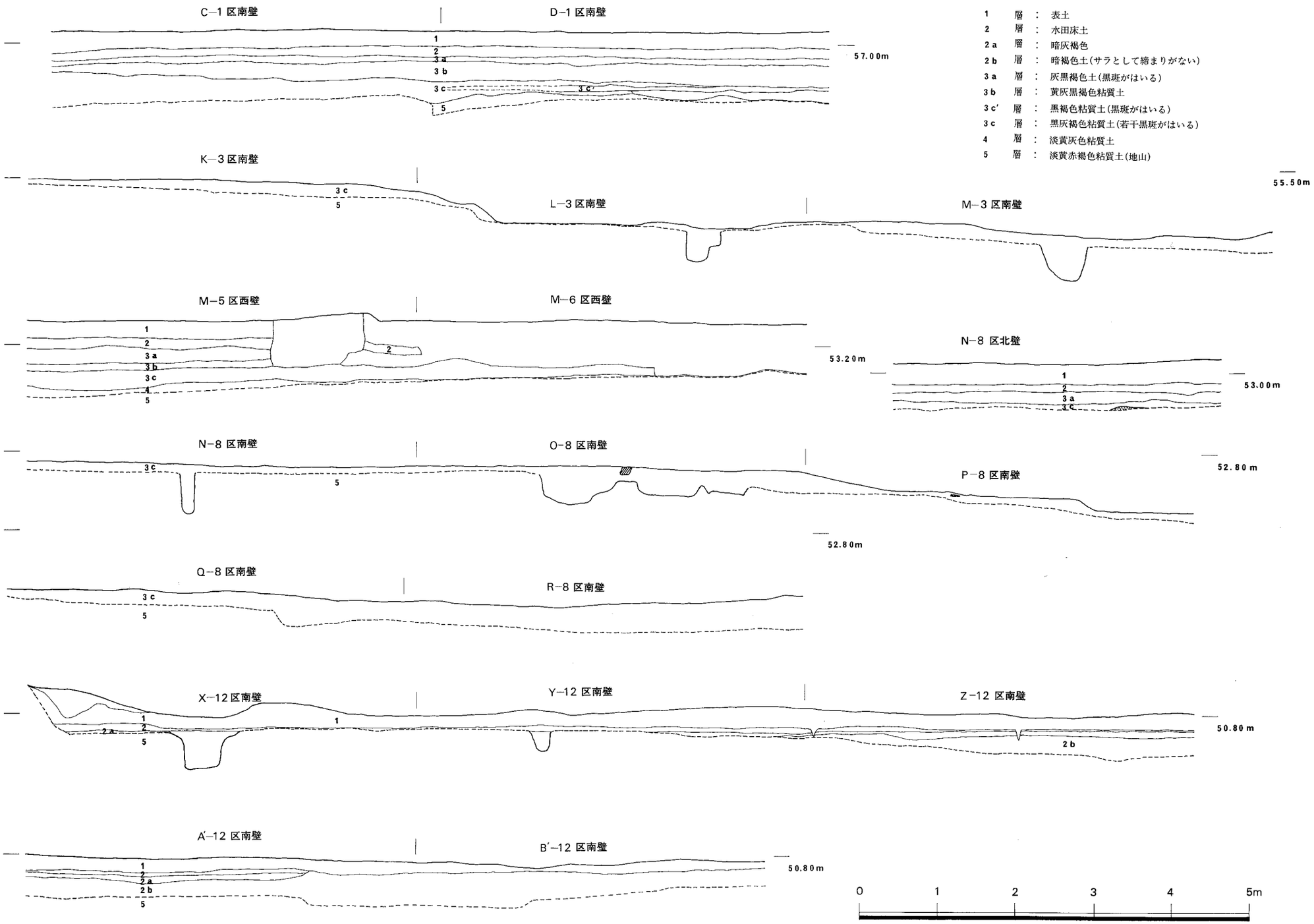



Fig. 3　第二次調査土層図 (1/60)

剝ぎを行なった。調査期間は昭和62年４月６日～昭和62年４月21日に実施し，遺跡対象面積5,000㎡の内2,520㎡を実施した。調査区の設定は５ｍ×５ｍの方眼を組み，南北の基準線を磁北に合せた。その南から北へ延長した線を１，２，３…とし，基準線に直交する東西線を東から西へＡ，Ｂ，Ｃ…と記号・番号を付した。（町田）

３．土層

一部縄文時代の文化層が依存していたものの，その堆積状況は中世期の撹乱後，近年になり更に土地の削平が行なわれていた。そのため，縄文時代から近世までの整層状態を確認できなかった。しかし部分的には，各時代の繁栄された遺構，遺物等の層が残っていた。

各地区ごとに記録した土層図によって説明したい。

まず，昭和61年度調査で残されていたＣ・Ｄ－１区南壁の図取りから始めた。この地区は，３層からおもに遺物が出土する。縄文時代の遺物と中世の遺物が混在状態で出土している。

Ｋ・Ｌ・Ｍ－３区は第一次調査で表土剝ぎが，済んでおり第二次調査では柱穴検出をおもに行なった。この地区は、３ｃ層がわずかに残っていた。検出したpit内の覆土には，灰黒褐色と黒褐色の色調がみとめられ，前者には縄文時代の遺物が，他は中世の遺物が出土している。

次に，Ｍ－５・６区では，若干ではあるが縄文時代の遺物を包蔵する層があった。また，Ｍ－５では遺構１より組織痕土器と石器がまとまって出土している。

Ｍ・Ｎ・Ｏ・Ｐ・Ｑ・Ｒ－８区もＫ・Ｌ・Ｍ－３区同様に表土剝ぎが終了しており，中世の柱穴検出作業をおもに行なった。土層では，３ｃ層の記録を行なった。

Ｎ-８区は農道横に，中世の焼土（遺構２）を検出したため，北壁を図化した。堆積状況はＣ・Ｄ－１区と同様である。

Ｘ・Ｙ・Ｚ・Ａ′・Ｂ′－12区は，近世の遺物を主体に，建物跡，墓壙等を検出した。土層は，中世の文化層がなくなり，２ａ・２ｂ層の近世の文化層が残っていた。（町田）

土層の色調及び文化層の主体

１　層：表土

２　層：水田床土

２ａ層：暗灰褐色 ……近世

２ｂ層：暗褐色土（サラッとして締まりがない）……近世

３ａ層：灰黒褐色土（黒斑がはいる）……中世

３ｂ層：黄灰黒褐色粘質土 ……中世

３ｃ′層：黒褐色粘質土（黒斑はいる）……中世

３ｃ層：黒灰褐色粘質土（若干黒斑はいる）……中世

４　層：淡黄灰色粘質土 ……縄文時代晩期

５　層：淡黄赤褐色粘質土（地山）……無遺物層

# II　遺構

野中墓地では，遺構を確認できなかったが，いちおう墓碑について触れることにする。

また，第一次調査については，遺構検出を中断して，第二次調査にはいった。そのため遺構内容は，重複をさけ第二次調査に含んで記載する。　(町田)

## 1．野中墓地

墓碑は，2基ともに角石塔形であり，長方形状の主体の上に，屋根形の宝珠がのる。石材は安山岩と思われる。現地に出向いた時にはすでに墓碑の解体が始まっており，そのため建立状態の測量はできなかったが，部品の略図をとったので，参考のため掲載しておく。銘は，長方形の角碑正面部分にだけあり，戒名から男性と女性のものと考えられる。　(宮崎)

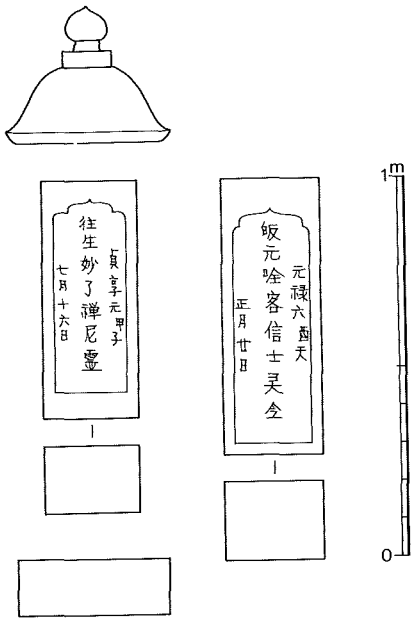



Fig. 4　野中墓地石塔図 (1/20)

## 2．第二次調査

縄文時代から近世までの遺構を検出した。縄文時代では土壙を中世では墓壙，柱穴群，焼土などを検出し，近世では墓壙，建物跡等が確認された。

**1号遺構**（土壙）

M－5区で縄文時代の土器，石器が土壙内より出土している。プランは主軸N－96°－Eを示し，楕円形を呈する。内部3箇所に，中世の柱穴が穿たれ，下部撹乱を受けている。そのため土器片が散乱していた。その他に石鏃，黒曜石剥片等も出土している。　(町田)

**2号遺構**（焼土塊）

N－8区，北東隅において検出した。黒色土のなかに明黄灰色の焼土が堆積していた。また，北側の方には，暗黄灰色の土も堆積している。中には，浅いのや深いピットが16個程あった。焼土塊の中からの遺物の出土は無かった。南北長が4 m50cm，ピットの深さが深いもので遺構検出面より123cmある。

**3号遺構**（土壙墓）

Q－8区南端で検出した。長軸はほぼ南北をさすが，東へ20°ふれている。平面形は隅丸長方形を程する。深さは，遺構検出面から70cmあり深い。中から土師器の杯が3点出土した(Fig.26・**2～4**)。人骨は検出できなかっが，土師器の杯の出土状況等を勘案して土壙墓とした。長軸長168cm，短軸長114cm，出土遺物より中世，室町期の土壙墓と思われる。

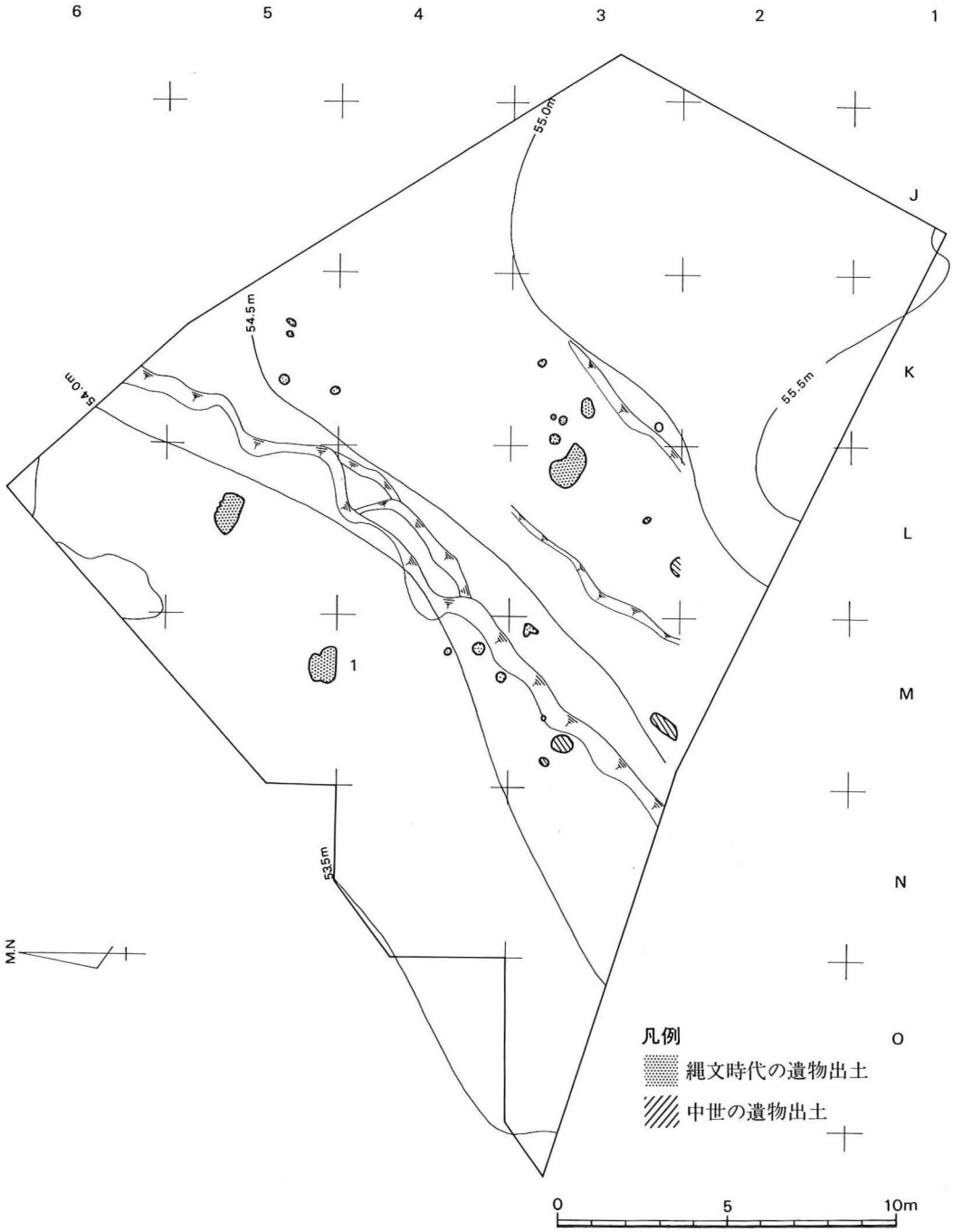



Fig. 5　縄文時代及び中世遺物出土のpit群

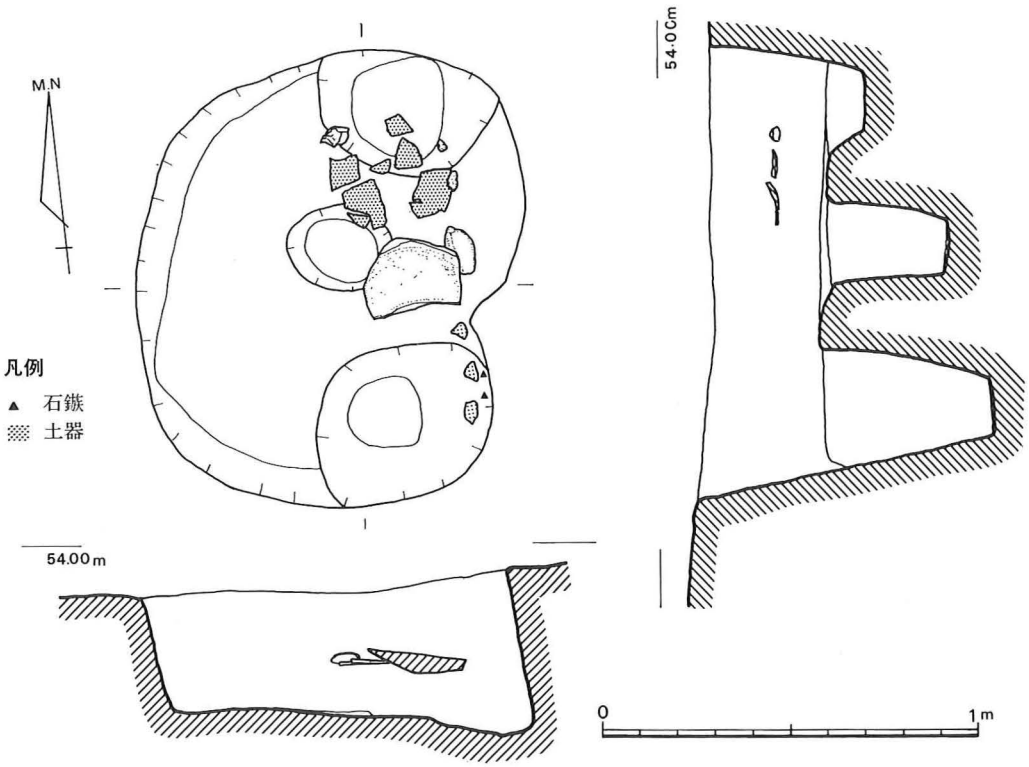
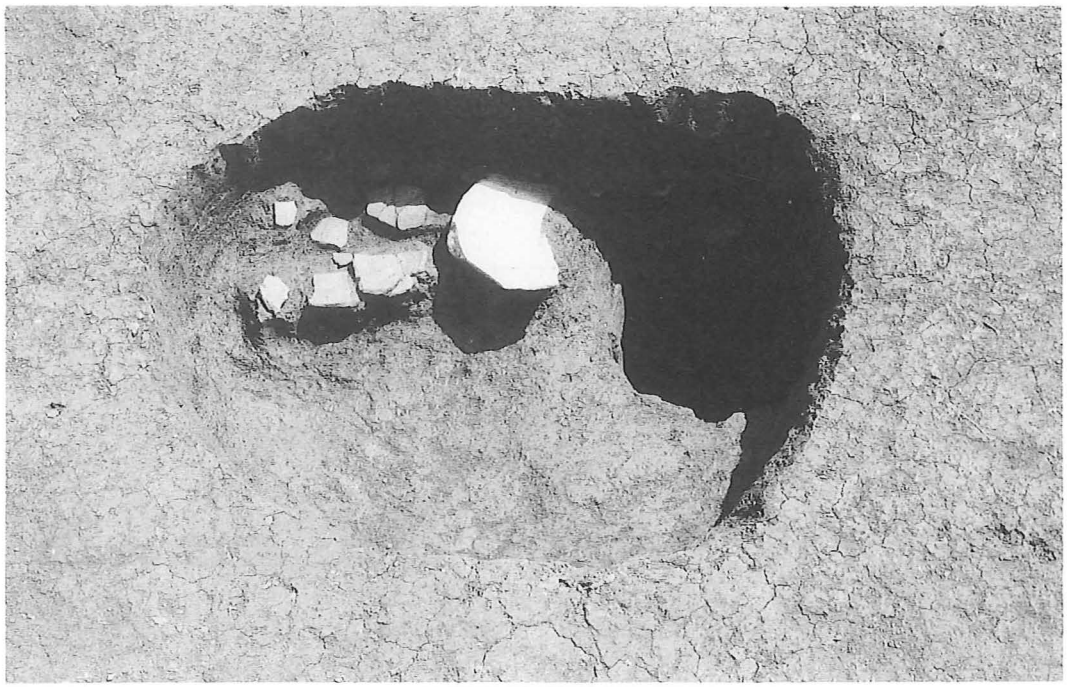



Fig. 6　1号遺構（土壙）（1/20）・（検出状況）



1号遺構（土壙）検出状況

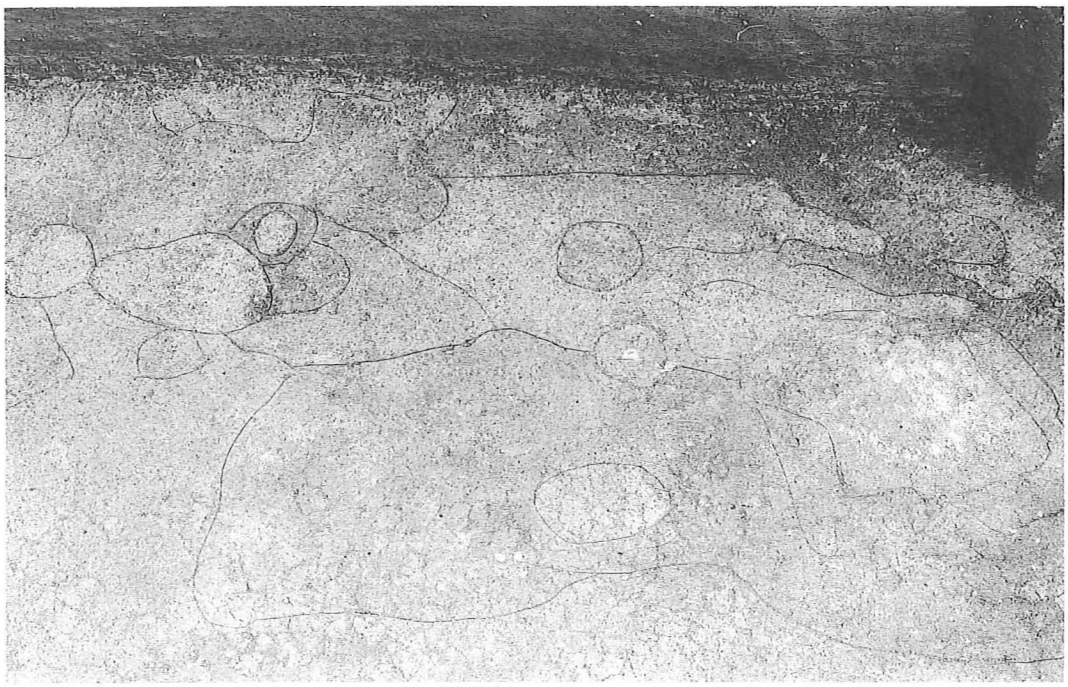
**4号遺構**（建物跡）

Q・R－9・10区で検出した。2間×4間の建物であったと思われる。南側のピットの数が足らないのは，現地の作業員の人の話しでは2枚あった水田を1枚にする為に削平したということで，それでピットが削られたものと推定される。長軸は東西を示すが，北側に30°ふれる。

**5号遺構**（土壙墓）

Fig. 7　中世時代の建物跡及びpit群・土壙墓

Fig. 8　2号遺構（焼土塊）(1/40)・(検出状況)



2号遺構(焼土塊)検出状況

同上、掘り方

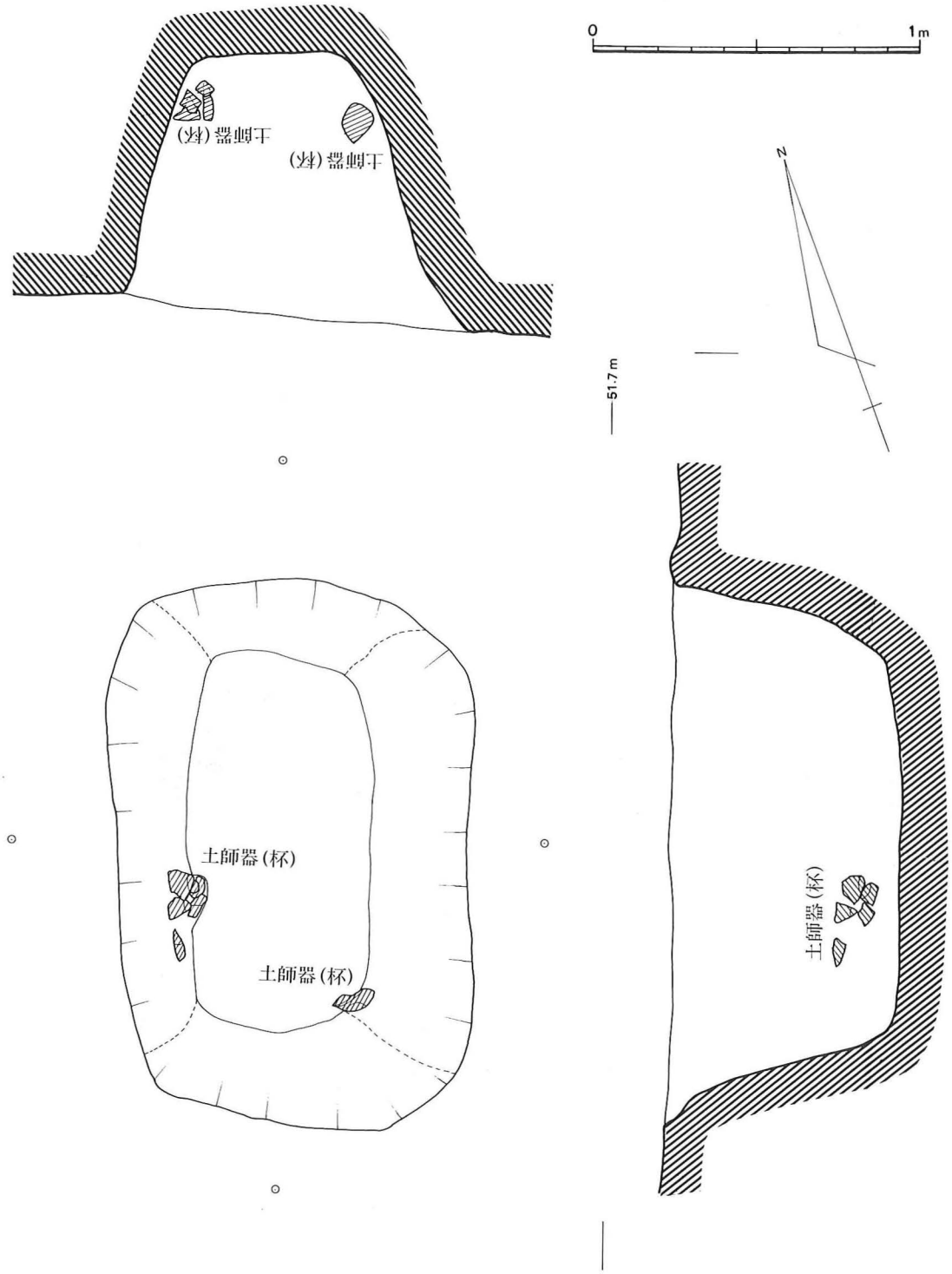
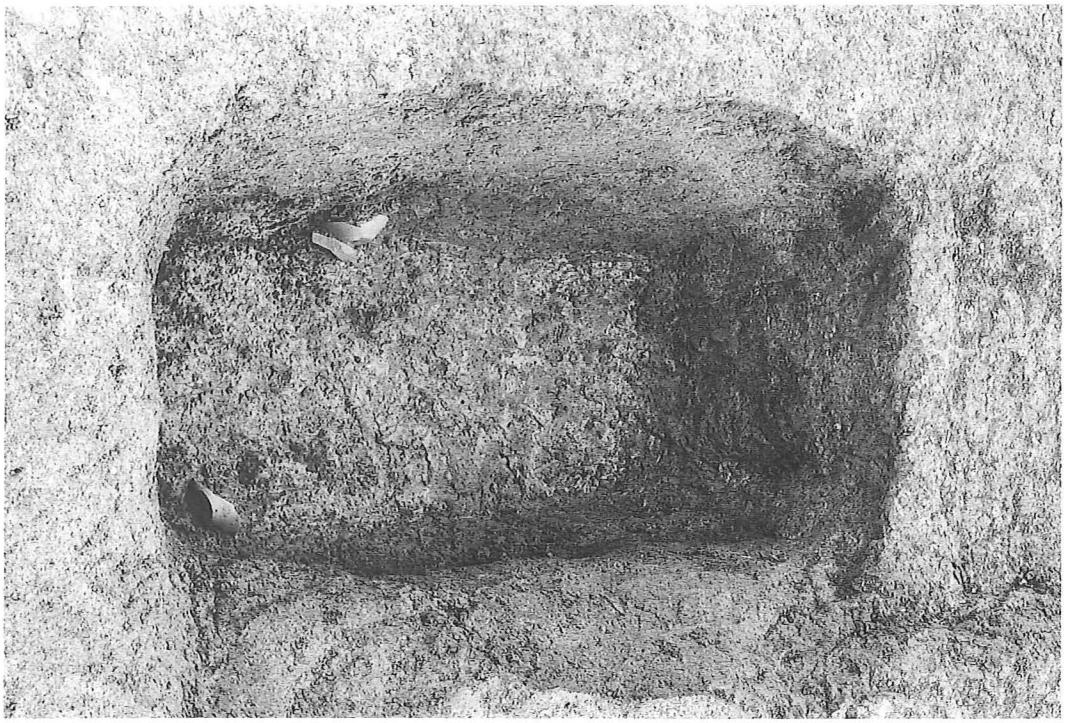



Fig. 9　3号遺構（土壙墓）(1/20)・(検出状況)



3号遺構（土壙墓）

3号遺構（遺構内出土遺物）

T－10区で検出した。長軸長，167cm，短軸長，97cm，深さは遺構検出面から42cmを計る。土壙墓の中からは，北東の隅から石を１個検出したのみで，出土遺物等は無い。長軸は南北を示すが，東側に26°ふれる。

**6号遺構**（土壙墓）

5号遺構と肩を並べる様に作ってあった。長軸は南北を示すが，東側に17°ふれる。土壙墓の中には，９個の石があったが，皆，平べったい石で床面にふせた状況であった。この上に木棺をのせたものであろうか。

**7号遺構**（建物跡）

7，8号遺構は建物跡である。大きさは両方とも２間×４間である。第７号遺構は，U・V－10・11・12に位置する。長軸は南北を示し，東側へ30°ふれる。V－11区のP２からすり鉢と，磁器の鉢が出土している（Fig.28）。また，V－10区，P１からは唐津の溝縁皿（Fig.27）が出土しているところから，江戸時代前期の遺構であろう。

**8号遺構**（建物跡）

V・W・Xの10・11・12区に位置する。長軸は７号遺構の建物跡と同じく，ほぼ南北を示すが，東へ30°ふれる。V－11区，P４から寛永通宝が５枚出土した。タイプとしては古寛永の古い型式のものである。ところで，この，7，8号遺構の建物跡は，別個に説明したが，Fig.10の遺構配置図をみてもわかるように，長軸のふれが30°と同じであり。また，東西ラインの柱が意識的に合せて作られている。恐らく，この7，8号遺構は，連結して作られていたのではないだろうか？。出土遺物の時期からすると，７号遺構の方の，V－10区，P１出土の唐津の溝縁皿が古いようにも思われるが，また，８号遺構の北側に排水路が検出されたことから，炊事場を想定してみた。

**9号遺構**（建物跡）

X・Y－12・13区において検出した。建物としては，３m×４mの比較的小規模なものと思われる。排水路が検出されたので，洗場的なものではなかろうか？因みに，５号～９号遺構は南北位置から東へ30°前後ふれるほぼ同じ向きを示している。

**10号遺構**（柱穴群）

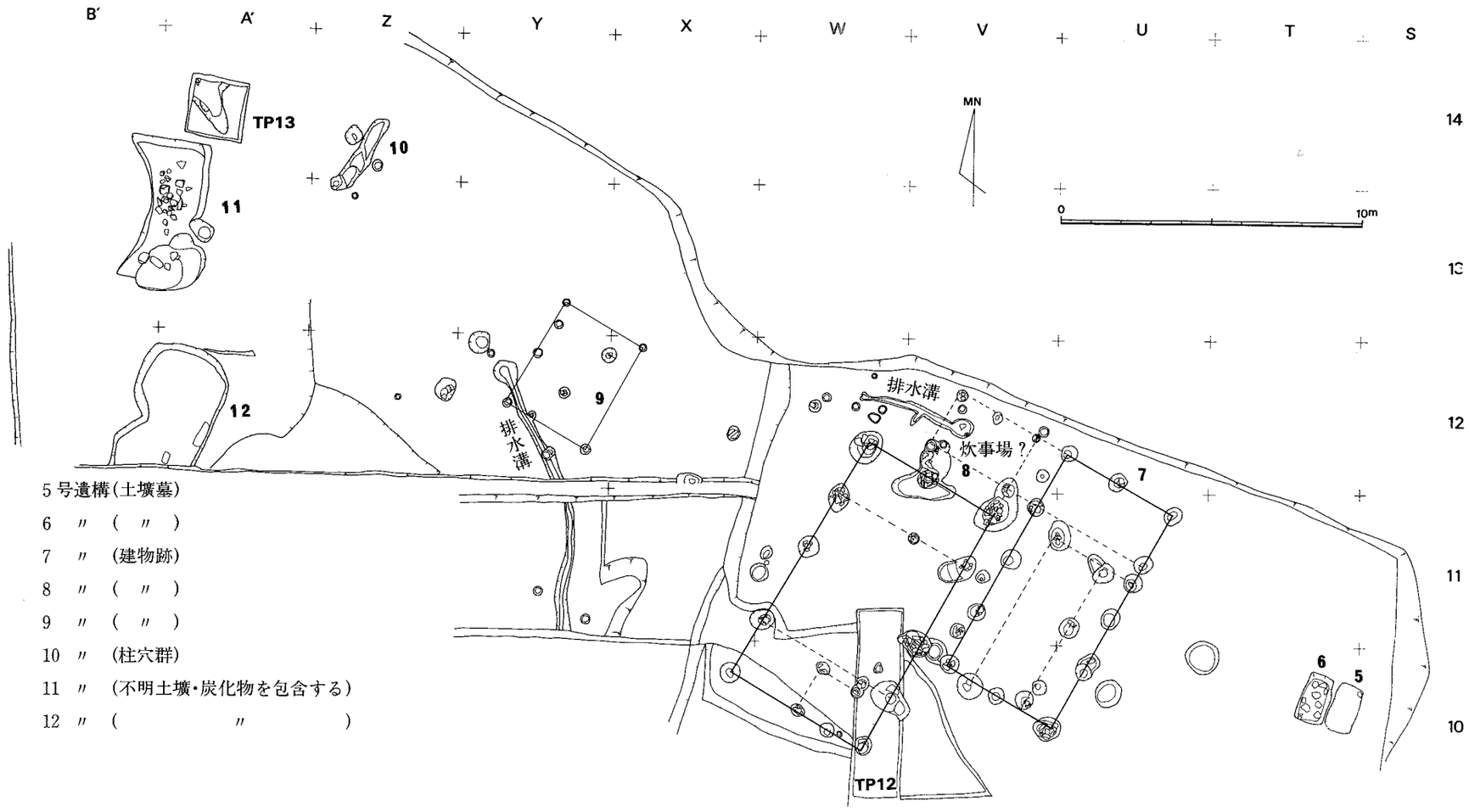
Z－13・14区に位置する。時期，性格等は不明である。

**11号遺構**（不明土壙）

A′・B′－13・14区において検出した。南北長，５m，東西長，３m程の略方形の土壙である。土壙内から炭化物とともに，甕の破片を多数検出した。

**12号遺構**（不明土壙）

A′・B′－12区において検出した。土壙の南端は，土層観察用の畦の中に入ってしまうので，推定値であるが長軸長５m，短軸長３m程の，平面形が略方形の土壙である。窪み状の土壙で，深さは，さほど深くない。（村川）




5 号遺構(土壙墓)
6 〃 ( 〃 )
7 〃 (建物跡)
8 〃 ( 〃 )
9 〃 ( 〃 )
10 〃 (柱穴群)
11 〃 (不明土壙・炭化物を包含する)
12 〃 ( 〃 )

Fig.10 近世建物跡及びpit群・土壙墓 (1/200)

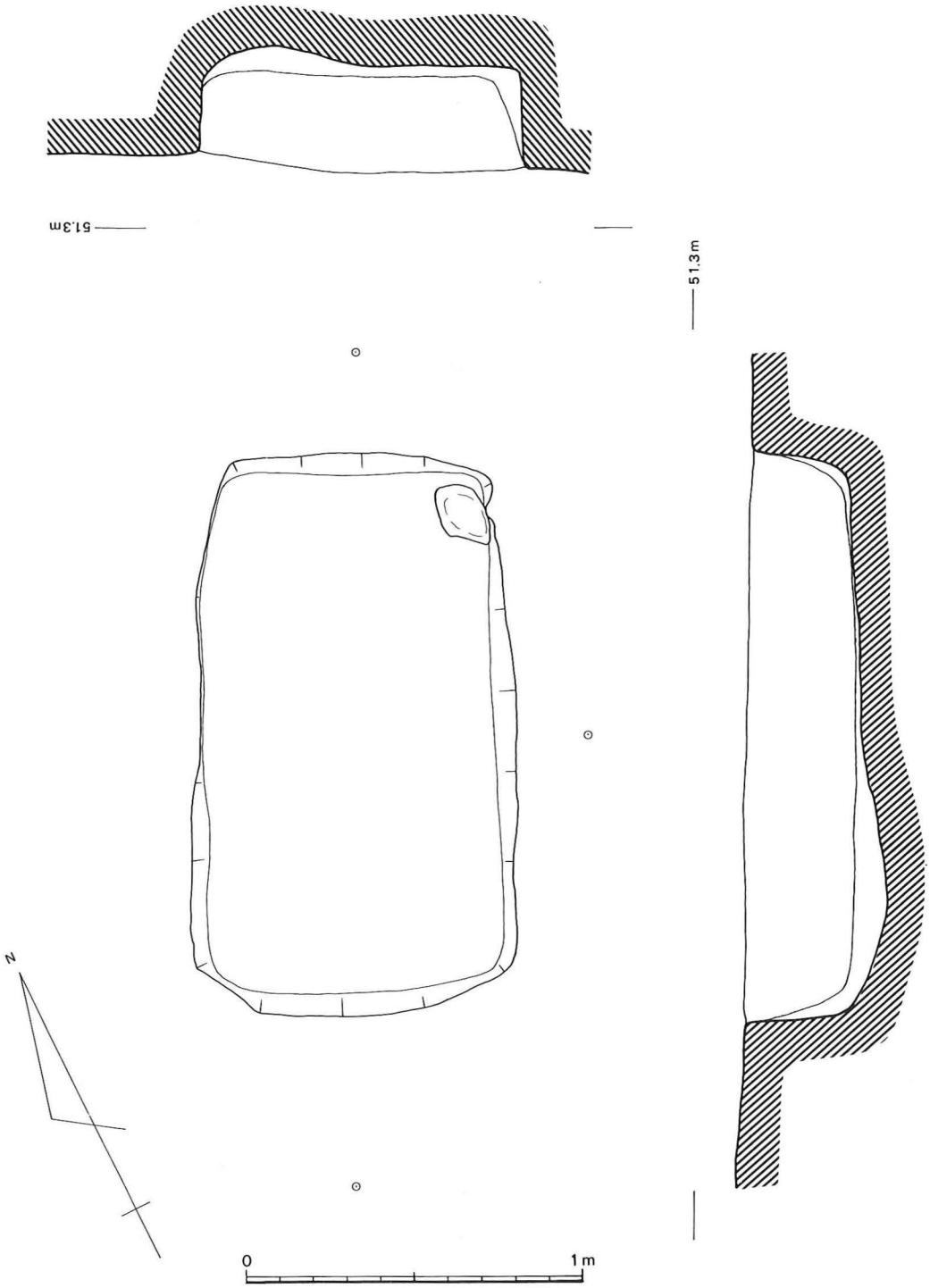
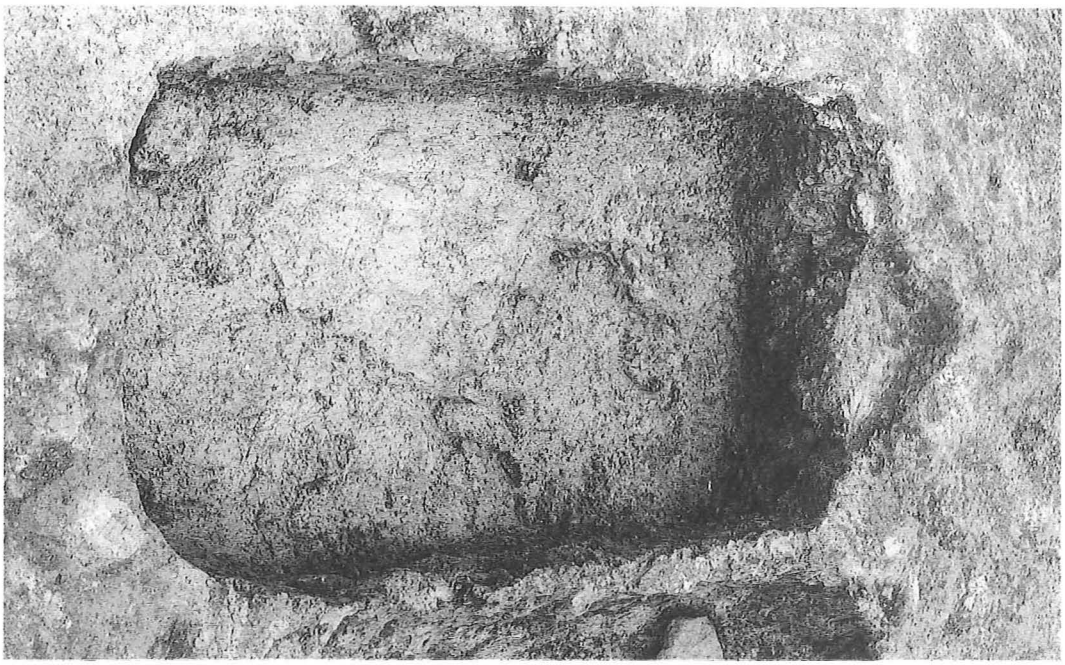
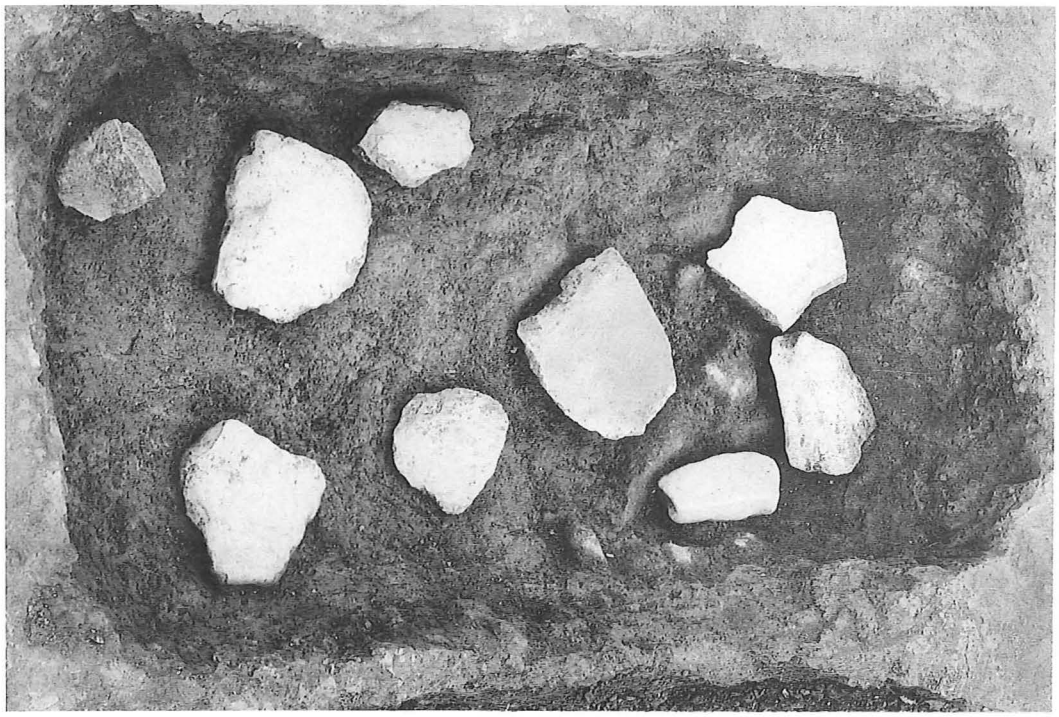



Fig.11　5号遺構（土壙墓）（1/20）



5号遺構（土壙墓）



6号遺構（土壙墓）

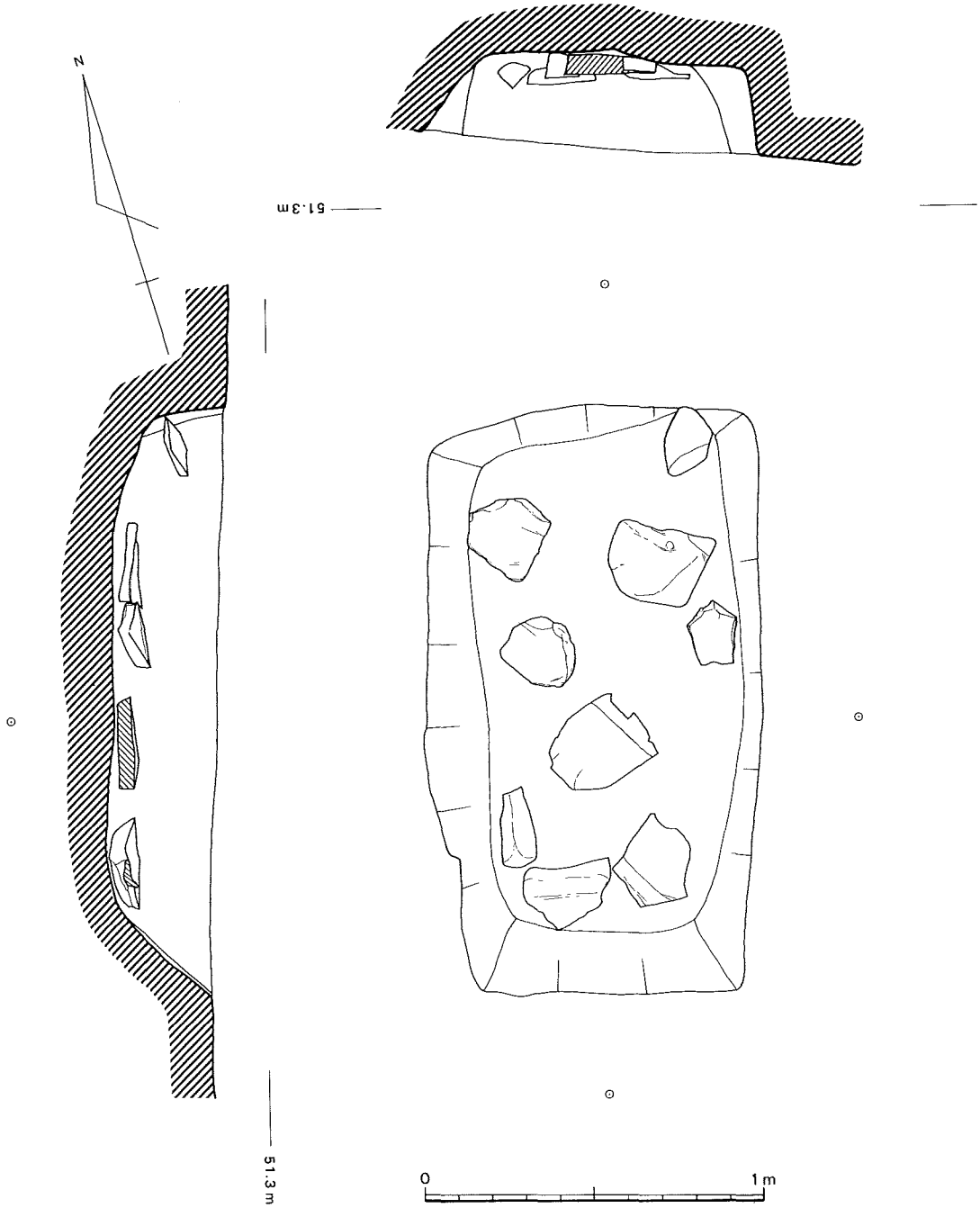



Fig.12　6号遺構（土壙墓）(1/20)

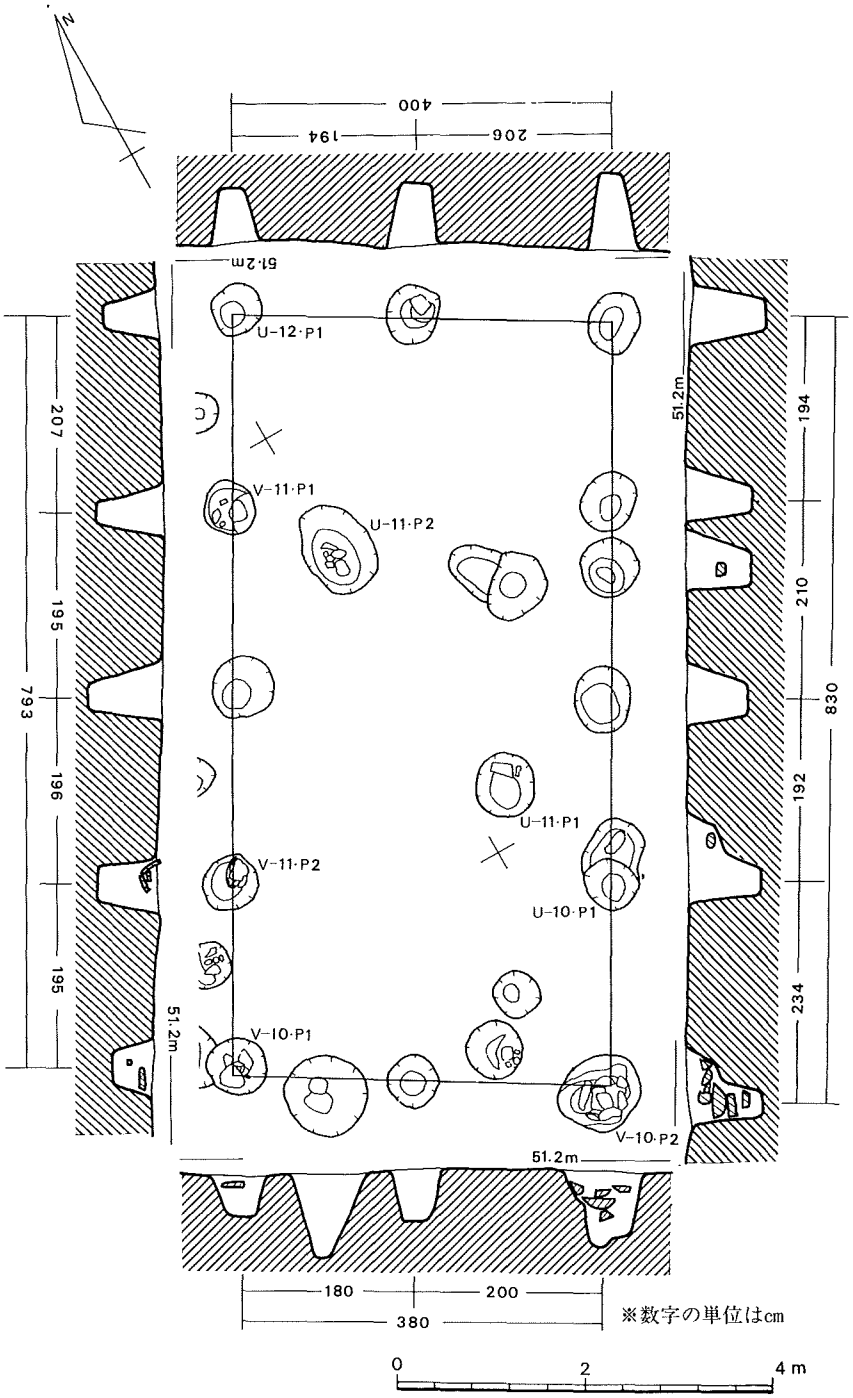
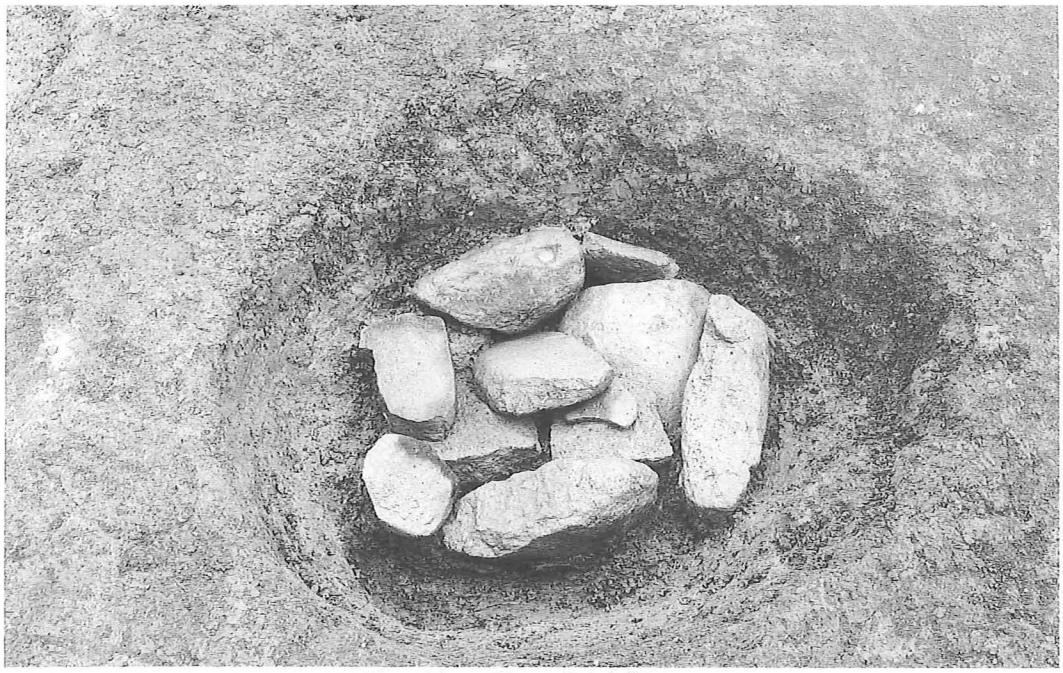



Fig.13　7号遺構（建物跡）（1/80）

V－10区　　Pit 1　唐津皿出土状況



V－10区　　Pit 2　柱穴内集石

7号遺構（建物跡）

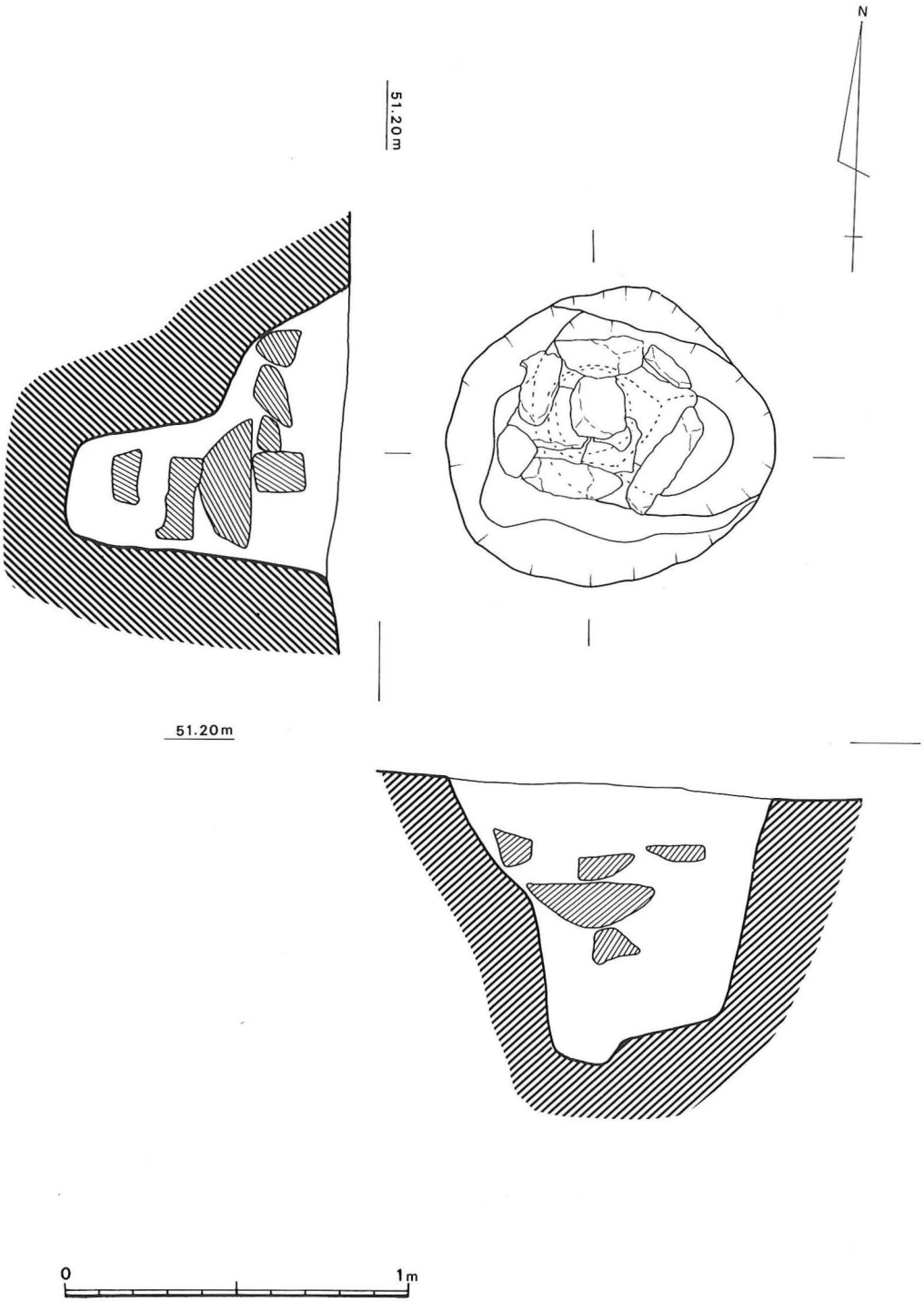



Fig.14　V－10区・pit 2　(1/20)

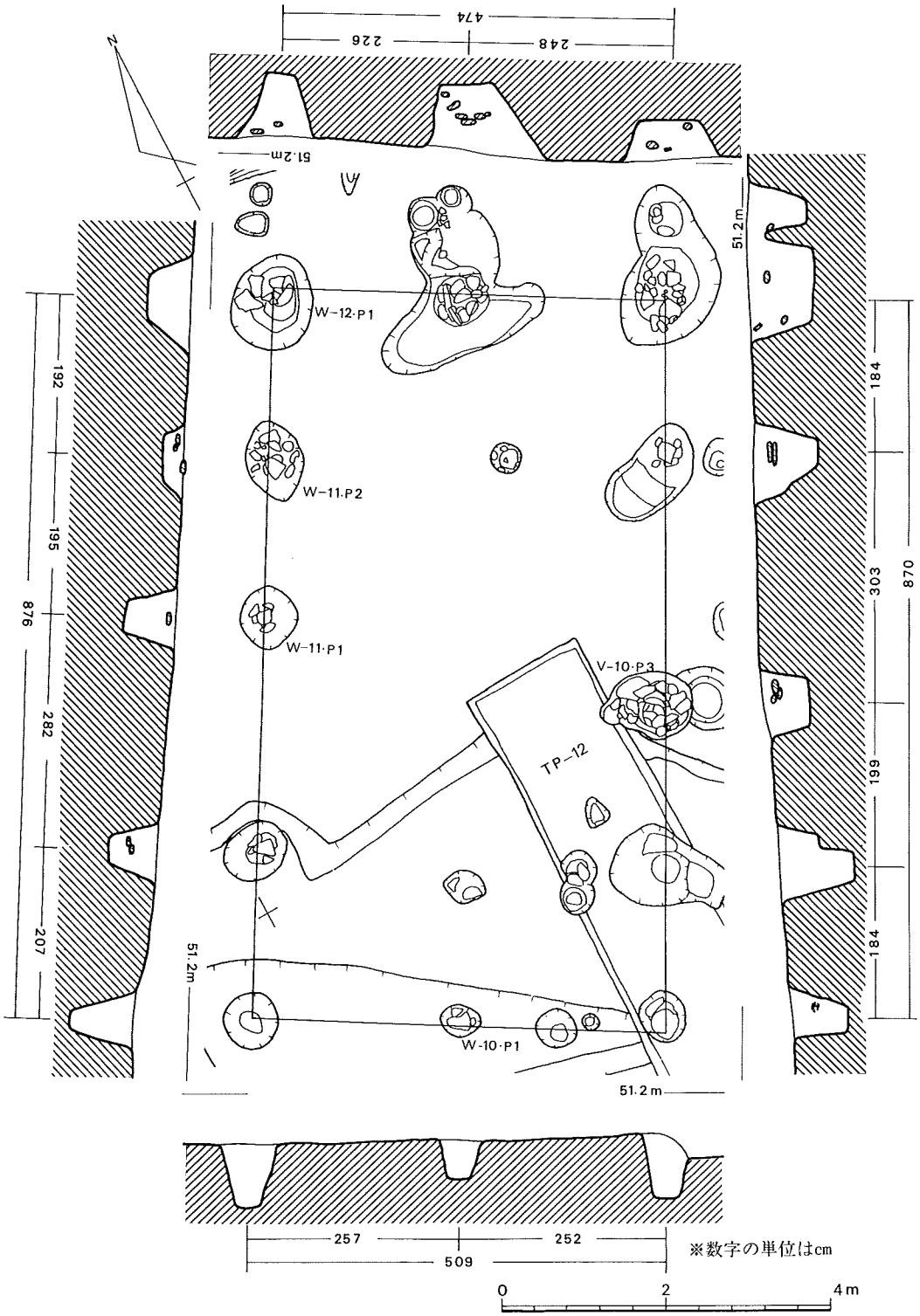



Fig.15　8号遺構（建物跡）（1/80）

# III　出土遺物

## 1．野中墓地

移転後，掘り下げた穴の縁が壊れ，土瓶１点が現われたのを，野中遺跡の第一次調査中に発見され，施主の方が，もち帰り祀られている。扁平な形の陶製の土瓶で，胴最大径が，20cmほどの大きさである。弦は有機質であったのか残っていない。内部に骨は込っていなかったとのことであるので，民俗学的にいう後産を墓地に埋めるという風習との関連が推測できよう。

（宮崎）

## 2．第一次調査

出土遺物は第３層黒灰褐色土層に縄文晩期，中世の陶磁器片が混在して出土し，第４層淡黄灰色粘質土層に縄文晩期の遺物が若干出土した。遺物の出土状況より，第４層は縄文晩期の文化層で，中世の遺構群の構築の際に破壊されたものと考えられる。また，次年度調査予定範囲の表土剝ぎに伴い，調査区内に中世の遺構群が検出されており，更に拡がることが予察された。

（副島）

### ①　土器

第一次調査では土器は６点出土している。試掘穴TP－11，TP－16，TP－20の２層よりそれぞれ１点ずつ，TP－19の２層より３点の出土である。小片ながら観察した所では，夜臼式の中でも比較的新しい時期の，刻み目凸帯文土器がほとんどである。おそらく縄文時代晩期から弥生時代初期にかけてのものであろう。

**歴史時代の遺物**

**歴史時代の土器**（Fig.16）

**1**は，TP－４から出土した土師小皿である。焼成良好で，赤っぽい茶色をしている。胎土には，赤色粒子・白色粒子がみられる。口縁部はヨコナデ仕上げになっており，体部下半で屈曲を持つ。底部は，上げ底気味である。口径6.9cm，器高1.8cm，底部1.9cmを測り，拓本は不鮮明であるが，回転糸切りである。**2**は，土師質杯である。暗赤色～暗橙色を呈しており，1.0～2.0mm位の赤色・黒色・白色粒子が混入している。焼成良好で，外側部分には，ススらしきものも見られる。回転糸切りで，底径は8.6cmを測る。この他，中世の土器は，主なものですり鉢片１点を含む土師質土器片が５点，東播磨系のこね鉢の玉縁口縁部分を含む須恵質土器片が３点，瓦器質椀片１点，瓦質土器片２点が出土している。

**輸入陶磁器**

**3**は，明の染付。碁笥底の皿である。貫入も多く入っている。内側底の部分には文字が記されており，文字は，『福』か『寿』のいずれかであると思われる。底径は，4.2cmを測る。**4**も明の染付の小椀である。端反りの口縁部を持ち，全体的に非常に薄い。青っぽい灰白色をして

おり，口径は，10.0cmを測る。また外側に文字が書かれているが，はっきりしない。『璧』の字のみは，読み取れる。『璧』は『へキ』と読み，『璧玉』とは『平なドーナツ形の玉』を意味する。前の字は『金』か。PL.**10**の**10**は，あまりに小片のため図面には載せなかったが，高麗青磁である。梅瓶の胎部の破片で，白と黒の象嵌である。貫入あり。その他，輸入陶磁器と思われるものは，あまりに小片であるが，次にあげる35点を数える。明染付の椀が４点，皿が２点，また，白磁の椀８点。そのうち１点は，玉縁の口縁を持つ。白磁の皿片が２点。青磁では，同安窯系の椀１点，龍泉窯系の椀13点，杯１点である。陶器では，黒釉のもの１点，緑釉のもの１点，無釉のもの２点がある。

**近世の遺物**（白磁・石鍋・円盤状陶磁製品・釘・銭等）

**5**は白磁皿である。釉がうすくかかっている。外側表面は釉がはじけて，ブツブツしている部分もある。見込蛇ノ目ハギである。内側蛇ノ目部分には，重ね焼きの跡がついている。また高台には砂粒が付着している。17世紀後半～18世紀前半のものであると考えられる。口径は，

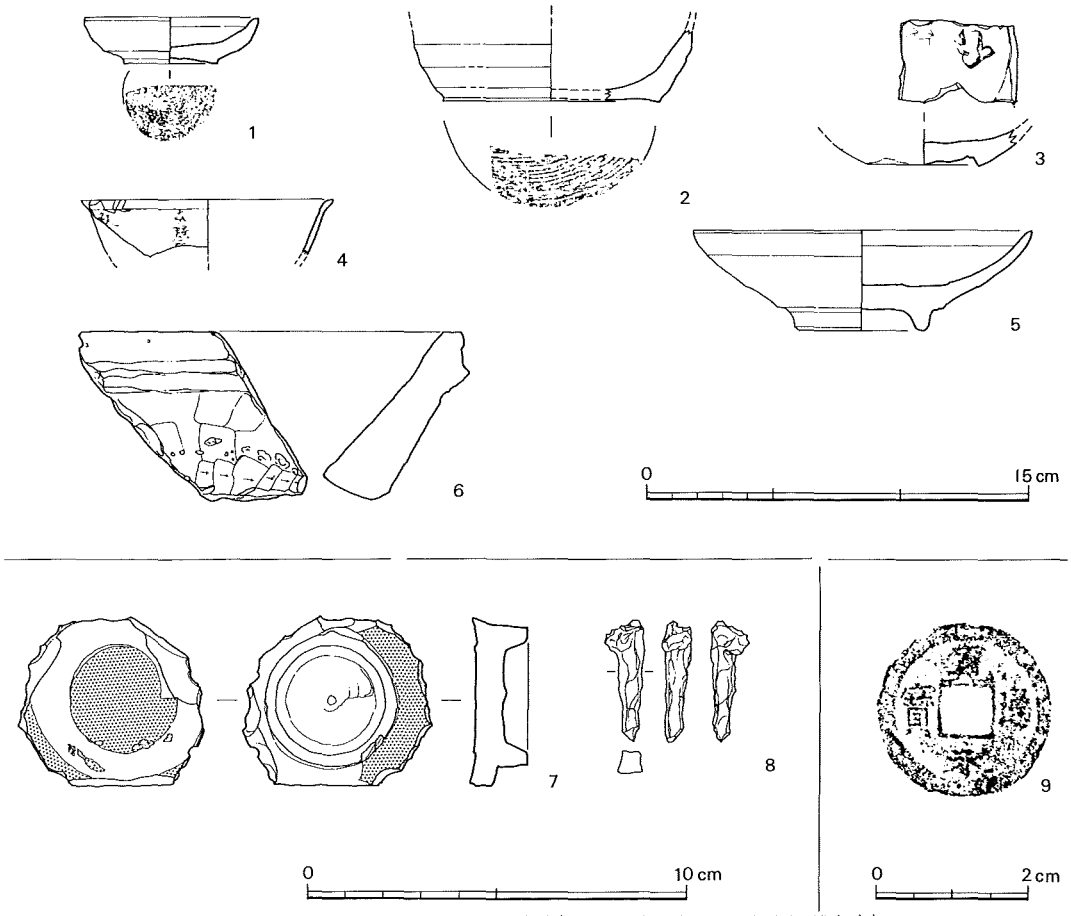



Fig.16　第一次調査出土、陶磁器・石鍋(1/3)円盤状陶磁製品・釘(1/2)・銭(1/1)

13.4cm，器高3.9cm，底部5.0cmを測る。**6**は，石鍋片である。滑石を石材として用いている。表面には付着物があり，削りの観察が難しいが，手斧の痕跡が僅かながら認められる。底は浅く比較的時代の新しいものであろう。**7**は，円盤状陶磁製品で，第一次調査での出土は１点である。蛇ノ目ハギの緑釉陶器の茶碗を利用して作られたもので，遊戯具として使用されたと思われる。メンコか。高台部分が残っており，底径3.5cmを測る。重さは32.5ｇ。使用陶器から，近世のものと思われる。**8**は鉄釘である。断面はほぼ四角形。錆による腐食が進行しているが原形は理解できる。TP－12から出土した。第二次調査区域Ｔ－10区には近世の木棺墓らしき土壙があり，またTP－12の周辺には，柱穴も多く出土しており，それらの建築物に使用された可能性も考えられる。**9**は，TP－９より出土の寛永通宝である。他に近世陶磁器片も第一次調査で出土している。

② 石器（Fig.17～21）

器種別にみると，スクレイパー，加工痕ある石器，使用痕ある剝片，つまみ形石器，石槍，石斧，敲石，石核，剝片，石鏃などが出土している。ほとんどが撹乱されている表土からの出土である。

**・スクレイパー（１～６）**

大型のスクレイパーである**1**は，安山岩質の石材を使用している。荒い感じであるが，よく調整されている。裏面は主要剝離面となっており，背面・打面は，ともに自然面である。断面は鋭角の刃部を持つ二等辺三角形状になる。また形態的にはノッチド・スクレイパー（**3**），ラウンド・スクレイパー（**5**）といったものも出土している。

**・加工痕ある石器（７～８）**

**7**は黒曜石製で，左側辺には二次加工が見られる。また表面の一部に自然面が残っており，石器の上部には丁寧な調整が施されている。**8**は，上部が破損している。整形は表裏とも，よく調整されている。

**・使用痕ある剝片（９～12）**

**9**は，下部が破損しているが，左側辺に使用痕が認められ，刃部は薄い。**10**・**11**は，側辺から下辺にかけて使用痕が残っている。**12**は，縦長剝片を使用。長辺の背面のみに使用痕が形成されている。刃部の反対の側辺には，自然面が残る。

**・つまみ形石器（13）**

石材は安山岩を使用しており，全体的にパティナで覆われている。親指大の刃器状剝片を両面から調整している。抉り部分から切断されているが，折れ面から見て後世のものである。刃器状剝片部分の断面は，レンズ状になっている。

**・石槍（14）**

基部の他は，折れて残っていない。両側辺から大きな剝離調整が行なわれている。断面は菱形で厚みもある。石材は灰色の黒曜石。

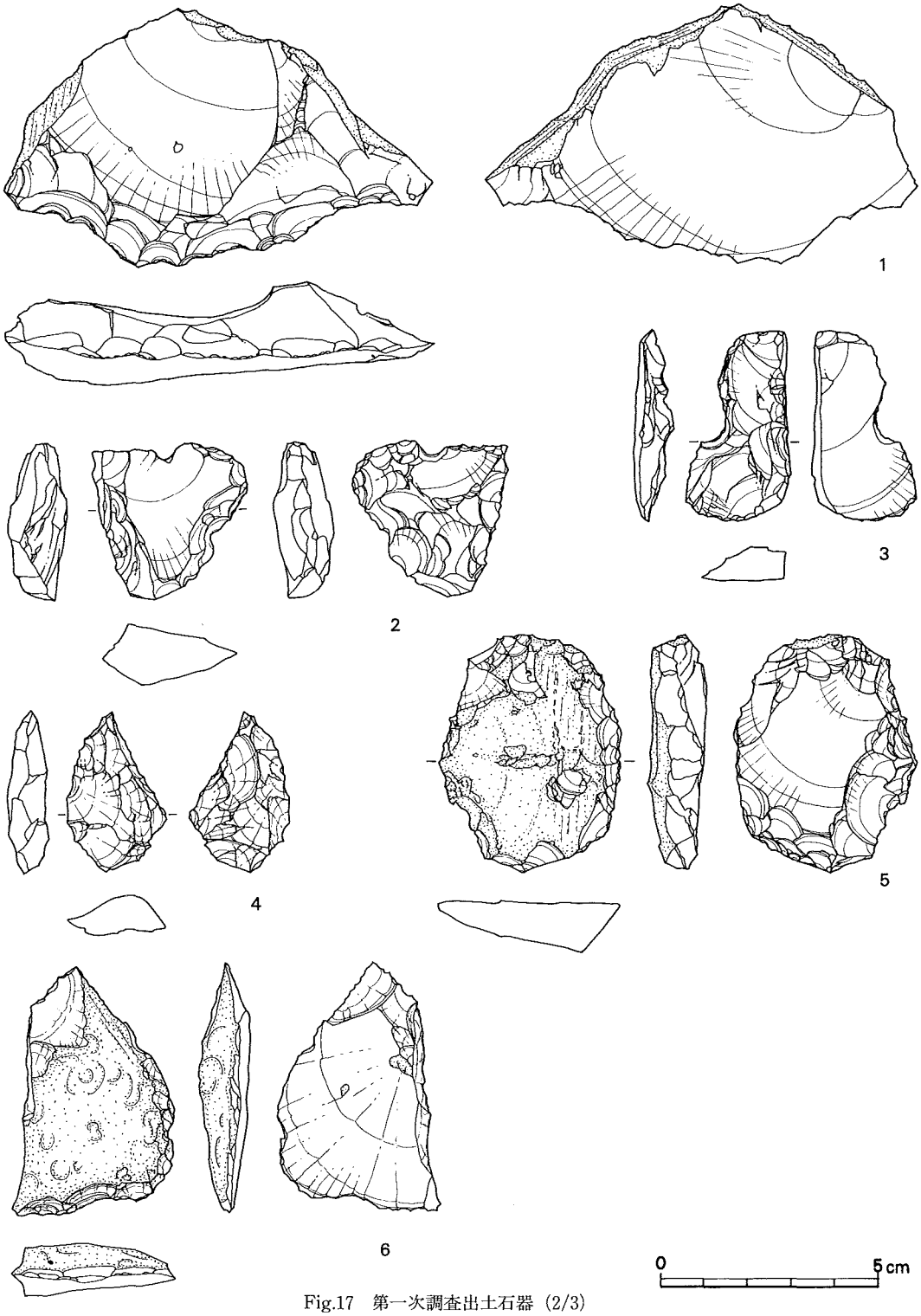



Fig.17　第一次調査出土石器（2/3）

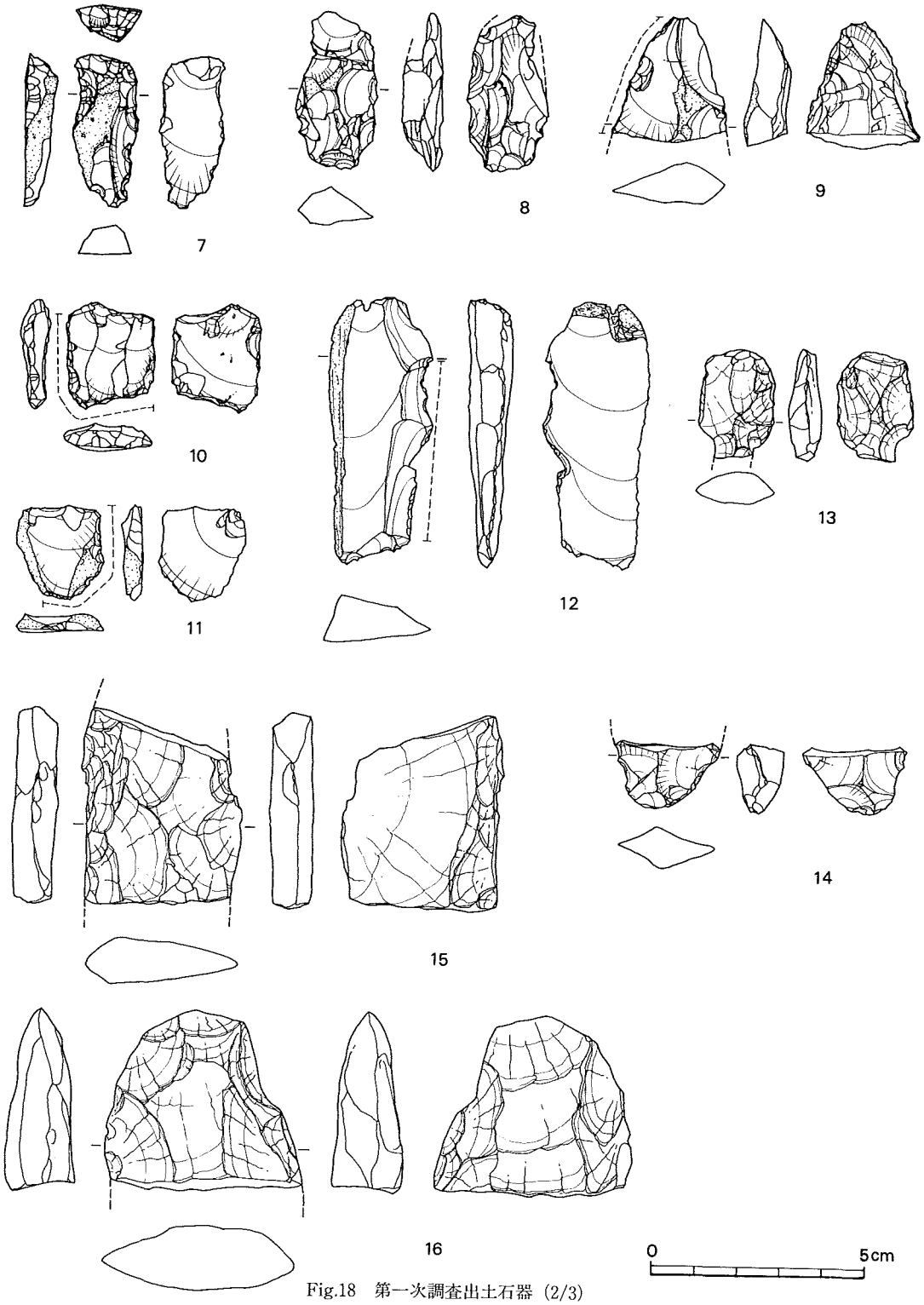



Fig.18　第一次調査出土石器（2/3）

**・石斧（15～16）**

安山岩製のものが，２点出土している。**15**は，上下端部を欠損している。小型で薄く，残存部分を見る限りでは，短冊形と推定できる。左側縁は両面から，右側縁は表からのみの調整となっている。断面をみても，側縁は，鈍角と鋭角の両方を有する。**16**は，下端部を破損している。先端部は，だんだん細くなっており，断面はレンズ状をなしている。風化が著しく稜線，剝離ともにはっきりしない。

**・敲石（17）**

安山岩製１点が出土している。上下端，また裏面の一部には，敲打した際の剝離がみられ，割れも生じている。大きさは掌にすっぽりと納まる程度のものである。

**・石核（18～19）**

**18**は，透明度のある灰色の黒曜石製である。平坦な自然面を利用し，そこを打面として剝片をとっている。また，打面を平坦にするために調整したと思われる小さな剝離もみられる。薄く扁平な石核である。**19**は，事前に剝離した平坦面を打面として，剝片をとっている。**18・19**ともに，裏はほぼ自然面が占めている。

**・剝片（20～21）**

**20・21**は石材，大きさは異なるが，ともに調整打面からの剝片。調整自体は丁寧である。

石鏃（**22～62**）

第一次調査では63点の出土をみた。そのうち，実測にたえる41点を図面の載せた。また抉りの程度により簡単に３つに分類した。まず，三角形の底辺がふくれたもの(**22～32**)，抉りはほとんど無く三角形に近いもの（**33～45**），三角形がくぼんでいて抉りのあるもの（**46～61**）である。(**22～32**)では石材，大きさ，形など様々であるが，基本形として，三角形の底辺がふくれるのは共通している。ただし，他の２種類に比べると，**26～32**のように大型で厚いものが多いように思われる。(**33～45**)において，ほぼ三角形を呈するこのタイプは，図面に載っていないものを含めて，20点出土している。**34**を除いては，大きさも平均しており薄型が多い。(**46～61**)では抉りの深さ，石鏃の大きさに差はある。しかし，いずれも抉りを入れ脚部を持つ点で共通している。**53**は，この中でも大きいもので，正三角形に近い。**55～58**は，その点からみると二等辺三角形をしている。**59～61**は，同じ形でも，かなり小形である。これらのほとんどは，表裏にまんべんなく調整を施しており，非常に丁寧なつくりである。**22～61**までは，打製石鏃であるが，この調査でも**62**の１点のみ，局部磨製石鏃が出土した。なお，脚部を損失し分類できなかったものは，**62**を含めて10点を数える。（小野）

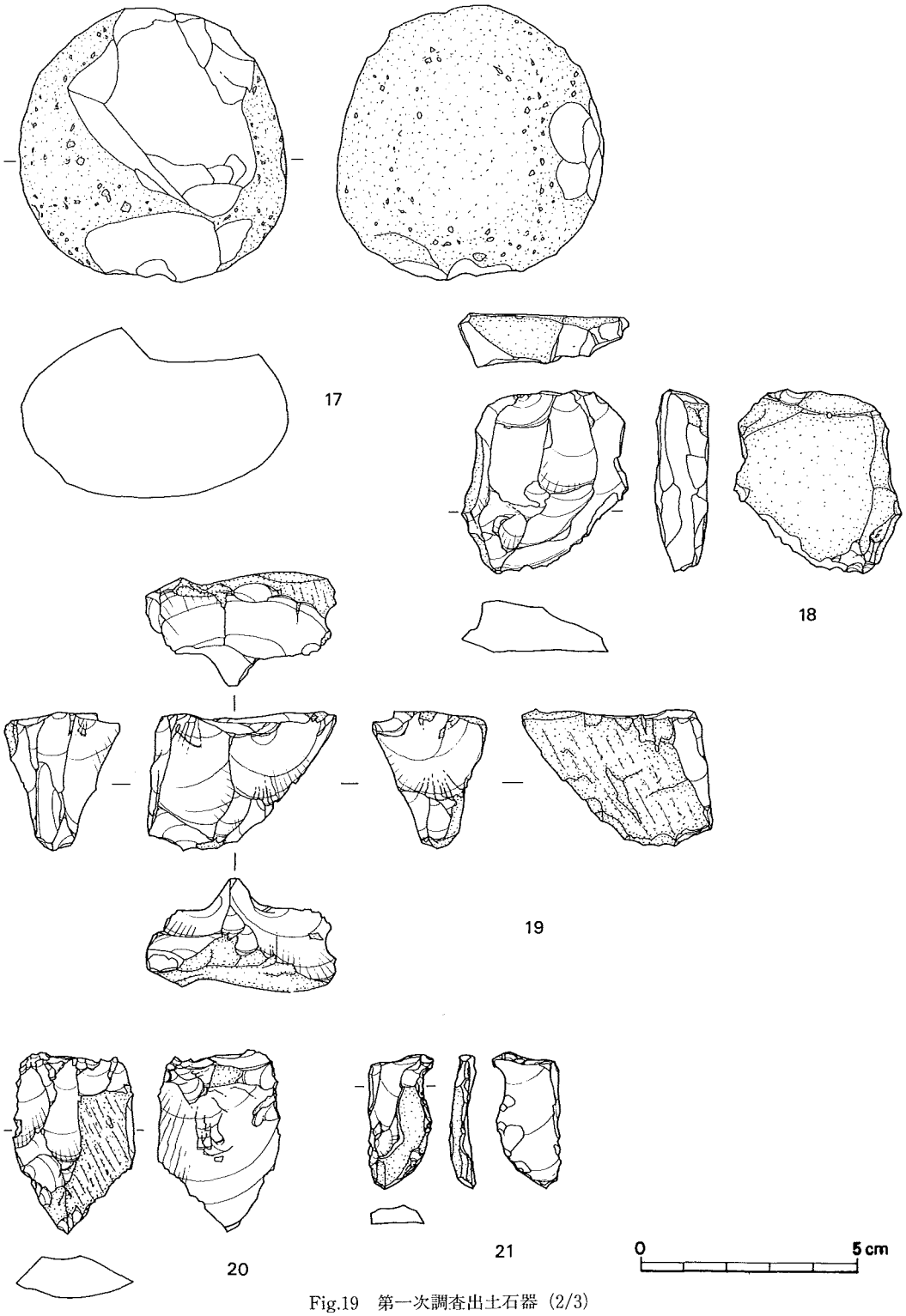



Fig.19　第一次調査出土石器（2/3）

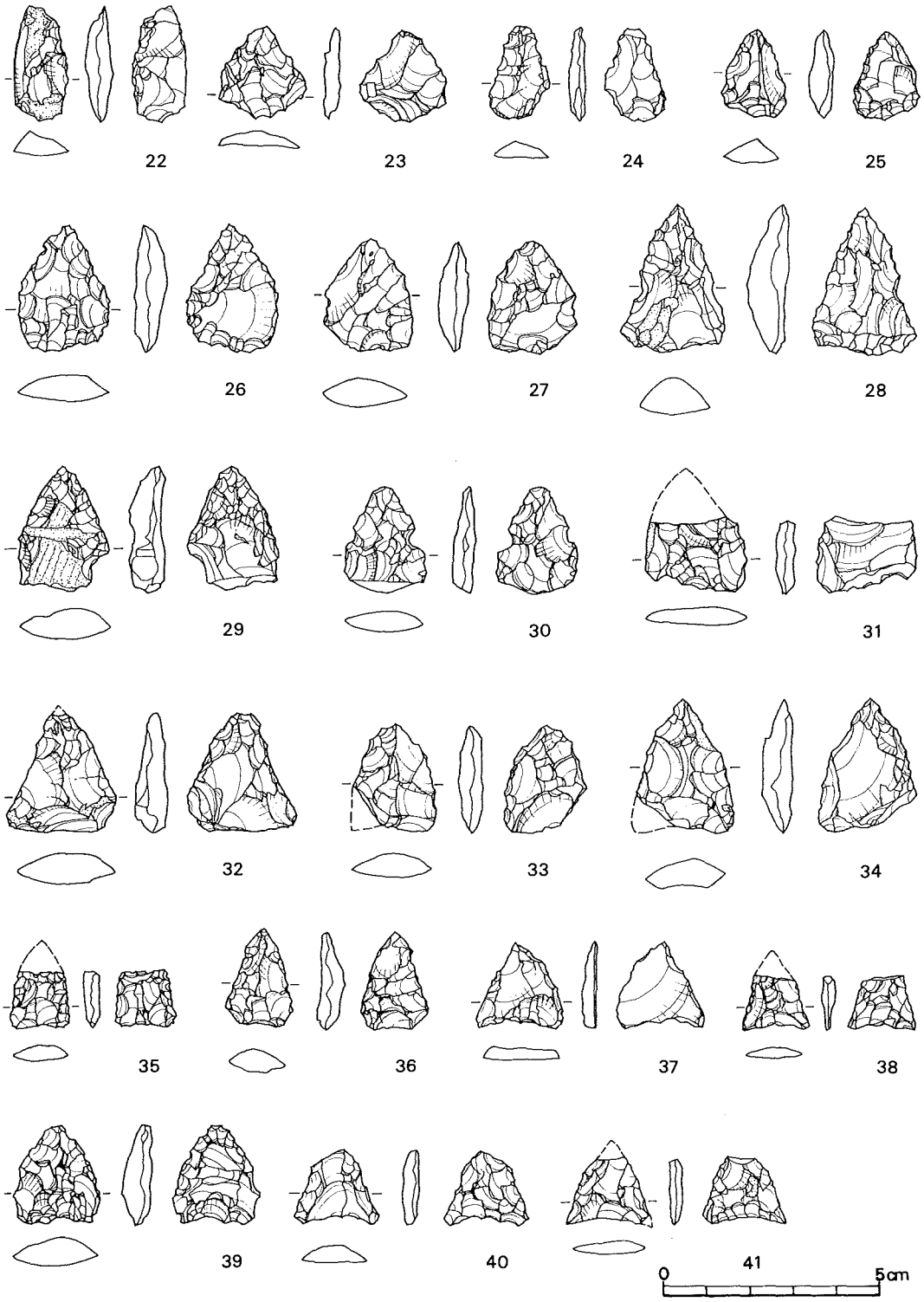



Fig.20　第一次調査出土石器（2/3）

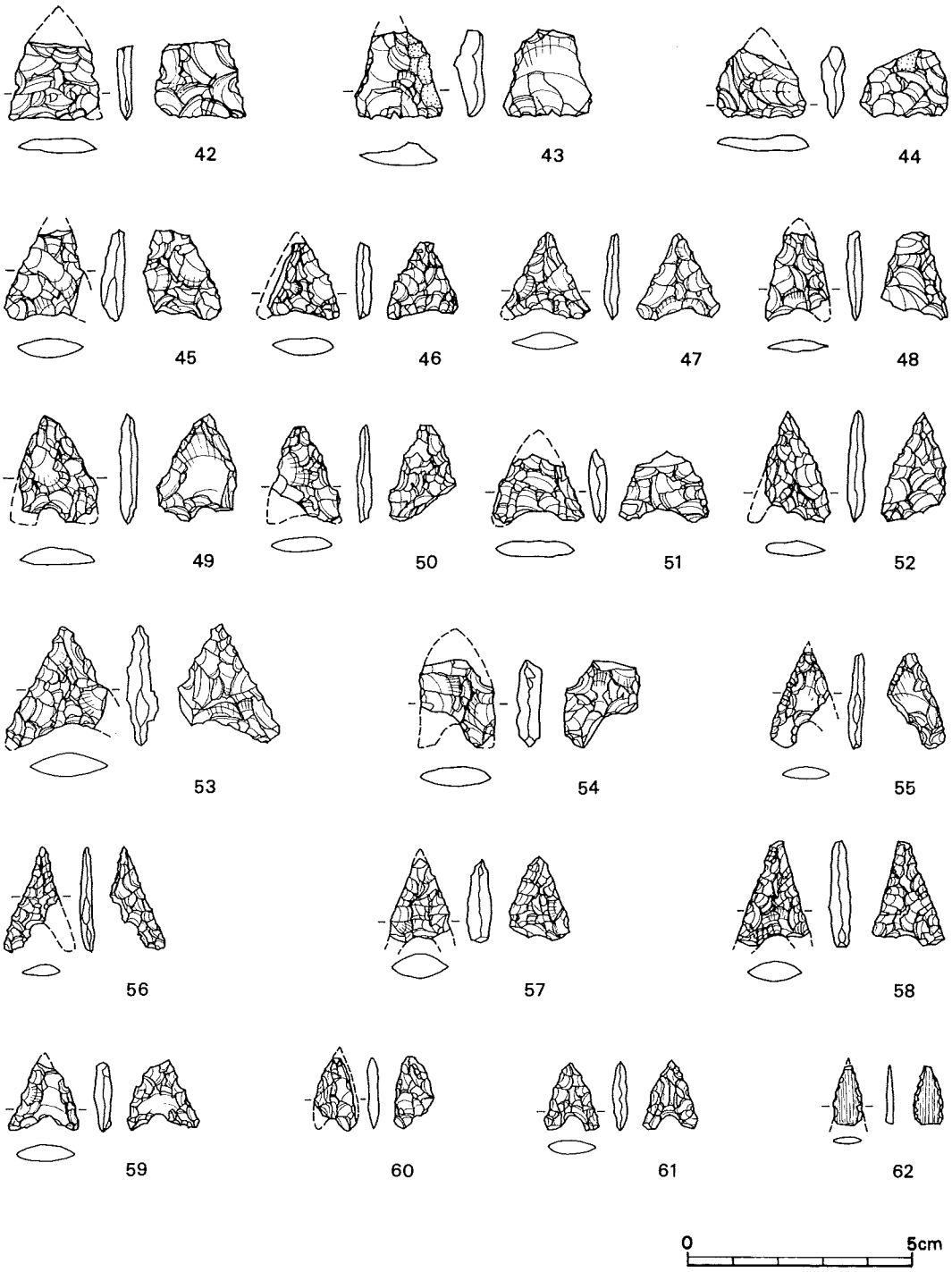



Fig.21　第一次調査出土石器（2/3）

Tab. 1　第一次調査出土石器計測表　※〈　〉は実数

| 挿図番号 | 出土区 | 器　種 | 石　材 | 重さ (g) | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | TP−10 | スクレイパー | 安山岩 | 96.0 | 6.0 | 9.9 | 1.9 | 打面は自然面 |
| 2 | 12 | 〃 | 灰色ob | 14.0 | 3.6 | 3.6 | 1.3 | |
| 3 | 19 | 〃 | 安山岩 | 9.0 | 4.3 | 2.4 | 0.8 | ノッチド・スクレイパー |
| 4 | 10 | 〃 | 〃 | 6.3 | 3.6 | 2.3 | 0.8 | |
| 5 | 10 | 〃 | 黒色ob | 30.0 | 5.5 | 4.2 | 1.1 | ラウンド・スクレイパー |
| 6 | 10 | 〃 | 安山岩 | 24.0 | 5.7 | 3.7 | 1.1 | |
| 7 | 4 | 加工痕ある石器 | 黒色ob | 3.8 | 3.5 | 1.5 | 0.7 | 一部に二次加工有り |
| 8 | 23 | 〃 | 安山岩 | 6.2 | 3.6 | 1.9 | 0.9 | |
| 9 | 11 | 使用痕ある剝片 | 灰白色ob | 〈5.5〉 | 〈3.0〉 | 〈2.6〉 | 0.9 | |
| 10 | 25 | 〃 | 黒色ob | 4.0 | 2.5 | 2.0 | 0.6 | |
| 11 | 24 | 〃 | 〃 | 2.0 | 2.2 | 2.0 | 0.4 | |
| 12 | 25 | 〃 | 灰青色ob | 16.0 | 6.2 | 2.4 | 1.0 | |
| 13 | 不明 | つまみ形石器 | 安山岩 | 〈4.0〉 | 〈2.6〉 | 1.3 | 0.7 | パテナ有り |
| 14 | 5 | 石槍 | 灰青色ob | 〈3.0〉 | 〈1.6〉 | 〈1.5〉 | 〈1.0〉 | |
| 15 | 不明 | 石斧 | 安山岩 | 〈23.0〉 | 〈4.6〉 | 3.8 | 1.1 | |
| 16 | 12 | 〃 | 〃 | 〈34.5〉 | 〈4.2〉 | 〈4.7〉 | 1.5 | パテナ有り |
| 17 | 12 | 敲石 | 〃 | 200.0 | 6.3 | 6.1 | 4.0 | |
| 18 | 5 | 石核 | 灰白色ob | 23.0 | 4.2 | 3.9 | 1.2 | |
| 19 | 12 | 〃 | 安山岩 | 28.5 | 3.2 | 4.3 | 2.5 | |
| 20 | 10 | 剝片 | 〃 | 12.5 | 4.2 | 2.8 | 1.0 | |
| 21 | 11 | 〃 | 灰白色ob | 3.0 | 3.1 | 1.5 | 0.4 | |

Tab. 2　第一次調査出土石器計測表（石鏃）　※〈　〉は実数

| 挿図番号 | 出土区 | 石　材 | 破損部位 | 重さ (g) | 大きさ (cm) | | | 抉り (mm) | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 深度 | 幅 | |
| 22 | TP−5 | 灰青色ob | 完形 | 1.9 | 2.6 | 1.2 | 0.5 | | | 三角形の底辺がふくれたもの (12/63) |
| 23 | 13 | 〃 | 〃 | 1.2 | 2.1 | 2.0 | 0.3 | | | |
| 24 | 18 | 黒色ob | 〃 | 0.9 | 2.1 | 1.4 | 0.3 | | | |
| 25 | 13 | 〃 | 〃 | 1.2 | 2.0 | 1.5 | 0.5 | | | |
| 26 | 1 | 灰白色ob | 〃 | 4.1 | 2.9 | 2.1 | 0.6 | | | |
| 27 | 5 | 黒色ob | 〃 | 2.9 | 2.5 | 2.0 | 0.7 | | | |
| 28 | 25 | 灰青色ob | 〃 | 5.5 | 3.4 | 2.4 | 1.3 | | | |
| 29 | 20 | 黒色ob | 〃 | 4.4 | 2.8 | 2.1 | 0.7 | | | |
| 30 | 12 | 〃 | 脚部破損 | 〈1.9〉 | 〈2.4〉 | 〈2.9〉 | 0.5 | | | |
| 31 | 15 | 〃 | 先端部破損 | 〈1.9〉 | 〈1.7〉 | 2.3 | 0.4 | | | |
| 32 | 10 | 灰青色ob | 完形 | 4.0 | 2.7 | 2.5 | 0.7 | | | |
| | 16 | 灰白色ob | 先端部破損 | 〈4.4〉 | 〈2.6〉 | 2.4 | 0.8 | | | |
| 33 | 20 | 〃 | 片脚破損 | 〈2.3〉 | 2.4 | 1.9 | 0.5 | 0.1 | 0.2 | |
| 34 | 5 | 灰青色ob | 〃 | 〈4.0〉 | 3.0 | 〈2.2〉 | 0.6 | 0.1 | 〈1.0〉 | |
| 35 | 22 | 黒色ob | 先端部破損 | 〈0.8〉 | 〈1.3〉 | 1.4 | 0.3 | 0.1 | 0.4 | |
| 36 | 1 | 〃 | 脚部破損 | 〈1.4〉 | 2.2 | 〈1.5〉 | 0.5 | 0.1 | 〈0.9〉 | |
| 37 | 19 | 灰青色ob | 完形 | 1.3 | 2.0 | 2.0 | 0.2 | 0.2 | 1.4 | |
| 38 | 16 | 〃 | 先端部破損 | 〈0.6〉 | 〈1.2〉 | 〈1.5〉 | 0.2 | 0.1 | 1.2 | |

※〈 〉は実数

| 挿図番号 | 出土区 | 石材 | 破損部位 | 重さ (g) | 大きさ (cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 抉り (mm) 深度 | 幅 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 39 | TP-25 | 黒色ob | 完形 | 2.6 | 2.3 | 2.0 | 0.6 | 0.1 | 0.5 | 三角形 |
| 40 | 5 | 〃 | 〃 | 0.9 | 1.7 | 2.0 | 0.4 | 0.1 | 0.5 | |
| 41 | 10 | 灰青色ob | 先端部・片脚破損 | 〈0.9〉 | 〈1.5〉 | 〈1.9〉 | 0.3 | 0.1 | 1.1 | |
| 42 | 23 | 〃 | 先端部破損 | 〈1.3〉 | 〈1.6〉 | 2.0 | 0.3 | | | |
| 43 | 20 | 〃 | 〃 | 〈2.0〉 | 〈1.9〉 | 2.0 | 0.5 | | | |
| 44 | 10 | 黒色ob | 〃 | 〈1.2〉 | 〈1.5〉 | 2.0 | 0.3 | | | |
| 45 | 10 | 〃 | 先端部・片脚破損 | 〈2.0〉 | 〈2.0〉 | 〈1.7〉 | 0.4 | 0.1 | | |
| | 12 | 灰青色ob | 完形 | 0.7 | 2.1 | 2.0 | 0.5 | 0.1 | 1.6 | |
| | 5 | 黒色ob | 先端部破損 | 〈0.8〉 | 〈1.3〉 | 〈1.8〉 | 0.3 | | | |
| | 20 | 灰白色ob | 先端部・片脚破損 | 〈0.8〉 | 〈1.2〉 | 〈1.4〉 | 0.4 | | | |
| | 5 | 黒色ob | 先端部破損 | 〈0.6〉 | 〈1.1〉 | 1.6 | 0.3 | | | |
| | 13 | 〃 | 完形 | 0.4 | 1.3 | 1.2 | 0.3 | 0.1 | 0.8 | |
| | 18 | 灰青色ob | 〃 | 1.4 | 2.1 | 1.8 | 0.4 | | | |
| | 5 | 黒色ob | 片脚破損 | 〈0.7〉 | 1.4 | 〈1.8〉 | 0.3 | 0.1 | 1.1 | (20/63) |
| 46 | 17 | 〃 | 先端部・片脚破損 | 〈0.8〉 | 〈1.7〉 | 〈1.6〉 | 0.3 | 0.2 | | 三角形の底辺がへこんだもの |
| 47 | 5 | 安山岩 | 片脚破損 | 〈0.7〉 | 1.8 | 〈1.8〉 | 0.3 | 0.2 | 1.1 | |
| 48 | 12 | 灰青色ob | 先端部・片脚破損 | 〈0.8〉 | 〈2.0〉 | 〈1.4〉 | 0.2 | 0.3 | | |
| 49 | 5 | 黒色ob | 両脚破損 | 〈1.6〉 | 2.4 | 〈1.8〉 | 0.4 | 0.4 | | |
| 50 | 11 | 灰青色ob | 片脚破損 | 〈0.8〉 | 2.1 | 〈1.5〉 | 0.3 | 0.2 | | |
| 51 | 20 | 黒色ob | 先端部破損 | 〈1.0〉 | 〈1.6〉 | 1.9 | 0.3 | 0.3 | 1.1 | |
| 52 | 4 | 〃 | 片脚破損 | 〈1.1〉 | 2.5 | 〈1.3〉 | 0.3 | 0.4 | | |
| 53 | 16 | 灰白色ob | 〃 | 〈2.0〉 | 2.7 | 〈2.2〉 | 0.5 | 0.6 | | |
| 54 | 11 | 黒色ob | 先端部・片脚破損 | 〈1.5〉 | 〈2.0〉 | 1.7 | 0.4 | 0.6 | | |
| 55 | 23 | 灰白色ob | 〃 | 〈0.7〉 | 〈2.1〉 | 〈1.3〉 | 0.3 | 0.6 | | |
| 56 | 10 | 黒色ob | 片脚破損 | 〈0.4〉 | 2.3 | 〈1.3〉 | 0.2 | 0.7 | | |
| 57 | 1 | 〃 | 先端部・両脚破損 | 〈1.1〉 | 〈1.8〉 | 〈1.3〉 | 0.5 | | | |
| 58 | 25 | 〃 | 両脚破損 | 〈1.4〉 | 〈2.3〉 | 〈1.6〉 | 0.5 | | | |
| 59 | 10 | 〃 | 先端部破損 | 〈0.6〉 | 〈1.5〉 | 1.5 | 0.4 | 0.4 | 1.3 | |
| 60 | 4 | 〃 | 先端部・片脚破損 | 〈0.3〉 | 〈1.6〉 | 〈0.9〉 | 0.2 | 0.3 | | |
| 61 | 5 | 灰青色ob | 完形 | 0.4 | 1.5 | 1.2 | 0.3 | 0.3 | 0.6 | |
| | 13 | 黒色ob | 先端部・片脚破損 | 〈0.3〉 | 〈1.4〉 | 1.2 | 0.3 | 0.4 | | |
| | 2 | 〃 | 片脚破損 | 〈0.6〉 | 2.0 | 〈0.9〉 | 0.4 | 0.4 | | |
| | 5 | 〃 | 脚部のみ | — | | | 0.3 | 1.2 | | |
| | 2 | 〃 | 〃 | — | | | 0.3 | 1.1 | | |
| | 20 | 〃 | 〃 | — | | | 0.5 | 1.0 | | (21/63) |
| | 22 | 灰青色ob | 先端部・両脚破損 | 〈2.2〉 | | | 0.6 | | | 破損により分類不可 |
| | 1 | 〃 | 両脚破損 | 〈0.6〉 | 〈1.7〉 | 〈1.3〉 | 0.3 | | | |
| | 4 | 灰白色ob | 先端部・両脚破損 | — | | | 0.2 | | | |
| | 20 | 黒色ob | 〃 | — | | | 0.4 | | | |
| | 10 | 〃 | 〃 | — | | | 0.4 | | | |
| | 11 | 灰白色ob | 〃 | 〈0.9〉 | 〈1.2〉 | 〈1.5〉 | 0.5 | | | |
| | 19 | 黒色ob | 〃 | — | | | 0.5 | | | |
| | 25 | 灰白色ob | 〃 | 〈0.6〉 | 〈1.2〉 | 〈1.3〉 | 0.4 | | | |
| | 10 | 黒色ob | 両脚破損 | — | 〈1.3〉 | 〈0.9〉 | 0.3 | | | (10/63) |
| 62 | 5 | 灰白色ob | 両脚破損 | 〈0.2〉 | 〈1.3〉 | 〈0.6〉 | 0.2 | | | 局部磨製 |

3．第二次調査

① 土器

**縄文・弥生時代の土器** (Fig.22～24)

**1** は外面黒色を呈し，突帯貼付の後ヘラキザミを付す。胎土に石英，黒雲母，黒曜石チップ混入。風化によるザラツキが顕著。**2** 淡黄褐色を呈し，石英，白色の石灰質粒混入。不揃いの刻目突帯を貼付，以下ナデ整形する。**3** 篦目状圧痕のある土器で，肩部から底部への移行部である。焼成甘い。鉢形土器 **4** 淡黄褐色を呈し，石灰質粒，黒雲母が混入。内面指による押え痕が残る。突帯貼付け，焼成良好。**5** 浅鉢形の土器。研磨が省かれ，ナデ整形で終る。口縁から肩部への移行が短い。胎土には精製した粘土使用。**6** 淡黄赤褐色をし，石英，黒雲母，混入。口縁部やや外反し突帯部で湾曲する。ナデ整形。**7** 胎土粗く大粒の石英混入，焼成あまく，暗赤褐色を呈する。**8** 淡黄灰色をなし胎土粗い。刻目突帯風化し，丸くなる。7・8は，弥生初頭が想定される。**9** は底部に植物の葉脈が付く。胎土に長石混入，暗赤褐色し，焼成やや良。**10**胎土に粗い長石混入。内面指の押えによる整形行なう。やや反りぎみに底部から立ちあがる。**11**ナデ整形で底部からの立ち上がり膨らみ加減である。**12**精製した胎土で，黒雲母，石灰質粒混入。焼成やや良。**13**淡黄褐色ナデによる整形。胎土黒色を呈し，緻密な粘土使用。壷の底部。**14**淡赤褐色の色調で黒雲母，石灰質粒混入。**15**底部厚みを持ち，赤褐色を呈する。黒雲母，石灰質粒混じり，焼成甘い。**16**外面赤褐色し，内面茶褐色である。外面指による押え痕残る。胎土には長石，黒雲母入る。**17**上底の底部である。底部から胴部への移行の部位に一条の突帯を付す。**18**赤褐色の色調に長石，石灰質粒を混入，外面底部から胴部への移行部位にツメによる押え痕あり。上底ぎみである。**19**底部から胴部への移行に刻み目突帯貼付，残る。淡黄褐色を呈し，黒雲母，石英を混入。**20～23**は，1号遺構（土壙）から出土した遺物である。**20**突帯を指状のもので押さえて刻目を付ける。口縁部から胴部に移行する部位でやや湾曲しだす。焼成良，胎土に石英，石灰質混入。**21**篦目状圧痕のある土器。茶褐色を呈し，胎土に黒雲母，石灰質粒混入。23と，同一固体と考えられるが接合しない。**22**外面，淡赤褐色呈し，内面煤の付着によるものか，黒く変色する。石英，黒雲母，石灰質粒混じる底部である。**23**篦目状圧痕のある平底の底部である。部分的に文様が潰れているのは，焼成前に，なにか物のうえに置かれていたと思われる。色調は，内外面茶褐色を呈し，黒雲母，石英，石灰質粒混入。底部中心が器壁薄く，立ち上がり部の断面厚くなる。 (町田)

**中・近世の遺物** (Fig.26～28)

中・近世の遺物では，まず，中世のものでは，中国の明染付，韓国の高麗青磁，土師質・瓦質土器，石鍋片等がある。近世では，近世陶磁器の他，銅銭，鉄製品等がある。

中国・韓国製の輸入陶磁器としては，中国青磁が小片を含めて72点，同白磁53点，同染付磁器15点，高麗青磁4点，高麗茶碗1点等がある。そのうち8点を図示している。(**21**，**22**，**26**，

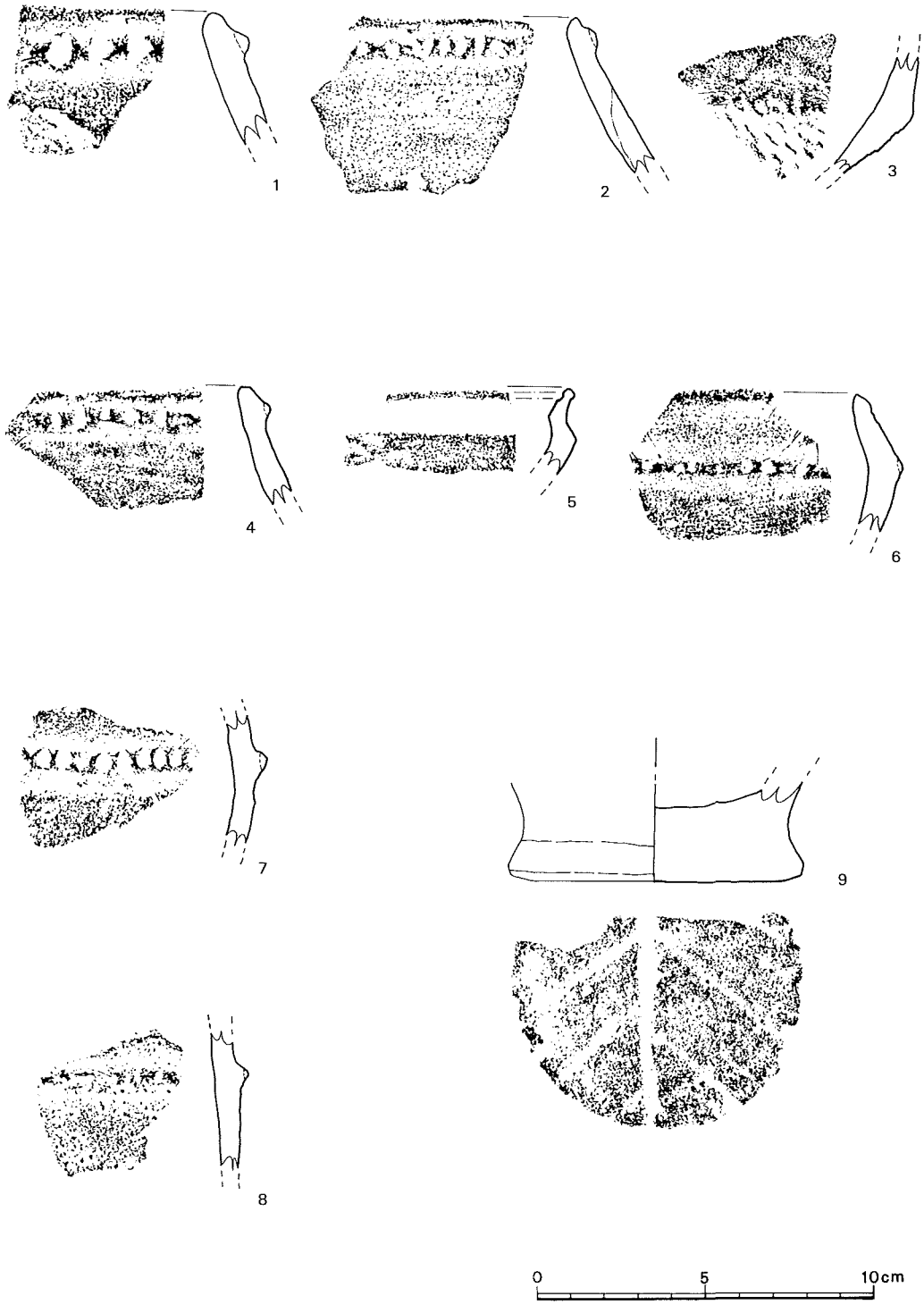



Fig.22　第二次調査出土土器①（1/2）

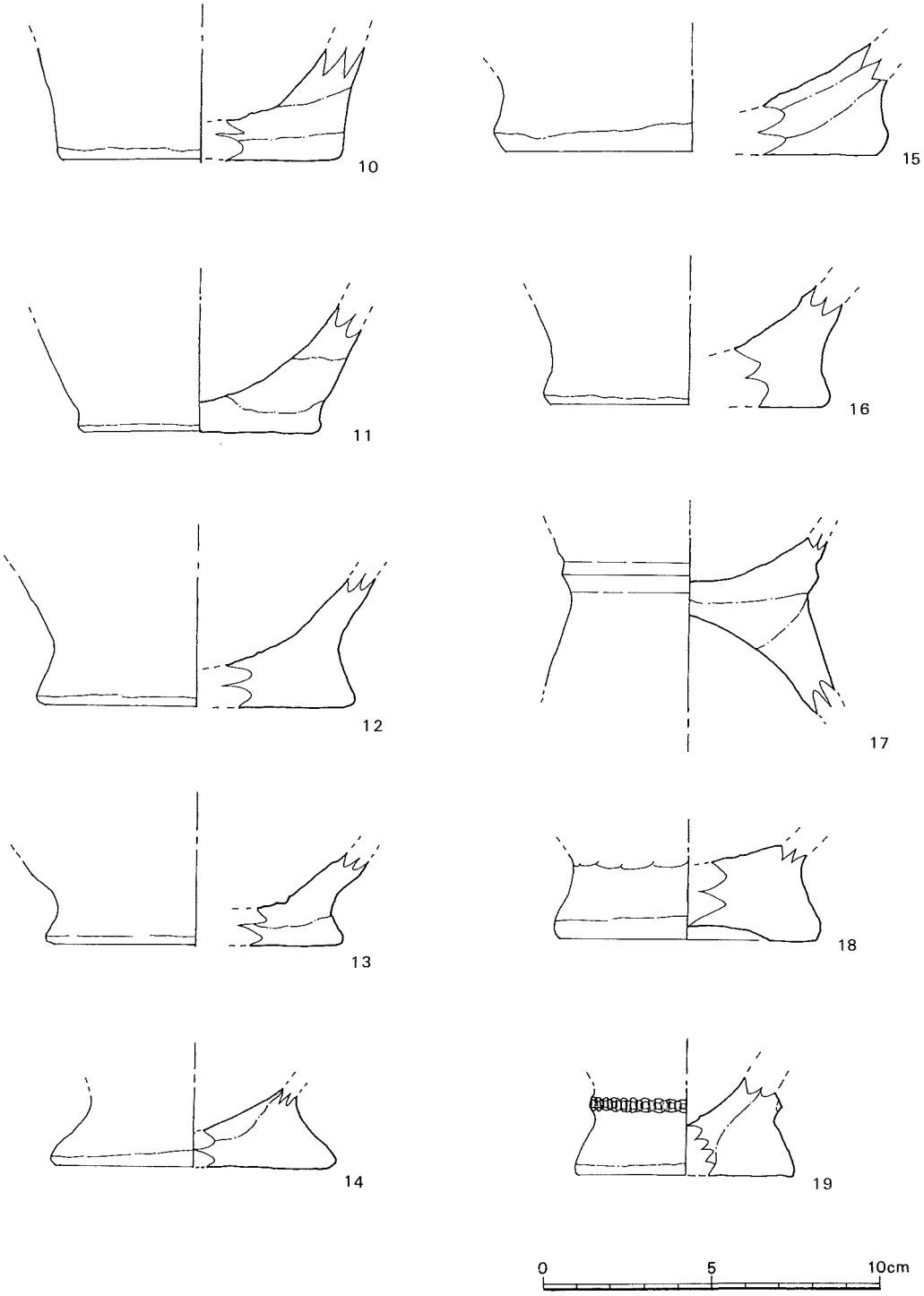



Fig.23　第二次調査出土土器②（1/2）

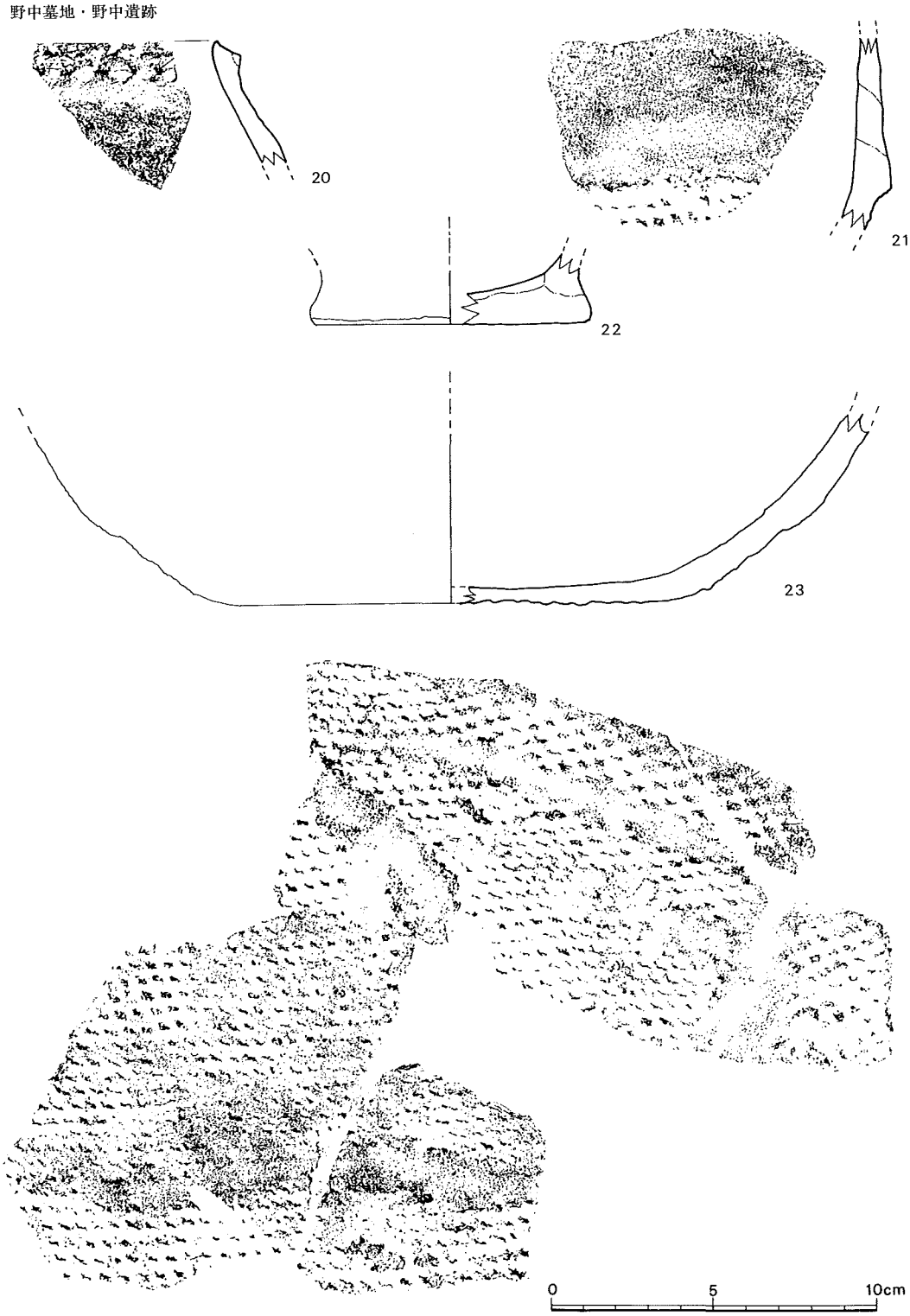



Fig.24　第二次調査出土土器③１号遺構（土壙）(1/2)

**33**はＳ～Ｂ－７～14区近世の遺構の部分で，あとの半分はＭ～Ｒ－４～11区の中世の遺構部分で出土している。）

土師質・瓦質土器では，**2**～**14**までの12点が中世の遺構部分で出土している。遺跡全体における土師質・瓦質土器そして，石鍋片の分布も大部分が中世の遺構部分で出土している（Ｆｉｇ.29）。

次に近世陶磁器では，（Ｆｉｇ.30）でもわかる様に近世の遺構部分の出土が大部分を占める。その中でもB′－13区とＹ－11区の出土量が群を抜いて多いが，両区とも甕の破片が大多数を占めるので，こわれた甕をこの２ケ所に廃棄したものだろう。尚，B′－13区というのは，11号遺構の中の炭化物の中から出土したものである。

また，図示した近世陶磁器８点のうち，**27**，**32**，**35**，**36**が７号遺構（建物跡）のピット中から出土している。そして，**28**が８号遺構（建物跡）のピットの中から出土している。**35**，**36**の鉢とすり鉢は，７号遺構（建物跡）のピットの中から一括して出土している。また，**30**の甕は，11号遺構から出土したものである。また，**37**～**39**の寛永通宝は，Ｖ－11区の８号遺構(建物跡)の北東隅のピットにあたるピット４から出土している。地鎮祭をして柱を立てる時に埋納したものであろうか。

**小　結**

まず，（Ｆｉｇ.27）の中国製の輸入陶磁器からみていくと，**23**の龍泉窯系の鎬蓮弁をもつ青

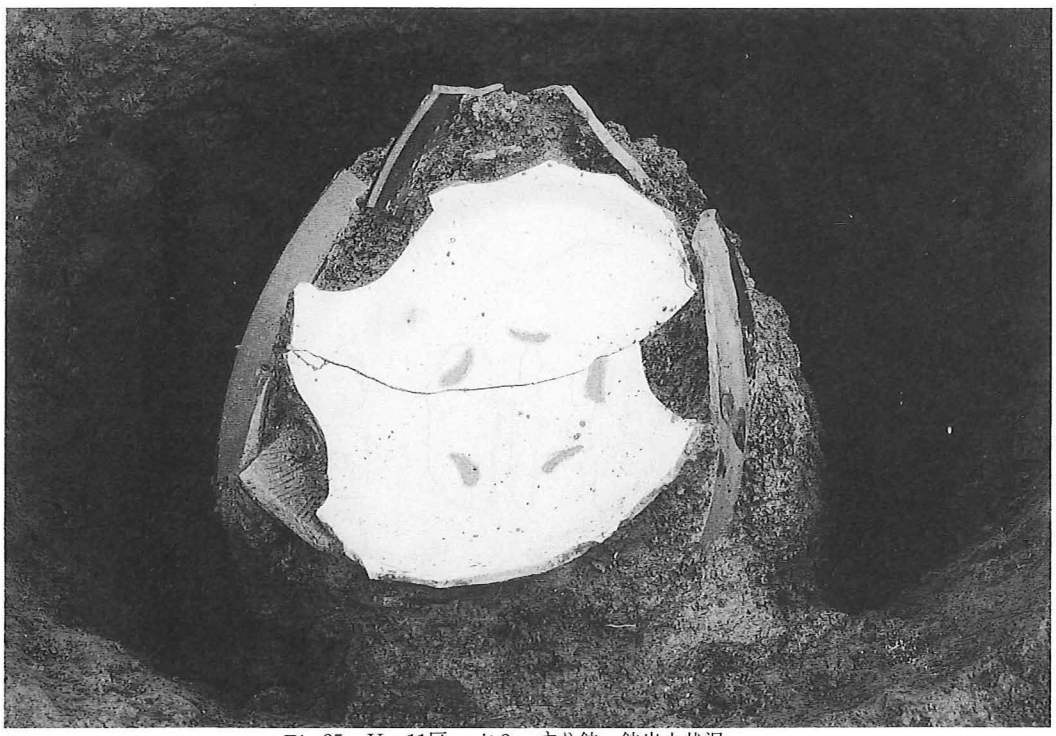


Fig.25　Ｖ－11区、pit２、すり鉢・鉢出土状況

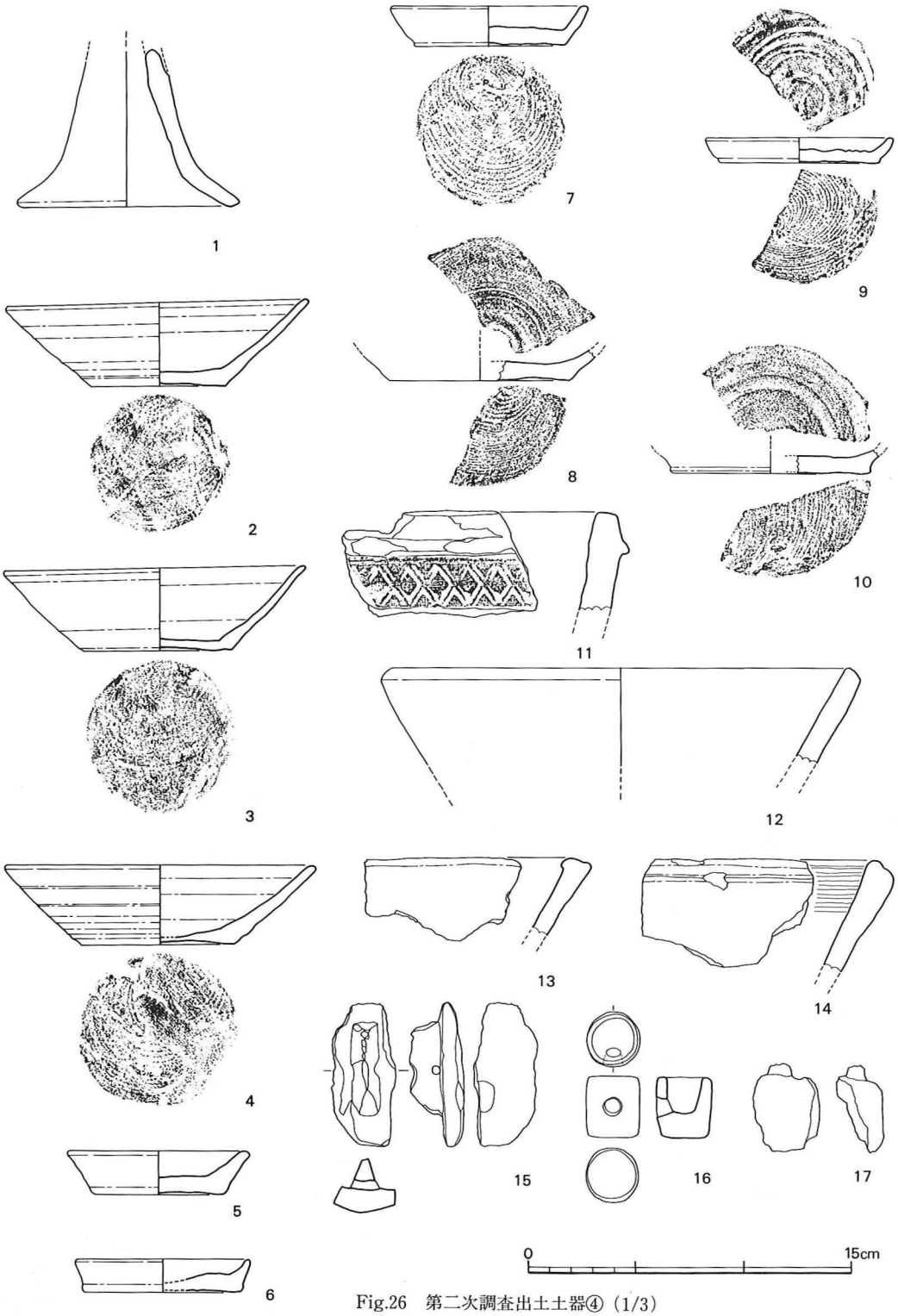



Fig.26　第二次調査出土土器④（1/3）

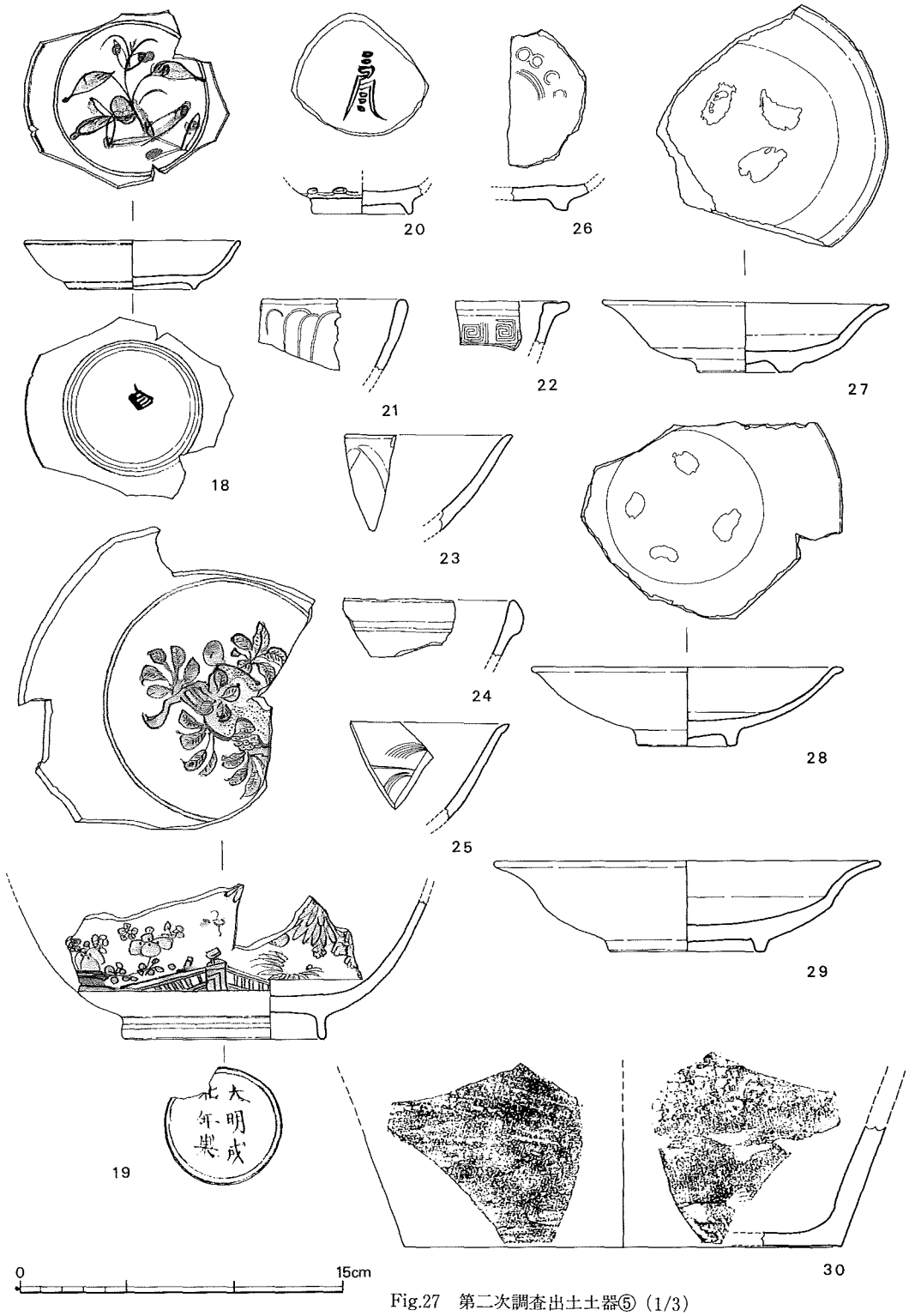



Fig.27　第二次調査出土土器⑤（1/3）

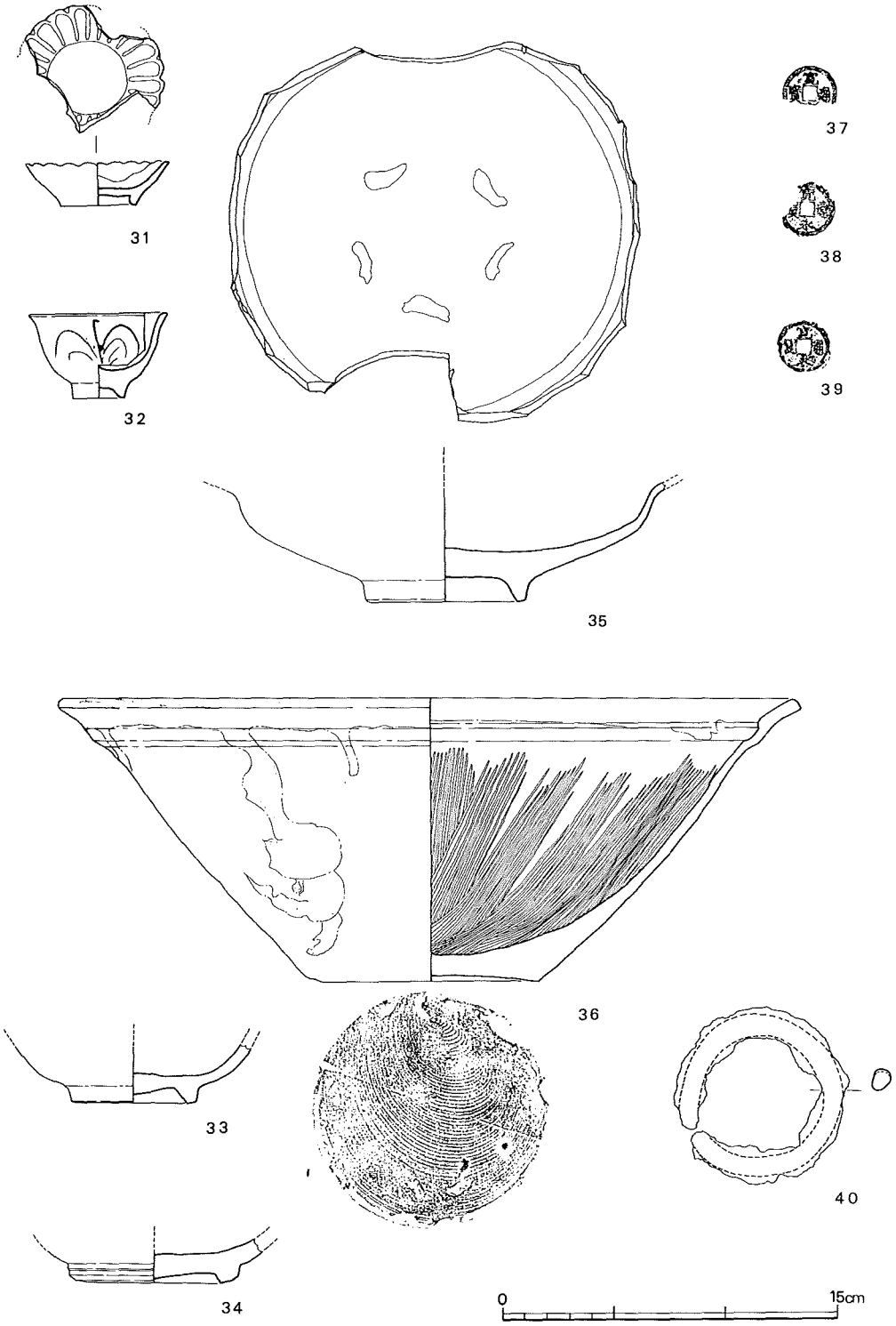



Fig.28　第二次調査出土土器⑥（1/3）

Tab. 3　第二次調査　出土遺物一覧表①

（土師質、瓦質土器）　　（　）は復原値、単位は㎜、g

| 挿図番号 | 器種 | 口径 / 底径 | 器高 | 特徴 | 胎土 | 焼成 | 出土 地区 遺構・層位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| — 1 | 土師器 高杯 | (102) | | 杯の部分からとれている。縦半分の色調は黒灰色である。残り半分は黄赤褐色。 | 砂粒を含む | 良 | P－9 III |
| — 2 | 〃 杯 | 150 | 30 | 糸切り底。色調は、淡黄褐色。全体に磨滅している。 | 混入物はほとんど無 | やや良 | 第3号遺構 |
| — 3 | 〃 〃 | 139 / 67 | 39 | 〃 色調が若干、淡い | 〃 | 〃 | 〃 |
| — 4 | 〃 〃 | 143 / 70 | 38 | 〃 色調が赤味がかっている。 | 〃 | 〃 | 〃 |
| — 5 | 〃 皿 | (84) / (62) | 20 | 磨滅している為、底部はよくわからない。色調は黄褐色。 | 〃 | 〃 | O－7 |
| — 6 | 〃 〃 | (80) / (73) | 15 | 底部は糸切り底。色調は淡黄橙色 | 〃 | 〃 | Q－6、III |
| — 7 | 〃 〃 | (90) / 69 | 19 | 底部は糸切り底。色調は赤褐色、所謂、レンガ色である。胎土は混入物をほとんど含まない。 | 〃 | 〃 | P－9、III |
| — 8 | 〃 〃 | (82) | | 底部は糸切り底。内底面に同心円状の圧痕がついている。色調は淡赤橙色 | 〃 | 〃 | P－9、IV |
| — 9 | 〃 〃 | (86) / (72) | 12 | 底部は糸切り底。内底面に同心円状の圧痕がついている。色調は淡赤橙色。 | 〃 | 〃 | R－7 |
| — 10 | 〃 〃 | (92) | | 底部は糸切り底。内底面に同心円状の圧痕がついている。色調は淡赤橙色。 | 〃 | 〃 | O－7、III |
| — 11 | 瓦質 火舎 | | | 色調は暗灰色。体部の口縁近くに××××××の文様を刻印する。火舎と思われる。 | 〃 | 良 | R－5、III |
| — 12 | 瓦質 ねり鉢 | | | 色調は灰色。 | 〃 | やや不良 | 表採 |
| — 13 | 〃 | | | 色調は灰白色。口縁上端部に施文具による圧痕が回っている。 | 〃 | 良 | Q－7、III |
| — 14 | 〃 | | | 色調は灰白色。口縁端部の方が分厚い。内面に調整の為の条線がついている。 | 微小砂粒を含む。 | 良 | P－4、III |

（骨石製品）

| 挿図番号 | 器種 | 長さ / 厚さ | 幅 | 重量 | 特徴 | 出土 地区 遺構・層位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| — 15 | 骨石 製品 | 66 / 25 | 30 | 45.1 | 石鍋片の転用品である。取手を作り出してあり、その取手に紐とおしの為の小穴があいている。色調は灰白緑色。 | P－6、III |
| — 16 | 〃 | 29 / 25 | 25 | 24.8 | 円筒形に作り上げた後、中を穿ち、また、外側から穴をあけている。色調から穴をあけている。色調は緑灰色で硬い。 | 表採 |
| — 17 | 〃 | 41 / 22 | 32 | 22.4 | 残存部から類推して、りんごの形に近く、丸味をもって作り上げて、上部に突起部を作り出している。白灰緑色 | P－5、III |

（中国輸入陶磁器）

| 挿図番号 | 器種 | 口径 / 高台高 | 器高 / 高台高 | 特徴 | 生地釉調 | 出土 地区 遺構・層位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| — 18 | 明染付 皿 | (100) / 59 | 22 / 3 | 内底見込内に草花文を描く、筆勢は伸びやかですっきりしている。畳み付部に砂粒の付着がある。高台裏に銘有 | 精白 白青色 | 11号遺構 |
| — 19 | 明染付 鉢 | / 96 | / 8 | 内底見込内に2条の円圏を描き、その内側に柘榴の絵を描く。高台裏に『大明成化年製』の銘あり。 | 〃 〃 | 〃 |
| — 20 | 明染付 | / 47 | / 7 | 内底見込内に『三風』字をかいている。 | 〃 〃 | P－5、III |

Tab. 4　第二次調査出土遺物一覧表②

（中国、韓国他輸入陶磁器）　　（　）は復原値単位は㎜　g

| 挿図番号 | 器種 | 口径<br>高台高 | 器高<br>高台高 | 特徴 | 生地釉調 | 出土地区<br>遺構・層位 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 21 | 青磁<br>碗 | | | 細線蓮弁文碗 | 灰黄色、粗<br>緑灰色 | Y－11・Ⅲ |
| 22 | 〃<br>香炉 | | | 口縁下の外面に雷文を施す。釉調は淡緑黄色の明るい良い色にあがっている。 | 灰色、密<br>淡緑黄色 | W－11・Ⅱ |
| 23 | 〃<br>碗 | | | 蓮弁文碗。 | 灰色、密<br>淡緑色 | Q－5・Ⅲ |
| 24 | 白磁<br>碗 | | | 玉縁口縁。 | 灰色、密<br>灰色 | P－6・Ⅲ |
| 25 | 〃<br>〃 | | | 内面に猫手のひっかき文がある。 | 灰色、<br>やや密灰色 | P－7・Ⅲ |
| 26 | 高麗青磁<br>碗 | | | 鉄分の付着がある。 | 灰色、<br>密暗緑色 | Y－・Ⅲ |
| 33 | 白磁<br>碗 | (56) | 8 | 見込内底面の中央部分が『漫頭心』のようにふくらむ。見込内と外面に分様を描いている。 | 灰黄色、<br>やや粗灰色 | W－11 P 1<br>（8号遺構） |
| 34 | 白磁<br>碗 | (76) | 9 | 高台の削りがシャープである。見込内は蛇の目状に釉薬が剝いである。 | 灰色<br>灰緑色 | Q－8・Ⅲ |

（近世陶磁器）

| 挿図番号 | 器種 | 口径<br>高台径 | 器高<br>高台高 | 窯積 | 特徴 | 生地<br>釉調 | 出土地区<br>遺構・層位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 27 | 皿 | (132)<br>(43) | 34<br>5 | 砂積 | 3個の砂目積の跡が残ている。唐津の溝縁皿。内底の段がある。 | 灰黄色<br>乳灰青色 | V－10・P 1<br>（7号遺構） |
| 28 | | (144)<br>46 | 37<br>8 | 〃 | 4個の砂目積の跡あり、内底に弱い段あり。 | 黄灰色<br>淡黄緑色 | W－12 P 1<br>（8号遺構） |
| 29 | 〃 | (178)<br>(72) | 42<br>5 | | 淡いサーモンピンクの斑点あり、対州焼か、釜山の和館窯で焼かれたものか？ | 黄灰色<br>〃 | W－13・P 2 |
| 30 | 甕 | (203) | | | 唐津系飯胴甕。内面にささえ具の跡と外面に叩き具の跡がついている。 | 赤橙色<br>黒褐色 | B′－13<br>（11号遺構） |
| 31 | 小皿 | (63)<br>(33) | 19<br>5 | | 朝顔状に口縁部が開く。型押しして花びらを型どっている。高台裏に指で押さえた指紋が残っていた。 | 精白<br>白青色 | 表採 |
| 32 | 杯 | 60<br>28 | 39<br>6.5 | | 180°隔てた前後両面の外面に、同じ文様である草花文を描く。 | 灰白色<br>乳白青色 | V－10・P 4<br>（7号遺構） |
| 35 | 鉢 | 72 | 10 | 砂積 | 5個の砂目積の跡あり。口縁部にいくにしたがい一度屈曲してすぼまりそして口縁部が開く。唐津系。 | 淡黄灰色<br>淡黄色 | V－10・P 1<br>（7号遺構） |
| 36 | すり鉢 | 331<br>102 | 129 | | 11条程を1単位とする条痕を引いてすり鉢としている。口縁部に鉄釉をかける。底部は糸切り底。33、34は一括出土。 | 灰紅色<br>黒褐色 | V－10・P 1<br>（7号遺構） |

（銅銭）

| 挿図番号 | 器種 | 直径 | 内直径 | 内面窓径 | 重量 | 出土地区、遺構 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 37 | 銅銭 | 24.4 | 20 | 5.8 | 1.1 | V－11・P 4（8号遺構） | 半欠品。古寛永。 |
| 38 | 〃 | 24.8 | 19.5 | 5.8 | 1.7 | 〃 | 一部欠、腐蝕している、古寛永 |
| 39 | 〃 | 24.4 | 19.5 | 5.8 | 8.9 | 〃 | 3枚がくっついている。一部腐蝕している。古寛永。腐蝕の為か微妙な差はあるものの同一規格品。 |

（鉄製品）

| 挿図番号 | 器種 | 直径 | 断面最大径 | 重量 | 出土地区、遺構 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 40 | 鉄製品 | 73 | 9 | 47 | V－11・P 2（8号遺構） | 計測値は錆部分をのぞいた推定の波線部位ではかったもの。 |

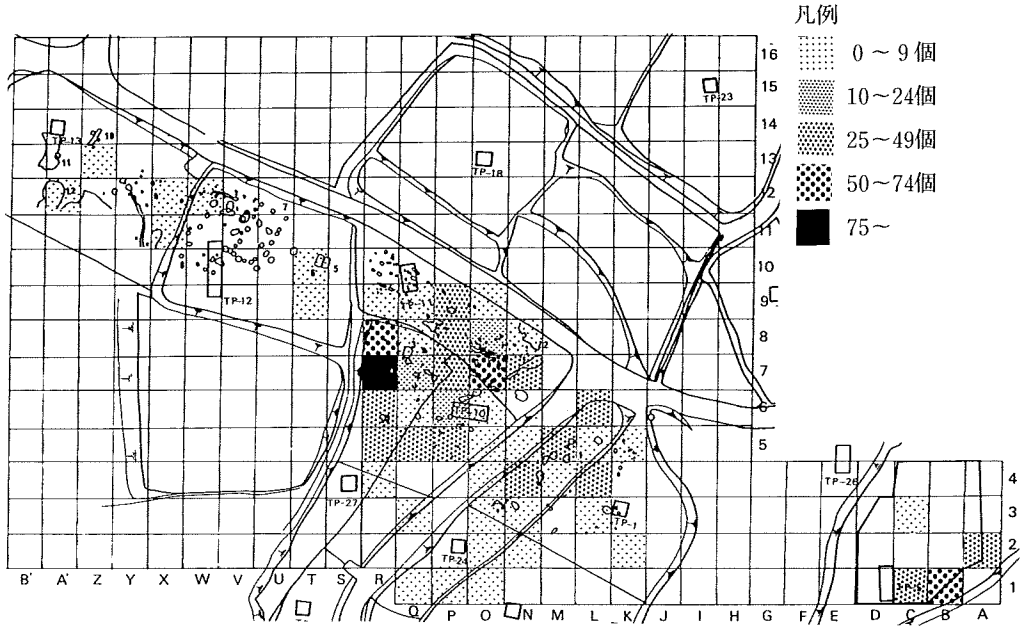



Fig.29　第二次調査土師質・瓦質土器・グリッド別出土点数

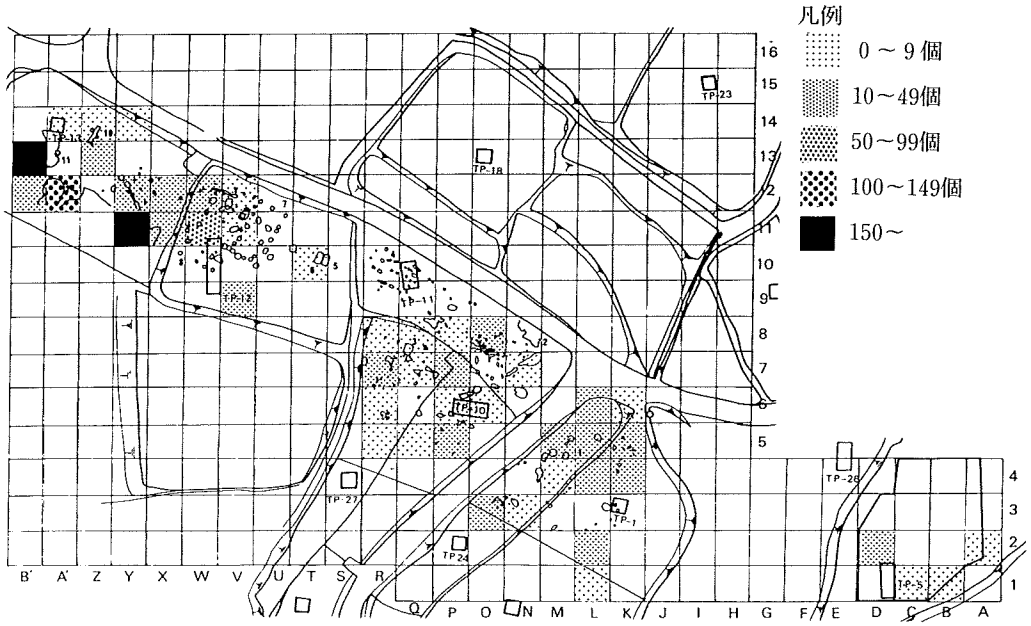



Fig.30　第二次調査近世陶磁器・グリッド別出土点数

Tab. 5　第２次調査中・近世遺物層位一覧表

| 出土地区 | 層　位 | 瓦質土器 | 土師質土器 | 石鍋片 | 近世陶磁器 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A－2 | II | 4 | 9 | 2 | 3 | 18 |
| B－1 | II | 1 | 32 | 6 | 7 | 46 |
| C－1 | II | 5 | 16 | 2 | 9 | 32 |
| C－3 | III | 1 | 1 | | | 2 |
| D－2 | II | | | | 16 | 16 |
| K－4 | II | | | | 14 | 14 |
| K－5 | II | | 4 | | 21 | 25 |
| K－6 | III | | | | 1 | 1 |
| L－1 | II | | | | 1 | 1 |
| L－2 | | | | | 12 | 12 |
| L－3 | III | | 2 | | | 2 |
| L－4 | II | | | | 16 | 16 |
| L－4 | III | | 13 | | 3 | 16 |
| L－5 | III | | 6 | | | 6 |
| L－6 | II | | 16 | | | 16 |
| L－6 | III | | | | 7 | 7 |
| M－4 | III | | 6 | | 1 | 7 |
| M－5 | III | 1 | 23 | 1 | 17 | 42 |
| N－3 | III | | 4 | | 1 | 5 |
| N－4 | III | | 7 | | 7 | 14 |
| N－5 | III | 1 | 7 | | | 8 |
| N－7 | III | | 11 | 1 | 5 | 17 |
| N－8 | III | | 34 | 1 | | 35 |
| O－1 | II | | 1 | | | 1 |
| O－1 | III | | 2 | | | 2 |
| O－2 | II | | 4 | | | 4 |
| O－3 | III | | 3 | | 10 | 13 |
| O－4 | III | | 1 | | | 1 |
| O－5 | III | | 4 | | | 4 |
| O－6 | III | | 5 | 1 | 6 | 12 |
| O－7 | III | | 35 | 2 | | 37 |
| O－8 | III | 2 | 51 | 3 | 11 | 67 |
| P－1 | II | | 1 | | | 1 |
| P－4 | 1 | | | | | 1 |
| P－5 | III | 24 | | 11 | 35 | |
| P－6 | III | | 57 | 6 | 8 | 71 |
| P－7 | II | | 19 | | | 19 |
| P－7 | III | | 14 | 4 | 12 | 30 |
| P－8 | III | | 19 | 6 | 2 | 27 |
| P－9 | III | | 11 | 3 | | 14 |
| P－9 | IV | | 1 | | | 1 |
| Q－1 | III | | 1 | | | 1 |
| Q－3 | III | | 1 | | | 1 |
| Q－5 | III | 2 | 12 | | 3 | 17 |
| Q－6 | III | | 8 | 1 | | 9 |
| Q－7 | III | 2 | 51 | 26 | | 79 |
| Q－8 | III | | 12 | 2 | 3 | 17 |
| Q－9 | III | | 4 | 3 | | 7 |
| R－5 | III | 1 | 18 | 1 | 1 | 21 |
| R－6 | III | 2 | 15 | 2 | 5 | 24 |
| R－7 | III | 2 | 87 | 28 | 18 | 135 |
| R－8 | III | 2 | 39 | 5 | 4 | 50 |
| T－10 | II | | | | 8 | 8 |
| V－9 | II | | | | 18 | 18 |
| W－11 | II | | | | 83 | 83 |
| W－12 | II | | 5 | | | 5 |
| X－11 | II | | 3 | | 10 | 13 |
| X－12 | II | | 3 | | 17 | 20 |
| Y－11 | II | | | | 92 | 92 |
| Y－11 | III | | | 2 | 62 | 64 |
| Y－12 | II | | 5 | | 25 | 30 |
| Y－14 | II | | | | 3 | 3 |
| Z－13 | II | 2 | 0 | | 22 | 24 |
| Z－14 | II | | | | 4 | 4 |
| A'－12 | II | 3 | 1 | | 131 | 135 |
| A'－12 | III | | 1 | | | 1 |
| A'－14 | II | | | | 4 | 4 |
| B'－12 | II | | | | 40 | 40 |
| B'－12 | III | | | | 5 | 5 |
| B'－13 | 11号遺構内 | | | | 198 | 198 |
| 計 | | 32 | 709 | 108 | 957 | 1,806 |
| 野中遺跡 | 表土、表採分 | 6 | 37 | 20 | 652 | 715 |
| 総　計 | | 38 | 746 | 128 | 1,609 | 2,521 |

磁椀は，横田賢二郎・森田勉氏編年のＩ－５ｂ類にあたり13世紀中頃から後期にかけてのものだろう。また，**21**の細線蓮弁文碗は，亀井明徳氏編年のＢ－２類にあたり16世紀前半～中盤のものであろう。**24・25**の白磁碗は，11世紀後半～12世紀前半のものだろう。尚，土師器の編年については，県内でのまとめができていないので保留しておきたい。

近世陶磁器では，**2**の皿が唐津の溝縁皿で，佐世保市三川内町の葭の本窯か，その周辺の窯で焼かれたものだろう。久村貞男氏の編年によると，慶長から最後は寛永年間にまで焼かれている。そして，寛永通宝が，「古寛永」であり，８号遺構（建物跡）の北東隅のピットから出土した事は，この建物の建築時期を示していると推定されるが，他の近世陶磁器をみても，皿に蛇の目剝ぎを施したものが１点もないことや，くらわんか茶碗や草花文の碗等も無いことから江戸時代中期までは下がらず，江戸時代前期の寛永年間頃を，一応の推定時期としておきたい。尚，陶磁器の鑑定を美術博物館の下川達弥氏，立平進氏にお願いした。　（村川）

註１．横田賢二郎・森田勉　大府出土の輸入陶磁器について－九州歴史資料館・研究論集４　1978

註２．亀井明徳「日本出土の明代青磁碗の変遷」『鏡山猛先生古稀記念古文化論攻』1980

註３．久村貞男『葭の本窯跡範囲確認調査報告書』佐世保市埋蔵文化財調査報告書，佐世保市教育委員会　1982

②　石器

旧石器から縄文時代の各器種，石器が出土している。しかし，遺物の包含層が中世の遺構群に撹乱され，わずかにＭ－５・６区で縄文時代の文化層が残っている程度であった。器種別では，旧石器時代のナイフ形石器，加工痕ある石器がある。縄文時代では，石鏃，石斧，スクレイパー，磨石，砥石，石核等が出土している。

**旧石器時代の石器**（Fig.31）

**1**～**6**をこれに，あてた。**1**は，小型のナイフ形石器で，正面右側面に微細なリタッチ行なう。パテナすすみ，黒曜石は光沢なくす。**2**加工痕ある石器で，正面左側縁に調整痕残る。**3**も，**2**と同様である。**4**は，刃部に厚みがある。**5**正面上部に刃部作出，自然面残し，裏面主要剥離残す。**6**表裏ともに側縁部に調整痕残す。

②縄文時代の石器（Ｆｉｇ.31～64）

器種別では，スクレイパー，石鏃，石錐，尖頭器状石器，磨製，付製石斧，磨石，砥石等がある。

大型スクレイパー類（**7**～**13**）何れも，サヌカイト質の石材を利用し，周辺部に粗い剥離を加える。尖頭器状石器（**14**～**26**・**28**）大型のものと小型のものに分けられる。形態として正三角形に近く，鈍角な先頭部を持ち，下部に剥離を施すのが，特色である。

スクレイパー類（**27**・**29**～**127**）形態別では，長方形，円形，二等辺三角形等の形で捕らえられる。**27**～**36**は長方形を呈した石器でほぼ全周に剥離が及ぶ。**37**～**53**は，長方形でもやや小振りで，整形が正裏ともに，よく調整されている。**54**～**63**は円形をした石器でいずれも，側縁部より中央部に向かって加撃を加える。**64**～**74**は台形状の形態で，下部がやや広くなる。調整は側縁下部より行なう。**75**～**110**は主要剥離面を残す石器がおおく，わりと調整が一側縁から加撃で終っている。**111**～**119**一部に突起状の鈍角な刃部を作出する石器である。断面に厚みがあることも特色である。**120**～**127**欠損品である。いずれも加工痕を残す。

石錐（**128**～**134**）下部，先端部作出のため，微細な調整を行なって，抉りをつける。

石鏃（**135**～**287**）総数153点図化し，形態別に５類に分類した。

Ｉ類（**135**～**155**）二等辺三角形状を呈し，基部にわずかな湾曲を作り出す。

II類（**156**～**187**）脚を有し，細部にわたり加工調整をおこなうものである。一部欠損するものも，全容が予想できる遺物はこれに含めた。184は，正裏面ともに，局部を磨く。

III類（**188**～**217**）脚が無く，剥離の粗いものをこれにあてた。193～195は，鋭角な先端の作りだし行なうが，下部がやや突き出ている。

IV類（**218**～**225**）作出の剥離が粗く，大型の石鏃である。

IVａ類（**226**～**232**）IV類を小型化した石鏃。

IVｂ類（**233**～**245**）IV類同様作出の剥離粗いが，先端部が鋭角である。**237**は縄文晩期の駒形鏃の範中に入る。

Ｖ類（**246**～**248**）剥片を利用した石鏃である。以上が石鏃類である。なお，この他に脚を欠損したもの，脚のみ残すものが（**249**～**287**）38点出土している。

磨製石斧（**288**～**292**）**288**は蛇紋岩製で全体に風化が激しく，刃部作りだしも不明である。**289**頁岩質の石材使用し，刃部の一部残す。**290**これも欠損品で，刃部付近である。**291**野中墓地出土の石斧。正裏面刃部を磨きだし，基部コウダ痕残す。**292**両側面磨きだし，正裏面を部分的に

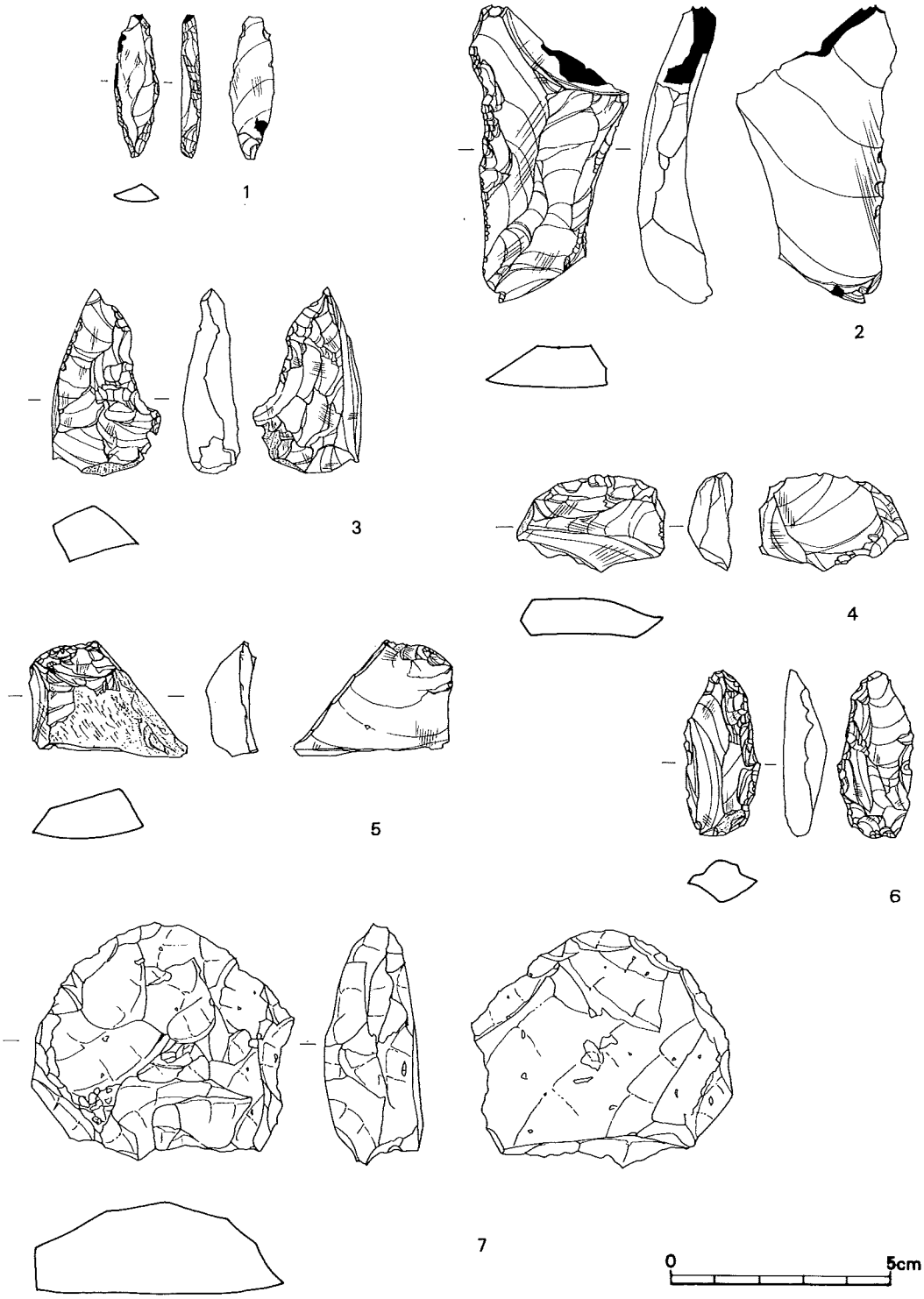



Fig.31　第二次調査出土石器①（2/3）

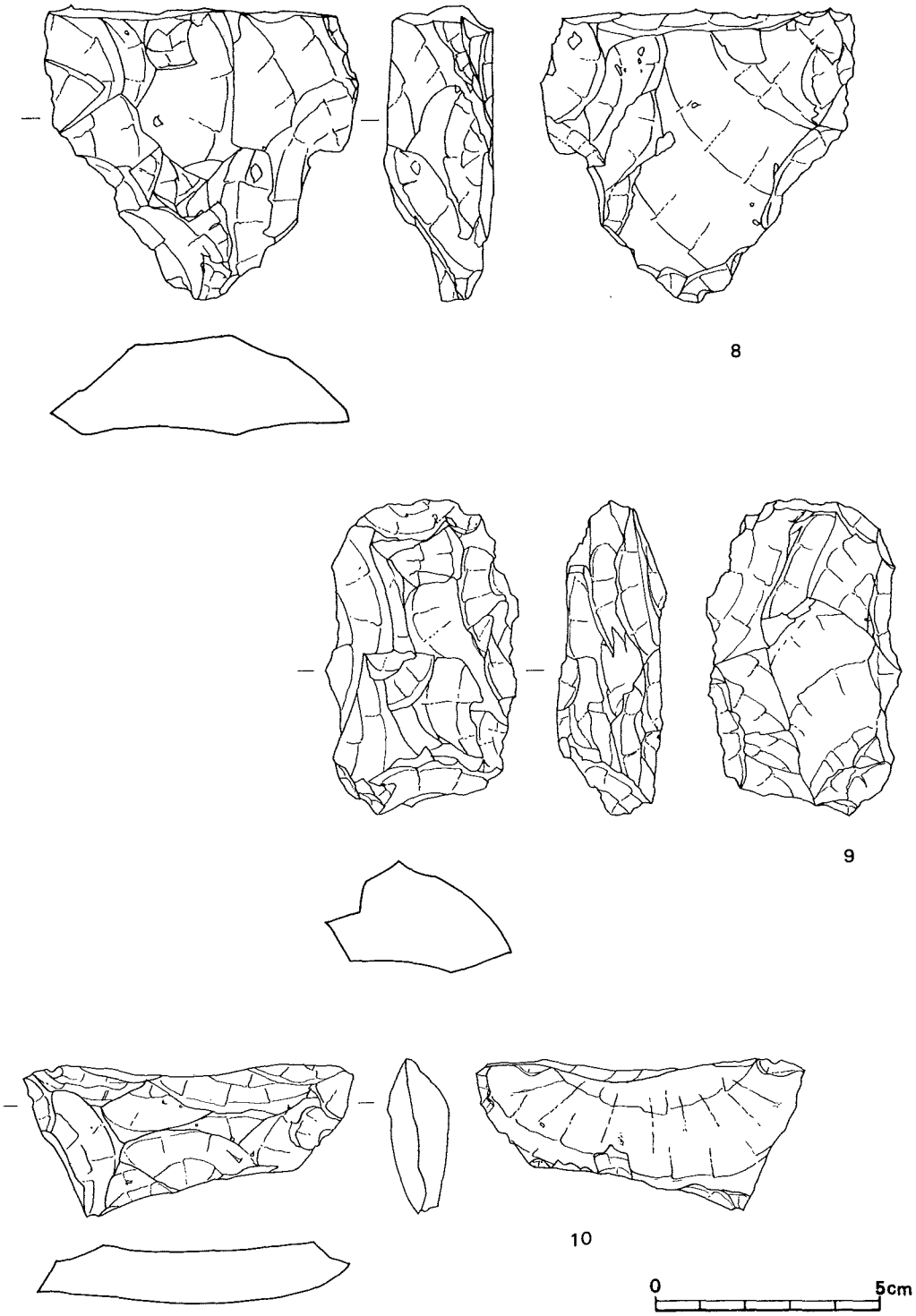



Fig.32　第二次調査出土石器②（2/3）

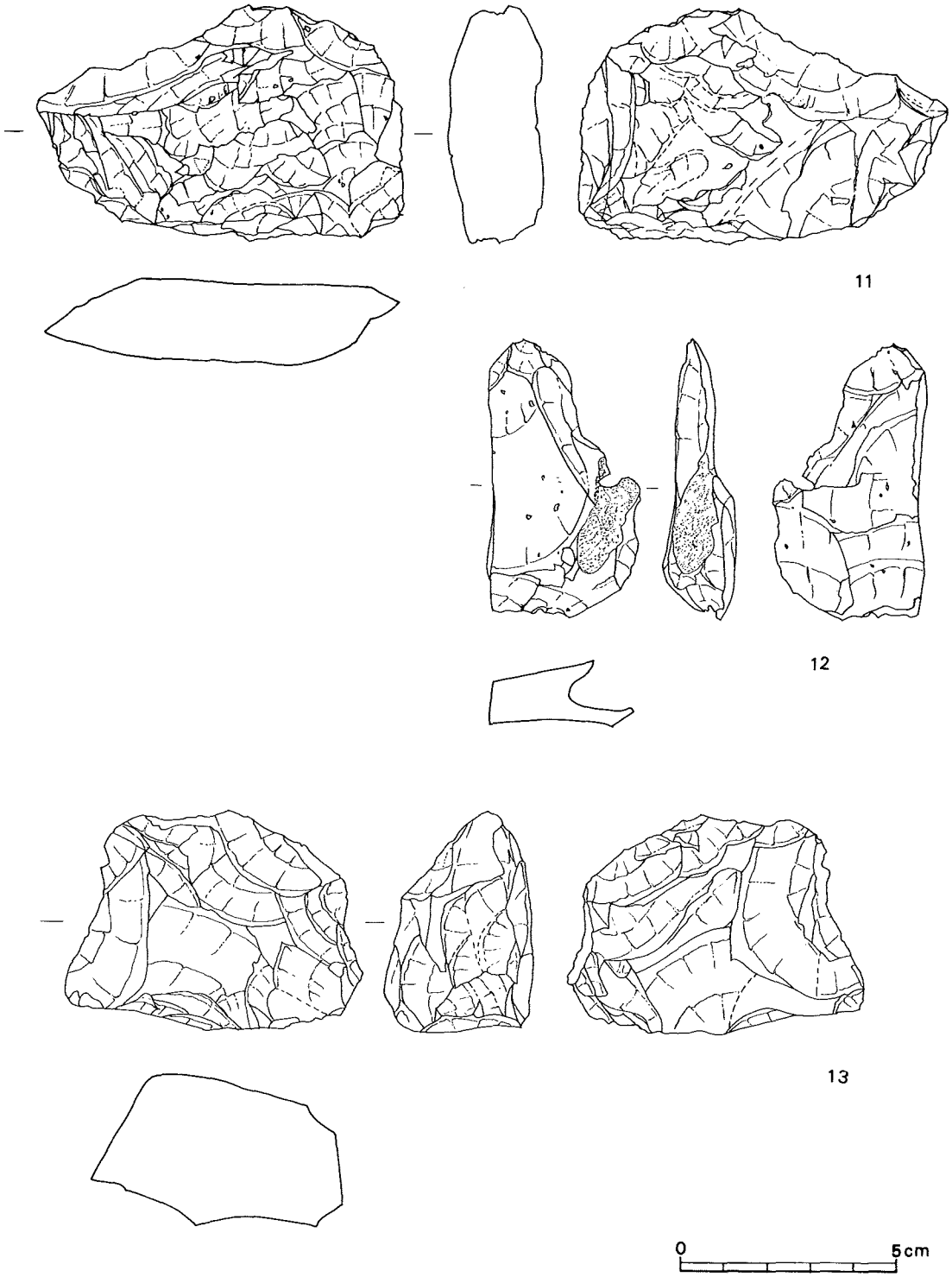



Fig.33　第二次調査出土石器③（2/3）

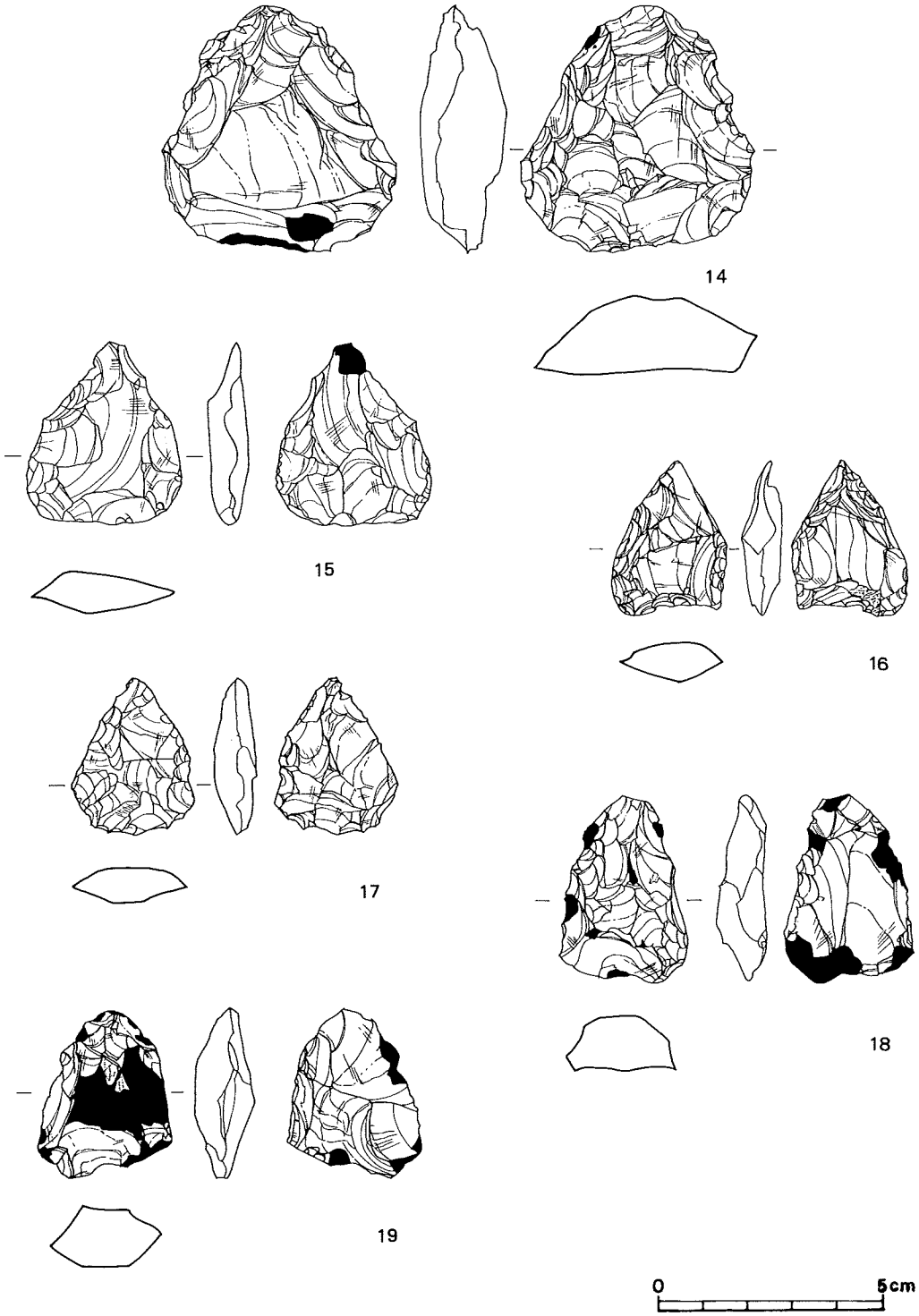



Fig.34　第二次調査出土石器④（2/3）

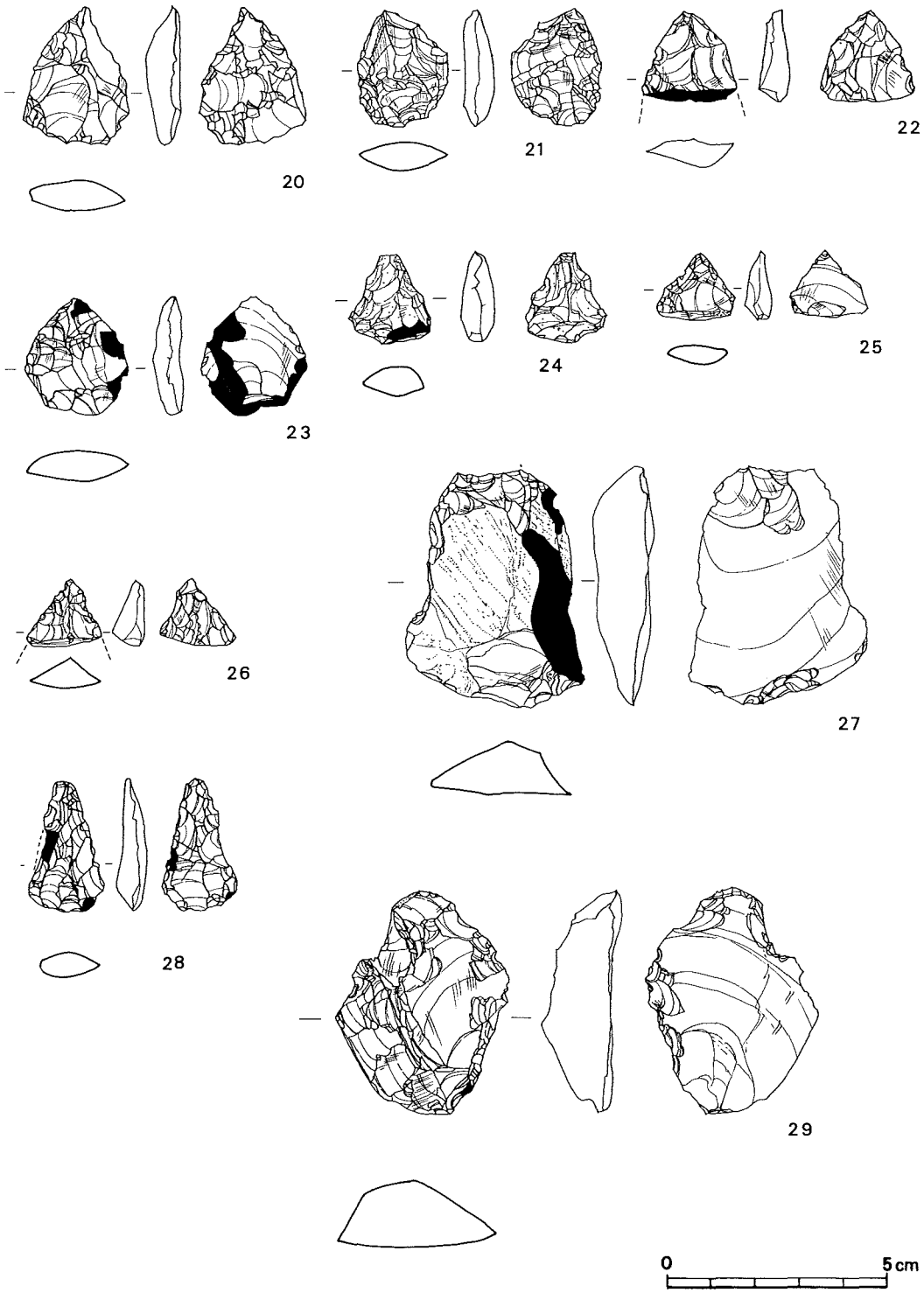



Fig.35　第二次調査出土石器⑤（2/3）

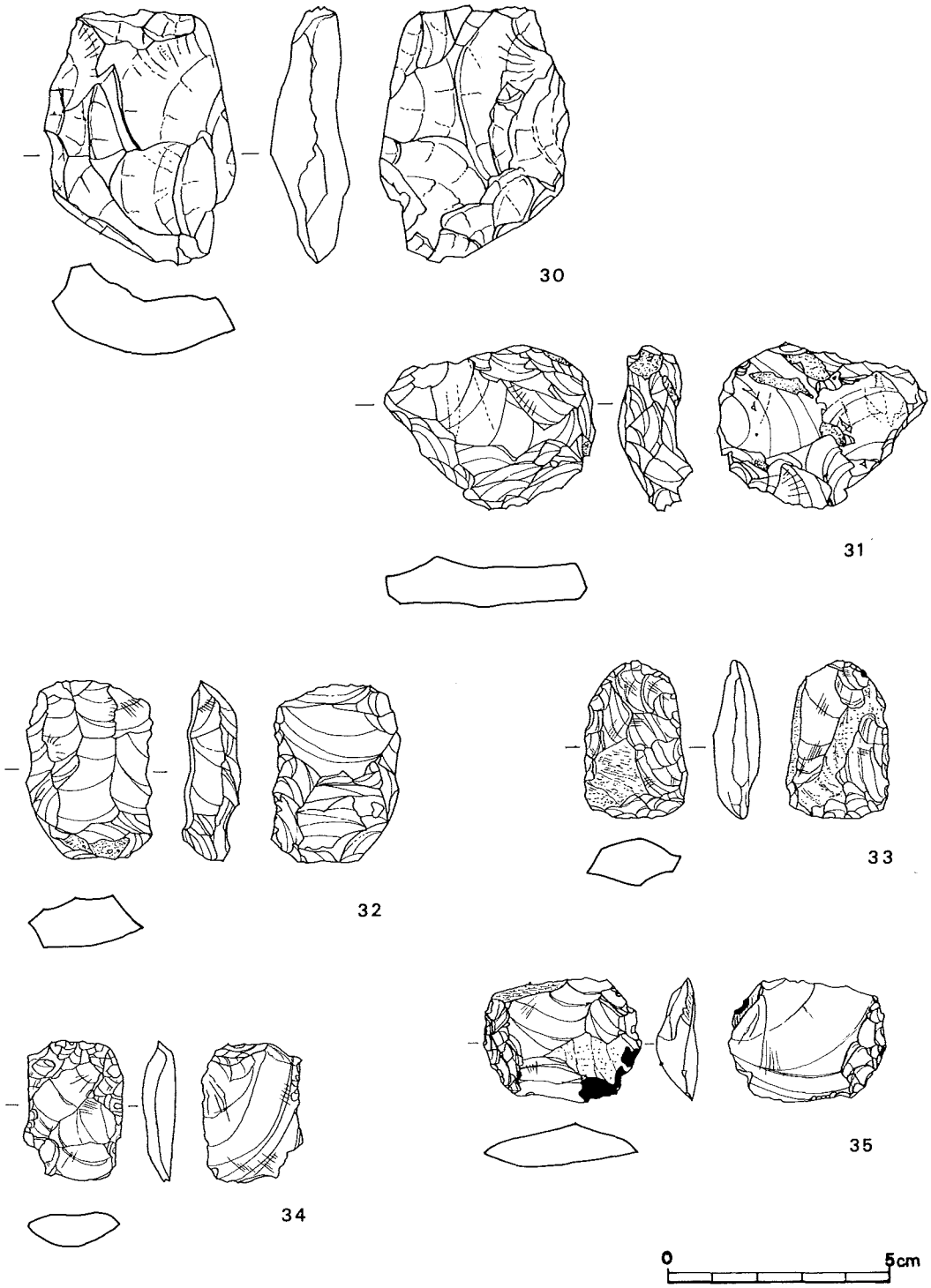



Fig.36　第二次調査出土石器⑥（2/3）

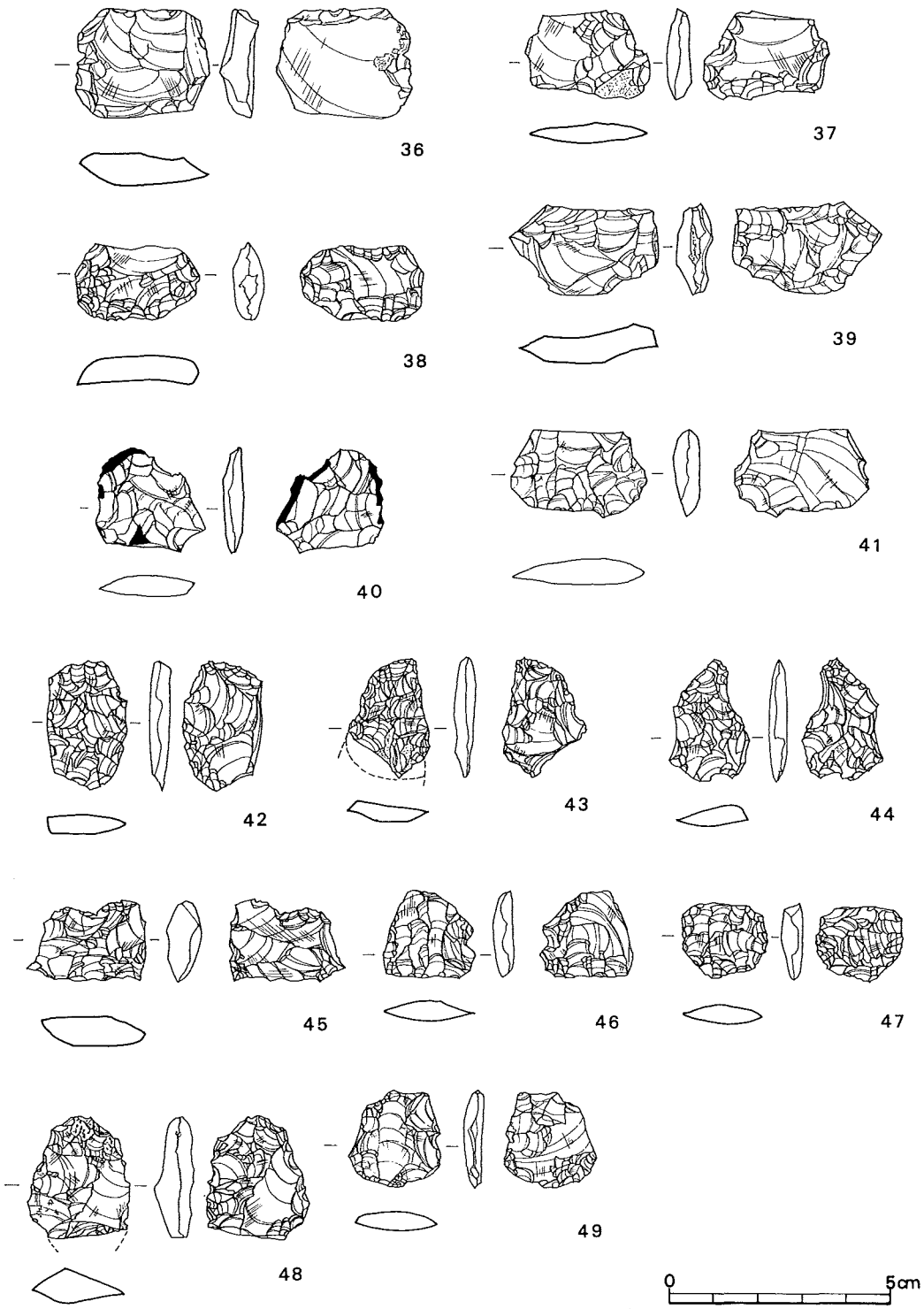



Fig.37　第二次調査出土石器⑦（2/3）

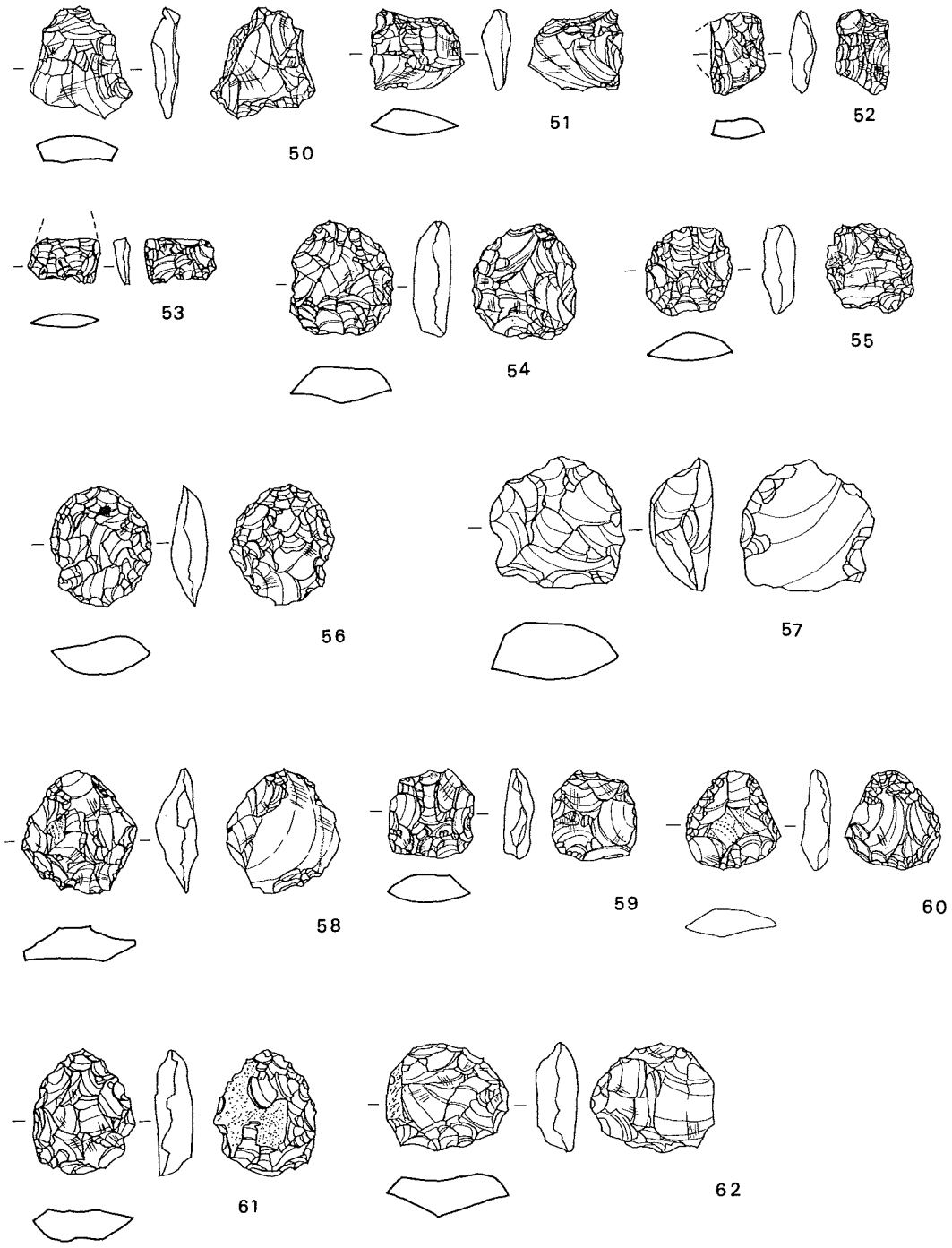



Fig.38　第二次調査出土石器⑧（2/3）

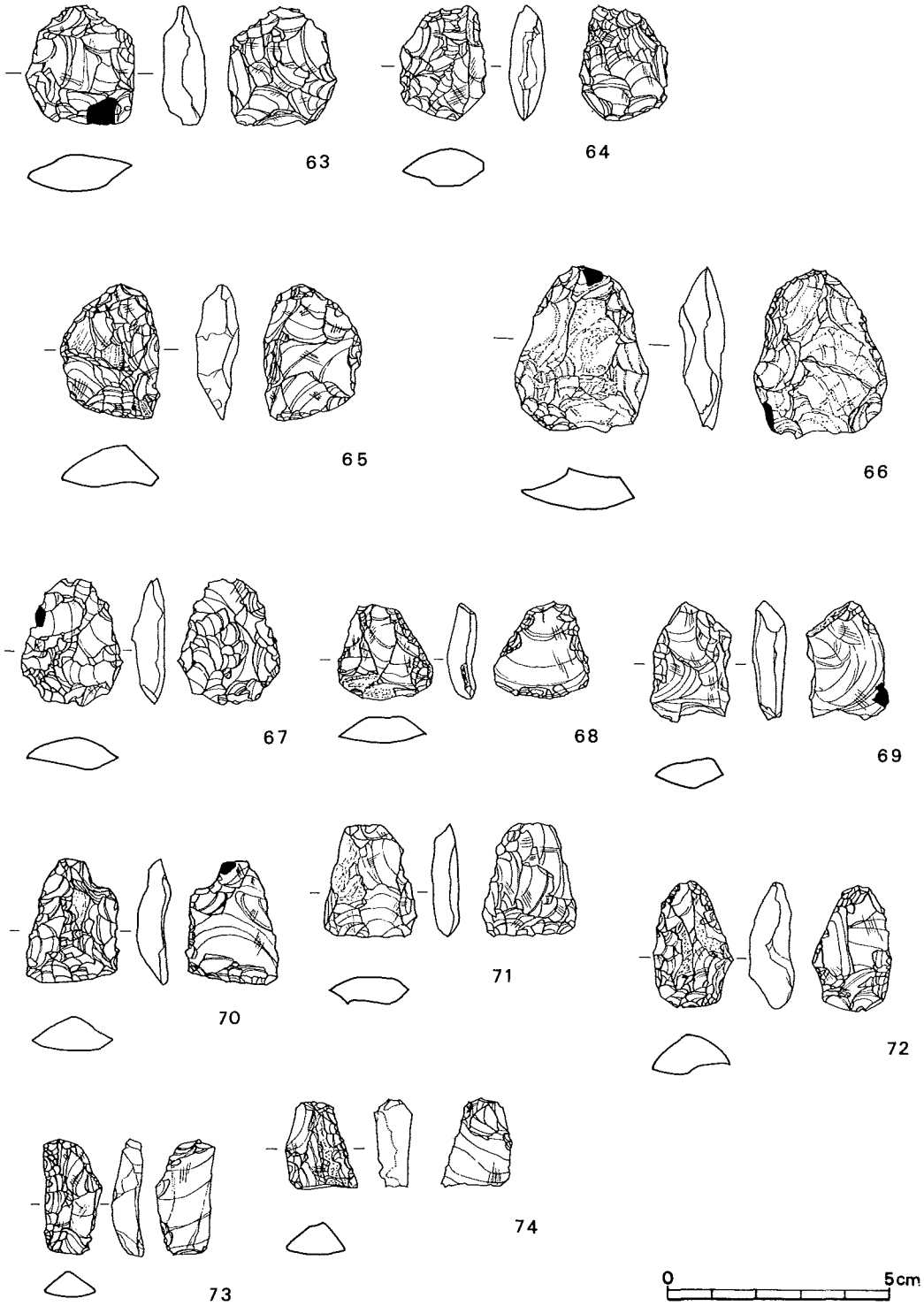



Fig.39　第二次調査出土石器⑨（2/3）

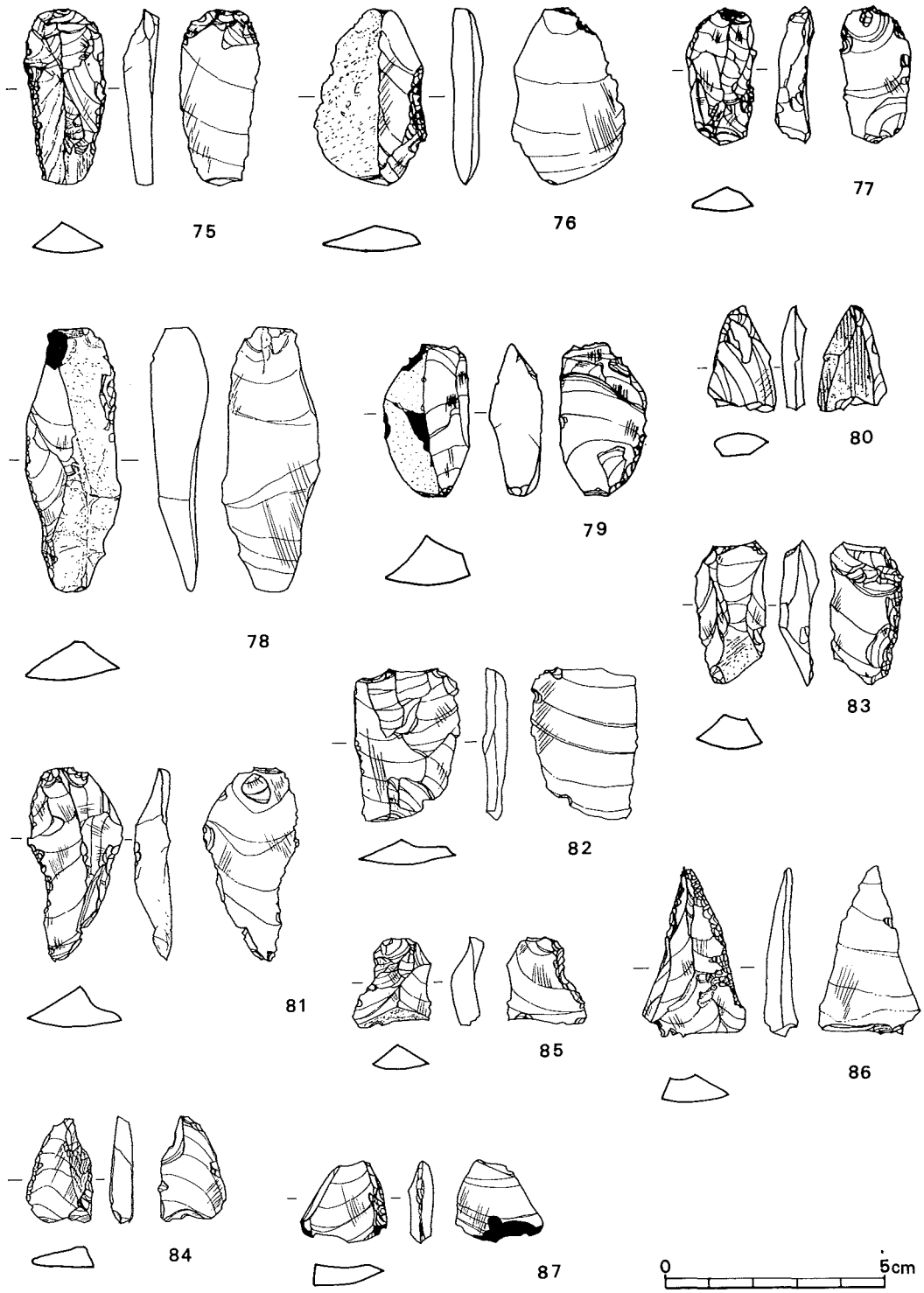



Fig.40　第二次調査出土石器⑩（2/3）

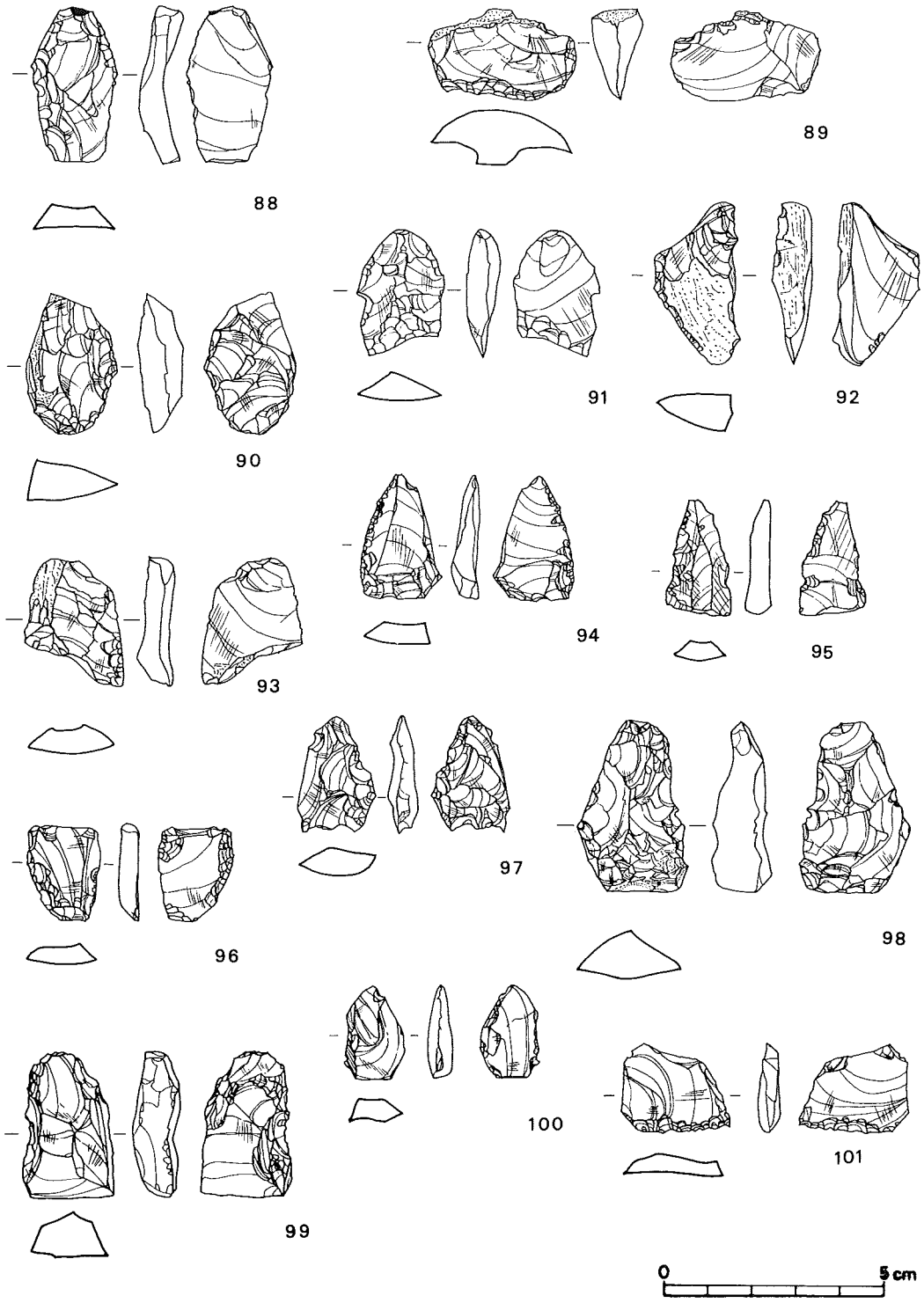



Fig.41　第二次調査出土石器⑪（2/3）

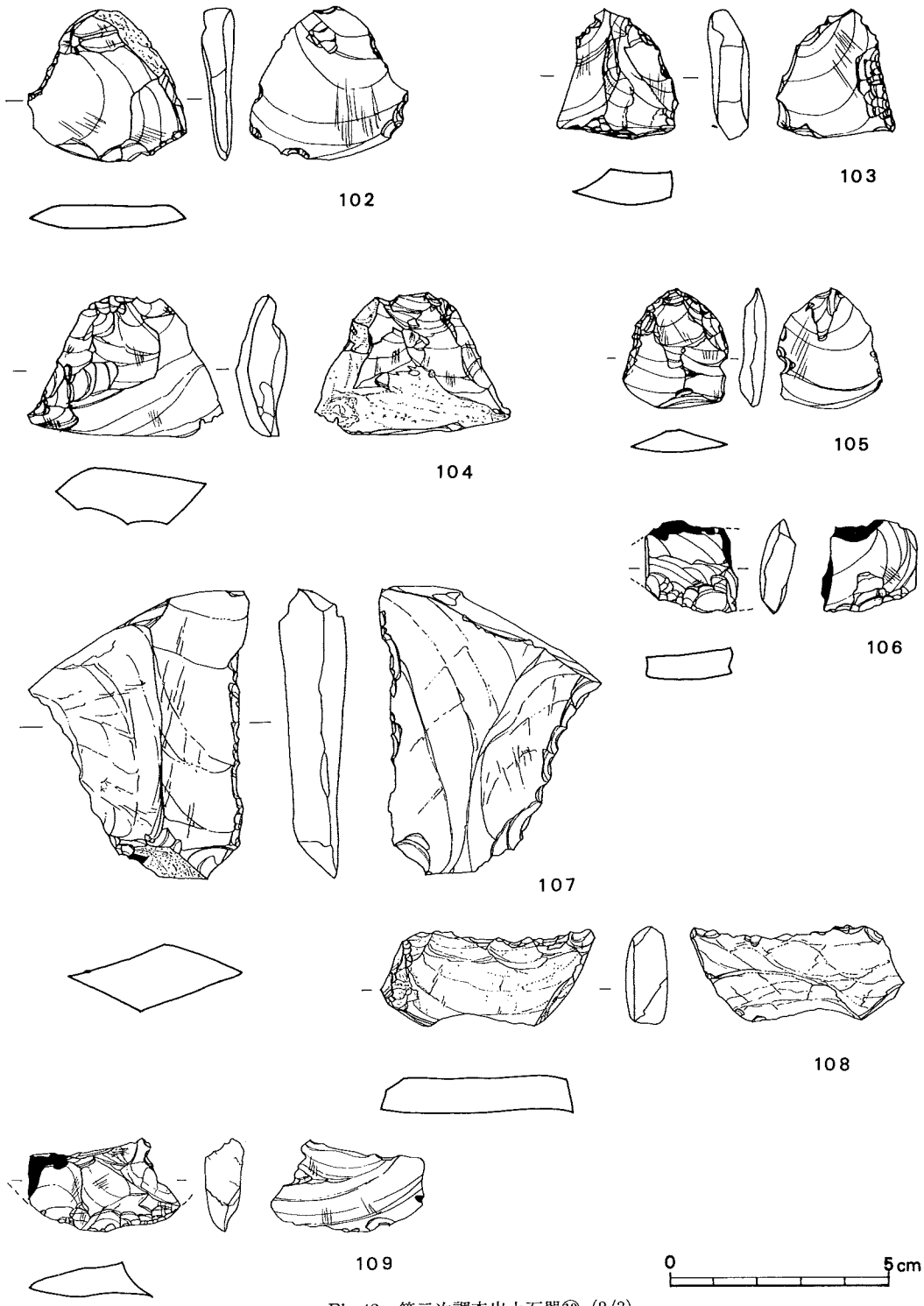



Fig.42　第二次調査出土石器⑫（2/3）

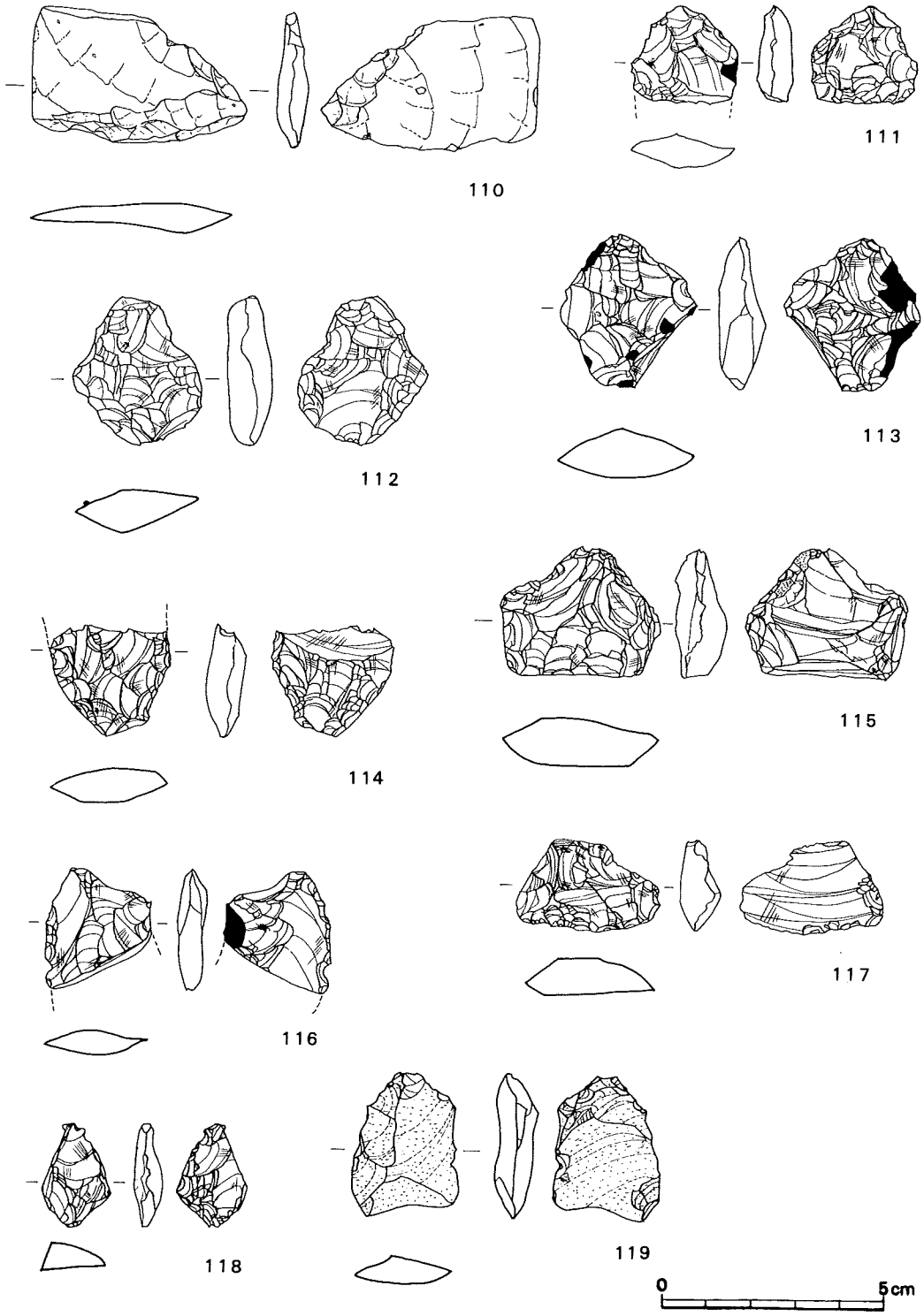



Fig.43　第二次調査出土石器⑬（2/3）

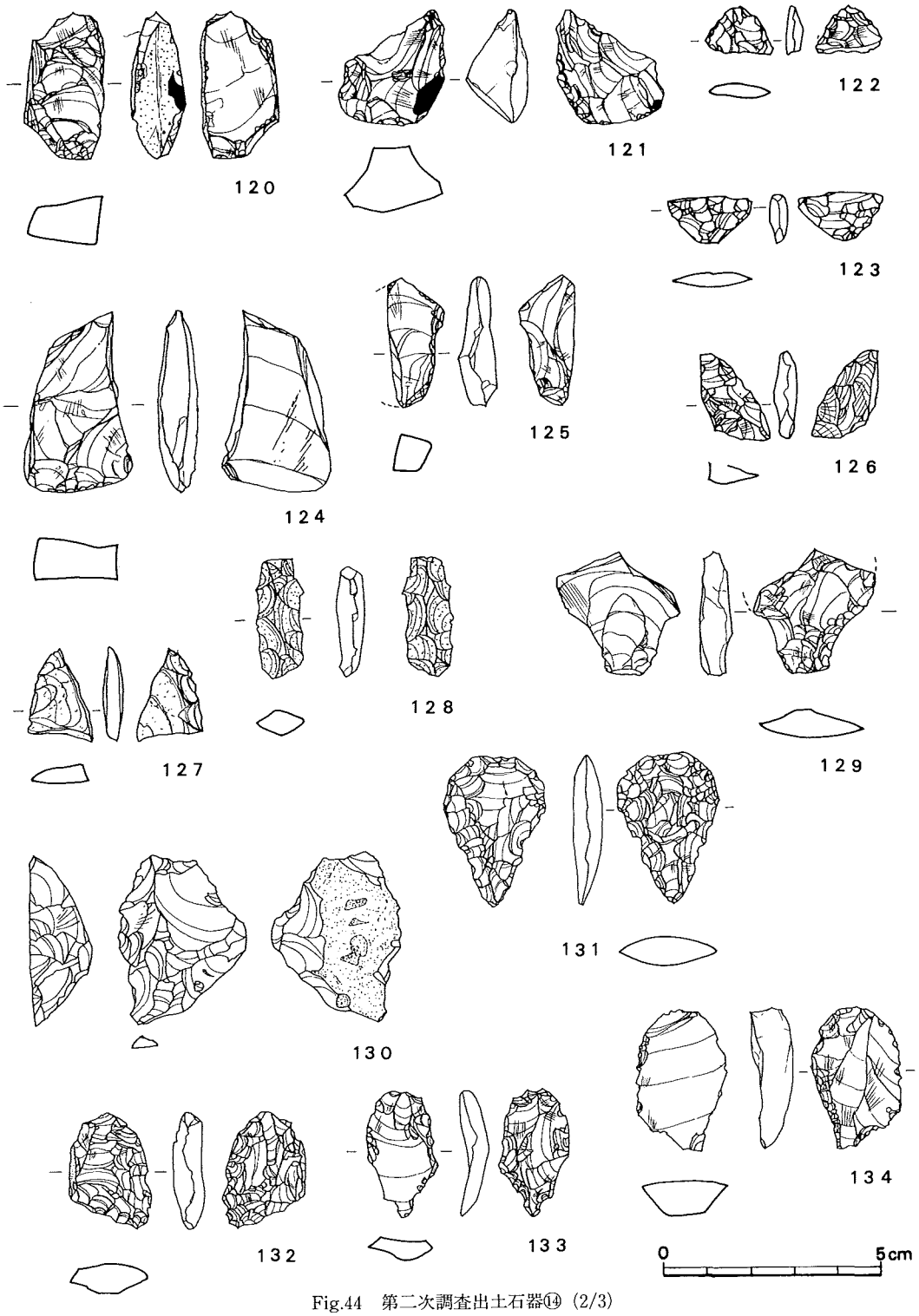



Fig.44　第二次調査出土石器⑭（2/3）

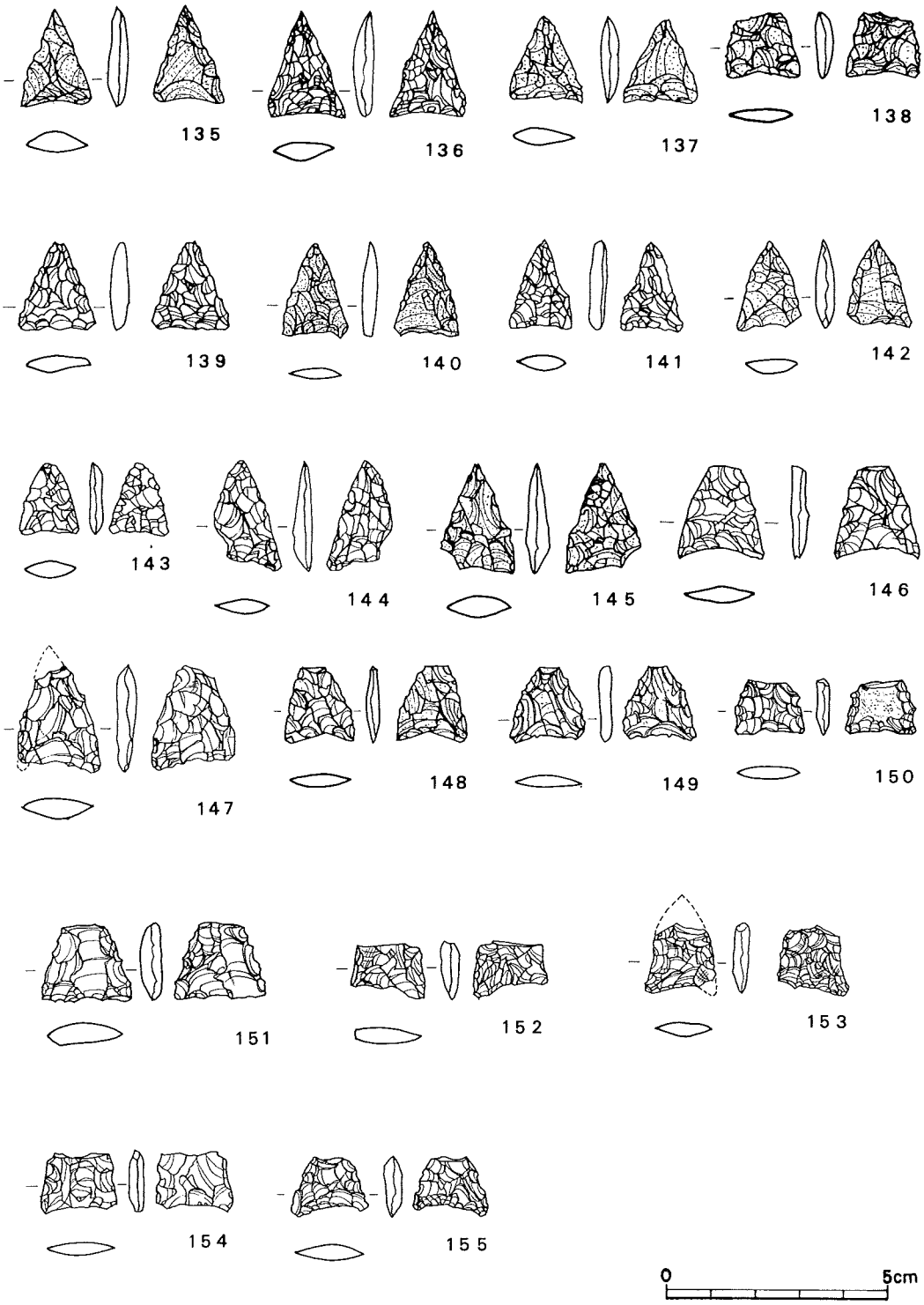



Fig.45　第二次調査出土石器⑮（2/3）

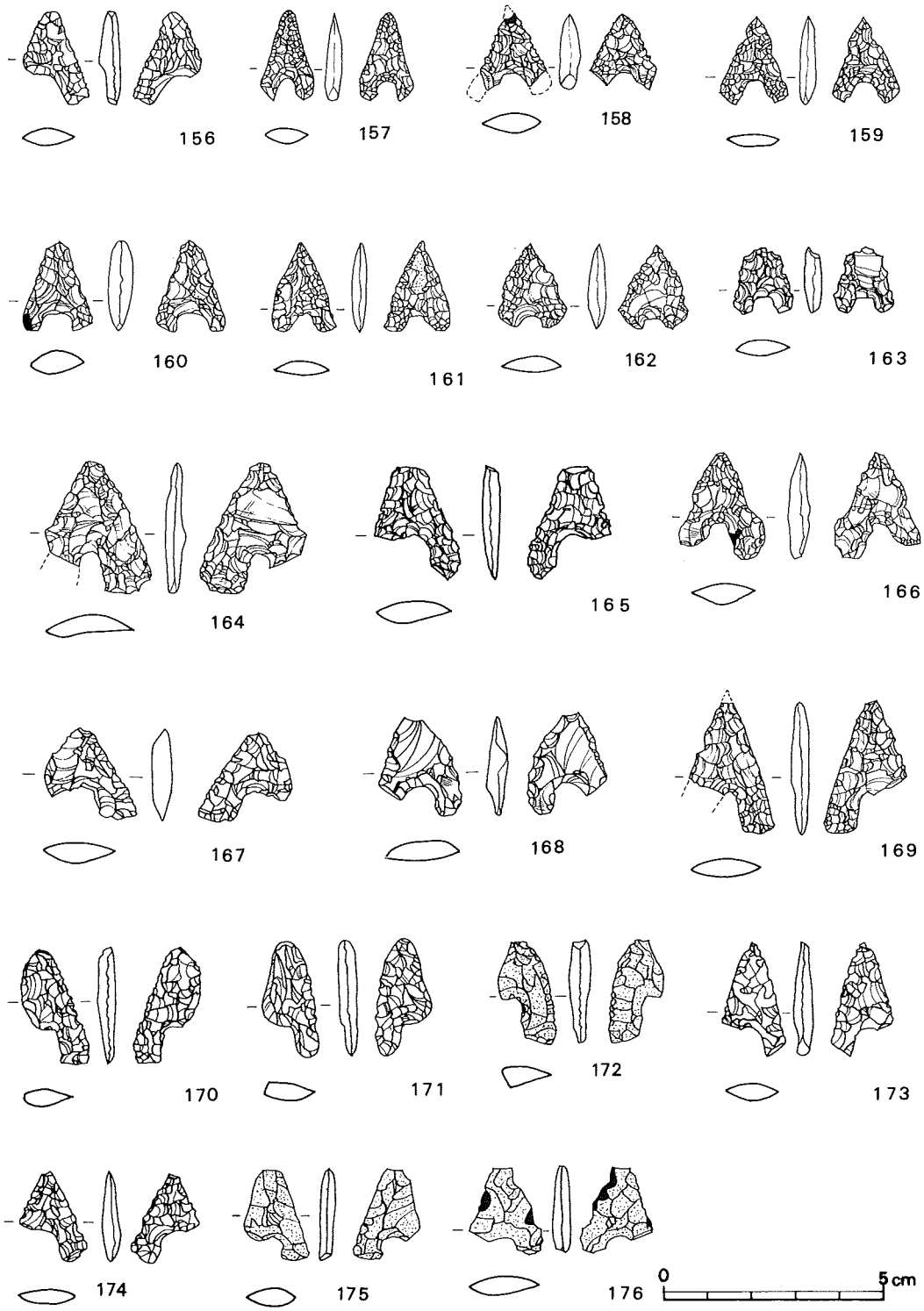



Fig.46　第二次調査出土石器⑯（2/3）

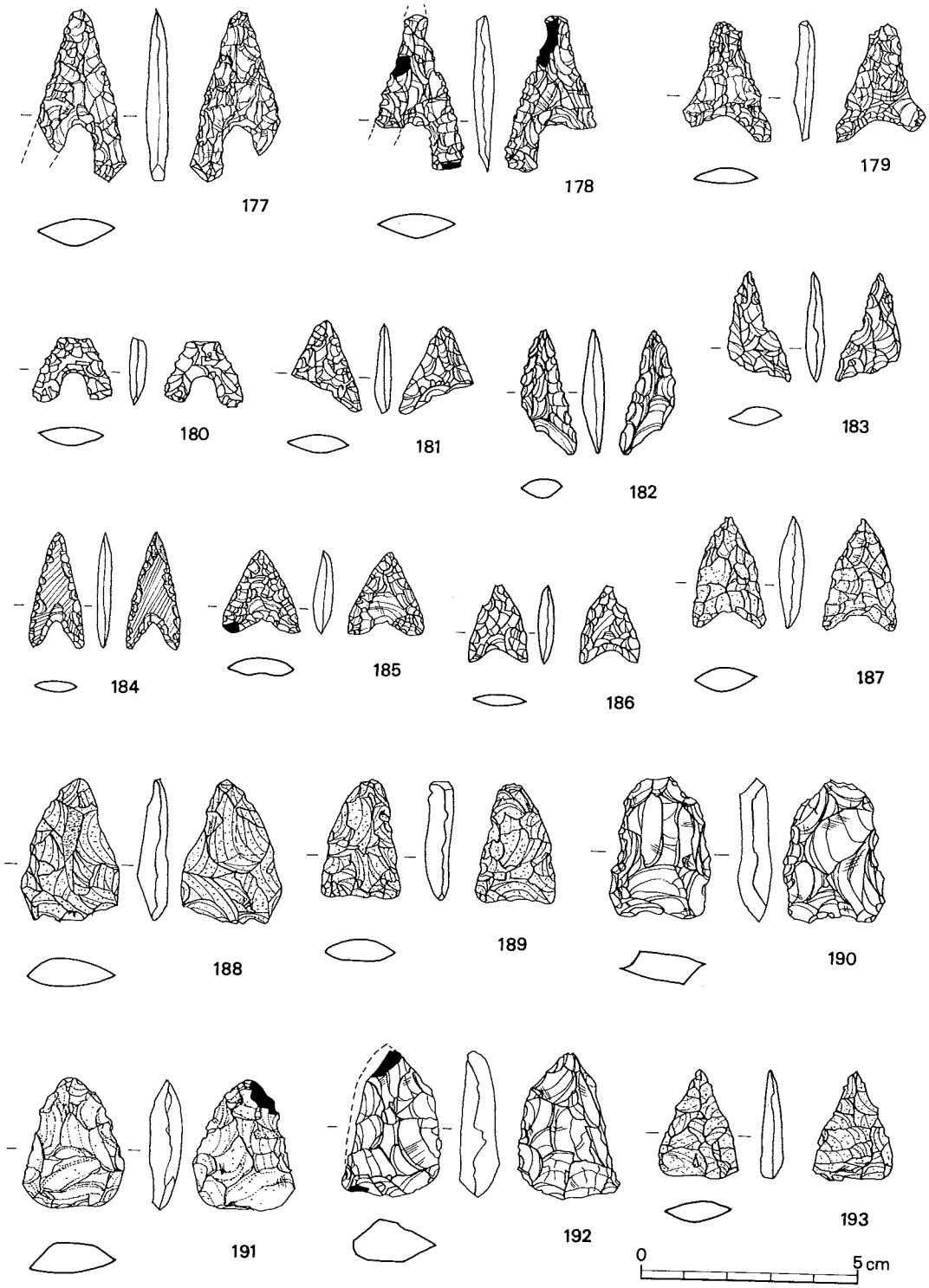



Fig.47　第二次調査 出土石器⑰（2/3）

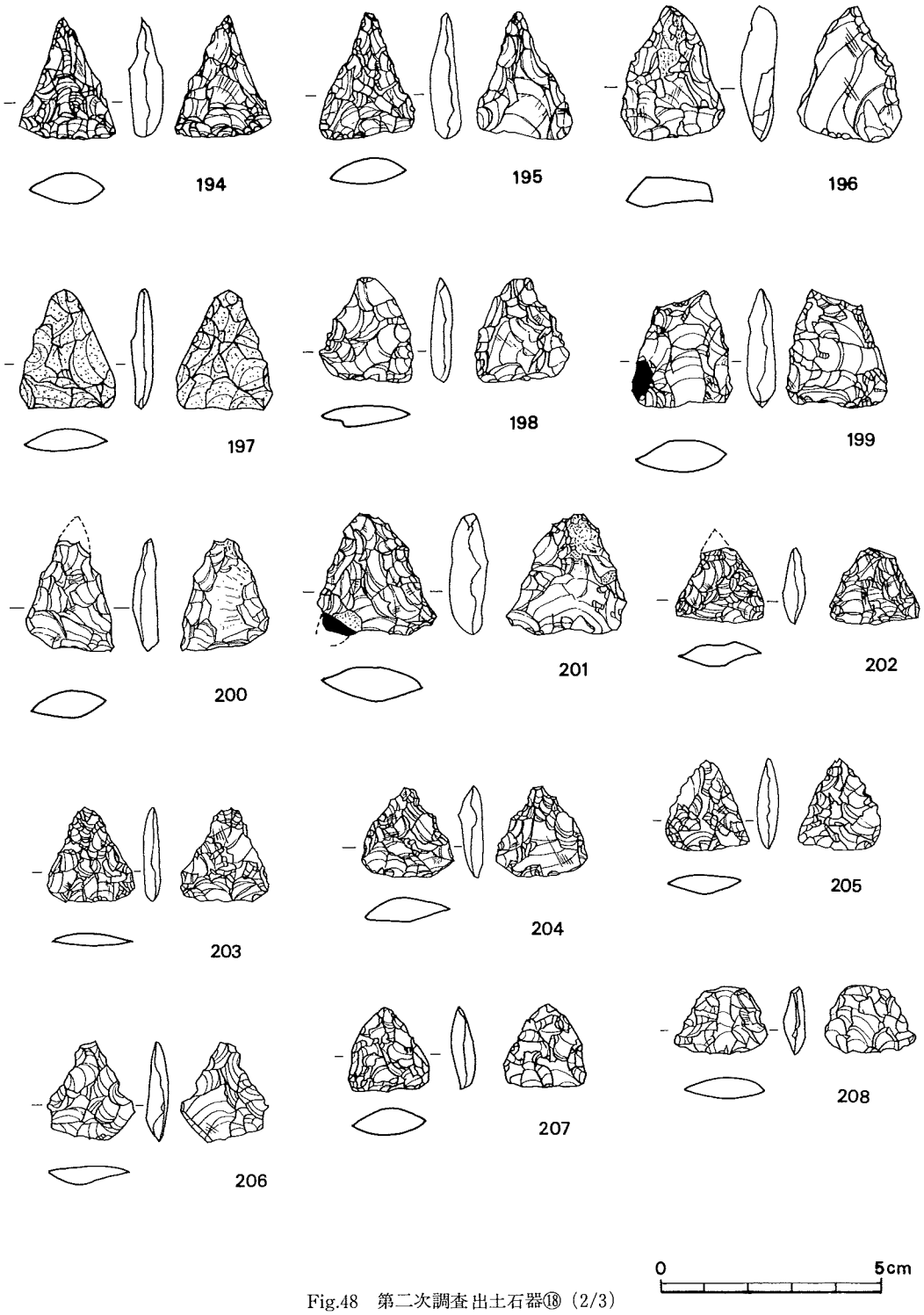



Fig.48　第二次調査 出土石器⑱（2/3）

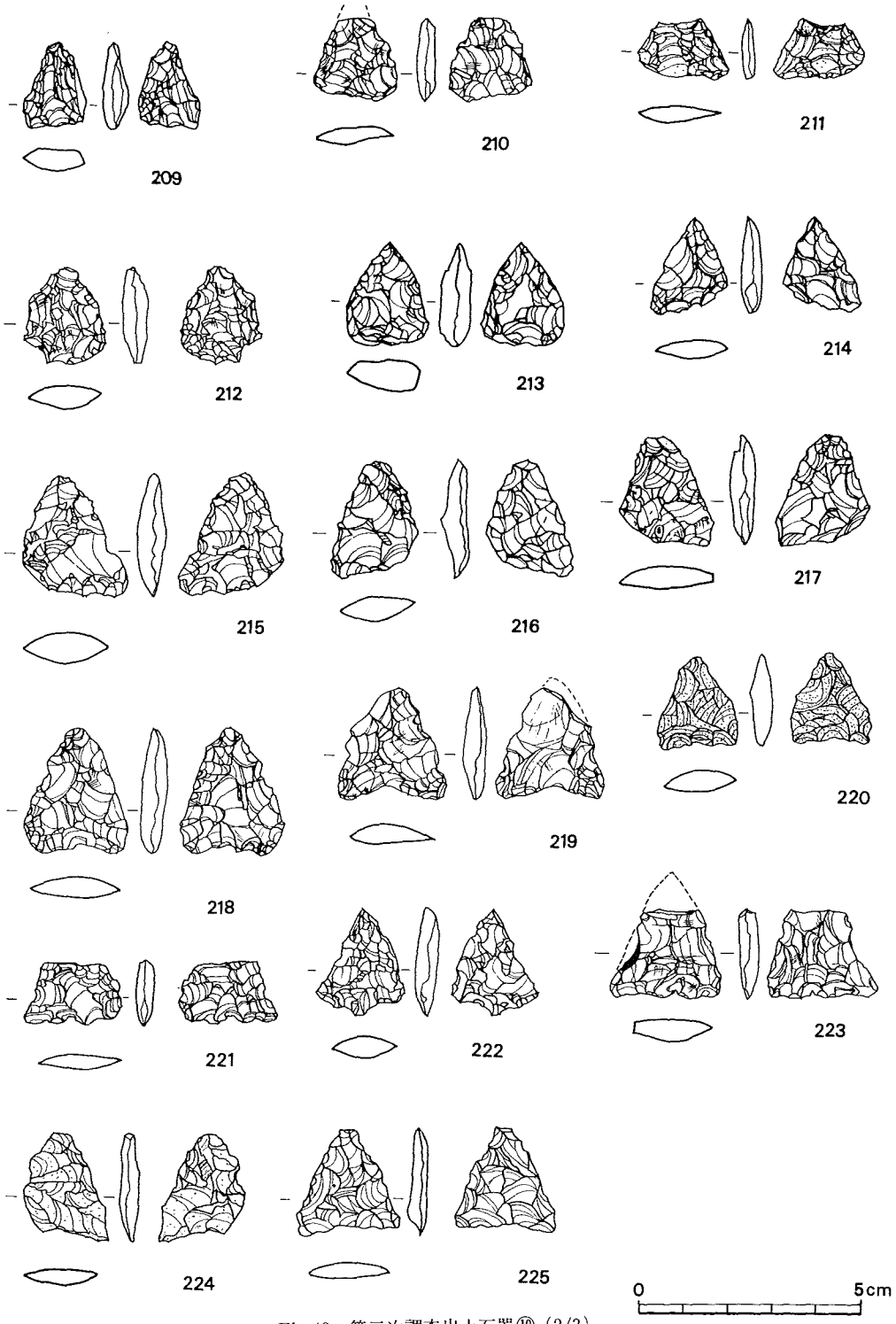



Fig.49　第二次調査出土石器⑲（2/3）

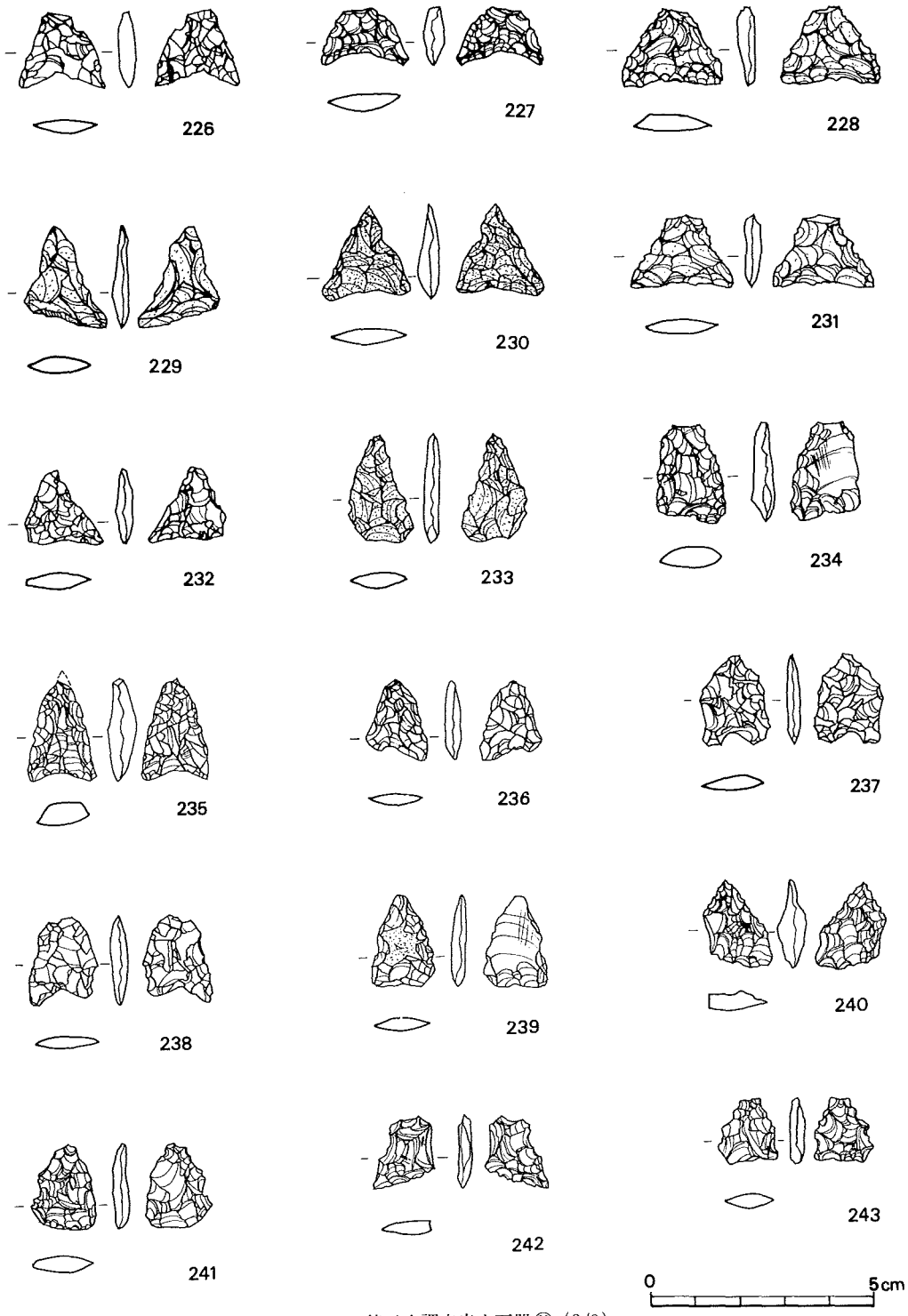



Fig.50　第二次調査出土石器⑳（2/3）

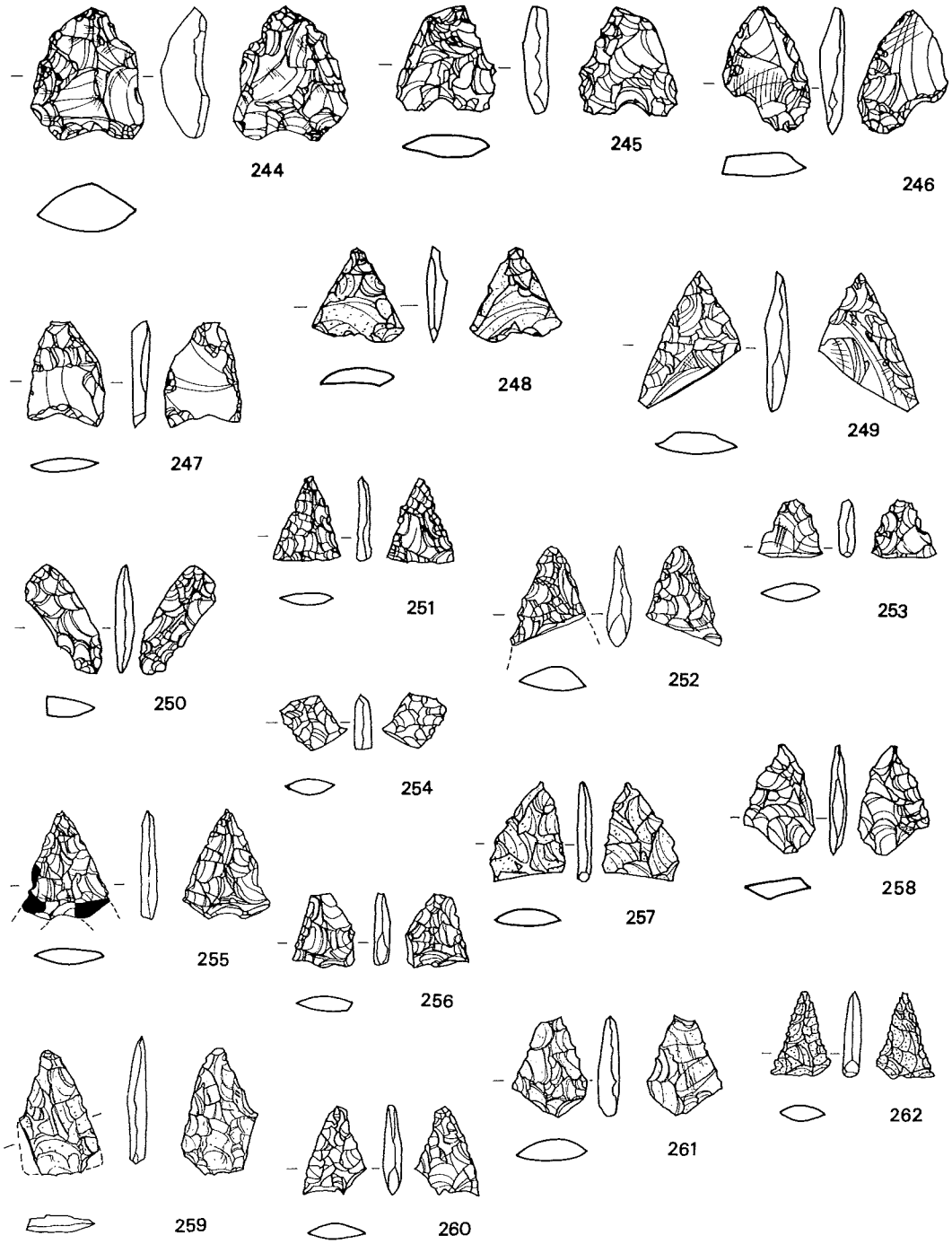



Fig.51　第二次調査出土石器㉑（2/3）

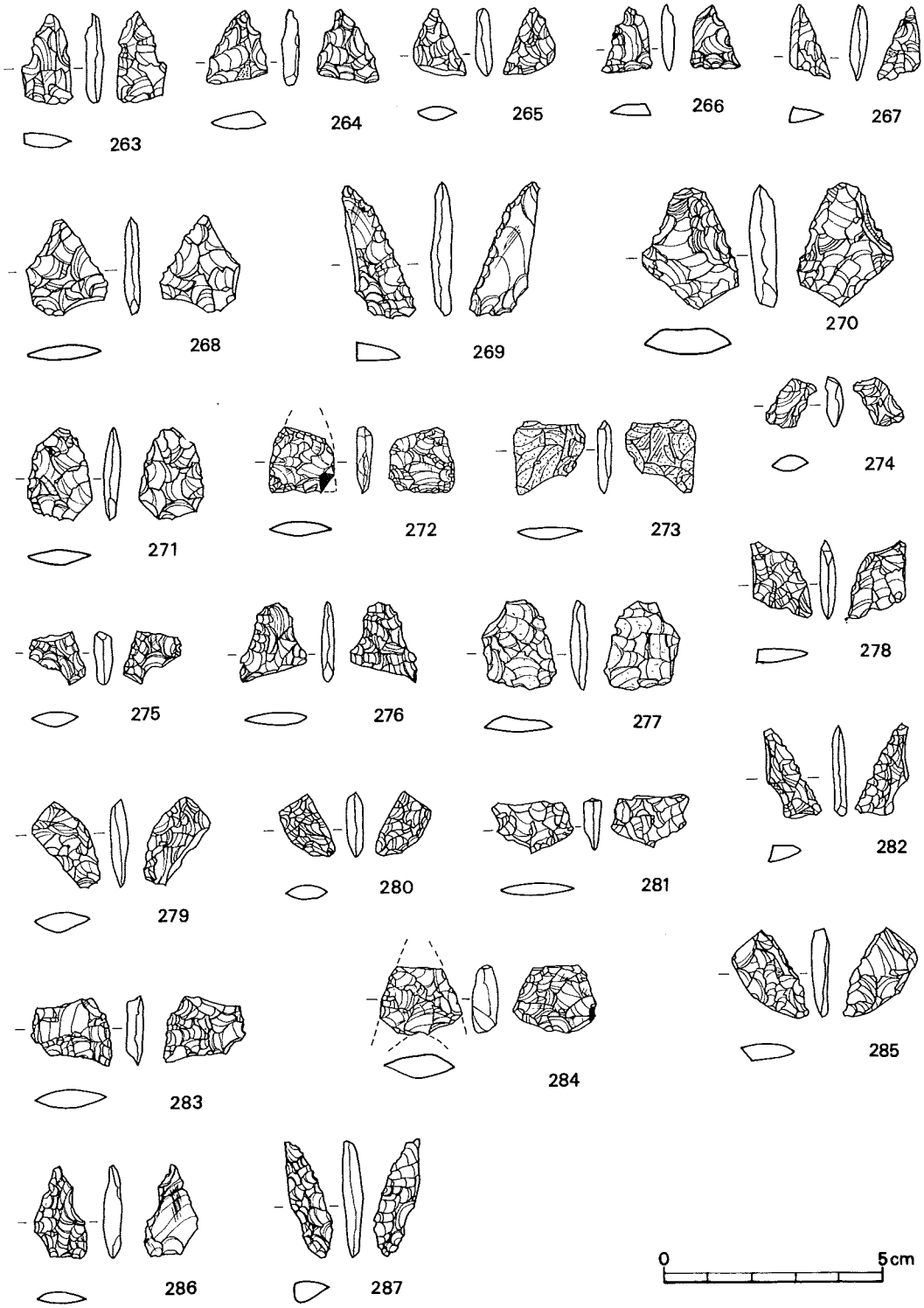



Fig.52　第二次調査出土石器㉒（2/3）

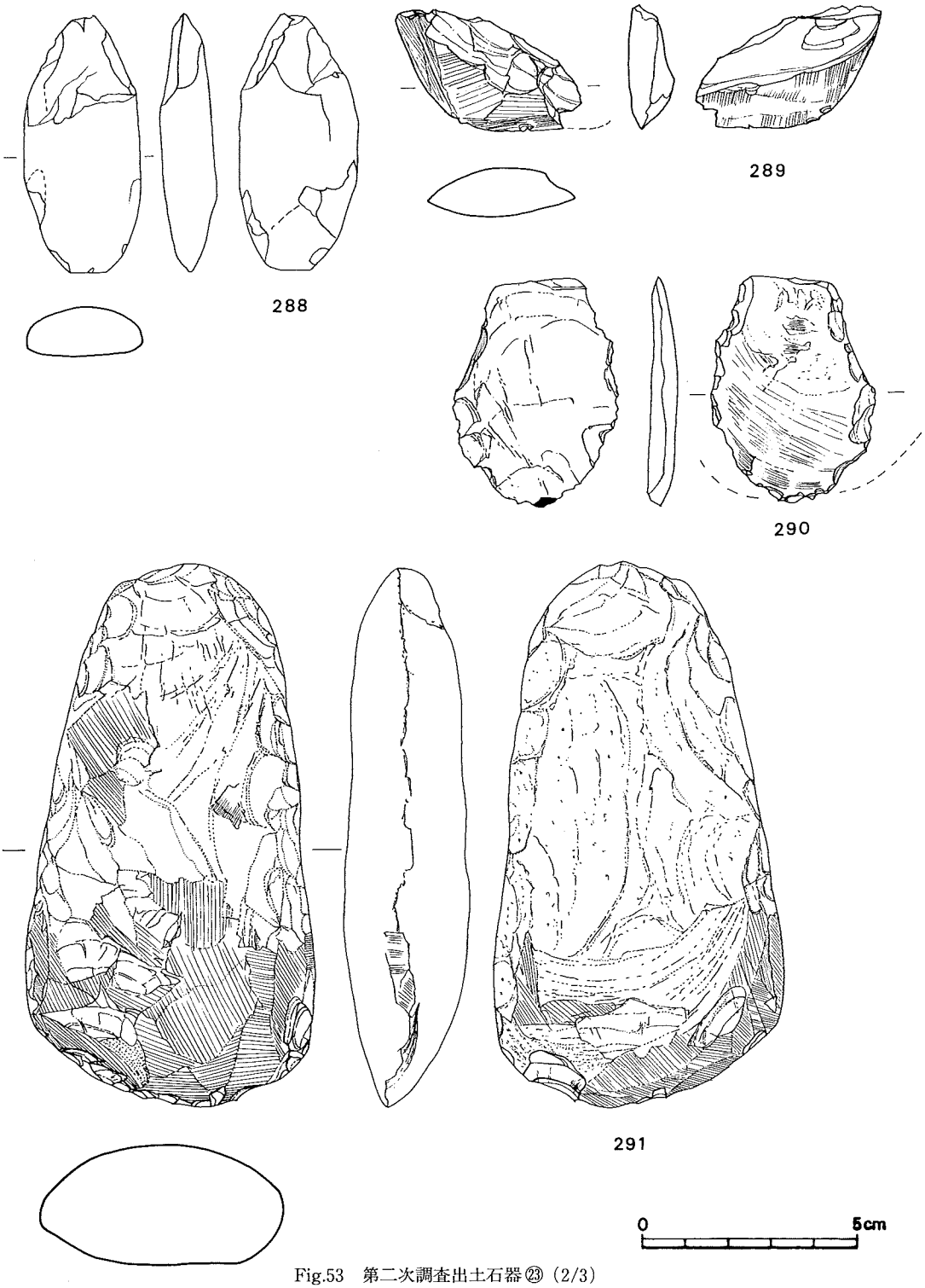



Fig.53　第二次調査出土石器㉓（2/3）

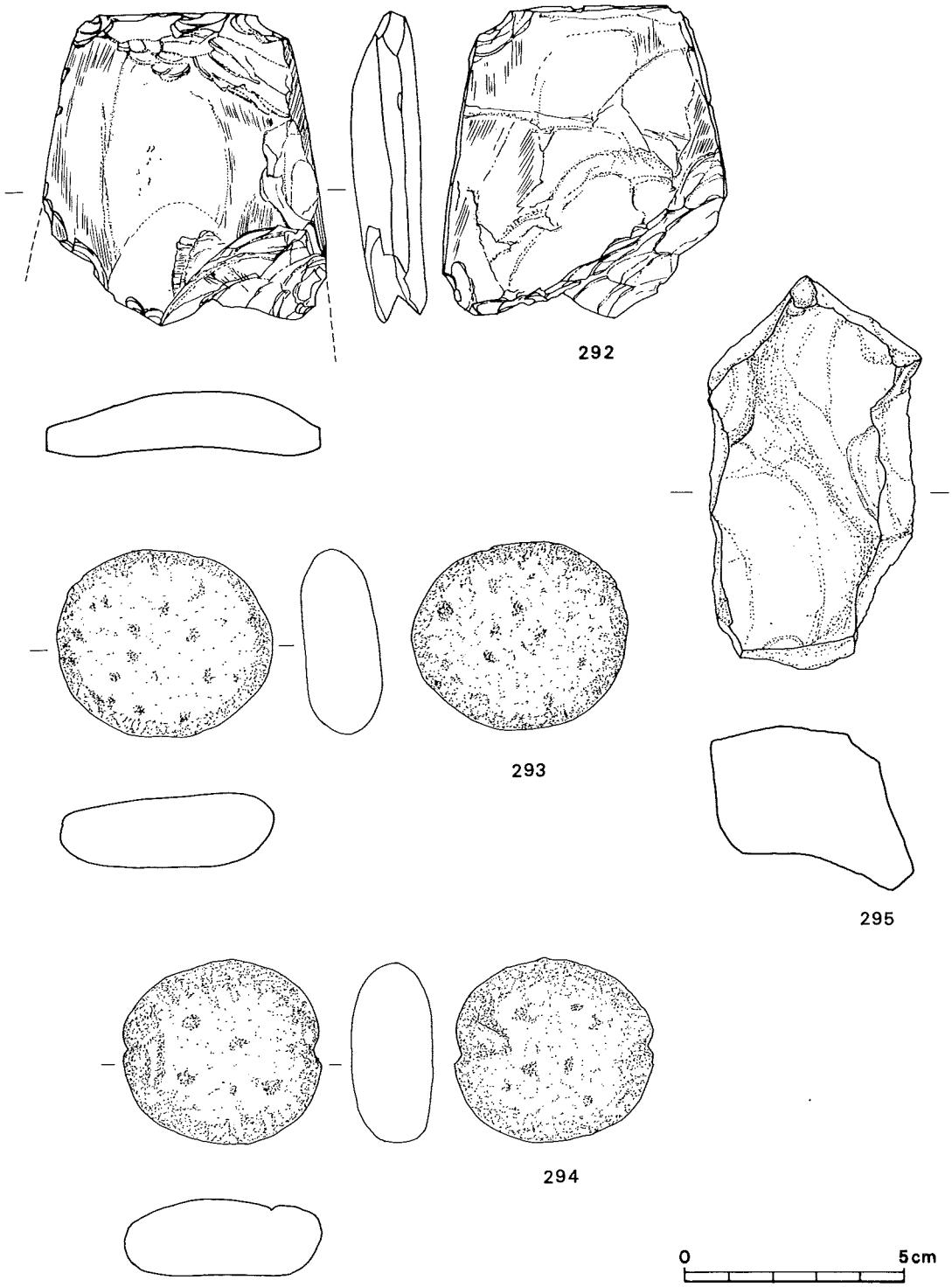



Fig.54　第二次調査出土石器㉔（2/3）

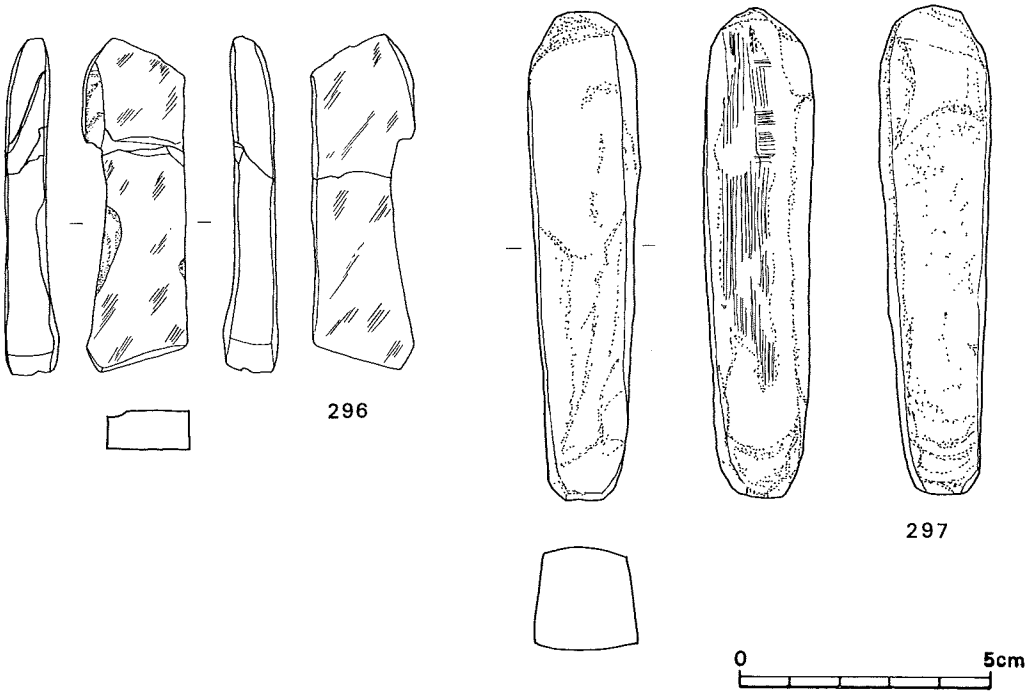



Fig.55　第二次調査出土石器㉕（2/3）

磨きだす。

磨石・砥石（293～297）293と294は磨石で，中央が使用により平坦な面を持つ。295と297は砂岩使用，296は粘板岩質の石材を使用した砥石である。

遺構１出土石器（298～325）土壙内より29点の石器，剥片の出土があった。299・300は石鏃でともに脚を有するが，300は脚欠損している。301・302・304・306は加工痕のある石器。また，使用痕ある石器が，305・307・313等がある。その他は剥片類であった。

扁平打製石斧（326～346）縄文晩期に伴う石斧で縦長の扁平石材を側縁部から階段状に剥離を加えたものである。完形品は326，329があり，他は刃部及び基部を欠く。

石核（347～359）347・348は船底状に両側縁部から剥離する。349・352・357は打面調整を行なわずに上部から加撃する。350・351・353～355は，平坦面作りだしの後，剥離する。356は自然面削平の後，上部より加撃するもの。358・359多方面より剥離したものである。以上が各地区より出土した遺物である。

（町田）

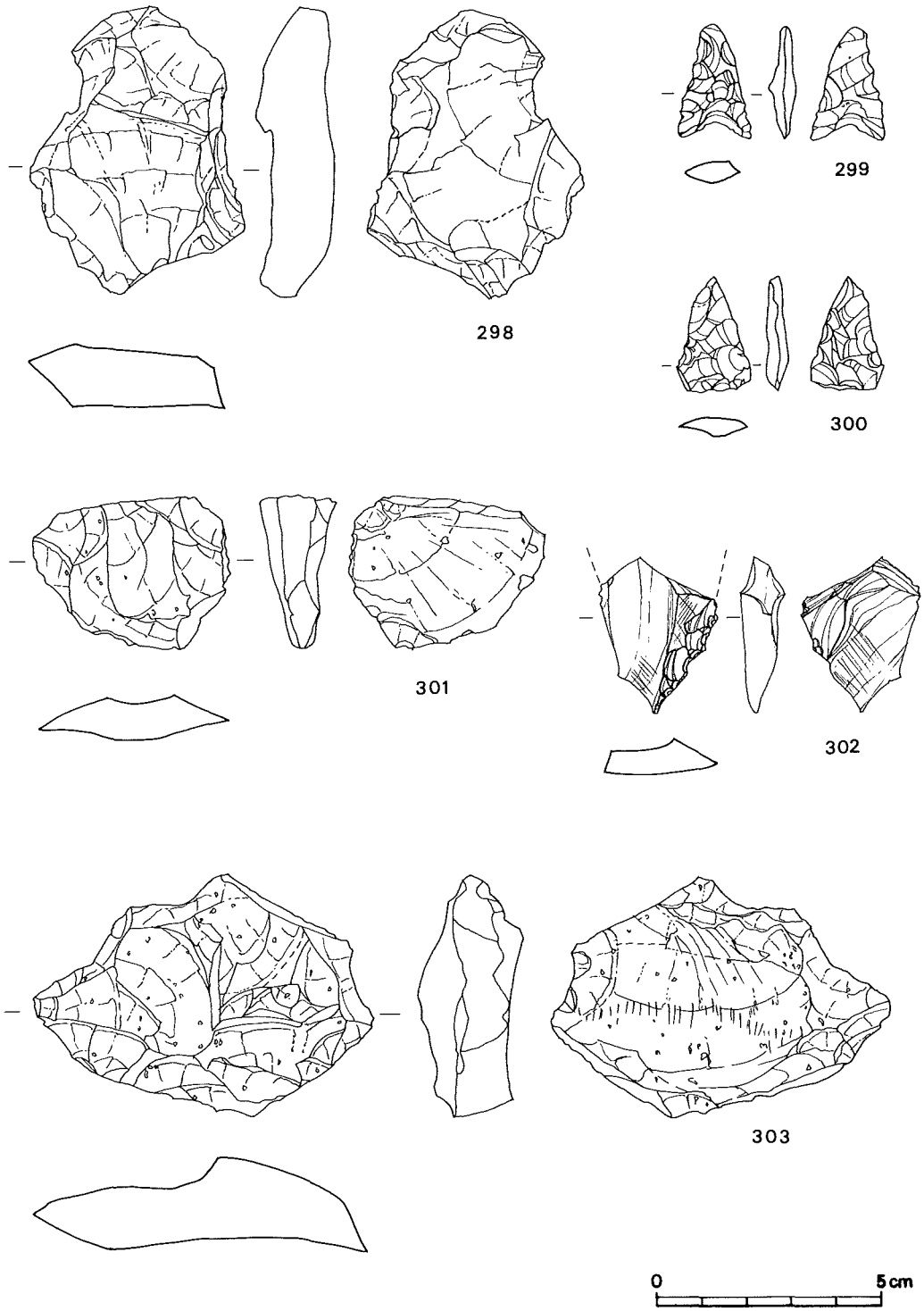



Fig.56　第二次調査出土石器㉖（2/3）

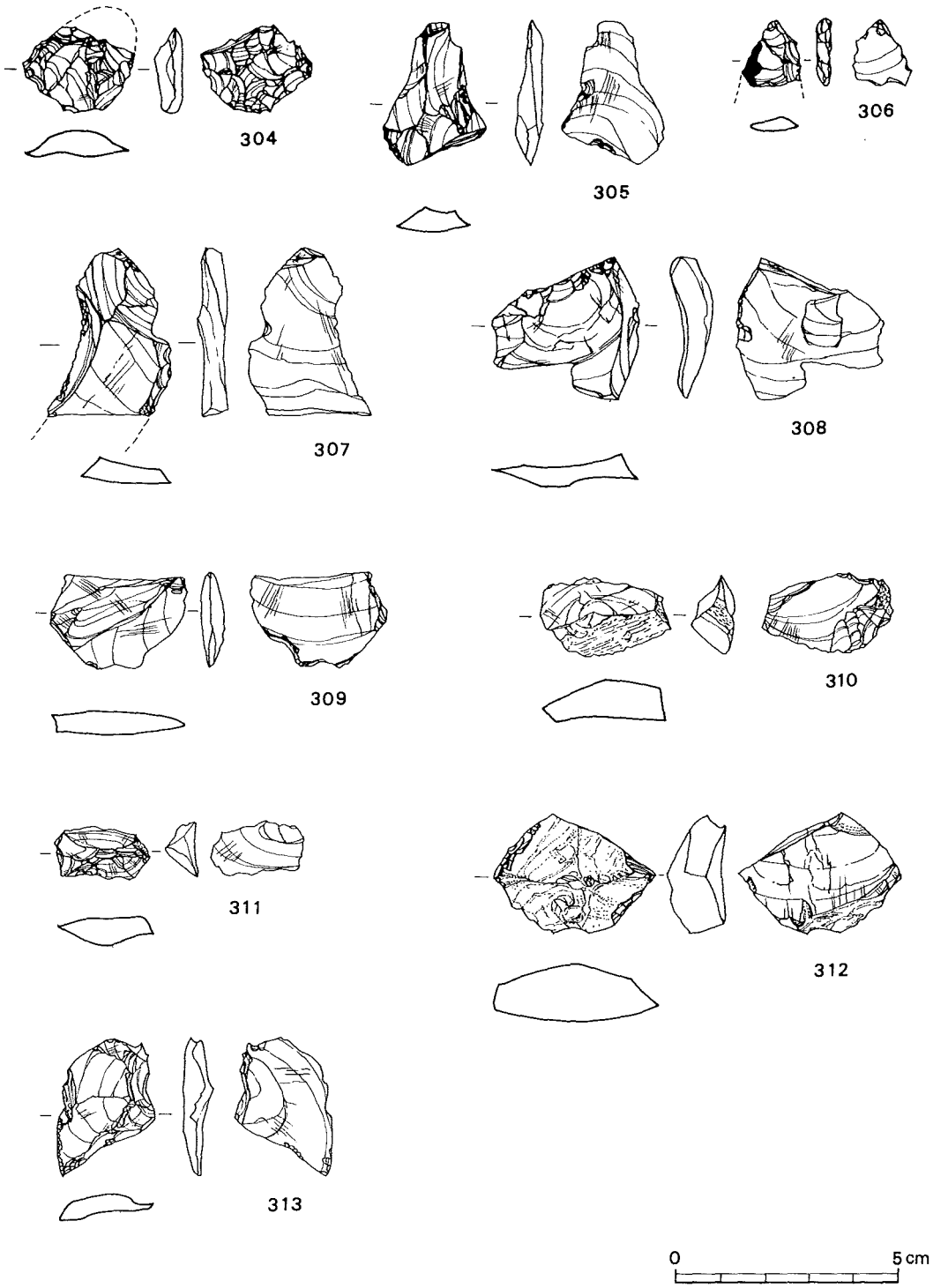



Fig.57　第二次調査出土石器㉗（2/3）

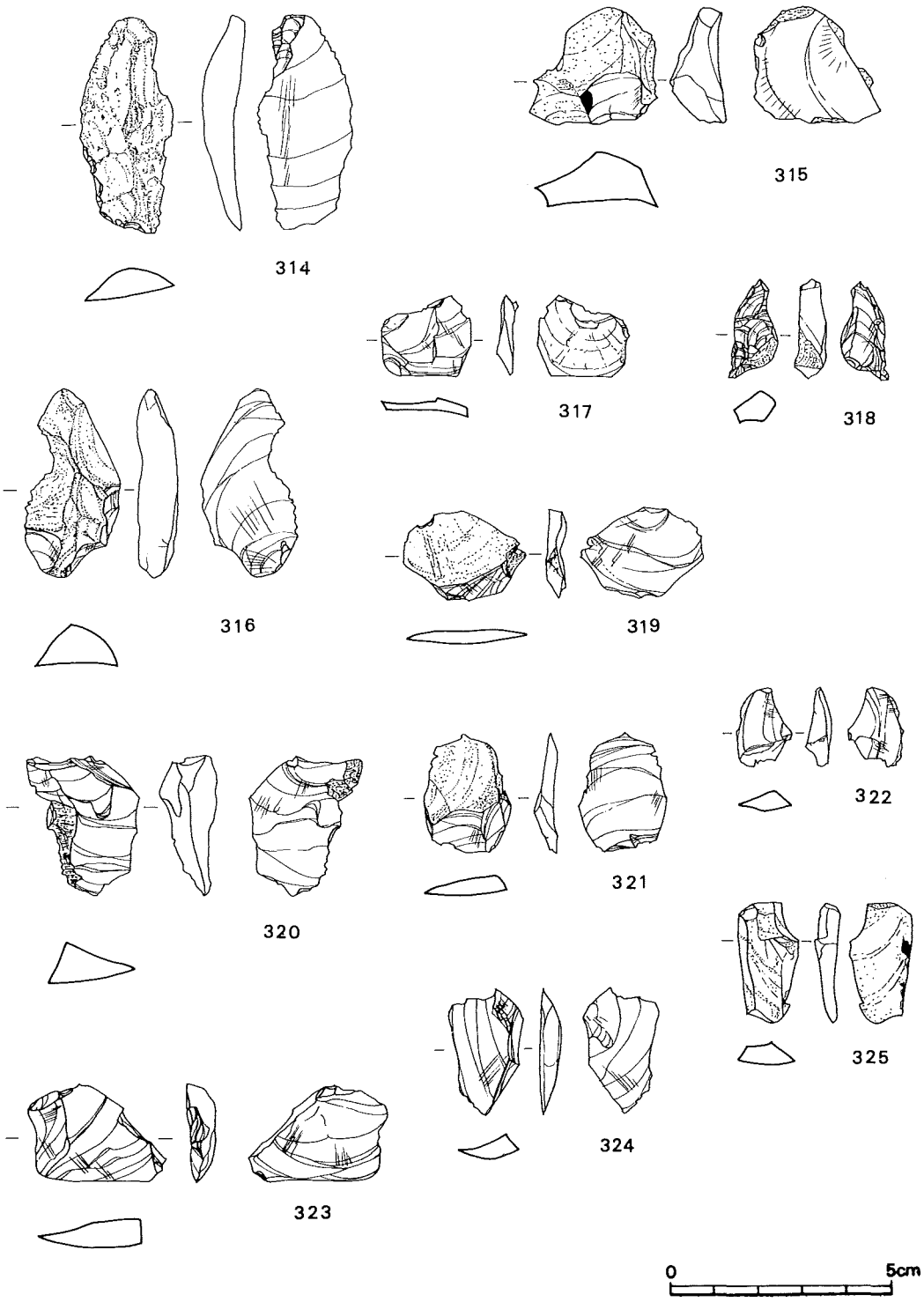



Fig.58　第二次調査出土石器㉘（2/3）

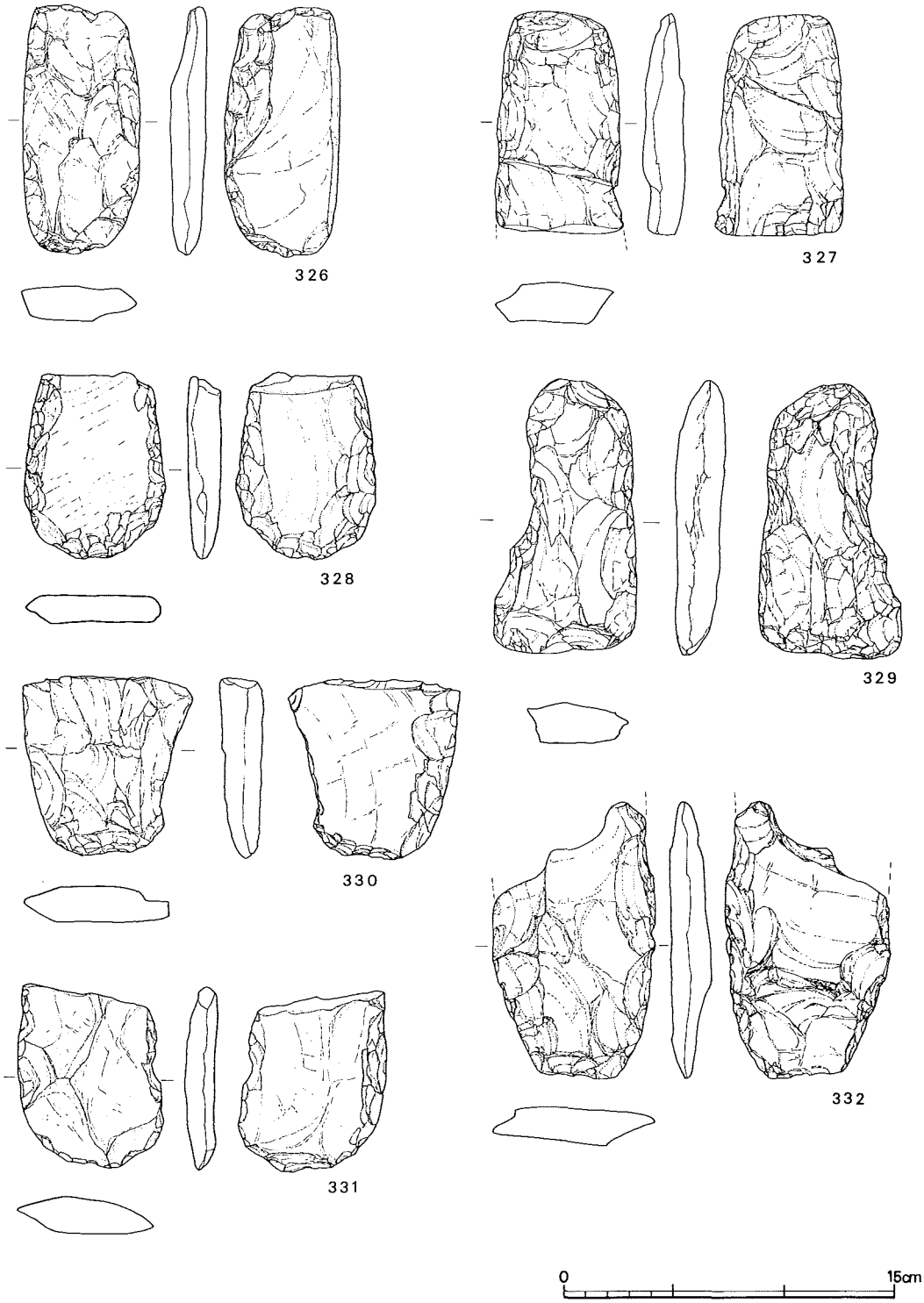



Fig.59　第二次調査出土石器㉙（1/3）

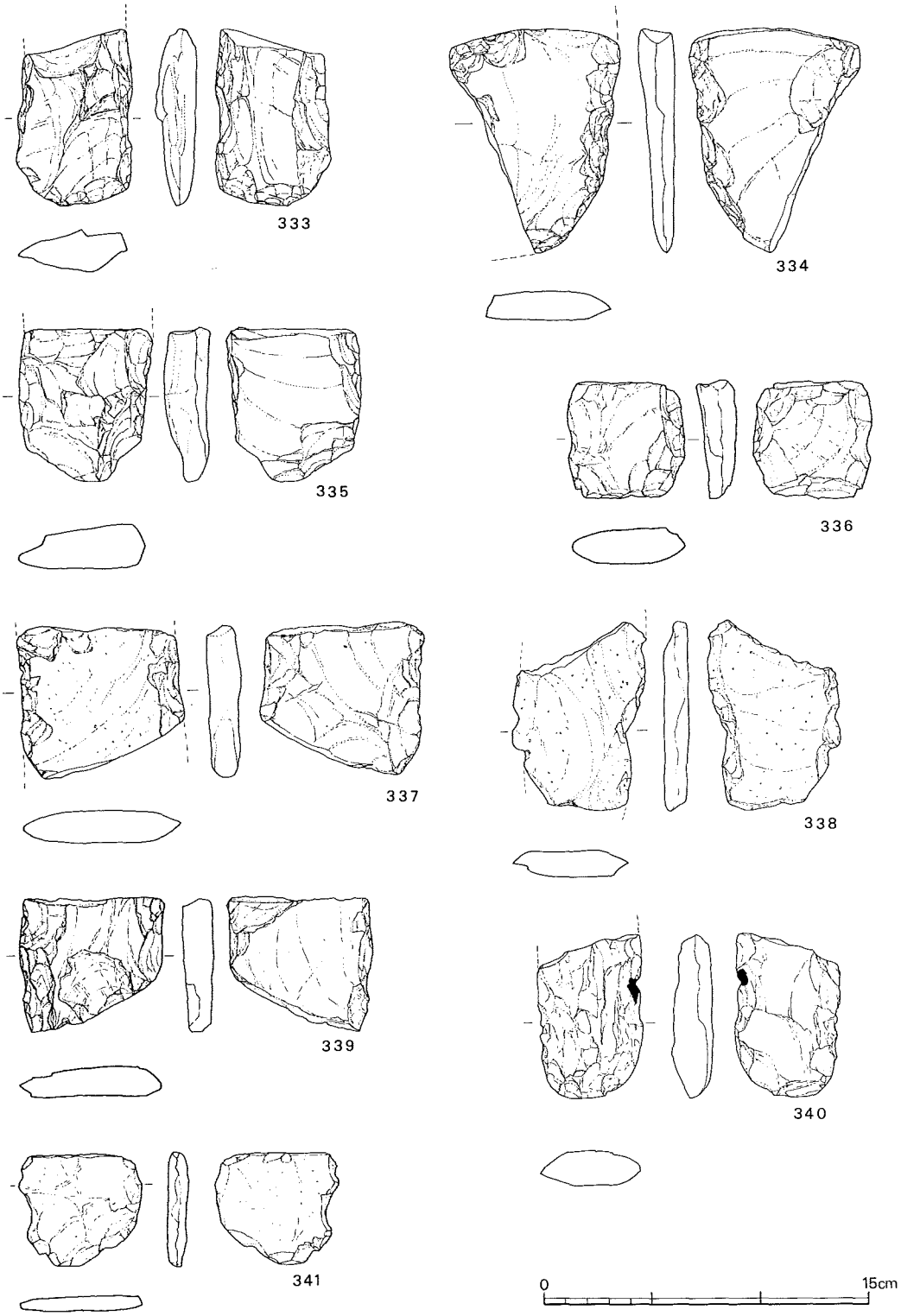



Fig.60　第二次調査出土石器㉚（1/3）

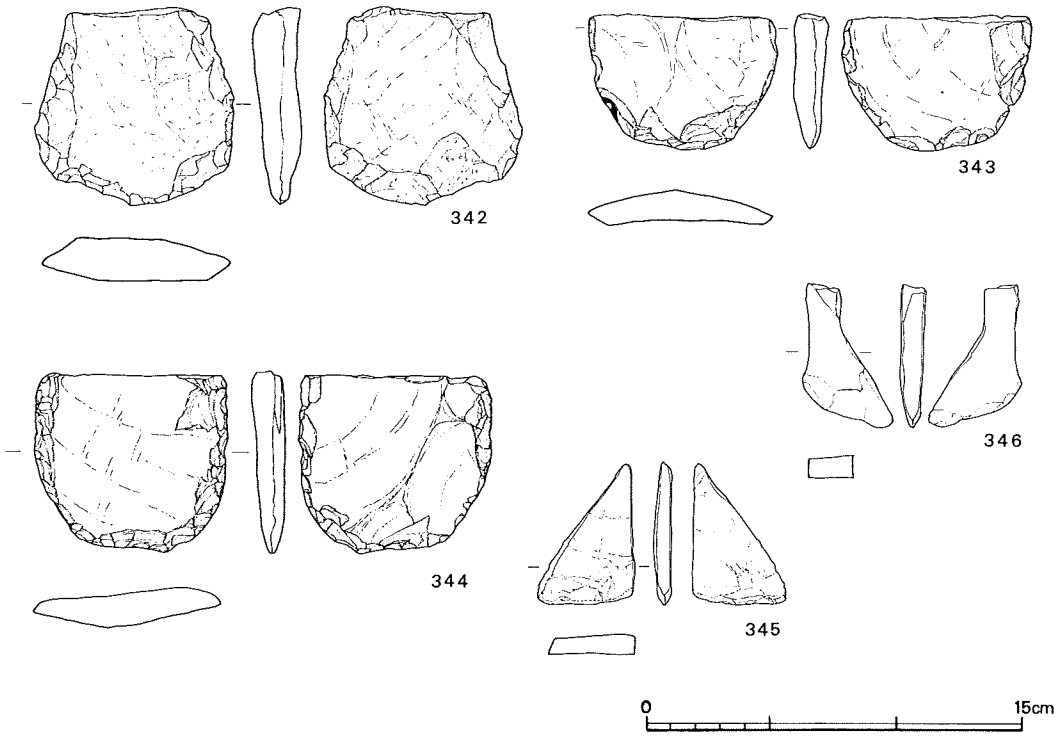



Fig.61　第二次調査出土石器㉛（1/3）

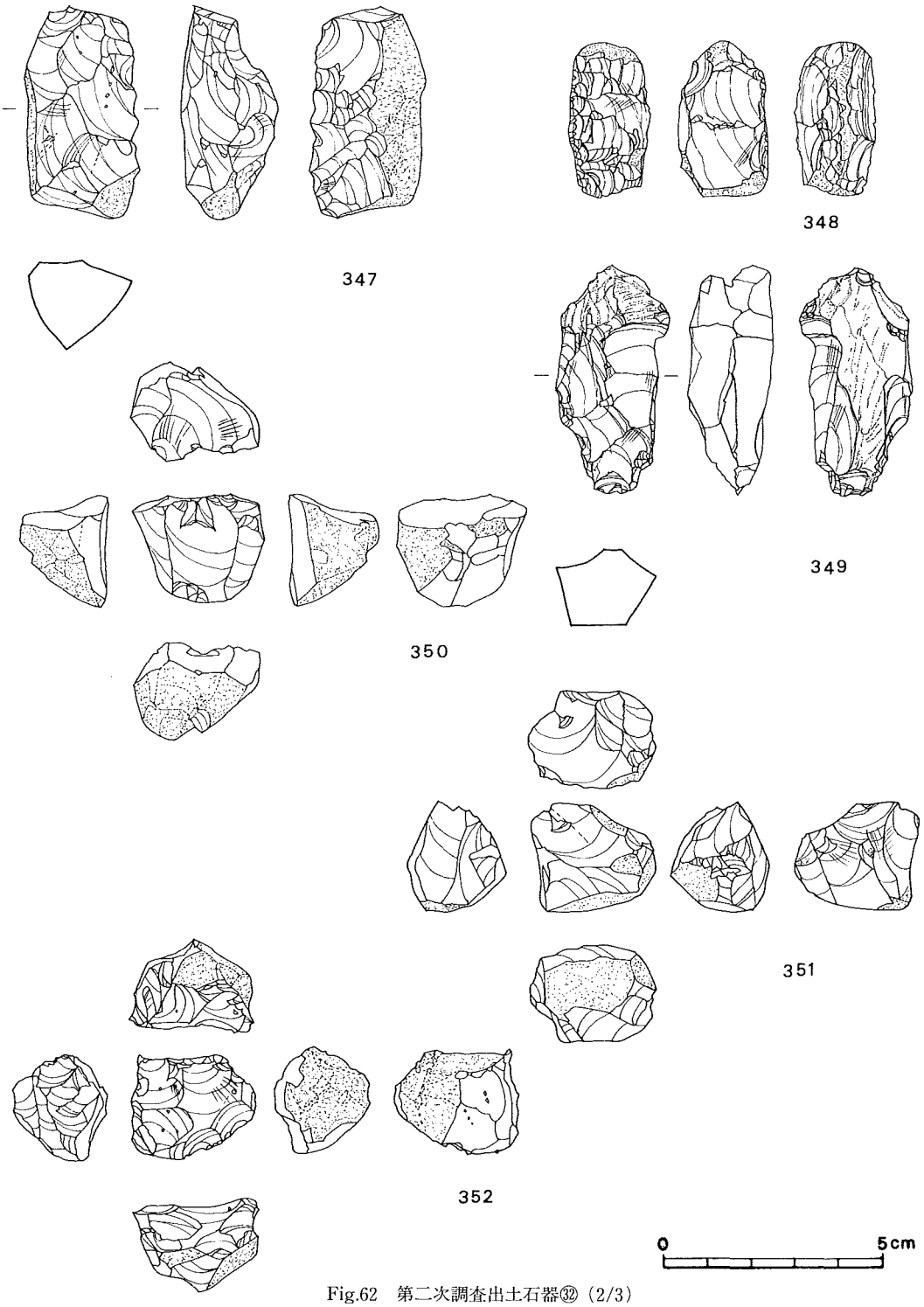



Fig.62　第二次調査出土石器㉜（2/3）

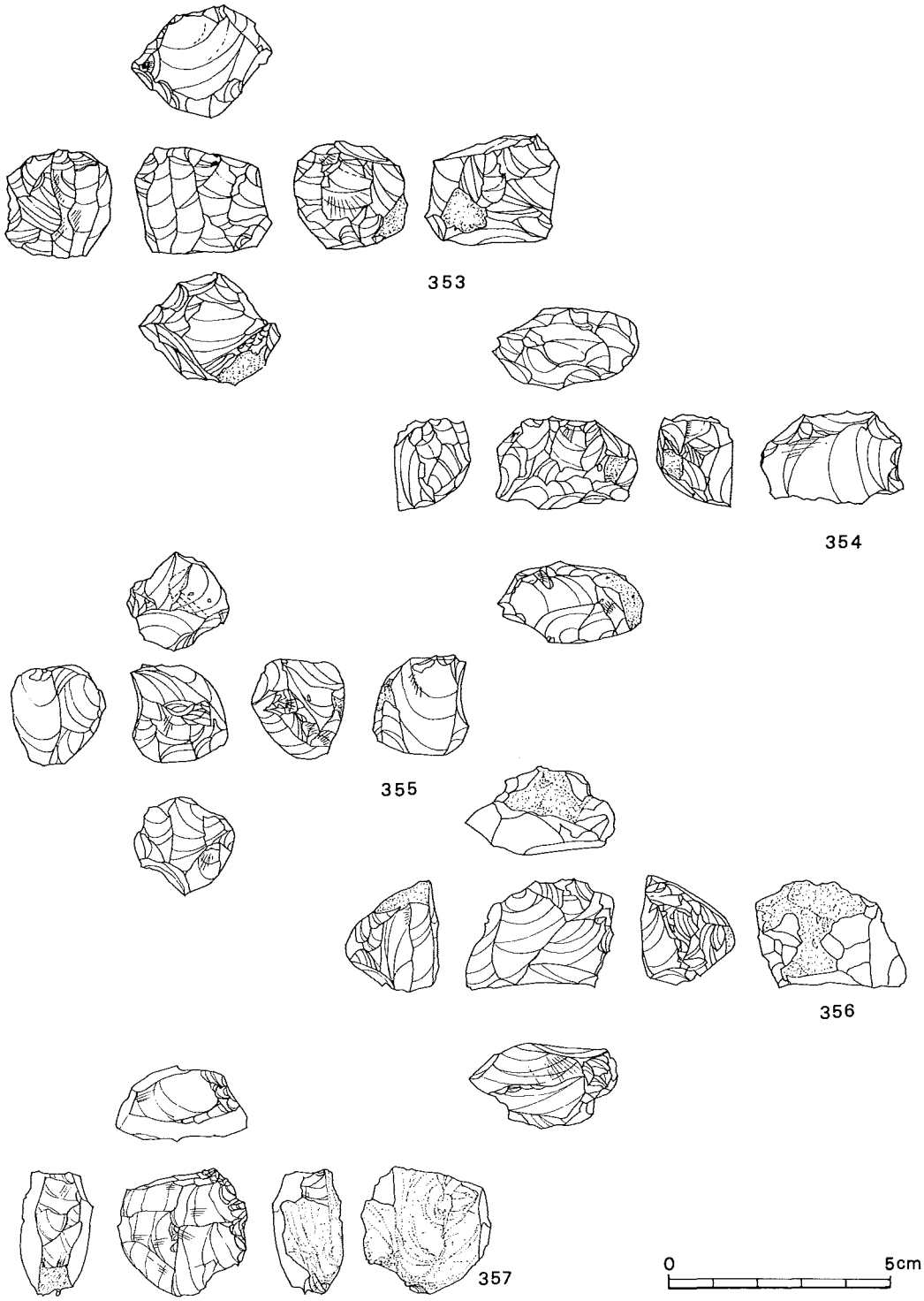



Fig.63　第二次調査出土石器㉝（2/3）

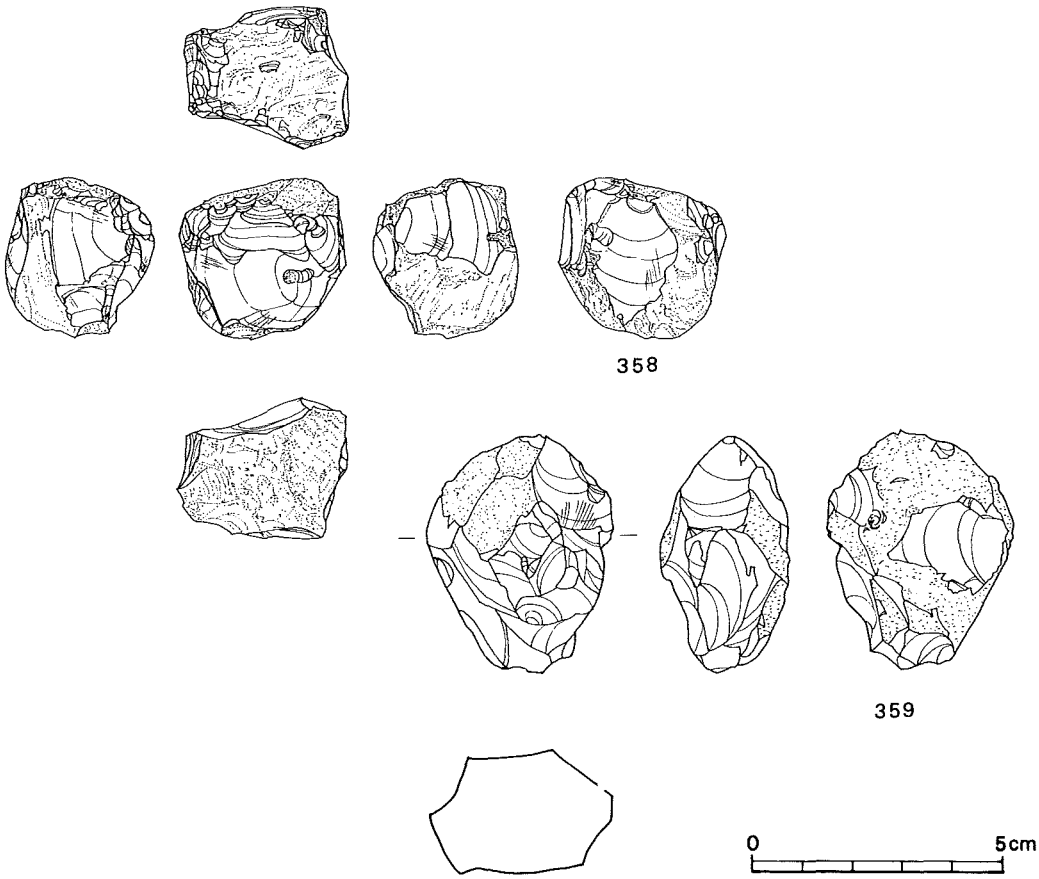



Fig.64　第二次調査出土石器㉞（2/3）

Tab. 6　第二次調査　出土石器計測表

| 遺物番号 | 出土地区 | 最長(cm) | 最幅(cm) | 最厚(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | L-4-II | 3.25 | 1.0 | 0.4 | 0.9 | ナイフ形石器 |
| 2 | D-1-III | 6.75 | 3.6 | 1.0 | 23.5 | 加工痕ある石器 |
| 3 | P-6-III | 4.2 | 2.45 | 0.8 | 9.3 | 〃 |
| 4 | TP-10-III | 2.2 | 3.4 | 0.9 | 3.05 | 〃 |
| 5 | L-5-6-II | 2.65 | 3.6 | 1.25 | 7.7 | 〃 |
| 6 | R-7-III | 3.8 | 2.75 | 0.95 | 4.5 | 〃 |
| 7 | K | 5.42 | 6.0 | 2.09 | 7.7 | 大型スクレイパー |
| 8 | Q-7-III | 6.97 | 6.55 | 2.21 | 96.9 | 〃 |
| 9 | N-3-III | 7.0 | 4.3 | 2.0 | 78.3 | 〃 |
| 10 | P-6-III | 3.45 | 7.31 | 1.42 | 28.87 | 〃 |
| 11 | P-8-III | 5.48 | 8.5 | 2.1 | 97.9 | 〃 |
| 12 | Q-7-III | 6.4 | 3.52 | 2.07 | 30.85 | 〃 |
| 13 | P-6-III | 5.1 | 6.87 | 3.49 | 132.0 | 〃 |
| 14 | O-7-III | 8.25 | 7.88 | 2.7 | 47.1 | 尖頭器状石器 |
| 15 | O-6-III | 4.05 | 3.45 | 0.95 | 10.74 | 尖頭器状石器 |
| 16 | R-7-III | 3.45 | 2.6 | 0.9 | 6.22 | 〃 |
| 17 | B-1-II | 3.5 | 2.75 | 0.75 | 6.0 | 〃 |
| 18 | B-1-H | 4.15 | 2.9 | 1.2 | 13.9 | 〃 |
| 19 | D-2-II | 3.75 | 3.0 | 1.4 | 11.7 | 〃 |
| 20 | 表土 | 2.15 | 2.4 | 0.7 | 4.3 | 〃 |
| 21 | O-3-III | 2.65 | 2.1 | 0.7 | 3.4 | 〃 |
| 22 | C-1-II | 2.1 | 2.1 | 0.7 | 2.4 | 〃 |
| 23 | C-1-H | 2.7 | 2.4 | 0.7 | 3.7 | 〃 |
| 24 | K-3-H | 2.05 | 1.9 | 0.5 | 2.32 | 〃 |
| 25 | P-2-II | 1.55 | 1.8 | 0.45 | 1.07 | 〃 |
| 26 | B-1-H | 1.5 | 1.7 | 0.7 | 1.0 | 〃 |
| 27 | R-9-乱 | 5.4 | 4.0 | 1.2 | 24.85 | スクレイパー(長方形) |
| 28 | P-6-III | 3.0 | 1.7 | 0.6 | 2.03 | 尖頭器状石器 |
| 29 | A-2-II | 5.1 | 3.9 | 1.5 | 24.55 | スクレイパー(長方形) |
| 30 | Q-7-III | 5.77 | 4.3 | 2.03 | 36.9 | 〃　〃 |
| 31 | K-3-III | 3.72 | 4.8 | 1.18 | 21.3 | 〃　〃 |
| 32 | M-5-III | 4.02 | 2.88 | 1.2 | 16.1 | 〃　〃 |
| 33 | Q-6-III | 3.55 | 2.3 | 1.05 | 7.9 | 〃　〃 |
| 34 | K-3-III | 3.15 | 2.3 | 0.8 | 5.4 | 〃　〃 |
| 35 | P-1-P.6-1 | 2.8 | 3.6 | 1.0 | 7.95 | 〃　〃 |
| 36 | Q-7-III | 2.5 | 3.0 | 0.7 | 6.07 | 〃　〃 |
| 37 | R-7-III | 2.0 | 2.8 | 0.5 | 2.6 | 〃　〃 |
| 38 | K-3-III | 1.7 | 2.8 | 0.7 | 2.8 | 〃　〃 |
| 39 | C-1-II | 2.05 | 3.35 | 0.9 | 4.82 | 〃　〃 |
| 40 | M-4-III | 2.35 | 2.4 | 0.5 | 2.25 | 〃　〃 |
| 41 | M-4-III | 2.0 | 3.0 | 0.6 | 3.17 | 〃　〃 |
| 42 | M-5-III | 2.9 | 1.8 | 0.45 | 2.4 | 〃　〃 |
| 43 | M-5-III | 2.7 | 1.9 | 0.5 | 11.55 | 〃　〃 |
| 44 | R-7-III | 2.75 | 1.81 | 0.5 | 1.7 | 〃　〃 |
| 45 | D-1-III | 1.8 | 2.7 | 0.7 | 2.83 | 〃　〃 |
| 46 | C-1-II | 1.95 | 2.1 | 0.5 | 1.77 | 〃　〃 |
| 47 | O-7-III | 1.7 | 1.95 | 0.45 | 1.18 | 〃　〃 |
| 48 | B-1-H | 2.75 | 2.3 | 0.85 | 4.3 | 〃　〃 |
| 49 | L-4-III | 2.2 | 2.1 | 0.45 | 1.85 | 〃　〃 |
| 50 | B-1-II | 2.5 | 2.3 | 0.6 | 2.6 | 〃　〃 |
| 51 | C-3-III | 1.8 | 2.1 | 0.6 | 1.87 | 〃　〃 |
| 52 | KL-5・4 II | 1.8 | 1.2 | 0.45 | 1.05 | 〃　〃 |
| 53 | H | 1.0 | 1.6 | 0.3 | 0.45 | 〃　〃 |
| 54 | D-2-II | 2.55 | 2.25 | 0.8 | 4.6 | 〃　(円形) |
| 55 | R-7-III | 2.0 | 1.9 | 0.6 | 2.3 | 〃　〃 |
| 56 | B-1-II | 2.7 | 2.3 | 0.85 | 4.23 | 〃　〃 |

Tab. 7　第二次調査　出土石器計測表

| 遺物番号 | 出土地区 | 最長(cm) | 最幅(cm) | 最厚(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 57 | O-8-Ⅲ | 2.94 | 3.0 | 1.29 | 10.42 | スクレイパー(円形) |
| 58 | R-9 | 2.75 | 2.55 | 0.8 | 3.53 | 〃　〃 |
| 59 | L-6-Ⅲ | 2.0 | 1.9 | 0.65 | 2.47 | 〃　〃 |
| 60 | R2-06-5 | 2.2 | 2.15 | 0.6 | 2.4 | 〃　〃 |
| 61 | N-7-Ⅲ | 2.8 | 2.25 | 0.75 | 4.6 | 〃　〃 |
| 62 | O-8-Ⅲ | 2.4 | 2.75 | 1.0 | 5.38 | 〃　〃 |
| 63 | R-7-Ⅲ | 2.7 | 2.45 | 0.8 | 5.62 | 〃　〃 |
| 64 | N-1-Ⅲ | 2.55 | 1.9 | 1.85 | 3.93 | 〃（台形状） |
| 65 | A-2-H | 3.05 | 2.2 | 0.9 | 5.3 | 〃　〃 |
| 66 | O-8-Ⅲ | 3.75 | 3.0 | 0.9 | 10.4 | 〃　〃 |
| 67 | Q-7-Ⅲ | 2.8 | 2.25 | 0.8 | 3.52 | 〃　〃 |
| 68 | Q-4K | 2.2 | 2.15 | 0.65 | 2.4 | 〃　〃 |
| 69 | B-1-Ⅱ | 2.7 | 1.85 | 0.7 | 3.15 | 〃　〃 |
| 70 | N-7-Ⅲ | 2.8 | 2.05 | 0.8 | 3.47 | 〃　〃 |
| 71 | Q-8-Ⅲ | 2.55 | 2.1 | 0.6 | 2.9 | 〃　〃 |
| 72 | D-2-Ⅱ | 2.85 | 1.79 | 0.92 | 3.8 | 〃　〃 |
| 73 | D-2-Ⅱ | 2.6 | 1.3 | 0.6 | 1.95 | 〃　〃 |
| 74 | O-6-Ⅲ | 2.0 | 1.6 | 0.75 | 2.15 | 〃　〃 |
| 75 | P-8-Ⅲ | 4.0 | 1.85 | 0.7 | 4.72 | 〃（剥片利用） |
| 76 | B-1-Ⅱ | 4.0 | 2.6 | 0.6 | 5.09 | 〃　〃 |
| 77 | B-1-H | 3.1 | 1.6 | 0.57 | 2.77 | 〃　〃 |
| 78 | 5-1-Ⅱ | 6.0 | 2.2 | 0.9 | 9.9 | 〃　〃 |
| 79 | R-9-乱 | 3.5 | 1.9 | 1.1 | 6.37 | 〃　〃 |
| 80 | R-6-Ⅲ | 2.4 | 1.55 | 0.5 | 1.7 | 〃　〃 |
| 81 | T-9 | 4.35 | 2.15 | 0.95 | 5.3 | 〃　〃 |
| 82 | N-8-Ⅲ | 3.5 | 2.4 | 0.6 | 3.57 | 〃　〃 |
| 83 | A-2-H | 3.25 | 1.65 | 0.8 | 3.7 | 〃　〃 |
| 84 | K-5-Ⅲ | 2.4 | 1.65 | 0.5 | 1.47 | 〃　〃 |
| 85 | N-4-Ⅲ | 2.0 | 1.8 | 0.6 | 1.27 | スクレイパー(剥片利用) |
| 86 | R-7-Ⅲ | 3.85 | 2.3 | 0.65 | 4.05 | 〃　〃 |
| 87 | M-3-H | 1.85 | 2.0 | 0.5 | 1.53 | 〃　〃 |
| 88 | Q-7-Ⅲ | 3.55 | 2.0 | 0.6 | 4.13 | 〃　〃 |
| 89 | R-9 | 2.15 | 3.35 | 1.2 | 5.02 | 〃　〃 |
| 90 | M-4-Ⅲ | 3.15 | 2.05 | 0.9 | 5.5 | 〃　〃 |
| 91 | O-6-Ⅲ | 2.9 | 2.0 | 0.7 | 3.02 | 〃　〃 |
| 92 | P-5-Ⅲ | 3.7 | 1.95 | 0.8 | 4.78 | 〃　〃 |
| 93 | Q-7-Ⅲ | 2.9 | 2.25 | 0.65 | 3.59 | 〃　〃 |
| 94 | Q-7-Ⅲ | 2.8 | 1.85 | 0.5 | 2.47 | 〃　〃 |
| 95 | A-2-H | 2.65 | 1.5 | 0.45 | 1.57 | 〃　〃 |
| 96 | O-7-Ⅲ | 2.2 | 1.7 | 0.5 | 1.9 | 〃　〃 |
| 97 | L-5・6-Ⅱ | 2.6 | 1.75 | 0.65 | 2.05 | 〃　〃 |
| 98 | B1-H | 3.85 | 2.3 | 0.6 | 9.9 | 〃　〃 |
| 99 | Q-9-K | 3.3 | 2.1 | 1.05 | 6.92 | 〃　〃 |
| 100 | TP-10-Ⅱ | 2.1 | 1.35 | 0.6 | 1.4 | 〃　〃 |
| 101 | O-3-Ⅲ | 2.0 | 2.5 | 0.5 | 1.5 | 〃　〃 |
| 102 | L-4-Ⅱ | 3.45 | 3.55 | 0.5 | 6.92 | 〃　〃 |
| 103 | M-3-Ⅲ | 2.95 | 2.7 | 0.8 | 6.45 | 〃　〃 |
| 104 | R-1-H | 2.2 | 4.45 | 0.8 | 13.9 | 〃　〃 |
| 105 | R-8-Ⅲ | 2.7 | 2.4 | 0.5 | 2.92 | 〃　〃 |
| 106 | M-5-Ⅲ | 2.1 | 2.1 | 0.7 | 3.5 | 〃　〃 |
| 107 | P-6-Ⅲ | 9.83 | 7.5 | 2.25 | 40.52 | 〃　〃 |
| 108 | R-8-Ⅲ | 2.15 | 4.9 | 0.85 | 9.53 | 〃　〃 |
| 109 | C-1-H | 2.1 | 3.5 | 0.8 | 4.8 | 〃　〃 |
| 110 | R-8-Ⅲ | 3.1 | 4.82 | 0.7 | 8.15 | 〃　〃 |
| 111 | P-6-Ⅱ | 2.2 | 2.4 | 0.8 | 3.6 | 〃（突起刃部） |
| 112 | O-6-Ⅲ | 3.35 | 2.9 | 1.0 | 7.95 | 〃　〃 |

Tab. 8　第二次調査　出土石器計測表

| 遺物番号 | 出土地区 | 最長(cm) | 最幅(cm) | 最厚(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 113 | R-7-Ⅲ | 3.45 | 3.1 | 1.1 | 8.6 | スクレイパー(突起刃部) |
| 114 | M-4-Ⅲ | 2.5 | 2.75 | 0.78 | 4.65 | 〃　〃 |
| 115 | KL-5, L-Ⅱ | 2.9 | 3.6 | 1.05 | 11.23 | 〃　〃 |
| 116 | K-5-Ⅲ | 2.7 | 2.4 | 0.6 | 3.5 | 〃　〃 |
| 117 | K-3-H | 2.05 | 3.3 | 0.9 | 4.35 | 〃　〃 |
| 118 | Q-9-K | 2.3 | 1.6 | 0.6 | 1.43 | 〃　〃 |
| 119 | Q-7-Ⅲ | 3.3 | 2.4 | 0.6 | 5.5 | 〃　〃 |
| 120 | A-2-H | 3.35 | 1.8 | 1.1 | 7.0 | 〃　〃 (欠損品) |
| 121 | B-1-H | 2.65 | 2.5 | 1.5 | 6.06 | 〃　〃 |
| 122 | O-6-Ⅲ | 1.13 | 1.55 | 0.4 | 0.47 | 〃　〃 |
| 123 | C-1-Ⅱ | 1.1 | 1.97 | 0.35 | 0.6 | 〃　〃 |
| 124 | P-9-乱 | 4.15 | 2.5 | 1.0 | 9.2 | 〃　〃 |
| 125 | B-1-H | 3.0 | 1.3 | 0.9 | 2.55 | 〃　〃 |
| 126 | M-2-H | 2.0 | 1.55 | 0.55 | 1.05 | 〃　〃 |
| 127 | R-9 | 2.05 | ·1.5 | 0.5 | 1.1 | 〃　〃 |
| 128 | B-1-Ⅱ | 2.48 | 1.85 | 0.58 | 1.87 | 石錐 |
| 129 | D-6-Ⅲ | 2.85 | 2.85 | 0.7 | 3.9 | 〃 |
| 130 | O-8-Ⅲ | 3.0 | 3.9 | 1.4 | 11.85 | 〃 |
| 131 | C-1-Ⅱ | 3.5 | 2.35 | 2.7 | 4.7 | 〃 |
| 132 | L-4-Ⅱ | 2.7 | 1.9 | 0.7 | 3.15 | 〃 |
| 133 | R-6-Ⅲ | 2.9 | 1.5 | 0.55 | 1.85 | 〃 |
| 134 | D-2-Ⅱ | 3.25 | 2.1 | 0.8 | 5.0 | 〃 |
| 135 | R-8-Ⅲ | 2.2 | 1.6 | 0.45 | 0.9 | 石鏃（Ⅰ類） |
| 136 | 表土 | 2.4 | 1.7 | 0.45 | 1.1 | 〃　〃 |
| 137 | N-4-Ⅲ | 1.95 | 4.65 | 0.4 | 0.85 | 〃　〃 |
| 138 | A-2-Ⅱ | 1.45 | 1.7 | 0.3 | 0.65 | 〃　〃 |
| 139 | O-6-Ⅲ | 2.0 | 1.8 | 0.4 | 1.0 | 〃　〃 |
| 140 | R-5-H | 2.15 | 1.5 | 0.3 | 0.65 | 〃　〃 |
| 141 | R-7-Ⅲ | 2.0 | 1.4 | 0.45 | 0.9 | 石鏃（Ⅰ類） |
| 142 | A-2-Ⅱ | 2.0 | 1.5 | 0.35 | 0.7 | 〃　〃 |
| 143 | O-3-Ⅲ | 1.65 | 1.35 | 0.4 | 0.6 | 〃　〃 |
| 144 | 表土 | 2.5 | 1.55 | 0.4 | 0.7 | 〃　〃 |
| 145 | C-H | 2.5 | 1.65 | 0.5 | 1.2 | 〃　〃 |
| 146 | R-9 | 2.1 | 1.9 | 0.35 | 1.2 | 〃　〃 |
| 147 | B-1-Ⅰ | 2.4 | 1.9 | 0.45 | 1.6 | 〃　〃 |
| 148 | M-5-Ⅲ | 1.7 | 1.55 | 0.3 | 0.6 | 〃　〃 |
| 149 | A-2-H | 1.7 | 1.7 | 0.3 | 0.75 | 〃　〃 |
| 150 | R-7-Ⅲ | 1.2 | 0.6 | 0.3 | 0.5 | 〃　〃 |
| 151 | Q-7-Ⅲ | 2.75 | 2.05 | 0.5 | 1.6 | 〃　〃 |
| 152 | P-5-Ⅲ | 1.3 | 1.7 | 0.4 | 0.65 | 〃　〃 |
| 153 | L-4-Ⅲ | 1.6 | 1.6 | 0.35 | 0.8 | 〃　〃 |
| 154 | N-4-Ⅲ | 1.35 | 1.75 | 0.33 | 0.6 | 〃　〃 |
| 155 | M区表土 | 1.35 | 1.75 | 0.4 | 0.6 | 〃　〃 |
| 156 | O-8-3 | 2.11 | 1.5 | 0.48 | 0.75 | 〃　(Ⅱ類) |
| 157 | N-4-Ⅲ | 2.0 | 1.2 | 0.35 | 0.43 | 〃　〃 |
| 158 | P-6-Ⅲ | 1.7 | 1.5 | 0.5 | 0.7 | 〃　〃 |
| 159 | K-3-Ⅲ | 2.0 | 1.5 | 0.35 | 0.5 | 〃　〃 |
| 160 | N-4-Ⅲ | 2.05 | 1.6 | 0.6 | 1.1 | 〃　〃 |
| 161 | 表土 | 2.05 | 1.45 | 0.35 | 0.55 | 〃　〃 |
| 162 | B-1-Ⅱ | 1.9 | 1.55 | 0.4 | 0.73 | 〃　〃 |
| 163 | B-1-Ⅱ | 1.5 | 1.4 | 0.4 | 0.5 | 〃　〃 |
| 164 | M-5-Ⅲ | 3.0 | 2.4 | 0.55 | 1.7 | 〃　〃 |
| 165 | O-6-Ⅲ | 2.6 | 2.0 | 0.5 | 1.2 | 〃　〃 |
| 166 | L-4-Ⅱ | 2.45 | 1.95 | 0.5 | 1.12 | 〃　〃 |
| 167 | O-8-Ⅲ | 2.1 | 2.12 | 0.45 | 1.1 | 〃　〃 |
| 168 | P-7-Ⅲ | 2.29 | 1.8 | 0.5 | 1.25 | 〃　〃 |

Tab. 9　第二次調査　出土石器計測表

| 遺物番号 | 出土地区 | 最長(cm) | 最幅(cm) | 最厚(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 169 | Q-5-Ⅲ | 3.0 | 1.9 | 0.5 | 1.4 | 石鏃（Ⅱ類） |
| 170 | O-7-Ⅲ | 2.6 | 1.53 | 0.45 | 1.0 | 〃　〃 |
| 171 | O-6-Ⅲ | 2.7 | 1.3 | 0.45 | 1.2 | 〃　〃 |
| 172 | K-7-Ⅲ | 2.38 | 1.3 | 0.52 | 1.13 | 〃　〃 |
| 173 | 0-3-Ⅲ | 2.6 | 0.45 | 0.4 | 0.85 | 〃　〃 |
| 174 | 表土 | 2.09 | 1.55 | 0.4 | 0.55 | 〃　〃 |
| 175 | O-7-Ⅲ | 1.2 | 1.5 | 0.4 | 0.4 | 〃　〃 |
| 176 | O-3-Ⅲ | 1.95 | 1.7 | 0.5 | 0.83 | 〃　〃 |
| 177 | P-5-Ⅲ | 3.95 | 2.05 | 0.6 | 2.75 | 〃　〃 |
| 178 | Q-7-Ⅲ | 3.6 | 2.1 | 0.5 | 2.05 | 〃　〃 |
| 179 | O-9-Ⅲ | 2.8 | 2.05 | 0.4 | 1.25 | 〃　〃 |
| 180 | K-3-Ⅲ | 1.54 | 1.8 | 0.47 | 0.8 | 〃　〃 |
| 181 | L-5・6-Ⅱ | 2.08 | 1.7 | 0.45 | 0.75 | 〃　〃 |
| 182 | B-1-Ⅱ | 2.9 | 1.3 | 0.5 | 1.25 | 〃　〃 |
| 183 | D-2-Ⅱ | 2.55 | 1.5 | 0.44 | 0.82 | 〃　〃 |
| 184 | O-7-Ⅲ | 2.7 | 1.3 | 0.3 | 0.72 | 〃　〃 |
| 185 | L-5・4-Ⅱ | 1.9 | 1.8 | 0.45 | 0.95 | 〃　〃 |
| 186 | L-4-Ⅱ | 1.8 | 1.35 | 0.3 | 0.6 | 〃　〃 |
| 187 | P-8-Ⅲ | 2.6 | 1.7 | 0.6 | 1.75 | 〃　〃 |
| 188 | P-5-Ⅲ | 3.3 | 2.25 | 0.6 | 3.75 | 〃　（Ⅲ類） |
| 189 | P-L-Ⅱ | 2.75 | 1.85 | 0.5 | 2.55 | 〃　〃 |
| 190 | R-6-Ⅲ | 3.3 | 2.3 | 0.75 | 5.9 | 〃　〃 |
| 191 | B-1-Ⅱ | 3.0 | 2.4 | 0.7 | 4.6 | 〃　〃 |
| 192 | R-7-Ⅲ | 3.35 | 2.3 | 1.0 | 6.4 | 〃　〃 |
| 193 | 表土 | 2.5 | 1.85 | 0.5 | 1.6 | 〃　〃 |
| 194 | K-3-Ⅲ | 2.7 | 2.2 | 0.7 | 2.8 | 〃　〃 |
| 195 | R-8-Ⅲ | 2.9 | 2.2 | 0.6 | 2.4 | 〃　〃 |
| 196 | L-4-Ⅱ | 3.15 | 2.35 | 0.7 | 4.0 | 〃　〃 |
| 197 | O-3-Ⅲ | 2.7 | 2.15 | 0.5 | 2.2 | 石鏃（Ⅲ類） |
| 198 | B-1-H | 2.4 | 2.15 | 0.5 | 41.19 | 〃　〃 |
| 199 | P-9-Ⅲ | 2.6 | 2.3 | 0.7 | 3.85 | 〃　〃 |
| 200 | K・L-5-Ⅱ | 2.55 | 2.0 | 0.65 | 2.4 | 〃　〃 |
| 201 | K-3-H | 2.75 | 2.7 | 0.8 | 4.7 | 〃　〃 |
| 202 | L-4-Ⅲ | 1.7 | 2.0 | 0.65 | 1.7 | 〃　〃 |
| 203 | Q-6-Ⅲ | 2.15 | 2.0 | 0.3 | 1.1 | 〃　〃 |
| 204 | R-5-Ⅲ | 2.05 | 2.1 | 0.55 | 1.7 | 〃　〃 |
| 205 | O-3-Ⅲ | 2.05 | 1.9 | 0.45 | 1.2 | 〃　〃 |
| 206 | L-5・6-Ⅱ | 2.25 | 2.0 | 0.5 | 1.4 | 〃　〃 |
| 207 | K-1-Ⅱ | 1.9 | 1.85 | 0.6 | 1.4 | 〃　〃 |
| 208 | R-7-Ⅲ | 1.5 | 2.1 | 0.5 | 1.3 | 〃　〃 |
| 209 | P-6-Ⅲ | 1.95 | 1.4 | 0.5 | 1.15 | 〃　〃 |
| 210 | Y-11-Ⅲ | 1.9 | 1.9 | 0.4 | 1.05 | 〃　〃 |
| 211 | C-1-Ⅱ | 1.35 | 2.0 | 0.4 | 0.75 | 〃　（Ⅲ類） |
| 212 | M-5-Ⅲ | 1.2 | 1.85 | 0.5 | 1.8 | 〃　〃 |
| 213 | P-2-Ⅱ | 2.3 | 1.85 | 0.7 | 2.6 | 〃　〃 |
| 214 | N-5-Ⅲ | 2.2 | 1.8 | 0.45 | 1.15 | 〃　〃 |
| 215 | O-7-Ⅲ | 2.75 | 2.35 | 0.7 | 2.95 | 〃　〃 |
| 216 | R-7-Ⅲ | 2.65 | 1.95 | 0.6 | 1.8 | 〃　〃 |
| 217 | R-8-Ⅲ | 2.5 | 2.1 | 0.6 | 2.23 | 〃　〃 |
| 218 | N-4-Ⅲ | 2.85 | 2.3 | 0.5 | 2.8 | 〃　（Ⅳ類） |
| 219 | Q-8-Ⅲ | 2.5 | 2.45 | 0.5 | 2.0 | 〃　〃 |
| 220 | O-7-Ⅲ | 2.1 | 1.8 | 0.55 | 1.3 | 〃　〃 |
| 221 | D-8-Ⅲ | 1.4 | 2.2 | 0.35 | 0.95 | 〃　〃 |
| 222 | M-5-Ⅲ | 2.4 | 2.0 | 0.5 | 1.5 | 〃　〃 |
| 223 | B-1-Ⅱ | 2.0 | 2.45 | 0.5 | 1.9 | 〃　〃 |
| 224 | 表土 | 2.45 | 1.9 | 0.4 | 1.25 | 〃　〃 |

Tab. 10　第二次調査　出土石器計測表

| 遺物番号 | 出土地区 | 最長(cm) | 最幅(cm) | 最厚(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 225 | N-4-Ⅲ | 2.4 | 2.3 | 0.4 | 1.5 | 石鏃（Ⅳ類） |
| 226 | P-6-Ⅲ | 1.7 | 1.9 | 0.3 | 0.7 | 〃　（Ⅳa類） |
| 227 | C-1-Ⅱ | 1.3 | 1.95 | 0.4 | 0.8 | 〃　〃 |
| 228 | K-3-Ⅲ | 1.8 | 2.2 | 0.4 | 1.1 | 〃　〃 |
| 229 | R-5-Ⅲ | 2.3 | 1.9 | 0.4 | 0.8 | 〃　〃 |
| 230 | C-1-Ⅱ | 2.1 | 2.05 | 0.4 | 0.9 | 〃　〃 |
| 231 | R-7-Ⅲ | 1.6 | 2.3 | 0.35 | 0.9 | 〃　〃 |
| 232 | N-7-Ⅲ | 1.7 | 1.8 | 0.4 | 0.6 | 〃　〃 |
| 233 | L-6-Ⅲ | 2.45 | 1.45 | 0.35 | 0.85 | 〃　（Ⅳb類） |
| 234 | N-1-Ⅲ | 2.2 | 1.55 | 0.5 | 1.5 | 〃　〃 |
| 235 | A-2-H | 2.3 | 1.6 | 0.6 | 1.4 | 〃　〃 |
| 236 | K-5-Ⅱ | 1.8 | 1.35 | 0.3 | 0.6 | 〃　〃 |
| 237 | P-6-Ⅲ | 2.0 | 1.6 | 0.3 | 0.7 | 〃　〃 |
| 238 | A-12-Ⅲ | 2.0 | 1.55 | 0.3 | 0.7 | 〃　〃 |
| 239 | M-5-Ⅲ | 2.1 | 1.4 | 0.3 | 0.65 | 〃　（Ⅳb類） |
| 240 | K-L-54-Ⅱ | 2.0 | 1.6 | 0.45 | 0.95 | 〃　〃 |
| 241 | R-D-Ⅲ | 1.9 | 1.45 | 0.4 | 0.75 | 〃　〃 |
| 242 | M-5-Ⅲ | 1.6 | 1.4 | 0.3 | 0.5 | 〃　〃 |
| 243 | L-2-Ⅱ | 1.5 | 1.35 | 0.4 | 0.45 | 〃　〃 |
| 244 | L-4-Ⅲ | 2.9 | 2.5 | 1.0 | 5.6 | 〃　〃 |
| 245 | P-6-Ⅲ | 2.35 | 2.2 | 0.5 | 2.2 | 〃　〃 |
| 246 | R-7-Ⅱ | 2.8 | 1.95 | 0.55 | 2.4 | 〃　（Ⅴ類） |
| 247 | C-1-Ⅲ | 2.35 | 1.75 | 0.3 | 1.3 | 〃　〃 |
| 248 | O-8-Ⅲ | 2.1 | 2.1 | 0.45 | 1.0 | 〃　〃 |
| 249 | P-8-Ⅲ | 3.1 | 2.25 | 0.5 | 2.05 | 〃　（欠損） |
| 250 | M-4-Ⅲ | 2.4 | 1.7 | 0.5 | 1.1 | 〃　〃 |
| 251 | A-2-H | 1.85 | 1.5 | 0.3 | 0.5 | 〃　〃 |
| 252 | R-7-Ⅲ | 2.2 | 1.7 | 0.55 | 1.2 | 〃　〃 |
| 253 | L-4-Ⅱ | 1.3 | 1.5 | 0.4 | 0.55 | 石鏃（欠損） |
| 254 | M-4-Ⅲ | 1.2 | 1.45 | 0.35 | 0.5 | 〃　〃 |
| 255 | R-6-Ⅲ | 2.5 | 1.95 | 0.4 | 1.55 | 〃　〃 |
| 256 | Q-7-Ⅲ | 1.6 | 1.45 | 0.35 | 0.75 | 〃　〃 |
| 257 | 表土 | 2.2 | 1.7 | 0.4 | 0.85 | 〃　〃 |
| 258 | C-1-Ⅱ | 2.45 | 1.55 | 0.5 | 1.0 | 〃　〃 |
| 259 | C-1-H | 2.8 | 1.5 | 0.4 | 1.69 | 〃　〃 |
| 260 | Q-7-Ⅲ | 2.0 | 1.4 | 0.4 | 0.65 | 〃　〃 |
| 261 | B-1-H | 1.2 | 1.7 | 0.5 | 1.35 | 〃　〃 |
| 262 | K-L-5・4Ⅱ | 1.9 | 1.3 | 0.4 | 0.65 | 〃　〃 |
| 263 | C-1-Ⅱ | 3.05 | 1.15 | 0.3 | 0.6 | 〃　〃 |
| 264 | B-2-Ⅱ | 1.7 | 1.4 | 0.4 | 0.65 | 〃　〃 |
| 265 | Q-7-Ⅲ | 1.57 | 1.18 | 0.38 | 0.5 | 〃　〃 |
| 266 | 表土 | 1.5 | 1.15 | 0.3 | 0.35 | 〃　〃 |
| 267 | 表土 | 1.7 | 0.94 | 0.36 | 0.3 | 〃　（欠損） |
| 268 | R-7-Ⅲ | 2.2 | 1.4 | 0.3 | 1.0 | 〃　〃 |
| 269 | Q-5-Ⅲ | 3.1 | 1.65 | 0.4 | 1.4 | 〃　〃 |
| 270 | P-6-Ⅲ | 2.8 | 2.2 | 0.6 | 2.9 | 〃　〃 |
| 271 | P-9-Ⅲ | 2.1 | 1.5 | 0.35 | 0.85 | 〃　〃 |
| 272 | B-1-H | 1.5 | 1.5 | 0.4 | 0.55 | 〃　〃 |
| 273 | M-5-Ⅲ | 1.68 | 1.65 | 0.3 | 0.65 | 〃　〃 |
| 274 | C-2-H | 1.12 | 1.15 | 0.28 | 0.15 | 〃　〃 |
| 275 | C-1-Ⅱ | 1.2 | 1.3 | 0.4 | 0.4 | 〃　〃 |
| 276 | M-3-H | 1.8 | 1.5 | 0.3 | 0.45 | 〃　〃 |
| 277 | Q-1-Ⅲ | 2.0 | 1.7 | 0.4 | 1.05 | 〃　〃 |
| 278 | P-5-Ⅲ | 1.7 | 1.35 | 0.3 | 0.6 | 〃　〃 |
| 279 | A-2-Ⅱ | 2.0 | 1.55 | 0.45 | 0.7 | 〃　〃 |
| 280 | Q-7-Ⅲ | 1.45 | 1.3 | 0.35 | 0.4 | 〃　〃 |

Tab. 11　第二次調査　出土石器計測表

| 遺物番号 | 出土地区 | 最長(cm) | 最幅(cm) | 最厚(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 281 | B-1-II | 1.15 | 1.8 | 0.3 | 0.6 | 石鏃（欠損） |
| 282 | N-4-II | 2.05 | 1.3 | 0.39 | 0.4 | 〃　〃 |
| 283 | M-3-H | 1.55 | 1.85 | 0.45 | 0.9 | 〃　〃 |
| 284 | B-1-H | 1.65 | 1.9 | 0.5 | 1.35 | 〃　〃 |
| 285 | L-4-III | 2.0 | 1.7 | 0.4 | 0.9 | 〃　〃 |
| 286 | Q-5-III | 3.1 | 1.65 | 0.4 | 1.4 | 〃　〃 |
| 287 | L-4-III | 2.7 | 1.1 | 0.5 | 0.65 | 〃　〃 |
| 288 | P-7-III | 5.8 | 2.78 | 1.19 | 24.2 | 磨製石斧 |
| 289 | C-1-H | 2.85 | 4.35 | 1.1 | 12.5 | 〃 |
| 290 | R-11-III | 5.25 | 3.9 | 0.65 | 15.1 | 〃 |
| 291 | 墓地 | 12.7 | 6.2 | 2.8 | 344.0 | 〃 |
| 292 | O-7-III | 7.0 | 6.4 | 1.5 | 83.5 | 〃 |
| 293 | O-8-III | 4.22 | 4.91 | 1.7 | 41.22 | 磨石 |
| 294 | L-8-II | 4.2 | 4.5 | 1.79 | 39.13 | 〃 |
| 295 | R-7-III | 8.92 | 4.89 | 3.72 | 159.0 | 砥石 |
| 296 | N-6-III | 6.68 | 2.09 | 0.8 | 20.0 | 〃 |
| 297 | P-2-W | 9.65 | 2.3 | 2.05 | 62.4 | 〃 |
| 298 | P-2-M 5-69 | 6.42 | 4.83 | 1.4 | 43.5 | |
| 299 | P 2-M 5-56 | 2.55 | 1.65 | 0.55 | 1.6 | 石鏃 |
| 300 | P 2-M 5-53 | 2.55 | 1.7 | 0.45 | 1.1 | 〃 |
| 301 | P 2-M 5-3 ? | 3.4 | 4.42 | 1.0 | 15.47 | 加工痕ある石器 |
| 302 | P 2-M 5-1 | 3.45 | 2.65 | 0.8 | 4.6 | 〃 |
| 303 | P-2M 5-79 | 5.4 | 7.61 | 2.1 | 74.25 | 剥片 |
| 304 | P-2M 5-70 | 2.0 | 2.5 | 0.65 | 2.13 | 加工痕ある石器 |
| 305 | P-2M 5-61 | 3.2 | 2.35 | 0.55 | 2.28 | 使用痕ある石器 |
| 306 | P 2-M ·572 | 1.5 | 1.35 | 0.3 | 0.47 | 加工痕ある石器 |
| 307 | P-2-M 15-2 | 3.8 | 2.8 | 0.6 | 4.2 | 使用痕ある石器 |
| 308 | P-2M 5-66 | 3.2 | 3.35 | 0.8 | 4.25 | 剥片 |
| 309 | P-2-M 5-73 | 2.1 | 3.1 | 0.6 | 2.98 | 剥片 |
| 310 | P 2-M 5-54 | 1.8 | 3.0 | 1.0 | 3.3 | 〃 |
| 311 | P-2M 5-59 | 1.25 | 2.15 | 0.65 | 1.11 | 〃 |
| 312 | P-2M 5-62 | 2.7 | 3.7 | 1.3 | 9.85 | 〃 |
| 313 | P 2-M 5-3 | 3.15 | 2.2 | 0.6 | 2.65 | 使用痕ある石器 |
| 314 | P 2-M 5-49 | 4.9 | 2.1 | 0.2 | 5.4 | 剥片 |
| 315 | P-2M 5-45 | 2.65 | 2.9 | 0.85 | 6.68 | 〃 |
| 316 | P 2-M 5-6 | 4.25 | 2.2 | 1.0 | 5.53 | 〃 |
| 317 | P 2-M 5-55 | 1.85 | 2.0 | 0.4 | 1.1 | 〃 |
| 318 | P 2-M 5-5 | 2.25 | 1.1 | 0.7 | 1.12 | 〃 |
| 319 | P 2-M 5-58 | 2.0 | 2.8 | 0.3 | 1.55 | 〃 |
| 320 | P 2-M 5-50 | 3.2 | 2.55 | 0.95 | 5.62 | 〃 |
| 321 | R 2-M 5-76 | 2.7 | 2.0 | 0.5 | 1.6 | 〃 |
| 322 | P 2-M 5-71 | 1.8 | 1.25 | 0.5 | 0.8 | 〃 |
| 323 | P 2-M 5-9 | 2.2 | 3.15 | 0.7 | 3.9 | 〃 |
| 324 | P 2-M 5-64 | 2.85 | 1.7 | 0.6 | 1.45 | 〃 |
| 325 | P 2-M 5-7 | 2.7 | 1.4 | 0.6 | 1.7 | 〃 |
| 326 | M-5-III | 11.2 | 5.25 | 1.6 | 132.0 | 扁平打製石斧 |
| 327 | 表土 | 10.0 | 5.82 | 1.8 | 152.0 | 〃 |
| 328 | M-6-III | 8.4 | 6.4 | 1.3 | 104.0 | 〃 |
| 329 | M-5-V | 12.4 | 6.5 | 1.88 | 194.0 | 〃 |
| 330 | R-8-III | 8.15 | 7.75 | 1.6 | 130.0 | 〃 |
| 331 | K-2-H | 8.25 | 6.7 | 1.65 | 110.0 | 〃 |
| 332 | M-2-H | 12.49 | 7.38 | 1.77 | 156.0 | 〃 |
| 333 | R-5-3 | 8.09 | 5.3 | 1.91 | 80.2 | 〃 |
| 334 | P-5-III | 10.3 | 7.82 | 1.32 | 130.0 | 〃 |
| 335 | R-5-III | 7.0 | 6.2 | 2.07 | 123.0 | 〃 |
| 336 | L-6-III | 5.4 | 5.4 | 1.65 | 77.3 | 〃 |

Tab. 12　第二次調査　出土石器計測表

| 遺物番号 | 出土地区 | 最長(cm) | 最幅(cm) | 最厚(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 337 | R-5-Ⅲ | 7.0 | 7.68 | 1.51 | 120.0 | 扁平打製石斧 |
| 338 | N-6-Ⅲ | 8.7 | 6.18 | 1.2 | 73.9 | 〃 |
| 339 | O-8-Ⅲ | 6.2 | 6.7 | 1.4 | 79.5 | 〃 |
| 340 | M-5-Ⅲ | 7.51 | 4.85 | 1.68 | 77.2 | 〃 |
| 341 | B-1 | 5.25 | 5.65 | 0.7 | 32.53 | 〃 |
| 342 | Q-9, P1 | 7.8 | 7.9 | 1.7 | 120.0 | 〃 |
| 343 | D-8 S-1 | 5.35 | 7.5 | 1.35 | 54.3 | 〃 |
| 344 | L-5-Ⅲ | 7.1 | 7.7 | 1.6 | 82.5 | 〃 |
| 345 | Q-5-Ⅲ | 5.59 | 3.97 | 0.87 | 15.0 | 〃 |
| 346 | N-6-Ⅲ | 5.7 | 3.61 | 0.98 | 15.35 | 〃 |
| 347 | A-2-Ⅱ | 4.89 | 2.69 | 2.09 | 24.9 | 石核 |
| 348 | C-4-Ⅲ | 3.6 | 2.0 | 1.8 | 15.0 | 石核 |
| 349 | L-4-Ⅲ | 5.2 | 2.6 | 2.0 | 24.15 | 〃 |
| 350 | O-7-Ⅲ | 2.65 | 2.98 | 2.25 | 13.37 | 〃 |
| 351 | R-6-Ⅲ | 2.5 | 2.85 | 2.2 | 15.4 | 〃 |
| 352 | Q-P-Ⅲ | 2.45 | 2.87 | 2.1 | 13.1 | 〃 |
| 353 | O-3-Ⅲ | 2.4 | 3.1 | 2.0 | 17.6 | 〃 |
| 354 | O-7-Ⅲ | 2.1 | 3.21 | 1.8 | 14.7 | 〃 |
| 355 | Q-8-Ⅲ | 1.3 | 2.37 | 2.25 | 9.1 | 〃 |
| 356 | L-6-Ⅲ | 2.5 | 3.4 | 1.98 | 14.45 | 〃 |
| 357 | B-1-Ⅱ | 1.85 | 2.9 | 1.7 | 13.25 | 〃 |
| 358 | O-7-Ⅲ | 3.2 | 3.3 | 2.8 | 61.9 | 〃 |
| 359 | Y-11-Ⅲ | 4.75 | 3.78 | 2.5 | 40.9 | 〃 |

# Ⅳ　総括

調査の発端は，野中墓地（近世）の改葬によって，縄文時代の遺物が出土したことによる。その結果，野中遺跡は，第一次調査，第二次調査と実施することとなった。遺構，遺物の依存状況は，土層堆積状況からかならずしも良好な状態とはいえないが，各時代を通じて成果があったと考えられる。

時期的には，旧石器から近世までの複合した時代があったことを確認できた。それは，遺物によってナイフ形石器，局部磨製石鏃，組織痕土器，扁平打製石斧等，の特色ある出土が見られた。

遺構では，縄文時代の包含層が中世の遺構群によって削平されていたが，わずかにL・M－5・6区に晩期の包含層が残っていた。この地区より，土壙1基，他にも周辺には縄文時代の遺物が混入するpitを検出した。これによって，生活の一端を知る手掛かりを得られた。中世では，耕地整理を近年になって，行なったとのことで遺構も破壊されていると予想された。しかし，削平が地山まで達していなかったことで，土壙墓1基，pit群に伴う焼土塊，建物跡等を検出した。これにより，往時の一部が明きらかになったものの，その全容を明らかにするまでには至らなかった。近世の遺構では，pit内出土の陶磁器より江戸前期頃の建物跡（U・V・W・X－10・11・12）2棟分，墓壙2基，不明土壙2基等を確認した。また，近世の建物跡から西側へ約50m離れた地点に，元和7年（1621年）銘のキリシタン墓碑（PL.42）がある。検出した遺構がやや新し時期と考えられるものの，何らかの関係が示唆される。その後，江戸中期に入って野中墓地が営まれている。以上のような調査結果であった。　（町田）

# PLATES

## (野中墓地・野中遺跡)

遺跡遠景（北から）

遺跡遠景（北東から）

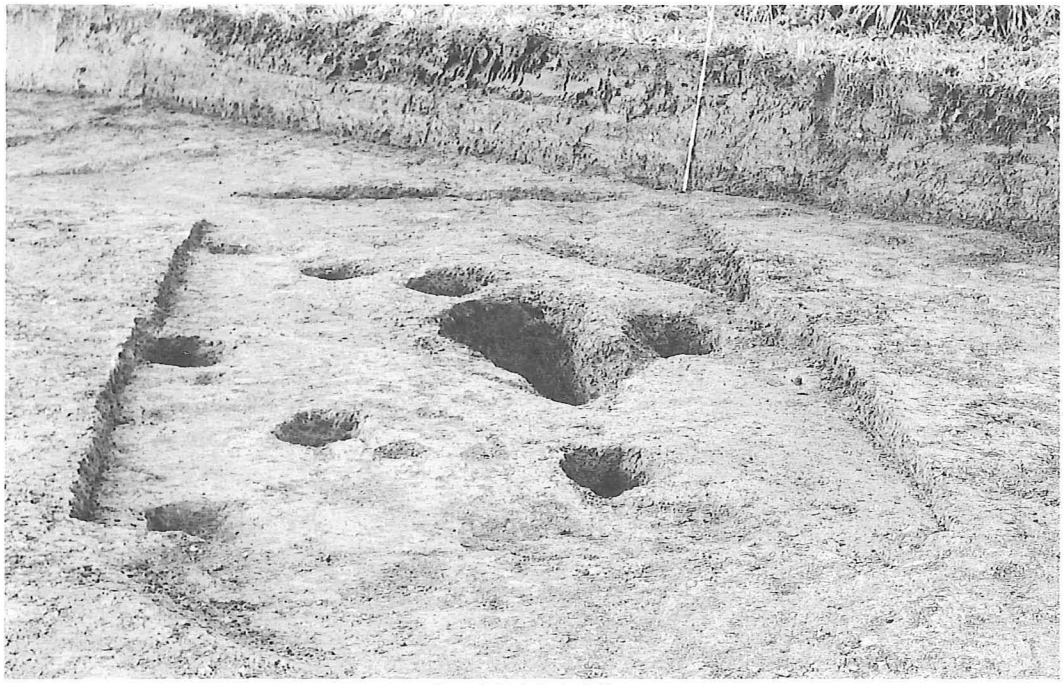
遺跡近景（東から）

立会調査風景

土瓶の出土状況

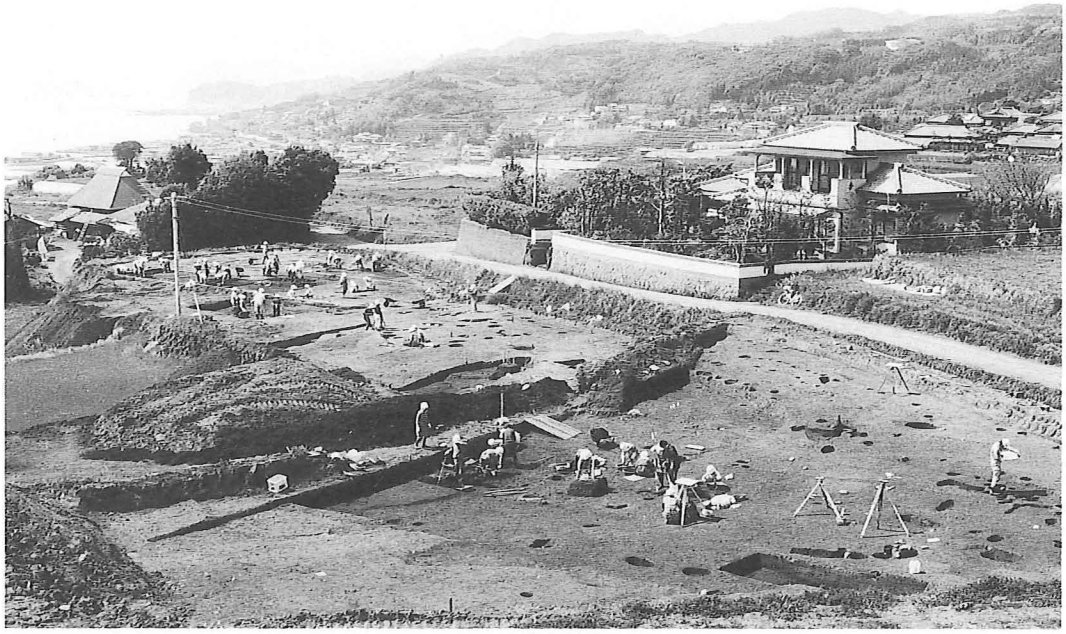
野中墓地立会調査

第一次調査風景

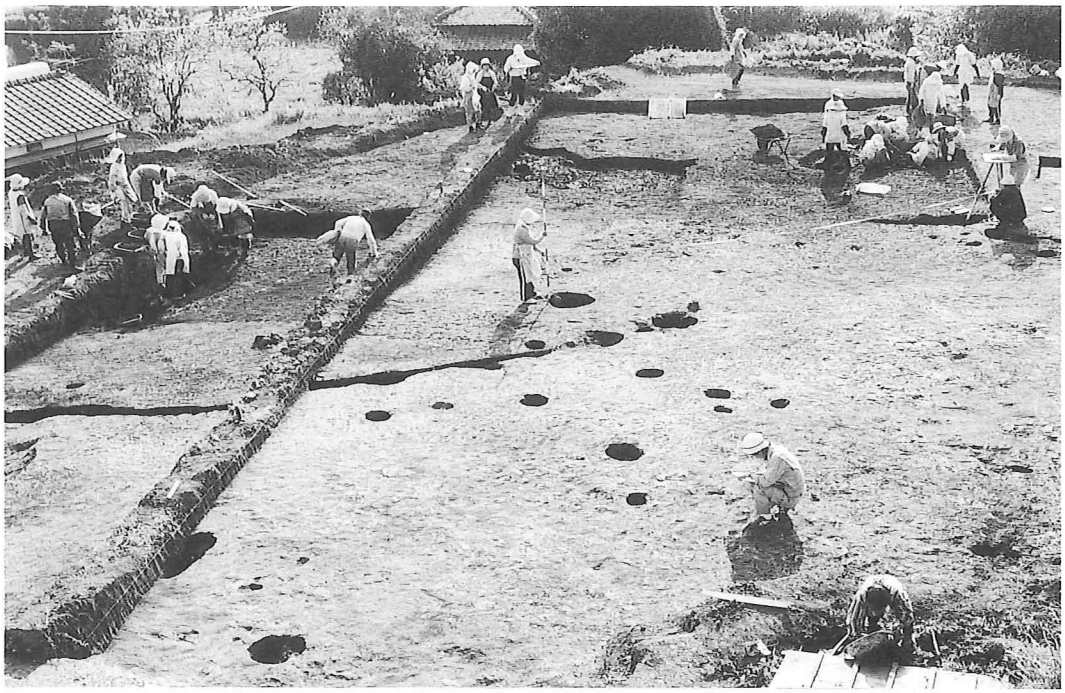


第一次調査検出遺構

第一次調査

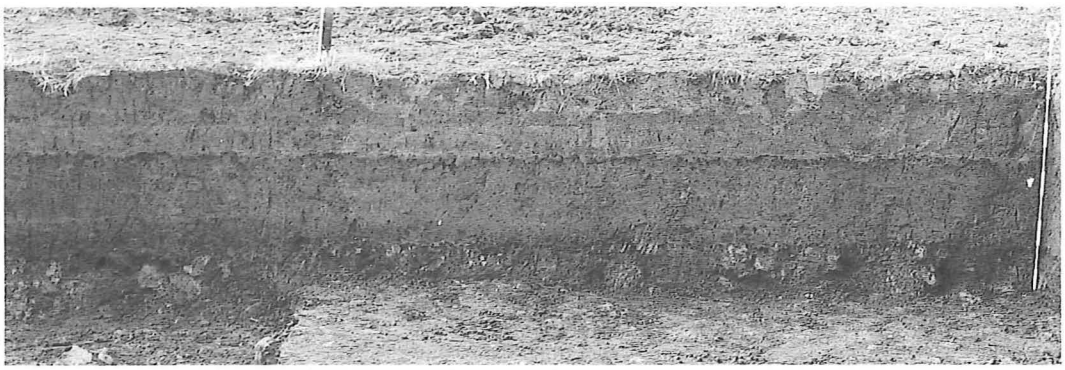


第二次調査風景

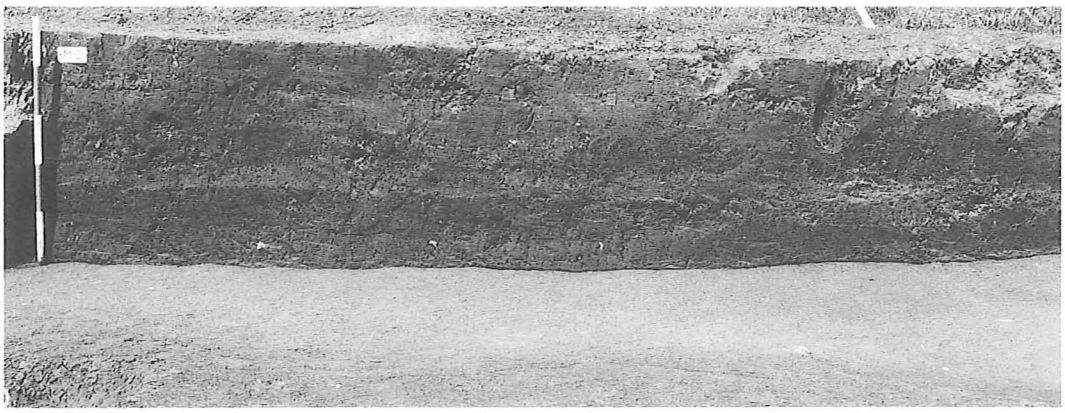


第二次調査風景

第二次調査



C・D－１区南壁



M－5.6区西壁

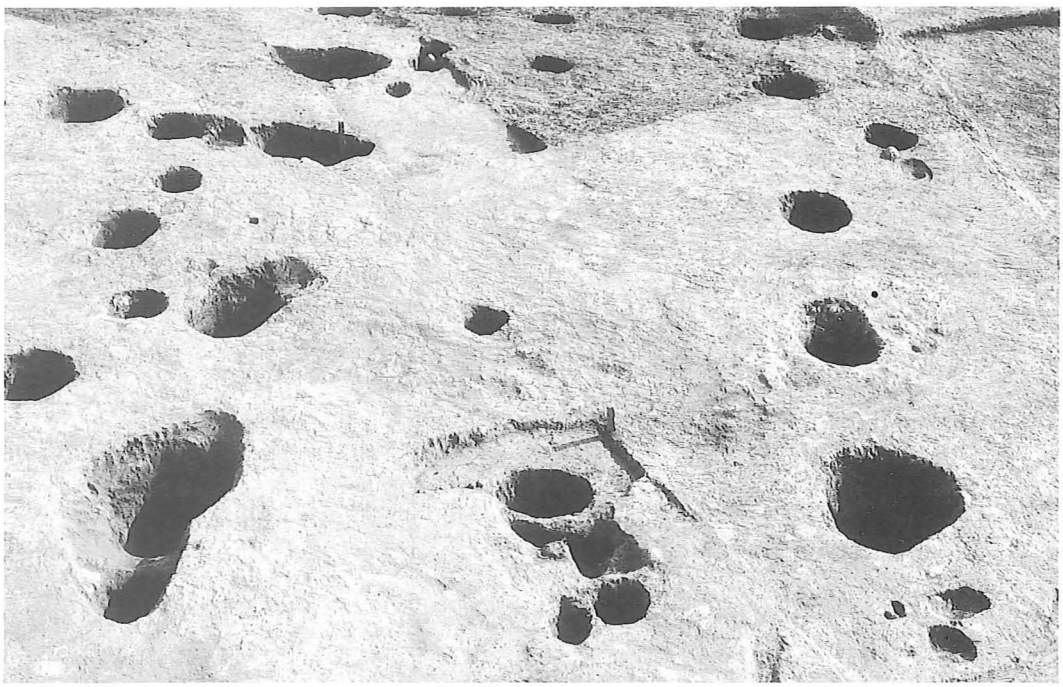
Z・A'－12区南壁

土層

縄文時代及び中世遺物出土のpit群

中世遺物出土のpit群

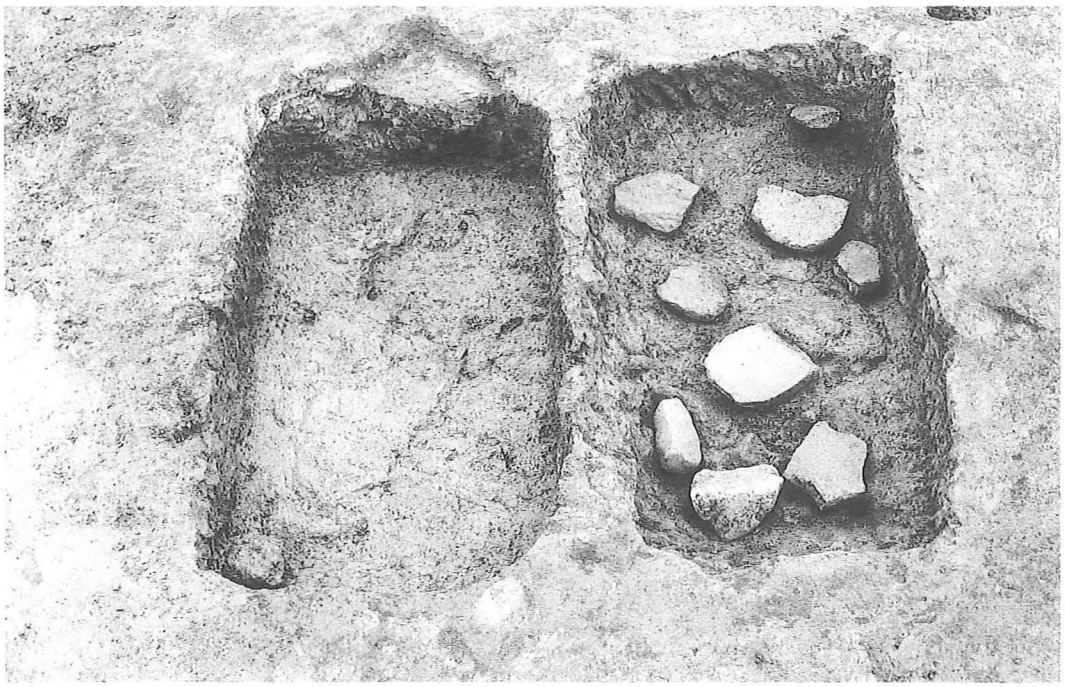
第二次調査pit群



8号遺構（建物跡）北より

7号遺構（建物跡）南より

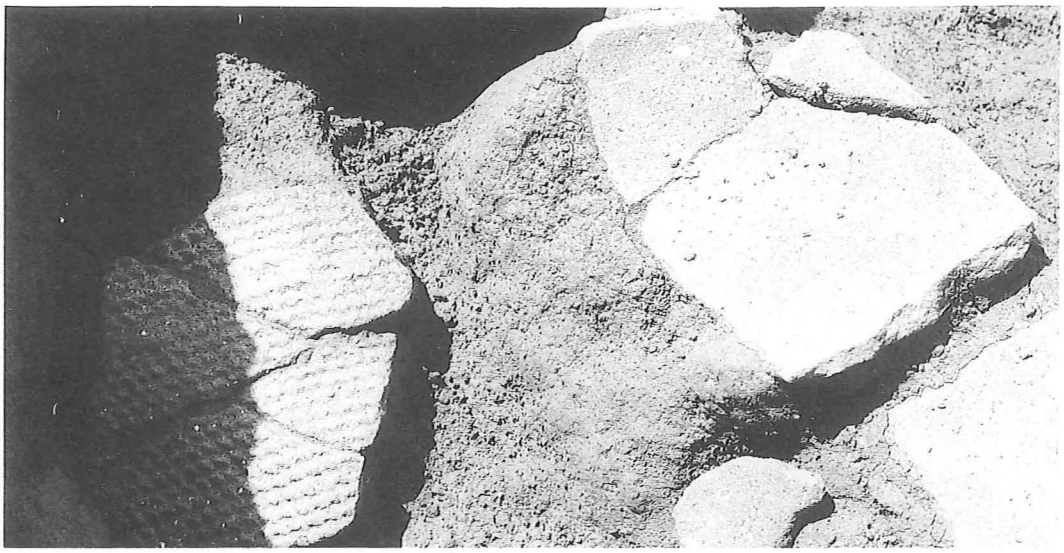
第二次調査pit群



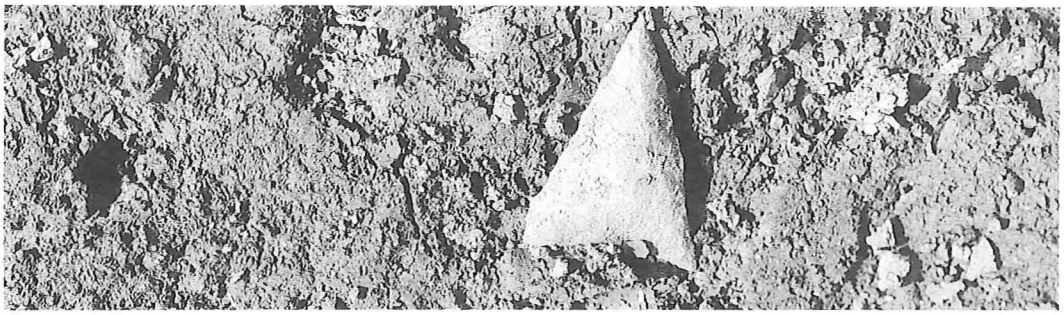
5・6号遺構（土壙墓）検出状況

11・12号遺構（不明土壙）検出状況

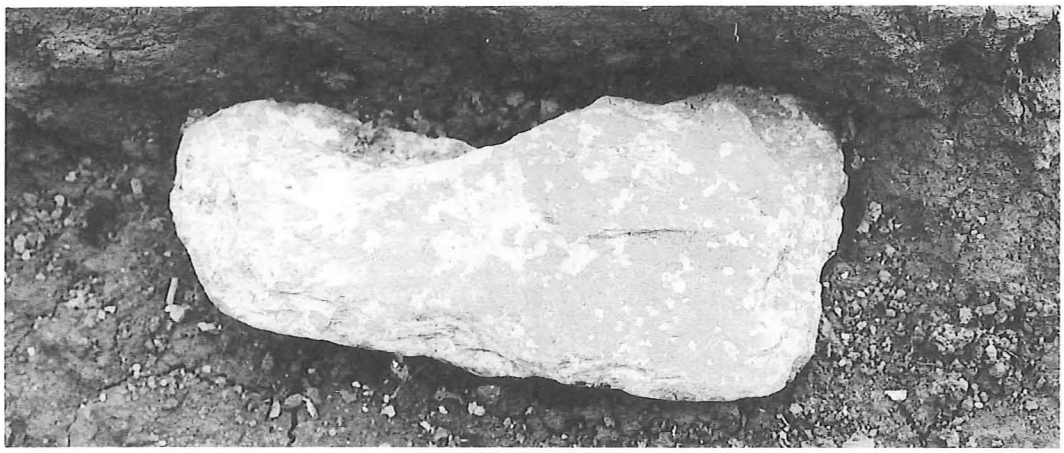
第二次調査



1号遺構（土壙）出土遺物



石鏃出土状況



扁平打製石斧出土状況

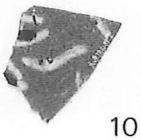
第二次調査出土遺物

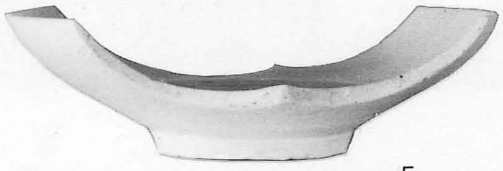
1

2

3

4


10


5

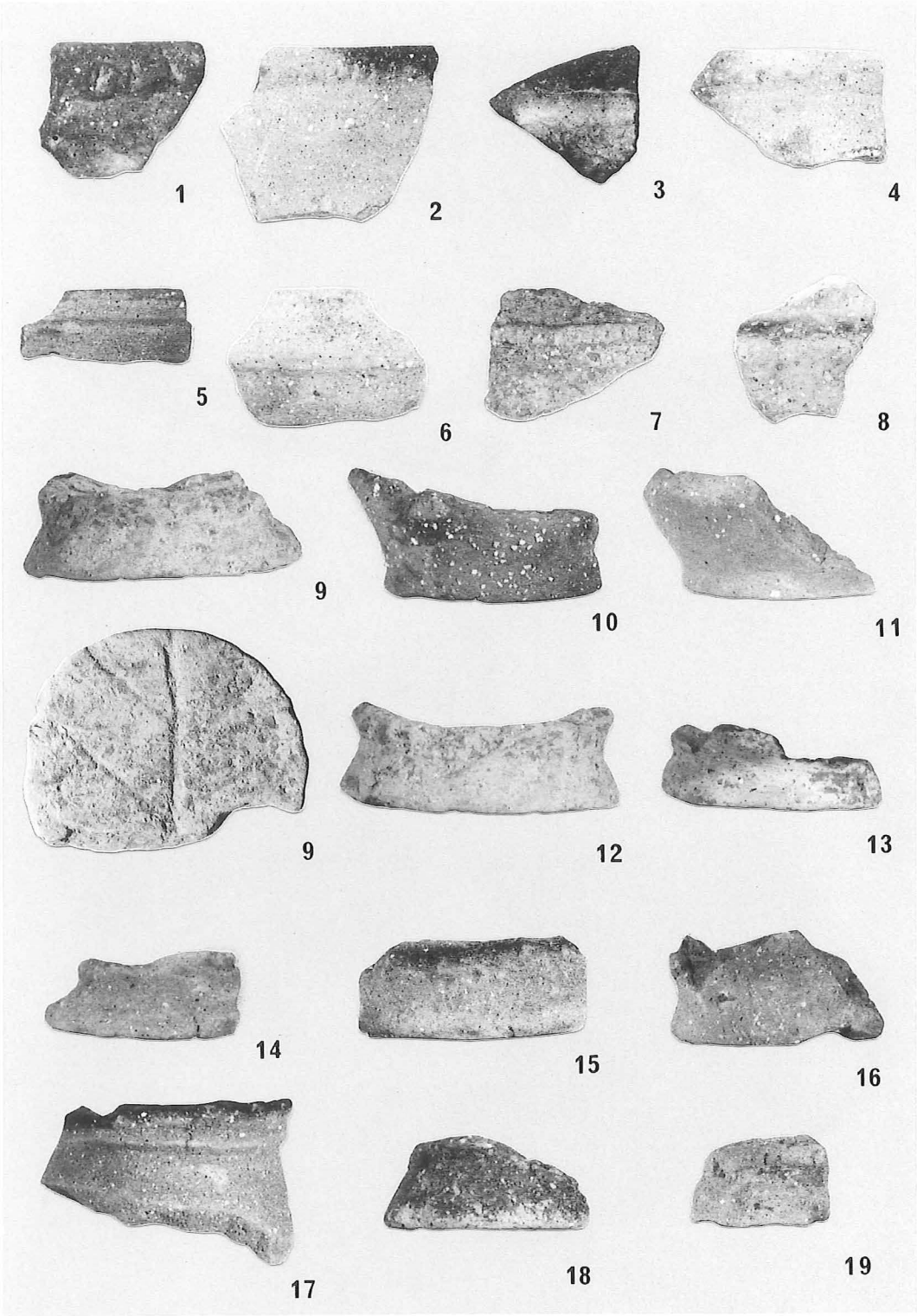
6

7

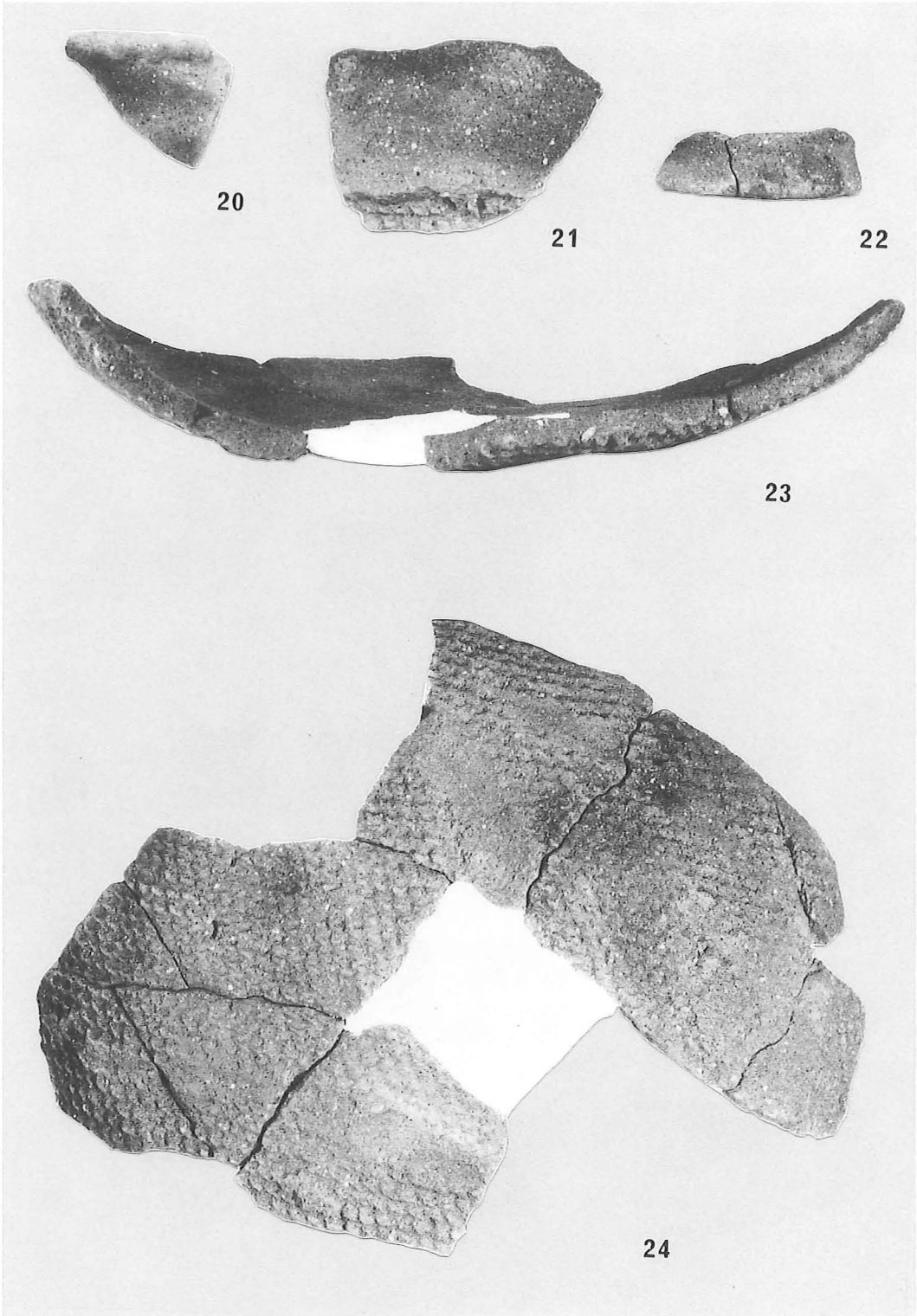
8

9

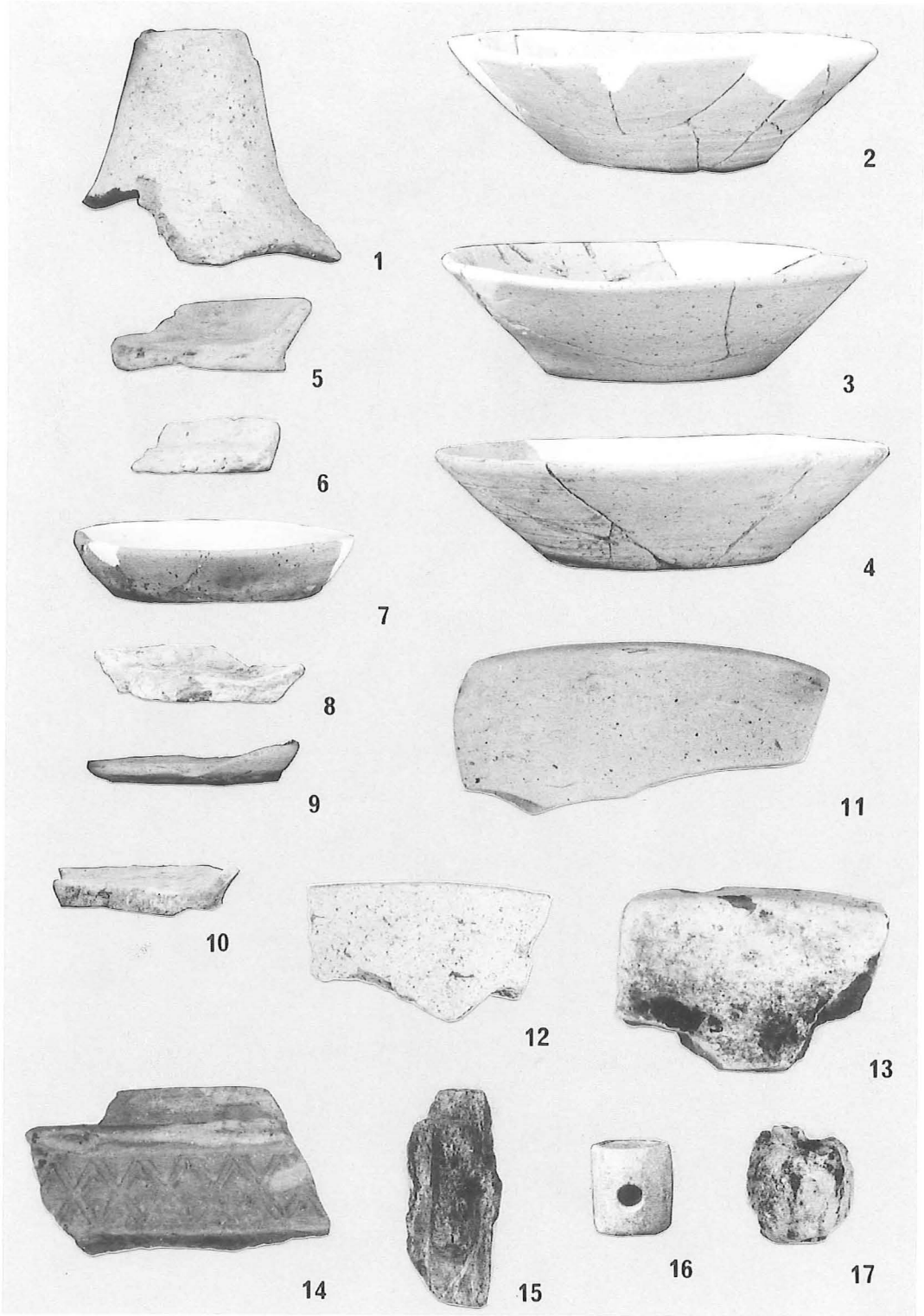
第一次調査出土陶磁器・石鍋・円盤状陶磁製品（1/2）釘・銭（1/1）



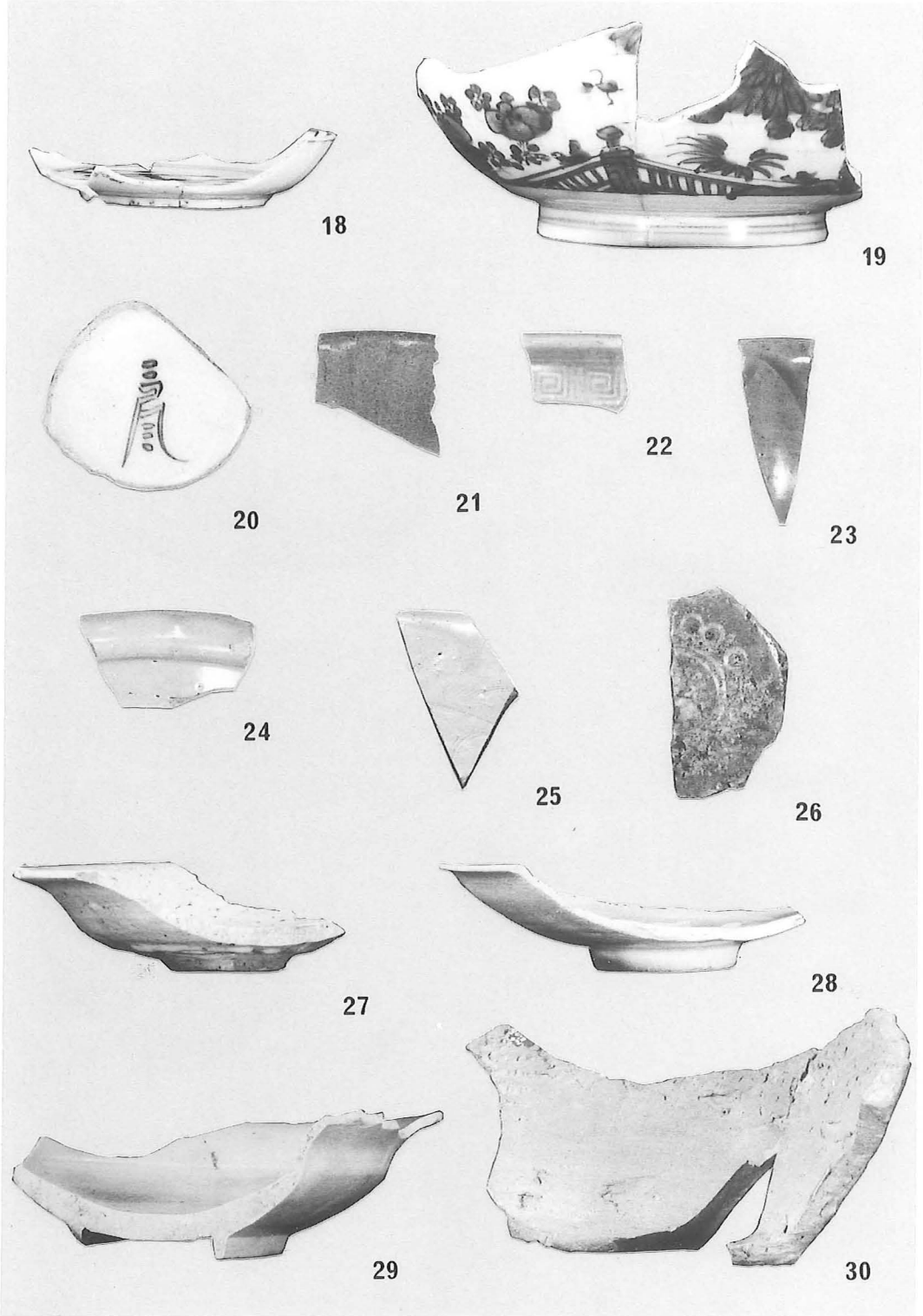

第二次調査土器①（1/2）



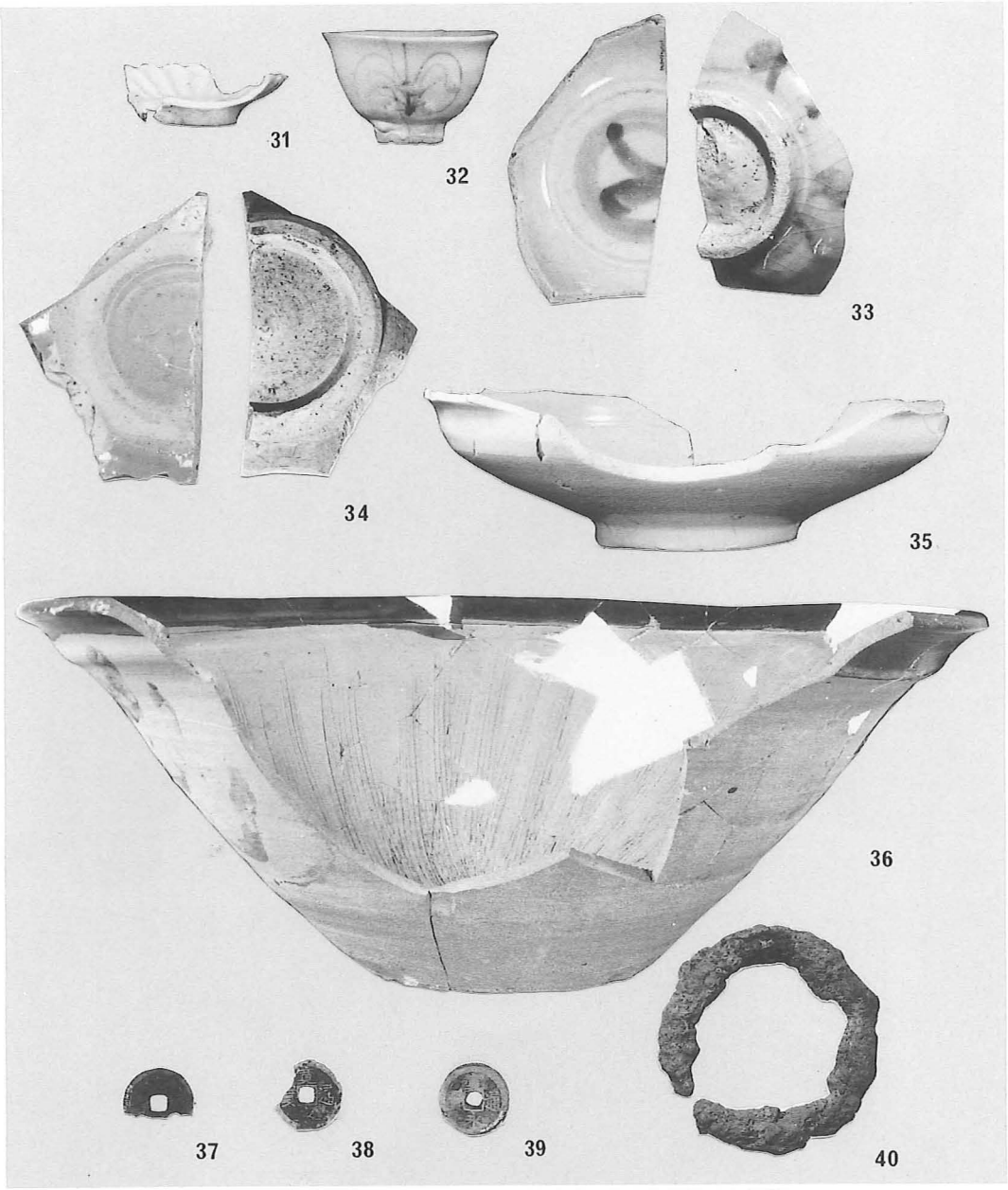

第二次調査土器②(1 号遺構) (1/2)



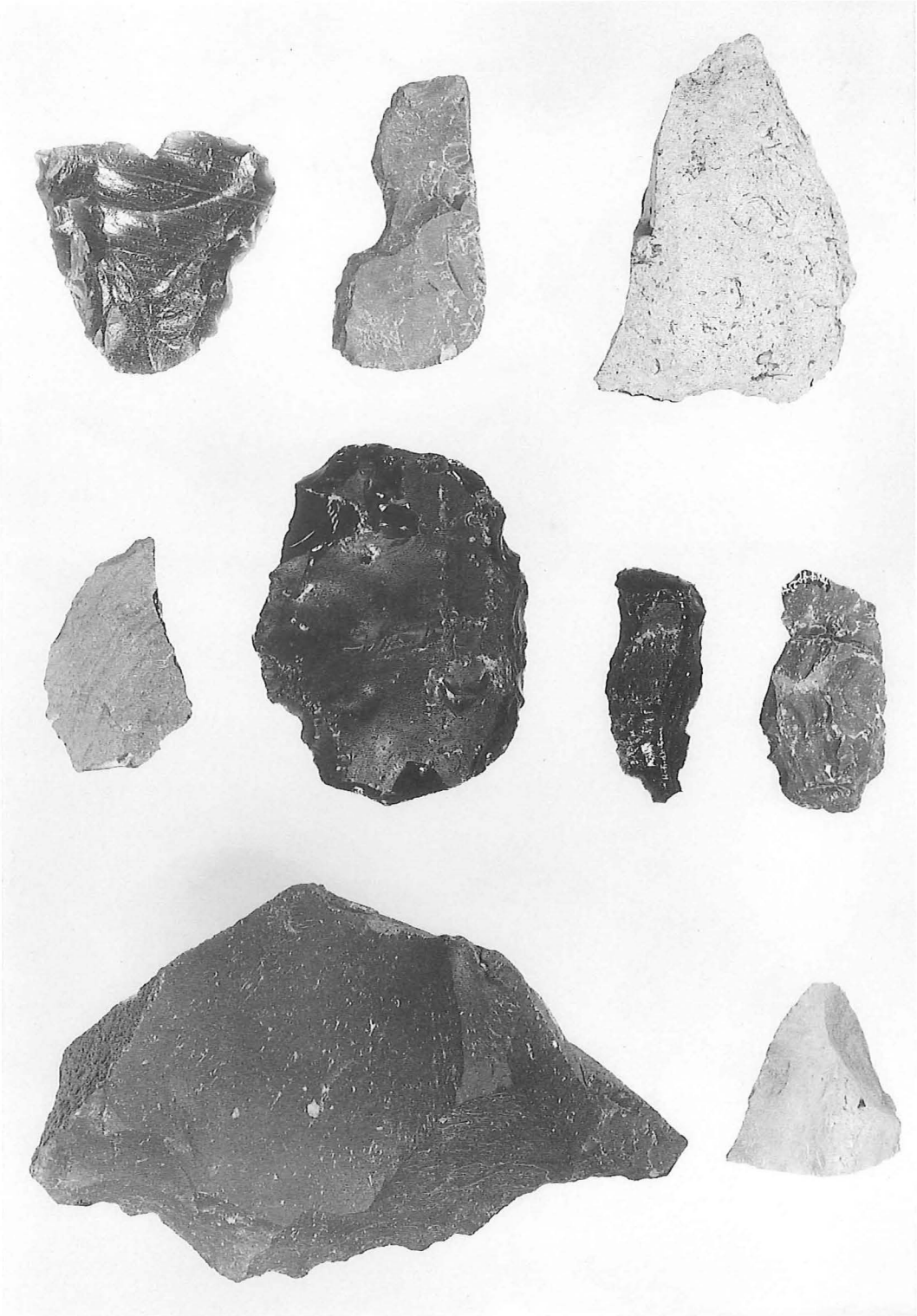

第二次調査出土遺物（土師質・瓦質土器等）




第二次調査出土遺物（輸入陶磁器、近世陶磁器）

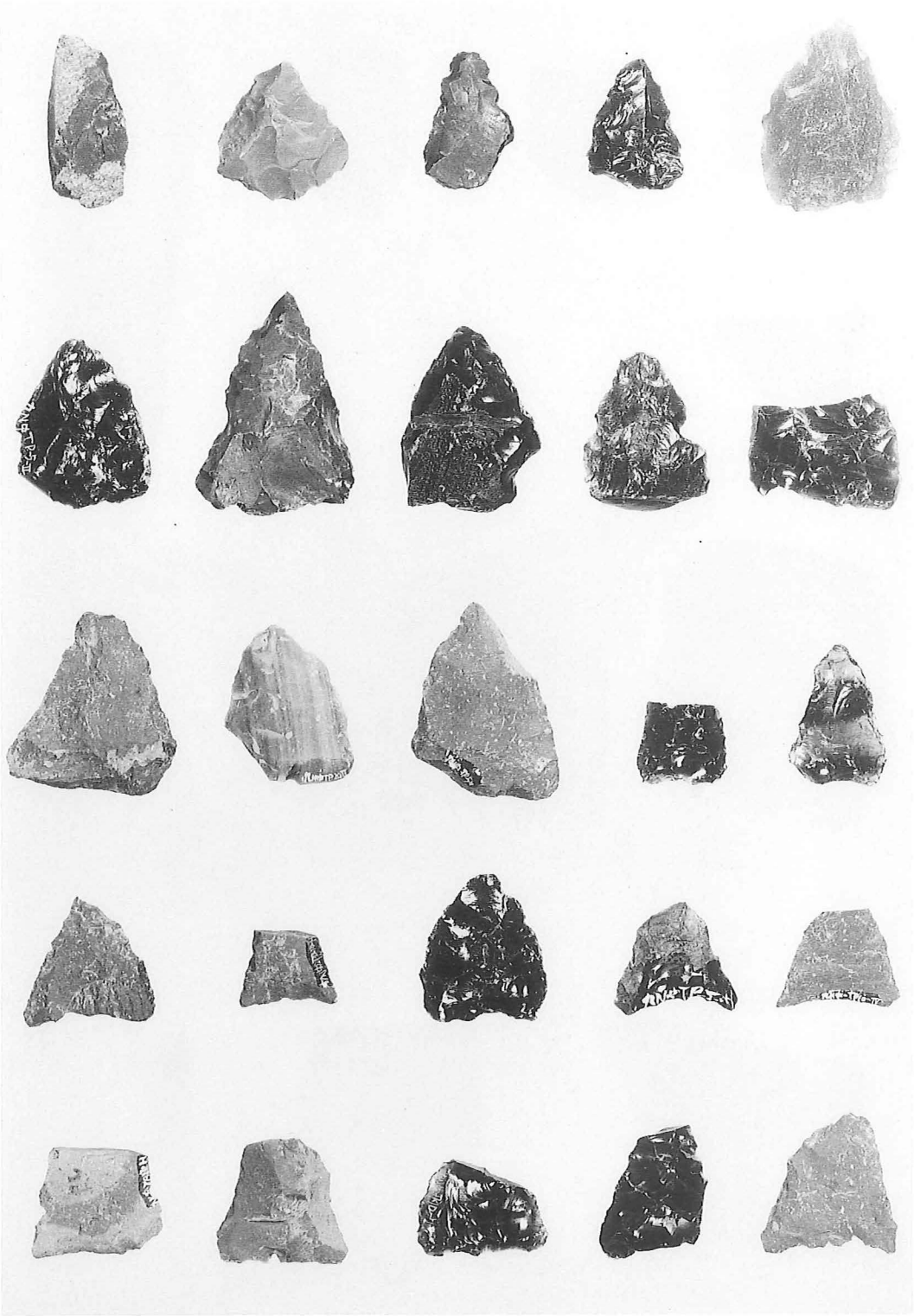



第二次調査出土遺物（近世陶磁器、輸入陶磁器、古銭等）

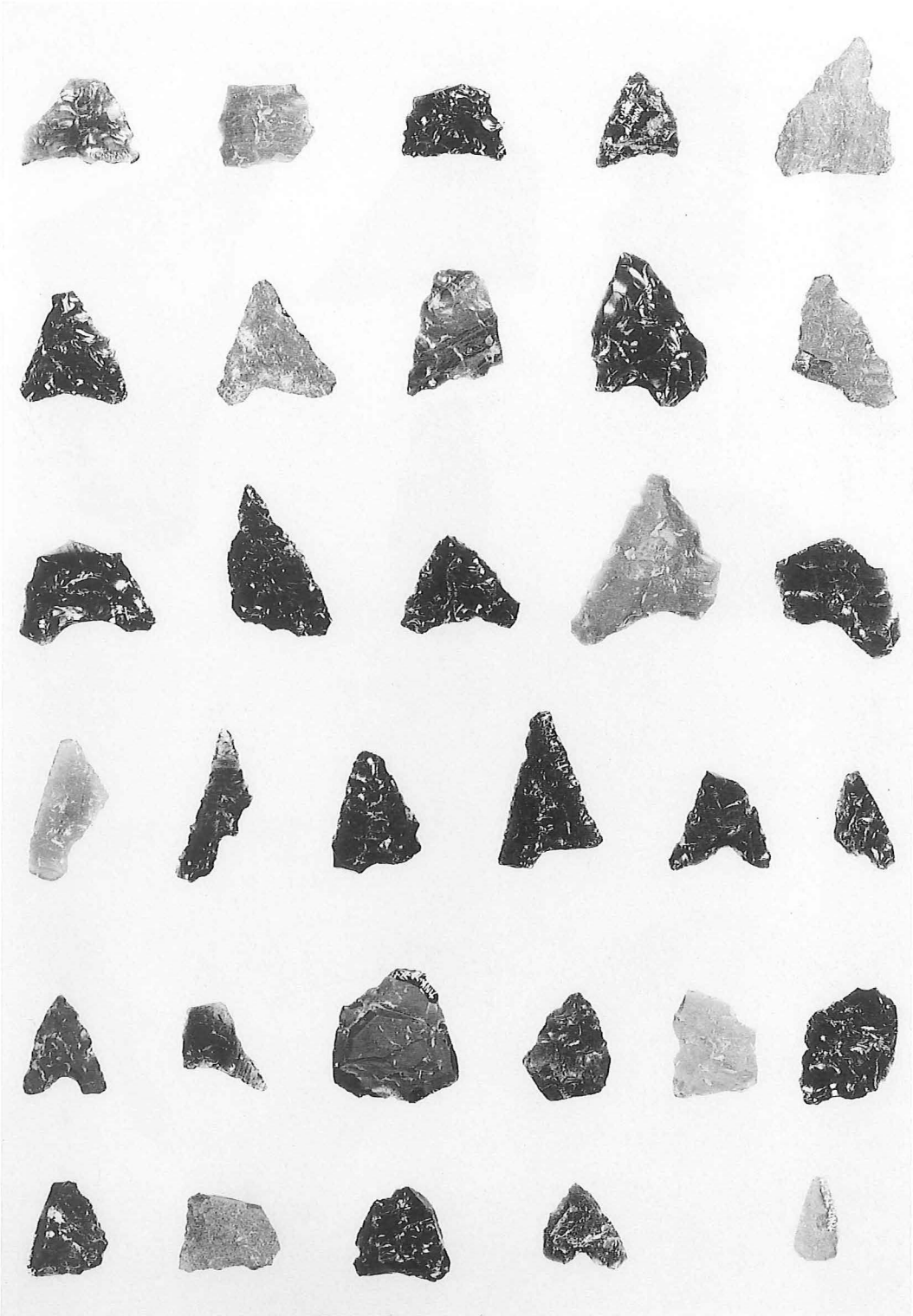


第一次調査出土石器①（1/1）

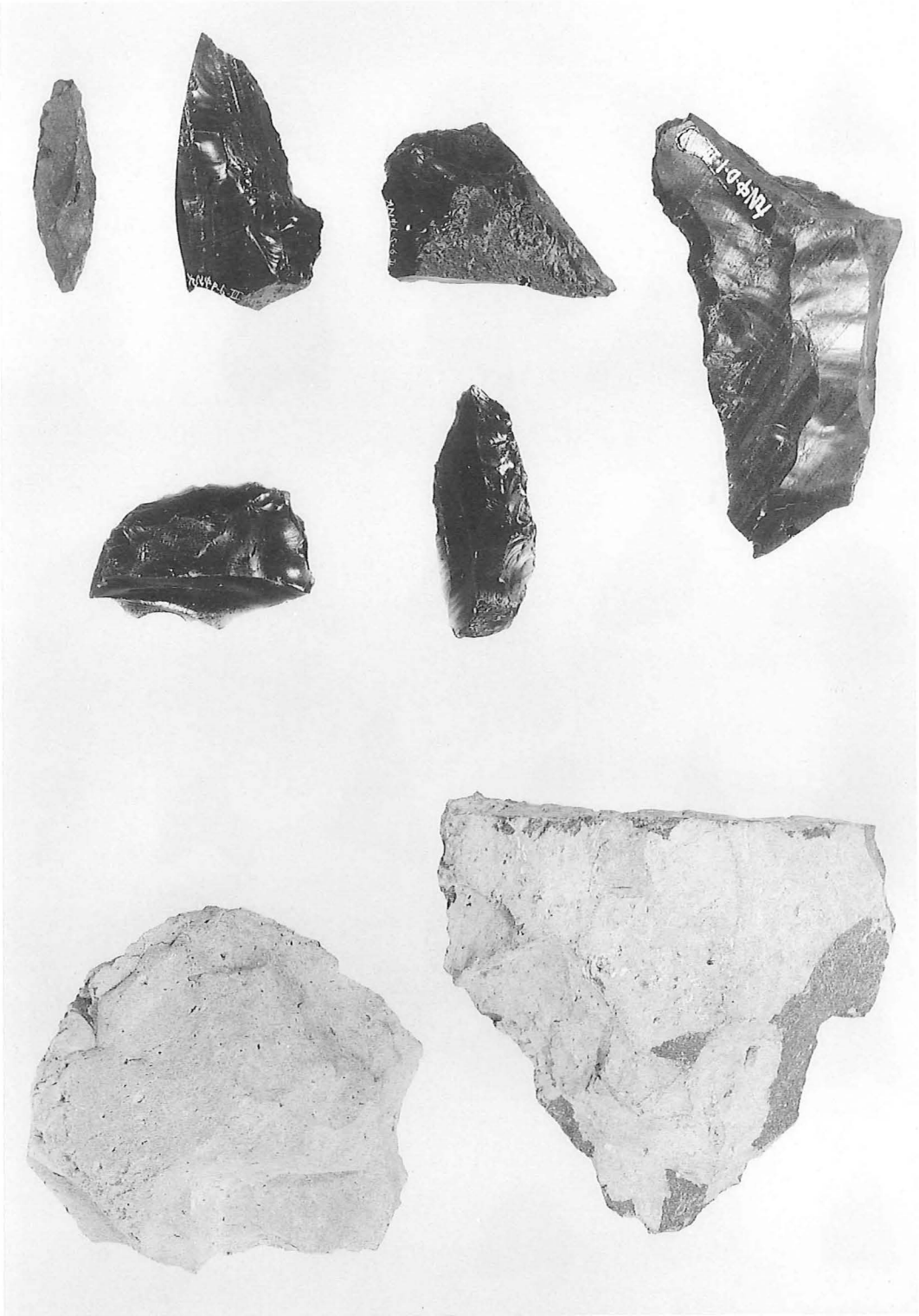
第一次調査出土石器②（1/1）



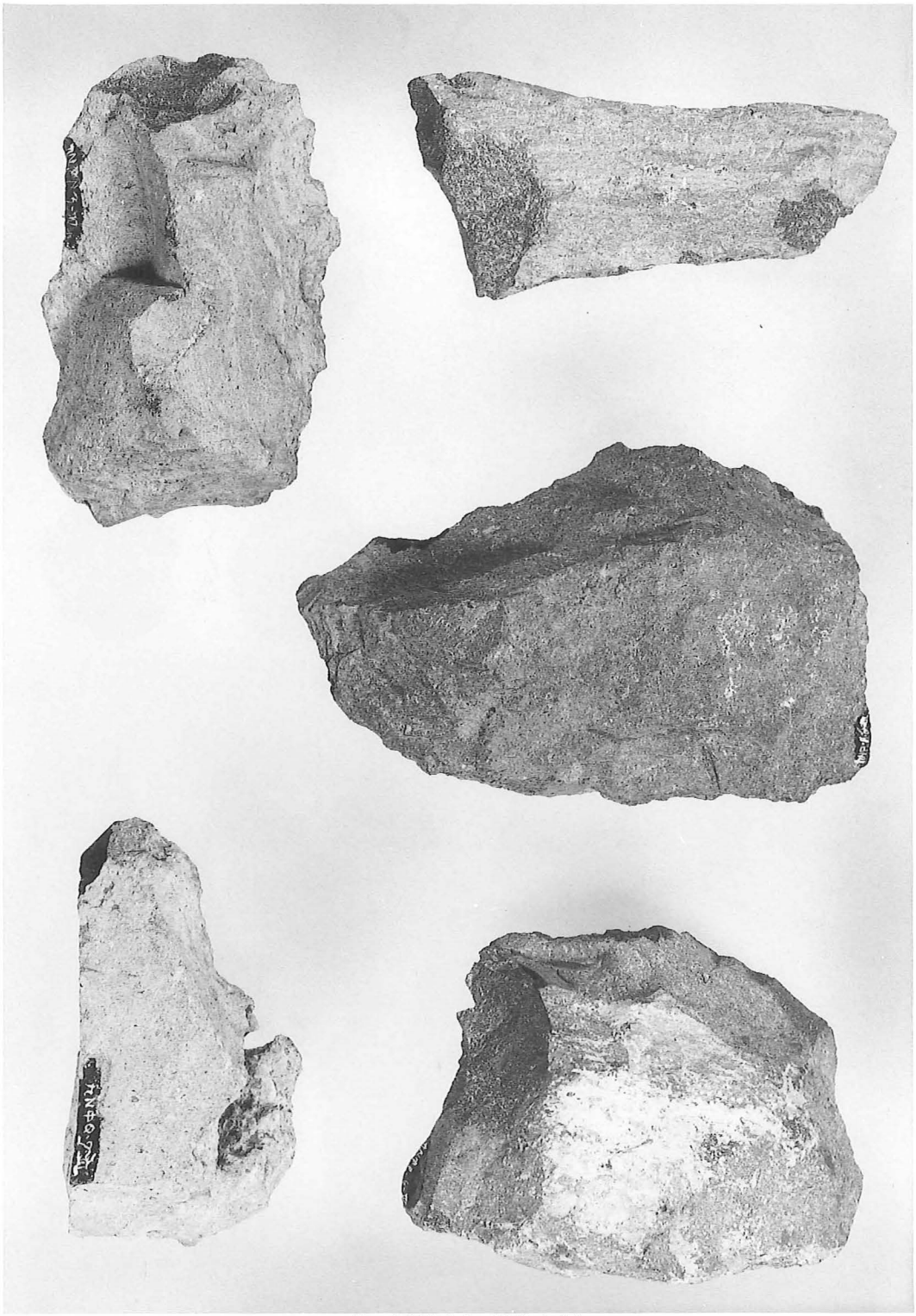
第一次調査出土石器③（石鏃）（1/1）



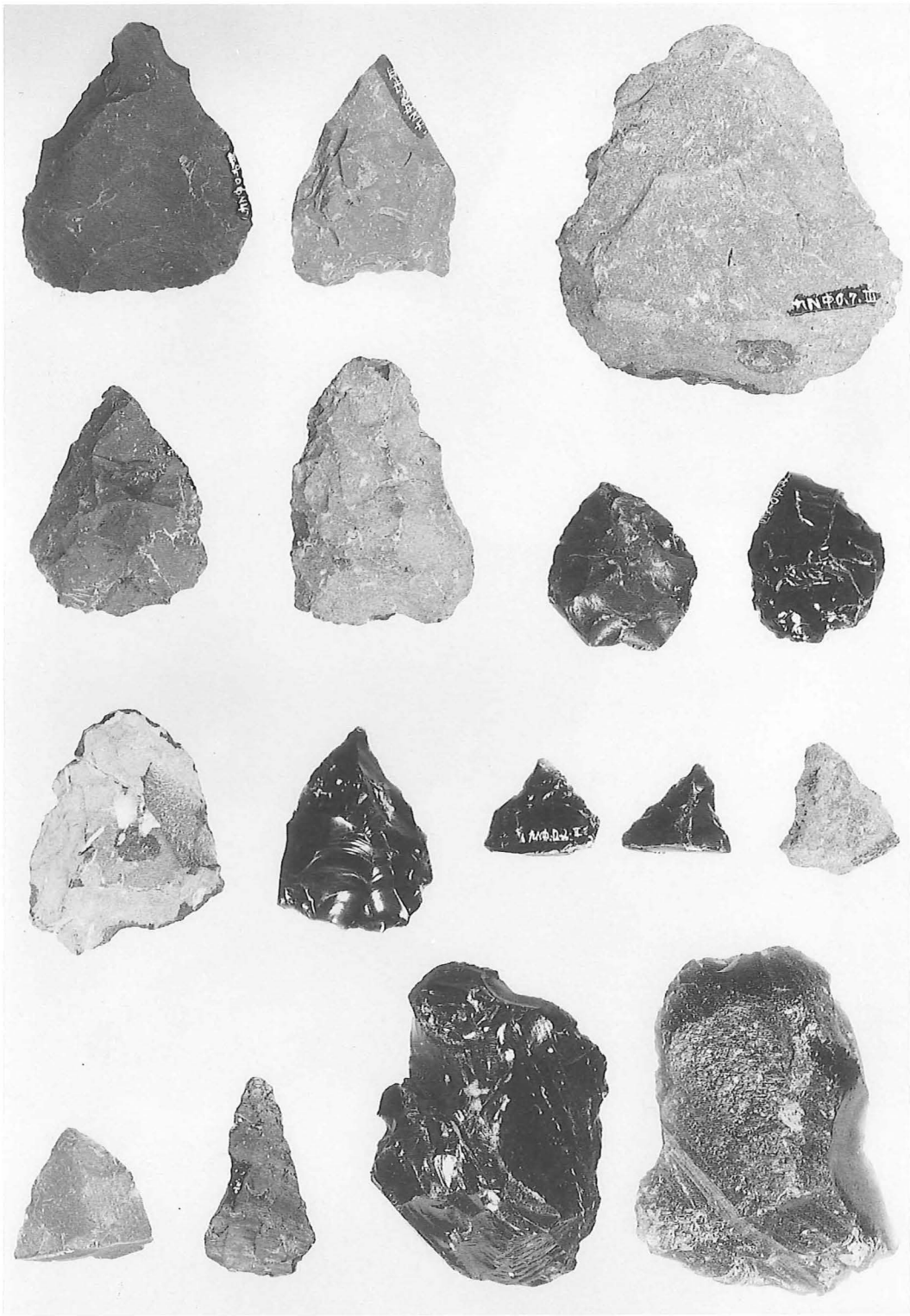
第一次調査出土石器④（石鏃）（1/1）



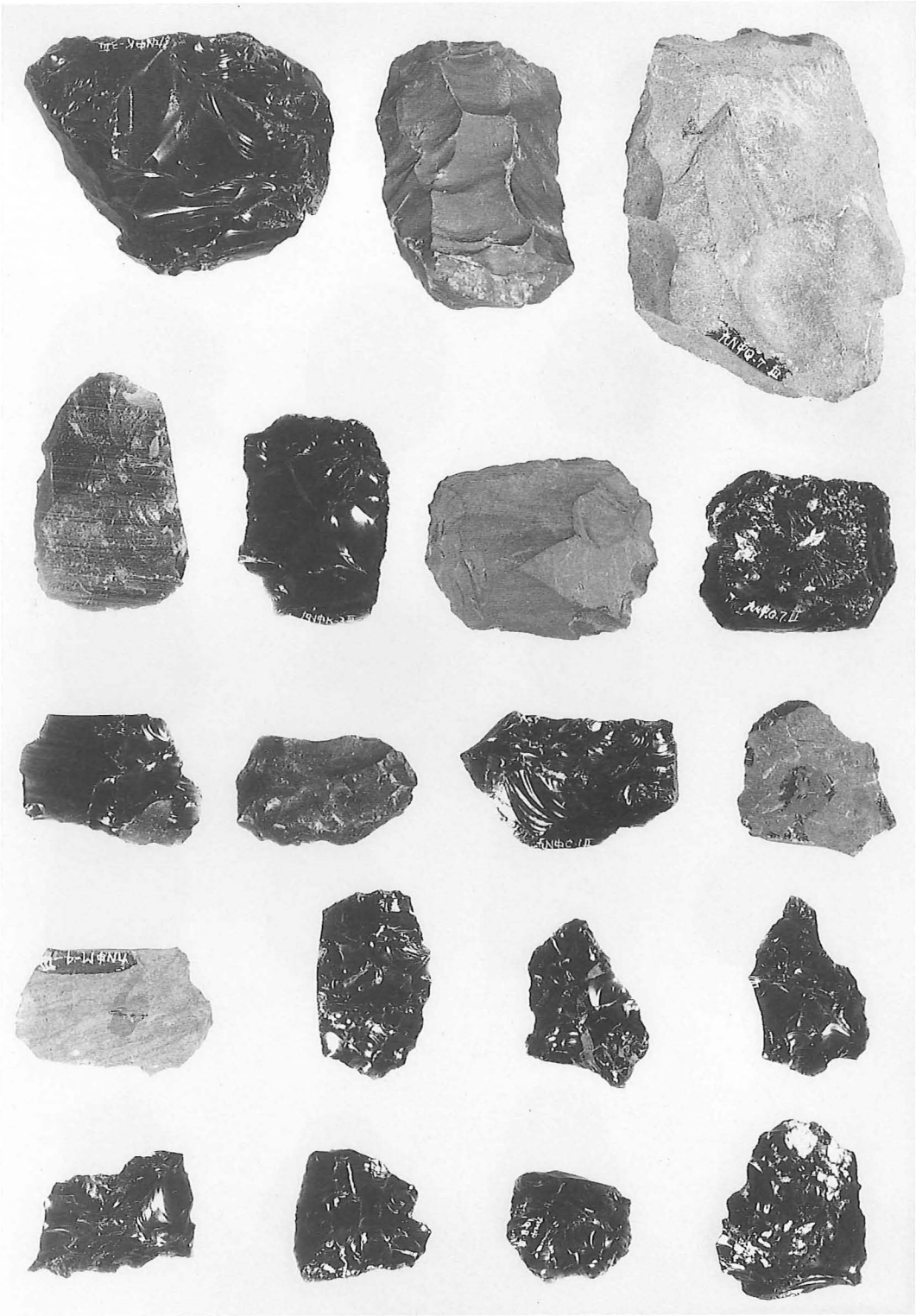
第二次調査出土石器①（1/1）



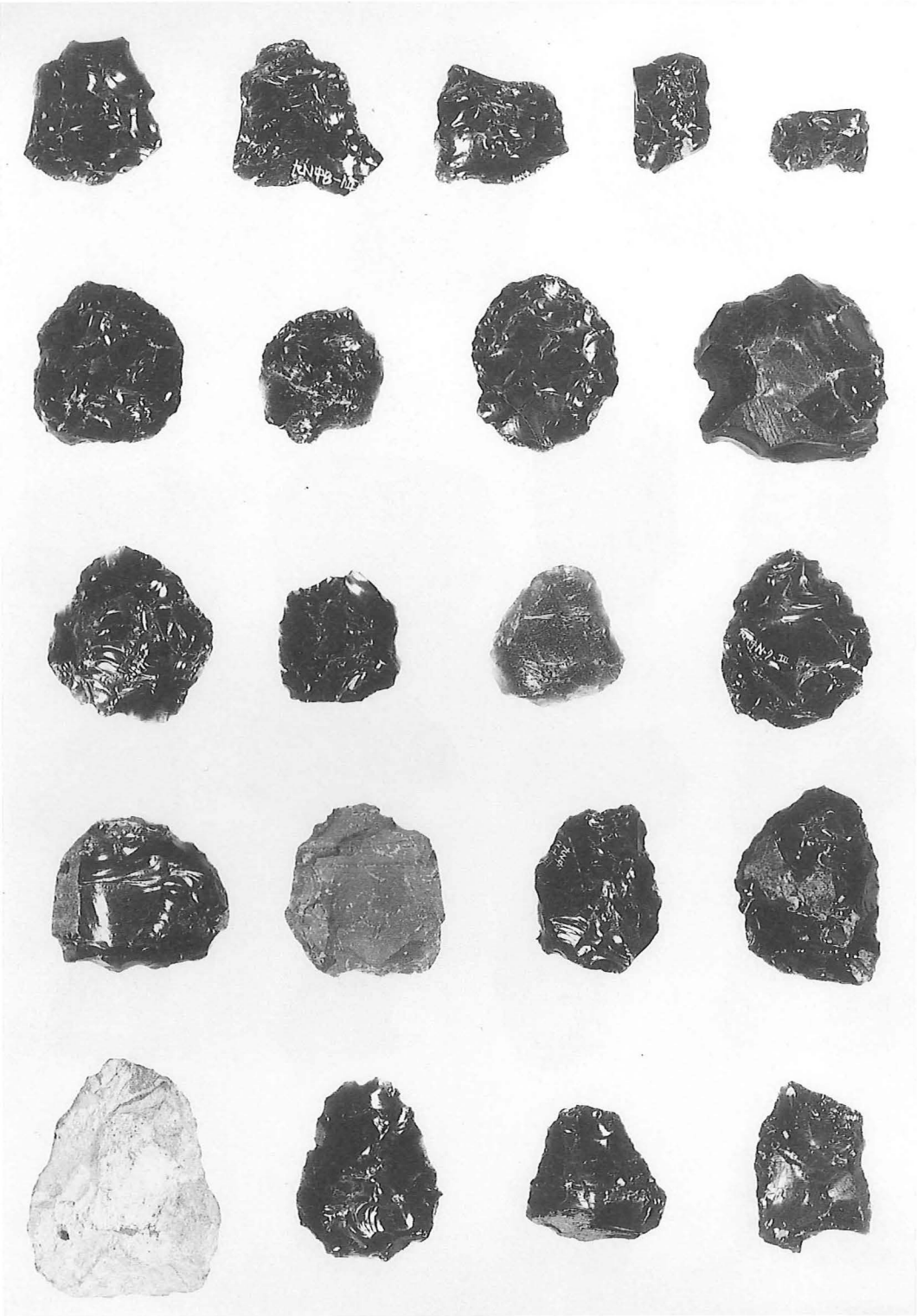
第二次調査出土石器②（1/1）



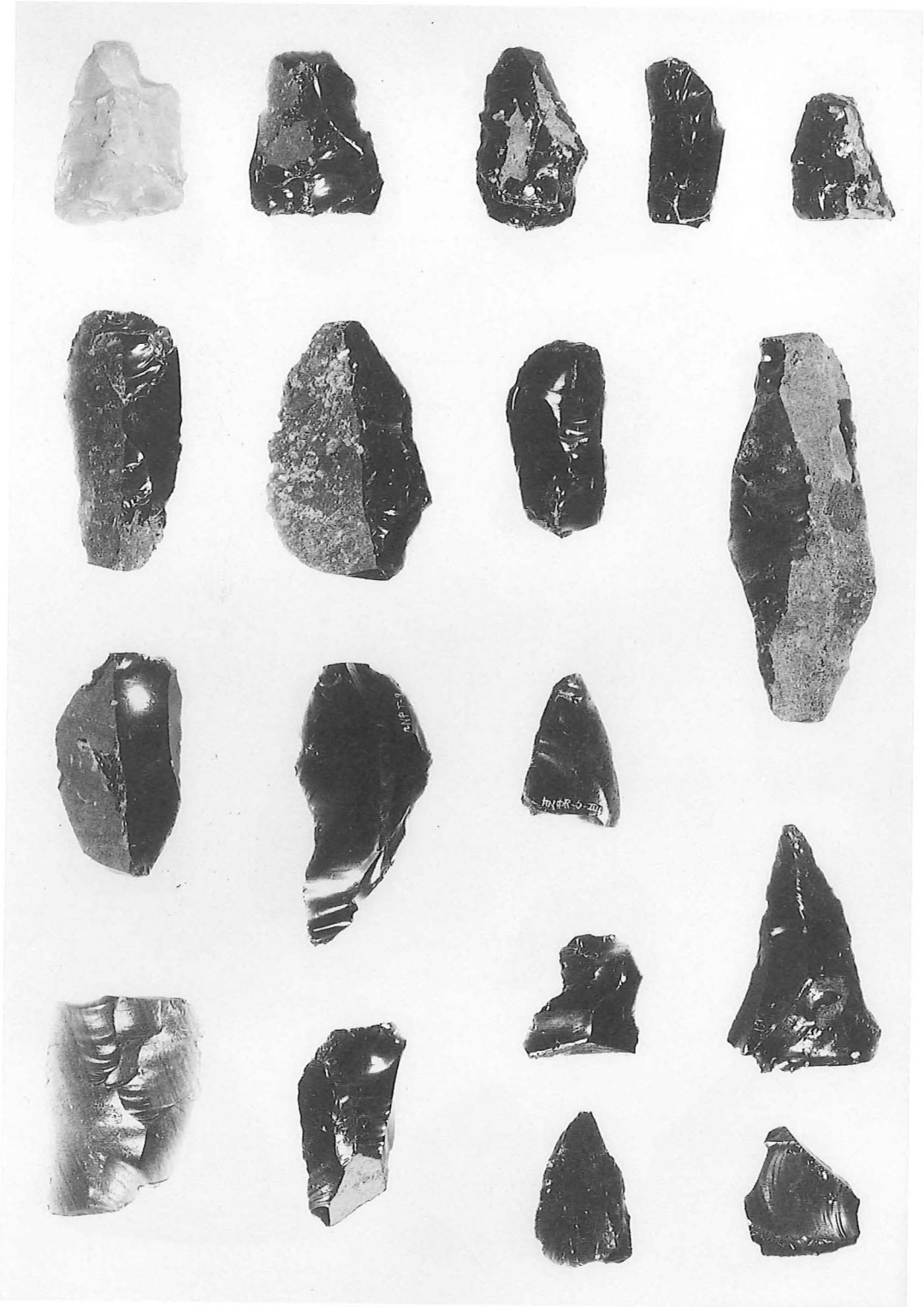
第二次調査出土石器③（1/1）



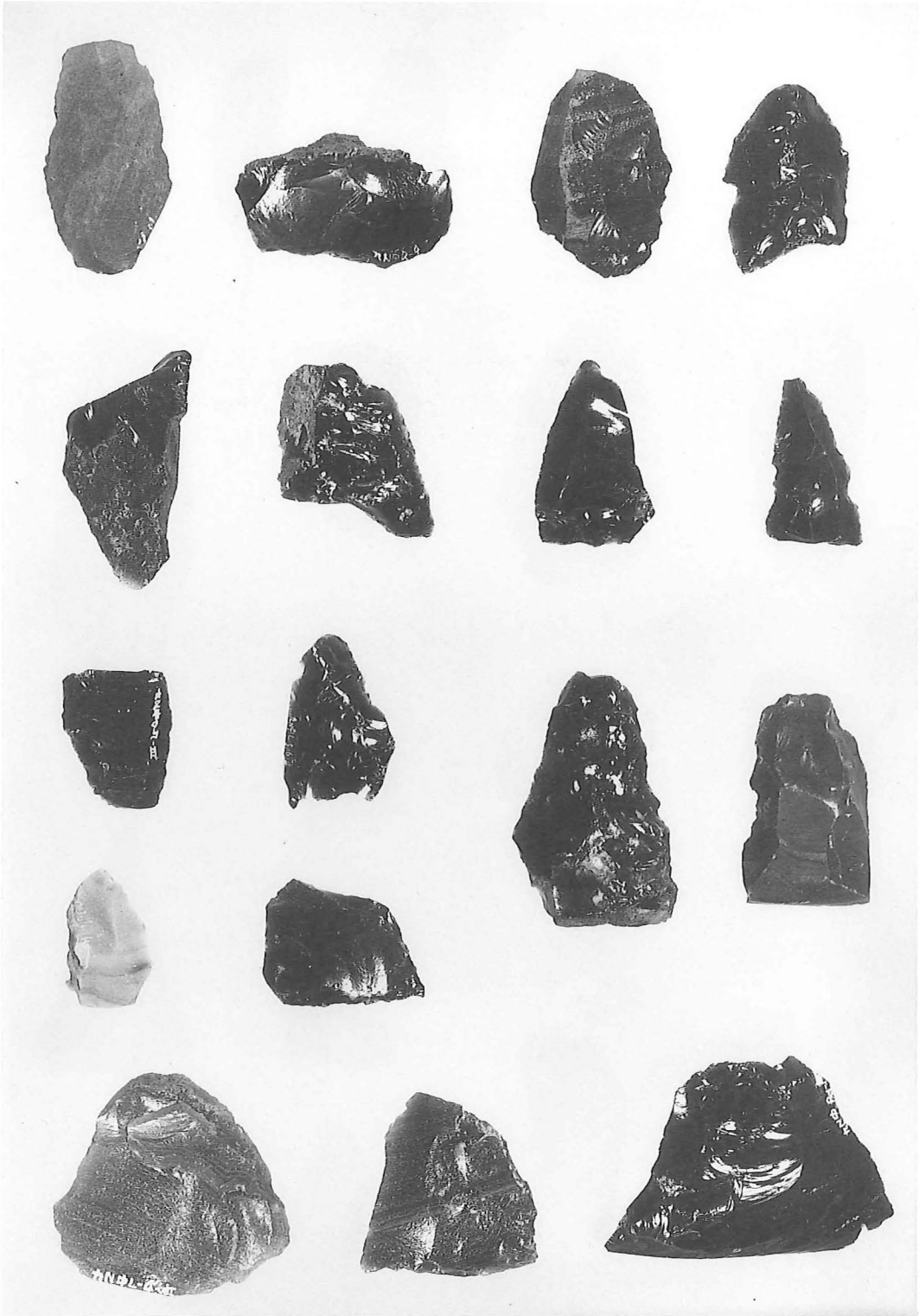
第二次調査出土石器④（1/1）



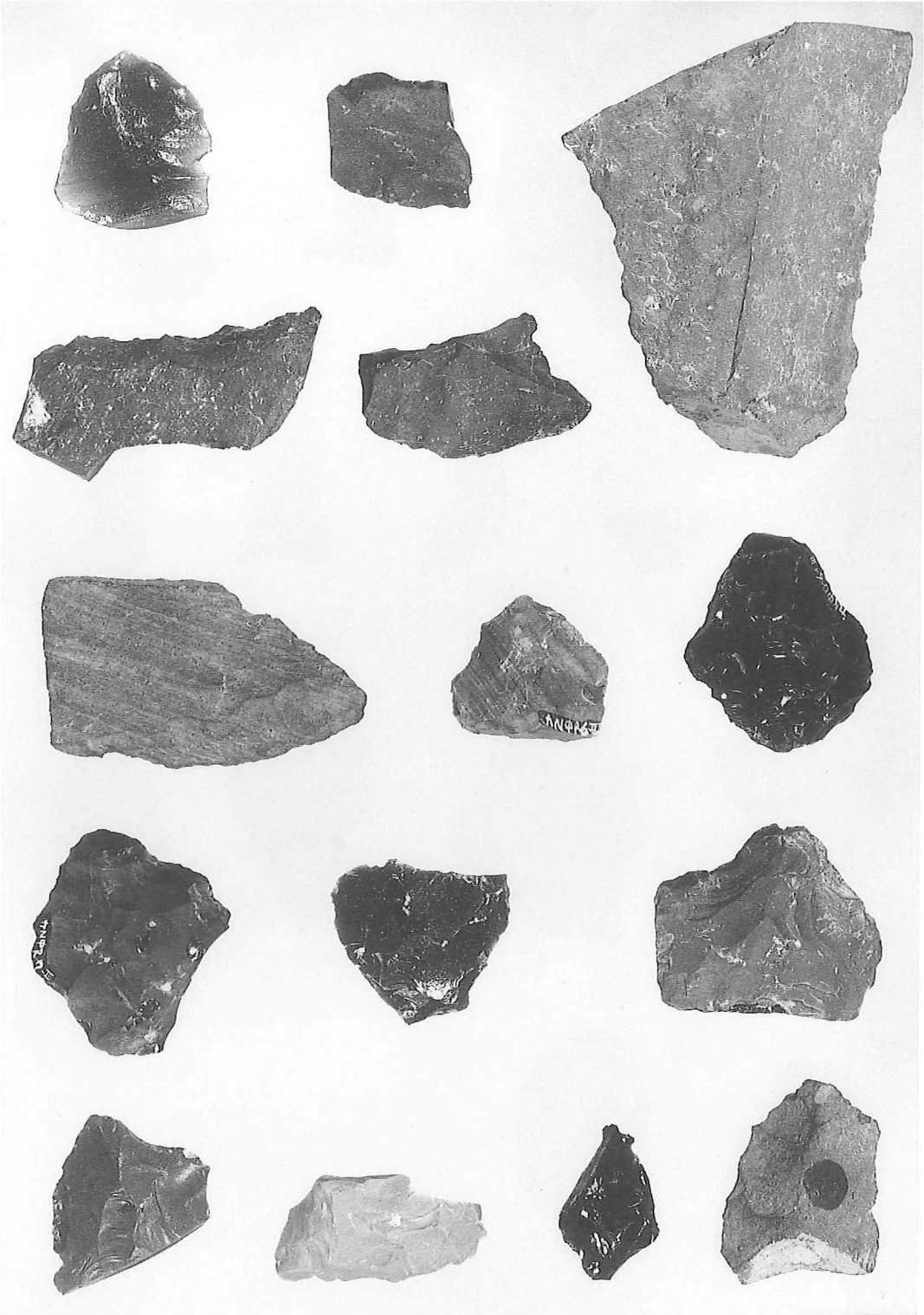
第二次調査出土石器⑤（1/1）



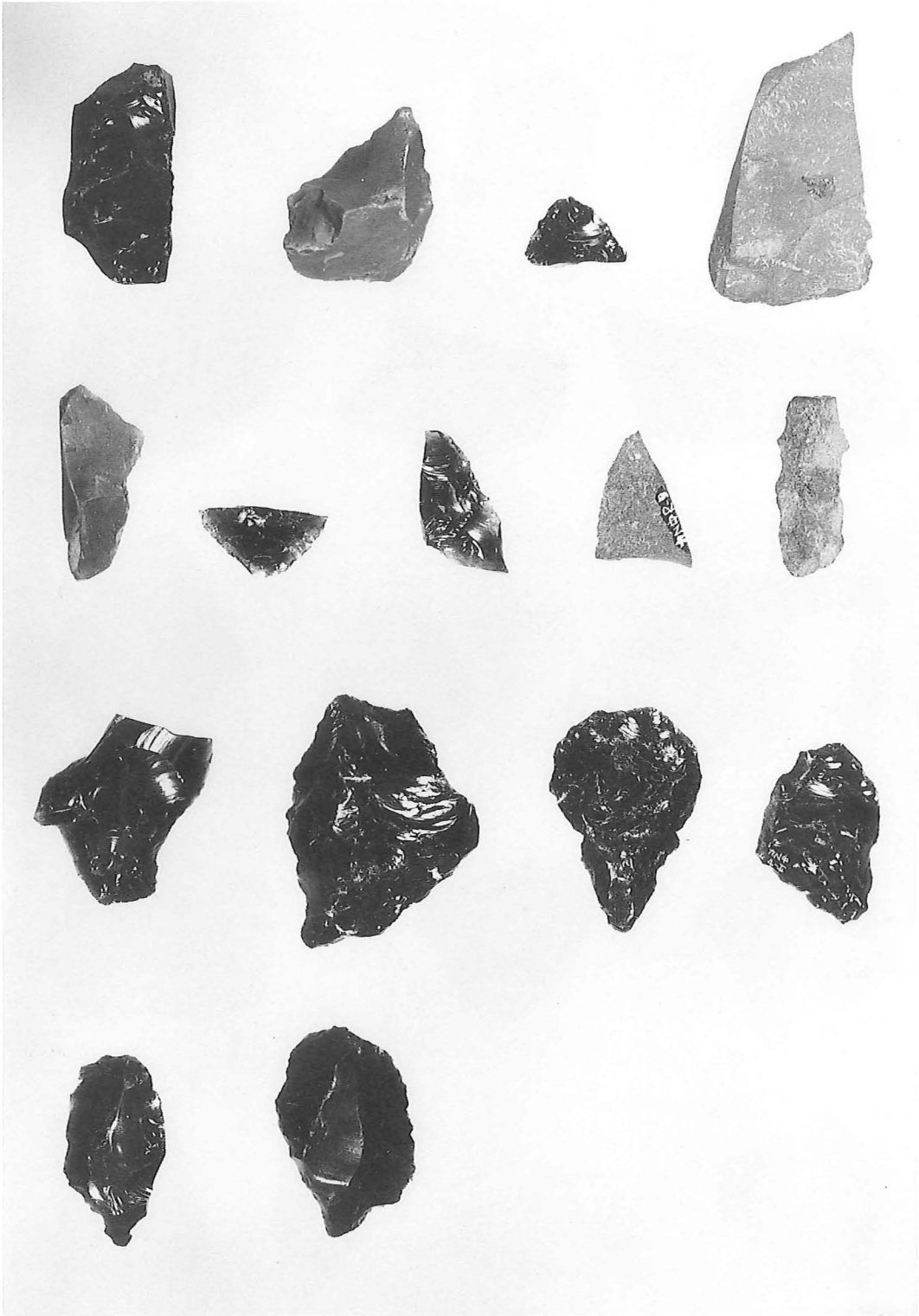
第二次調査出土石器⑥（1/1）



第二次調査出土石器⑦（1/1）

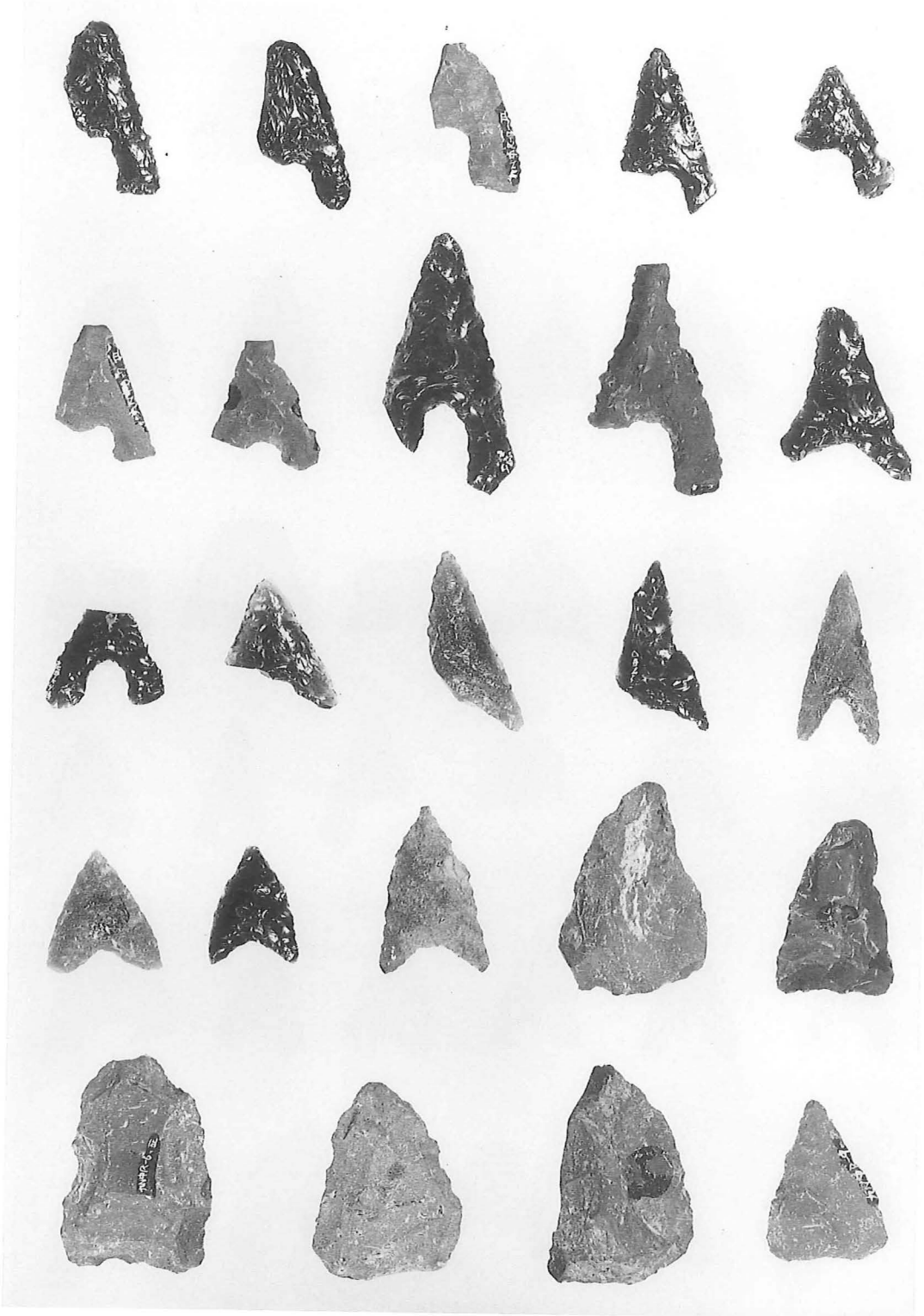


第二次調査出土石器⑧（1/1）

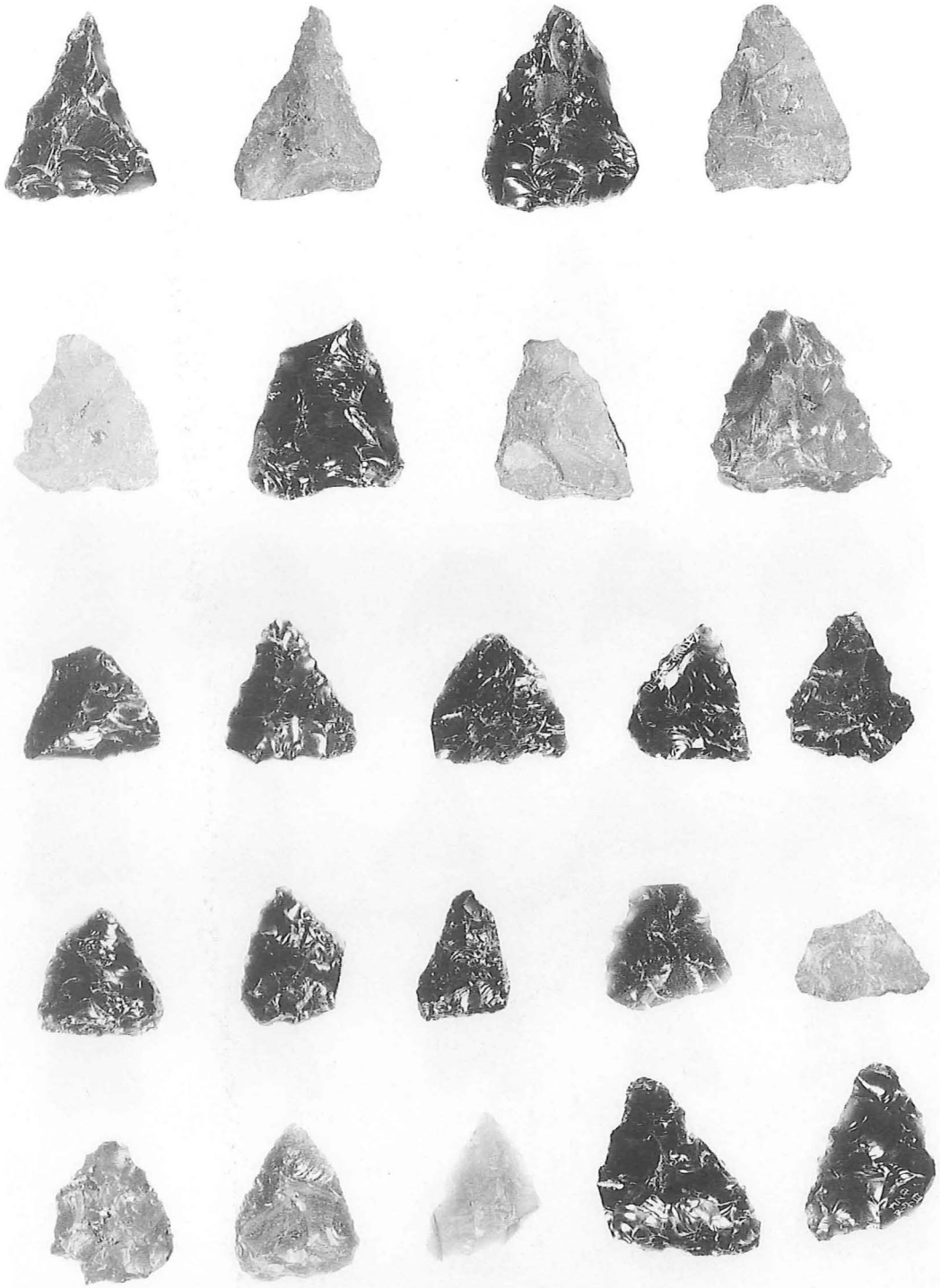


第二次調査出土石器⑨（1/1）

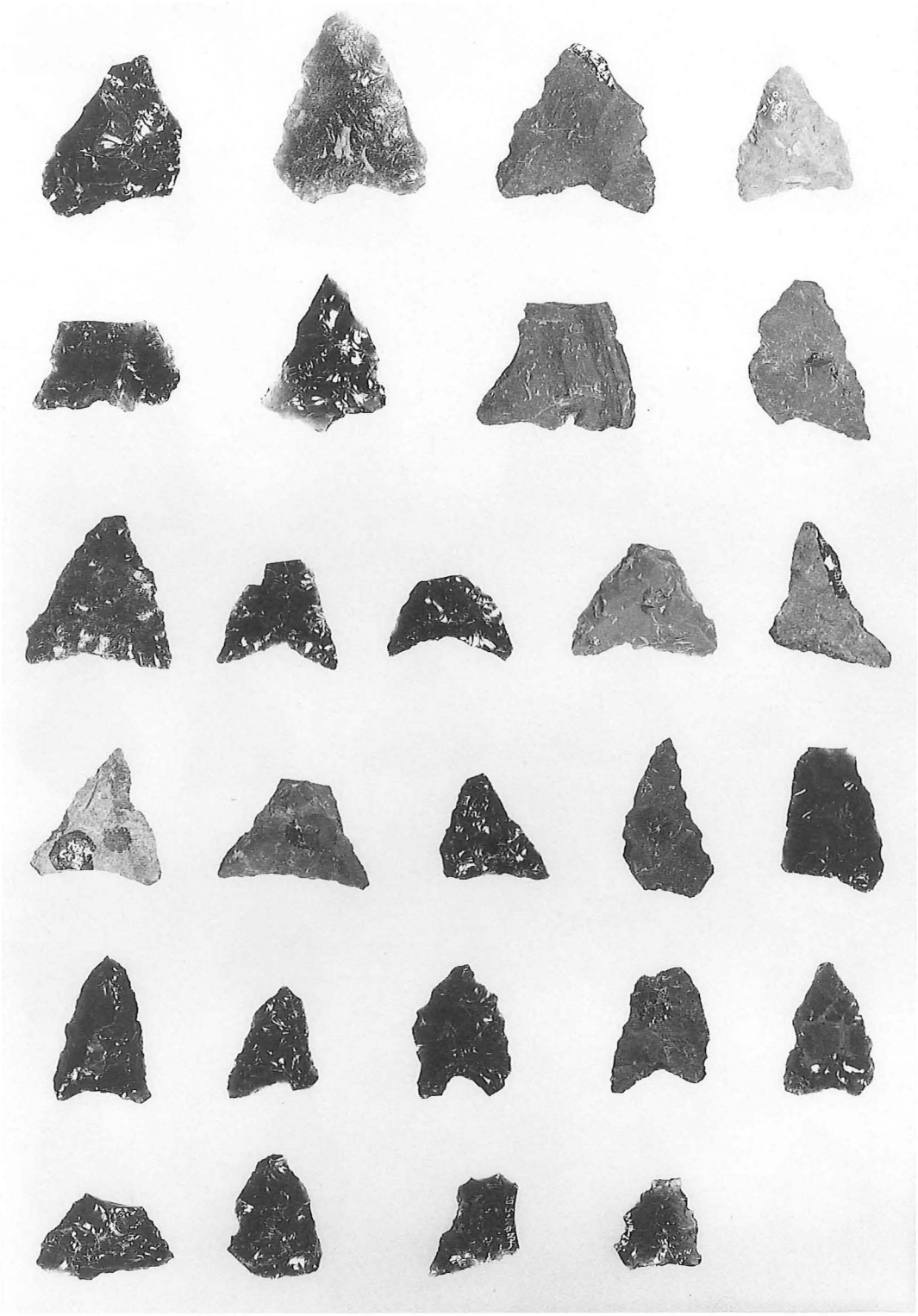
第二次調査出土石器⑩（1/1）



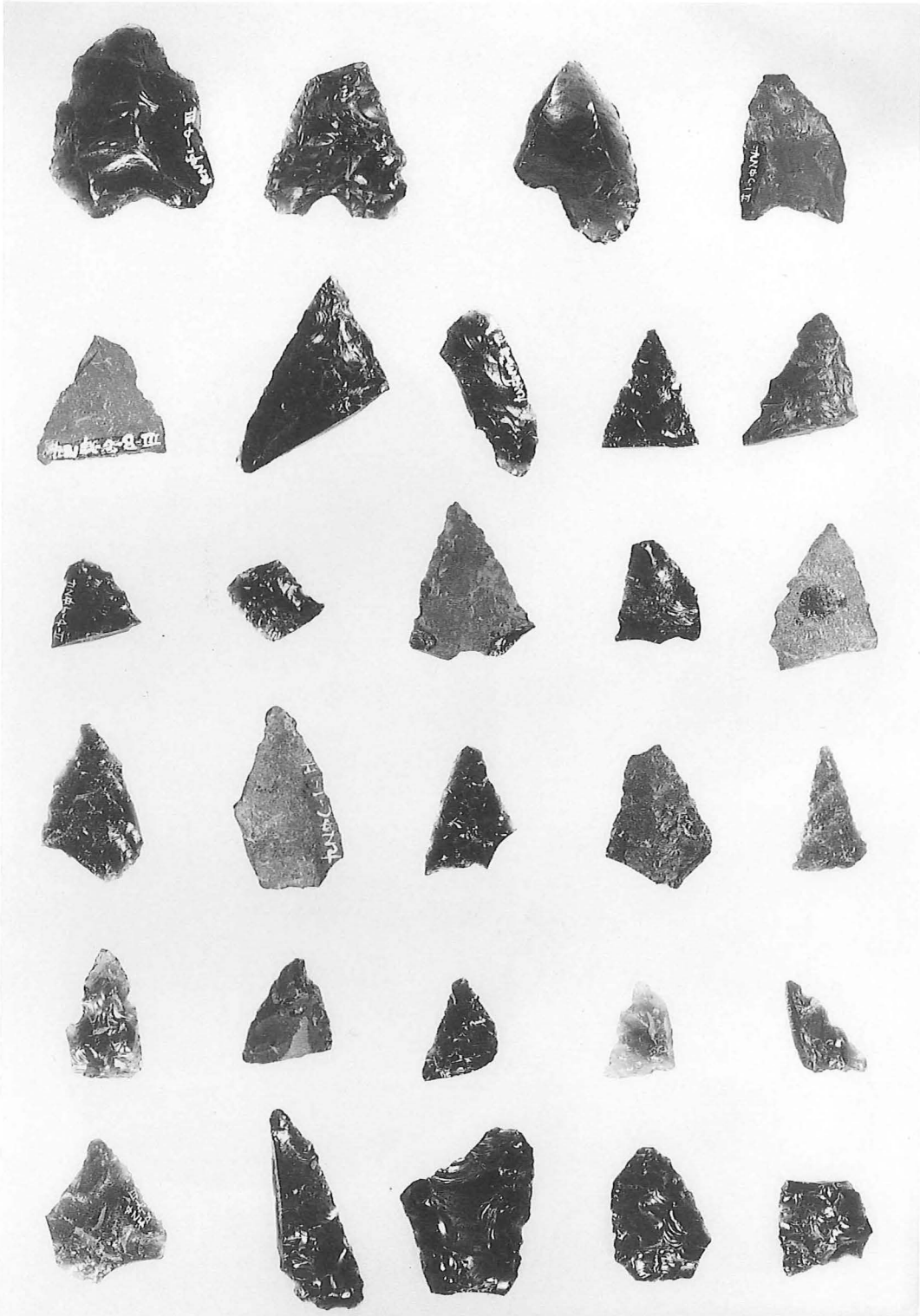
第二次調査出土石器⑪（1/1）



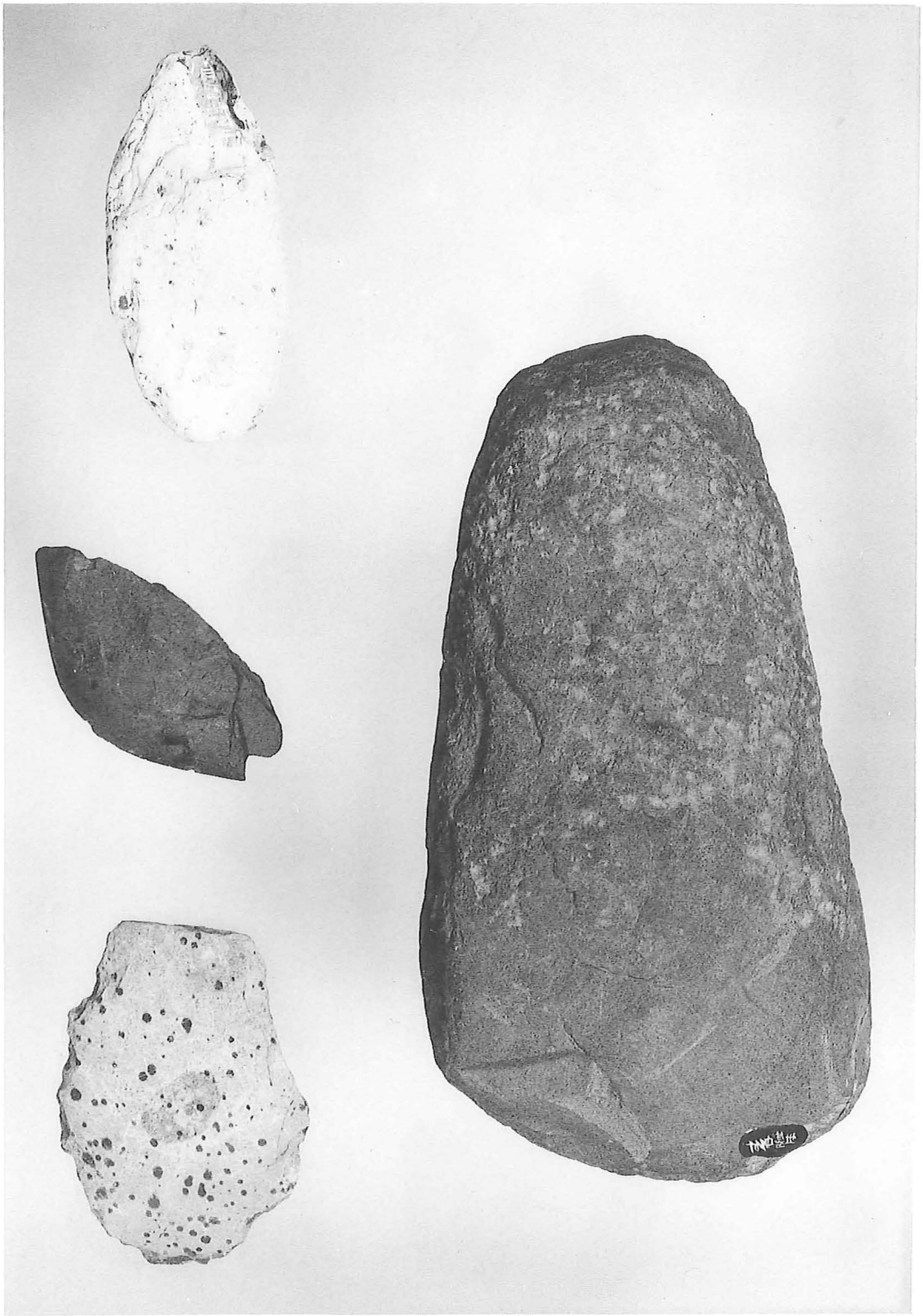
第二次 調査出土石器⑫（1/1）



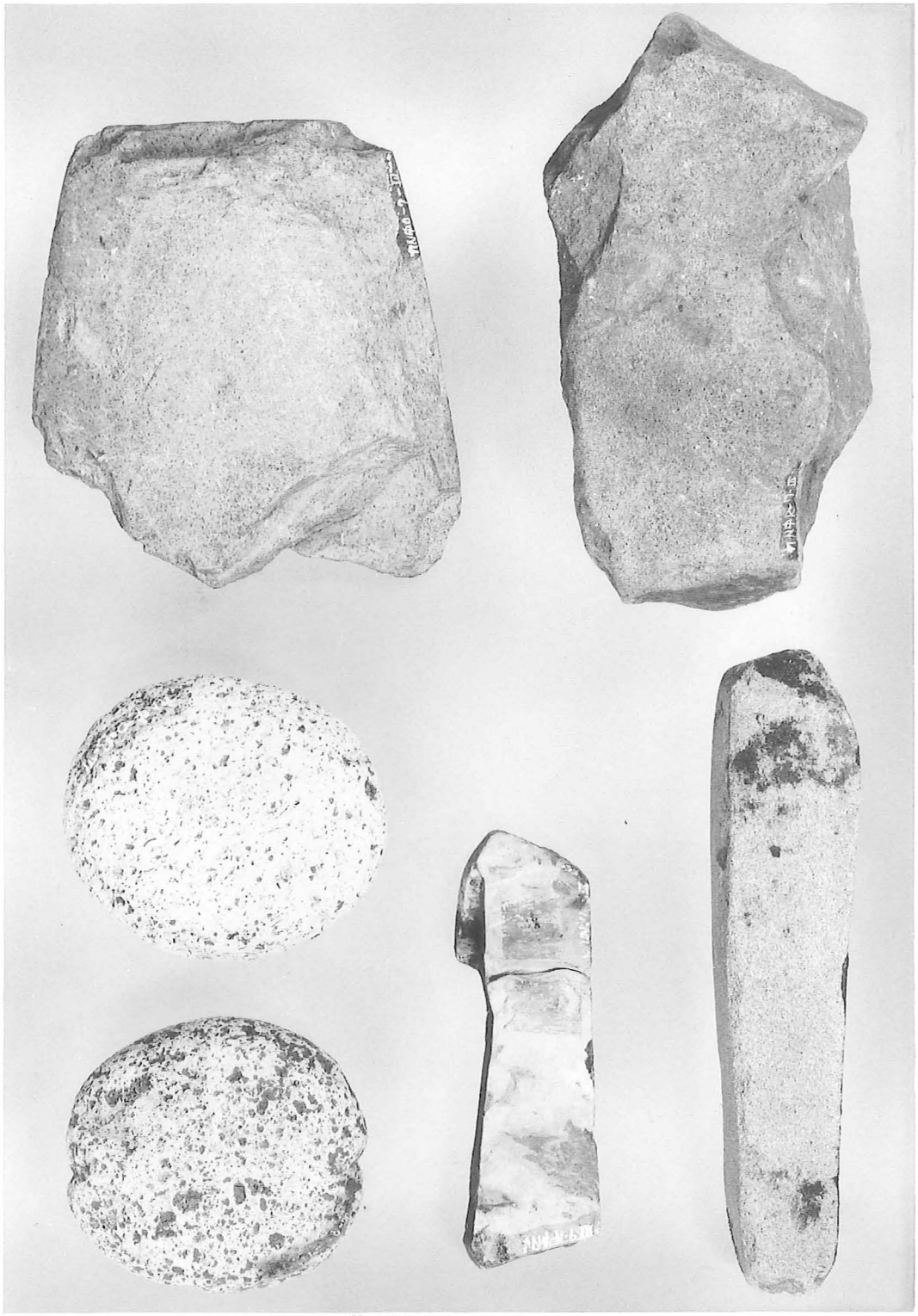
第二次調査出土石器⑬（1/1）



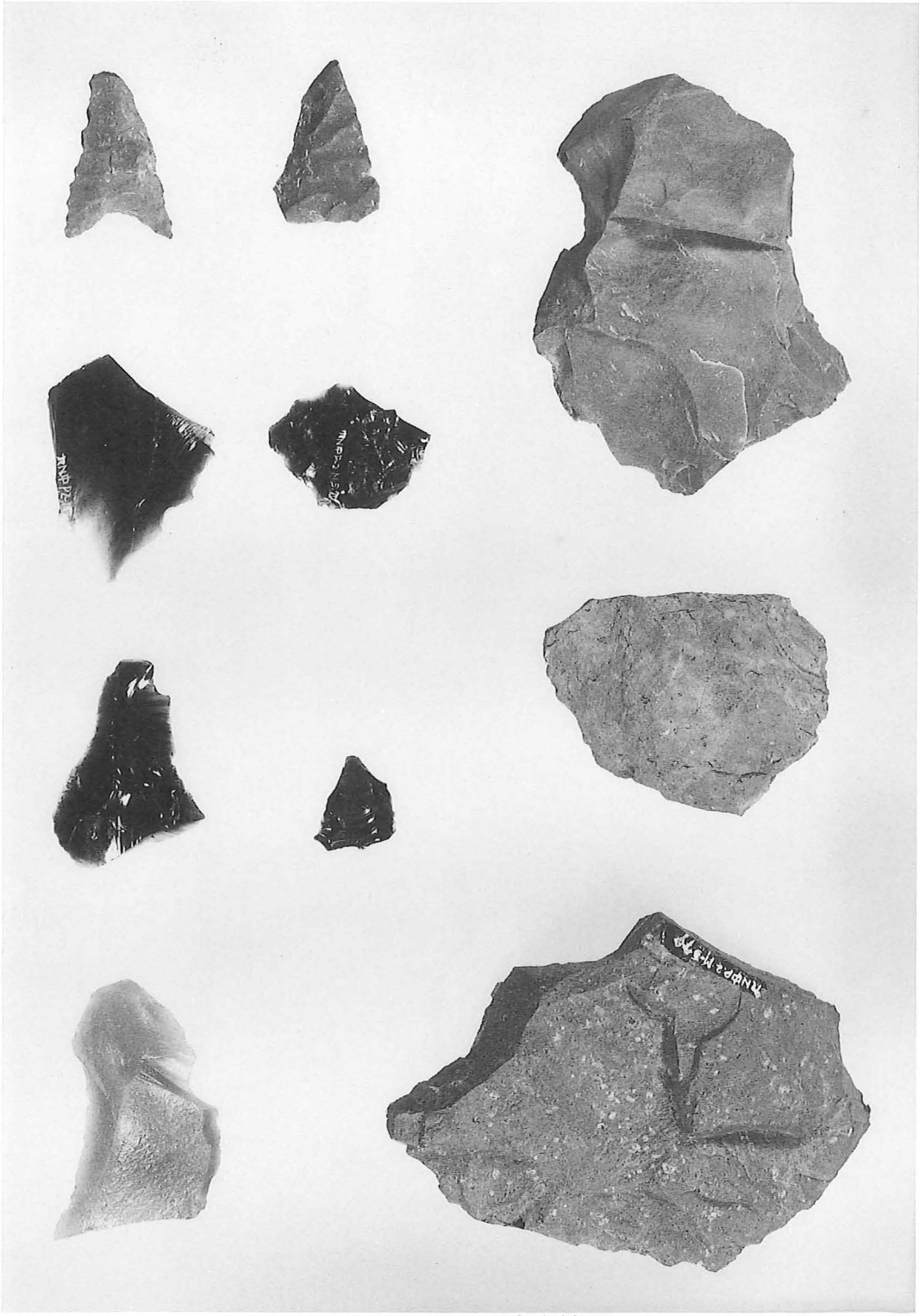
第二次調査出土石器⑭（1/1）



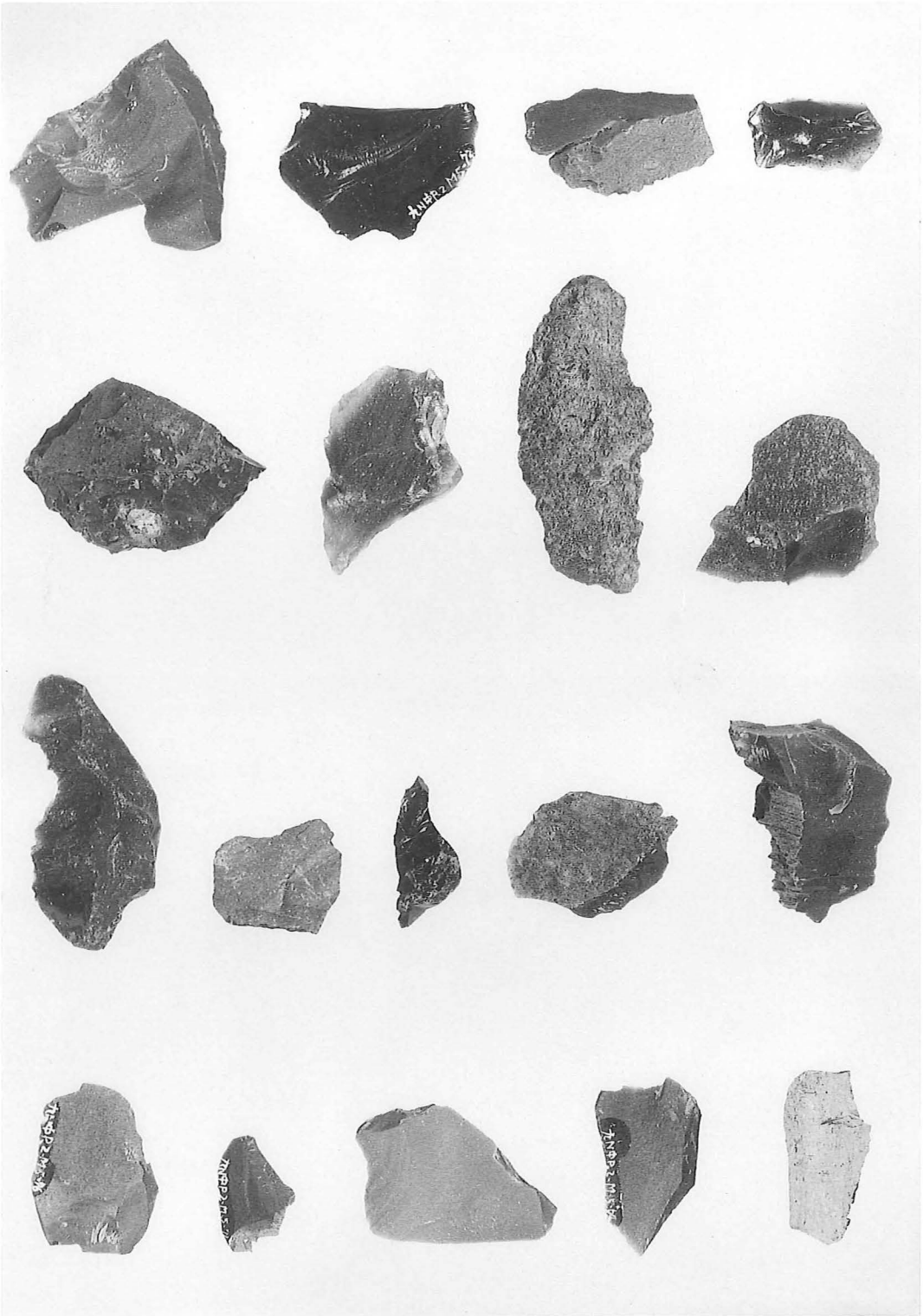
第二次調査出土石器⑮（1/1）



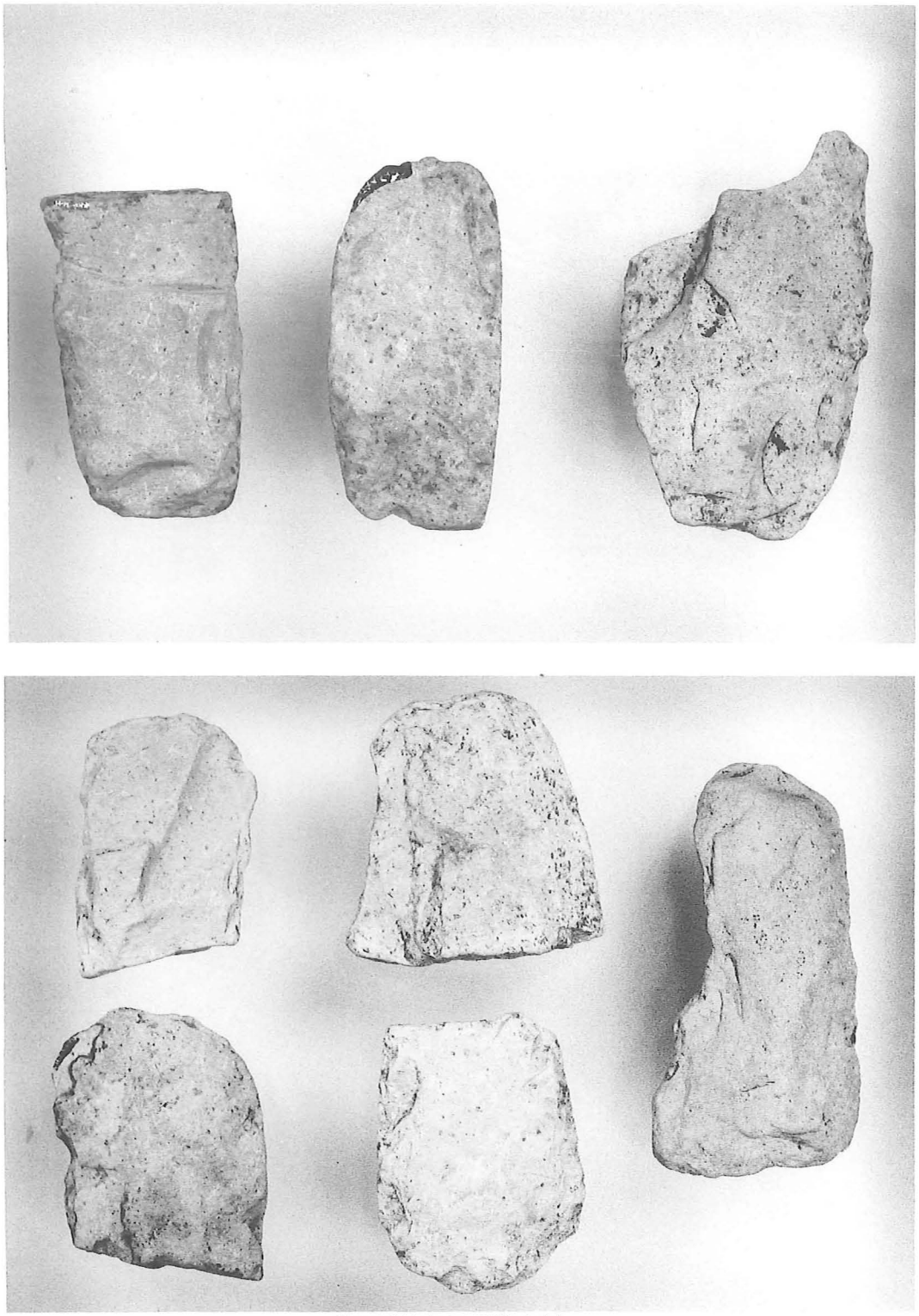
第二次調査出土石器⑯（1/1）



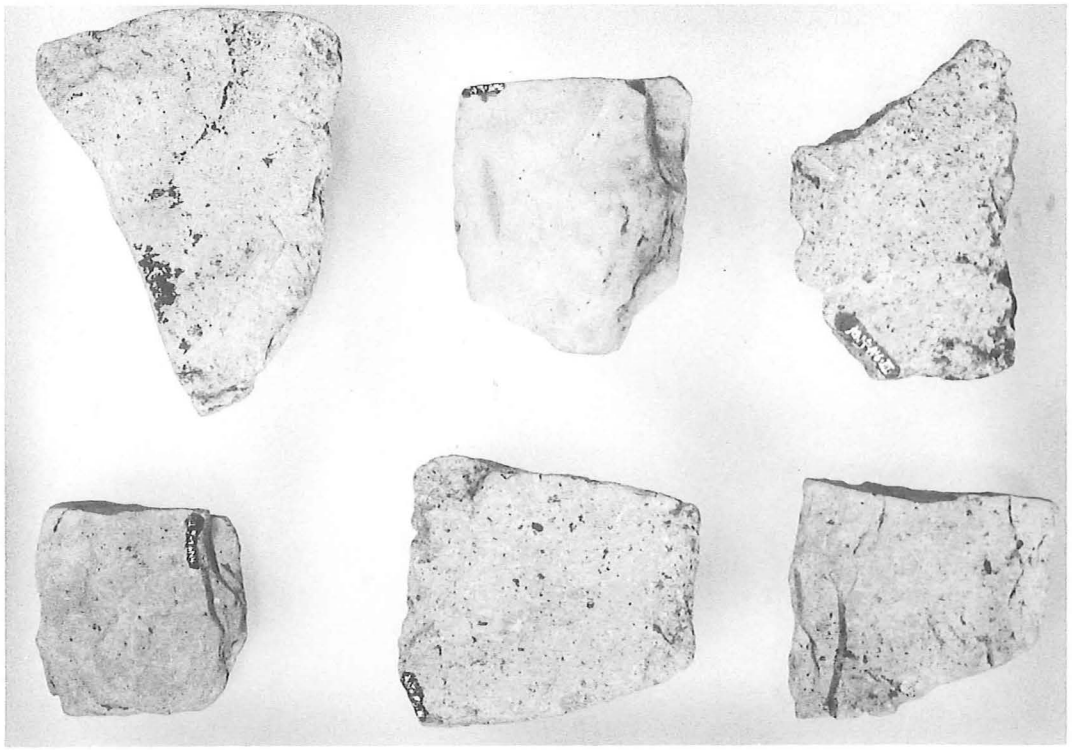
第二次調査出土石器⑰（1/1）

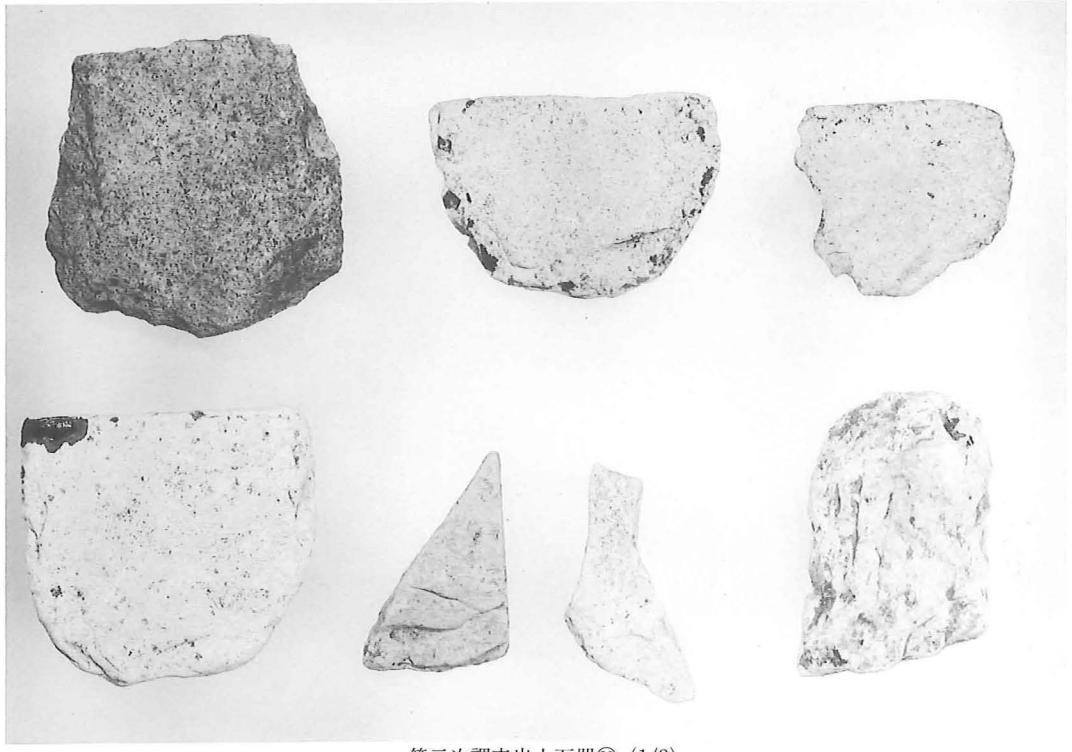


第二次調査出土石器⑱（1/1）

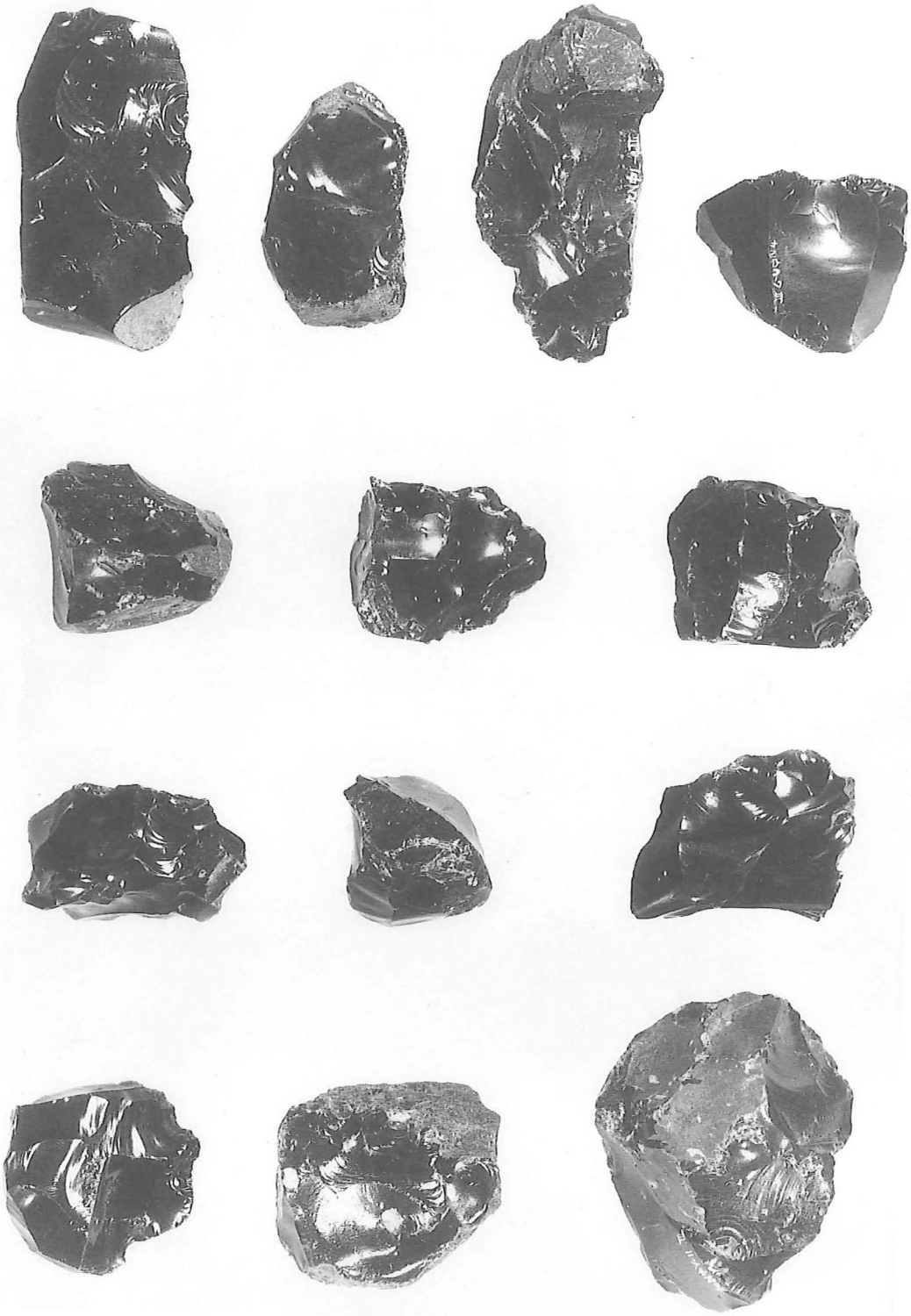


第二次調査出土石器⑲（1/2）





第二次調査出土石器⑳（1/2）



第二次調査出土石器㉑（1/1）

第二次調査風景

調査終了

第二次調査

キリシタン墓碑（正面向かって左側）

花十字紋の平彫り

キリシタン墓碑

# 宮田A遺跡

# 本文目次

Ⅰ　調　査 ……295
　1　地理的位置 ……295
　2　調査の概要 ……295
　3　土層 ……297
Ⅱ　遺　構 ……304
　　柱穴状ピット ……304
　　不定形土壙 ……305
　　集石土壙 ……306
Ⅲ　出土遺物 ……308
　1　土器 ……308
　　①　縄文土器 ……308
　　②　弥生土器 ……313
　　③　その他の遺物 ……328
　　④　古代・中世の陶磁器類 ……335
　　○　輸入陶磁器 ……335
　　○　国産陶器 ……338
　　○　古代・中世輸入陶磁器の様相について ……338
　　○　国産中世陶器および石鍋について ……341
　　○　まとめ ……342
　　⑤　円盤状陶磁製品 ……343
　2　石器 ……350
　　①　打製石斧 ……350
　　②　剥片石器 ……366
　　③　その他の石器 ……378
Ⅳ　総括 ……389

# 挿図目次

Fig. 1　調査区附近図（1/2000） ……296
Fig. 2　調査区設定図 ……297
Fig. 3　各区土層図　① ……299
Fig. 4　各区土層図　② ……301
Fig. 5　柱穴状ピット実測図 ……303

Fig. 6　不定形土壙実測図（K-2　4層）……304
Fig. 7　J・K－2区・4層面　集石土壙実測図 ……305
Fig. 8　K-2区・4層面　土器ドットマップ ……306
Fig. 9　K-2区・4層面　石器ドットマップ ……307
Fig.10　縄文土器実測図　① ……308
Fig.11　縄文土器実測図　② ……309
Fig.12　縄文土器実測図　③ ……310
Fig.13　縄文土器実測図　④ ……311
Fig.14　縄文土器実測図　⑤ ……312
Fig.15　縄文土器実測図　⑥ ……314
Fig.16　縄文土器実測図　⑦ ……315
Fig.17　弥生土器実測図　① ……316
Fig.18　弥生土器実測図　② ……317
Fig.19　弥生土器実測図　③ ……318
Fig.20　弥生土器実測図　④ ……319
Fig.21　弥生土器実測図　⑤ ……320
Fig.22　弥生土器実測図　⑥ ……321
Fig.23　弥生土器実測図　⑦ ……323
Fig.24　弥生土器実測図　⑧ ……324
Fig.25　弥生土器実測図　⑨ ……325
Fig.26　弥生土器実測図　⑩ ……326
Fig.27　弥生土器実測図　⑪ ……327
Fig.28　弥生土器実測図　⑫ ……328
Fig.29　弥生土器実測図　⑬ ……329
Fig.30　弥生土器実測図　⑭ ……331
Fig.31　その他の遺物 ……333
Fig.32　管状土錘実測図 ……334
Fig.33　中世陶磁器類（1/2・1/3） ……336
Fig.34　中世陶磁器組成グラフ ……339
Fig.35　円盤状陶磁製品（1/2） ……344
Fig.36　円盤状陶磁製品法量図 ……346
Fig.37　打製石斧計測グラフ ……350
Fig.38　打製石斧重量グラフ ……351
Fig.39　打製石斧刃部計測グラフ ……351

Fig.40　打製石斧実測図　①……354
Fig.41　打製石斧実測図　②……355
Fig.42　打製石斧実測図　③……356
Fig.43　打製石斧実測図　④……357
Fig.44　打製石斧実測図　⑤……358
Fig.45　打製石斧実測図　⑥……359
Fig.46　打製石斧実測図　⑦……360
Fig.47　打製石斧実測図　⑧……361
Fig.48　打製石斧実測図　⑨……362
Fig.49　打製石斧実測図　⑩……363
Fig.50　打製石斧実測図　⑪……364
Fig.51　打製石斧実測図　⑫……365
Fig.52　打製石斧実測図　⑬……366
Fig.53　石鏃　①……367
Fig.54　石鏃　②……368
Fig.55　石鏃　③……369
Fig.56　石鏃　④……370
Fig.57　石鏃　⑤……371
Fig.58　石槍・サイドブレイド・石錐・石匙……372
Fig.59　削器・石槍……374
Fig.60　削器……375
Fig.61　石核・不定形剥片……376
Fig.62　縦長剥片　①……377
Fig.63　縦長剥片　②……379
Fig.64　縦長剥片　③……380
Fig.65　その他の石器　①……381
Fig.66　その他の石器　②（1/3）……382
Fig.67　砥石実測図（1/4）……383
Fig.68　扁平打製石斧層位別出土区……390

## 表目次

Tab. 1　中世陶磁器出土数量表……338
Tab. 2　近世陶磁器出土数量表……341
Tab. 3　円盤状陶磁製品出土数量表……343

Tab. 4　円盤状陶磁製品一覧表①……348
Tab. 5　円盤状陶磁製品一覧表②……349
Tab. 6　打製石斧法量表　完形……384
Tab. 7　打製石斧法量表　基部……385
Tab. 8　打製石斧法量表　基部・打製石斧法量表　中間形……386
Tab. 9　打製石斧法量表　刃部……387
Tab.10　打製石斧法量表　刃部……388

## 図版目次

PL. 1　遺跡遠景（北より）・遺跡遠景（南より）……393
PL. 2　調査区設定風景・調査区設定状況……394
PL. 3　調査区風景・調査区風景……395
PL. 4　調査区風景・調査区風景……396
PL. 5　J－3区北壁・J－3区西壁……397
PL. 6　M－2区東壁・K－3区北壁……398
PL. 7　遺物出土状況・遺物出土状況……399
PL. 8　遺物出土状況・遺物出土状況……400
PL. 9　土壙・集石遺構……401
PL. 10　縄文土器①（1/2）……402
PL. 11　縄文土器②（1/2）……403
PL. 12　縄文土器③……404
PL. 13　縄文土器④, ⑤……405
PL. 14　縄文土器⑥……406
PL. 15　縄文土器⑥, ⑦……407
PL. 16　弥生土器①, ②, ③……408
PL. 17　弥生土器④, ⑤, ⑥……409
PL. 18　弥生土器⑦, ⑧……410
PL. 19　弥生土器⑨……411
PL. 20　弥生土器⑩, ⑪……412
PL. 21　弥生土器⑫, ⑬……413
PL. 22　弥生土器⑭……414
PL. 23　その他の遺物（1/2）……415
PL. 24　管状土錘……416
PL. 25　中世陶磁器（1/2）……417

PL. 26　中世陶磁器（1/2）……418
PL. 27　円盤状陶磁製品（1/2）……419
PL. 28　打製石斧①（1/2）……420
PL. 29　打製石斧②（1/2）……421
PL. 30　打製石斧③（1/2）……422
PL. 31　打製石斧④（1/2）……423
PL. 32　打製石斧⑤（1/2）……424
PL. 33　打製石斧⑥（1/2）……425
PL. 34　打製石斧⑦（1/2）……426
PL. 35　打製石斧⑦（1/2）……427
PL. 36　打製石斧⑧（1/2）……428
PL. 37　打製石斧⑨（1/2）……429
PL. 38　打製石斧⑩（1/2）……430
PL. 39　打製石斧⑪（1/2）……431
PL. 40　打製石斧⑫（1/2）……432
PL. 41　打製石斧⑬（1/2）……433
PL. 42　石鏃①（1/1）……434
PL. 43　石鏃②（1/1）……435
PL. 44　石鏃③（1/1）……436
PL. 45　石鏃④（1/1）……437
PL. 46　石鏃⑤（1/1）……438
PL. 47　石槍・サイドブレイド・石錐・石匙（1/1）……439
PL. 48　削器・石槍……440
PL. 49　石核・不定型剥片（1/1）……441
PL. 50　縦長剥片①（1/1）……442
PL. 51　縦長剥片②（1/1）……443
PL. 52　縦長剥片③（1/1）……444
PL. 53　その他の石器①……455
PL. 54　その他の石器②……446

# I　調査

## 1．地理的位置（Fig. 1）

宮田A遺跡は，千綿川の下流に形成された沖積平野の右岸に位置し，標高4～5mを計る。

遺構の所在地は東彼杵町八反田郷中の坪にある。「宮田」という字は実際には更に北東部に位置し，今回の調査地点とは直接的な関わりあいはない。従って本遺跡は小字名からすると，本来は「中の坪遺跡」とでもすべきであるが，混乱を避けるため，敢えて遺跡名はそのまま踏襲することにする。

遺跡とその周辺は，現在水田として耕地利用されているが，現在でも，たびたび河川の氾濫による被害を被るという。特に遺跡西側の低地（比高1m程度）では，最近に至るまで腰までつかっての田植えを余儀なくされる程の湿地であり，被害の程度も大であったらしい。

## 2．調査の概要（Fig. 2）

調査区は，丘陵と丘陵に挟まれた低平地に在り，高速道路の高架部分に当たる。

従って，調査は高架橋の橋脚にあたる部分をまず精査し，遺構等がかかった場合その部分を暫次拡幅する方法をとった。

調査は，横断道路の中心杭を基準として10m×10mのグリッドに区画した。

調査開始が梅雨と重なり，しかも湧水が激しいため，排水には困難を極めたが，まず標高の高い区域から調査を開始し，暫次低地に移って行くこととした。

調査は，昭和61年6月16日から同年9月26日まで実施した。調査面積は1720㎡である。

（高野）

Fig. 1　調査区附近図（1/2000）

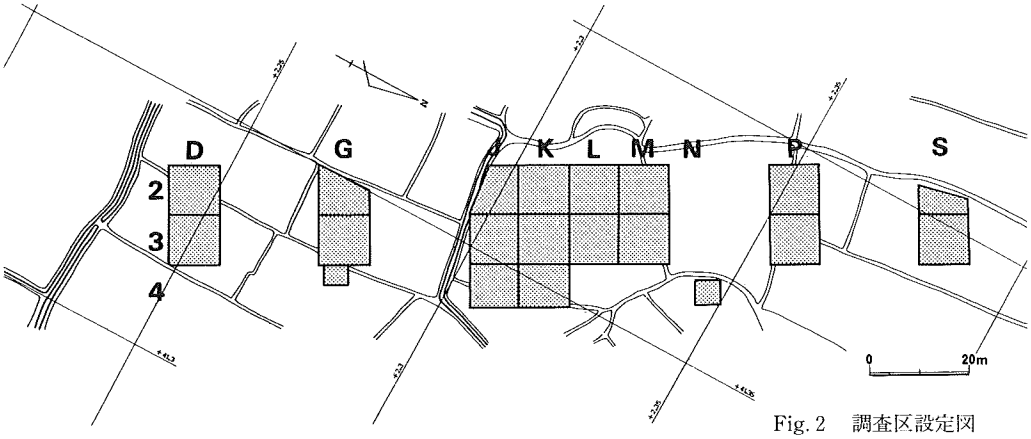



Fig. 2　調査区設定図

3．土層（Fig. 3・4，PL. 5・6）

調査区の内，ここではD区北壁，G区北壁，J区北壁，そしてJ・K・L・M区西壁を図示し，説明を加えておく。

D区北壁…調査区の内，一番南側に当たる。現状水田で，基本的に4層に分かれる。1層の表土は厚さ20cm程で，その上面は標高4.1mを計る。2層も厚さ20cm程であるが，小さく細分すると更に3つに区分できる。黄褐色で粘性のある土層で，中には中世や弥生時代の遺物を含む。3層は暗灰色土層で，シルト質に富み粘性がある。弥生中期の遺物を含む。4層は黒褐色の土層で，砂質に富む。縄文晩期の土器を少量含む。標高3．8m位辺りから湧水が激しく下部は不明である。

G区北壁…現状水田で，堆積土層は基本的にD区に似ているが，1層上面の標高は4．3mでD区に比して若干高い。遺物包含状況は，やはりD区と同じで，2層中には中世や弥生中期のものが多く，3層には若干の縄文晩期の遺物を含む。同じく湧水が激しいためこの下層は確認できなかった。

J区北壁…微高地に当たる区域で，現状水田である。D区，G区に比して1層上面で40cm程高い。全体的に東側が若干高いが，土層は単純で5層に分けられる。1層は耕地土で，20cm程の厚さを持つ。近世陶器片のほか，中世の青磁・白磁片等を含む。2層は黄色粘質土層で水抜け防止のため固く締まる。やはり20cm程の厚みを持つ。3層は黒灰色の粘質土で中に小礫を含む。15～25cm程の堆積を持つ。4層は黄褐色の粘質土層で，最上面に扁平礫の堆積を持つ。20cm程の厚さであるが，上部には，弥生土器が多く含まれ，下部には縄文晩期土器が多く含まれる。本遺跡の主要遺物包含層である。5層は黒色砂礫層である。河床堆積を思わせる砂礫層で湧水が多く，あまりしまっていない。人頭大の礫を多く含む。無遺物層である。

J・K・L・M区西壁…調査区中心部分の南北ラインに当たる。基本的な土層の堆積状況は先のJ区北壁に似ているが，M区北側の段がつく付近では土層が若干乱れる。その比高は30cm程である。（高野）

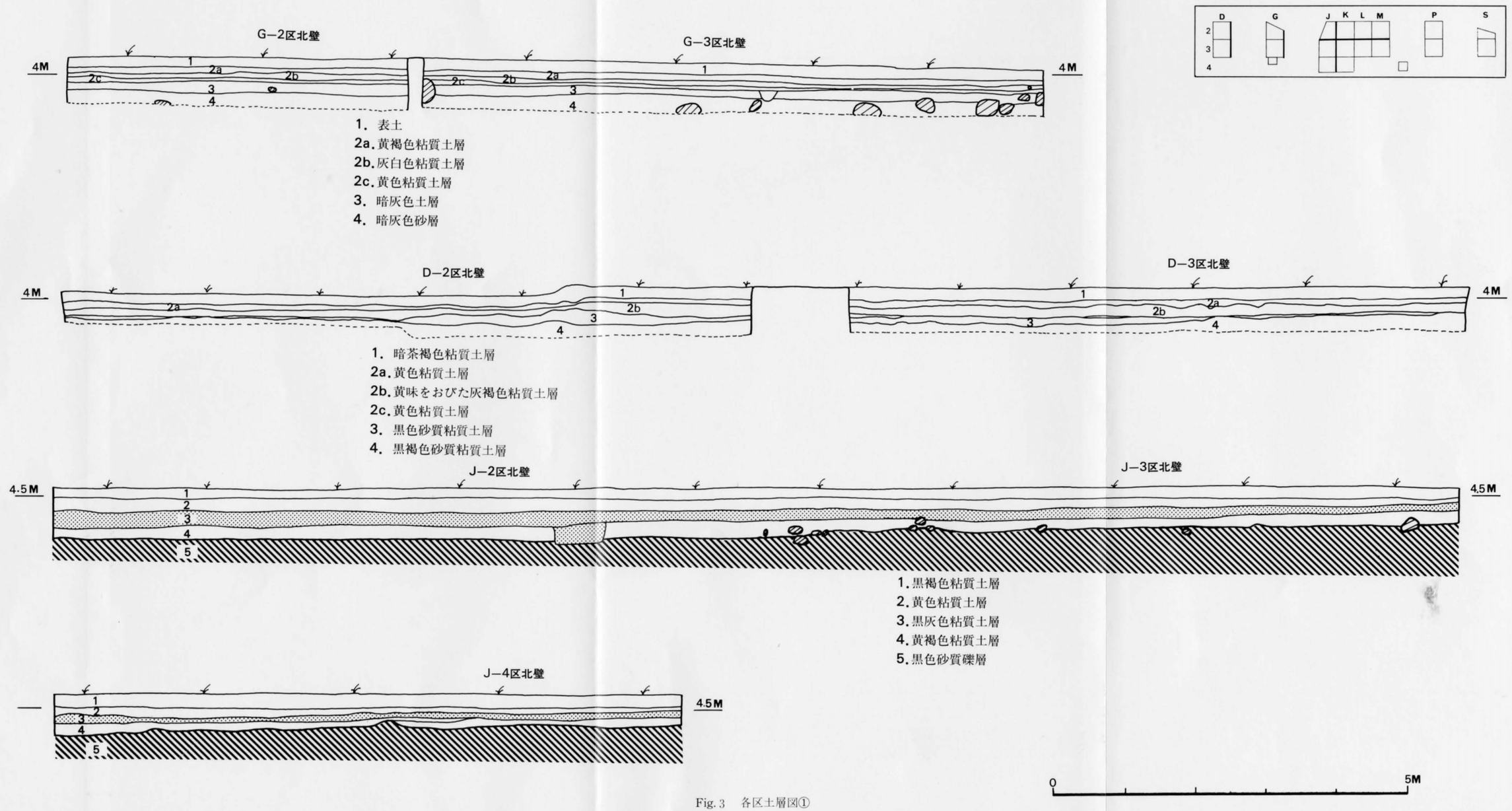
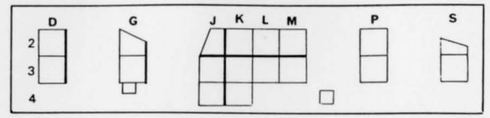
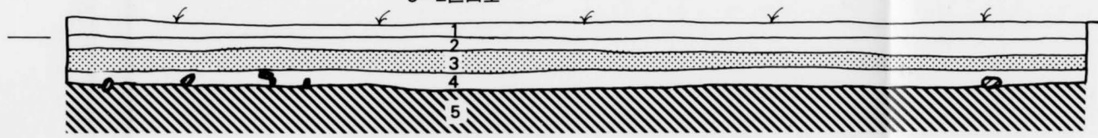

G−2区北壁
G−3区北壁
4M
1. 表土
2a. 黄褐色粘質土層
2b. 灰白色粘質土層
2c. 黄色粘質土層
3. 暗灰色土層
4. 暗灰色砂層
D−2区北壁
D−3区北壁
1. 暗茶褐色粘質土層
2a. 黄色粘質土層
2b. 黄味をおびた灰褐色粘質土層
2c. 黄色粘質土層
3. 黒色砂質粘質土層
4. 黒褐色砂質粘質土層
J−2区北壁
J−3区北壁
J−4区北壁
4.5M
1. 黒褐色粘質土層
2. 黄色粘質土層
3. 黒灰色粘質土層
4. 黄褐色粘質土層
5. 黒色砂質礫層
D
G
J
K
L
M
P
S
0
5M

Fig. 3　各区土層図①

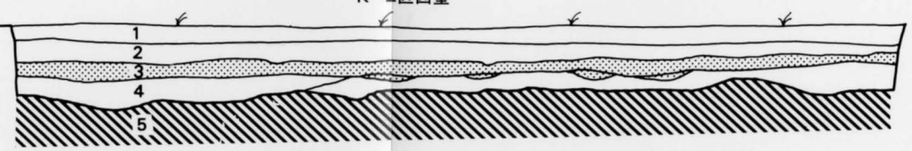



J—2区西壁

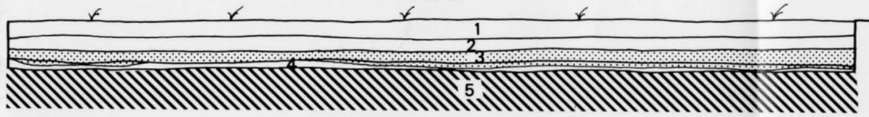



1. 黒褐色粘質土層
2. 黄色粘質土層
3. 黒灰色粘質土層
4. 黄褐色粘質土層
5. 黒色砂質礫層

K—2区西壁




L—2区西壁




1. 黒褐色粘質土層
2. 黄色粘質土層
3. 黒灰色粘質土層
4. 黄褐色粘質土層
5. 黒色砂質礫層

M—2区西壁

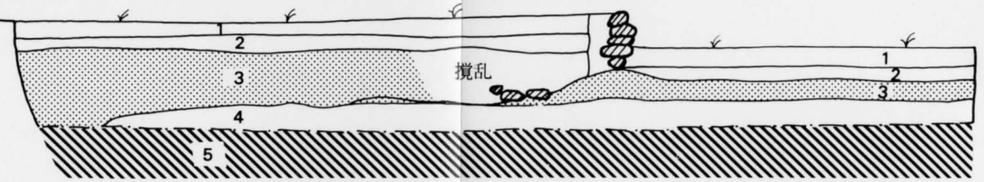



Fig. 4　各区土層図②

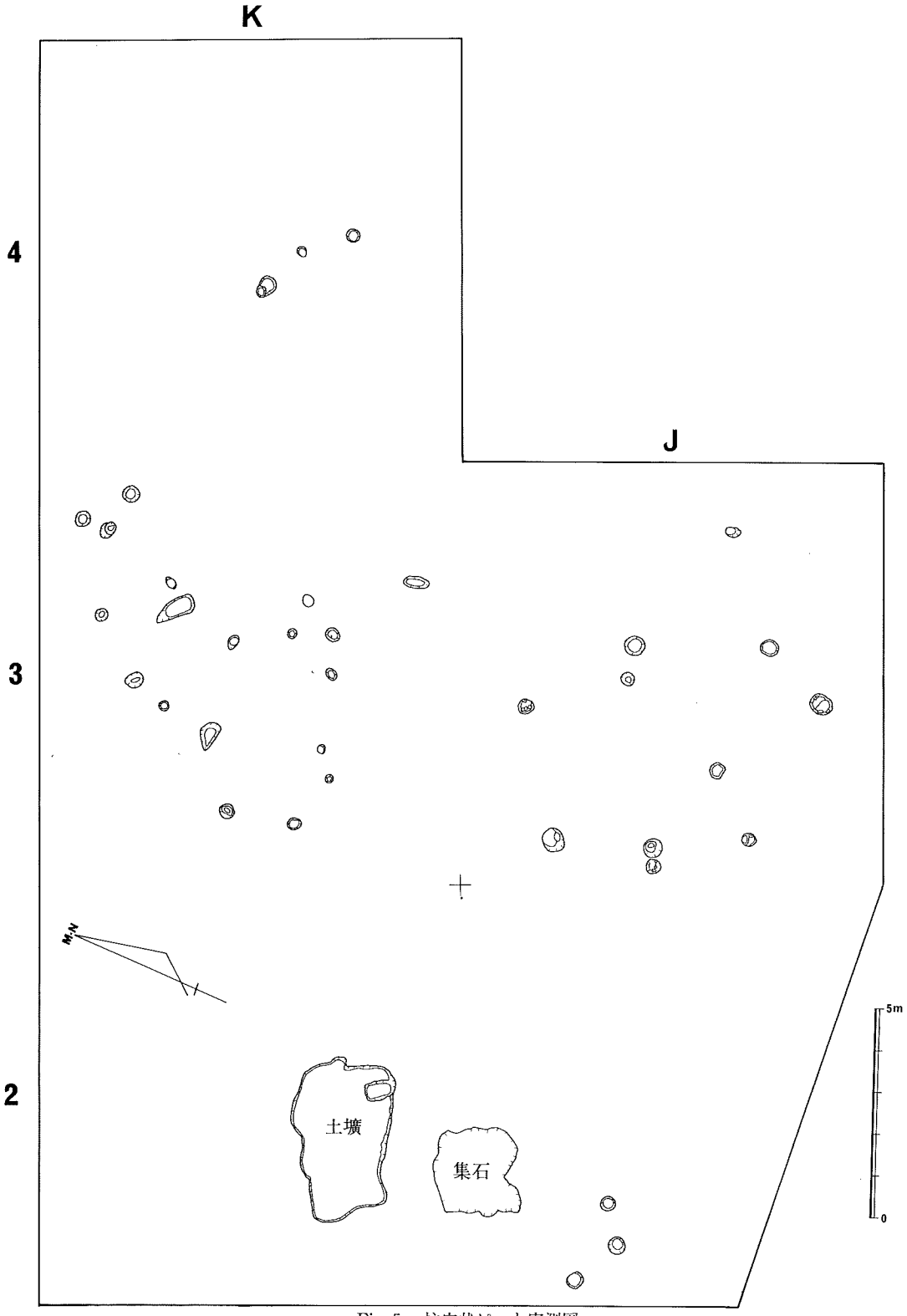



Fig. 5　柱穴状ピット実測図

# II　遺構

遺構として確認できるのは，不規則な柱穴状ピットと不定形土壙，そして集石土壙等である。以上の3遺構について説明を加えておく。

柱穴状ピット（Fig. 5）…柱穴状ピットは36個確認された。何れも4層上面から掘り込まれ，J・K区の東西30m，南北20mの範囲にまたがる。大きさは20～50cm，深さは15～30cmまで様々であるが，全体的にまとまりがなく，住居跡としての確証に乏しい。

不定形土壙（Fig. 6）…K－2区4層で確認された。略，東西4m，南北2.5m，を計り，いびつな長方形の形を取る。深さは，僅かに10cm程で，土壙内東側には厚さ5cmの焼土が堆積する。遺物は，土器，石器が余すところ無く充塡しているといった感じであり，遺物の時期も弥生中期と縄文晩期の土器が混在している。土壙の周囲にはところどころには炭が見られる。

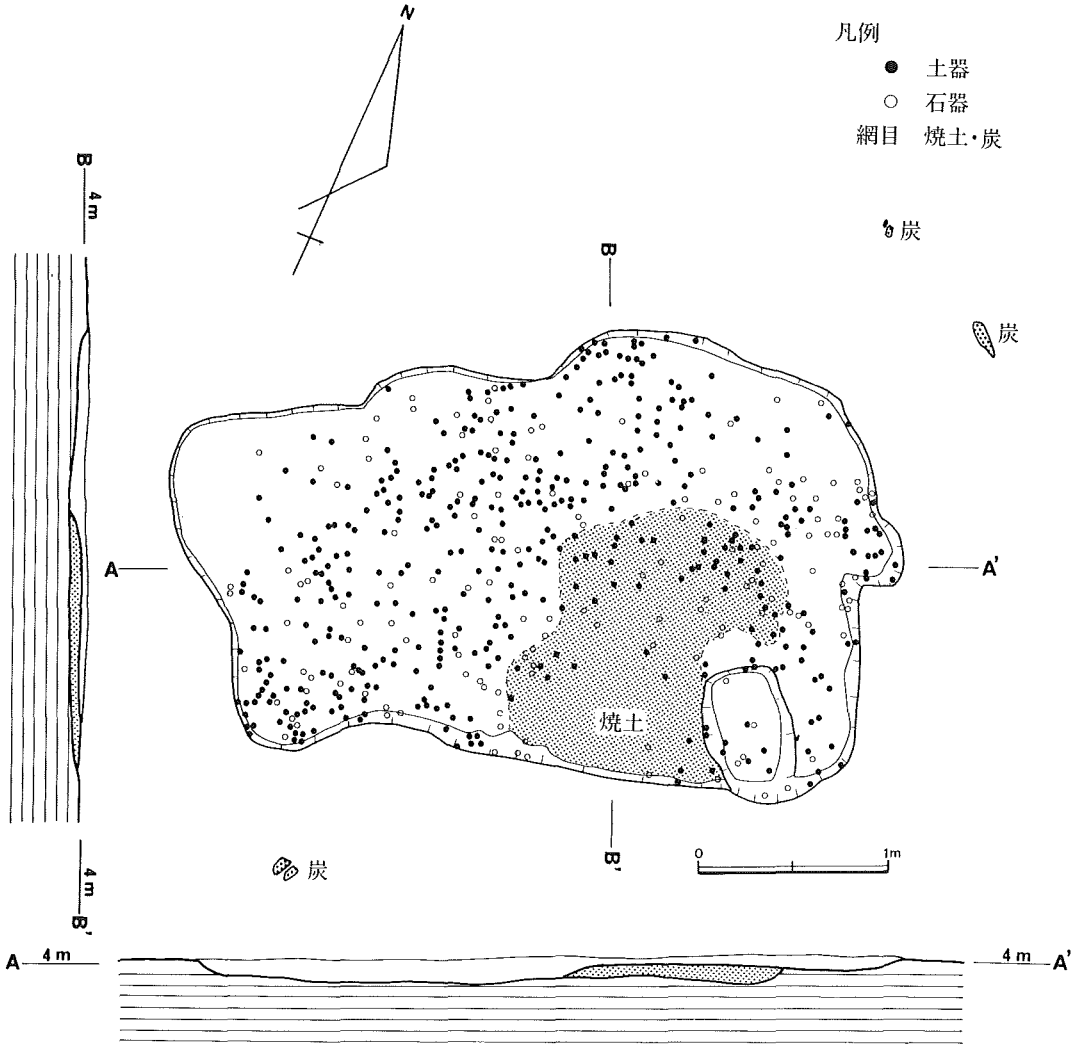



Fig. 6　不定形土壙実測図（K-2　4層）

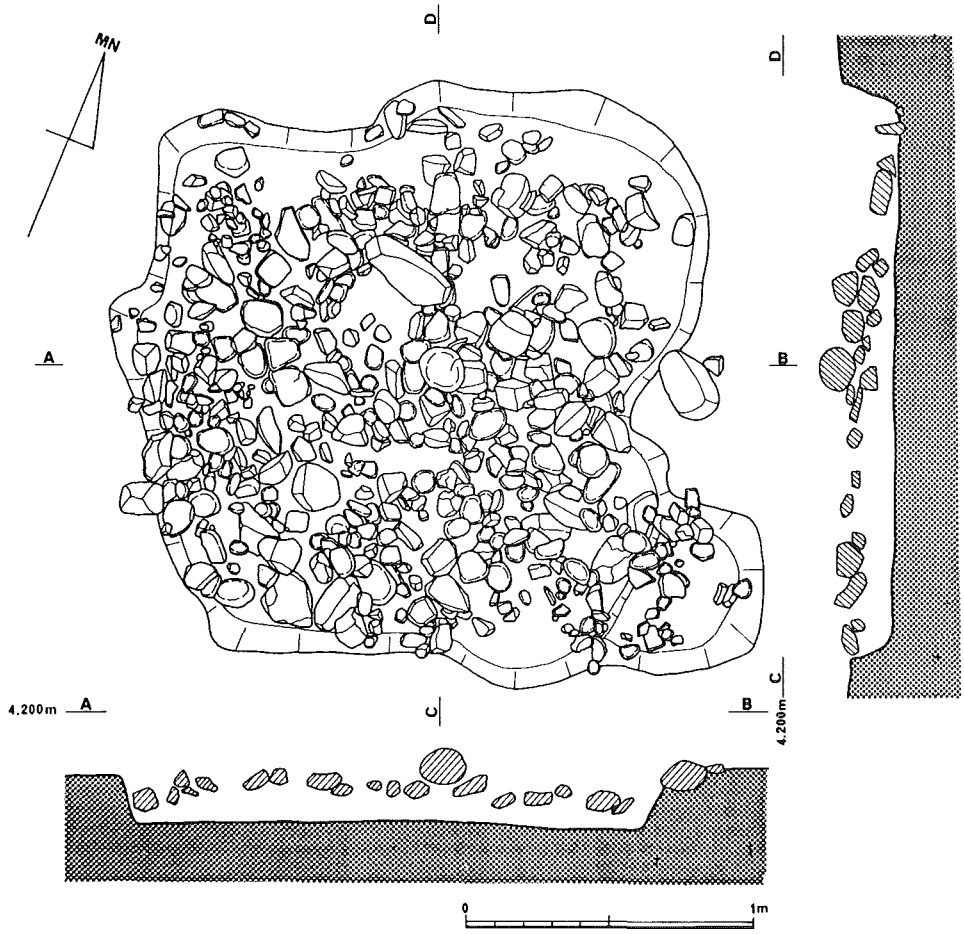



Fig. 7　J・K－2区・4層面　集石土壙実測図

以上のように，火を炊いた痕跡は認められるが，明確な炉跡等の遺構として断定することは難しい。小さな構造物の焼跡の可能性も考えられる。

集石土壙（Fig. 7）…J・K区－2層にまたがる遺構である。4層上面より掘り込まれ，一辺2m程の不定型な四辺形を成す。深さは20cm程で，その中には最下面より少し浮いた状態で大小の礫が充塡する。遺物は，その礫の間に認められるが，弥生土器と縄文土器が混在する。

土壙そのものは人為的な所産と思われ，構築時期も縄文時代と推定されるが，本来の性格は不明である。（高野）

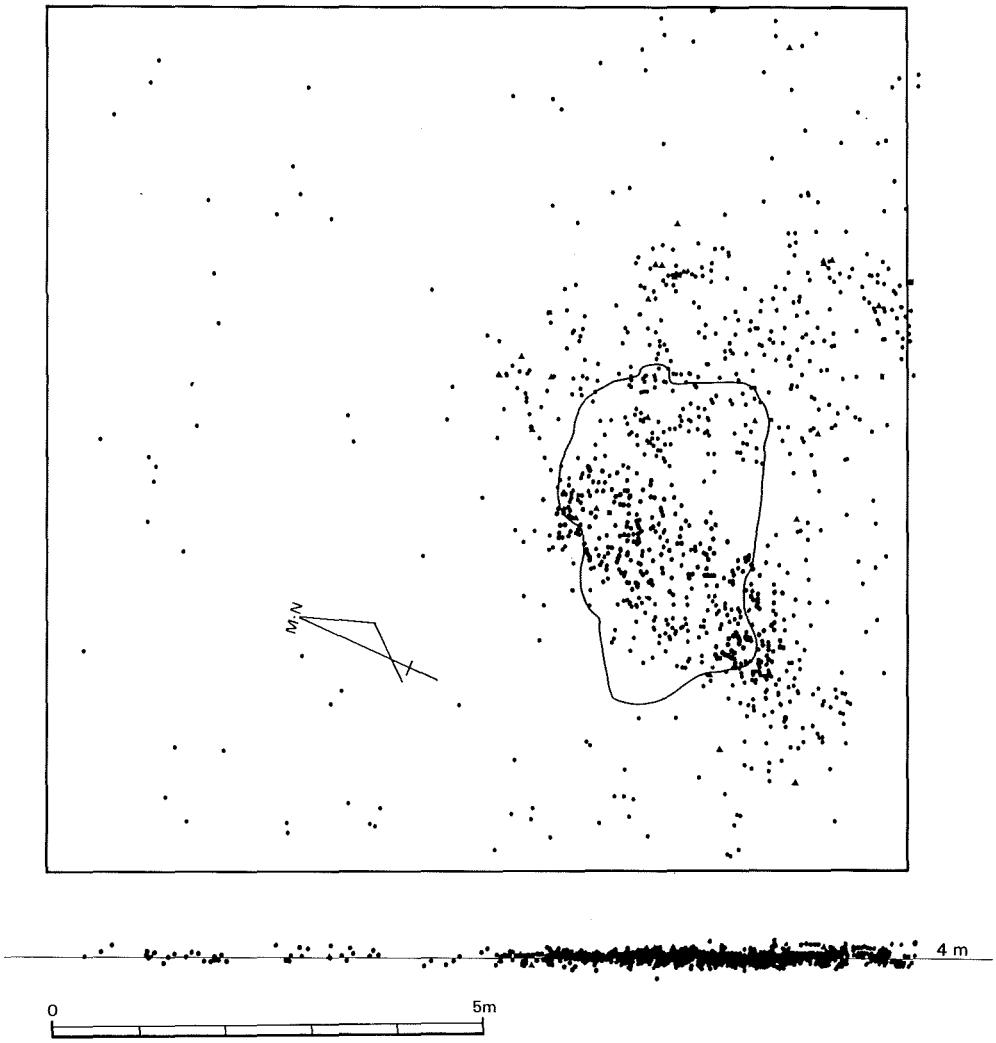



Fig. 8　K-2区・4層面　土器ドットマップ

Fig. 9　K-2区・4層面　石器ドットマップ

# III　出土遺物

## 1．土器

出土土器としては，縄文土器，弥生土器，須恵器，土師器，瓦器，輸入陶磁器，近世陶磁器などがある。順を追って説明を加えておきたい。

**①縄文土器**（Fig.10～16　PL.10～15）

縄文土器は，前期，中期，後期，晩期の資料が見られるが，主体は晩期である。Fig.10－**1**，**2**は深鉢の底辺部である。器壁薄く，黒褐色を呈し，胎土に滑石を含む。斜位の沈線を施すが，浅く痕跡的である。曽畑式土器でも末期的なものであろう。**3**は深鉢口辺部である。明茶褐色で胎土に滑石を含む。細片であるが，中期阿高式土器の特長である大きな刺突文を施す。**4**は深鉢口縁部である。薄手で胎土に滑石を含む。暗褐色で焼成は良好である。**5**～**7**は深鉢胴部である。明茶褐色で胎土に滑石を含む。焼成は良好でタテ方向にヘラによる調整痕が認められる。**6**も**5**と同じような特長を持つ。**7**は暗褐色で胎土に滑石を含む。器壁外面には斜め方向に条痕を施し，内面はヘラでよく研磨する。**8**，**9**は深鉢底辺部である。共に外面に荒い条痕を施す。**4**～**9**は後期の資料と思われる。以上の資料はM区，G区を中心として出土する。

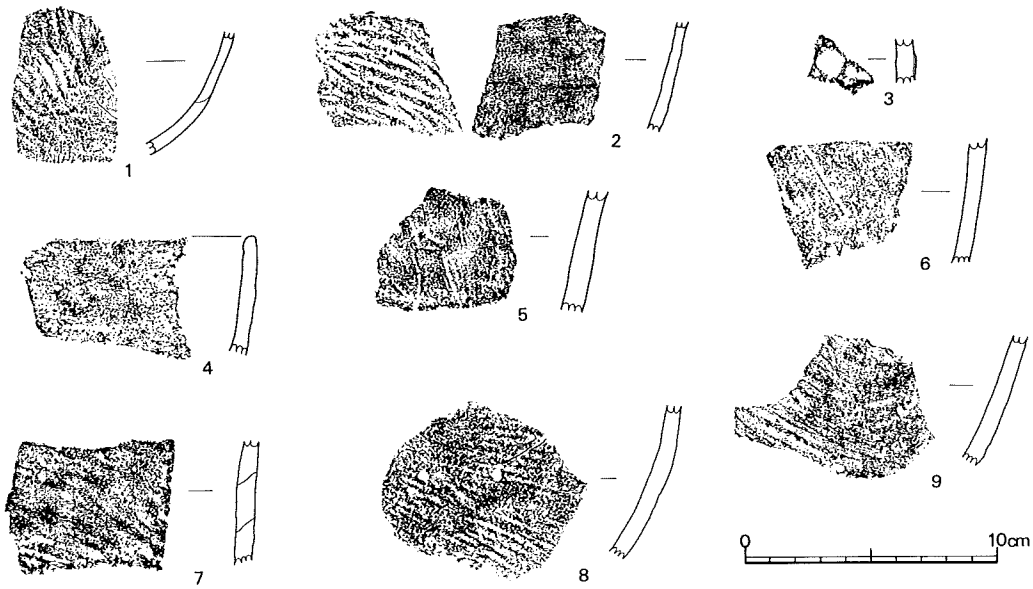



Fig.10　縄文土器実測図　①

以下は晩期の資料である。これらの資料は，粗製の深鉢，それと精製の浅鉢から成る。この内，粗製深鉢は，リボン状突起を持つもの，無文のもの，条痕を持つもの，そして突帯文を持つ土器などがある。

Fig.11－1，2はリボン状突起をもつ資料である。1は，茶褐色で胎土に雲母を含む。薄い器壁のわりにはぶ厚い突起を持つ。2は，黒褐色を呈し，胎土に砂粒と雲母を含む。突起は器壁と同じく薄く小さい。外面にナデが見られる。

3～6は無文の深鉢口縁部である。器形はほぼ直立した形状を成す。3・暗褐色で胎土に雲

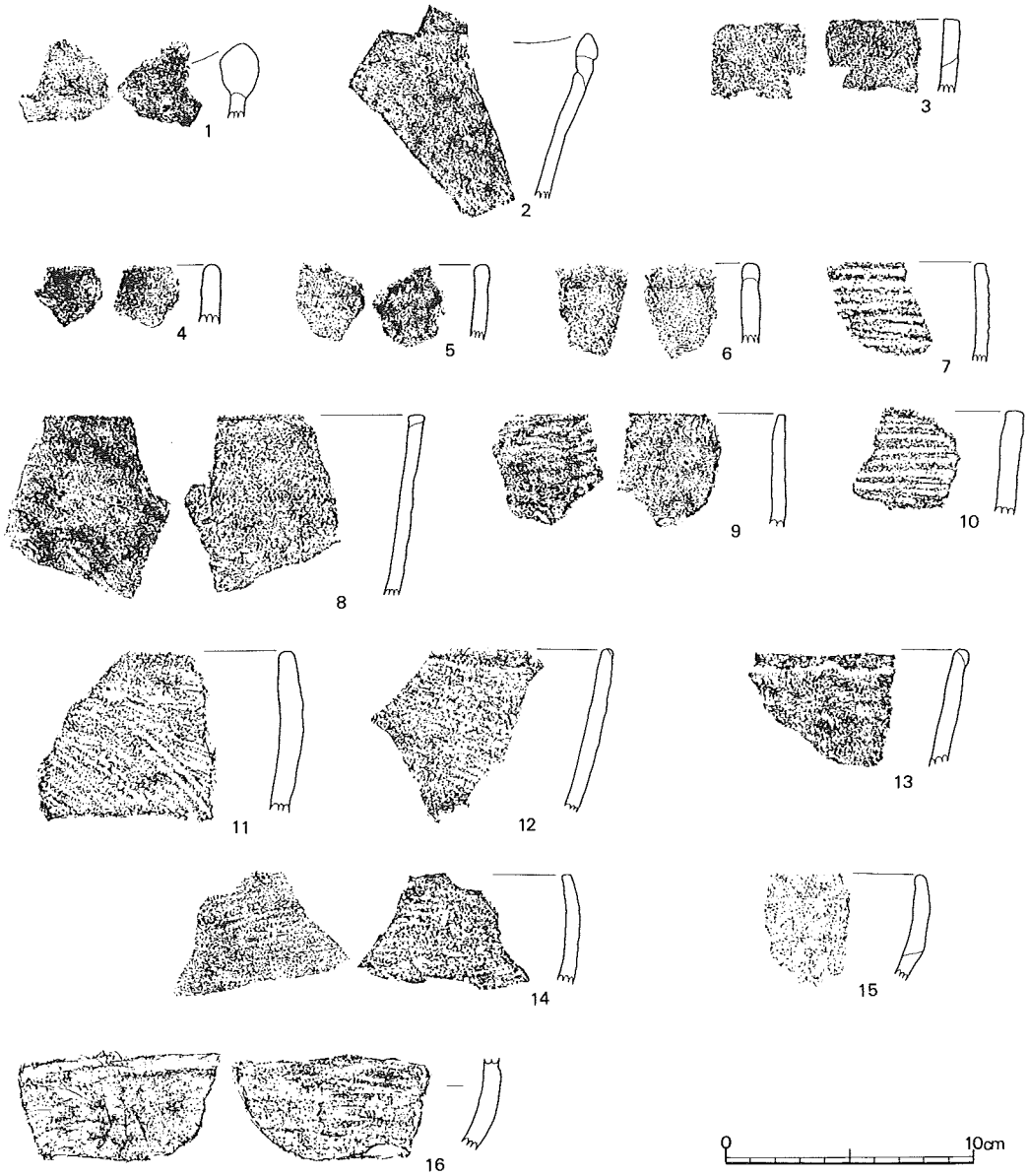



Fig.11　縄文土器実測図　②

母を含む。口唇は平坦である。焼成は良好である。4～6も3と同じような特長を持つが，5，6は口唇部がやや肥厚する。共に胎土に雲母を含み，焼成は良い。7～10もほぼ直立した器形であるが，条痕を持つ。7・黄褐色で胎土に雲母を含む。焼成は良く，外面には平行する条痕を持つ。8・薄手の口縁部で口唇は平坦である。明褐色で，胎土に雲母を含む。焼成は良好で堅緻である。外面は指頭による調整によって凹凸が見られ，その上に斜め方向の浅い条痕を施す。9も薄手の深鉢口縁部である。黄灰色を呈し，胎土には砂粒が多くザラザラしている。外面に浅い条痕を持つ。口唇は細く平坦である。10は，やはり黄灰色で胎土に少量の雲母を含む。外面は貝殻条痕，内面は，ヘラによる研磨を行なう。11～16は，鉢形土器と思われる。

11・口縁部から胴部にかけてゆるやかに湾曲する。黄褐色を呈し，胎土に砂粒，石英粒を含む。内面には指頭による指圧を行ない，外面は斜め方向に条痕を施す。口唇は丸くおさめられる。12～13は口唇部がやや肥厚する。12・外面に浅い条痕が認められ，13は指頭による押圧調整の後，浅い条痕がつけられる。焼成は良好である。15は黒灰色をなす。口唇は丸く，口縁下

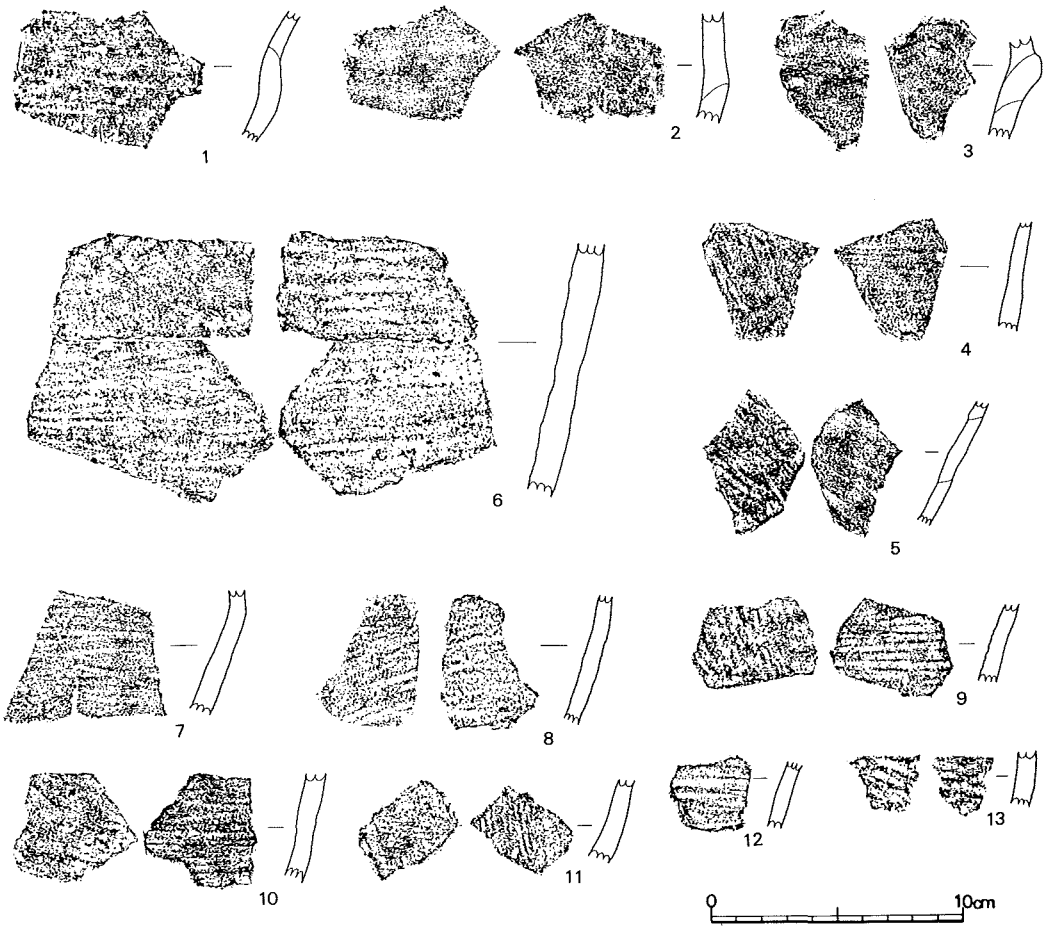



Fig.12　縄文土器実測図　③

3cmのところで内側に屈曲する。**16**・明黄褐色を呈し，胎土に少量の雲母を含む。ゆるやかに湾曲する胴部片で，器壁内外に薄い条痕を持つ。以上の資料は**3**を除き，全てJ区，K区4層面からの出土である。

Fig.12－**1**～**3**は深鉢の肩屈曲部に当たる。何れも無文で内外面ともヘラナデ調整を行なう。**2**，**3**の胎土には，砂粒と雲母を含み，ザラザラしている。焼成は何れも良好である。**4**・深鉢胴部である。暗茶褐色を呈し，胎土に多量の砂粒を含む。外面はヘラナデ，内面は，横位の条痕調整を行なう。**5**も胴部片である。茶褐色で胎土に少量の雲母を含む。薄手で焼成は良好。**6**・厚手の深鉢胴部片である。暗褐色で胎土に石英粒を含む。外面は条痕の上をヘラナデ，内面は横位の荒い条痕を施す。**7**・黄褐色で外面は条痕，内面はナデ。胎土に少量の雲母を含み，焼成は良好である。**8**は**7**と同様の特長を持つが，調整は内外面とも条痕で行なう。**9**は茶褐色で焼成良好，胎土に雲母を含む。調整は外面ナデ，内面条痕である。**10**～**13**とも上記の土器と同様の特長を持つが**11**，**13**は焼成が甘い。以上の土器も**3**を除き，何れもJ区，K区4層面からの出土である。

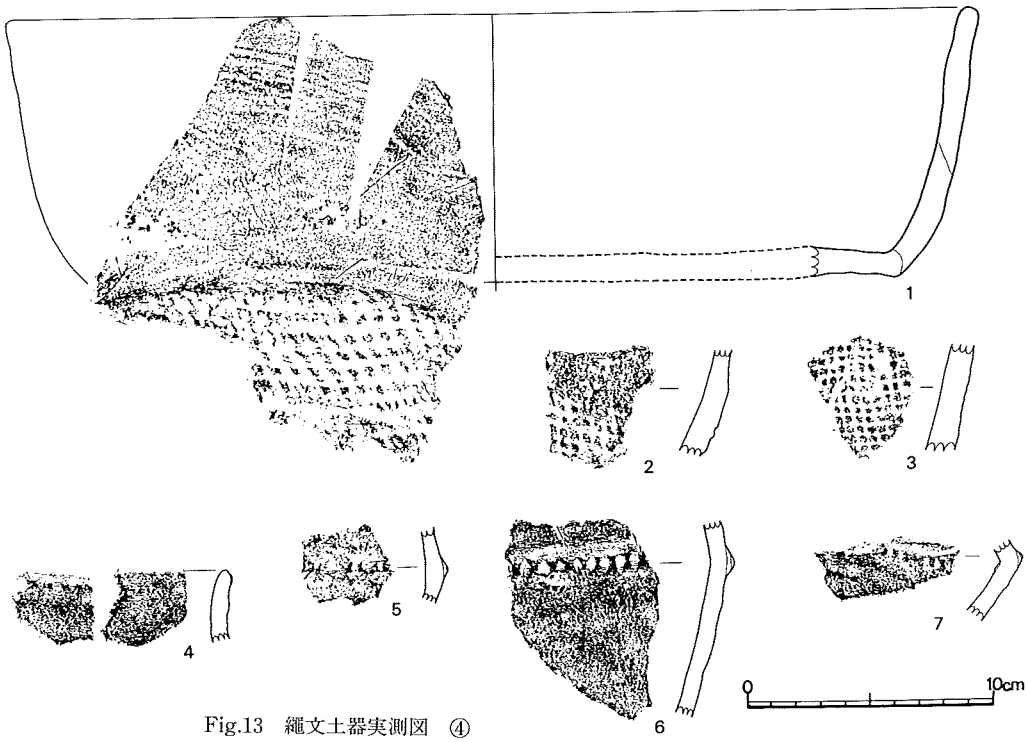



Fig.13　縄文土器実測図　④

Fig.13－1～3は組織文土器である。1・復元長38cm，深さ10.5cmの大型の椀形鉢である。暗茶褐色を呈し，雲母，砂粒を含みザラザラしている。口唇部は丸く，口縁下やや湾曲しながら底部に至る。調整は内外面とも条痕を施し，後ナデを行なう。平底の底部には編目の圧痕を持つ。焼成は良好である。2も組織文土器の底辺部である。やはり，編目痕が残る。3・平底の部分であろう。目の小さい編目を施す。胎土には少量の雲母を含み，焼成は良好である。4～7は突帯文土器である。4・口縁部である。口唇直下に小さく薄い突帯を張り付け，そのうえに浅い刻目を施す。茶褐色で器壁はザラザラしている。5～7は屈曲部に当たる。何れも余り大きくない突帯を巡らし，その上に刻目を施す。6・精選された胎土を用い，指頭による調整の後ナデを行なう。焼成も良好である。これらの資料は何れも晩期後半の資料と思われるが，4は突帯文でも痕跡的なものであり，終末期のものであろう。以上の土器は5，6がG－2区3層，他はJ区K区4層からの出土である。

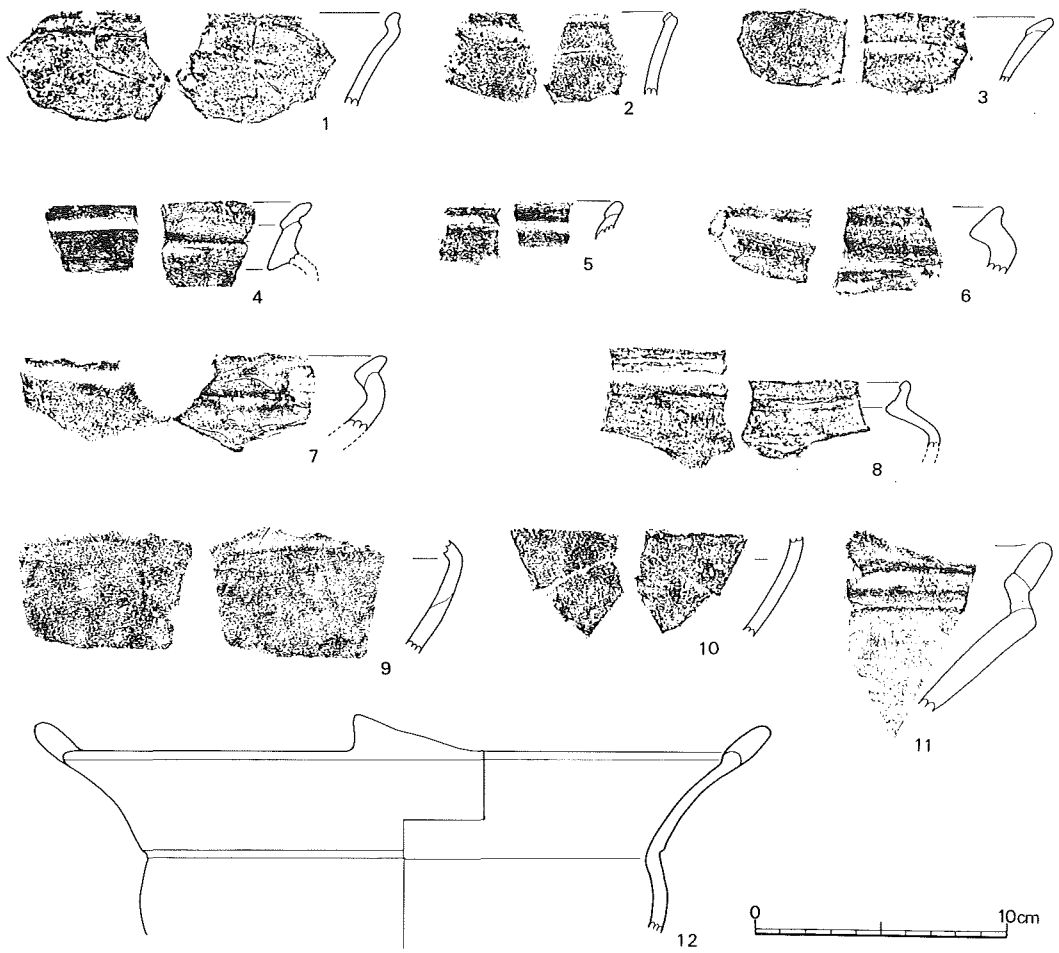



Fig.14　縄文土器実測図　⑤

Fig.14は，精製の浅鉢である。1～3は「く」の字形に屈折する口辺部の上に細い粘土を貼りつけて口縁部に変化を持たせたタイプのもので，頸部は長く，やや外反する。何れも薄手で，内外を良く研磨する。4～8は頸部が短く，肩部の湾曲がすぐ始まるタイプである。4・口辺にやや幅広の粘土を付けたもので，接合痕が良く分かる。6，7はぶ厚く，口唇部からいきなり肩部の屈曲が始まる。6は黄灰色，7は黄褐色を呈し，胎土は何れも精選されており，内外とも良く研磨されている。8は口縁内部も「く」の字形に屈曲する。外部は，短い頸部から胴部にかけて大きく球形にはみだすものと思われる。胎土には雲母を含み，焼成は良好である。内外共にヘラによるナデが明瞭である。9，10は浅鉢の胴部である。9・黄褐色，10・灰色を呈し，共に内外面とも良く研磨されている。11，12はリボン状突起を持つ浅鉢である。11・灰色で胎土に雲母を含む。口辺部で逆「く」の字形に鋭く屈曲する。内外面ともよく研磨するが，リボン状突起との接合部に若干の透き間がある。12・復元口径が28cmを計る。淡黄灰色を呈し，胎土に若干の石英粒を含む。焼成は甘い，研磨も不十分である。10を除き，他はJ区，K区4層面出土。

以上の資料は，所謂礫石原式土器の範疇に含まれるもので，晩期中頃から後半の時期に比定されよう。

Fig.15，16は底部の資料である。1～3は何れも明茶褐色を呈し，胎土に多量の滑石を含む。1・復元径9.4cmで平底，底部からやや外反しながら立ち上がる。焼成は良好である。2は，復元形19cm大型の深鉢である。ほぼ直線的に立ち上がる。底縁部に指頭による指圧調整痕が明瞭である。3・底部直上で「く」の字形にゆるやかにくびれる。5・底部両端がやや上がり気味で安定感に欠ける。暗黄褐色で胎土に雲母を含む。以上の資料は中期から後期に属するものであろう。

6～23は晩期の資料である。何れも円盤状の形状を為し，胴部との接合部で「く」の字形に屈曲する。色調は，黄褐色や暗褐色が殆どで，稀に黄灰色のものが見られる。焼成は14を除くと良好である。胎土には，砂粒，雲母，長石を含むものが大部分であるが，12，14はザラザラしている。調整はナデ仕上げをしているのが殆どであるが，6，11，13に底部に条痕調整痕が残っているほか，21には内部に条痕，底部にはヘラナデ痕が見られる。

底径は，7～8.5cmのものが10個，8.5～10cmのものが6個，10cm以上のものが2個で，8.5cm内外のものが中心である。底部器壁の厚さでは，1cm以下8個，1～2cm7個，2cm以上2個で，中心は0.8cm，1.3cm前後のものである。

24～25は上げ底状を呈する。24・茶褐色で胎土に雲母と多量の砂粒を含みザラザラしている。中央部の凹みは，胴部との接合の際の指頭による指圧痕であろう。26～32・上げ底の底部である。28，31，32は暗黄褐色，他は茶褐色を呈している。胎土には砂粒が多く含まれておりザラザラしている。24以降のこれらの土器は，何れも底径が小さく，31を除いて8cm以下に納まる。

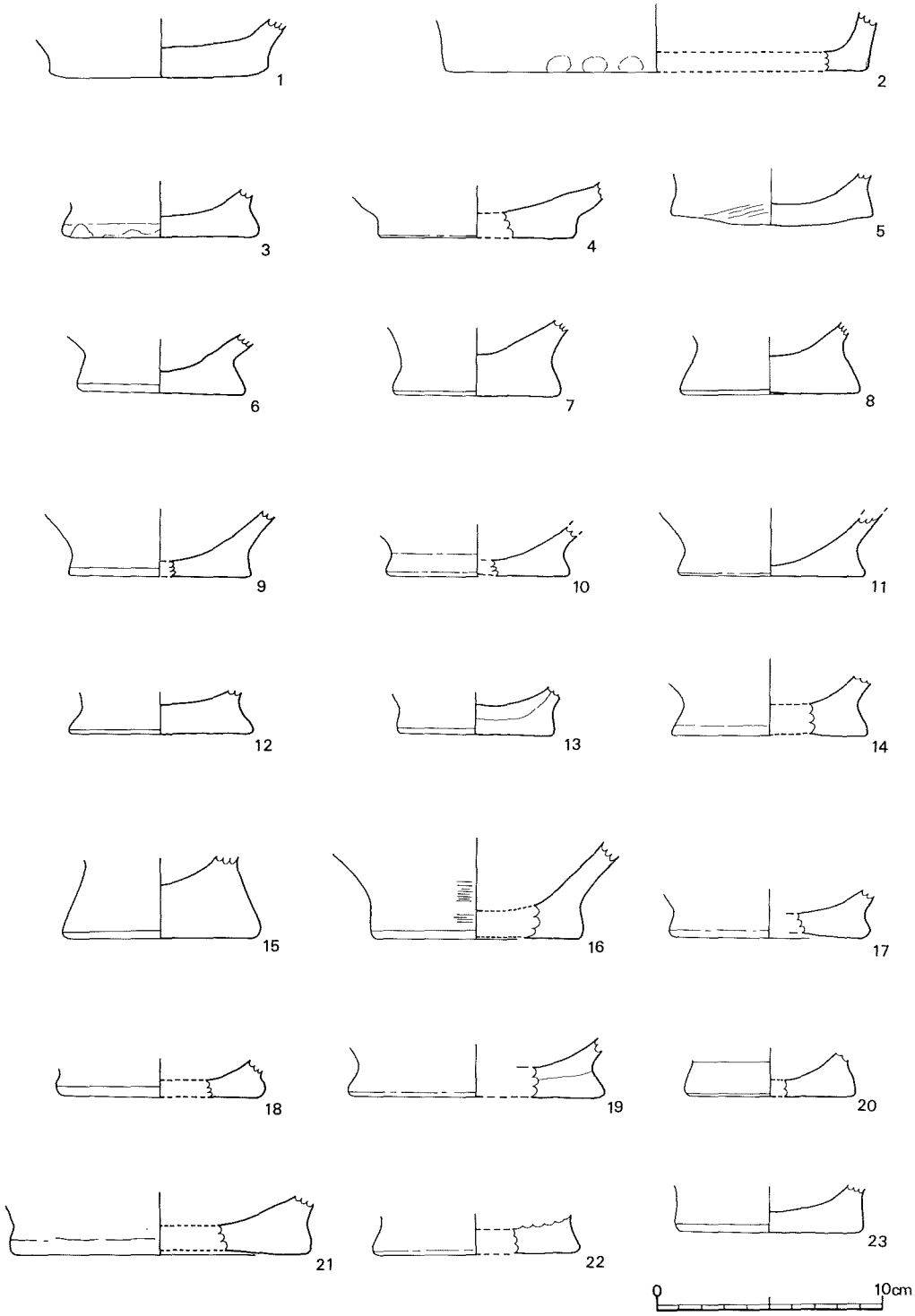



Fig.15　縄文土器実測図　⑥

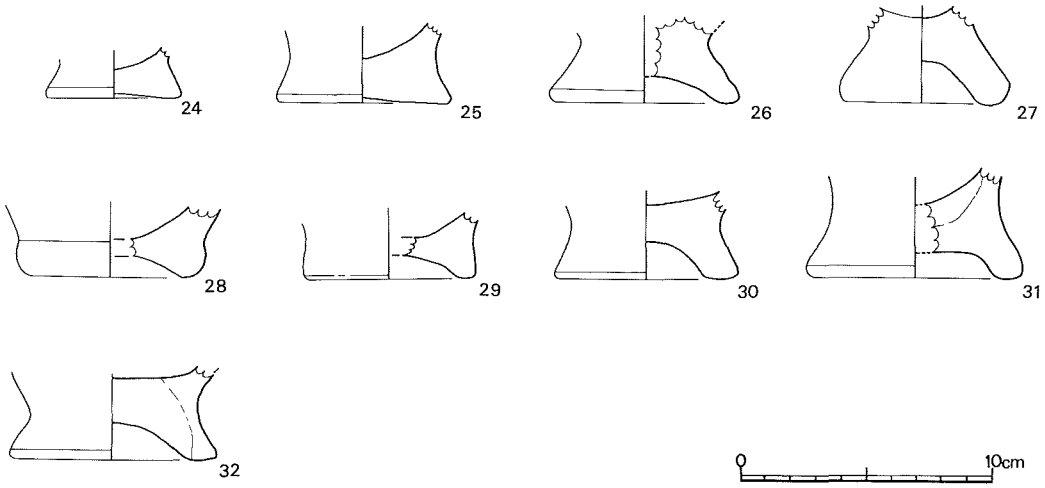



Fig.16　縄文土器実測図　⑦

以上の土器はS，P，M区にも散見されるが，中心はJ，K区であり，G区がこれに次ぐ。

**②弥生土器**（Fig.17～30，PL.16～22）

弥生土器としては，甕，壺，高杯があるが，数量的には甕が圧倒的に多く，他は微量である。以下，器種別に説明を加えたい。

Fig.17は刻目を持つ甕のタイプである。**1**・肥厚した逆「L」字状の口縁部と口縁下につまみあげによる小さい突帯をもち，その上に浅い刻目を施す。淡灰褐色を呈し，胎土に石英粒，雲母を含む。焼成は良好である。**2**も**1**と基本的に同様の特長を持つが，口縁下の突帯は粘度紐貼付けである。口唇部先端を一部欠如しているため，刻目の有無が不明。外面淡灰黒色，内面黄褐色で，焼成は甘い。**1**・**2**は，所謂亀ノ甲タイプの甕である。

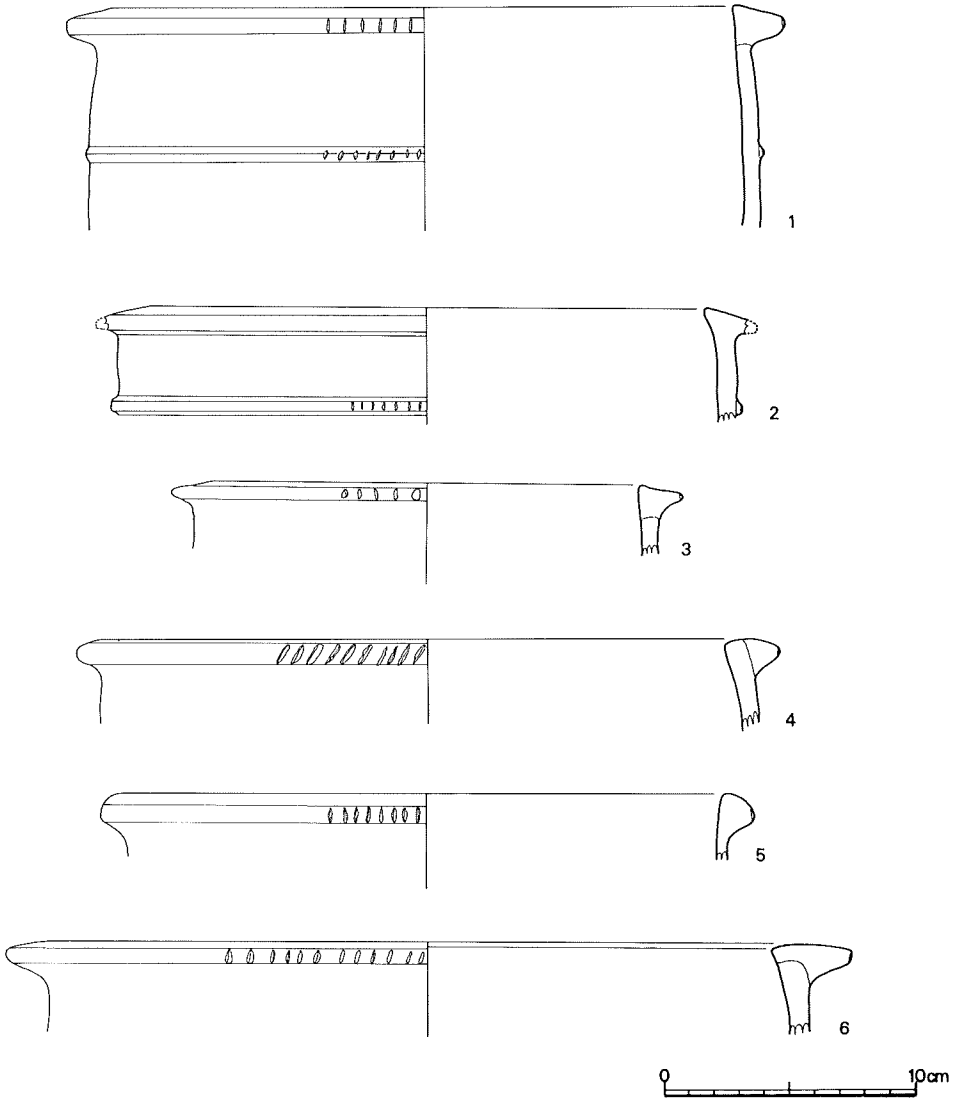



Fig.17　弥生土器実測図　①

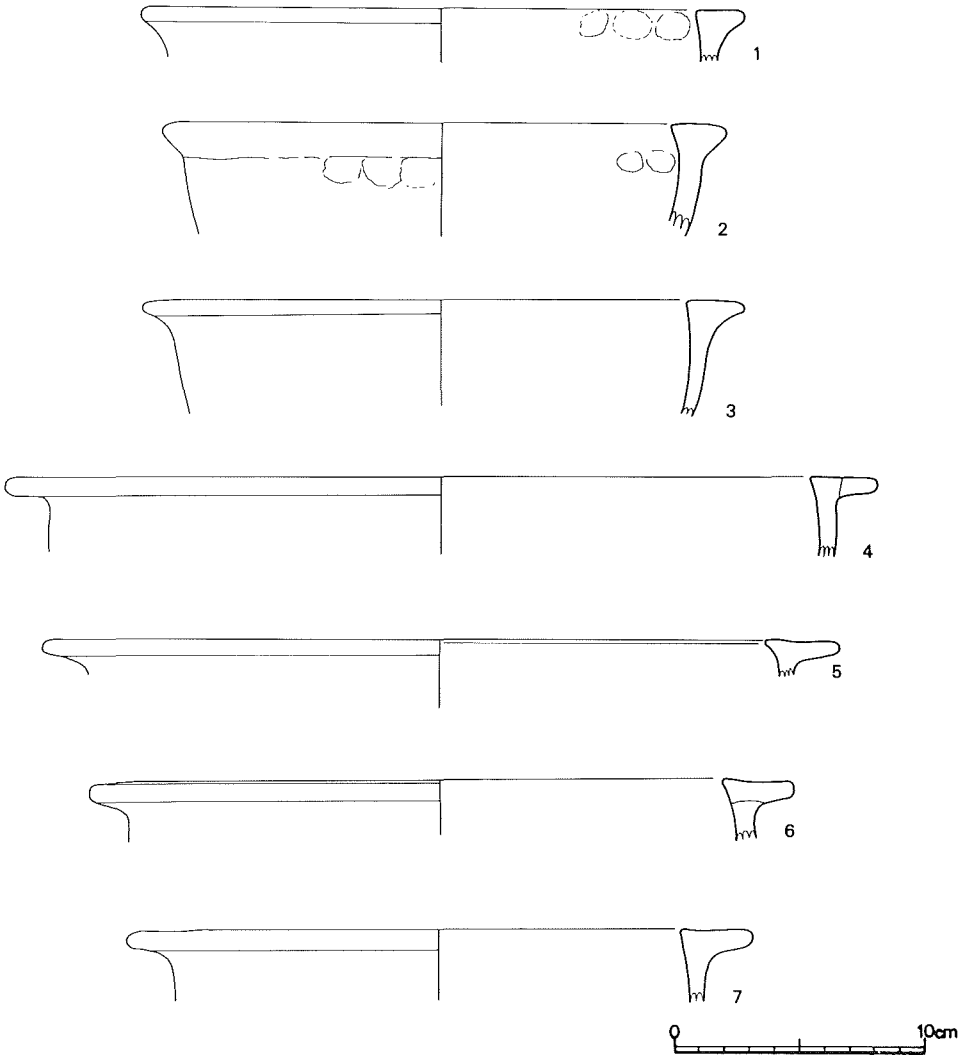



Fig.18　弥生土器実測図　②

3・逆「L」字状になる口縁部を有するタイプのもので，上面がやや凹み，口唇部外端に浅い刻目を施す。外面黄灰色，内面白灰色で焼成は甘い。4・口縁部が肥厚し断面三角形で，外端にはっきりした刻目を施す。口縁の接合部には，ヨコ方向にハケ目調整を行なう。5・断面かまぼこ状の口縁で，先端に浅い刻目を施す。暗灰褐色で胎土に多量の石英粒を含む。器壁は薄く，焼成は良好である。6・逆「L」字状の平坦な口縁を持ち，外端部に浅い刻目をつける。明赤褐色で胎土に石英粒，雲母を含む。ナデによる調整を行ない，焼成は良好である。以上の資料はD－2区，G－2区3層よりの出土である。

Fig.18　1，2，3は口縁が三角形をなし，外側への張り出しが弱い甕型土器である。1・外面

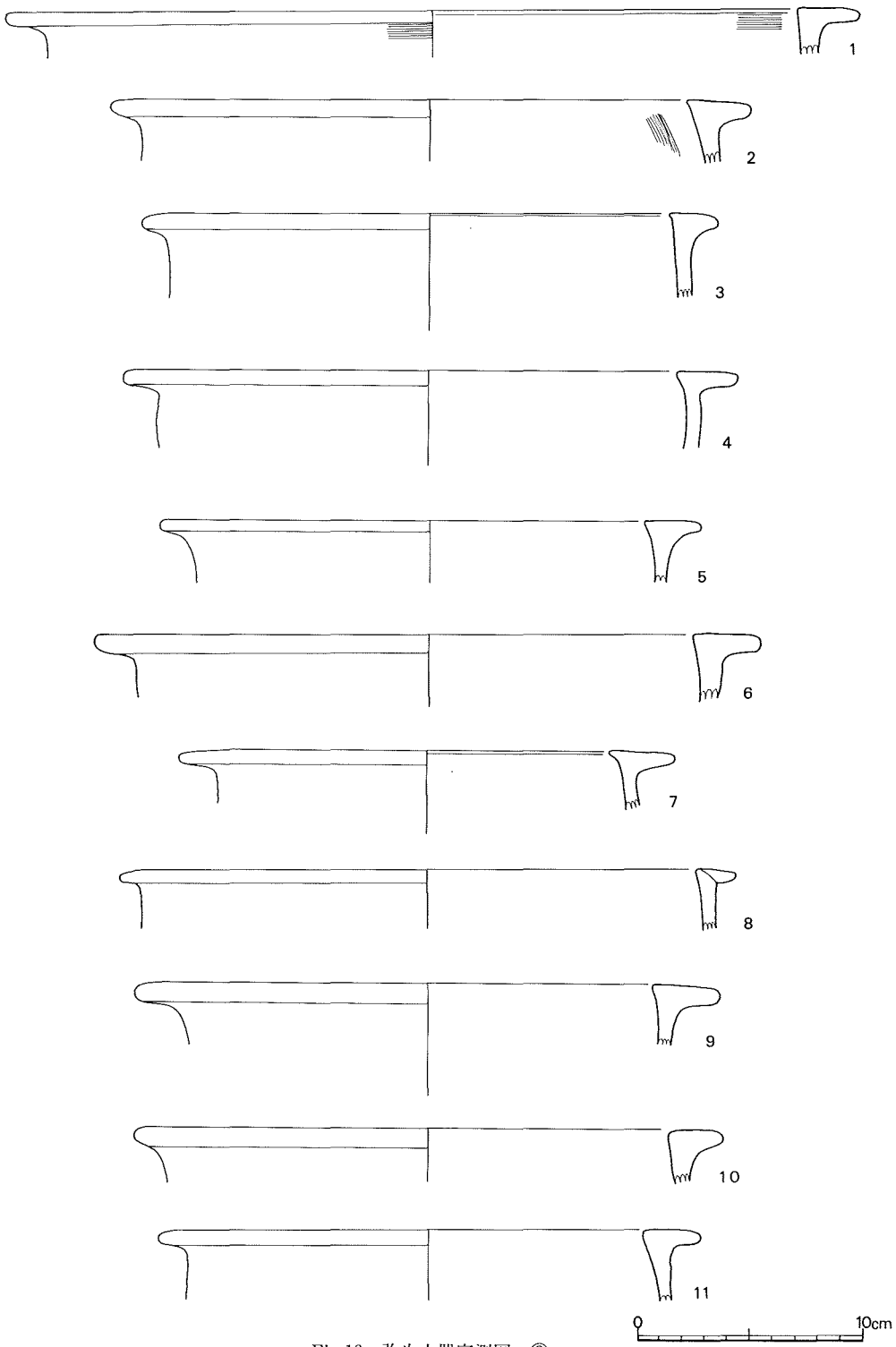



Fig.19　弥生土器実測図　③

暗灰色，内面黄灰色をなす。口縁内側に指頭押圧痕が残る。**2**・黄灰色を成し，胎土に角閃石を含む。器壁内外面に指頭押圧痕が残り，その上にナデ調整を施す。**3**・明茶褐色で胎土に大粒の石英粒を含む。焼成は良好で，口縁下ナデ調整を行なう。

**4**～**7**は逆「L」字口縁をなすが，上面中央部がやや凹む例である。**4**・暗褐色で胎土に角閃石を含む。口縁内側への張り出しがある。ナデ調整。**5**・暗褐色で石英粒を多く含む。器壁は薄く，焼成は良好である。口縁内側への張り出しは強い。**6**・茶褐色で胎土に金雲母を含む。口縁下は，ハケ目調整の後横ナデを行なう。以上の土器は弥生中期前葉に属する。大部分はD－2，3，G－2区3層中からの出土である。

Fig.19は，何れも口縁が逆「L」字状で上面が平坦になる資料である。復元口形は**1**を除

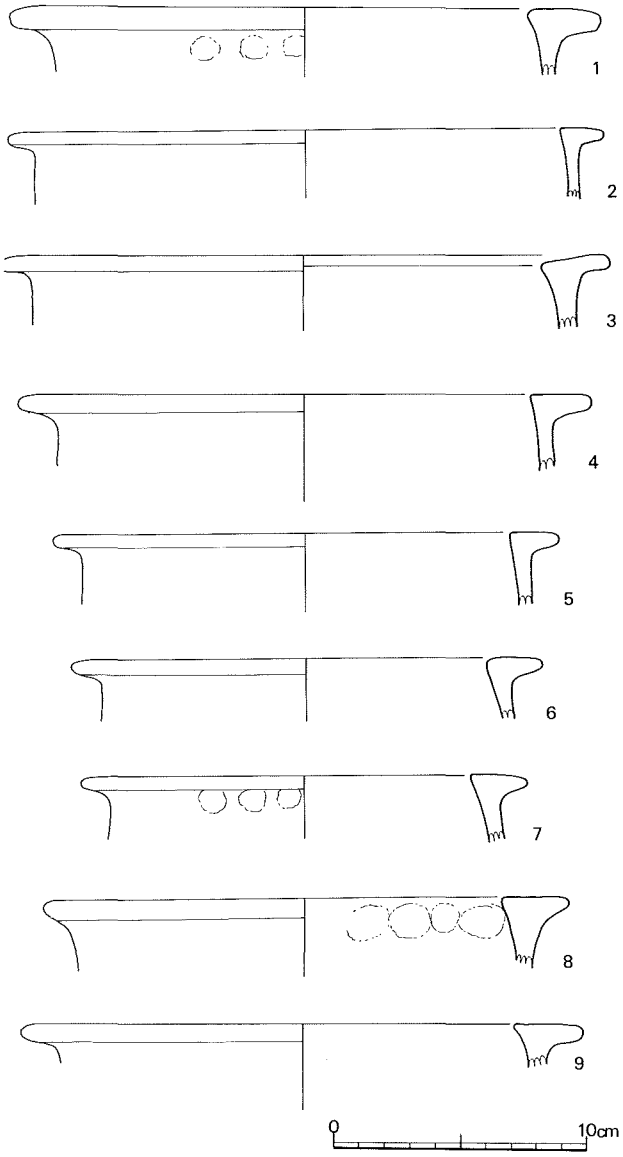



Fig.20　弥生土器実測図　④

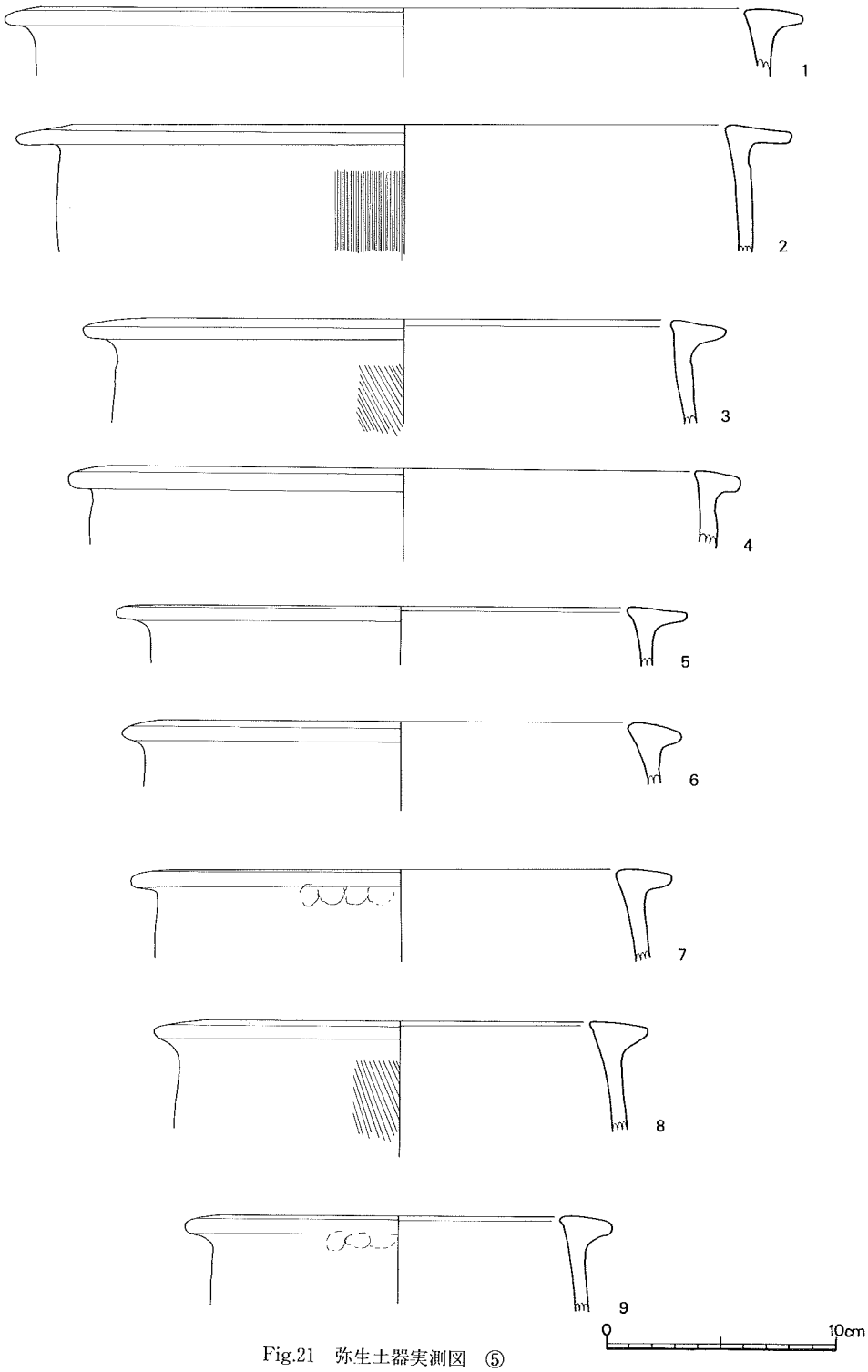



Fig.21　弥生土器実測図　⑤

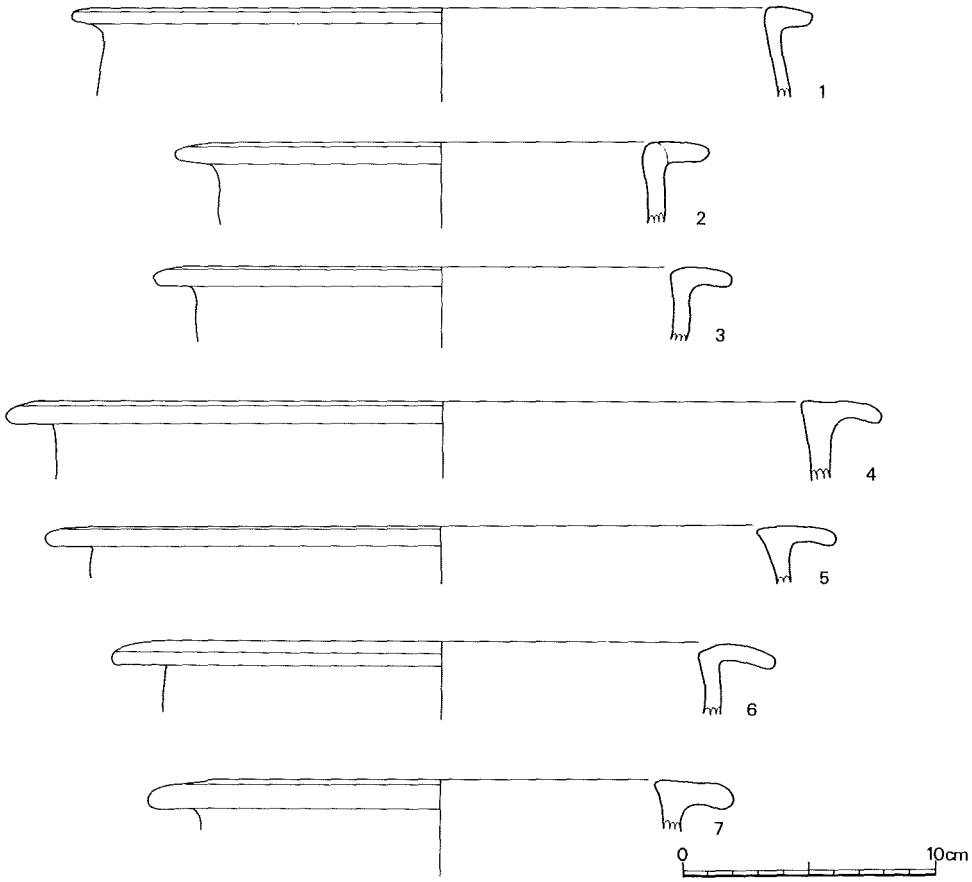



Fig.22　弥生土器実測図　⑥

いて25cm内外である。1～5は口縁内面が内側に突きだす。1・内外面ともハケ目調整のあとナデている。2・明褐色で胎土に石英粒と雲母を含む。横ナデ調整。3・暗赤褐色で胎土には石英粒と雲母が目立つ。4・暗褐色で石英粒を多く含む。焼成は良好である。6・復元径29cmを計る。胎土に石英粒，雲母，角閃石を含む。焼成は良好である。淡黄褐色を呈する。7・暗褐色で，多量の石英粒を含む。横ナデ調整。8・明赤褐色で雲母と大粒の石英粒を含む。9・黄灰色で胎土に石英粒が目立つ。焼成はやや甘い。10，11共に焼成良好。横ナデ調整を施す。

Fig.20も上面が平坦な逆「L」字状口縁をなす。1・外面黄褐色，内面灰黄色をなし，焼成良好。口縁下に指頭押圧痕が残る。2・明茶褐色で胎土に雲母を含む。横ナデ調整を行なう。3・口縁内側がやや下がる。胎土に金雲母を含み，焼成は良好。ナデ調整。6・胎土に大粒の石英粒を含む。7・口縁下に指頭押圧痕を残す。暗黄灰色を呈し，内側はナデ調整。8・黄灰色で焼成は甘い。金雲母を含む。ナデ調整。以上の資料は，D－2区，G－2区の3層中からの出土が大部分を占める。

Fig.21は，逆「L」字状の平坦な口縁部を持ち，外端がやや下がるタイプのものである。

1・暗褐色で大粒の石英粒を含む。口縁内側への張り出しは弱い。2・薄手の器壁を持ち，精選された胎土に多量の金雲母を含む。内面ナデ，外面はハケ目調整の後，口縁下を丁寧な横ナデによる調整を行なう。3・灰褐色で胎土に金雲母を含む。口縁内側への張り出しは強い。内面はハケ目の後ナデ，外面は，荒いハケ目の上をきめの細かいハケでヨコナデする。器形は2と殆ど同じで端正な作りである。4・暗褐色で角閃石を含む。焼成甘く，調整も指頭押圧痕がそのまま残る。6・黄灰色で胎土に多量の石英粒を含む。焼成は良好。7・9・口縁下に指頭押圧痕が残る雑な作りである。以上の土器の内，1，2は口径34cm程の大型の甕になるものと思われる。

以上の資料は，中期中葉に属しよう。大部分はG－2区3層中よりの出土である。

Fig.22－1～3は，逆「L」字状の口縁を持つが，内側への張り出しが殆ど無く，しかも丸みを持つ。1，2は黄褐色で胎土に多量の石英粒を含む。ナデ調整を行なう。3・砂質でザラザラしている。ナデ調整。焼成は甘い。以上は中期中葉に属する。4～7は，逆「L」字状口縁であるが，外端が少し垂れ下がる特長を持つ。4・黄灰色で，少量の雲母を含む。ナデ調整。5・同じ黄灰色で，口縁下にハケによる横ナデ調整を行なう。6・茶褐色を呈し，胎土に大粒の石英粒を含む。ナデ調整を行なう。7灰褐色で，胎土に雲母，石英粒を含む。焼成は良好である。以上の土器は，中期後葉の特長を持つ。7はK－2区出土，他は何れもG－2区3層からの出土である。

Fig.23－1，2，3は同じ個体の壺であると思われる。1の壺は，復元口径25.7cmを計る。黄褐色を呈し，胎土に雲母，石英粒，角閃石を含む。大きく内湾する口縁を持ち，頸部と肩部の間に断面台形の粘度を貼付し，その上に，深い刻目を施す。内面はタタキ，外面はナデ調整を行なうが，突帯接合部分にはハケによる横ナデを施す。2，3は壺の突帯部分である。胎土，色調，調整方法等が1と同じ特長を持つ。4は鉢であろう。復元径24cmで，黄褐色を呈し，胎土に石英粒を多く含む。口縁内側に張り出しがあり，上面はやや凹む。ナデ調整を行なう。5は高杯である。復元径は20cmで，精選された胎土に雲母を含む。丁寧なナデ調整を行ない，焼成は良好である。以上の土器は，1，2，3が後期前半でK－2区出土，4，5は中期中葉に属するものと思われる。G－2区3層出土である。

Fig.24は，口縁部がゆるやかな「く」の字を呈し，胴部が倒卵形の台付甕の資料である。1・復元径24cmの甕口縁部である。外面明赤褐色，内面暗褐色で胎土に雲母，石英粒を含む。調整は，内面ナデ，外面はハケ目とナデによる。焼成は良好である。2・復元径28cmのやや厚めの甕口縁部である。1に比して口縁の屈曲が強い。外面暗茶褐色，内面黄灰色を呈する。胎土には多量の石英粒を含む。調整は横ナデによる。焼成は良好。3・茶褐色で胎土に大粒の石英粒を多量に含む。復元径24cmで薄手の器壁を持つ。色調茶褐色で焼成は良い。4・5は3と色調，胎土が全く同じ資料である。何れもゆるやかな「く」の字口縁を呈するが，胴部の張りがやや弱い。以上の資料は中期から後期初頭頃に比定されよう。何れもK－2区4層面出土である。

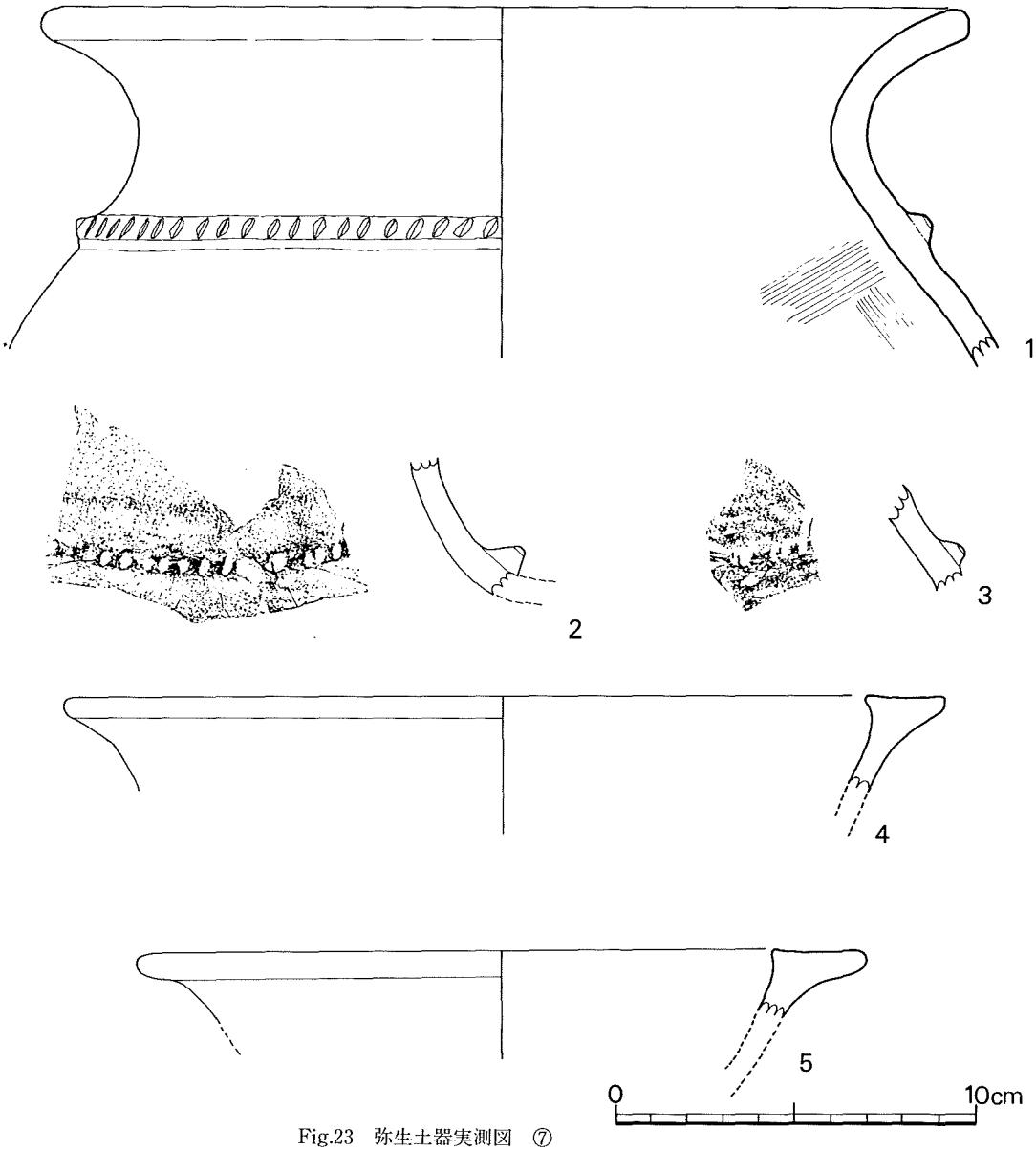



Fig.23　弥生土器実測図　⑦

Fig.25も口縁部が「く」の字を呈するが，屈曲が強く，口縁内部に明瞭な稜線を有する資料である。口縁端部は丸く厚さも一定である。**1**・復元径が26.4cmの甕である。外面暗赤褐色，内面暗黄褐色で胎土に雲母，石英粒，角閃石を含み焼成は良好である。調整は内面がナデ，外面は胴部がハケ目で口縁下は横ナデを施す。外面の一部に煤が付着している。**2**・復元径が39cm程あるが，細片であるため確かではない。黄褐色を呈し，胎土に雲母，角閃石を含む。焼成は良好。**3**・明赤褐色で，雲母，角閃石を含む。内面はナデ，外面はハケ目調整。口縁下部に，接合の際の指頭による押え痕が見られる。4・精選された胎土で，角閃石，雲母を含む。外面

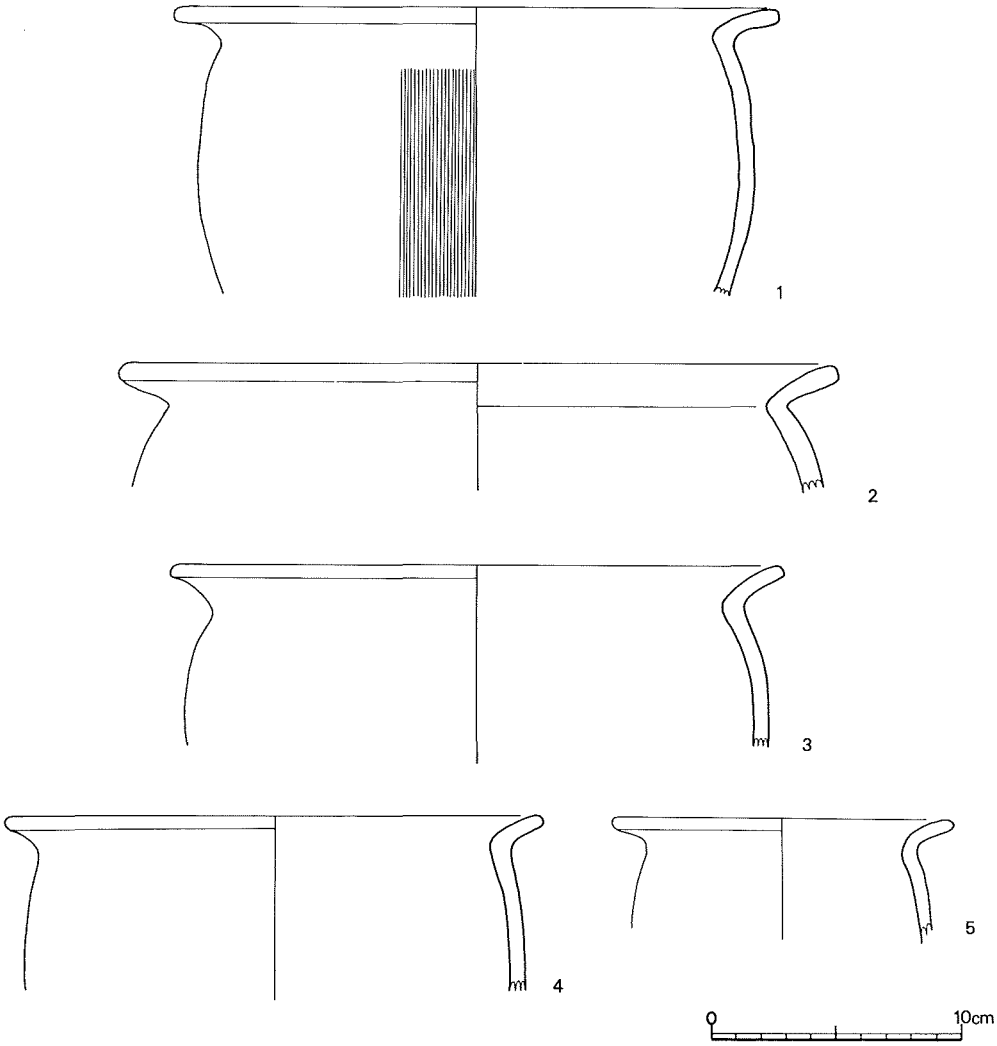



Fig.24　弥生土器実測図　⑧

明赤褐色，内面黄灰色を呈する。調整は，外面は丁寧なナデを行ない内面には指頭押圧痕が認められる。復元径は30.5cmである。**5**・暗茶褐色で雲母，石英粒を含む。内面にはタタキが見られ，その上をナデる。外面はナデ調整。**6**・外面黄褐色，内面暗灰褐色で，雲母，角閃石を含む。外面に薄いハケ目調整痕が残る。口縁部はやや角張る。焼成は良好である。Fig.25－1もFig.24と同種の資料であろう。何れもK－2区4層面一括資料である。

Fig.26は「く」の字状口縁部を持つが，Fig.25に比して更に屈曲度が強く，直線的に外反する。内部への張り出しも鋭い。台付甕になるものと思われる。**2**・暗茶褐色で雲母，角閃石を含む。口縁は鋭く屈曲する。外面口縁下に横方向のハケ目調整痕が認められる。**3**・黄褐色で

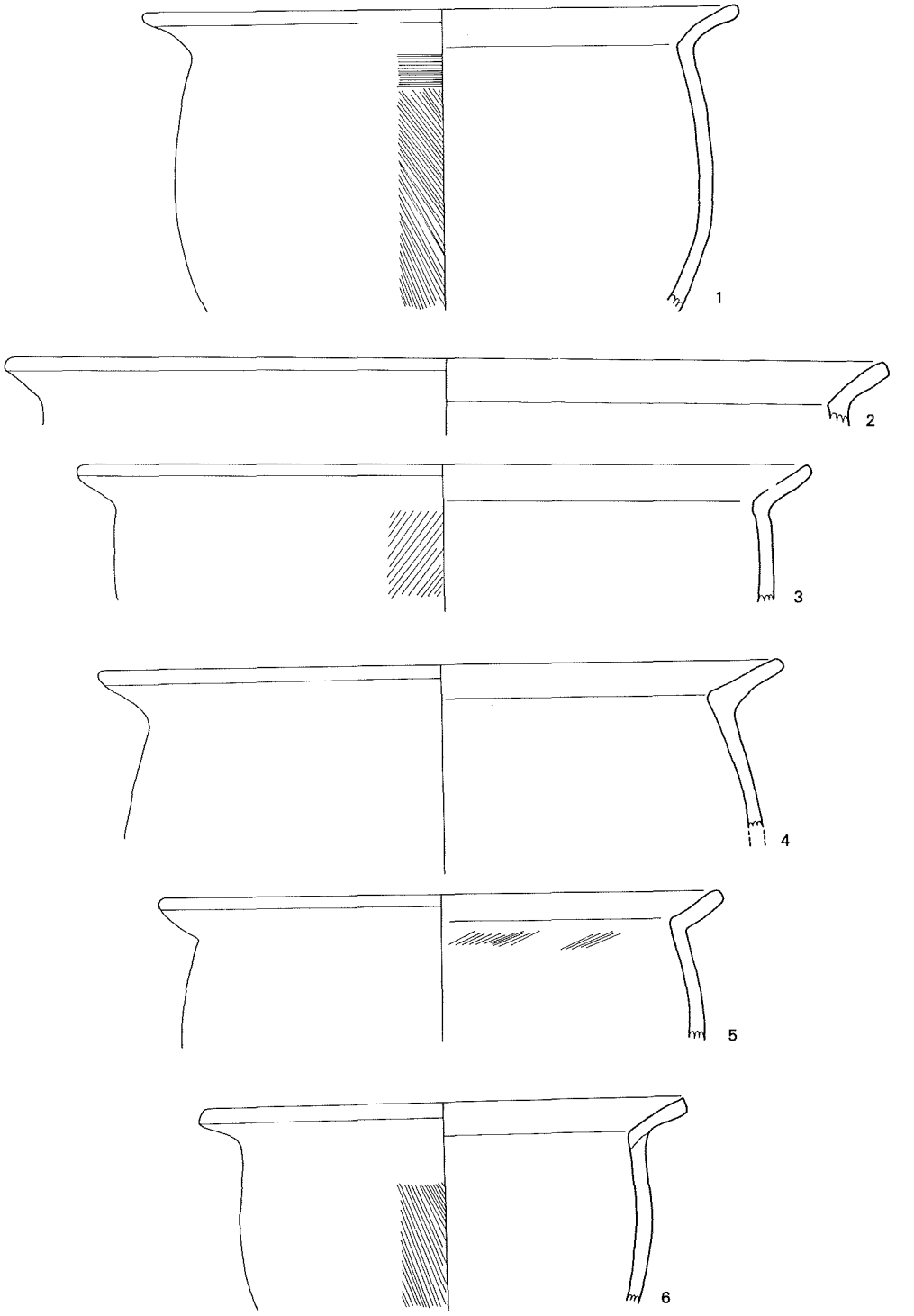



Fig.25　弥生土器実測図　⑨

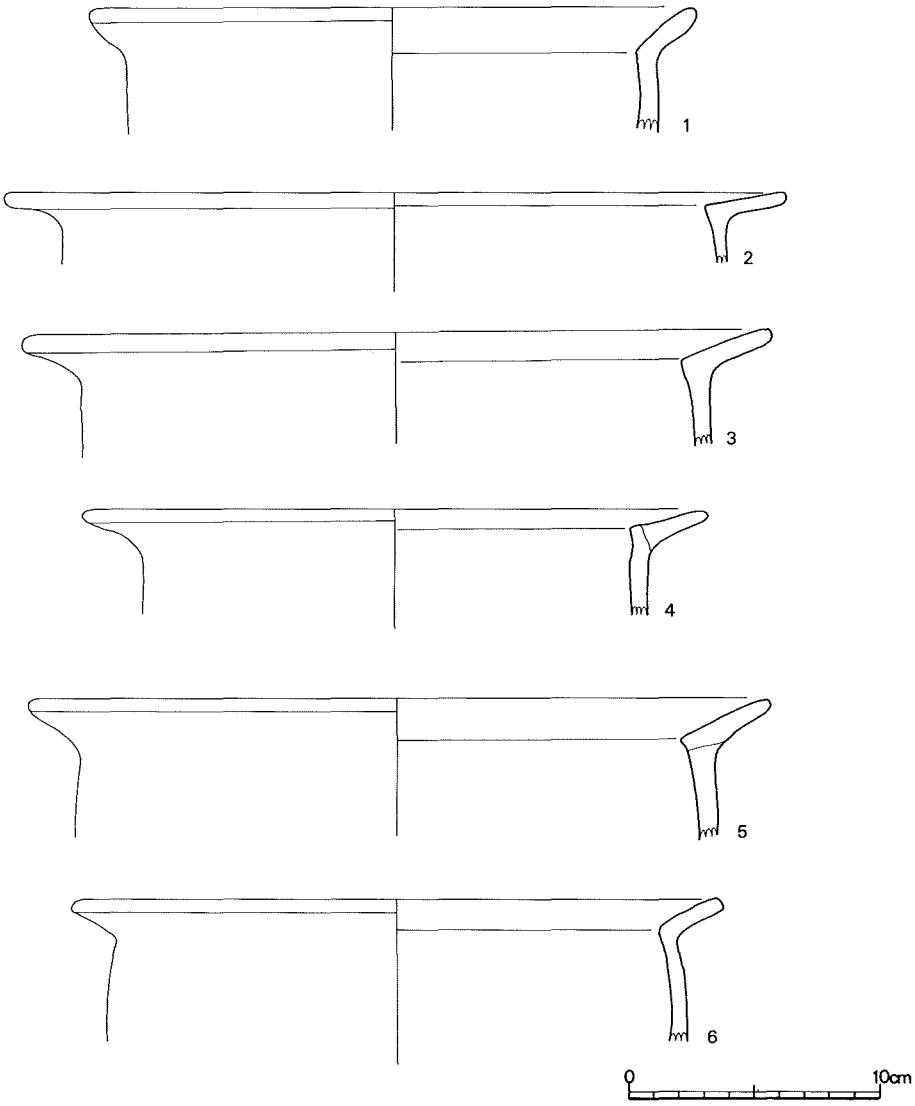



Fig.26　弥生土器実測図　⑩

角閃石を含む。口縁は直線的に外反し，端部は丸くおさめる。**4**・外面茶褐色，内面暗褐色で雲母，角閃石を含む。口縁はやや内湾気味に開き，端部は細く尖る。**5**・復元径30cm。暗茶褐色で角閃石，雲母を含む。**4**と同じく口縁内部の張り出しが強い。ナデ調整を行なうが，口縁平坦部にハケ目痕が残る。**6**・暗褐色。精選された胎土を用い，雲母，角閃石を含む。調整は丁寧なナデ仕上げである。口縁端部はやや太めで角張る。以上は後期後半頃に比定されるもので，何れもK－2区4層面出土の一括資料である。

Fig.27－1は「く」の字形を呈する，甕口縁部である。直線的に外反するが，口縁外側をやや

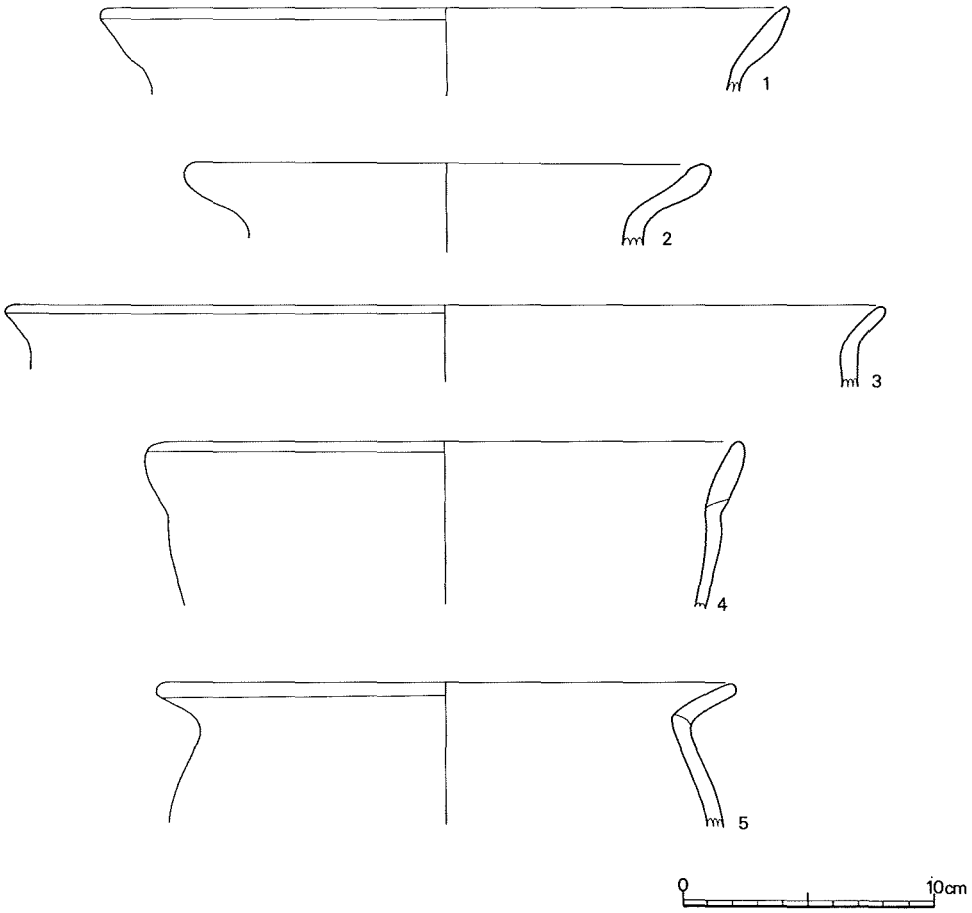



Fig.27　弥生土器実測図　⑪

肥厚させ，端部は丸くおさめる。外面明茶褐色で雲母を含む。**2**・口縁はゆるやかな「く」の字状をもつが，内面はやや内湾する。端部はぶ厚く，丸い。暗褐色で胎土に雲母を含む。ナデ調整を行なう。以上の資料はFig.26に先行するとの指摘がなされされている。[註1] **3**・口縁がゆるやかな「く」の字を呈する甕型土器で，屈曲が弱く，内部の稜線も認められない。茶褐色で角閃石を含む。**4**・口縁が少しくびれる程度に外反する甕口縁部である。口縁部は胴部に比して厚く，口唇部が尖る。復元径は24cmで，茶褐色。焼成は良好である。**5**・「く」の字状の口縁部を持つ甕である。灰黄色で，焼成が甘いのか軟質である。横ナデ調整を施す。**3**以下の資料は古墳時代に入るものか。

Fig.28, 29, 30は弥生土器底部の資料である。底部は甕，壺の器形に分かれるが，主体をなすのは甕である。甕は更に，上げ底を呈するものと，平底のもの，そして台付甕の底部に分けられる。

Fig.28はあげ底の資料である。1はK－2区4層面出土。赤褐色で雲母，角閃石，石英粒を含む。調整痕は不明瞭。2・黄灰色で角閃石，雲母を含む。外面に荒いハケ目調整を行なう。D－3区3層出土。3・茶褐色で，大粒の石英粒を多く含む。底径7cm。4・底径6.6cm黄褐色で大粒の石英粒を含む。器壁表面がやや剝落しているがハケ目痕が残る。5・底径5.5cmの小型の甕底部で，赤褐色，胎土に大粒の石英粒を含む。4，5はG－2区3層出土。6・茶褐色で角閃石と大粒の石英粒を含む。G－2区2層出土。以上の土器は中期初頭の城ノ越土器の特長を持つ。

Fig.29は全て，平底の甕底部である。1～7はG－2区3層出土。1・ぶ厚い底で，底径7cmを計る。外面茶褐色，内面灰黒色で石英粒，雲母を含む。外面は全体に縦方向のハケ目調整を行なう。2・外面茶褐色で雲母，石英粒が目立つ。内面に指頭押圧痕，外面全体にハケ目調整を行なう。3・外面黄褐色，内面灰白色で，石英粒，金雲母を含む。底径7.6cmで外面下部に指頭押圧痕を残す。4・暗褐色で石英粒と金雲母を含む。外面にハケ目調整を行なう。5・底径7cmで，黄褐色，胎土に若干の雲母を含む。底がぶ厚く，ナデ調整。焼成は良好。6・暗茶褐色で，大粒の石英粒を含む。ハケ目調整。7・暗褐色を呈し，石英粒，雲母を含む。外面はハケ目とナデによる調整を行なう。8・茶褐色で，胎土に雲母と大粒の石英粒を含む。ハケ目調整。K－2区3層出土。9・明茶褐色で，若干の雲母を含む。焼成甘く，器壁に剝落が認められる。J－2区4層面出土。10・暗褐色で胎土に石英粒を含む。ハケ目調整。G－4区2層出土。11・茶褐色で大粒の石英粒と金雲母を含む。調整痕は不明瞭。K－2区4層出土。12・外面赤褐色で雲母，石英粒を含む。底径7.6cm。外面にハケ目とナデ調整を施す。同じくK－2区4層出土。13・底径8.4cm。赤褐色で雲母と多量の石英粒を含む。調整痕は不明瞭。K－2区4層出土。14・赤褐色で雲母を含む。底径9cmでナデ調整。焼成は良好。G－2区3層出土。16・整形にあたっては，胴部と底部を別々に作っておいたものを後で接合する手法を取っている。

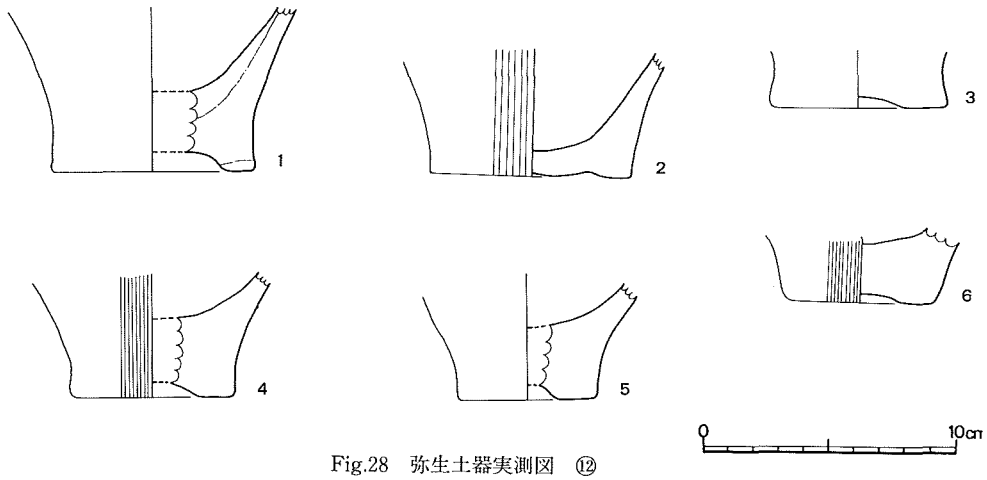



Fig.28　弥生土器実測図　⑫

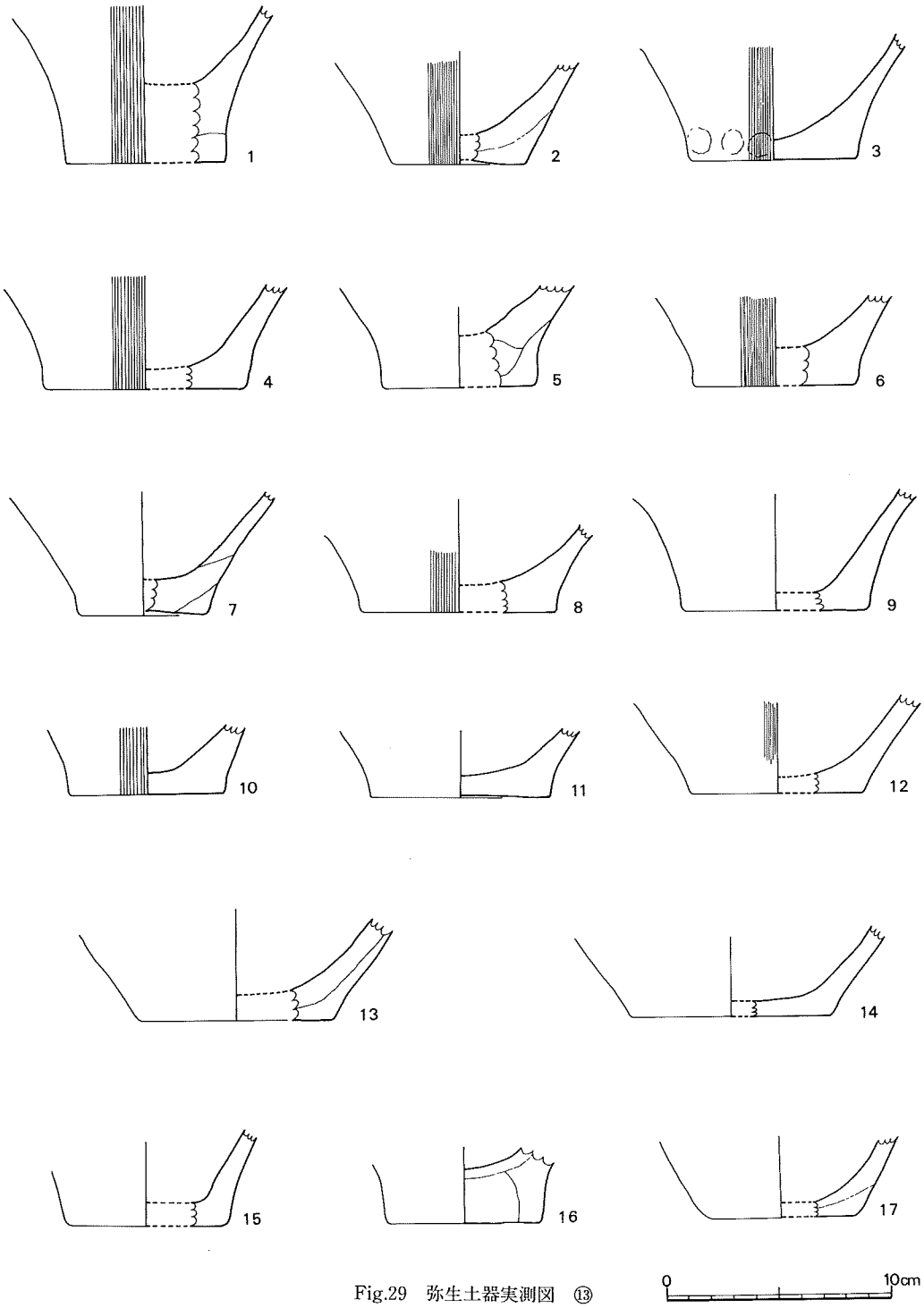



Fig.29　弥生土器実測図　⑬

**17**・灰白色で雲母を多く含む。胴部はあまり張らない様である。以上は中期中葉から後葉にかけての資料である。

Fig.30－**1**は外面茶褐色，を呈し，石英粒を含む。ナデ調整を行なう。**2**，**3**は薄手の小型甕である。共に黄褐色で雲母を含む。焼成は良好。ナデ仕上げを行なう。**4**，**5**は厚手の甕である。**4**・赤褐色で石英粒，金雲母を含む。内面に指頭痕が残る。**5**・底部で3cmの厚みを持つ大型の甕である。茶褐色で石英粒を多く含む。甕棺の可能性もある。**6**・外面赤褐色，内面暗褐色で精選された胎土を用いる。ハケ目調整。**7**・外面黄褐色，内面暗灰色で，器壁薄く，精選された胎土に金雲母を含む。底径7.4cmで，ハケ目調整のあと一部ナデ消す。焼成良好である。以上は中期中葉から後葉にかけての資料であろう。**8**～**14**は，台付甕の底部である。**8**～**11**はK－2区4層面，**12**，**13**はG－2区3層からで**14**はJ－2区3層出土。**8**・暗茶褐色で砂粒を多く含む。底径9.5cmでハケ目調整を行なう。裾端部は丸く，安定感がある。**9**・**10**共に**8**と同様の特長を持つ。**11**・黄褐色で，少量の角閃石を含む。底径6.5cmで小型の甕の部類に入る。焼成は良好でナデ仕上げを行なう。裾端部がやや細くなる。**12**，**13**・茶褐色で，雲母と角閃石を含む。ナデ調整。裾端部は細くなりながら「ハ」の字形に開く。**14**・赤褐色で，砂粒を含む。裾端部は細くなり，直線的に開く。以上の資料は，全てが胴部との接合から分離しているため，どのような器形になるのか不明の点があるが，大村市・富の原遺跡[註2]や北有馬町・今福遺跡[註3]などの類似資料から判断すると，口縁部が「く」の字状で，倒卵形の胴部をもつ甕のタイプになるものと思われる。時期的には，中期後半から後期の資料であろう。**15**～**17**は壺である。**15**・底径6.5cmで胴部に向かって大きく張り出す。茶褐色で石英粒を含む。J－2区4層面出土。**16**・暗褐色で，石英粒を多く含む。底径は4.5cmと小さい。底内部がやや盛り上がる。G－2区3層出土。**17**・底径9cm。黄灰色を呈し，石英粒，金雲母を含む。ナデ調整を行なうが，外面の一部にハケ目痕が残る。K－2区4層出土。これらの壺は中期中葉から後葉に属する例であろう。

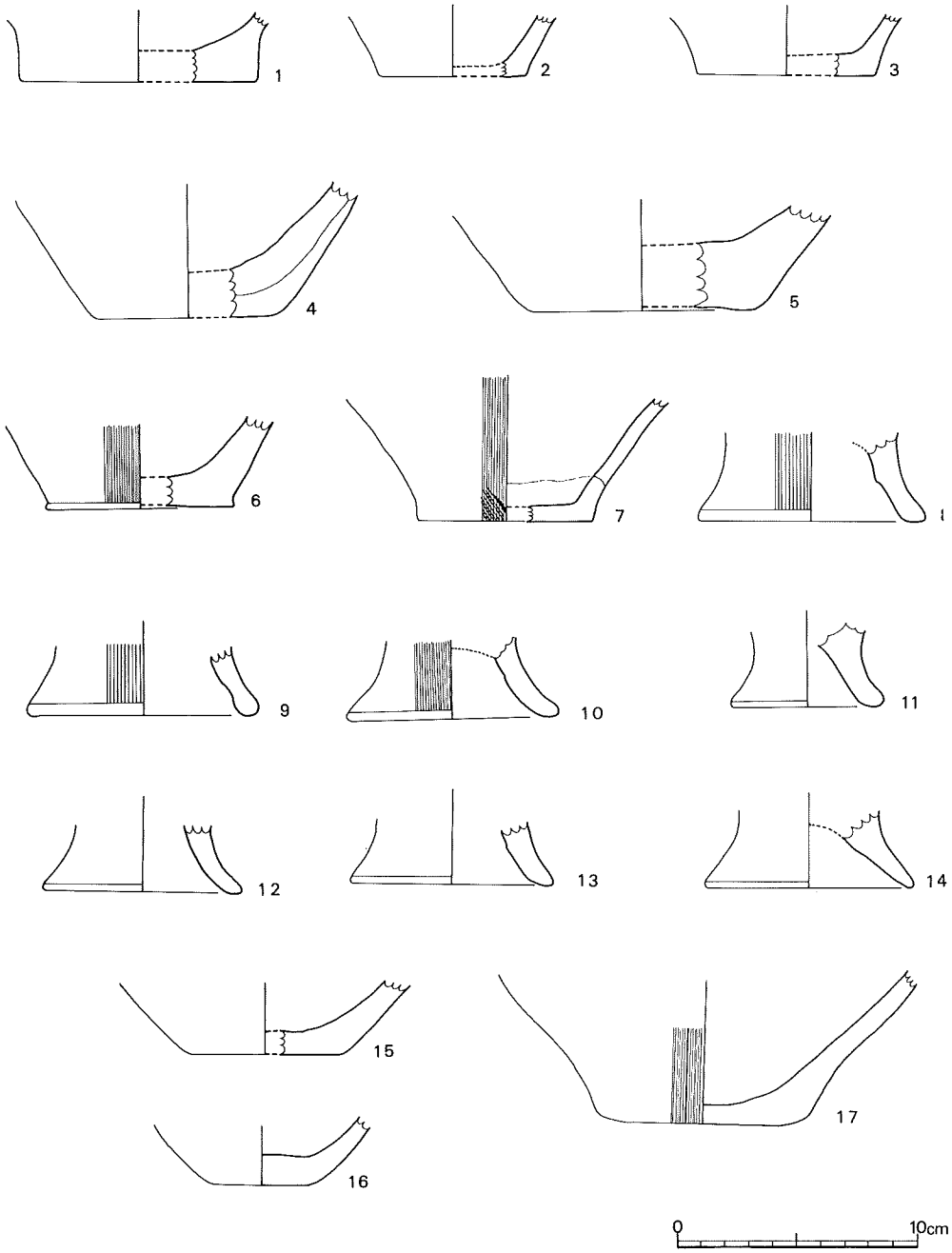



Fig.30　弥生土器実測図　⑭

**③その他の遺物**（Fig.31, PL.23）

その他の土器を一括して紹介しておく。**1**，**2**は土製円盤である。弥生土器の胴部片を利用し，全周を打ち欠いて，径4.5cmほどの円盤状に形を整える。何れもG－2区3層からの出土である。**3**・滑石製石製品の小破片である。方形で現存長2.4cm，幅1.3cm，厚さ0.9cmを計る。**4**・頁岩製石製品である。小破片で現存長2.3cm，幅1.8cm，厚さ0.9cmである。以上の2点は方形硯の可能性もあるが，細片のため判然としない。**5**，**6**は須恵器である。**5**・杯蓋で，復元口径14cmを計る。天井部は丸く，口縁部は外方に下り，稜は丸く純い。端部内側は凹面をなす。**6**・杯身で，復元口径は15.4cmである。短い立ち上がりは内傾し受部は丸くおさめる。この2点は6世紀後半の資料であろう。何れもP－3区3層から出土した。**7**～**10**は土師器である。**7**・杯で口縁端部を欠損する。低く形ばかりの高台が付く。**8**・口径8cmの小皿である。高さ1.4cmで若干上げ底気味である。焼成甘くもろい。**9**・復元口径8cm，高さ1.4cmの小皿である。底部を回転糸切りする。**10**・外面灰黒色，内面黄灰色の土師質小皿である。口縁端部を一部欠損する。復元底径は11cm前後である。**11**は黒色土器である。復元口径12cmで，胴部は強く屈曲し，口縁端部は丸くおさめる。内外面共ヘラによる研磨を施す。黒褐色で焼成は良好である。**12**・復元口径8cm高さ1.5cmの土師質土器である。平底からほぼ直角に立ち上がり，口縁端部を外側へ折り曲げる。胴部に細い帯状突起を持つ。黄灰色で，焼成は良好である。**13**，**14**は火舎であろう。**13**・明赤褐色で軟質，胎土に石英粒を含む。口縁と突帯の間にスタンプを押す。復元口径は30cm程と思われる。**14**・口縁部を欠損する。明赤褐色で軟質の土器である。2条の突帯が貼付され，縦の平行沈線と格子目状スタンプが押されている。**15**～**18**は瓦器である。**15**・捏鉢であろう。暗灰色で口縁が「く」の字状に外反する。口縁下部に菊花紋のスタンプを押す。**16**・捏鉢の底部であろう。指頭による押圧痕を残す。**17**・復元口径28cm程度の捏鉢である。口唇部と器壁内外面にハケ目痕を残す。**18**・鉢口縁部である。口唇部は尖り，断面が低い三角形をなす。**19**・復元口径が32cmの鉢型土器である。口縁部は丸く，ヘラ削り調整を行なう。**6**以下の資料は，大まかには中世の資料であるが，詳細は不明である

Fig.32は管状土錘である。各区より少量ずつ出土するが，何れも2層からで，P区，S区が中心である。形態から3種に分かれる。1は胴部が膨らみ，両端がすぼむ太鼓型，2は長方形型，3は棒状型である。土師質で重量は2.5gから8gまであり，平均値は4gである。

この資料が出土する2層は中・近世の遺物が多い為，その所属する時期を決めることは困難である。（高野）

註1．長崎県教育委員会「今福遺跡III」長崎県文代財調査報告書　第84集　1986
2．大村市・黒丸遺跡調査会「黒丸遺跡」大村市文化財調査報告書　第12集　1987
3．註1文献

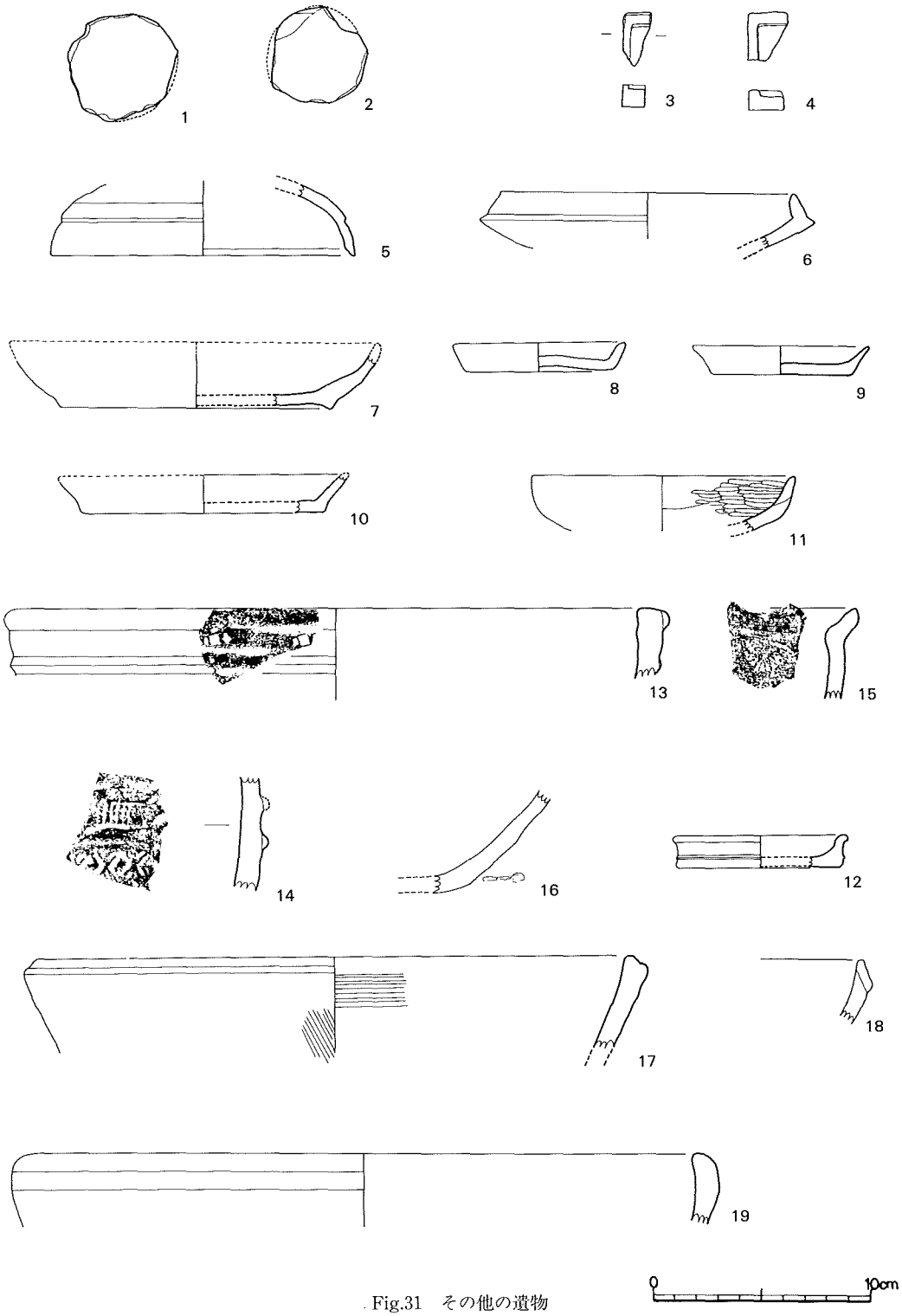



Fig.31　その他の遺物

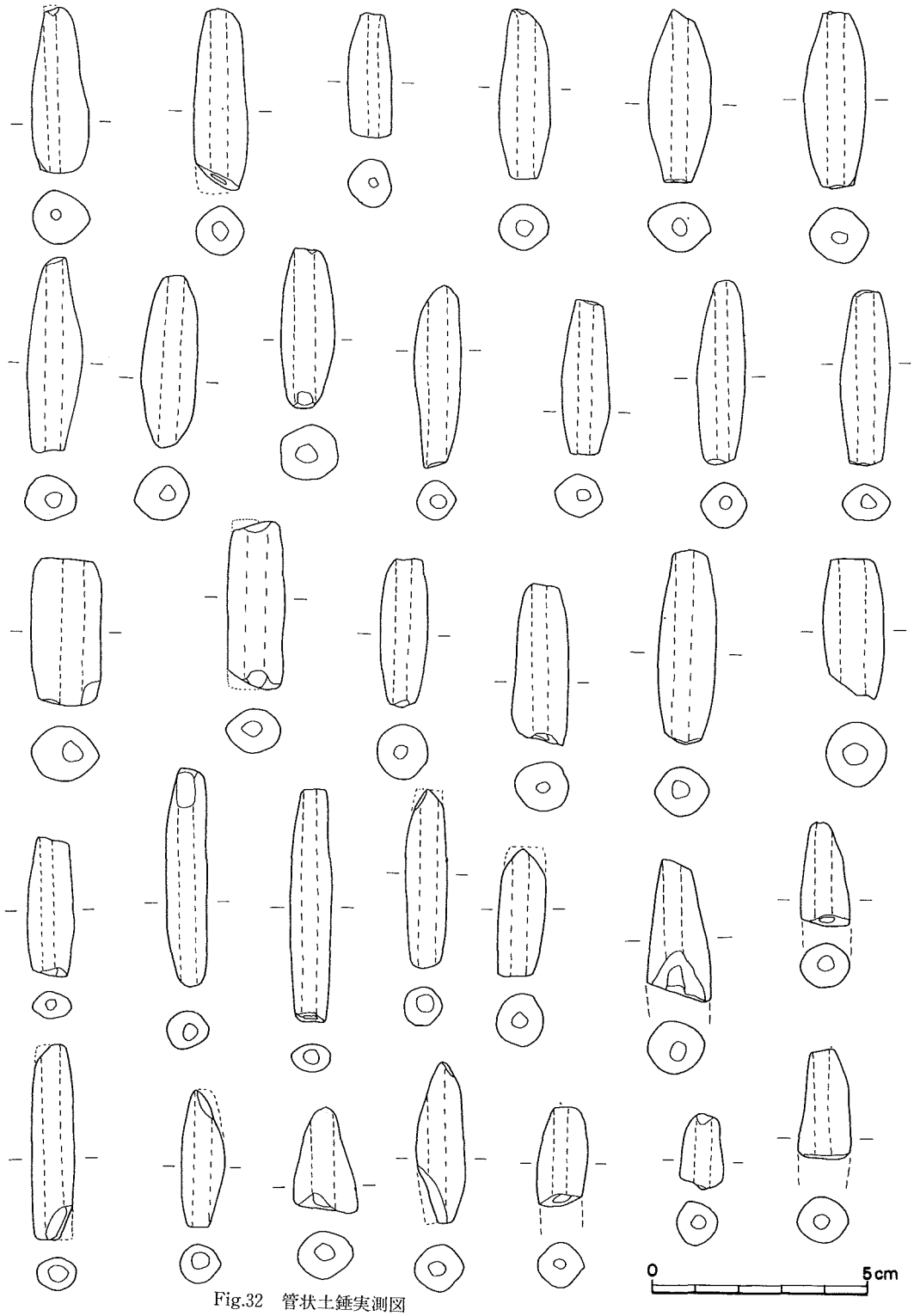



Fig.32　管状土錘実測図

④ **古代・中世の陶磁器類**（Fig.33,PL.25, 26　Tab.1）

本遺跡では，821点の中世陶磁器類と越州窯系青磁が１点出土しているが，細片が殆んどで図化したのは19点にすぎない。

○**輸入陶磁器**（Fig.33）

輸入陶磁器として抽出したものは772点である。不明陶器とした23点についても，大半は中国産の可能性をもっているが，現時点では不明としておく。

a．中国産陶磁器（**1**～**14**・**19**）

中国産陶磁器は，756点抽出され，輸入陶磁器772点の内97.9％を占める。

**青磁**（**1**～**5**）

青磁は，372点あるが，５点を図化した。

**1**は，越州窯系青磁椀の底部片である。幅広の高台とその内側は無釉で，他はオリーブ黄色のガラス質釉がかかり光沢をもつ。見込には目跡が１ヶ所認められる。焼成は良好である。森田勉・横田賢次郎氏分類(註1)（以下，森田・横田分類とする）の椀Ⅰ－１類に相当しよう。Ｍ３区Ⅰ層出土。

**2**は，同安窯系青磁椀の底部片である。外面から高台内側は無釉。見込には，ガラス質釉がかかるが生地が灰白色なために，一見釉色が白磁風にみえる。Ｇ２区Ⅲ層出土。

**3**・**4**は，竜泉窯系青磁椀の底部片である。３は無文椀で，森田・横田分類の椀Ⅰ－１類である。高台畳付から高台内側にかけては無釉。他は浅黄色のガラス質釉がかかり光沢をもつ。畳付には目跡が１ヶ所認められる。Ｐ２区Ⅲ層出土。４は，見込に花文のスタンプが施され，高台内側までオリーブ灰色のガラス質釉がかかり光沢をもつ。高台内面に砂目跡がつく。森田・横田分類のⅠ－５Ｃ類である。Ｍ２区Ⅲ層出土。

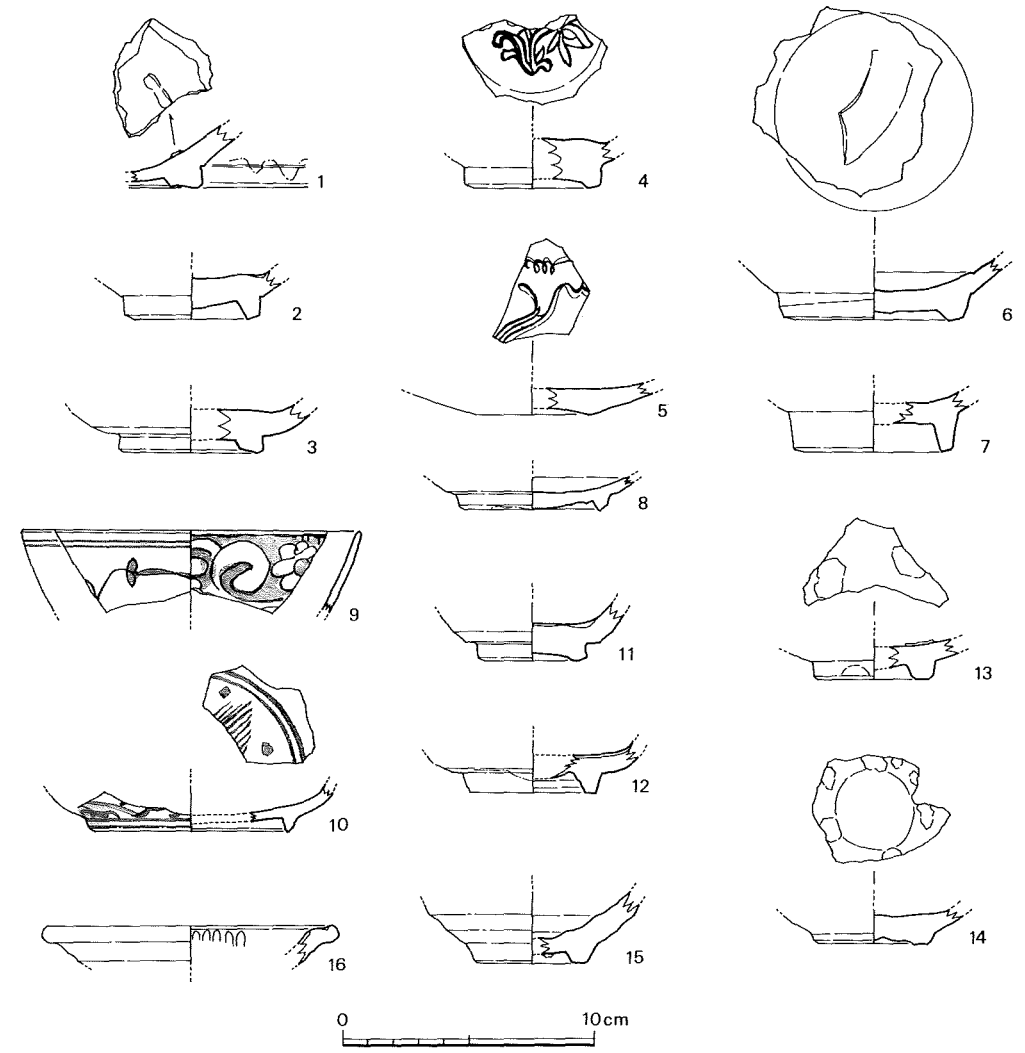
**5**は，竜泉窯系の青磁皿である。見込にはヘラによる片彫りの花文が描かれる。見込から外面は，オリーブ灰色のガラス質釉がかかり光沢をもつ。底部は焼成前に釉がカキ取られている。Ｇ３区のⅡ層出土。

**白磁**（**6**～**8**）

白磁は204点あるが，３点図化した。

**6**・**7**は椀底部片である。**6**はわりと低い高台で，高台内側から外面は無釉。見込には段がつき，中央部にヘラによる弧状のカキ取りがみられる。光沢のあるガラス質釉がかかり，灰白色を呈する。Ｍ３区Ⅲ層出土。**7**は，長めの高台を削り出し，高台内から外面は無釉。見込には灰色気味の濁った釉がかかり，灰白色を呈し光沢をもつ。Ｋ２区Ⅲ層出土。高台部の形状から，森田・横田分類の，**6**はⅣ類，**7**はⅤ類であろう。

**8**は，皿底部片である。見込には淡い段がつき，高台外面まで白濁した灰白色釉がかかり光沢をもつ。高台内側は無釉で，赤味をおび浅黄橙色を呈する。端反りの高台付皿で，森田勉氏



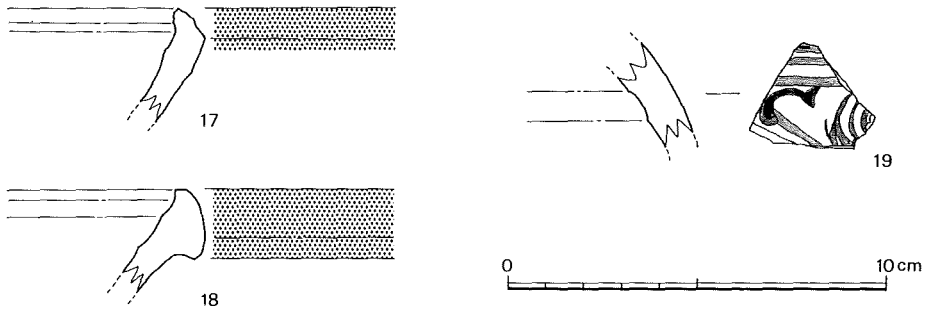




Fig.33　中世陶磁器類（1/2・1/3）

分類(註2)のE－2類，小野正敏氏分類(註3)（以下，小野分類とする）の皿C群に相当しよう。J 4区のII層出土。

**青花（9・10）**

青花は118点出土しているが，2点を図化した。

**9**は，椀口縁部片である。薄手のつくりで，外面には虫喰い状の小さな穴が5ヶ所ほどみられる。外面は2条の圏線と巻唐草文，内面には花唐草文らしき文様を描き，地を濃みで塗りつぶしている。小野分類の椀F類に包括されるもので，大橋康二氏分類(註4)（以下，大橋分類）の椀B－2に相当する。G 2区II層出土。

**10**は，高台付皿の底部片である。外面には唐草文と圏線，内面見込には圏線と玉取獅子の一部と考えられる文様を描いている。釉は，細かい気胞を多く含むガラス質釉で若干青味をおびる。小野分類の皿$B_1$群である。G 2区のIII層出土。

**天目（11）**

天目磁は10点出土しており，1点図化した。

**11**は，天目茶椀底部片である。底下面がややあげ底になった低い高台状をなし，高台から外面にかけてはろくろ左廻りのヘラケズリされ無釉。内面は，体下半はにぶい赤褐色の不透明釉が薄くかかり，底下面にガラス質の黒釉が厚くかかる。胎土は浅黄橙色～灰白色を呈するが，焼成良好で堅緻である。M 3区II層出土。

**黒釉陶器（12）**

黒釉の陶器は7点あり，1点図化した。

**12**は，黒釉陶器椀底部片である。高台部から体下端はろくろ左廻りのヘラケズリされ，無釉。他はやや緑色おびるガラス質の黒釉が厚くかかる。胎土は，灰白色でやや紫色おび，ザックリした感があるが，焼成は良好である。J 3区II層出土。

**磁州窯系陶器（19）**

**19**は，白釉鉄絵の壺体部片である。内外面ともにやや黄色味もつ灰白色の釉が薄くかかり，光沢と貫入をもつ。外面には鉄絵による圏線と曲線の文様が描かれる。胎土は浅黄橙色を呈し，焼成良好堅緻である。G 3区II層出土。

b．朝鮮産陶磁器

朝鮮産陶磁器は，16点抽出され，輸入陶磁器の内2.1％を占めるにすぎない。その内3点を図化した。

**粉青沙器（15）**

**15**は，粉青沙器瓶の底部片である。内面は無釉で赤味をおび，明褐灰色を呈する。外面から高台内側までオリーブ灰色の青磁釉がかかるが，外面は風化を受け剝落している。高台畳付と高台内側には砂目跡がつく。胎土は，細かい黒色粒を混在し，ややザックリした感があり，灰

白色を呈する。G３区のII層出土。

**李朝陶器（13・14）**

**13・14**は，陶器椀底部片である。**13**は，高台畳付から高台内面にかけて無釉。他は，浅黄色の青磁釉がかかる。見込と高台外方に数ヶ所の砂目跡が認められる。胎土は，灰白色を呈し，焼成良好だがややザングリとした感をもつ。K３区I層出土。**14**は，幅広で低い上げ底状の兜巾高台である。高台畳付を除いて，他は灰白色の白濁釉がかかる。見込には７ヶ所の砂目跡がみられる。胎土は，赤味をおびた浅橙色を呈し，細かい白色粒と黒色粒を含む。G２区III層出土。

**○国産陶器（16～18）**

国産陶器は27点抽出し，瀬戸・美濃系と考えられるもの25点，東播系２点があり，その内図化したのは３点である。

**瀬戸・美濃系（16）**

天目椀，灰釉皿，壺などがある。**16**は，灰釉の折縁皿で内側面に丸彫りが施されたものである。内外面ともにオリーブ色のガラス質釉がかかり，貫入がはいる。ザングリとした胎土で浅黄橙色を呈する。K２区のII層出土。

**東播磨系（17・18）**

**17・18**は東播系の捏鉢片である。**17**は，口縁端部外方が平坦で上方を上位につまみだしている。灰色を呈し，口縁外方は帯状に黒ずんでいる。細かい石英砂，灰白色砂を胎土に含んでいる。K３区II層出土。**18**は，口縁端部が丸味をもち玉縁状の口縁帯を形成するものである。灰白色を呈し，口縁外方は黒ずんでいる。ザクザクしたセメント状の胎土で焼成はやや甘い。

**○古代・中世輸入陶磁器の様相について**

本遺跡では，772点の輸入陶磁器が出土しているが，小破片が大半を占める。居住関係の遺構も検出されておらず，当地が直接の生活地ではなく，陶磁器類は近隣から流入してきたことが考えられる。したがって図化できたものも数少なく，大多数の小破片を数量処理することによ

Tab. 1　中世陶磁器出土数量表

| 分類＼地区 | | D2 | D3 | G2 | G3 | G4 | J2 | J3 | J4 | K2 | K3 | K4 | L2 | L3 | M2 | M3 | N4 | P2 | P3 | S2 | S3 | 計 | % | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中国産陶磁器 | 青磁 | 5 | 7 | 17 | 14 | 5 | 37 | 44 | 21 | 41 | 25 | 6 | 24 | 34 | 17 | 20 | 5 | 20 | 19 | 1 | 11 | 372 | 45.3 | 92.0 輸入 97.9 |
| | 白磁 | 4 | 6 | 6 | 6 | 5 | 24 | 18 | 4 | 20 | 16 | 3 | 11 | 17 | 12 | 19 | 4 | 12 | 10 | 2 | 4 | 204 | 24.8 | |
| | 青白磁 | | | 1 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | | | 2 | 2 | | | | 3 | | | 14 | 1.7 | |
| | 天目磁 | 2 | | | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | | | | 1 | 1 | | 1 | 1 | | | 10 | 1.2 | |
| | 赤絵磁 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0.1 | |
| | 青花 | 4 | | 13 | 5 | 1 | 8 | 6 | 7 | 11 | 7 | 4 | 7 | 4 | 8 | 1 | | 12 | 14 | 1 | 5 | 118 | 14.4 | |
| | 陶器 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 3 | 3 | 2 | 2 | 1 | | 2 | | 2 | 3 | | 6 | 5 | 4 | | 37 | 4.5 | |
| 鮮産陶磁器 | | | | 2 | | | | 1 | 1 | | 3 | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | 5 | | | 16 | 1.9 | 輸入2.1 |
| 国産陶器 | | | 1 | 1 | 2 | | | 1 | | 3 | 1 | | 2 | 1 | 1 | 3 | | 4 | 2 | 1 | 4 | 27 | 3.3 | |
| 不明陶器 | | | | 1 | | | | 1 | 4 | 2 | 5 | 1 | 1 | 1 | | 2 | | | 3 | 1 | 1 | 23 | 2.8 | |
| 計 | | 16 | 15 | 42 | 29 | 11 | 74 | 77 | 41 | 80 | 60 | 15 | 47 | 60 | 44 | 50 | 9 | 55 | 62 | 10 | 25 | 822 | 100 | |

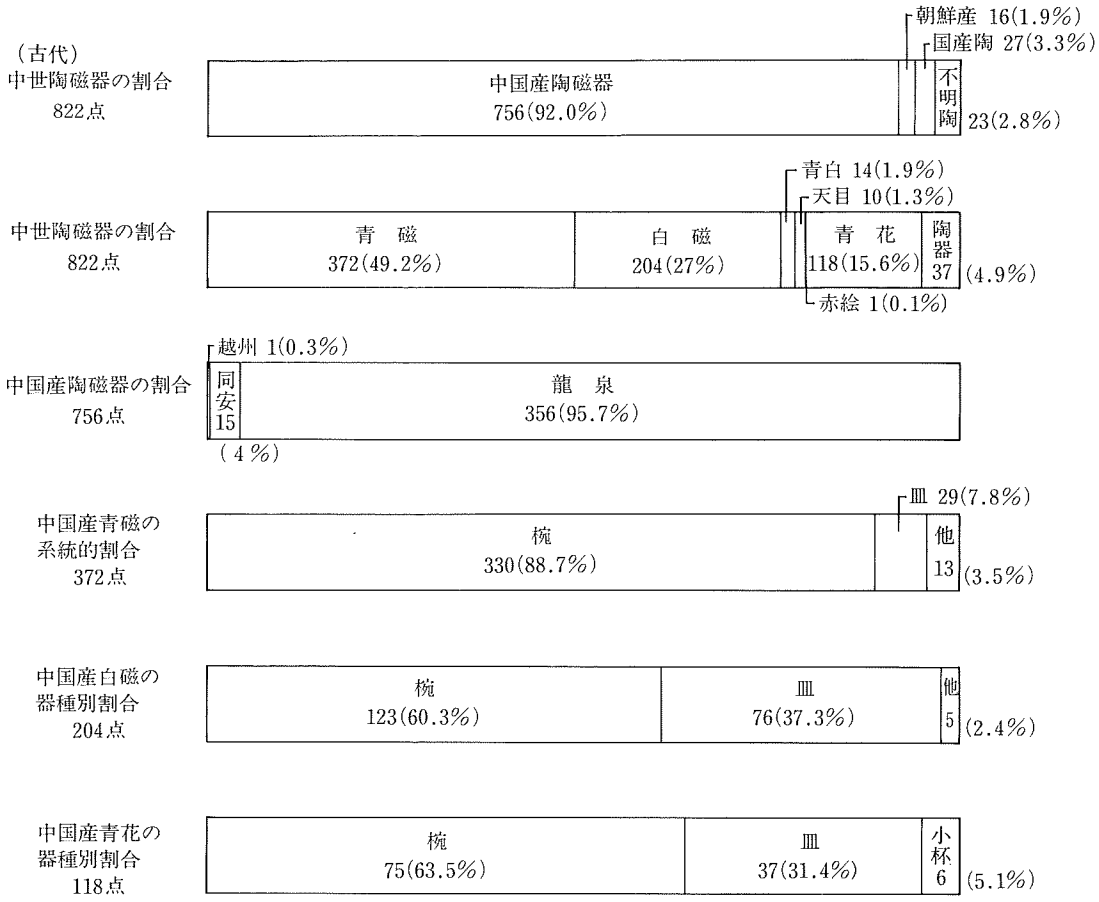



Fig.34　中世陶磁器組成グラフ

って，その様相についてみていきたい。

a．中国産陶磁器

輸入陶磁器は，中国産陶磁器が756点（97.9%），朝鮮産陶磁器が16点（2.1%）出土しており，南高来郡北有馬町今福遺跡[註5]などの本県土部の中世遺跡では，圧倒的な中国産製品に，少量の朝鮮産製品が伴うという傾向と同様の様相をもっている。

中国産陶磁器では，青磁372点（49.2%），白磁204点（27%），青花118点（15.6%），陶器37点（4.9%），青白磁14点（1.9%），天目磁10点（1.3%），赤絵１点（0.1%）という内訳になり，青磁が最も多く半数近くを占める。

**青磁**

青磁を系統別にみると，越州窯系１点（0.3%），同安窯系15点（４%），・竜泉窯系356点（95.7%）に分けられ，竜泉窯系が圧倒的に多い。

越州窯系青磁は，森田・横田分類の椀Ⅰ－１類に相当し，９世紀から10世紀代にかけての時期に位置づけられる。本県では，まだ出土例の少ない貴重品である。初期貿易陶磁である越磁は，寺院官衙関係での出土が殆んどであり，九州では郡司以上の官人や富豪層が需要層といわれている。(註6) したがって，１点とはいえ重要な問題を提起することになるが，それらの評価については後日検討を行いたいと思う。

同安窯系青磁は，椀13点，皿２点の計15点出土している。椀は，森田・横田分類のⅠ－１ａ類２点，Ⅰ－１ｂ類６点，Ⅱ類１点，Ⅲ類２点，底部２点という内訳になる。皿は，Ⅰ－１類１点，Ⅰ－２類１点の計２点である。

竜泉窯系青磁は，器種別にみると，椀316点，皿27点，小椀５点，杯２点，盤２点，香炉２点，壺？２点に分けられる。椀が88.8％を占め，皿を加えると96 3％を占めることになり，両者が青磁の主体であることは他の中世遺跡と同様の傾向を示す。

椀は，森田・横田分類の，Ⅰ－２類11点，Ⅰ－３類１点，Ⅰ－４類８点，Ⅰ－５ｂ類98点，Ⅲ－２類１点，Ⅰ－１類他南宋代無文椀58点，亀井明徳氏分類(註7)のＢ１類７点，同Ｂ２類６点，電文帯口縁のもの４点，明代の無文椀116点に分類ができる。これをみると，Ⅰ－１～４類の古手の椀は20点と少ないが，鎬蓮弁文椀になると98点と増加し，明代の椀へと続く。

**白磁**

白磁は，器種別にみると，椀123点，皿76点，杯２点，壺３点という内訳になり，椀と皿で97.5％を占める。青磁と同様に，椀と皿が一般的器種であったことが分かる。

椀は，森田・横田分類に基づいて区分すると，Ⅱ類およびⅢ類が３点，Ⅳ類26点，Ⅴ類およびⅧ類33点，北宋後半代型式不明58点，Ⅸ類１点，不明２点の123点となる。Ⅸ類と不明の３点を除く120点は，北宋後半代に包括され，11世紀中頃から12世紀前葉に位置づけられるものである。

皿は，森田・横田分類のⅡ類あるいはⅢ類の底部３点，Ⅳ類およびⅤ類３点，Ⅵ類およびⅧ類７点，Ⅸ類52点，小野分類皿Ｃ群７点，同分類皿Ｄ群２点，稜花皿１点，不明１点に分類できる。年代的には，Ⅱ類～Ⅷ類が11世紀中頃から12世紀前葉，Ⅸ類が13世紀中頃から14世紀中頃，皿Ｃ・Ｄ群が15世紀後半から16世紀代に位置づけられるが，口秀げ皿であるⅨ類が圧倒的多いことになる。

**青白磁**

器種別にみると，椀６点，皿２点，香炉１点，合子４点，水注注口部１点の14点しかなく，数量的には一般的な製品ではなかったと思われる。

**青花**

器種別にみると，椀75点，皿37点，小杯６点の計118点に分けられる。小野分類に基づいて型式分類ごとの点数をあげると，椀は，Ｂ群５点，Ｃ群16点，Ｄ群１点，Ｅ群８点，Ｆ群15点，Ｃ～Ｆ群不明瞭なもの26点，不明３点となり，皿は$Ｂ_1$群14点，Ｃ群15点，Ｆ群５点，大橋分類

の小皿B－3・4類2点，不明1点である。

**陶器**

黒釉，褐釉，緑釉，緑褐釉など37点あるが，注目されるのは磁州窯製品である。白釉鉄絵の壺体部破片で，時期的には南宋・元代の所産であろう。なお，今回の九州横断道の発掘調査に伴って近隣の東彼杵町瀬戸郷小薗城跡では，良好な資料が出土している。(註8)

b．朝鮮産陶磁器

高麗青磁7点と，李朝の青磁・粉青沙器9点の計16点を抽出した。高麗青磁は，象嵌されたもの5点（椀2点，瓶3点）と無文のもの2点（椀1点，壺1点）に分けられる。李朝青磁は椀2点，粉青沙器は椀5点，皿1点，壺1点に分けられる。

**○国産中世陶器および石鍋について**

国産陶器類で確認したものには，瀬戸・美濃系製品25点，東播系製品2点の計27点がある。

**瀬戸・美濃系**

器種別にみると，天目茶椀14点，灰釉壺8点，不明2点がある。いずれも，16世紀代の製品であろうか。

**東播磨系**

2点とも捏鉢口縁部片である。玉縁口縁の形態から，Fig．33－**17**は13世紀前半代，**18**は13世紀末～14世紀初頭に位置づけられよう。

**石鍋**

滑石製石鍋は，P3区とS3区からそれぞれ1点ずつ計2点が出土しているが，いずれも細片であり，形式については明確でない。

**○まとめ**

以上，宮田A遺跡出土の中世陶磁器を中心としてその内容についてみてきた。初期貿易陶磁の越州窯系青磁に始まり，11世紀中頃から12世紀前葉を主体とする白磁椀類，12世紀中頃から13世紀前半の同安窯系青磁と初期泉窯系青磁の一群，13世紀後半から14世紀中頃を代表する鎬蓮弁文青磁椀と口秀白磁皿，14世紀後半から15世紀中頃の明代青磁椀，15世紀後半から17世紀前半の主体となる青花椀・皿類と白磁皿という輸入陶磁器の一連の流れが，本遺跡においてとらえられた。他の中世遺跡との比較研究をすべきであったが，時間的余裕がなかった。越磁出

Tab．2　近世陶磁器出土数量表（円盤状製品は除く）

| 地区／層位 | D2 | D3 | G2 | G3 | G4 | J2 | J3 | J4 | K2 | K3 | K4 | L2 | L3 | M2 | M3 | N4 | P2 | P3 | S2 | S3 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| I　層 | 43 | 16 | 167 | 199 | 26 | 274 | 233 | 4 | 221 | 159 | 67 | 54 | 139 | 86 | 172 | 33 | 98 | 89 | 53 | 68 | | 2,201 |
| II　層 | 34 | 81 | 180 | 164 | 53 | 252 | 328 | 130 | 521 | 330 | 89 | 240 | 225 | 266 | 266 | 47 | 251 | 324 | 50 | 93 | | 3,924 |
| III　層 | 4 | 3 | 32 | 16 | 1 | 54 | 132 | 11 | 13 | 19 | | 65 | 2 | 140 | 90 | 5 | 3 | 57 | 3 | 29 | | 679 |
| IV　層 | | | 10 | | | 1 | 6 | | | 3 | 5 | 1 | 1 | 2 | | | 2 | 2 | | | | 33 |
| V　層 | | | | | 2 | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 4 |
| その他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 不明 6 | 6 |
| 計 | 81 | 100 | 389 | 379 | 82 | 582 | 699 | 145 | 755 | 511 | 161 | 360 | 367 | 494 | 528 | 85 | 355 | 472 | 106 | 190 | 6 | 6,847 |

土の評価とともに改めて検討したいと思う。　（宮崎）

註1　森田勉・横田賢次郎「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集4』九州歴史資料館　1978
2　森田勉「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会　1982
3　小野正敏「15～16世紀の染付碗，皿の分類と年代」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会　1982
4　大橋康二「16・17世紀における日本出土の中国磁器について」『岡崎敬先生退官念論集，東アジアの考古と歴史下』　同朋舎　1987
5　宮崎貴夫『長崎県今福遺跡における中世期の様相』　1987
6　亀井明徳「日本出土の越州窯陶磁器の諸問題」『九州歴史資料館研究論集Ⅰ』九州歴史資料館　1975　他
7　亀井明徳「日本出土の明代青磁碗の変遷」『鏡山猛先生古稀記念　古文化論放』1985
8　調査担当者町田利幸氏教示

⑤ **円盤状陶磁製品**（Fig.35, Tab. 3）

当製品は75点の出土がみられた。中国製の輸入陶磁器片を用いたものが５点，他70点は近世陶磁器片を利用したものである。

出土分布を地区別にみると，Ｋ３区とＮ４区で出土しなかった他は，18の地区で出土がみられ，なかでもＫ２区では13点出土している。層位別には，Ｉ層～Ｖ層に出土がみられ，Ｉ層20点，II層47点，III層２点，IV層５点，Ｖ層１点と，Ｉ層・II層に89％以上が集中し，近世陶磁器の層位別出土点数（Tab. 2）と類似した傾向を示している。

**1**は，森田勉・横田賢次郎氏分類[註1]の竜泉窯系青磁椀Ｉ－５a類体部片を利用したものである。左右側縁部は折断面をそのまま利用し，上縁部のみを打欠き丸く加工している。長さ3.3cm×2.5cm，重さ８gを測る。Ｄ３区II層出土。他に１点，竜泉窯系青磁椀片を利用したものが，Ｇ２区II層から出土している。

**2**は，森田・横田氏分類の白磁椀IV類に相当する玉縁の口縁部片を利用したものである。右側縁部を打欠いて丸く加工している他は，折断面をそのまま利用している。玉縁部，左側縁部，下縁部には薄くウロコ状に剝落した個所が認められる。長さ2.9cm×2.0cm，重さ5.1ｇを測る。Ｊ３区II層出土。白磁椀IV類を利用したものは他に２点あり，Ｌ３区Ｉ層，Ｐ３区II層から出土している。玉縁口縁を利用し，折断面をそのまま利用し，部分的に加工するなど類似した形態をもっている。

**3**～**20**は近世陶磁器を利用するもので，**3**～**11**は磁器，**12**～**20**は陶器を用いている。

**3**は，染付椀口縁部片を利用。上縁は口唇部が残り，下縁部は折断面のまま用い，左右縁辺を打欠き加工している。長さ1.6cm×1.2cm，重さ0.8ｇを測る小形品。Ｋ２区II層出土。

**4**は，白磁椀体部片利用。全縁を打欠き丸く加工している。長さ1.9cm×1.7cm，重さ２ｇを測る。Ｌ２区II層出土。

**5**は，染付瓶（あるいは徳利）体部片利用。わりと丁寧に周縁を打欠き丸く加工している。長さ2.2cm×2.0cm，重さ3.4gを測る。Ｍ３区Ｉ層出土。

**6**は，厚手の青磁椀体部片利用。周縁を十数回打欠き丸く仕上げている。外面は２ヶ所ウロコ状に薄く剝落している。長さ2.6cm×2.3cm，重さ7.8ｇ測る。Ｓ３区II層出土。

**7**は，薄手の染付椀体部片利用。外面は，コンニャク判による桐，内面は竹のような文様を

Tab. 3　円盤状陶磁製品出土数量表

| 地区 / 層位 | D2 | D3 | G2 | G3 | G4 | J2 | J3 | J4 | K2 | K3 | K4 | L2 | L3 | M2 | M3 | N4 | P2 | P3 | S2 | S3 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ｉ　層 | 1 | | 1 | 2 | | 1 | 2 | | 2 | | | | 3 | 1 | 1 | | 2 | 1 | 1 | 2 | 20 |
| II　層 | | 3 | 1 | 1 | | 2 | 5 | 1 | 11 | 4 | | 6 | 4 | 2 | 2 | | 1 | 1 | 1 | 2 | 47 |
| III　層 | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | 2 |
| IV　層 | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | 2 | | | 1 | | | 5 |
| Ｖ　層 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 計 | 1 | 3 | 2 | 3 | 1 | 3 | 9 | 1 | 13 | 4 | | 6 | 7 | 5 | 5 | | 3 | 3 | 2 | 4 | 75 |

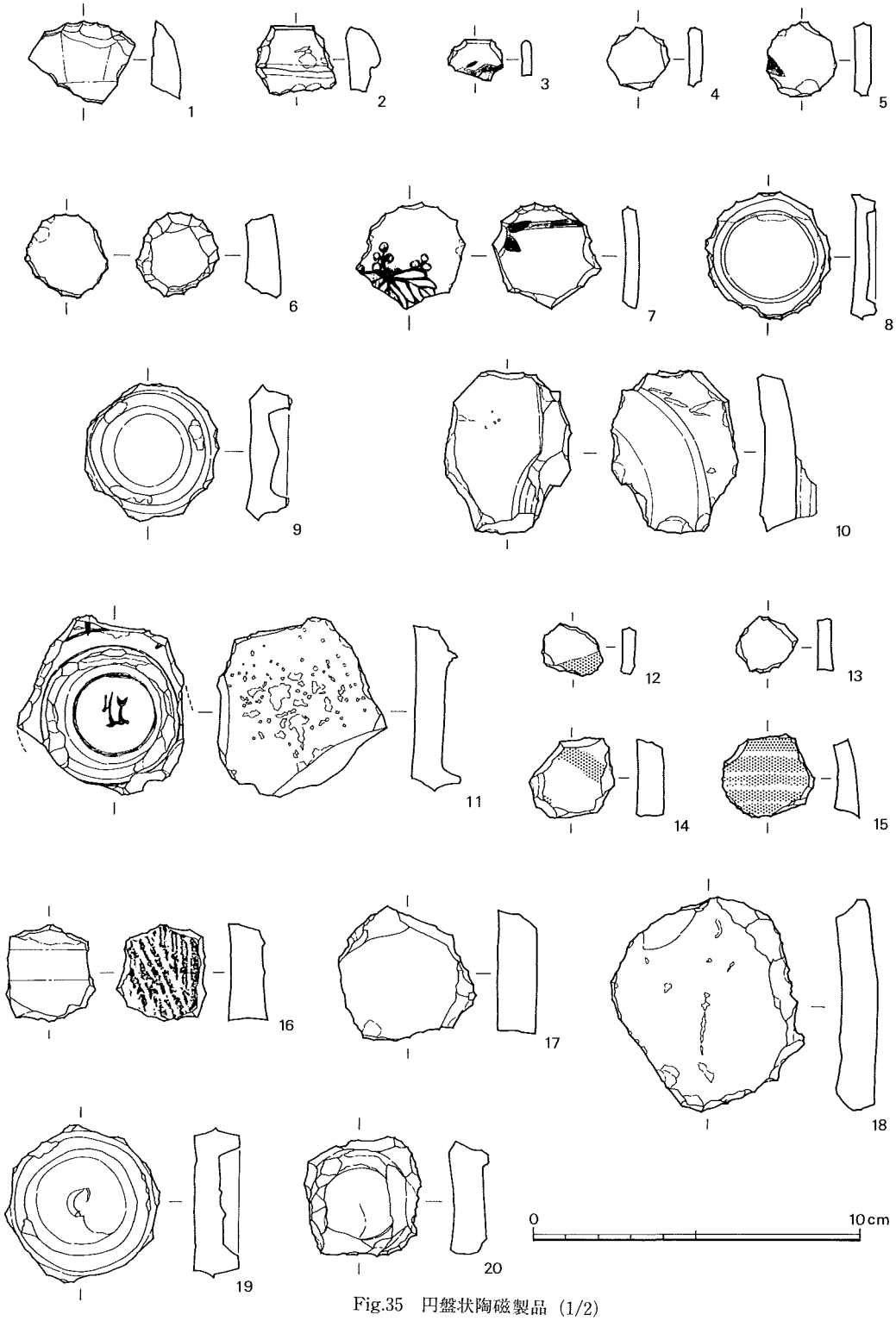



Fig.35　円盤状陶磁製品（1/2）

描いている。周縁を打欠き丸く加工するが，やや粗いつくりで角をもっている。長さ3.3cm×2.9cm，重さ5.3ｇを測る。Ｋ３区II層出土。

**8**は，白磁盃？底部片利用。内面体下端に鍋状の凹みが認められるので，菊花弁状の型押しを施すものであろう。高台部を残して丸く打欠いている。径3.8cm，重さ10.2ｇを測る。Ｋ３区II層出土。

**9**は，白磁椀底部片利用。兜巾高台で内外面ともにやや緑色おびるガラス質釉がかかる。高台畳付には３ヶ所の砂目跡がみられる。高台部を丸く打欠く。長さ4.2cm×4.0cm，厚さ21.5ｇを測る。Ｌ２区II層出土。

**10**は，青磁皿底部片利用。体下半～底部にかけての破片を用い楕円状に打欠くが，一部高台部を残している。内面は蛇ノ目剝ぎを行っている。内外面には線状のキズがはいり，内面にはウロコ状の剝落が認められる。長さ4.9cm×3.8cm，重さ28ｇを測る。Ｊ２区II層出土。

**11**は，くらわんか茶椀底部片利用。高台底部を利用するが，かなり粗いつくりで角ばる。下縁は新しい欠けのようである。内面見込みには，アバタ状の小さなキズが多くはいっている。長さ5.6cm×5.0cm，重さ37.7ｇを測る。Ｍ３区III層出土。

**12**は，緑釉陶器椀体部片利用。やや粗いつくりで楕円形を呈する。長さ1.9cm×1.4cm，重さ1.1ｇを測る小形品である。Ｓ２区II層出土。

**13**は，唐津系皿体部片利用。内外面には灰釉がかかる。やや粗いつくりで角ばっている。長さ1.8cm×1.6cm，重さ1.5ｇを測る。Ｐ２区II層出土。

**14**は，武雄系甕体部片利用。外面は白釉の上に鉄絵が施されている。やや粗い作りで六角形状をなしている。長さ2.7cm×2.2cm，重さ6.8ｇを測る。Ｐ２区Ｉ層出土。

**15**は，唐津系油徳利体部片利用。外面は灰白色の刷毛目化粧を施し，光沢をもつガラス質釉がかかる。内面は無釉。上縁と左縁部が折断面をそのまま用い，他は丸く打欠いている。長さ2.8cm×2.5cm，重さ5.7ｇを測る。Ｋ２区II層出土。

**16**は，唐津系摺鉢体部片利用。粗い打欠きで，六角形状をなす。長さ2.9cm×2.6cm，重さ11.7ｇを測る。Ｊ３区III層出土。Ｌ３区II層出土の製品に同一個体を利用したものがある。

**17**は，唐津系甕体部片利用。下縁部は折断面をそのまま用い，他は打欠きを施すが，大雑把なため５角形状をなしている。長さ4.0cm×3.9cm，重さ28.3ｇを測る。Ｍ３区II層出土。

**18**は，唐津系甕体部片利用。楕円形をなし，長さ6.0cm×5.5cm，重さ58.6ｇを測り，もっとも大形の品である。表裏ともに線状のキズがはいり，周縁にはウロコ状の剝落が数ヶ所認められる。Ｇ３区Ｉ層出土。

**19**は，緑釉茶椀底部片利用。見込は蛇ノ目状に釉がカキ取られている。高台部を丸く打欠いているが，大雑把なつくりで，角ばっている。長さ4.7cm×4.6cm，重さ30.7gを測る。Ｇ３区II層出土。

**20**は，唐津系椀底部片利用。見込には暗褐色の不透明釉がかかる。高台部を用いるが，つく

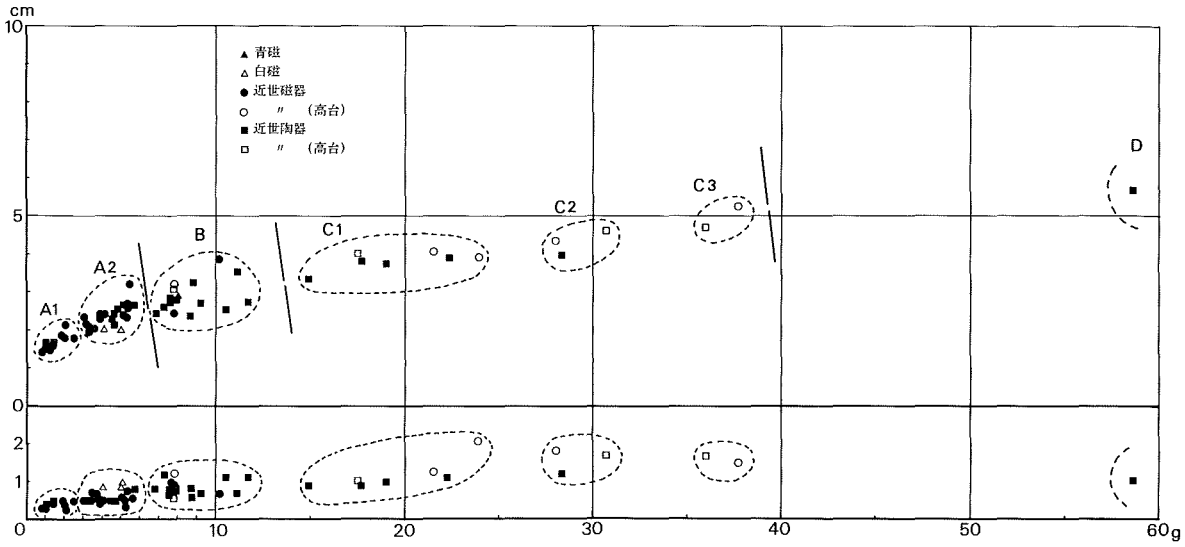



Fig.36　円盤状陶磁製品法量図

りが粗雑で方形に近い形状である。長さ4.1cm×3.9cm，重さ17.5gを測る。J3区I層出土。

以上，図化した当製品についてとりあげてみてきたが，以下全体的な特徴についてまとめを行いたい。

**時代・時期**

出土した75点の内，5点は中世の輸入陶磁器，他70点は近世および近世以降の陶磁器を利用しているが，当製品が破片を再利用するという二次的な製品であるために，かならずしも容器としての年代と異なる場合も充分に考えられる。遺構出土品であれば時期を限定できようが，本遺跡では出土状況から，時代・時期を厳密におさえることはできない。

**素材**

当製品の素材は，系統的にみると中世輸入陶磁器5点（6.7%），近世磁器37点（49.3%），近世陶器33点（44%）という内訳となり，近世以降の製品が70点（93.3%）を占める。器種的には，甕・壺7点（9.3%），捏鉢6点（8%），摺鉢6点（8%），不明1点（1.35%）という内訳になり，椀類が圧倒的に多い。

使用部位からみると，体部57点（76%），口縁部6点（8%），底部12点（16%）という内訳となり，体部破片を利用するものが大半を占める。底部は全て高台部を用いている。

**大きさ・重量**（Fig.36）

直径（長径と短径の平均値）と重量および厚さとの関係を示したのがFig.36である。欠損していないものおよび一部欠損するがほぼ完形に近い61点についてグラフ化を行った。この法量グラフによって，A～Dの区分ができる。

A類　径1.4cm～3.25cm，厚さ0.3cm～0.9cm，重さ0.8g～5.7gを測る小形品。近世磁器21

点，陶器８点，中世白磁３点の計32点で，薄手の磁器椀，瓶を利用するものが多い。

B類　径2.35cm～3.8cm，厚さ0.6cm～1.2cm，重さ6.8ｇ～11.7ｇを測る。近世陶器12点，磁器３点，中世青磁１点の計16点で，陶器体部片を利用するものが多い。

C類　径3.35cm～4.65cm，厚さ0.9cm～2.1cm，重さ14.9cm～37.7cmを測る。大きさにややばらつきがある。近世陶器８点，磁器４点の計12点で，磁器は全て高台部の底部利用である。

D類　径5.75cm，厚さ1.1cm，重さ58.6ｇを測る大形品。陶器甕利用。１点出土。

これらのうち，A類とC類は，A１類（10点），A２類（22点）とC１類（７点），C２類（３点），C３類（２点）に小区分できる可能性をもっている。

**用途について**

当製品については，昭和56年９月の長崎考古談話会で南高来郡北有馬町の今福遺跡の資料を基に中間報告を行い，昭和57年には南高来郡西有家町風呂川遺跡の報告書(註2)のなかでもとりあげ簡単に私見を述べたことがある。結論的には，縄文時代から綿々と続く遊戯具の一種と考えており，現時点では宮田A遺跡の資料は，小型品（A類）がおはじき，穴一（銭打）に，中･大型品はお手玉，石ケリとして使用されたと想定するが，今福遺跡の資料を中心として総括を行いたいと考えているので，その機会に詳述してみたいと思う。（宮崎）

註１　森田勉・横田賢次郎「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集４』九州歴史資料館　1978

２　宮崎貴夫「円盤状陶磁製品」『風呂川遺跡』西有家町教育委員会　1982

Tab. 4　円盤状陶磁製品一覧表①　　(単位　cm、g)

| 番号 | 長径 | 短径 | 径平均 | 厚さ | 重量 | 素　材 | 器種 | 部位 | 欠　損 | 地区 | 層位 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 3.3 | 2.5 | 2.9 | 0.9 | 8.0 | 中国産　青磁 | 椀 | 体 | | D3 | II | ① |
| 2 | 3.1 | — | — | 0.9 | — | 〃　〃 | 〃 | 〃 | 一部欠 | G2 | II | |
| 3 | 2.9 | 2.0 | 2.45 | 0.9 | 5.1 | 〃　白磁 | 〃 | 口 | | J3 | II | ② |
| 4 | 2.1 | 1.9 | 2.0 | 0.8 | 4.4 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | | L3 | I | |
| 5 | 2.1 | 1.9 | 2.0 | 0.8 | 5.0 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | | P3 | II | |
| 6 | 1.9 | 1.7 | 1.8 | 0.5 | 1.9 | 磁　器　染付 | 〃 | 体 | | D2 | I | |
| 7 | 3.0 | 1.7 | 2.35 | 0.5 | 3.0 | 〃　〃 | 〃 | 口 | | D3 | II | |
| 8 | 2.4 | 1.9 | 2.15 | 0.3 | 2.1 | 〃　白磁 | 〃 | 体 | | D3 | II | |
| 9 | 3.1 | — | — | 0.3 | — | 〃　染付 | 〃 | 〃 | 半欠 | G2 | I | |
| 10 | 3.6 | — | — | 1.4 | — | 〃　〃 | 〃 | 高台底 | 〃 | G3 | I | |
| 11 | 3.5 | 2.8 | 3.15 | 1.2 | 7.8 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | | J2 | I | |
| 12 | 4.9 | 3.8 | 4.35 | 1.8 | 28.0 | 〃　青磁 | 皿 | 〃 | | J2 | II | ⑩ |
| 13 | 2.5 | — | — | 0.4 | — | 〃　染付 | 椀 | 体 | 半欠 | J2 | II | |
| 14 | 1.6 | 1.4 | 1.5 | 0.3 | 1.0 | 〃　〃 | 〃 | 口 | | J3 | I | |
| 15 | 2.1 | 2.0 | 2.05 | 0.7 | 3.6 | 〃　〃 | 〃 | 体 | | J3 | II | |
| 16 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 0.4 | 1.2 | 〃　白磁 | 瓶 | 〃 | | J3 | II | |
| 17 | 2.3 | 2.0 | 2.15 | 0.5 | 3.2 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | | K2 | I | |
| 18 | 1.6 | 1.2 | 1.4 | 0.3 | 0.8 | 〃　染付 | 椀 | 口 | | K2 | II | ③ |
| 19 | 2.4 | 2.3 | 2.35 | 0.4 | 3.9 | 〃　〃 | 〃 | 体 | | K2 | II | |
| 20 | 1.6 | 1.5 | 1.55 | 0.4 | 1.4 | 〃　白磁 | 〃 | 〃 | | K2 | II | |
| 21 | 2.6 | — | — | 0.8 | — | 〃　〃 | 〃 | 〃 | 半欠 | K2 | II | |
| 22 | 3.3 | 2.9 | 2.7 | 0.4 | 5.3 | 〃　染付 | 〃 | 〃 | | K3 | II | ⑦ |
| 23 | 2.6 | 2.1 | 2.35 | 0.8 | 5.3 | 〃　白磁 | 〃 | 〃 | 一部欠？ | K3 | II | |
| 24 | 3.8 | 3.8 | 3.8 | 0.7 | 10.2 | 〃　〃 | 盃？ | 高台底 | | K3 | II | ⑧ |
| 25 | 4.1 | 3.8 | 3.95 | 2.1 | 23.8 | 〃　染付 | 椀 | 〃 | | K3 | II | |
| 26 | 1.9 | 1.7 | 1.8 | 0.4 | 2.0 | 〃　白磁 | 〃 | 体 | | L2 | II | ④ |
| 27 | 2.1 | 1.6 | 1.85 | 0.5 | 2.5 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | 一部欠？ | L2 | II | |
| 28 | 3.9 | — | — | 0.7 | — | 〃　青磁 | 〃 | 〃 | 半欠 | L2 | II | |
| 29 | 2.1 | 1.8 | 1.95 | 0.8 | 3.4 | 〃　白磁 | 〃 | 〃 | | L2 | II | |
| 30 | 4.2 | 4.0 | 4.1 | 1.3 | 21.5 | 〃　〃 | 〃 | 高台底 | | L2 | II | ⑨ |
| 31 | 3.1 | — | — | 0.7 | — | 〃　染付 | 〃 | 体 | 半欠 | L3 | II | |
| 32 | 1.4 | — | — | 0.4 | — | 〃　〃 | 〃 | 〃 | 〃 | L3 | II | |
| 33 | 2.6 | 2.3 | 2.45 | 0.5 | 3.9 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | | M2 | I | |
| 34 | 3.3 | 3.2 | 3.25 | 0.6 | 5.5 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | 一部欠 | M2 | II | |
| 35 | 2.7 | — | — | 0.6 | — | 〃　〃 | 〃 | 〃 | 半欠 | M2 | III | |
| 36 | 2.6 | 2.3 | 2.45 | 0.6 | 5.1 | 〃　青磁 | 瓶？ | 〃 | | M2 | IV | |
| 37 | 2.2 | 2.0 | 2.1 | 0.5 | 3.4 | 〃　染付 | 〃 | 〃 | | M3 | I | ⑤ |

Tab. 5 円盤状陶磁製品一覧表②

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 38 | 3.0 | 2.3 | 2.65 | 0.5 | 5.2 | 磁器 | 白磁 | 椀 | 体 | | M3 | IV | |
| 39 | 5.6 | 5.0 | 5.3 | 1.5 | 37.7 | 〃 | 染付 | 〃 | 高台底 | | M3 | IV | ⑪ |
| 40 | 4.2 | — | — | 1.3 | — | 〃 | 白磁 | 皿 | 〃 | 半欠 | P3 | IV | |
| 41 | 2.5 | 2.4 | 2.45 | 0.5 | 4.2 | 〃 | 染付 | 椀 | 体 | | S3 | I | |
| 42 | 2.6 | 2.3 | 2.45 | 1.0 | 7.8 | 〃 | 青磁 | 〃 | 〃 | | S3 | II | ⑥ |
| 43 | 6.0 | 5.5 | 5.75 | 1.1 | 58.6 | 陶器 | | 甕 | 〃 | | G3 | I | ⑱ |
| 44 | 4.7 | 4.6 | 4.65 | 1.3 | 30.7 | 〃 | | 椀 | 高台底 | | G3 | II | ⑲ |
| 45 | 3.2 | 3.0 | 3.1 | 0.6 | 7.8 | 〃 | | ? | 〃 | | G4 | V | |
| 46 | 4.1 | 3.9 | 4.0 | 1.0 | 17.5 | 〃 | | 椀? | 〃 | | J3 | I | ⑳ |
| 47 | 3.5 | 3.0 | 3.25 | 0.6 | 8.8 | 〃 | | 壷? | 体 | | J3 | II | |
| 48 | 2.5 | 2.2 | 2.35 | 0.5 | 4.5 | 〃 | | 擂鉢 | 〃 | | J3 | II | |
| 49 | 2.9 | 2.6 | 2.75 | 1.1 | 11.7 | 〃 | | 〃 | 〃 | | J3 | III | ⑯ |
| 50 | 4.9 | 4.5 | 4.7 | 1.7 | 36.0 | 〃 | | 椀 | 高台底 | | J3 | IV | |
| 51 | 2.9 | 2.5 | 2.7 | 0.7 | 9.2 | 〃 | | 捏鉢 | 体 | | J4 | II | |
| 52 | 3.1 | 1.6 | 2.35 | 0.8 | 8.7 | 〃 | | 瓶? | 〃 | | K2 | I | |
| 53 | 2.6 | 2.5 | 2.55 | 0.5 | 4.8 | 〃 | | 皿 | 〃 | 一部欠 | K2 | II | |
| 54 | 2.8 | 2.5 | 2.65 | 0.8 | 5.7 | 〃 | | 油徳利 | 〃 | | K2 | II | ⑮ |
| 55 | 2.2 | 2.0 | 2.1 | 0.5 | 4.7 | 〃 | | 〃 | 〃 | | K2 | II | |
| 56 | — | 3.4 | — | 0.7 | — | 〃 | | 椀 | 〃 | 半欠 | K2 | II | |
| 57 | 3.0 | 2.6 | 2.8 | 0.7 | 7.9 | 〃 | | 捏鉢 | 〃 | | K2 | II | |
| 58 | 4.5 | 3.2 | 3.85 | 0.9 | 17.7 | 〃 | | 甕 | 〃 | 一部欠? | K2 | II | |
| 59 | 2.7 | 2.5 | 2.6 | 0.7 | 7.3 | 〃 | | 擂鉢 | 〃 | | K2 | II | |
| 60 | 2.7 | — | — | 0.8 | — | 〃 | | 椀 | 〃 | 半欠 | L3 | I | |
| 61 | 3.7 | 3.0 | 3.35 | 0.9 | 14.9 | 〃 | | 捏鉢 | 〃 | 一部欠? | L3 | I | |
| 62 | 1.7 | — | — | 0.3 | — | 〃 | | 椀 | 〃 | 半欠 | L3 | II | |
| 63 | 2.7 | 2.4 | 2.55 | 1.1 | 10.5 | 〃 | | 擂鉢 | 〃 | 一部欠 | L3 | II | 49と同一個体 |
| 64 | 3.6 | — | — | 1.4 | — | 〃 | | 〃 | 〃 | 半欠 | L2 | II | |
| 65 | 2.9 | 2.6 | 2.75 | 0.8 | 7.6 | 〃 | | 捏鉢 | 〃 | | M2 | II | |
| 66 | 3.0 | 2.5 | 2.8 | 0.7 | 7.6 | 〃 | | 〃 | 〃 | | M3 | II | |
| 67 | 4.0 | 3.9 | 3.95 | 1.2 | 28.3 | 〃 | | 甕 | 〃 | | M3 | II | ⑰ |
| 68 | 4.2 | 3.6 | 3.9 | 1.1 | 22.3 | 〃 | | 擂鉢 | 〃 | 一部欠? | P2 | I | |
| 69 | 2.7 | 2.2 | 2.45 | 0.8 | 6.8 | 〃 | | 甕 | 〃 | | P2 | I | ⑭ |
| 70 | 1.8 | 1.6 | 1.7 | 0.5 | 1.5 | 〃 | | 皿 | 〃 | | P2 | II | ⑬ |
| 71 | 2.6 | 2.3 | 2.4 | 0.5 | 4.6 | 〃 | | 壷? | 〃 | | P3 | I | |
| 72 | 4.1 | 3.0 | 3.55 | 0.7 | 11.1 | 〃 | | 壷? | 〃 | | S2 | I | |
| 73 | 1.9 | 1.4 | 1.65 | 0.4 | 1.1 | 〃 | 緑釉 | 椀 | 〃 | | S2 | II | ⑫ |
| 74 | 2.9 | 2.4 | 2.65 | 0.5 | 5.1 | 〃 | 京焼系 | 〃 | 〃 | | S3 | I | |
| 75 | 4.0 | 3.5 | 3.75 | 1.0 | 19.0 | 〃 | | 捏鉢 | 〃 | | S3 | II | |

## 2．石器

### ① 打製石斧（Fig.40～52）

打製石斧は総数で259点の出土をみた。その内訳は，完形品47点・基部74点・中間部26点・刃部112点となる。基本的には，両側辺がほぼ平行し刃部が湾曲する短冊形と，基部から刃部にかけて徐々に開いていく撥形の２種類に大別できる。例外として，きわめて大型の鋤的な用途が推定されるものと，分銅形を呈するもの，刃部を局部磨製した石斧等をあげることができる。完形・ほぼ完形の全様を知りうる47点の資料を分析すると，概ね短冊形とされるものは35点，撥型を取るものは10点，その他の形態のもの２点となる。

使用された石材は大多数が安山岩である。ごく少数，玄武岩も使用されている。安山岩は，

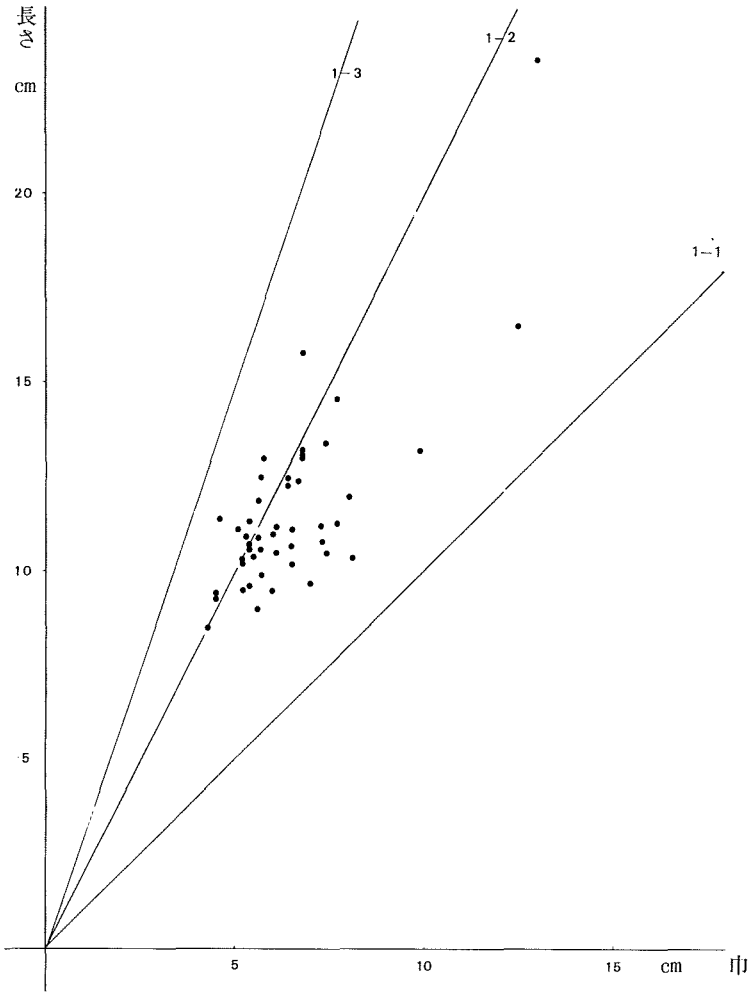



Fig.37　打製石斧計測グラフ

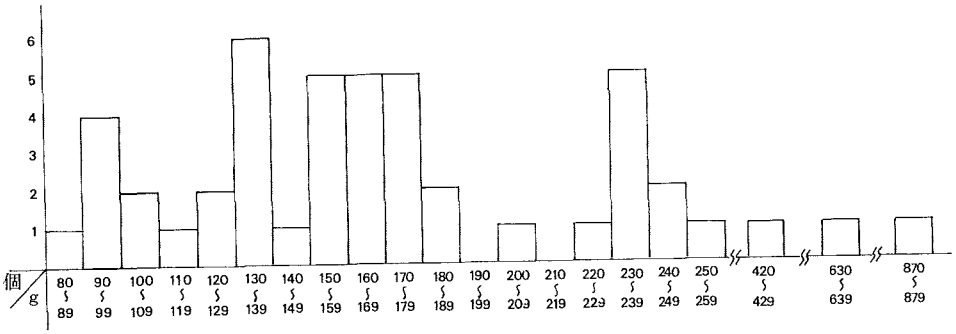



Fig.38　打製石斧重量グラフ

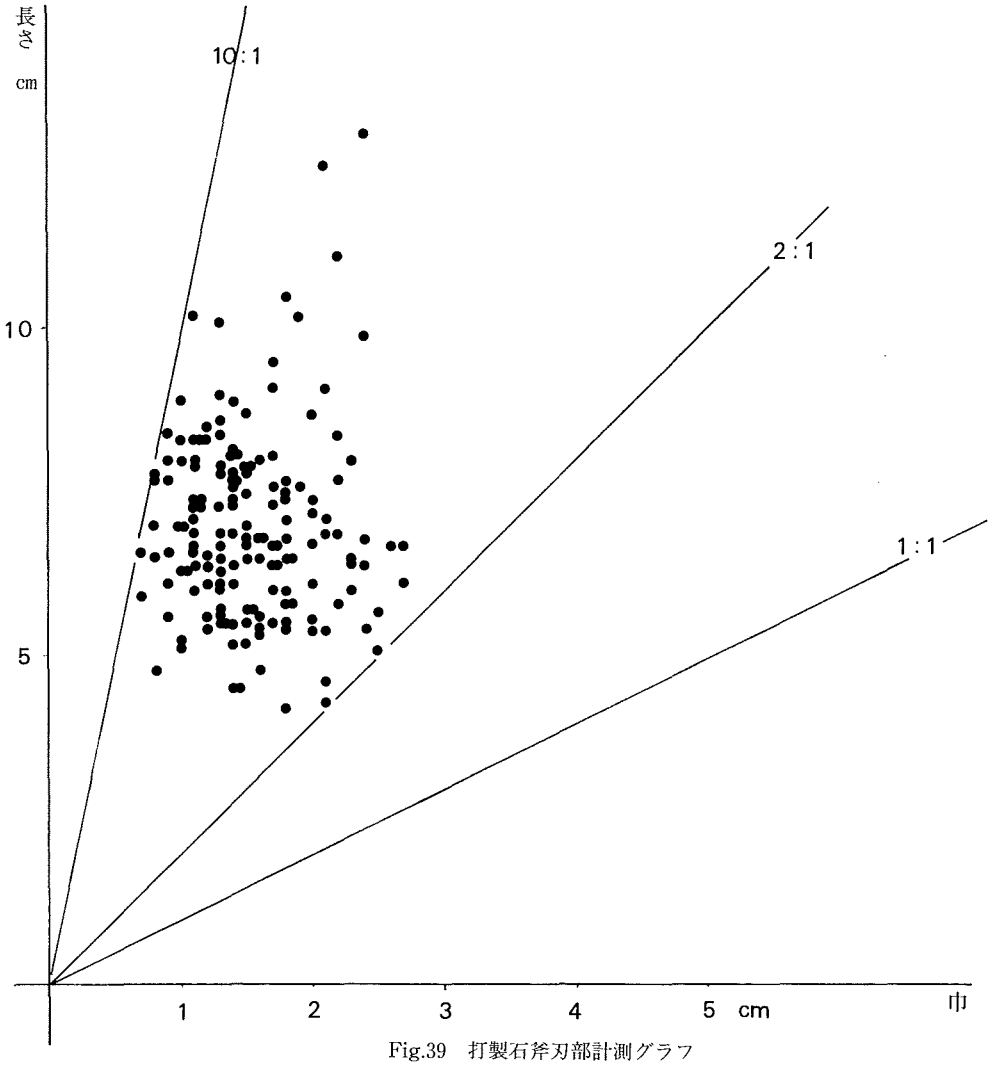



Fig.39　打製石斧刃部計測グラフ

遺跡の近傍に普遍的に見られる石材であり，その入手は容易であったものと思われる。打製石斧の主要剥離面の状態から推察すれば，原材としては原礫から打割して剥出したというよりもむしろ板状の節理に沿って剥落したものを使用したものと思われる。

**打製石斧の形態**

出土した打製石斧は，少数の例外を除いていわゆる扁平打製石斧といわれてるものの範疇に含まれてしまうものである。打製石斧はその平面形から次の大きく2形態に分類される。

Ⅰ型：両側辺がほぼ平行する短冊形を呈するもので量的に最も多いもの。刃部が湾曲し丸みを帯びる形状のものと，直線的な刃部を持つものに細分が可能である。

Ⅱ型：基部から刃部にかけて徐々にその幅を拡大していくいわゆる撥型を呈するもので，刃部が湾曲し丸みを帯びるものと直線的なものに分けられる。概してⅡ型の方が厚い傾向にある。

こうした形態の違いは何に起因するのであろうか。石斧の原材に対しての加工の度合いは撥型の方が短冊型に比べて大きい。しかも撥型の方がより部厚く重い傾向にある。また形態の違いに躊躇するものはほとんどない。このことは，こうした形態の違いが意識的になされたことを示していると考えられる。その違いは機能の差を示すものであろうか。

次に石斧の諸元を見てみよう。供給された素材を著しく変革するほどの加工が加えられたものは少なく，ほとんどの場合両面あるいは片面には節理面ないしは主要剥離面をもっている。その大きさを見ると，長さは9～13cmに集中し，幅は5～8cmを取る(Fig.37)長幅比の2：1の線がほぼ分布の中央を通る。刃部の幅と厚さについてみると，厚さでは1cm弱から2.5cmの範囲に集中しておりきわめて斉一性が高い(Fig.39)。扁平打製石斧を特徴づける扁平とはこの厚さが薄いことを意味するが，宮田遺跡においては節理で剥落した原材を用いており，それが供給された時点で厚さは決定しており，調整剥離によってそれを減じるということはない。黒丸遺跡等に比べて厚いものが目立つのはそのためであろう。次に重さは3点の例外的に重いものを除けば，80gから260gの範囲に入る。重さの分布は，130g・150～179g・230gの3つが突出している(Fig.38)。

次に刃部の形状についてみる。Ⅰ型・Ⅱ型とも，刃部が丸みをもつものと直線的なものとに分けられる。その違いは使用の状態を示すものではなく，製作の時点で既に意識されていることは折れた刃部の状態から推測される。

**使用痕について**

宮田遺跡は底湿地帯にあり，幾度となく河川の洪水に襲われたであろうことは想像に難くない。その結果，打製石斧をはじめとしてローリングを受けた石器も多く使用痕の認定は困難を極める。しかし明らかに使用痕と思われるものもあり，それは刃部の周辺に限定されている。類例が少ないのでそれが一般的な傾向かどうかは明らかではない。

**折れについて**

打製石斧はその多くが半分ないしは3つに折れている。刃部の近い部分ないしは中央部で折

れている場合がほとんどである。刃部に直交するように折れているものもいくつか見られる。出土した打製石斧の実に82%は折れており非常に消耗度の高い石器といえる。折れの方向については規則性は見いだせなかった。

打製石斧は従来縄文時代晩期に通有な石器であるとされている。またその機能については「土掘り具」という認識はほぼ共通しているものであろう。着柄することが予想されるものである。緊束痕は看取されないが緊束する部位が想定される部分の調整加工を見ると他の部分よりも大きくより薄くという傾向がある。折れる場合の部位は中央部が最も多く，刃部に近いものがそれに次ぐ。また，直交するような折れ方の例もあり，ある程度の使用状況の復元が可能である。

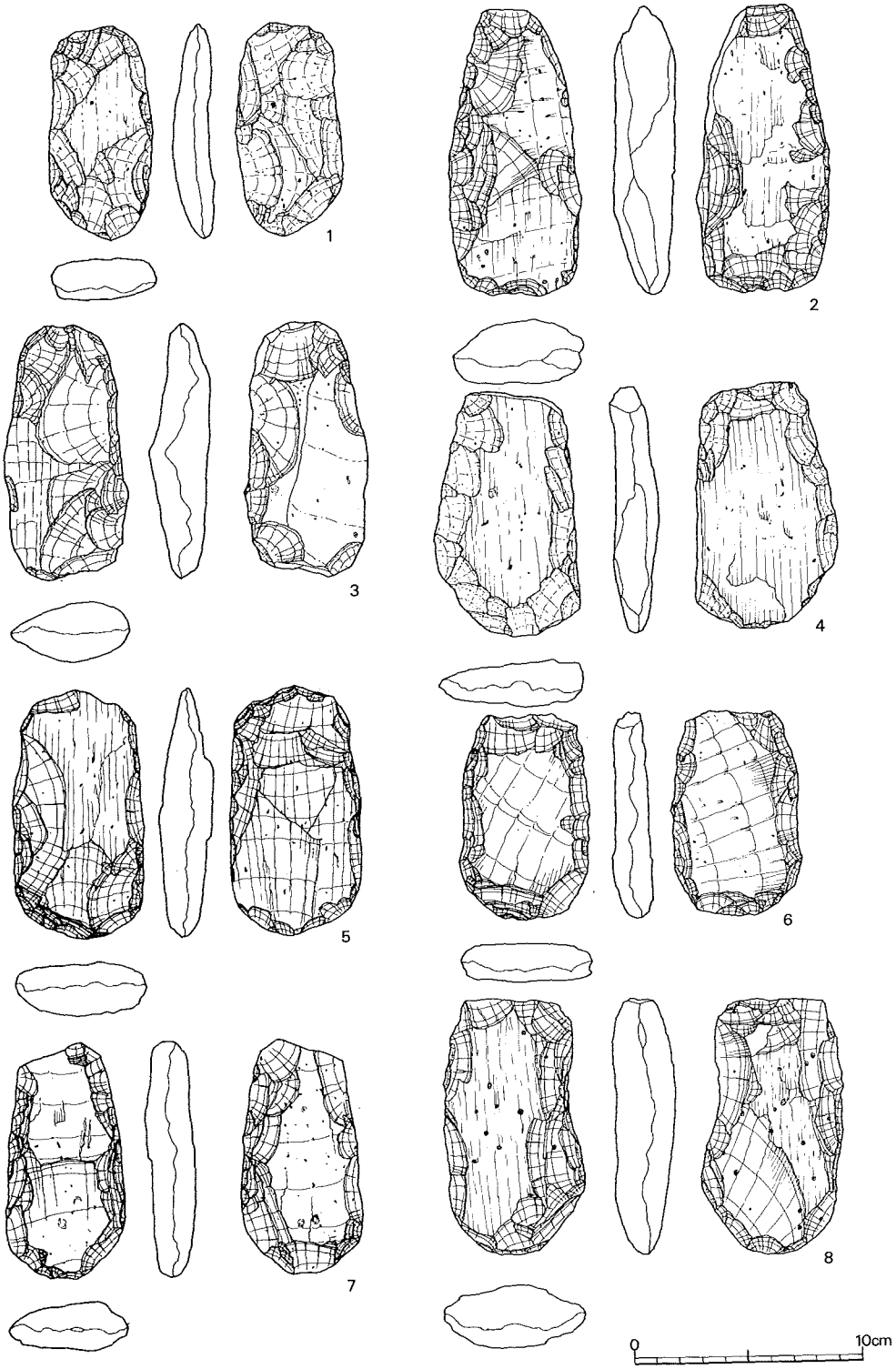



Fig.40　打製石斧実測図　①

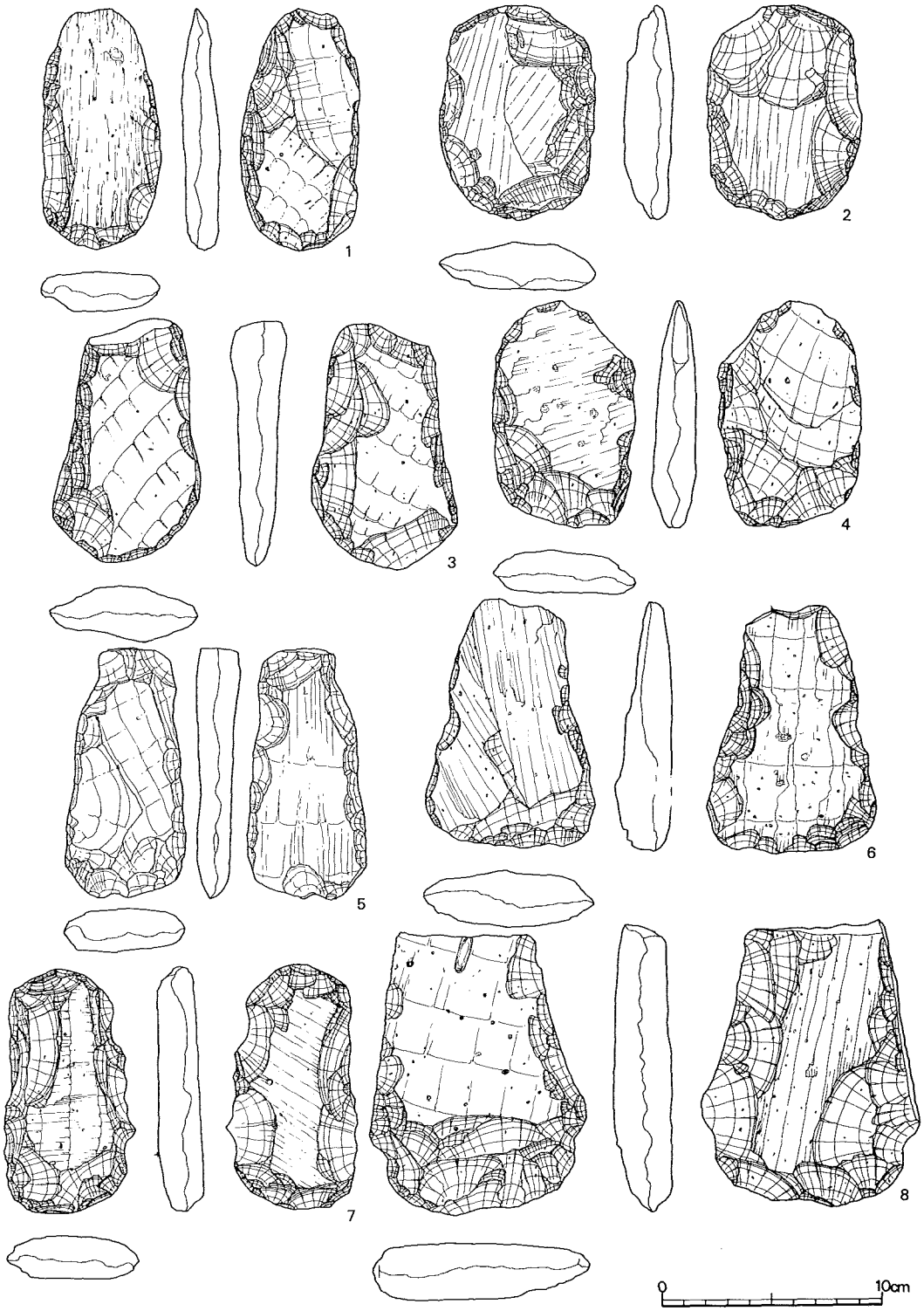



Fig.41　打製石斧実測図　②

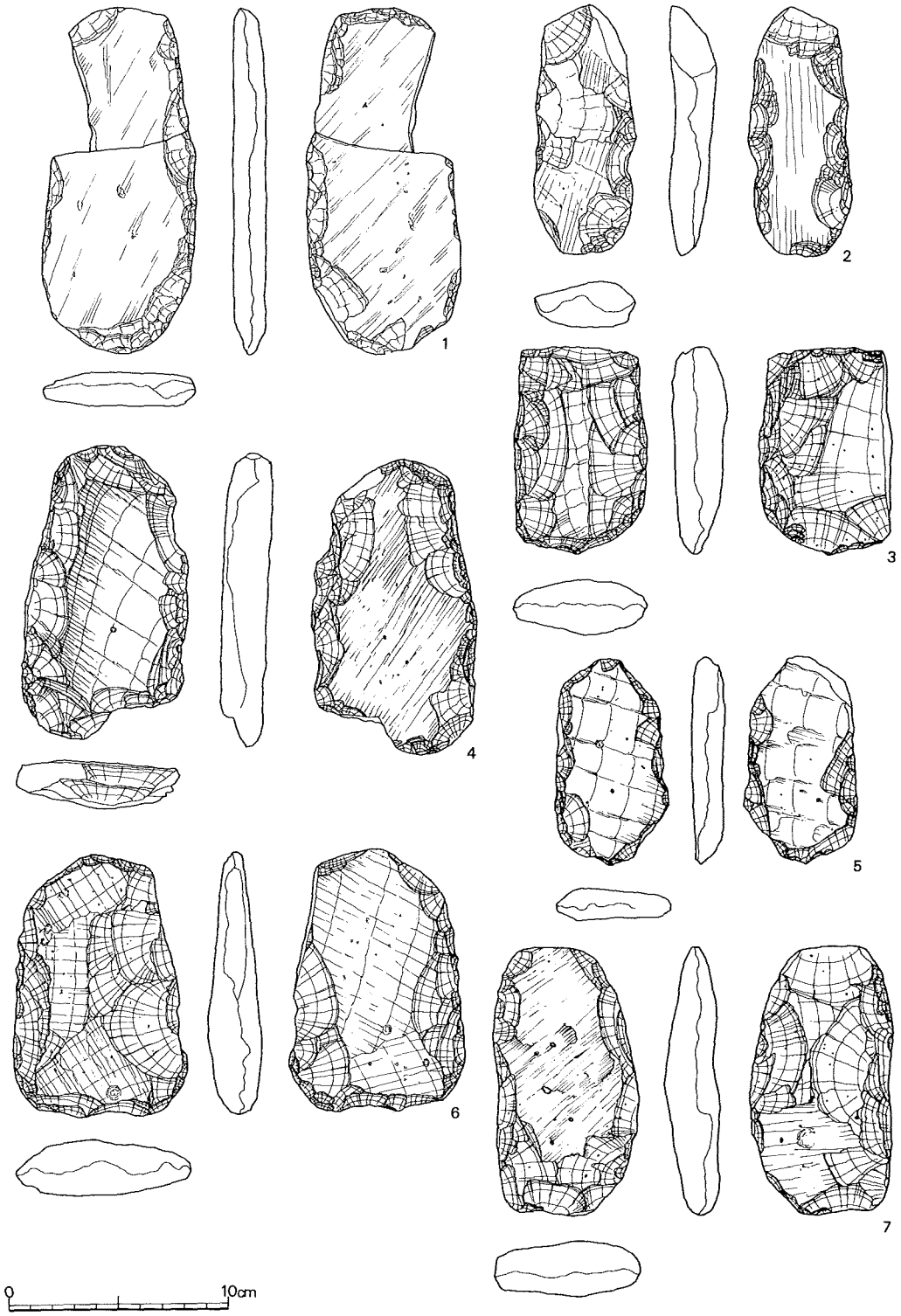



Fig.42　打製石斧実測図　③

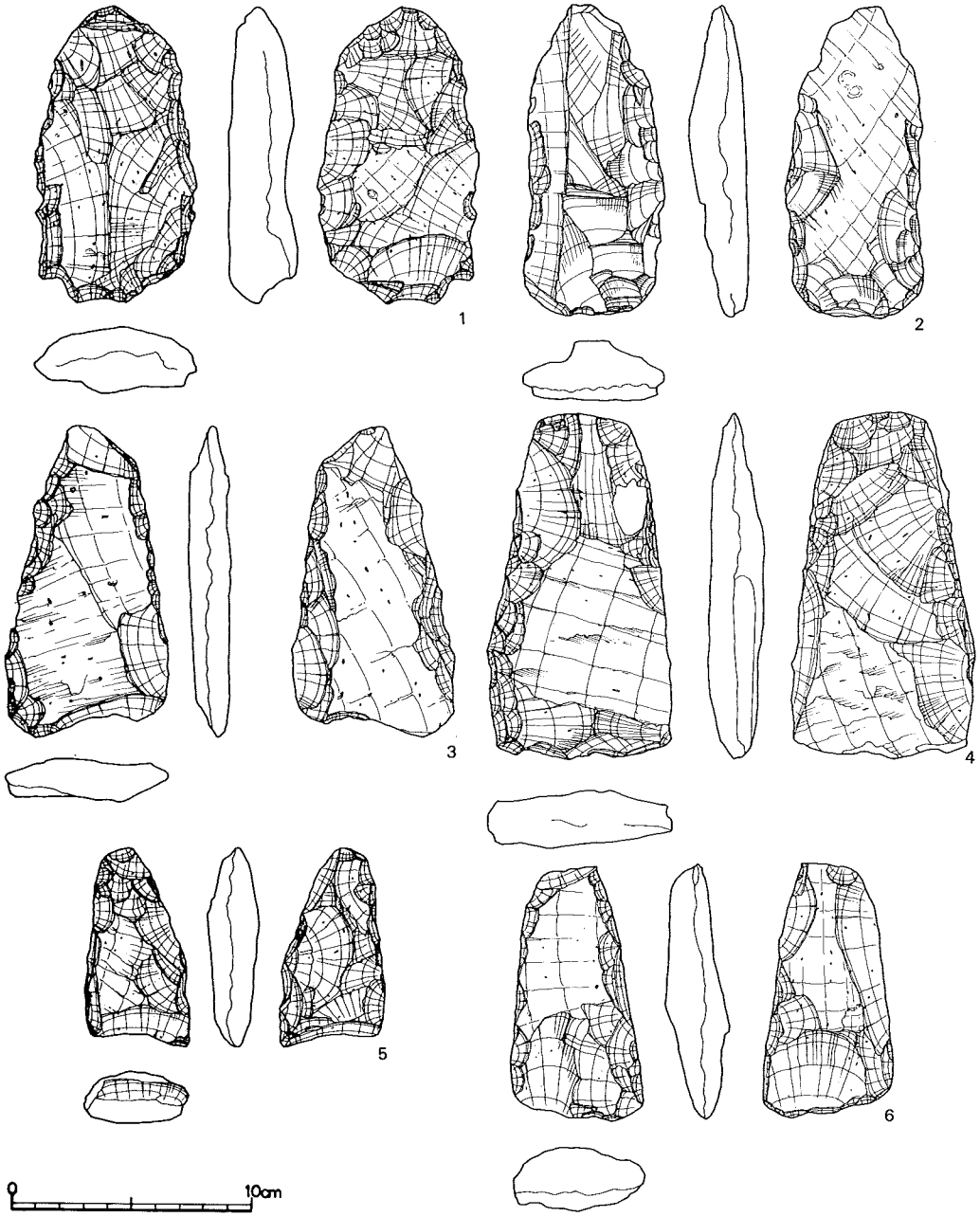



Fig.43　打製石斧実測図　④

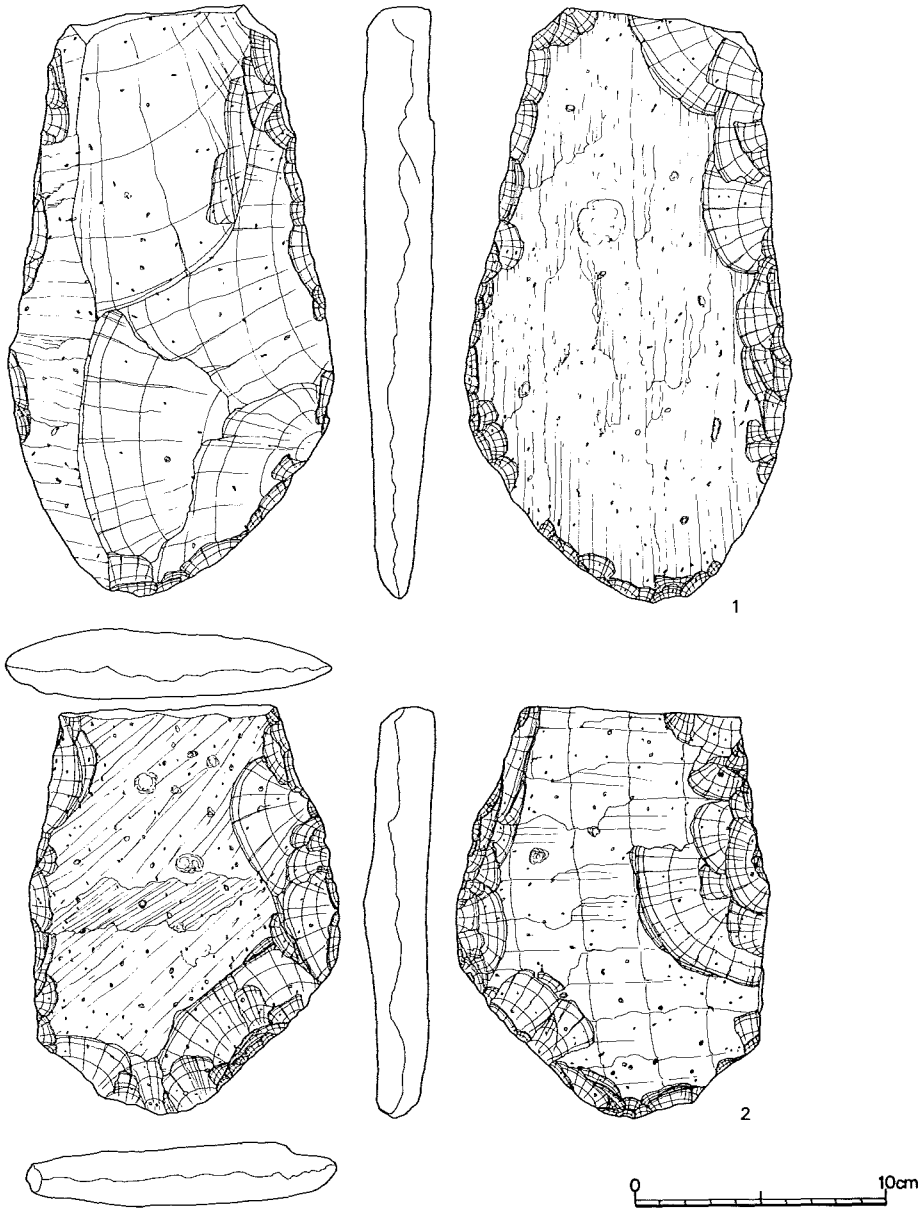



Fig.44　打製石斧実測図　⑤

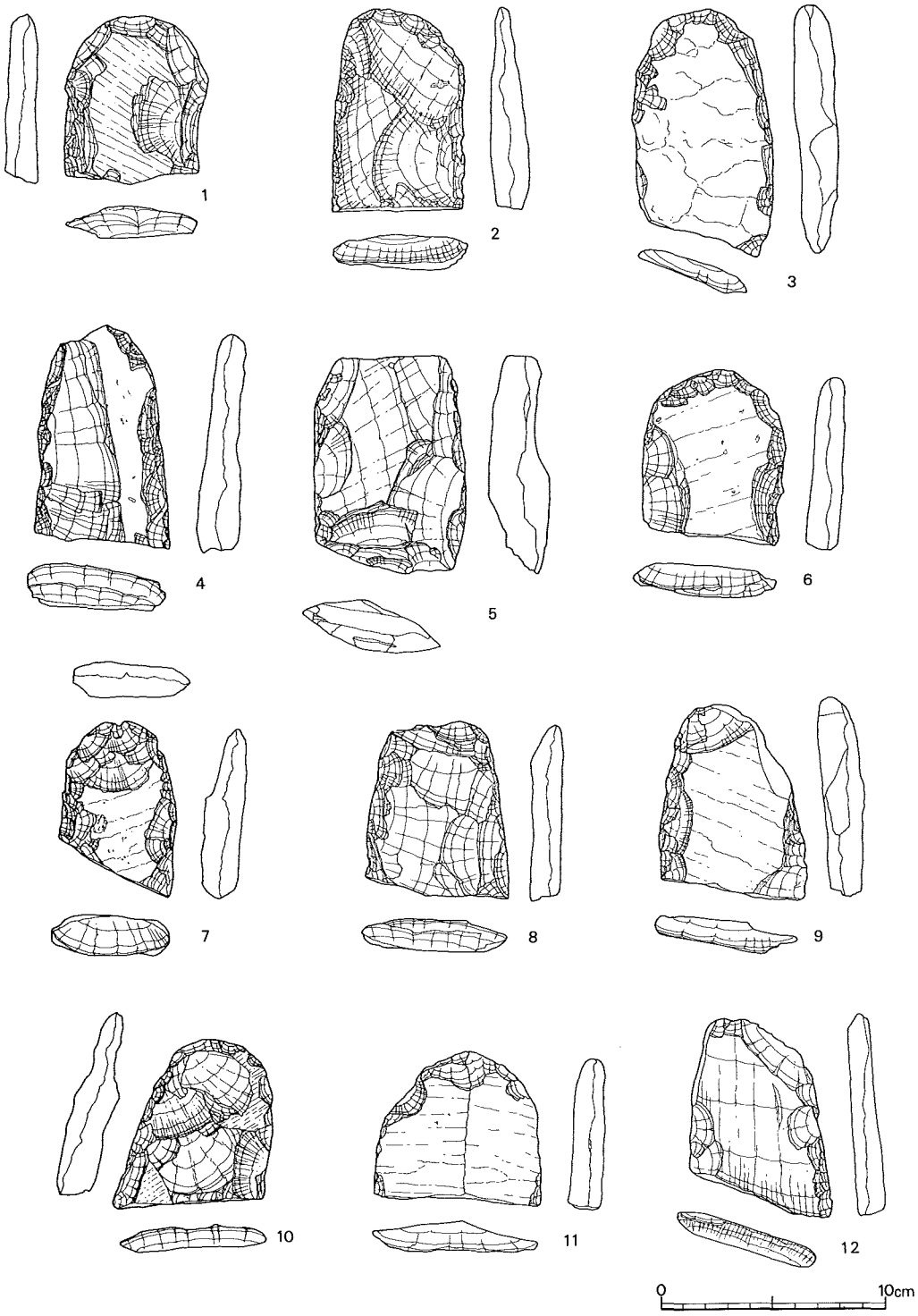



Fig.45　打製石斧実測図　⑥

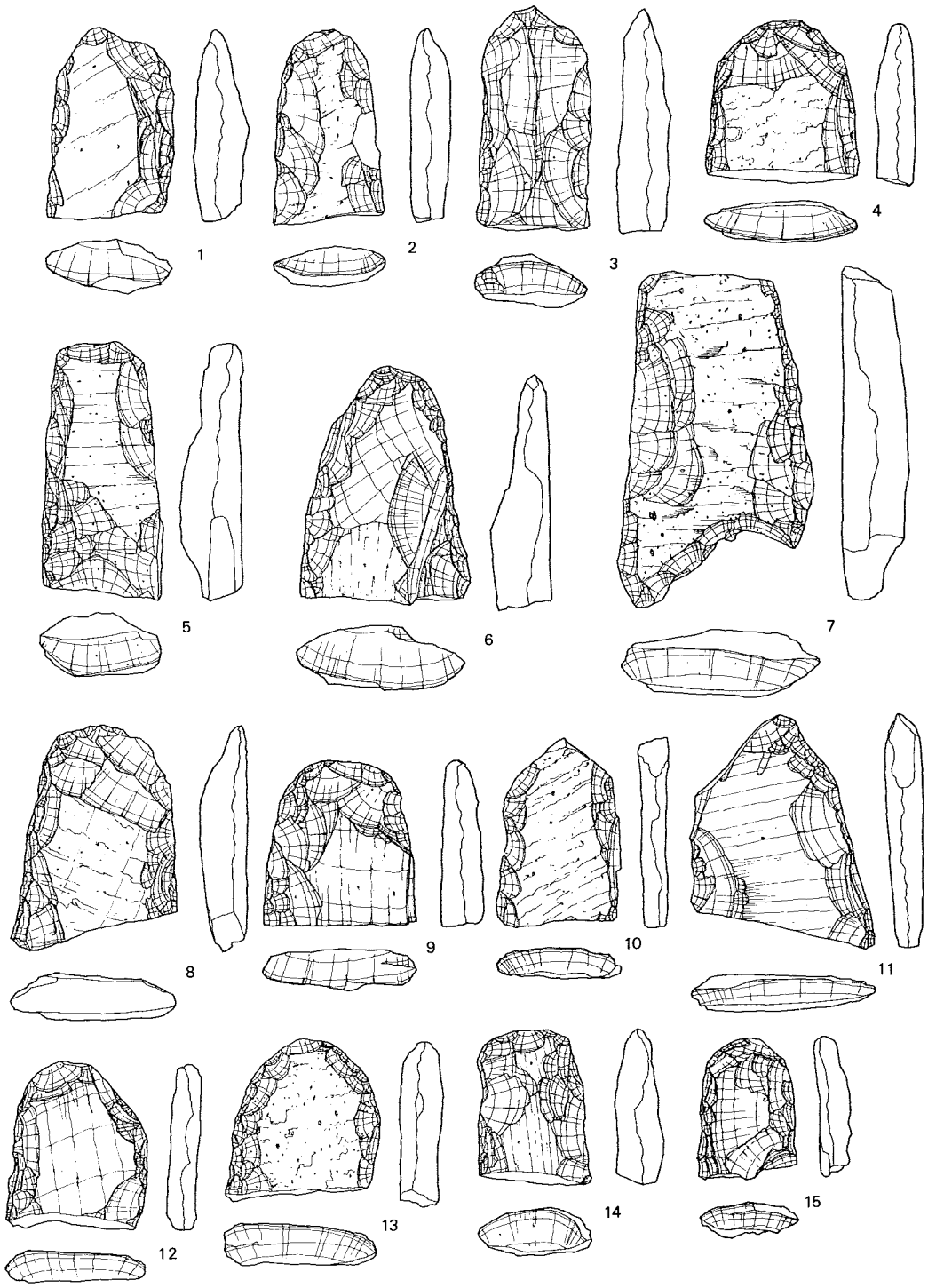



Fig.46　打製石斧実測図　⑦

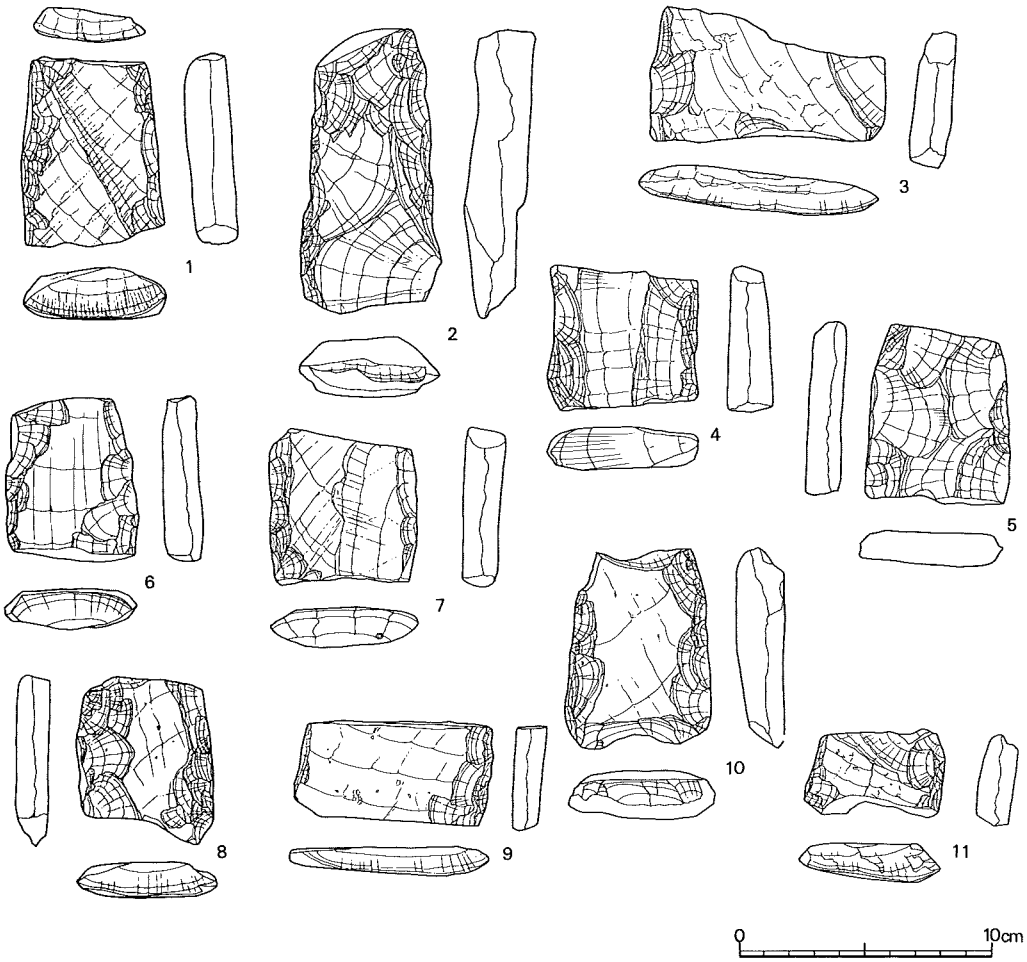



Fig.47　打製石斧実測図　⑧

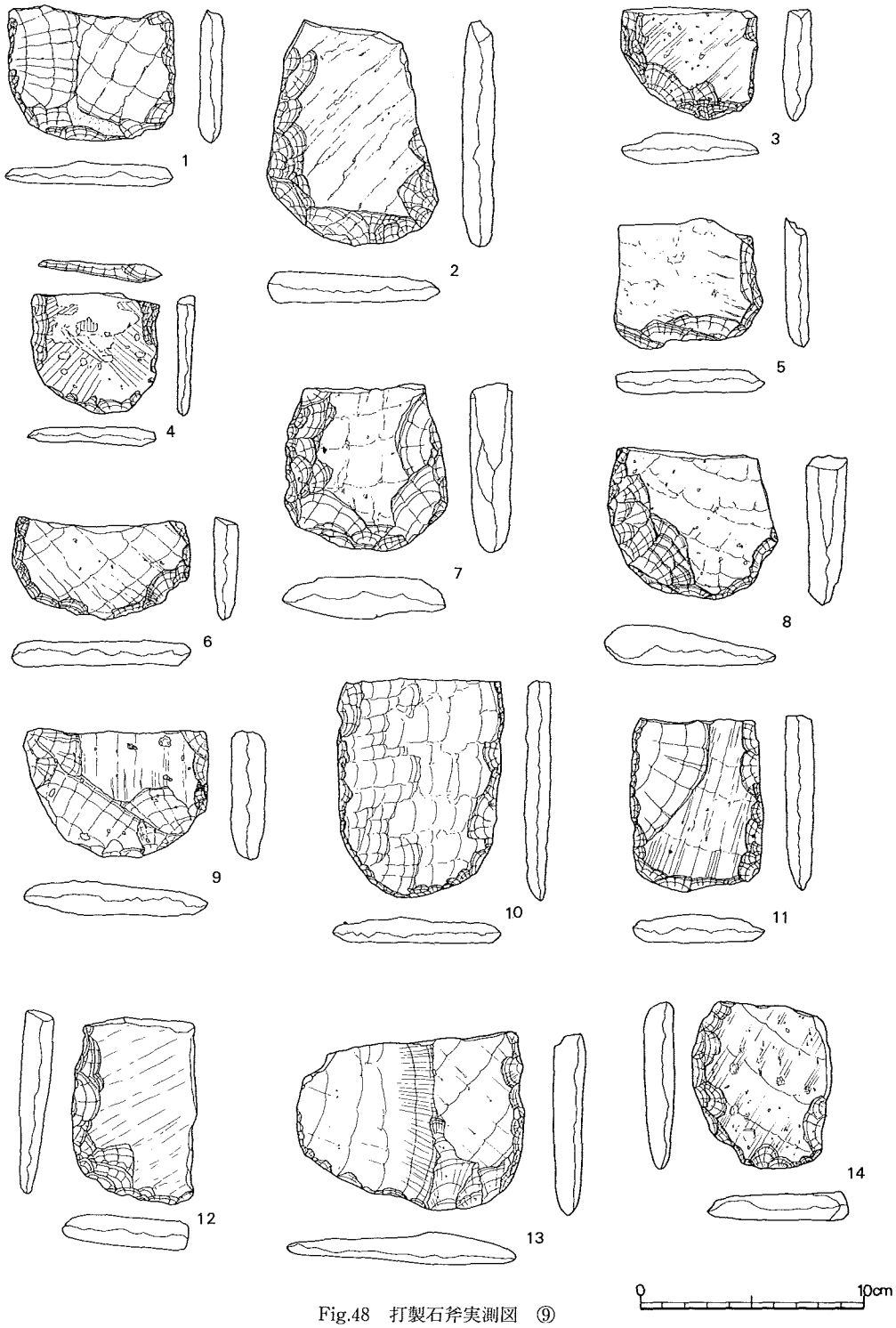



Fig.48　打製石斧実測図　⑨

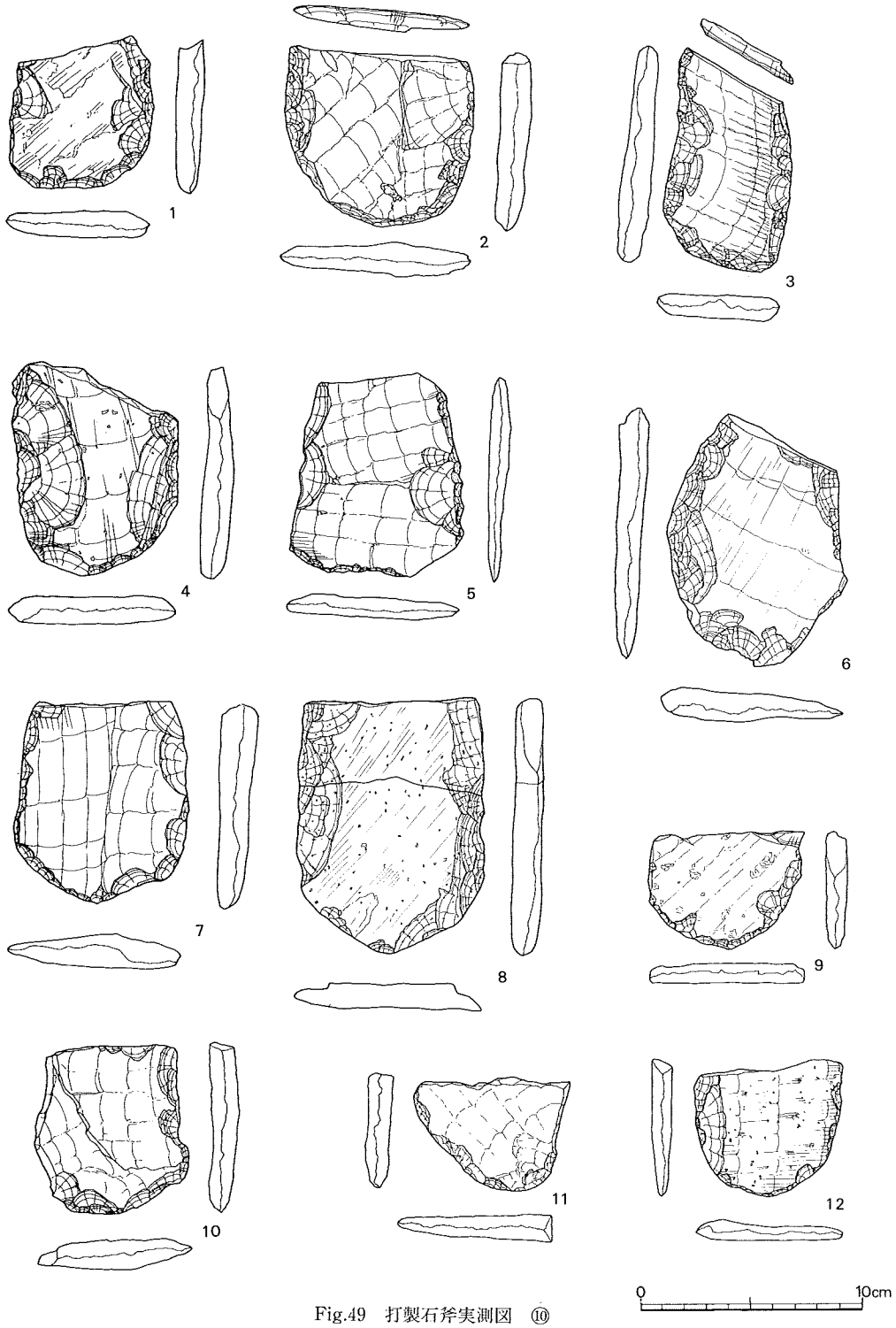



Fig.49　打製石斧実測図　⑩

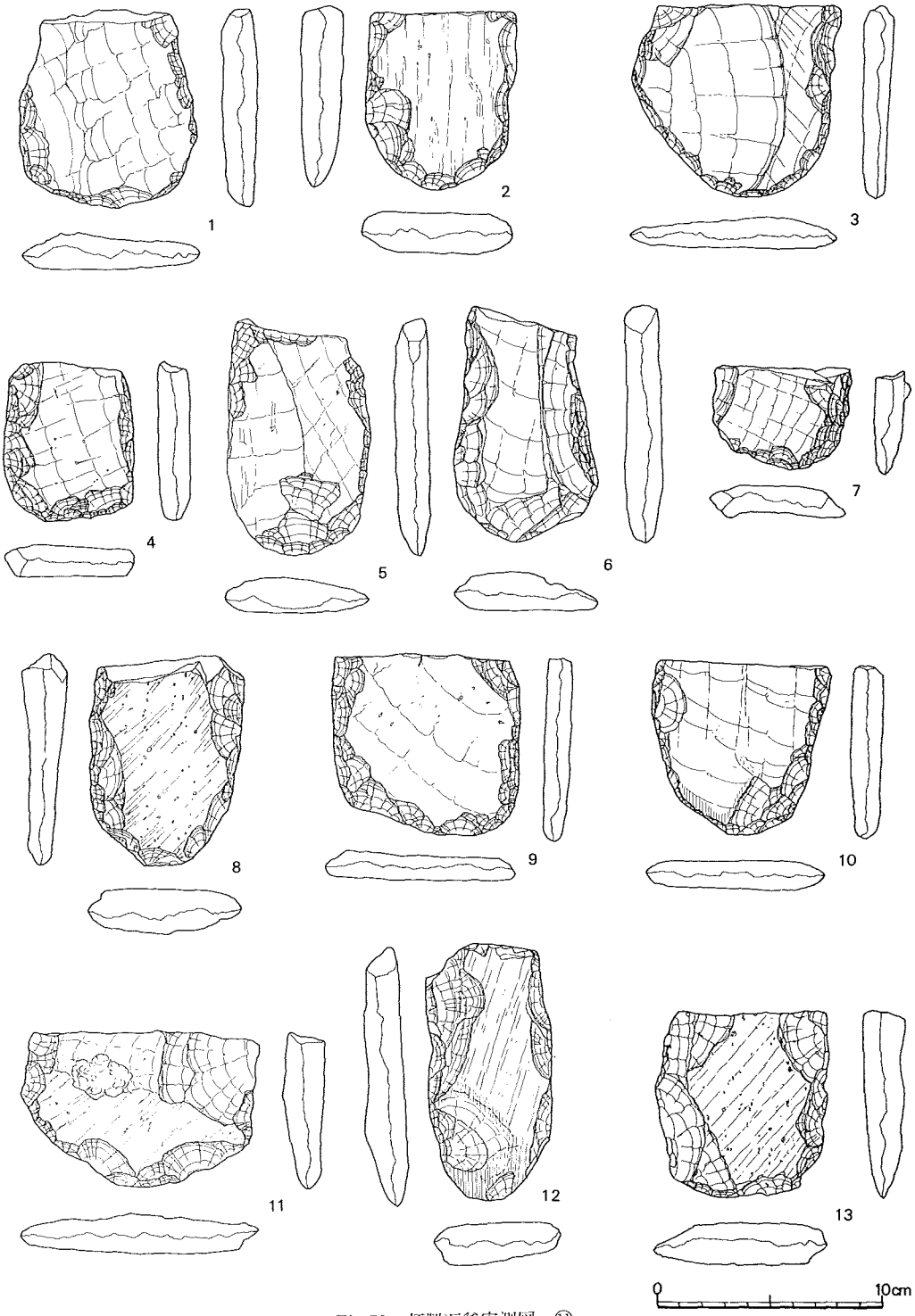



Fig.50　打製石斧実測図　⑪

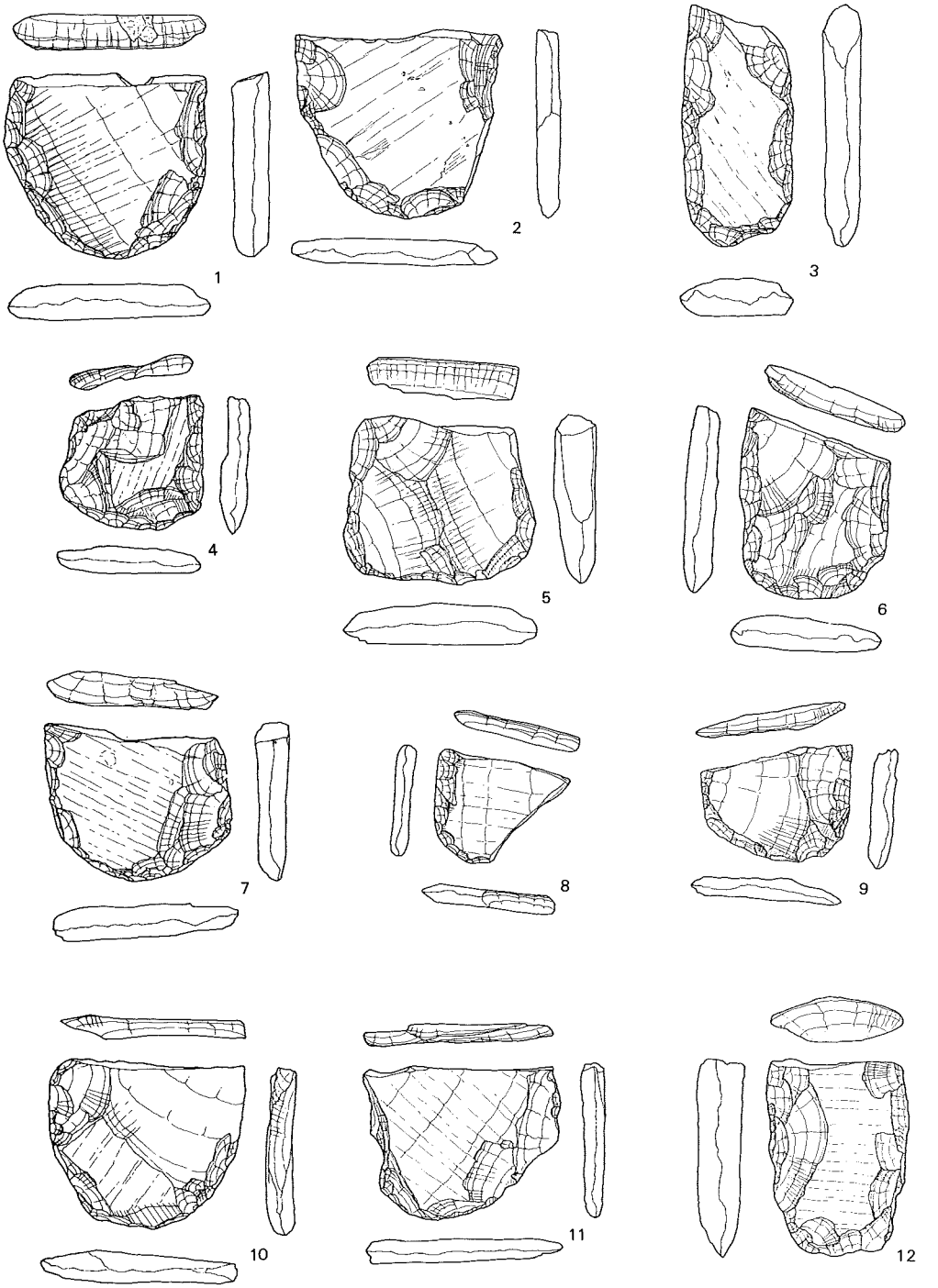



Fig.51　打製石斧実測図　⑫

0　10cm

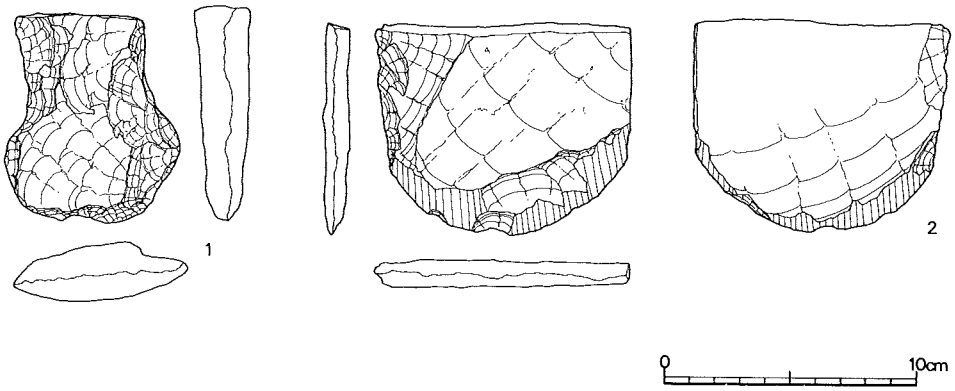



Fig.52　打製石斧実測図　⑬

## ②　剝片石器

**石鏃**（Fig.53～57）

総数200点あまりの石鏃が出土したが，図示したものは105点である。石質はそのほとんどが黒曜石であり，ほんの数点が安山岩である。概して，安山岩製の石鏃の方が大型である(Fig.53-**19**, 54-**2**・**12**・**22**, 55-**13**・**16**・**18**・**19**)。形態的には大きく分けて次の３種類に分類できる。

Ⅰ型：凸基を持つもの。基部の抉りには深浅があるがここでは一括して扱った。

Ⅱ型：直線的な基部を有するもの。

Ⅲ型：凹基を持つもの。

Ⅰ型に属するものが量的には最も多く，主体的な位置を占めるものと思われる（Fig.53, 54)。抉りの深浅・脚部の在り方等で細分も可能である。また，局部磨製石鏃・剝片も検出されており，必ずしも単一な時期の所産ではない。Ⅱ型は基部が直線的なものである(Fig.55, 56－**1**～**6**)。その中には平面形が五角形をなす特異なものがあり特筆されよう。Ⅲ型は基部が丸みを帯びるものである。先端部もⅠ・Ⅱ型に比べて鈍角である。黒丸遺跡の報文中で稲富裕和氏はⅢ型をサイド・ブレイドと認識しているが，ここでは一応石鏃の範疇に含めることとしたい。Fig.58-**1**は尖頭器的な形状の石鏃である。黒曜石製で非常に丁寧な加工が施されている。

**石槍**（Fig.58-**2**・**3**, 59-**2**)

Fig.58-**2**は黒曜石製の石槍である。粗い調整剝離で未製品かとも思われる。主要剝離面は除去されているが，自然面を一部残す。Fig.58-**3**は安山岩製の石槍である。形態的につぐめの鼻遺跡で出土した石銛に酷似するがここでは弥生時代の石槍と認識する。Fig.59-**2**は両端を欠くが調整のあり方から判断して石槍とした。安山岩製である。

**サイド・ブレイド**（Fig.58－**4**・**5**・**7**)

石鏃のⅢ型との区別が難しいが，ここでは長さと幅の比が２対１以上のものをサイド・ブレイドとした。Fig.58-**4**・**5**・**7**。**4** は調整がややラフであるが，**5** と **7** はともに黒曜石の縦長剝片を

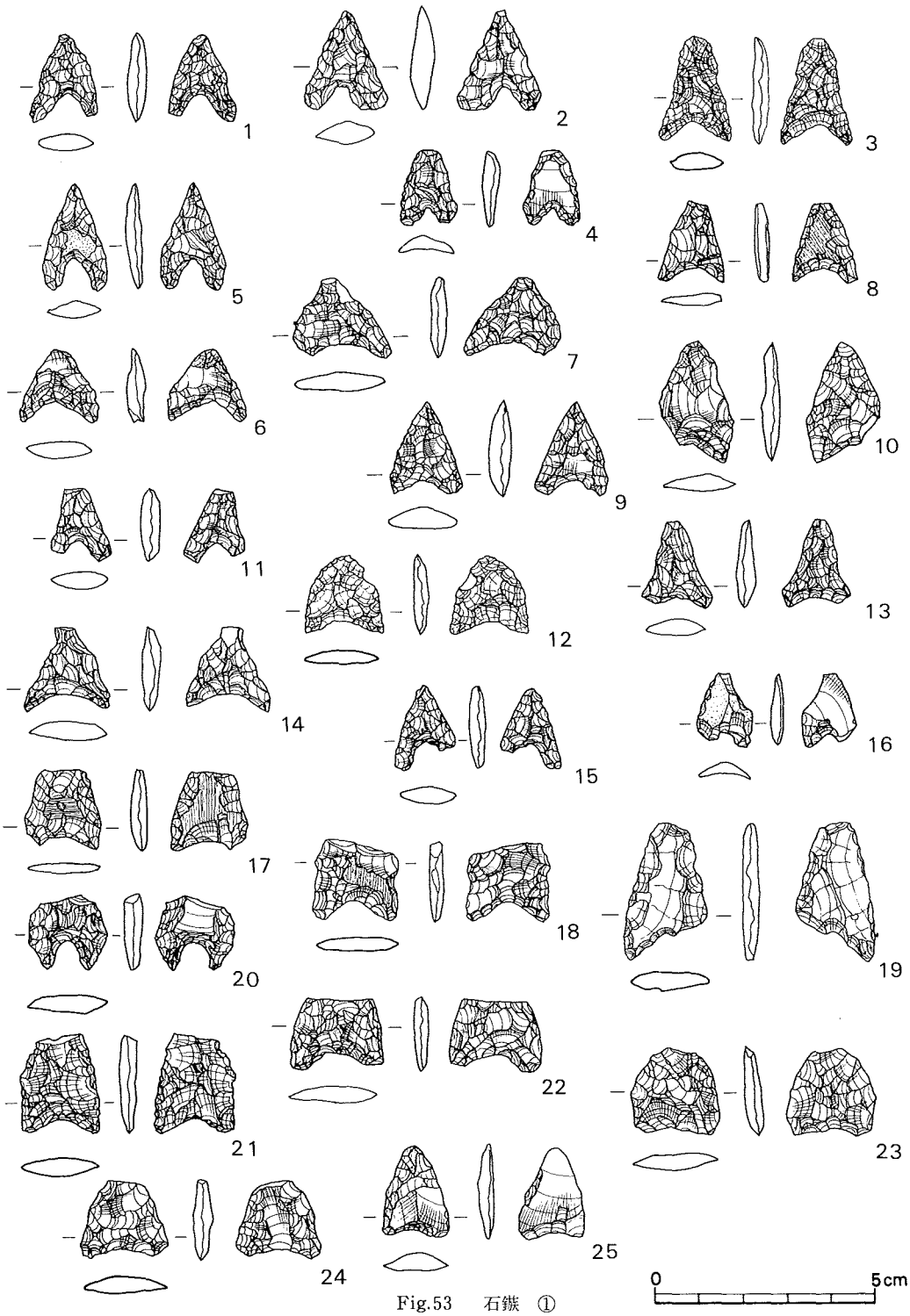



Fig.53　石鏃 ①

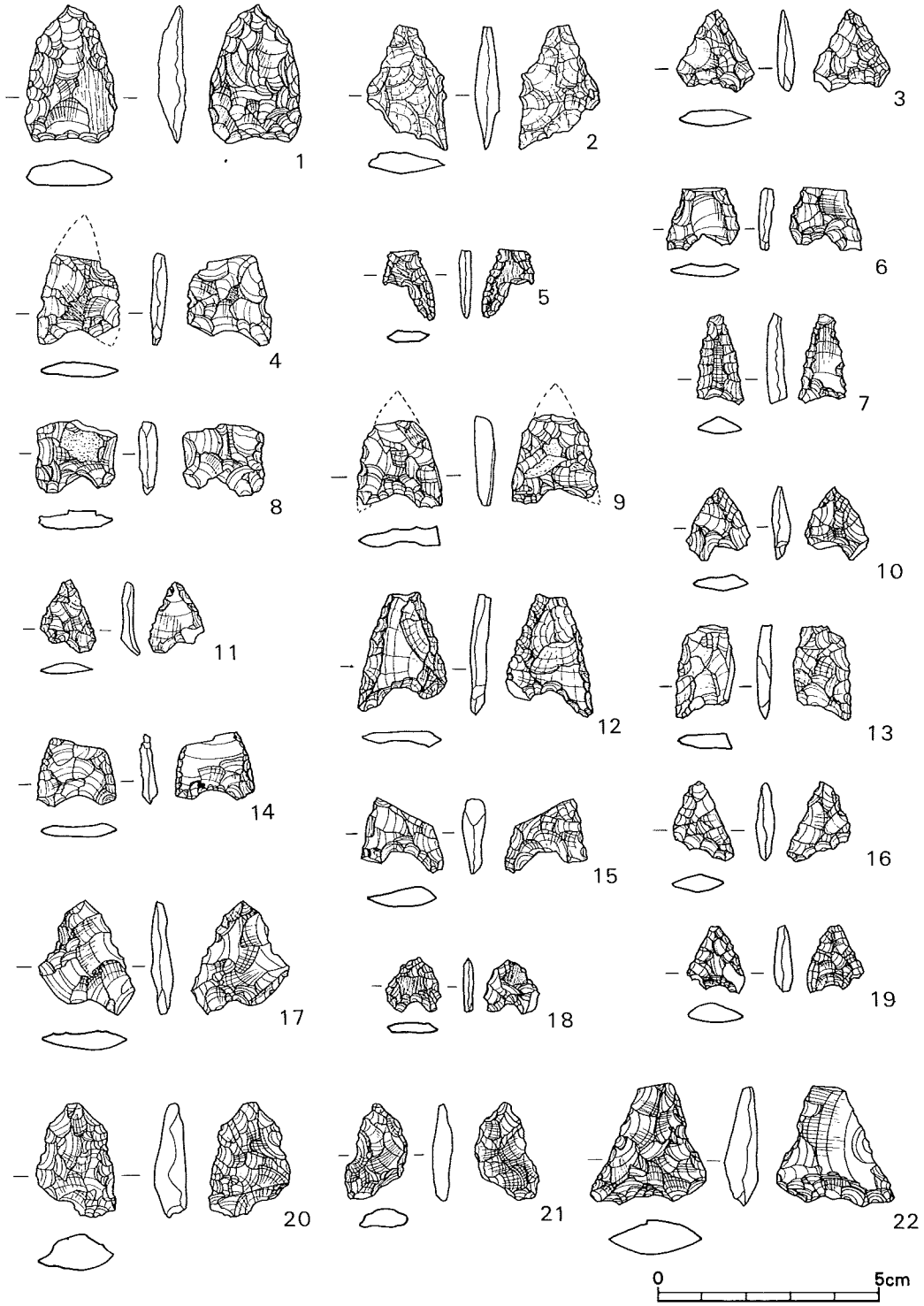



Fig.54　石鏃　②

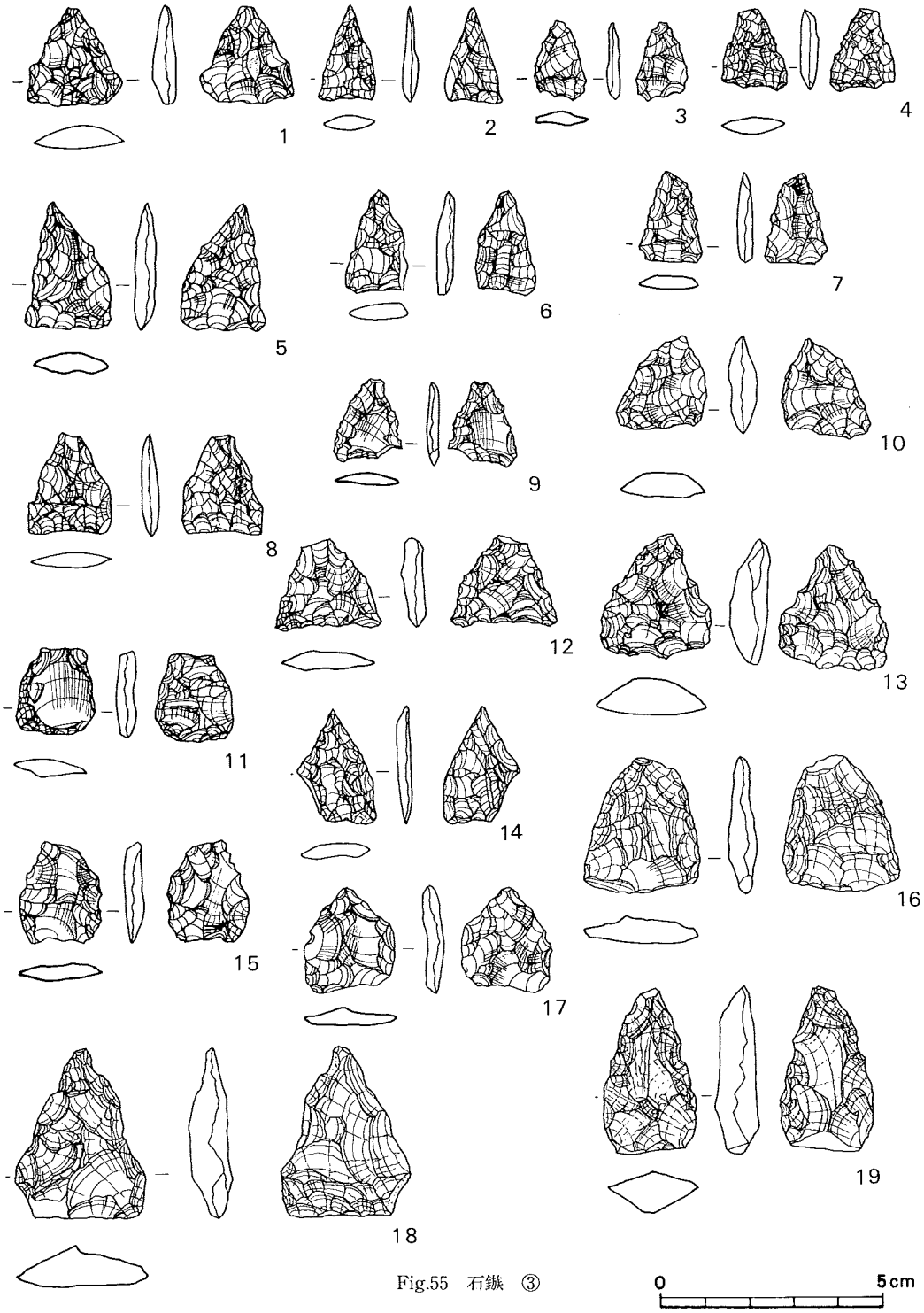



Fig.55　石鏃　③

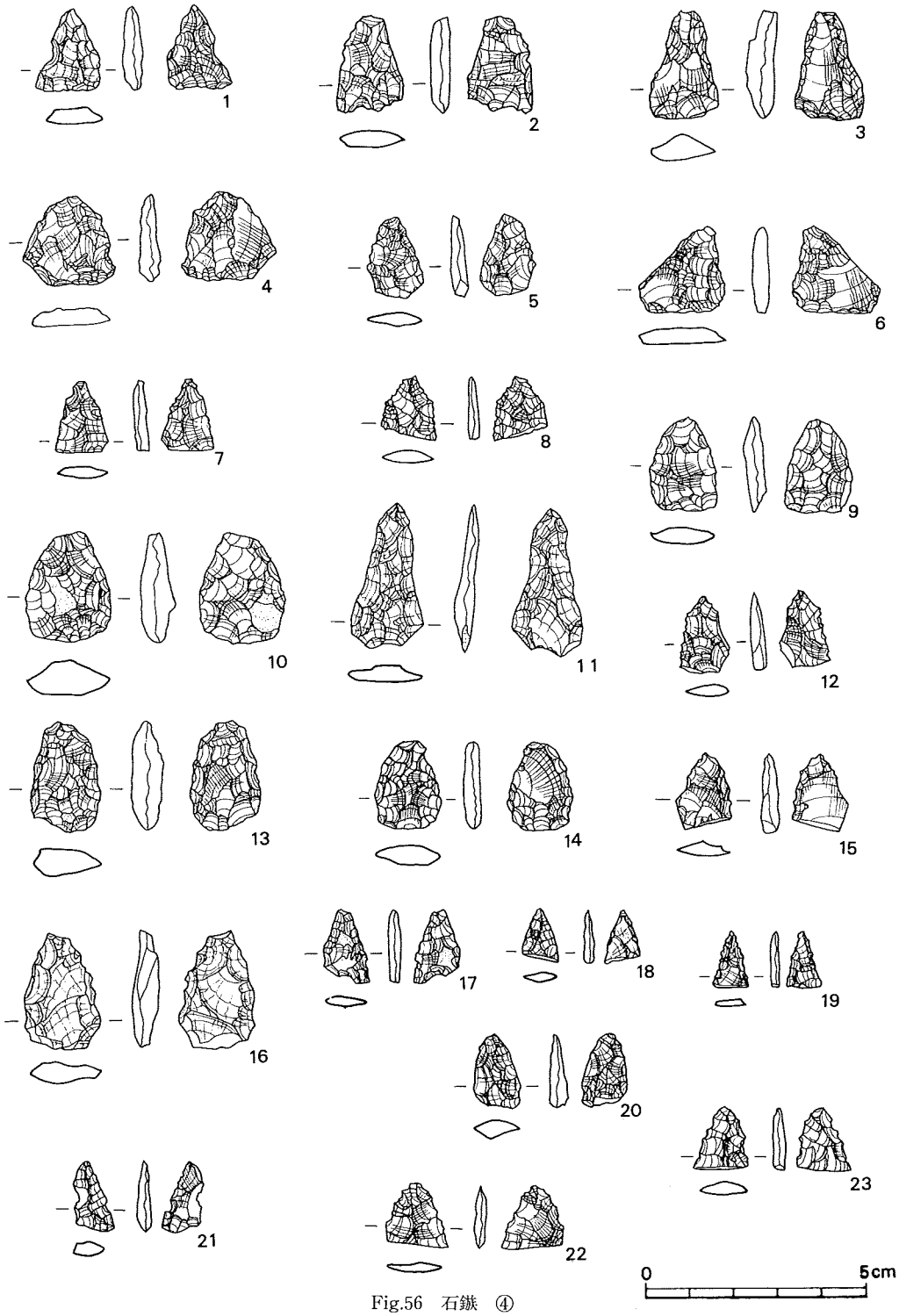



Fig.56　石鏃　④

Fig.57　石鏃　⑤

使ったもので調整のあり方が非常によく似ている。

**石錐**（Fig.58－6）

黒曜石の不定形剥片を素材とする。基部から先端部にかけて4表裏両方向からの丁寧な二次加工が施され，断面は菱形を呈する。

**石匙**（Fig.58－8）

縦長の分厚い石匙である。安山岩製。つまみ部の一部に自然面を残し作り出しも粗い。表面に主要剥離面を残すが，刃部の形成は割りと丁寧になされている。

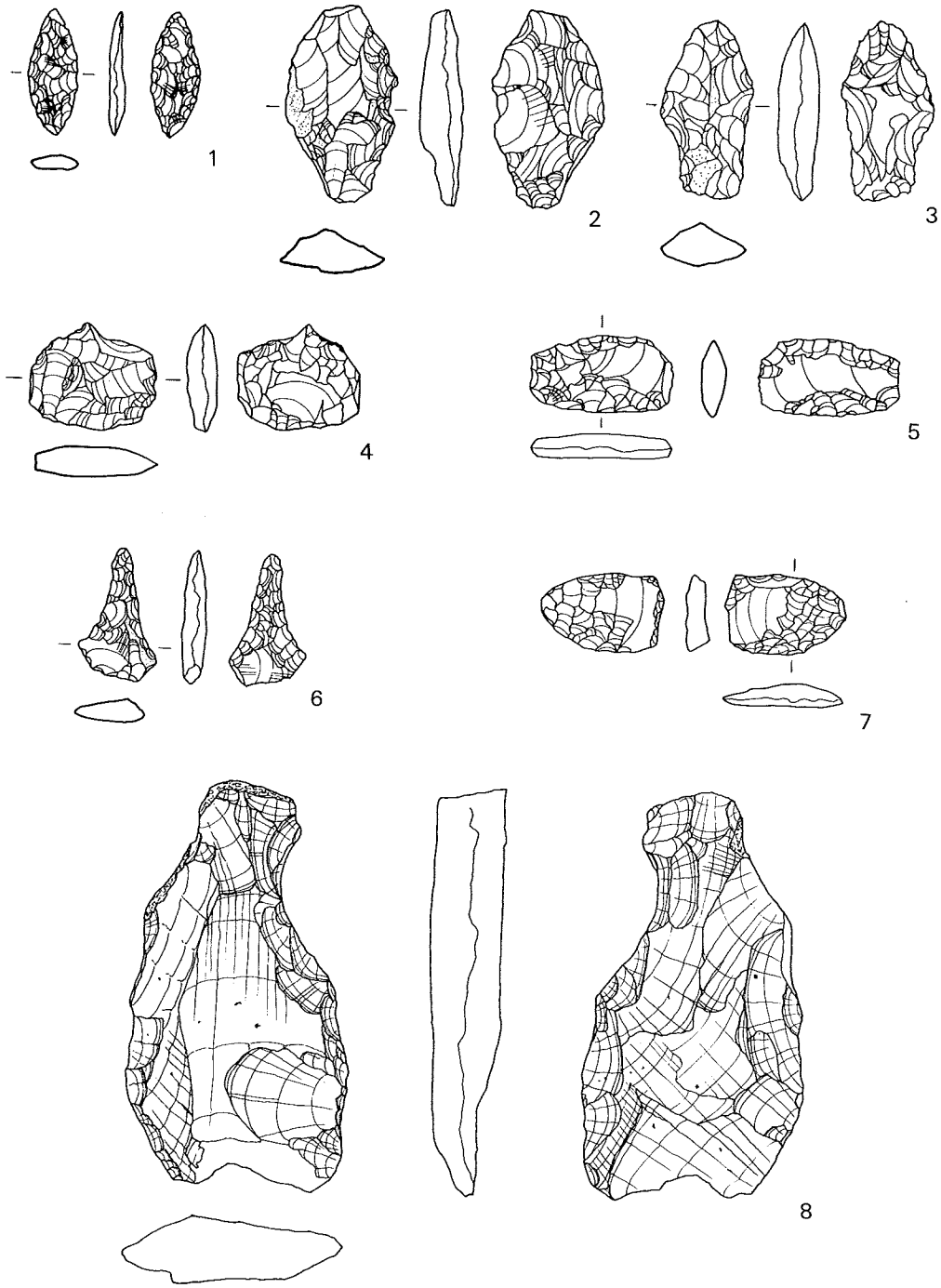



Fig.58　石槍・サイドブレイド・石錐・石匙

**削器**

Fig.59-**1**・**35**, 60-**13**。すべて安山岩製である。Fig.59－**1**は左側辺に細かい調整で刃部が作らている。Fig.59－**3**～**5**，Fig.60－**1**～**3**はいずれも不定形剥片を素材としている。刃部加工の態様は一様ではないが，概して粗雑な感がある。

**石核**（Fig.61－**1**～**6**）

出土した石核は，いずれも黒曜石製の石核で，安山岩製のものは検出されなかった。原材には，伊万里腰岳原産と思われる黒曜石を使用している。石核の一部に残されている自然面を観察すると，おおよその原石の形状は鶏卵を若干大きくした程度の円礫かあるいは角礫と思われる。Fig.61－**1**は底面及び背面に自然面を残し，原形は角礫状を呈する。打面には調整剥離が施されているようにみえるが打面調整とするには躊躇するところがある。最後に剥出された剥片は長さ2cmあまりの寸づまりのものである。**2**は残された自然面から円礫を素材とするものと思われる。打面調整はない。**3**は底面の一部に自然面を残している。角礫。細石刃に近い縦長の剥離痕が看取される。**4**は両面加工の石器によく似たものであるが自然面の残り方からここでは石核と認識した。**5**はどちらかといえば分厚い剥片とも言えないことはないが，2条の剥離痕が見られることから石核と考えた。**6**は背面に自然面を大きく残し原形の推察が容易な石核である。径4cm余りの円礫である。

基本的には打面調整はなされていない。打面には自然面を使うこともあるが，剥片を剥出した面を使うことの方が多い。また打面はアトランダムに移動しており規則性は見いだすことができない。

石核に残された剥離痕から推測すると剥出した剥片の長さはせいぜい2cmどまりである。剥片剥離が進行した結果を示しているのであろうか。**4**・**5**を除いてはまだ剥離作業は十分可能だと思われる。

**不定形剥片**（Fig.61－**7**～**12**）

この種の剥片は相当数出土しているがここでは6点を図示した。横長の剥片・寸づまりの剥片など定形化していないことが特徴といえるかもしれない。一見すると打面調整剥片かと思われるようなものもある。

**縦長剥片**（Fig.62, 63, 64）

ここでいう縦長剥片とは，概ね長さが幅の2倍以上のものをさす。図示した縦長剥片については次のような特徴を指摘できる。まず，長さはほぼ3～5cmの範囲に幅は1～2cmのそれにほとんど集中し斉一性が強い。自然面を持つものが多い。打面はほとんど調整されておらず，自然面を打面とするものも多い。剥片に残された打面の厚さは広狭様々で，一定していない。打面の厚さの違いは剥片の厚さにも関連している。このような打面の厚さの違いは直接打撃によるものと理解される。平面形はバラェティに富んでおり定形的なものはない。

ここで問題となるのはこうした縦長剥片を剥出した石核が存在しないことである。前述した

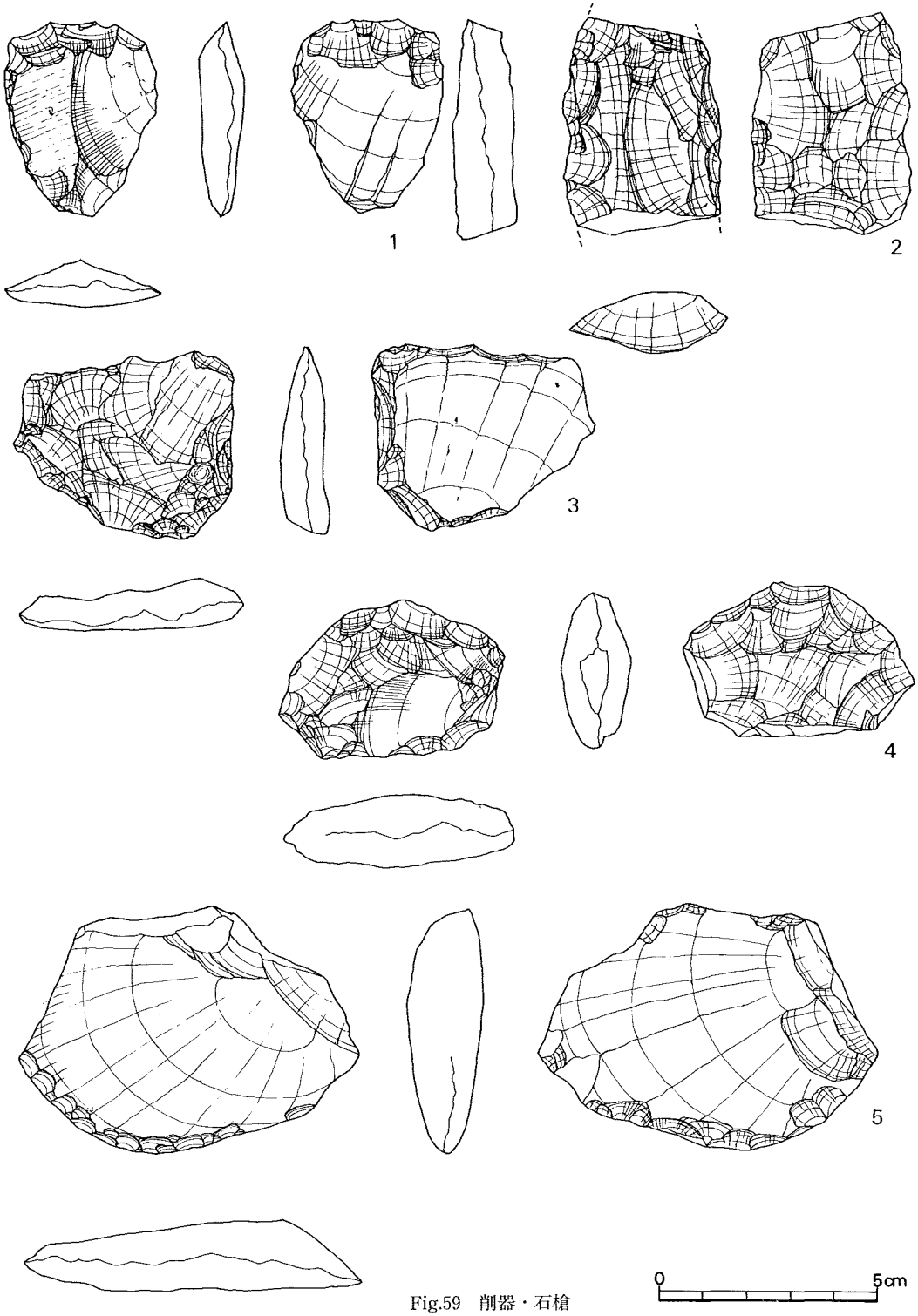



Fig.59　削器・石槍

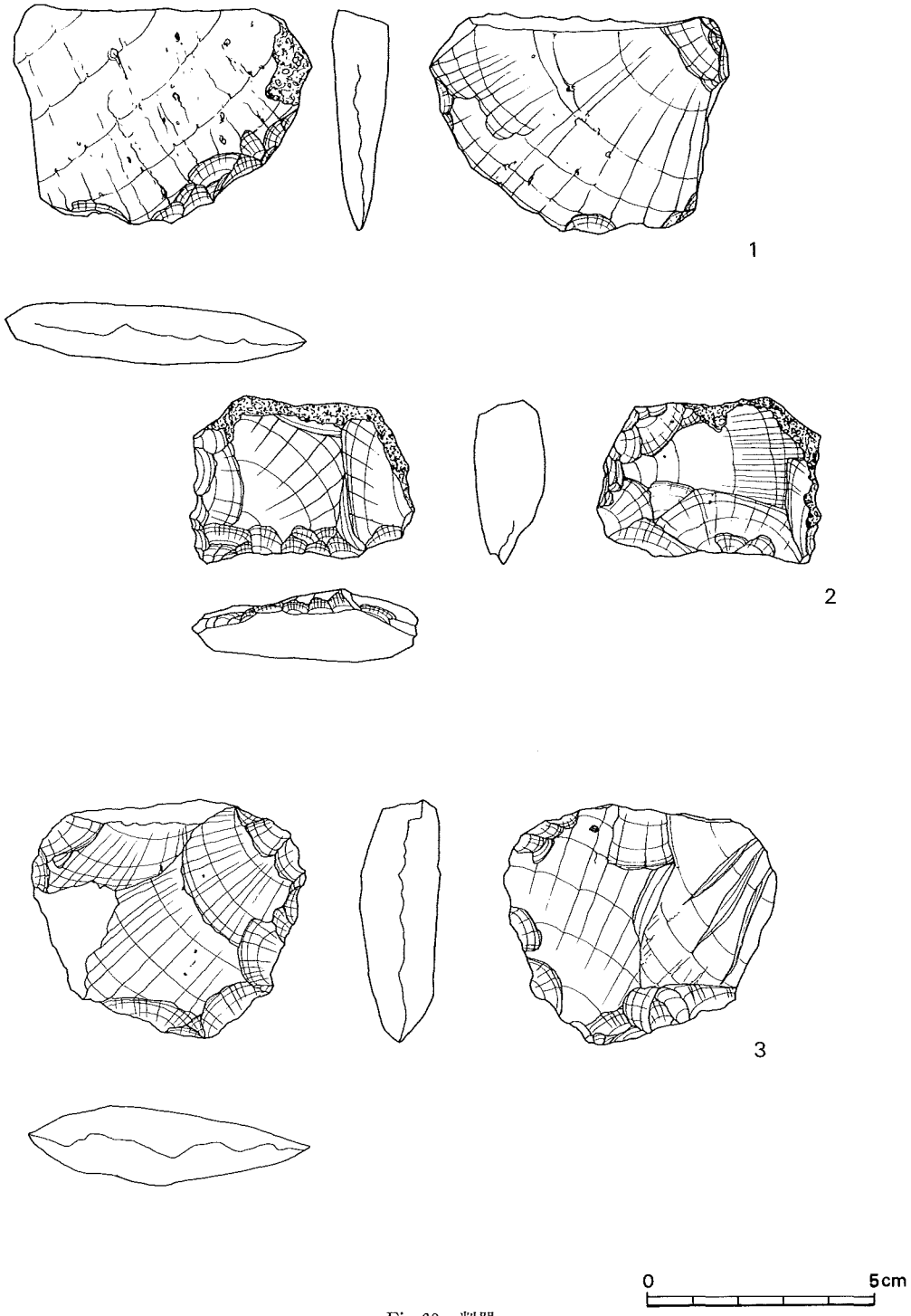



Fig.60　削器

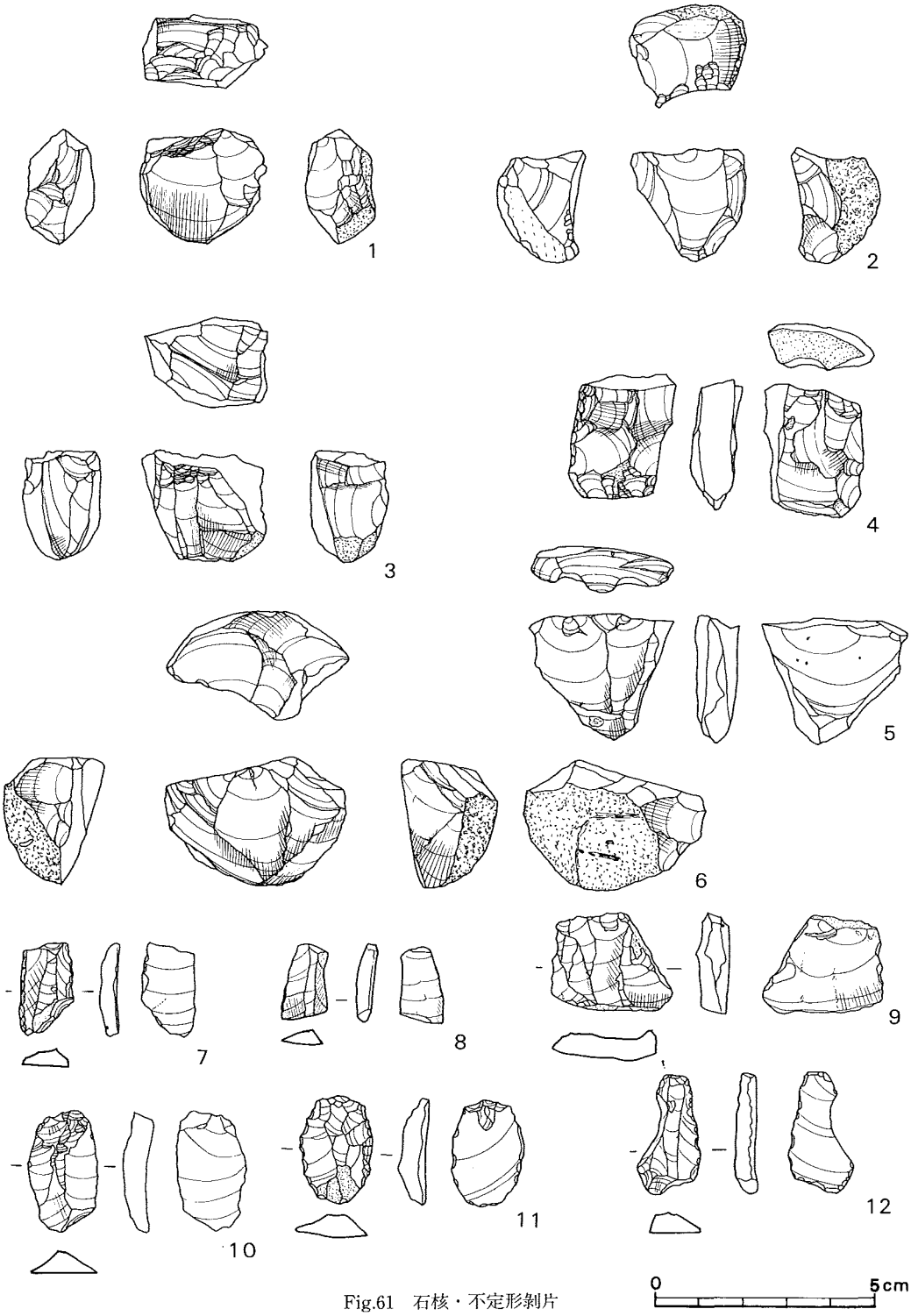



Fig.61　石核・不定形剥片

Fig.62　縦長剥片　①

石核に残された剥離痕は到底この長さを満足させえないのである。石核を残核と見るならば3cmの長さの剥片を取れなくなった段階で放棄するのが妥当であろう。ここではむしろ縦長剥片を剥出した石核が出土しなかったという事実を強調しておきたい。（川道）

③　その他の石器

Fig.65－1はスクレイパーである。刃部を除いて欠損する。安山岩の横剥ぎの剥片の一単を加工し刃部を作る。2，3は石ノミ型の偏平片刃石斧である。共に粘板岩製である。2・現存長4.3cm，幅2.3cm，厚さ0.8cmを計る。両面共に良く研磨を行なう。J－3区4層出土。3・偏平片刃石斧の未製品である。大まかな形を整えた段階のものであろう。4・紡錐車である。緑色片岩製で，断面台形をなす。直径3.8cm，厚み1.5cmで中央部に径7㎜の孔を穿つ。34gを計る。全周を良く研磨している。

Fig.66－1は敲石である。多孔質の安山岩で，一部に使用痕が残る。2，3は砥石である。共に砂岩製。2・方柱状に形を整えるが一部欠損している。使用痕は片面のみに残る。3・やはり方柱状の形を取る。片面のみを使用する。4・滑石製の石錘である。径12.2cm，厚さ7cm，重さ1.62kgを計る。断面かまぼこ形で中央部に径3.5cmの孔を穿つ。5・緑色片岩製の打製石斧である。片面の一部を剥落しており，現存長9cm，幅4.4cm，厚さ2cmを計る。全周にローリングが認められ，剥離痕が不明瞭である。6・蛇紋岩製の磨製石斧である。半分を欠損する。両刃を持つが，全周にローリングが認められる。7・スクレイパーである。安山岩の偏平礫を加工し，刃部を作る。両サイドに刃部をつくったかどうかは剥落がある為不明。1，2，3，7はK区4層出土。4はG－3区4層中出土である。

Fig.67は砥石か。安山岩で両面平坦である。J－2区4層出土。（高野）

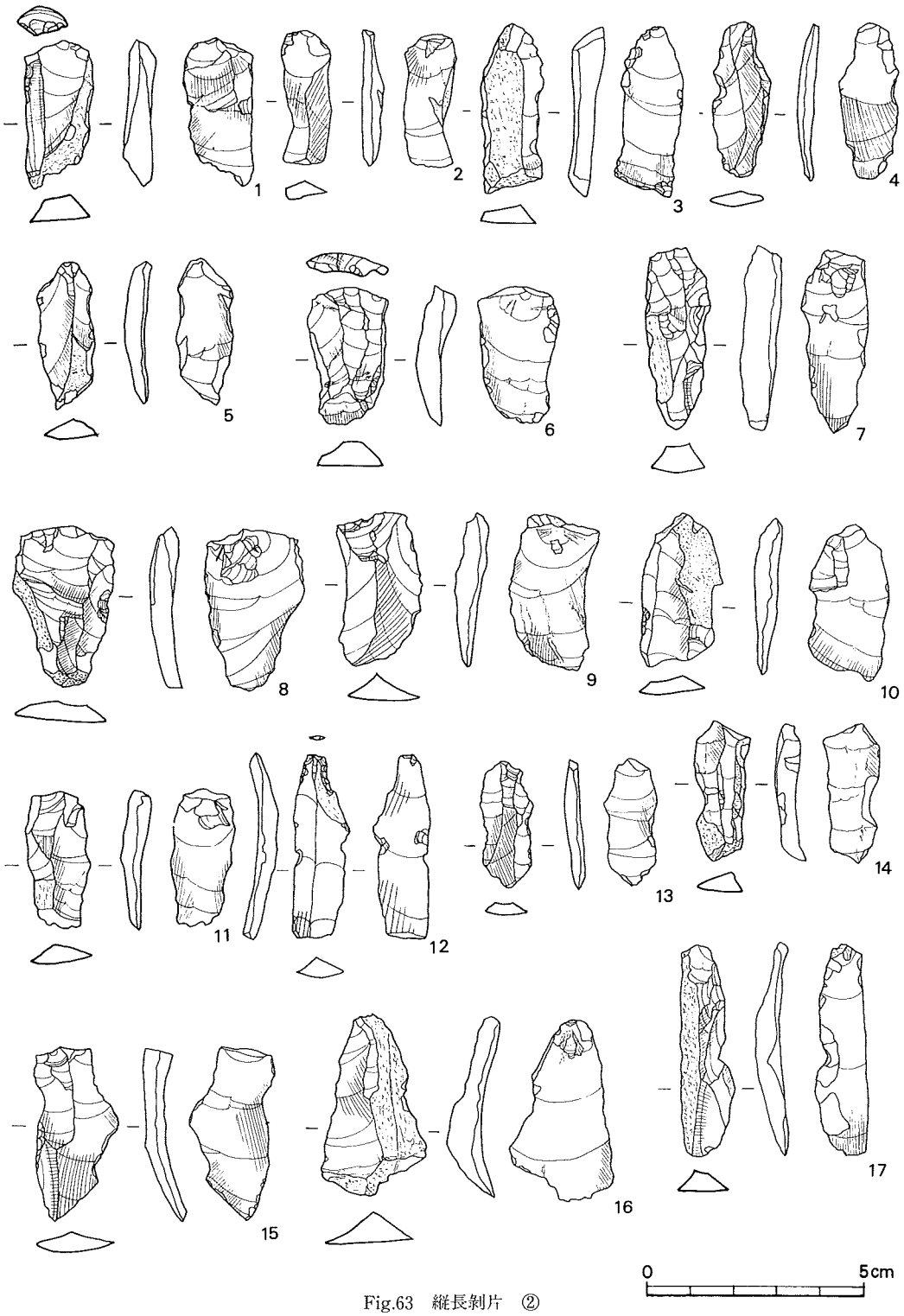



Fig.63　縦長剥片　②

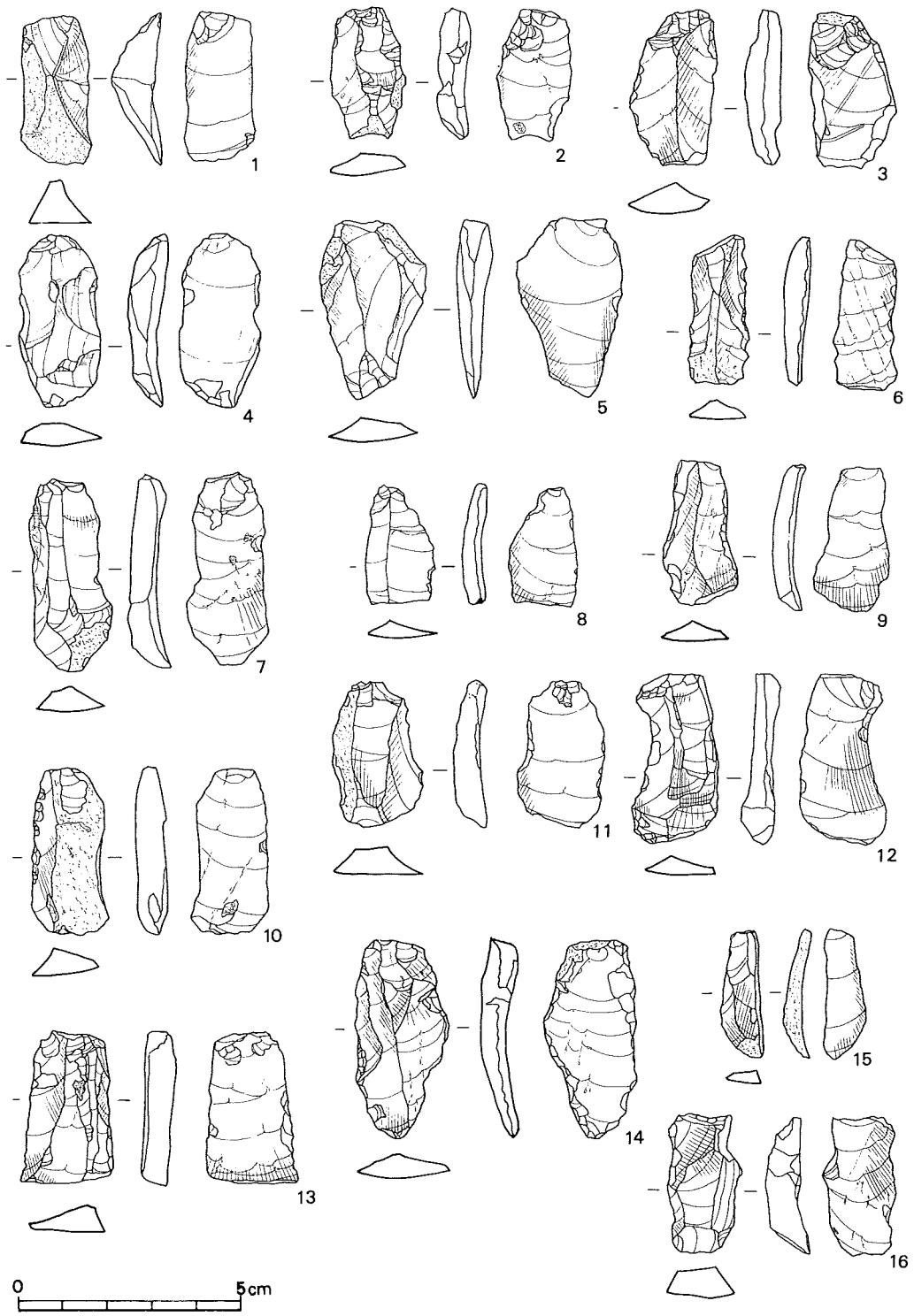



Fig.64　縦長剥片　③

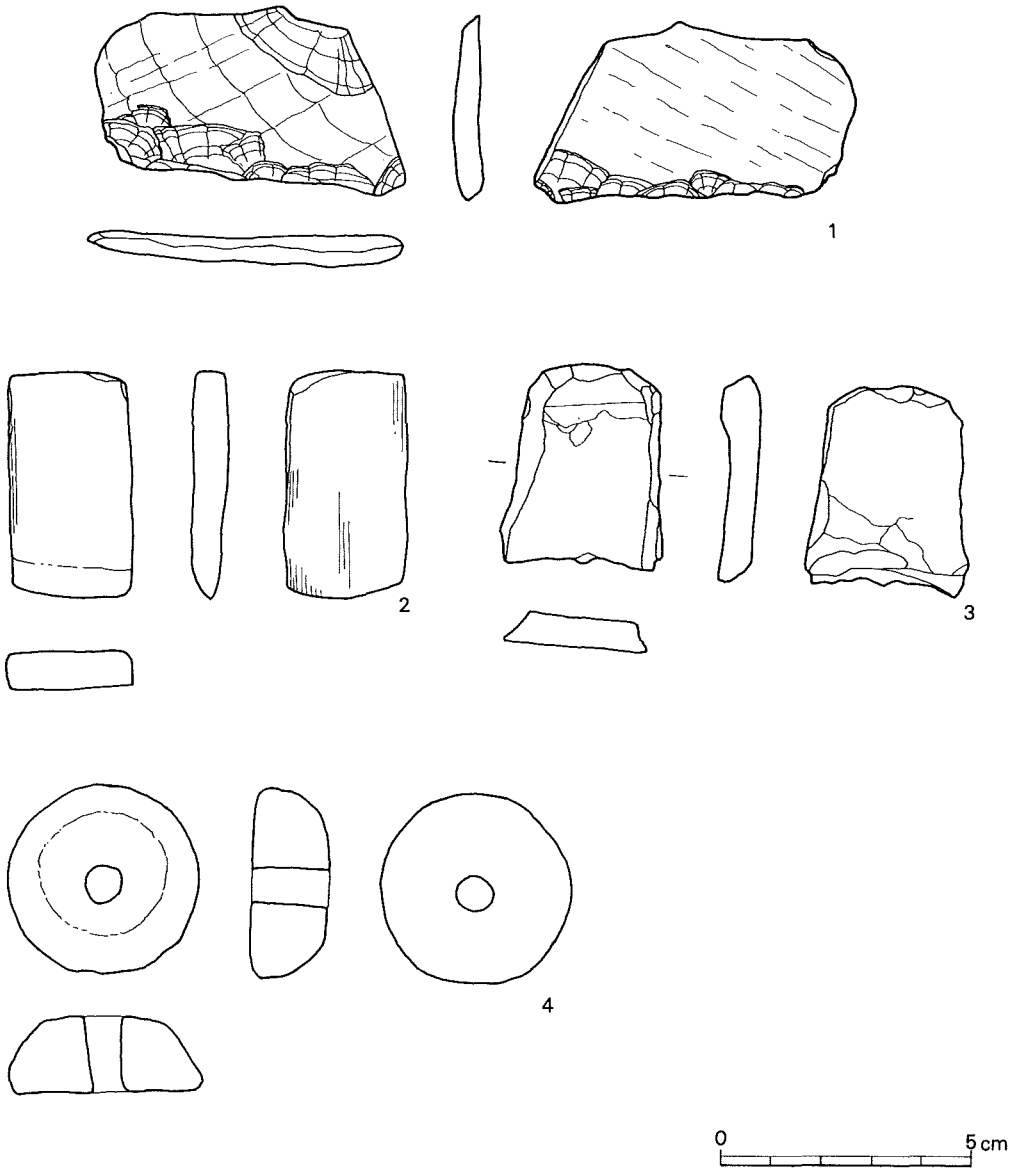



Fig.65　その他の石器　①

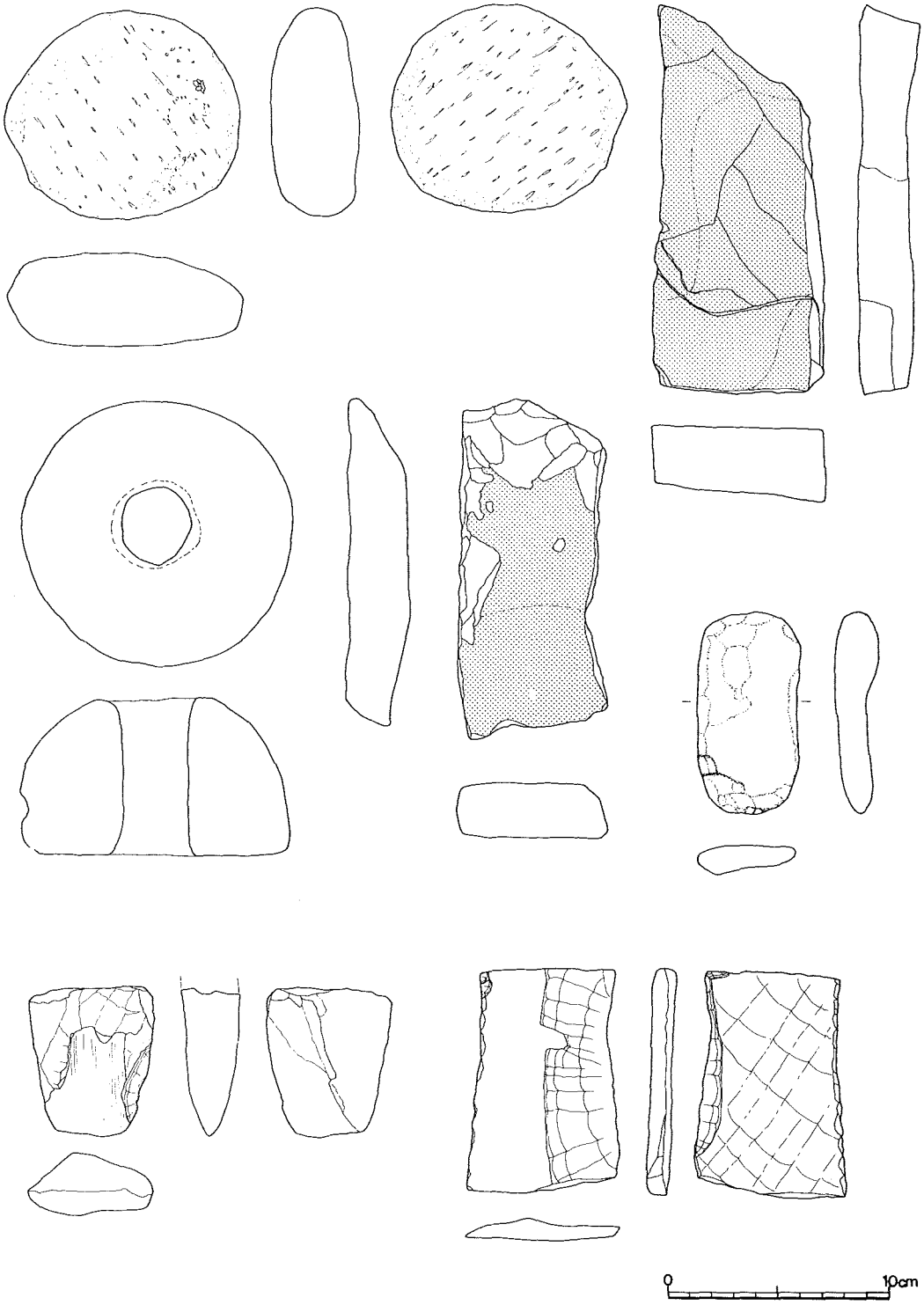



Fig.66　その他の石器　②（1/3）

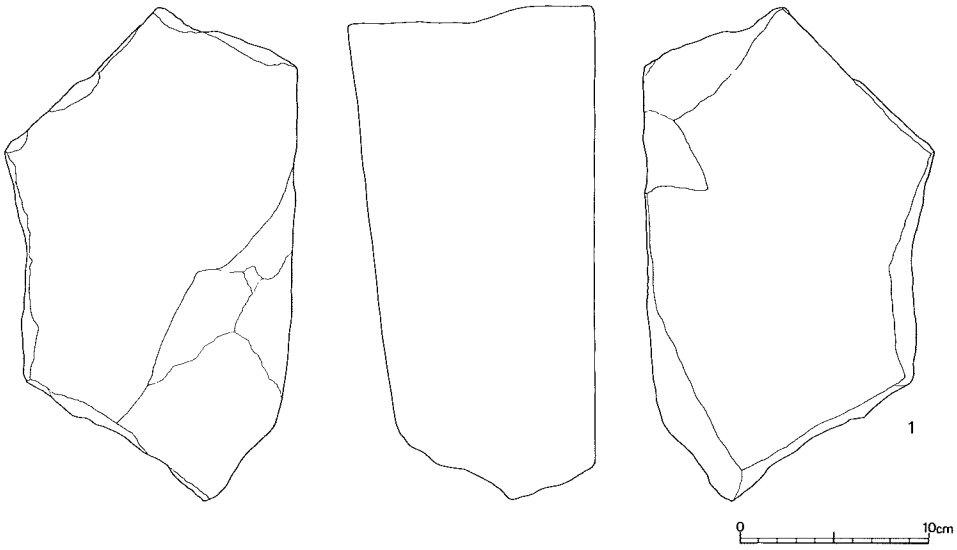



Fig.67　砥石実測図（1/4）

Tab. 6　打製石斧法量表　　完形

| No. | 形　態 | 長　さ | 幅 | 長　さ | 重　さ | 出　土　地　点 | 挿　図　No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 短冊形 | 11.2 | 7.3 | 1.7 | 187 | J 2 －IV | |
| 2 | 撥形 | 10.6 | 5.4 | 2.4 | 154 | J 3 －IV | Fig. 43－ 6 |
| 3 | 短冊形 | 11.1 | 5.1 | 2.5 | 177 | M 2 － II | Fig. 40－ 3 |
| 4 | 〃 | 11.4 | 4.6 | 2.1 | 161 | G 3 －III | Fig. 42－ 2 |
| 5 | 〃 | 11.3 | 5.4 | 1.8 | 150 | S 3 －III | |
| 6 | 〃 | 12.5 | 5.7 | 2.5 | 255 | M 2 －III | Fig. 40－ 2 |
| 7 | 〃 | 12.3 | 6.4 | 2.3 | 243 | M 3 －III | Fig. 42－ 7 |
| 8 | 〃 | 10.2 | 5.2 | 2.1 | 138 | P 2 －IV | Fig. 40－ 7 |
| 9 | 〃 | 9.0 | 5.6 | 1.3 | 109 | K 3 －IV | Fig. 40－ 6 |
| 10 | 〃 | 9.7 | 7.0 | 1.9 | 151 | G 2 －III | Fig. 41－ 2 |
| 11 | 〃 | 10.8 | 7.3 | 1.4 | 153 | | |
| 12 | 〃 | 11.2 | 6.1 | 2.7 | 237 | J 3 －IV | Fig. 40－ 8 |
| 13 | 〃 | 10.5 | 6.1 | 1.4 | 130 | K 2 －IV342 | |
| 14 | 〃 | 10.9 | 5.3 | 1.6 | 129 | J 2 －IV | Fig. 41－ 1 |
| 15 | 〃 | 9.6 | 5.4 | 1.6 | 126 | | |
| 16 | 〃 | 9.4 | 4.5 | 1.4 | 95 | K 2 － 7 | Fig. 40－ 1 |
| 17 | 撥形 | 12.4 | 6.7 | 2.7 | 239 | K 2 －III | Fig. 41－ 7 |
| 18 | 短冊形 | 10.7 | 5.4 | 2.0 | 162 | S 3 －III | Fig. 41－ 5 |
| 19 | 〃 | 10.7 | 6.5 | 1.8 | 166 | P 2 － II | Fig. 40－ 4 |
| 20 | 〃 | 9.3 | 4.5 | 1.4 | 91 | D 3 － II | |
| 21 | 〃 | 10.4 | 5.5 | 1.4 | 96 | G 4 － II | |
| 22 | 〃 | 9.5 | 5.2 | 1.4 | 90 | G 3 －III | Fig. 42－ 5 |
| 23 | 〃 | 13.1 | 6.8 | 2.4 | 238 | G 2 －III | |
| 24 | 〃 | 11.1 | 6.5 | 2.3 | 189 | K 3 －IV | Fig. 41－ 3 |
| 25 | 撥形 | 12.0 | 8.0 | 2.3 | 234 | N 4 －III | Fig. 42－ 6 |
| 26 | 〃 | 11.3 | 7.7 | 2.2 | 207 | S 2 －IV | Fig. 41－ 6 |
| 27 | 短冊形 | 9.5 | 6.0 | 2.3 | 172 | J 2 －III | Fig. 42－ 4 |
| 28 | 〃 | 10.2 | 6.5 | 1.8 | 147 | K 3 －IV | Fig. 42－ 4 |
| 29 | 〃 | 9.9 | 5.7 | 1.5 | 134 | J 2 －IV | |
| 30 | 〃 | 11.9 | 5.6 | 1.6 | 136 | J 3 －IV | |
| 31 | 〃 | 11.0 | 6.0 | 1.8 | 168 | K 4 － V | |
| 32 | 〃 | 12.5 | 6.4 | 2.4 | 240 | G 2 － II | |
| 33 | 撥形 | 10.5 | 7.4 | 1.1 | 103 | K 2 －10 | |
| 34 | 短冊形 | 10.9 | 5.6 | 2.0 | 154 | K 3 －IV | Fig. 40－ 5 |
| 35 | 〃 | 13.0 | 6.8 | 1.6 | 172 | J 3 －IV | |
| 36 | 撥形 | 14.6 | 7.7 | 1.8 | 134 | S 3 －III | Fig. 43－ 4 |
| 37 | 短冊形 | 10.6 | 5.7 | 1.5 | 134 | G 4 － II | |
| 38 | 〃 | 10.3 | 5.2 | 1.5 | 119 | M 2 －III | |
| 39 | 〃 | 23.6 | 13.0 | 2.4 | 873 | J 2 －IV | FIg. 44－ 1 |
| 40 | 〃 | 16.5 | 12.5 | 2.1 | 632 | G 2 － II | Fig. 44－ 2 |
| 41 | 撥形 | 13.2 | 9.9 | 2.4 | 423 | G 2 －III | Fig. 41－ 8 |
| 42 | 短冊形 | 13.0 | 5.8 | 2.2 | 175 | S 3 －III | Fig. 43－ 2 |
| 43 | 撥形 | 13.2 | 6.8 | 1.6 | 173 | G 2 － II | Fig. 43－ 3 |
| 44 | 〃 | 13.4 | 7.4 | 2.0 | 231 | M 2 －III | Fig. 42－ 3 |
| 45 | 短冊形 | 10.4 | 8.1 | 1.4 | 167 | M 3 －III | |
| 46 | 〃 | 15.8 | 6.8 | 1.5 | 224 | J 3 －IV | Fig. 42－ 1 |
| 47 | 撥形 | 8.5 | 4.3 | 2.1 | 83 | L 3 － II | Fig. 43－ 5 |

Tab. 7　打製石斧法量表　　基部

| No. | 形　態 | 長　さ | 幅 | 厚　さ | 重　さ | 出　土　地　点 | 挿　図　No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 7.5 | 6.2 | 1.4 | 98 | K 3 －IV | Fig. 45－ 1 |
| 2 | | 8.5 | 6.5 | 1.9 | 139 | J 2 －IV | Fig. 45－ 9 |
| 3 | | 9.9 | 6.8 | 2.5 | 192 | J S －III | Fig. 45－ 5 |
| 4 | | 8.5 | 6.3 | 1.1 | 85 | G 2 －III | Fig. 45－12 |
| 5 | | 8.2 | 6.4 | 1.4 | 75 | J 2 －IV | Fig. 45－10 |
| 6 | | 11.0 | 6.2 | 1.9 | 179 | J 2 －IV | Fig. 45－ 3 |
| 7 | | 6.7 | 6.4 | 1.5 | 96 | J 2 －IV | Fig. 45－11 |
| 8 | | 7.4 | 5.8 | 1.6 | 70 | J 2 －IV | |
| 9 | | 8.6 | 4.9 | 1.8 | 107 | G 3 － II | Fig. 46－ 2 |
| 10 | | 9.7 | 4.9 | 1.9 | 109 | S 3 －IV | |
| 11 | | 7.8 | 5.6 | 2.1 | 131 | G 3 － II | |
| 12 | | 12.0 | 7.0 | 2.4 | 217 | 表採 | |
| 13 | | 11.2 | 6.9 | 1.6 | 154 | J 4 －III | |
| 14 | | 10.1 | 5.5 | 2.2 | 189 | G 3 －III | |
| 15 | | 9.4 | 5.8 | 1.9 | 93 | K 4 － V | |
| 16 | | 11.6 | 5.4 | 2.5 | 212 | 2 －IV | Fig. 46－ 5 |
| 17 | | 7.2 | 6.7 | 1.6 | 119 | D 3 －III | Fig. 46－ 4 |
| 18 | | 6.9 | 7.8 | 1.2 | 68 | K 4 －IV | |
| 19 | | 7.8 | 6.3 | 1.3 | 103 | G 2 －III | Fig. 45－ 8 |
| 20 | | 7.5 | 6.3 | 1.3 | 100 | G 2 －III | Fig. 46－ 6 |
| 21 | | 1.0 | 5.9 | 1.9 | 143 | J 3 －IV | Fig. 45－ 4 |
| 22 | | 7.2 | 5.8 | 1.4 | 96 | D 2 －III | |
| 23 | | 6.0 | 6.7 | 1.0 | 46 | D 2 －III | |
| 24 | | 7.6 | 6.4 | 1.7 | 124 | G 3 － II | Fig. 46－12 |
| 25 | | 10.0 | 5.0 | 2.2 | 154 | G 2 －III | Fig. 46－ 3 |
| 26 | | 5.4 | 4.8 | 1.1 | 37 | D 2 － II | |
| 27 | | 6.1 | 7.5 | 1.5 | 113 | K 2 －123 | |
| 28 | | 10.2 | 7.3 | 1.8 | 230 | J 3 －IV | |
| 29 | | 6.3 | 8.6 | 1.1 | 95 | D 3 － II | |
| 30 | | 8.2 | 5.3 | 1.5 | 102 | D 3 － II | |
| 31 | | 8.1 | 7.7 | 1.8 | 161 | D 2 － II | |
| 32 | | 7.1 | 5.6 | 1.3 | 77 | K 3 －IV | |
| 33 | | 10.1 | 6.2 | 1.6 | 132 | M 3 －III | |
| 34 | | 6.2 | 6.1 | 1.4 | 73 | D 3 －III | |
| 35 | | 7.6 | 6.3 | 1.8 | 124 | K 2 －III | |
| 36 | | 8.7 | 5.6 | 2.3 | 120 | J 4 －表採 | Fig. 46－ 1 |
| 37 | | 8.8 | 6.0 | 1.5 | 109 | D 2 －III | |
| 38 | | 5.6 | 5.3 | 1.3 | 48 | S 3 －III | |
| 39 | | 5.5 | 5.5 | 1.3 | 54 | D 3 － II | |
| 40 | | 8.3 | 5.5 | 1.4 | 92 | D 2 － II | Fig. 47－ 9 |
| 41 | | 10.9 | 7.9 | 1.3 | 146 | G 3 －IV | Fig. 46－10 |
| 42 | | 1.7 | 7.5 | 2.6 | 219 | J 3 －IV | Fig. 46－ 6 |
| 43 | | 7.9 | 6.7 | 0.9 | 73 | P 2 －IV | |
| 44 | | 6.3 | 4.5 | 1.2 | 46 | J 3 －IV | Fig. 46－14 |
| 45 | | 7.6 | 5.1 | 1.6 | 83 | D 2 －III | Fig. 45－ 7 |
| 46 | | 7.1 | 5.9 | 1.3 | 76 | D 2 －III | |
| 47 | | 7.7 | 6.2 | 1.6 | 102 | M 2 －III | |
| 48 | | 5.4 | 4.9 | 1.8 | 60 | J 2 －IV | |
| 49 | | 7.1 | 5.2 | 1.5 | 91 | J 3 － V | |
| 50 | | 8.1 | 5.8 | 1.2 | 92 | G 3 －III | |
| 51 | | 8.6 | 8.8 | 1.2 | 120 | J 2 －IV | |
| 52 | | 6.7 | 4.5 | 1.2 | 46 | G 3 －III | |
| 53 | | 10.0 | 6.6 | 1.1 | 117 | P 3 －III | |
| 54 | | 7.6 | 5.8 | 1.1 | 74 | J 2 －IV | |
| 55 | | 10.1 | 7.7 | 1.5 | 156 | G 4 － II | |
| 56 | | 8.3 | 4.5 | 1.6 | 89 | D 2 －III | |

Tab. 8　打製石斧法量表　　基部

| No. | 形　態 | 長　さ | 幅 | 厚　さ | 重　さ | 出　土　地　点 | 挿　図　No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 57 | | 10.3 | 5.2 | 1.8 | 138 | G 2 －III | |
| 58 | | 9.2 | 7.0 | 1.4 | 100 | D 3 －III | |
| 59 | | 7.2 | 7.3 | 1.8 | 141 | D 3 －III | |
| 60 | | 8.2 | 5.3 | 1.3 | 71 | D 3 －II | |
| 61 | | 4.9 | 4.7 | 2.2 | 72 | G 2 －III | |
| 62 | | 14.8 | 10.2 | 2.1 | 339 | D 3 －III | |
| 63 | | 10.1 | 6.8 | 1.6 | 141 | K 4 －IV | |
| 64 | | 8.7 | 6.5 | 2.4 | 153 | G 3 －II | |
| 65 | | 9.4 | 7.7 | 1.5 | 166 | J 2 －IV | |
| 66 | | 7.1 | 5.0 | 2.2 | 99 | G 2 －III | Fig. 46－13 |
| 67 | | 15.0 | 8.9 | 2.6 | 146 | M 2 －III | Fig. 46－ 6 |
| 68 | | 8.9 | 5.8 | 1.5 | 116 | G 2 －V | Fig. 45－ 2 |
| 69 | | 7.5 | 6.8 | 1.6 | 105 | K 4 －V | Fig. 46－ 8 |
| 70 | | 9.9 | 7.3 | 2.0 | 160 | G 3 －III | Fig. 47－ 7 |
| 71 | | 7.5 | 6.2 | 1.2 | 89 | J 2 －IV | Fig. 47－11 |
| 72 | | 7.9 | 7.3 | 1.6 | 133 | M 2 －IV | |
| 73 | | 8.0 | 6.3 | 1.5 | 82 | G 3 －IV | |
| 74 | | 11.0 | 5.5 | 1.3 | 98 | J 2 －IV | |

打製石斧法量表　中間形

| No. | 形　態 | 長　さ | 幅 | 厚　さ | 重　さ | 出　土　地　点 | 挿　図　No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 5.4 | 6.3 | 1.3 | 68 | J 2 －IV | |
| 2 | | 7.6 | 5.4 | 1.7 | 120 | K 3 －IV | Fig. 47－ 1 |
| 3 | | 6.9 | 7.4 | 1.1 | 64 | K 3 －III | |
| 4 | | 8.5 | 6.8 | 1.5 | 124 | J 3 －IV | |
| 5 | | 11.3 | 5.6 | 2.3 | 172 | K 2 －603 | Fig. 47－ 2 |
| 6 | | 10.8 | 7.8 | 1.6 | 164 | P 2 －IV | |
| 7 | | 6.8 | 5.4 | 1.3 | 74 | G 3 －III | Fig. 47－ 8 |
| 8 | | 4.1 | 7.8 | 1.2 | 60 | G 3 －III | Fig. 47－ 9 |
| 9 | | 6.6 | 5.3 | 1.6 | 82 | D 2 －III | Fig. 47－ 4 |
| 10 | | 7.3 | 6.1 | 2.3 | 143 | M 2 －III | |
| 11 | | 6.9 | 5.6 | 1.4 | 99 | G 3 －II | Fig. 47－ 7 |
| 12 | | 6.3 | 5.8 | 1.7 | 104 | J 2 －IV | Fig. 47－ 5 |
| 13 | | 7.9 | 5.7 | 1.8 | 112 | M 2 －III | Fig. 47－10 |
| 14 | | 4.7 | 5.5 | 1.2 | 42 | G 2 －II | |
| 15 | | 5.8 | 6.0 | 1.8 | 104 | G 2 －III | Fig. 47－ 6 |
| 16 | | 3.8 | 6.2 | 1.0 | 33 | K 2 －III | |
| 17 | | 6.8 | 6.0 | 1.3 | 74 | G 2 －III | |
| 18 | | 5.4 | 9.4 | 1.7 | 127 | D 3 －II | Fig. 47－ 3 |
| 19 | | 6.0 | 6.2 | 1.0 | 52 | P 2 －IV | |
| 20 | | 6.9 | 7.5 | 1.2 | 90 | J 4 －III | |
| 21 | | 3.9 | 5.4 | 1.4 | 39 | G 4 －II | Fig. 47－11 |
| 22 | | 7.0 | 7.0 | 1.0 | 58 | G 2 －III | |
| 23 | | 8.8 | 6.4 | 1.6 | 97 | G 3 －IV | |
| 24 | | 7.2 | 5.3 | 1.7 | 91 | G 2 －III | |
| 25 | | 5.6 | 5.7 | 1.6 | 68 | G 2 －II | |
| 26 | | 6.0 | 6.6 | 1.3 | 57 | M 2 －III | |

Tab. 9 打製石斧の法量表　刃部

| No. | 形　態 | 長　さ | 幅 | 厚　さ | 重　さ | 出　土　地　点 | 挿　図　No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | 7.9 | 8.7 | 1.5 | 143 | J 3 −IV | Fig. 51− 1 |
| 2 | | 5.4 | 5.6 | 0.9 | 34 | J 2 −IV | Fig. 48− 4 |
| 3 | | 5.8 | 6.0 | 1.1 | 51 | J 2 −IV | Fig. 51− 4 |
| 4 | | 7.3 | 7.5 | 1.5 | 95 | J 3 −IV | Fig. 51− 7 |
| 5 | | 7.5 | 8.3 | 1.1 | 93 | K 3 −IV | Fig. 51−10 |
| 6 | | 7.3 | 8.1 | 1.7 | 142 | J 2 −IV | Fig. 51− 5 |
| 7 | | 3.4 | 5.2 | 1.0 | 25 | G 3 −III | |
| 8 | | 5.8 | 4.8 | 0.8 | 30 | J 3 −IV | Fig. 51− 8 |
| 9 | | 6.9 | 8.3 | 1.0 | 72 | J 3 −IV | Fig. 51−11 |
| 10 | | 10.2 | 4.8 | 1.6 | 126 | S 3 −III | Fig. 51− 3 |
| 11 | | 8.0 | 6.5 | 1.5 | 111 | G 3 − II | Fig. 51− 6 |
| 12 | | 4.0 | 6.4 | 1.7 | 50 | J 3 −IV | |
| 13 | | 5.1 | 6.4 | 1.1 | 53 | D 2 −III | Fig. 51− 9 |
| 14 | | 8.4 | 5.8 | 1.8 | 107 | K 4 −IV | |
| 15 | | 10.2 | 6.7 | 2.6 | 232 | S 2 −IV | |
| 16 | | 7.6 | 6.1 | 2.0 | 160 | P 3 −IV | Fig. 51−12 |
| 17 | | 8.7 | 6.9 | 2.2 | 142 | N 4 −III | Fig. 52− 1 |
| 18 | | 7.8 | 6.9 | 2.1 | 148 | G 2 − II | |
| 19 | | 10.5 | 7.1 | 2.1 | 234 | K 3 −IV | |
| 20 | | 4.5 | 7.9 | 1.1 | 58 | G 2 −III | Fig. 48− 7 |
| 21 | | 9.6 | 7.3 | 1.3 | 133 | J 3 −IV | Fig. 49− 4 |
| 22 | | 6.2 | 8.0 | 1.6 | 104 | J 2 −III | Fig. 48− 9 |
| 23 | | 8.2 | 5.6 | 1.3 | 98 | P 2 −III | Fig. 48−12 |
| 24 | | 10.0 | 7.6 | 1.4 | 130 | D 3 −III | Fig. 48− 2 |
| 25 | | 7.4 | 7.2 | 2.0 | 144 | D 3 − II | Fig. 48− 5 |
| 26 | | 5.0 | 6.1 | 1.3 | 47 | G 2 −III | Fig. 48− 3 |
| 27 | | 9.7 | 7.3 | 1.1 | 118 | D 3 −III | Fig. 48−10 |
| 28 | | 8.8 | 6.7 | 1.7 | 148 | G 2 −III | |
| 29 | | 8.8 | 7.6 | 1.7 | 154 | K 2 −120 | Fig. 50−13 |
| 30 | | 8.5 | 10.1 | 1.3 | 140 | G 2 −III | Fig. 48−13 |
| 31 | | 5.8 | 7.7 | 0.8 | 57 | K 2 −54 | |
| 32 | | 6.3 | 5.5 | 1.7 | 80 | G 2 − II | |
| 33 | | 9.5 | 7.4 | 1.4 | 120 | K 4 −IV | |
| 34 | | 5.7 | 6.6 | 1.1 | 70 | J 2 −IV | Fig. 48− 6 |
| 35 | | 4.8 | 6.5 | 1.2 | 44 | J 3 −IV | |
| 36 | | 4.5 | 6.6 | 0.9 | 35 | D 2 − II | |
| 37 | | 9.8 | 8.1 | 1.4 | 127 | K 2 −III | |
| 38 | | 7.3 | 7.4 | 1.8 | 116 | K 3 −IV | |
| 39 | | 7.8 | 6.0 | 1.3 | 93 | K 4 − V | Fig. 48−11 |
| 40 | | 7.0 | 5.4 | 1.2 | 63 | P 2 −III | |
| 41 | | 6.6 | 7.5 | 1.8 | 108 | D 3 −III | Fig. 48− 8 |
| 42 | | 7.5 | 6.3 | 1.3 | 94 | G 2 −III | Fig. 48−14 |
| 43 | | 5.0 | 5.5 | 1.5 | 63 | S 3 | |
| 44 | | 8.8 | 7.9 | 1.5 | 140 | G 3 −III | Fig. 50− 1 |
| 45 | | 5.4 | 7.8 | 1.4 | 74 | J 2 −IV | |
| 46 | | 6.7 | 8.7 | 2.0 | 158 | G 3 − II | |
| 47 | | 4.8 | 8.4 | 2.2 | 117 | D 3 − II | |
| 48 | | 9.4 | 6.7 | 2.0 | 147 | J 4 −III | Fig. 50− 8 |
| 49 | | 8.0 | 6.7 | 1.7 | 152 | M 2 −III | Fig. 50− 2 |
| 50 | | 8.6 | 9.0 | 1.3 | 136 | G 3 −IV | Fig. 50− 3 |
| 51 | | 10.5 | 6.5 | 1.6 | 143 | K 4 − V | Fig. 50− 6 |
| 52 | | 8.0 | 8.3 | 1.2 | 123 | P 2 −IV | Fig. 50− 9 |
| 53 | | 5.9 | 6.9 | 1.4 | 68 | D 3 − II | |
| 54 | | 6.9 | 10.5 | 1.8 | 126 | J 3 −IV | Fig. 50−11 |
| 55 | | 7.8 | 7.7 | 1.3 | 116 | J 3 −IV | Fig. 50−10 |
| 56 | | 4.5 | 6.1 | 1.2 | 52 | D 2 −III | Fig. 50− 7 |

Tab. 10　打製石斧法量表　　刃部

| No. | 形　態 | 長　さ | 幅 | 厚　さ | 重　さ | 出　土　地　点 | 挿　図　No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 57 | | 7.3 | 7.9 | 1.3 | 106 | D 3 －III | |
| 58 | | 11.3 | 8.1 | 1.4 | 150 | J 3 －IV | Fig. 49－ 6 |
| 59 | | 10.1 | 7.0 | 1.5 | 168 | M 3 －III | |
| 60 | | 13.0 | 10.2 | 1.9 | 331 | J 3 －IV | |
| 61 | | 5.2 | 6.9 | 1.1 | 55 | G 3 －III | Fig. 49－11 |
| 62 | | 9.6 | 8.9 | 1.4 | 132 | K 3 －IV | |
| 63 | | 4.2 | 5.5 | 1.3 | 37 | D 3 －III | |
| 64 | | 4.3 | 6.8 | 1.6 | 57 | G 4 －II | |
| 65 | | 8.5 | 6.4 | 1.4 | 89 | J 4 －III | |
| 66 | | 7.6 | 6.9 | 1.3 | 88 | J 2 －IV | Fig. 49－10 |
| 67 | | 6.7 | 7.9 | 1.5 | 75 | P 3 －IV | |
| 68 | | 11.4 | 8.6 | 1.3 | 184 | J 3 －IV | Fig. 49－ 8 |
| 69 | | 5.4 | 7.0 | 0.8 | 49 | J 2 －IV | Fig. 49－ 9 |
| 70 | | 6.3 | 6.5 | 0.8 | 44 | G 2 －III | Fig. 49－12 |
| 71 | | 6.5 | 8.3 | 1.1 | 85 | J 3 －IV | |
| 72 | | 6.9 | 6.3 | 1.0 | 73 | J 2 －IV | |
| 73 | | 4.5 | 7.1 | 1.1 | 39 | G 3 －III | |
| 74 | | 9.2 | 7.8 | 1.5 | 137 | G 4 －II | Fig. 49－ 7 |
| 75 | | 7.8 | 4.2 | 1.8 | 80 | G 2 －III | |
| 76 | | 5.9 | 5.8 | 1.8 | 69 | G 2 －III | |
| 77 | | 6.5 | 9.1 | 1.7 | 101 | G 3 －III | |
| 78 | | 10.6 | 6.4 | 1.7 | 153 | G 2 －II | Fig. 50－ 5 |
| 79 | | 3.5 | 5.9 | 0.7 | 17 | G 2 －III | |
| 80 | | 5.4 | 7.3 | 1.1 | 46 | K 4 －V | |
| 81 | | 8.6 | 8.5 | 1.2 | 148 | G 2 －III | |
| 82 | | 7.0 | 7.0 | 1.0 | 65 | D 3 －III | |
| 83 | | 8.0 | 8.0 | 0.9 | 76 | G 2 －III | |
| 84 | | 4.7 | 5.1 | 1.0 | 34 | K 2 －III | |
| 85 | | 9.8 | 9.5 | 1.7 | 219 | K 2 －IV355 | |
| 86 | | 6.7 | 8.0 | 1.1 | 75 | P 2 －IV | |
| 87 | | 7.1 | 5.7 | 1.3 | 98 | G 4 －II | Fig. 50－ 4 |
| 88 | | 9.1 | 7.7 | 0.9 | 80 | P 2 －IV | Fig. 49－ 5 |
| 89 | | 8.1 | 8.4 | 0.9 | 91 | K 3 －IV | |
| 90 | | 11.2 | 11.1 | 2.2 | 394 | K 2 －561 | |
| 91 | | 5.3 | 8.0 | 1.1 | 58 | K 4 －IV | |
| 92 | | 5.0 | 6.7 | 1.3 | 54 | K 3 －IV | |
| 93 | | 6.5 | 6.5 | 1.3 | 82 | G 2 －II | |
| 94 | | 6.9 | 6.0 | 2.2 | 140 | G 2 －II | |
| 95 | | 7.4 | 6.7 | 1.2 | 76 | G 2 －III | |
| 96 | | 9.7 | 5.6 | 1.2 | 94 | G 2 －III | Fig. 49－ 3 |
| 97 | | 8.1 | 8.9 | 1.0 | 106 | G 2 －III | Fig. 51－ 2 |
| 98 | | 7.7 | 8.4 | 1.3 | 96 | G 3 －IV | Fig. 49－ 2 |
| 99 | | 5.7 | 7.1 | 1.8 | 109 | K 4 －II | |
| 100 | | 5.2 | 6.3 | 1.0 | 48 | S 3 －III | |
| 101 | | 6.7 | 6.4 | 1.2 | 77 | J 2 －IV | Fig. 49－ 1 |
| 102 | | 5.8 | 6.6 | 0.7 | 41 | G 3 －IV | |
| 103 | | 5.1 | 7.0 | 1.0 | 42 | K 2 －III | |
| 104 | | 4.2 | 6.1 | 0.9 | 33 | M 3 －III | |
| 105 | | 4.0 | 7.7 | 1.4 | 55 | G 3 －II | |
| 106 | | 8.4 | 10.2 | 1.1 | 141 | K 4 －V | Fig. 52－ 2 |
| 107 | | 6.1 | 7.4 | 1.1 | 75 | G 3 －IV | Fig. 48－ 1 |
| 108 | | 12.4 | 7.7 | 1.4 | 147 | G 3 －II | |
| 109 | | 4.5 | 7.7 | 0.8 | 34 | G 3 －III | |
| 110 | | 11.4 | 5.5 | 1.8 | 151 | K 4 －IV | Fig. 50－12 |
| 111 | | 7.8 | 6.7 | 1.5 | 93 | 表採 | |
| 112 | | 5.8 | 9.1 | 2.1 | 139 | G 3 －II | |

# IV　総括

宮田A遺跡は，現標高3.5m～4.5mの低地に位置する。遺跡の南側には現在千綿川が流れているが，幾度となくその流路に変更があったことは容易に想像がつく。事実，土層の堆積状況をみても，明らかに氾濫原であった時期があり，全てではないが，遺物の出土状態に二次堆積の様相も認められる。しかし，J，K区を中心とする微高地では，柱穴状ピットや集石土壙，そして不定型土壙などの遺構に加えて，遺物の出土にまとまりがあり，異なった時期の生活面が認められる。出土遺物の特徴からすると，縄文晩期，弥生中期，弥生後期，そして中世の一時期ということになろう。

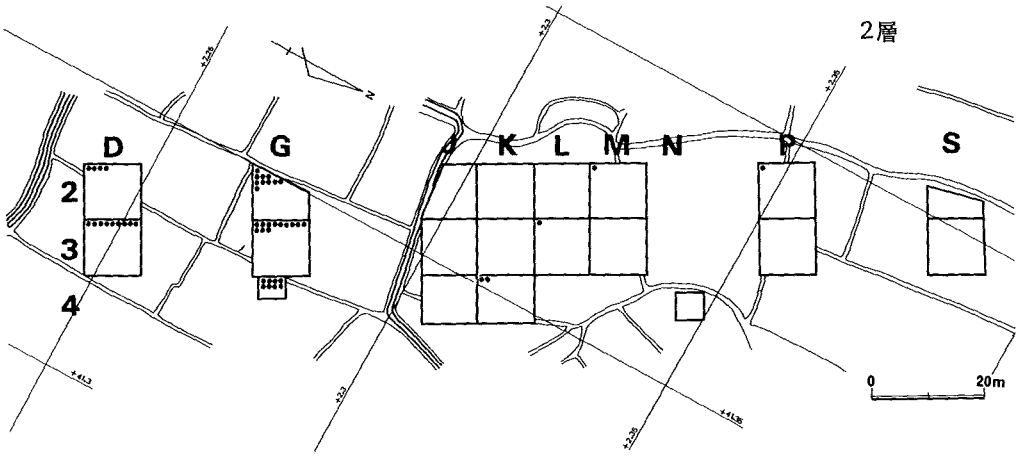
この内，縄文晩期の一括資料は重要である。すなわち，晩期後半に属するものと思われる扁平打製石斧が300本以上出土したが，その8割は毀損しており，極めて消耗度の高い石器であることを示している。この種の石斧を農耕に関連付けて考えることが許されるならば，この時期には，特に好条件とも思われない地域まで可耕地として開拓し始めた可能性が出てくる。大村市の黒丸遺跡[註1]でも同様の趣旨の問題提起がなされている。

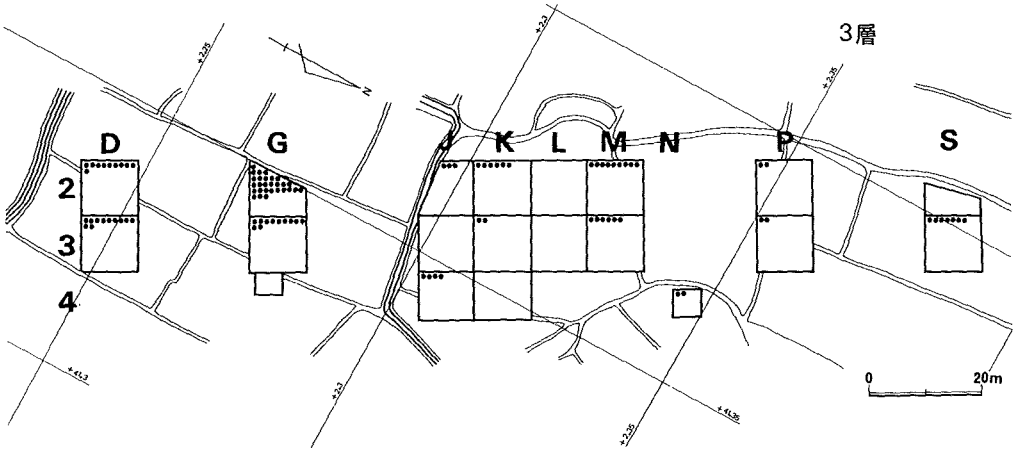
弥生土器は中期を中心として，後期後半までの土器が出土している。

このような中で，注目されるのは，台付甕の出土である。本遺跡では，底部高台だけの出土で，胴部との連続が見られないため器形の全容が不明であるが，口縁部が「く」の字に折れ，倒卵形の胴部に接続する甕である可能性が強い。この種の甕は，肥後地域を中心として分布する所謂黒髪式系の土器であり，本県の近年の弥生遺跡の調査では，有明海を挟んで肥後地方と対峙する島原半島は勿論，諫早地区，大村地区などの県南地域では中期後半以降ごく普通に見られるようになるなど，かなり斉一性の強い土器であることが分かってきた。

ただ，この種の土器の分布範囲には地域的な差異が認められる。つまり，宮の本遺跡[註2]，里田原遺跡[註3]，原の辻遺跡[註4]，カラカミ遺跡[註5]など佐世保以北の県北地域の代表的な弥生遺跡ではいまだ北九州系の土器が凌駕しており，その分布の境界は現在のところ東彼杵郡から川棚町を結ぶ東彼杵郡あたりに相当[註6]する。なお，五島列島では西南部の一部を除いて，その証拠に乏しいのが現状である。この問題については，研究の余地がある。　（高野）

註1　大村市黒丸遺跡調査会　「黒丸遺跡」　1980
2　佐世保市教育委員会　「宮の本遺跡」　佐世保市埋蔵文化財調査報告書　1980
3　長崎県教育委員会　「里田原遺跡・図録」　長崎県文化財調査報告書　第14集　1972他
4　長崎県教育委員会　「原の辻遺跡」　長崎県文化財調査報告書　第26集　1976他
5　長崎県勝本町教育委員会　「カラカミ遺跡」　勝本町文化財調査報告書　第3集　1985
6　宮崎貴夫氏教示



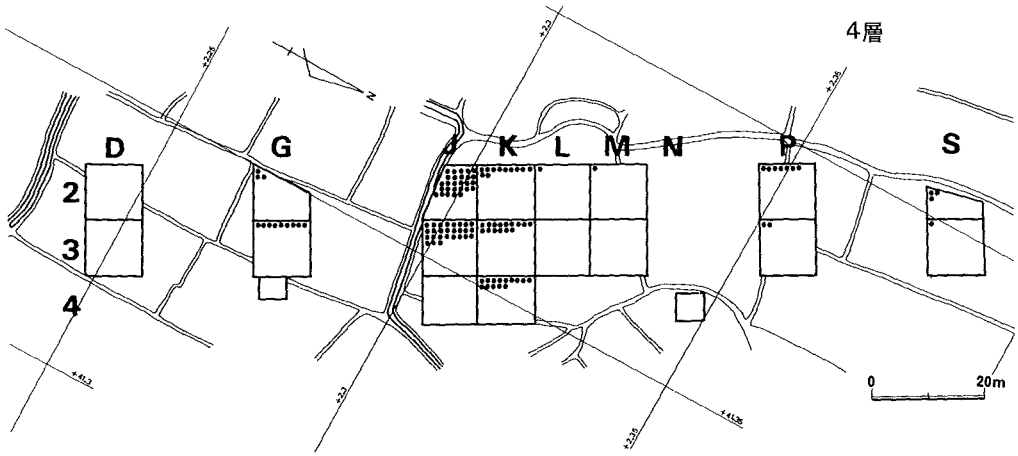




Fig.68　扁平打製石斧層位別出土区

# PLATES

# (宮田A遺跡)

遺跡遠景（北より）

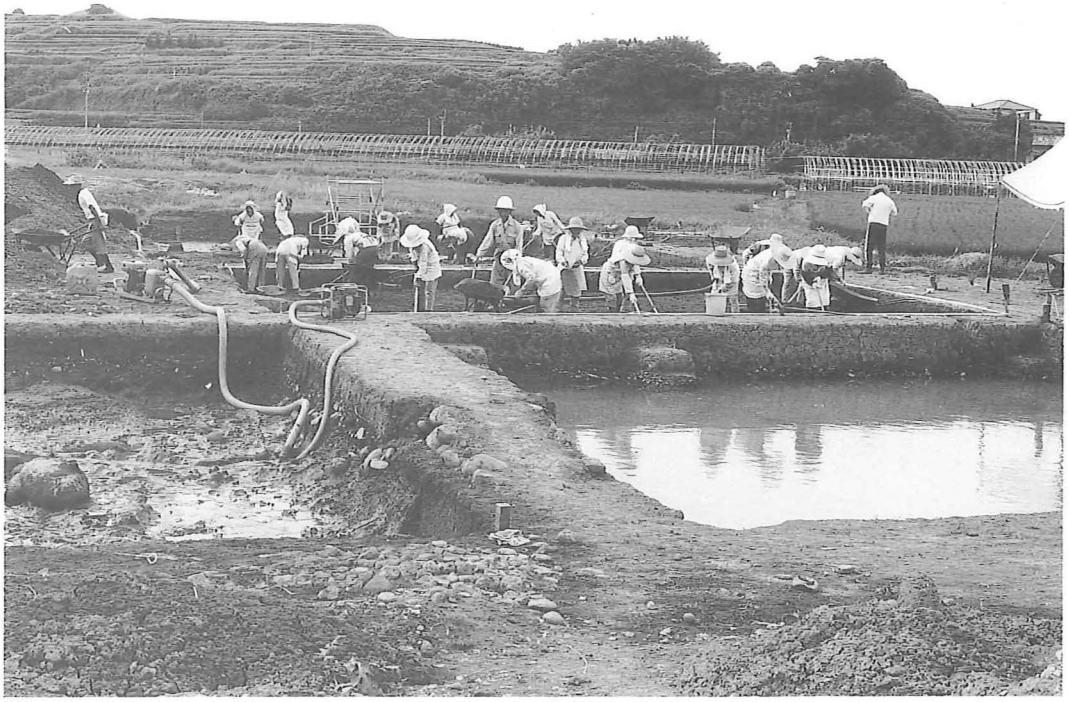
遺跡遠景（南より）

調査区設定作業

調査区設定状況

調査風景

調査風景



調査風景

壁面実測風景

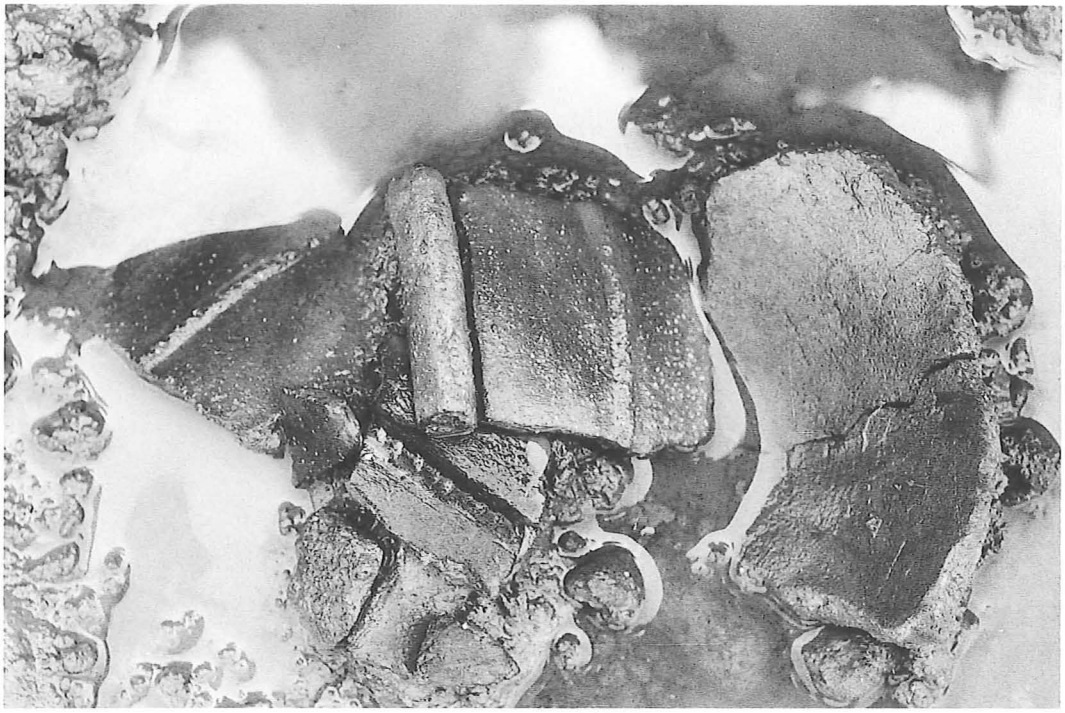
J－3区北壁

J－3区西壁

M－2区東壁

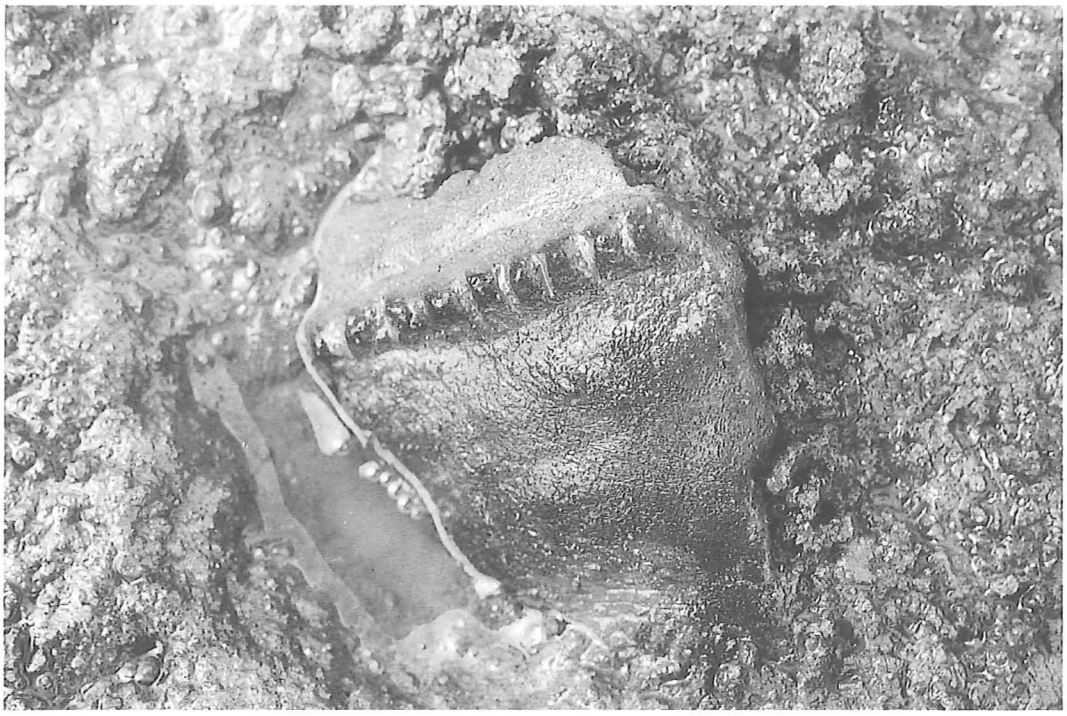
K－3区北壁

遺物出土状況

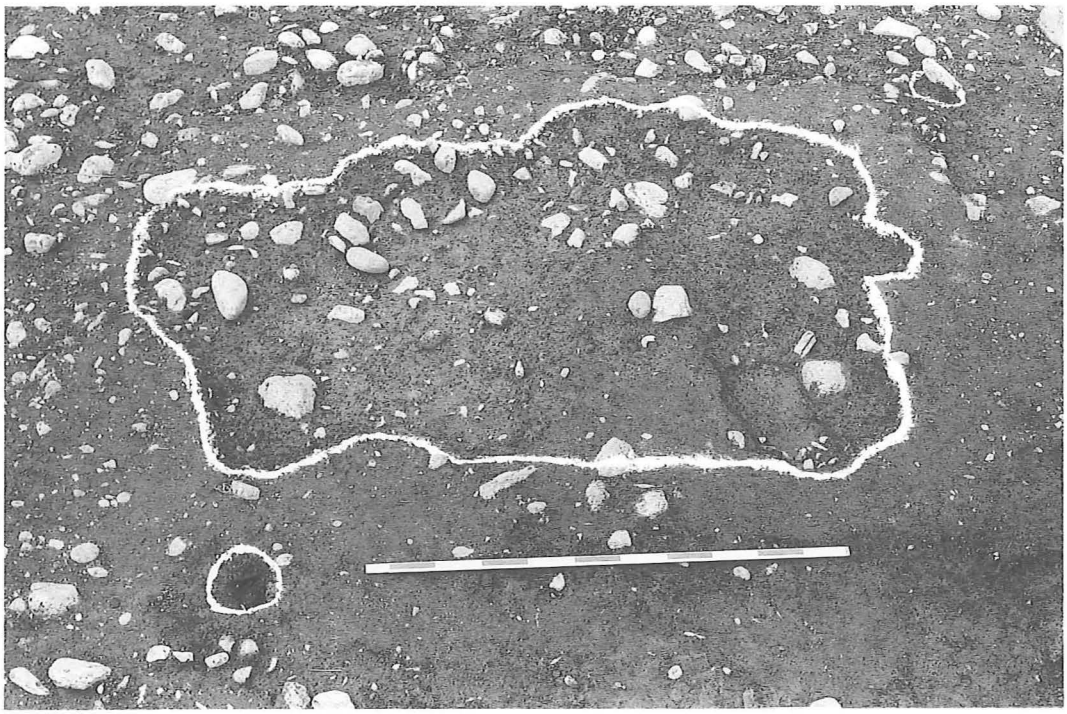


遺物出土状況

遺物出土状況

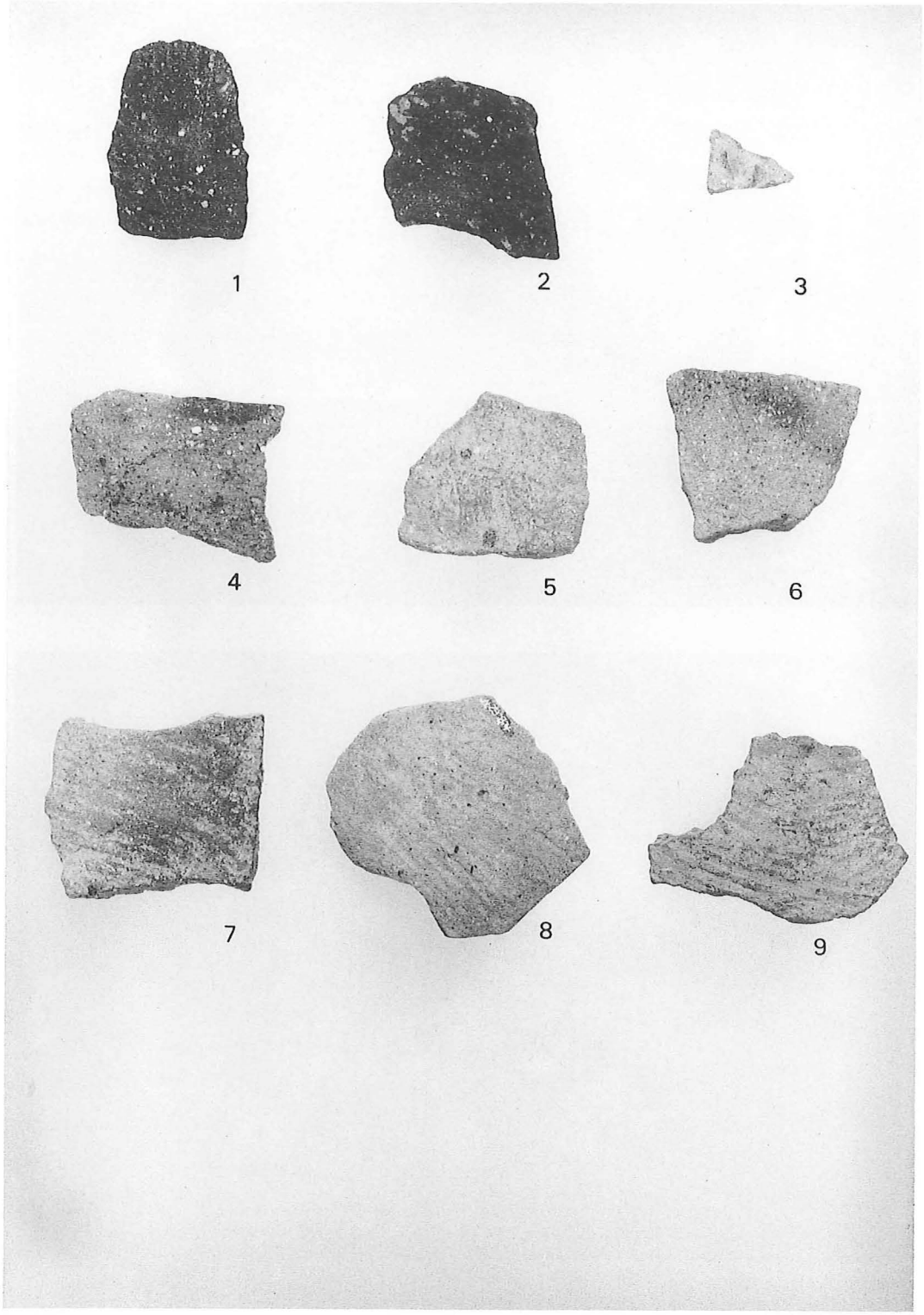


遺物出土状況

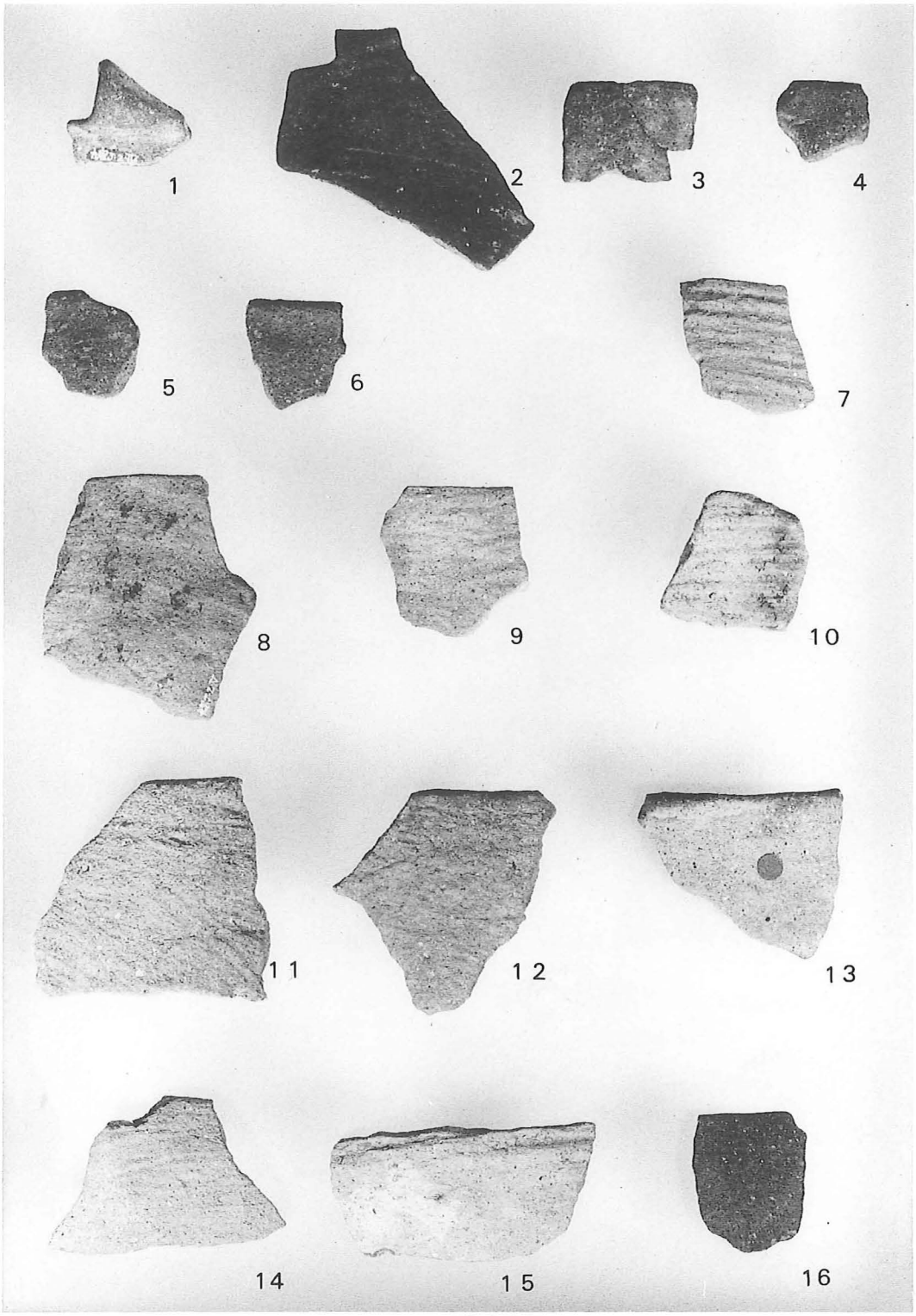


土壙

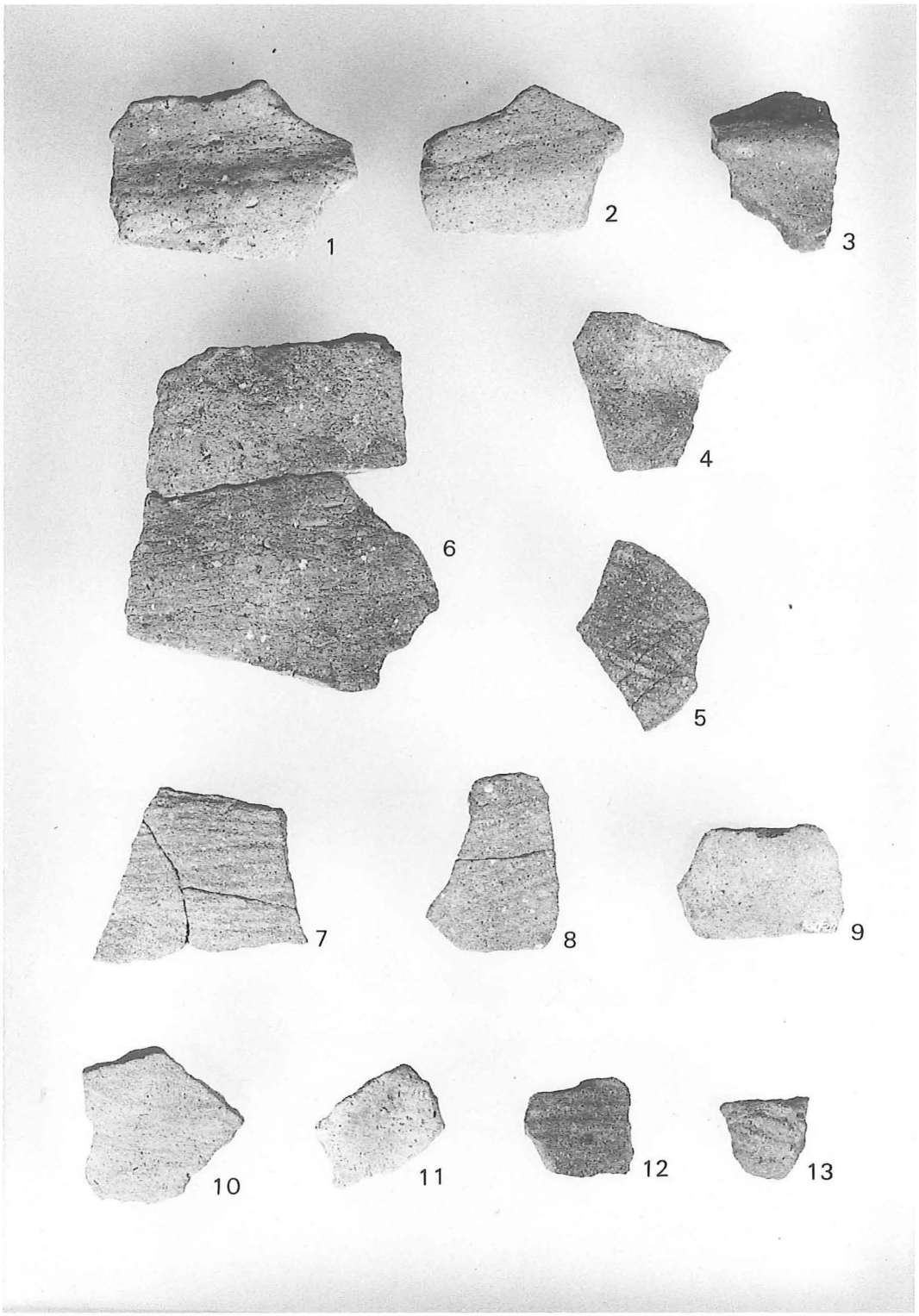
集石遺構



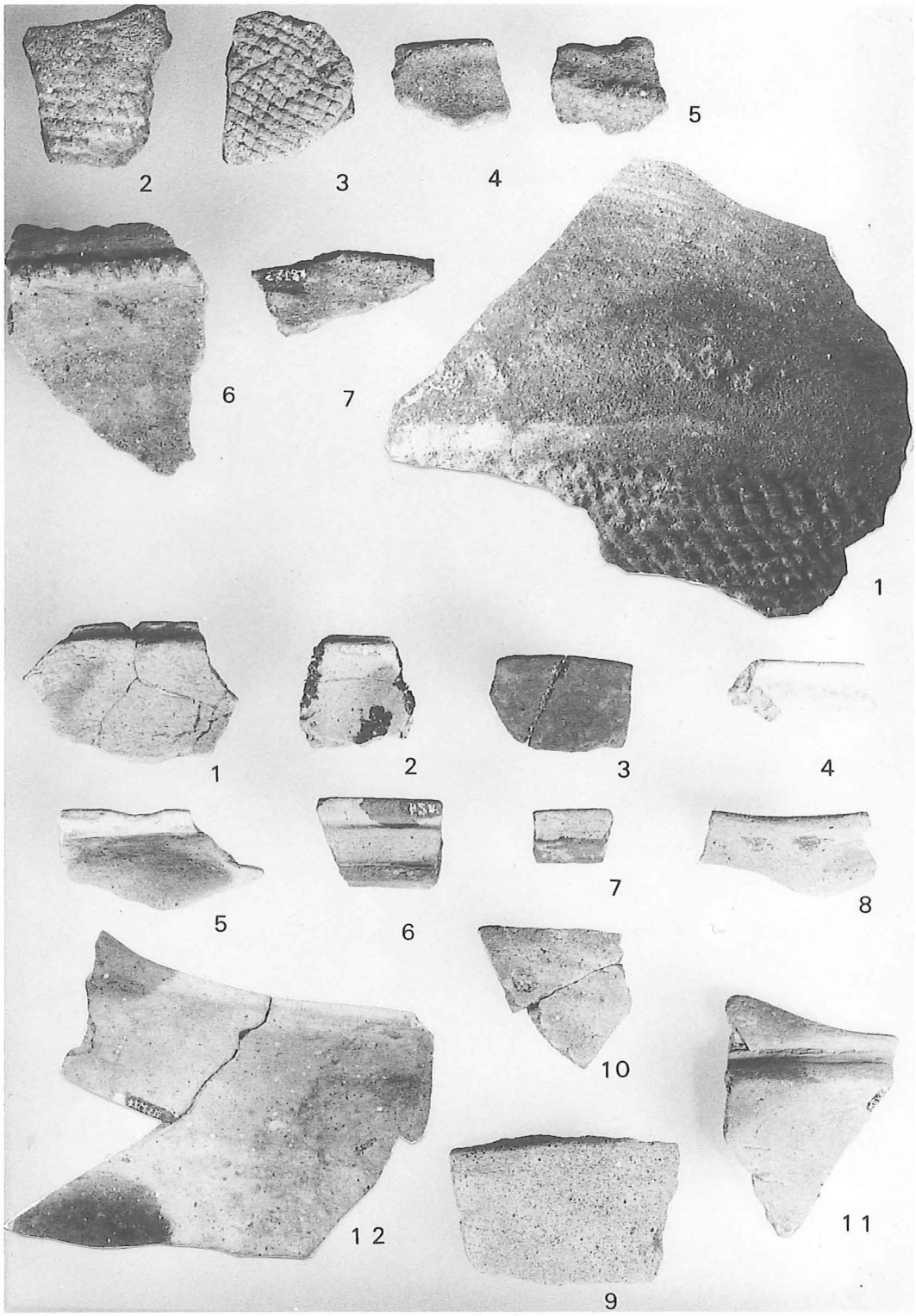

縄文土器①（1/2）



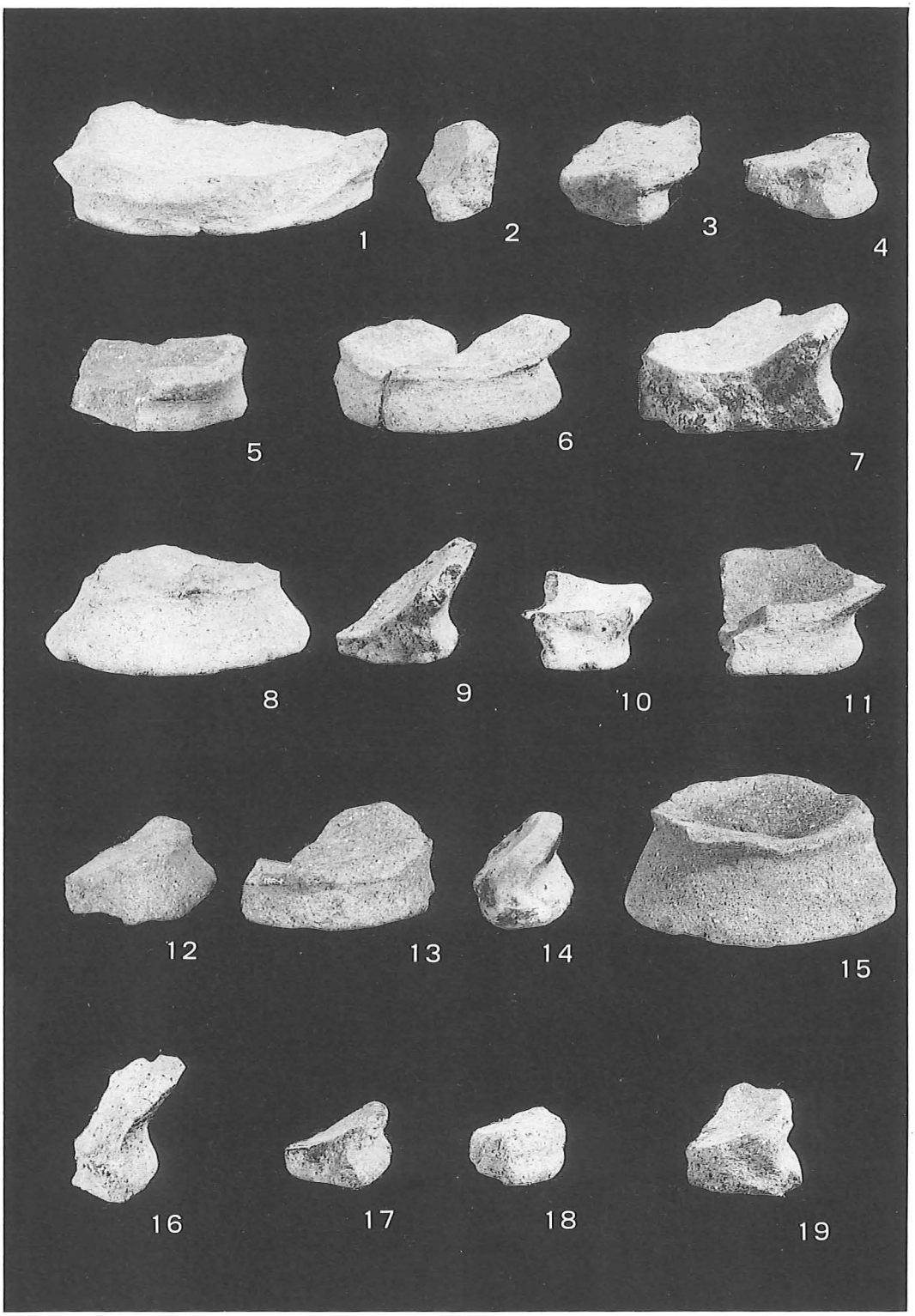

縄文土器②（1/2）



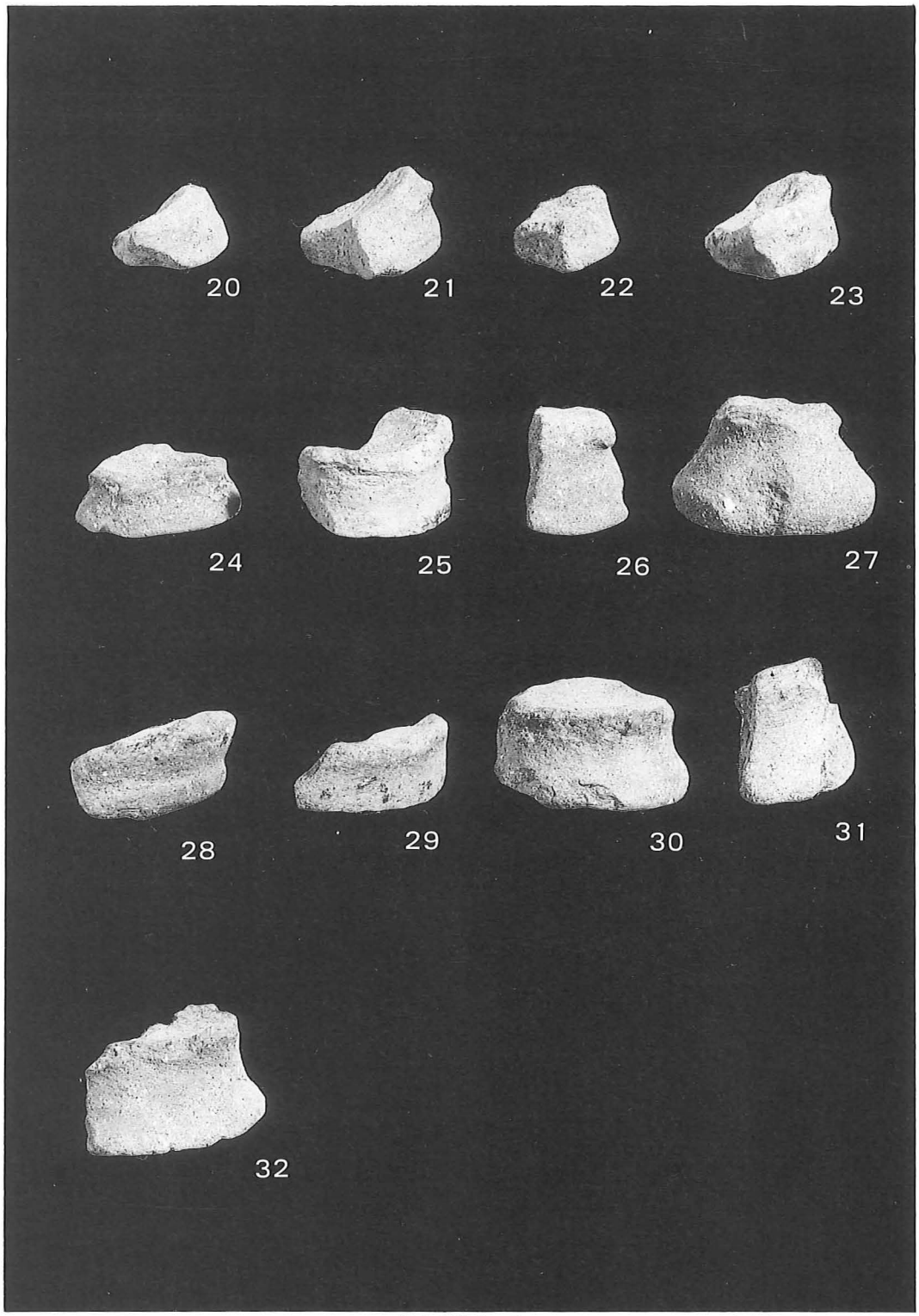

縄文土器③



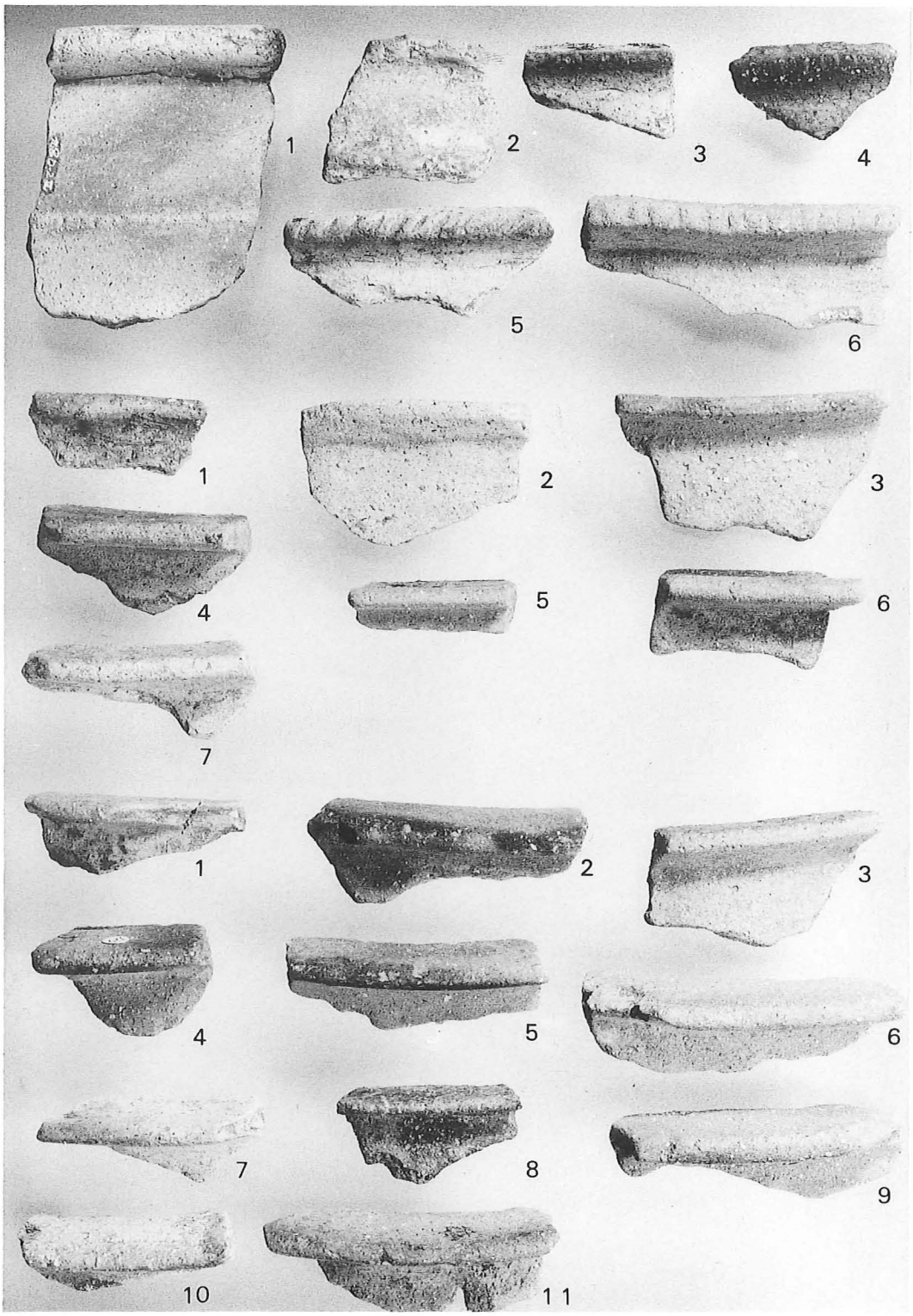

縄文土器④，⑤




縄文土器⑥

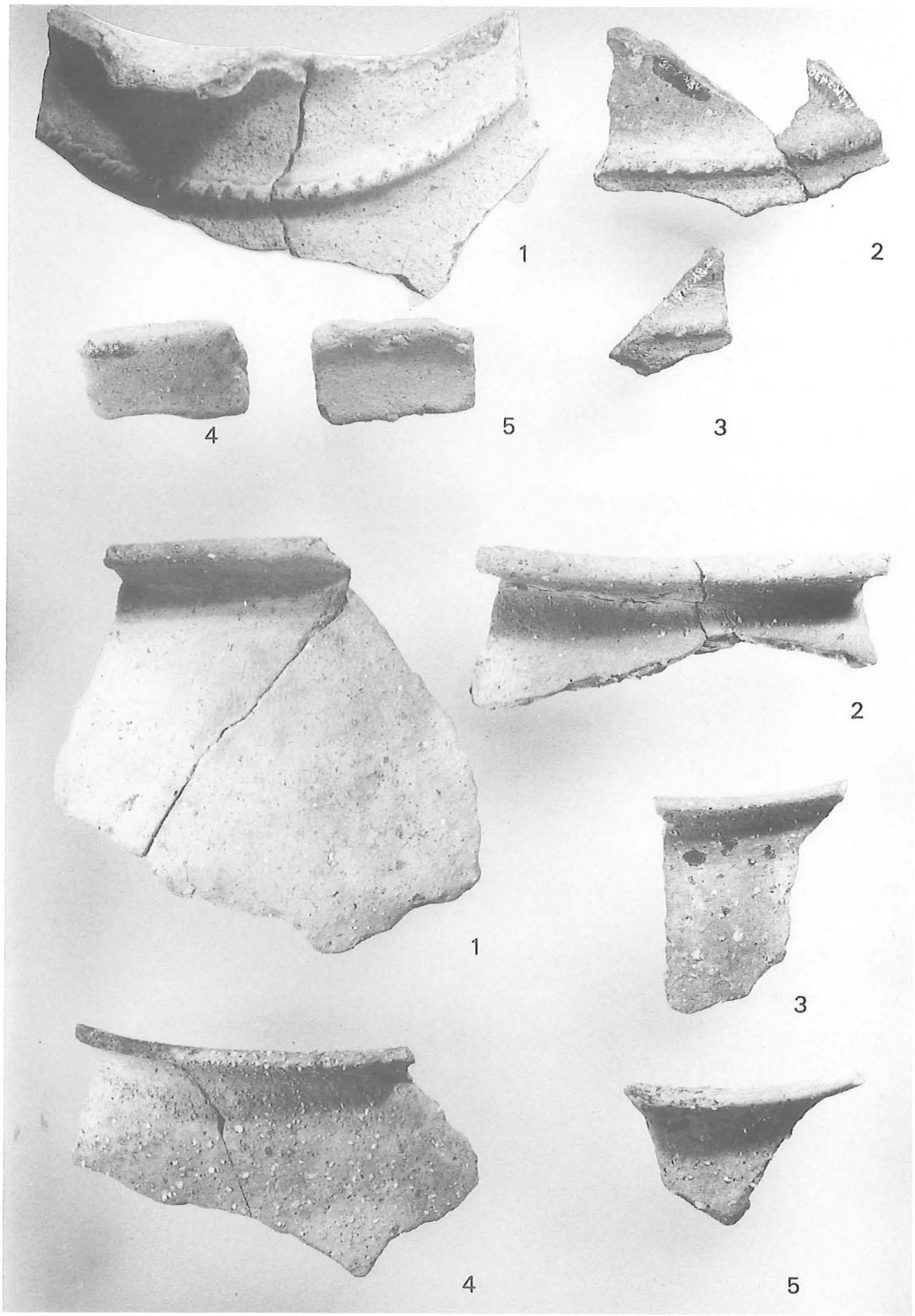



縄文土器⑥，⑦

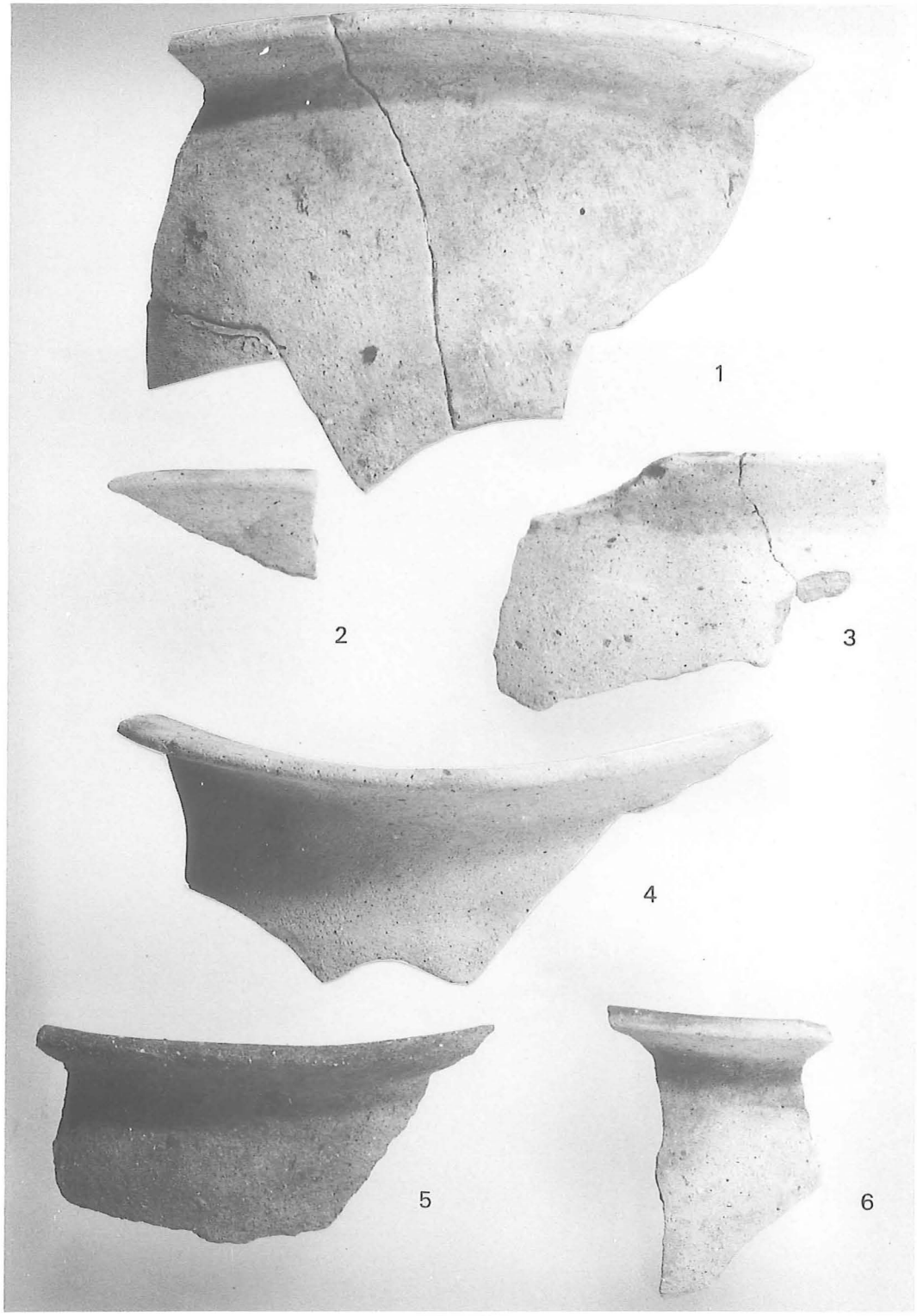



弥生土器①，②，③

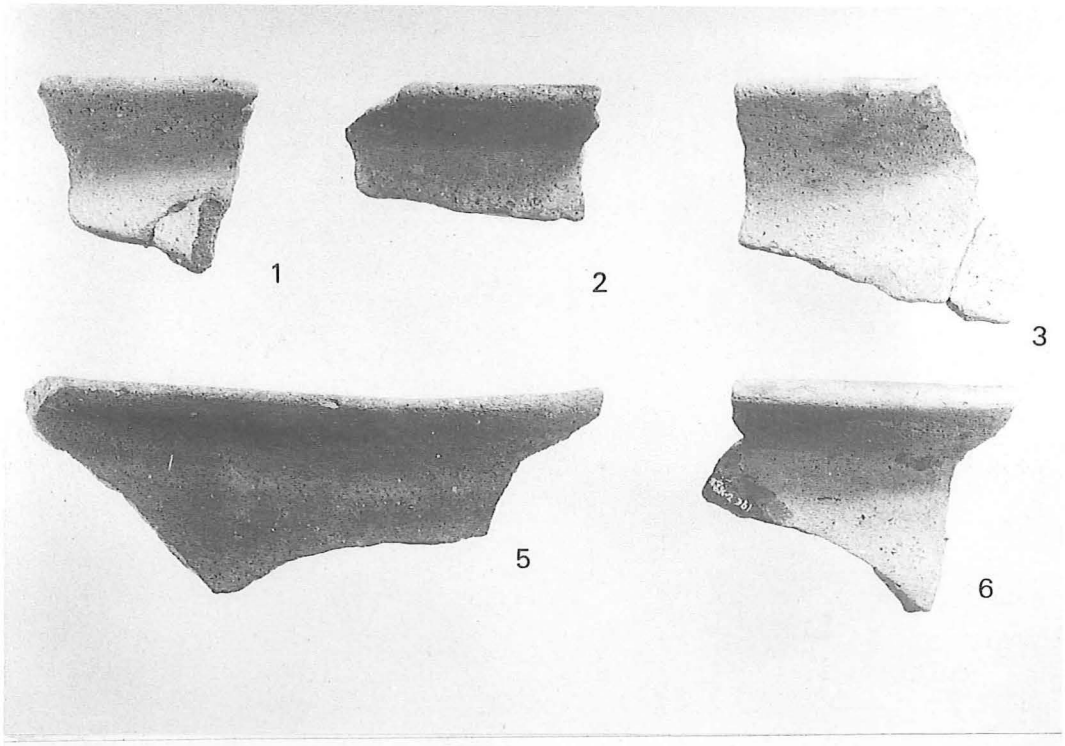
弥生土器④，⑤，⑥

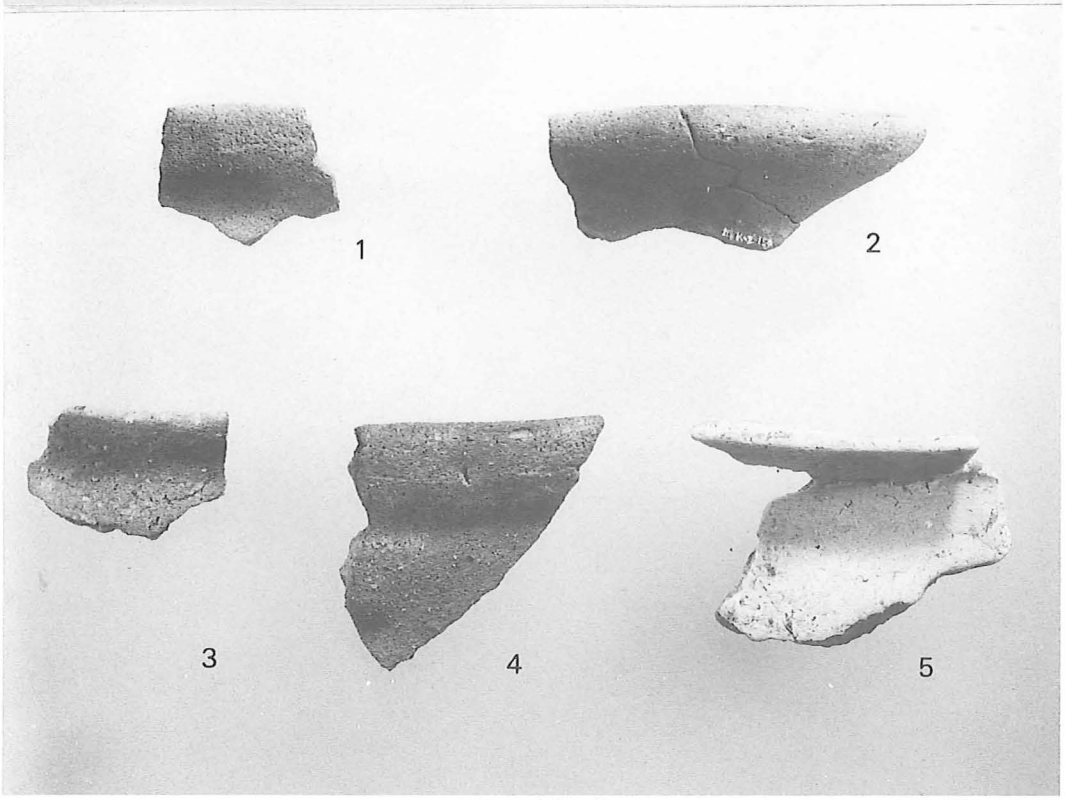



弥生土器⑦，⑧

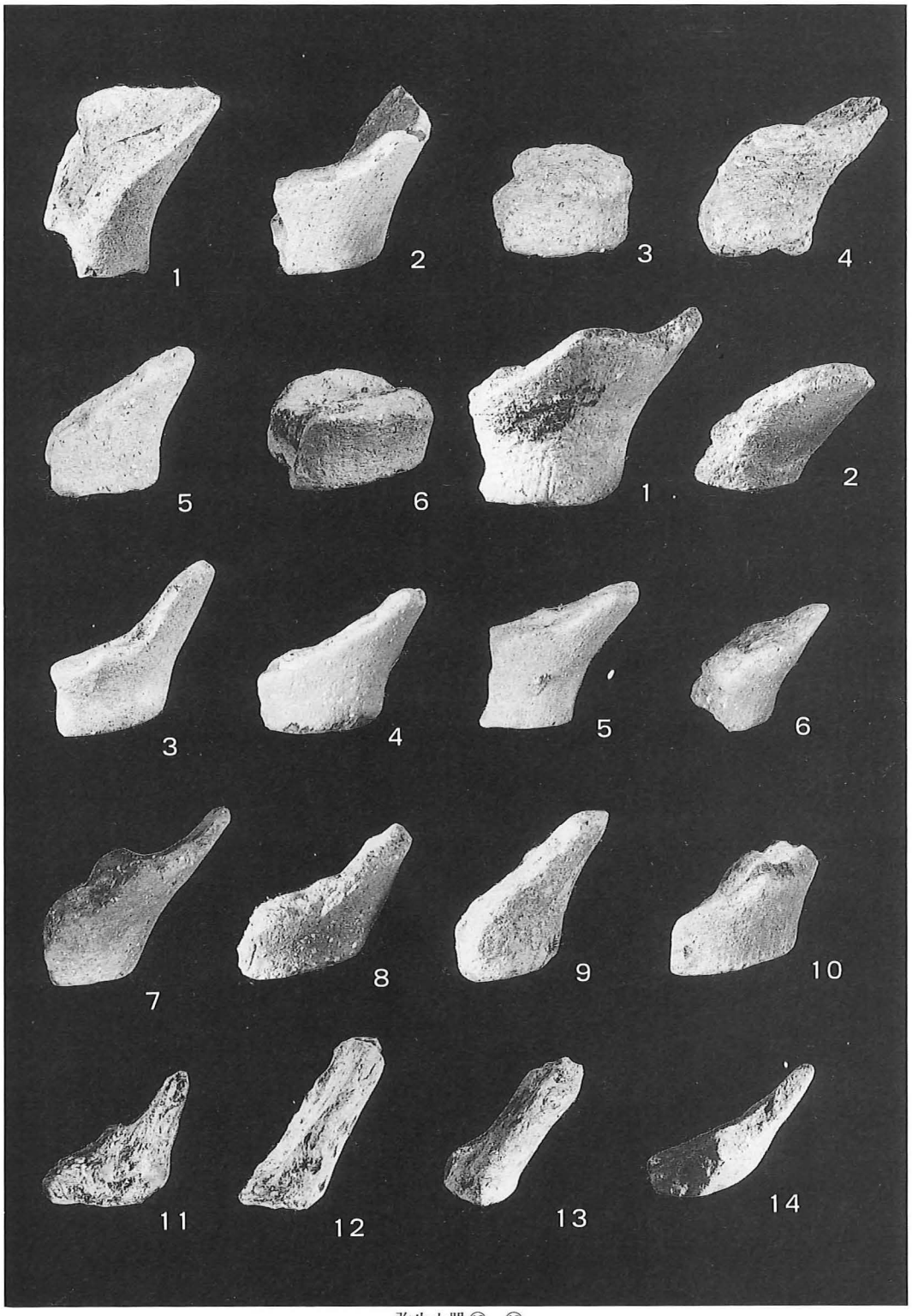



弥生土器⑨

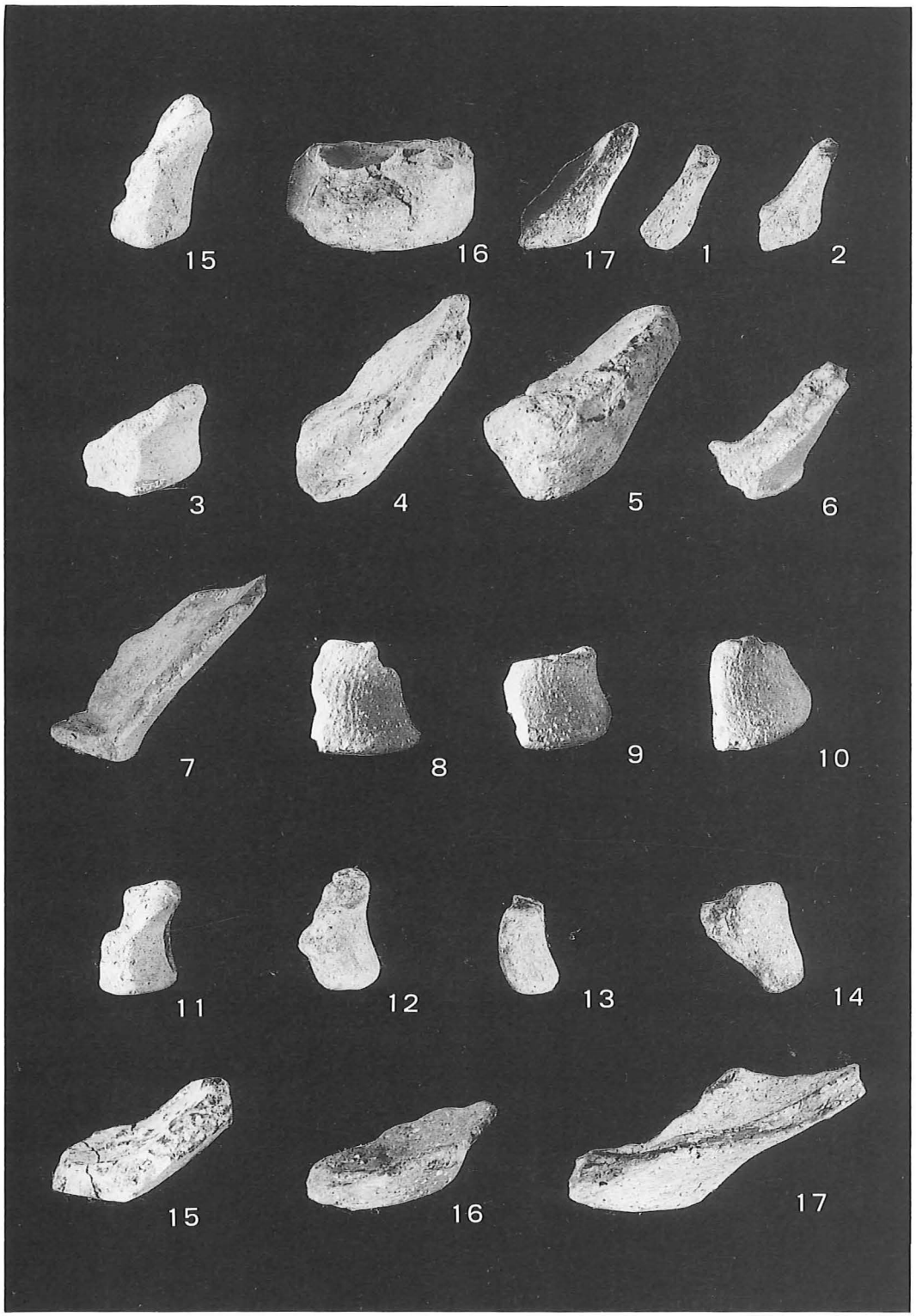


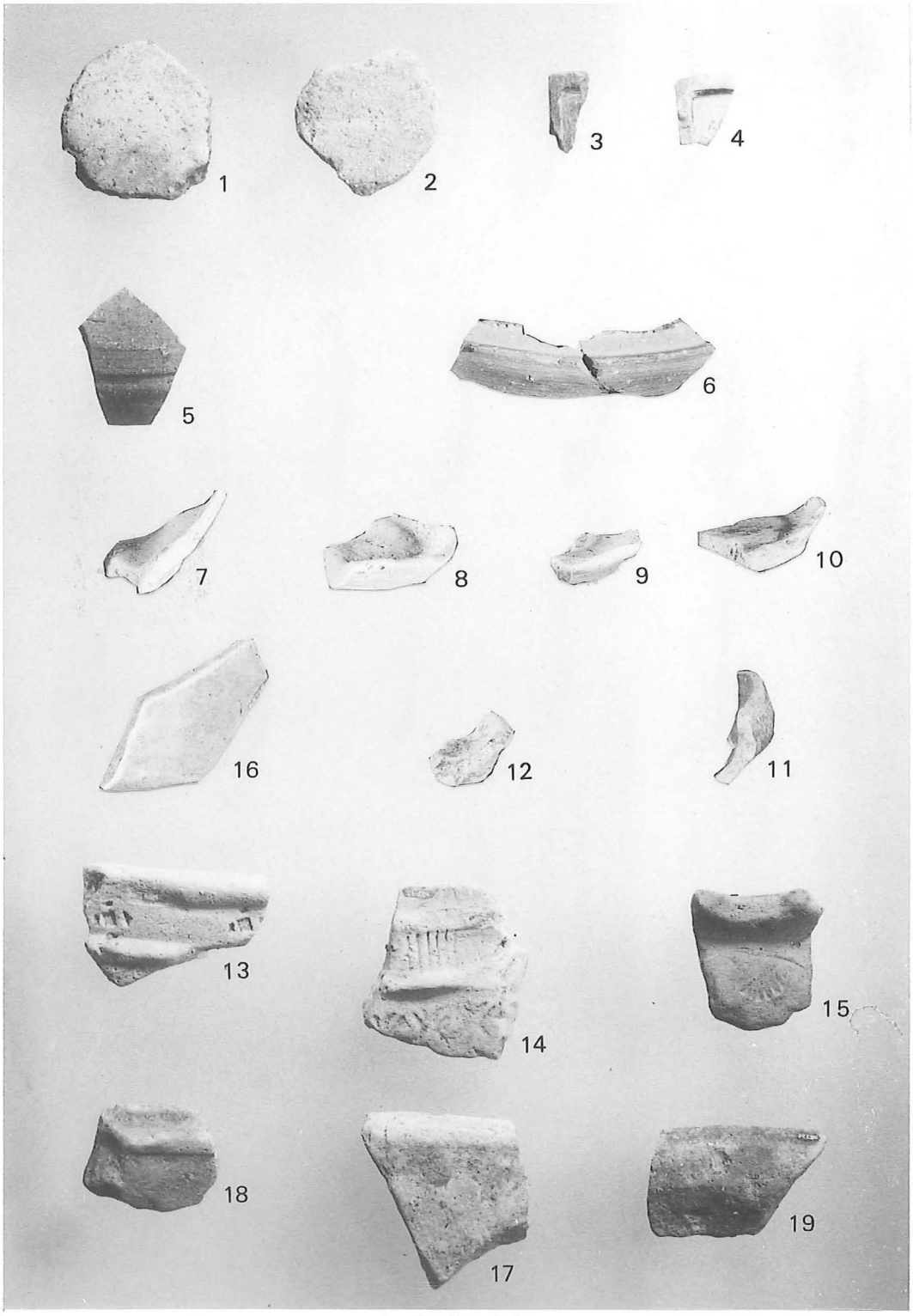

弥生土器⑩，⑪




弥生土器⑫，⑬




弥生土器⑭



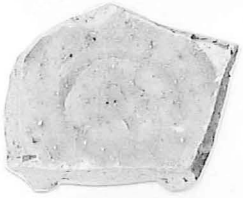

その他の遺物（1/2）

管状土錘（2/3）

1

4

6


2

5

7

3

8

13

9

11

10

14

16

12

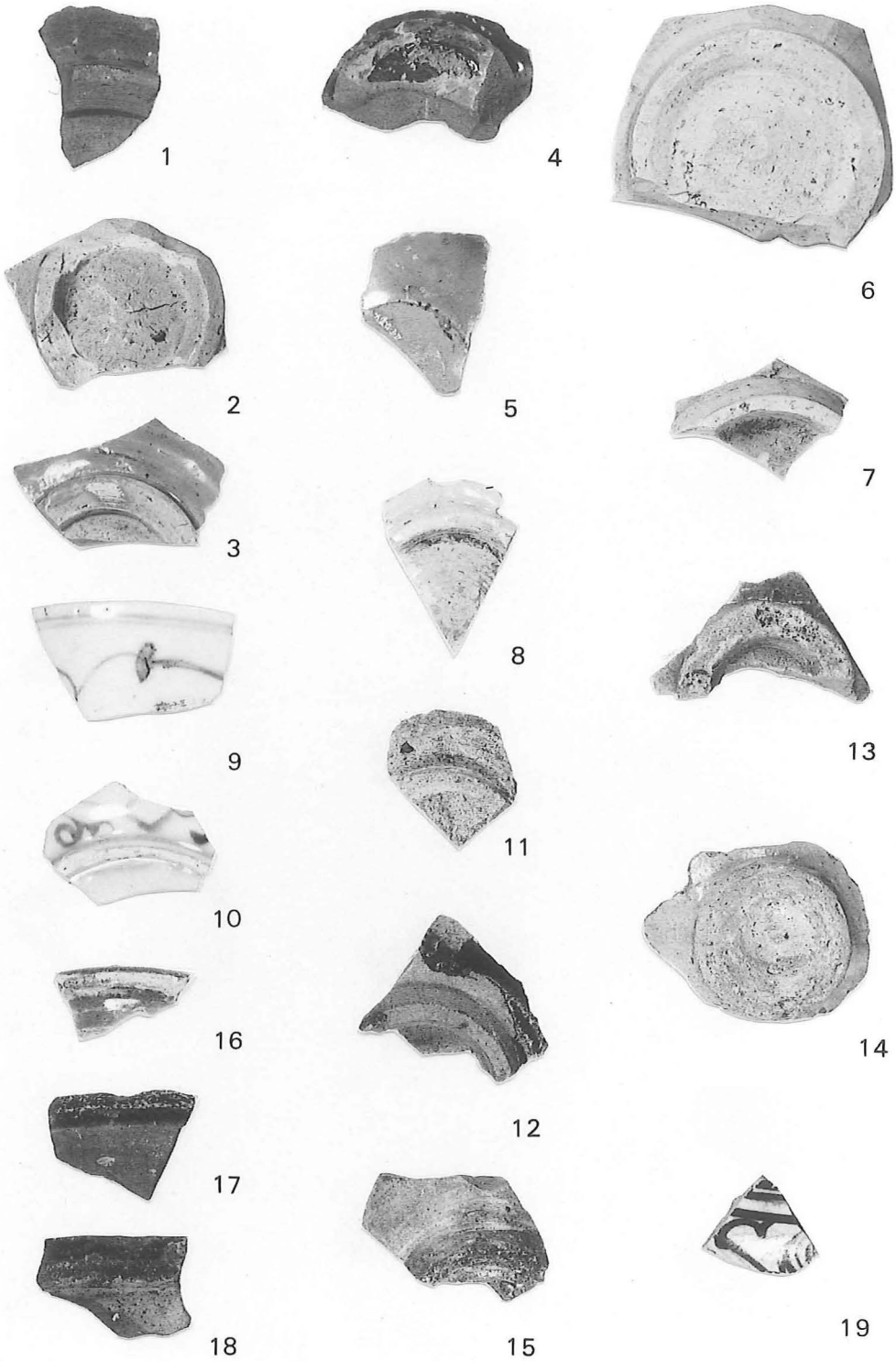
17

19

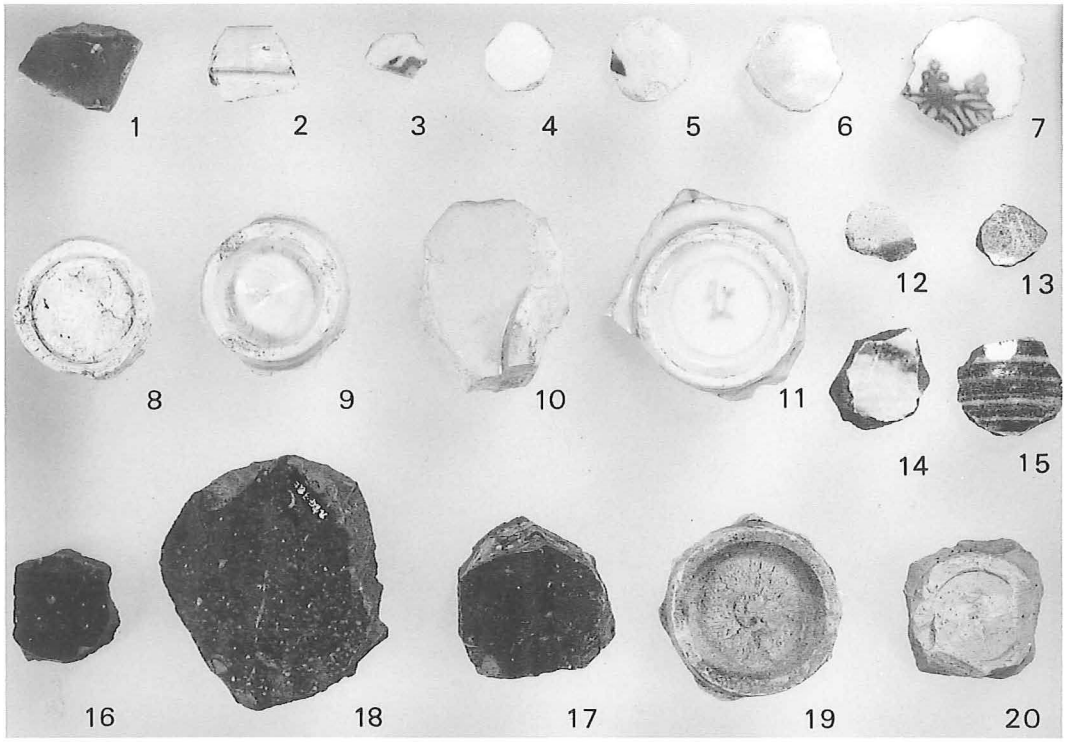
18

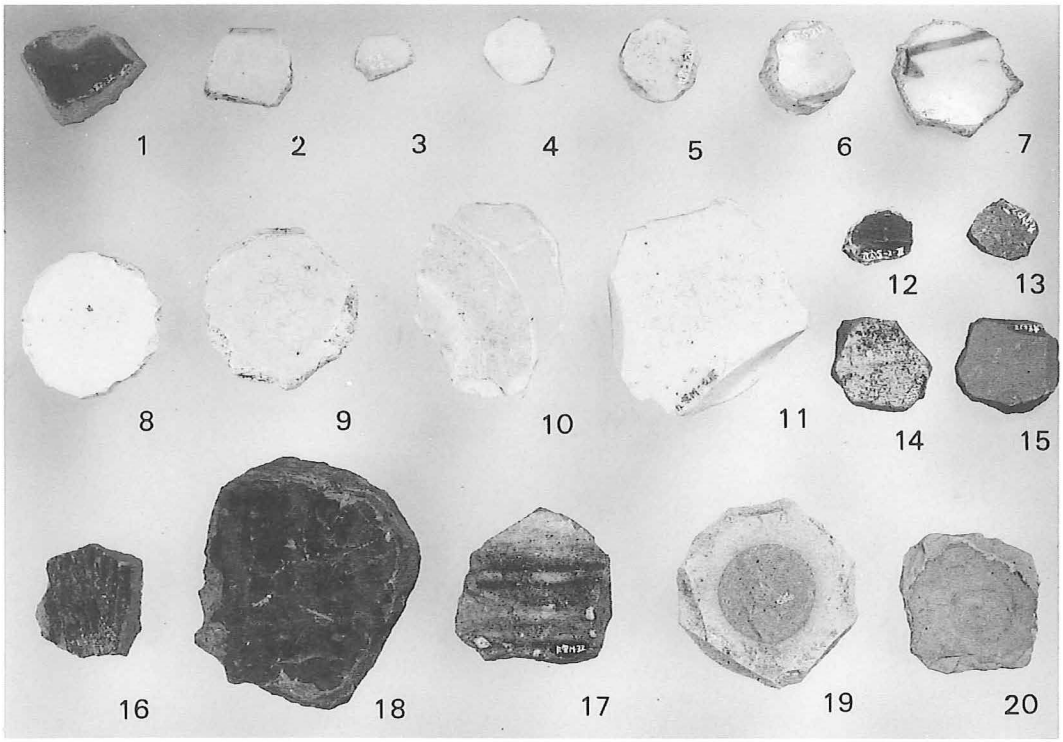
15

中世陶磁器（1/2）

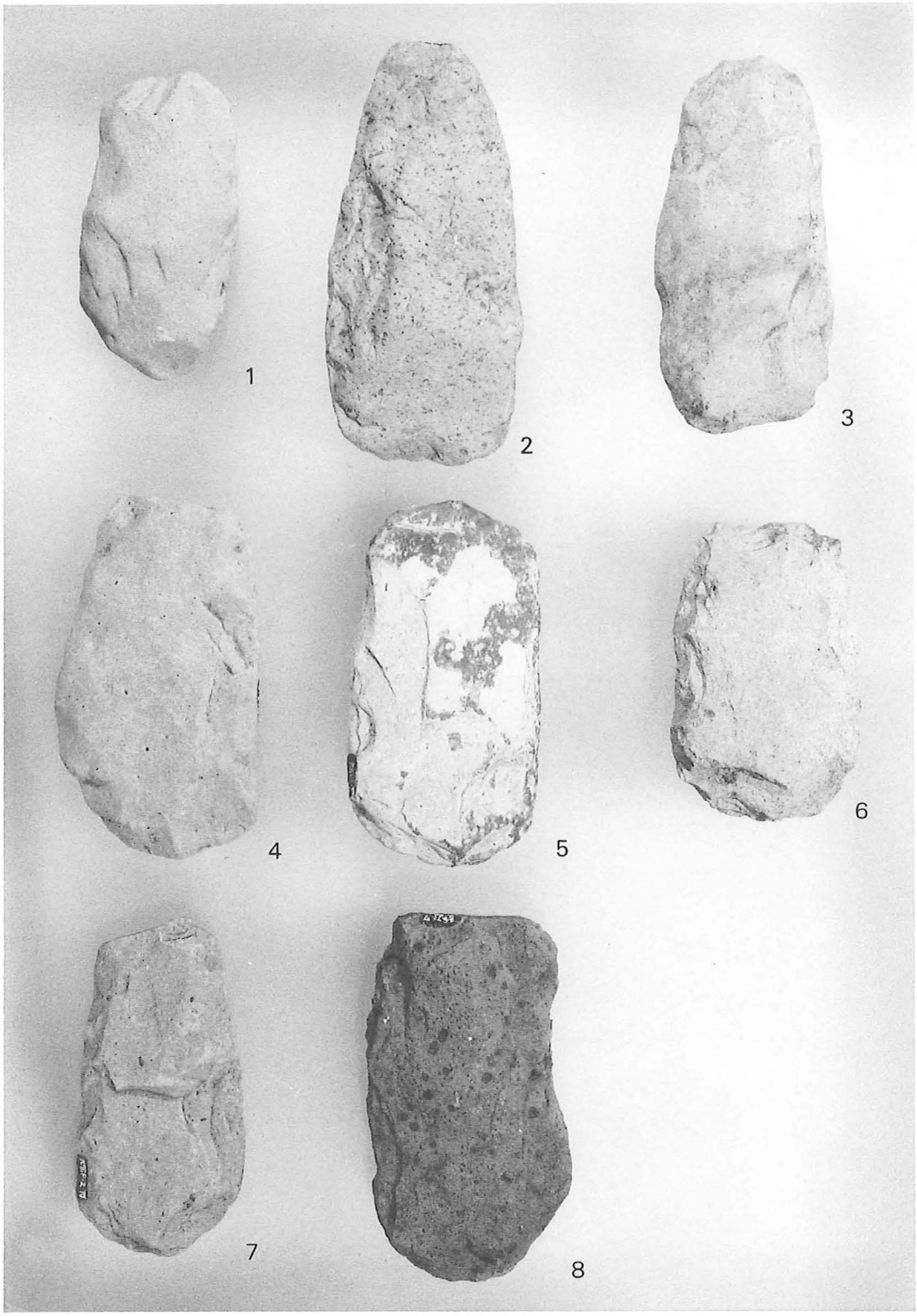



中世陶磁器（1/2）

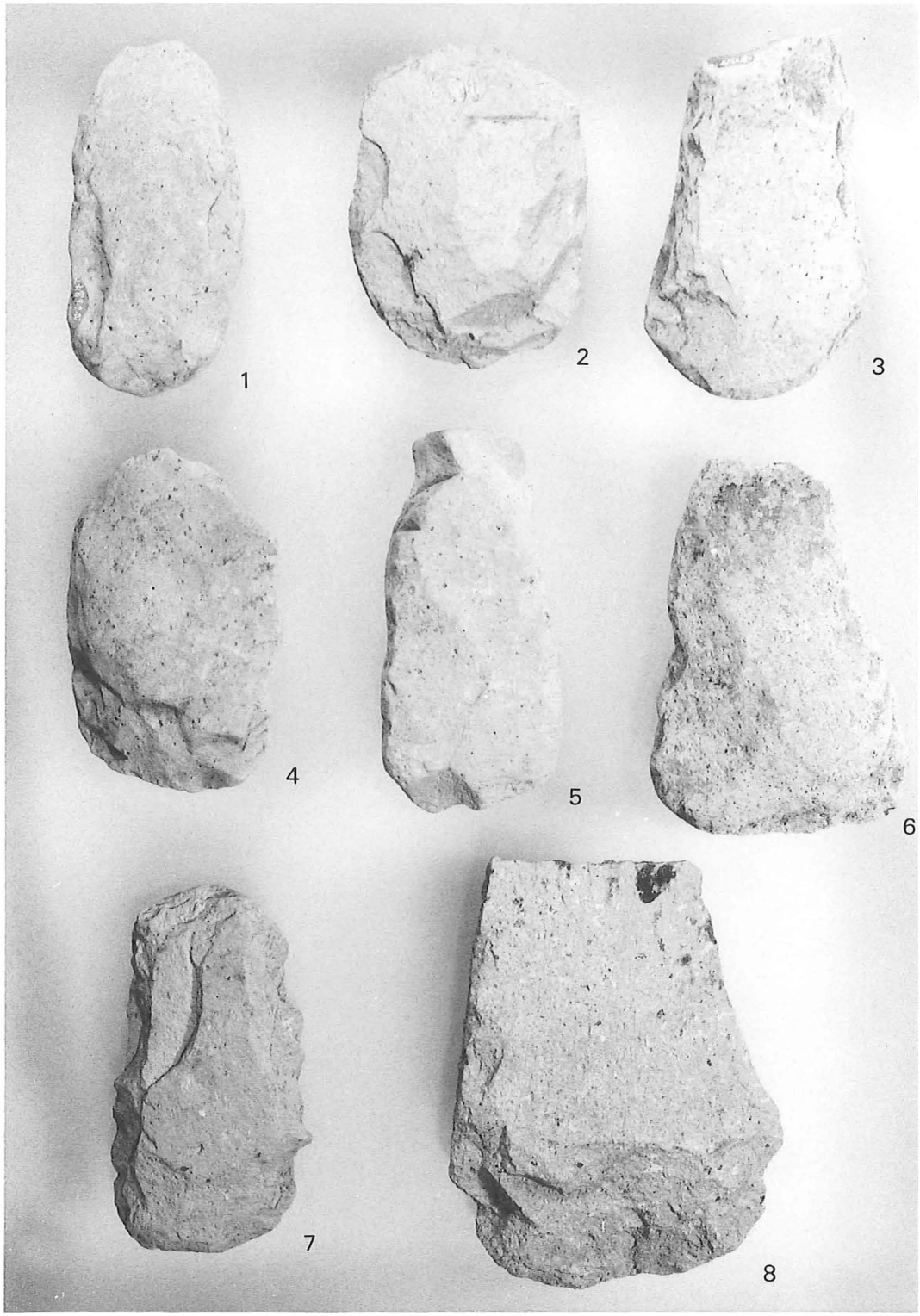

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
18
17
19
20


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
18
17
19
20

円盤状陶磁製品

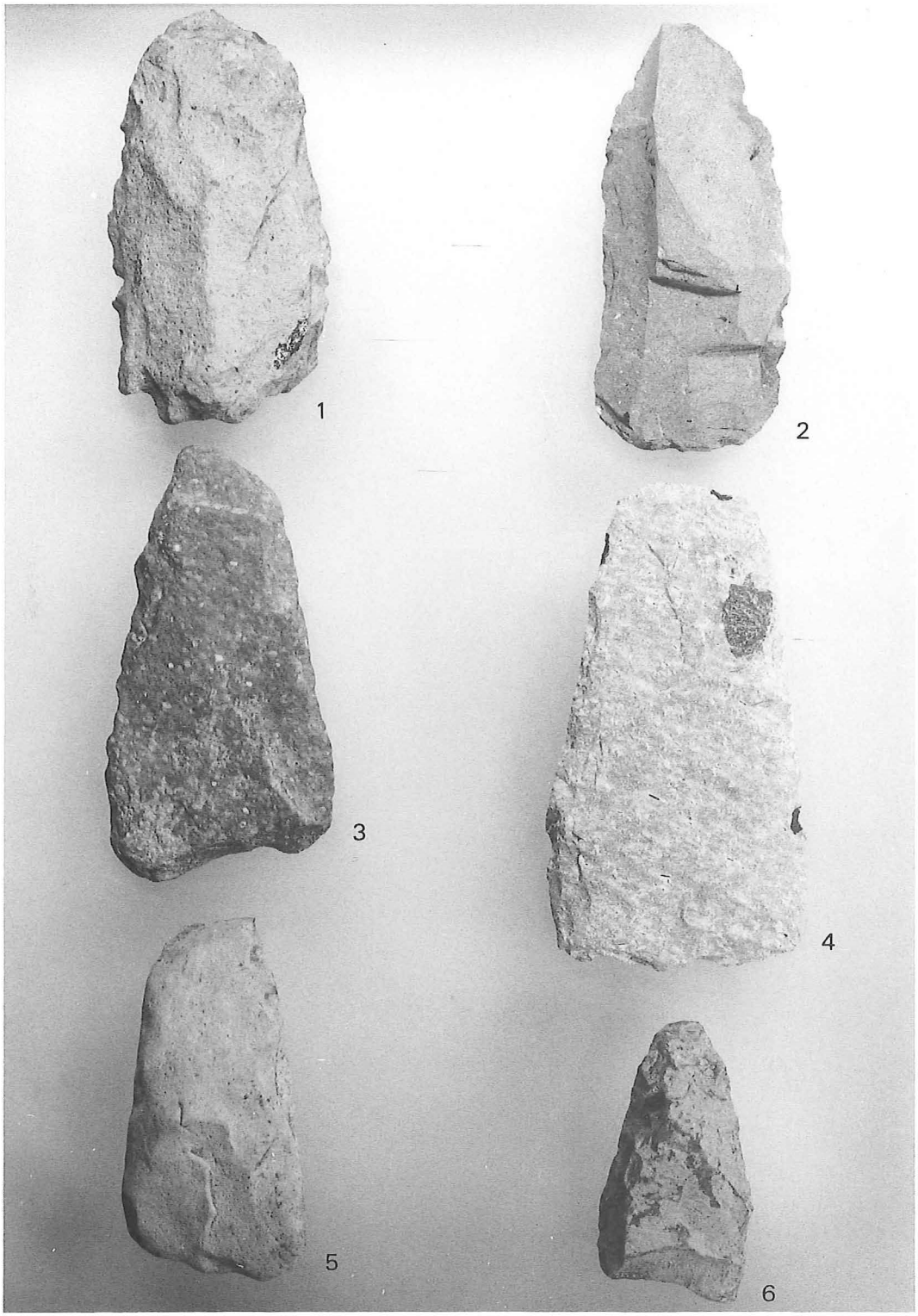



打製石斧①（1/2）

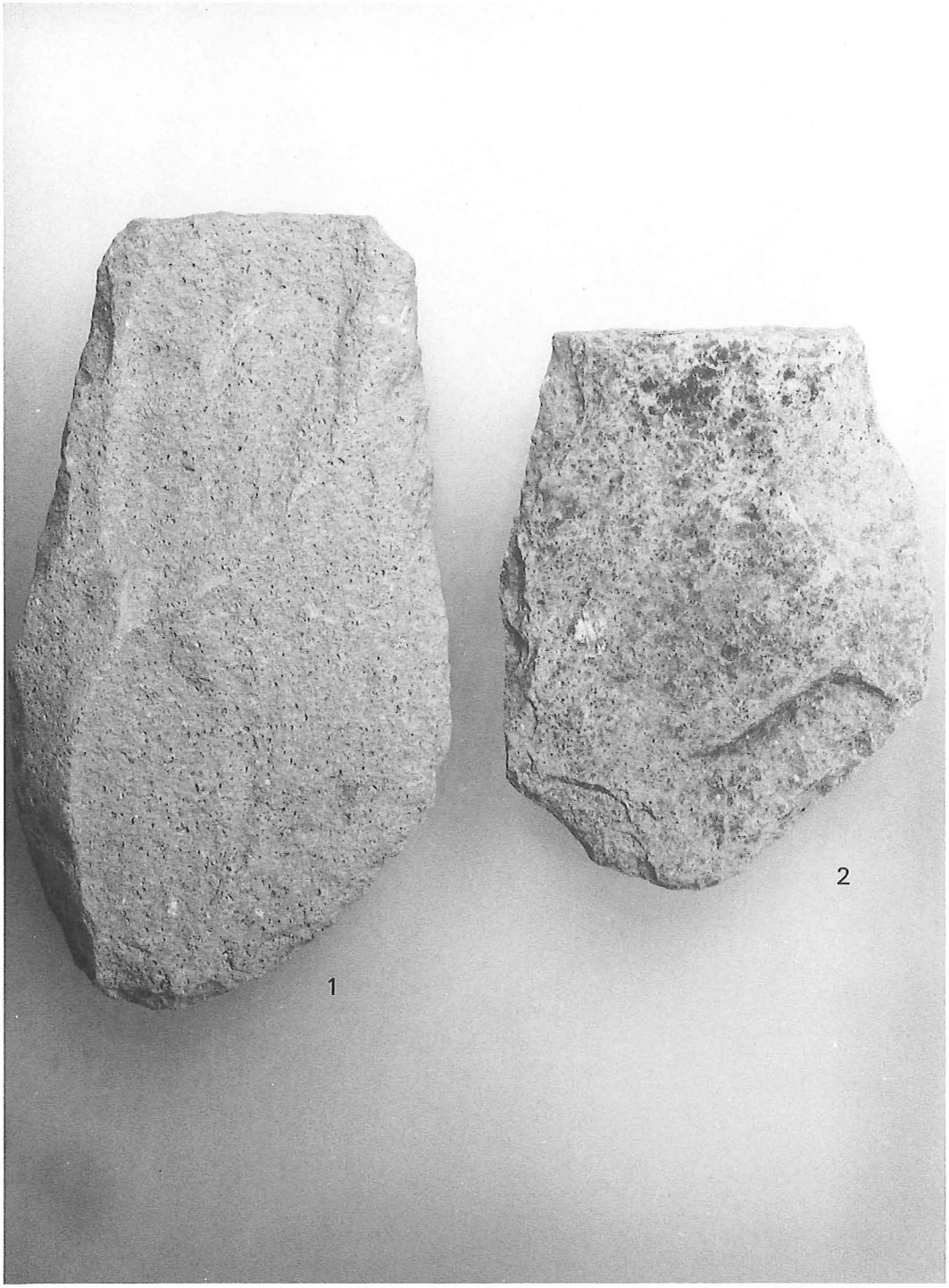



打製石斧②（1/2）

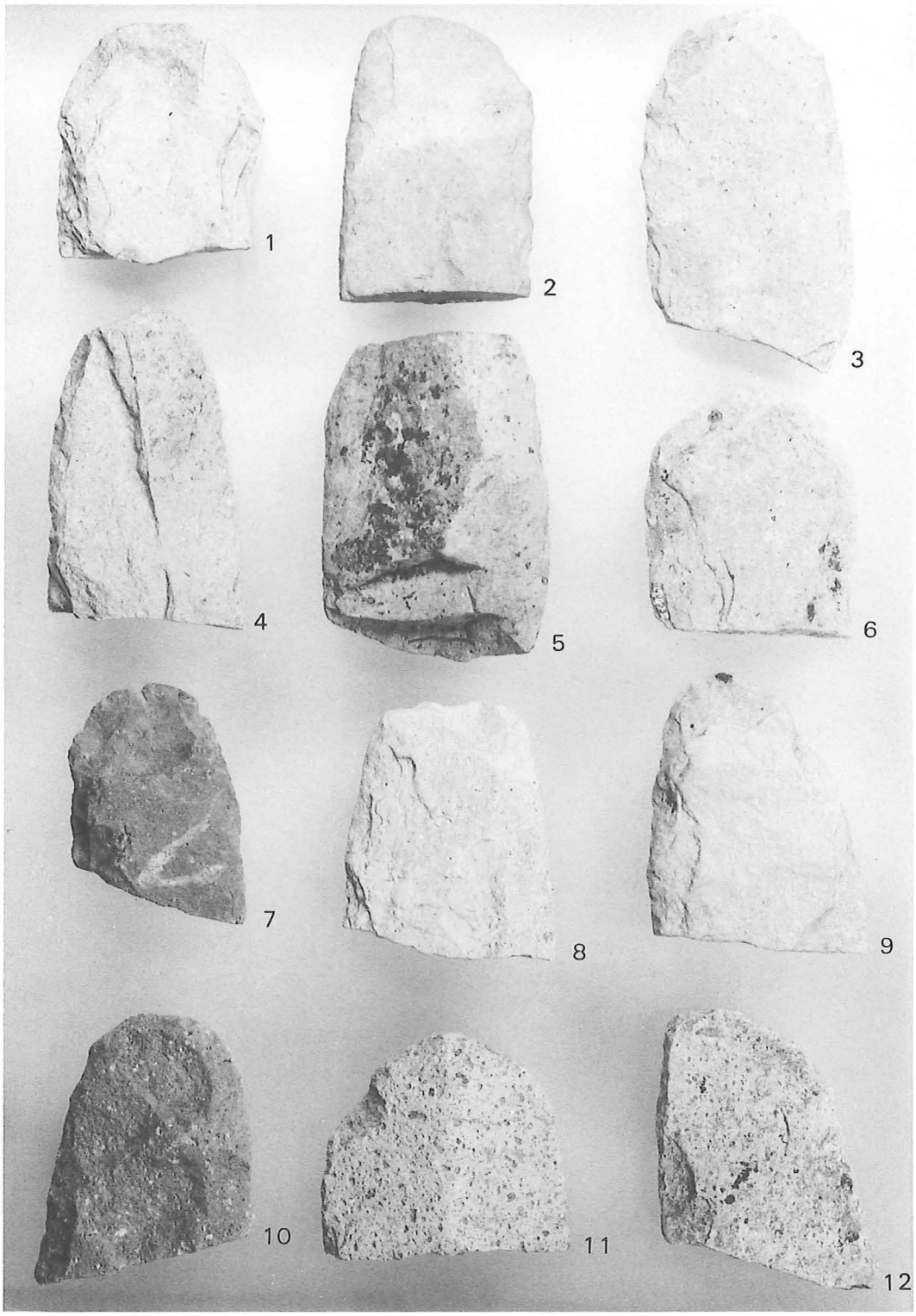
打製石斧③（1/2）



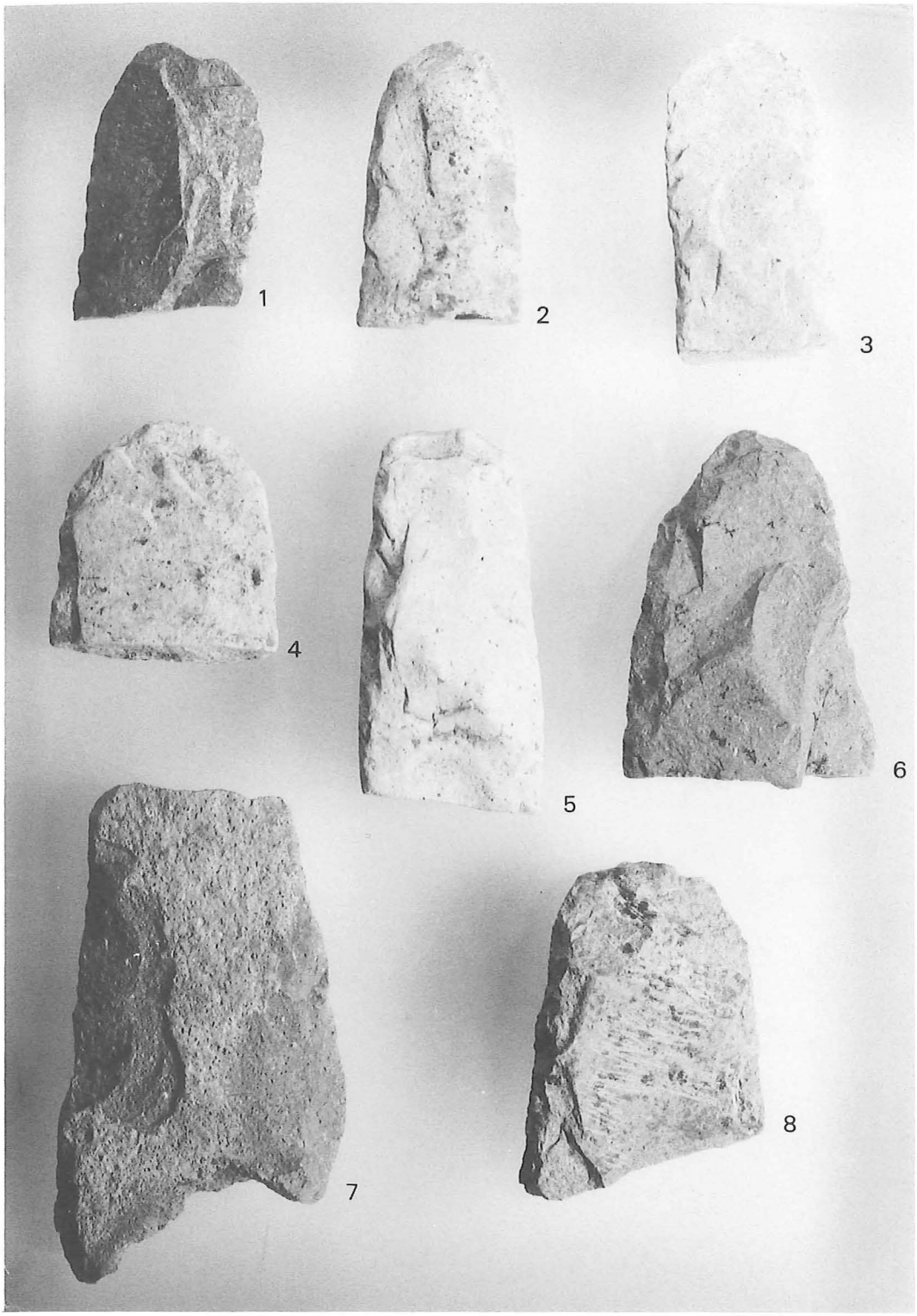

打製石斧④（1/2）



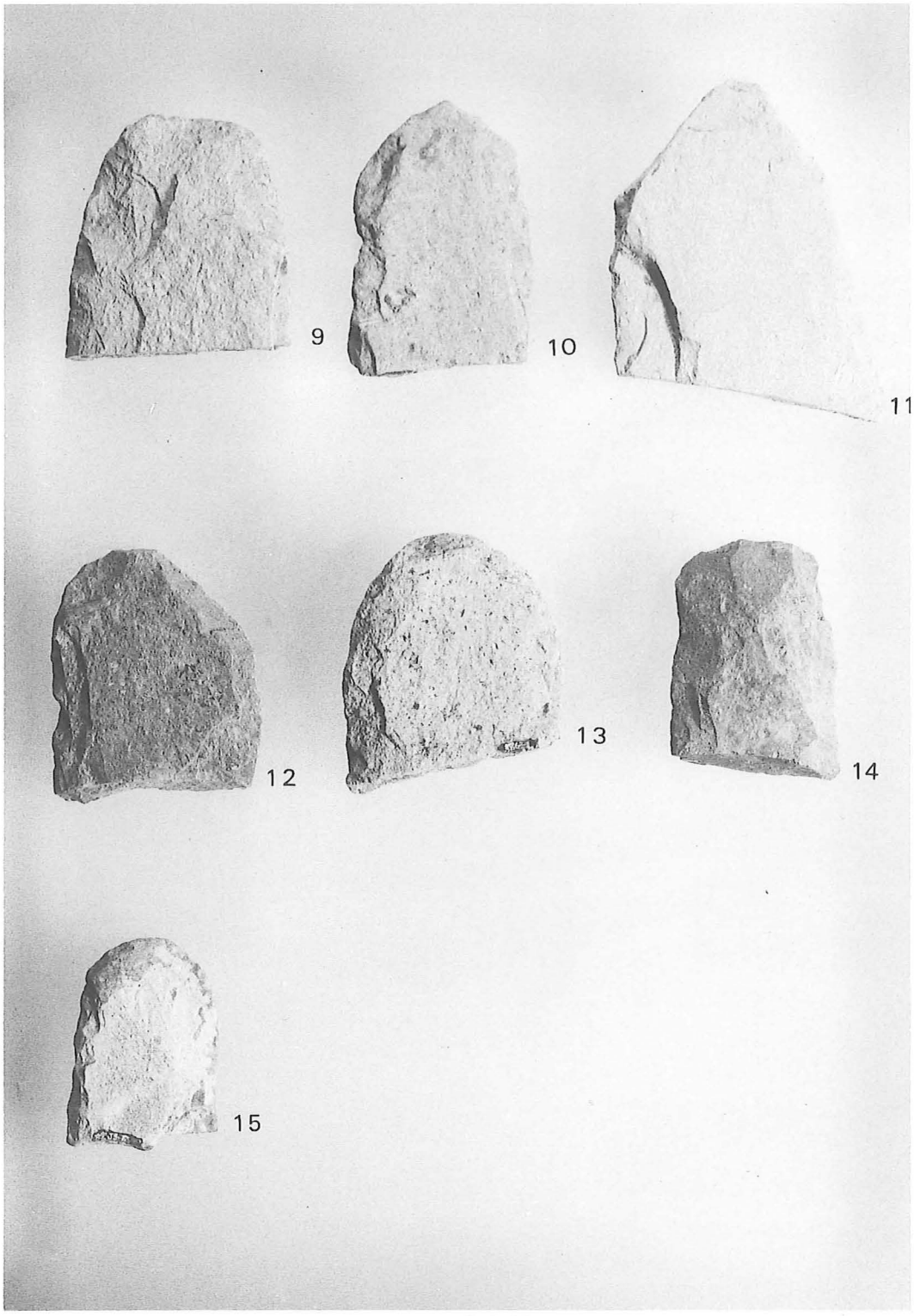

打製石斧⑤（1/2）



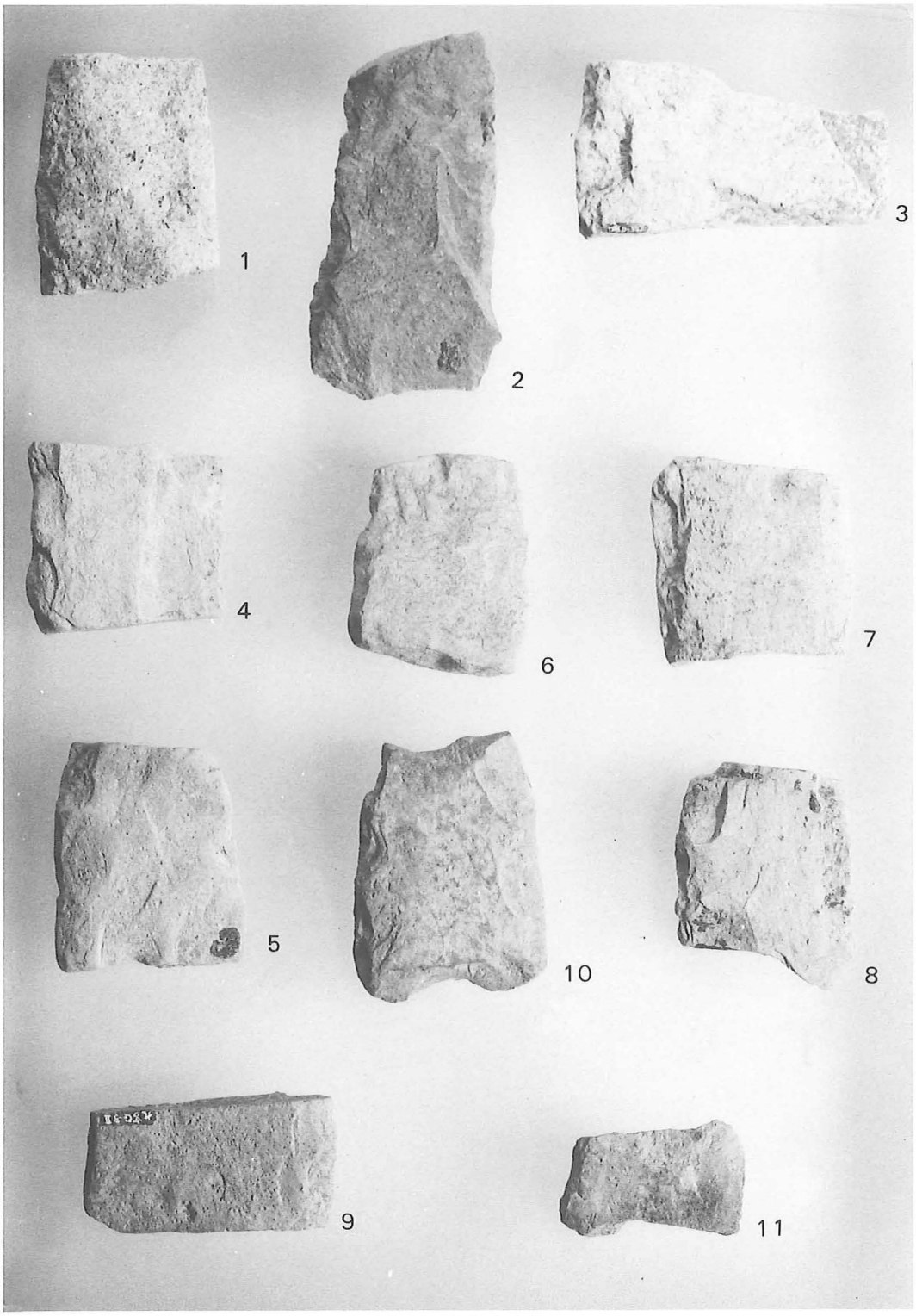

打製石斧⑥（1/2）



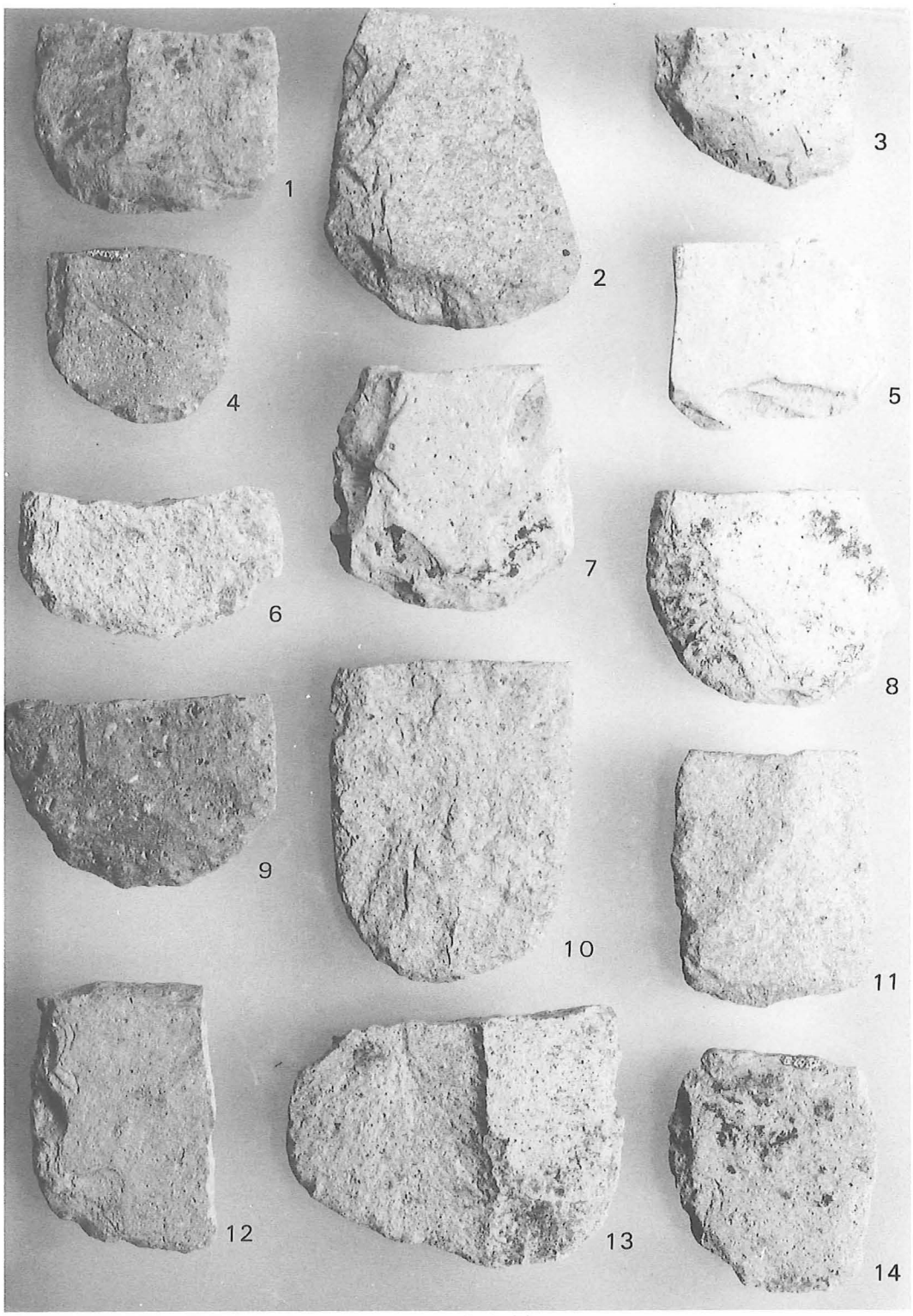

打製石斧⑦（1/2）



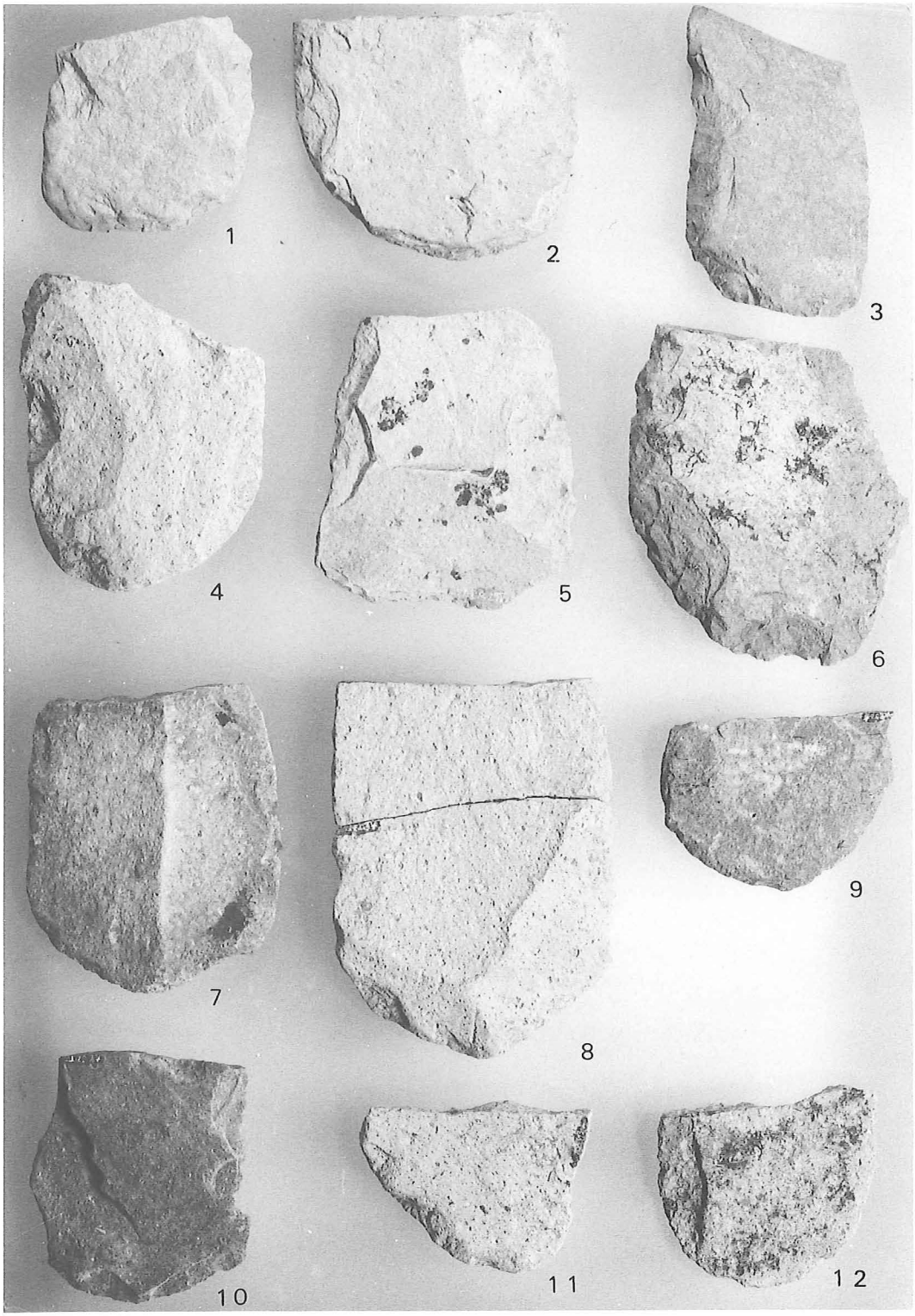

打製石斧⑦（1/2）



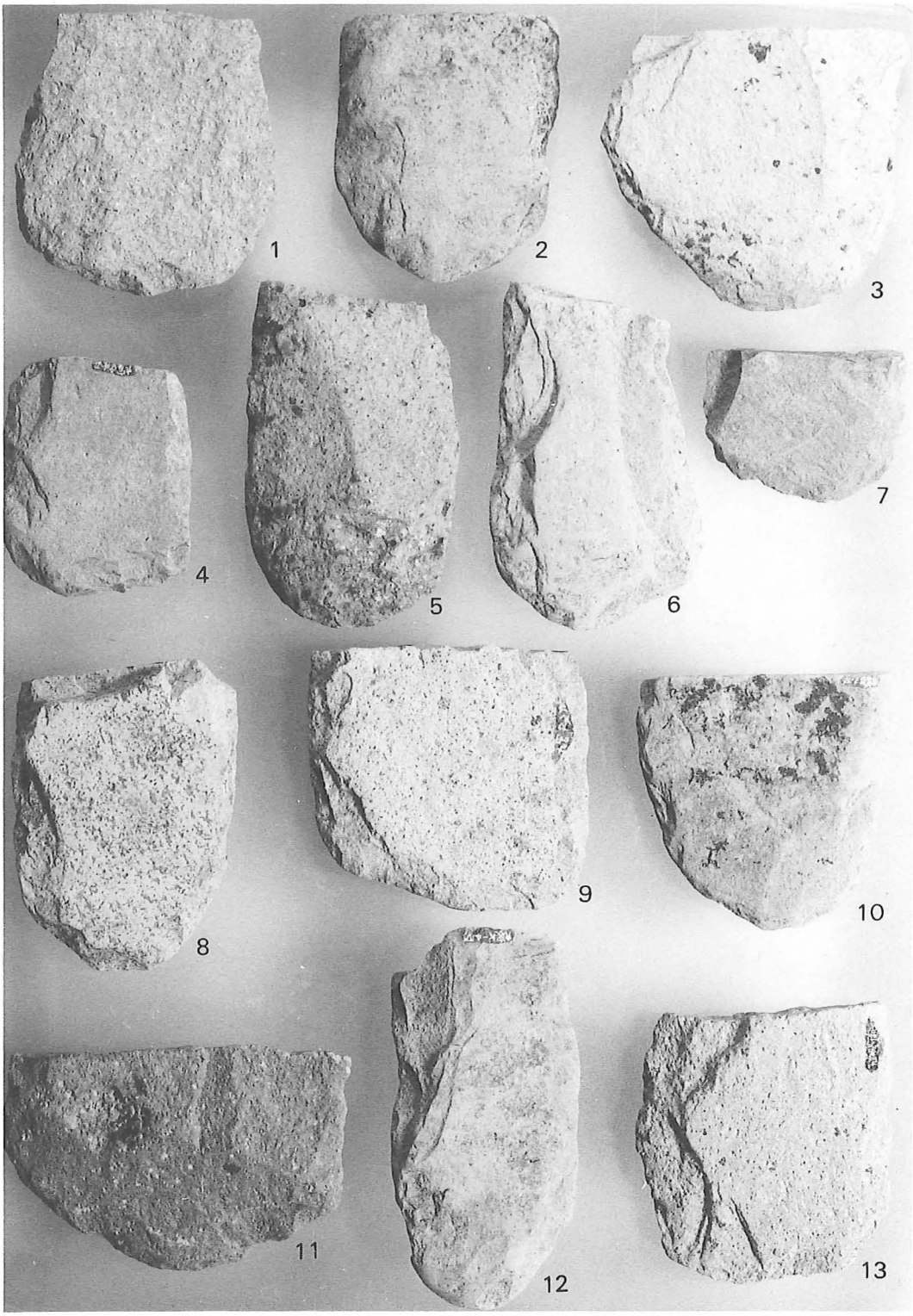

打製石斧⑧（1/2）




打製石斧⑨（1/2）

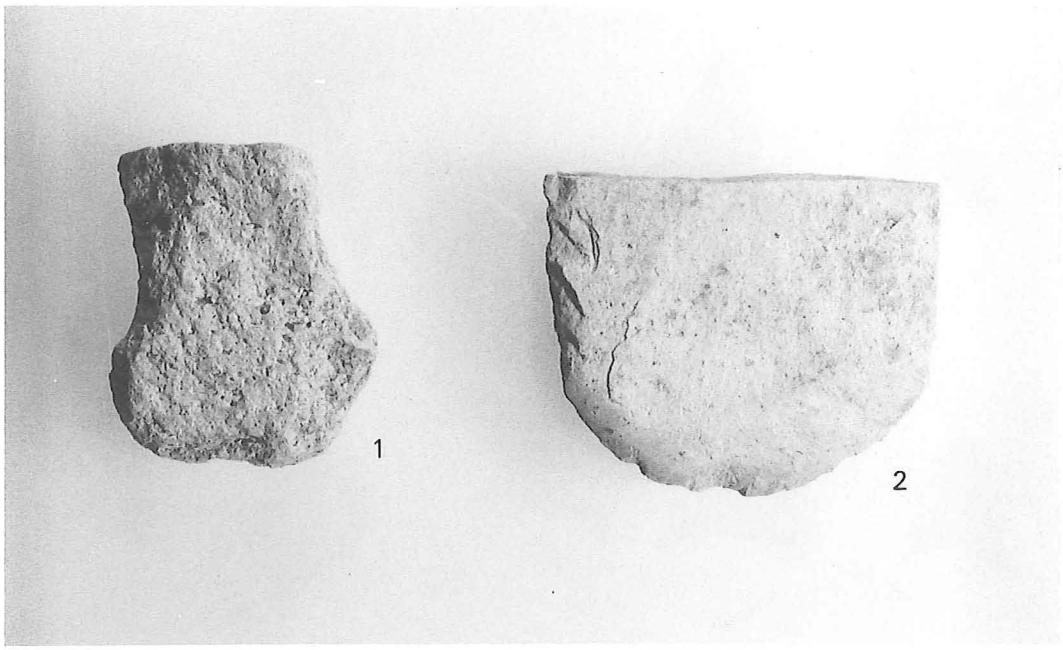



打製石斧⑩（1/2）

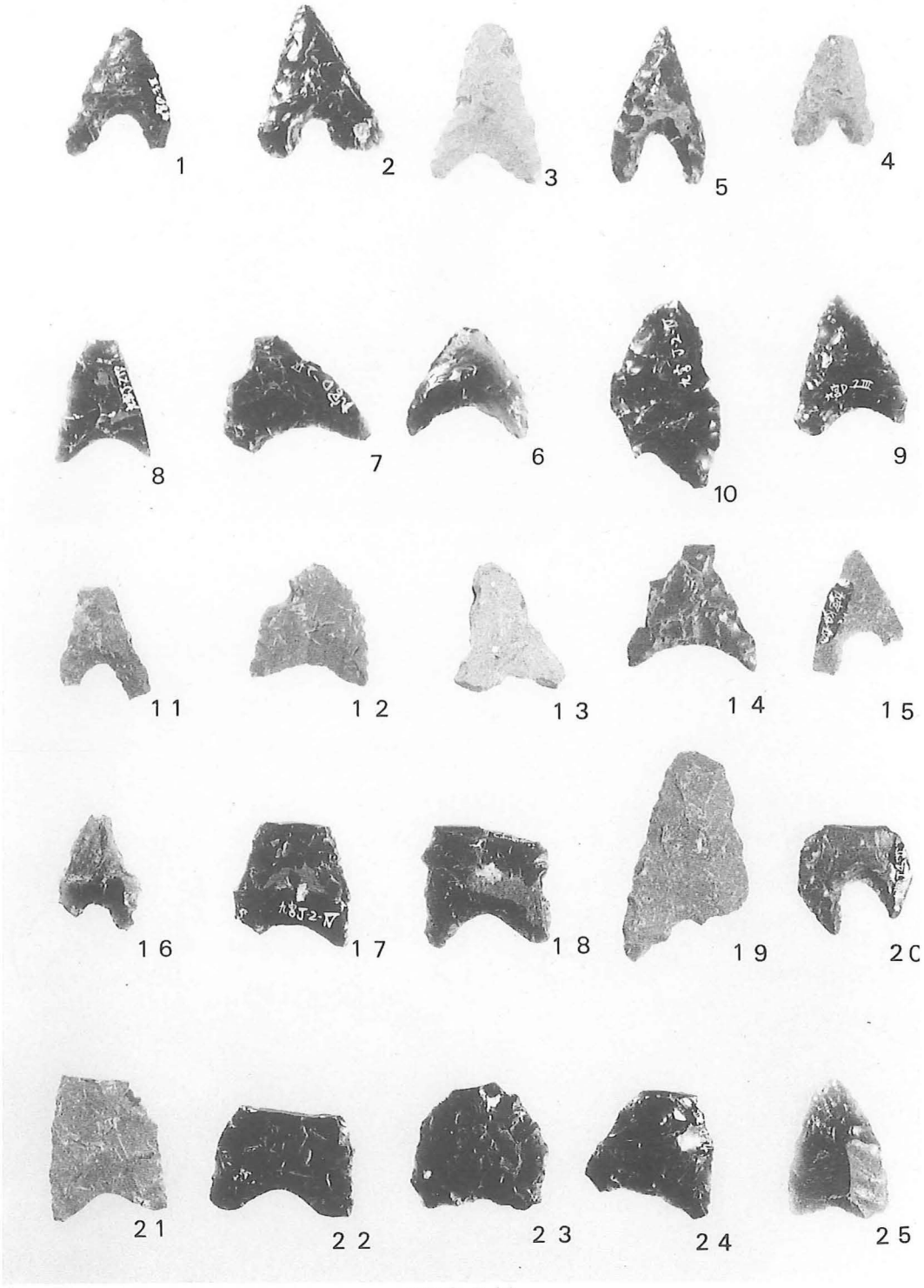



打製石斧⑪（1/2）

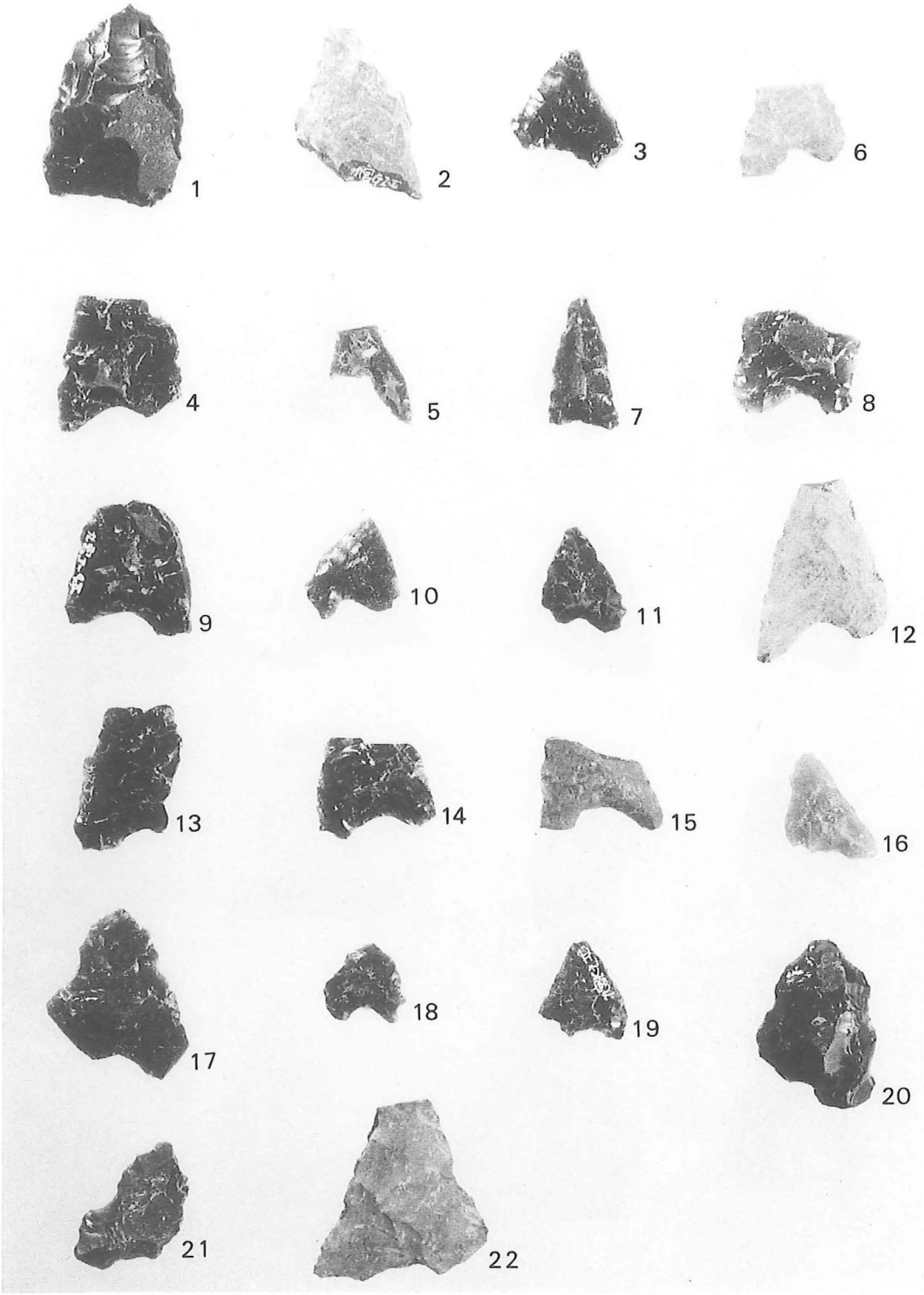
打製石斧⑫（1/2）



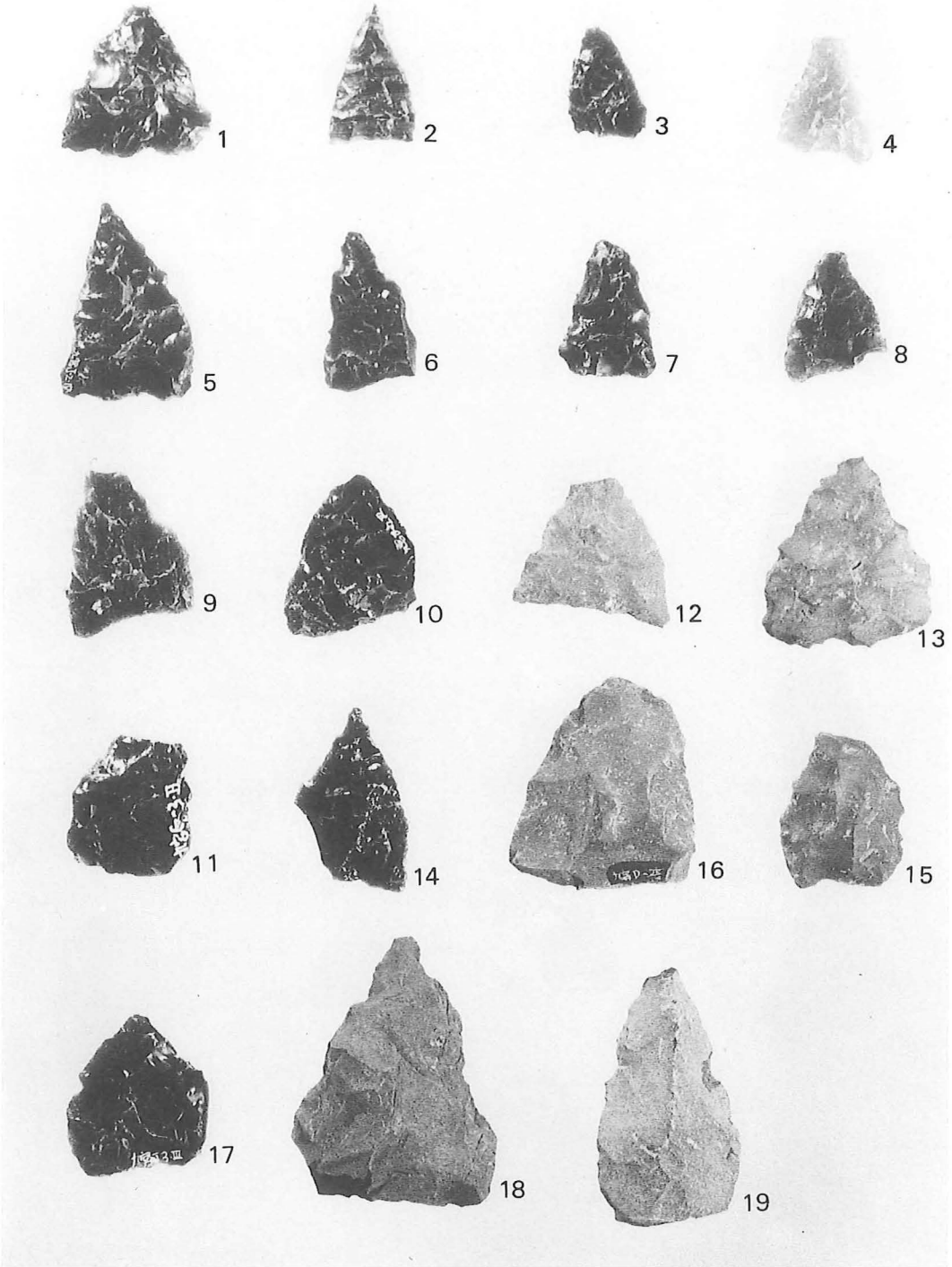

打製石斧⑬（1/2）



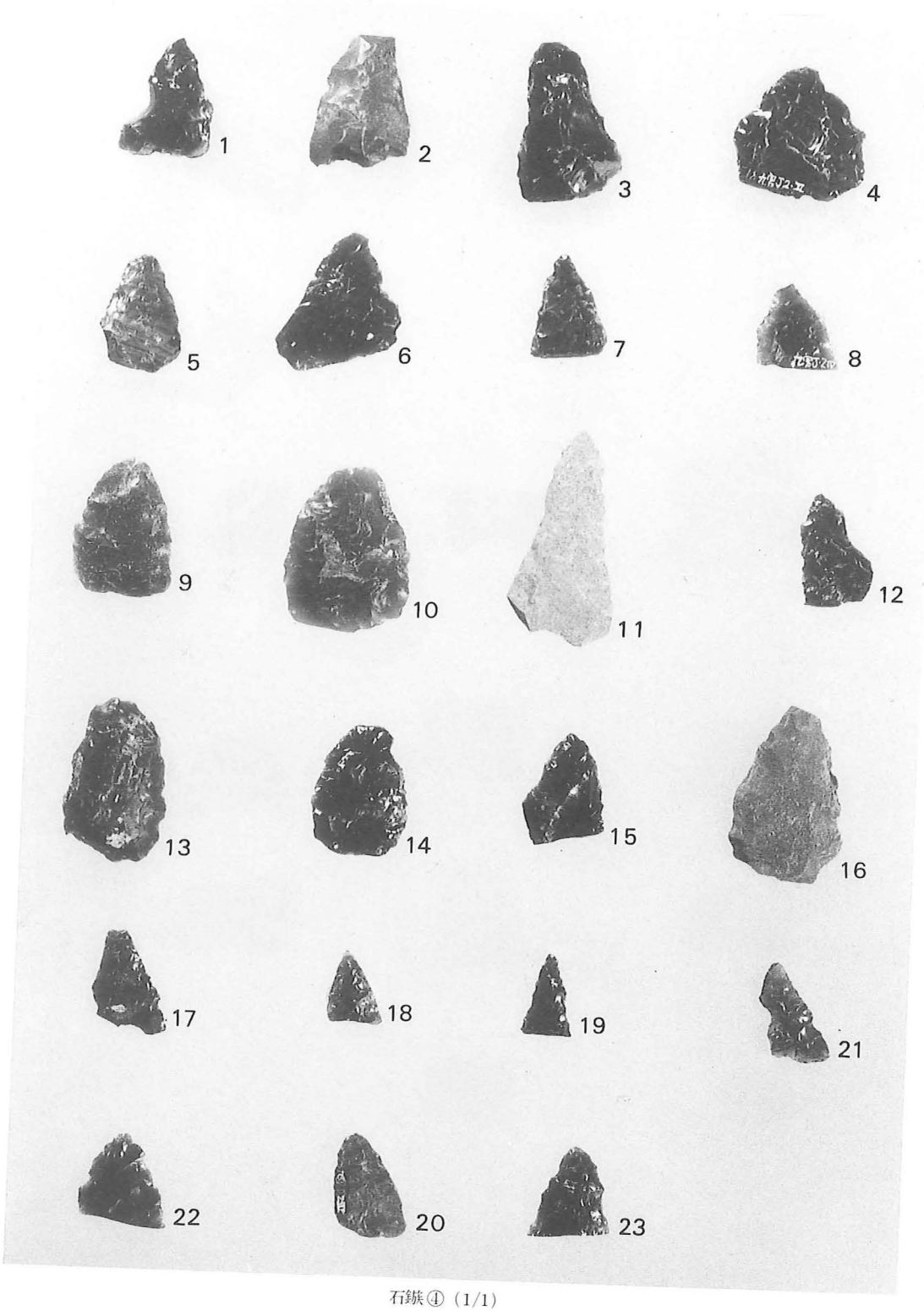

石鏃①（1/1）



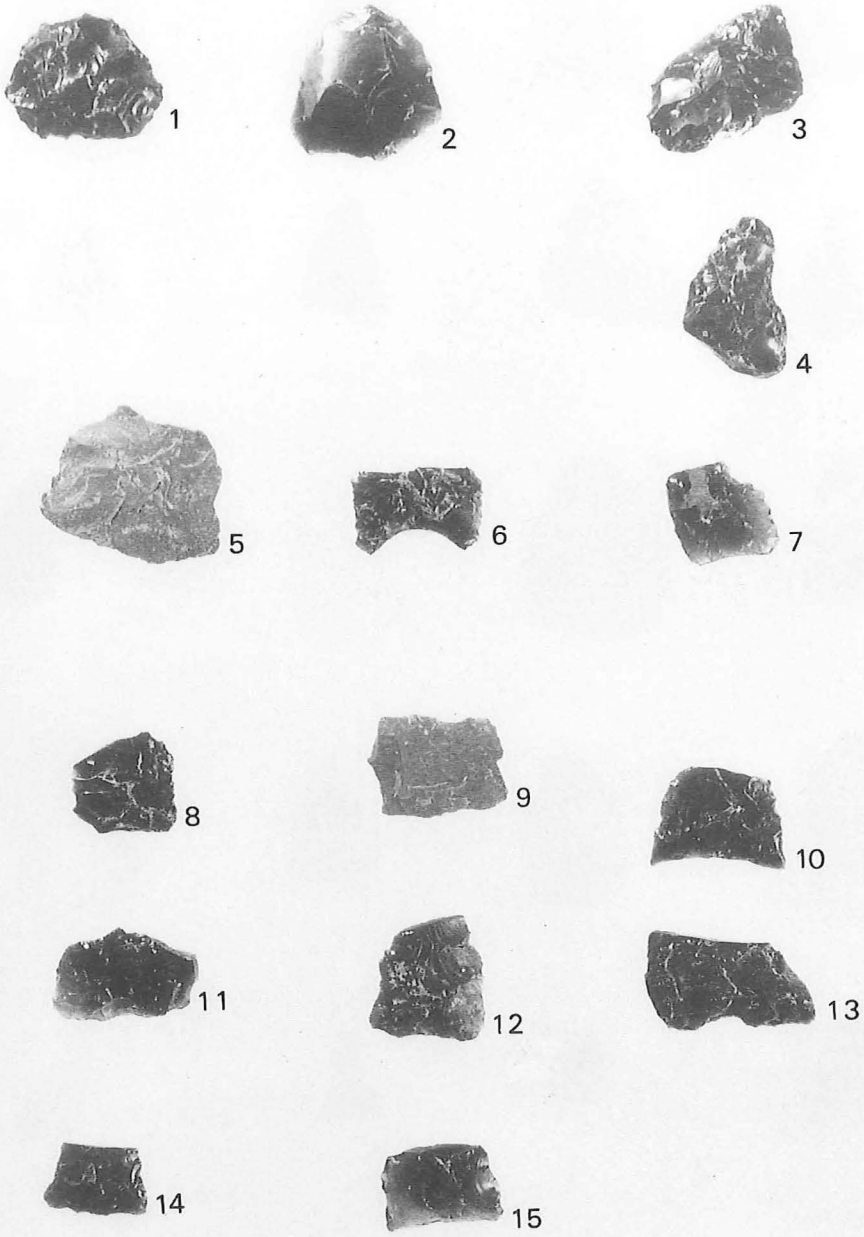

石鏃②（1/1）



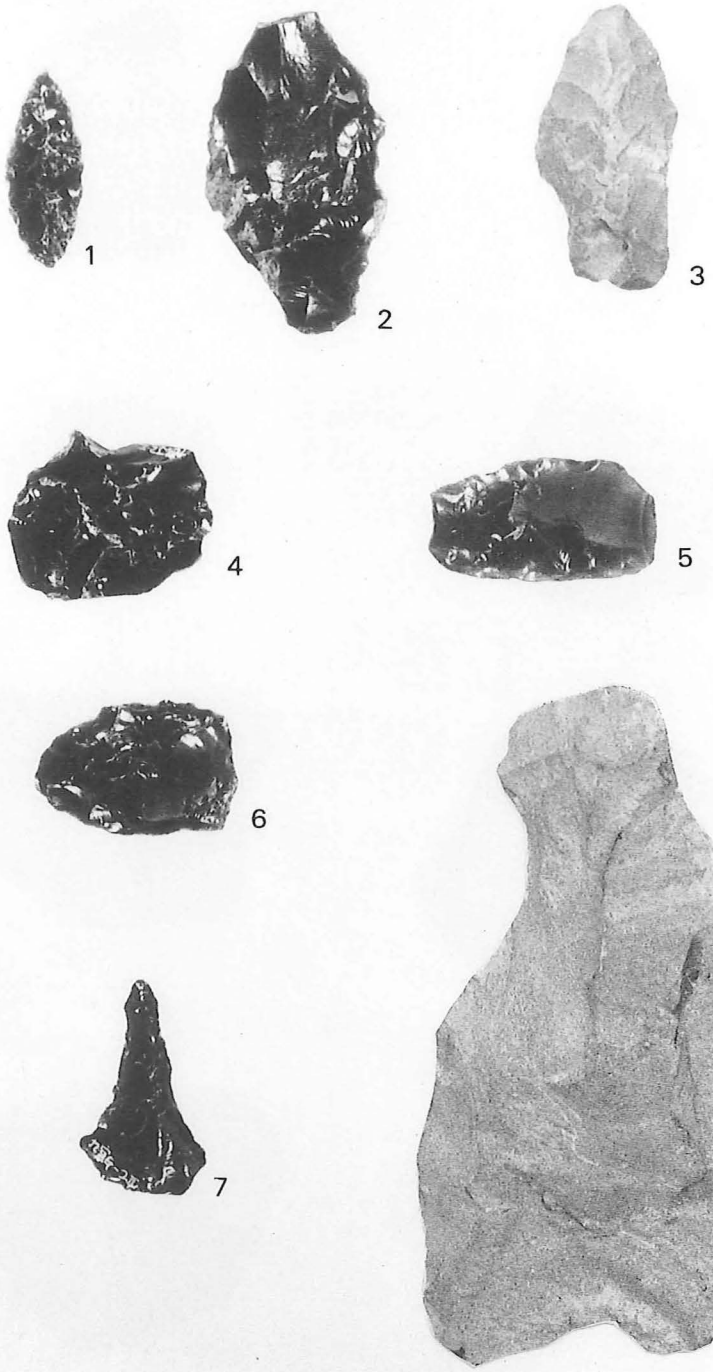

石鏃③（1/1）



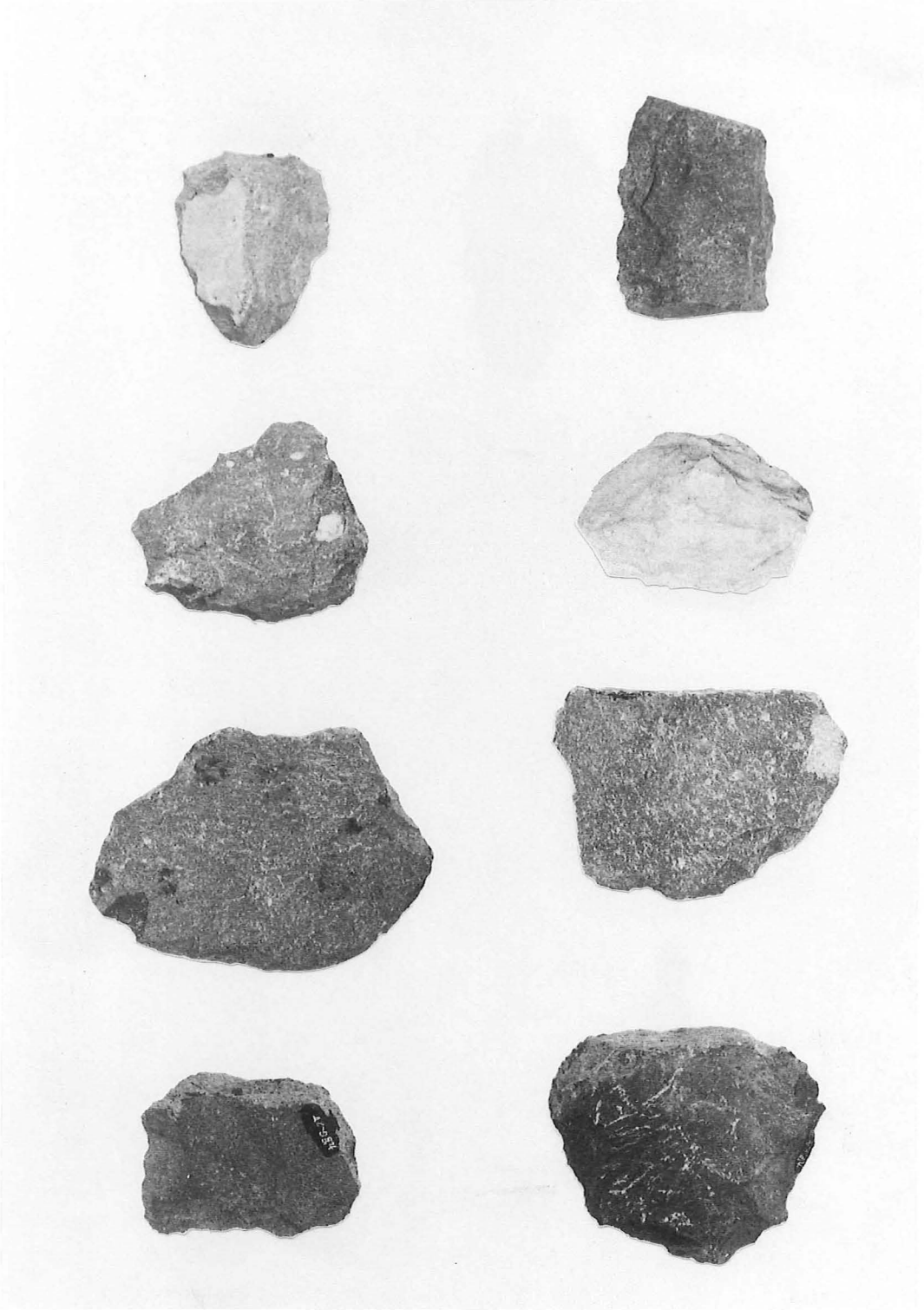

石鏃④（1/1）




石鏃⑤（1/1）



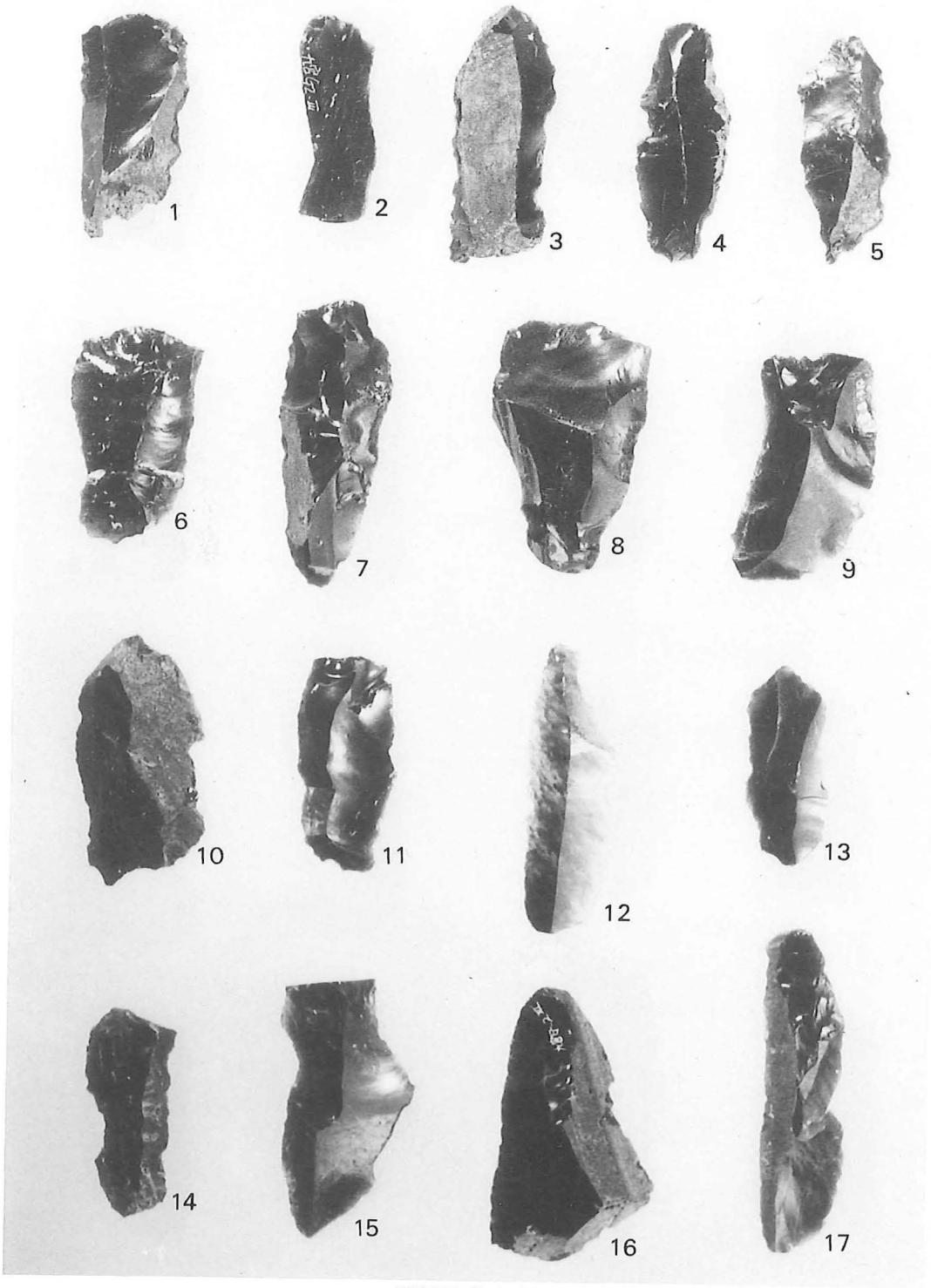

石槍・サイドブレイド・石錘・石匙（1/1）



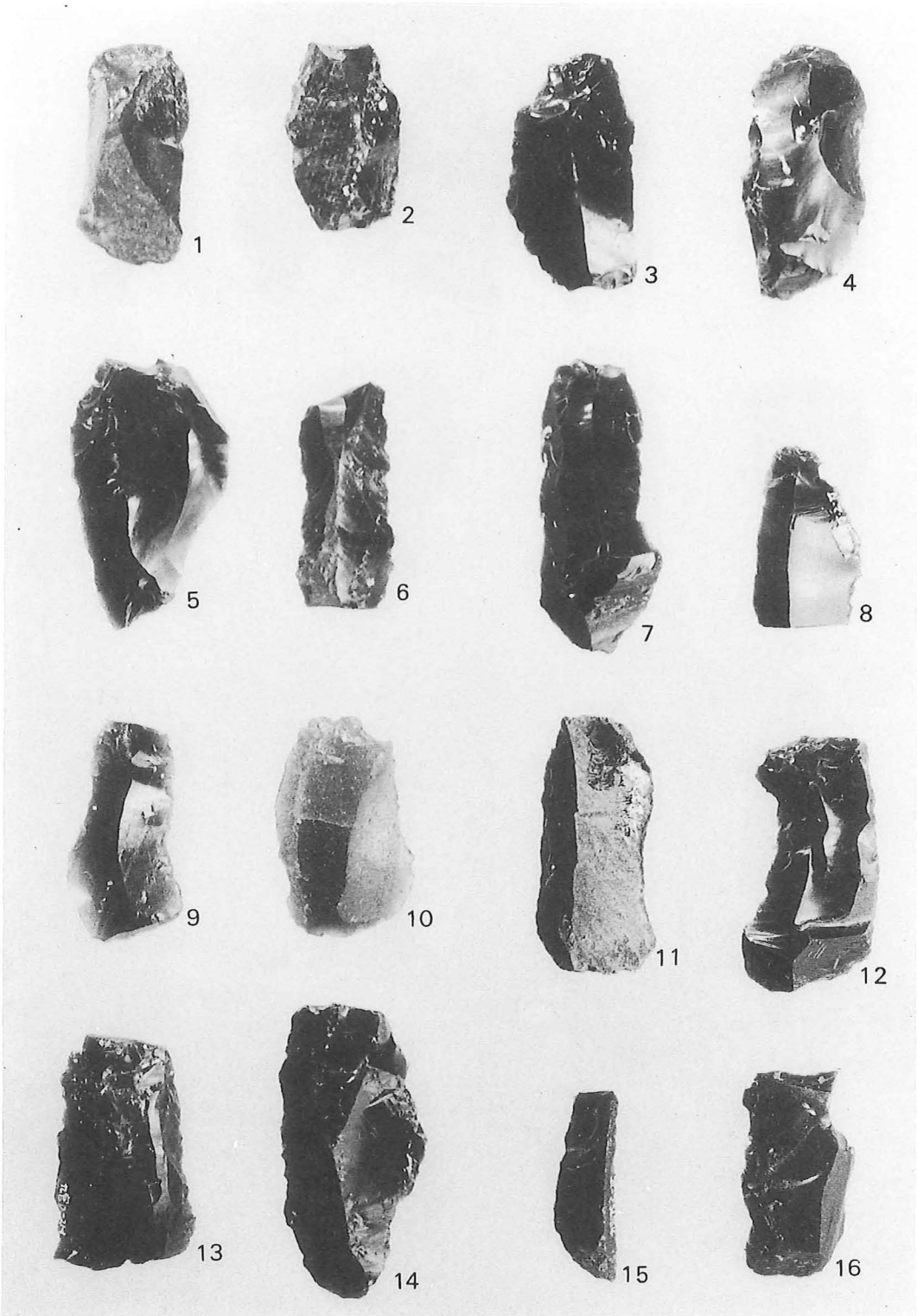
削器・石槍

石核・不定形剥片（1/1）

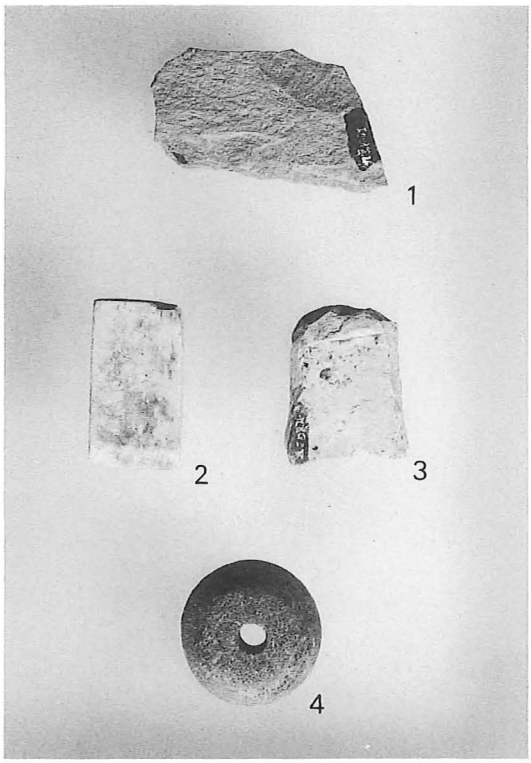
縦長剥片①（1/1）

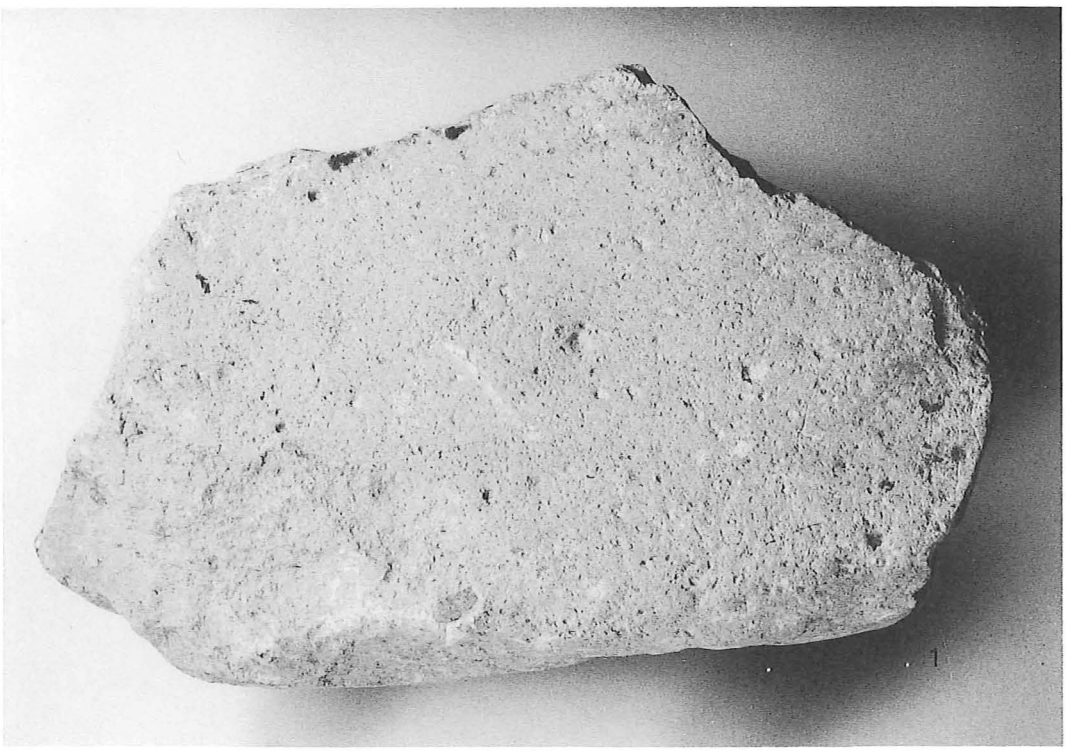



縦長剥片②（1/1）




縦長剥片③（1/1）




その他の石器①（1/2）

その他の石器②

# 名切D遺跡

# 本文目次

Ⅰ　調査 ……451
　1．地理的位置 ……451
　2．調査の概要 ……451
　3．土層 ……451
Ⅱ　遺構 ……456
Ⅲ　出土遺物 ……456
　1．石器 ……456
　2．土器 ……459
　3．中世の遺物 ……459
　4．近世の遺物 ……459
Ⅳ　総括 ……463

# 挿図目次

Fig. 1　遺跡周辺の地形図（1／2,000） ……452
Fig. 2　土層図 ……453
Fig. 3　調査区配置図 ……454
Fig. 4　集石遺構（1／20） ……455
Fig. 5　出土遺物－石器① ……457
Fig. 6　出土遺物－石器② ……458
Fig. 7　出土遺物－近世の遺物① ……460
Fig. 8　出土遺物－近世の遺物② ……461

# 表 目 次

Tab. 1　土錘計測表 ……462
Tab. 2　円盤状陶磁製品計測表 ……462

# 図版目次

PL. 1　遺跡近景（調査前・調査後）……467
PL. 2　遺跡遠景・調査風景……468
PL. 3　F－6区・I－6区・J－6区北壁土層……469
PL. 4　F－4区・F－6区・F－7区東壁土層……470
PL. 5　第2号集石遺構……471
PL. 6　集石遺構（第1号・第2号）……472
PL. 7　石器（石鏃　他）(1/1)……473
PL. 8　土器・石鍋片　(1/1)……474
PL. 9　土錘・円盤状陶磁製品　(1/1)……475
PL.10　円盤状陶磁製品　(1/1)……476
PL.11　その他の遺物（輸入青磁　他）(1/1)……477

# Ⅰ　調　査

## 1．地理的位置

名切D遺跡は，東彼杵町彼杵宿郷名切に所在する。大村湾東側の彼杵宿郷と千綿宿郷との間舌状台地の先端部標高55～70ｍに位置する。遺跡及び遺跡周辺は畑地で，特にミカン畑がその大半を占め，農道を狭んで北側には町民グランドがある。　（町田）

## 2．調査の概要

昭和61年８月25日～10月９日の間に，遺跡の対象面積1,640㎡の内1,100㎡を調査実施した。調査は、工事路線名切地区の中心杭（STA121＋40）と（STA121＋60）とを結んだ線を主軸に南北を１．２．３…，東西をA．B．C…として，5×5ｍの調査区を設定した。

遺構では集石３基を検出し，遺物では縄文時代中期の土器片，石鏃，黒曜石剝，近世陶磁器等の出土があった。　（町田）

## 3．土　層

土層の堆積状況は，基盤まで一部分深くなるところもあるが，全体的に非常に浅い。しかも耕作土直下が基盤である所も多く認められ，良好な堆積とはいえない。また，本遺跡の地形全体からも予想されることであるが，斜面の上の方が幾分か基盤まで浅く，下の方が比較的にやや厚い。

土層図は地形に従い，北東から南西に下る斜面を横切るように一つ（a～b～c）とその斜面に沿って一つ（a～b～c）を調査区のラインにあわせて設定し実測，作成した。土層の状況は次のとうりである。

・第１層…表　　土　　ミカン畑として利用されていた時から今日までの表土
・第２層…耕　　作　　土　　ミカン畑以前に畑として利用されていた時の耕作土
・第３層…混礫暗褐色土層　　風化礫が多少混入、粘性しまりともに弱い
・第４層…暗褐色粘質土層　　大きな礫が多少混入する，ややしまっている。

第３，第４層は遺跡範囲の斜面の下った一部分に認められた程度で全体的な堆積はない。なお，H－６付近の第３層中からは比較的に遺物が検出されたが，包含層とは考えにくい。

（伴）

名切D遺跡

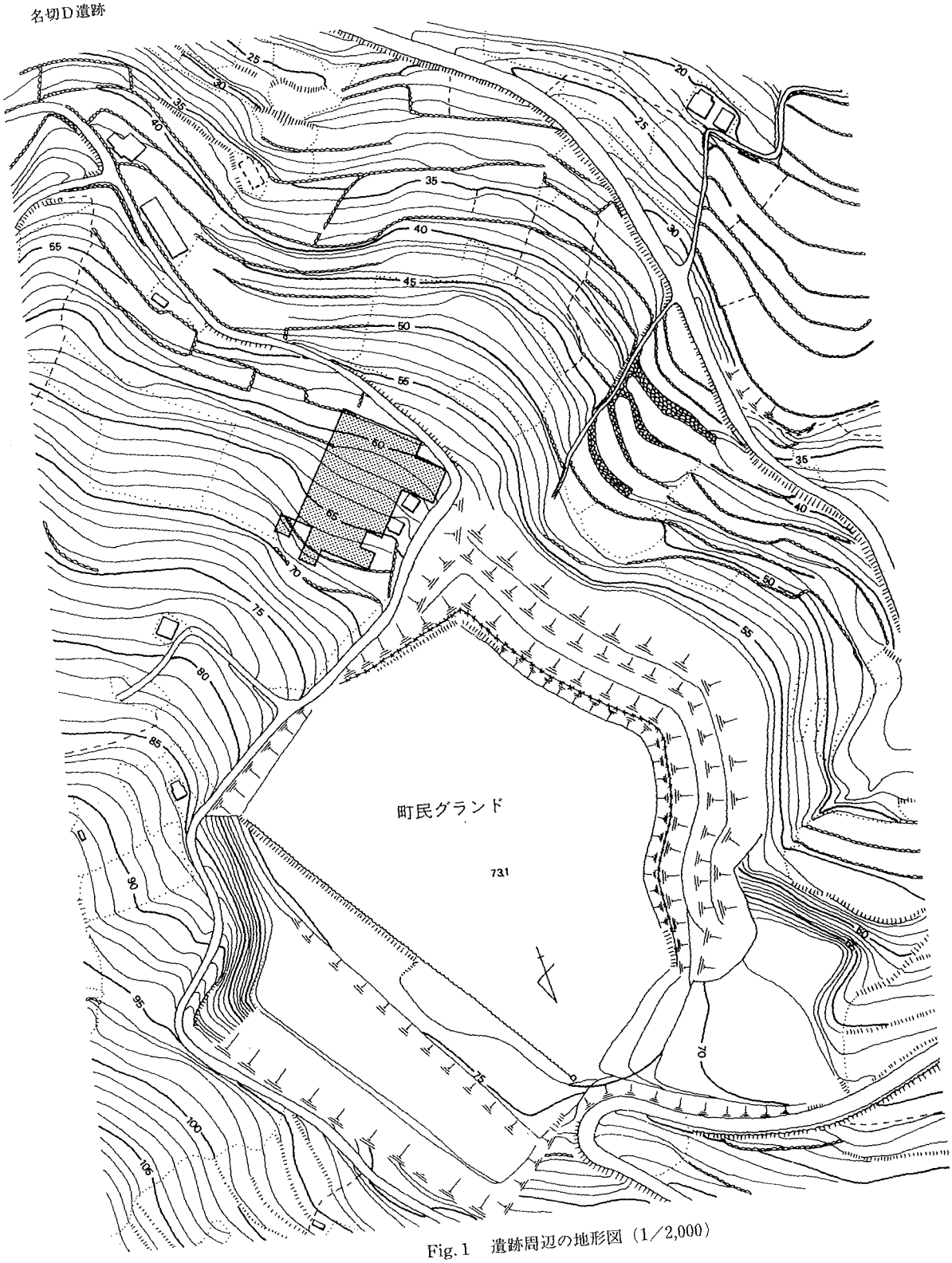



Fig. 1　遺跡周辺の地形図（1／2,000）

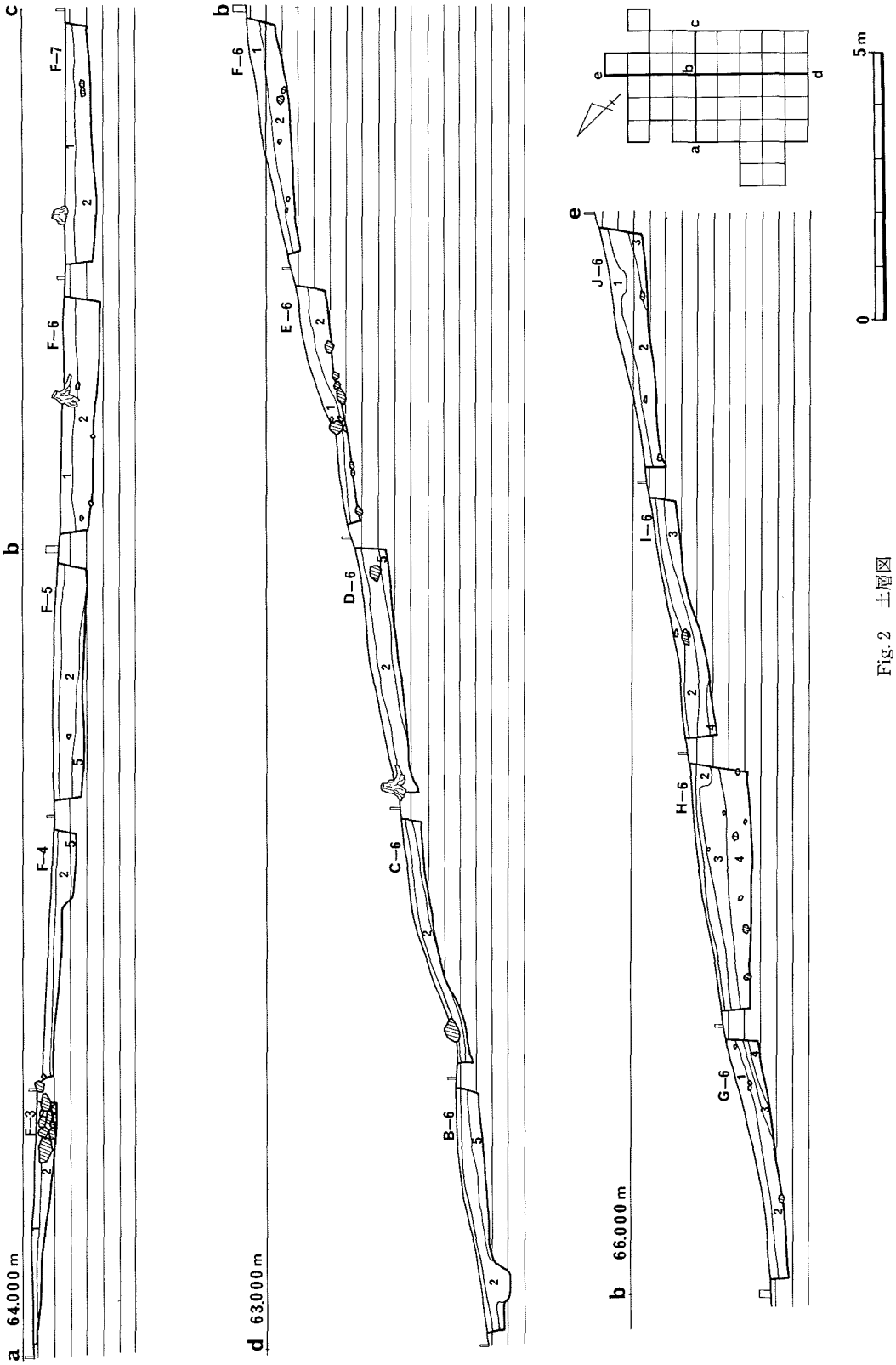

a
b
c
d
e
64.000m
63.000m
66.000m
F-3
F-4
F-5
F-6
F-7
B-6
C-6
D-6
E-6
F-6
G-6
H-6
I-6
J-6
0
5m

Fig. 2　土層図

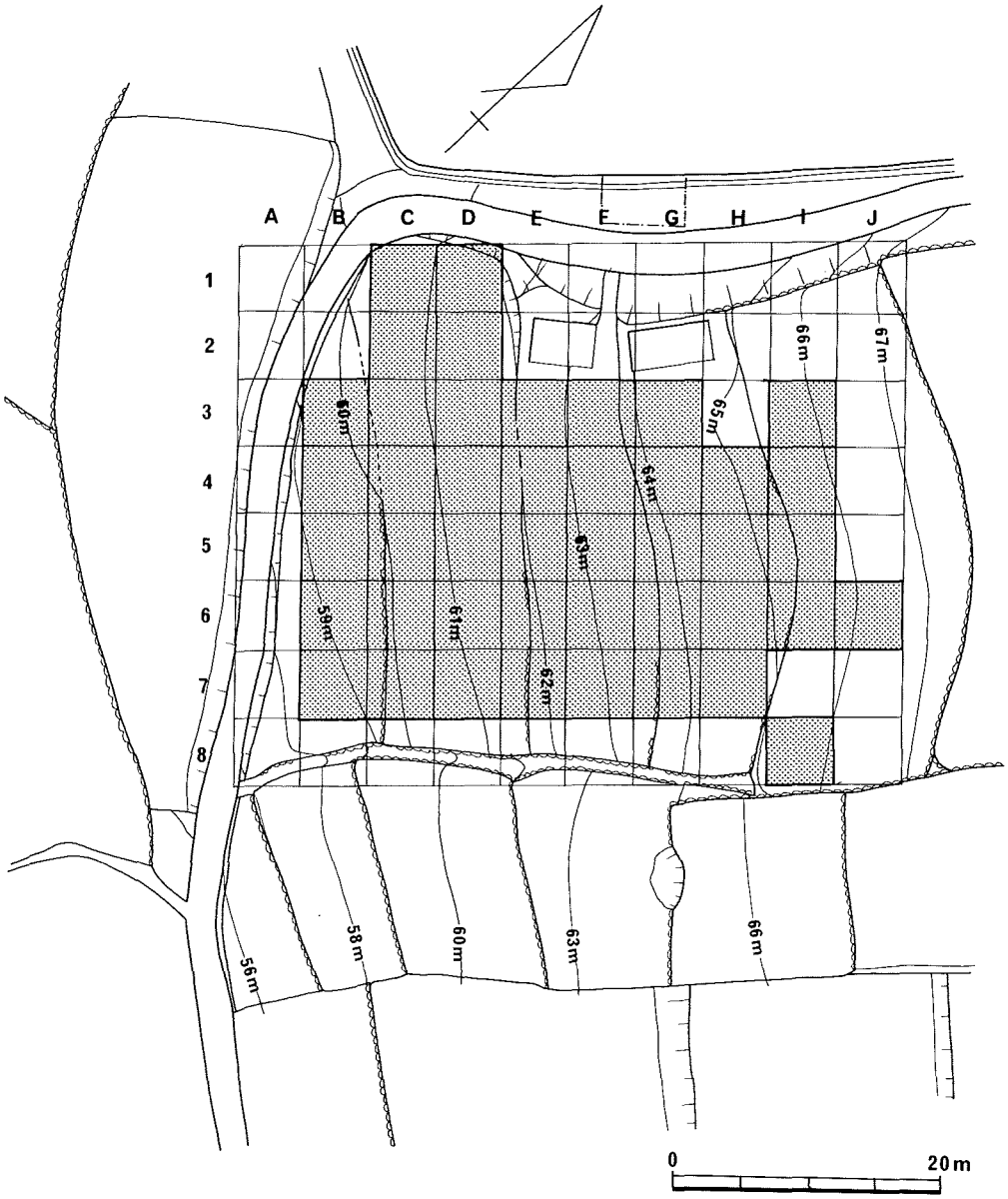

A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
1
2
3
4
5
6
7
8
56m
58m
60m
63m
66m
66m
67m
65m
64m
63m
62m
61m
60m
59m
0
20m

Fig. 3　調査区配置図

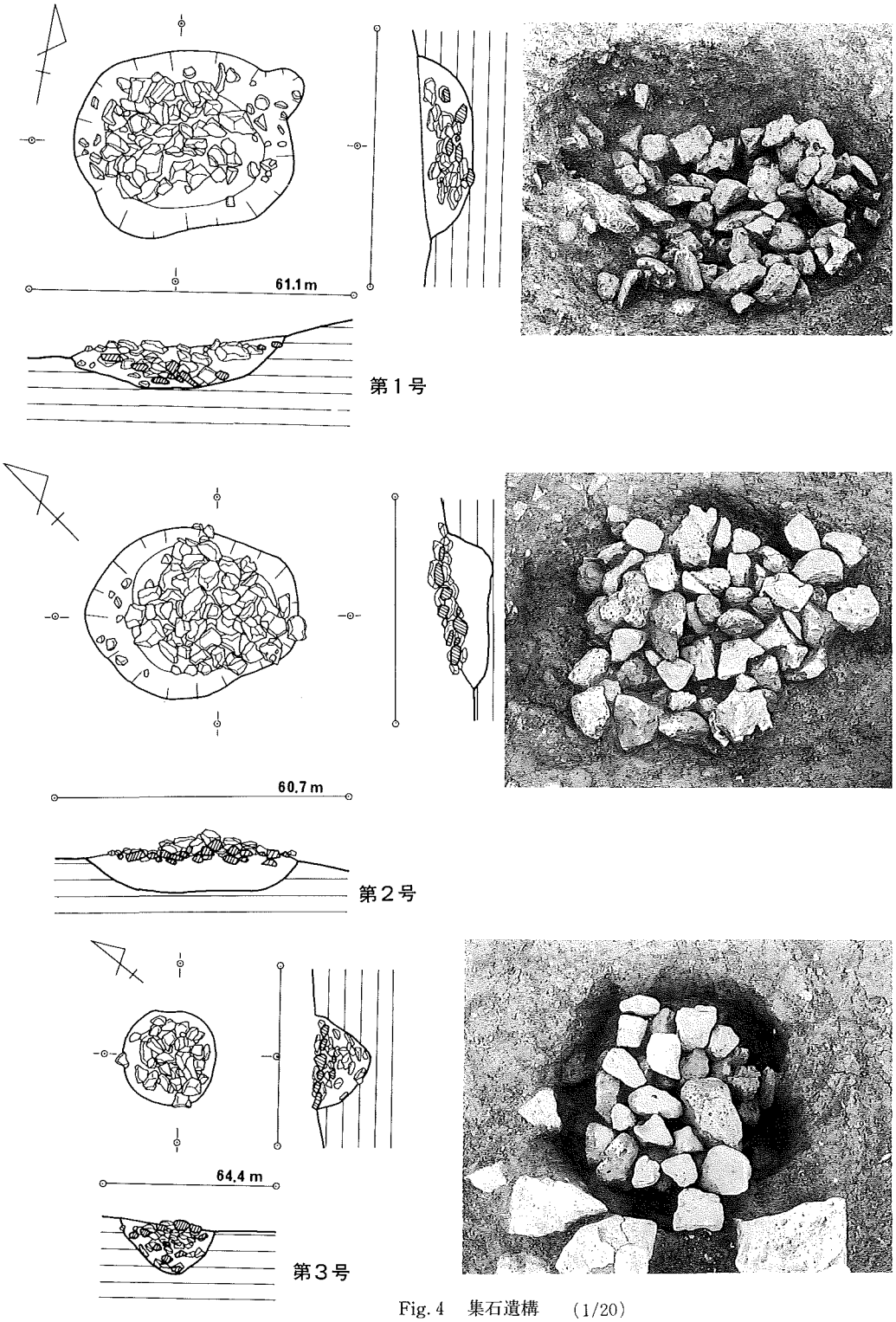



Fig. 4　集石遺構　(1/20)

## II　遺構

3基の集石遺構が検出された。

・第1号集石‥‥C－7区，第2層直下に基盤を掘り込んだ状況で検出された。ほぼ東西に長軸を有し，小判状の平面形を呈している。掘り込みの規模は67×55cm，深さ20cm程度で3基中では最も大きい。石は拳大程のものが多く50～60個くらいで、床面までやや厚く認められた。覆土は暗褐色土で，一部に若干ではあるが炭化物が検出された。

・第2号集石‥‥C－6区，第1号集石と同じく基盤を掘り込んだ状況で検出された。北西～南東に主軸を有し，楕円状の平面形を呈している。65×50cm，深さ15cmを測る。拳大の石が40～50個程密集するが，他の2基と比べてやや浮いたような状態であった。

・第3号集石‥‥H－5区，第2層上面より検出された。先の2基と比べると小型で，直径およそ30cmの円状の平面形をなす。深さは18cmくらいでバラス位の石が床面まで厚く認められた。

3基とも，規模や含まれる石の状態，検出された面など多少の違いは見られるものの，全体的に石の残存状況は非常によいといえよう。しかも，本遺跡全体の遺物量の希薄な面も手伝ってか，集石遺構からの遺物の出土は一点もない。従って，時期の判別はもとより，その性格も判然と確証のつかめる状況ではない。今日，集石遺構は縄文時代早期頃の遺跡を中心に県内を初め県外からも多く発掘例が見られ，炉址（蒸し焼き炉）としての用途が定着化しつつあるが，本遺跡のものについてはその可能性があるという程度にとどめたい。　（伴）

## III　出土遺物

本遺跡では，先にも述べたように土層の堆積状況が悪い。従って検出された遺物も非常に少なく，中にはかなりのローリングをうかがわせるものもいくらか認られる。また，時代別にみると少ない遺物量ながらも，縄文時代のものから中世の輸入青磁や近世，現代にいたるまで幅広く出土している。

### 1．石器

出土した石器は全部で42点と非常に少ない出土である。器種別に見てみると，石鏃が17点，スクレイパーが3点，加工痕のある石器2点，楔形石器1点，で残りはすべて，剥片や砕片である。

・石鏃－**1**～**17**は石鏃である。**1**は唯一基部に抉ぐりがなくはり出しているものである。**2**は側縁がはり出しており，基部は直線状より若干内湾している程度である。**3**は脚部を一部欠損する。側縁は部分的ではあるがわずかに鋸歯状になる。**4**は小型のもので，全体にパティナが認

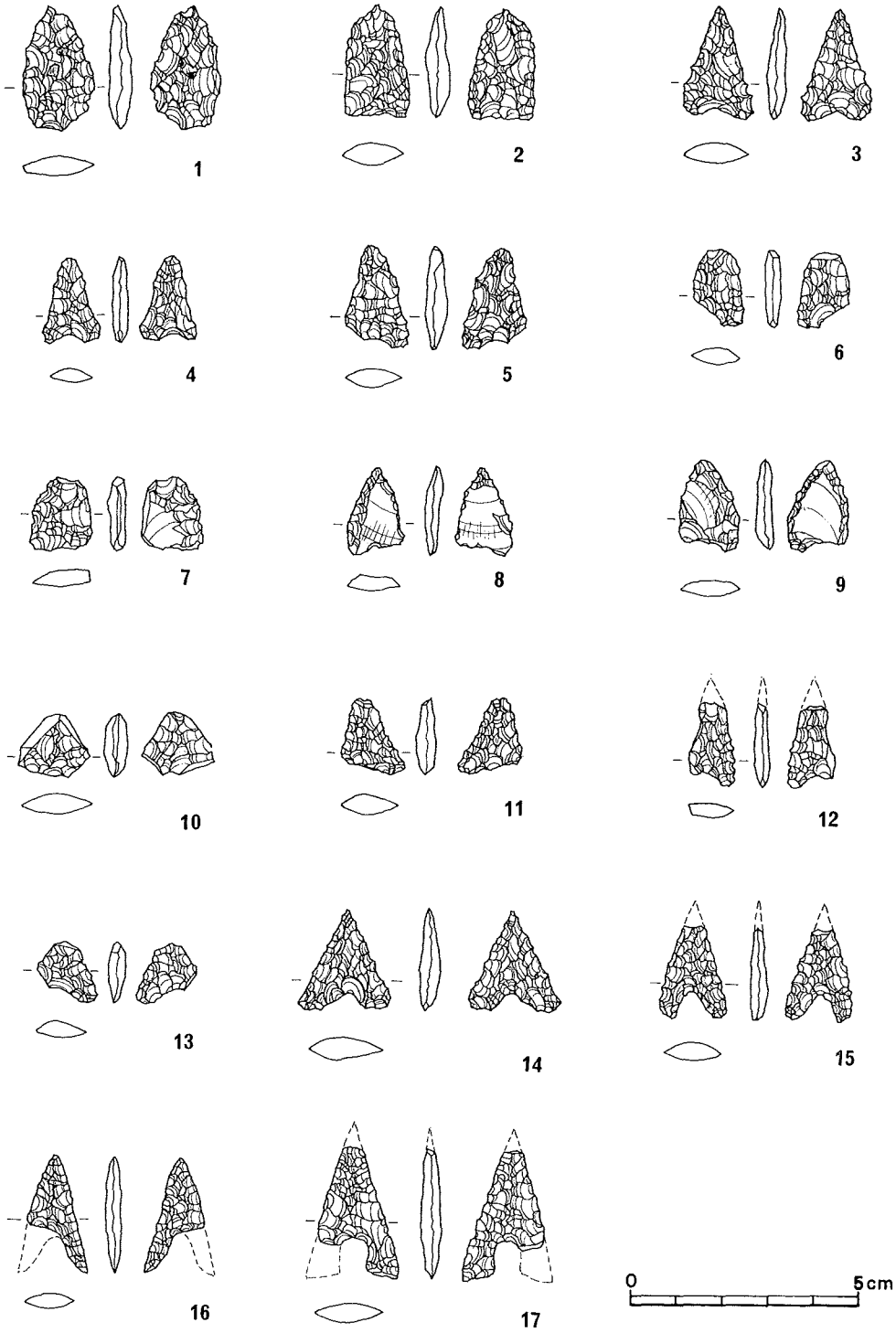



Fig. 5　出土遺物－石器①

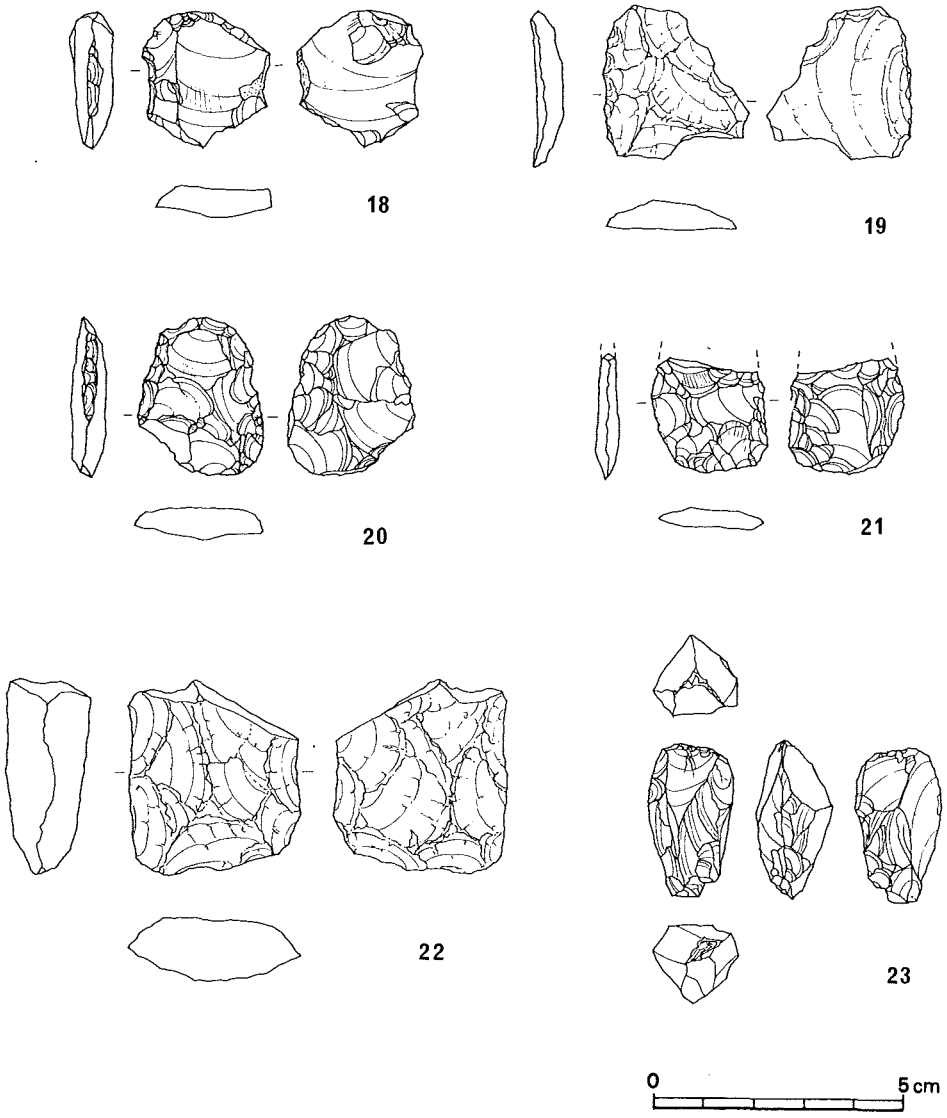



Fig. 6　出土遺物－石器②

められる。5は図を見てもわかるように先端部が左右対称になっていない。片方の脚部を欠損する。6は先端部と両脚を欠損する。7は石鏃としての形はとどめないほどの欠損をなすが，加工の状況などから石鏃としてあつかった。8は表裏に主要剥離面を残す，二次加工の状況は側縁に多少手を加えた程度で裏面はほとんど主要剥離面のままである。9は裏面に大きく主要剥離面を残す，二次加工はやや粗雑である。10は先端部，両脚部ともに欠損している。やや肉厚の感じである。11は先端部，片脚部を欠損する。側縁は多少内湾している。12は先端の一部

を欠損する。13は先端部，片脚部を欠損する。14は完形品で全体に丁寧な二次加工を施す，則縁はほぼ直線状となり若干鋸歯状をなす。15は先端を一部欠損する。丁寧な二次加工を施し，脚部の抉ぐりはやや深くなる。16は片脚部を欠損する。比較的に細身の感じのするもので，二次加工は丁寧。17は先端の一部と片脚部を欠損する，二次加工は丁寧。いわゆる鍬形鏃である。1・2・7・10・11・15・17は漆黒色の黒曜色（黒曜石A）製，3・8・14は灰青色の黒曜石（黒曜石B）製，4・5・6・9・12・13・16は灰白色の黒曜石（黒曜石C）製。

・スクレイパー－18は剝片の素材の状況に，若干の刃部加工を施している。一部に自然面を残す。黒曜石A製。19は安山岩製で全体にパティナが目立つ，一側縁に刃部加工を施す。20は全体にパティナが認められる。刃部加工は側縁の一部分を直線状に細かく施している。黒曜石A製。

・加工痕のある石器－21は表裏全体に二次加工が認められ，かなり薄いものである。スクレイパー的な要素の石器と考えられる。22は安山岩製で側縁におおまかな二次加工が施される。折れもしくは欠損しているものと考えられる。加工の状況から石斧などの機能が考えられよう。

・楔形石器－23は楔形石器で上下に多少つぶれた痕をもつ。黒曜石B製で，全体にパティナが認められる。（伴）

2．土器

土器の出土は全部で30点あるが文様や器形を判別できるものは一点もない。1，2点ほど土師器片らしきものがあるほかは縄文時代の土器が大半をなす。なお，縄文時代の土器片の一点に滑石を含むものもある。

3．中世の遺物

中世の遺物は，輸入青磁の高麗青磁片と元代の青磁片がある。いずれも，14世紀の所産と考えられる。また，青磁片のほかに石鍋の破片と考えられる，滑石片が5点出土している。

4．近世の遺物

表土層からの出土ではあるが，近世のものと考えられる土錘と円盤状　陶磁製品がある。

a．土錘

出土点数15点中，完形品あるいは完形品に近いものが7点ある。最長では，1・6・7が4cmを越えるか，あるいは，予想されるものである。他はほぼ同様な長さであろう。ただ，15は中央に溝を表裏に持つ幅の広い土錘である。

b．円盤状陶磁製品

これは，陶器片，陶磁片を意図的に周辺加工をしたもので，遊び具として考えられている。出土点数10点。（町田）

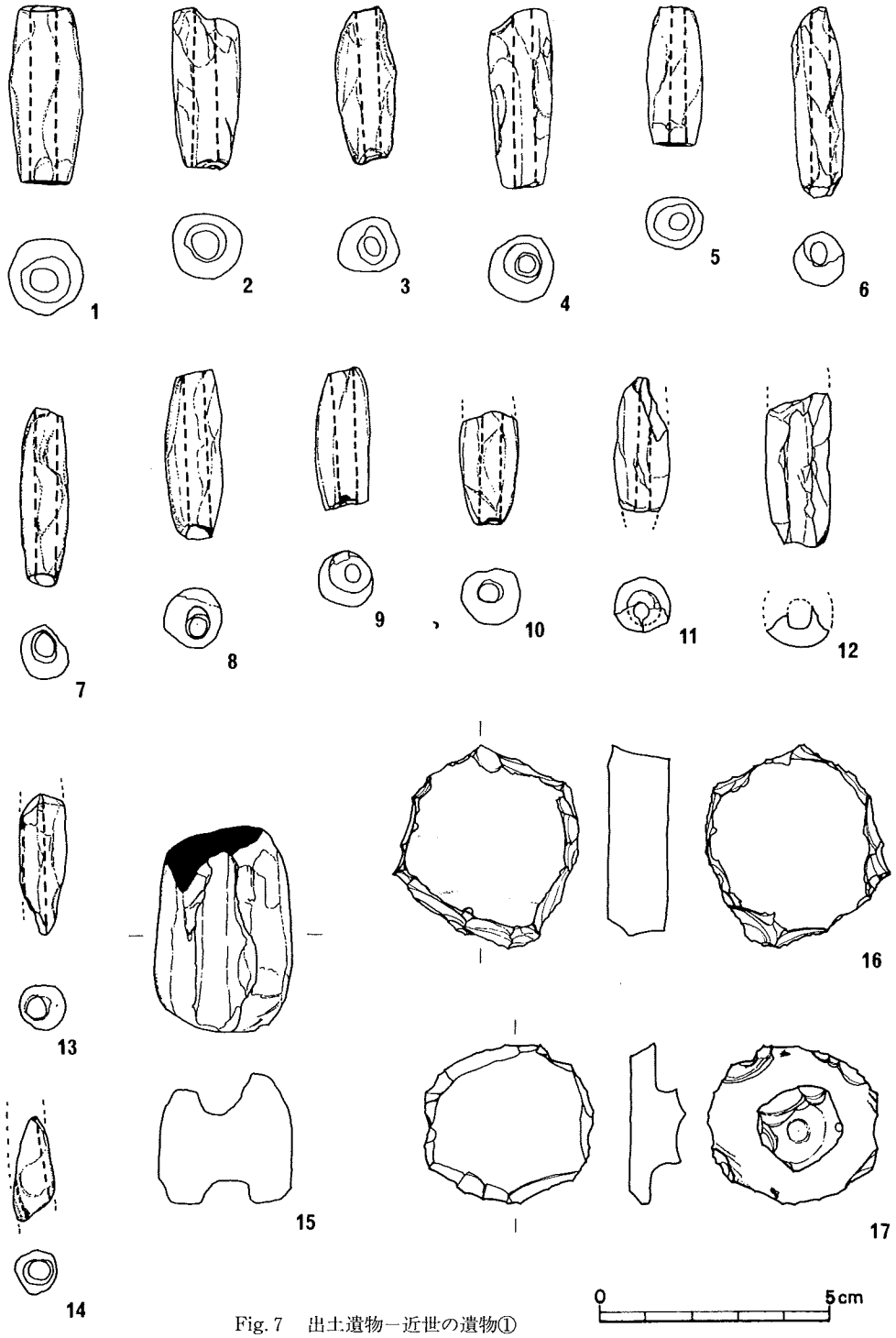



Fig. 7　出土遺物－近世の遺物①

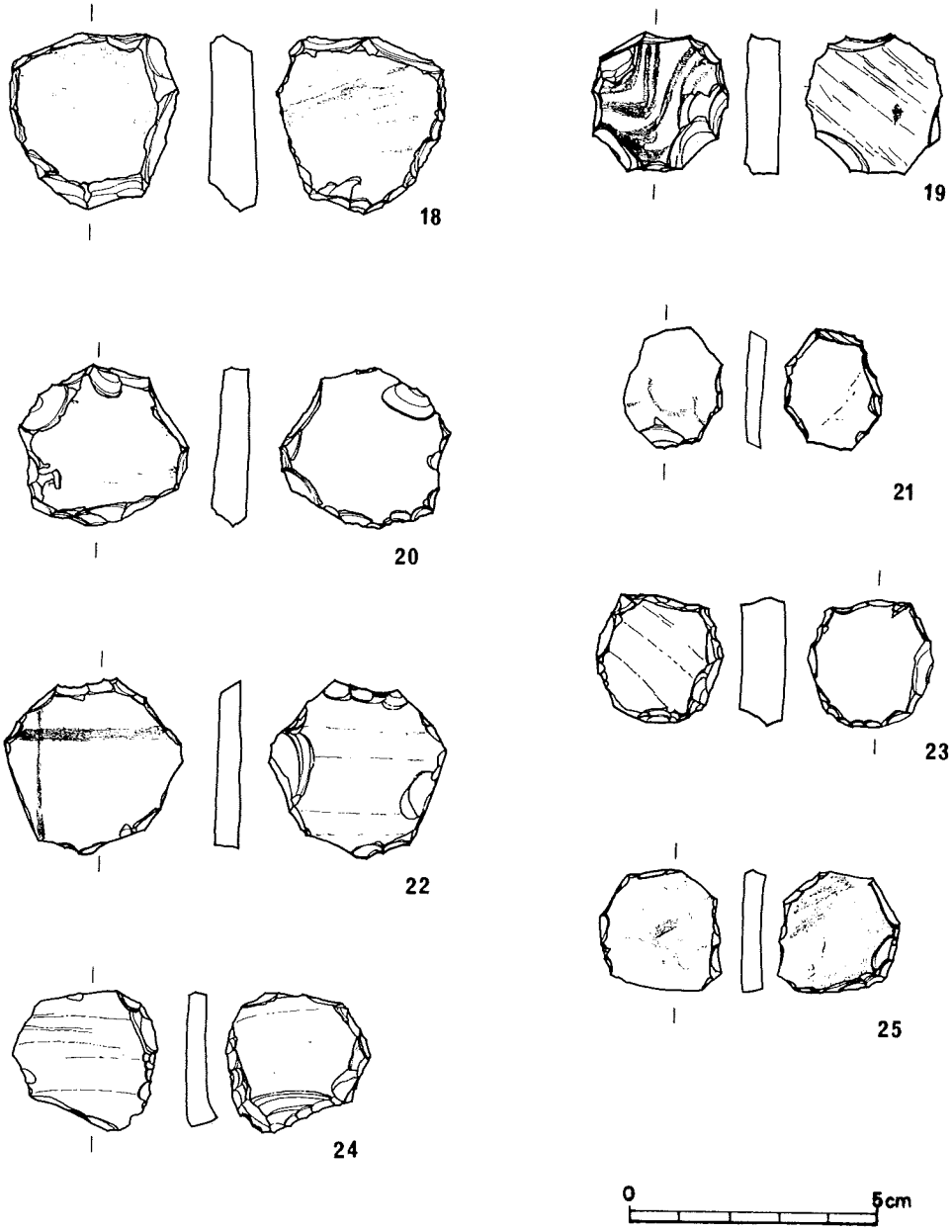



Fig. 8　出土遺物－近世の遺物②

Tab.1　土錘計測表

| 遺物番号 | 出土地区 | 最長（cm） | 最幅（cm） | 孔径（cm） | 重量（cm） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 九名D　B-6H | 3.85 | 1.70 | 0.65 | 8.40 | 完形品 |
| 2 | 九名D　J-6H | 3.50 | 1.60 | 0.60 | 7.10 | 1／3程欠損。 |
| 3 | 九名D　E-7H | 3.40 | 1.40 | 0.40 | 4.10 | ほぼ完形。 |
| 4 | 九名D　B-4H | 3.90 | 1.50 | 0.55 | 7.10 | 1／3程欠損。 |
| 5 | 九名D　C-4H | 3.05 | 1.25 | 0.45 | 3.75 | ほぼ完形。 |
| 6 | 九名D　D-4H | 4.10 | 1.10 | 0.40 | 3.85 | 1／3程欠損。 |
| 7 | 九名D　C-6H | 3.90 | 1.10 | 0.50 | 2.95 | ほぼ完形。 |
| 8 | 九名D　C-3H | 3.70 | 1.30 | 0.50 | 4.35 | ほぼ完形。 |
| 9 | 九名D　B-6H | 3.10 | 1.20 | 0.35 | 3.45 | ほぼ完形。 |
| 10 | 九名D　D-3H | 2.45 | 1.30 | 0.50 | 2.55 | 1／2程欠損。 |
| 11 | 九名D　B-3H | 2.95 | 1.20 | 0.35 | 2.10 | 1／2程欠損。 |
| 12 | 九名D　F-6H | 3.40 | 1.40 | 0.55 | 2.10 | 1／2程欠損。 |
| 13 | 九名D　G-4H | 3.10 | 1.05 | 0.50 | 2.00 | 1／2程欠損。 |
| 14 | 九名D　E-7H | 2.30 | 0.95 | 0.50 | 1.00 | 2／3程欠損。 |
| 15 | 九名D　C-4H | 4.50 | 3.05 | 1.20 | 31.20 | ほぼ完形。 |

Tab.2　円盤状陶磁製品計測表

| 遺物番号 | 出土地区 | 最長（cm） | 最幅（cm） | 孔径（cm） | 重量（cm） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 16 | 九名D　J-6H | 4.40 | 4.10 | 1.40 | 29.40 | 陶器 |
| 17 | 九名D　C-7H | 3.50 | 3.70 | 1.20 | 14.85 | 磁器 |
| 18 | 九名D　G-3H | 3.50 | 3.40 | 0.95 | 15.25 | 陶器 |
| 19 | 九名D　O-2H | 2.80 | 2.75 | 0.70 | 6.95 | 陶器 |
| 20 | 九名D　C-3H | 3.30 | 3.40 | 0.75 | 9.30 | 陶器 |
| 21 | 九名D　D- H | 2.50 | 2.00 | 0.40 | 2.40 | 磁器 |
| 22 | 九名D　B-3H | 3.55 | 3.55 | 0.50 | 8.40 | 磁器 |
| 23 | 九名D　C-6H | 2.56 | 2.55 | 0.90 | 8.75 | 陶器 |
| 24 | 九名D　C-4H | 2.90 | 2.95 | 0.60 | 5.40 | 磁器 |
| 25 | 九名D　B-7H | 2.45 | 2.40 | 0.50 | 4.20 | 磁器 |

# IV　総括

遺跡は当初広範囲に渡って，石鏃，黒曜石剥片等の遺物が散布していることが報告されており文化層の期待が持たれていた。しかし，予想に反して遺物，遺構等が良好な包蔵状態を留めていなかった。それは，昭和30年代にミカン畑造成が行なわれていたことが理由にあげられよう。

そのような状況にあって，C－6，C－7，H－5区で1基ずつ3基の集石遺構を検出した。また，遺物は，滑石を混入した縄文時代中期の土器片や，石鏃，黒曜石剥片，等の石器が出土している。

中・近世の遺物として，高麗・元代の青磁片があり，近世では陶磁器片の他に土錘，円盤状陶磁製品が出土している。

以上が，調査の結果であり，それは本遺跡の時代及び性格の一端を示唆していると考えられる。　(町田)

**参考文献**

1．「九州・沖縄出土の朝鮮産陶磁器に関する予察」『九州文化史研究紀要』第28号　西谷　正　九州大学九州分化史研究施設　昭和58年3月

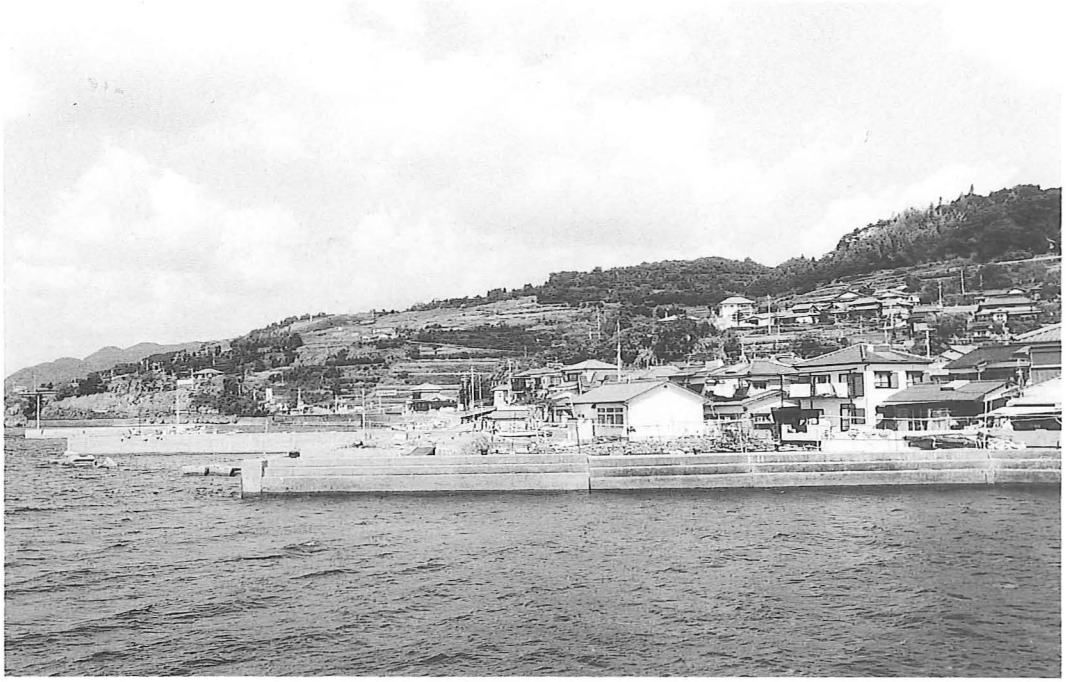
2．「円盤状陶磁製品」『風呂川遺跡』　西有家町文化財調査報告書第1集　宮崎貴夫　長崎県西有家町教育委員会　1982

# PLATES

# (名切D遺跡)

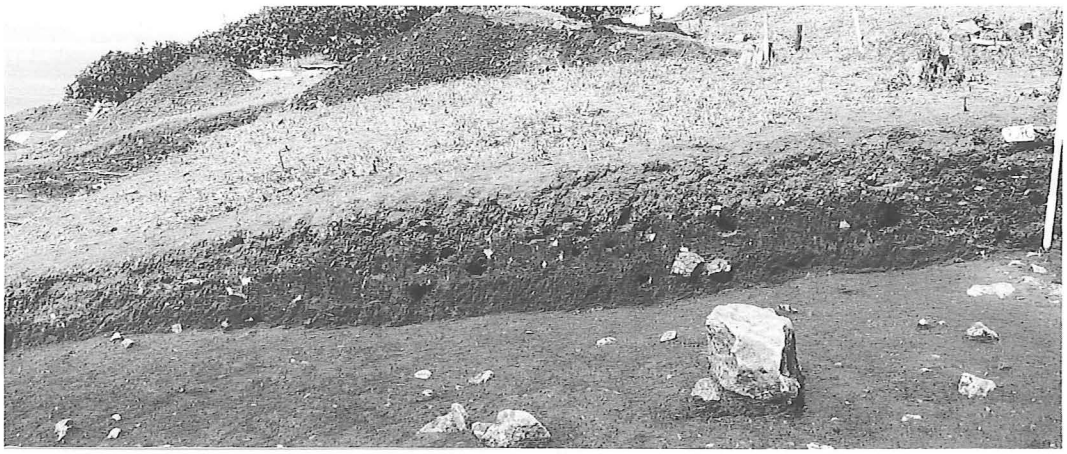
調査前

調査後



遺跡遠景

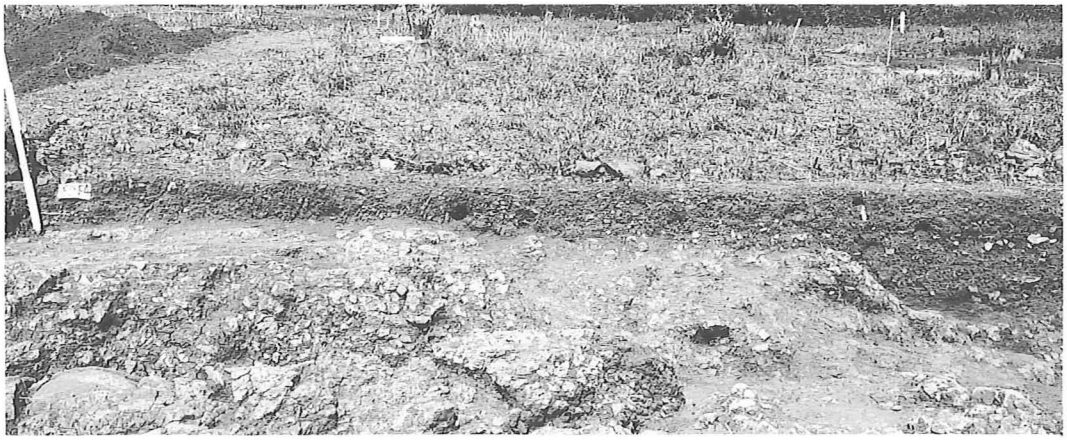
調査風景



F－6区北壁土層

I－6区北壁土層

J－6区北壁土層

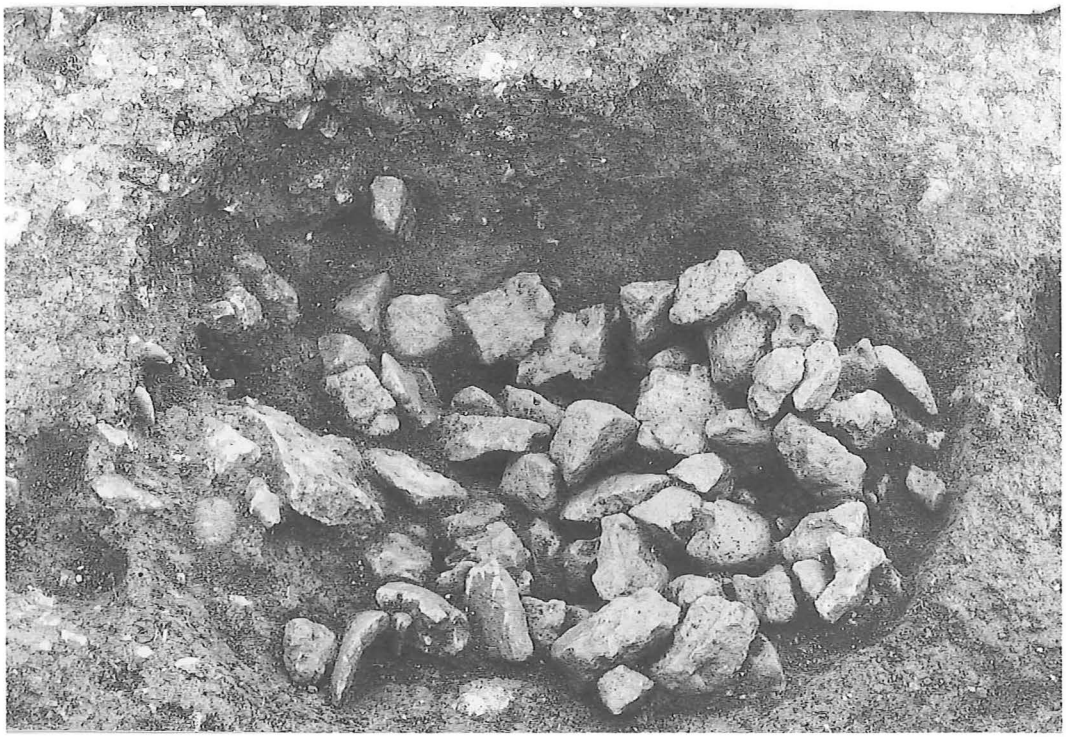


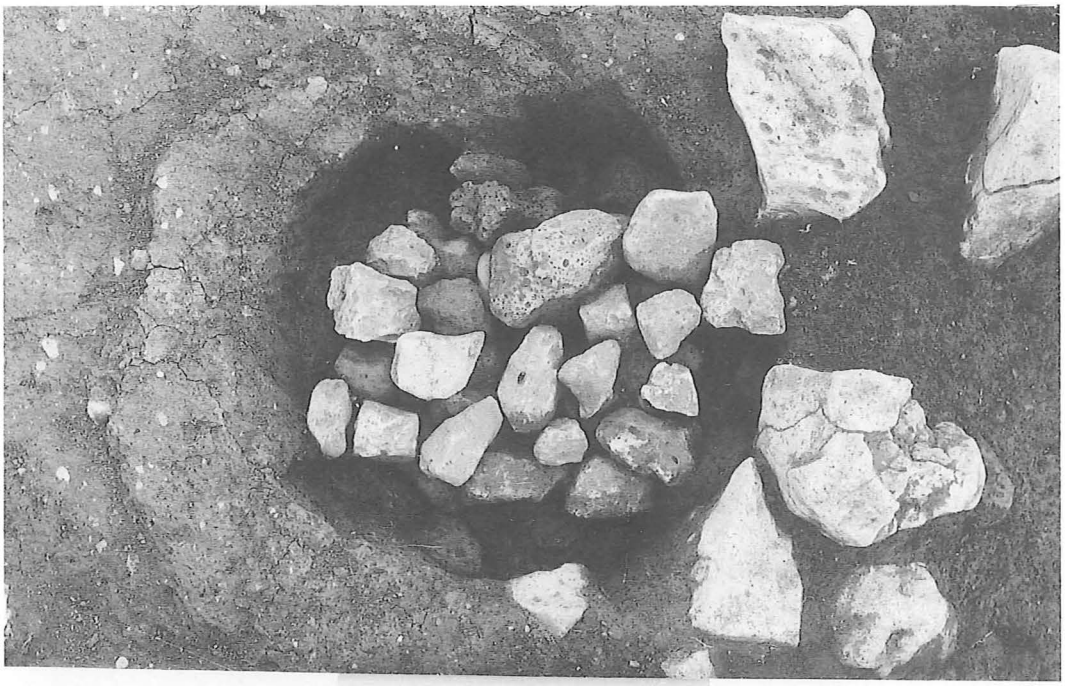
F－4区東壁土層

F－6区東壁土層

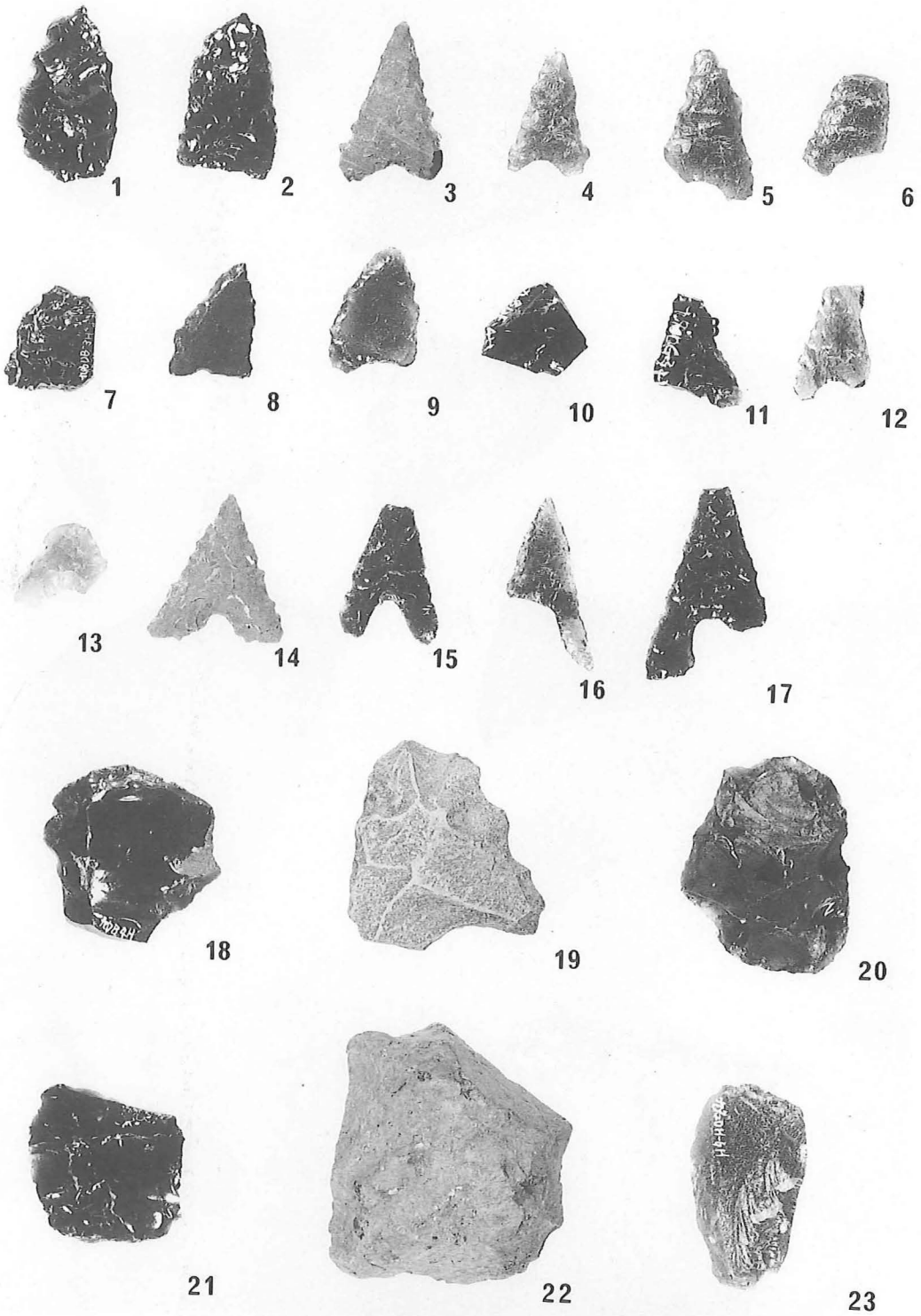
F-7区東壁土層

第2号集石遺構

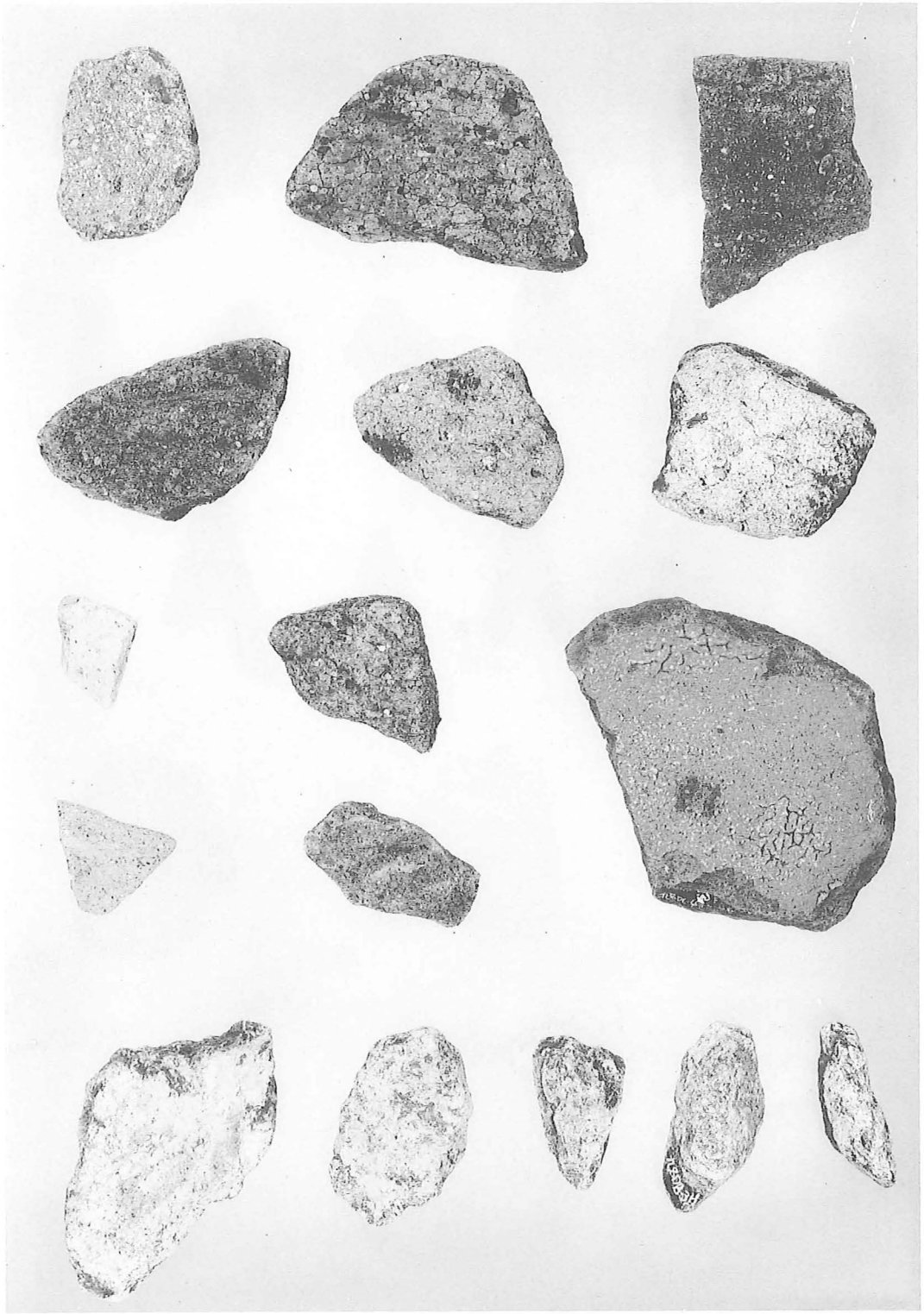




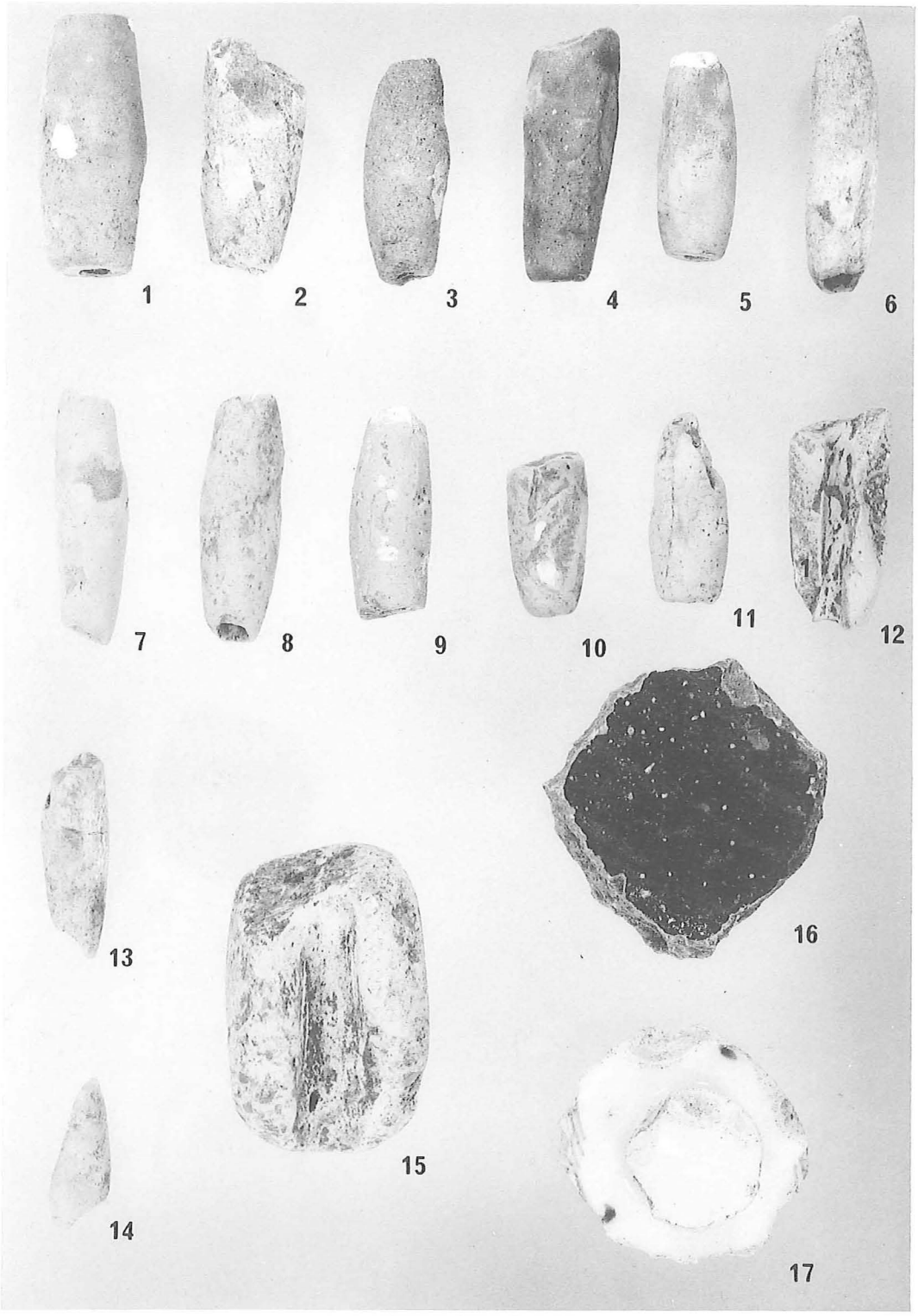
集石遺構（上第１号・下第３号）



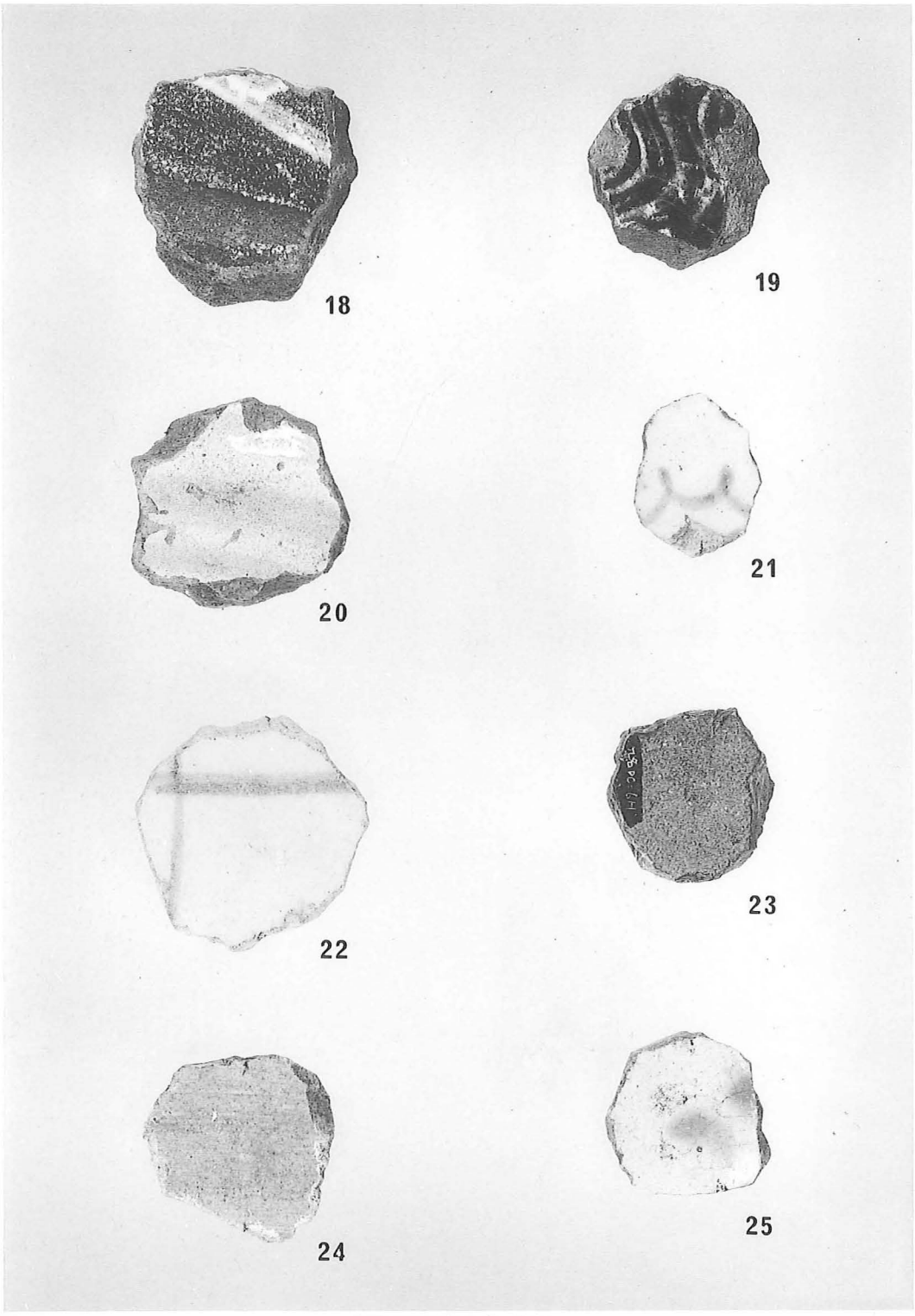

石器（石鏃　他）(1/1)



土器・石鍋片　(1/1)




土錘・円盤状陶磁製品①（1/1）




円盤状陶磁製品②（1/1）

その他の遺物（輸入青磁　他）（1/1）

# 名切Ａ遺跡

↓

←

# 本文目次

I　調査 ……483
　1．地理的位置 ……483
　2．調査の概要 ……484
　3．土層 ……484
II　出土遺物 ……485
III　総括 ……485

# 挿図目次

Fig.　1　遺跡周辺の地形図 ……483
Fig.　2　調査区配置図（1／300） ……484
Fig.　3　土層図（1／80） ……485
Fig.　4　出土遺物 ……486

# 図版目次

PL.　1　遺跡遠景・調査風景 ……489
PL.　2　C－6区・C－7区東壁土層 ……490
PL.　3　出土土器 ……491

# I　調査

## 1．地理的位置

名切A遺跡は，東彼杵町彼杵宿郷名切に所在する。大村湾東側の彼杵宿郷と千綿宿郷とのほぼ中間の標高55～63mの傾斜丘陵に位置し，現状は茶畑，山林となっている。また遺跡南側には，町民グラウンドを挟んで，名切D遺跡がある。

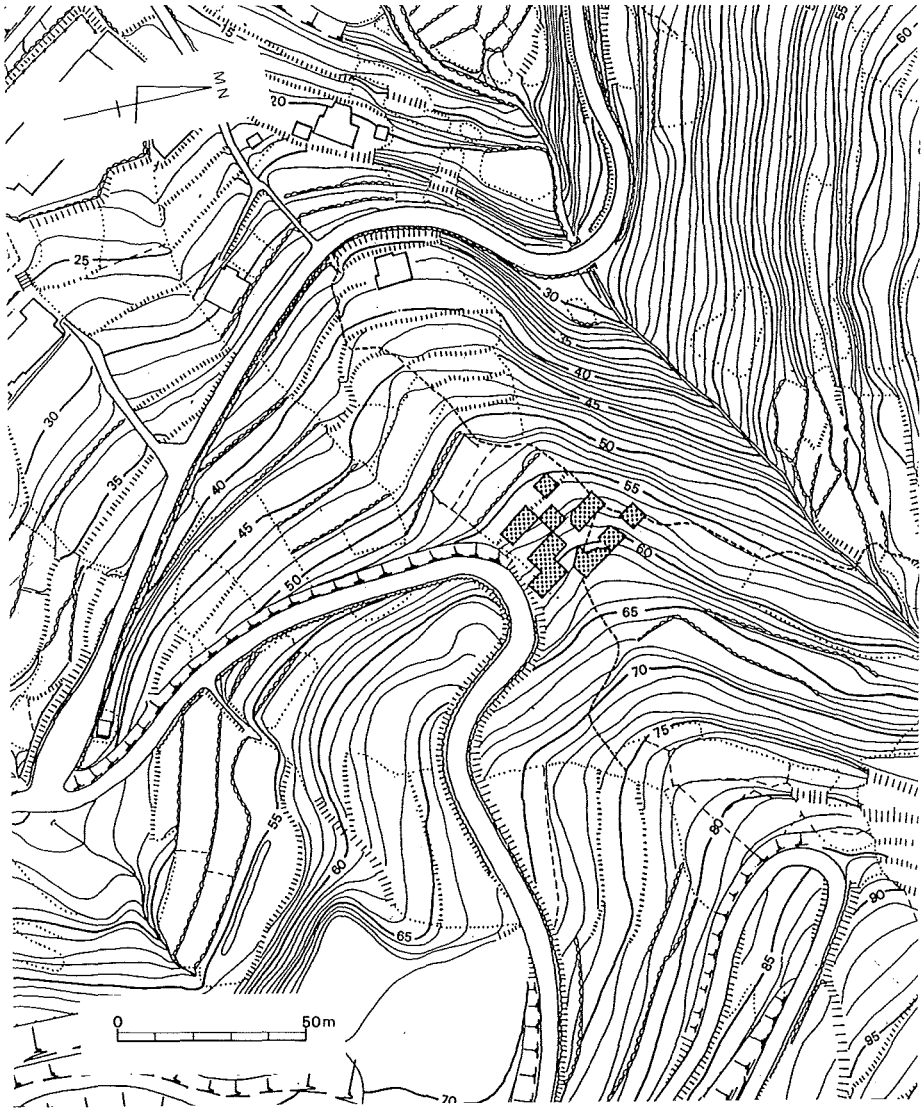



Fig. 1　遺跡位置図（1/2,000）

## 2．調査の概要

昭和61年４月21日～５月10日の間に，遺跡の対象面積640m²の内334.5m²を調査実施した。調査は，工事路線名切地区の中心杭（STA124＋80）と（STA124＋60）を結んだ線を主軸に南北を１．２．３．…，東西をA．B．C．…として，５×５mの調査区を設定した。

調査は北側に名切川があり，発掘調査による排土によって河川を汚さないようにとの要望で排土捨て場に土嚢積を行なった。

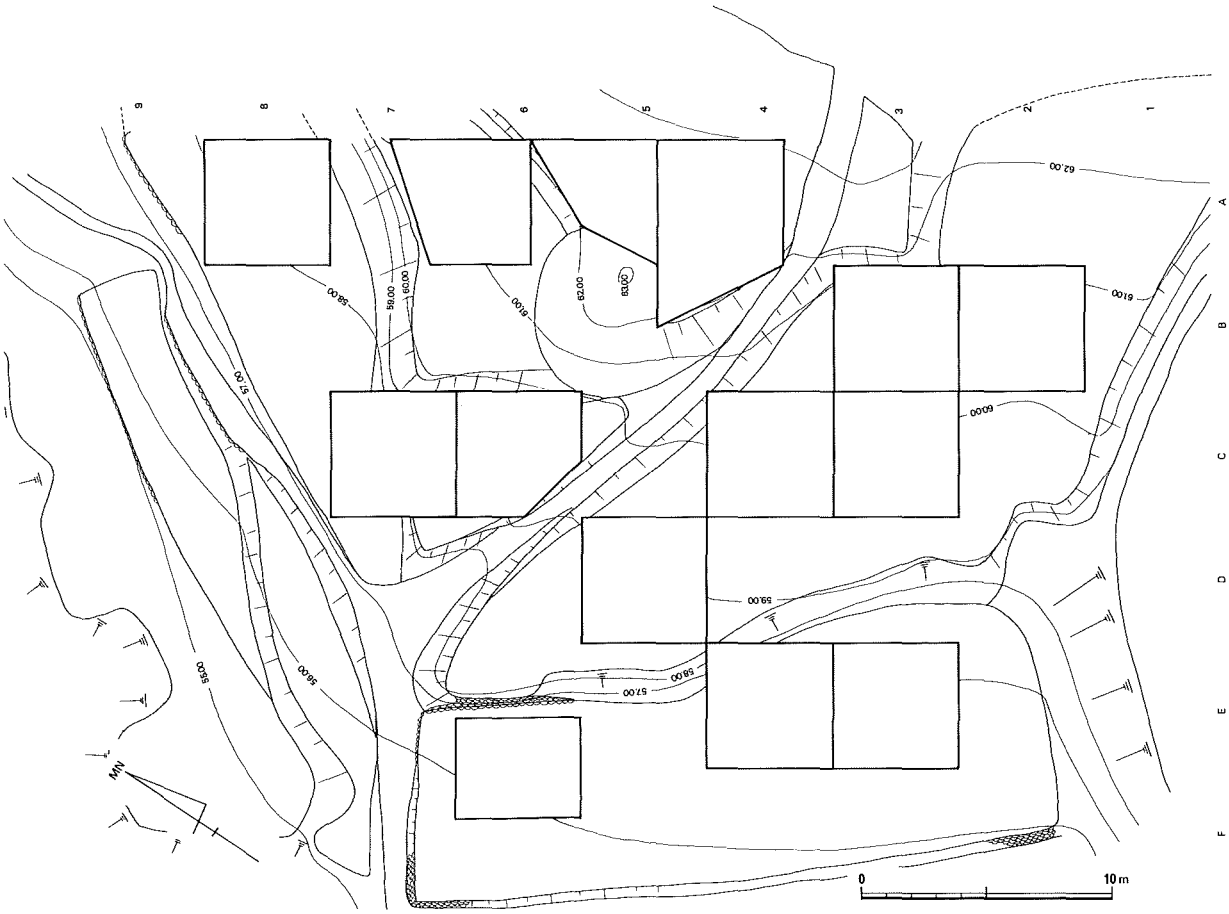



Fig. 2　調査配置図（１/300）

## 3．土層

遺物包蔵状況は表土面に陶磁器，黒曜石剝片等の遺物散布があるものの，表土層（耕作土）を15cm～20cm程掘り下げると地山層（岩盤）に到達するのが全調査区での状況であった。

１層：表土（耕作土）

２層：地山（岩盤）

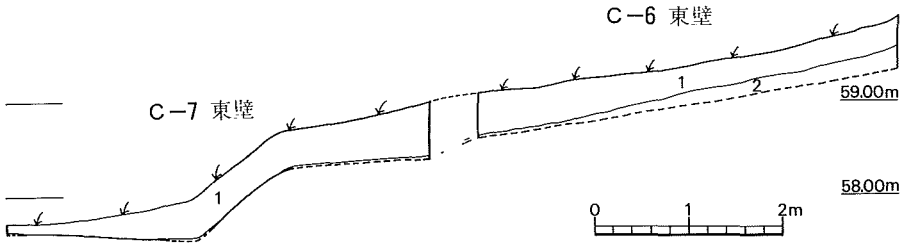



Fig. 3　土層図　(1/80)

## II　出土遺物

表土層から，黒曜石剝片及び近世陶磁器片の出土がある。そのうち図化したものについて説明を加える。

**1** は有田系の碗で内外面ともに釉薬がかかり，滑らかな肌で淡灰色を呈する。胎土は，灰色にやや赤味をさす色調である。また，外面に鉄絵柄を付す。口台欠損する。

**2** 有田系の小形の碗。内外面，卵黄色かがった色調を呈する。胴部紋様に呉須のうえに鉄釉を重ねた，山水文を描く。内面縁文様を付す。

**3** 有田系の小形の碗。内外面青味を帯びた灰色。外面に呉須で幾何学文様を描く。

**4** 武雄系の鉢。見込み底部蛇の目を呈する。外面茶褐色で内面灰緑色の釉薬が掛かる砂目高台である。

**5** 唐津系の碗，内外面，黄色味を帯びた白色の色調。貫入がはいる。胎土黄褐色。高台及び畳付けに一部釉薬掛かる。

**6** 唐津系の皿と思われる。内外面及び高台にも釉薬が掛かる。貫入見られ，色調はピンクがかった灰色を呈する。

**7** 青銅製品のキセル

**8**・**9** 黒曜石剝片

## III　総括

遺跡においては，生活遺構の確認はできなかったものの，出土遺物より縄文時代の遺跡が存在していた可能性を否定できないものであるし，また近世においても同様なことが考えられる。

以上の調査結果であった。　(町田)

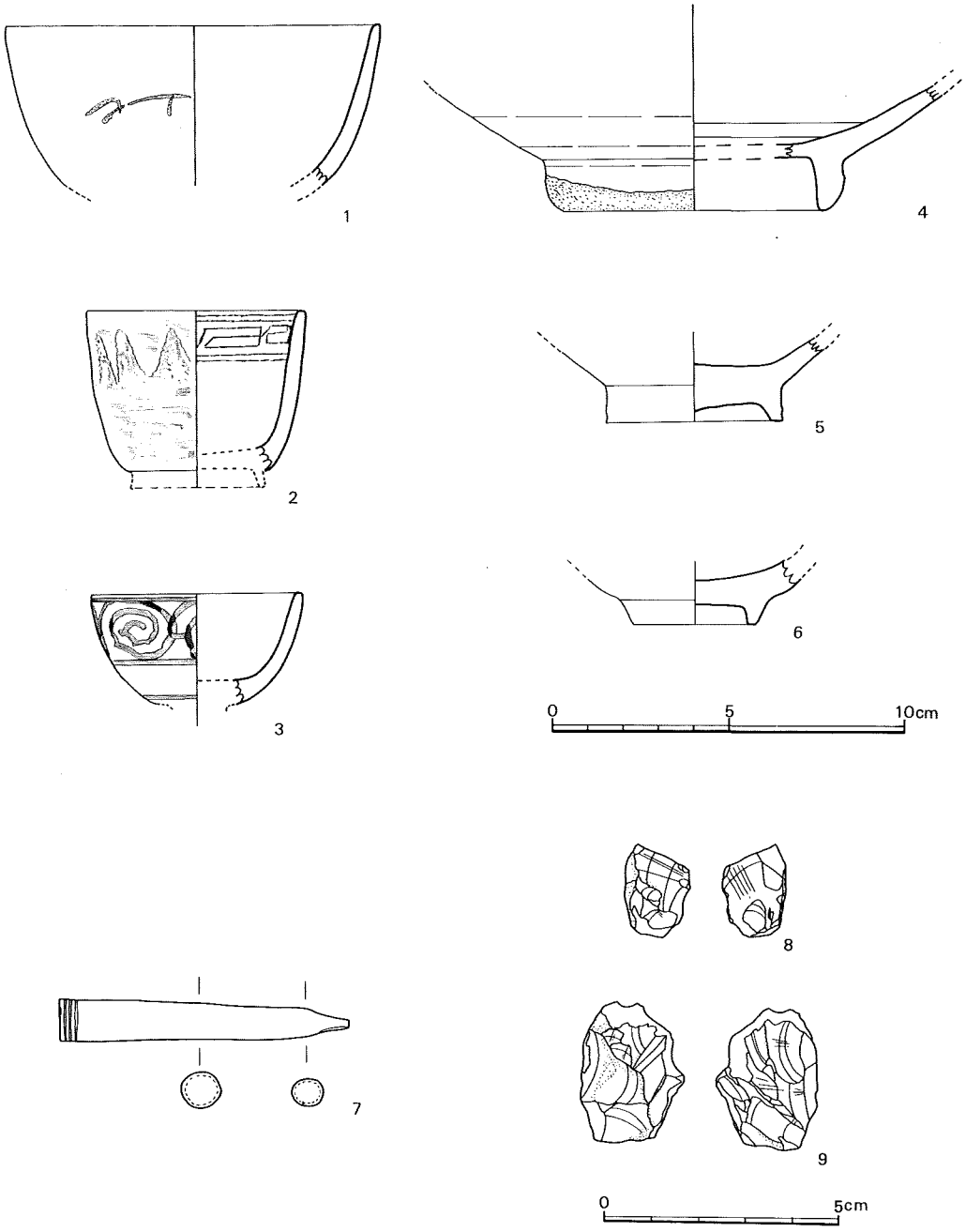
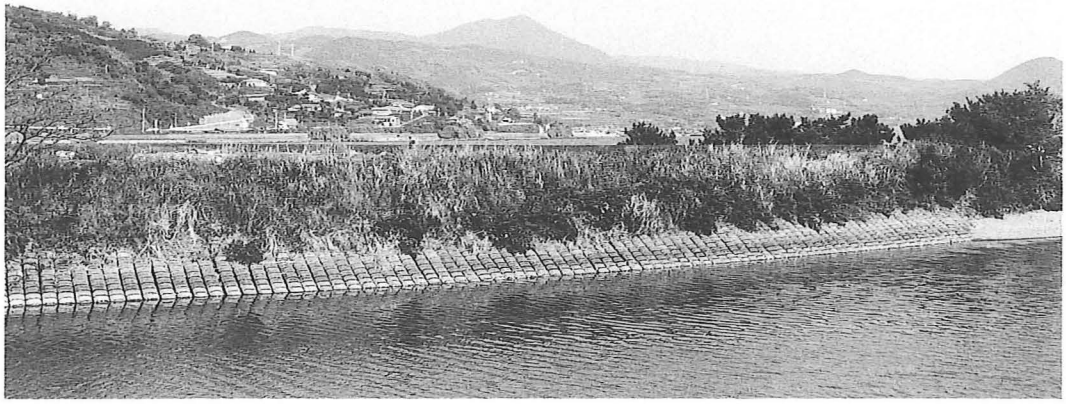


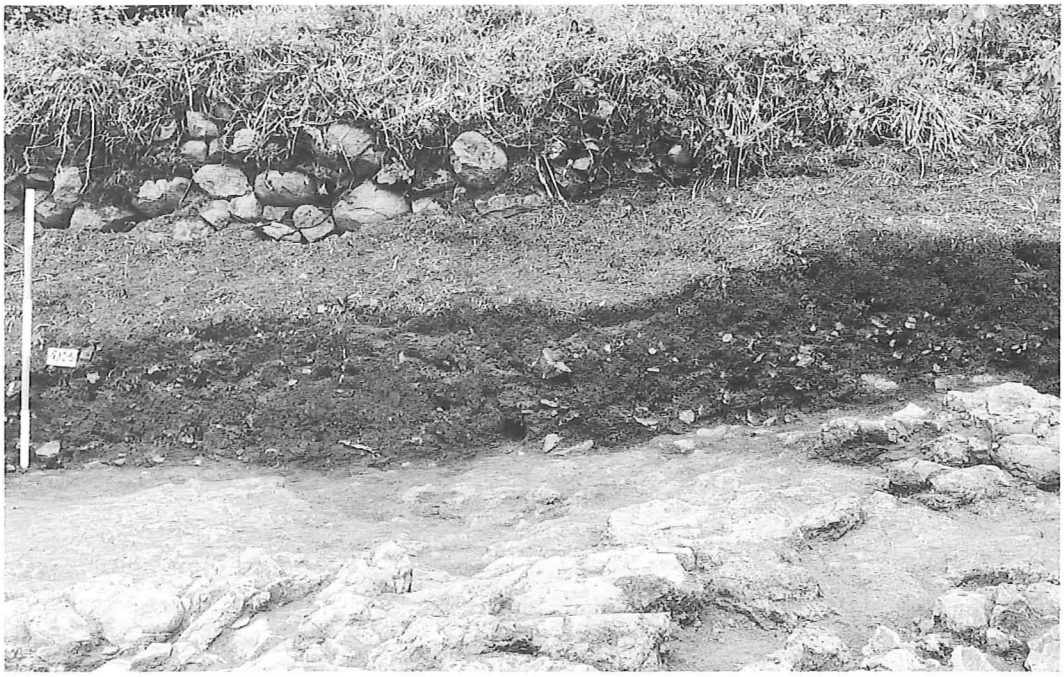

Fig. 4　陶磁器他1～7(1/2), 8～9(2/3)

# PLATES
# (名切A遺跡)



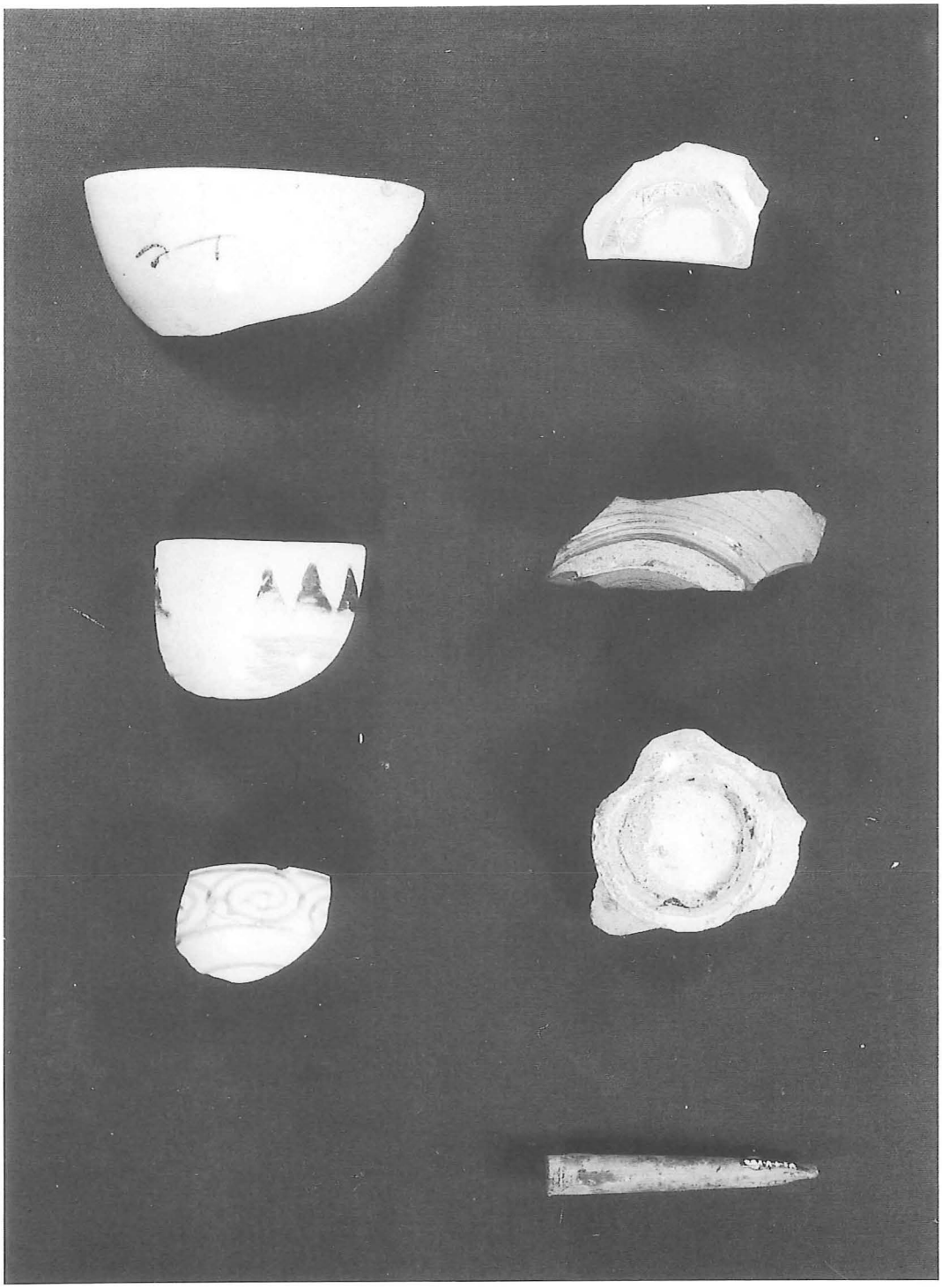
遺跡遠景

調査



C－6区　東壁

C－7区　東壁



出土遺物（1/2）

# 松山A遺跡

# 本文目次

頁

I　調査 ……503
　1．地理的位置 ……503
　2．調査の概要 ……505
　3．土層 ……506
II　遺構 ……510
　1．集石遺構 ……510
III　出土遺物 ……516
　1．遺物の分布 ……516
　2．先土器時代の遺物 ……531
　3．出土遺物の利用石材について ……577
　4．先土器時代のまとめ ……578
　5．縄文時代の遺物 ……580
　6．縄文土器 ……580
　7．縄文時代の石器 ……580
　8．中世の遺物 ……618
IV　総括 ……620

# 挿図目次

Fig. 1　松山A遺跡周辺地形図 ……503
Fig. 2　松山A遺跡調査区地形図及びグリッド配置図 ……504
Fig. 3　調査区域図 ……505
Fig. 4　調査区土層実測図 ……507
Fig. 5　1号集石遺構実測図 ……510
Fig. 6　遺構配置図（1） ……511
Fig. 7　遺構配置図（2） ……511
Fig. 8　2号集石遺構実測図 ……512
Fig. 9　3号集石遺構実測図 ……512
Fig.10　4号集石遺構実測図 ……513
Fig.11　5号集石遺構実測図 ……514
Fig.12　6号集石遺構実測図 ……515
Fig.13　出土遺物密度分布図 ……517

Fig.14　K－2区遺物垂直分布図(1) ……518
Fig.15　L－2区遺物垂直分布図(2) ……519
Fig.16　I－5区遺物垂直分布図(3) ……520
Fig.17　E－7区遺物垂直分布図(4) ……521
Fig.18　D－8区遺物垂直分布図(5) ……522
Fig.19　K－10区遺物垂直分布図(6) ……523
Fig.20　L－10区遺物垂直分布図(7) ……524
Fig.21　L－11区遺物垂直分布図(8) ……525
Fig.22　K－11区遺物垂直分布図(9) ……526
Fig.23　L－12区遺物垂直分布図(10) ……527
Fig.24　M－12区遺物垂直分布図(11) ……528
Fig.25　N－15区遺物垂直分布図(12) ……529
Fig.26　N－16区遺物垂直分布図(13) ……530
Fig.27　ナイフ形石器出土分布図 ……531
Fig.28　ナイフ形石器実測図(1) ……532
Fig.29　ナイフ形石器実測図(2) ……533
Fig.30　ナイフ形石器実測図(3) ……534
Fig.31　ナイフ形石器実測図(4) ……535
Fig.32　ナイフ形石器実測図(5) ……536
Fig.33　台形石器及び剝片尖頭器実測図 ……540
Fig.34　細石刃出土分布図 ……541
Fig.35　細石核実測図 ……542
Fig.36　細石刃実測図(1) ……543
Fig.37　細石刃実測図(2) ……544
Fig.38　細石刃実測図(3) ……545
Fig.39　尖頭器出土分布図 ……549
Fig.40　尖頭器実測図(1) ……551
Fig.41　尖頭器実測図(2) ……552
Fig.42　尖頭器実測図(3) ……553
Fig.43　尖頭器実測図(4) ……554
Fig.44　尖頭器実測図(5) ……555
Fig.45　尖頭器実測図(6) ……556
Fig.46　黒曜石製掻器実測図(1) ……559
Fig.47　黒曜石製掻器実測図(2) ……560

Fig.48　黒曜石製掻器実測図(3) ……561
Fig.49　黒曜石製掻器実測図(4) ……562
Fig.50　黒曜石製掻器実測図(5) ……563
Fig.51　黒曜石製剥片石器実測図(1) ……564
Fig.52　黒曜石製剥片石器実測図(2) ……565
Fig.53　黒曜石製剥片石器実測図(3) ……566
Fig.54　黒曜石製剥片石器実測図(4) ……567
Fig.55　黒曜石製剥片石器実測図(5) ……568
Fig.56　黒曜石製剥片石器実測図(6) ……569
Fig.57　サヌカイト製掻器実測図(1) ……571
Fig.58　サヌカイト製掻器実測図(2) ……572
Fig.59　サヌカイト製掻器実測図(3) ……573
Fig.60　サヌカイト製掻器実測図(4) ……574
Fig.61　石核実測図(1) ……575
Fig.62　石核実測図(2) ……576
Fig.63　石核実測図(3) ……577
Fig.64　縄文土器実測図 ……581
Fig.65　トロトロ石器実測図 ……582
Fig.66　石鏃分類模式図 ……583
Fig.67　石鏃における石材の利用率 ……583
Fig.68　打製石鏃密度分布図 ……584
Fig.69　打製石鏃実測図(1) ……586
Fig.70　打製石鏃実測図(2) ……587
Fig.71　打製石鏃実測図(3) ……588
Fig.72　打製石鏃実測図(4) ……589
Fig.73　打製石鏃実測図(5) ……590
Fig.74　打製石鏃実測図(6) ……591
Fig.75　打製石鏃実測図(7) ……592
Fig.76　打製石鏃実測図(8) ……593
Fig.77　打製石鏃実測図(9) ……594
Fig.78　打製石鏃実測図(10) ……595
Fig.79　局部磨製石鏃密度分布図 ……596
Fig.80　局部磨製石鏃実測図(1) ……597
Fig.81　局部磨製石鏃実測図(2) ……598

Fig.82　局部磨製石鏃実測図(3) ……599
Fig.83　その他の石器実測図 ……610
Fig.84　掻器及び垂飾品実測図 ……612
Fig.85　石斧実測図(1) ……613
Fig.86　石斧実測図(2) ……614
Fig.87　磨耗痕ある石器実測図 ……615
Fig.88　凹石及びすり石実測図 ……616
Fig.89　石皿実測図 ……617
Fig.90　石鍋実測図 ……618
Fig.91　1号配石遺構実測図 ……619
Fig.92　2号配石遺構実測図 ……619

## 表目次

Tab. 1　ナイフ形石器計測値一覧表(1) ……537
　　ナイフ形石器計測値一覧表(2) ……538
Tab. 2　細石刃計測値一覧表(1) ……546
　　細石刃計測値一覧表(2) ……547
　　細石刃計測値一覧表(3) ……548
Tab. 3　尖頭器計測値一覧表(1) ……557
　　尖頭器計測値一覧表(2) ……558
Tab. 4　石鏃計測値一覧表(1) ……600
　　石鏃計測値一覧表(2) ……601
　　石鏃計測値一覧表(3) ……602
　　石鏃計測値一覧表(4) ……603
　　石鏃計測値一覧表(5) ……604
　　石鏃計測値一覧表(6) ……605
　　石鏃計測値一覧表(7) ……606
　　石鏃計測値一覧表(8) ……607
　　石鏃計測値一覧表(9) ……608

# 図版目次

PL. 1　遺跡および大村湾遠望 ……625
PL. 2　遺跡遠景 ……626
PL. 3　遺跡雪積風景 ……627
PL. 4　N－17区土層 ……628
PL. 5　O－19区土層 ……629
PL. 6　H－8・K－8・L－11区土層 ……630
PL. 7　発掘調査・土層サンプル採取風景 ……631
PL. 8　1・2・3号集石遺構検出状況 ……632
PL. 9　2・3号集石遺構検出状況 ……633
PL.10　4・5号集石遺構検出状況 ……634
PL.11　5・6号集石遺構検出状況 ……635
PL.12　1号配石遺構検出状況 ……636
PL.13　1号配石除去後乃び2号配石遺構検出状況 ……637
PL.14　尖頭器出土状況 ……638
PL.15　各種石器出土状況 ……639
PL.16　各種石器出土状況 ……640
PL.17　ナイフ形石器（1） ……641
PL.18　ナイフ形石器（2） ……642
PL.19　ナイフ形石器（3） ……643
PL.20　ナイフ形石器（4） ……644
PL.21　台形石器・剝片尖頭器 ……645
PL.22　黒曜石製石核・細石核 ……646
PL.23　細石刃（1） ……647
PL.24　細石刃（2） ……648
PL.25　尖頭器（1） ……649
PL.26　尖頭器（2） ……650
PL.27　尖頭器（3） ……651
PL.28　尖頭器（4） ……652
PL.29　掻器（1） ……653
PL.30　掻器（2） ……654
PL.31　掻器（3） ……655
PL.32　掻器（4） ……656

PL.33　掻器（5）……657
PL.34　黒曜石製剥片（1）……658
PL.35　黒曜石製剥片（2）……659
PL.36　黒曜石製剥片（3）……660
PL.37　黒曜石製剥片（4）……661
PL.38　黒曜石製剥片（5）……662
PL.39　サヌカイト製掻器（1）……663
PL.40　サヌカイト製掻器・剥片……664
PL.41　サヌカイト製石核・礫器……665
PL.42　石鏃（1）……666
PL.43　石鏃（2）……667
PL.44　石鏃（3）……668
PL.45　石鏃（4）……669
PL.46　石鏃（5）……670
PL.47　石鏃（6）……671
PL.48　石鏃（7）……672
PL.49　石鏃（8）……673
PL.50　石鏃（9）……674
PL.51　石鏃（10）……675
PL.52　石鏃（11）……676
PL.53　石鏃（12）……677
PL.54　石鏃（13）……678
PL.55　石鏃（14）……679
PL.56　縄文時代の各種石器（1）……680
PL.57　縄文時代の各種石器（2）……681
PL.58　石斧……682
PL.59　磨耗痕のある石器……683
PL.60　凹石・すり石・石皿……684
PL.61　縄文土器……685
PL.62　石鍋……686

# Ⅰ　調査

## １．地理的位置（Fig. 1）

松山Ａ遺跡は，大村湾中程の北東岸に位置した東彼杵郡東彼杵町彼杵宿郷に所在する。北は川棚町，南は大村市，東を佐賀県嬉野町に接している。町の北部は虚空蔵山，高見山，飯盛山などの山が連なり，東部は大野原高位溶岩台地や赤木の中位溶岩台地と呼ばれる比較的高い台地を挟みながら続く。町の中央部は彼杵川が大村湾へ注ぎ，河口部はカプス状の三角洲となり，町内最大の平地が開けている。

長崎市を起点とする国道34号線は，彼杵宿郷で大村湾沿いに北上する佐世保市に至る国道204号線が分岐するが，さらに進路を東へ曲げ，山間部を抜け嬉野町へと通じている。旧長崎街道も，ほぼこの34号線に沿っており，彼杵宿は古くから交通の要衝として栄えた所である。

遺跡はこの彼杵の平野と大村湾を見下ろす標高60～70ｍの台地南斜面に広がり，柑橘園として利用されている。さらに東方には赤木台地や大野原の台地が続いており，遺跡も各所に点在している。

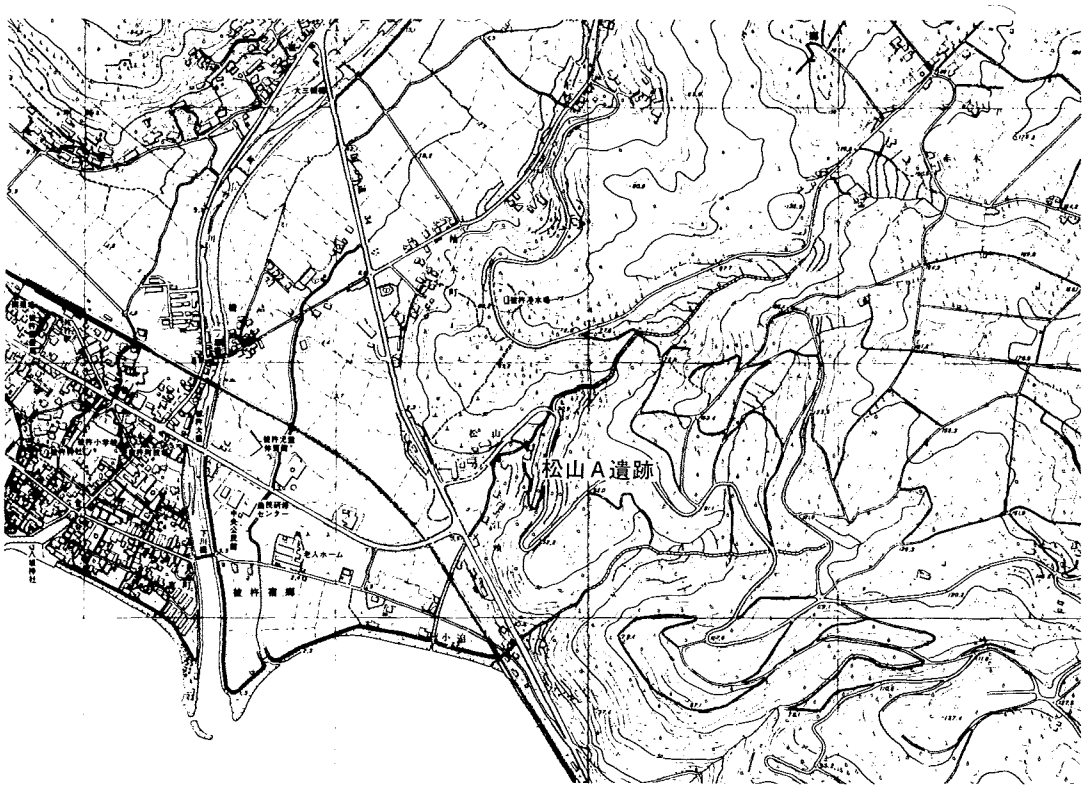



Fig. 1　松山Ａ遺跡周辺地形図

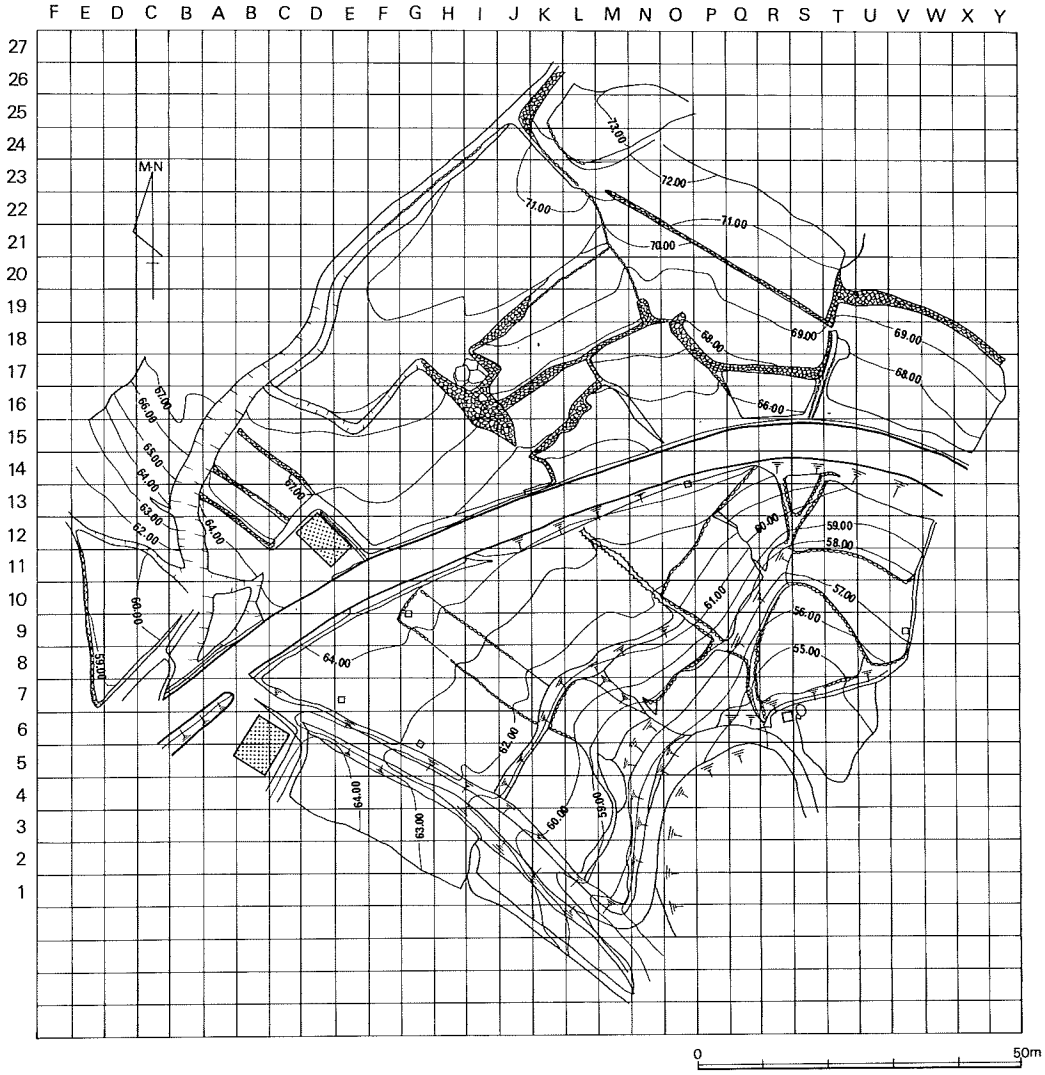



Fig. 2　松山Ａ遺跡調査区地形図及びグリッド配置図

## 2．調査の概要

遺跡の所在する松山地区は，国道分岐点と直結するインターチェンジ部分にあたり，本線や取付道路を含め広い範囲が工事の対象地とされた。松山A遺跡は，長崎県遺跡地図では72－24で登録され対象面積は8,100m²である。

調査は，全域に遺物の散布を見ることからグリッド方式で実施した。地形が北から南への傾斜となっていたため磁北を利用し，５ｍ×５ｍのメッシュに区切った。グリッド名は西から東へA・B・C……南から北へ１・２・３……とし，A－１・B－２・C－３……と記号を付した。調査を開始した時期が梅雨時であったこともあり，初日から１週間雨にたたられたが，この間，作業区内の不要物の除去や杭打ち作業を行った。地主との用地交渉の過程で，道路より上の部分はみかんの収穫後に切り倒すという了解もあり，まず町道から下の部分を着手した。

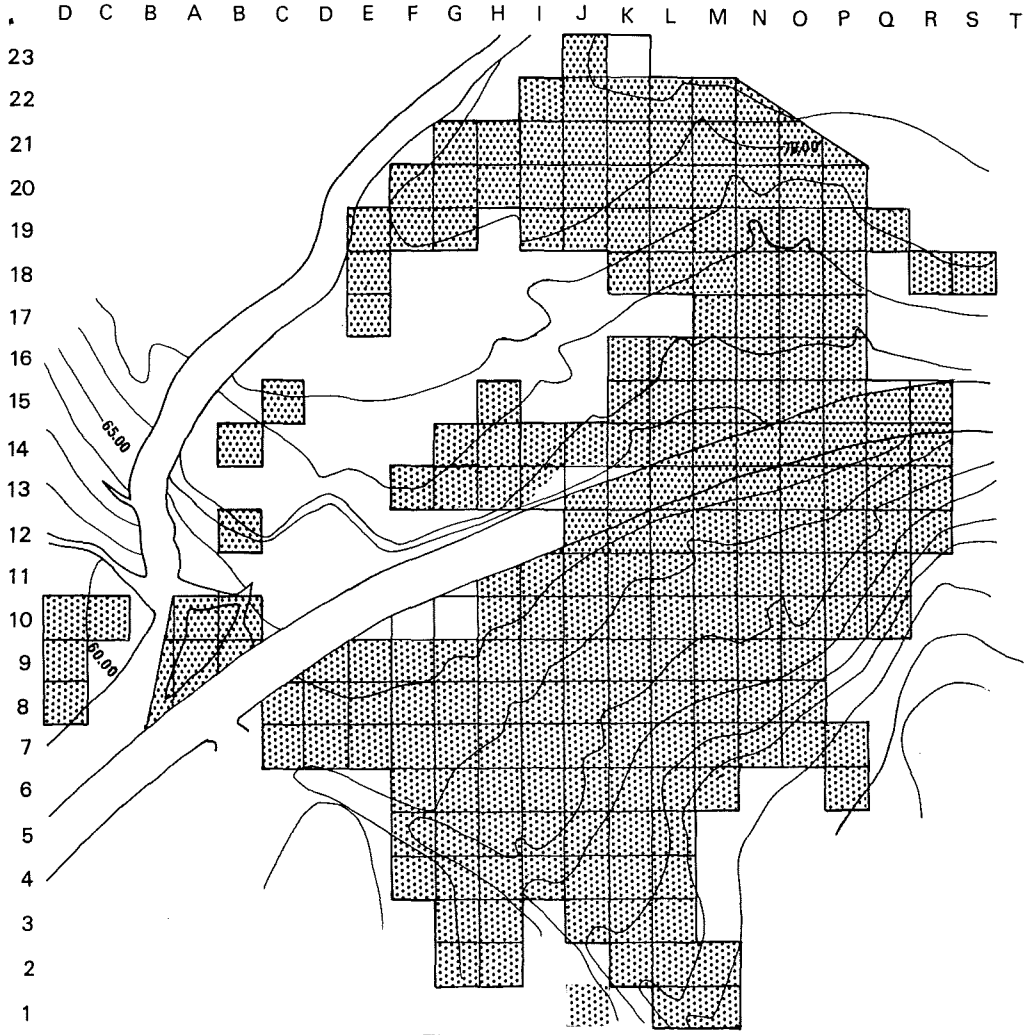



Fig. 3　調査区域図

上の部分にとりかかったのは11月頃であった。

遺物は全域から表面採取され，特に多いのが黒曜石剥片と石鏃である。また近世陶磁片も多いが，これは生活跡の名残ではなくほとんどが他から2次的に移入されたものであろう。発掘調査の遺物は，やはり打製，磨製の石鏃が多く，先土器時代のポイントやナイフ形石器，マイクロコア，マイクロブレイド，掻器類，剥片類が多く出土した。縄文時代の土器は，無文で粗い胎土をもつものがわずかに出土しただけである。

遺構は，縄文早期に伴う集石遺構の他，時期不明の配石遺構などが検出された。中世の遺物は石鍋片が出土しているが，出土地が局所的で実態が把握できない。

調査の日程は，昭和61年7月7日～昭和62年5月12日までを畑地の調査として終え，その後取付道路の完成を待って中央部を貫通していた道路部分の調査を，昭和62年5月26日～昭和62年6月19日まで行い完了した。

発掘調査面積は，削平部分や遺物出土が僅少の部分は除外したため，最終的には4,950m²に及んだ。

## 3．土層（Fig. 4）

松山A遺跡は，北から南へ傾斜した地点と，西から東へゆっくりと傾斜した地点に大別され遺物の分布状態は，その密度から5個所に集中していることが判別できる。

ここに示した土層は，西から東へゆるやかに傾斜する8列の各EからLと，北から南へ傾斜の急なN列15・16・17とN－11・12を抽出して層序とした。

C・D・E－8区の表土面は，約6.400mで平坦であるが，F－8から徐々に傾斜が始まり，L－8区の表土面は，61.600mで，約2.400mの高低差がある。M層になると，さらに2m程落差があり，表土層下は，すぐ地山層が現れ，遺物は極端に少なくなる。

E－8からJ－8までの層序

1　層……表土層，近世陶磁器などの小破片と黒曜石片及び石器が採集される。

2　層……赤褐色粘質土層，よく締まり，小指大の風化礫を多く含み，縄文時代から先土器時代の遺物包含層。

3　層……赤茶褐色粘質土層，2層よりやや赤みが強く，小指大の風化礫をわずかに含む遺物包含層。

4　層……地山層，岩が風化し，やわらかくなっている。

2層，3層が，主要包含層になっているが，一番多い遺物は黒曜石小剥片類，次いで石鏃，先土器時代の遺物となる。ここでは，必ずしも先土器時代の遺物が下層からとは限らない。ただ，D－8では，マイクロブレイドが小剥片を除けば優位を占める。

K－8，およびL－8の層序

1a層……表土層

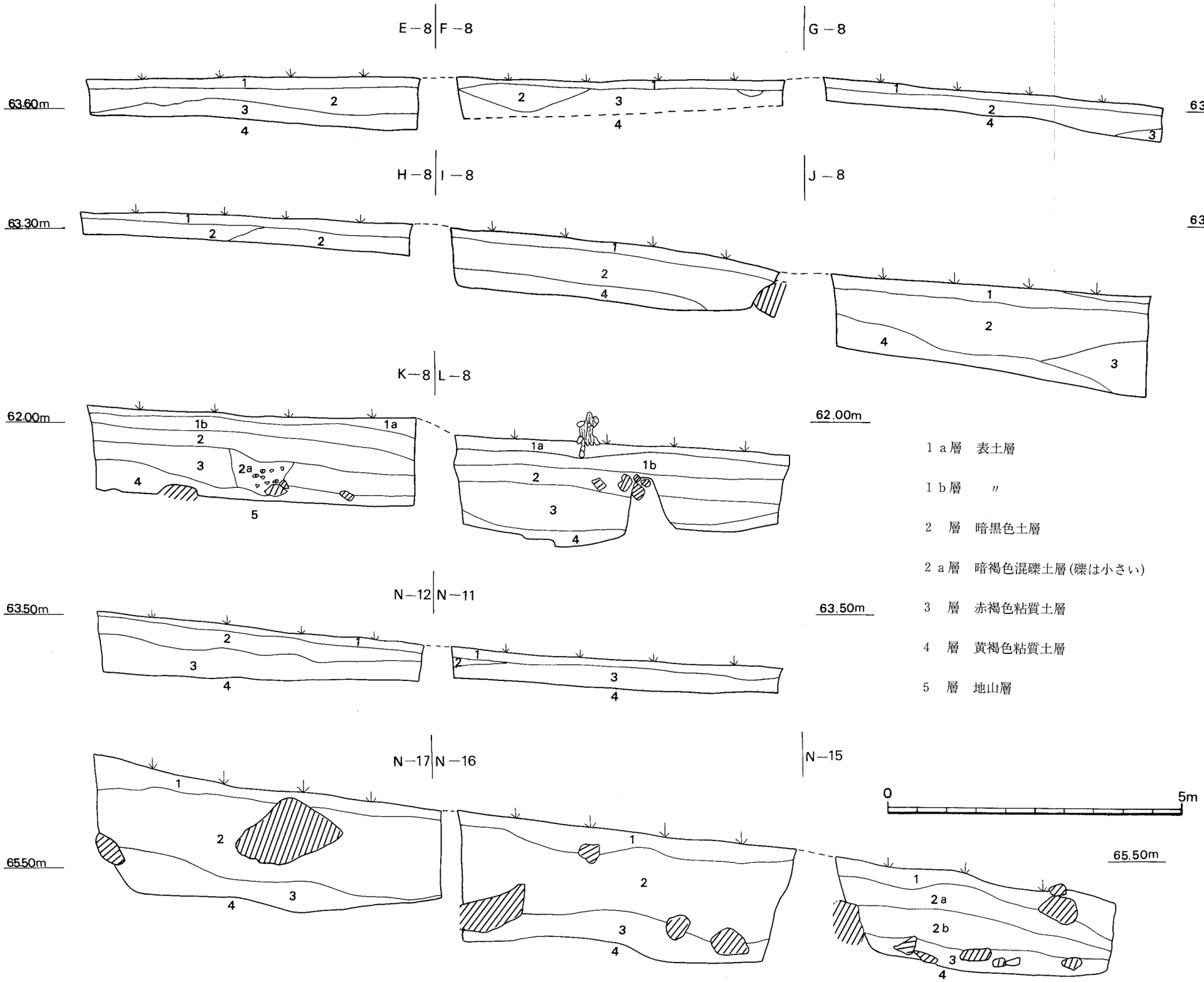



Fig. 4　調査区土層実測図

1 b 層……表土層，表土層ではあるが，黒色味が強い。

2　層……暗黒色土層で，しまりがない。2層下部には列石が認められ，石鍋片なども出土することから，中世の遺構を伴う層と考えられるが，柱穴などは検出されない。

2 a 層……土層断面に認められる土拡状の遺構で，暗褐色の土層に小礫が混入されている。K－8区北側と，L－8区東壁に認められる。

3　層……赤褐色粘質土層，よくしまった小礫交じりの粘質土層。

4　層……黄褐色粘質土層，水分を含み，よくしまり，粒状の礫を含む。

5　層……地山層，岩が風化し，やわらかくなった層，堅い大礫も含まれる。

1・2層は，中世の層であるが，全体の中でこの区域だけに限られ局所時である。

3層は，石鏃や小剝片類を含む縄文時代から先土器時代の遺物包含層となっている。

N－15からN－17東壁の層序

1　層……表土層

2　層……暗褐色粘質土層，約1mの厚みがあり，上部わずかに黒色をおびる。遺物は，縄文早期の土器が出土する。下部は，やや褐色がかり，石鏃や先土器時代の遺物の出土がある。

3　層……明褐色粘質土器，堅くしまっており，礫を多く含む。ナイフなどが出土し，下部は，先土器時代だけの遺物を含む。

4　層……地山層，岩が風化し，やわらかくなった層。

この地域の東壁は，地形の傾斜面をよく表している。割合急傾斜で，19区以上は，包含層も薄くなっているが，下方に従って遺物包含層も厚みを増している。大礫が含まれていることから，上方から流れ込んで堆積し，厚さを増したものと考えられる。

松山A遺跡の層序は，基本的には2層，3層が主要包含層と考えられる。また，縄文時代の層と先土器時代の明確な層区分は，把握できない。

# II　遺構

遺構は，比較的少なく，集石遺構6基，帯状の配石遺構2基が検出された。1号集石を除いては，各15区に集中している。以下各遺構について説明を加える。

## 1．集石遺構

**1号集石遺構**（Fig. 5）

J－6区から検出された。掘り込み面は，2層赤褐色粘質土層からで，形状は，口径約80cmの楕円を呈する。中には，玄武岩の拳大からそれ以下の礫を含み，中央下部には，20cm×20cm大の礫がある。礫上面から底部までは，25cmと比較的浅く，北西隅が，やや一段低くなっている。中に堆積した土は，黒褐色を呈している。遺物は，縄文早期の無文土器と考えられる土器片と黒曜石剥片2個である。

J－6区に隣接するI－5区を中心に遺物出土のまとまりが観察され，集石遺構もこの一角に位置している。

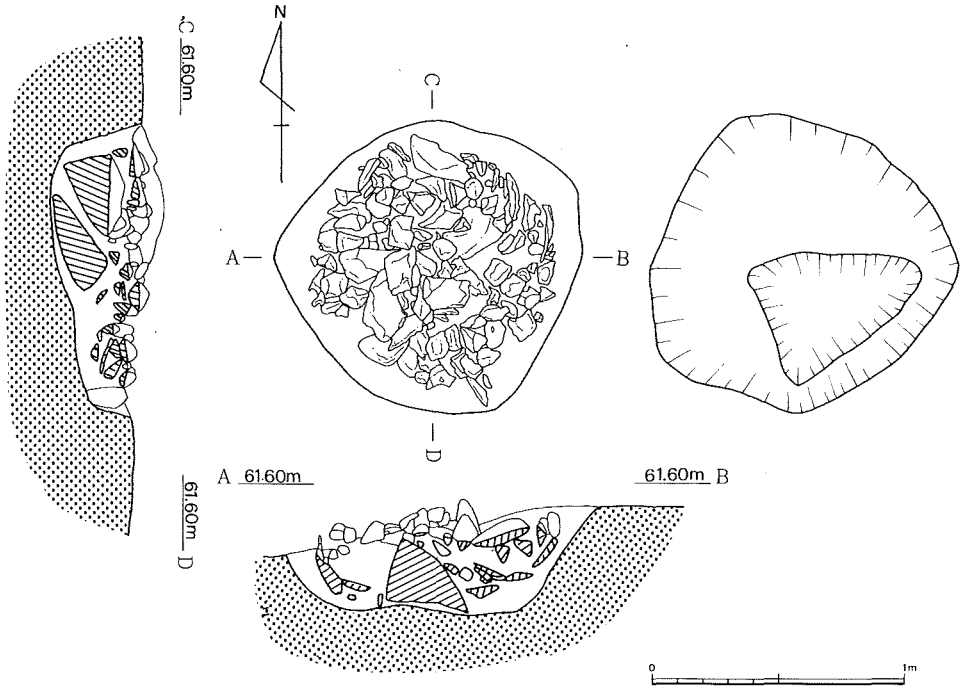



Fig. 5　1号集石遺構実測図

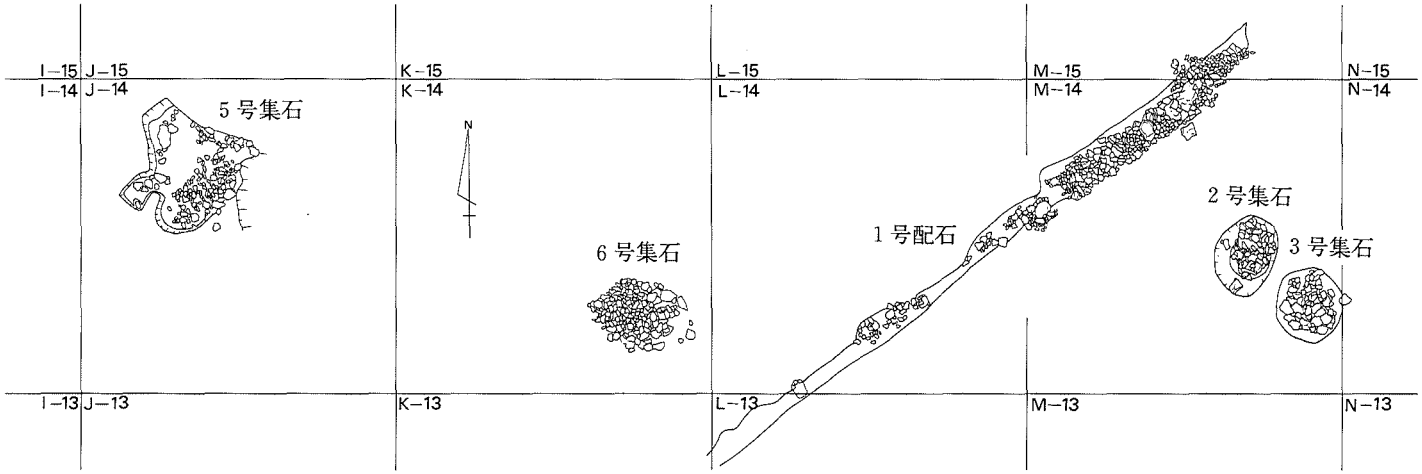



Fig. 6　遺構配置図（1）

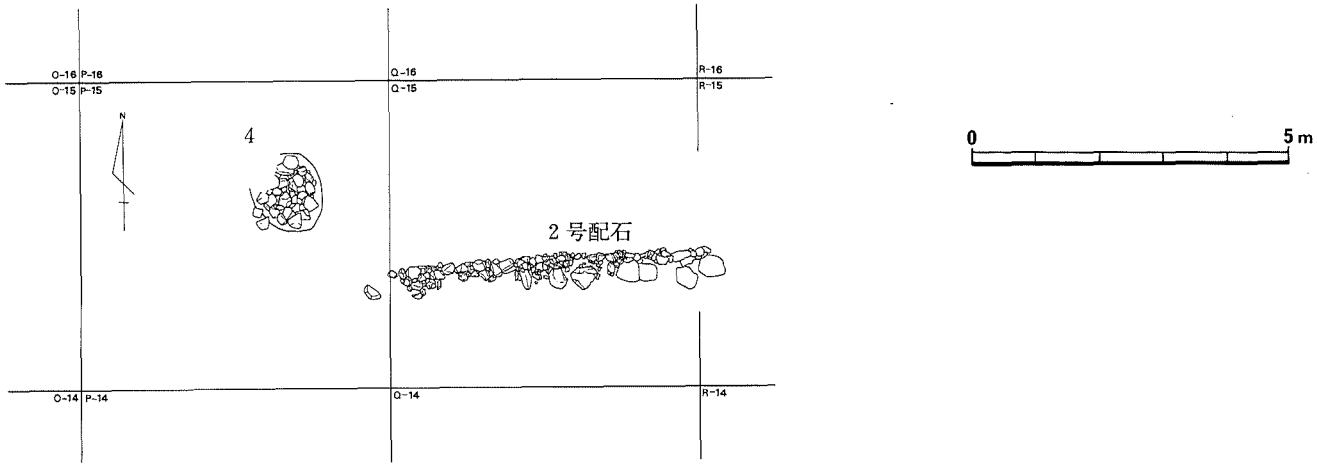



Fig. 7　遺構配置図（2）

**2号集石遺構**（Fig. 8）

M－14区から3号集石遺構と隣接して検出された形状は，口径93cm×70cm，楕円形を呈する。拳大から，それ以下の玄武岩礫を詰め込み，底部までは浅く，約25cmを計る。中からは，黒曜石剥片3点が出土した。

**3号集石遺構**（Fig. 9）

2号集石のすぐ南東に接し，形状は，口径83cm×93cm，深さ45cmとほぼ円形状を呈する。拳大前後の玄武岩礫を詰め込んでいるが，遺物の出土は認められない。

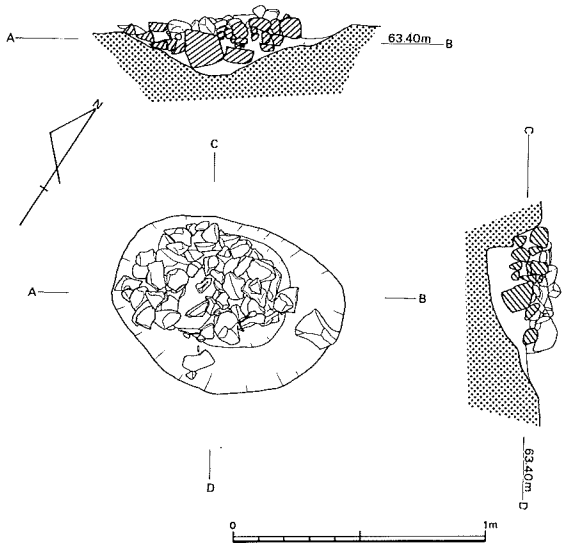



Fig. 8　2号集石遺構実測図

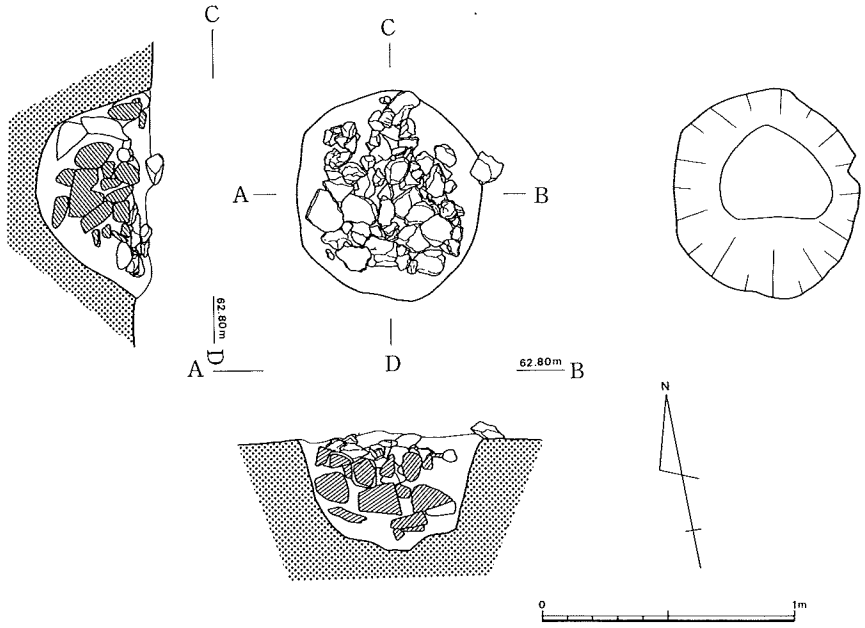



Fig. 9　3号集石遺構実測図

**4号集石遺構**（Fig.10）

P－14区2層からの検出。形状は，口径114cm×130cm，深さ55cmと集石遺構の中では一番大きい。中に詰め込んである石も20cm前後の玄武岩礫が多く，石と石の間がよく掘れておらず，後世の投げ入れの感が強い。ただ，掘り込みは，他の集石遺構と変わるところはなく，遺物は認められない。

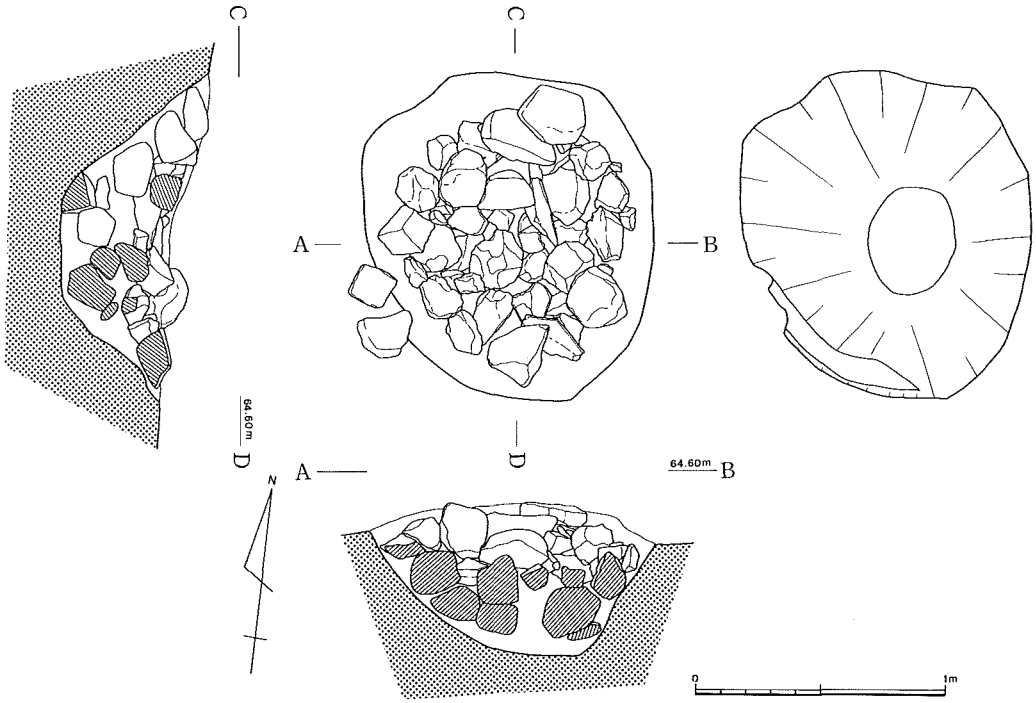



Fig.10　4号集石遺構実測図

**5号集石遺構**（Fig.11）

J－14区から検出された。この区は，表土面が65.50mと集石遺構の中では最高所に位置し，傾斜している。表土直下に礫が現われ，形状は，1.90m×1.70mで，角ばったり，丸くなったり，不整形である。礫の形状，配置にも，統一性を欠き，南面だけに明確な掘り込み部が見られる。遺構周辺からは，石鏃と剥片類の出土が少量に留まる。

**6号集石遺構**（Fig.12）

K－14区から検出された。地形的に畑の段差が設けられ，掘り込み面は削平されている。礫は，大小多く詰め込まれているが，底部は，自然石を割り，窪んだ状態で利用している。この地山石の上には，礫はあまり見られず，西側が礫で盛り上がり，東側は礫を積みあげた様になっている。ただ，この礫は，しまった感は見られないが，サヌカイト製の石核が1点出土している。

1号から6号集石遺構を見てきたが，この中で，いわゆる縄文早期に盛行する集石遺構と同じ性格をもつものは，1・2・3号集石遺構でないかと考えられる。その根拠は，主要な遺物

包含層である2層から掘り込まれていることと，剥片類や縄文土器の小破片などが供伴しているからである。また，4号集石遺構は，礫の詰まり具合からすると，後世の物の様に思われ，集石土壙と考えた方が良いかもしれない。一方，5号・6号は，約5m離れているものの，同時期と考えて良いが，5号は，浅い所からの出土のため，撹乱を受けている。剥片類の供伴はあるものの，層位の乱れを考えると，時期不明としておきたい。

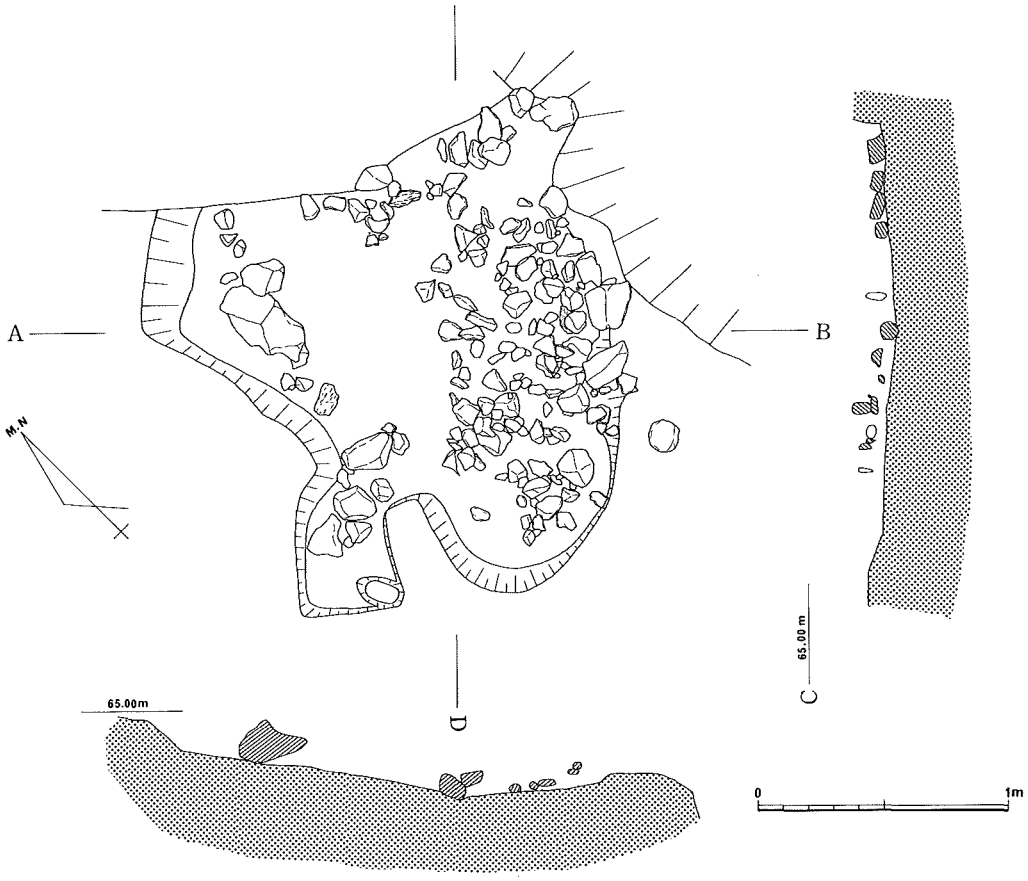



Fig.11　5号集石遺構実測図

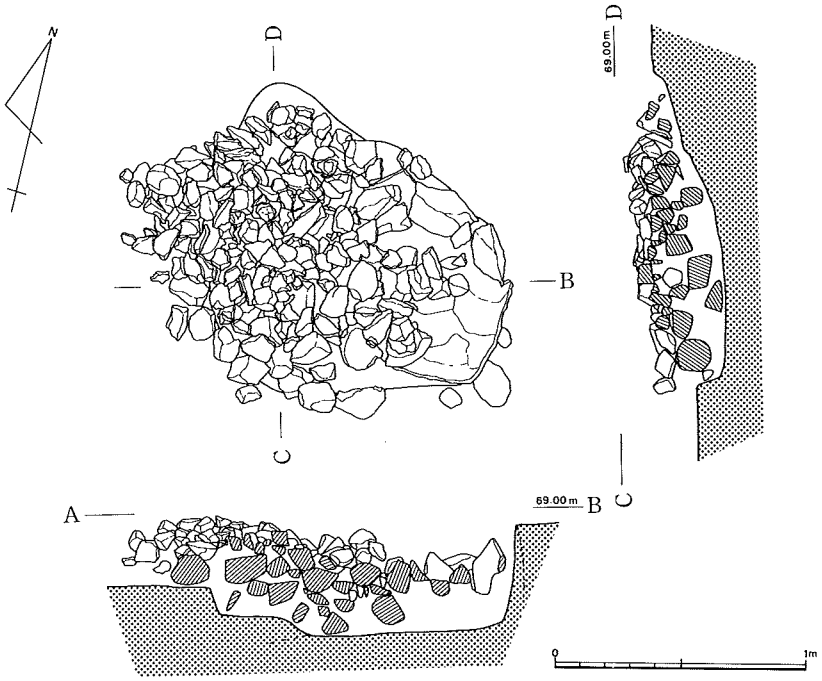



Fig.12　6号集石遺構実測図

# III. 出土遺物

松山A遺跡における出土遺物は，先土器時代，縄文時代，中世，近世の各時代のものが出土している。調査中に得られた資料は，表採も含めて数万点にのぼる。中でも，先土器時代の剝片石器は，その多くを占め，次に縄文時代の石鏃類が続く。中世の遺物は，わずかであるが，近世か現代の陶磁器類の破片が多く，有田，武雄，波佐見など近隣のものがほとんどで，表土層からの出土である。これらは，かなり傾斜のきつい所にも見られることから，2次堆積によるものと考えられ，実測図は割愛した。Fig.13に示した調査区域遺物分布図では，遺物の出土数を濃淡で表してみた。その結果，赤線で囲んだ5個所について集中的な遺物の出土が見られる。（ただ，この集中個所は先土器時代から縄文時代にかけての傾向である。）一番集中している個所はゆるやかな傾斜地に位置するK・L－10・11グリッドである。又，標高68mのN－18グリッドを中心とする区域と標高70m～71mの平坦部G－21グリッドに位置する所にも集中している。それと，標高64mを頂点とし，東西に傾斜するD－8とA－9にも集中していることが観察される。

1．遺物の分布（Fig.14～26）

先土器時代の遺物ではナイフ形石器・細石刃・尖頭器について垂直遺物分布図を作成した。同器種3点以上出土した調査区に限ったが，全部で13グリッドである。傾斜がきついため，簡単に比較は出来ないが，器種別による上下の関係は見られない。

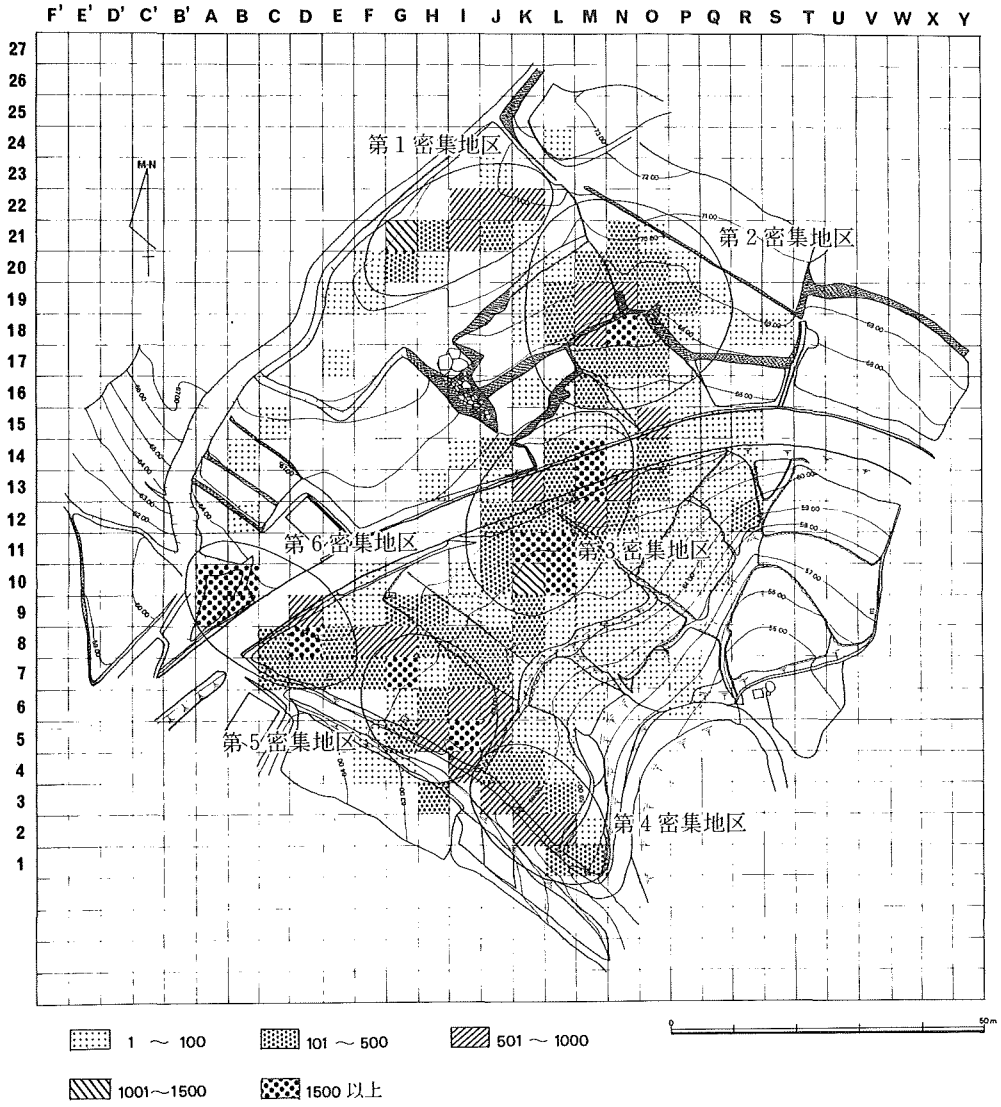



Fig.13　出土遺物密度分布図

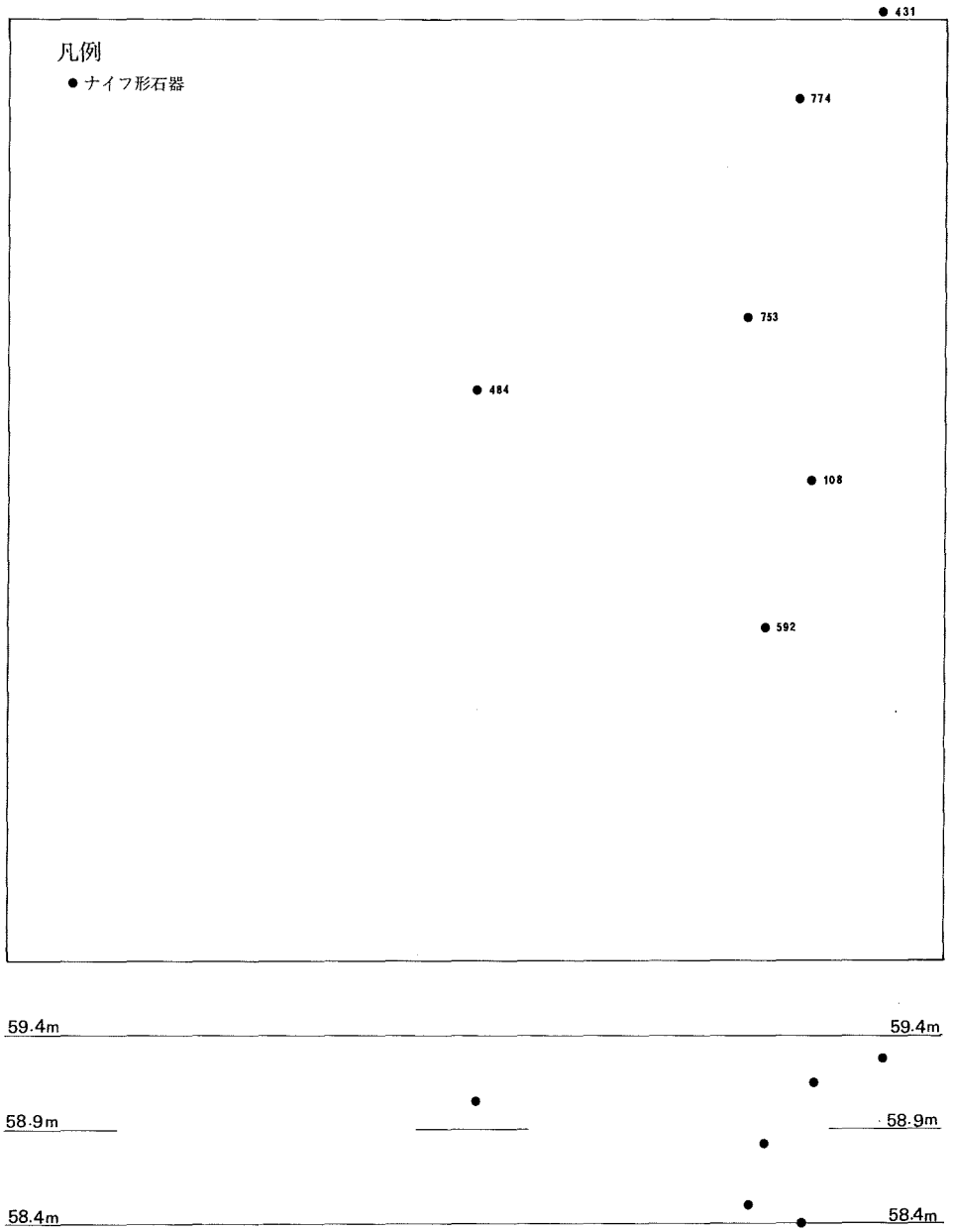



Fig.14　K－2区遺物垂直分布図(1)

調査区の半分は道路によって切り通しされている。土層は北西から南東へ傾斜している。遺物は全体で808点，先土器時代の遺物はナイフ形石器6点が出土。石鏃は局部磨製も含めて19点が出土。主要包含層は2層暗褐色粘質土層および3層黄褐色粘質土層。

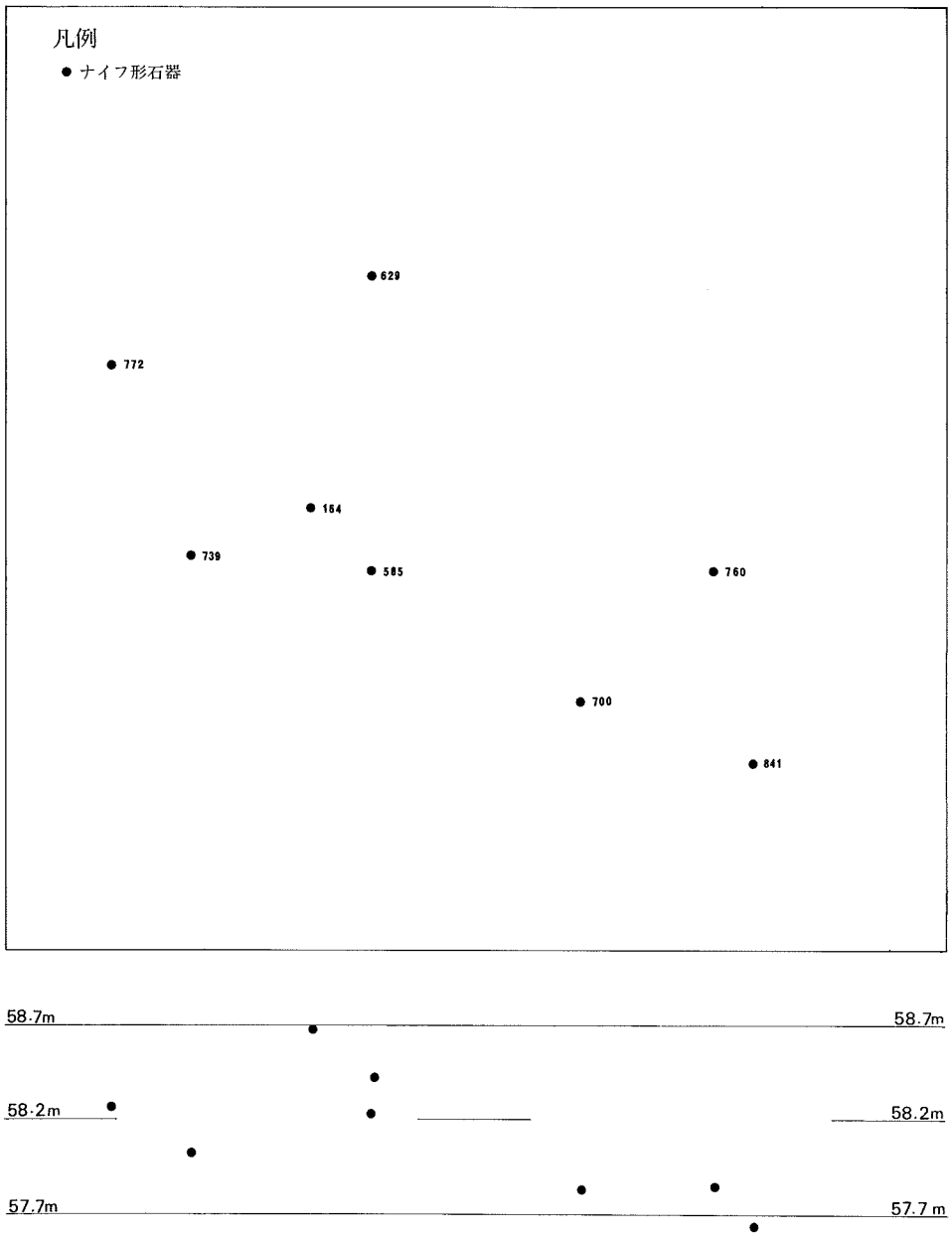



Fig.15　L－2区遺物垂直分布図(2)

この区はK－2区と同じような状況を示す。ドットによる遺物取りあげ865点。先土器時代の遺物はナイフ形石器8点，石鏃は11点出土。土層は，東南の方向に傾斜する。北西隅と，南東隅の土層の差は130cmを計る。

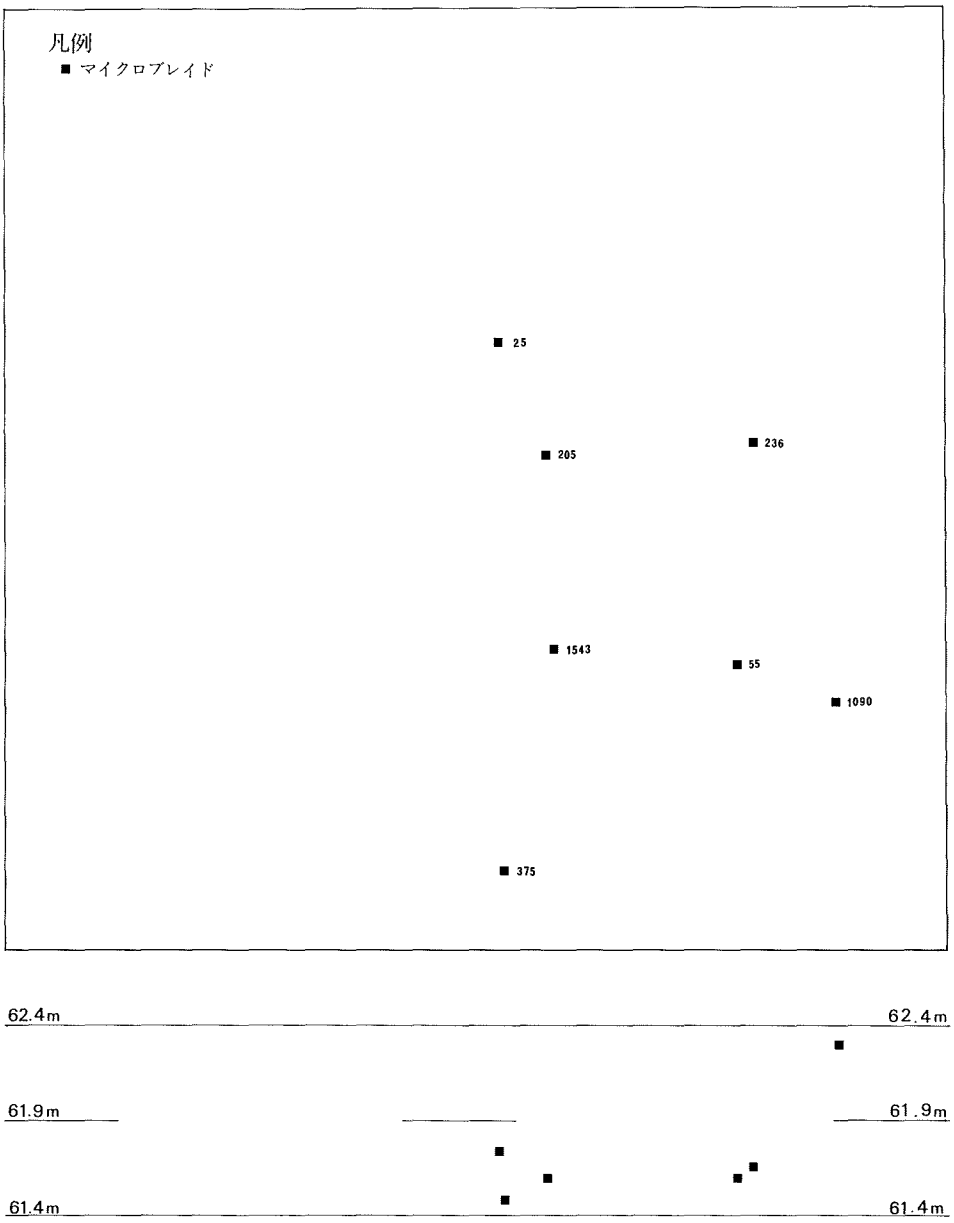



Fig.16　Ⅰ－5区遺物垂直分布図(3)

第5密集区の中心をなすグリッドである。ドットによる遺物総点数は1,746点，先土器時代の遺物は細石刃7点。石鏃は61点を数え非常に目立つ。この区の立地は西から東へゆるい傾斜地で，平坦面に近い。

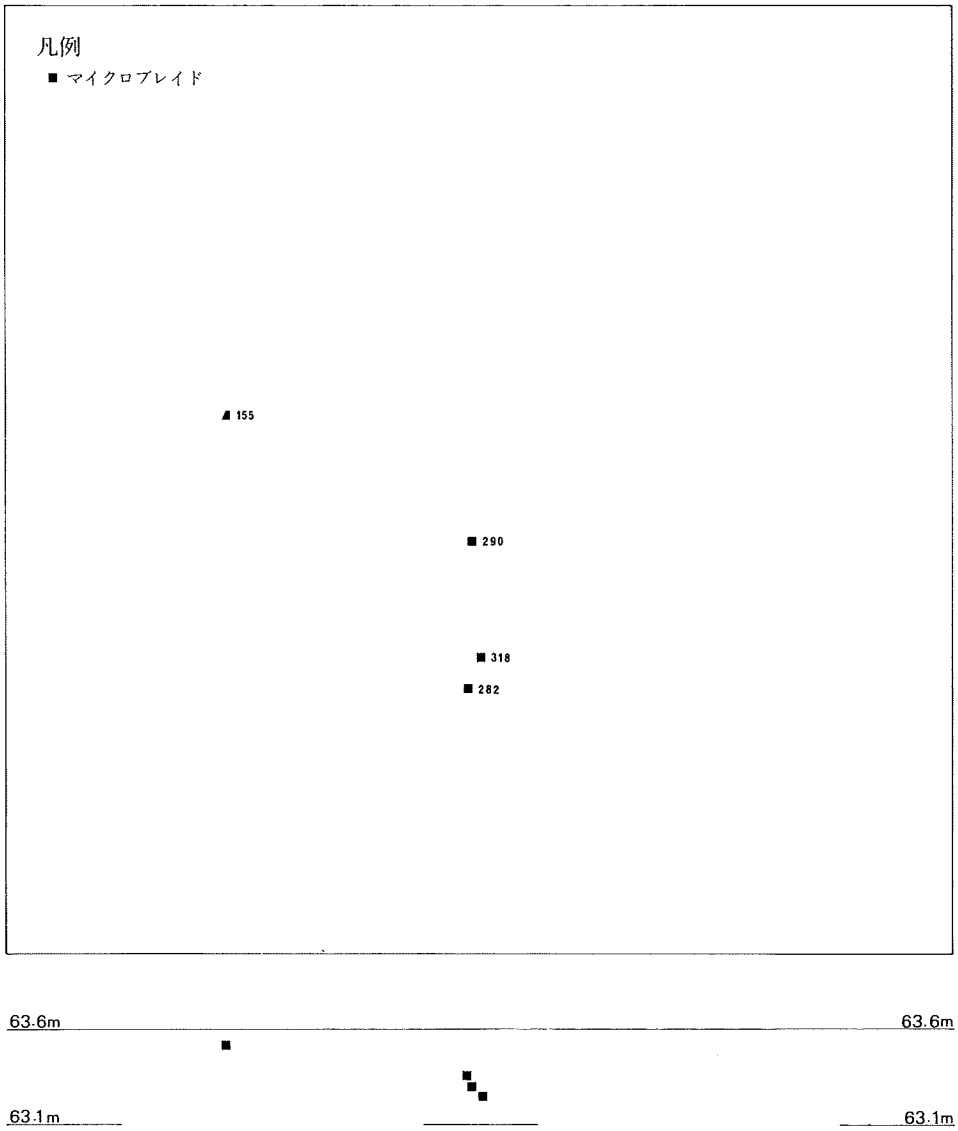



Fig.17　E－7区遺物垂直分布図(4)

ほぼ平坦地に位置し，第6遺物密集地区の一画を形成，ドットの総点数は340とやや希薄。土層はやや撹乱を受けるが2層，3層が残存している。石鏃の出土は28点。

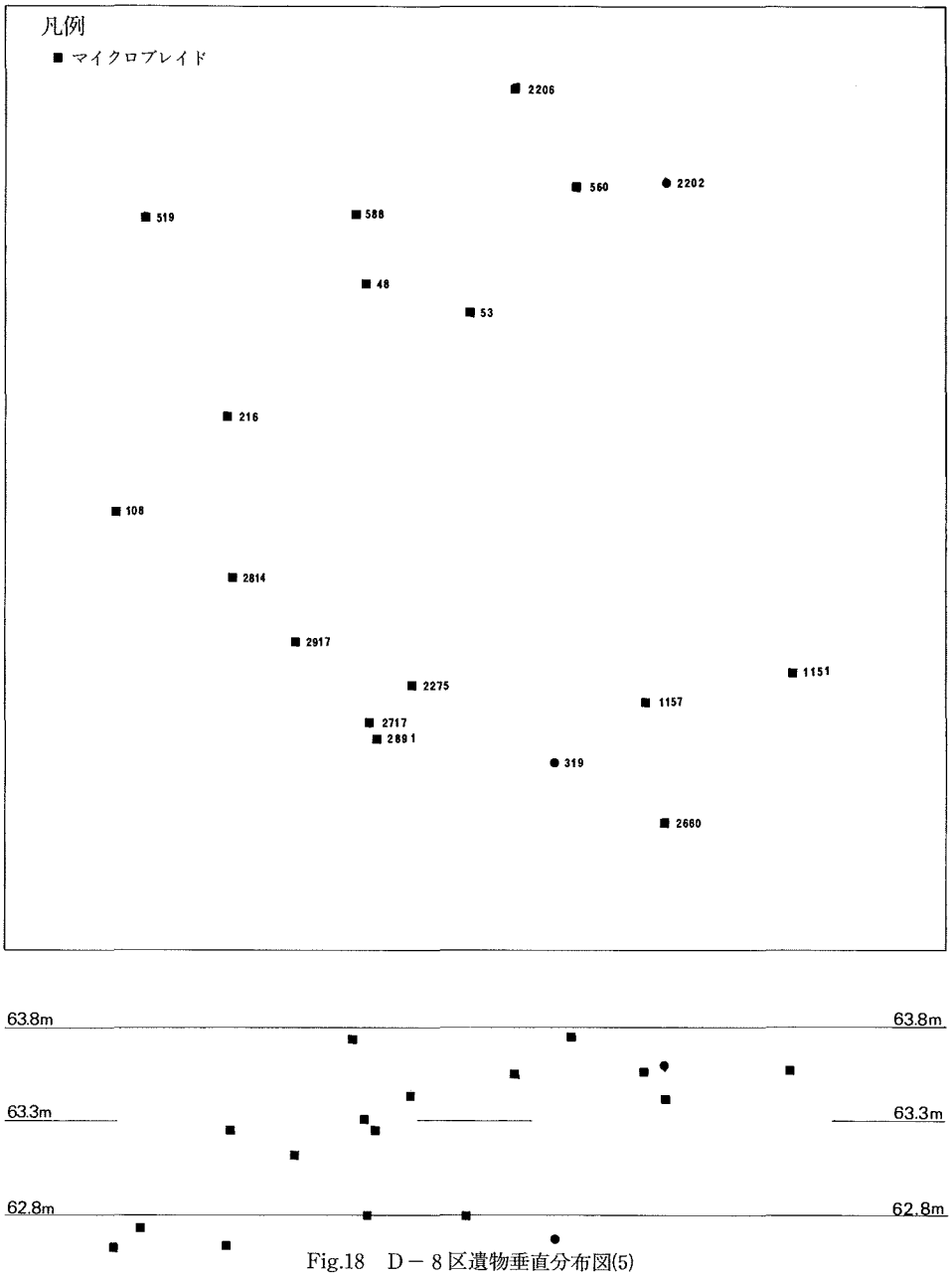



Fig.18　D－8区遺物垂直分布図(5)

西側の大村湾を見渡せる平坦地の開口部に位置する。層位はあまり深くはないが，ここは第6遺物密集地の中心をなすグリッドで，ドット取りあげは2,965点を数え，今回の調査区のなかで最多を記録する。先土器時代の中心はナイフ形石器と細石刃が見られ，特に黒曜石のチップが多いのが注目された。

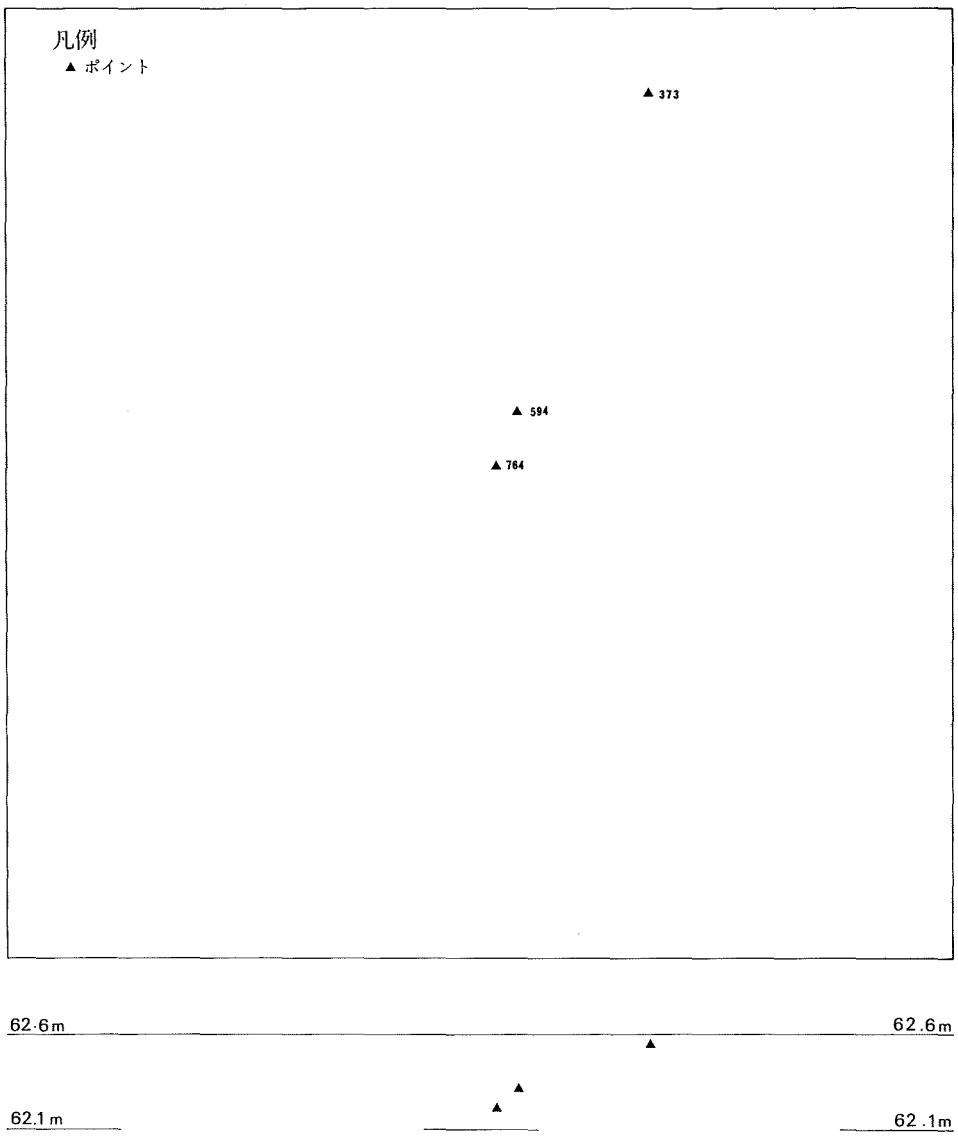



Fig.19　K－10区遺物垂直分布図(6)

第3遺物密集地の中心になる区をなし，ドットによる遺物取りあげは1,092点，先土器時代の遺物は3点の尖頭器が含まれる。石鏃は46点が出土している。土層は整然としており，北西隅から南西隅へゆるく傾斜している。

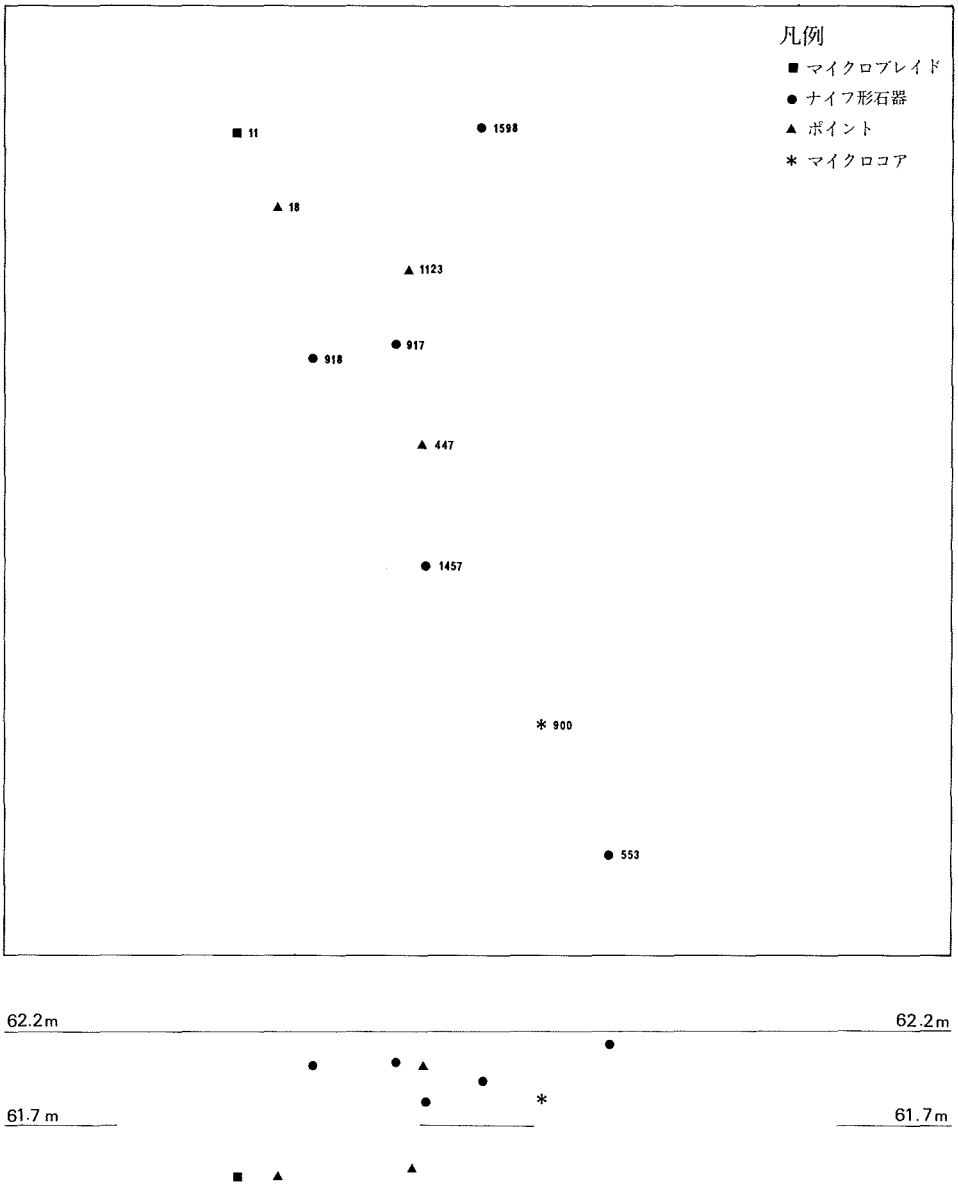
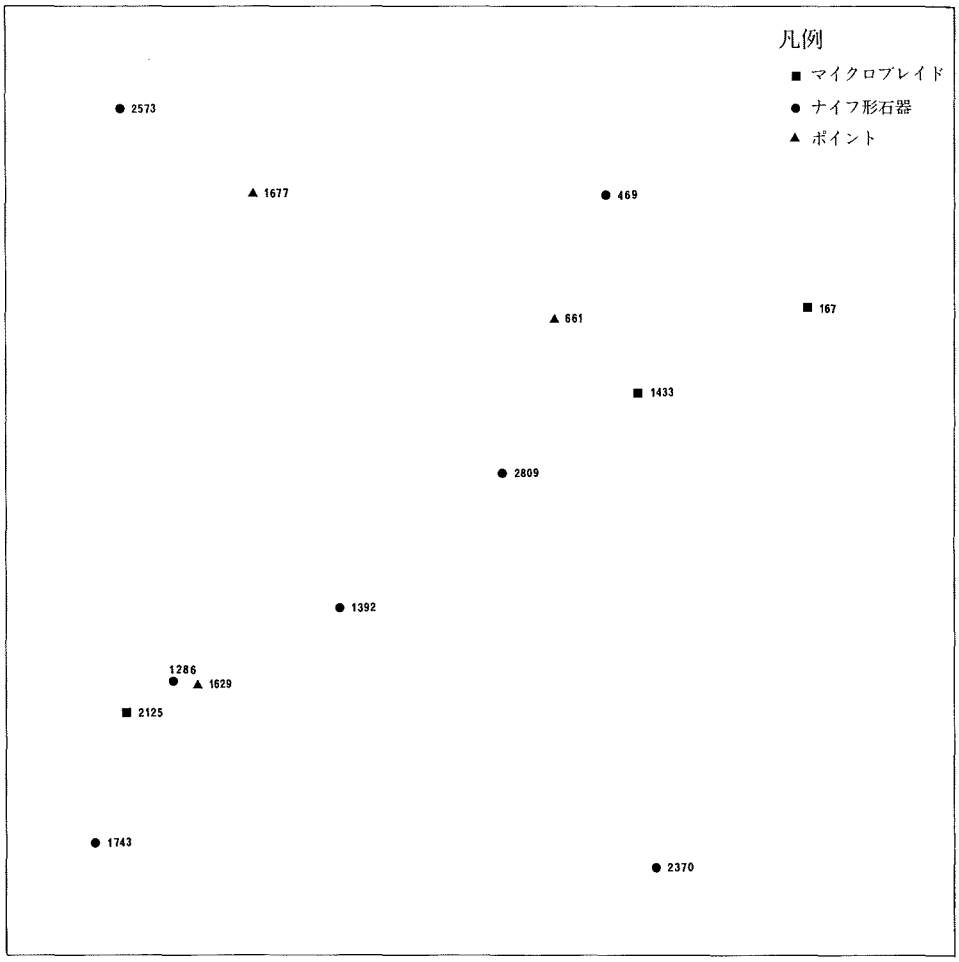



Fig.20　L－10区遺物垂直分布図(7)

遺跡のほぼ中央部，一番遺物の集中する第3遺物密集地に位置し，ドットによる取りあげ数は1,779点，先土器時代の石器はナイフ形石器，尖頭器が主体である。石鏃は29点出土。土層はゆるやかに北西から南東隅の方向に傾斜する。層位は整然としており，2～4層から遺物は出土する。



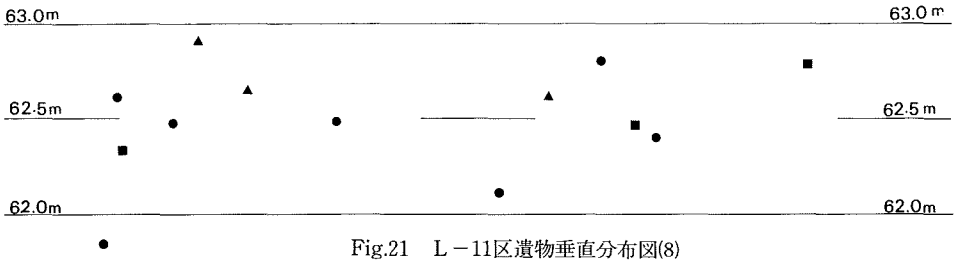




Fig.21　L－11区遺物垂直分布図(8)

第3遺物密集地の中核をなす。K－10・11，L－10とともに多くの遺物が得られ，ここでもドットによる取り上げは2,950点に達する。先土器時代の遺物はナイフ形石器，細石刃，尖頭器が主体であるが，この周囲も含めてポイントの出土が目立つ。また石鏃も多く95点出土している。土層は2層明褐色土層および3層暗褐色土層がわずかな凹地になっていることが観察される。全体の傾斜は北西隅から南西隅である。この地区は表土から約1m余りで地山層に達する。

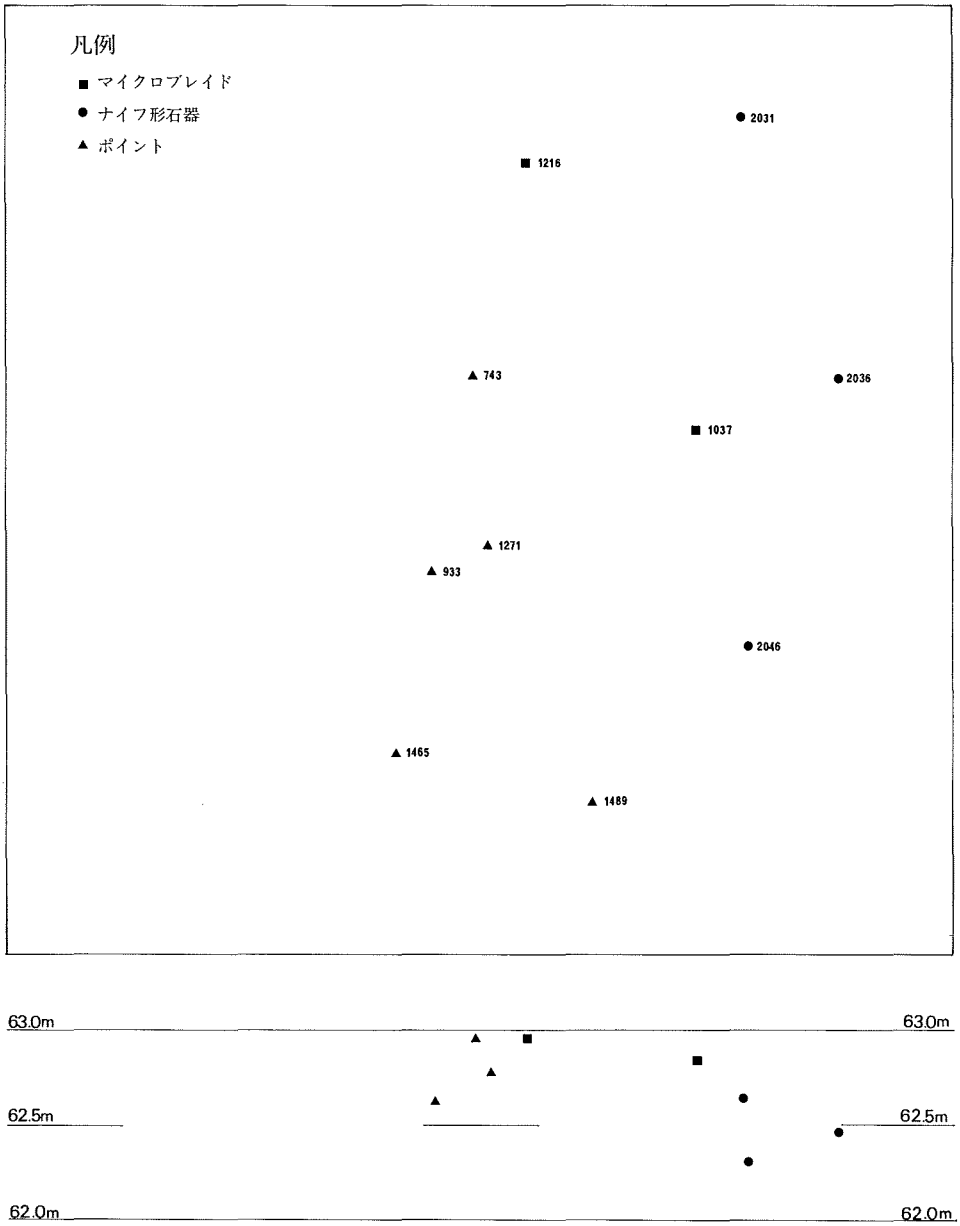



Fig.22　K－11区遺物垂直分布図(9)

第3遺物密集地の中心をなす。ドットによる取りあげは2,068点，先土器時代の遺物はナイフ形石器，細石刃，ポイントが含まれる。石鏃は54点が出土。土層は，北西隅から南東隅へ傾斜しており，その差は80cmに達する。層位は整然としている。

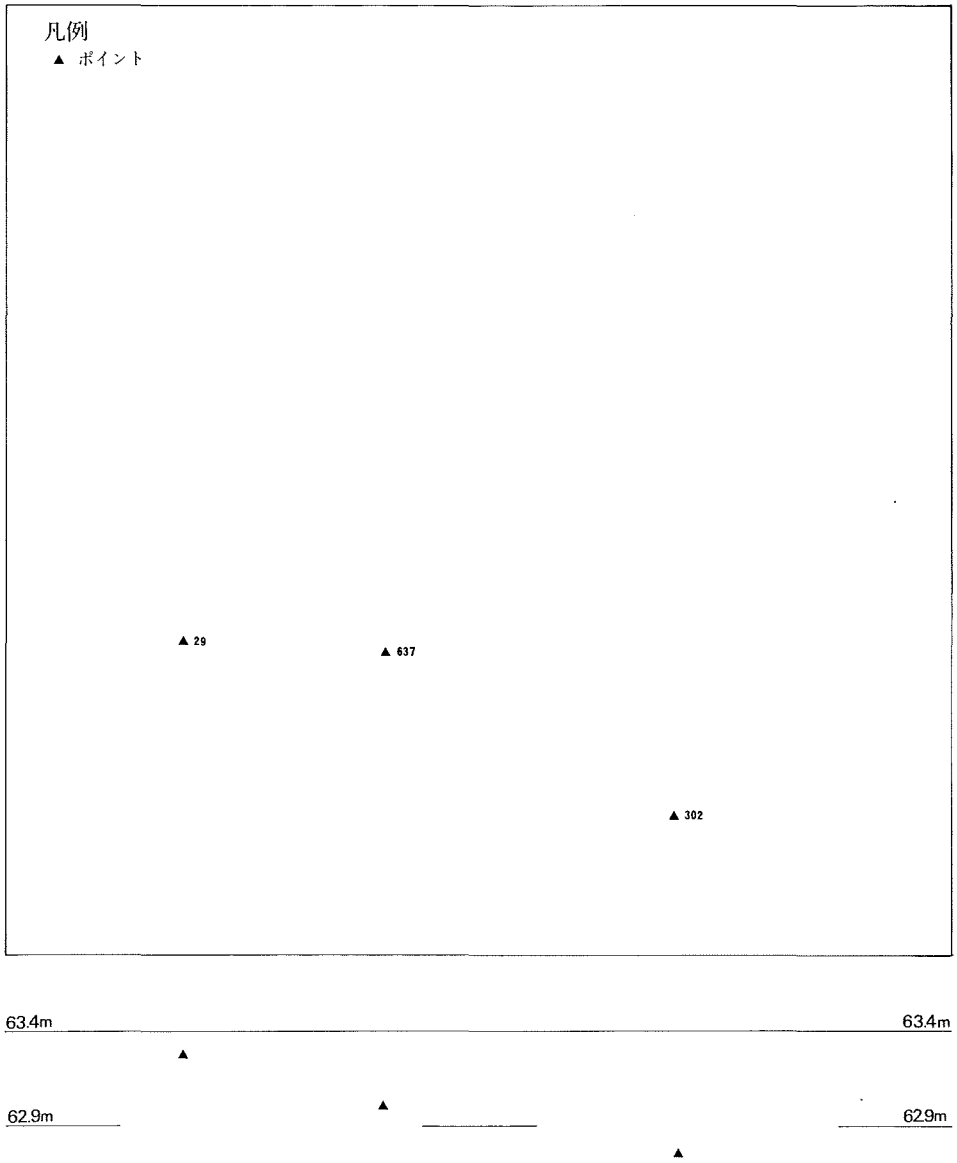



Fig.23　L－12区遺物垂直分布図(10)

ここは従来からある道路の一部にかかった所である。ドットによる取りあげは203点と少ないが，先土器時代の遺物はポイント３点が出土。石鏃は16点が出土している。土層は北西隅から南東隅へ傾斜がやや急である。

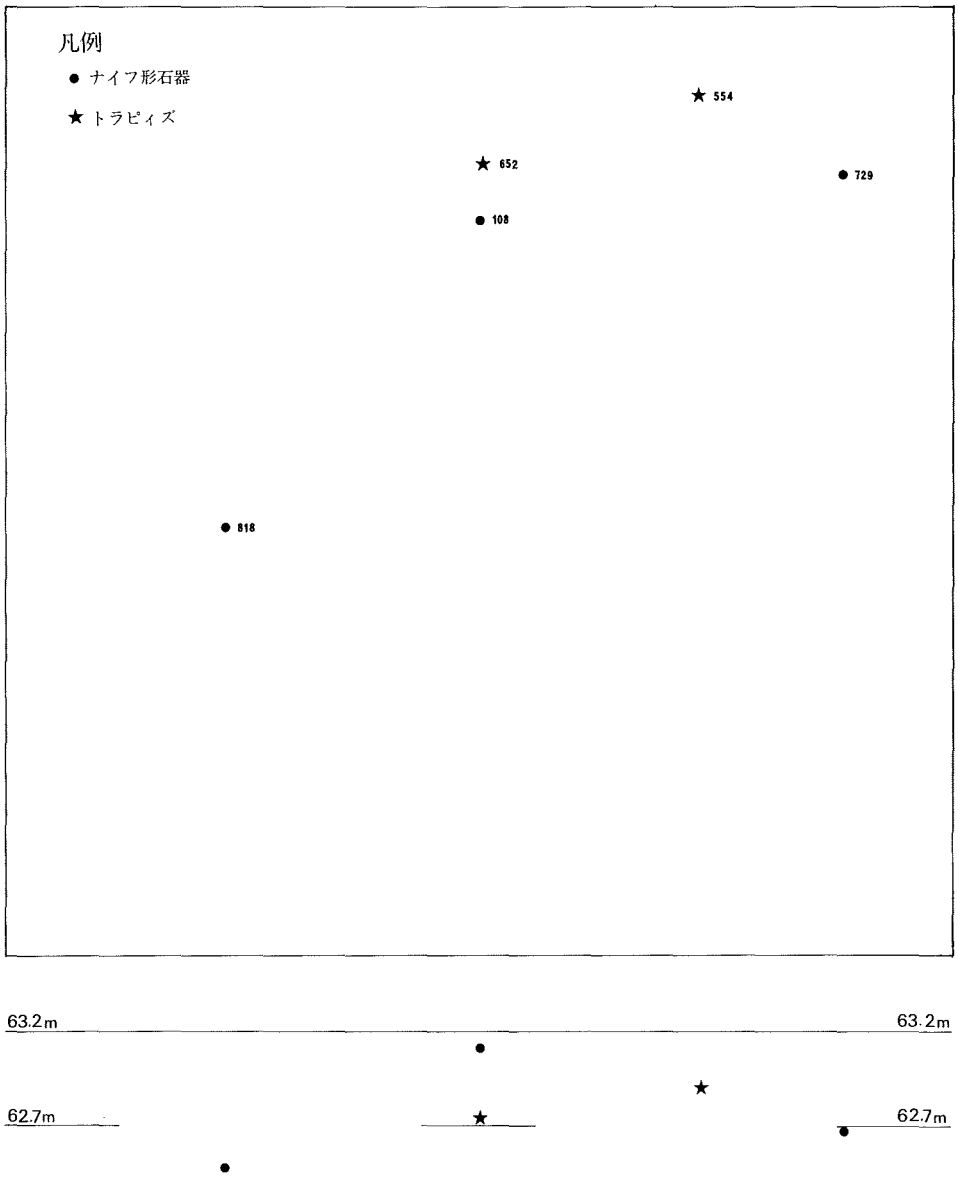



Fig.24　M－12区遺物垂直分布図(11)

第３遺物密集地の東側に位置する。ドットによる取りあげは952点。土層はL－12とほぼ同じ。傾斜は北西隅から南東隅にかけてやや急である。先土器時代の遺物はナイフ形石器が３点出土。石鏃は46点出土。

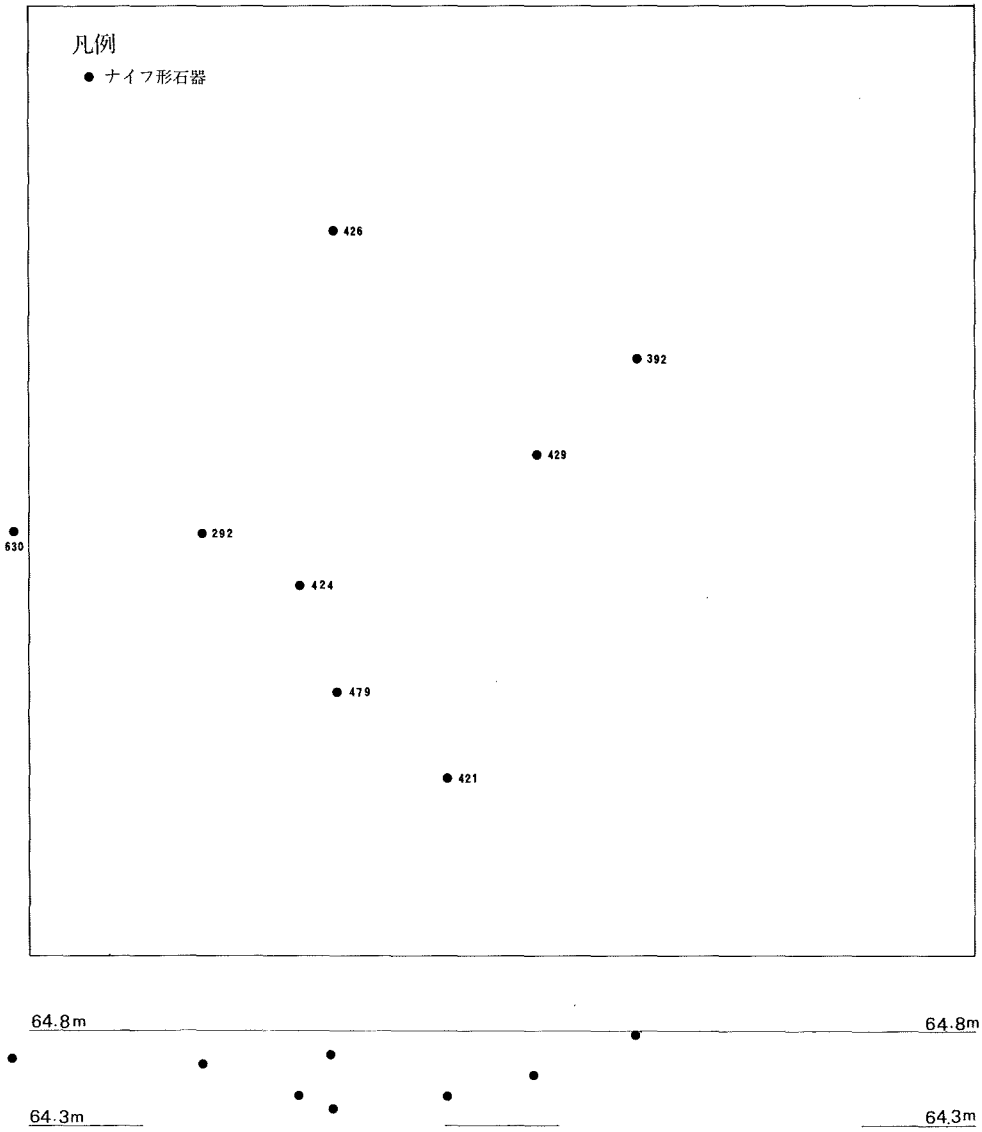



Fig.25　N－15区遺物垂直分布図(12)

第2遺物密集地と第3遺物密集地の中間に位置する。ドットによる遺物取りあげは65点と少ないが8点のナイフ形石器が出土している。石鏃は28点出土。グリッドは道路より上になり，傾斜は北から南へ強くなっている。土層は表土の下はII層が厚く堆積するが，下部の方がわずかに黒くなり，破線で区別できる程度である。なおここからは尖底土器も出土している。3層は礫を多く含むがナイフ形石器も出土している。

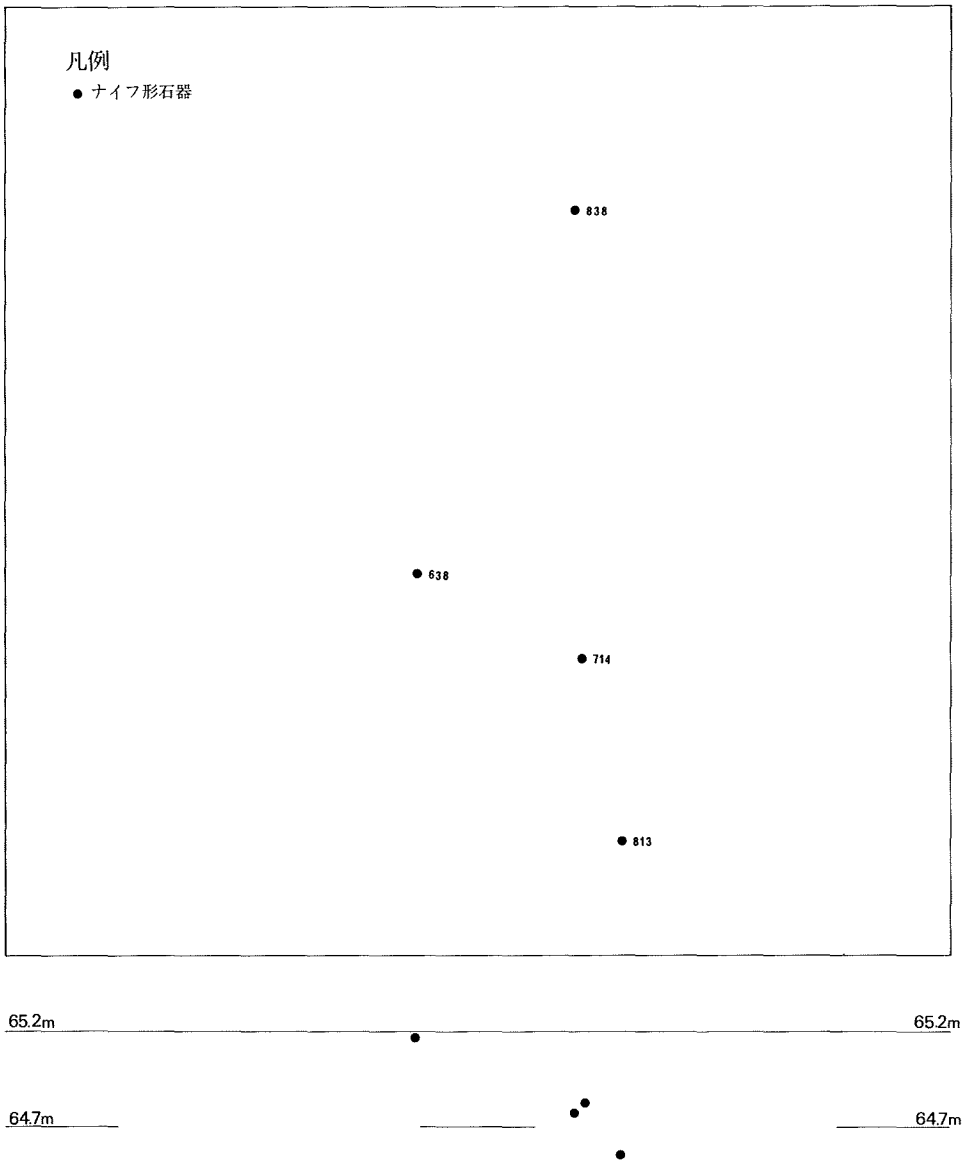



Fig.26　N－16区遺物垂直分布図(13)

第2密集地と第3密集地をつなぐ位置にあり，ドットによる遺物取りあげは78点，先土器時代の遺物は4点出土。土層はN－15区とほぼ同様で，出土内容も似ている。1・2層からは縄文土器もわずかに出土。3層はかたくしまった明褐色の粘質土層であるが，ナイフ形石器や石斧も含む。石鏃は全体から27点出土。

## 2．先土器時代の遺物

**ナイフ形石器**（Fig.28～32・1～77・Tab.1）

先土器時代の石器の中で，一番多くのまとまりを見せたのがナイフ形石器である。石材はすべて黒曜石製。Fig.27の出土分布図では，L－11区の10点を最高に，N－15区・L－2区の8点・K－2区の6点・N－16点の5点と続き，多くの遺物を出土しているグリッドと対応している。

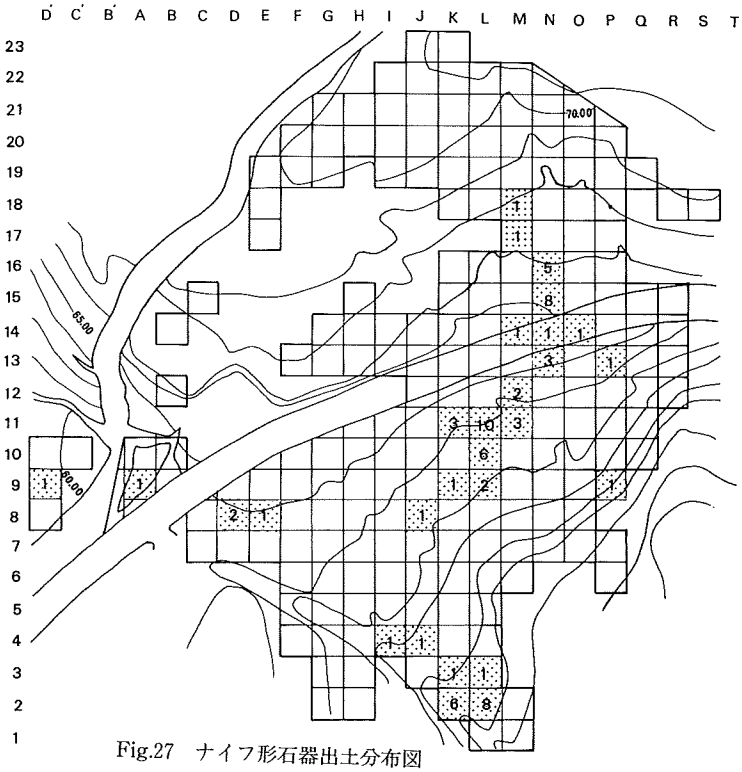



Fig.27　ナイフ形石器出土分布図

ここにあげたナイフ形石器の実測図は77点，大形のナイフ形石器以外は類似した器形別に並べたのであり，厳密な形態分類ではない事を断っておく。以下，特徴ある石器について説明を加える。**1**～**8**は比較的大形のナイフ形石器である。**1**は良質の縞文様入り黒曜石で下部は欠失している。右側縁に刃潰しを施し，左側縁は使用痕が若干残る。**2**はやや厚手の縦長剥片を利用，石質は灰色に近い黒曜石。右側縁上部は刃潰しを施し，他は剥離面が残り，右側縁は使用痕が明瞭に残る。**3**は，良質の黒曜石で全体に湾曲し，左側縁は丁寧に調整され，右側縁が刃部になる。パティナは進み，表面には熱を受けた時できるひび割れ状の文様が見られる。下部を欠失。**5**は湾曲した縦長剥片を利用。左側縁が直線上に刃潰し加工され，下端部から右斜め方向にも刃潰しが施されている。刃部は鋭利に付けられ，使用痕が観察される。**6**はややつまった木葉形で，右側面を弧状に整形し，基部を若干抉ってブランティングしている。**10**は左

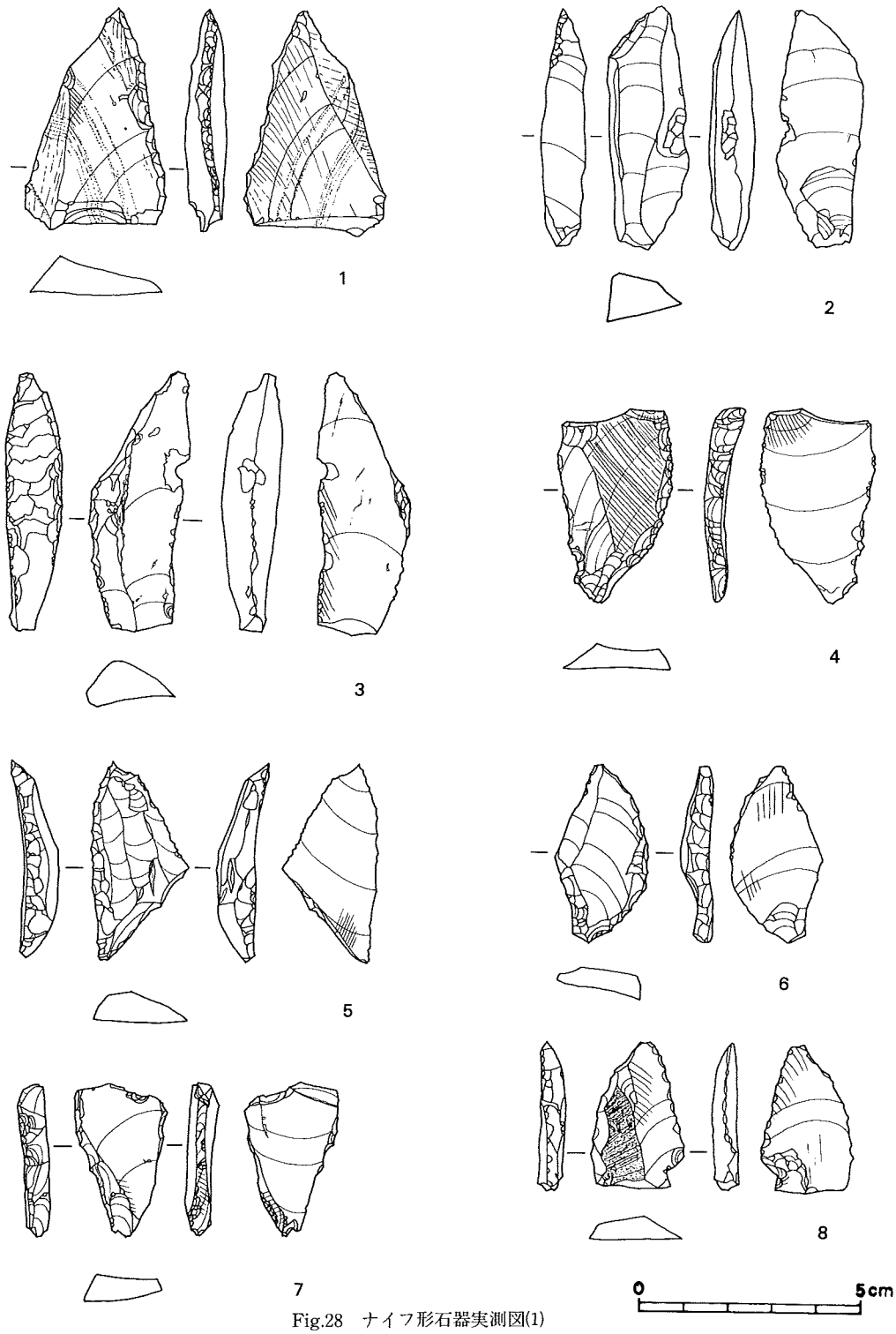



Fig.28　ナイフ形石器実測図(1)

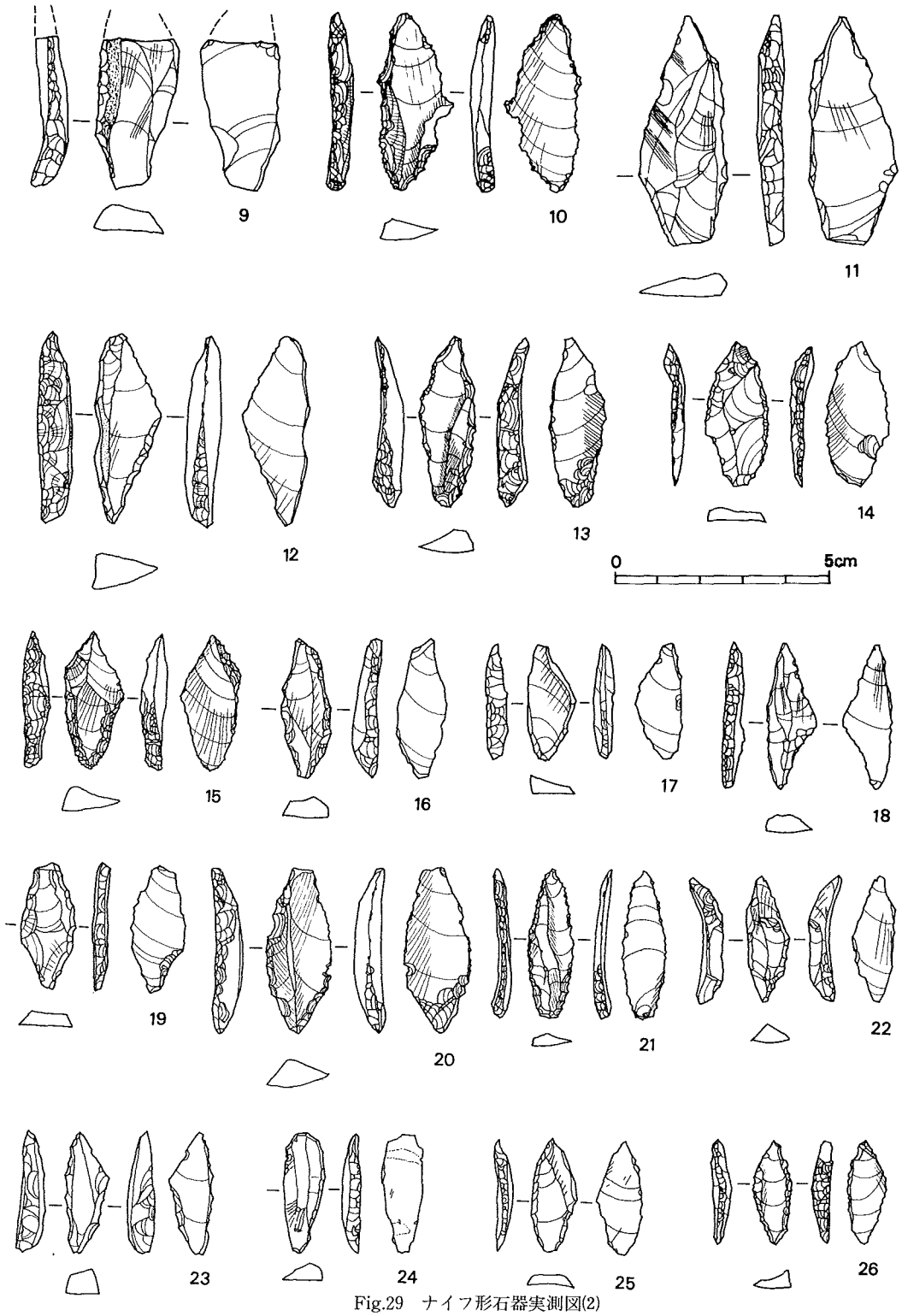



Fig.29　ナイフ形石器実測図(2)

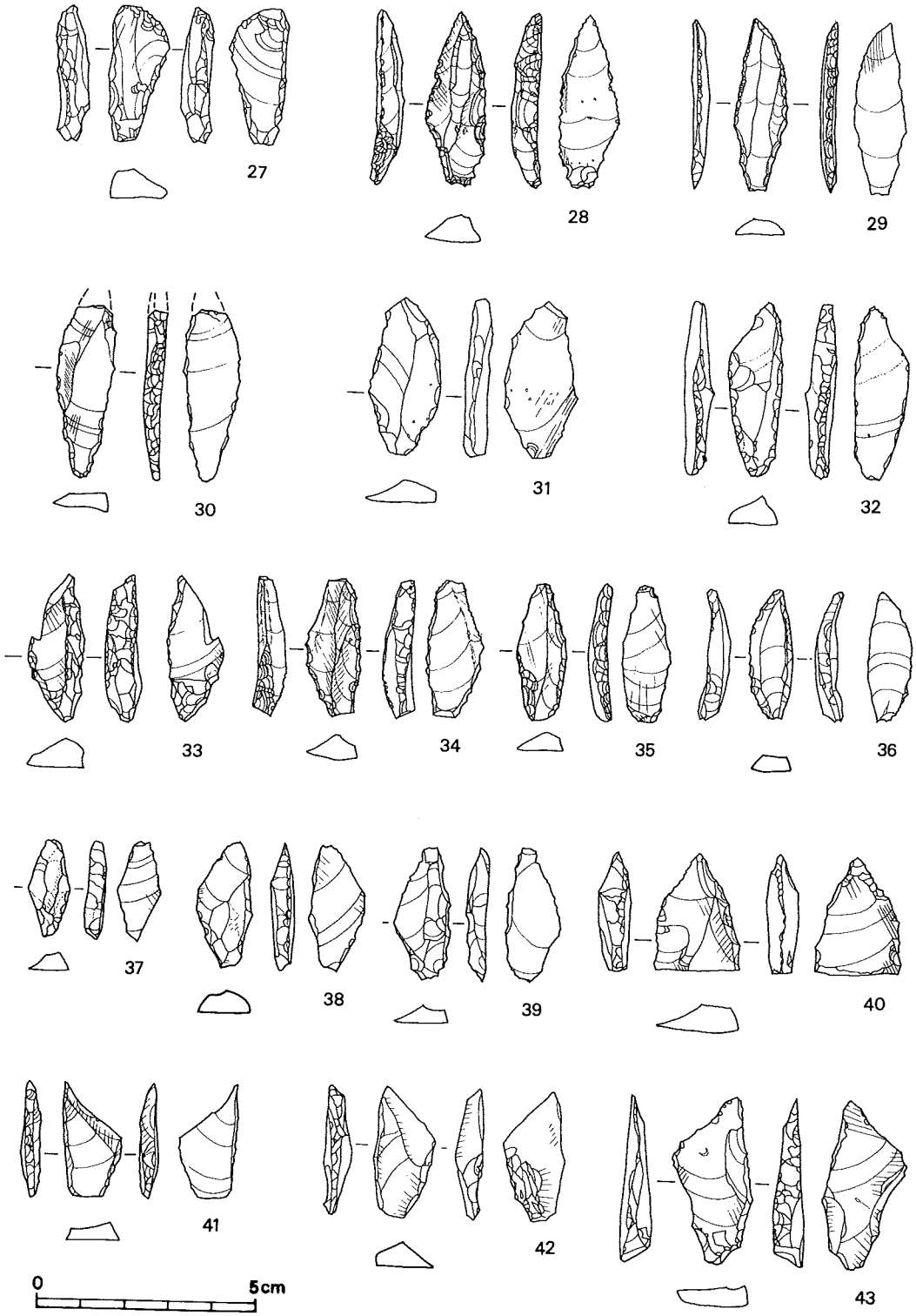



Fig.30　ナイフ形石器実測図(3)

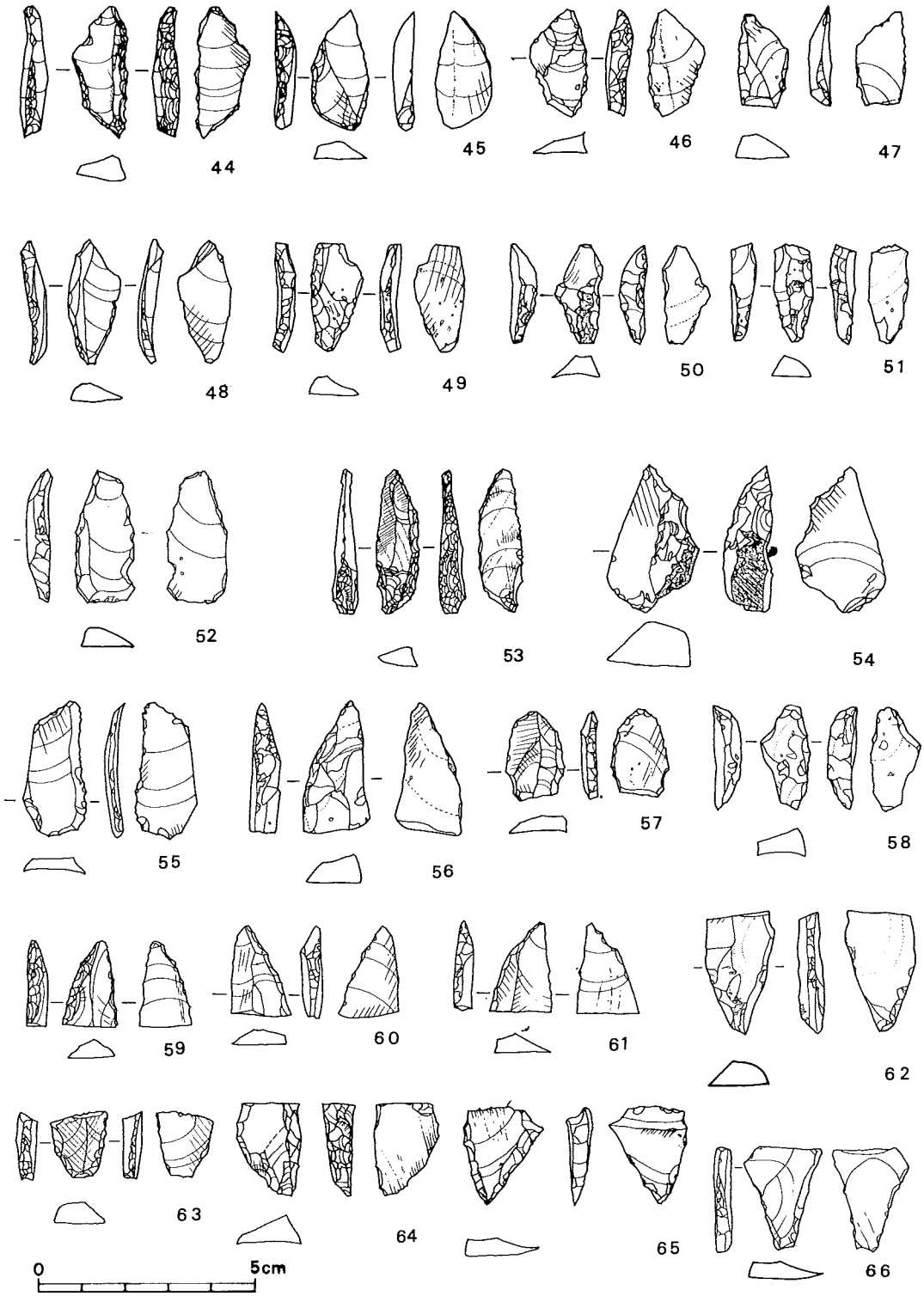



Fig.31　ナイフ形石器実測図(4)

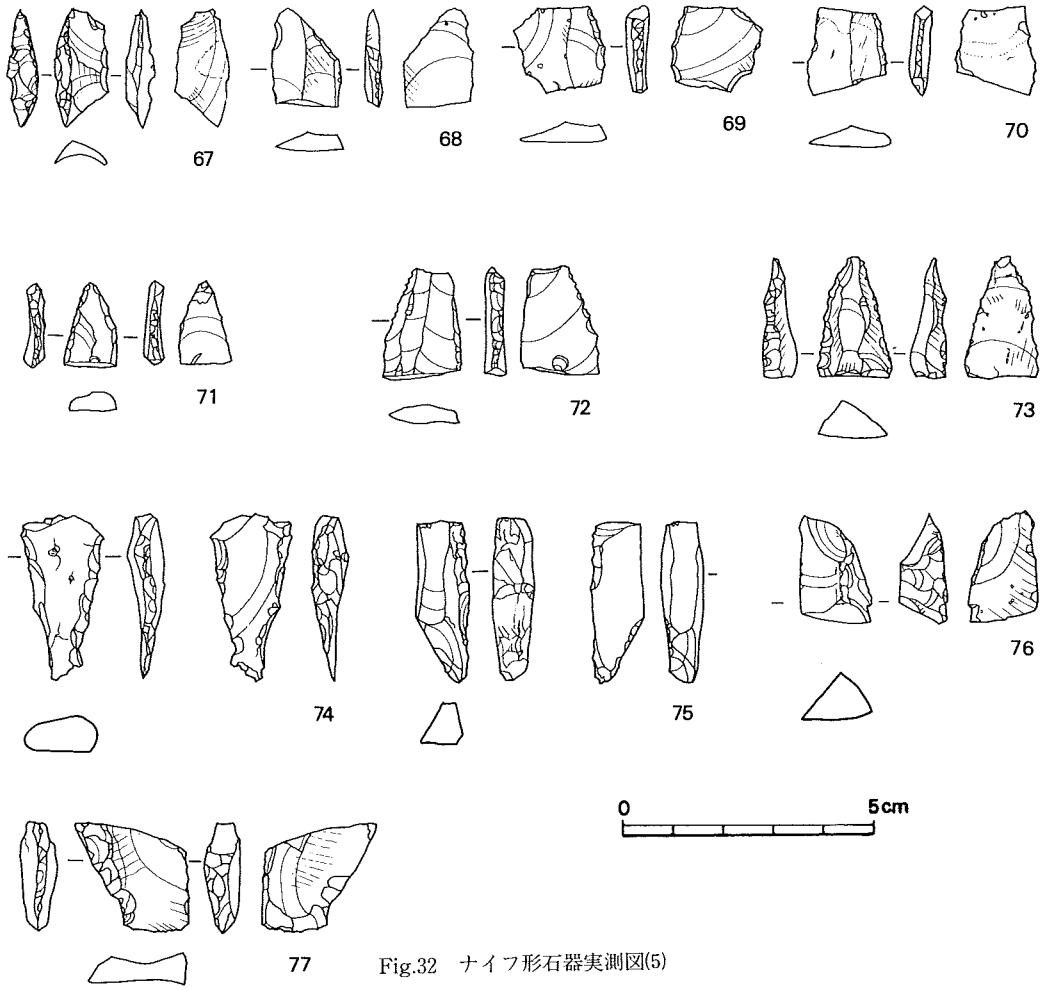



Fig.32　ナイフ形石器実測図(5)

側縁を直線的に調整し，右側縁も半分程調整を加え，上部を刃部としている。この場合，刃部の所で段をつけ，区別している。11は良質の漆黒曜石の薄い縦長剥片を素材としている。右側縁を調整し，上下の両端をやや内側に切り込み，柳葉形に近い形態が見られ，刃部の部分が長くなっている。12は剥離面にわずかな自然面を残す。左面を大きく調整し，全体を三角形状に仕上げ，刃部には明瞭な使用痕が残る。14～26は下端部がやや尖り，刃部が右面に共通したものである。18だけは基部が凹んでいる。19と25は灰色の黒曜石を利用している。27は縦長剥片の両端を切断し，台形状に整え，刃部を上部に付けている。20～40，比較的小形の刃部が左側縁に付けられたものである。形状は柳葉形をしたものが多いが，特に28～29はゆるやかに湾曲部が整えられている。31・32・38は針尾淀姫系の灰青色黒曜石。39は灰色を呈する黒曜石を素材としている。41～47は素材の一端を断ち切り，刃部は斜め一直線に付き，全体的に寸づまりである。42・48は灰色を呈する黒曜石である。52・55は基部が平坦に調整され，縦長に保たれ

TAb. 1　ナイフ形石器計測値一覧表（1）

| Fig番号 | 石　質 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 残存部位 | 登録番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 黒曜石A | 4.84 | 3.11 | 0.74 | 9.9 | AB | 九松D8-2202 | 大形で下部を欠失している。 |
| 2 | 〃　C | 5.45 | 1.65 | 1.08 | 9.1 | ABC | 〃 D9-169 | 刃部は長い |
| 3 | 〃　〃 | 5.72 | 2.09 | 1.10 | 10.7 | AB | 〃 M2-799 | 熱を受けている。 |
| 4 | 〃　〃 | 4.34 | 2.50 | 0.60 | 6.5 | AB | 〃 M11-1 | 刃こぼれ顕著 |
| 5 | 〃　〃 | 4.41 | 2.20 | 1.82 | 5.0 | ABC | 〃 L2-760 | |
| 6 | 〃　〃 | 3.93 | 2.06 | 0.51 | 3.8 | ABC | 〃 L10-1598 | |
| 7 | 〃　〃 | 3.42 | 2.08 | 0.54 | 4.1 | BC | 〃 I 7-H | |
| 8 | 〃　〃 | 3.24 | 2.08 | 0.54 | 3.2 | AB | 〃 M11-320 | 刃こぼれ顕著 |
| 9 | 〃　〃 | 3.53 | 1.80 | 0.51 | 3.6 | BC | 〃 K11-2031 | |
| 10 | 〃　〃 | 4.07 | 1.72 | 0.54 | 2.7 | ABC | 〃 H | |
| 11 | 〃　〃 | 5.32 | 2.05 | 0.52 | 5.3 | ABC | 〃 L9-H | 完形品で良質黒曜石使用 |
| 12 | 〃　〃 | 4.40 | 1.55 | 0.77 | 4.0 | ABC | 〃 H5-714 | |
| 13 | 〃　〃 | 3.95 | 1.37 | 0.68 | 2.8 | ABC | 〃 L2-841 | |
| 14 | 〃　〃 | 3.32 | 1.52 | 0.42 | 1.3 | ABC | 〃 L10-918 | |
| 15 | 〃　〃 | 3.15 | 1.34 | 0.54 | 2.0 | ABC | 〃 A9-1269 | |
| 16 | 〃　〃 | 3.14 | 1.16 | 0.61 | 1.7 | ABC | 〃 L2-585 | |
| 17 | 〃　〃 | 2.64 | 1.04 | 0.32 | 1.0 | ABC | 〃 K11-2036 | |
| 18 | 〃　〃 | 3.32 | 1.10 | 0.43 | 1.1 | ABC | 〃 K2-431 | 刃こぼれ顕著 |
| 19 | 〃　C | 2.87 | 1.21 | 0.29 | 1.0 | ABC | 〃 L11-2809 | |
| 20 | 〃　A | 3.88 | 1.52 | 0.74 | 3.2 | ABC | 〃 H | 刃こぼれ顕著 |
| 21 | 〃　B | 3.43 | 1.02 | 0.41 | 1.0 | ABC | 〃 P19-H | |
| 22 | 〃　A | 2.86 | 1.87 | 0.65 | 1.0 | ABC | 〃 K2-108 | |
| 23 | 〃　C | 2.78 | 0.99 | 0.52 | 1.3 | ABC | 〃 I 4-777 | |
| 24 | 〃　A | 2.75 | 0.97 | 0.35 | 0.8 | ABC | 〃 M16-819 | |
| 25 | 〃　B | 2.57 | 0.96 | 0.34 | 0.7 | ABC | 〃 D'9-725 | |
| 26 | 〃　A | 2.36 | 0.90 | 0.35 | 0.6 | ABC | 〃 M18-3 | |
| 27 | 〃　〃 | 3.05 | 1.28 | 0.65 | 2.4 | ABC | 〃 L11-2370 | |
| 28 | 〃　〃 | 3.98 | 1.33 | 0.69 | 2.7 | ABC | 〃 L9-I | |
| 29 | 〃　〃 | 3.93 | 1.14 | 0.34 | 1.5 | ABC | 〃 N16-638 | |
| 30 | 〃　〃 | 3.83 | 1.26 | 0.51 | 2.3 | BC | 〃 K9-H | |
| 31 | 〃　B | 3.57 | 1.60 | 0.47 | 2.5 | ABC | 〃 K2-484 | |
| 32 | 〃　〃 | 3.93 | 1.22 | 0.57 | 2.2 | ABC | 〃 J 8-23 | |
| 33 | 〃　A | 3.30 | 1.74 | 0.70 | 2.4 | ABC | 〃 L2-772 | |
| 34 | 〃　〃 | 3.07 | 1.30 | 0.69 | 2.3 | AB | 〃 M12-729 | |
| 35 | 〃　〃 | 3.11 | 1.11 | 0.53 | 1.3 | ABC | 〃 B1-H | |
| 36 | 〃　〃 | 2.94 | 0.92 | 0.54 | 1.1 | ABC | 〃 N15-479 | |
| 37 | 〃　〃 | 2.20 | 0.96 | 0.39 | 0.7 | AB | 〃 N15-292 | |
| 38 | 〃　B | 2.33 | 1.25 | 0.52 | 1.8 | ABC | 〃 K2-774 | |
| 39 | 〃　C | 3.01 | 1.29 | 0.42 | 1.3 | ABC | 〃 N15-426 | |

(2)

| Fig番号 | 石　質 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 残存部位 | 登録番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 40 | 黒曜石A | 2.61 | 1.92 | 0.65 | 2.9 | A | L2-739 | |
| 41 | 〃　〃 | 2.58 | 1.28 | 0.38 | 1.1 | AB | N15-421 | 切り出し状 |
| 42 | 〃　C | 2.95 | 1.36 | 0.51 | 1.7 | ABC | N15-392 | 〃 |
| 43 | 〃　A | 3.79 | 1.77 | 1.57 | 3.0 | ABC | L10-917 | 〃 |
| 44 | 〃　〃 | 2.98 | 1.22 | 0.60 | 1.8 | ABC | N16-714 | |
| 45 | 〃　〃 | 2.71 | 1.27 | 0.43 | 1.4 | AB | O14-227 | |
| 46 | 〃　〃 | 2.38 | 1.26 | 0.41 | 1.4 | AB | E8-128 | |
| 47 | 〃　B | 2.21 | 1.12 | 0.51 | 1.1 | AB | N15-424 | |
| 48 | 〃　C | 2.73 | 1.16 | 0.43 | 1.0 | ABC | L11-1286 | |
| 49 | 〃　B | 2.42 | 1.17 | 0.44 | 1.2 | B | N16-838 | |
| 50 | 〃　A | 2.24 | 1.04 | 0.56 | 0.8 | ABC | L11-469 | 下部に自然面を残す |
| 51 | 〃　B | 2.21 | 0.88 | 0.51 | 1.0 | AB | L11-1392 | |
| 52 | 〃　〃 | 3.04 | 1.38 | 0.55 | 2.0 | ABC | M11-319 | |
| 53 | 〃　A | 3.31 | 1.01 | 0.52 | 1.6 | ABC | M14-1589 | 刃こぼれ顕著 |
| 54 | 〃　〃 | 3.32 | 1.86 | 1.03 | 4.8 | ABC | K2-592 | 基部に自然面を残す |
| 55 | 〃　〃 | 2.98 | 1.41 | 0.35 | 1.2 | AB | M12-818 | |
| 56 | 〃　B | 2.96 | 1.52 | 0.66 | 2.6 | BC | D'8-668 | |
| 57 | 〃　A | 1.98 | 1.39 | 1.36 | 0.9 | AB | L2-164 | |
| 58 | 〃　B | 2.31 | 1.05 | 0.57 | 1.2 | ABC | L2-629 | |
| 59 | 〃　A | 1.99 | 1.21 | 0.49 | 1.0 | AB | N15-630 | |
| 60 | 〃　B | 2.28 | 1.26 | 0.95 | 0.9 | AB | L2-700 | |
| 61 | 〃　A | 2.19 | 1.42 | 0.42 | 0.9 | A | M12-108 | |
| 62 | 〃　〃 | 2.67 | 1.68 | 0.51 | 2.3 | BC | L11-2573 | |
| 63 | 〃　〃 | 1.43 | 1.26 | 0.41 | 0.9 | B | N15-429 | |
| 64 | 〃　〃 | 2.21 | 1.49 | 0.72 | 2.0 | AB | N13-381 | |
| 65 | 〃　B | 2.21 | 1.77 | 0.44 | 1.5 | BC | N13-325 | |
| 66 | 〃　〃 | 2.37 | 1.63 | 0.37 | 1.6 | A | K2-753 | |
| 67 | 〃　A | 2.30 | 0.99 | 0.47 | 0.7 | ABC | K11-2046 | |
| 68 | 〃　C | 2.09 | 1.43 | 0.33 | 0.5 | AB | L3-249 | |
| 69 | 〃　〃 | 1.65 | 1.61 | 0.39 | 1.2 | B | L11-H | |
| 70 | 〃　A | 1.77 | 1.69 | 0.40 | 1.0 | B | K3-813 | |
| 71 | 〃　〃 | 1.63 | 1.00 | 0.33 | 0.5 | A | N16-813 | |
| 72 | 〃　〃 | 2.13 | 1.52 | 0.39 | 1.3 | B | N14-1667 | |
| 73 | 〃　〃 | 2.35 | 1.48 | 0.64 | 1.6 | AB | L11-1743 | |
| 74 | 〃　C | 3.19 | 1.51 | 0.71 | 2.8 | AB | L10-553 | |
| 75 | 〃　B | 3.18 | 0.99 | 0.82 | 2.9 | BC | L10-1457 | |
| 76 | 〃　A | 2.54 | 1.42 | 0.91 | 2.3 | A | J4-不明 | |
| 77 | 〃　C | 2.96 | 2.90 | 0.50 | 2.3 | ABC | P13-H | |

ている。**54**は厚みのある短い剥片を利用，基部に自然面をもつ。右側縁は粗いタッチで仕上げ，頂部は細いブランティングで仕上げ，左側縁は全体を刃部として使用している。**56**～**77**は刃部が残り下部を欠いたものと刃部を欠き下端部が残ったものである。

**台形石器**（Fig.33・**78**～**80**）

ナイフ形石器と同じ範疇に考えられている台形石器は３例の出土があった。**78**はM－10区からの出土。長さ3.5cm・幅2.5cm・厚さ１cm，横縞文様入り，良質の黒曜石を素材としている。全体の剥離面のパティナは進んでいる。刃部は主軸に対して右上りに斜行する縦長台形状を呈し，片面を欠失しているが，鋭く尖っている。主要剥離面は数回の剥離痕が残っている。両側面は刃潰し加工が施され，整えられている。**79**はM－12区出土で良質の漆黒の黒曜石を素材とした厚みのある剥小片を利用している。長さ4.2cm，幅２cm，厚さ１cm，両側縁は荒いタッチで剥離され，その縁辺部は，さらに丁寧なブランティングが行われている。刃部はうすく剥がれ，主要剥離面はかなり多くの剥離が行われ，ゆるく湾曲している。**80**はL－１区出土。長さ３cm，幅1.4cm，厚さ0.9cm。主要剥離面は１回で剥がれている。両側縁は丁寧に調整され，刃部は薄く剥離されている。

このような刃部が石器の主軸と直交する縦長台形を呈するのは壱岐原の辻遺跡や，県北の日ノ岳遺跡をはじめ県下の各地の遺跡で出土している。また，佐賀，熊本県においても確認されており，西北九州の広い範囲に分布している，いわゆる「原の辻型」「日ノ岳型」「枝去木型」と呼ばれるものである。

**剥片尖頭器**（Fig.33・**81**・**82**）

**81**は表面採集によって得られたものである。長さ3.8cm，幅２cm，厚さ1.1cm，石質は灰青色を呈する。針尾，もしくは淀姫産系の横剥ぎの黒曜石剥片を利用している。基部は両側から抉るように調整を加え，中央に稜線をもち断面は三角形を呈している。表面には一部自然面を残し，頂部は一部欠失している。裏面は一回で剥離されている。稲原分類（稲原1986）によれば，IIIｂ型に属するものである。**82**はL－10区の表土層からの出土で，石材は**81**と同質。横剥ぎ剥片を利用，全体を丁寧に剥離し，基部を若干抉って木葉形に仕上げているが，縦半分に割れ，欠失している。長さ4.4cm，厚さ0.9cmを計る。

松山A遺跡における剥片尖頭器は２点にとどまり，明確な層からの出土はなかった。また，他の遺跡からの出土例と比較してみると，小型の部類に属する。

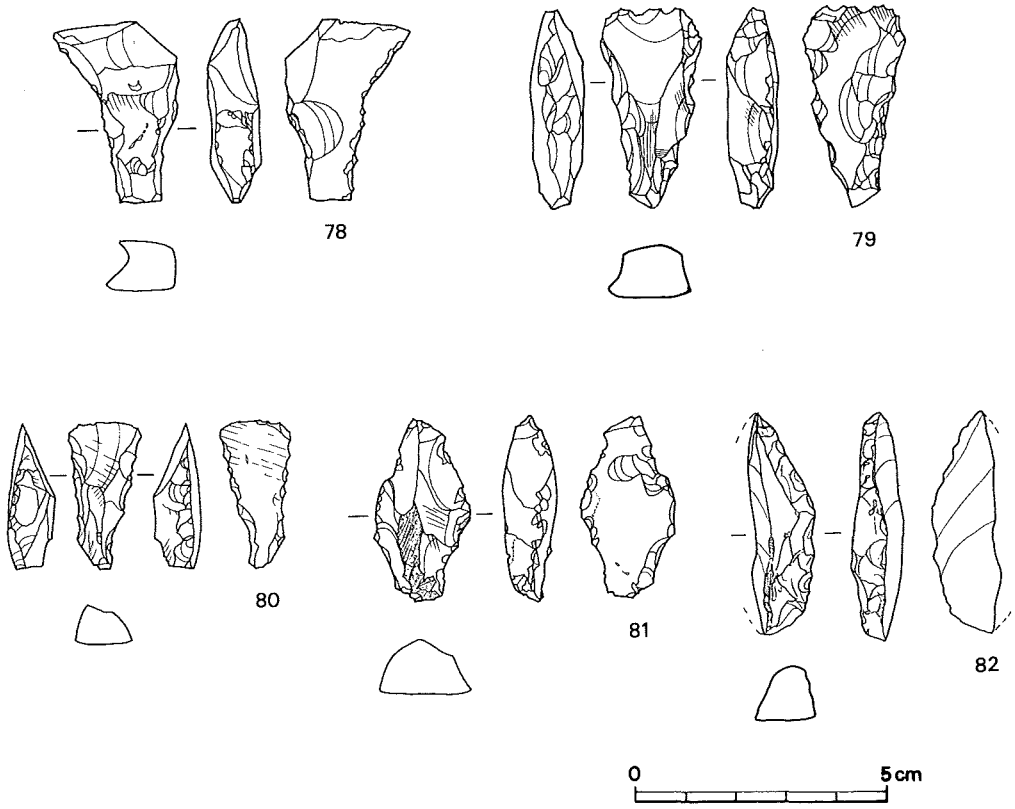



Fig.33　台形石器及び剥片尖頭器実測図

**石核及び細石刃核**（Fig. 35・**83**～**88**）

**83**は表面採集の漆黒色。良質の黒曜石を利用，平坦面を作り，上から打撃を加え，縦長の剥片をとっている。右面だけは下から剥がれている。**84**～**88**は細石刃核，**84**はＬ－10区，２層出土の舟底形を呈する細石核。上部に数回の平坦剥離が加えられ，斜行している。両側面部を調整剥離し，舟底状に作り出している。細石刃剥離痕は５条を残す。**85**は横剥ぎの剥片を利用。背面は４条の剥離痕が見られ，わずかに自然面を残す。左面は側縁部に調整剥離を施され，舟底状を作り出しているが，右面は１回の加撃による剥離面だけで扁平である。細石刃剥離痕は４条の剥離が認められるが，その後に，さらに２回の加撃があり，不整形な石刃が剥がれている。**86**はＦ－８区表土層出土。剥片の一部を左面に残し，側縁は剥離調整が行われている。上部平坦部は斜行し，細石刃剥離痕は５条が認められる。**87**はＭ－12区２層出土。側面は交互に１回で剥離され，角状をなす。細石刃剥離痕が３条認められ，再生細石核であることを窺わせる。**88**は舟底状の一部を残し，大半が欠失しているが，細石刃剥離痕は４条が認められる。この石器はあるいは再生細石核かもしれない。

**細石刃**（Fig.36～38・**89**～**201**・Tab. 2）

実測図には113点を示したが，全体の出土数は150点をこえる。細石刃の出土をグリッドで見てみると，Ｄ－８区，Ｉ－５区の周辺に特に多く，南側の縁辺部に集中している様子が観察される。形状は89～106に見られるように，幅が１cmから，これに近いものと，0.5cm前後のものが多い。いずれも稜線を１本，もしくは２本もつものがほとんどで，両側縁が平行し，尾部が横に切断されているものと剥離された状態のまま尖るものとに区別される。

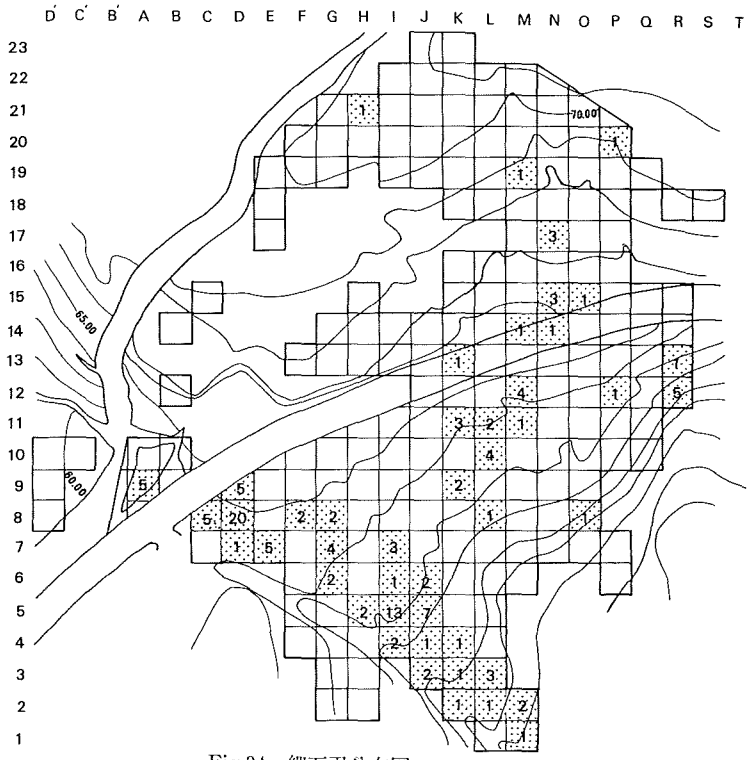


Fig.34　細石刃分布図

**尖頭器**（Fig.40～45・**202**～**252**・Tab. 3）

尖頭器は総数55点の出土があった。ほとんどがサヌカイトを石材としている。出土区はＫ・Ｌ－10・11に集中がみられ，Ｎ－16区にも４点の出土がある。ただ，

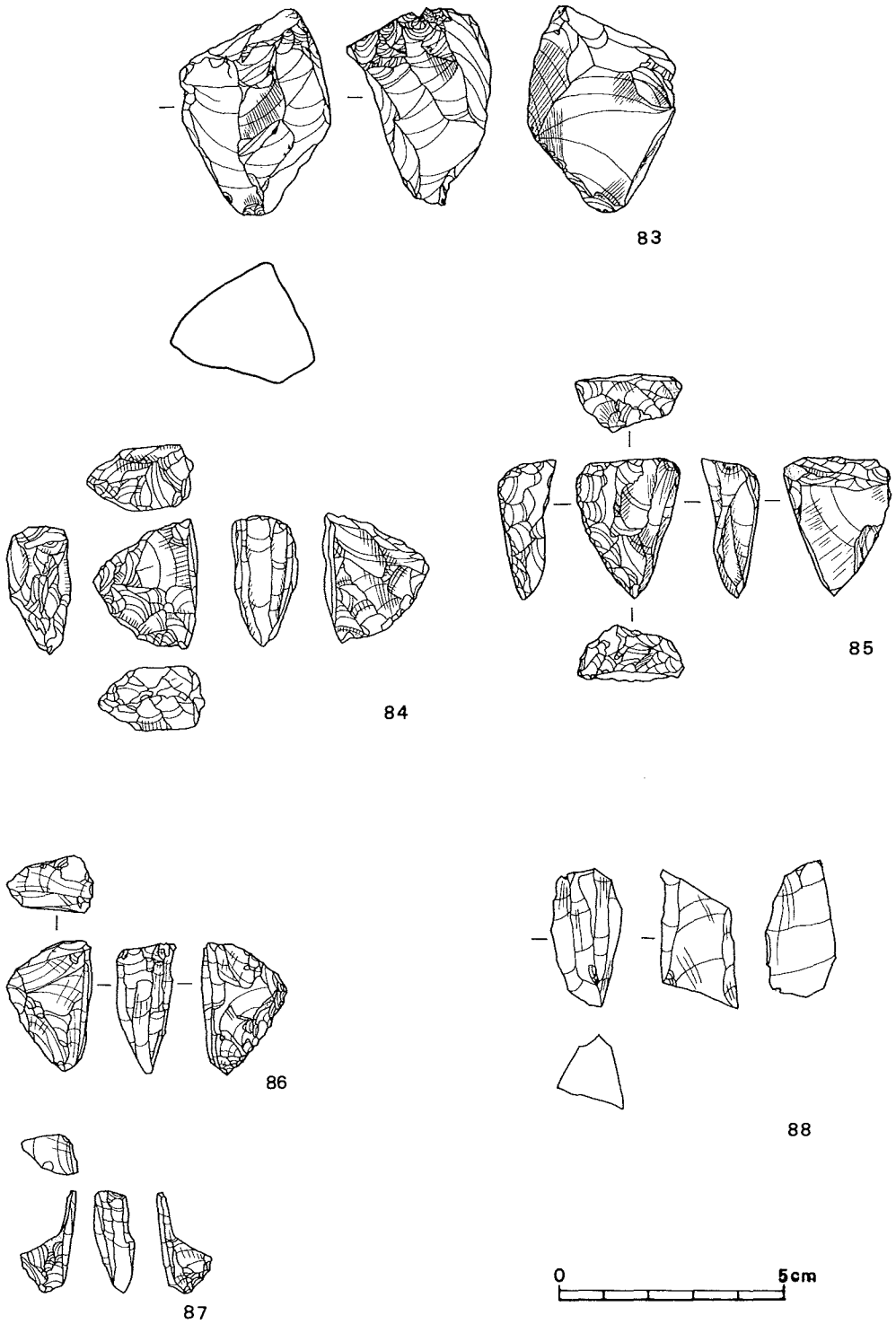



Fig.35　細石核実測図

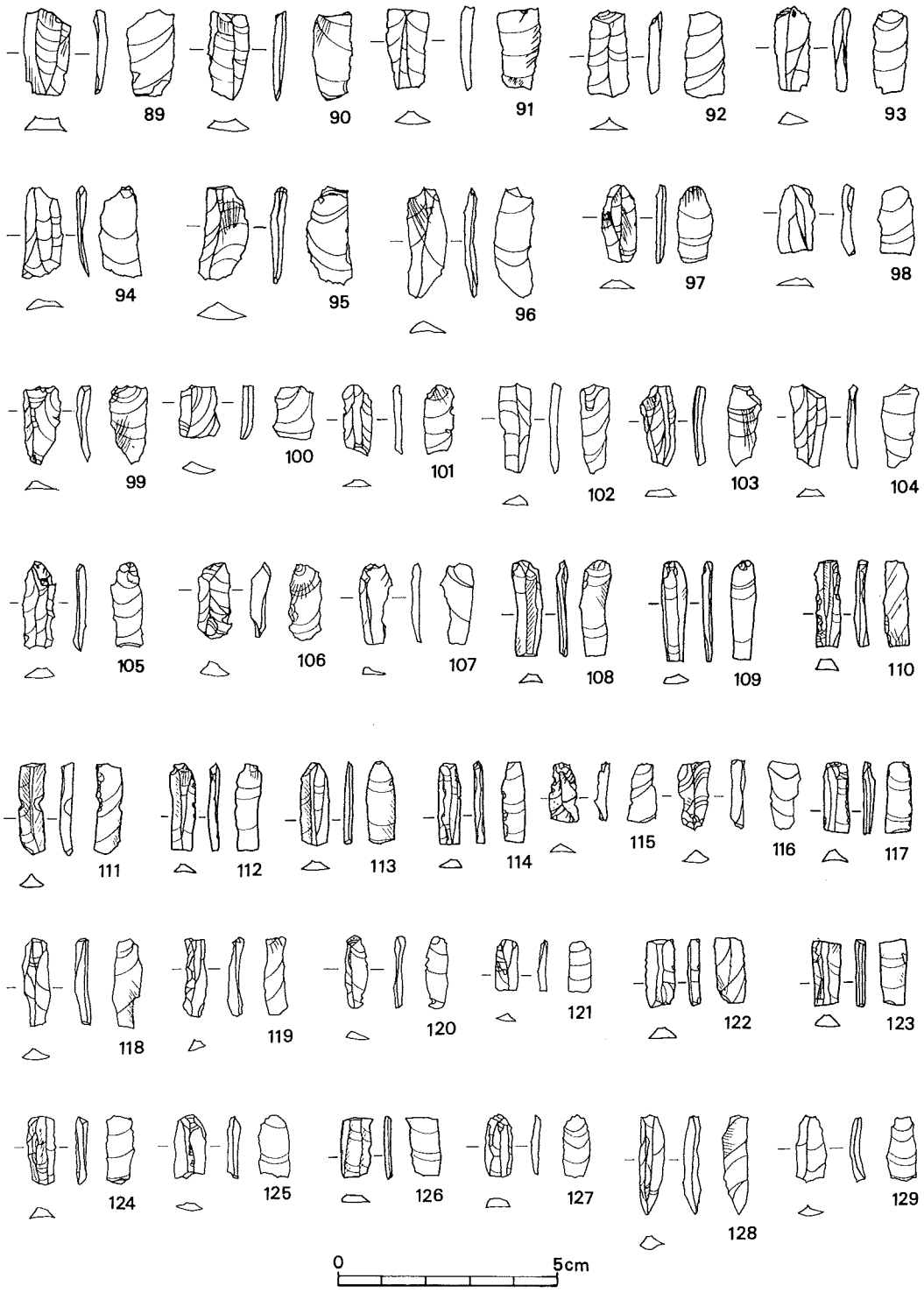



Fig.36　細石刃実測図(1)

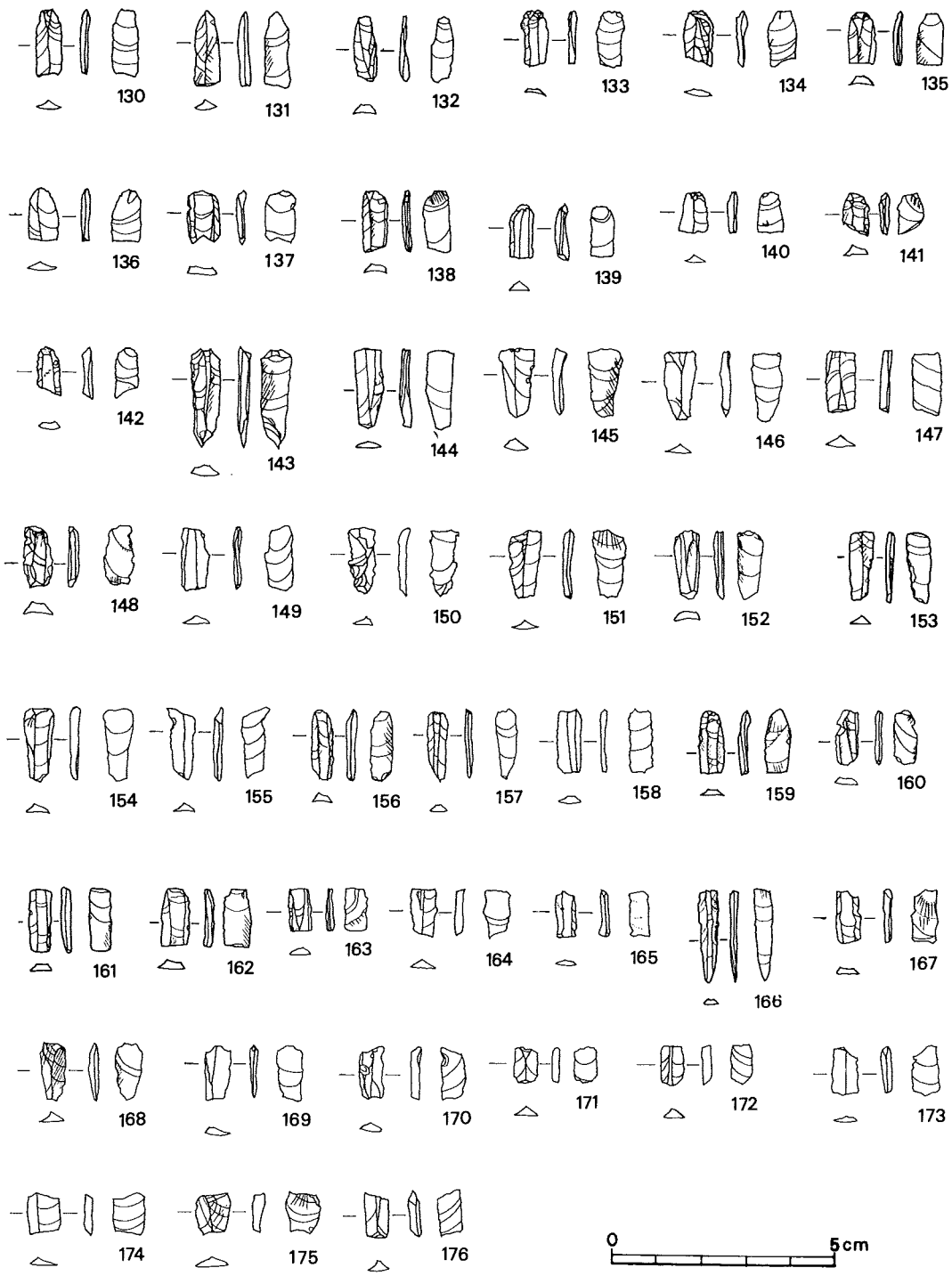



Fig.37　細石刃実測図(2)

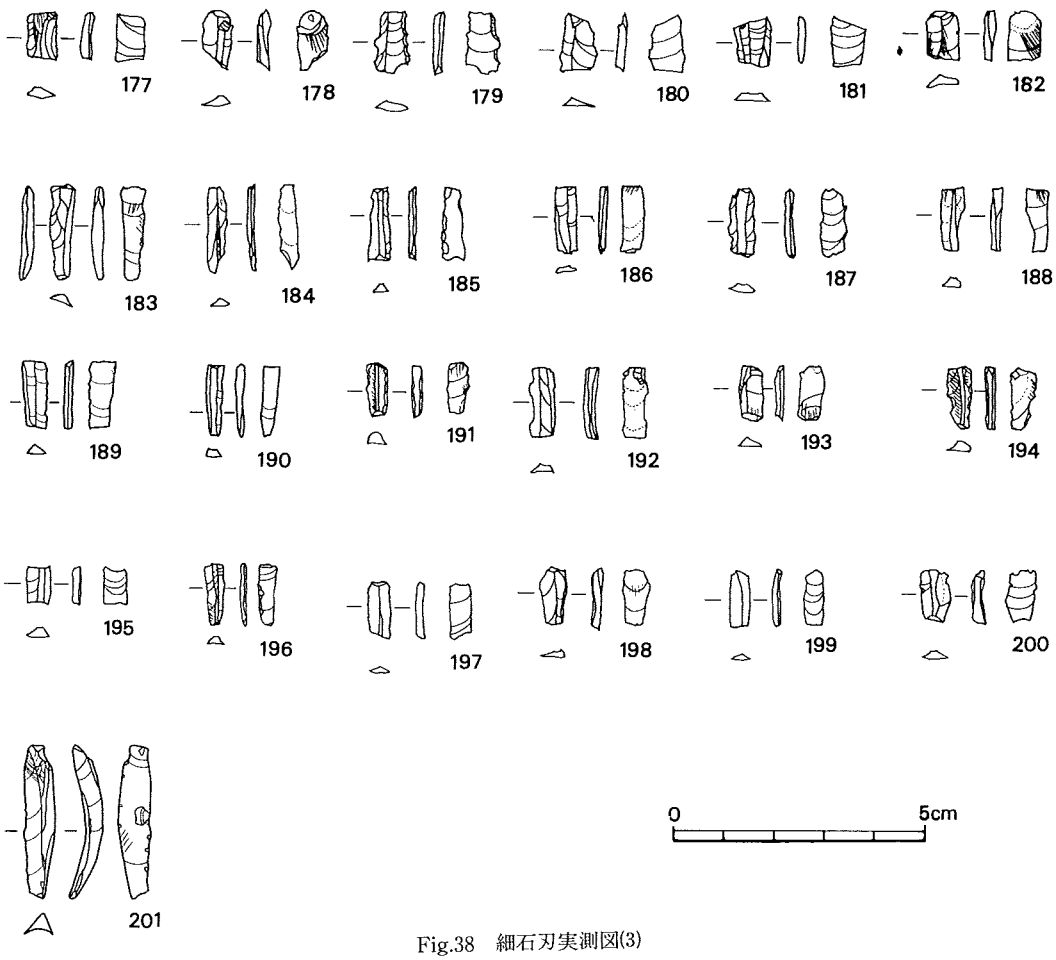



Fig.38　細石刃実測図(3)

TAb. 2　細石刃計測値一覧表(1)

| No. | 石　質 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 残存部位 | 登録番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 89 | 黒曜石A | 1.95 | 1.05 | 0.30 | 0.55 | | 九松A9-1536 | 刃こぼれあり。 |
| 90 | 〃　〃 | 1.97 | 0.91 | 0.76 | 0.5 | | 〃 K3-1081 | 〃 |
| 91 | 〃　C | 1.79 | 0.94 | 0.32 | 0.5 | | 〃 L3-44 | 〃 |
| 92 | 〃　A | 1.80 | 0.89 | 0.34 | 0.5 | | 〃 L3-490 | 〃 |
| 93 | 〃　C | 1.86 | 0.80 | 0.51 | 0.35 | | 〃 K2-14 | |
| 94 | 〃　A | 2.00 | 0.80 | 0.21 | 0.25 | | 〃 M13-388-2 | |
| 95 | 〃　〃 | 2.13 | 1.00 | 0.84 | 0.6 | | 〃 I5-236 | |
| 96 | 〃　〃 | 2.45 | 0.88 | 0.23 | 0.35 | | 〃 N14-1732 | |
| 97 | 〃　〃 | 1.72 | 0.80 | 0.20 | 0.3 | | 〃 N15-914 | |
| 98 | 〃　〃 | 1.50 | 0.74 | 0.25 | 0.25 | | 〃 K4-121 | |
| 99 | 〃　〃 | 1.71 | 0.85 | 0.27 | 0.25 | | 〃 K11-1037 | |
| 100 | 〃　〃 | 1.16 | 0.92 | 0.24 | 0.25 | | 〃 I7-29 | |
| 101 | 〃　〃 | 1.53 | 0.60 | 0.17 | 0.2 | | 〃 I4-281 | |
| 102 | 〃　〃 | 1.98 | 0.69 | 0.19 | 0.25 | | 〃 A9-H | |
| 103 | 〃　〃 | 1.78 | 0.76 | 0.77 | 0.35 | | 〃 E7-155 | |
| 104 | 〃　〃 | 1.80 | 0.74 | 0.72 | 0.25 | | 〃 K3-241 | |
| 105 | 〃　〃 | 1.92 | 0.71 | 0.22 | 0.3 | | 〃 G6-H | |
| 106 | 〃　〃 | 1.64 | 0.71 | 0.50 | 0.3 | | 〃 L10-H | |
| 107 | 〃　〃 | 1.87 | 0.71 | 0.21 | 0.15 | | 〃 E7-318 | |
| 108 | 〃　〃 | 2.15 | 0.63 | 0.18 | 0.2 | | 〃 C8-1172 | |
| 109 | 〃　〃 | 2.23 | 0.52 | 0.21 | 0.2 | | 〃 G7-1085 | |
| 110 | 〃　〃 | 1.91 | 0.55 | 0.26 | 0.3 | | 〃 A9-152 | |
| 111 | 〃　〃 | 2.03 | 0.52 | 0.22 | 0.25 | | 〃 K9-304 | |
| 112 | 〃　〃 | 1.93 | 0.57 | 0.15 | 0.25 | | 〃 G7-1252 | |
| 113 | 〃　〃 | 1.85 | 0.61 | 0.16 | 0.2 | | 〃 K9-413 | |
| 114 | 〃　〃 | 1.81 | 0.46 | 0.17 | 0.2 | | 〃 N15-360 | |
| 115 | 〃　〃 | 1.65 | 0.54 | 0.20 | 0.2 | | 〃 J5-H | |
| 116 | 〃　〃 | 1.48 | 0.65 | 0.25 | 0.25 | | 〃 M11-H | |
| 117 | 〃　〃 | 1.59 | 0.53 | 0.23 | 0.2 | | 〃 D8-48 | |
| 118 | 〃　〃 | 1.95 | 0.54 | 0.28 | 0.3 | | 〃 L11-167 | |
| 119 | 〃　〃 | 1.72 | 0.45 | 0.28 | 0.25 | | 〃 G6-7 | |
| 120 | 〃　〃 | 1.60 | 0.50 | 0.18 | 0.15 | | 〃 F8-95 | |
| 121 | 〃　〃 | 1.12 | 0.53 | 0.19 | 0.1 | | 〃 I5-H | |
| 122 | 〃　〃 | 1.46 | 0.63 | 0.22 | 0.3 | | 〃 D8-1157 | |
| 123 | 〃　〃 | 1.45 | 0.63 | 0.19 | 0.25 | | 〃 A9-H | |
| 124 | 〃　〃 | 1.51 | 0.64 | 0.21 | 0.2 | | 〃 M2-H | |
| 125 | 〃　〃 | 1.35 | 0.65 | 0.19 | 0.25 | | 〃 L8-890 | |
| 126 | 〃　〃 | 1.32 | 0.66 | 0.12 | 0.2 | | 〃 L11-1433 | |
| 127 | 〃　〃 | 1.37 | 0.62 | 0.21 | 0.25 | | 〃 E7-282 | |

| No. | 石　質 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 残存部位 | 登録番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 128 | 黒曜石A | 1.52 | 0.61 | 0.20 | 0.2 | | 九松I5-H | |
| 129 | 〃 C | 1.39 | 0.62 | 0.21 | 0.25 | | 〃 L10-H | |
| 130 | 〃 A | 1.40 | 0.60 | 0.24 | 0.25 | | 〃 P7-150 | |
| 131 | 〃 〃 | 1.62 | 0.56 | 0.21 | 0.15 | | 〃 M19-86 | |
| 132 | 〃 〃 | 1.44 | 0.51 | 0.19 | 0.15 | | 〃 M13-1937 | |
| 133 | 〃 〃 | 1.19 | 0.50 | 0.14 | 0.2 | | 〃 H | |
| 134 | 〃 〃 | 1.13 | 0.53 | 0.19 | 0.15 | | 〃 E7-290 | |
| 135 | 〃 〃 | 1.13 | 0.57 | 0.16 | 0.2 | | 〃 D8-519 | |
| 136 | 〃 〃 | 1.21 | 0.67 | 0.20 | 0.2 | | 〃 K13-383 | |
| 137 | 〃 〃 | 1.14 | 0.77 | 0.18 | 0.1 | | 〃 I7-H | |
| 138 | 〃 〃 | 1.31 | 0.55 | 0.16 | 0.2 | | 〃 I5-375 | |
| 139 | 〃 〃 | 1.13 | 0.52 | 0.19 | 0.25 | | 〃 J5-93 | |
| 140 | 〃 〃 | 0.87 | 0.53 | 0.66 | 0.1 | | 〃 L11-2125 | |
| 141 | 〃 〃 | 0.95 | 0.55 | 0.18 | 0.1 | | 〃 D8-2891 | |
| 142 | 〃 〃 | 1.06 | 0.53 | 0.16 | 0.2 | | 〃 N18-4 | |
| 143 | 〃 〃 | 2.15 | 0.61 | 0.23 | 0.25 | | 〃 N17-373 | |
| 144 | 〃 〃 | 1.72 | 0.59 | 0.22 | 0.275 | | 〃 D8-53 | |
| 145 | 〃 〃 | 1.45 | 0.74 | 0.24 | 0.25 | | 〃 H5-148 | |
| 146 | 〃 〃 | 1.47 | 0.63 | 0.21 | 0.25 | | 〃 M1-143 | |
| 147 | 〃 〃 | 1.36 | 0.66 | 0.24 | 0.25 | | 〃 D8-2275 | |
| 148 | 〃 〃 | 1.34 | 0.67 | 0.22 | 0.25 | | 〃 M1-29 | |
| 149 | 〃 〃 | 1.39 | 0.59 | 0.17 | 0.25 | | 〃 D9-H | |
| 150 | 〃 〃 | 1.42 | 0.52 | 0.16 | 0.2 | | 〃 I5-25 | |
| 151 | 〃 〃 | 1.49 | 0.72 | 0.17 | 0.15 | | 〃 M12-366 | |
| 152 | 〃 〃 | 1.51 | 0.52 | 0.16 | 0.2 | | 〃 C8-1003 | |
| 153 | 〃 〃 | 1.52 | 0.51 | 0.16 | 0.15 | | 〃 D8-2814 | |
| 154 | 〃 C | 1.52 | 0.64 | 0.24 | 0.25 | | 〃 J4-4 | |
| 155 | 〃 A | 1.51 | 0.51 | 0.18 | 0.15 | | 〃 J5-260 | |
| 156 | 〃 〃 | 1.54 | 0.47 | 0.16 | 0.2 | | 〃 C8-H | |
| 157 | 〃 〃 | 1.52 | 0.46 | 0.14 | 0.2 | | 〃 D24-54 | |
| 158 | 〃 B | 1.42 | 0.53 | 0.15 | 0.2 | | 〃 D24-70 | |
| 159 | 〃 A | 1.38 | 0.54 | 0.17 | 0.15 | | 〃 I5-H | |
| 160 | 〃 〃 | 1.18 | 0.48 | 0.14 | 0.175 | | 〃 D8-2206 | |
| 161 | 〃 〃 | 1.37 | 0.48 | 0.15 | 0.15 | | 〃 N17-456 | |
| 162 | 〃 〃 | 1.26 | 0.57 | 0.14 | 0.15 | | 〃 H | |
| 163 | 〃 〃 | 0.93 | 0.45 | 0.13 | 0.15 | | 〃 D8-560 | |
| 164 | 〃 〃 | 1.03 | 0.57 | 0.18 | 0.2 | | 〃 C8-608 | |
| 165 | 〃 〃 | 0.97 | 0.93 | 0.14 | 0.15 | | 〃 I5-1543 | |
| 166 | 〃 〃 | 2.02 | 0.41 | 0.10 | 0.2 | | 〃 D8-1151 | |

（3）

| No. | 石　質 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 残存部位 | 登録番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 167 | 黒曜石A | 1.14 | 0.56 | 0.14 | 0.1 | | 九松 I 5-1090 | |
| 168 | 〃　〃 | 1.31 | 0.54 | 0.18 | 0.225 | | 〃 K3-1050 | |
| 169 | 〃　〃 | 1.19 | 0.54 | 0.12 | 0.1 | | 〃 I 5-205 | |
| 170 | 〃　〃 | 1.12 | 0.50 | 0.19 | 0.15 | | 〃 D9-H | |
| 171 | 〃　〃 | 0.77 | 0.50 | 0.18 | 0.1 | | 〃 D8-2917 | |
| 172 | 〃　〃 | 0.89 | 0.50 | 0.19 | 0.125 | | 〃 D8-2717 | |
| 173 | 〃　〃 | 0.14 | 0.59 | 0.15 | 0.125 | | 〃 D9-H | |
| 174 | 〃　〃 | 0.84 | 0.68 | 0.18 | 0.25 | | 〃 M1-107 | |
| 175 | 〃　〃 | 0.84 | 0.76 | 0.24 | 0.25 | | 〃 J 6-764 | |
| 176 | 〃　〃 | 0.88 | 0.52 | 0.17 | 0.2 | | 〃 D8-216 | |
| 177 | 〃　〃 | 0.87 | 0.61 | 0.21 | 0.25 | | 〃 F8-49 | |
| 178 | 〃　〃 | 1.12 | 0.58 | 0.19 | 0.225 | | 〃 I 5-55 | |
| 179 | 〃　〃 | 1.14 | 0.64 | 0.17 | 0.2 | | 〃 D8-H | |
| 180 | 〃　〃 | 1.12 | 0.65 | 0.64 | 0.15 | | 〃 D8-588 | |
| 181 | 〃　〃 | 0.92 | 0.74 | 0.12 | 0.1 | | 〃 L10-11 | |
| 182 | 〃　〃 | 0.98 | 0.62 | 0.19 | 0.125 | | 〃 D8-2660 | |
| 183 | 〃　〃 | 1.86 | 0.45 | 0.22 | 0.15 | | 〃 L10-H | |
| 184 | 〃　〃 | 1.70 | 0.40 | 0.10 | 0.25 | | 〃 M14-1640 | |
| 185 | 〃　〃 | 1.40 | 0.43 | 0.16 | 0.2 | | 〃 P20-42 | |
| 186 | 〃　B | 1.29 | 0.41 | 0.12 | 0.2 | | 〃 N17-582 | |
| 187 | 〃　〃 | 1.31 | 0.49 | 0.16 | 0.2 | | 〃 C8-H | |
| 188 | 〃　〃 | 1.18 | 0.46 | 0.13 | 0.25 | | 〃 G7-300 | |
| 189 | 〃　〃 | 1.25 | 0.48 | 0.12 | 0.2 | | 〃 K11-1216 | |
| 190 | 〃　〃 | 1.36 | 0.33 | 0.11 | 0.15 | | 〃 D19-81 | |
| 191 | 〃　〃 | 1.01 | 0.42 | 0.17 | 0.1 | | 〃 I 6-200 | |
| 192 | 〃　〃 | 1.36 | 0.45 | 1.99 | 0.15 | | 〃 H | |
| 193 | 〃　〃 | 1.08 | 0.46 | 0.14 | 0.125 | | 〃 I 4-733 | |
| 194 | 〃　〃 | 1.21 | 0.50 | 0.17 | 0.2 | | 〃 D9-H | |
| 195 | 〃　〃 | 0.74 | 0.50 | 0.64 | 0.15 | | 〃 D8-H | |
| 196 | 〃　〃 | 1.19 | 0.35 | 0.11 | 0.175 | | 〃 D8-108 | |
| 197 | 〃　〃 | 1.09 | 0.44 | 0.15 | 0.125 | | 〃 E-7-H | |
| 198 | 〃　〃 | 1.09 | 0.47 | 0.14 | 0.15 | | 〃 I 5-H | |
| 199 | 〃　〃 | 1.06 | 0.38 | 0.12 | 0.1 | | 〃 R12-1025 | |
| 200 | 〃　〃 | 0.97 | 0.52 | 0.19 | 0.15 | | 〃 H21-250 | |
| 201 | 〃　〃 | 2.97 | 0.57 | 0.51 | 0.45 | | 〃 F20-95 | |

ここにあげた尖頭器の場合，先土器時代のものと縄文式時代に入るのではないかと思われるものがある。本遺跡の場合，層位的に区別するには困難が伴うので，時代による区分は行わなかった。なお，**202・203**を三稜尖頭器とし，**204～252**の尖頭器と分けて考えた。

**三稜尖頭器**（Fig.40・**202・203**）

**202**はⅠ－5表土層からの出土で，長さ7.62cm，幅2.18cm，厚さ1.51cm。厚みのある剥片を素材としているが，下端部を欠失している。形状は尖端部が細く，鋭利に作り出され，幅広の所で断面は台形，先端では三角形を呈する。三側面全体に剥離が行われ，尖端部は特に入念に二次加工が施されている。**203**は**202**に較べて尖頭部が丸みを帯び，下端を欠失している。断面は中央に稜をもち，三角形を呈し，三側面全部が剥離調整を受けている。長さ6.60cm，幅2.34cm，厚さ1.88cmを計る。三稜尖頭器として明確なものはこの二点だけである。

**尖頭器**（Fig.40～45・**204～252**）

**204～213**までの尖頭器を厚手の剥片を素材とし，本遺跡の中で先行する尖頭器として捉えた。**204**だけがほぼ，完形に近いが，その他はほとんど欠損品である。**204**は両面とも比較的粗い剥離が加えられている。側縁部は細かい調整で仕上げられ，尖端部は鋭利になっている。**205**は断面が，平坦に近いレンズ状を呈し，先端部をわずかに欠くものの，木葉形に調整されている。**208**は先端部だけであるが，やや丸みをおびた頂部から肩にかけて角度がつき，圭頭形の尖頭器

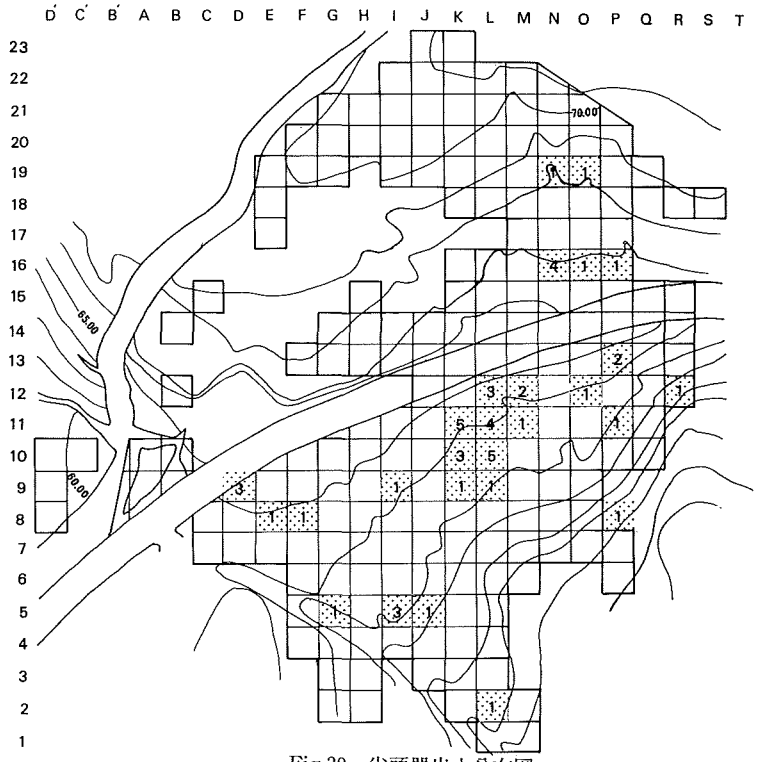



Fig.39　尖頭器出土分布図

に近いものになっている。**209**は細身の中間部分であるが，三稜尖頭器に近い器種である。

**210**～**212**は中間部，及び下端部だけであるが，残された剥離面は粗く調整され，断面は菱形状を呈している。**213**はO－12区表土層からの出土。下端部を欠失するが，残存。長さ7.88cm，幅5.64cm，厚さ1.08cmを計り，幅が非常に広く，木の葉状である。全体の剥離は丁寧に行われている。

**214**以降の尖頭器は後続する器種として捉えた。**214**はK－10区，III層出土の完形品。全体は押圧剥離により調整され，尖頭部はやや，丸みをおび，下端部がわずかにふくらむ木の葉状を呈する。基部に自然面をわずかに残す。長さ10.42cm，幅3.23cm，厚さ1.11cmを計る。**215**はO－19，III層からの出土。長さ8.60cm，幅2.68cm，厚さ0.74cmを計り，**214**よりもひと回り小さい完形品。全体は押圧剥離でうすく仕上げられ，両端はほぼ同じように丸みをおびて尖る。片側面のふくらみがやや強く，左右対象をなしていない。断面はレンズ状で，形は柳葉形を呈する。**216**～**219**は欠損品であるが，剥離は丁寧な押圧剥離で，断面もうすく仕上げられ，尖頭器としての機能が高められている。**225**は完形品であるが，長さが5.7cmと短い。両面の剥離も粗く，未製品の感がある。**226**・**227**はともに，針尾，もしくは亀岳産の灰青色の黒曜石を利用している唯一の例である。欠損品であるが，小形のものであろう。**228**～**252**は長さに対して幅が細くなる柳葉形を呈するものである。**228**は細身に仕上げられ，先端は尖り，下端部は両側からわずかに抉られ，基部が作り出されている。**229**は片側面に自然面をもつ完形品であるが，**230**以降は破損品である。**237**だけは厚さが非常に薄く，石鏃に近いものである。

**黒曜石製掻器**（Fig.46～50・**253**～**292**）

出土遺物の中で，使用痕，あるいは刃部を有するもので，掻器と考えられるものは多くを数え，図示したものは一部にすぎない。ここでは，黒曜石製を素材とするものをあげた。**253**は横剥ぎの大型剥片を素材としている。一辺の長い三角形を，縦に置いた形で，左面は自然面を残し，稜線を縦と横につけている。頂部は左面からのみ二次加工があり，刃部状になる。下端は両側から尖るが，一側面には細かい使用痕と思われるものがある。また，先端部は斜めに加撃され，グレイバーの機能も持っている。**254**は黒曜石C製。幅広の縦長剥片を素材としている。左面は右側面に入念な二次加工を，右面には右側縁の半分から上部に，両面を交互に入念な二次加工を行っている。**225**は黒曜石B製。縦長の剥片を素材とし，左面の右側面だけ二次加工による剥離を行い，下端部は斜めに欠失している。**256**は，漆黒の黒曜石の自然面に近い方を剥いでおり，上部の打撃面と左右に自然面を多く残すが，側面を剥離し，側縁を交互に，入念な二次加工を行い，尖頭状に作り出している。**257**は２本の稜線を持つ縦長剥片の左側縁だけ二次加工があり，さらに，中央部が小さく抉られたようになっている。**258**は断面三角形の剥離を利用，薄い剥離面を片面だけ二次加工し，刃部として利用している。**259**・**260**はともに良質の角礫の黒曜石を素材とし，自然面を長軸の片側面と，下端部に残す。薄く剥がれた刃部には二次加工面というより，刃潰れ状の剥離痕が認められる。**261**は全体が剥離調整され，下端部には刃

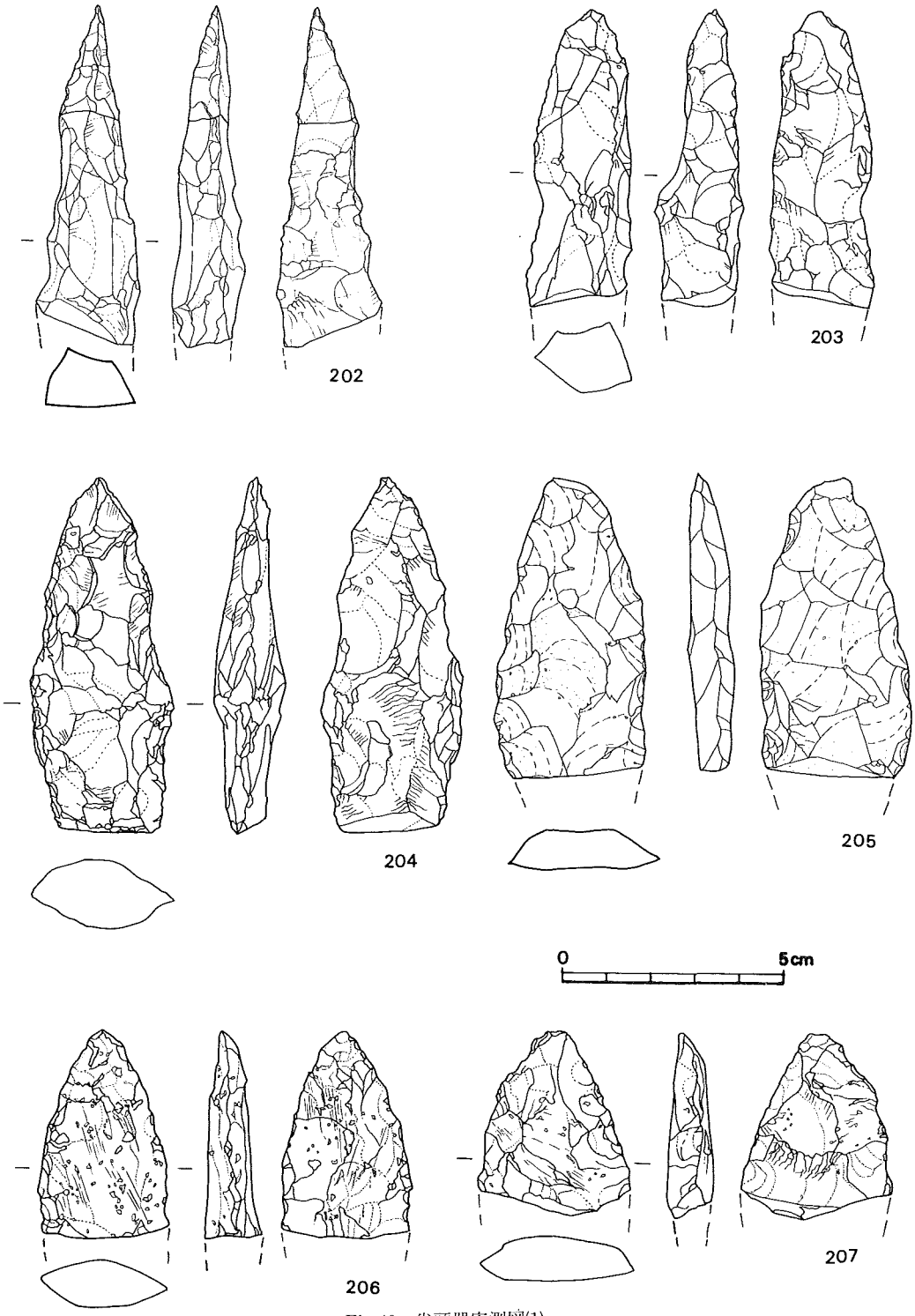



Fig.40　尖頭器実測図(1)

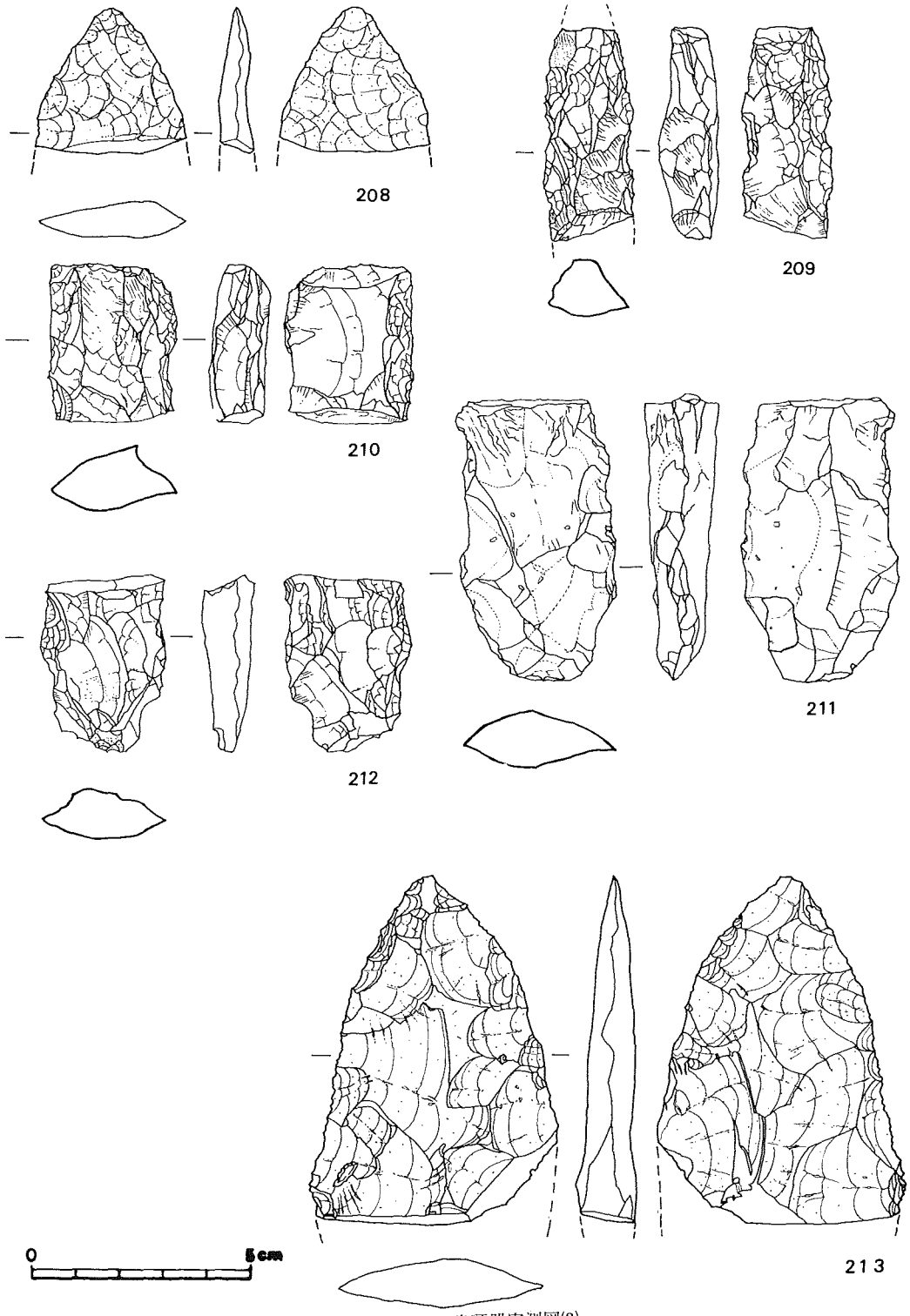
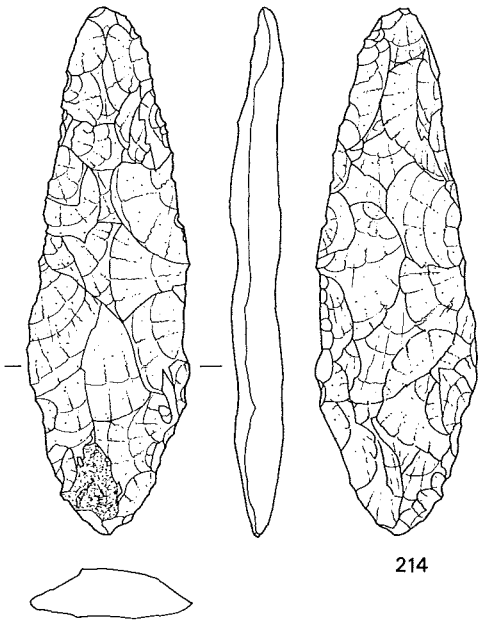
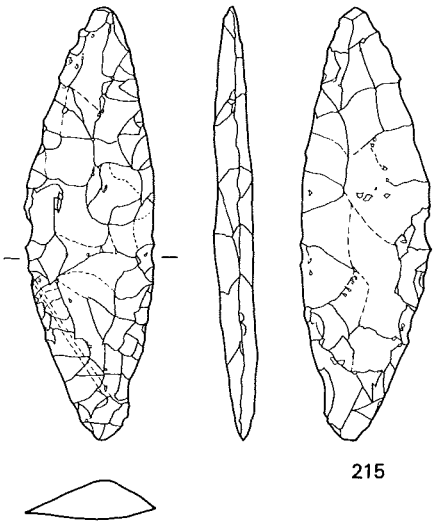
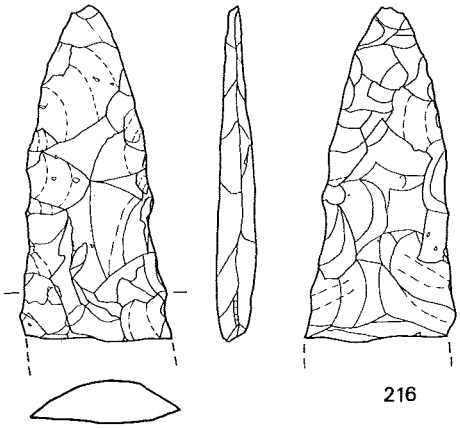
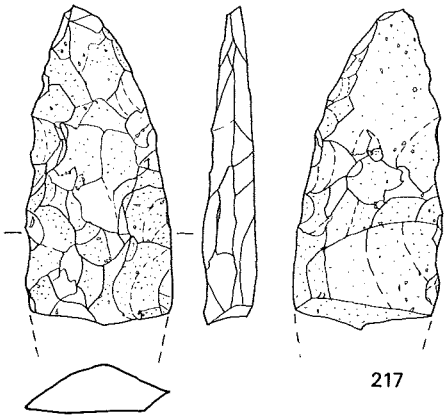


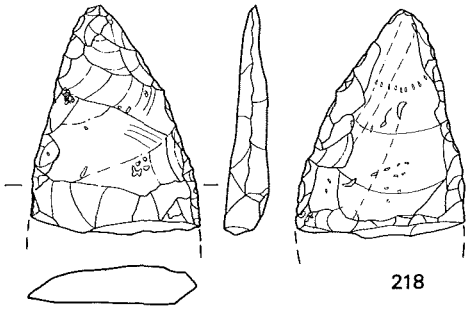

Fig.41　尖頭器実測図(2)

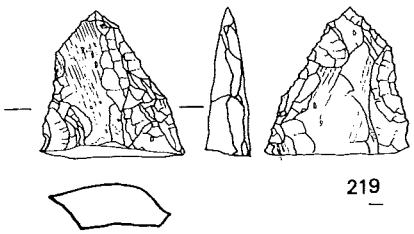


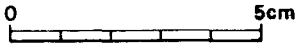




Fig.42　尖頭器実測図(3)

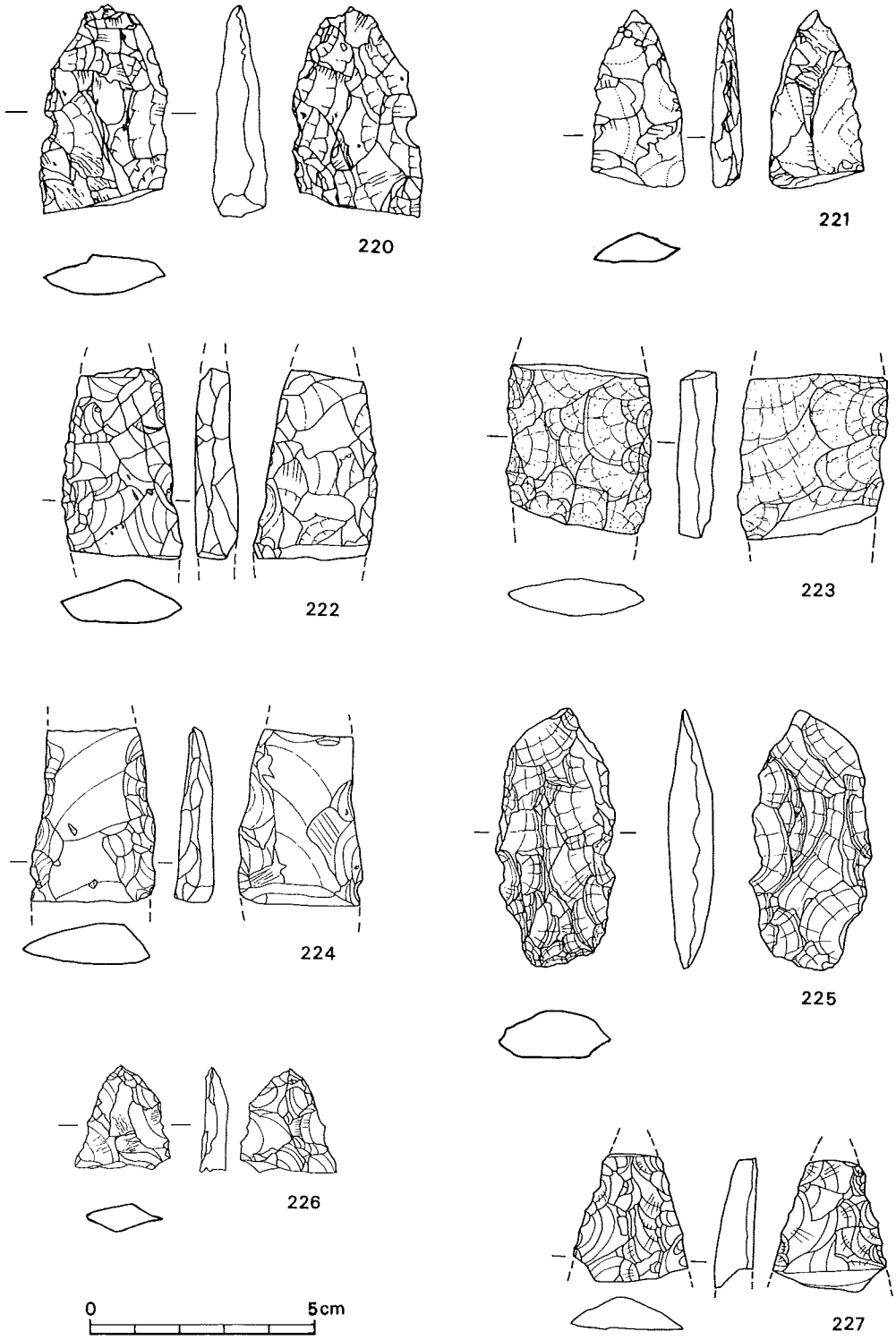



Fig.43　尖頭器実測図(4)

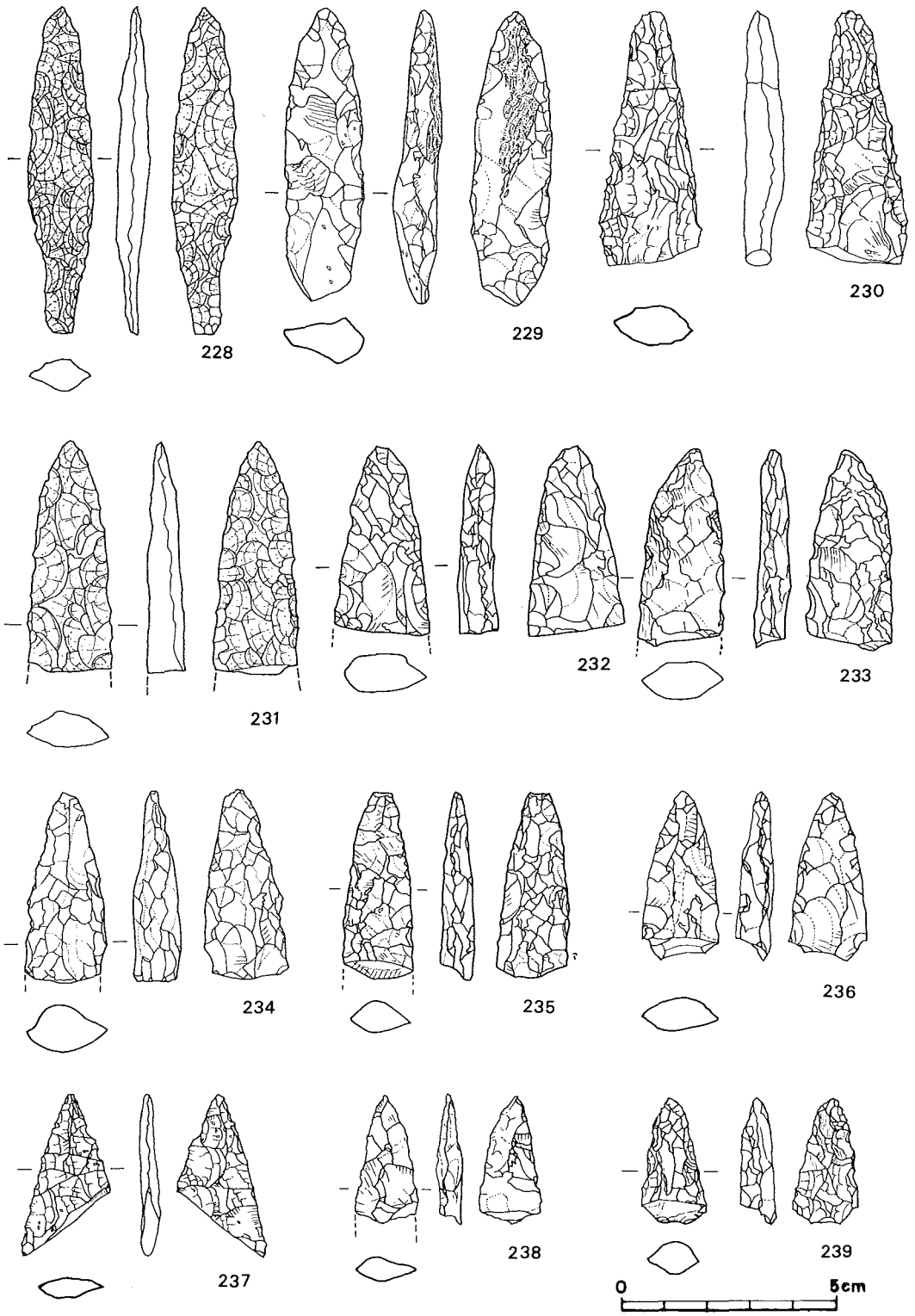



Fig.44　尖頭器実測図(5)

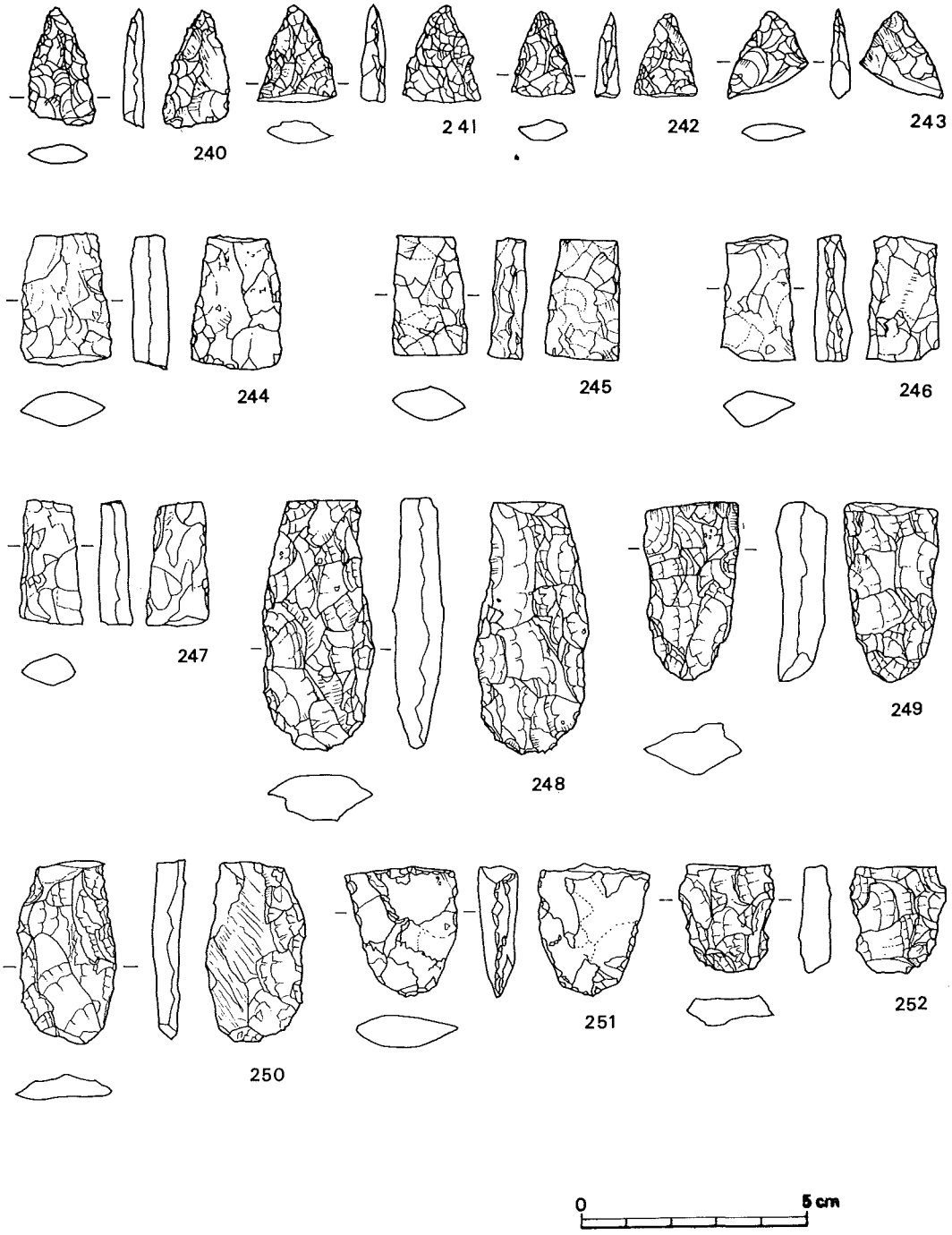



Fig.45　尖頭器実測図(6)

TAb. 3　尖頭器計測値一覧表(1)

| No. | 石　質 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 残存部位 | 登録番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 202 | サヌカイト | 7.62 | 2.18 | 1.51 | 20.30 | AB | 九松I5-H | 三稜尖頭器 |
| 203 | 〃 | 6.60 | 2.34 | 1.88 | 27.00 | AB | 〃 L2-494 | 〃 |
| 204 | 〃 | 7.98 | 3.11 | 1.55 | 31.20 | AB | 〃 K11-933 | |
| 205 | 〃 | 6.81 | 3.46 | 0.95 | 27.30 | AB | 〃 H5-H | |
| 206 | 〃 | 4.57 | 3.03 | 1.27 | 15.00 | AB | 〃 L9-H | |
| 207 | 〃 | 4.08 | 3.48 | 0.96 | 12.7 | A | 〃 L10-H | |
| 208 | 〃 | 3.03 | 3.43 | 0.99 | 8.65 | A | 〃 K11-1271 | |
| 209 | 〃 | 4.74 | 2.02 | 1.77 | 12.80 | B | 〃 N16-H | 三稜尖頭器？ |
| 210 | 〃 | 3.71 | 2.88 | 1.25 | 17.55 | B | 〃 L10-447 | |
| 211 | 〃 | 6.46 | 3.52 | 1.62 | 35.60 | AB | 〃 P8-659 | |
| 212 | 〃 | 4.07 | 2.87 | 1.08 | 12.70 | A | 〃 H | |
| 213 | 〃 | 7.88 | 5.64 | 1.28 | 54.50 | AB | 〃 O12-H | |
| 214 | 〃 | 10.42 | 3.23 | 1.11 | 33.20 | ABC | 〃 K10-594 | 幅の大きな木葉形 |
| 215 | 〃 | 8.60 | 2.68 | 0.74 | 16.10 | ABC | 〃 O19-225 | 完形の木葉形 |
| 216 | 〃 | 6.58 | 3.04 | 0.91 | 15.60 | AB | 〃 K9-263 | 完形に薄手の木葉形 |
| 217 | 〃 | 6.36 | 2.98 | 1.08 | 18.90 | AB | 〃 I5-739 | |
| 218 | 〃 | 4.49 | 3.47 | 0.76 | 10.25 | A | 〃 L12-637 | |
| 219 | 〃 | 2.86 | 2.85 | 0.81 | 5.55 | A | 〃 G5-172 | |
| 220 | 〃 | 4.82 | 2.81 | 1.08 | 13.05 | AB | 〃 L10-1123 | |
| 221 | 〃 | 3.90 | 2.09 | 0.62 | 4.65 | AB | 〃 J7-H | |
| 222 | 〃 | 4.18 | 2.64 | 0.97 | 13.60 | B | 〃 D9-H | |
| 223 | 〃 | 3.52 | 3.19 | 0.91 | 13.20 | B | 〃 P16-5 | |
| 224 | 〃 | 3.89 | 2.79 | 0.96 | 11.65 | B | 〃 J5-H | |
| 225 | 黒曜石B | 5.81 | 2.74 | 1.00 | 15.75 | ABC | 〃 F8-51 | |
| 226 | 〃　〃 | 2.18 | 2.16 | 0.52 | 2.15 | A | 〃 N15-413 | 針尾淀姫系黒曜石 |
| 227 | サヌカイト | 2.88 | 2.51 | 0.70 | 5.35 | B | 〃 L10-18 | 〃 |
| 228 | 〃 | 7.51 | 1.52 | 0.71 | 10.55 | ABC | 〃 H | 細形完形基部に抉りをもつ |
| 229 | 〃 | 6.70 | 1.80 | 0.99 | 6.85 | ABC | 〃 D'9-445 | 細形完形品 |
| 230 | 〃 | 5.72 | 2.32 | 0.89 | 10.30 | BC | 〃 K11-743 | |
| 231 | 〃 | 5.27 | 1.86 | 0.73 | 8.85 | AB | 〃 D'9-545 | |
| 232 | 〃 | 4.25 | 2.17 | 0.84 | 8.20 | BC | 〃 G21-177 | |
| 233 | 〃 | 4.58 | 1.98 | 0.69 | 7.15 | AB | 〃 L12-1302 | |
| 234 | 〃 | 4.29 | 1.89 | 1.00 | 8.35 | AB | 〃 I9-H | |
| 235 | 〃 | 4.28 | 1.19 | 0.76 | 4.95 | AB | 〃 I5-628 | |
| 236 | 〃 | 3.76 | 1.79 | 0.72 | 4.25 | AB | 〃 K10-373 | |
| 237 | 〃 | 4.85 | 1.69 | 0.90 | 2.00 | A | 〃 N193 | 断面非常にうすい |
| 238 | 〃 | 2.91 | 1.59 | 0.50 | 1.65 | A | 〃 L11-661 | |
| 239 | 〃 | 2.83 | 1.98 | 0.72 | 2.50 | A | 〃 L11-1629 | |
| 240 | 〃 | 2.61 | 1.49 | 0.42 | 1.45 | A | 〃 H15-M | |

（2）

| No. | 石　質 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 残存部位 | 登録番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 241 | サヌカイト | 2.09 | 1.70 | 0.51 | 1.50 | A | 九松O16-475 | |
| 242 | 〃 | 1.80 | 1.35 | 0.46 | 1.05 | A | 〃 K11-1489 | |
| 243 | 〃 | 2.12 | 1.48 | 0.84 | 0.95 | A | 〃 M12-H | |
| 244 | 〃 | 2.89 | 2.03 | 0.77 | 6.05 | B | 〃 N15-H | |
| 245 | 〃 | 2.61 | 1.58 | 0.70 | 3.80 | B | 〃 K11-1465 | |
| 246 | 〃 | 2.51 | 1.59 | 0.70 | 3.55 | B | 〃 P13-H | |
| 247 | 〃 | 2.64 | 1.52 | 0.71 | 3.95 | B | 〃 A19H | |
| 248 | 〃 | 5.61 | 2.59 | 1.07 | 16.10 | BC | 〃 L12-29 | |
| 249 | 〃 | 3.74 | 2.04 | 0.93 | 8.60 | BC | 〃 L11-1677 | |
| 250 | 〃 | 4.98 | 2.16 | 0.68 | 6.15 | BC | 〃 K10-764 | |
| 251 | 〃 | 2.82 | 2.40 | 0.82 | 5.60 | C | 〃 E8-H | |
| 252 | 〃 | 2.20 | 1.75 | 0.51 | 4.20 | A | 〃 M12-H | |

注　残存部位は完形品…ABC　　尖端部A，中間部B，下端部C．

潰し状の剥離があり，上部に斜行する薄い刃部をもつ。この上記3点は掻器というより，ナイフ形石器と同様の機能をもつものと考えられる。**262**は黒曜石C製。角錐状に剥離された剥片を利用。4側面の1面だけ入念な交互剥離を伴い，尖頭状に仕上げている。**263**もほぼ同じ形状であるが，剥離がやや粗い。**264**～**225**は縦長剥片を素材としているが，ほとんど欠損品であり，二次加工による剥離を片側縁に持つ。**268**だけは，基部に切断面をもつ小形の縦長剥片を素材とし，稜線の側縁を丁寧に剥離している。主要剥離面は両側縁に細かくノッチを加え尖頭状に整えている。**277**・**278**は幅広の剥片を素材とした抉入の掻器である。前者は片側縁だけに二次加工を加えているのに対し，後者は周縁全体近くに剥離を加え，抉りの部分を更に調整している。**279**～**284**は不定形な剥片を利用し，側縁に二次加工を施す。いわゆるエンドスクレイパー，あるいはサイドスクレイパーの範疇に入るものである。**286**～**292**は不定形な剥片を利用し，片側面全体に二次加工が集中し，一方は周縁部だけ施される両面調整の円形掻器である。**285**・**291**・**292**はサヌカイト製。他は黒曜石製。

**黒曜石製剥片石器**（Fig.51～56・**293**～**336**）

剥片石器は大形の縦長剥片と小形の縦長剥，それに縦と横の比率の小さい幅広の剥片（**319**～**336**）に大別される。ここにあげた剥片のほとんどには使用痕が認められる。

**293**は黒曜石B製だが，表面は風化のため灰緑色。上部平坦面から1回の打撃で剥がれ，湾曲

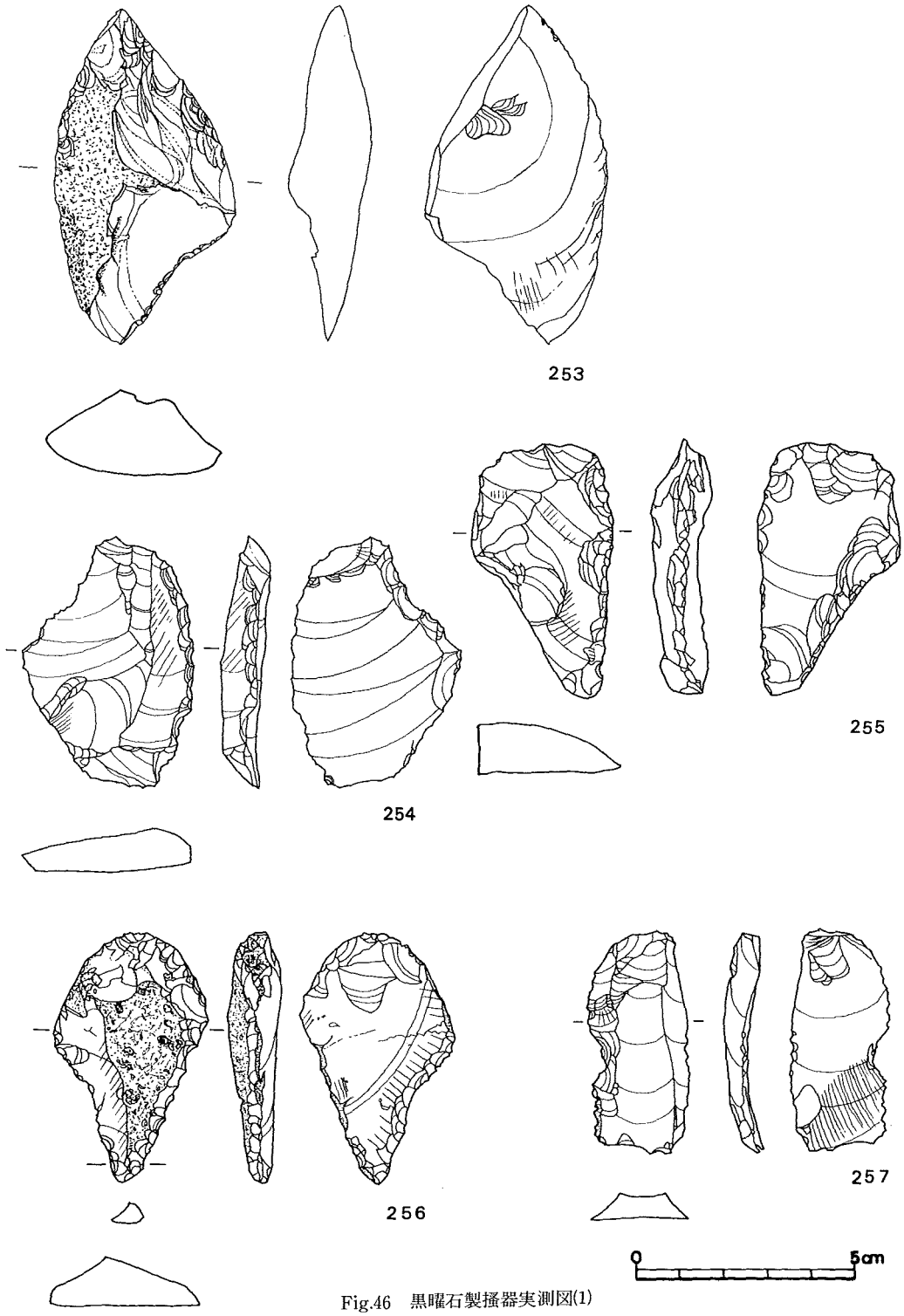



Fig.46　黒曜石製掻器実測図(1)

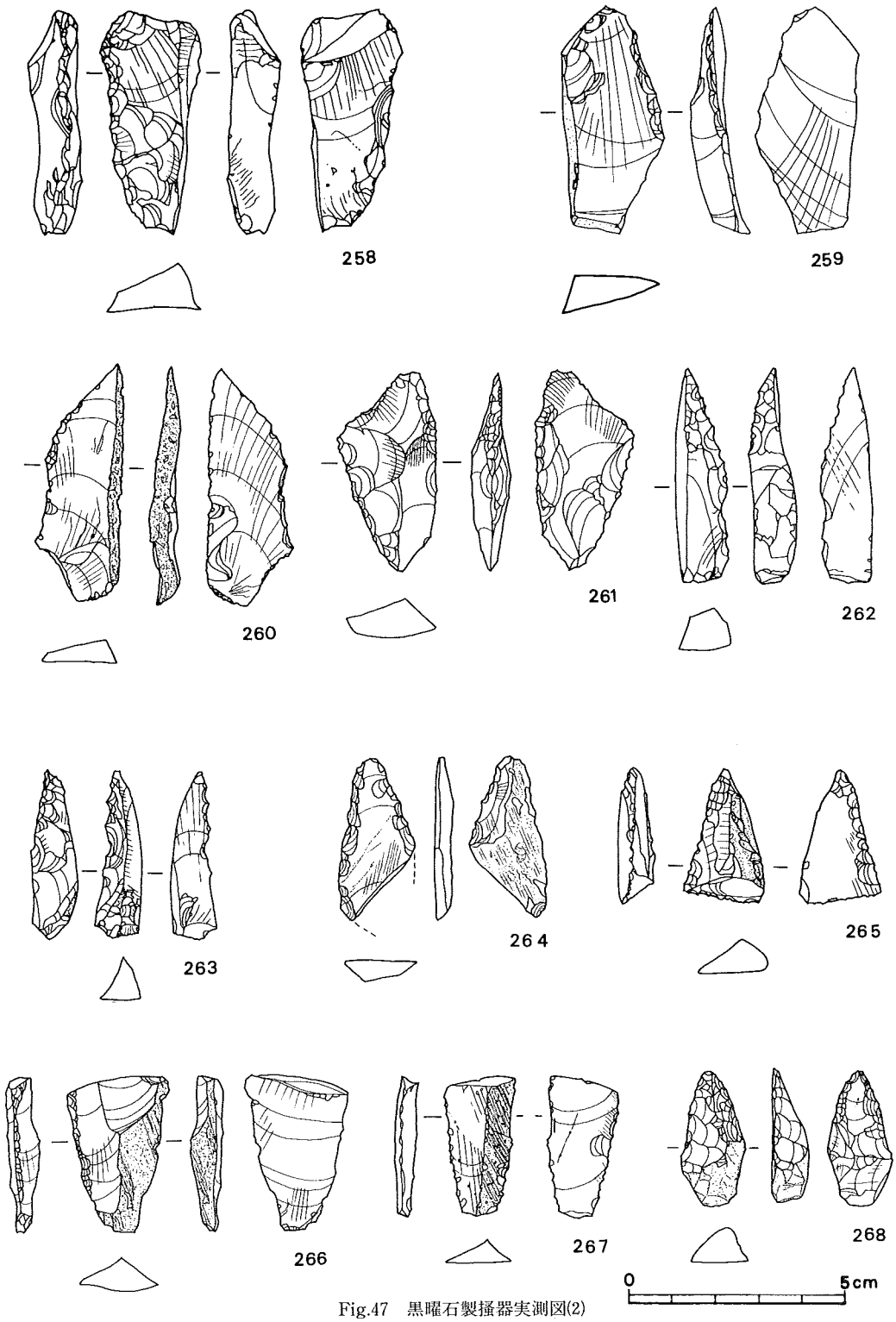



Fig.47　黒曜石製掻器実測図(2)

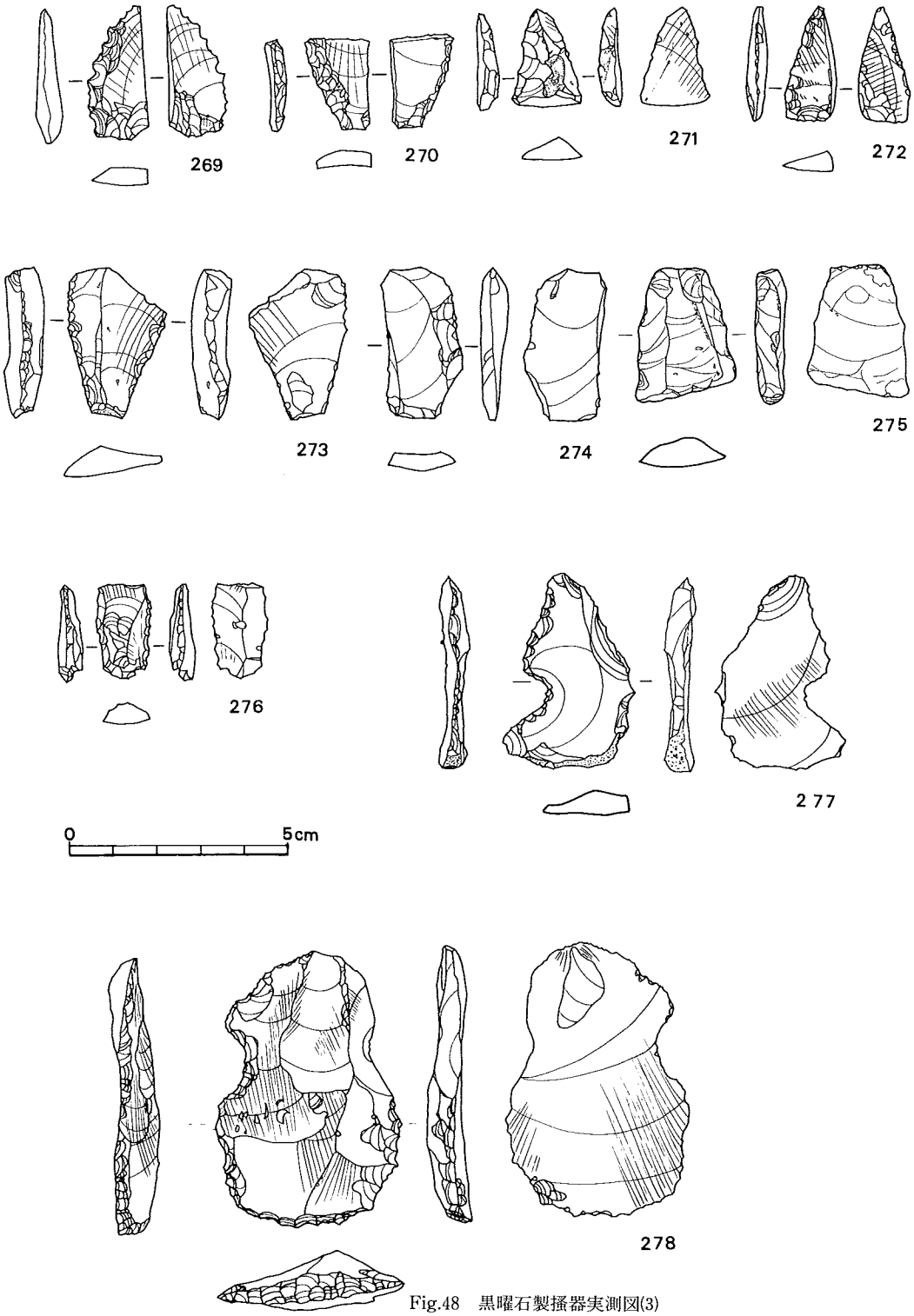



Fig.48　黒曜石製掻器実測図(3)

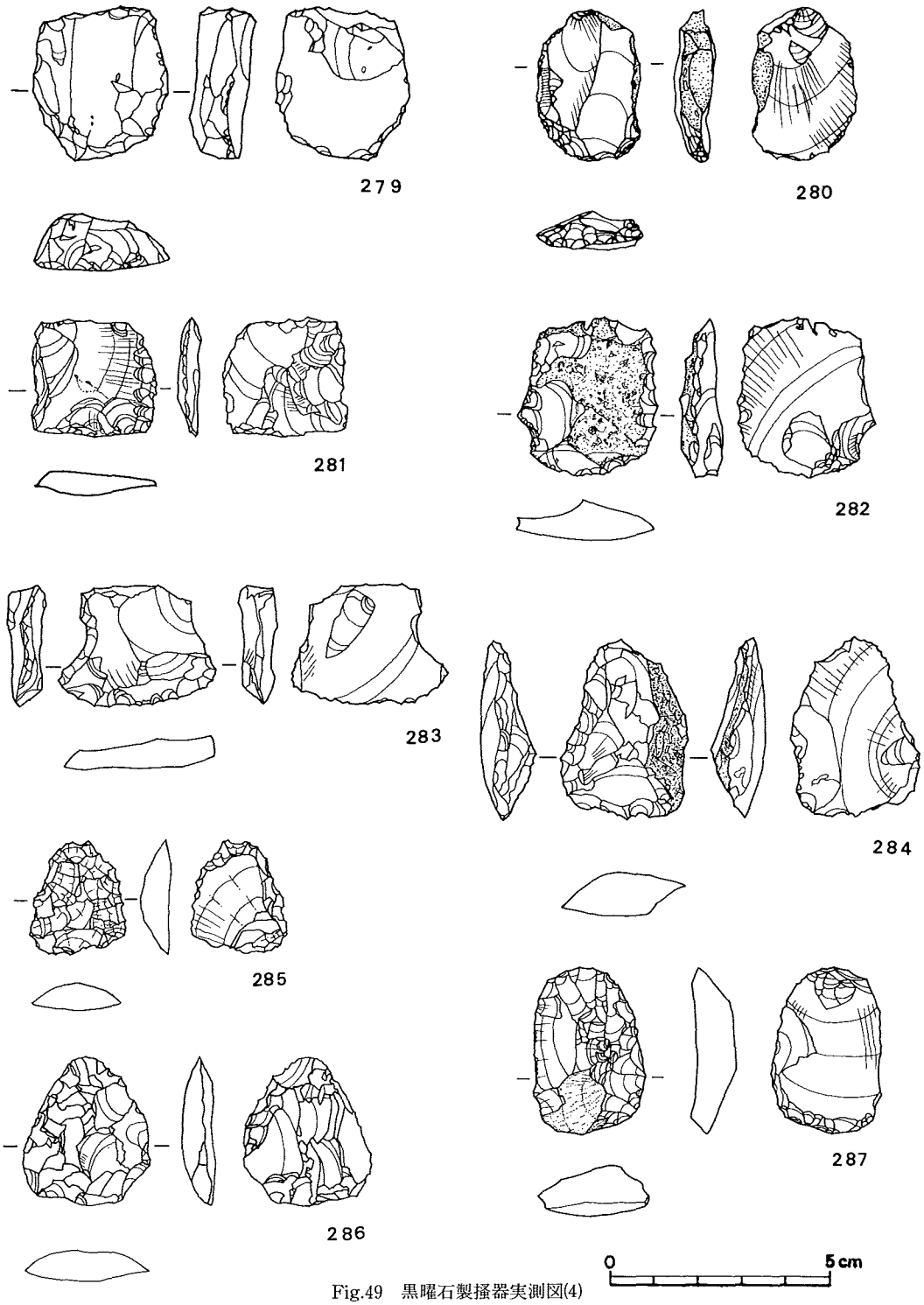



Fig.49　黒曜石製掻器実測図(4)

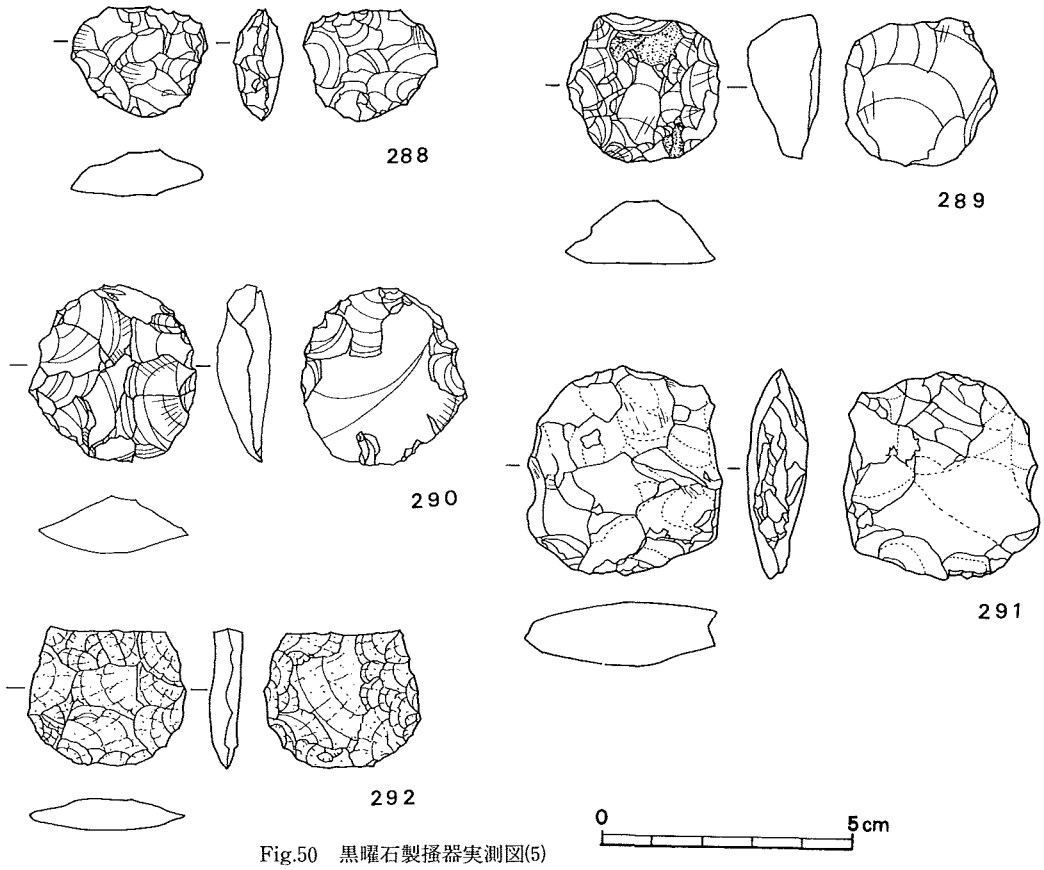



Fig.50　黒曜石製掻器実測図(5)

している。左面には一本の稜線が走り，下端部に自然面を残す。使用痕は上部側縁にわずかに残る。**294・295**はともに良質の黒曜石A製。上部に平担面を作り出し，その後に1回の打撃で剥がれている。2本の稜線をもち，断面は台形。両側縁は使用痕が顕著である。自然面は下端部に残す。この2者は典型的な刃器状の縦長剥片である。

**303～318**は細い縦長の厚さの薄い剥片である。稜線は中央に1本，もしくは2本もち，両側に使用痕が認められる。**305**だけが黒曜石C製。**306～307**は黒曜石B製で，他は黒曜石A製。**319～323**はやや幅広の剥片で，側縁部には使用痕を持つ。**323**は横剥状。

**327～335**は幅広型の剥片。**331**と**332**を除いては表面が灰緑色に風化している黒曜石B製。**327**が片側面に使用痕が顕著な他は，他にはあまり見られない。

**サヌカイト製掻器**（Fig.57～60・**337～351**）

サヌカイトを素材とした剥片利用の掻器である。**337**は薄手の縦長剥片の折を利用したもので，長軸側縁に両面剥離を施し，折断部にも片面から二次加工を行っている。**338**は細い縦長剥片の両側縁から，二次加工を加え尖頭状に作り出している。**341・342**は横剥ぎの剥片を利用。剥離面を除いて，周辺に二次加工を加えている。**341**は一部に自然面を残す。**343**は横剥ぎの剥

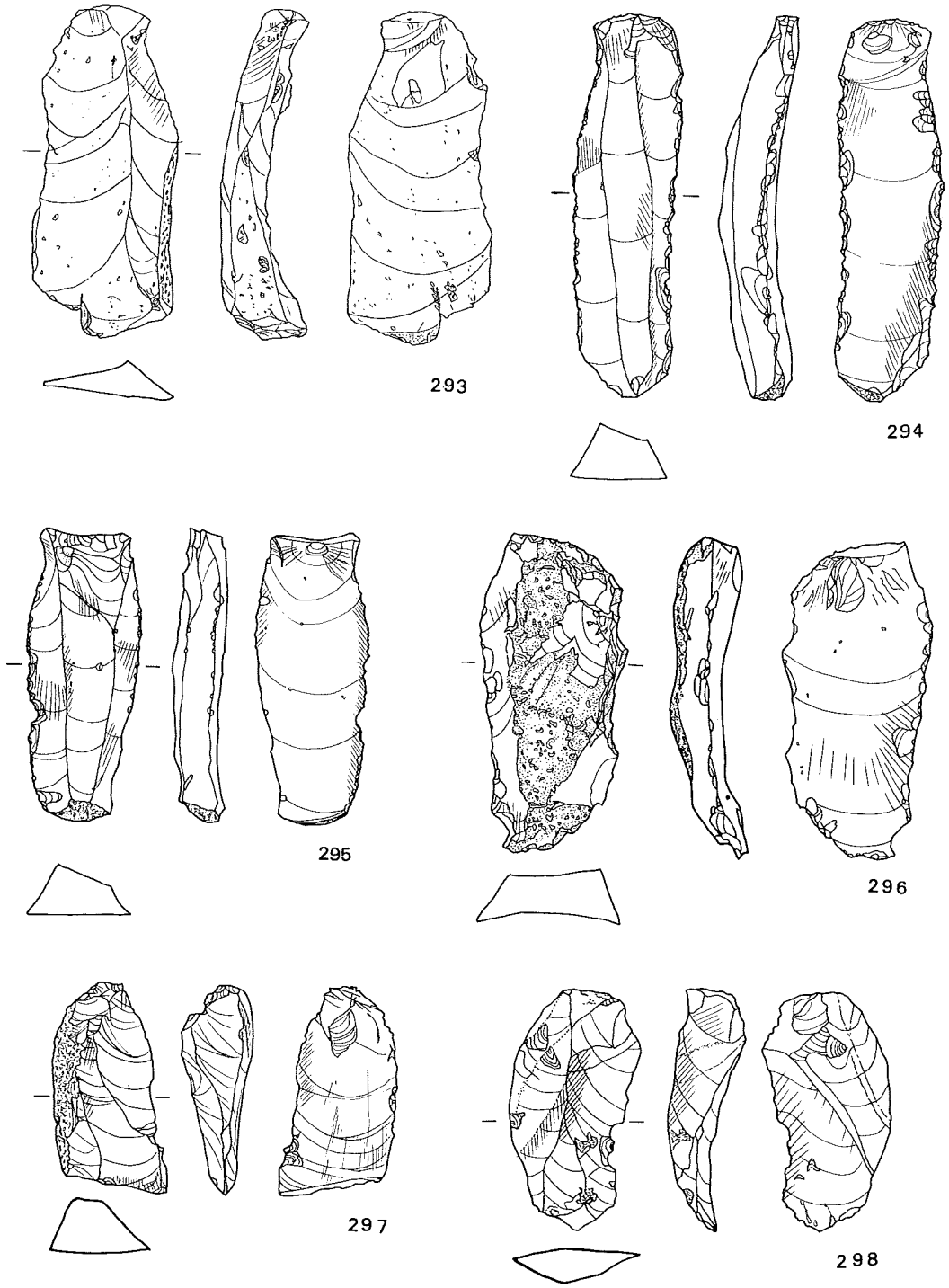



Fig.51　黒曜石製剥片石器実測図(1)

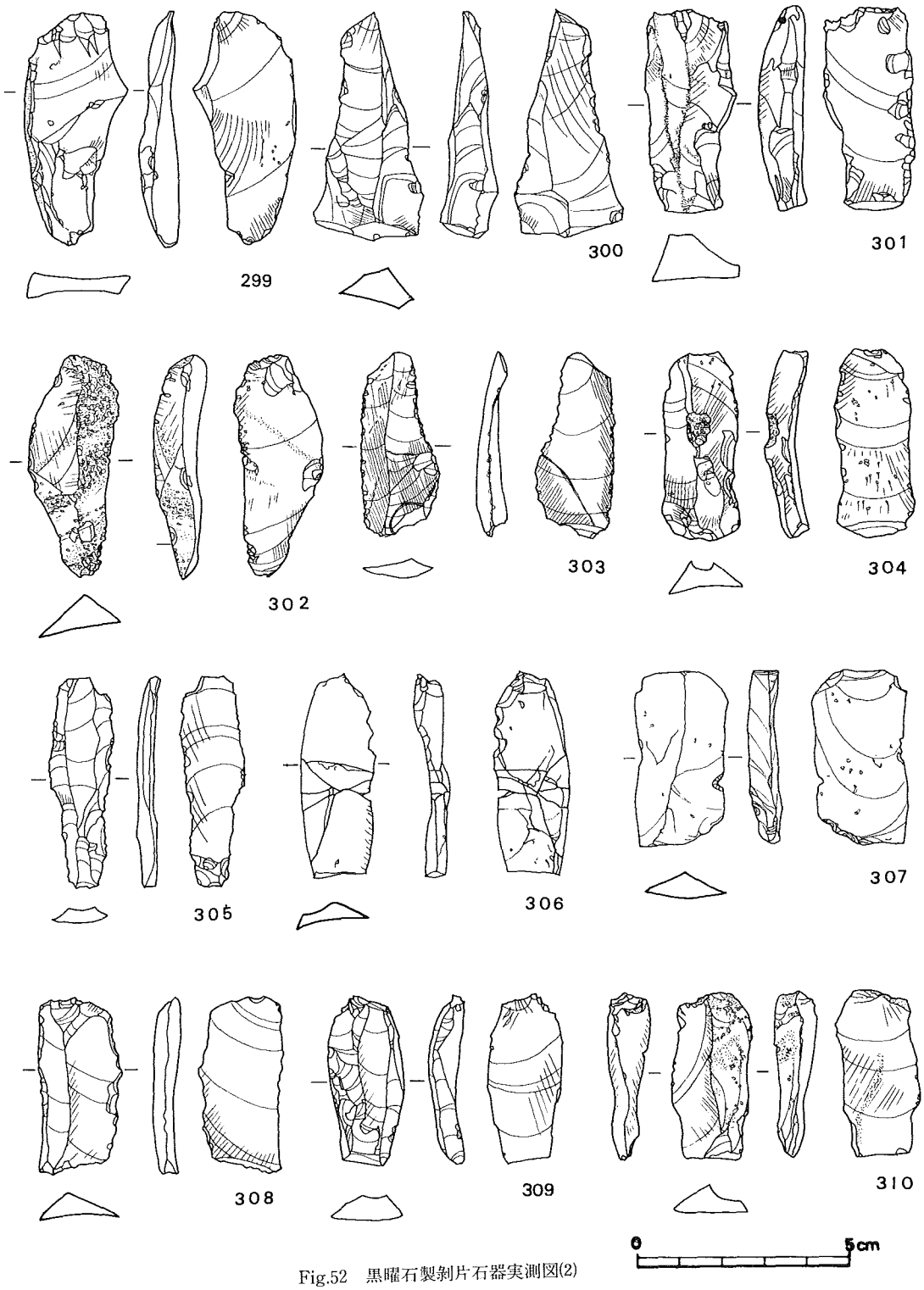



Fig.52　黒曜石製剝片石器実測図(2)

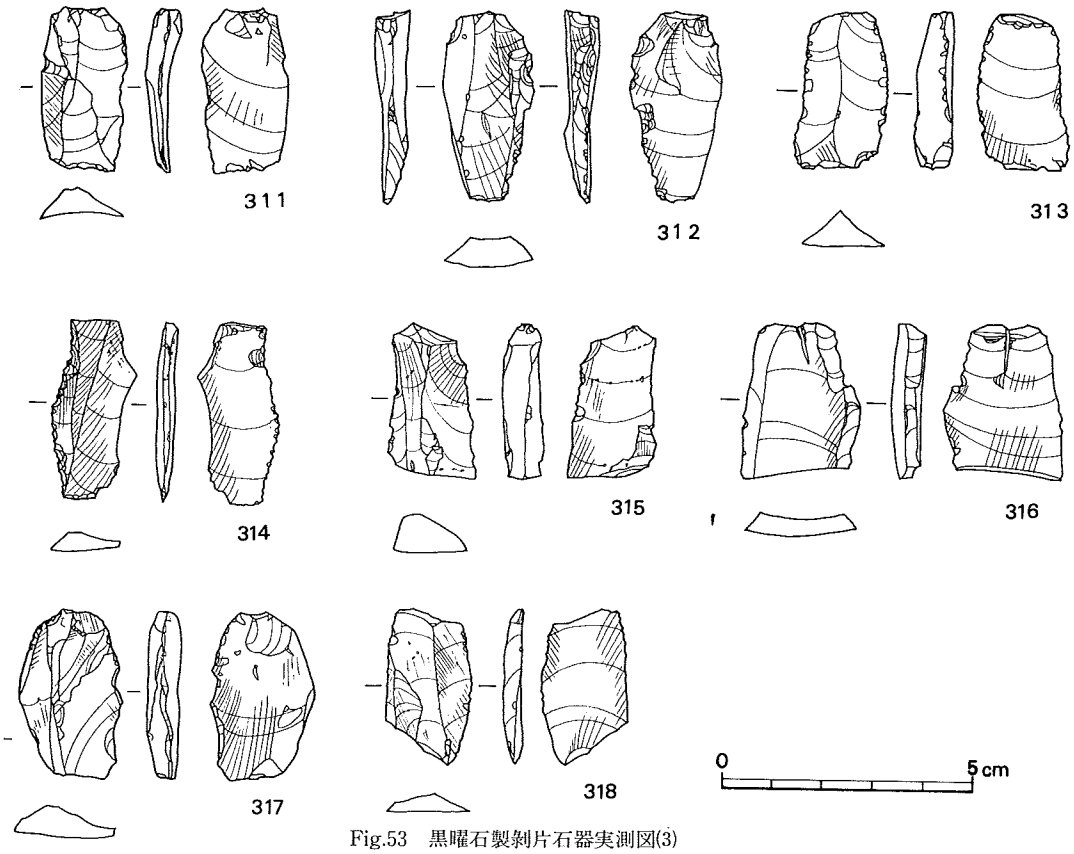



Fig.53　黒曜石製剥片石器実測図(3)

片で半月形で折れている。半円の頂点から左右に粗い交互剥離を行っている。**345**は不定形な厚手の剥片を使い，片側面からのみ２次加工を行い，刃部に仕上げている。**346**は不成形な大形の剥片を利用している。両面とも粗い剥離を行い，下部に自然面を残す。半分に折断されているが，尖頭状に類似する。**347**は厚手の横剥ぎの剥片で，左面は中央に１本の稜線をもつ断面三角形。両側縁を片面だけから粗い二次加工を施している。**348**は不定形な剥片を利用。背面は２回による剥離で，「く」字形を呈している。二次加工は長軸の側縁に直線的に加えられ，刃部を形成している。**349**は不定形な大形の剥片を利用している。粗い剥離は全側縁に及んでいるが，風化が著しく進み，剥離痕の色別が難かしい。**350**は大形の横剥ぎの剥片を利用。頂部の剥離部には自然面を全体に残す。形状は隅丸の方形に近い。短側縁を粗い剥離で整え，長側縁は両面から，わずかに剥離痕を認めるが，中央部は抉られたように剥離が目立つ。

サヌカイト製剥片を利用した掻器は小形のものも比較的見られるが，概して大形のものが目立つ。形状は定形化されていないが，手に握った時の感触で，有効な刃部を形成していったと考えられる。

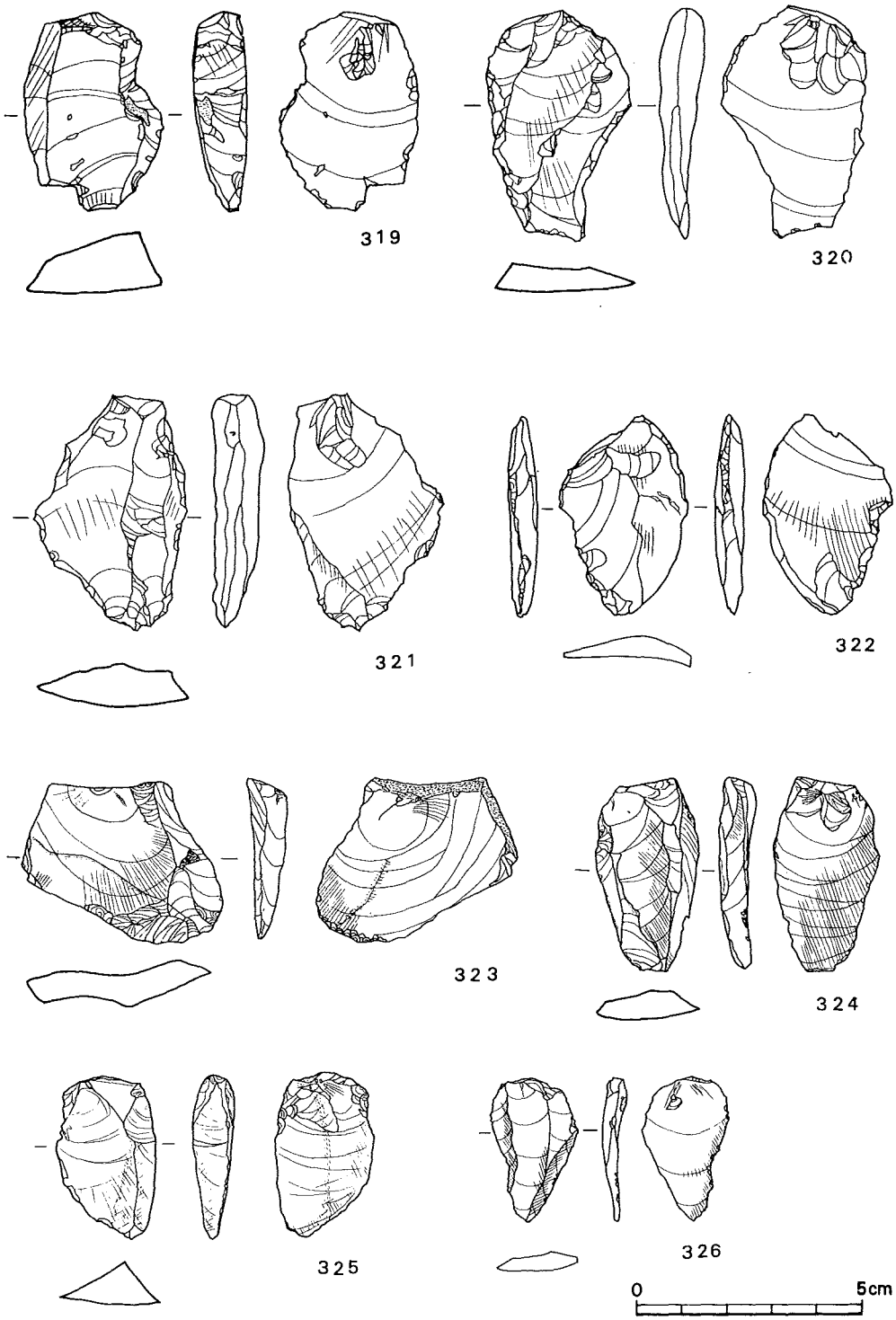



Fig.54　黒曜石製剥片石器実測図(4)

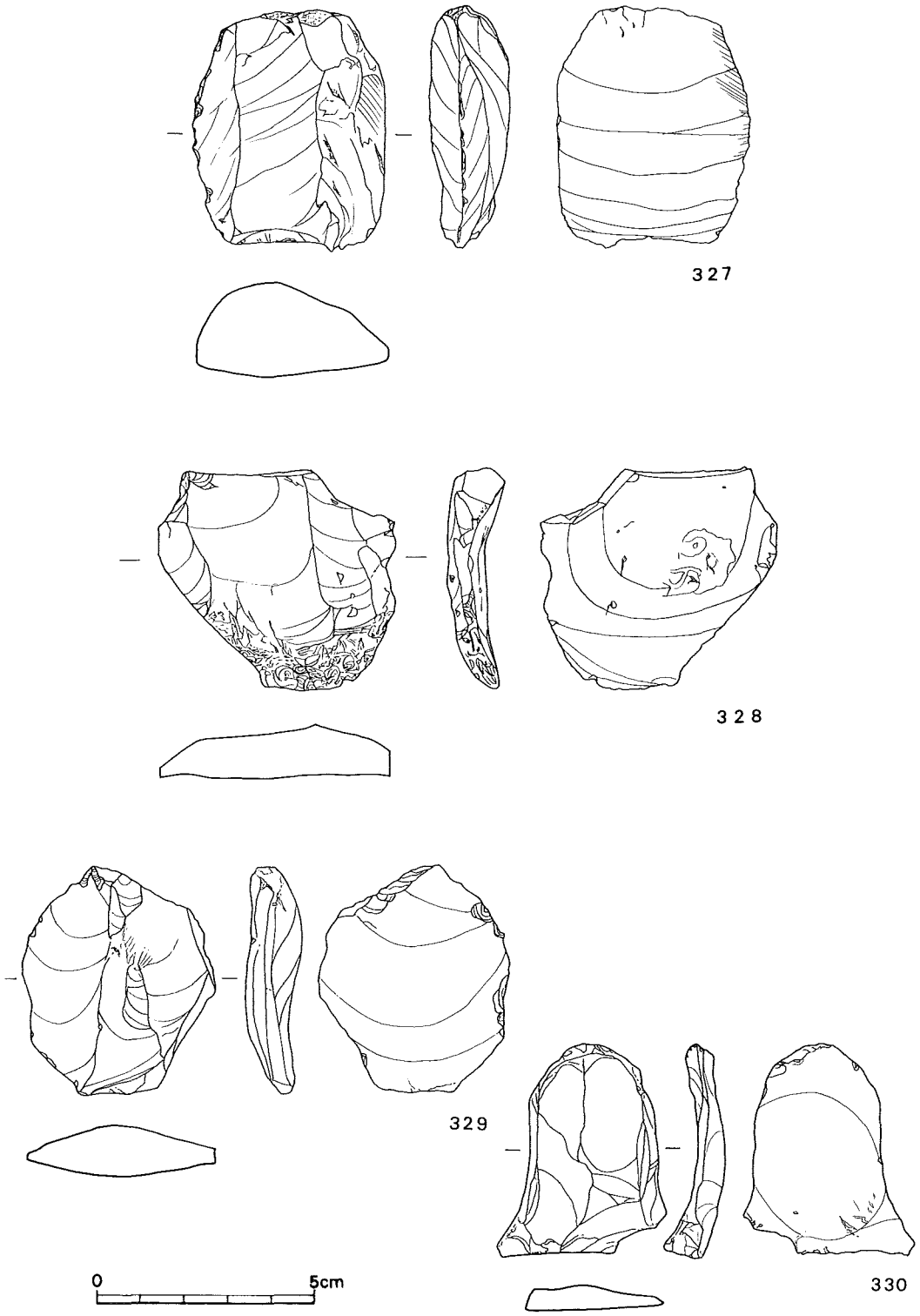



Fig.55　黒曜石製剥片石器実測図(5)

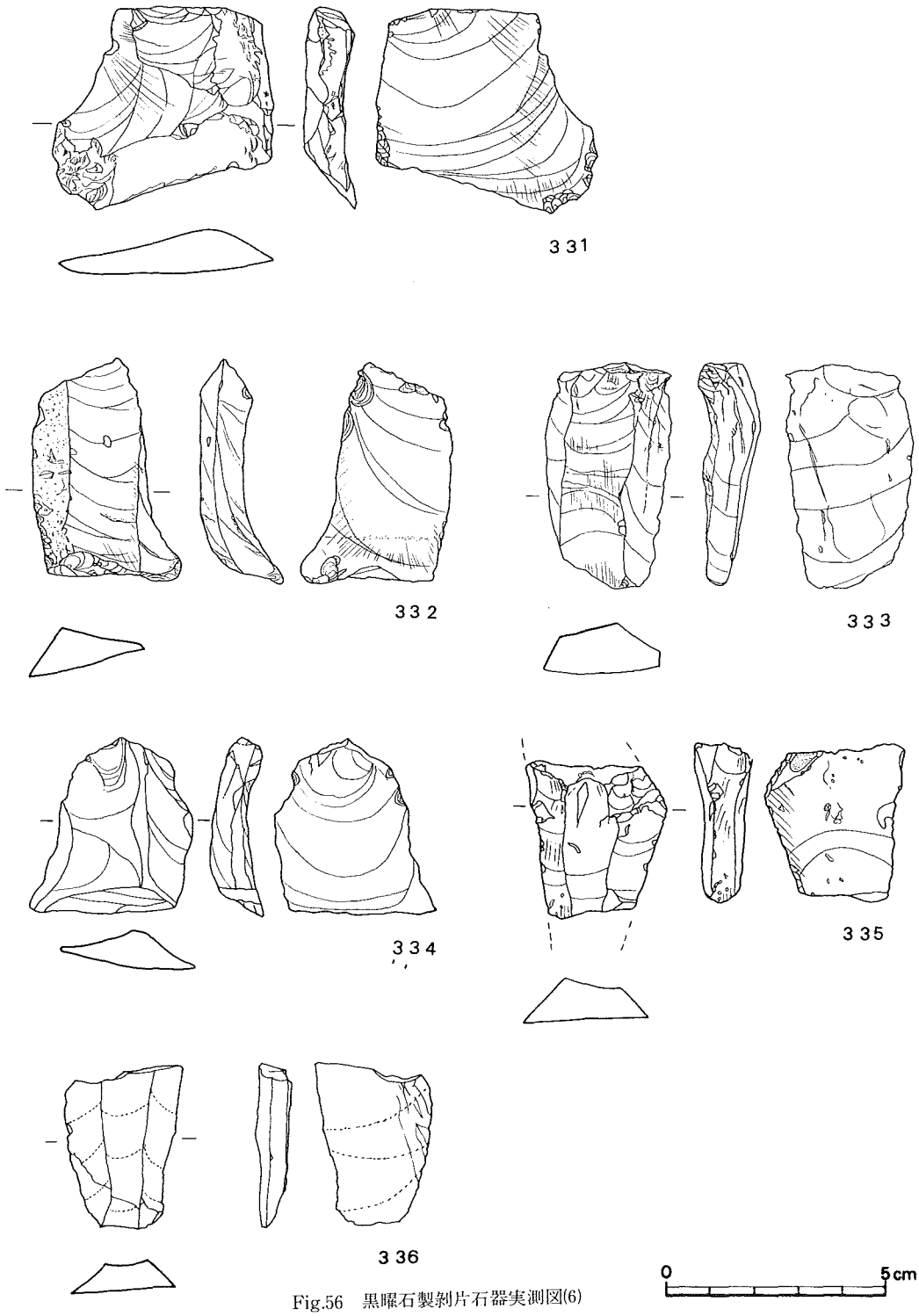



Fig.56　黒曜石製剥片石器実測図(6)

**サヌカイト製縦長剥片**（Fig.60・**352**・**353**）

大形の角礫を素材とした半円錐形石核から剥ぎ出されたと思われるもの２例を示した。しかし本遺跡から半円錐の石核の出土例はない。

**352**は自然面を側縁に残す，長さ9.5cm，最大厚1.5cmの尖頭状の剥片で，頂部に平坦打面を持たないが，打面は単剥離面である。薄く剥離された面には，使用痕が残る。**353**頂部に数回の剥離を受け，剥片の中央に，ほぼ平行した稜線が走る。両側縁には使用痕が著しい。打面は単剥離面である。長さ9.8cm，最大厚２cmを計る。

**石核**（Fig.61～62・**354**～**358**）

サヌカイト製の大形石核の一群である。剥離方向は規則性がなく不定形なものが多い。**354**は一番大型の石核で，角礫を素材としている。左面にはほとんど，自然面を残し，右面には大きな剥離痕を残す。重量は1.15kgを計る。**355**は角礫を４面から不定形に剥出している。厚みがあり，重さ0.7kg。**356**は片面頂点に自然面をもち，４回の剥出し面が残る。両面は不定形に剥がれ，下端は礫器状の剥離面が見られる。

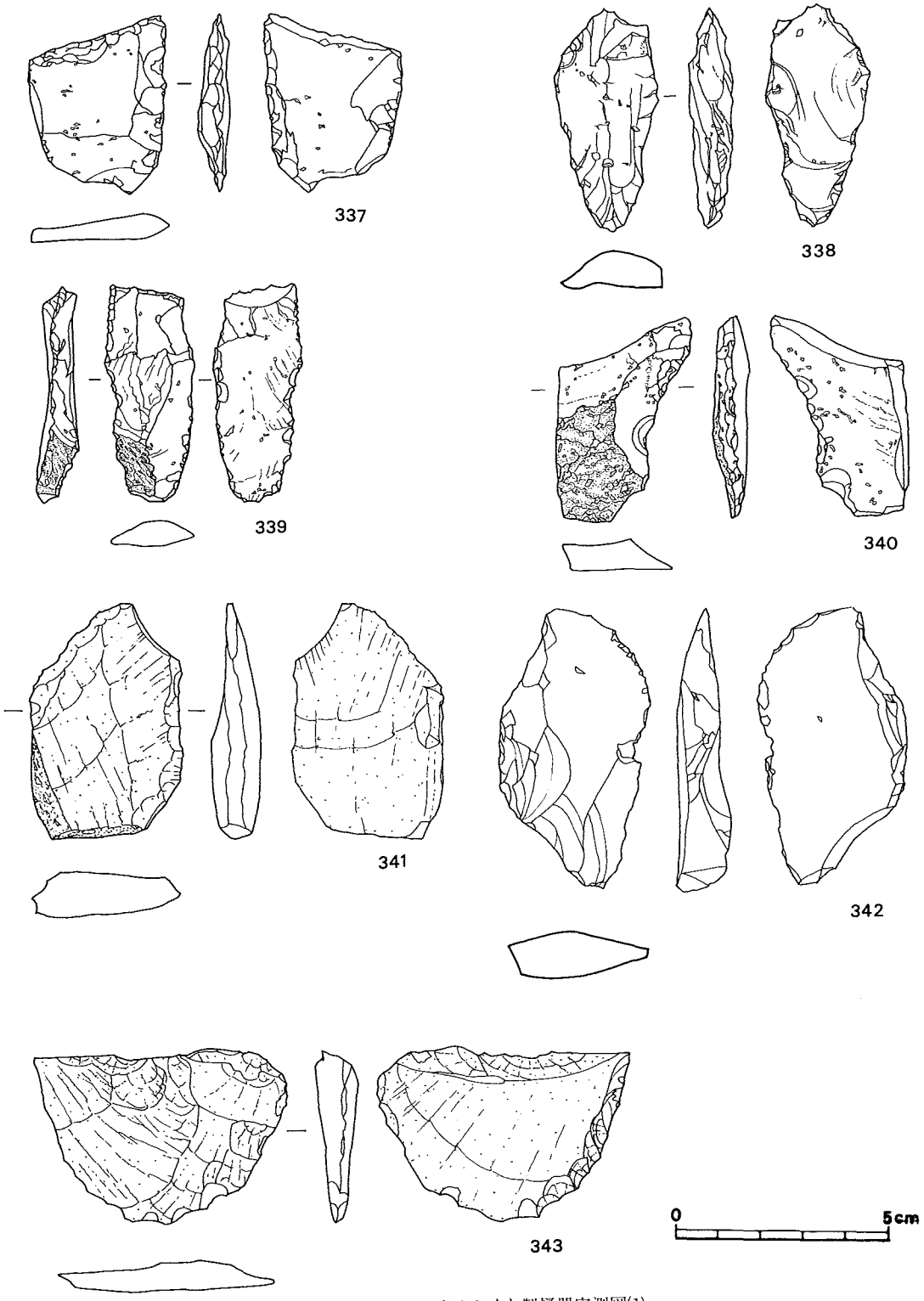



Fig.57　サヌカイト製掻器実測図(1)

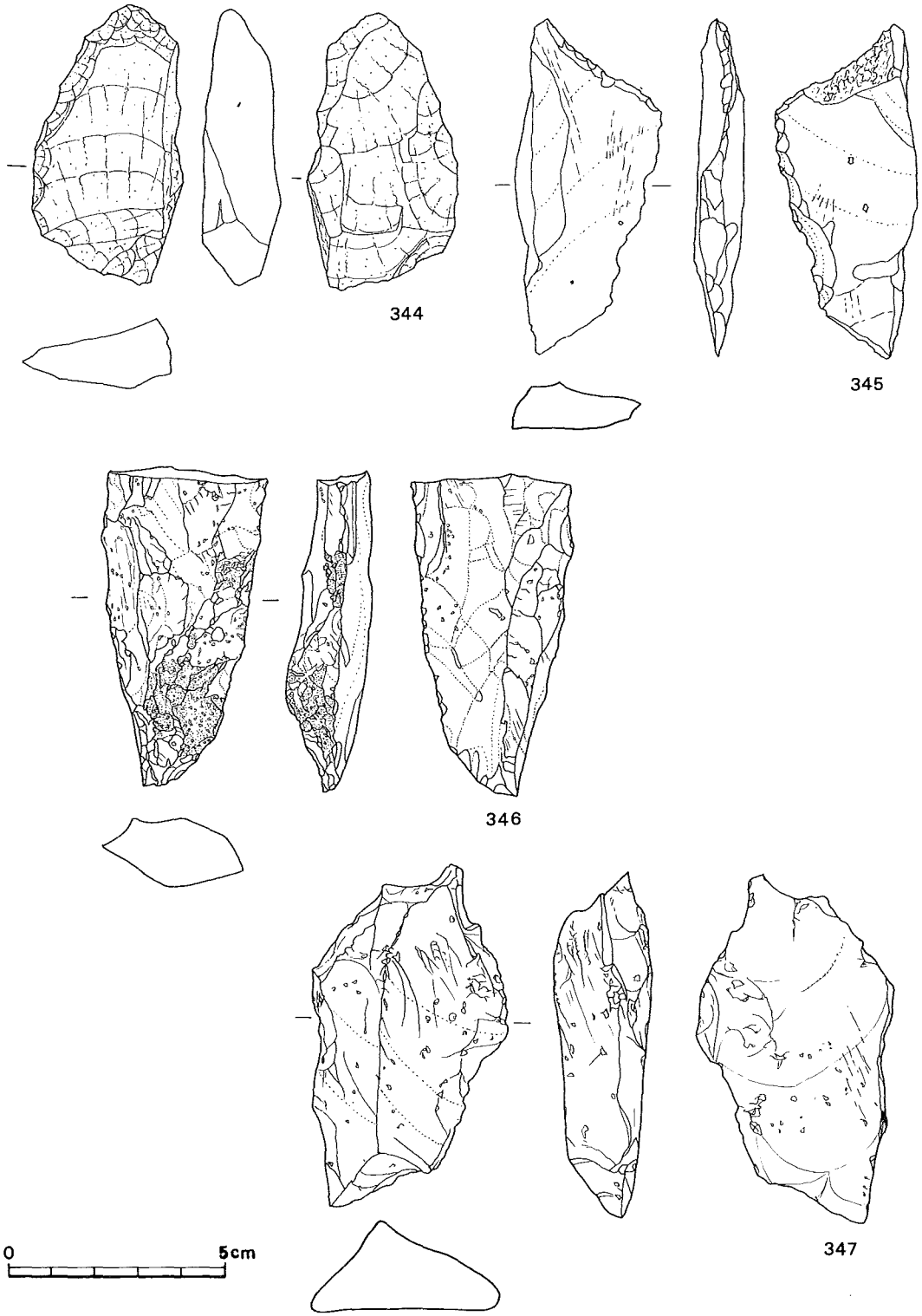
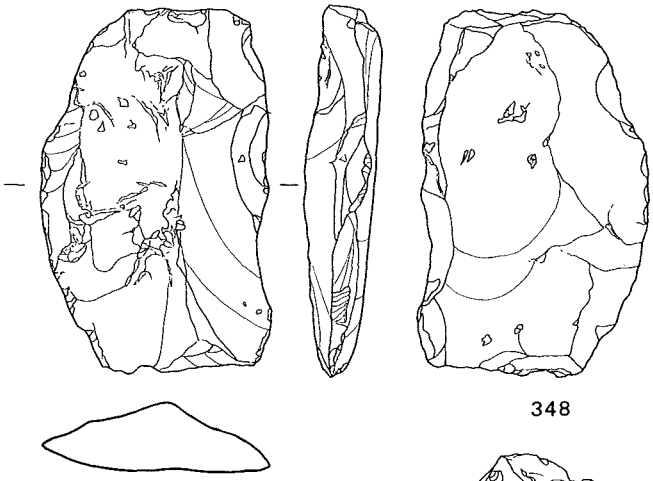
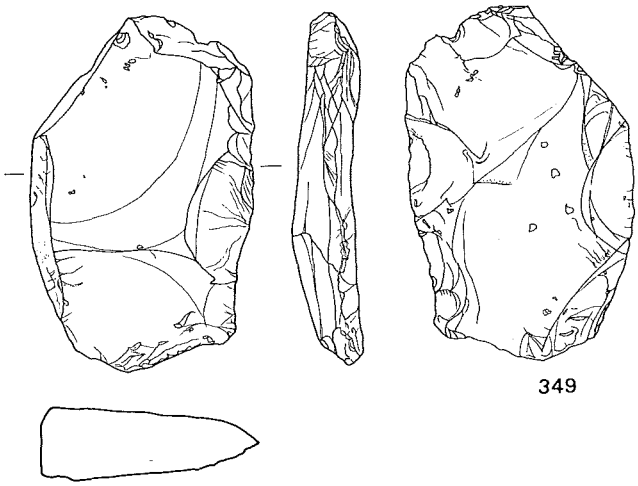



Fig.58　サヌカイト製掻器実測図(2)



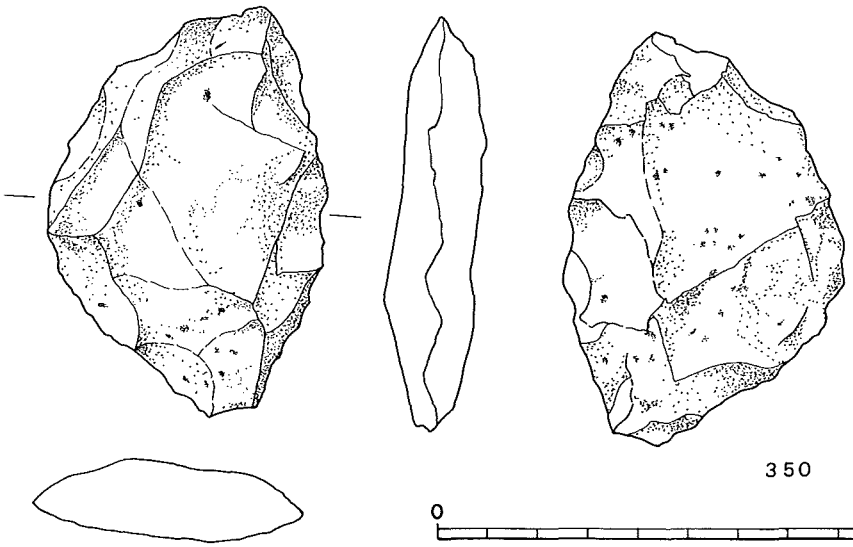




Fig.59　サヌカイト製掻器実測図(3)

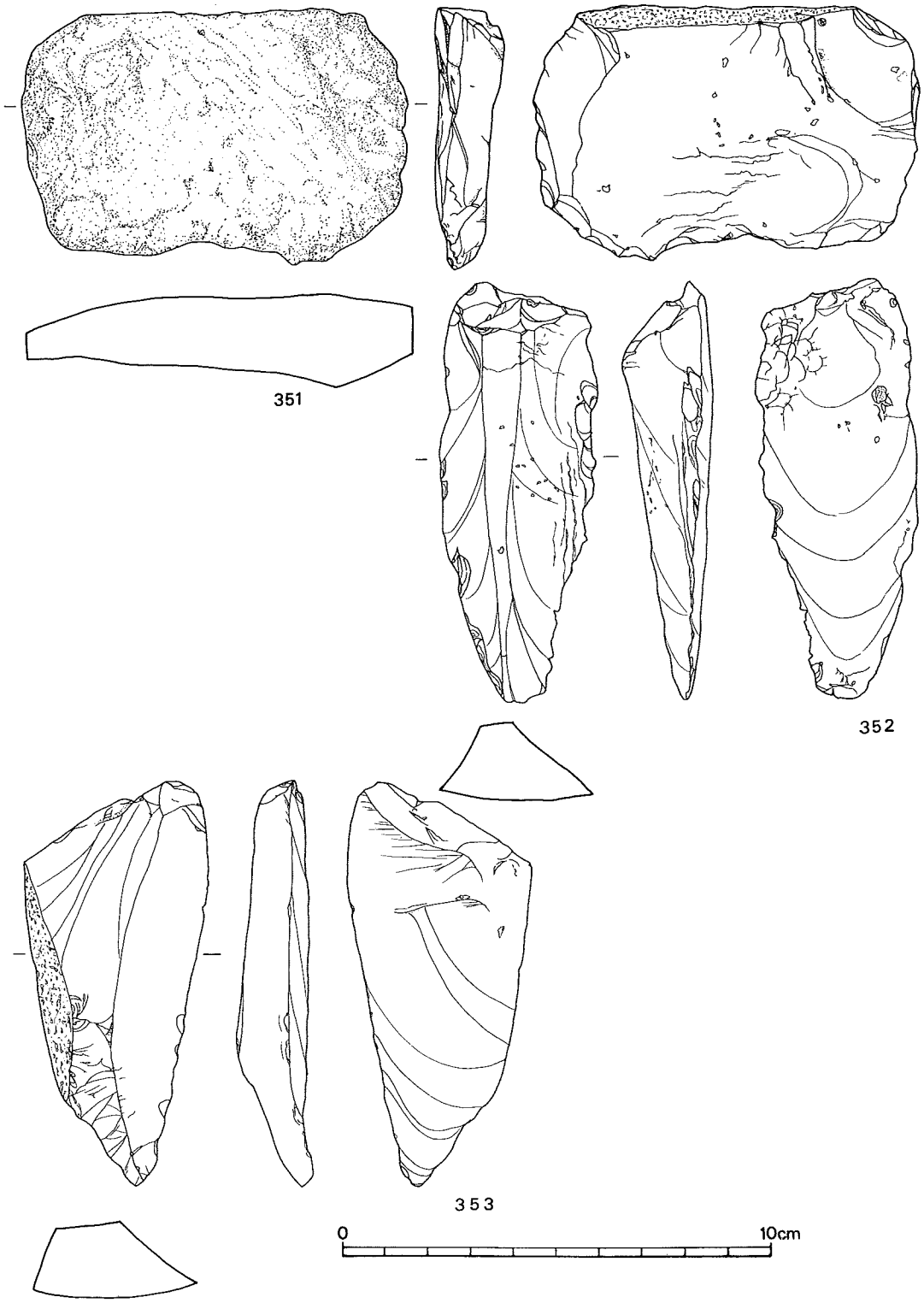



Fig.60　サヌカイト製掻器実測図(4)

**礫器**（Fig.63・**359**）

Ｊ－３区表土層出土の大形の角礫状サヌカイトを素材とした礫器である。右面頂部には自然面を多く残し，下端は両面から粗く剝ぎ，刃部を作り出している。左面は全体を剝いでいるが，中央部から下端にかけては，更に段をつけて薄く剝ぎ，刃部としている。重量0.9kg。時期的には先土器時代に属するか，縄文時代に属するか不明。

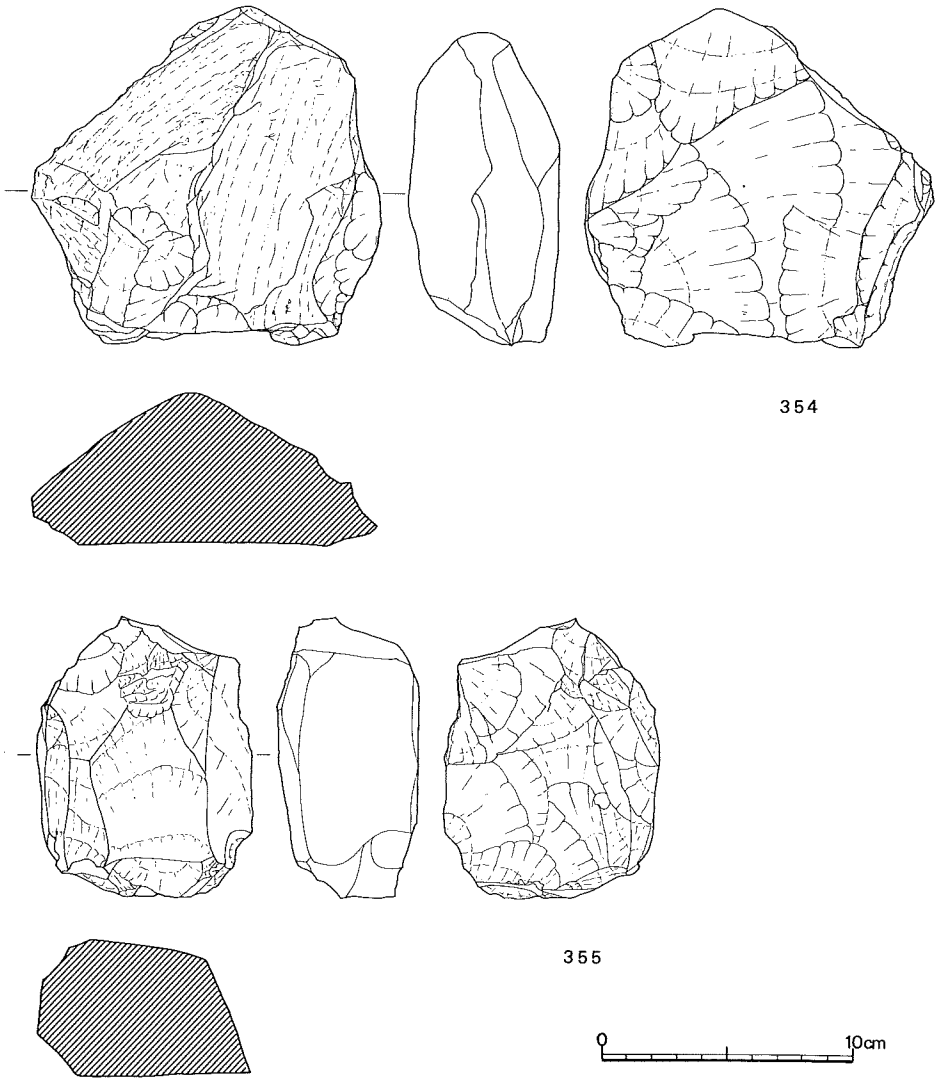
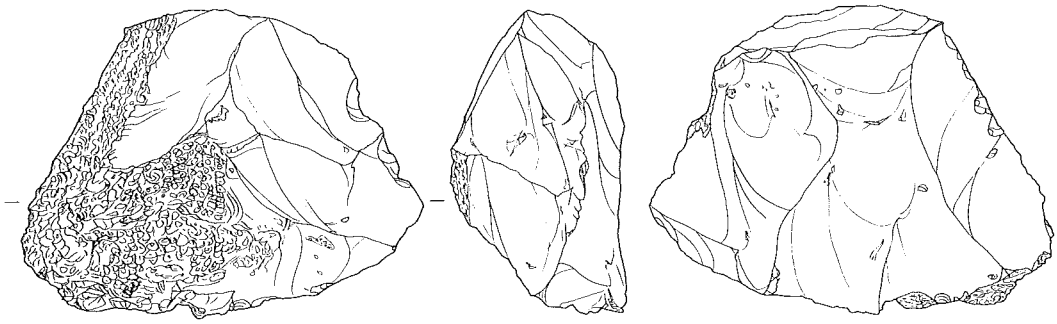
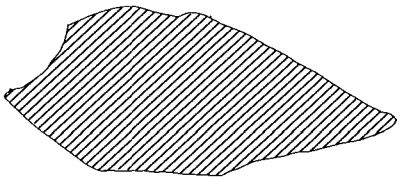
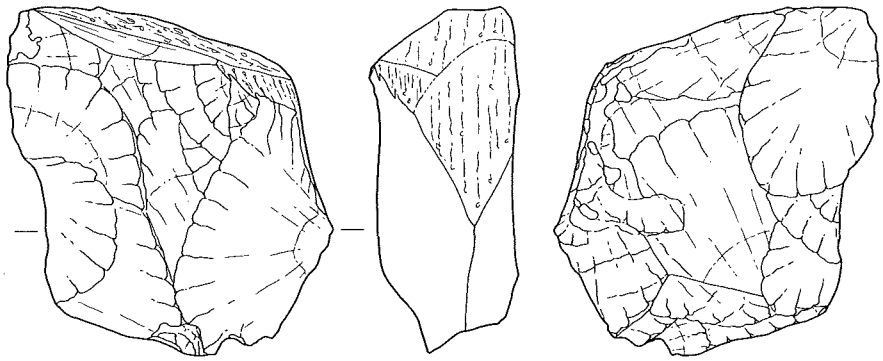



Fig.61　石核実測図(1)

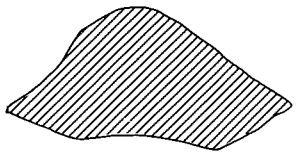


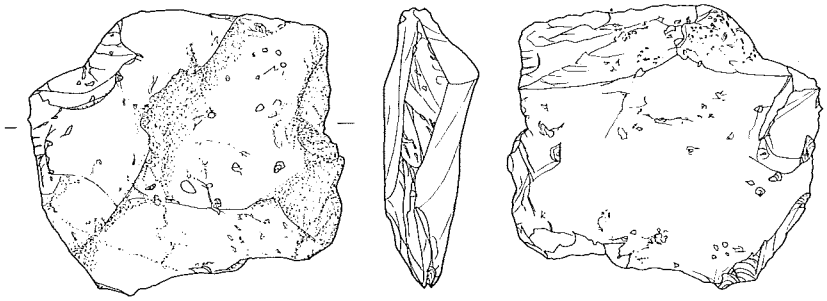
356



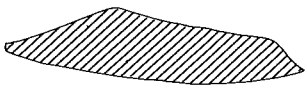


357





358



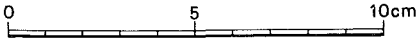



Fig.62　石核実測図(2)

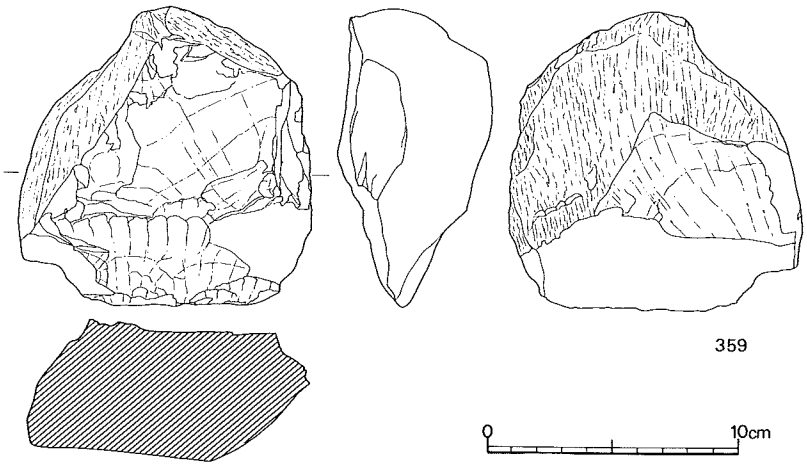



Fig.63　石核実測図(3)

3．出土遺物の利用石材について

出土遺物の中で石器の占める割合は90％以上を越え，石材は大きく黒曜石とサヌカイトに分けられる。なかでも黒曜石は原産地による区別が行われ，遺跡出土の石器も色調により次のように分けた。

黒曜石A……漆黒色を呈し，良質でガラス質に富む。原産地は腰岳（佐賀県伊万里市）大崎半島（川棚町）針尾（佐世保市）産が該当する。大崎半島は遺跡から北側の至近の距離にあり，針尾は大村湾の湾口に位置する。石材の依存度は50％を越える。

黒曜石B……灰青色または灰緑色を呈し，剥離面は風化が著しく灰褐色を呈することが多い。割っても不透明。原産地は亀岳（西彼町），針尾，淀姫（東浜）産（佐世保市）が該当する。石材依存度25％

黒曜石C……灰白色を呈する。ガラス質に富む。原産地は針尾産。石材依存度は４％

黒曜石D……灰色を呈する。ガラス質に富むがやや不透明。松尾川（佐賀県嬉野町）が該当する。石材依存度は20％

石材分類は，A～Dについては長崎県で出土する石器について通常基準としているものである。また原石の細部については「針尾人崎遺跡」[註1]を基準としている。

註１　長崎県教育委員会・電源開発株式会社『針尾人崎遺跡』長崎県文化財調査報告書第60集　1982

## 4．先土器時代のまとめ

本遺跡における先土器時代の文化層は明確には3層ということになるが，土質が長崎県特有の黄褐色，あるいはまた赤褐色粘質のローム層であることや，傾斜地に位置していることなどから，単純層として把握することは出来なかった。縄文時代の石鏃がかなり混在して出土したことも流れ込みによる堆積が進行していたことを示している。しかし，基本的には先土器時代の石器群は下層部からのものが多い。

調査によって得られた遺物はナイフ形石器，台形石器，細石器，細石刃，三稜尖頭器，尖頭器，掻器，削器，使用痕ある剥片，石核，不定形な石器などの組成となっている。その中で，一番多く認められる石器は使用痕ある剥片と細石刃，ナイフ形石器へと続く。

石質は大別すると，黒曜石とサヌカイトである。他の石質は玄武岩質のものが若干あるが，圧倒的な量を誇るのは黒曜石である。なお，黒曜石の種類については石材の項目を参照されたい。

遺物の分布については，先にも述べたように，約8,000㎡の広さの中で，6個所の集中地点が観察できる。地形は北から南へ傾斜し，谷状になり，水流のある渓谷へと合流している。遺物分布N・Mの南北のラインを軸とする地点に第2・第3の分布圏が位置するが，この地点は浅い谷状になっており，遺物が集中する。この第3の分布圏が一番大きい。

**器種別分布では**

ナイフ形石器が第2・第3分布圏に集中し，一番低い第4分布圏にも集中している。

細石刃では，全ての分布圏に出土しているが，特に第6分布圏のD－8区に集中している。

更に，特徴的なことは，南西側のグリッドに集中している。

尖頭器は，第3分布圏に集中し，他の分布圏にも認められるが，数の上では片寄りが見られる。

以上のように分布図で見る限り，器種によって，若干のまとまりの変化が観察される。

ナイフ形石器を見てみると，石質はすべて，黒曜石を使用。サヌカイト製は1点も含まれていない。全長は5㎝を越えるものが復原長も入れると，7点を数える。ほとんどは縦長剥片を素材としたもので，二側縁加工を施し，切り出しナイフ状に斜行する刃部をつけたものが多い。又，柳葉形に細身の剥片を選び，二側縁加工を行い，刃部を長くもつものがある。南高来郡国見町百花台遺跡はこれまで数回の調査が実施され，遺物の出土量の多さから，標式的な遺跡として知られている。ここでは，ナイフ形石器はⅠ類からⅤ類に分け，更に細分されている。本遺跡の石器も大枠において，この分類に準じても良いと思われる。又，同様のナイフ形石器の組成は諫早市周辺の西輪久道遺跡，長牟田遺跡，鷹野遺跡も同様である。近隣の主要な遺跡としては，佐世保市上原遺跡，東彼杵町大野原遺跡，カブラ堤遺跡，外園遺跡などがあげられる。

台形遺跡はわずか3点の出土である。基部は切断面をもち，刃部が開く原の辻型や枝去木型になるものである。台形石器出土の遺跡もナイフ形石器出土の遺跡と同一に伴出する。剥片尖

頭器は小形のものが2点得られているが，ナイフ形石器との供伴を示すと考えられる。

石器群の中で，一番特徴的なことは尖頭器の出土例の多さである。明らかに，先土器時代の尖頭器と考えられるのは三稜尖頭器と全体が粗く剝離調整されたFig.40・41の石器群である。尖頭器は佐賀県多久市を中心に，三年山遺跡や茶園原遺跡[註1]で良好な資料が得られている。又，最近では，長尾開拓遺跡や山王遺跡[註2]からも，尖頭器文化の報告が示されている。唯，これらの遺跡の場合は圭頭型の尖頭器を伴っている。地理的にも近い本遺跡にも大きな影響を与えていると思われるが，圭頭型については，類似品が1点あるのみで皆無と言ってよい。しかし，幅広型のFig.41・213などはその影響下にあると見てよい。県内では調査による出土例は知られていないが，北松浦郡吉井町の福井川上流の金城遺跡[註3]から類似資料が採集されている。

尖頭器の中で，一番問題になるのが，Fig.42・214以降の石器群である。尖端部が丸みをもち，最大幅の重心が下部に置かれるか，扁平に仕上げられているもので，百花台遺跡第Ⅲ層の押形文土器（楕円文）と供伴する尖頭器と類似[註4]している。同様の石器は佐世保市岩下洞穴[註5]の押形文と同層や泉福寺洞穴[註6]，大分県の二日市洞穴にも求められる。以上のことから考えると，本遺跡の資料も縄文時代と考えなければならないが，その場合は，打製石鏃や局部磨製石鏃，尖底を呈する無文土器などと供伴する石器ということになる。だが，出土層が不安定な状況では断定することは出来ない。多久周辺の遺跡にしても，細形の尖頭器出土例は多いからである。おそらく，過渡期に出現する石器と考えられる。

註1　西村隆司　『茶園原遺跡』　多久市教育委員会　1979
　　西村隆司　『茶園原遺跡Ⅱ』　多久市教育委員会　1980
2　西村隆司・南島敏浩　『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報8集』佐賀県教育委員会　1985
3　福田一志　『長崎県の考古学Ⅰ』長崎県考古学会　1979
4　副島和明　「百花台広域公園建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書」長崎県文化財調査報告書　第92集　1988
5　麻生　優　『岩下洞穴の発掘記録』佐世保市教育委員会　1968
6　麻生　優　『泉福寺洞穴発掘調査の記録』　佐世保市教育委員会　1984

5．縄文時代の遺物

縄文時代の遺物は，2層，及び3層からの出土である。土器は小破片まで入れても，100点余り，全て無文土器である。石器は石鏃・石斧・石皿・磨石・異形石器など，一応の組成は見られる。この中で圧倒的量の多さを誇るのが石鏃である。打製および局部磨製石鏃に分けられる。剥片石器・尖頭器も縄文的なものが多いが，先土器時代の中で取り上げたものもある。

以下，各遺物について，説明を加える。

6．縄文土器（Fig.64・1～11）

小破片を含めても，100点余り，ここでは無文土器11点を図示した。1～3は口縁部である。1はやや薄い器壁で，胎土には角閃石や長石・白い砂粒を含み，粗い。口縁は，わずかに外反する。2・3は外面が茶褐色内面は黒褐色を呈している。胎土には，角閃石や長石・石英粒が入る。器壁厚く，焼成は甘い。4～7は前者にほぼ準じた胎土焼成で，胴部である。8は尖底状に丸みをおびた部分で，外面は風化が進んでいる。9・10は器壁薄く，胎土は堅くしまっており，黄褐色を呈する。底部に近い部分である。11は尖底部であるが，端部の磨耗著しく，胎土も脆い。色調は黄褐色を呈する。

以上の土器は胎土や形態から，縄文早期に比定されると思われる。長崎県における押型文土器は島原半島と，県北の洞穴遺跡を中心に良好な資料が得られている。しかし，県央地区である大村湾沿岸では，押型文土器よりも，それに伴なう無文土器の出土が多いが，量的には，少量である。又，本遺跡と同様の石器組成をもつ諫早市西輪久道遺跡，大村市嶽ノ下遺跡，佐世保市岩下洞穴では押型文土器と塞ノ神式土器の供伴が見られるが，ここでは確認されていない。

7．縄文時代の石器

**トロトロ石器**（Fig.65・01～05）

縄文早期の遺跡から，主として出土する異形局部磨製石鏃，あるいは，異形石鏃と呼ばれたトロトロ石器は，本遺跡でも若干の資料が得られた。

ここにあげた資料は，岡本東三氏「トロトロ石器考」の概念を参考とした。

01は表面採集の完形品である。石材はチャートを使用し，周縁加工は両面から丁寧に行われ，基部外側が抉られ，胴部が張り出す。基部内側は半円状に調整を受けているが，脚部は外に反り出している。先端部は丸くおさめられ，中央のふくらんだ部分は磨耗している。長さ2.7cm・幅0.7cm。02はR－12区からの出土の脚部先端をわずかに欠失するほぼ完形品。石材はチャートを使用。形状はほぼ前者と変らないが，先端がやや丸くなり，基部の抉りがやや尖る部分に変化が見られる。中央部は両面とも磨耗を受けている。長さ2.7cm，幅0.9cmを計る。03は先端部をわずかに欠き，形態的にはトロトロ石器に類似するが，安山岩を素材としているところに難点がある。ただ，中央部と脚部稜線に磨耗が見られる。一応参考資料としておく。04は先端部を欠失する。珪質岩で，乳白色に近い。基部に近い両側縁に，わずかな突起があり，左脚部は，

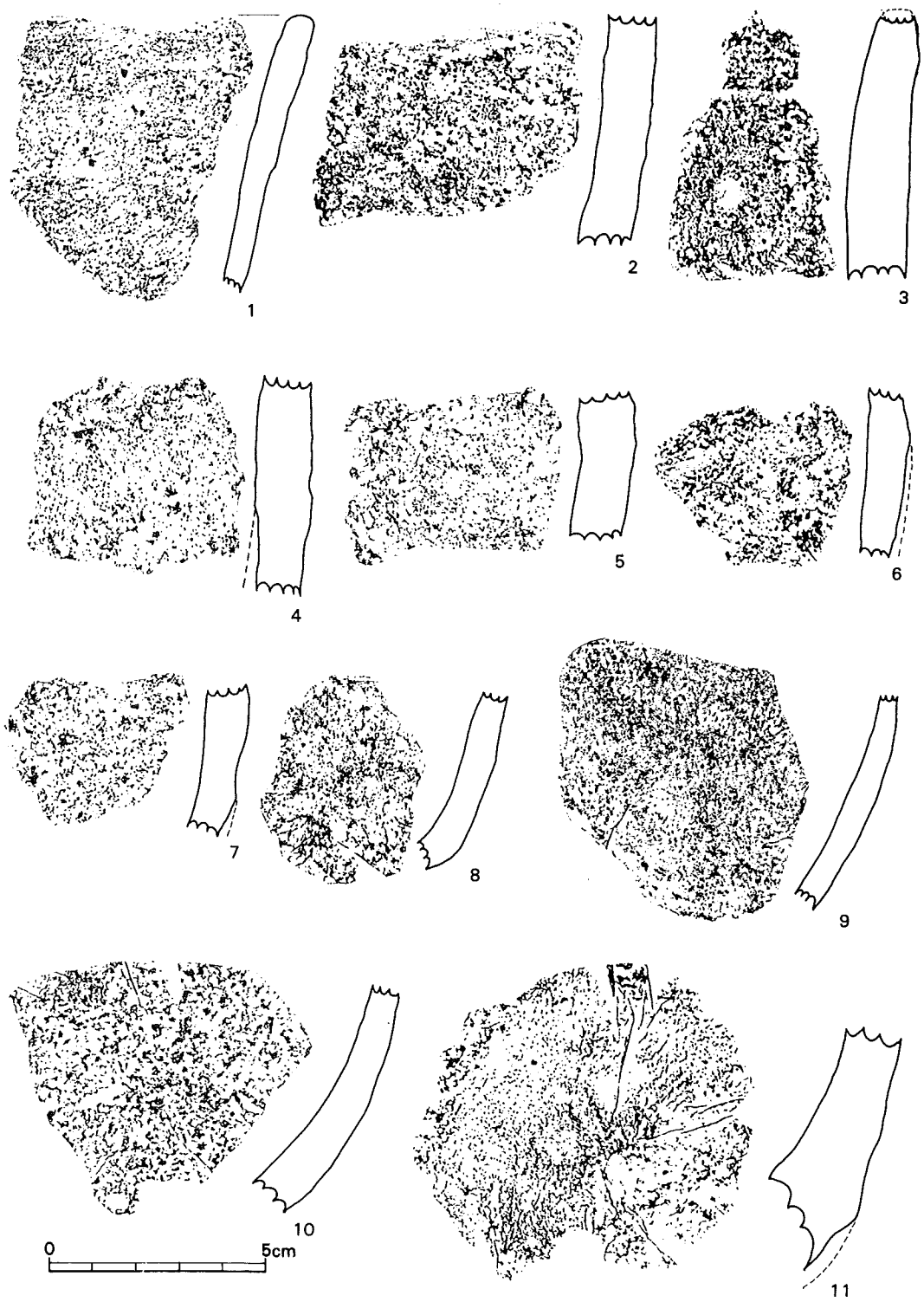



Fig.64　縄文土器実測図

外に反るように開くが，右は内側に反るように丸みをもつ。中央部は磨耗を受けている。

**05**は脚部先端をわずかに欠失するチャートを使用。先端部は丸くなり，脚部は短かく，外に開く。長軸に対して厚みがある。長さ1.9cm，厚さ0.6cmを計り，一番小形。

以上の観察をもとに，これまでの出土例との比較をしてみたい。岡本氏分類によると，先端部の形態によって，４型式に，形態の大きさから３種類に，合計12種に区分されている。それによれば，**01**・**02**は第Ⅰ類Cに，**04**・**05**は第Ⅱ類Cに近い部類に入る。トロトロ石器は全国的に出土例は少ないが，量的には，非常に限られてくる。九州においては，出土遺跡は30例に達していないと思われる。長崎県下では，平戸市志々枝[註2]・佐世保市泉福寺洞穴[註3]・北有馬町今福[註4]遺跡、大村市上水計遺跡に各１例だけで，本遺跡が４例目，確実なものでは，８本目ということになる。

伴出土器は早期の押型文土器の場合がほとんどであるが，本例も早期の無文尖底土器に供伴するものであろう。

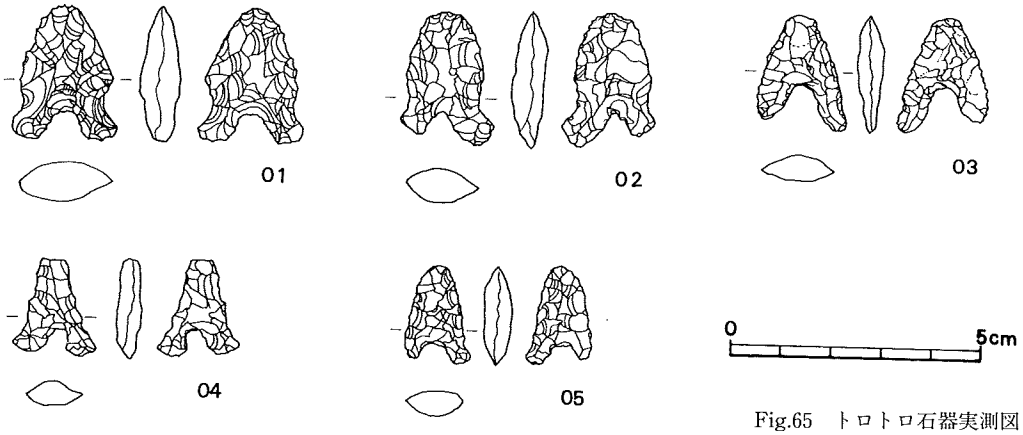



Fig.65　トロトロ石器実測図

**石鏃**（Fig.69～78　**1**～**252**・Tab.４）

調査区の全域から石鏃は万遍なく出土した。反面表面採集による量も相当数にのぼる。調査期間中に得られた総数は2,561点，石器の中では群を抜いている。Fig.67の打製石鏃密度分布図を見てみると，Ｌ－11区に89点，Ｌ－10区，67点が出土し隣接区を合せて140点が集中している。この傾向は，ドットでとりあげた遺物の密度と同じである。

石材の利用は，黒色の黒曜石が全体の43.1%，灰青色の黒曜石22.4%，灰白色の黒曜石22.7%，乳灰色の黒曜石4.5%，サヌカイト6.9%，チャート0.2%，その他0.2%となり，黒曜石が最も多い。この利用率は局部磨製石鏃にも見られる。

石鏃は打製石鏃と局部磨製石鏃に大別されるが，これらの分類は白石浩之氏の分類[註8]に準じた。なお実測図は全てを載せていないが，その他にも，５㎜以下の石鏃や１cm以下のものもかなり含まれ，分類もまだ考慮の余地がある。

Ⅰ類　平基無茎式……Ａとして基部である底辺が直線的になるもの。形は１～６に細分した。

II類　凹基無茎式……基部に抉り込みをもつもの。BからFに分け，更に，形で1～6に細分した。

III類　凸基無茎式……基部は丸みをもち，やや尖った形になるもの。形は1～2に分類した。

IV類　凹基無茎式の中でやや細分出来なかったものを含めた。

上記に従って，出土石鏃を概観する。説明は「かたち」を優先的に考え，更にその形式の変化をたどる。そのため説明の最初には平基無茎式が来ることを断っておく。

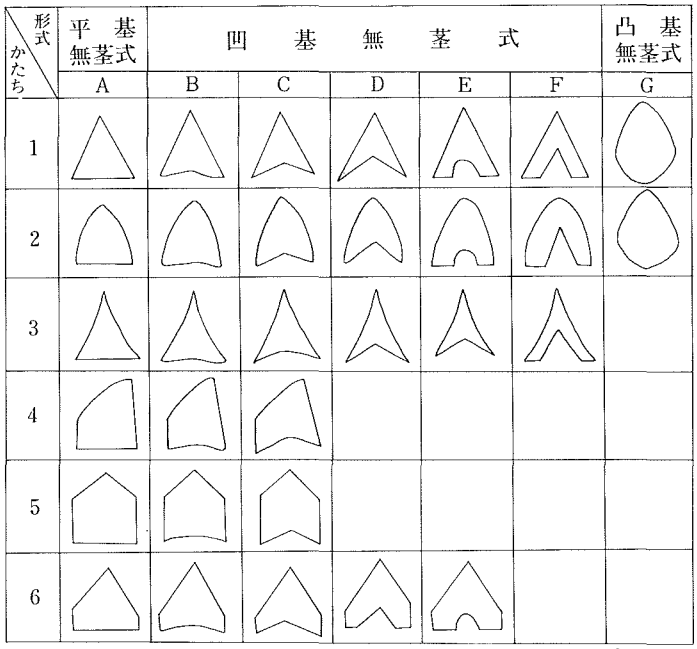



Fig.66　石鏃分類模式図

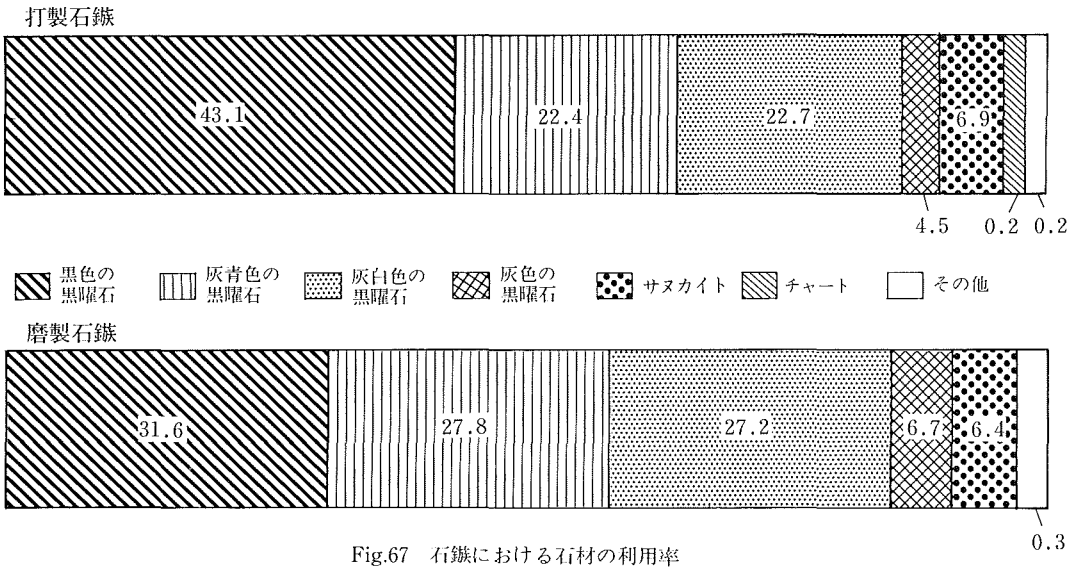



Fig.67　石鏃における石材の利用率

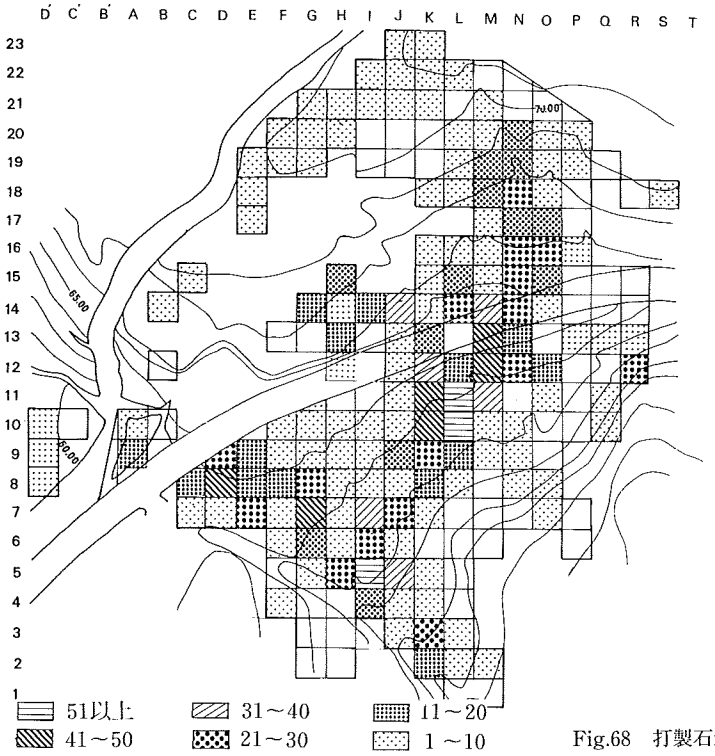



Fig.68　打製石鏃密度分布図

Ⅰ類1A　**1～11**　二等辺三角形に近く，底平が直線的なもの。

Ⅱ類1B　**12～29**　二側縁は直線的に頂点で交わり，底平はゆるく内湾する。わずかに脚部を作り出す。

Ⅱ類1C　**30～47**　二側縁は直線的に頂点に交わり，基部は内側に尖るように抉られ，両脚先端は尖る。

Ⅱ類1D　**48～53**　二側縁は直線的に頂点に交わり，基部の抉りは大きい。脚部先端部は尖る。

Ⅱ類1E　**54～63**　二側縁は直交するが，先端部はやや丸みをもつものが多い。基部の抉りも丸くなり，脚部は隅丸におさめられる。

Ⅱ類1F　**64～67**　二側縁は頂点で鋭く交わり，全体が細身である。基部の抉りも深い。脚部先端は平坦なものと，丸みをもつものがある。

Ⅱ類2A　**68～79**　二側縁はゆるく内湾し，頂部は丸みをおびるものが多い。底辺は直線で，たち上り部は隅丸になる。

Ⅱ類2B　**80～104**　両側縁はゆるく内湾し，基部の抉りは浅い。

Ⅱ類2C　**105～118**　両側縁はゆるく内湾し，基部の抉りはやや深く，脚部先端はやや尖り気味である。

Ⅱ類2E　**131～148**　両側縁はゆるく内湾し，先端は尖る。基部に特徴があり，大きく抉られ，脚は内湾し，先端は丸くなる。いわゆる鍬型鏃と称されるものがこの部類

である。

II類2F　149～152　両側縁はゆるく内湾するが，基部がやや尖り気味に抉られている。

I類3A　153～155　両側縁は外湾し，底辺は直線的になる。

II類3B　156～160　両側縁は外湾し，基部も浅く抉られている。

II類3D　161～164　両側縁は外湾し，基部の抉りは丸く，やや深い。先端部は細く尖る。

II類3E　165～171　両側縁は外湾し，基部は大きく抉られ，脚部が長く，先端部は尖る。

I類4A　172～179　いびつな三角形を呈し，台形状になるものもある。片側縁が内湾し，底辺は直線的になる。横幅の割合が大きくなる。

II類4B　180～186　片側縁が内湾，一方は外湾し，基部は浅く抉られる。横幅の割合が大きくなる。

II類4C　187～191　片側縁が内湾し，一方は直線的に斜行する。基部はやや深く抉られ，脚部先端は尖る。

I類5A　192～193　両側縁中央が内側に折れ，五角形状を呈する。頂部は丸くなり，底辺は直線的。

II類5B　194～197　両側縁がわずかに張り出し，底辺が浅く抉られている。

II類5C　197～198　両側縁中央から上下両端が折れ，頂部は尖り，基部はやや深く抉られている。

II類5D　200　両側縁の肩がわずかに張り，基部も大きく抉られ，深い。鍬型鏃に近い。

I類6A　201～205　先端部は尖り，両側縁は中央部から下で，肩が張る。基部は直線になる。

II類6B　206～209　両側縁の下部に肩が張るものが多く，基部は浅く抉られている。

II類6C　210～213　両側縁は直線的に頂部で交わるが，脚部外側は角がつけられ，抉りは深い。

II類6D　214～217　尖端部から直線的な両側縁は基部で内湾し，丸みをもつ，抉りは深く，脚部は尖るものが多い。

II類6E　218～232　両側縁が長いものと短いものがあり，内湾しながらも脚部で張り出す。抉りは深く，鍬型鏃とされるもの。

III類1G　233～241　両側縁は概して内湾している。基部は丸く，ややつき出している。小形のものが多い。

III類2G　242～243　両側縁は直線的に頂点で交わるが，基部は丸く調節され，わずかに平坦部が残る。

IV類　凹基無茎式に属するが，形態を若干異にするもの9点をあげた。すべてに共通しているのは両側縁に意識的に鋸歯状の剝離を行っていることである。247は両側中央部に少し大きな突起状の剝離があり，有刺鏃に近い。248～252は両側縁中央部から長い脚部が外に開くように付けられ，抉りも鋭くなっている。

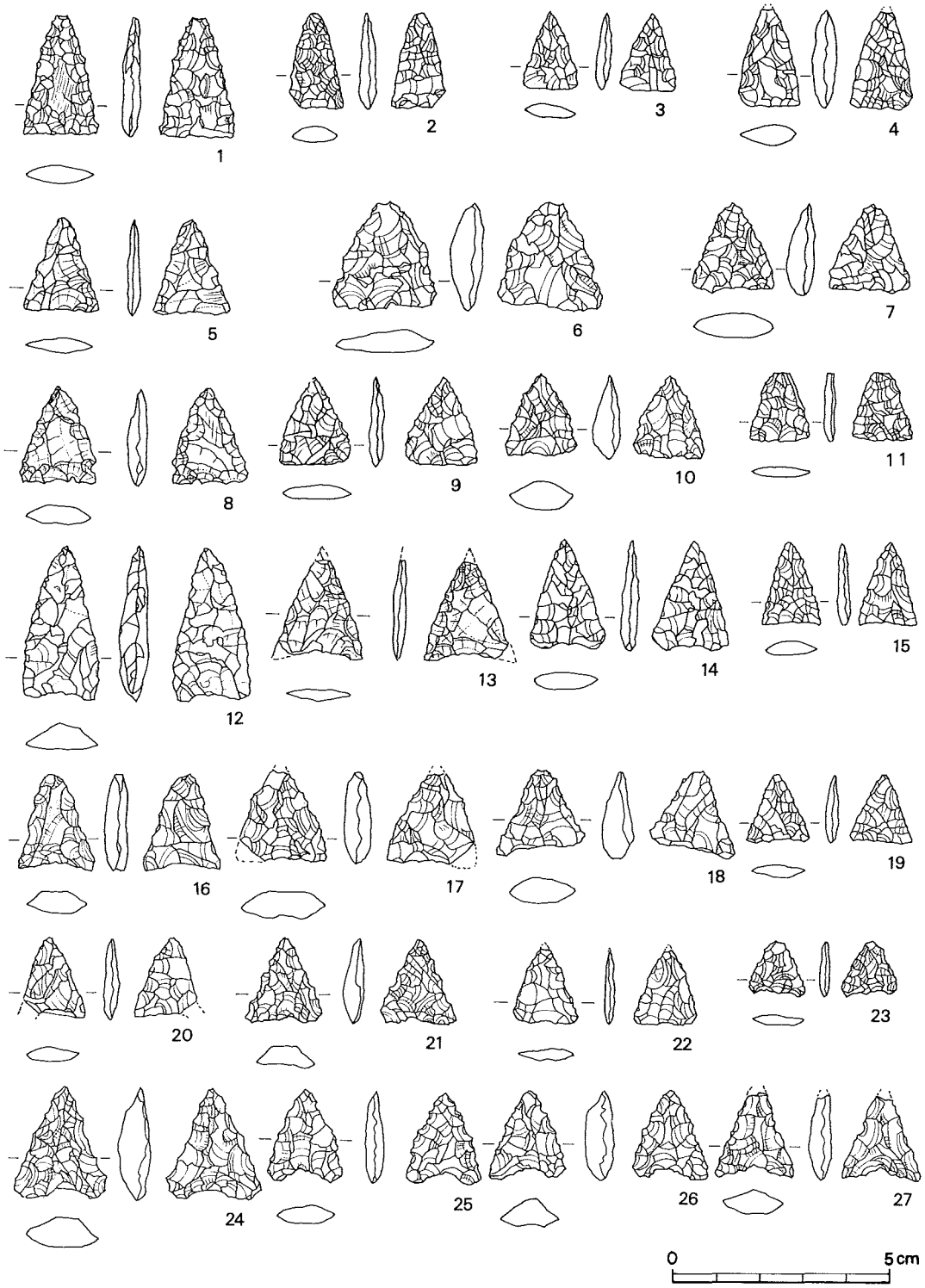



Fig.69　打製石鏃実測図(1)

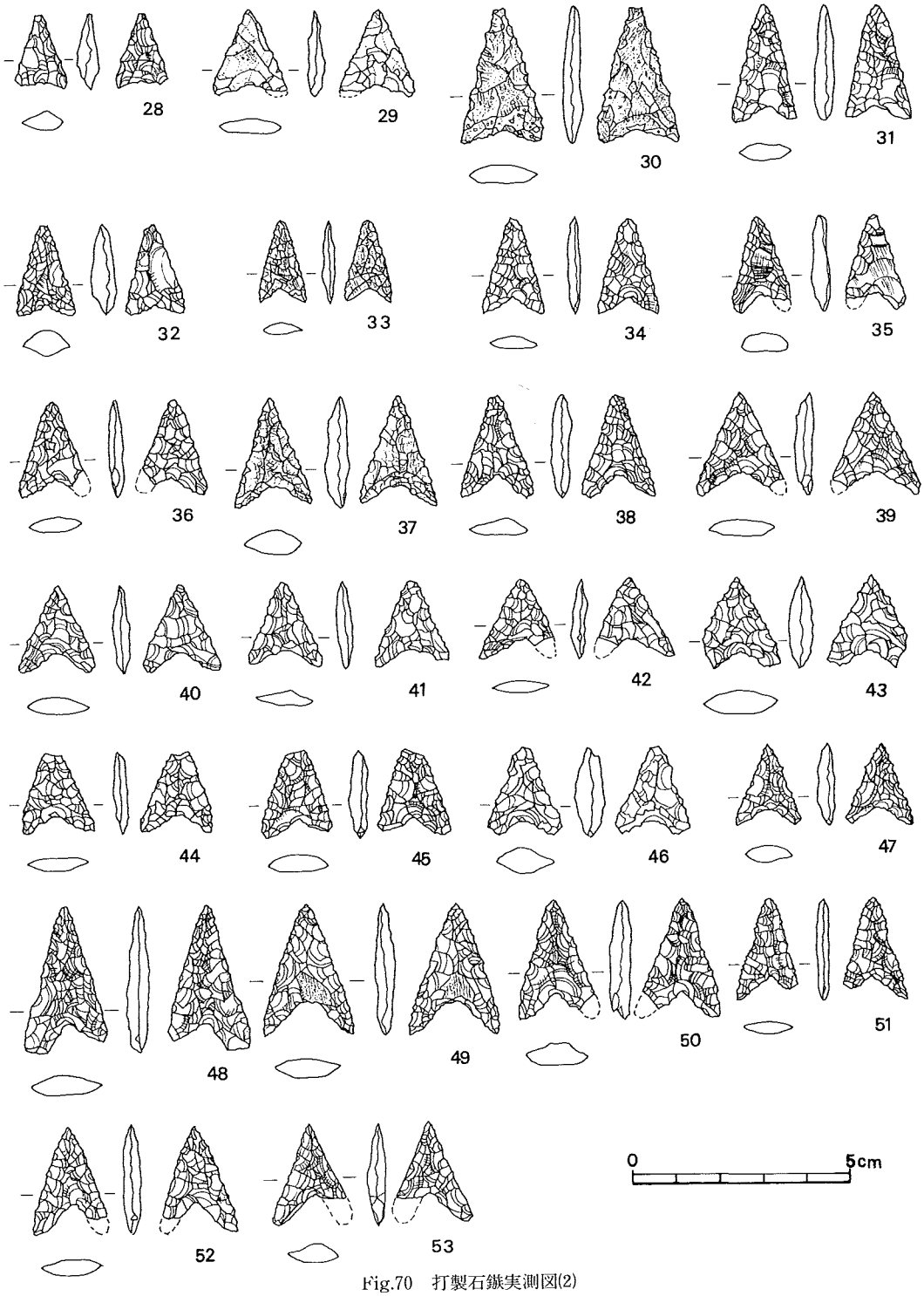



Fig.70　打製石鏃実測図(2)

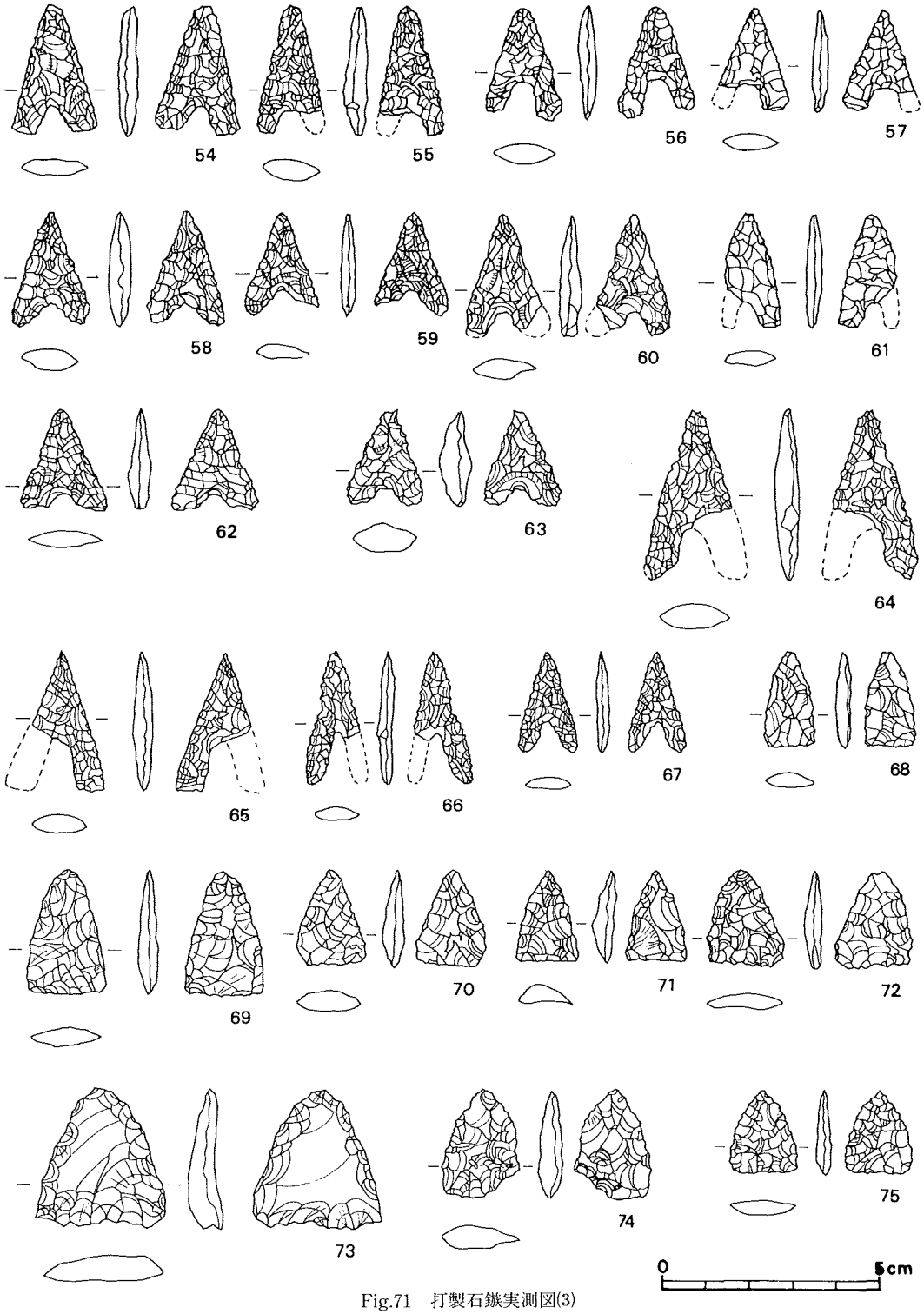



Fig.71　打製石鏃実測図(3)

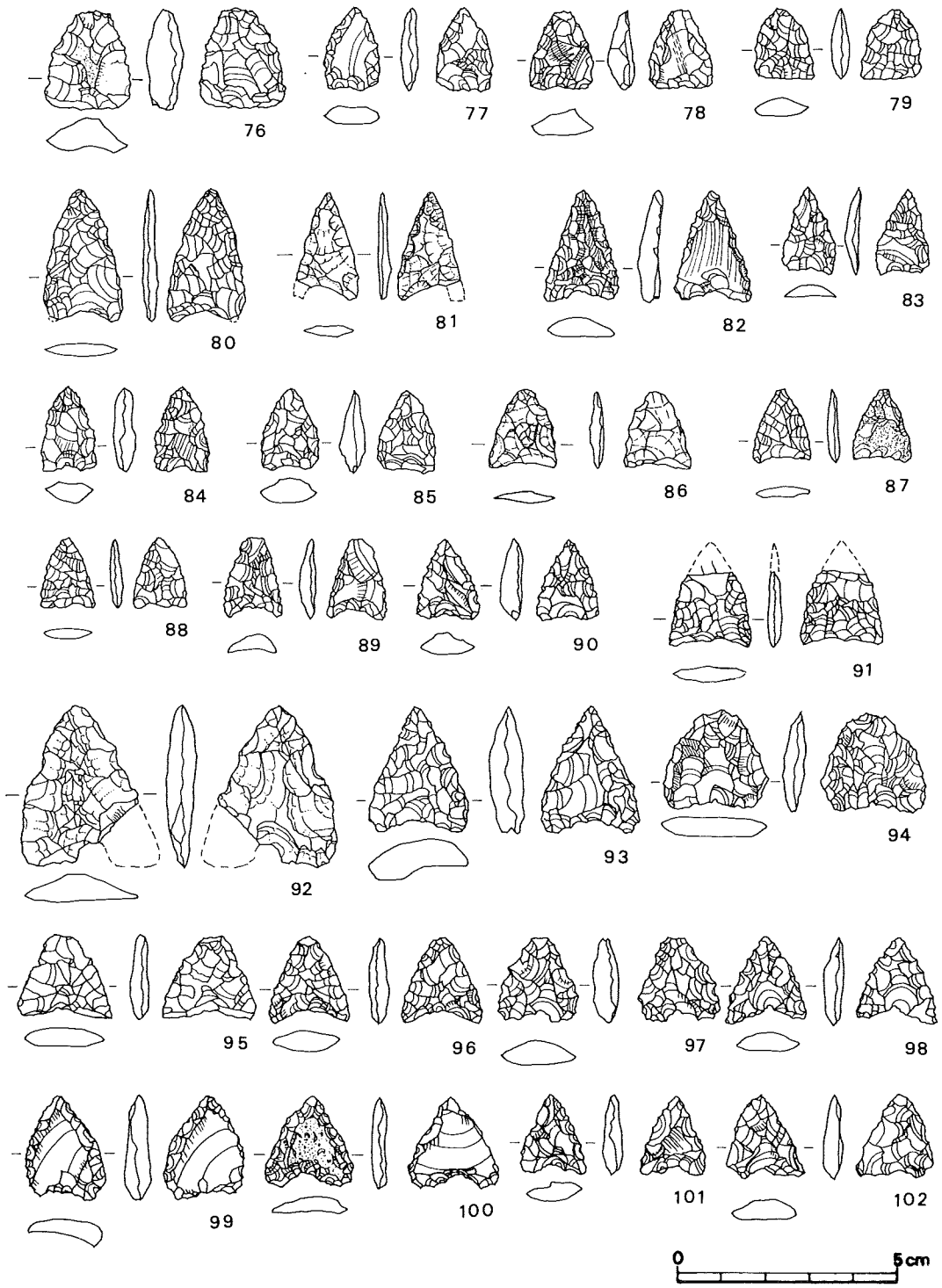



Fig.72　打製石鏃実測図(4)

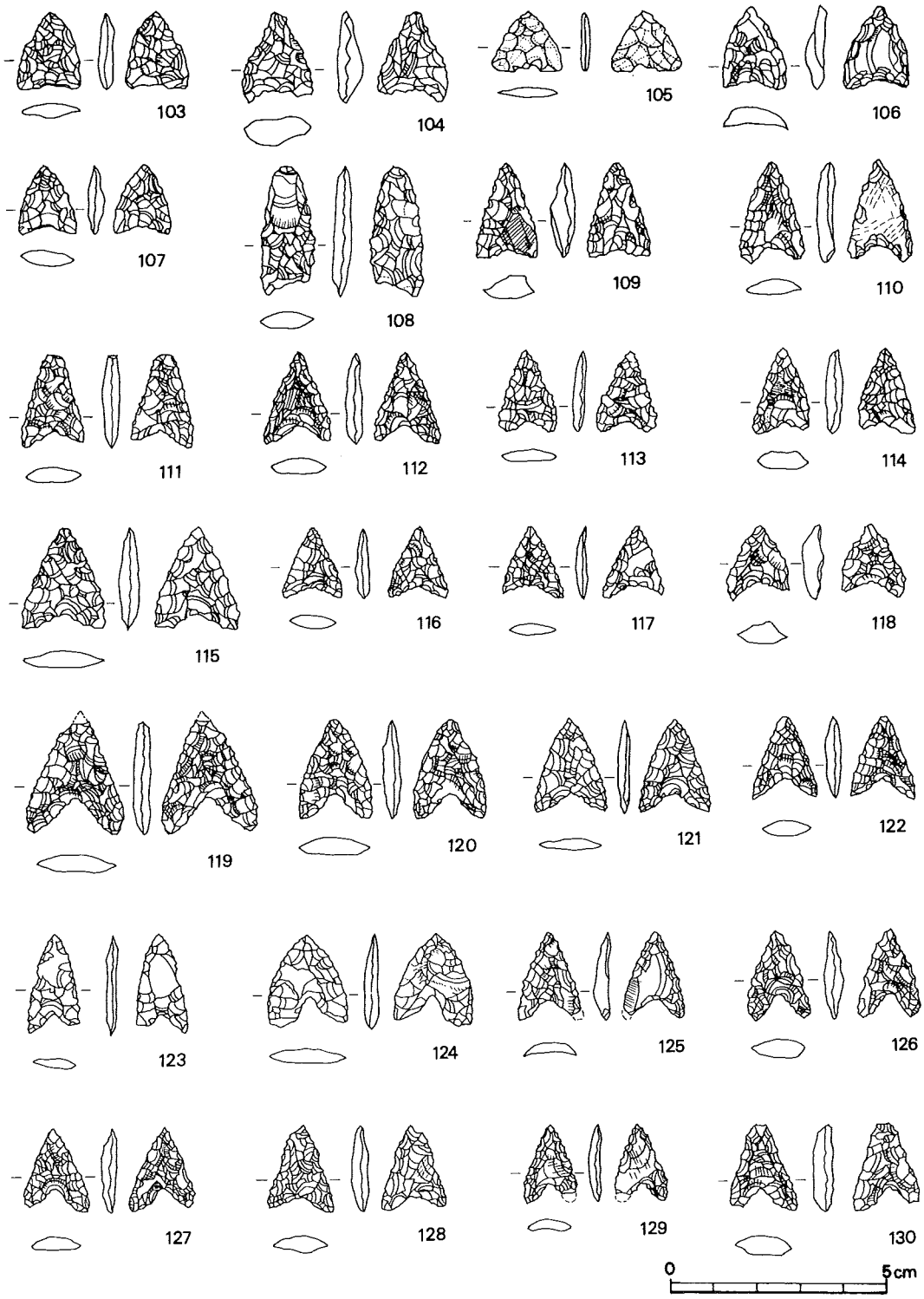



Fig.73　打製石鏃実測図(5)

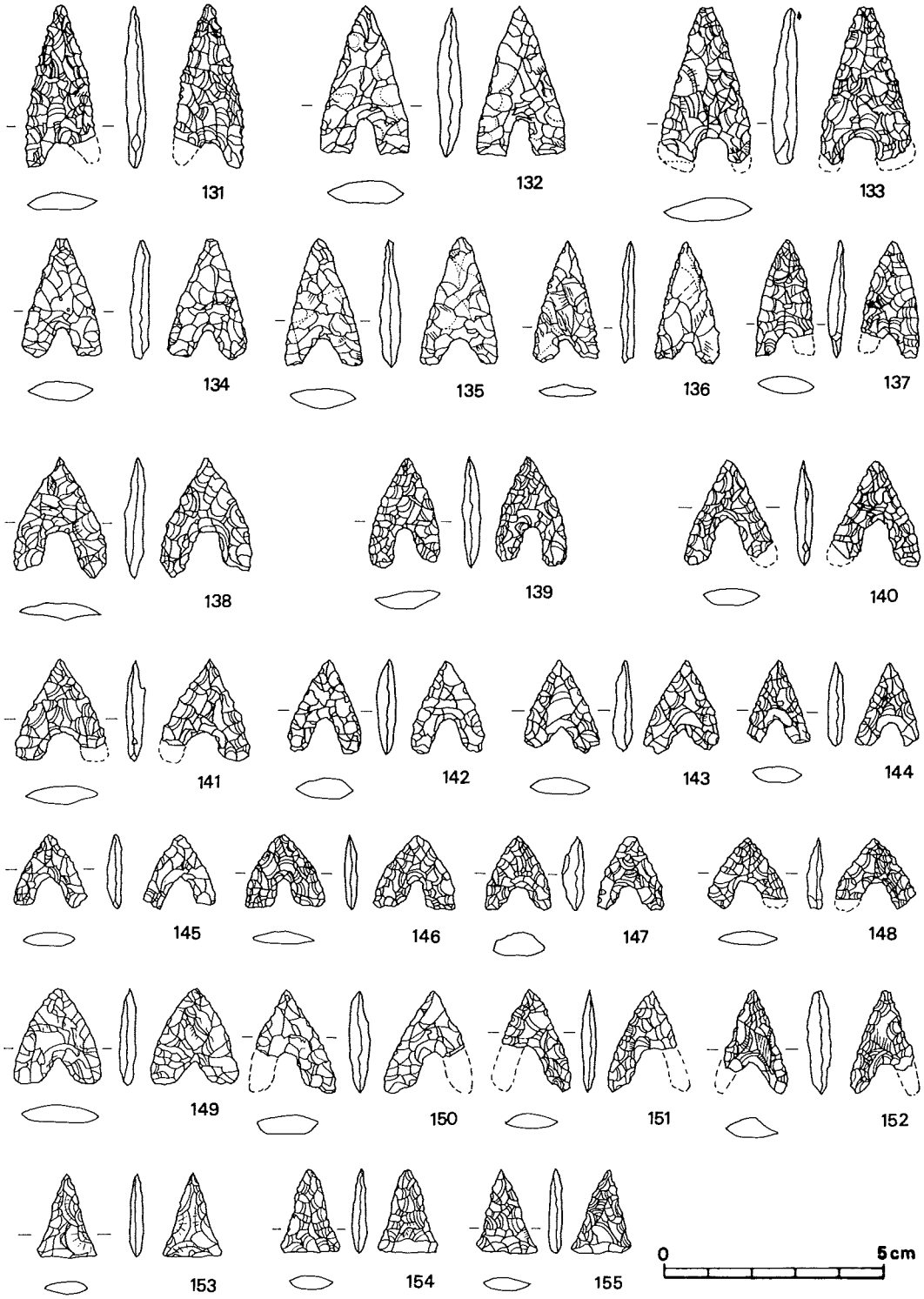



Fig.74　打製石鏃実測図(6)

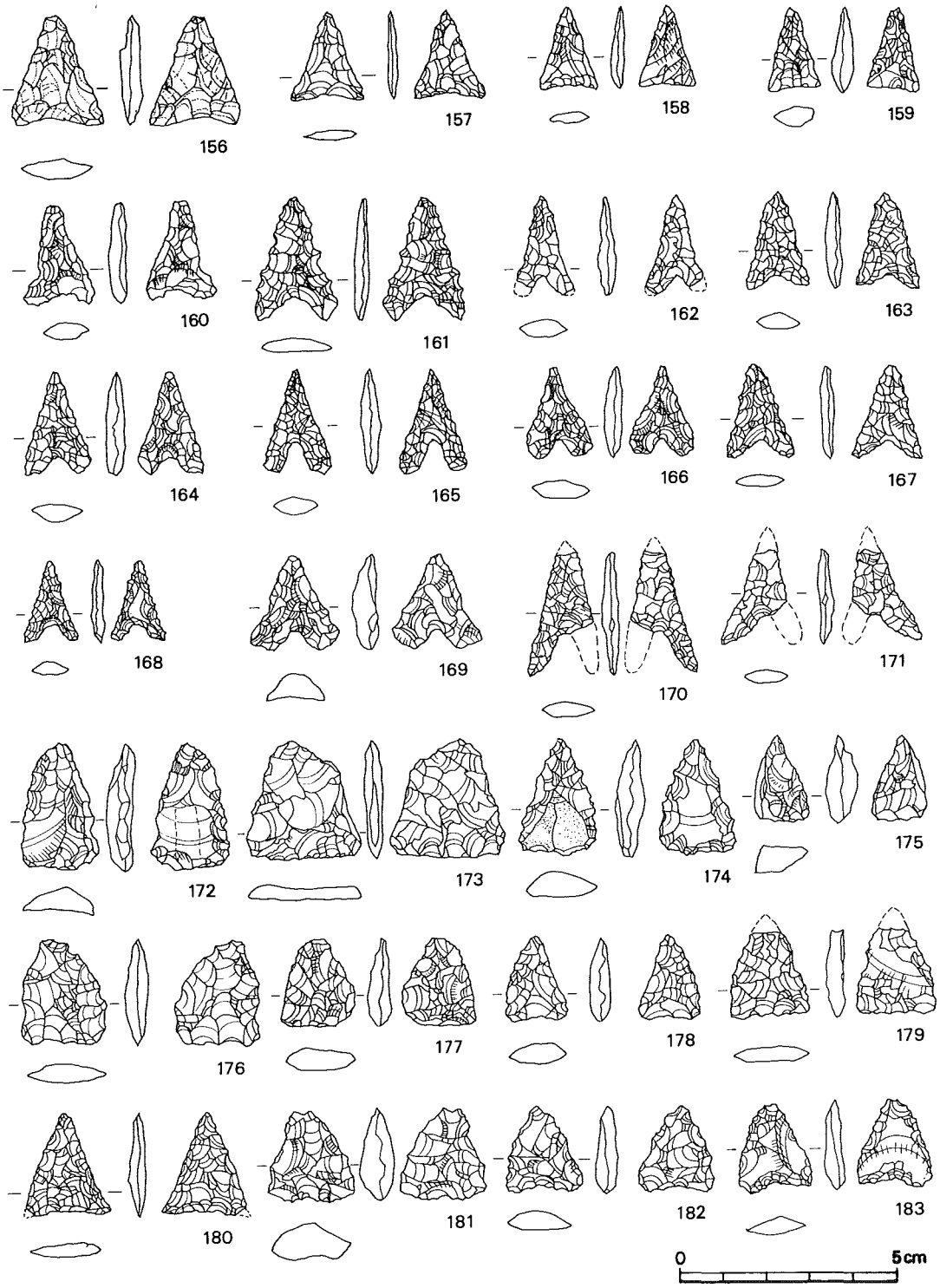



Fig.75　打製石鏃実測図(7)

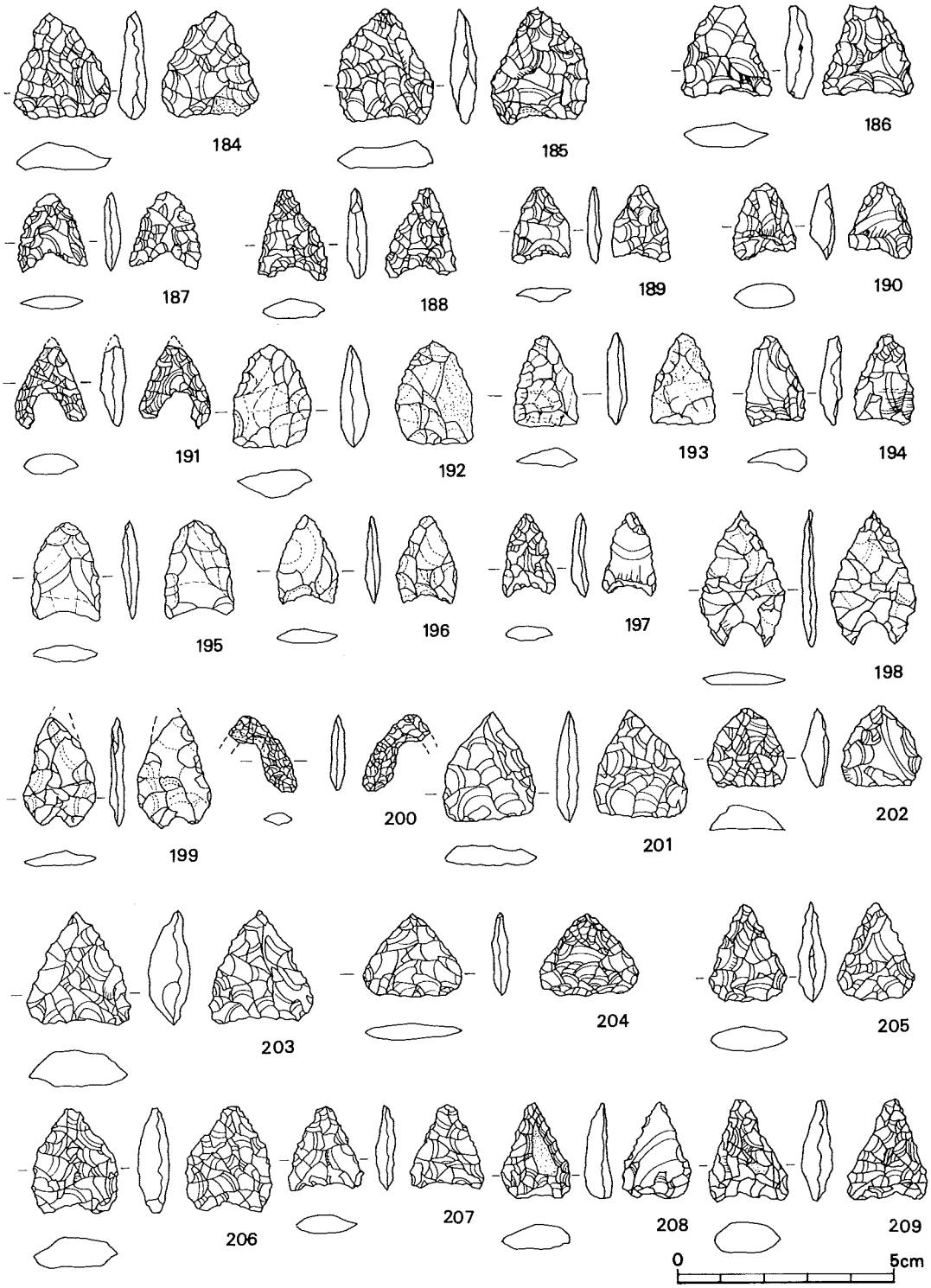



Fig.76　打製石鏃実測図(8)

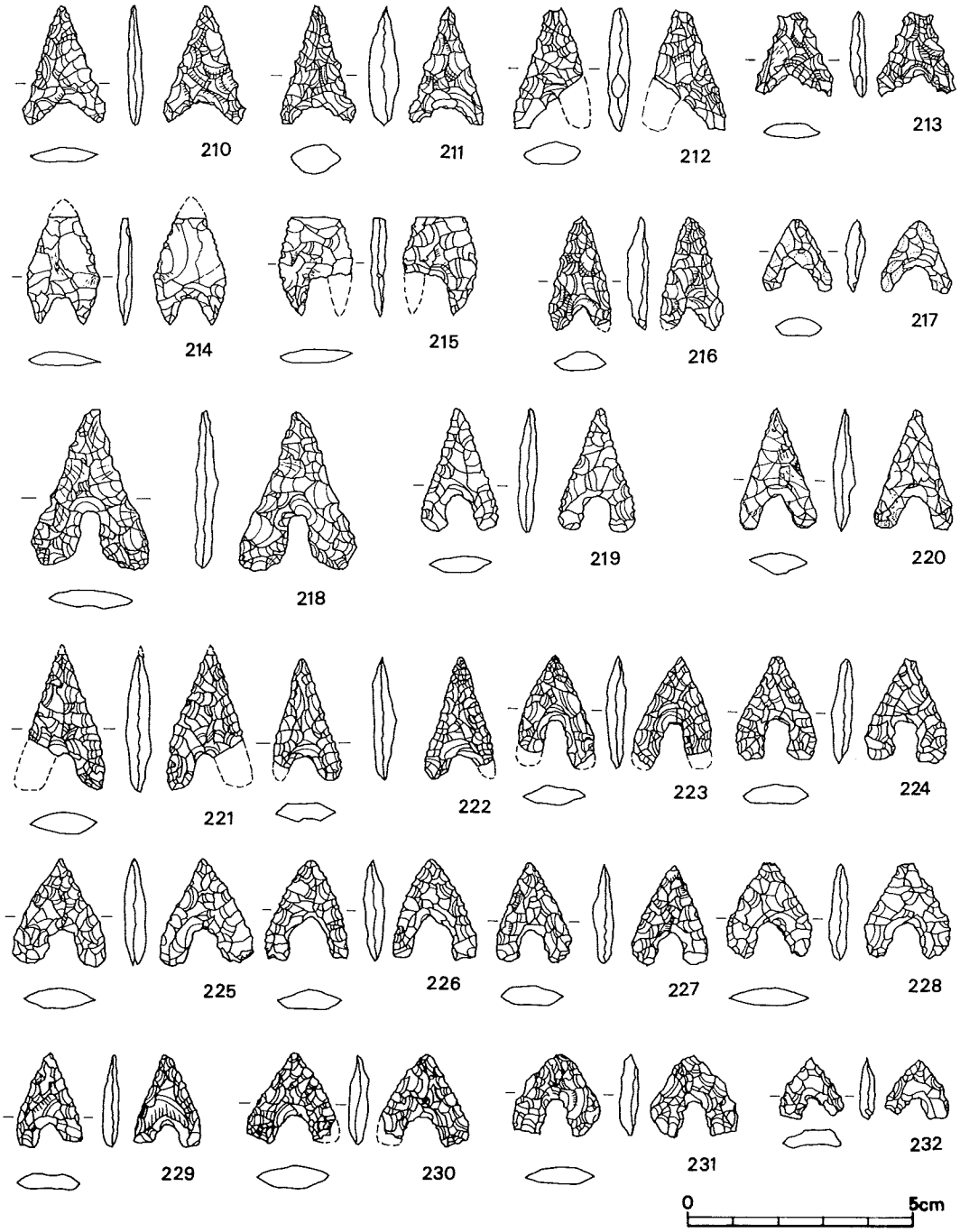



Fig.77　打製石鏃実測図(9)

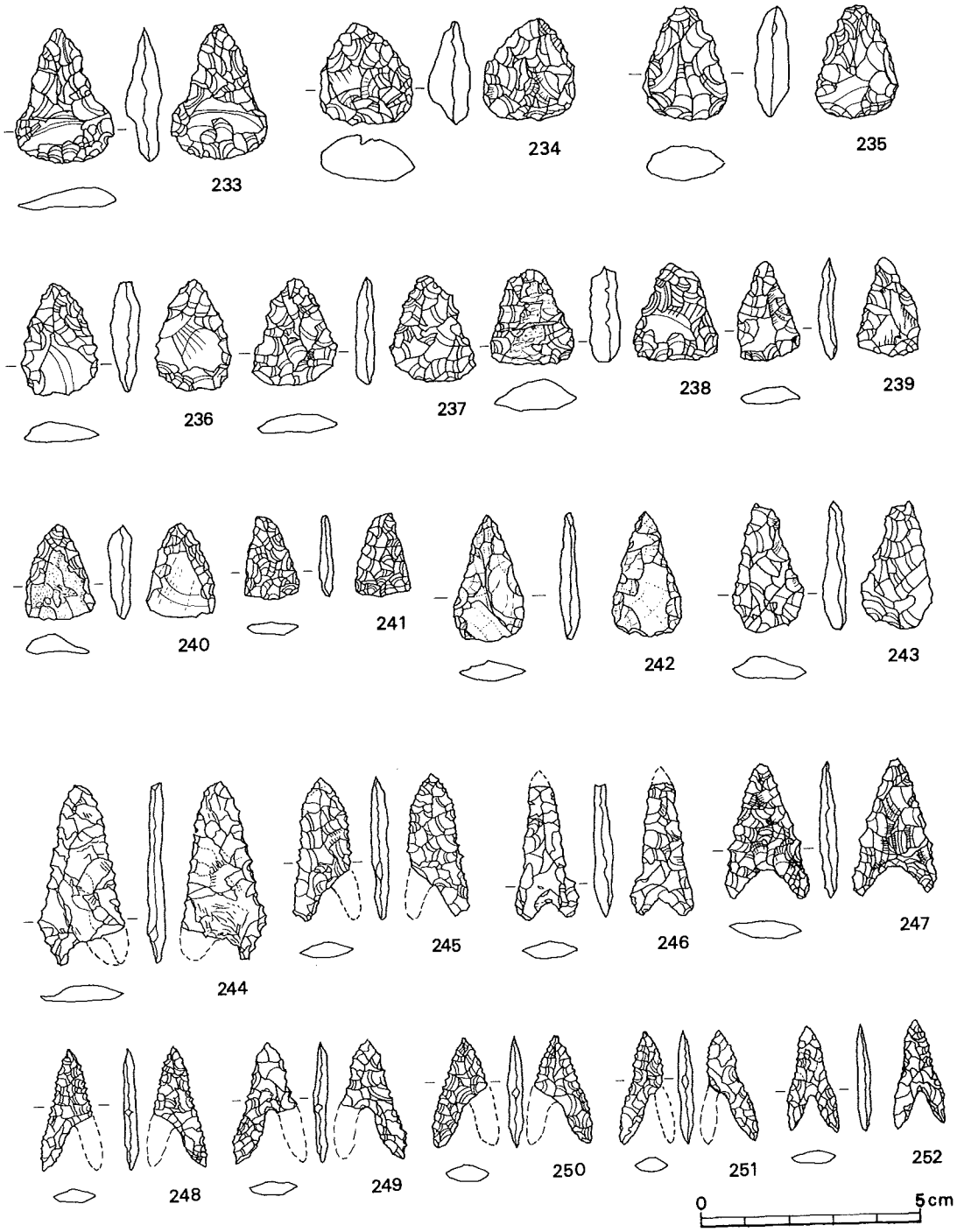



Fig.78　打製石鏃実測図(10)

**局部磨製石鏃**（Fig.80～82・**253～340**）

出土数は393点，石鏃全体に対する割合は15%余りである。両側縁には押圧剝離が加えられ，両面とも丹念に研磨が施され，先端は鋭利に尖るのを特徴としている。当然ながら，断面を薄く精巧に仕上げられている。形態分類は，打製石器の分類に準じるが，すべて凹基無茎式で，次のように細分化される。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Ⅰ類1B | **1～7** | 1C **8～17** | 1D **18～27** | 1E **28～30** |
| 2B | **31～37** | 2C **38～52** | 2D **53～67** | 2E **69～71** |
| 4B | **72～73** | 4C **74～75** | 4D **76～80** | 7B **81～86** |
| 7E | **87** | 7F **88** | | |

以上のように区分されるが，打製石鏃の形と比較すると，3・4・5の各タイプが全く含まれず，鍬型鏃に類するものもない。一番多いタイプは1Cや2Dで，この現象は打製石鏃にも見られる。石鏃はその製作技術から打製，局部磨製に分けて分類した。縄文時代早期の中で，これまで報告されてきたものと比較して，その分類の範囲を越えるものはない。その点では，規格品揃いといえる。打製の場合には凹基無茎式1－C・Dや2－C・Dが多くを占める。早期の典型的な鍬型鏃は62点，わずか0.24%にすぎない。

ここでは，地域的に限られて出土する局部磨製石鏃について見てみよう。

局部磨製石鏃は半磨製石鏃とも呼ばれてきたが，前者名称を固定させたのが，下川達彌氏の

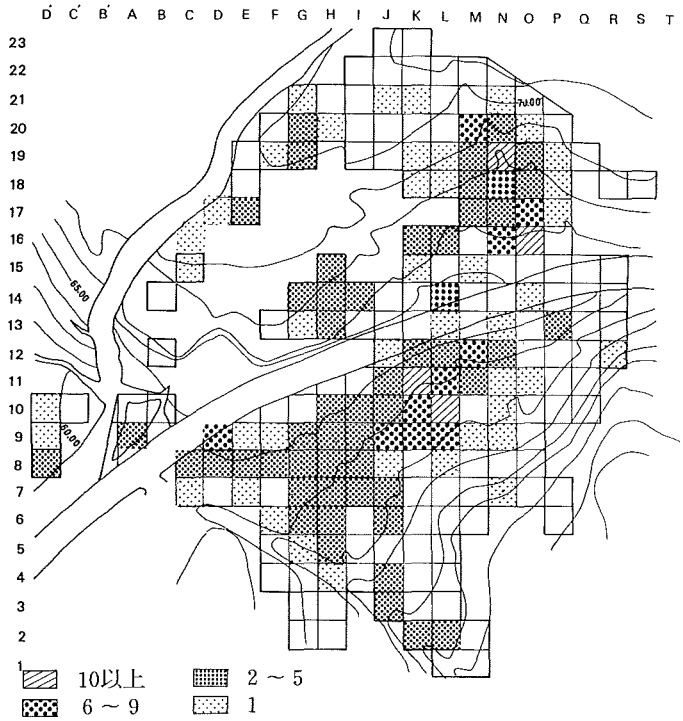



Fig.79　局部磨製石鏃密度分布図

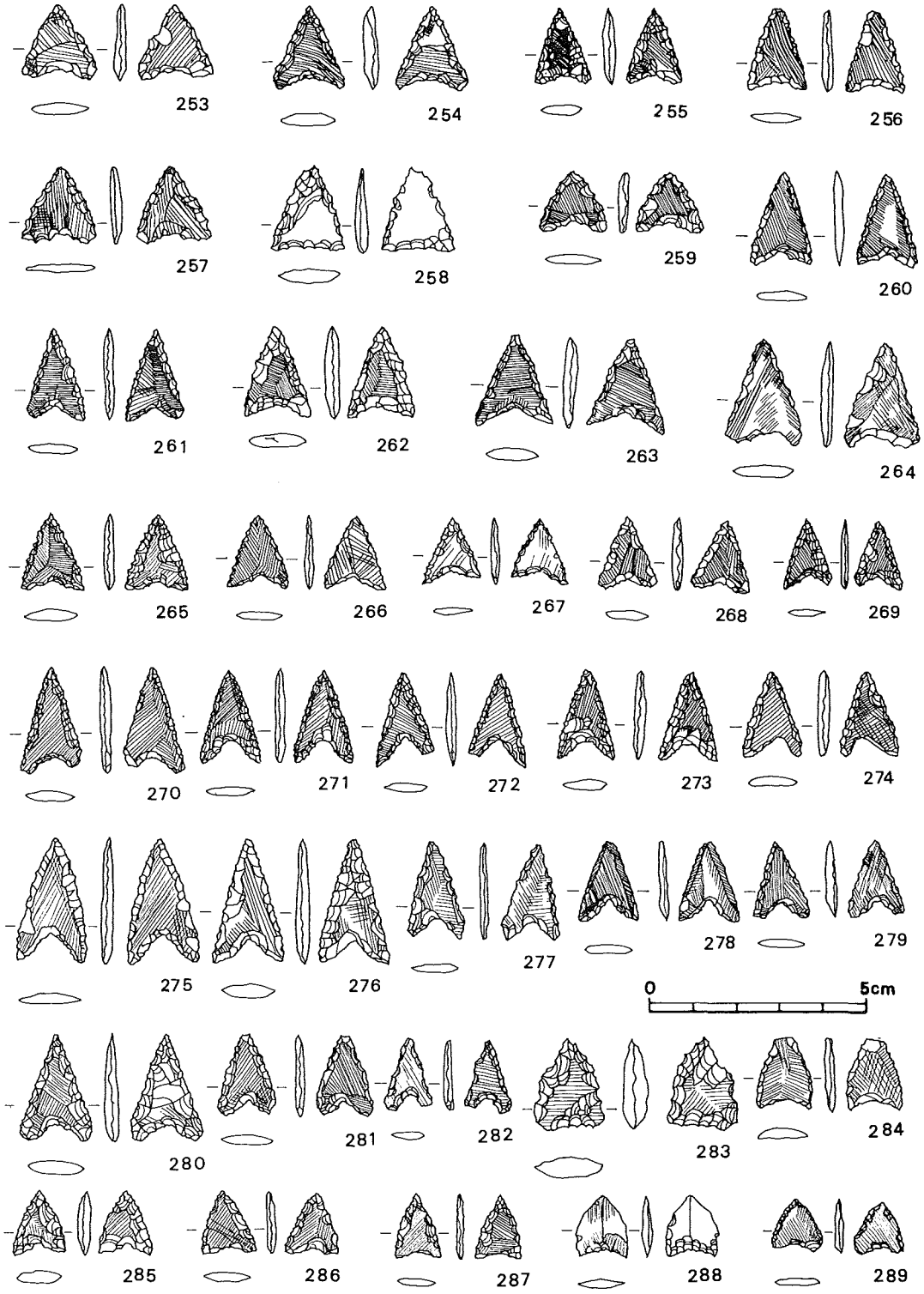



Fig.80　局部磨製石鏃実測図(1)

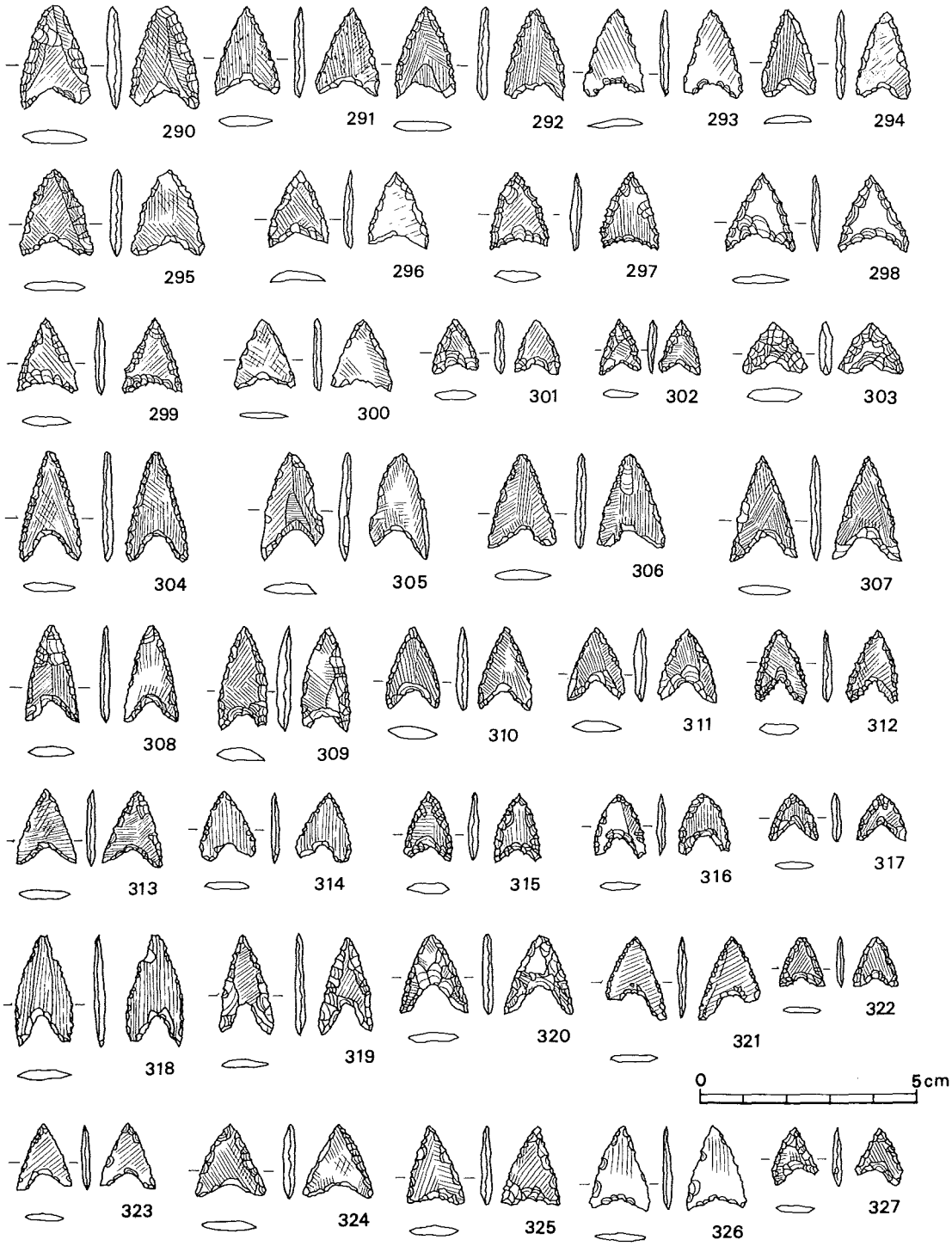



Fig.81　局部磨製石鏃実測図(2)

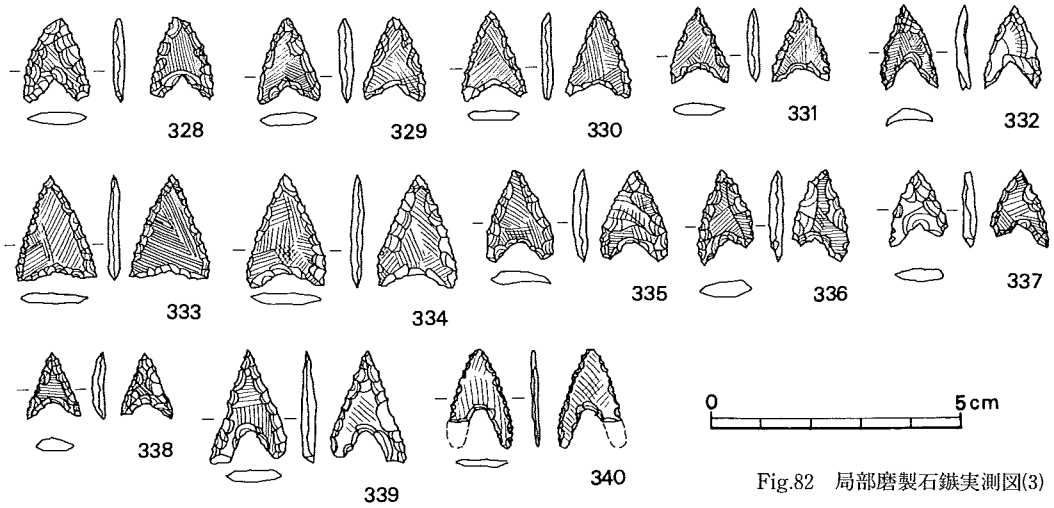



Fig.82　局部磨製石鏃実測図(3)

論考である。氏は，佐世保市岩下洞穴の出土資料を中心に，分布から，特徴，機能，用途について，基本的な考えを示され，現在でもその指針は変っていない。現在は出土数も，押型文土器を出土する遺跡は必ずと言ってよい程に見られるが，量的には多くない。県下では佐世保市を中心に出土が知られているが，今回の本遺跡の出土量が集中して出土したことは新たな問題を投げかけたことになる。一般的傾向として局部磨製石鏃は，縄文早期押型文土器に供伴すると言われているが，打製石鏃との割合を見ると，極めて少量となっている。押型文土器の単純遺跡として知られている。島原半島北部の瑞穂町弘法原遺跡は130点の石鏃の出土の報告があるが，局部磨製石鏃は１点もない。これと同じ状況は百花台遺跡にも見られる。しかし，最近の九州横断自動車道に係る調査や，中核工業団地造成に係る調査において，数個所の遺跡の出土報告がされているが，１遺跡から２～３点にとどまっている。島原半島から見られず，少量ながら，諫早，大村地域に見られることは，県北地域に連続するものとして捉えることができる。更に，松山A遺跡における石鏃の出土量の多さは群を抜いており，供給基地としての性格を持っていたかも知れない。

TAb. 4　石鏃計測値一覧表(1)

| 番号 | 出土区 | 石質 | 重量(g) | 大きさ(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 抉り 深さ | 幅 | 先端角度 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | K-3 | 黒曜石A | 1.5 | 2.8 | 1.7 | 0.4 | | | 45° | 1A | |
| 2 | B-14 | 〃 C | 0.8 | 2.2 | 1.2 | 0.4 | | | 45° | 〃 | |
| 3 | K-11 | 〃 D | 0.5 | 1.8 | 1.3 | 0.3 | | | 60° | 〃 | |
| 4 | L-9 | 〃 〃 | 1.4 | 2.3 | 1.4 | 0.6 | | | 46° | 〃 | |
| 5 | M-11 | サヌカイト | 0.9 | 2.8 | 1.8 | 0.2 | | | 70° | 〃 | |
| 6 | 表採 | 黒曜石B | 3.5 | 2.5 | 2.5 | 0.7 | 0.15 | 0.5 | 55° | 〃 | |
| 7 | 表採 | 〃 〃 | 1.9 | 2.1 | 0.9 | 0.6 | 0.1 | 0.9 | 42° | 〃 | |
| 8 | O-17 | 〃 〃 | 1.6 | 2.2 | 1.8 | 0.5 | | | 57° | 〃 | |
| 9 | I-6 | 〃 A | 0.9 | 2.1 | 1.6 | 0.4 | | | 61° | 〃 | |
| 10 | H-21 | 〃 D | 1.4 | 1.9 | 1.6 | 0.7 | | | 61° | 〃 | |
| 11 | O-18 | 〃 A | 0.5 | 1.1 | 1.4 | 0.2 | | | 60° | 〃 | |
| 12 | A-9 | 〃 B | 3.1 | 3.5 | 1.8 | 0.7 | 0.1 | 1.0 | 44° | 1B | |
| 13 | C-8 | サヌカイト | 1.1 | 2.3 | 1.8 | 0.3 | 0.2 | 1.2 | 60° | 〃 | |
| 14 | I-7 | 黒曜石B | 1.2 | 2.5 | 1.8 | 0.4 | 0.1 | 1.0 | 52° | 〃 | |
| 15 | R-12 | 〃 D | 0.5 | 1.9 | 1.4 | 0.3 | | | 60° | 〃 | |
| 16 | N-19 | 〃 C | 1.5 | 2.3 | 1.8 | 0.5 | 0.2 | 1.5 | 41° | 〃 | |
| 17 | O-16 | 〃 A | 2.2 | 2.1 | 1.9 | 0.6 | 0.1 | | 58° | 〃 | 破損 |
| 18 | M-19 | 〃 D | 1.5 | 2.0 | 1.9 | 0.7 | | | 57° | 〃 | 〃 |
| 19 | L-10 | 〃 〃 | 0.5 | 1.6 | 1.5 | 0.3 | 0.1 | 1.0 | 55° | 〃 | |
| 20 | I-4 | 〃 〃 | 0.6 | 1.8 | 1.4 | 0.4 | 0.1 | | 49° | 〃 | 破損 |
| 21 | O-20 | 〃 A | 0.8 | 2.0 | 1.4 | 0.4 | 0.2 | 0.8 | 51° | 〃 | |
| 22 | G-8 | 〃 B | 0.6 | 1.7 | 1.4 | 0.2 | | | 58° | 〃 | |
| 23 | J-6 | 〃 C | 0.3 | 1.3 | 1.3 | 0.2 | 0.1 | 0.9 | 57° | 〃 | |
| 24 | N-17 | 〃 A | 2.6 | 2.5 | 1.7 | 0.7 | 0.2 | 1.1 | 50° | 〃 | |
| 25 | G-19 | 〃 〃 | 1.0 | 2.1 | 1.3 | 0.4 | 0.3 | 1.1 | 68° | 〃 | |
| 26 | H-5 | 〃 B | 1.5 | 1.9 | 1.4 | 1.6 | 0.3 | 1.2 | 64° | 〃 | |
| 27 | N-18 | 〃 D | 1.1 | 1.9 | 1.4 | 0.5 | 0.3 | 1.5 | 45° | 〃 | |
| 28 | L-11 | 〃 A | 0.5 | 1.7 | 1.0 | 0.4 | 0.1 | 0.8 | 42° | 〃 | |
| 29 | E-7 | サヌカイト | 0.7 | 2.0 | 1.7 | 0.3 | | | 60° | 〃 | 破損 |
| 30 | G-7 | 〃 | 1.6 | 3.0 | 1.5 | 0.4 | 0.3 | 1.4 | 40° | 1C | |
| 31 | L-10 | 黒曜石A | 1.1 | 2.6 | 1.2 | 0.4 | 0.3 | 0.9 | 47° | 〃 | |
| 32 | F-13 | 〃 B | 1.0 | 2.0 | 1.1 | 0.6 | 0.2 | 0.7 | 45° | 〃 | |
| 33 | A-9 | サヌカイト | 0.3 | 1.8 | 0.9 | 0.2 | 0.3 | 0.8 | 40° | 〃 | |
| 34 | K-11 | 黒曜石A | 0.5 | 1.6 | 1.1 | 0.3 | 0.4 | 0.9 | 40° | 〃 | |
| 35 | M-12 | 〃 D | 0.9 | 2.1 | 1.1 | 0.4 | | | 41° | 〃 | 破損 |
| 36 | D-18 | 珪岩 | 0.6 | 2.2 | 1.2 | 0.3 | | | 41° | 〃 | 〃 |
| 37 | K-3 | サヌカイト | 1.3 | 1.9 | 1.3 | 0.5 | 0.4 | 1.3 | 51° | 〃 | |
| 38 | G-10 | 黒曜石B | 1.1 | 2.3 | 1.3 | 0.4 | 0.4 | 1.0 | 42° | 〃 | |
| 39 | N-15 | 〃 D | 1.1 | 2.8 | 1.5 | 0.4 | | | 55° | 〃 | 破損 |

(2)

| 番号 | 出土区 | 石質 | 重量(g) | 大きさ(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 抉り 深さ | 幅 | 先端角度 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 40 | L-10 | 黒曜石D | 0.7 | 2.0 | 1.8 | 0.4 | 0.4 | 1.1 | 58° | 1C | |
| 41 | P-19 | 〃 〃 | 0.6 | 1.9 | 1.7 | 0.3 | 0.3 | 1.1 | 55° | 〃 | |
| 42 | K-7 | 黒曜石B | 0.4 | 1.8 | 1.8 | 0.3 | | | 61° | 〃 | 破損 |
| 43 | M-19 | 〃 〃 | 1.2 | 2.1 | 1.8 | 0.6 | | | 68° | 〃 | 〃 |
| 44 | D-8 | 〃 〃 | 0.6 | 1.8 | 1.4 | 0.3 | 0.3 | 1.2 | 55° | 〃 | 〃 |
| 45 | I-9 | 〃 D | 0.9 | 2.0 | 1.4 | 0.4 | 0.3 | 1.1 | 52° | 〃 | 〃 |
| 46 | M-11 | 〃 B | 1.4 | 2.0 | 1.7 | 0.6 | 0.2 | 0.9 | 44° | 〃 | |
| 47 | L-12 | 〃 D | 0.6 | 1.8 | 1.1 | 0.4 | 0.3 | 0.9 | 67° | 〃 | |
| 48 | L-3 | 〃 A | 1.7 | 3.3 | 1.7 | 0.4 | 0.6 | | 41° | 1D | |
| 49 | K-11 | 〃 B | 1.4 | 2.9 | 1.5 | 0.4 | 0.5 | 1.4 | 44° | 〃 | |
| 50 | I-22 | 〃 A | 1.4 | 2.6 | 1.5 | 0.5 | | | 39° | 〃 | 破損 |
| 51 | E-19 | 〃 〃 | 0.6 | 2.3 | 1.2 | 0.3 | 0.3 | 0.9 | 61° | 〃 | |
| 52 | K-11 | 〃 〃 | 0.9 | 2.4 | 1.4 | 0.4 | 0.7 | | 53° | 〃 | 破損 |
| 53 | O-16 | 〃 〃 | 0.7 | 2.3 | 2.1 | 0.4 | 0.7 | | 53° | 〃 | 〃 |
| 54 | N-18 | 〃 〃 | 1.7 | 2.9 | 2.0 | 0.4 | 0.6 | 0.8 | 43° | 1E | |
| 55 | L-16 | 〃 〃 | 1.4 | 2.9 | 1.5 | 0.4 | 0.5 | | 32° | 〃 | 破損 |
| 56 | G-6 | チャート | 1.2 | 2.6 | 1.8 | 0.4 | 0.7 | 0.8 | 41° | 〃 | |
| 57 | M-11 | 黒曜石B | 0.7 | 2.3 | 1.5 | 0.3 | 0.3 | | 56° | 〃 | 破損 |
| 58 | N-17 | 〃 A | 1.4 | 2.6 | 1.3 | 0.5 | 0.5 | 1.1 | 41° | 〃 | |
| 59 | C-8 | 〃 〃 | 0.7 | 1.9 | 1.3 | 0.3 | 0.4 | 1.2 | 44° | 〃 | |
| 60 | C-8 | 〃 〃 | 1.3 | 2.7 | 1.7 | 0.5 | 0.5 | | 51° | 〃 | 破損 |
| 61 | N-19 | 〃 B | 0.9 | 2.6 | 1.3 | 0.3 | | | 47° | 〃 | 〃 |
| 62 | M-11 | 〃 A | 1.1 | 2.3 | 2.0 | 0.5 | 0.2 | 0.6 | 46° | 〃 | |
| 63 | K-11 | 〃 〃 | 1.6 | 2.2 | 1.4 | 0.6 | 0.2 | 0.6 | 56° | 〃 | |
| 64 | F-17 | 〃 〃 | 2.3 | 3.8 | 1.9 | 0.6 | 1.1 | | 56° | 〃 | 破損？ |
| 65 | J-14 | 〃 〃 | 1.2 | 3.2 | 1.7 | 0.4 | 1.1 | | 42° | 1F | 〃 |
| 66 | I-5 | 〃 〃 | 0.7 | 3.0 | 1.2 | 0.3 | 1.2 | | 41° | 〃 | 〃 |
| 67 | L-10 | 〃 〃 | 0.55 | 2.3 | 1.3 | 0.3 | 0.6 | 0.7 | 48° | 〃 | |
| 68 | M-11 | 〃 D | 0.8 | 2.2 | 1.1 | 0.3 | | | 54° | 〃 | |
| 69 | D-8 | 〃 B | 2.1 | 2.8 | 1.8 | 0.4 | | | 42° | 2A | |
| 70 | L-10 | 〃 〃 | 1.2 | 2.2 | 1.6 | 0.5 | | | 59° | 〃 | |
| 71 | L-11 | 〃 D | 1.0 | 2.0 | 1.4 | 0.5 | | | 62° | 〃 | |
| 72 | I-4 | 〃 A | 1.1 | 2.2 | 1.8 | 0.4 | | | 61° | 〃 | |
| 73 | H-5 | 〃 B | 6.5 | 3.2 | 3.0 | 0.7 | | | 52° | 〃 | |
| 74 | M-12 | 〃 A | 1.9 | 2.5 | 1.8 | 0.5 | | | 66° | 〃 | |
| 75 | K-8 | 〃 〃 | 0.8 | 1.9 | 1.5 | 0.3 | | | 67° | 〃 | |
| 76 | M-12 | 〃 D | 3.0 | 2.2 | 2.0 | 0.8 | | | 52° | 〃 | |
| 77 | 表採 | 〃 C | 0.9 | 1.9 | 1.3 | 0.4 | | | 48° | 〃 | |
| 78 | C-10 | 〃 A | 1.3 | 1.7 | 1.4 | 0.6 | | | 65° | 〃 | |

(3)

| 番号 | 出土区 | 石質 | 重量(g) | 大きさ(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 抉り 深さ | 幅 | 先端角度 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 79 | L-8 | 黒曜石C | 0.7 | 1.1 | 1.3 | 0.4 | | | 52° | 2A | |
| 80 | D'-8 | 〃 A | 1.6 | 3.0 | 1.8 | 0.3 | 0.1 | 0.9 | 54° | 2B | |
| 81 | I-7 | サヌカイト | 0.7 | 2.4 | 1.4 | 0.3 | 0.3 | | 52° | 〃 | 破損 |
| 82 | C-15 | 黒曜石A | 1.4 | 2.5 | 1.5 | 0.4 | 0.2 | 0.9 | 54° | 〃 | |
| 83 | I-6 | 〃 C | 0.5 | 2.0 | 1.2 | 0.3 | | | 56° | 〃 | |
| 84 | N-12 | 〃 A | 0.9 | 1.9 | 1.2 | 0.4 | 0.1 | 0.5 | 36° | 〃 | |
| 85 | O-17 | 〃 〃 | 0.9 | 1.8 | 1.3 | 0.6 | 0.1 | 0.5 | 64° | 〃 | |
| 86 | I-6 | サヌカイト | 0.7 | 1.7 | 1.6 | 0.3 | 0.1 | 0.8 | 52° | 〃 | |
| 87 | J-5 | 黒曜石D | 0.5 | 1.2 | 1.3 | 0.3 | | | 60° | 〃 | |
| 88 | I-6 | 〃 C | 0.4 | 1.6 | 1.2 | 0.3 | | | 46° | 2B | |
| 89 | K-9 | 〃 D | 0.7 | 1.8 | 1.8 | 0.4 | 0.1 | 0.9 | 35° | 〃 | |
| 90 | H-9 | 〃 B | 1.0 | 1.8 | 1.2 | 0.5 | 0.1 | 0.7 | 55° | 〃 | |
| 91 | I-21 | 〃 A | 1.0 | 1.7 | 1.9 | 0.3 | 0.1 | | 64° | 〃 | 破損 |
| 92 | P-13 | 〃 B | 4.3 | 4.1 | 2.6 | 0.6 | | | 61° | 〃 | 〃 |
| 93 | N-19 | 〃 〃 | 3.3 | 2.8 | 2.3 | 0.7 | 0.2 | 1.4 | 62° | 〃 | |
| 94 | | 〃 A | 2.2 | 2.2 | 2.4 | 0.5 | 0.1 | 0.9 | 57° | 〃 | |
| 95 | I-5 | 〃 B | 1.5 | 1.9 | 2.1 | 0.4 | 0.1 | 0.8 | 57° | 〃 | |
| 96 | K-9 | 〃 D | 1.0 | 1.9 | 1.6 | 0.4 | 0.2 | 1.2 | 63° | 〃 | |
| 97 | K-12 | 〃 A | 1.6 | 1.9 | 1.7 | 0.6 | 0.2 | 0.6 | 66° | 〃 | |
| 98 | G-9 | 〃 D | 0.8 | 2.0 | 1.5 | 0.4 | 0.3 | 0.8 | 64° | 〃 | |
| 99 | N-19 | 〃 A | 1.5 | 2.4 | 1.7 | 0.4 | 0.1 | 1.0 | 67° | 〃 | |
| 100 | A-9 | 〃 C | 1.3 | 2.0 | 1.8 | 0.4 | 0.2 | 1.0 | 53° | 〃 | |
| 101 | J-14 | 〃 A | 0.8 | 1.8 | 1.3 | 0.4 | 0.1 | 0.6 | 62° | 〃 | |
| 102 | H-15 | 〃 D | 1.0 | 1.9 | 1.7 | 0.5 | 0.1 | 0.5 | 67° | 〃 | |
| 103 | B-8 | 〃 A | 0.8 | 1.7 | 1.4 | 0.3 | 0.1 | 0.7 | 54° | 〃 | |
| 104 | 表採 | 〃 D | 1.3 | 2.1 | 1.6 | 0.6 | 0.1 | 0.9 | 54° | 〃 | |
| 105 | J-5 | サヌカイト | 0.4 | 1.3 | 1.6 | 0.2 | 0.1 | 0.6 | 64° | 〃 | |
| 106 | L-11 | 黒曜石A | 1.0 | 1.9 | 1.5 | 0.5 | 0.1 | 0.9 | 61° | 2C | |
| 107 | H-10 | 〃 B | 0.6 | 1.1 | 1.3 | 0.4 | 0.1 | 0.7 | 62° | 〃 | |
| 108 | H-5 | 〃 C | 1.2 | 3.0 | 1.2 | 0.4 | | | 31° | 〃 | |
| 109 | I-5 | 〃 D | 1.1 | 2.1 | 1.2 | 0.5 | 0.1 | 0.6 | 40° | 〃 | |
| 110 | R-12 | 〃 〃 | 0.9 | 2.3 | 1.3 | 0.4 | 0.2 | 0.8 | 49° | 〃 | |
| 111 | D-16 | 〃 A | 0.8 | 2.1 | 1.3 | 0.4 | 0.3 | 1.0 | 32° | 〃 | |
| 112 | D-9 | 〃 D | 0.8 | 2.1 | 1.3 | 0.4 | 0.3 | 0.9 | 44° | 〃 | |
| 113 | M-16 | 〃 C | 0.5 | 1.8 | 1.2 | 0.3 | 0.1 | 0.7 | 48° | 〃 | |
| 114 | K-9 | 〃 B | 0.9 | 1.9 | 1.0 | 0.4 | 0.2 | 0.7 | 46° | 〃 | |
| 115 | 表採 | 〃 D | 1.3 | 2.3 | 2.0 | 0.5 | 0.2 | 1.0 | 51° | 〃 | |
| 116 | M-11 | 〃 C | 0.5 | 1.6 | 1.1 | 0.2 | 0.2 | 0.9 | 51° | 〃 | |
| 117 | N-17 | 〃 〃 | 0.3 | 1.6 | 1.1 | 0.2 | 0.2 | 1.0 | 52° | 〃 | |

| 番号 | 出土区 | 石質 | 重量(g) | 大きさ(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 抉り 深さ | 幅 | 先端角度 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 118 | H-14 | 黒曜石A | 0.6 | 1.7 | 1.2 | 0.4 | 0.2 | 0.9 | 61° | 2C | |
| 119 | J-6 | 〃 〃 | 1.4 | 2.6 | 1.9 | 0.4 | 0.6 | 1.3 | 51° | 2D | |
| 120 | M-11 | 〃 〃 | 1.2 | 2.2 | 1.5 | 0.4 | 0.5 | 1.0 | 51° | 〃 | |
| 121 | L-11 | 〃 B | 0.6 | 2.1 | 1.4 | 0.3 | 0.3 | 0.9 | 49° | 〃 | |
| 122 | I-5 | 〃 A | 0.6 | 1.8 | 1.1 | 0.3 | 0.3 | 1.0 | 44° | 〃 | |
| 123 | L-10 | 〃 B | 0.4 | 2.2 | 1.0 | 0.2 | | | 38° | 〃 | |
| 124 | N-17 | 〃 〃 | 1.0 | 2.1 | 1.8 | 0.3 | 0.5 | 0.9 | 63° | 〃 | |
| 125 | O-16 | 〃 A | 0.5 | 2.0 | 1.3 | 0.3 | | | 47° | 〃 | 破損 |
| 126 | D-19 | 〃 〃 | 0.7 | 2.0 | 1.2 | 0.4 | 0.4 | 0.8 | 44° | 〃 | |
| 127 | K-11 | 〃 〃 | 0.5 | 1.9 | 1.2 | 0.3 | 0.4 | 0.8 | 51° | 〃 | |
| 128 | E-9 | 〃 〃 | 0.8 | 1.9 | 1.2 | 0.4 | 0.2 | 1.0 | 43° | 〃 | |
| 129 | J-9 | 〃 D | 0.4 | 1.7 | 1.0 | 0.3 | | | 37° | 〃 | 破損 |
| 130 | P-20 | 〃 A | 1.0 | 1.9 | 1.3 | 0.5 | 0.4 | 0.7 | 44° | 〃 | |
| 131 | J-5 | 〃 〃 | 1.9 | 3.6 | 1.6 | 0.4 | 0.5 | | 32° | 2E | 破損 |
| 132 | R-12 | 〃 B | 2.2 | 3.4 | 2.0 | 0.5 | 0.8 | 0.6 | 34° | 〃 | |
| 133 | J-6 | 〃 A | 2.7 | 3.5 | 2.1 | 0.5 | 0.5 | | 34° | 〃 | 破損 |
| 134 | S-20 | 〃 B | 1.5 | 2.7 | 1.8 | 0.4 | 0.6 | 0.8 | 44° | 〃 | |
| 135 | J-22 | 〃 〃 | 1.5 | 2.8 | 1.8 | 0.5 | 0.6 | 0.8 | 36° | 〃 | |
| 136 | D'-8 | 〃 〃 | 0.8 | 2.7 | 1.5 | 0.3 | 0.4 | 0.6 | 32° | 〃 | |
| 137 | M-11 | 〃 A | 0.9 | 2.6 | 1.3 | 0.4 | | | 26° | 〃 | 破損 |
| 138 | O-17 | 〃 D | 1.5 | 2.7 | 2.1 | 0.4 | 0.7 | 1.0 | 51° | 〃 | |
| 139 | F-8 | 〃 A | 1.2 | 2.5 | 1.6 | 0.4 | 0.6 | 0.6 | 34° | 〃 | |
| 140 | K-3 | 〃 〃 | 1.0 | 2.4 | 2.1 | 0.4 | | | 52° | 〃 | 破損 |
| 141 | 表採 | 〃 ・〃 | 1.2 | 2.3 | 2.1 | 0.4 | | | 57° | 〃 | |
| 142 | E-7 | 〃 B | 1.05 | 2.1 | 1.7 | 0.4 | 0.7 | 0.9 | 45° | 〃 | |
| 143 | P-16 | 〃 〃 | 1.0 | 2.1 | 1.4 | 0.4 | 0.4 | 0.6 | 41° | 〃 | |
| 144 | K-10 | 〃 A | 0.5 | 1.9 | 1.4 | 0.4 | 0.5 | 0.7 | 40° | 〃 | |
| 145 | J-8 | 〃 B | 0.5 | 1.7 | 1.7 | 0.3 | 0.6 | 0.8 | 51° | 〃 | |
| 146 | K-7 | 〃 A | 0.6 | 1.7 | 1.9 | 0.3 | 0.5 | 0.6 | 71° | 〃 | |
| 147 | H-10 | 〃 B | 0.8 | 1.7 | 1.6 | 0.5 | 0.3 | 0.6 | 57° | 〃 | |
| 148 | J-14 | 〃 A | 0.55 | 1.6 | 1.8 | 0.3 | | | 72° | 〃 | 破損 |
| 149 | P-13 | 〃 B | 1.3 | 2.2 | 2.0 | 0.3 | 0.5 | 0.8 | 70° | 2F | |
| 150 | I-7 | 〃 〃 | 1.0 | 2.3 | 1.5 | 0.5 | | | 60° | 〃 | 破損 |
| 151 | D-7 | 〃 A | 2.0 | 3.0 | 1.6 | 0.5 | | | 55° | 〃 | 〃 |
| 152 | D-9 | 〃 D | 1.0 | 2.3 | 1.2 | 0.5 | | | 48° | 〃 | 〃 |
| 153 | M-11 | 〃 〃 | 0.5 | 1.9 | 1.4 | 0.3 | | | 45° | 3A | |
| 154 | C-7 | 〃 〃 | 0.5 | 1.9 | 1.3 | 0.3 | | | 46° | 〃 | |
| 155 | F-3 | 〃 〃 | 0.5 | 1.9 | 1.4 | 0.3 | | | 40° | 〃 | |
| 156 | D-9 | サヌカイト | 1.6 | 2.5 | 2.1 | 0.4 | 0.1 | 1.0 | 48° | 3B | |

(5)

| 番号 | 出土区 | 石質 | 重量(g) | 大きさ(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 抉り 深さ | 幅 | 先端角度 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 157 | G-6 | サヌカイト | 0.5 | 2.0 | 1.6 | 0.2 | 0.1 | 1.0 | 51° | 3B | |
| 158 | N-15 | 黒曜石C | 0.5 | 1.9 | 1.3 | 0.3 | 0.1 | 1.0 | 47° | 〃 | |
| 159 | O-16 | 〃 D | 0.7 | 1.9 | 1.2 | 0.5 | 0.1 | 0.8 | 38° | 〃 | |
| 160 | D-16 | 〃 A | 0.9 | 2.2 | 1.1 | 0.4 | 0.1 | 0.7 | 32° | 〃 | |
| 161 | N-17 | 〃 C | 1.0 | 2.8 | 1.6 | 0.3 | 0.5 | 1.2 | 41° | 3D | |
| 162 | L-10 | 〃 B | 0.55 | 2.2 | 1.3 | 0.4 | | | 35° | 〃 | 破損 |
| 163 | L-11 | 〃 〃 | 0.7 | 2.2 | 1.0 | 0.4 | 0.2 | 0.7 | 31° | 3E | |
| 164 | D-9 | 〃 A | 1.0 | 2.3 | 1.2 | 0.4 | 0.3 | 0.7 | 38° | 〃 | |
| 165 | K-15 | 〃 B | 0.8 | 2.4 | 1.5 | 0.4 | 0.6 | 0.7 | 42° | 〃 | |
| 166 | N-16 | 〃 D | 0.8 | 2.0 | 1.3 | 0.4 | 0.3 | 0.5 | 39° | 〃 | |
| 167 | | 〃 B | 0.6 | 2.1 | 1.1 | 0.3 | 0.3 | 0.8 | 35° | 〃 | |
| 168 | | 〃 A | 0.4 | 1.8 | 0.9 | 0.3 | 0.3 | 0.6 | 37° | 〃 | |
| 169 | N-16 | 〃 〃 | 1.2 | 2.2 | 2.1 | 0.5 | 0.3 | 0.7 | 52° | 〃 | |
| 170 | L-11 | 〃 B | 0.8 | 2.8 | 1.6 | 0.3 | | | 28° | 3F | 破損？ |
| 171 | K-11 | 〃 C | 0.6 | 2.1 | 1.6 | 0.3 | | | 31° | 〃 | 〃 |
| 172 | I-14 | 〃 A | 2.5 | 2.9 | 1.8 | 0.6 | | | 38° | 4A | |
| 173 | E-8 | 〃 D | 2.0 | 2.7 | 1.8 | 0.7 | | | 42° | 〃 | |
| 174 | D-10 | 〃 B | 2.4 | 2.7 | 2.7 | 0.4 | | | 44° | 〃 | |
| 175 | AD-7 | 〃 A | 1.2 | 2.0 | 1.2 | 0.7 | | | 50° | 〃 | |
| 176 | L-10 | 〃 〃 | 2.2 | 2.4 | 1.9 | 0.5 | | | 62° | 〃 | |
| 177 | O-17 | 〃 C | 1.6 | 2.0 | 1.7 | 0.5 | | | 44° | 〃 | |
| 178 | K-19 | 〃 A | 2.5 | 2.1 | 2.0 | 0.8 | | | 61° | 〃 | |
| 179 | L-11 | 〃 〃 | 1.1 | 2.1 | 1.7 | 0.4 | | | 44° | 〃 | |
| 180 | L-9 | 〃 〃 | 1.0 | 2.4 | 1.9 | 0.4 | 0.1 | 1.0 | 42° | 4B | |
| 181 | J-14 | 〃 D | 1.2 | 1.9 | 1.4 | 0.5 | 1.0 | 0.8 | 48° | 〃 | |
| 182 | KL-12 | 〃 〃 | 1.2 | 2.0 | 1.5 | 0.4 | 0.1 | 0.8 | 47° | 〃 | |
| 183 | K-11 | 〃 C | 0.9 | 2.0 | 1.4 | 0.4 | 0.1 | 0.8 | 46° | 〃 | |
| 184 | B-14 | 〃 A | 2.6 | 2.4 | 2.2 | 0.6 | | | 57° | 〃 | |
| 185 | I-5 | 〃 C | 2.6 | 2.7 | 2.3 | 0.6 | 0.1 | 0.9 | 75° | 〃 | |
| 186 | H-20 | 〃 B | 2.1 | 2.1 | 2.1 | 0.6 | 0.1 | 1.1 | 57° | 〃 | |
| 187 | K-10 | 〃 A | 0.6 | 1.8 | 1.6 | 0.3 | 0.3 | 1.0 | 57° | 4C | |
| 188 | L-9 | 〃 〃 | 1.1 | 2.1 | 1.4 | 0.4 | 0.2 | 0.9 | 52° | 〃 | |
| 189 | L-9 | 〃 C | 1.2 | 1.7 | 1.3 | 0.3 | 0.1 | 0.8 | 69° | 〃 | |
| 190 | L-9 | 〃 D | 0.6 | 1.7 | 1.5 | 0.6 | 0.1 | 0.7 | 60° | 〃 | |
| 191 | I-5 | 〃 A | 0.9 | 1.8 | 1.7 | 0.5 | 0.6 | 0.7 | 51° | 4E | |
| 192 | N-18 | サヌカイト | 2.7 | 2.3 | 1.8 | 0.6 | | | 52° | 6A | |
| 193 | N-18 | 〃 | 0.9 | 2.1 | 1.5 | 0.5 | | | 45° | 〃 | |
| 194 | N-12 | 〃 | 1.1 | 2.1 | 1.3 | 0.5 | 0.1 | 0.7 | 45° | 6B | |
| 195 | K-10 | 〃 | 1.4 | 2.3 | 1.6 | 0.4 | 0.1 | 1.0 | 44° | 〃 | |

| 番号 | 出土区 | 石質 | 重量 (g) | 大きさ (cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 抉り 深さ | 幅 | 先端角度 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 196 | J-5 | サヌカイト | 0.7 | 2.0 | 1.4 | 0.3 | 0.1 | 0.6 | 54° | 6B | |
| 197 | L-9 | 黒曜石A | 0.6 | 1.9 | 1.2 | 0.3 | 0.1 | 0.7 | 52° | 〃 | |
| 198 | O-15 | 〃 B | 1.2 | 3.1 | 2.0 | 0.3 | 0.5 | 0.9 | 53° | 6C | |
| 199 | L-10 | 〃 〃 | 2.2 | 2.5 | 2.1 | 0.5 | 0.2 | 0.4 | 72° | 7A | |
| 200 | J-14 | 〃 A | 1.3 | 1.8 | 1.8 | 1.6 | | | 68° | 〃 | |
| 201 | I-22 | 〃 B | 3.7 | 2.6 | 2.4 | 0.9 | 0.1 | 1.0 | 65° | 〃 | |
| 202 | J-5 | 〃 D | 1.4 | 1.9 | 2.3 | 0.4 | | | 84° | 〃 | |
| 203 | M-19 | 〃 〃 | 1.6 | 2.2 | 1.8 | 0.6 | | | 50° | 〃 | |
| 204 | K-16 | 〃 B | 2.9 | 2.4 | 2.0 | 0.7 | 0.2 | 0.7 | 71° | 7B | |
| 205 | | 〃 A | 1.0 | 1.9 | 1.7 | 0.4 | 0.1 | 1.1 | 53° | 〃 | |
| 206 | E-7 | 〃 D | 1.6 | 2.2 | 1.6 | 0.6 | 0.1 | 0.6 | 53° | 〃 | |
| 207 | J-6 | 〃 B | 1.9 | 2.3 | 1.8 | 0.7 | 0.1 | 1.1 | 49° | 〃 | |
| 208 | M-17 | 〃 A | 0.8 | 2.6 | 1.5 | 0.3 | 0.3 | 1.2 | 41° | 7C | |
| 209 | H-6 | 〃 〃 | 1.5 | 2.6 | 1.1 | 0.6 | 0.2 | 0.8 | 39° | 〃 | |
| 210 | M-18 | 〃 B | 1.2 | 2.6 | 1.2 | 0.5 | | | 34° | 〃 | 破損 |
| 211 | J-5 | 〃 〃 | 0.7 | 1.8 | 1.8 | 0.3 | 0.3 | 1.0 | 44° | 〃 | |
| 212 | J-7 | 〃 〃 | 0.8 | 2.3 | 1.6 | 0.3 | 0.6 | 0.9 | 40° | 7D | 破損 |
| 213 | N-18 | 〃 A | 0.85 | 2.2 | 1.6 | 0.3 | | | 39° | 〃 | 〃 |
| 214 | L-11 | 〃 B | 1.1 | 2.5 | 1.1 | 0.4 | 0.4 | 0.6 | 34° | 〃 | |
| 215 | L-11 | 〃 〃 | 0.6 | 1.6 | 1.6 | 0.4 | 0.5 | 0.9 | 61° | 〃 | |
| 216 | M-11 | 〃 D | 2.3 | 3.5 | 2.6 | 0.5 | 1.0 | 0.9 | 46° | 7E | |
| 217 | D-8 | 〃 B | 1.1 | 2.7 | 1.7 | 0.4 | 0.7 | 0.6 | 39° | 〃 | |
| 218 | L-11 | 〃 A | 1.2 | 2.6 | 1.7 | 0.4 | 0.7 | 0.8 | 43° | 〃 | |
| 219 | F-20 | 〃 D | 1.55 | 3.0 | 1.7 | 0.5 | | | 39° | 〃 | 破損 |
| 220 | I-22 | サヌカイト | 1.2 | 2.7 | 1.5 | 0.5 | | | 41° | 〃 | 〃 |
| 221 | | 黒曜石A | 1.0 | 2.4 | 1.7 | 0.4 | | | 31° | 〃 | 〃 |
| 222 | G-8 | 〃 D | 1.1 | 2.3 | 1.8 | 0.4 | 0.7 | 0.5 | 56° | 〃 | |
| 223 | D-20 | 〃 A | 1.3 | 2.3 | 2.0 | 0.5 | 0.6 | 0.8 | 65° | 〃 | |
| 224 | N-18 | 〃 〃 | 1.0 | 2.2 | 1.8 | 0.4 | 0.8 | 1.0 | 61° | 〃 | |
| 225 | I-7 | 〃 〃 | 0.9 | 2.2 | 1.7 | 0.4 | 0.6 | 0.6 | 51° | 〃 | |
| 226 | C-7 | 〃 〃 | 1.1 | 2.1 | 1.9 | 0.4 | 0.7 | 0.8 | 67° | 〃 | |
| 227 | G-7 | 〃 〃 | 0.7 | 2.1 | 1.4 | 0.3 | 0.4 | 0.6 | 50° | 〃 | |
| 228 | L-16 | 〃 〃 | 1.0 | 2.0 | 2.0 | 0.4 | 0.4 | 0.8 | 71° | 〃 | 破損 |
| 229 | M-11 | 〃 D | 0.8 | 1.8 | 2.0 | 0.4 | 0.8 | 0.7 | 79° | 〃 | |
| 230 | O-17 | 〃 A | 0.3 | 1.3 | 1.4 | 0.3 | 0.4 | 0.6 | 76° | 〃 | |
| 231 | I-14 | 〃 〃 | 1.0 | 2.5 | 1.7 | 0.3 | 0.2 | 0.4 | 47° | 6C | |
| 232 | L-24 | 〃 D | 0.4 | 1.8 | 1.0 | 0.3 | | | | 6E | |
| 233 | L-18 | 〃 A | 3.1 | 3.0 | 2.2 | 0.8 | | | | 1G | |
| 234 | L-10 | 〃 D | 3.7 | 2.4 | 2.1 | 1.0 | | | | 〃 | |

(7)

| 番号 | 出土区 | 石質 | 重量(g) | 大きさ(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 抉り 深さ | 幅 | 先端角度 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 235 | L-11 | 黒曜石D | 3.3 | 2.5 | 1.9 | 0.7 | | | 53° | 1G | |
| 236 | K-7 | 〃 〃 | 2.1 | 2.1 | 1.8 | 0.6 | | | 70° | 〃 | |
| 237 | L-10 | 〃 A | 1.6 | 2.4 | 1.9 | 0.4 | | | 67° | 〃 | |
| 238 | L-11 | 〃 〃 | 2.6 | 2.2 | 1.9 | 0.7 | | | | 〃 | |
| 239 | O-16 | 〃 B | 0.9 | 2.3 | 0.9 | 0.3 | | | 45° | 〃 | |
| 240 | C-8 | 〃 A | 1.4 | 2.1 | 1.6 | 0.5 | | | 58° | 〃 | |
| 241 | K-11 | 〃 〃 | 0.6 | 1.9 | 1.2 | 0.3 | | | | 〃 | |
| 242 | N-12 | 〃 B | 1.6 | 2.9 | 1.6 | 0.4 | | | 63° | 2G | |
| 243 | O-16 | 〃 〃 | 1.6 | 2.9 | 1.6 | 0.5 | | | | 〃 | |
| 244 | N-15 | サヌカイト | 2.3 | 4.1 | 1.9 | 0.4 | | | 51° | Ⅳ類 | |
| 245 | L-10 | 黒曜石B | 1.2 | 3.2 | 1.3 | 0.4 | | | 75° | 〃 | |
| 246 | L-11 | 〃 〃 | 1.1 | 3.0 | 1.4 | 0.4 | 0.4 | 0.8 | | 〃 | |
| 247 | N-12 | 〃 A | 1.3 | 3.1 | 1.6 | 0.3 | 0.7 | 1.4 | 41° | 〃 | |
| 248 | K-9 | 〃 〃 | 0.5 | 2.7 | 1.2 | 0.3 | | | 50° | 〃 | |
| 249 | L-11 | 〃 B | 0.5 | 2.7 | 1.5 | 0.3 | | | 69° | 〃 | |
| 250 | K-10 | 〃 〃 | 0.55 | 1.9 | 1.3 | 0.3 | | | 50° | 〃 | |
| 251 | K-9 | 〃 〃 | 0.45 | 2.5 | 1.0 | 0.3 | | | 51° | 〃 | |
| 252 | N-17 | 〃 〃 | 0.4 | 2.4 | 1.2 | 0.3 | | | 59° | 〃 | |
| 253 | M-20 | 〃 〃 | 0.6 | 1.7 | 1.4 | 0.2 | 0.1 | 0.9 | 66° | 1B | |
| 254 | L-24 | 〃 C | 0.8 | 1.9 | 1.3 | 0.3 | 0.1 | 1.0 | 52° | 〃 | |
| 255 | I-22 | 〃 A | 0.4 | 1.7 | 1.0 | 0.3 | 0.1 | 0.6 | 45° | 〃 | |
| 256 | M-20 | 〃 〃 | 0.5 | 1.8 | 1.2 | 0.2 | 0.1 | 0.8 | 40° | 〃 | |
| 257 | G-13 | 〃 B | 0.7 | 1.8 | 1.6 | 0.3 | 0.1 | 0.6 | 60° | 〃 | |
| 258 | J-22 | 〃 A | 0.8 | 2.0 | 1.5 | 0.3 | | | 46° | 〃 | |
| 259 | N-19 | 〃 〃 | 0.4 | 1.3 | 1.4 | 0.2 | 0.1 | 0.7 | 63° | 〃 | |
| 260 | G-8 | 〃 C | 0.6 | 2.2 | 1.2 | 0.2 | 0.2 | 0.6 | 41° | 1C | |
| 261 | O-17 | 〃 A | 0.6 | 2.1 | 1.1 | 0.2 | 0.2 | 0.7 | 39° | 〃 | |
| 262 | D′-10 | 〃 D | 0.8 | 2.0 | 1.3 | 0.3 | 0.2 | 1.0 | 48° | 〃 | |
| 263 | I-4 | 〃 〃 | 0.8 | 2.1 | 1.2 | 0.3 | 0.2 | 1.1 | 46° | 〃 | |
| 264 | J-22 | 〃 B | 0.9 | 2.3 | 1.4 | 0.3 | 0.2 | 0.9 | 42° | 〃 | |
| 265 | N-19 | 〃 A | 0.5 | 1.7 | 1.3 | 0.3 | 0.1 | 0.5 | 46° | 〃 | |
| 266 | N-17 | 〃 C | 0.4 | 1.6 | 1.1 | 0.2 | 0.2 | 0.8 | 50° | 〃 | |
| 267 | L-9 | 〃 B | 0.3 | 1.5 | 1.0 | 0.2 | 0.2 | 0.9 | 56° | 〃 | |
| 268 | O-18 | 〃 A | 0.4 | 1.6 | 1.0 | 0.2 | 0.1 | 0.7 | 50° | 〃 | |
| 269 | K-10 | 〃 〃 | 0.2 | 1.6 | 0.9 | 0.2 | 0.2 | 0.7 | 47° | 〃 | |
| 270 | K-19 | 〃 〃 | 0.6 | 2.5 | 1.1 | 0.2 | 0.2 | 0.7 | 42° | 1D | |
| 271 | J | 〃 〃 | 0.5 | 2.1 | 1.1 | 0.2 | 0.4 | 0.8 | 40° | 〃 | |
| 272 | P-19 | 〃 D | 0.3 | 2.2 | 1.1 | 0.2 | | | 46° | 〃 | 破損 |
| 273 | J-5 | 〃 A | 0.5 | 2.0 | 1.0 | 0.2 | 0.3 | 0.9 | 45° | 〃 | |

| 番号 | 出土区 | 石質 | 重量(g) | 大きさ(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 抉り 深さ | 幅 | 先端角度 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 274 | L-14 | 黒曜石A | 0.5 | 1.9 | 1.1 | 0.2 | 0.4 | 0.8 | 51° | 1D | |
| 275 | O-16 | 〃 〃 | 1.0 | 2.9 | 1.6 | 0.3 | 0.5 | 1.0 | 43° | 2E | |
| 276 | K-9 | 〃 D | 1.1 | 2.9 | 1.2 | 0.3 | 0.4 | 0.9 | 37° | 〃 | |
| 277 | P-13 | 〃 〃 | 0.5 | 2.2 | 1.2 | 0.2 | 0.4 | 0.9 | 42° | 〃 | |
| 278 | K-11 | 〃 C | 0.4 | 1.9 | 1.1 | 0.2 | 0.4 | 0.9 | 43° | 〃 | |
| 279 | N-19 | 〃 A | 0.4 | 1.7 | 1.1 | 0.2 | 0.3 | 0.8 | 46° | 〃 | |
| 280 | E-17 | 〃 B | 0.9 | 2.4 | 1.3 | 0.3 | 0.3 | 1.0 | 40° | 〃 | |
| 281 | C-8 | 〃 〃 | 0.5 | 1.9 | 1.2 | 0.2 | 0.3 | 0.8 | 45° | 〃 | |
| 282 | M-12 | 〃 C | 0.3 | 1.6 | 0.8 | 0.2 | | | 41° | 〃 | 破損 |
| 283 | K-8 | 〃 A | 1.9 | 2.1 | 1.6 | 0.6 | 0.1 | 0.9 | 64° | 2B | |
| 284 | O-15 | 〃 D | 0.5 | 1.6 | 1.2 | 0.2 | 0.2 | 1.0 | 46° | 〃 | |
| 285 | K-10 | 〃 C | 0.4 | 1.5 | 1.0 | 0.3 | 0.2 | 0.8 | 50° | 〃 | |
| 286 | N-19 | 〃 B | 0.3 | 1.4 | 1.0 | 0.2 | 0.1 | 0.6 | 51° | 〃 | |
| 287 | K-2 | 〃 C | 0.2 | 1.4 | 0.9 | 0.1 | 0.1 | 0.7 | 56° | 〃 | |
| 288 | J-10 | 〃 B | 0.3 | 1.4 | 1.2 | 0.2 | 0.2 | 1.0 | 86° | 〃 | |
| 289 | K-16 | 〃 A | 0.3 | 1.1 | 1.2 | 0.2 | 0.1 | 0.7 | 68° | 〃 | |
| 290 | I-6 | 〃 B | 1.0 | 2.3 | 1.4 | 0.3 | 0.3 | 1.0 | 49° | 2C | 破損 |
| 291 | N-19 | 〃 〃 | 0.6 | 2.0 | 1.2 | 0.2 | 0.3 | 1.0 | 52° | 〃 | |
| 292 | M-20 | 〃 D | 0.7 | 2.1 | 1.3 | 0.2 | 0.2 | 0.9 | 50° | 〃 | |
| 293 | N-19 | サヌカイト | 0.4 | 2.0 | 1.3 | 0.2 | 0.2 | 0.8 | 47° | 〃 | |
| 294 | K-9 | 黒曜石B | 0.4 | 2.0 | 1.1 | 0.2 | 0.2 | 0.7 | 46° | 〃 | |
| 295 | M-19 | 〃 D | 0.7 | 1.9 | 1.4 | 0.2 | 0.2 | 0.9 | 56° | 〃 | |
| 296 | N-20 | 〃 B | 0.4 | 1.8 | 1.3 | 0.2 | 0.2 | 0.9 | 58° | 〃 | |
| 297 | L-10 | 〃 〃 | 0.3 | 1.8 | 1.2 | 0.2 | 0.1 | 0.9 | 65° | 〃 | |
| 298 | L-18 | 〃 A | 0.5 | 1.8 | 1.4 | 0.2 | 0.3 | 1.2 | 64° | 〃 | |
| 299 | N-16 | 〃 C | 0.3 | 1.7 | 1.2 | 0.2 | 0.2 | 1.0 | 53° | 〃 | |
| 300 | N-12 | 〃 B | 0.4 | 1.6 | 1.1 | 0.2 | 0.1 | 0.7 | 58° | 〃 | |
| 301 | G-8 | 〃 C | 1.2 | 1.2 | 0.2 | 0.2 | 0.2 | 0.6 | 60° | 〃 | |
| 302 | I-6 | 〃 A | 0.1 | 1.2 | 0.8 | 0.2 | 0.2 | 0.5 | 51° | 〃 | |
| 303 | I-5 | 〃 C | 0.4 | 1.2 | 1.2 | 0.3 | 0.2 | 0.5 | 78° | 〃 | |
| 304 | O-16 | 〃 〃 | 0.7 | 2.5 | 1.2 | 0.2 | 0.5 | 0.8 | 39° | 2D | |
| 305 | A-9 | 〃 A | 0.7 | 2.5 | 1.2 | 0.2 | 0.4 | 0.9 | 46° | 〃 | |
| 306 | L-9 | 〃 〃 | 0.7 | 2.2 | 1.3 | 0.2 | 0.3 | 0.7 | 47° | 〃 | |
| 307 | L-24 | 〃 〃 | 0.8 | 1.9 | 1.3 | 0.3 | 0.4 | 0.9 | 46° | 〃 | |
| 308 | N-17 | 〃 D | 0.5 | 2.2 | 1.1 | 0.2 | 0.3 | 0.6 | 30° | 〃 | |
| 309 | | 〃 A | 0.8 | 1.9 | 1.0 | 0.3 | 0.3 | 0.7 | 44° | 〃 | |
| 310 | K-2 | 〃 〃 | 0.5 | 1.9 | 1.2 | 0.3 | 0.4 | 0.9 | 53° | 〃 | |
| 311 | H-7 | 〃 〃 | 0.4 | 1.7 | 1.2 | 0.3 | 0.4 | 0.7 | 53° | 〃 | |
| 312 | J-11 | 〃 B | 0.2 | 1.6 | 1.0 | 0.2 | 0.4 | 0.6 | 57° | 〃 | |

(9)

| 番号 | 出土区 | 石質 | 重量(g) | 大きさ(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 抉り 深さ | 幅 | 先端角度 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 313 | K-4 | 黒曜石C | 0.4 | 1.7 | 1.2 | 0.2 | 0.3 | 1.0 | 58° | 2D | |
| 314 | M-14 | 〃 A | 0.2 | 1.6 | 1.1 | 0.2 | 0.2 | 0.5 | 56° | 〃 | |
| 315 | K-10 | 〃 C | 0.2 | 1.6 | 1.0 | 0.2 | 0.2 | 0.7 | 61° | 〃 | |
| 316 | N-11 | 〃 〃 | 0.3 | 1.4 | 1.0 | 0.2 | 0.3 | 0.6 | 64° | 〃 | |
| 317 | I-5 | 〃 A | 0.1 | 1.1 | 0.9 | 0.2 | 0.4 | 0.8 | 77° | 〃 | |
| 318 | M-11 | サヌカイト | 0.8 | 2.6 | 1.3 | 0.2 | 0.5 | 0.7 | 45° | 〃 | |
| 319 | G-14 | 黒曜石D | 2.3 | 1.1 | 0.2 | 0.4 | 0.6 | 0.7 | 43° | 〃 | |
| 320 | K-10 | 〃 〃 | 0.4 | 1.8 | 1.2 | 0.2 | 0.5 | 1.0 | 51° | 〃 | |
| 321 | J-5 | 〃 A | 0.2 | 1.9 | 1.2 | 0.2 | 0.2 | 0.8 | 53° | 2E | 破損 |
| 322 | I-8 | 〃 〃 | 0.1 | 1.1 | 0.9 | 0.2 | 0.1 | 0.5 | 56° | 〃 | |
| 323 | D′-8 | 〃 C | 0.3 | 1.5 | 0.9 | 0.2 | 0.2 | 0.7 | 51° | 〃 | |
| 324 | D-20 | 〃 A | 1.7 | 1.3 | 0.3 | 0.6 | 0.2 | 1.0 | 63° | 4B | |
| 325 | M-17 | 〃 B | 0.5 | 1.3 | 1.1 | 0.2 | 0.1 | 0.9 | 50° | 〃 | |
| 326 | O-20 | 〃 C | 0.4 | 2.0 | 1.2 | 0.2 | 0.2 | 0.9 | 55° | 4C | |
| 327 | H-13 | 〃 〃 | 0.2 | 1.3 | 0.9 | 0.2 | 0.2 | 0.7 | 56° | 〃 | |
| 328 | N-15 | 〃 A | 0.2 | 1.7 | 1.2 | 0.2 | 0.3 | 0.7 | 60° | 4D | |
| 329 | O-16 | 〃 〃 | 0.4 | 1.7 | 1.1 | 0.2 | 0.2 | 0.9 | 46° | 〃 | |
| 330 | N-17 | 〃 C | 0.4 | 1.7 | 1.1 | 0.2 | 0.2 | 0.8 | 47° | 〃 | |
| 331 | L-10 | 〃 〃 | 0.3 | 1.5 | 1.0 | 0.2 | 0.2 | 0.8 | 56° | 〃 | |
| 332 | O-16 | 〃 A | 0.3 | 1.7 | 0.9 | 0.3 | 0.5 | 0.8 | 54° | 6D | |
| 333 | N-18 | 〃 D | 0.7 | 2.0 | 1.3 | 0.2 | 0.1 | 0.8 | 49° | 7B | |
| 334 | J-10 | 〃 〃 | 0.7 | 2.2 | 2.4 | 0.2 | 0.2 | 0.9 | 49° | 7C | |
| 335 | D-17 | 〃 C | 0.5 | 1.8 | 1.2 | 0.3 | 0.3 | 0.9 | 61° | 7D | |
| 336 | D-9 | 〃 A | 0.5 | 1.8 | 1.1 | 0.3 | 0.2 | 0.6 | 60° | 〃 | |
| 337 | D-9 | 〃 〃 | 0.3 | 1.5 | 1.0 | 0.2 | 0.2 | 0.6 | 60° | 〃 | |
| 338 | K-2 | 〃 〃 | 0.1 | 1.3 | 0.9 | 0.2 | 0.2 | 0.8 | 48° | 〃 | |
| 339 | I-14 | 〃 B | 0.7 | 2.2 | 1.1 | 0.2 | 0.5 | 0.8 | 44° | 7E | |
| 340 | J-5 | 〃 C | 0.2 | 1.9 | 1.0 | 0.1 | | | 51° | 7F | 破損 |

**尖頭状石器**（Fig.83・**341**～**344**）

３点とも欠損品であるが，おそらく，先端部が尖頭状を呈すると思われる。**341**は，玄武岩製で，幅２cm，厚さ0.6cm，両側縁は丁寧な二次加工が施され，両面は研磨によると考えられる磨耗痕が残る。**342**はサヌカイト製で，幅1.8cm，厚さ0.4cm，両側縁は細かい剥離が行われ，その後に，両面全体が研磨され、基部は薄く斜行している。両側縁も薄く仕上げられているところから，刃部として使用された可能性もある。**343**はサヌカイト製，両面全体に，細かい剥離が加えられている。基部に近い片側縁だけがふくらみを持つ。細身の小形の尖頭器と考えられる。**344**はサヌカイト製，幅1.1cm，厚さ0.2cmと全体を薄く仕上げている。両側から押圧剥離されており，小形の尖頭器と考えられる。

**異形石器**（Fig.83・**345**～**346**）

**345**は黒曜石製Bの縦長剥片を素材として用い，両端を切断して，中央の両側から抉りを施し，チョウネクタイ状に押圧剥離で整えている。二次加工は片面だけに行われている。この種の石器は１点だけの出土で，性格，機能については不明である。同種の石器は大村市水計遺跡からも出土している。又，近畿，及びその周辺の縄文前期から晩期にかけて，よく見られるという。**346**は黒曜石A製，最大幅1.6cm，厚さ0.3cm，異形石鏃とも称される石器である。全体は押圧剥離で薄く調整され，X字状に近い形に仕上げられている。機能性格については不明な点が多いが，類似資料は，九州横断自動車道路線内にある諫早市牛込B遺跡[註5]から３例，水計遺跡[註6]から１例の出土がある。又，熊本県山口遺跡や舞の原遺跡出土[註7]の資料も近似している。後者２遺跡では，トロトロ石器も出土している。土器は押型文から，塞ノ神武土器を伴っており，縄文時代早期の所産と考えられ，本遺跡の出土傾向とも大筋において，一致するものである。

**錐**（Fig.83・**347**～**349**）

**347**・**348**はサヌカイト製。横剥ぎ剥片を素材とした，ほぼ同形態の石器。楕円状に二次加工した頂部に突起部を付けている。**347**は片面のみ周縁加工。**348**は両面を周縁加工している。**349**は黒曜石C製。横剥ぎ剥片を素材とし，中央の稜線を突起まで利用している。突起部は先端部が欠失しているが，**347**・**348**に較べると長い。二次加工は片側縁だけに施され，自然面を一次剥離面に残す。

**石匙**（Fig.83・**350**）

サヌカイト製で，両側から抉られたつまみを中央にもち，刃部が左右にのびる横剥ぎ型。二次加工は全面に丁寧に行われ，中央部にふくらみをもつ。この種の石器は１点のみ出土。

**掻器**（Fig.84・**351**～**353**）

いずれもサヌカイト製。横剝ぎ剝片を素材としている。**351**は上部に平坦面を持ち，周縁を二次加工，片側縁は両側から剝離している。**352**・**353**はいずれも，両側１回で剝離した素材を用い，側縁部に二次加工を施し，刃部機能は発達している。

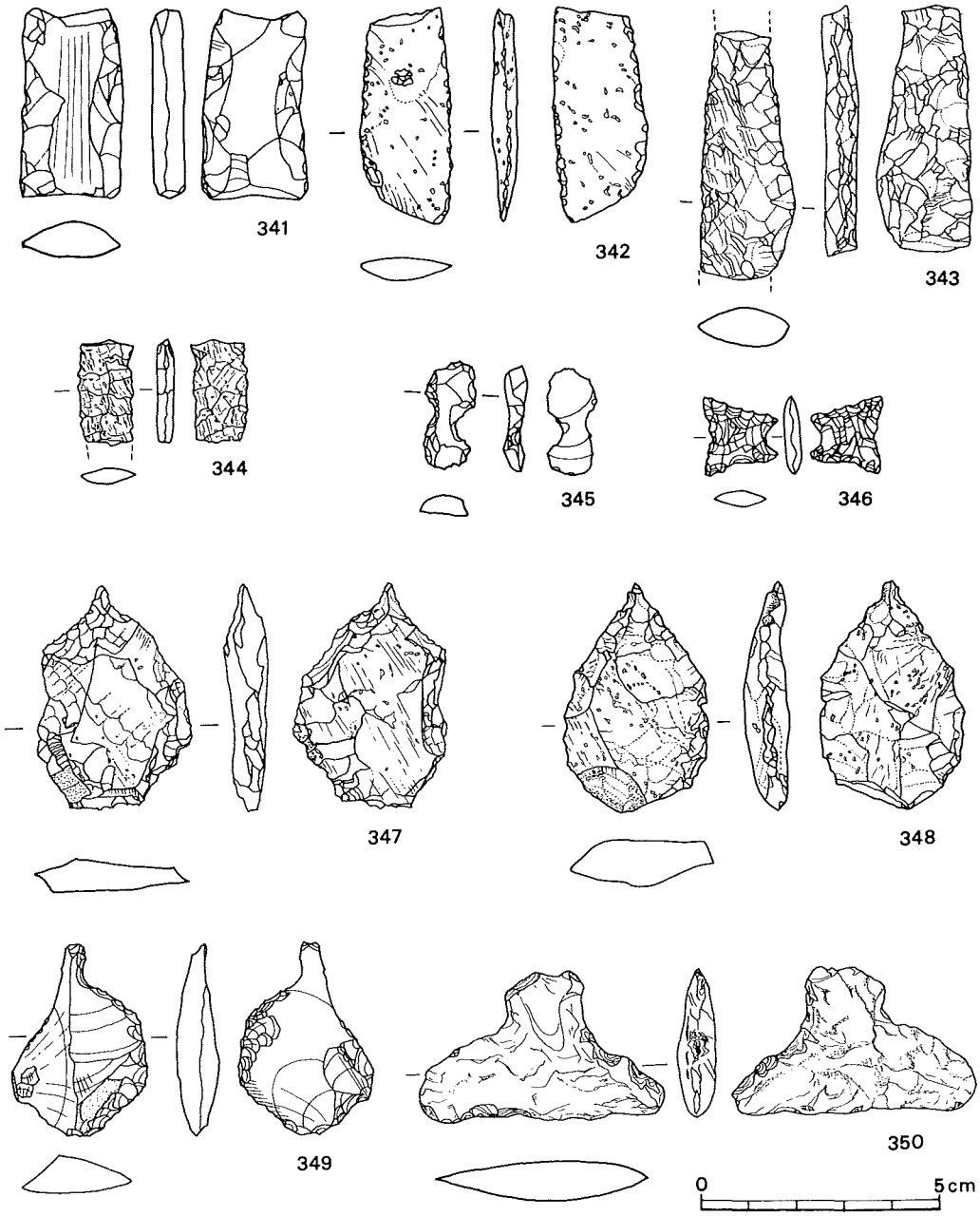



Fig.83　その他の石器実測図

**垂飾品**（Fig.84・**354**）

砂岩製。やや尖った楕円形を呈し，長さ2.9cm，幅1.3cm，厚さ0.9cm，重さ6gを計る。中央部からやや上には，縦0.8cm，横0.5cmの楕円の穴が両面から穿たれている。全体的に丸みをおびているが，研磨痕は観察できない。N－16からの出土で，縄文早期の所産と考えられる。

**石斧**（Fig.85～86・**355**～**358**）

**355**は安山岩製の完形品。長さ16.8cm，最大幅5.5cm，最大厚3.2cm，重さ308gを計る。刃部だけが磨かれた両刃の局部磨製石斧である。両側縁は大きく二次加工されている。柄ずれ痕なのか，両面ともくぼんだ面が見られる。全体に風化が著しい。出土区は調査区の南限にはあたるH－3から。**356**は蛇紋岩製で，片側面を刃部面が一部残る。刃部は鋭利に研磨されているが，やや片面が厚みを増して仕上げられ，縞がわずかに作り出されている。**356**は蛇紋岩製の大形石斧。下端部を欠失しているが，残部は長さ15cm，幅7cm，最大厚3.3cm。刃部は両刃になると思われる。**357**は粘板岩質で磨耗著しい。側縁を打ち欠き，調整を行っているが，タテ半分に割れている。石斧の時期について，**355**は早期の所産と考えられるが，蛇紋岩製の2点については縄文後・晩期に多くの類例が見られる。早期における出土例は少なく，現在は百花台遺跡で知られている。

**磨耗痕ある石器**（Fig.87・**359**～**364**）

磨耗痕ある石としたのは，従来のすり石，あるいは，砥石と一応区別するためである。すべて材質は砂岩を使用し，扁平である。**359**は周縁部が欠失しており，原形は窺い知り得ない。左面はスベスベした感じに研磨されているが，右面は剝離面が残り，ザラついている。**360**は片側面は2cmと厚いが，割れ面のほうは0.7cmとうすく傾斜している。左面は全体に研磨を受け，きめ細かい面になるが，右面は研磨され，わずかに2列のくぼんだ面が観察される。この面は風化が著しい。**361**は厚さ1cmの扁平な礫で，両面が磨かれている。左面は一段くぼんで研磨されている。右面も同じ側縁が研磨され，薄くなっている。この石器は砥石に利用されたのかもしれない。**362**は厚さ1.1cmの扁平な面を全部研磨している。側縁も面取りされている。欠損品であるため，原形は不明。**363**は厚さ1cm，左面だけ研磨され，右面は剝離面である。側縁は頂部がわずかに平坦になり，わずかに研磨痕が残るが，二次加工で，やや調整されている。**364**は長さ9.3cm，最大長3.3cm，厚さ0.7cm，隅丸の長方形を呈し，扁平な自然礫を利用，全面を研磨している。両端部に敲いた痕は見られない。

以上の石器は扁平な砂岩を素材とし，形状もあまり大きくならないという共通点がある。物を研磨する道具には間違いないと思われるが，今後の類例の増加を期待したい。

**凹石**（Fig.88・**365**・**366**）

**365**はやや扁平な安山岩の円礫を素材としている。両面に大きな凹をつけている。最大長9cm，厚さ3cm，重量297gを計る。**366**は厚手の安山岩を素材としている。両面にわずかな凹があり，側縁は研磨され，面取りが行われている。最大長11.3cm，厚さ4.6cm，重量750gを計る。

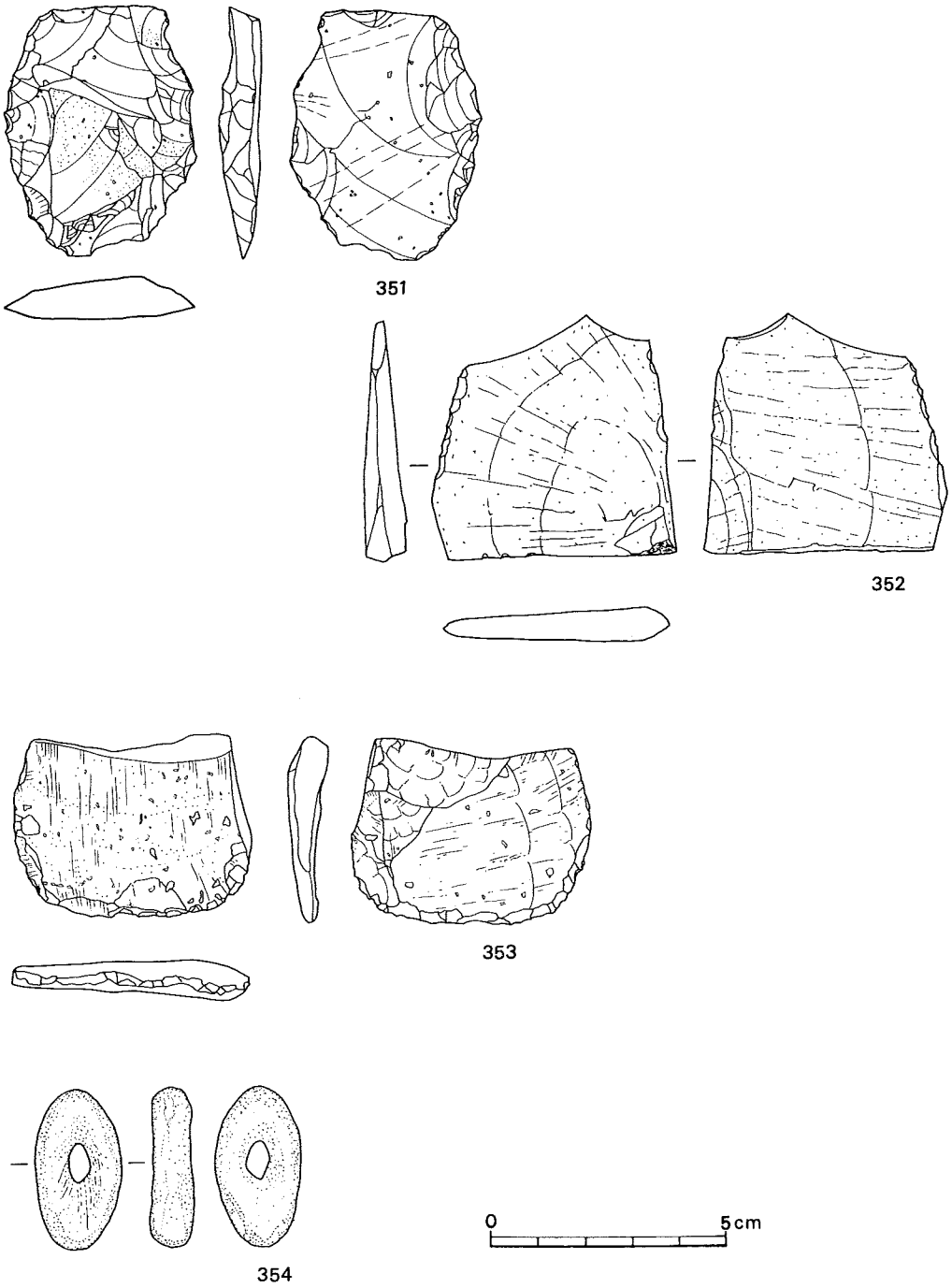



Fig.84　掻器及び垂飾品実測図

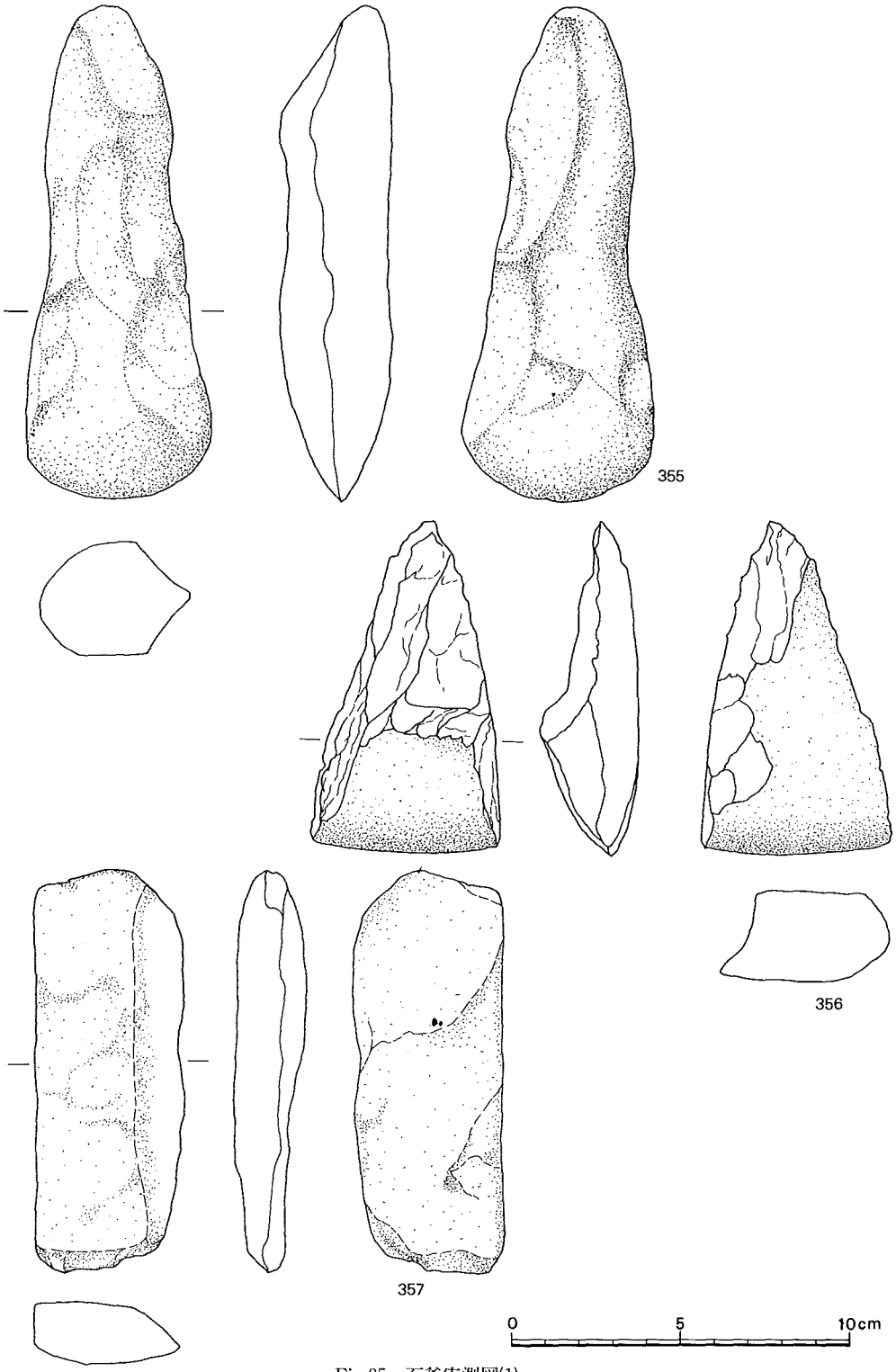



Fig.85　石斧実測図(1)

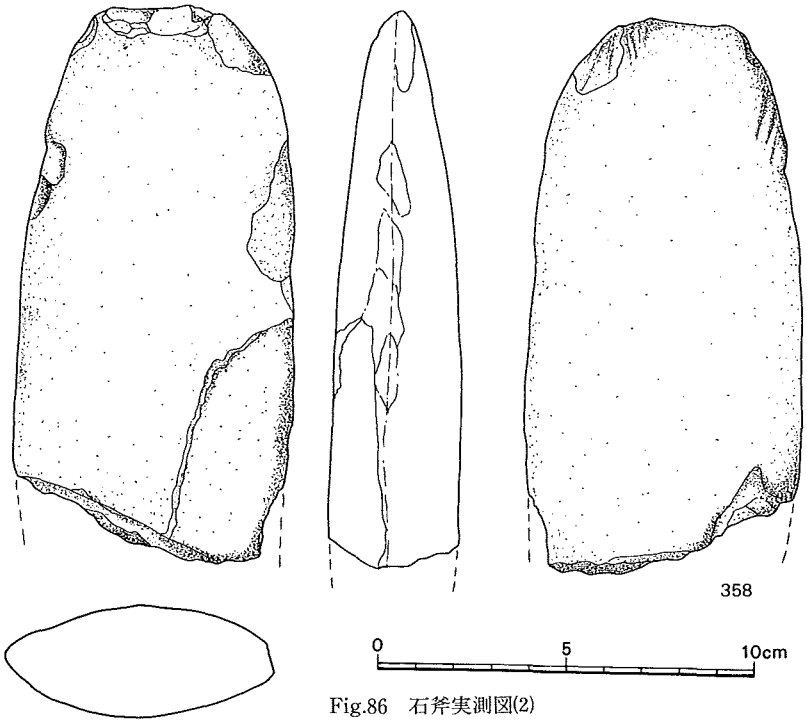



Fig.86　石斧実測図(2)

**すり石**（Fig.88・**367**）

風化が著しく，自然面に近い礫は数個あるが，明確なものはこの１点だけである。安山岩円礫を利用している。最大長10.6cm，厚さ5.2cm，重量850gを計る。

**石皿**（Fig.89・**368**）

大形の安山岩角礫を素材としている。欠損品であるが，片面だけ使用しており，使用面はゆるく湾曲している。現存長は縦25cm，幅17.5cm，厚さ4.2cm計る。

註１　岡本東三　「トロトロ石器考」　麻生優編　『人間・遺跡・遺物－わが考古学論集１』　文献出版社
２　京都学術平戸調査団　「平戸の先史文化」　『平戸学術調査報告』　1950
３　麻生優編　『泉福寺洞穴の発掘記録』　佐世保市教育委員会　1984
４　長崎県教育委員会　『今福遺跡III』　長崎県文化財調査報告書　第84集　1986
５　長崎県教育委員会　「上水計遺跡」　九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書III　1983
６　長崎県教育委員会　「牛込Ａ・Ｂ遺跡」1982
７　小畑弘己　「矢部町名連川の縄文時代の遺物」『赤れんが』創刊号　赤れんが出版会　1981
８　白石浩之　「縄文時代草創期の石鏃について」『考古学研究』第28巻　第４号　1982

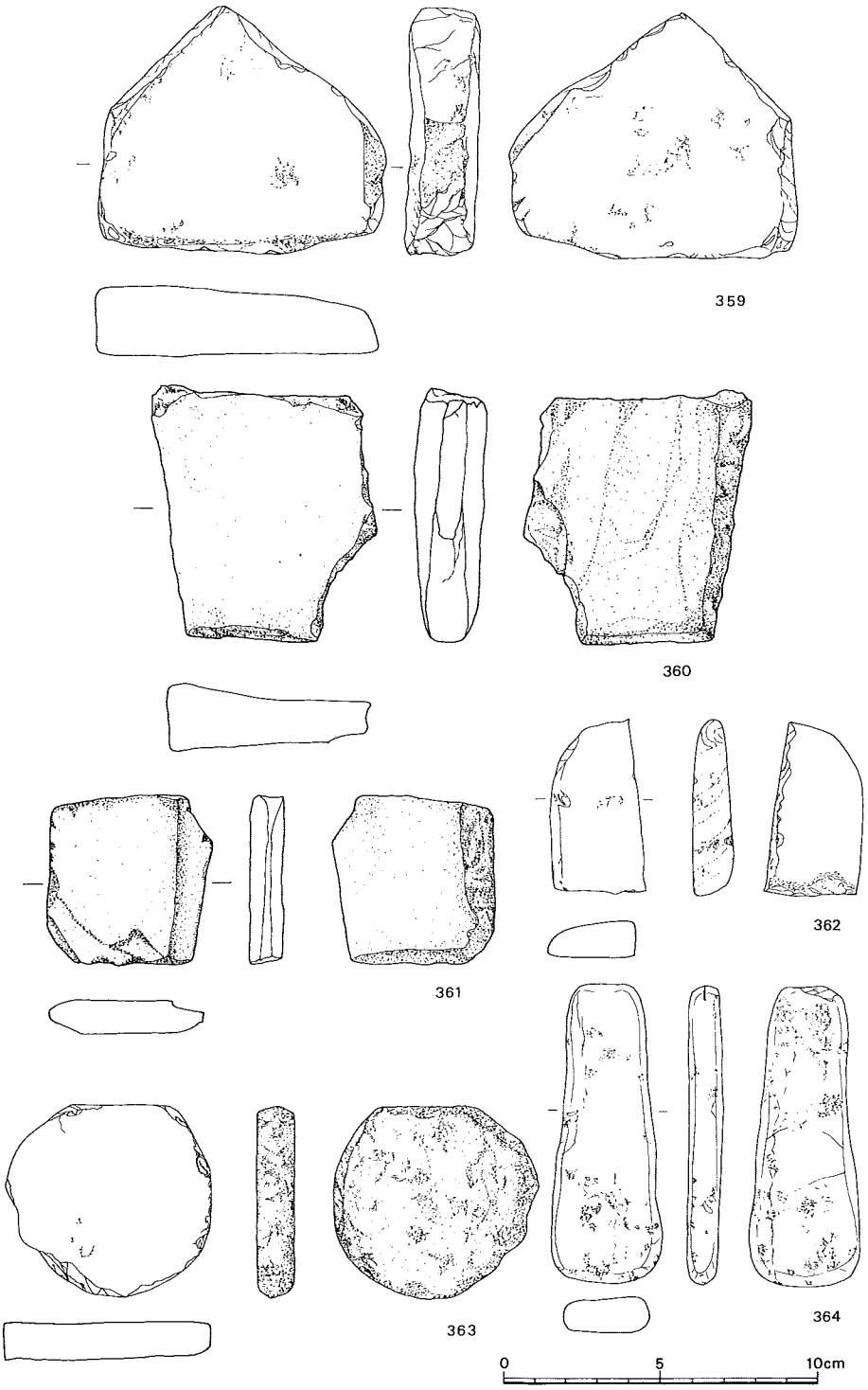



Fig.87　磨耗痕ある石器実測図

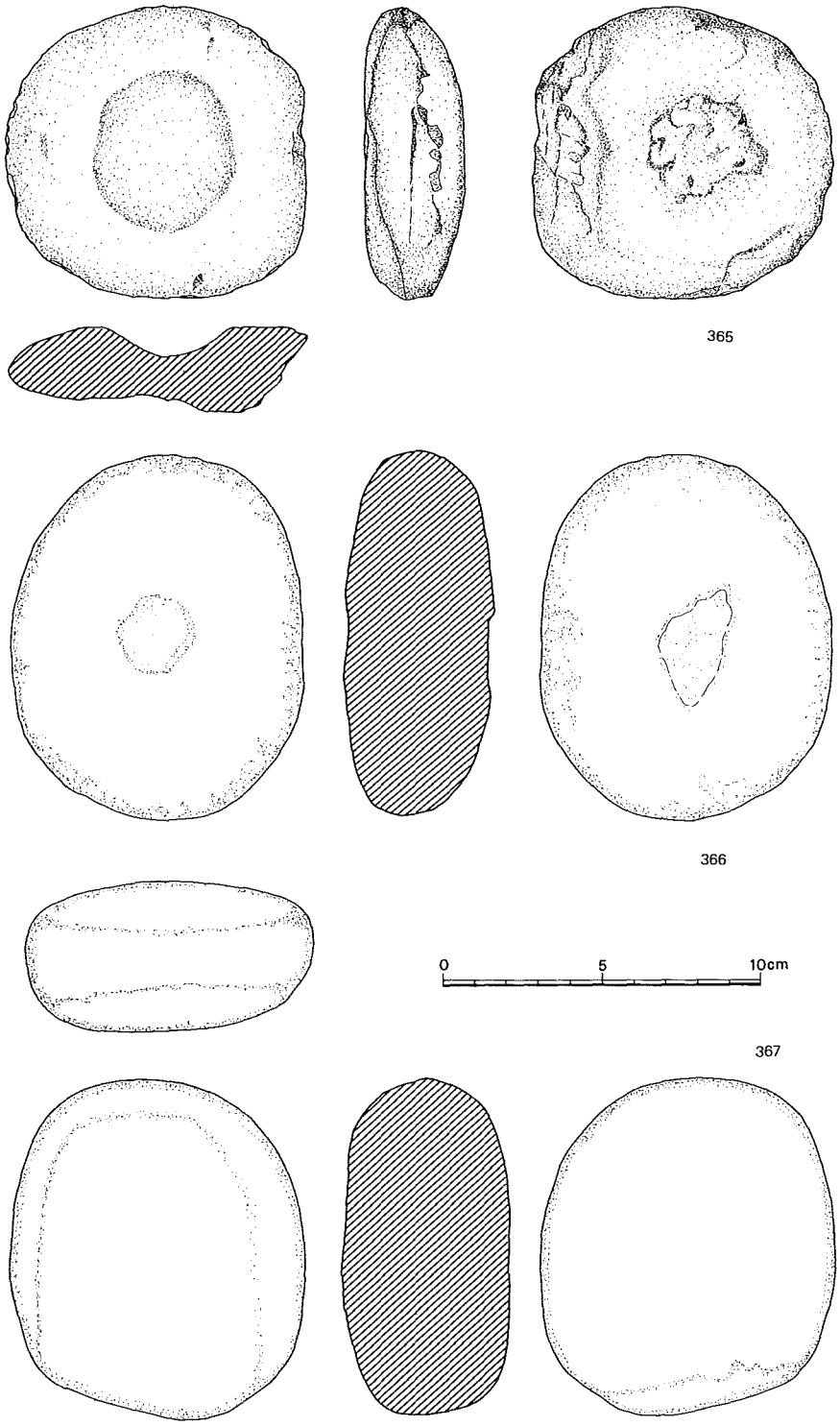



Fig.88　凹石及びすり石実測図

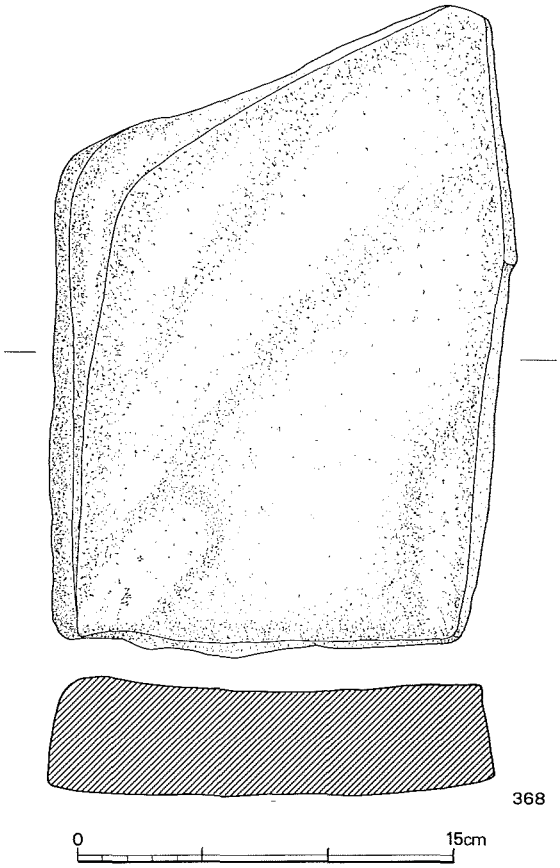



Fig.89　石皿実測図

## 8．中世の遺物

中世の包含層は，L－4区に限定され局所的である。遺構も性格不明のものが検出された。遺物は，少量の土器，石鍋片などが出土した。

### 1号配石遺構

L－14・M－15区を中心に，北東から南西にかけて約11mの長さで斜行する。残存部がこれだけで，実際にはまだ続いていたと思われる。遺構は先ず浅いV字状の溝を掘り，その上に人頭大の礫を載せさらに小礫で覆っている。性格，時期とも不明であるが，排水施設ではないだろうか。

### 2号配石遺構

Q－15区を中心東西に約5m残存している。大礫を南側に配置し，北側に裏込め石と思われる小礫を多くつめ込んでいる。石垣とも考えられるが，確証はない。中世の建物遺構の一部かも知れない。

**石鍋**（Fig.90・**1**～**4**）

**1**～**4**は2個体と考えられる石鍋片で，**1**は平坦口縁で孔をもつ。**2**は縦長につく耳部である。**3**は口縁下に鍔が巡りススが付着している。**4**は底部，いずれも削り痕が明瞭に残る。

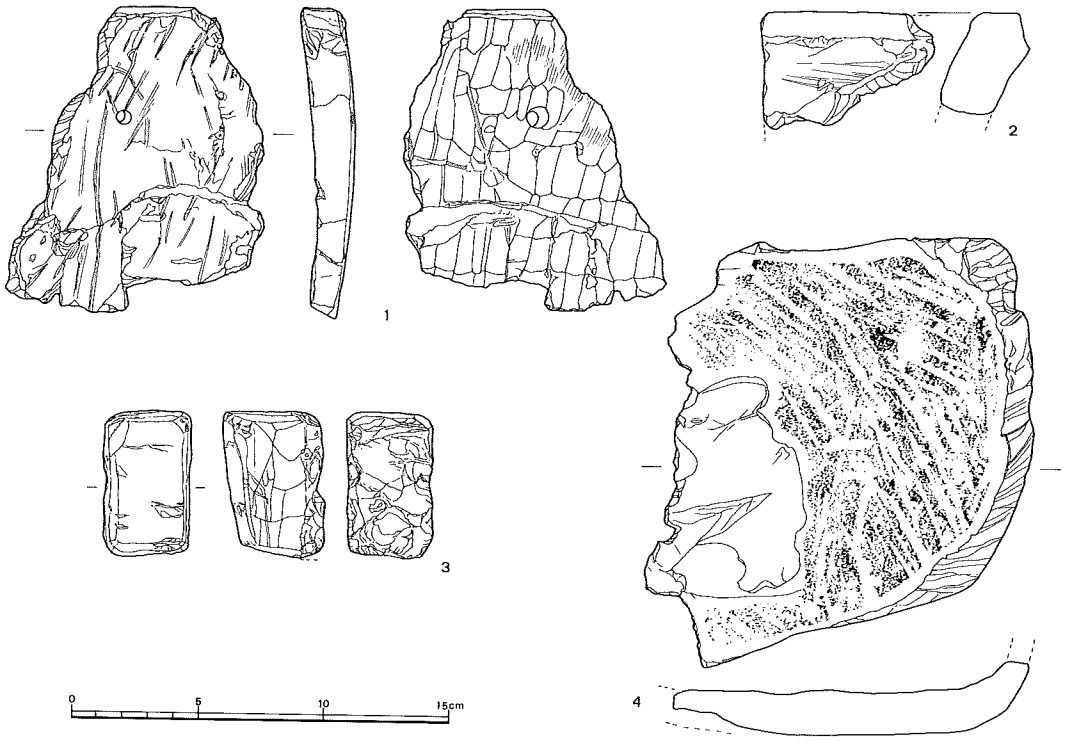



Fig.90 石鍋実測図

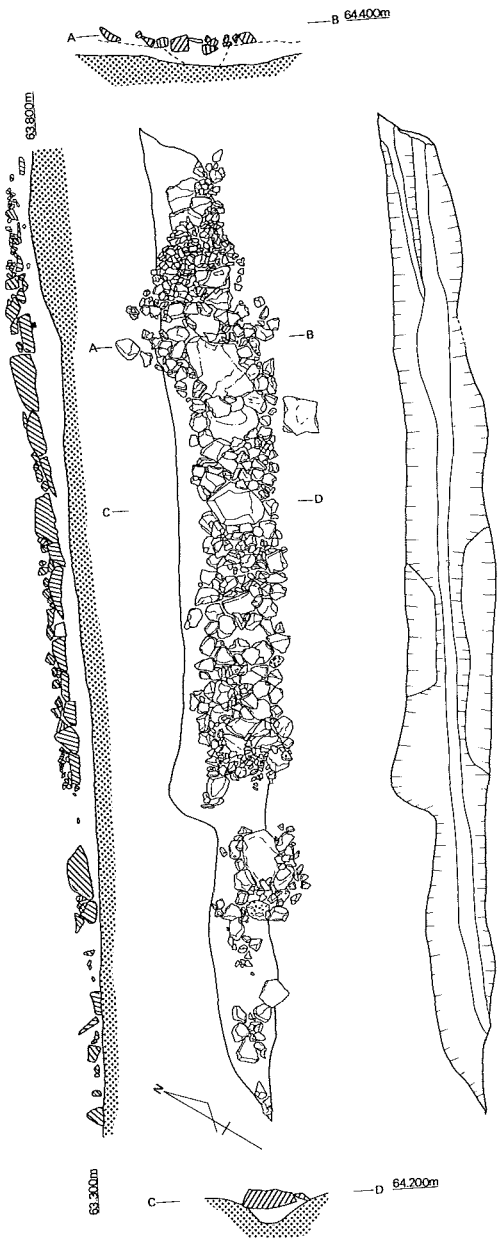



Fig.91　1号配石遺構実測図

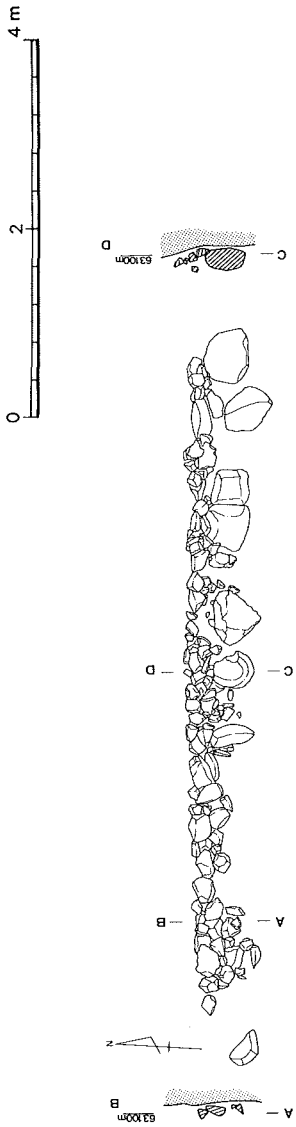



Fig.92　2号配石遺構実測図

# Ⅳ　総括

松山A遺跡の調査は，約1年間にわたり続けられた。調査に入ったのが1987年の暑い盛り，一面のみかん畑も現在は高速道路のインターチェンジが完成目前にせまり，大きく変貌している。

調査方法は，表土層や撹乱を受けていない層であれば，最大限ドットマップによる記録に努めた。その結果，遺物の取りあげ記録は54,710点を数えた。その他にも表土層や表面採集のものまで含めると，その量は膨大なものになる。

一般的に赤い粘土質の層がむき出しになっているこの地方では，表面採集によっても先土器時代の遺物が多く発見されるが，逆に縄文土器などは風化を受け，保存状態は極めて悪く量的にも非常に少ない。本遺跡の立地する東南の方向には，標高200mを越す高原状の地形や，溜池が点在するが，この周辺部から各種の遺物が採集されている。本町在住の井手寿謙氏は昭和初期頃から丹念に付近の踏査を行われ，多くの遺物を蒐集されている。その中には大野原遺跡やカブラ堤・大村市野岳遺跡の細石核や尖頭器などが含まれ，我が国における先土器研究の発展に大きな役割を果たし，本遺跡出土の遺物と比較資料にもなっている。

今回検出された遺構は，集石遺構と配石遺構に分けられる。前者は縄文時代早期，前期を中心に各地に出土例が見られるものであるが，調理用の施設であるか，埋葬用の土壙であるのか性格の判断は出来なかった。配石遺構は，溝を作り，そのうえに大きな礫を並べ，さらに小礫で全体を覆ったものである。水利施設に関係あるものと考えられるが，その他の関連遺構は発見されていない。時期的には中世以降のものと思われる。

遺物は先土器時代から縄文時代早期までが中心となっているが，中世の遺物が局所的に若干出土している。遺物の分布は6個所に濃密に認められ，生活の核的部分があったことを窺わせている。ただ遺跡の範囲は，標高71mから59mまで及んでおり，わずかな谷状の地形に集中している傾向が見られる。このような地形状況の中で，土層は基本的には1層から4層まで観察されるが，間層は存在しない。石鏃などは混同した形で出土する。

先土器時代の石器の出土には見るべきものがある。剝片石器や掻器などを別にすれば，ナイフ形石器，細石刃，尖頭器で若干違った傾向が見られる。ナイフ形石器は調査区の全域に見られ，従来「九州型」ナイフと呼ばれる縦長剝片を素材として両側縁に2次加工を施し，斜行した刃部を付けたものや，切出し形ナイフと呼ばれるものなどバラエティーに富んでいる。台形石器は，わずか3点の出土であったが，両側縁にブランティング加工を施し，両面にも平坦加工を行っており，「枝去木型」や「原の辻型」と呼ばれる形態のものである。

細石刃の出土区域には特徴が見られ傾斜のゆるやかな平坦面に集中している。細石核は舟底型を呈するものの出土があるが，細石刃はこれらの石核から剝離されたものと思われる。野岳遺跡や県北の各遺跡から類似資料は多く得られている。

尖頭器の出土は予想を上回るものであるが，三稜尖頭器や幅広の尖頭器などはナイフ形石器に平行すると考えてよいと思われるが，木の葉形をした扁平になる一群や，全体が細身で基部がふくらむ形の一群は，縄文草創期あるいは早期の所産とする見解も多い。本遺跡の場合には，土層による明確な区分が困難であり今後の検討課題である。

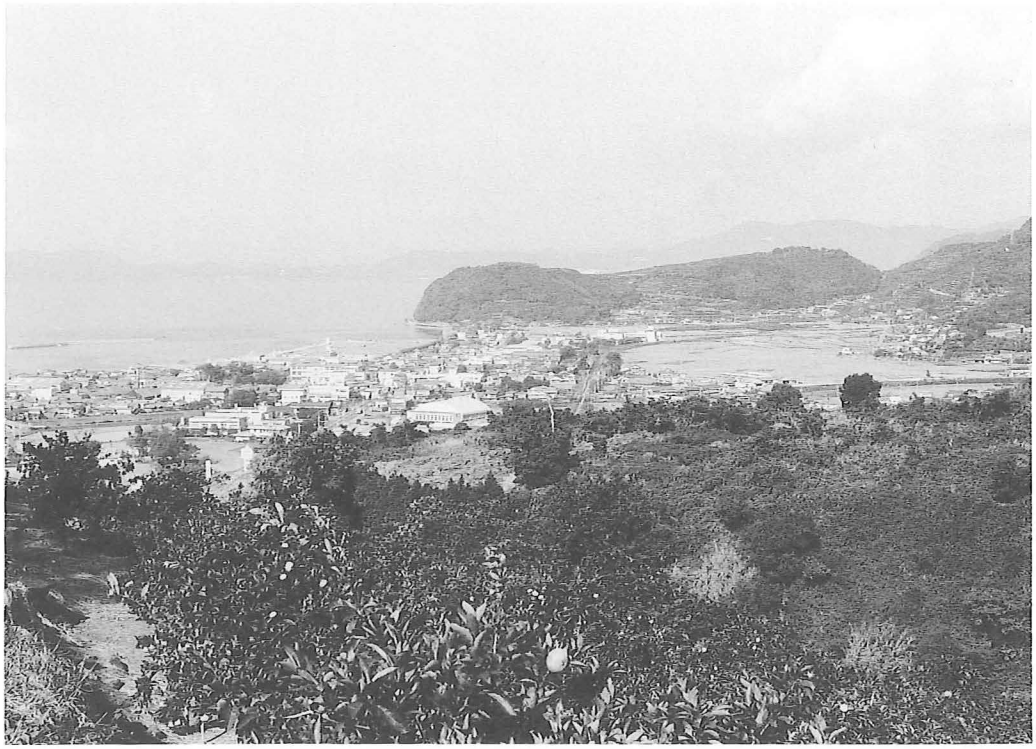
縄文時代の遺物は，若干の土器と石鏃を主体とする各種石器である。土器は無文厚手の早期のものであるが，土器の出土は極端に少ない。褐色ローム層がむき出しになり，風化による作用との見方もあり，特に県中央部から県北部にかけて見られる。

石鏃は2,500点以上の出土があった。単独の遺跡からこれだけ集中したのは特異な現象である。形態的に細かく分類したが，特に局部磨製石鏃の出土の割合が多いのが目立つ。局部磨製石鏃は西北九州を中心に分布が見られるが，これ程の集中は見られない。ただ岩下洞穴では多いことが報告されている。

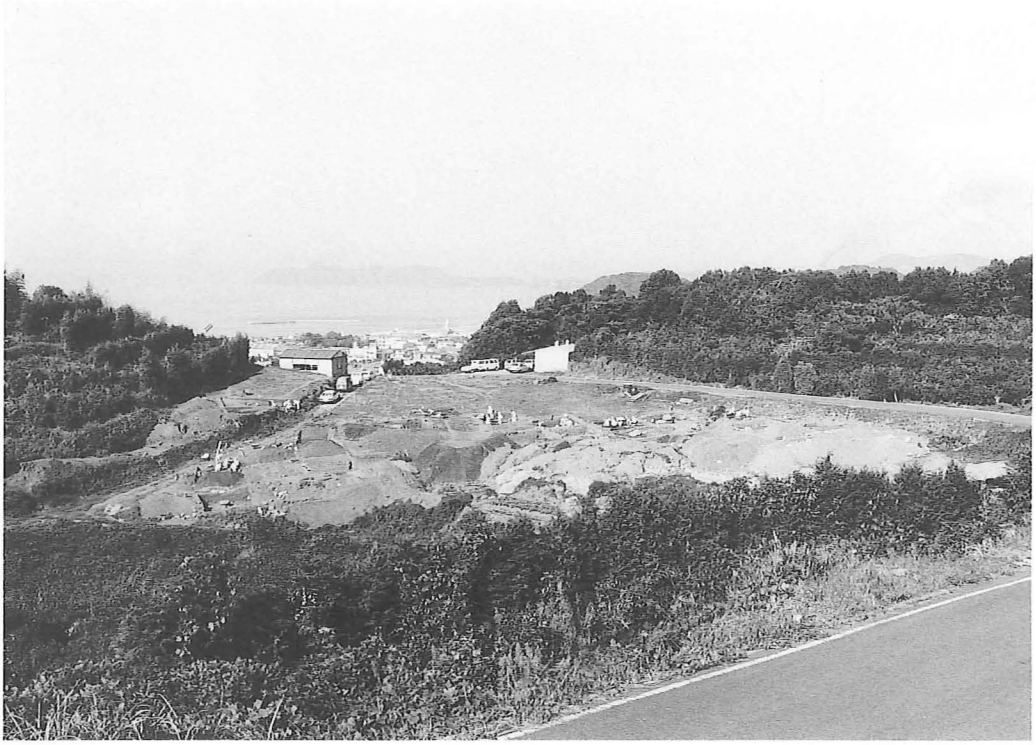
松山A遺跡がこれだけの遺物を出土した背景は，石材供給地に恵まれていたことが大きな要因と思われる。周辺の主な産地は，漆黒色の黒曜石を産出する大崎半島は至近の距離にあり，灰緑色又は灰青色の黒曜石産地は大村湾を挟んだ，西彼町亀岳，佐世保市針尾島などがある。東隣りの嬉野町松尾川周辺からのものもかなり含まれ，サヌカイトは多久周辺から搬入されたと思われ，石材の多様性が見られる。これまで九州横断自動車道関係で調査された遺跡からは，遺跡の規模や遺物の多少の差はあれ，先土器から縄文時代まで確認され，本遺跡と類似資料も見られることから，点の繋りが見られる。石鏃などはこの地への供給基地的な役割を果たしていたのかも知れない。ともあれ，遺跡の消長は先土器時代後半から縄文時代早期にかけて中心があったと考えられる。

# PLATES

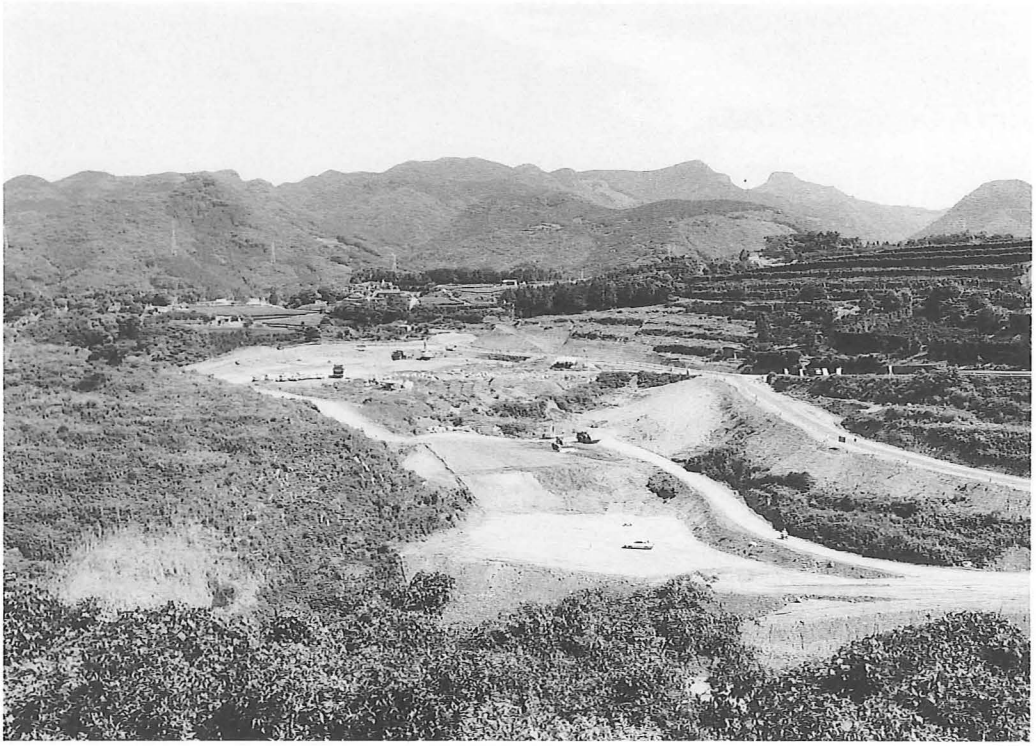
# (松山A遺跡)



遺跡および大村湾遠望（東から）



遺跡遠景（東から）



遺跡遠景（南から）

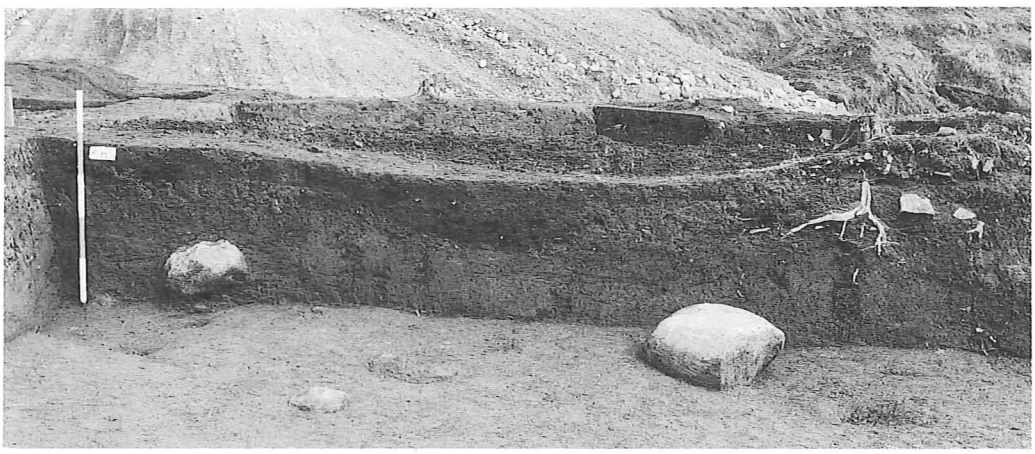
遺跡雪積風景（1982.2.3）

N－17区北壁土層

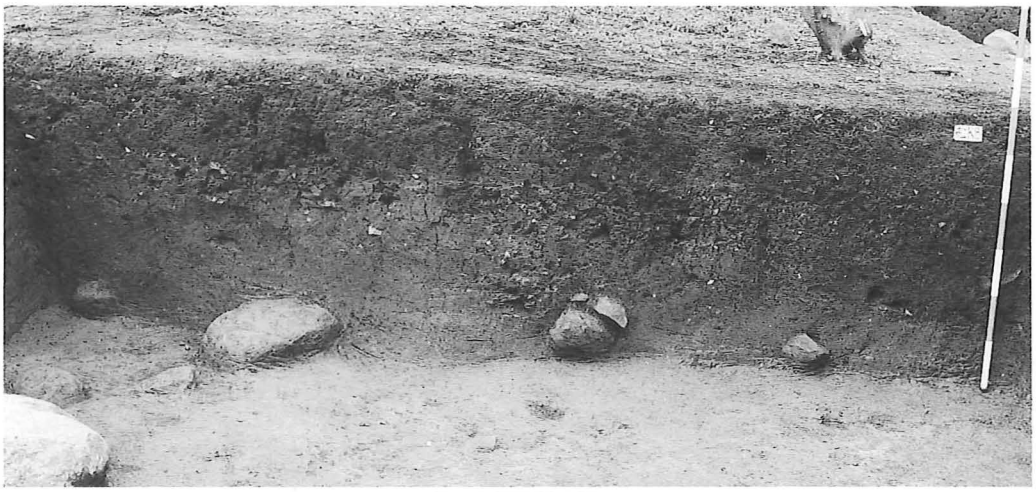
N－17区東壁土層

O－19区北壁土層

O－19区東壁土層



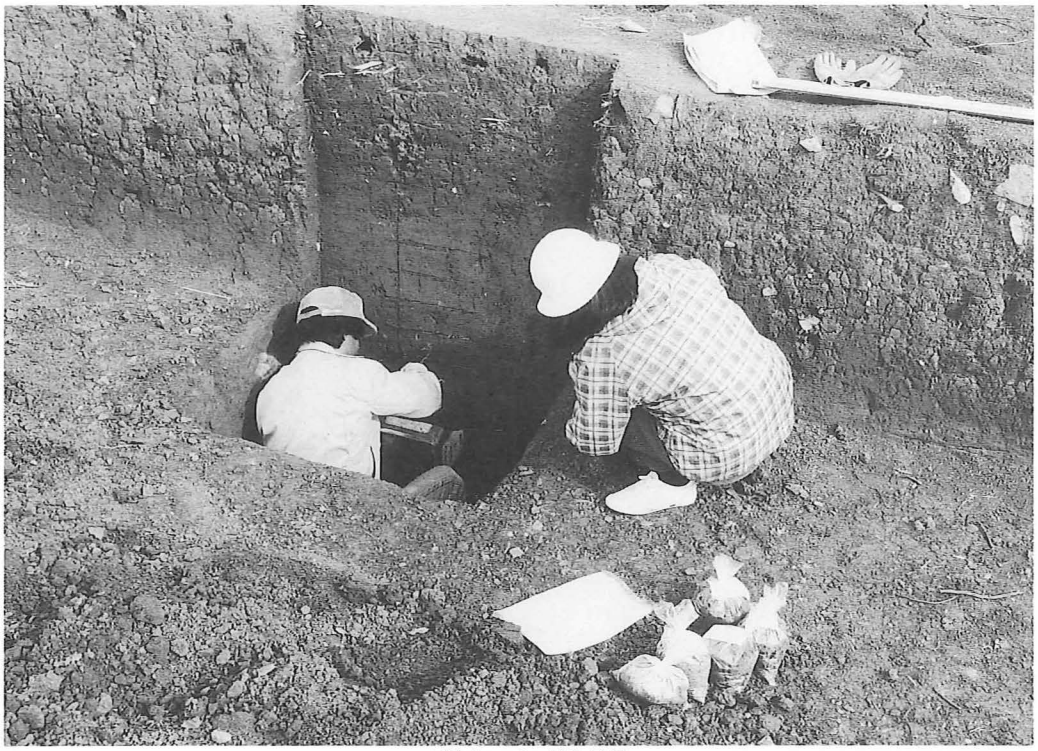
H－8区東壁土層



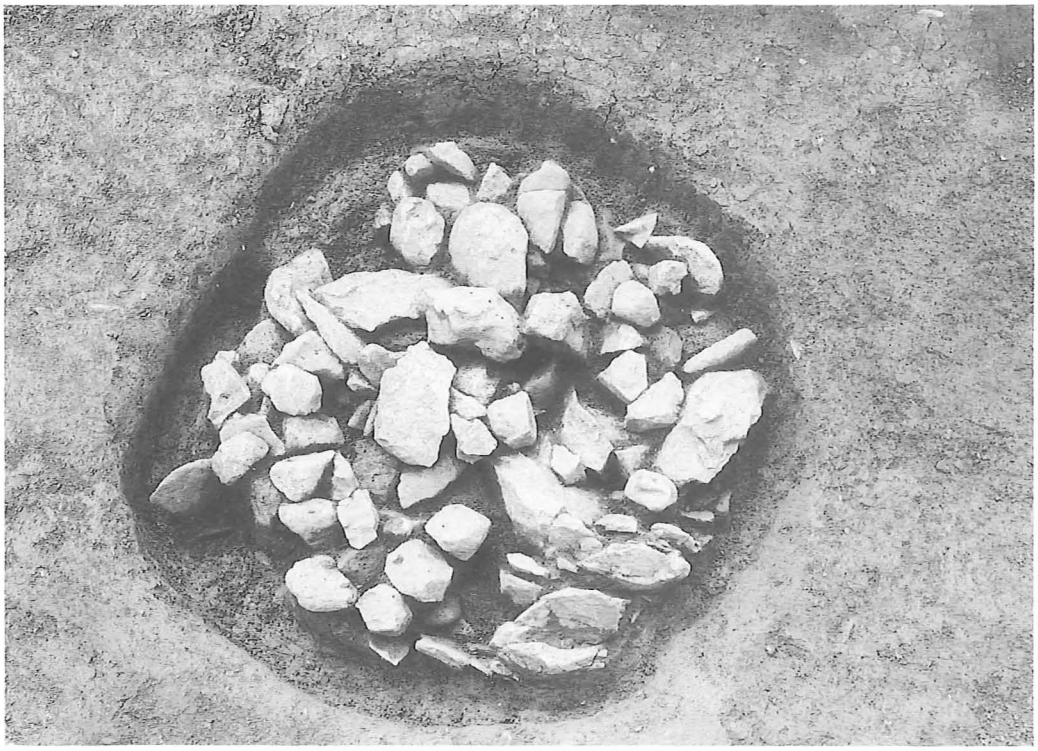
K－8区北壁土層

L－11区北壁土層

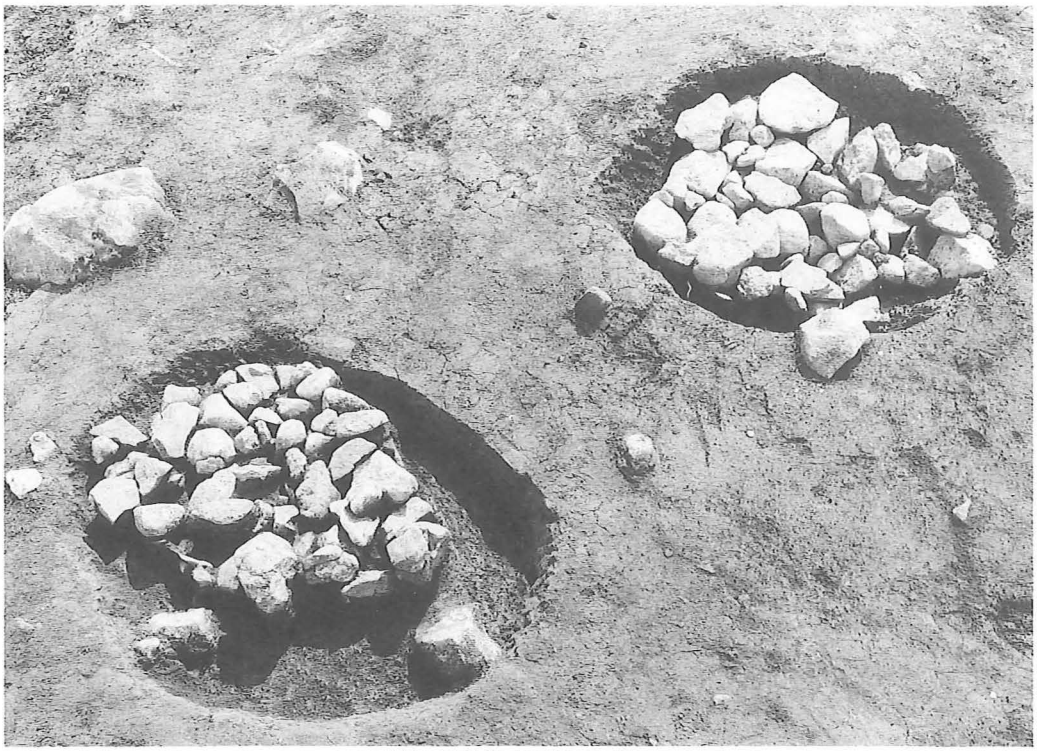
発掘調査風景



土層サンプル採取風景

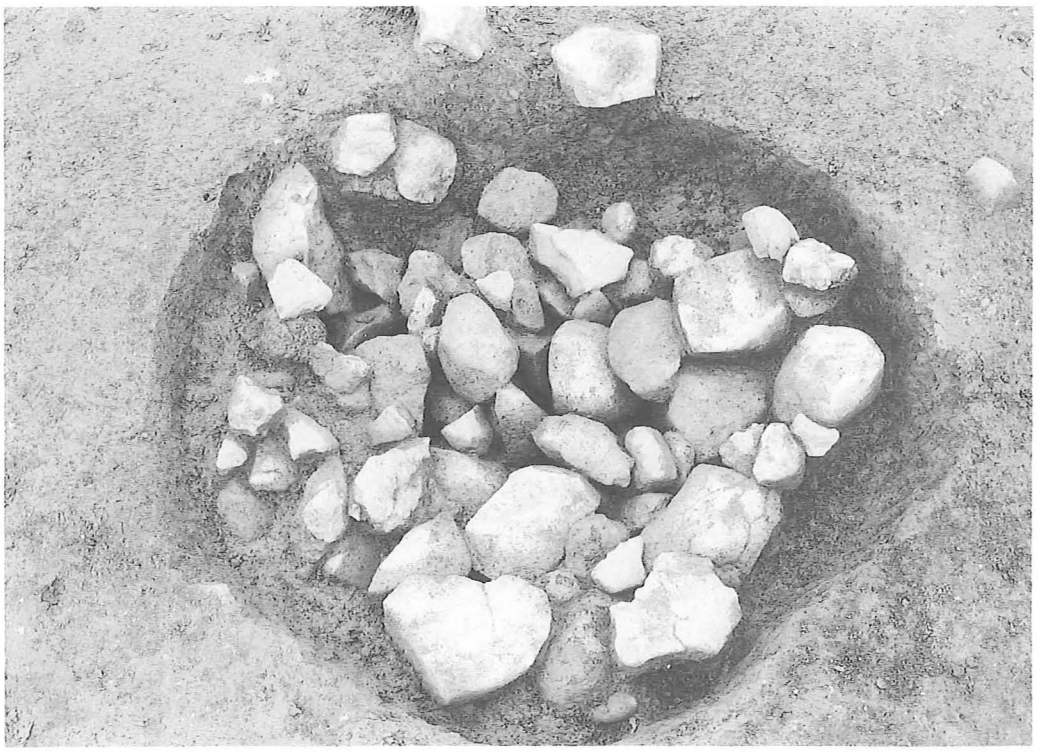


1号集石遺構検出状況

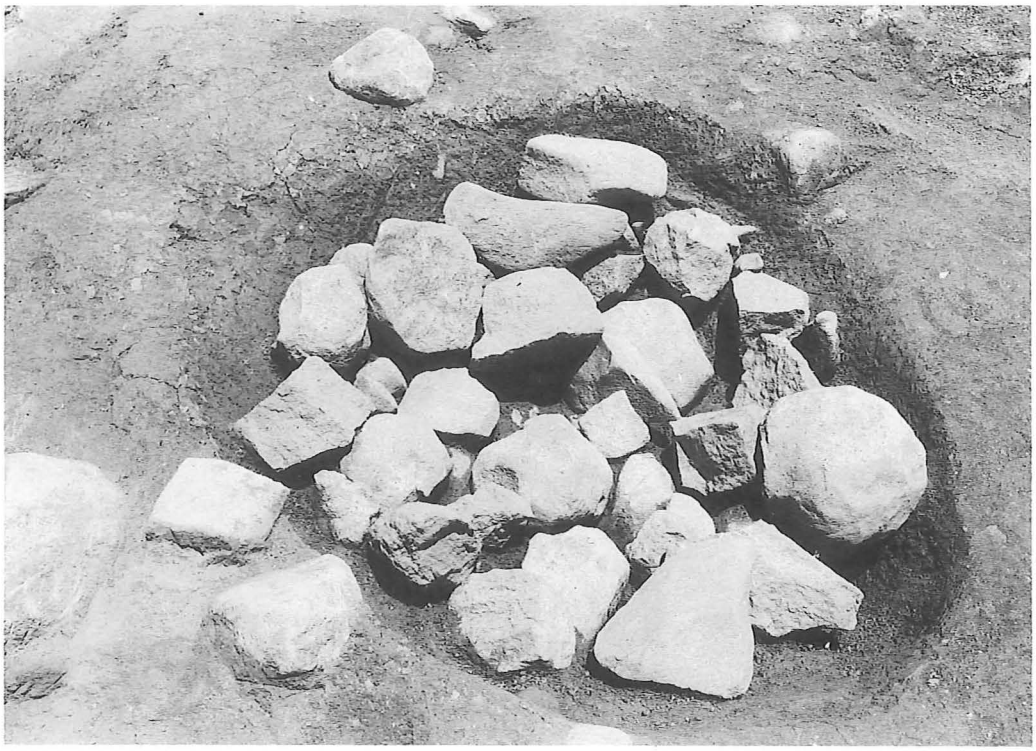


2号・3号集石遺構検出状況

2号集石遺構検出状況

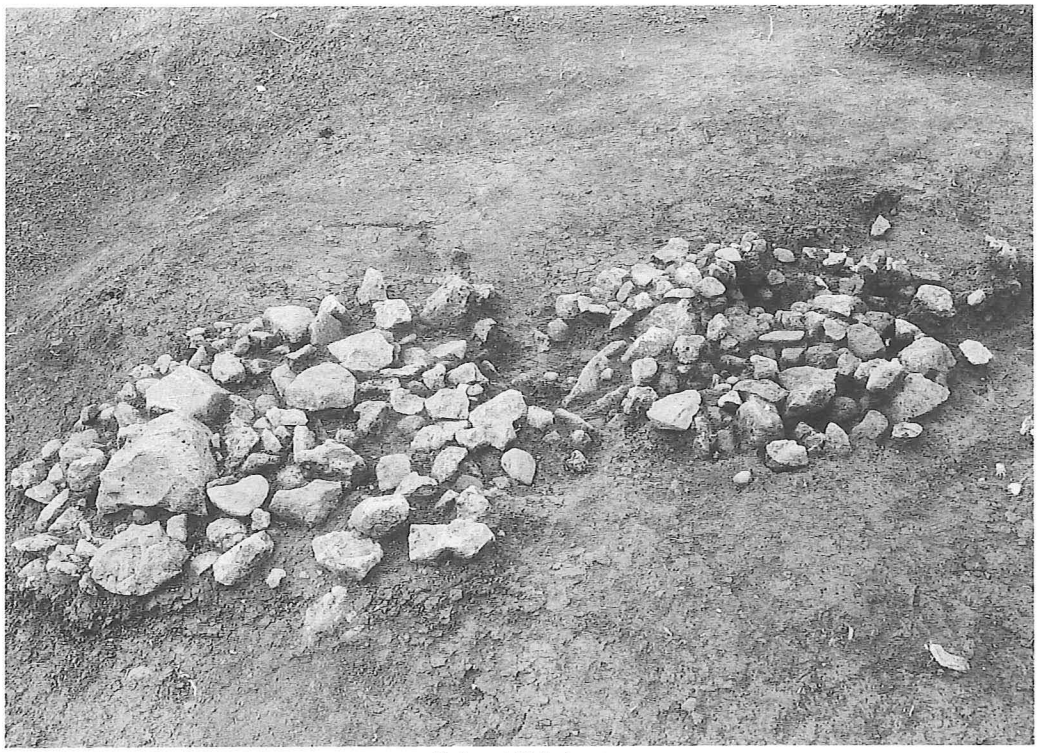


3号集石遺構検出状況



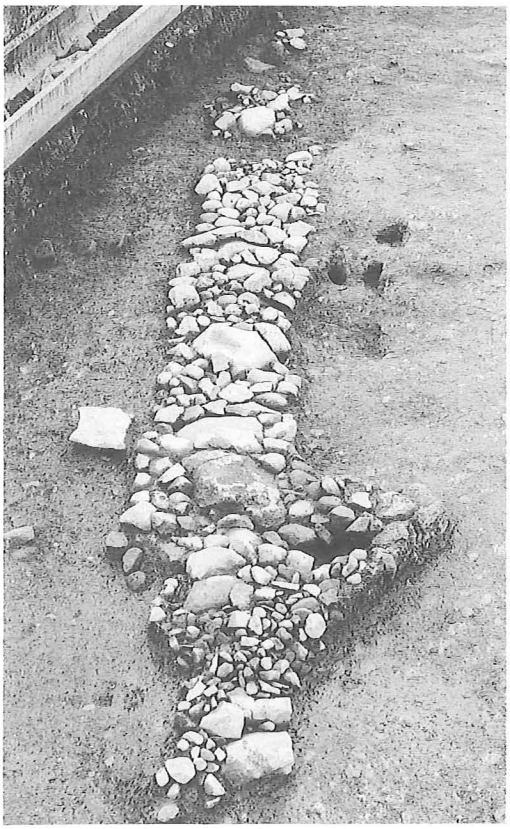
4号集石遺構検出状況

5号集石遺構検出状況



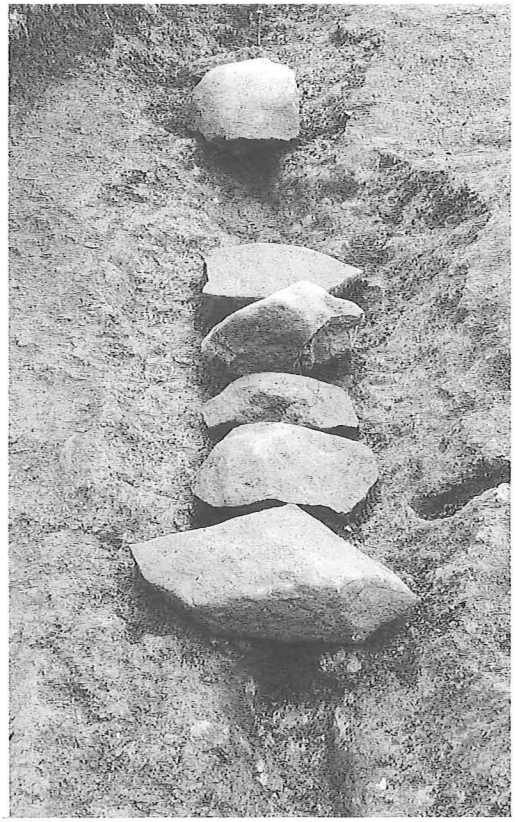
5号集石遺構検出状況

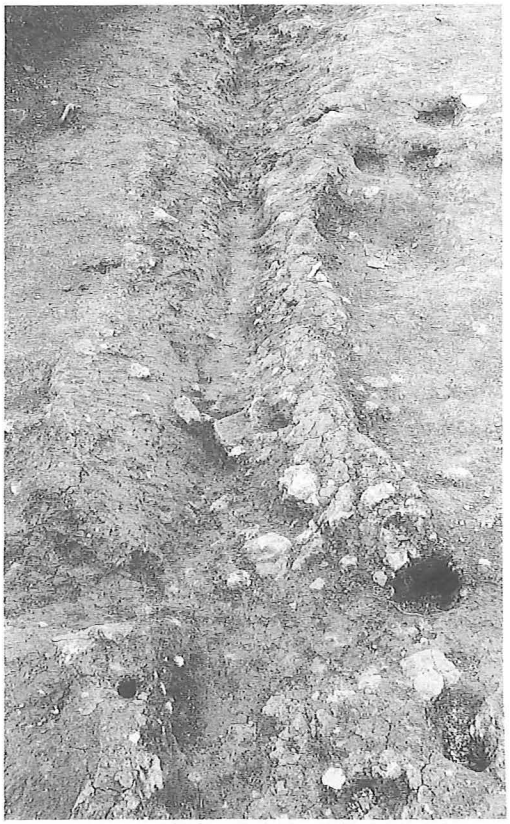
6号集石遺構検出状況



1号配石遺構検出状況（東から）

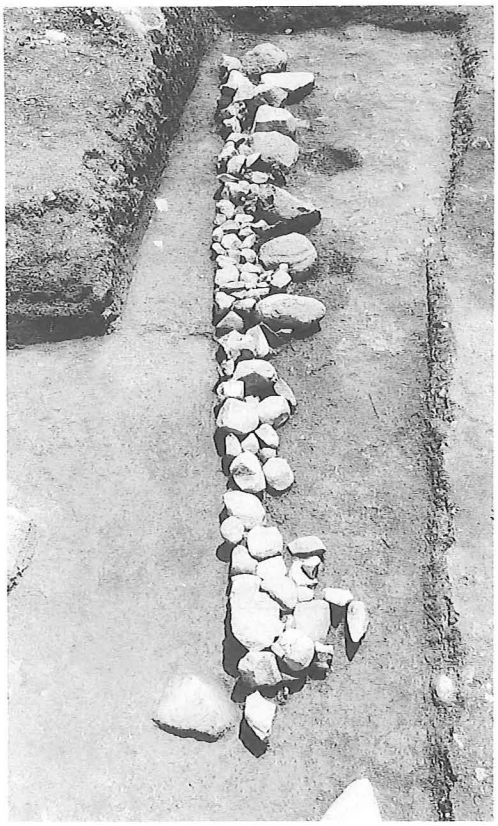
1号配石遺構下部の検出状況

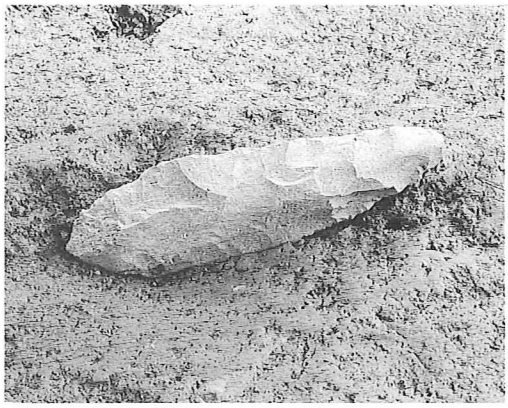
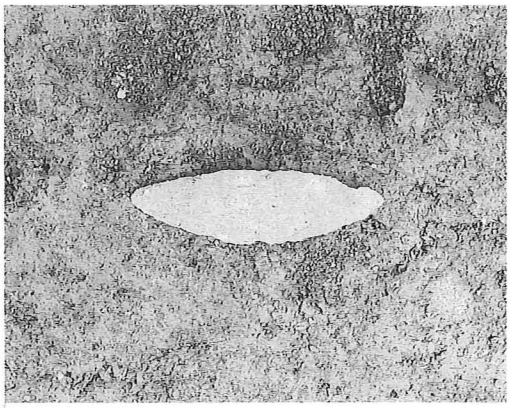
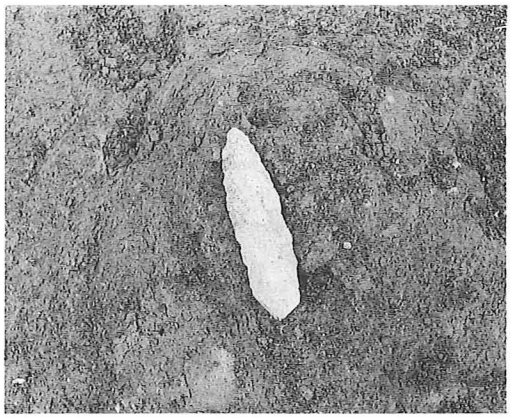
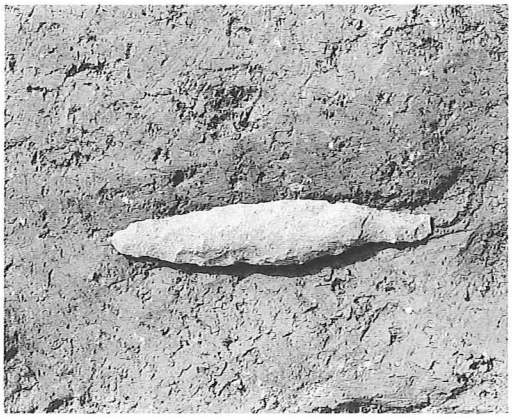


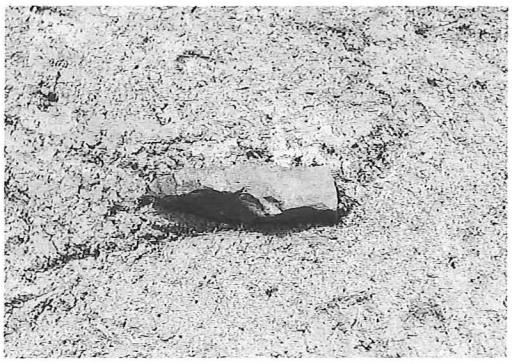


1号配石遺構配石除去後の状況（東から）

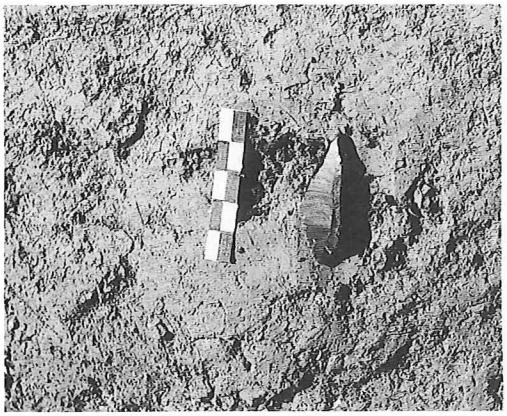
2号配石遺構（西から）



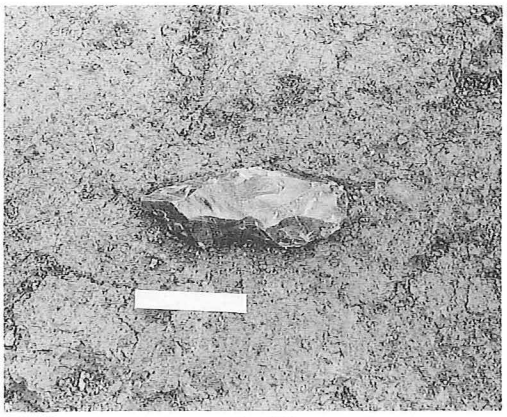







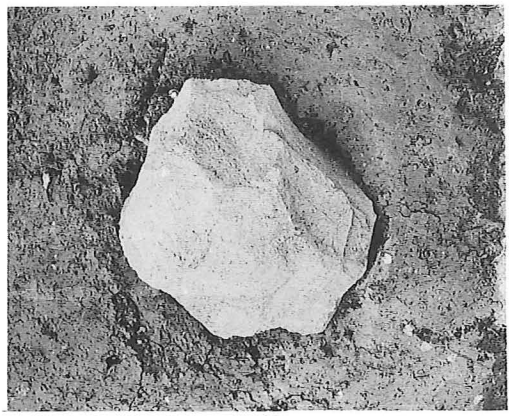
尖頭器出土状況



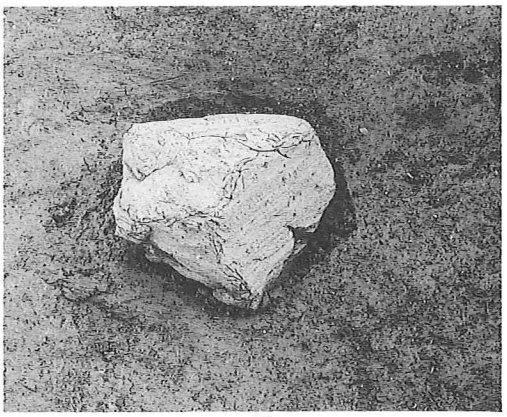
ナイフ形石器



尖頭器

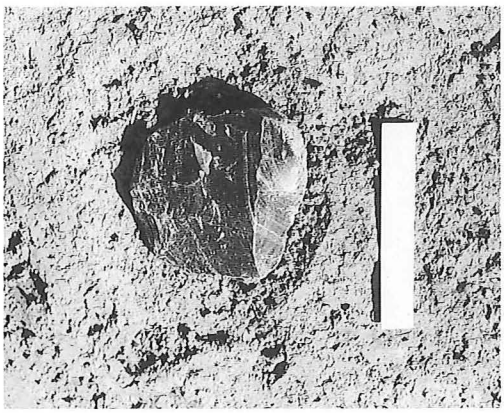


石核



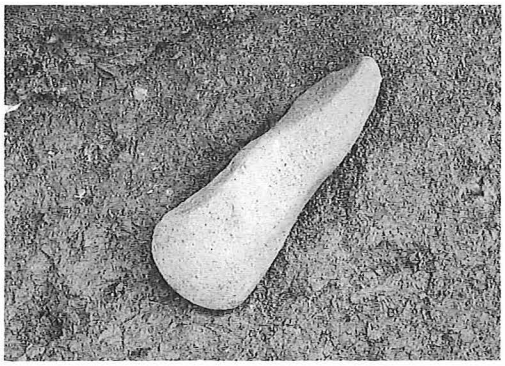
石核

石核

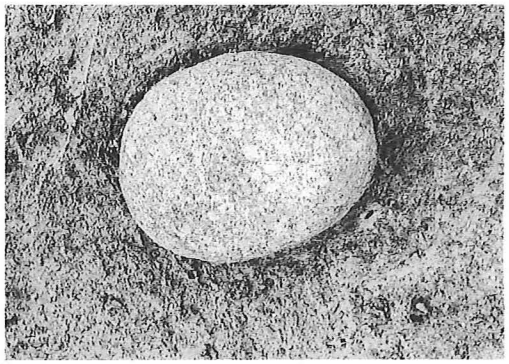


ナイフ形石器

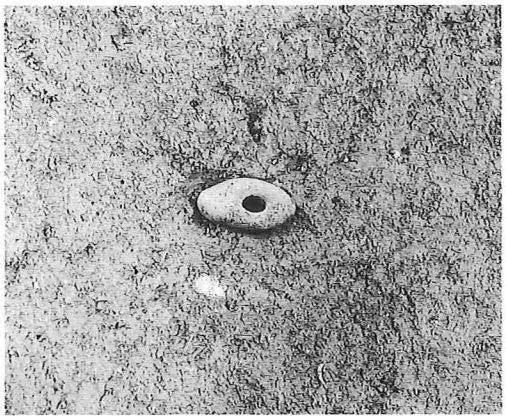
各種石器出土状況



石斧

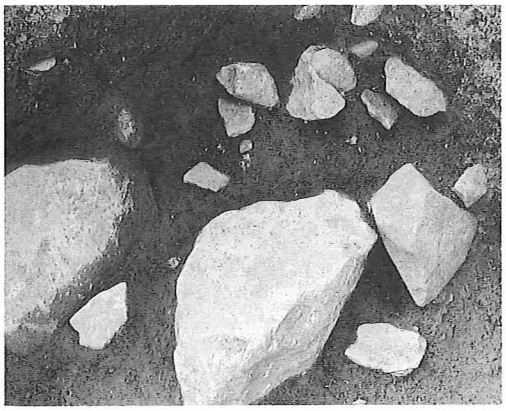


凹石



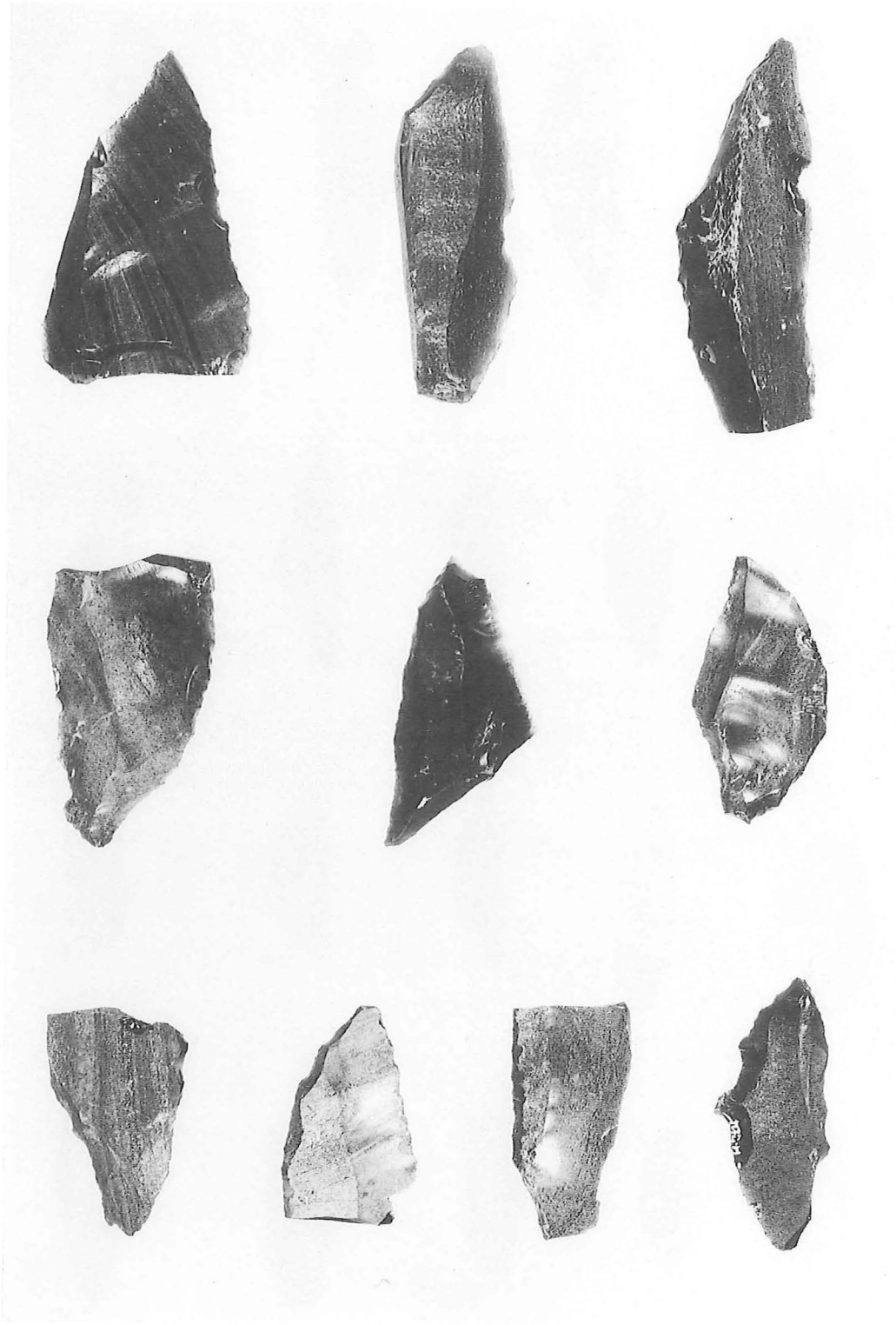
垂飾品

石鍋



土器

各種石器出土状況

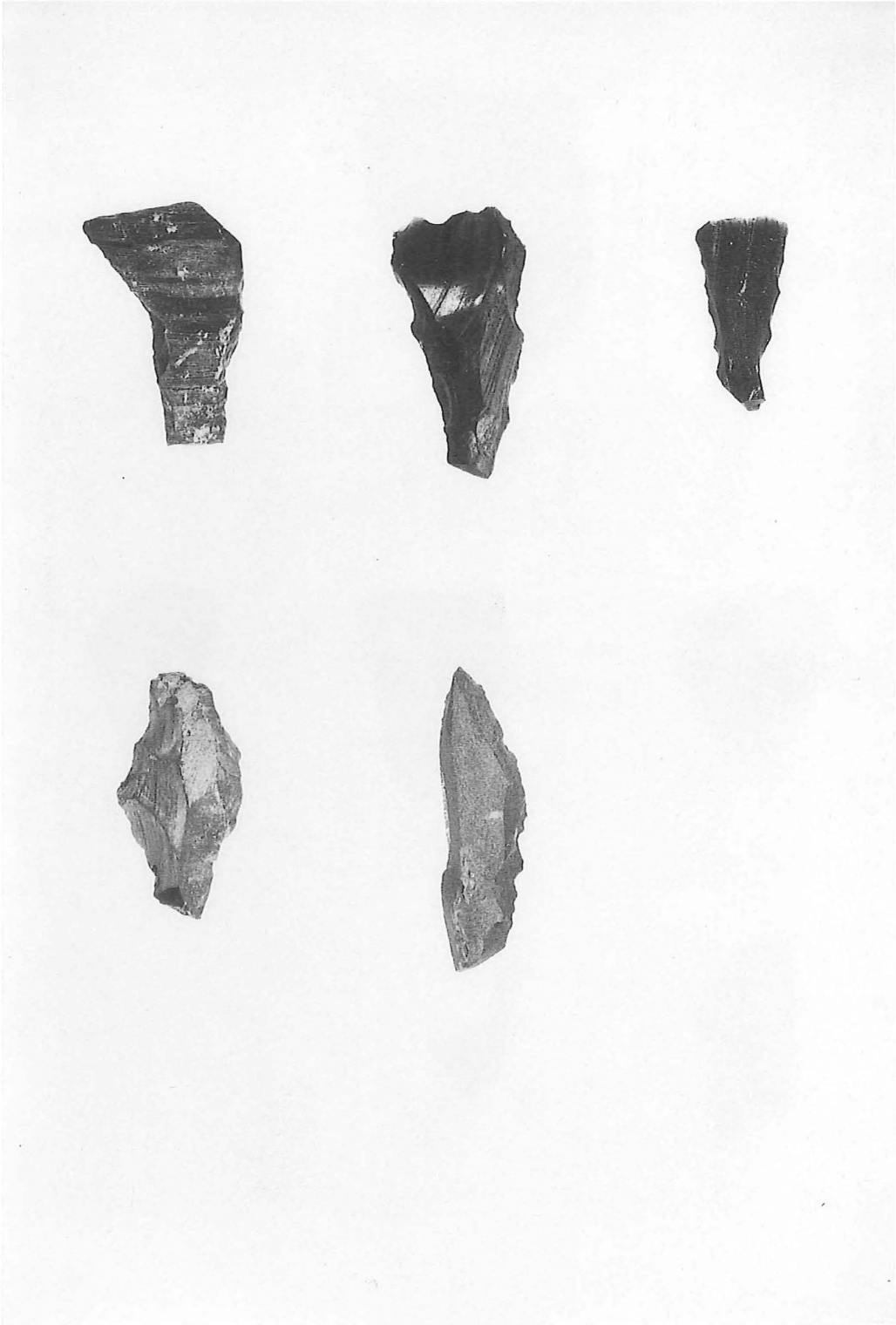


ナイフ形石器（1）

ナイフ形石器（2）

ナイフ形石器（3）

ナイフ形石器（4）

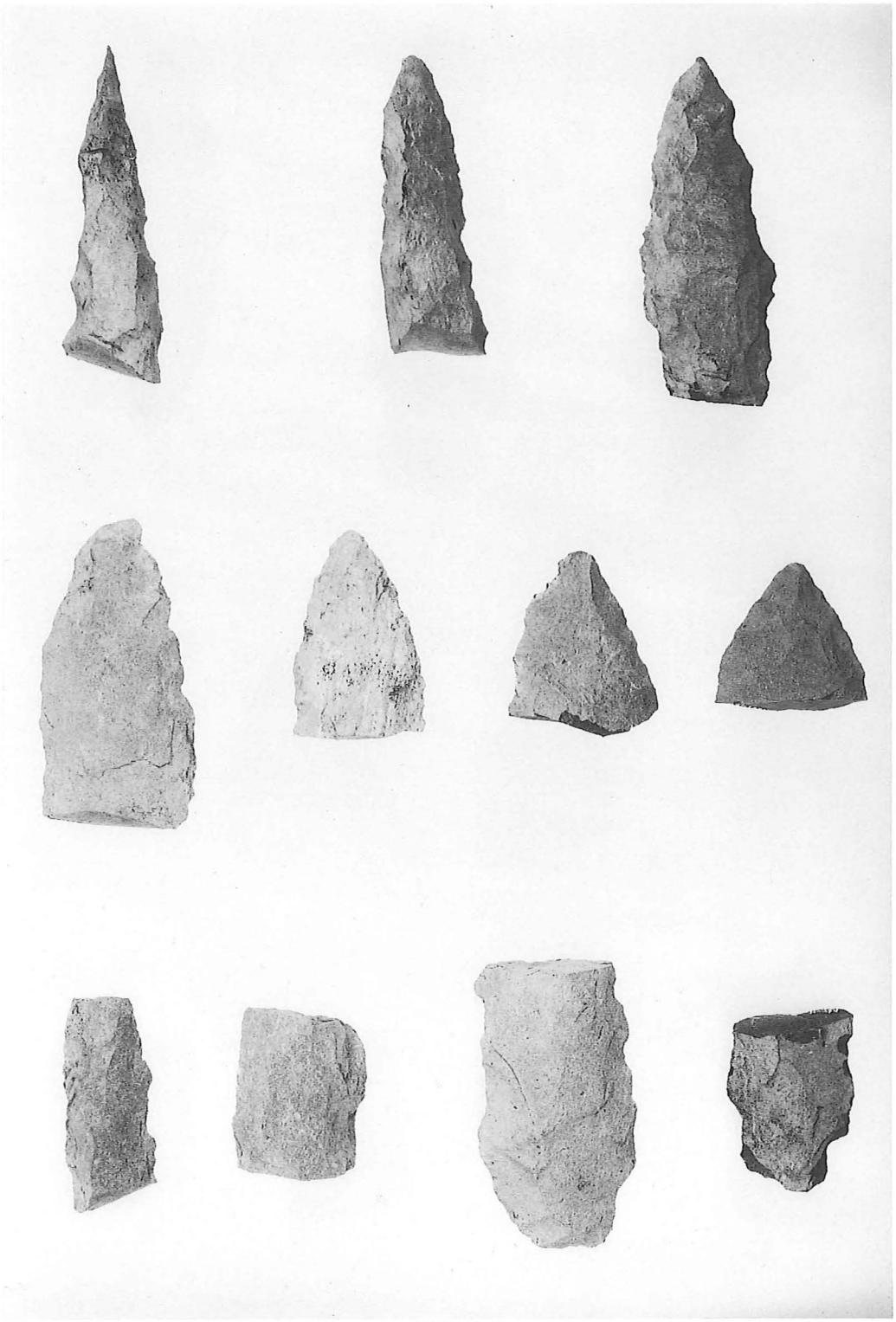


台形石器・剥片尖頭器

黒曜石製石核・細石核

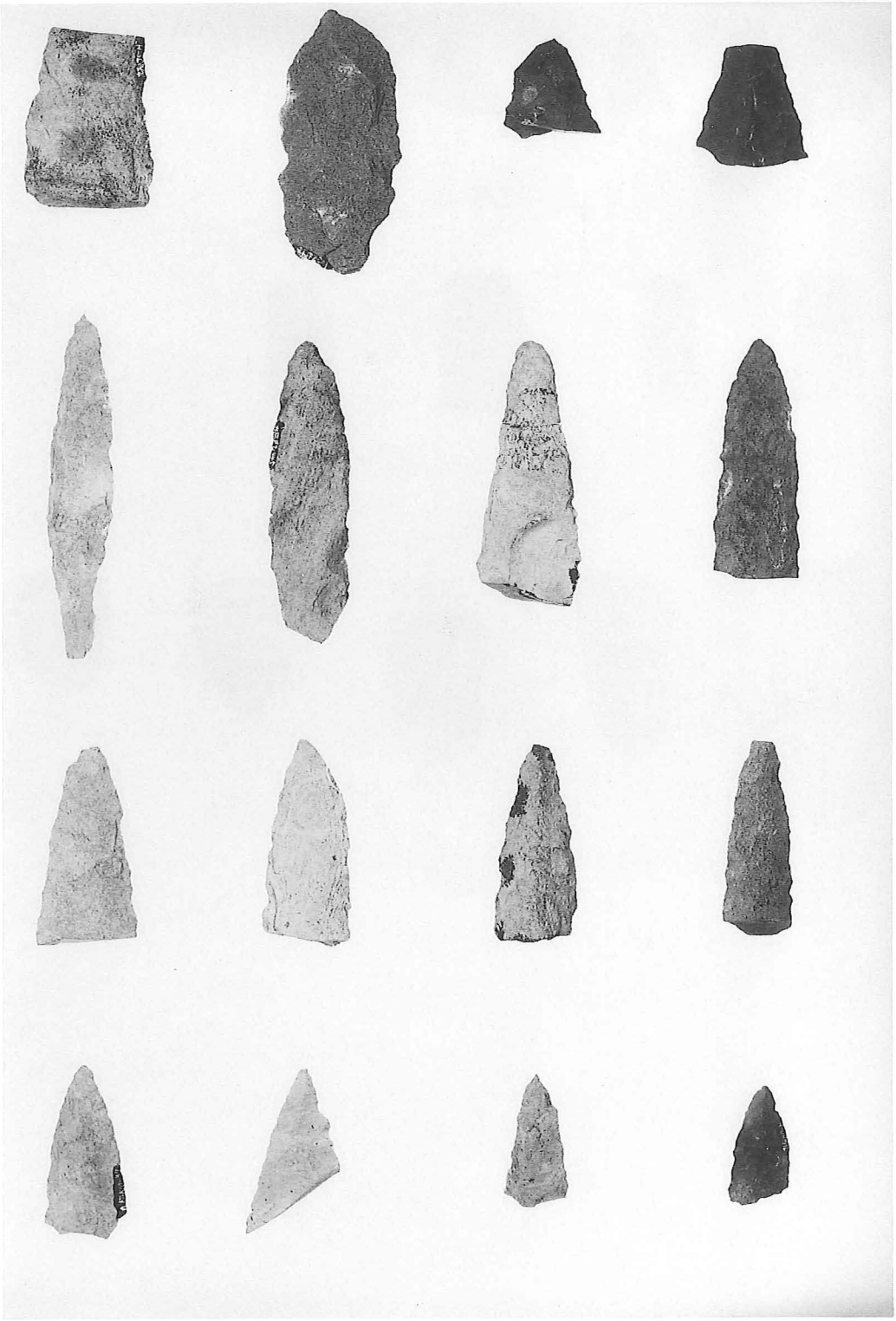
細石刃（1）

細石刃（2）

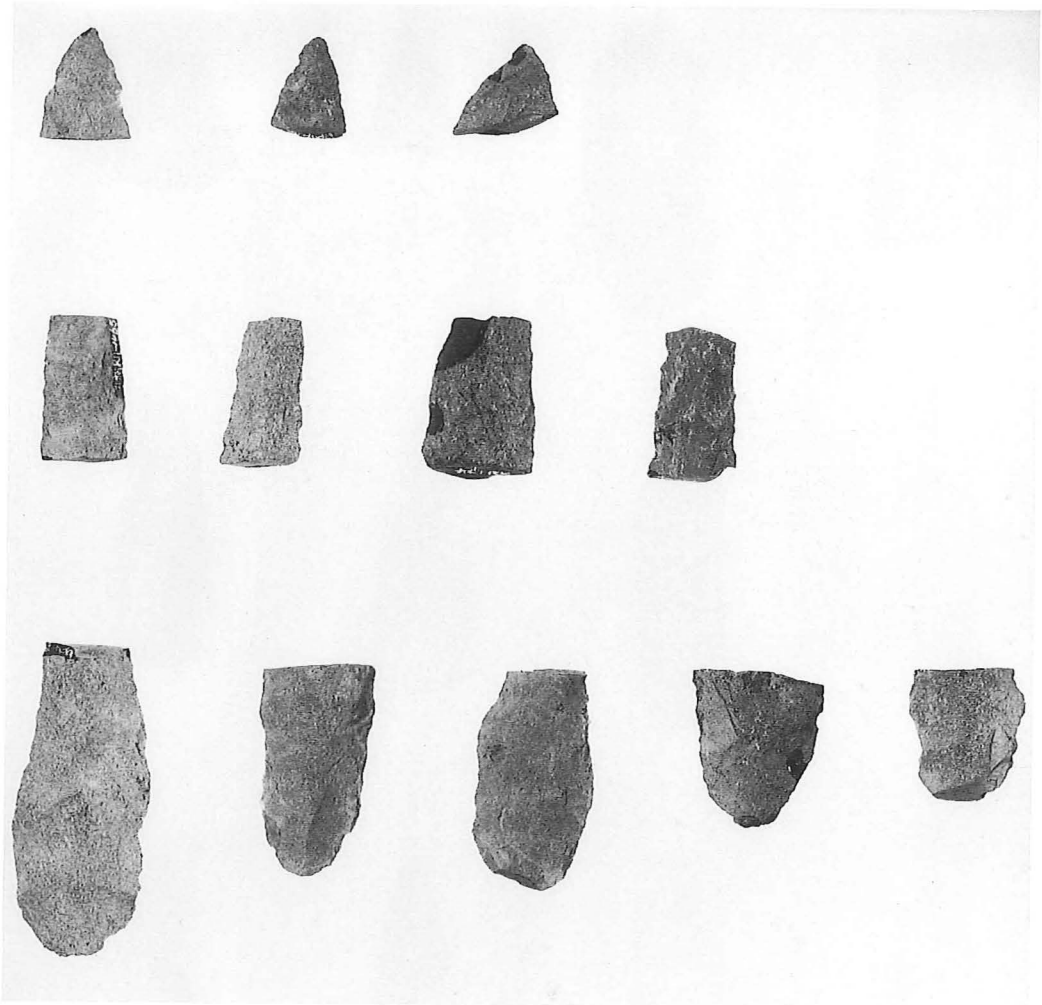


尖頭器（1）

尖頭器（2）

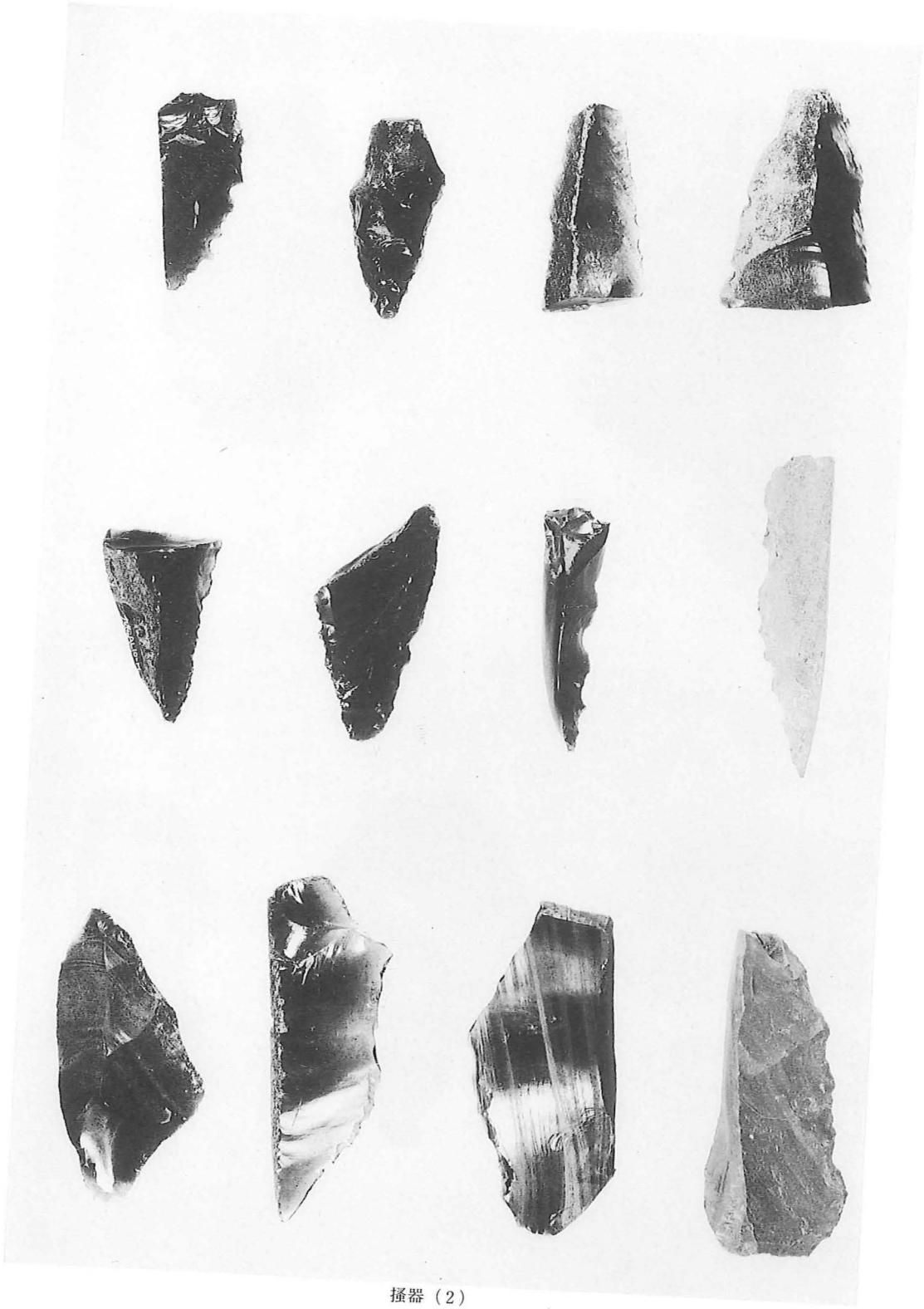


尖頭器（3）



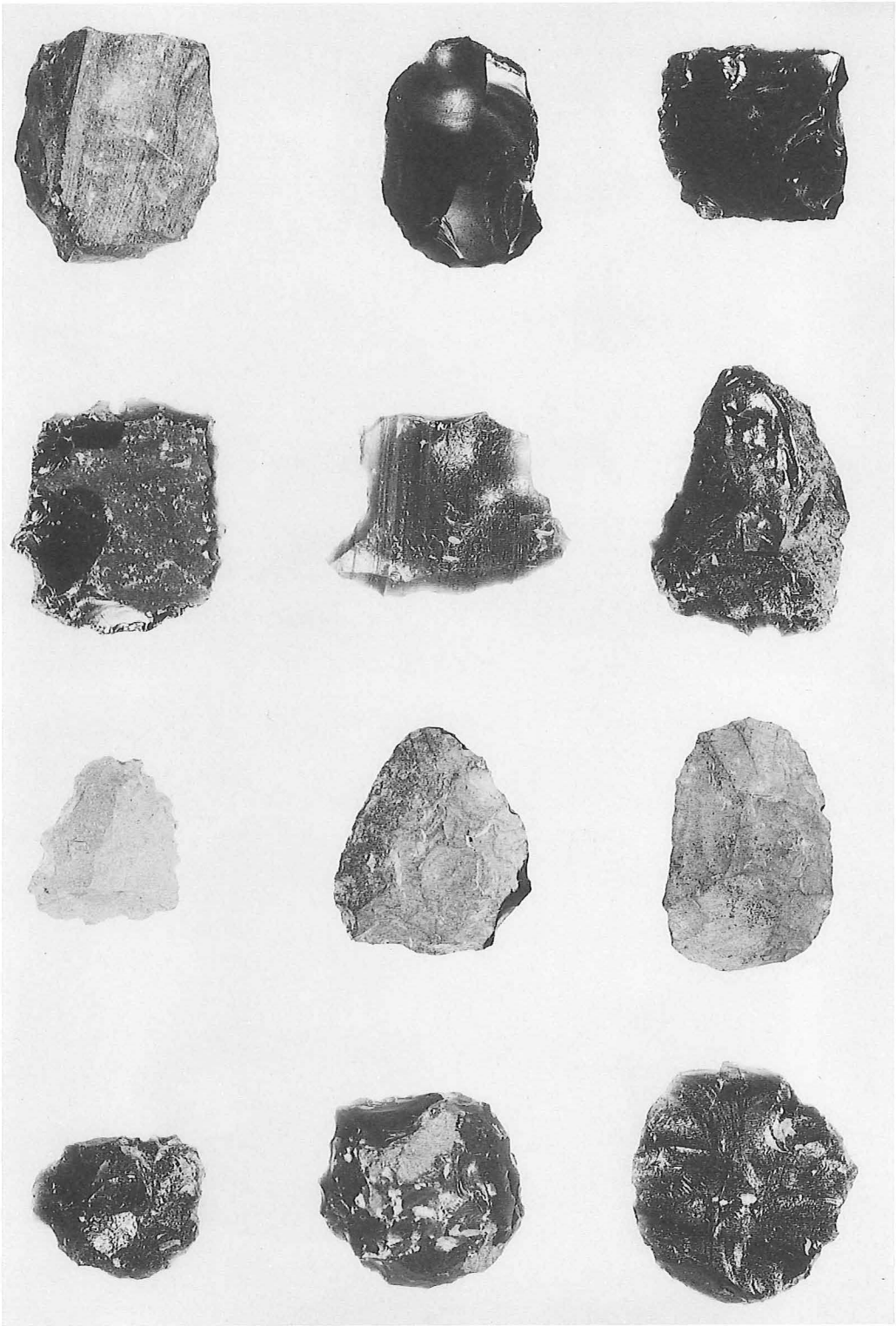
尖頭器（4）

掻器（1）

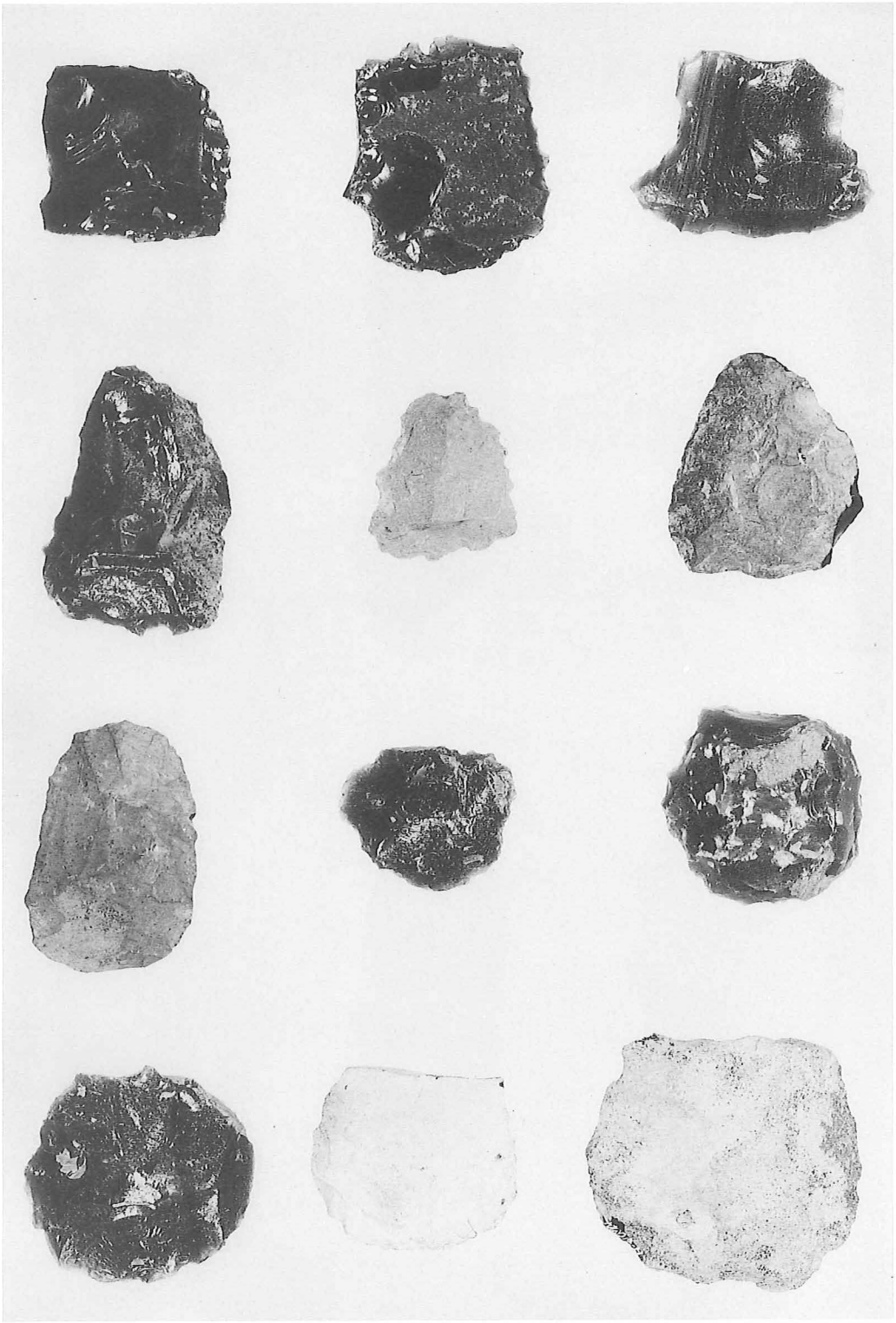


掻器（2）

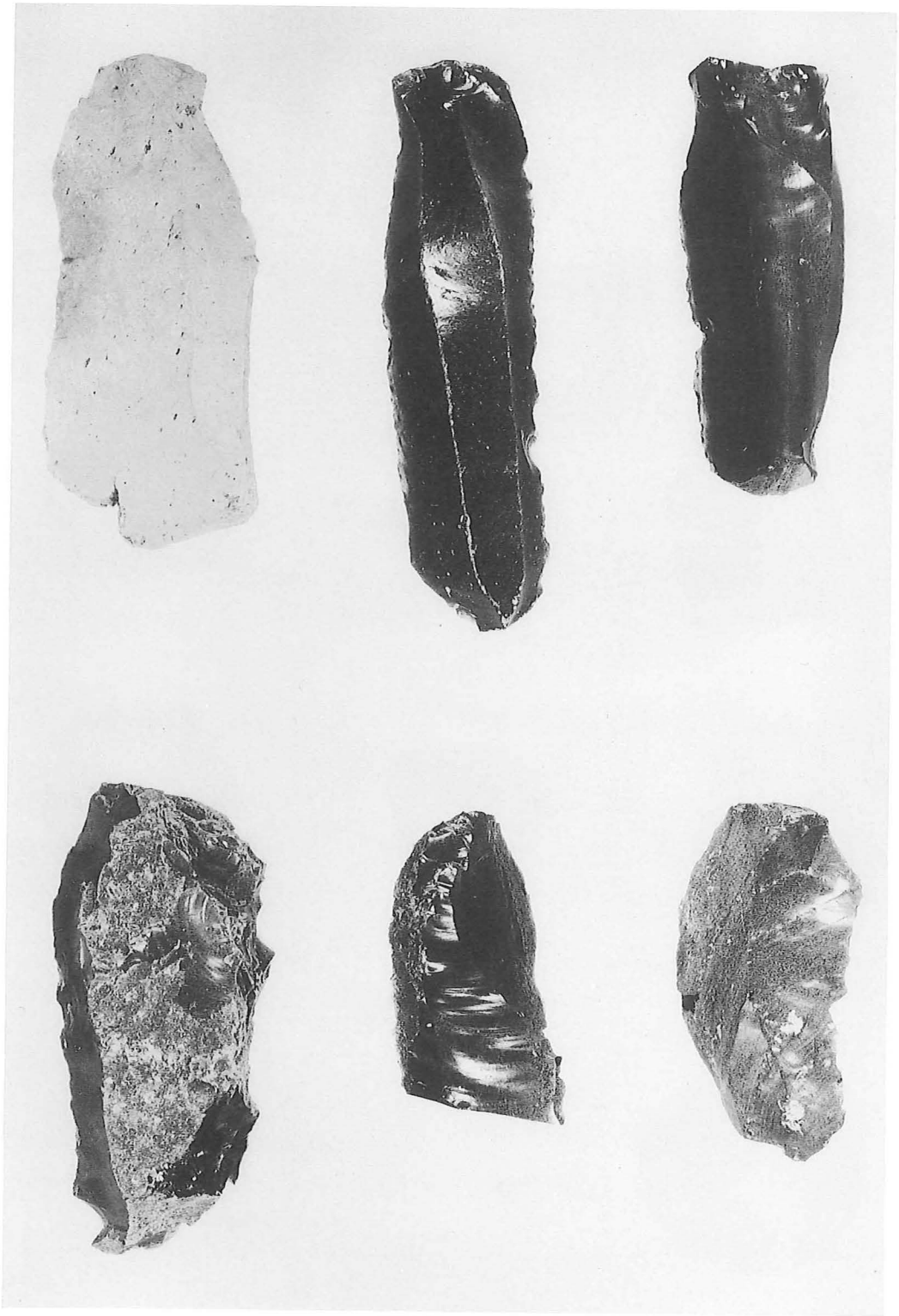
掻器（3）



掻器（4）



掻器（5）

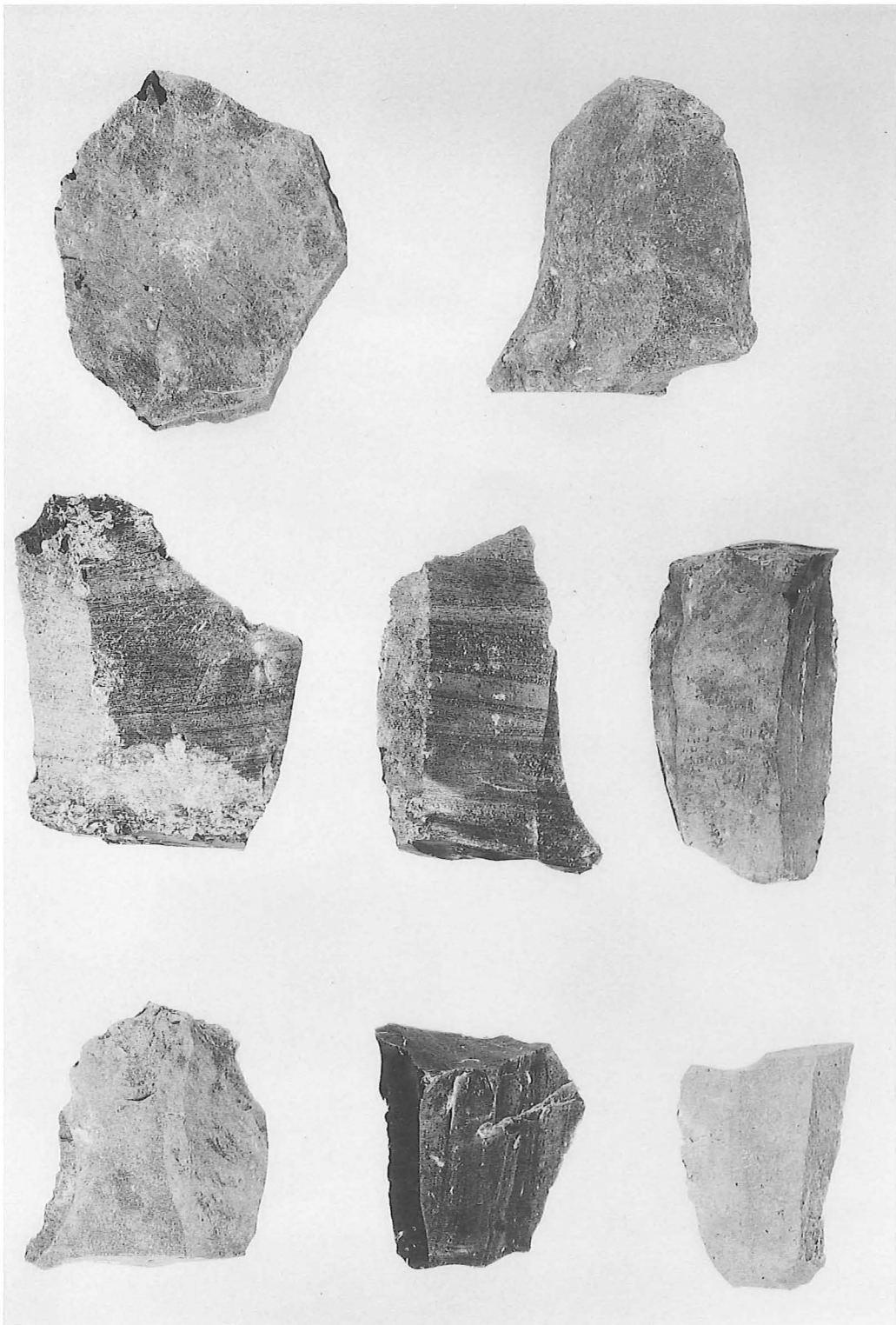


黒曜石製剝片（1）

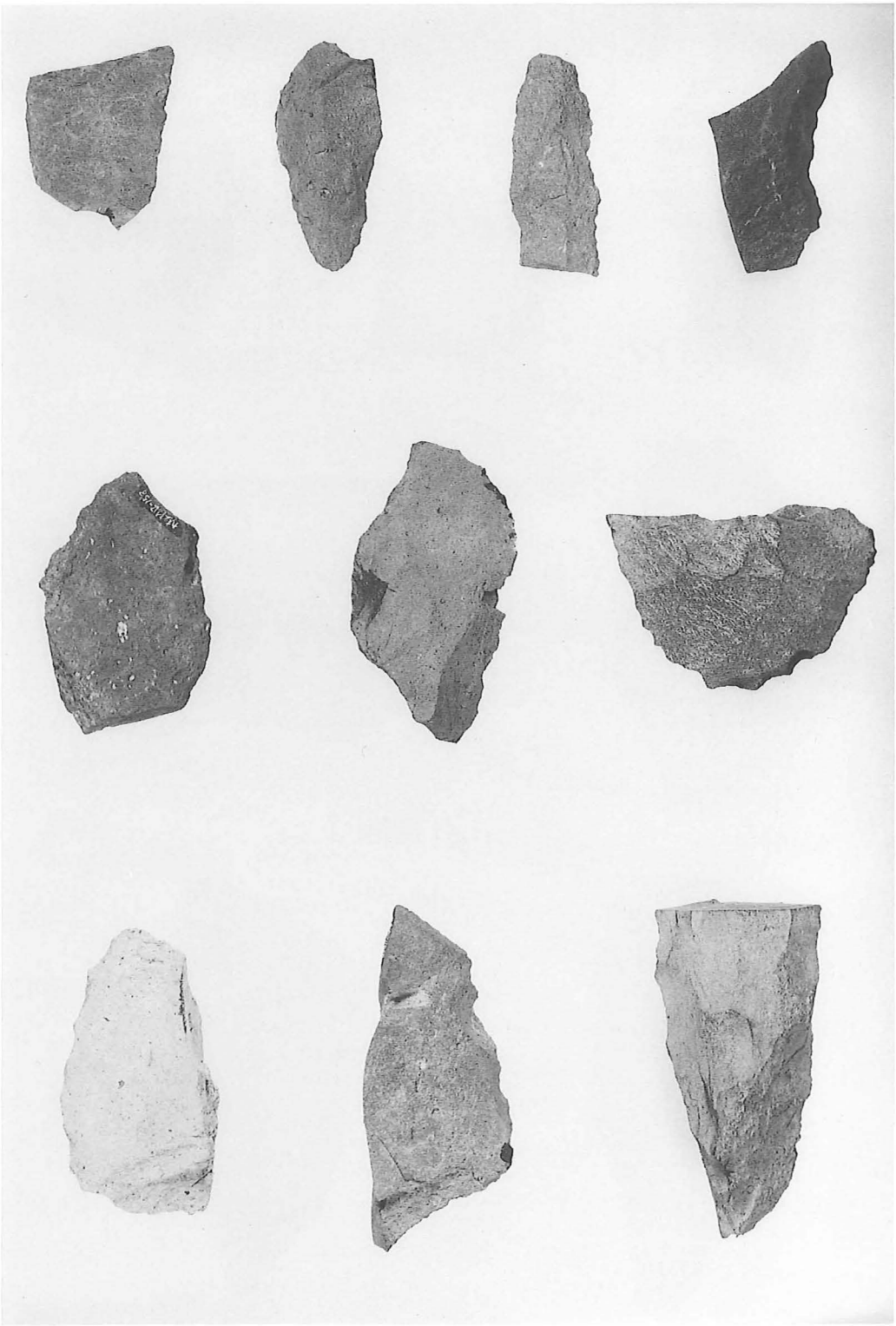
黒曜石製剥片（2）

黒曜石製剥片（3）

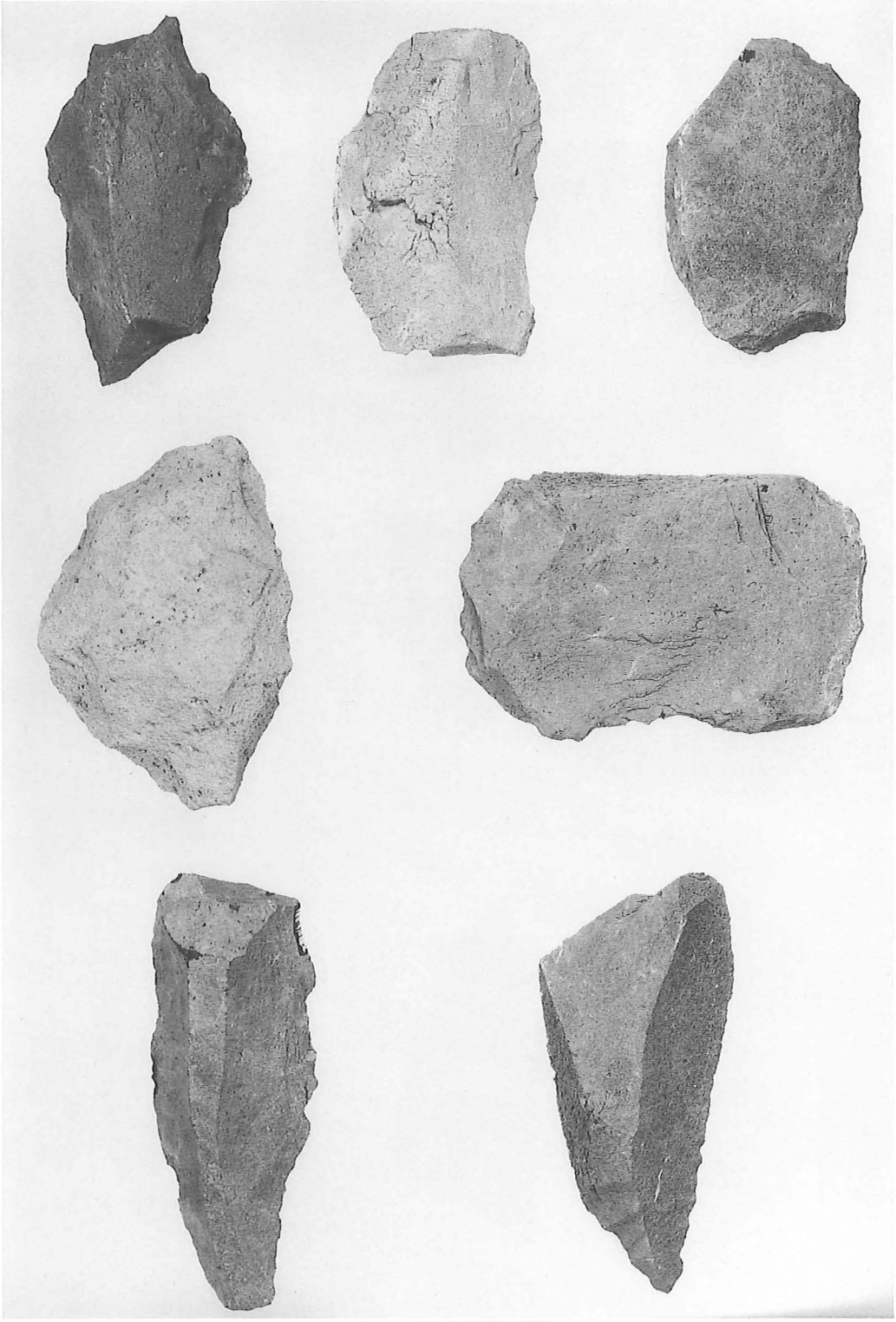
黒曜石製剝片（4）



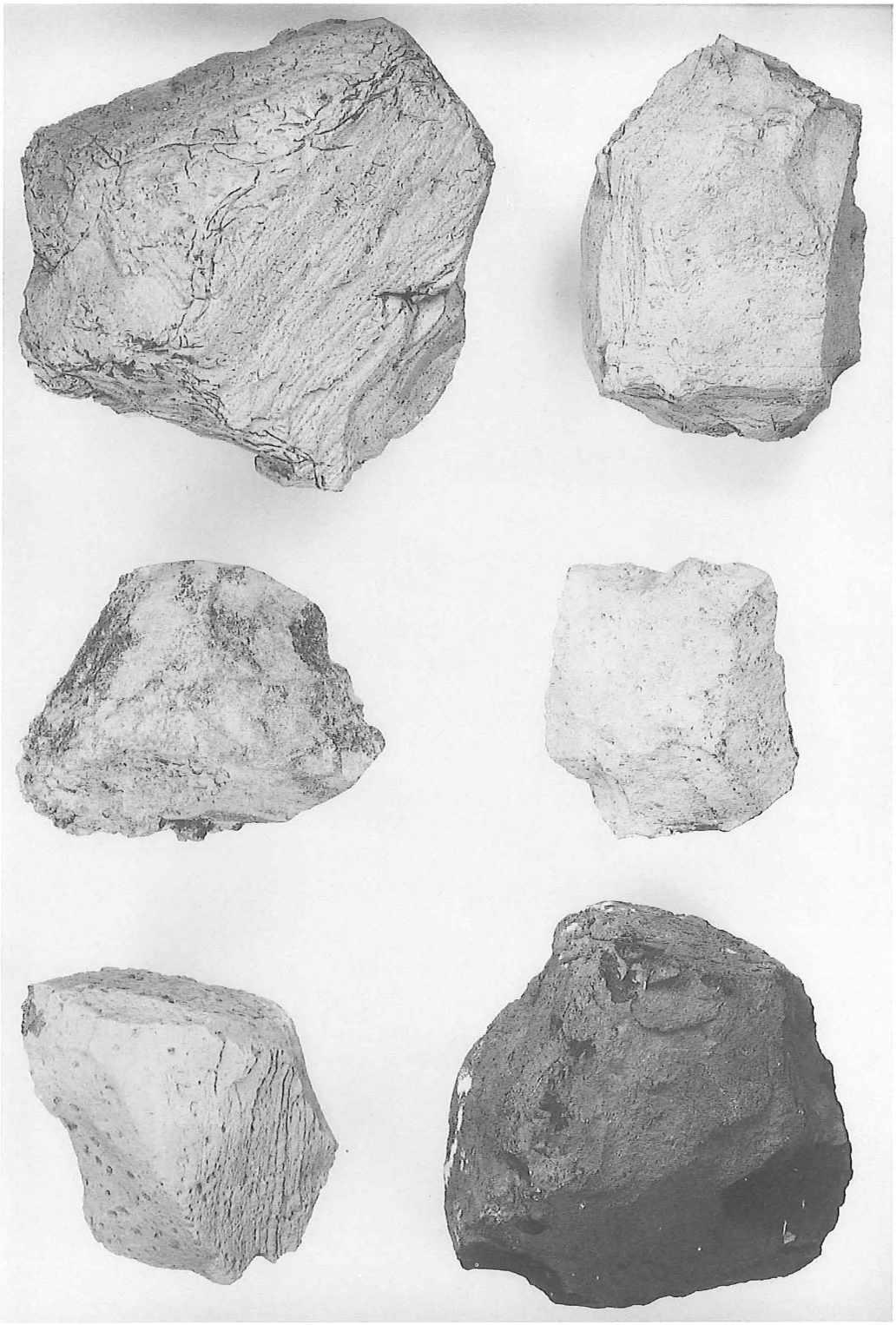
黒曜石製剥片（5）



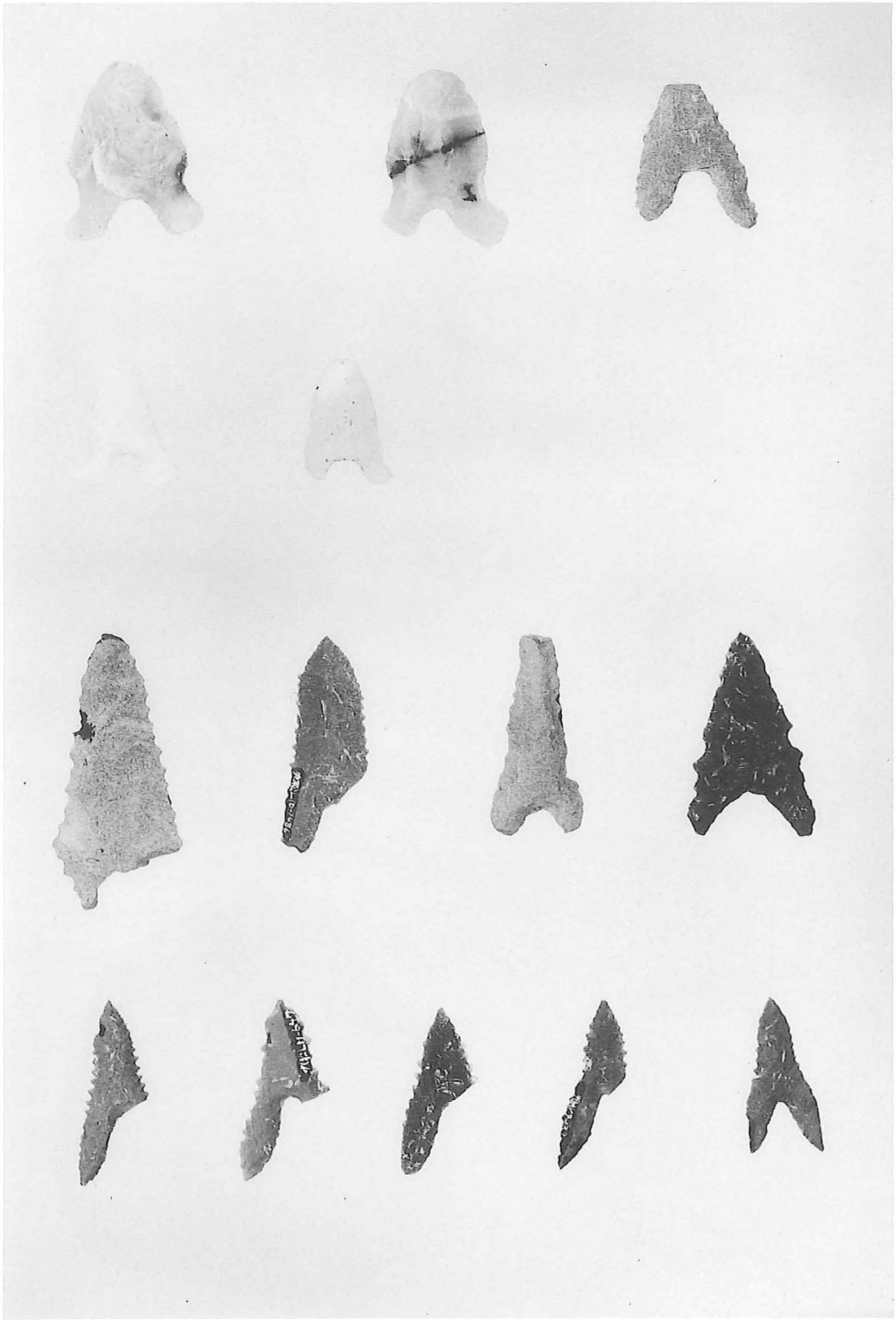
サヌカイト製掻器（1）



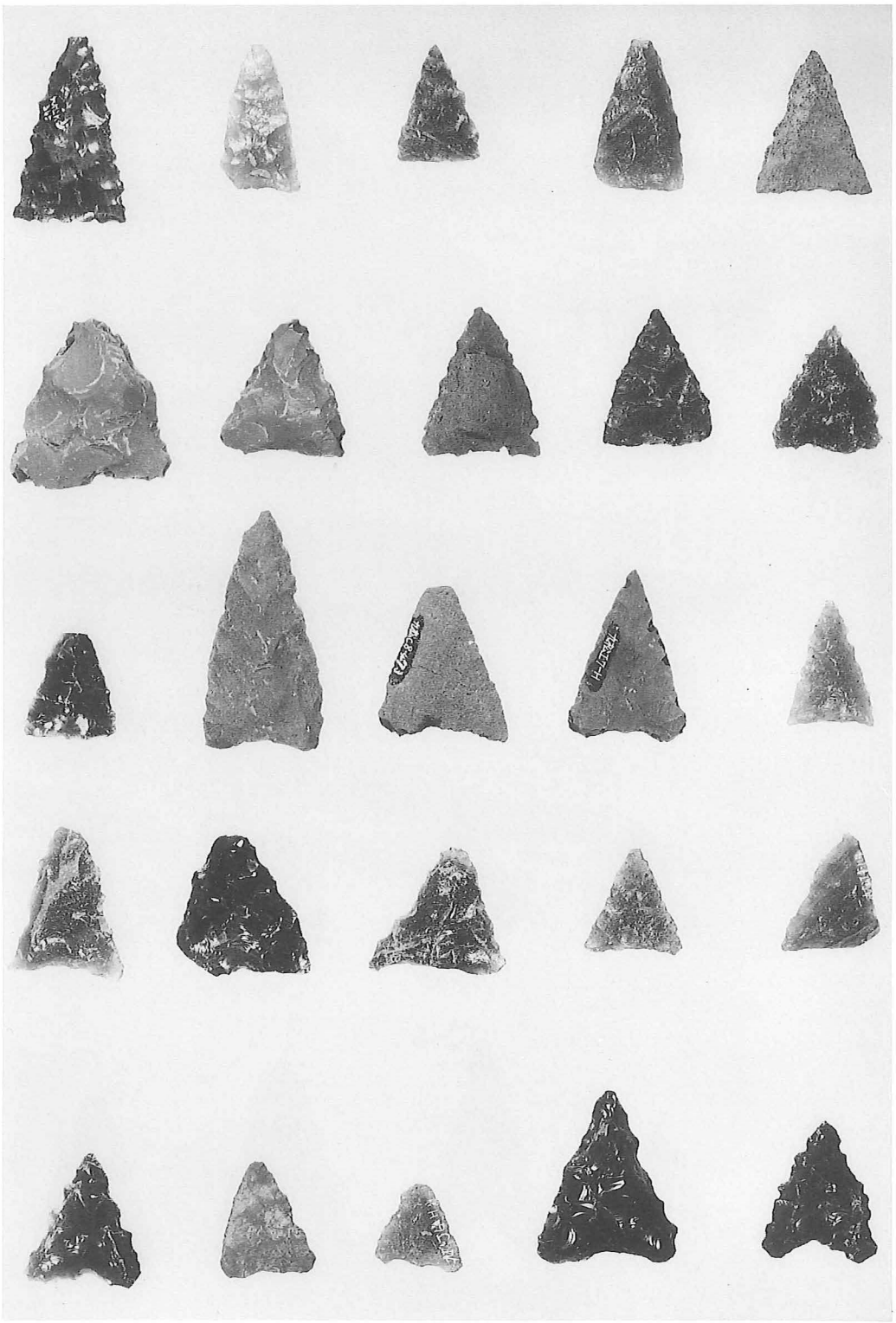
サヌカイト製掻器・剥片



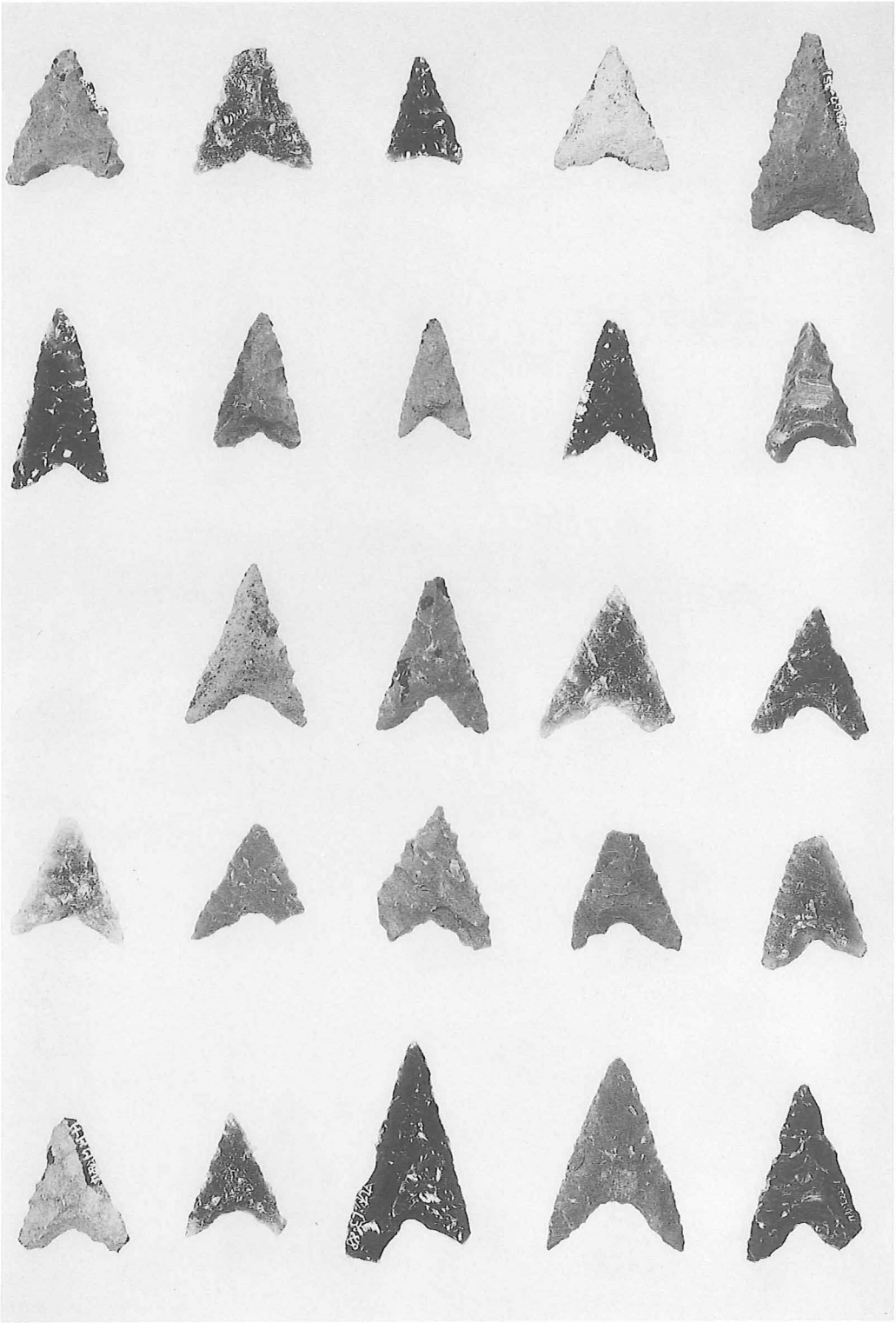
サヌカイト製石核・礫器



石鏃（1）

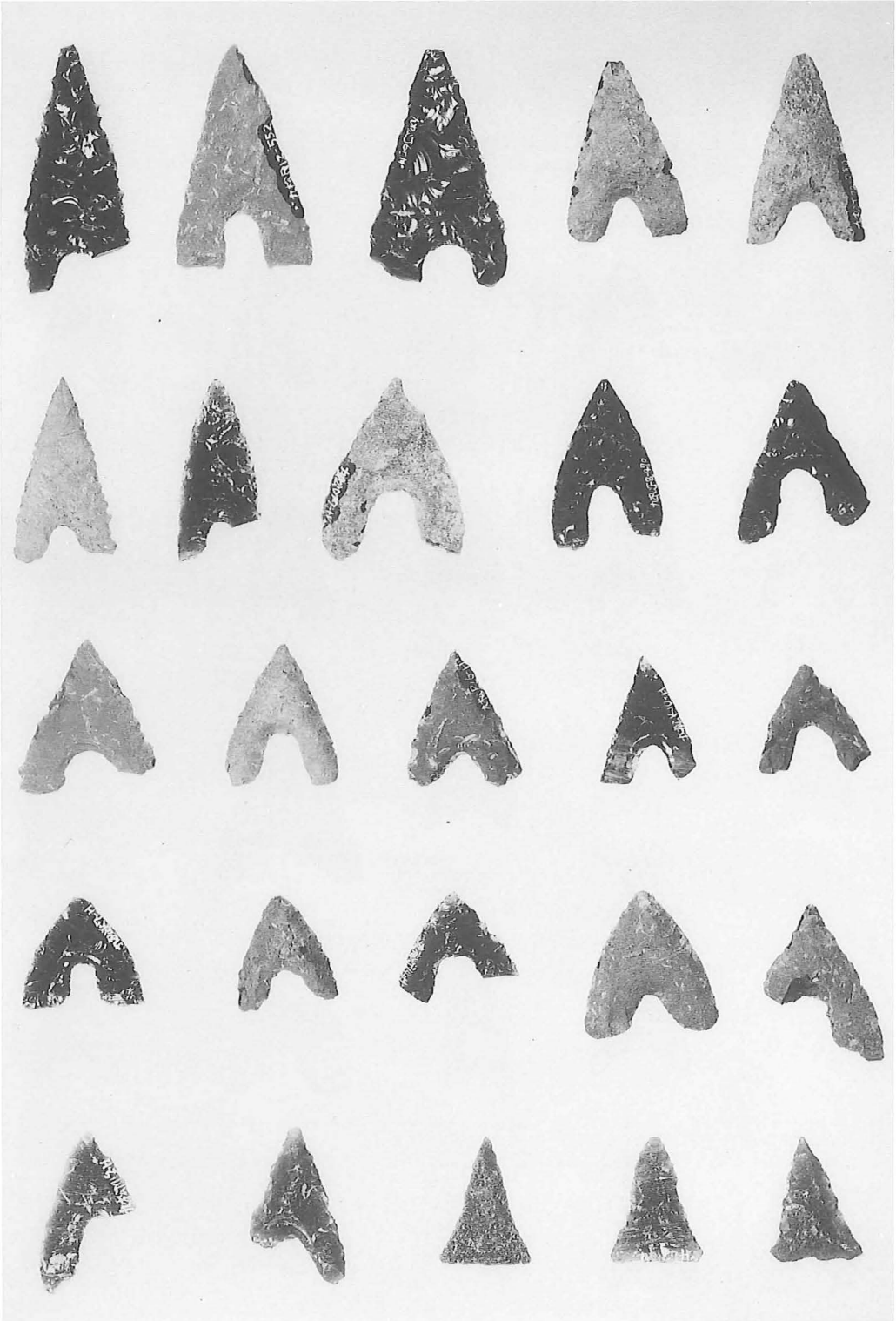


石鏃（2）

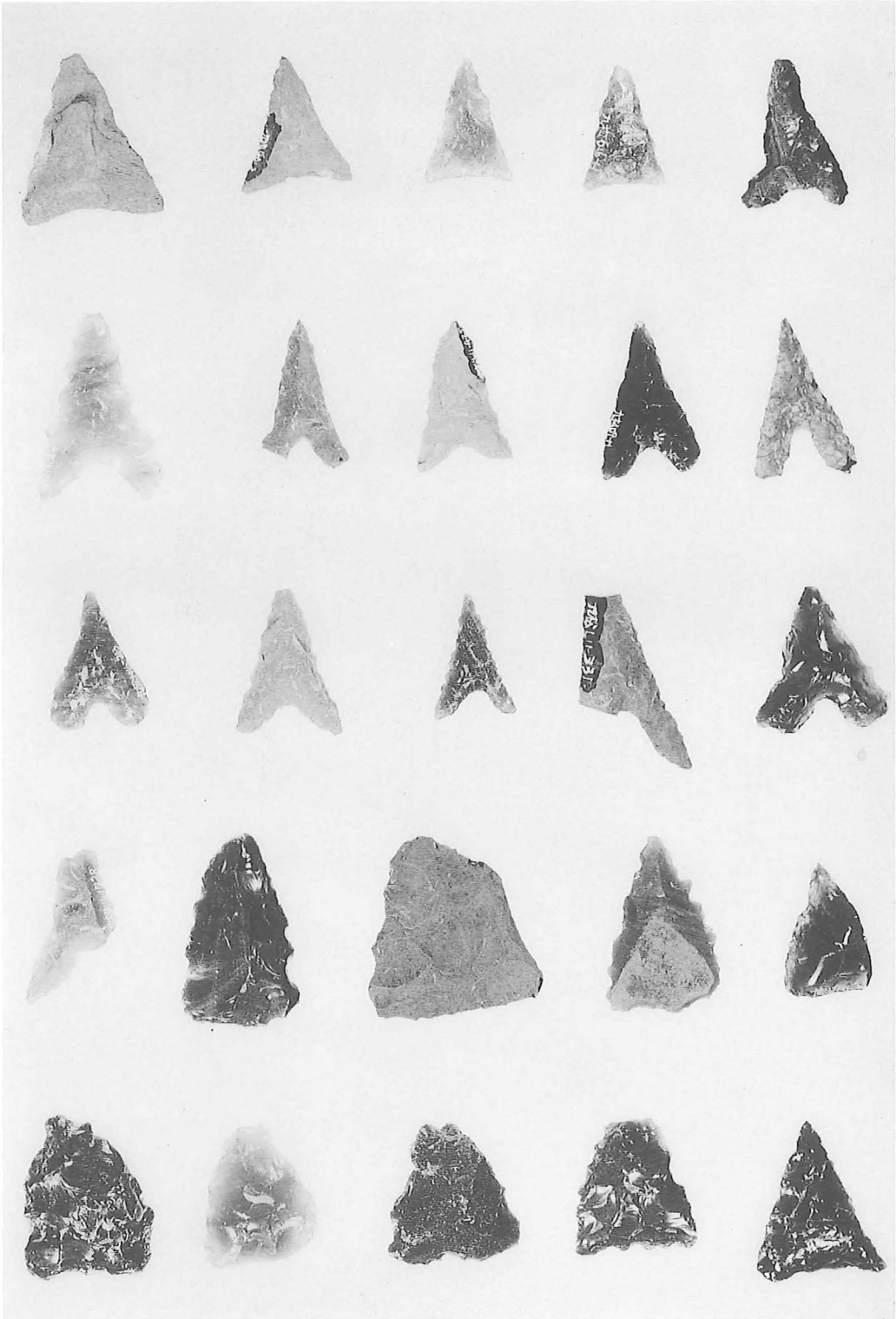


石鏃（3）

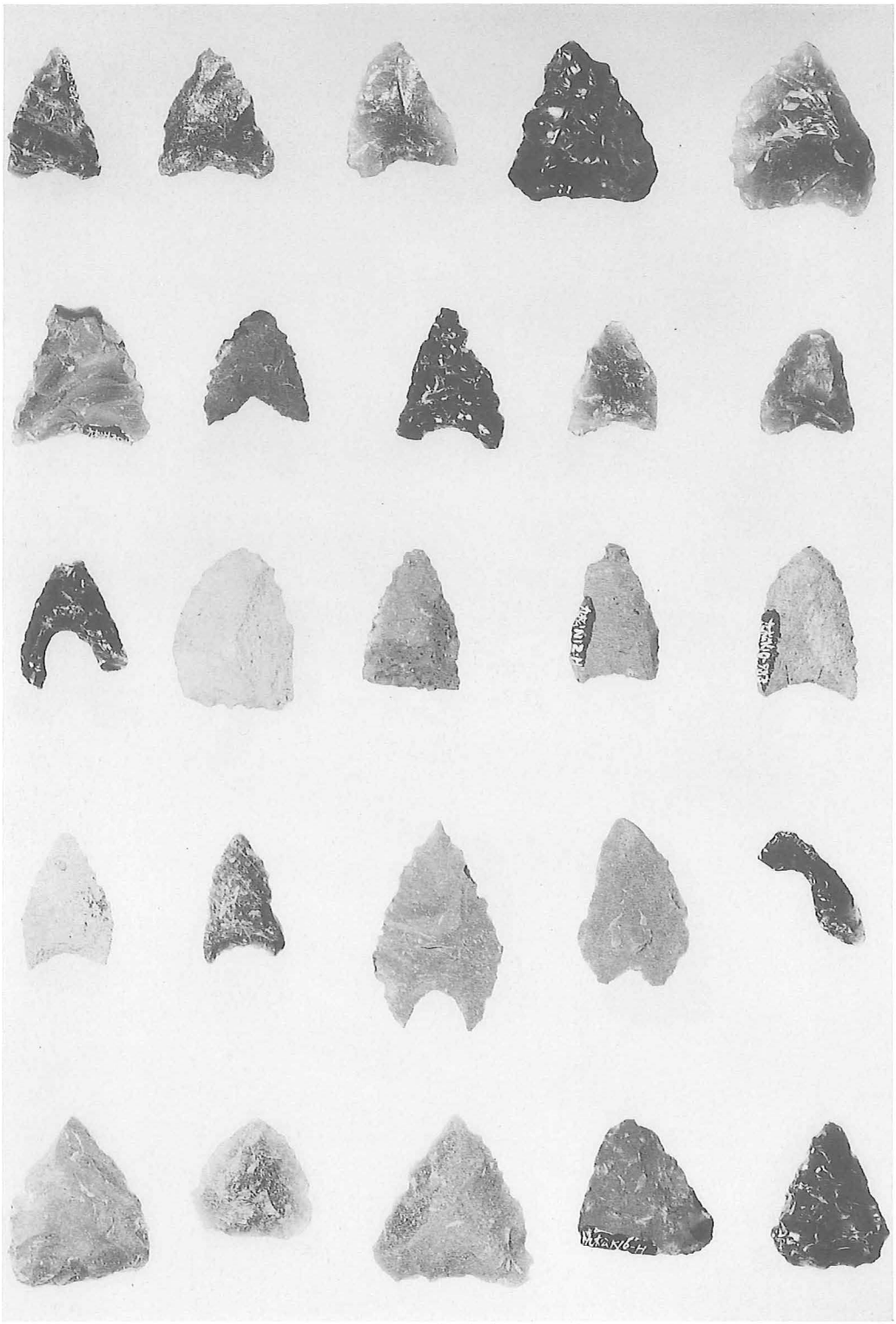
石鏃（4）



石鏃（7）

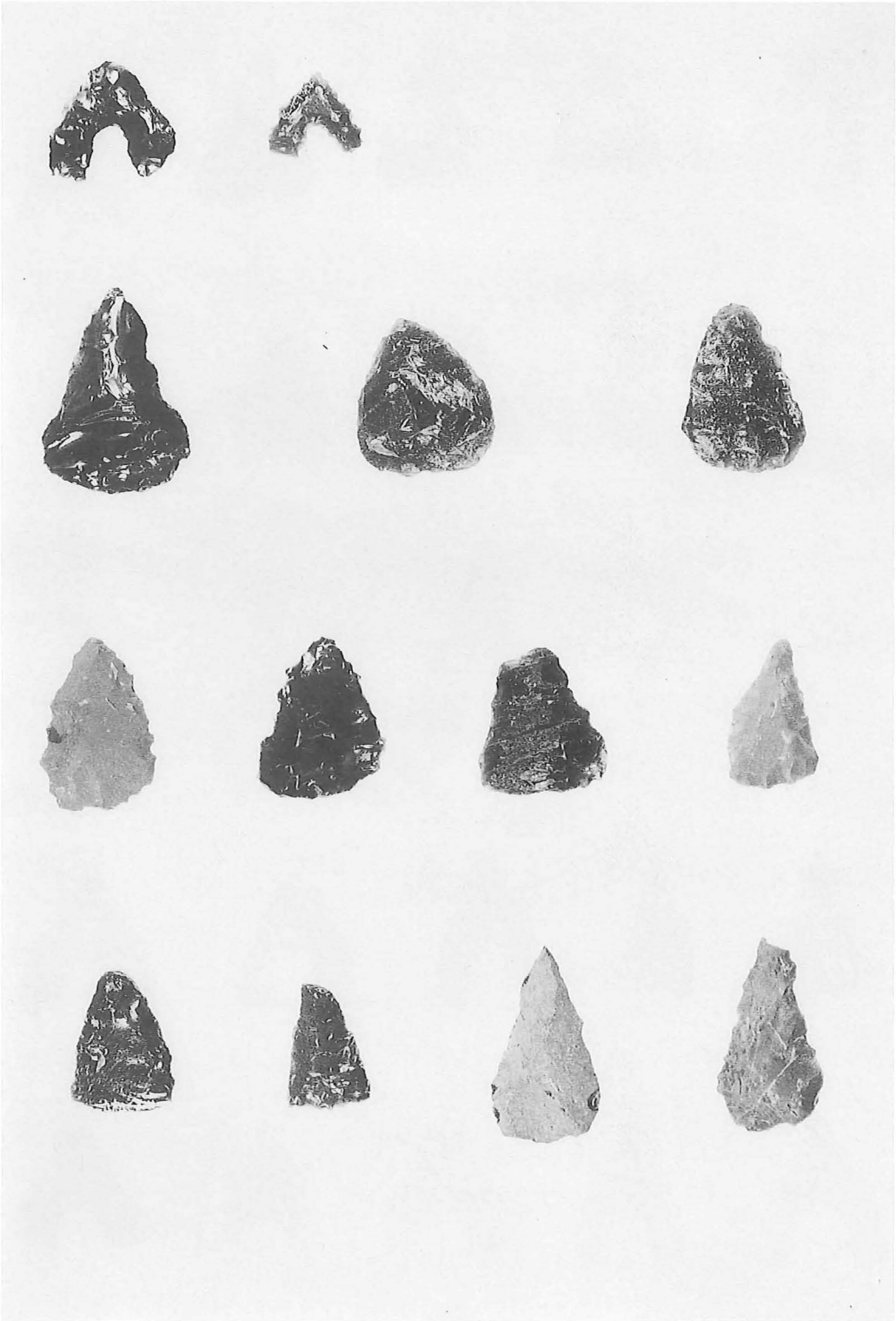


石鏃（8）

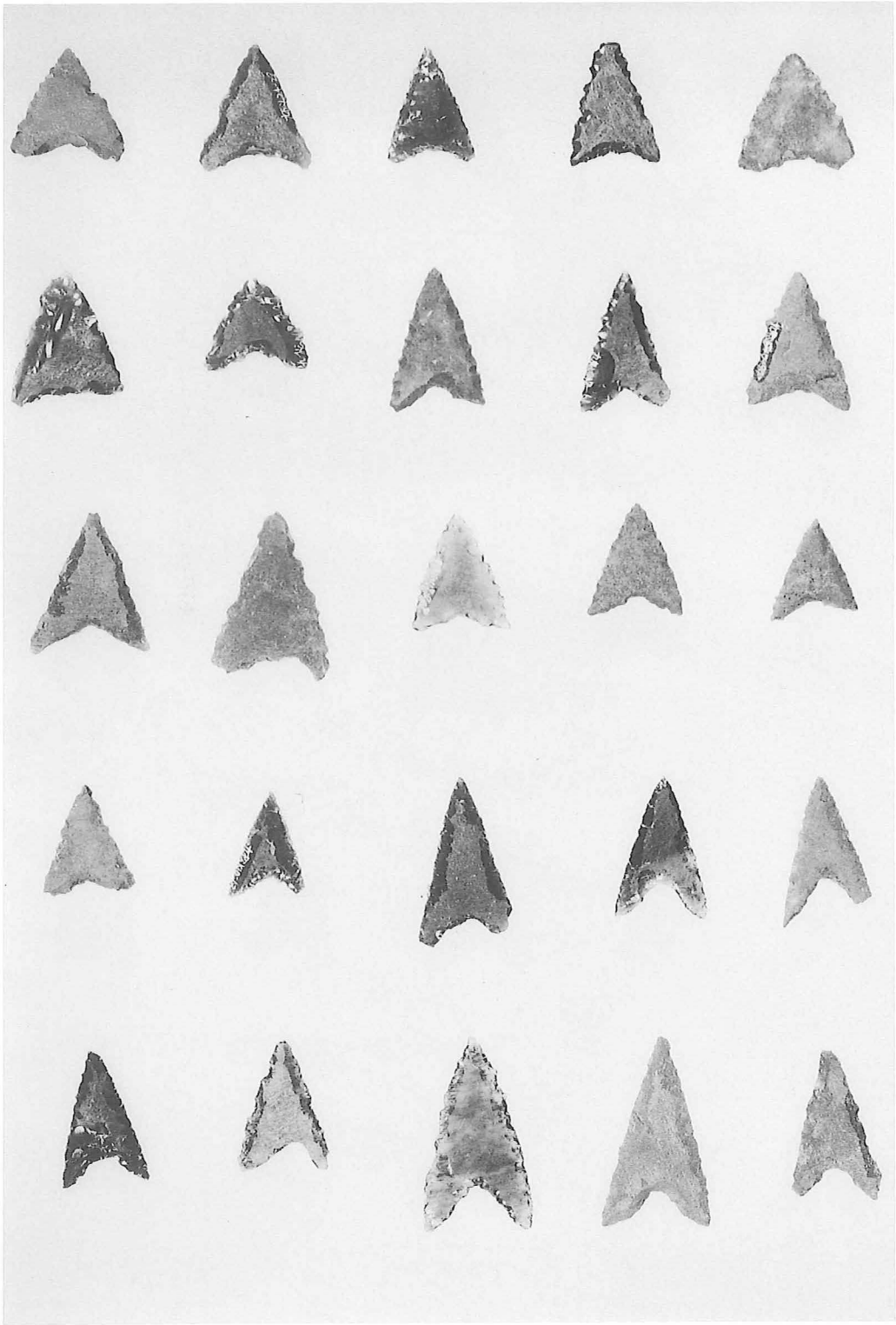


石鏃（9）

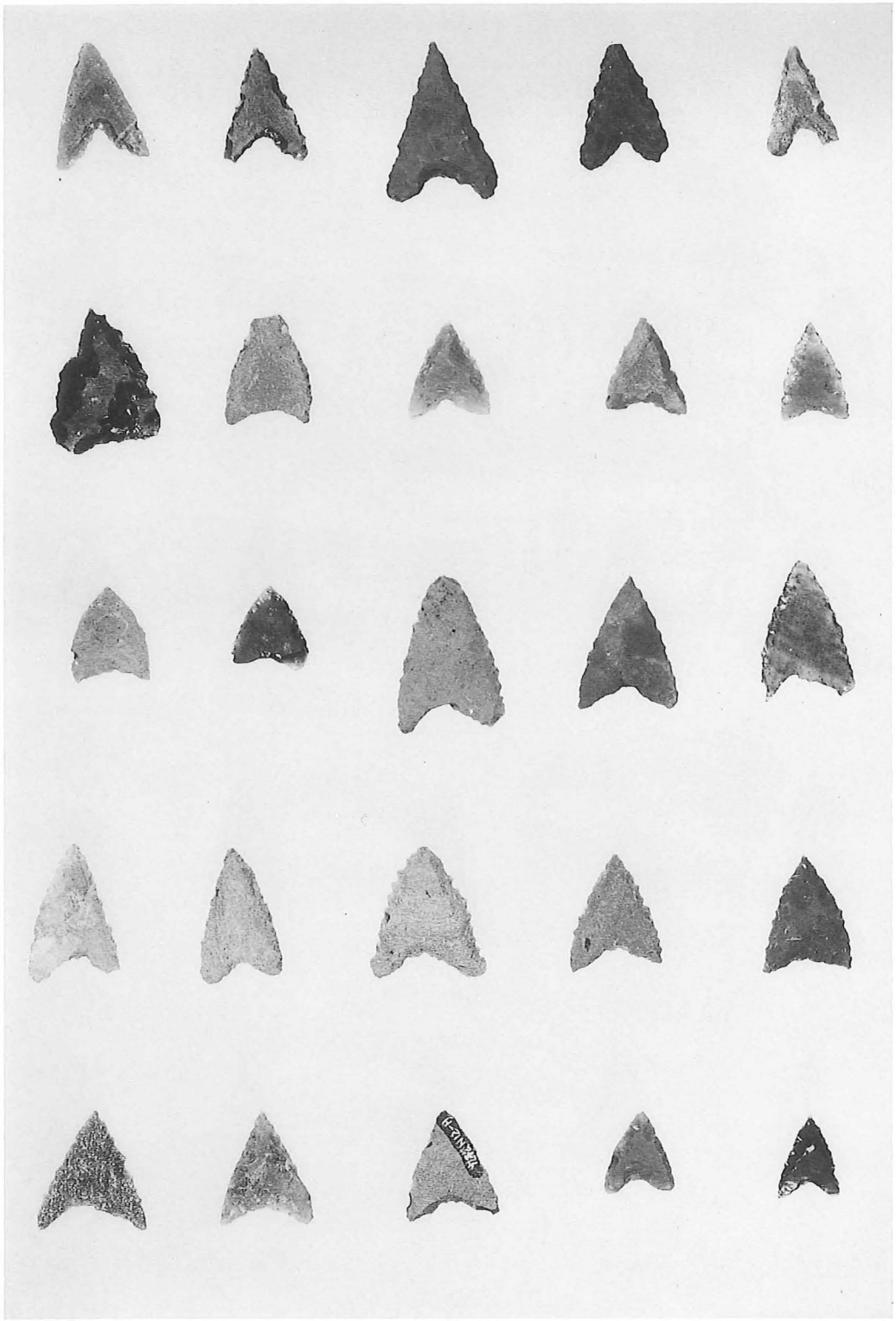
石鏃（10）



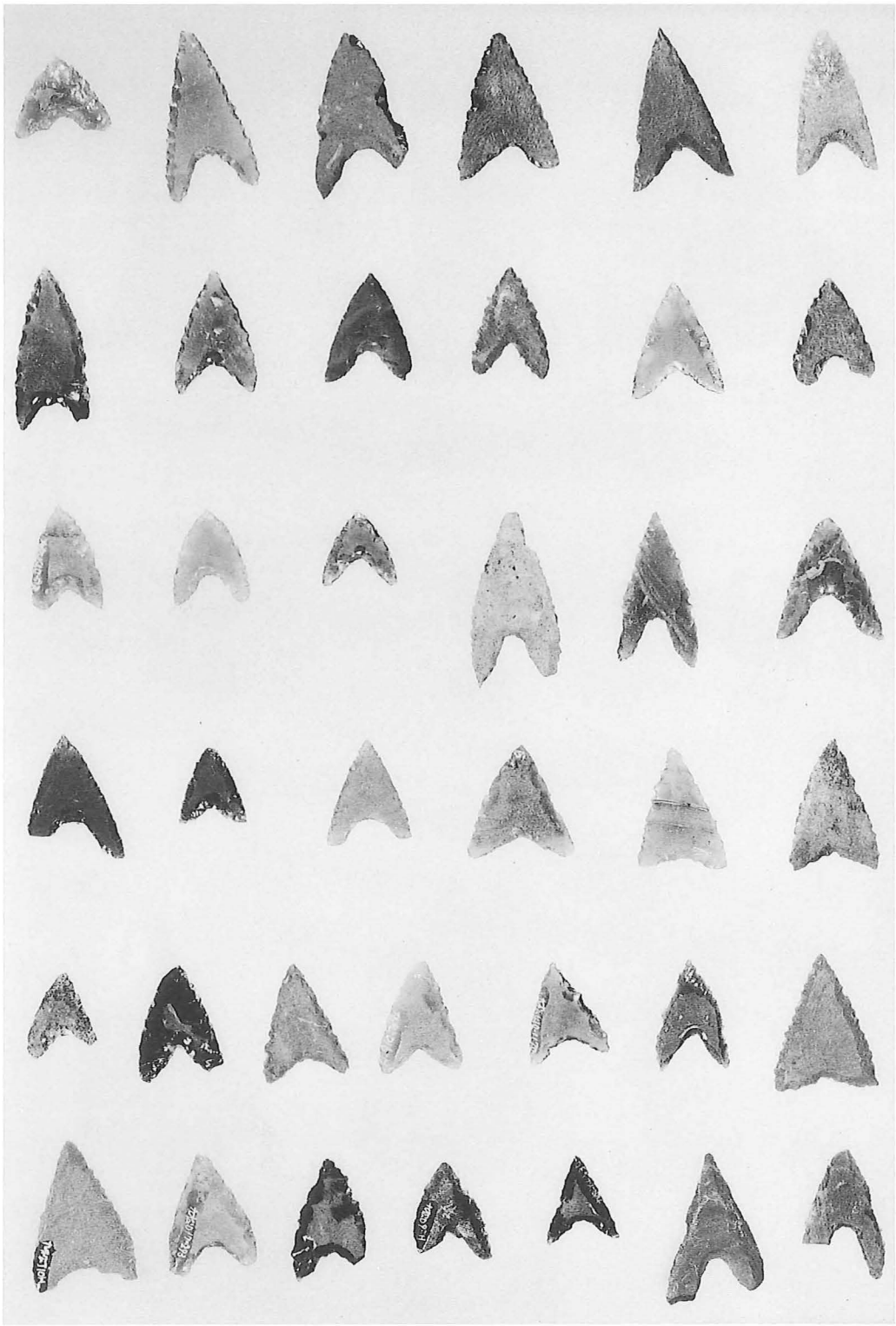
石鏃（11）



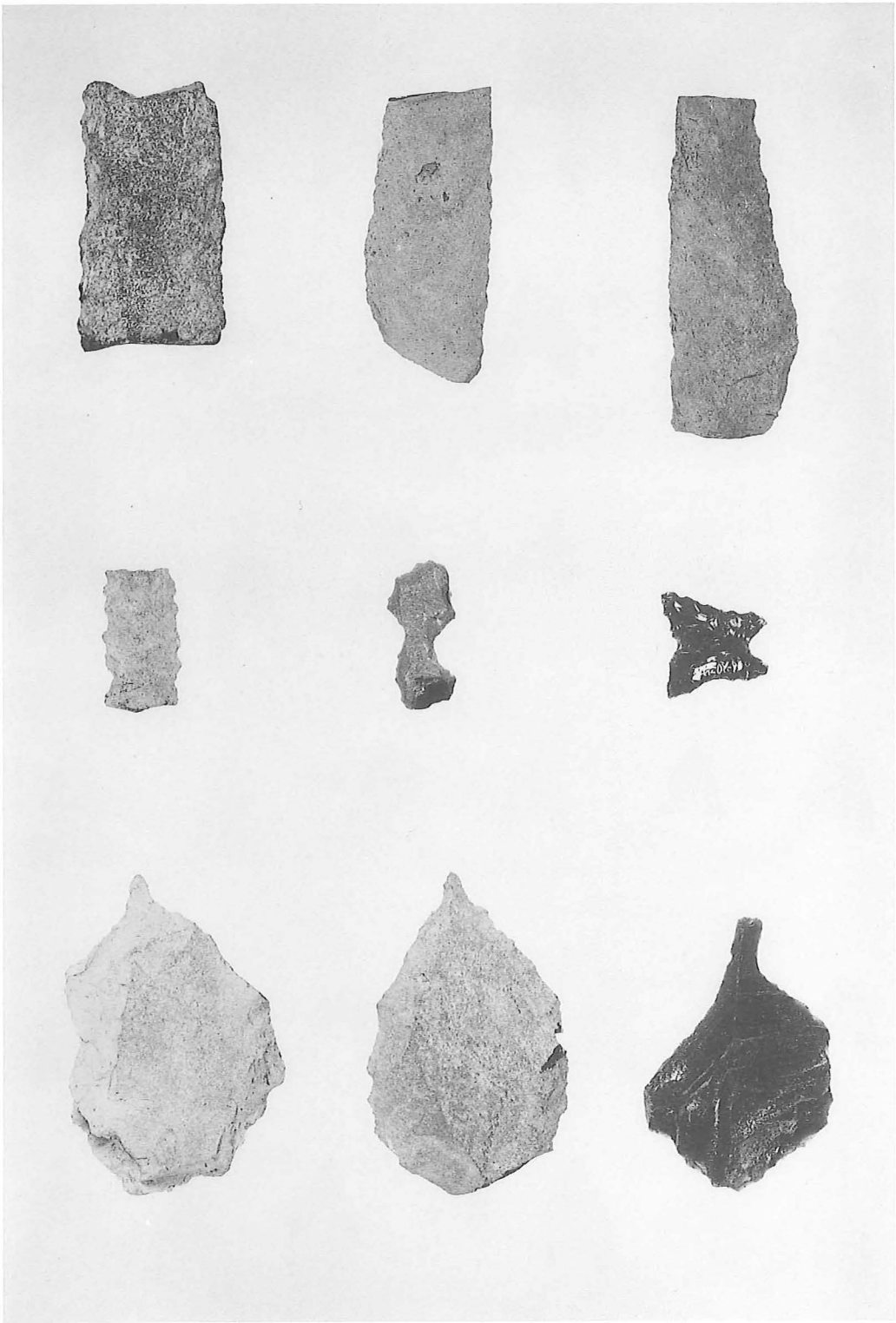
石鏃（12）



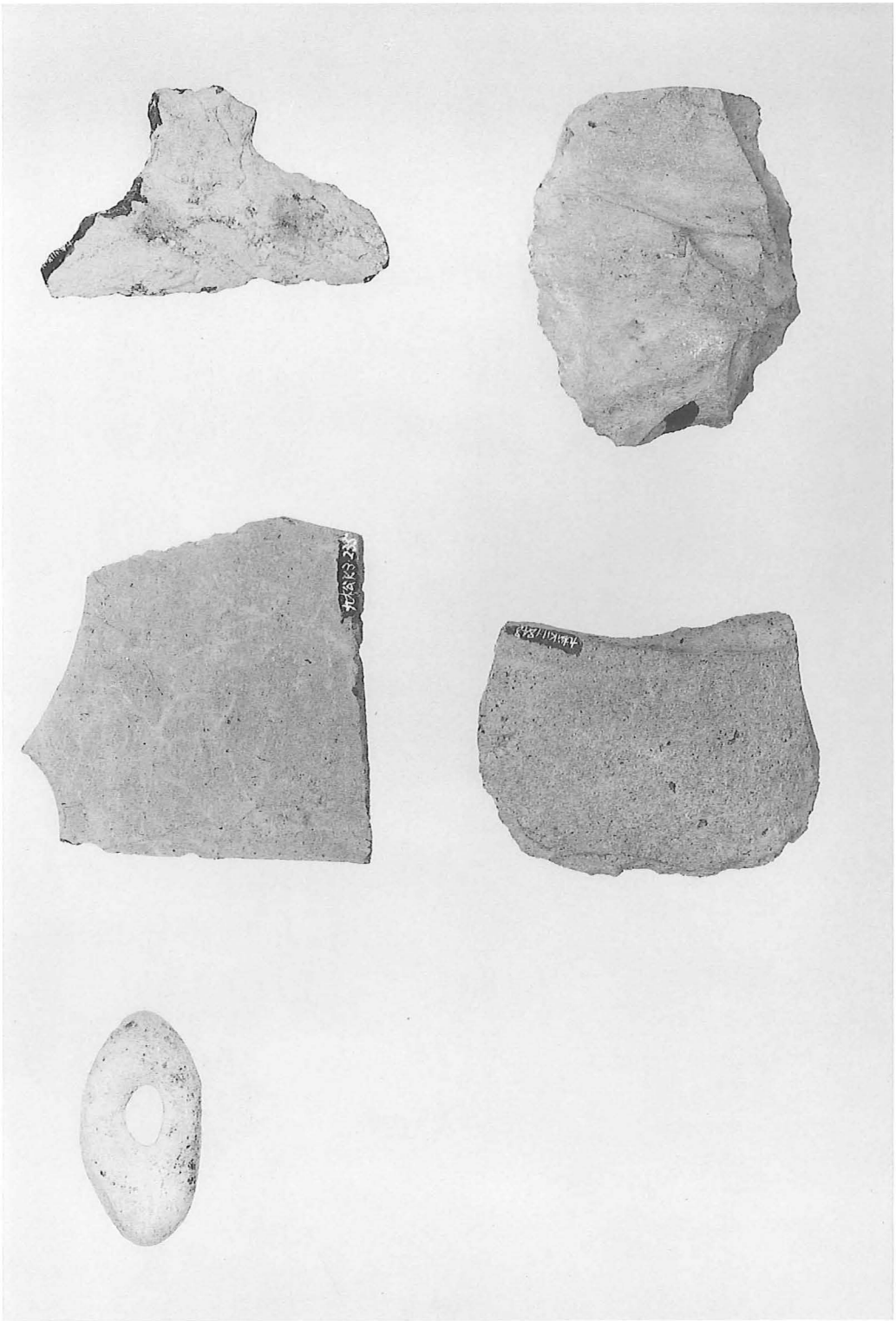
石鏃（13）



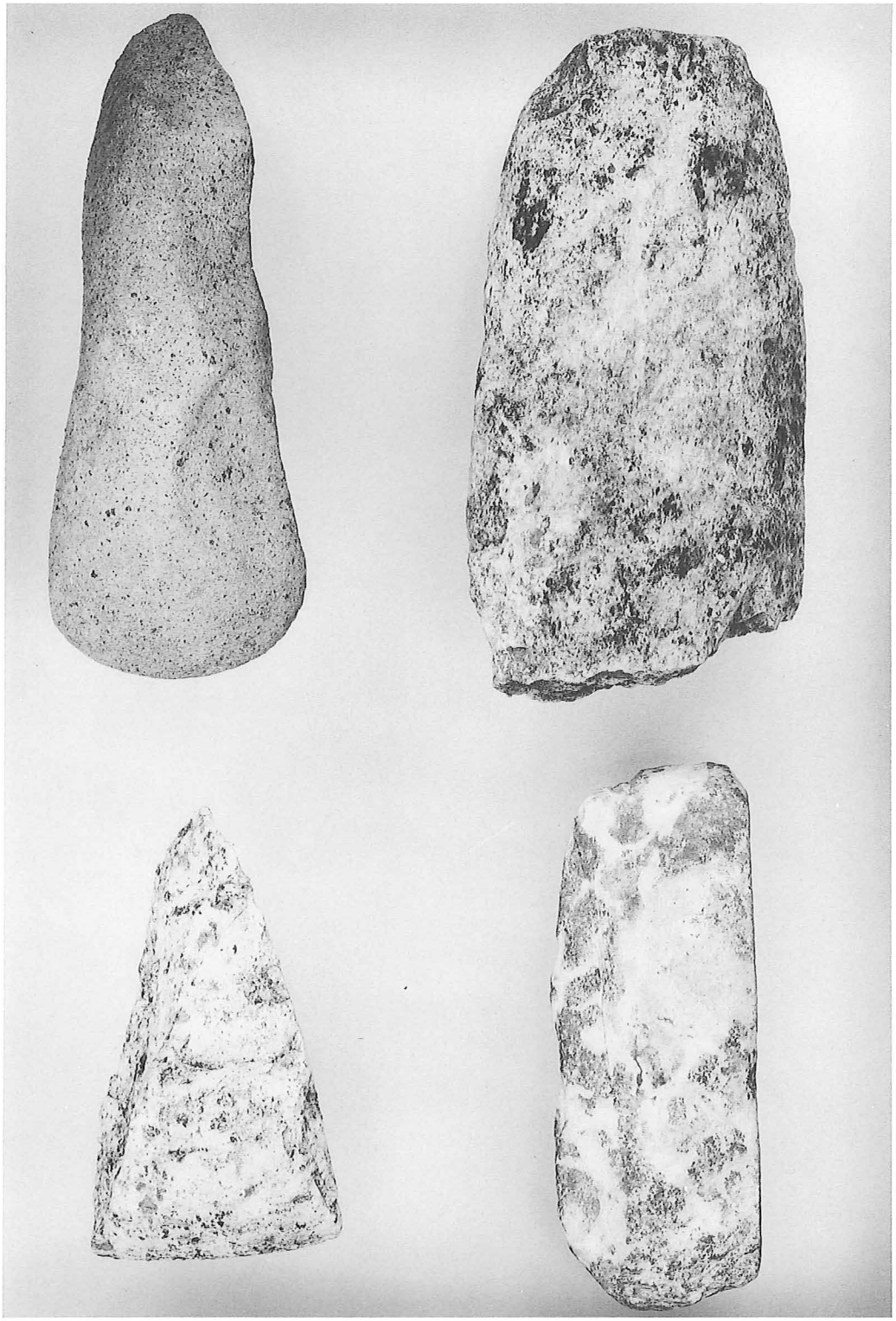
石鏃（14）



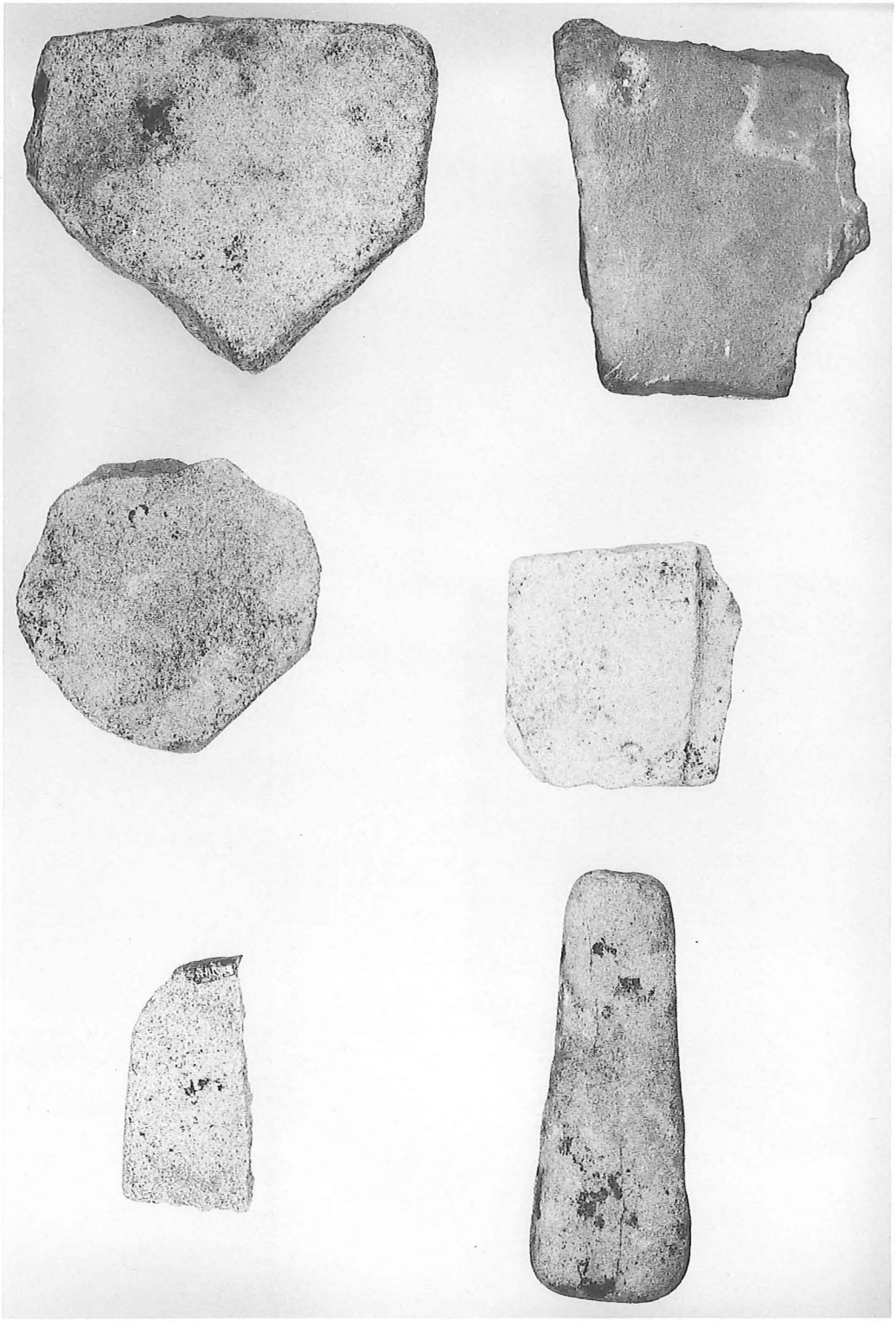
縄文時代の各種石器（1）



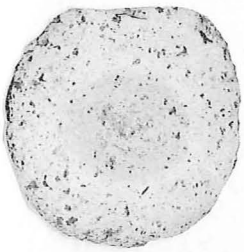
縄文時代の各種石器（2）



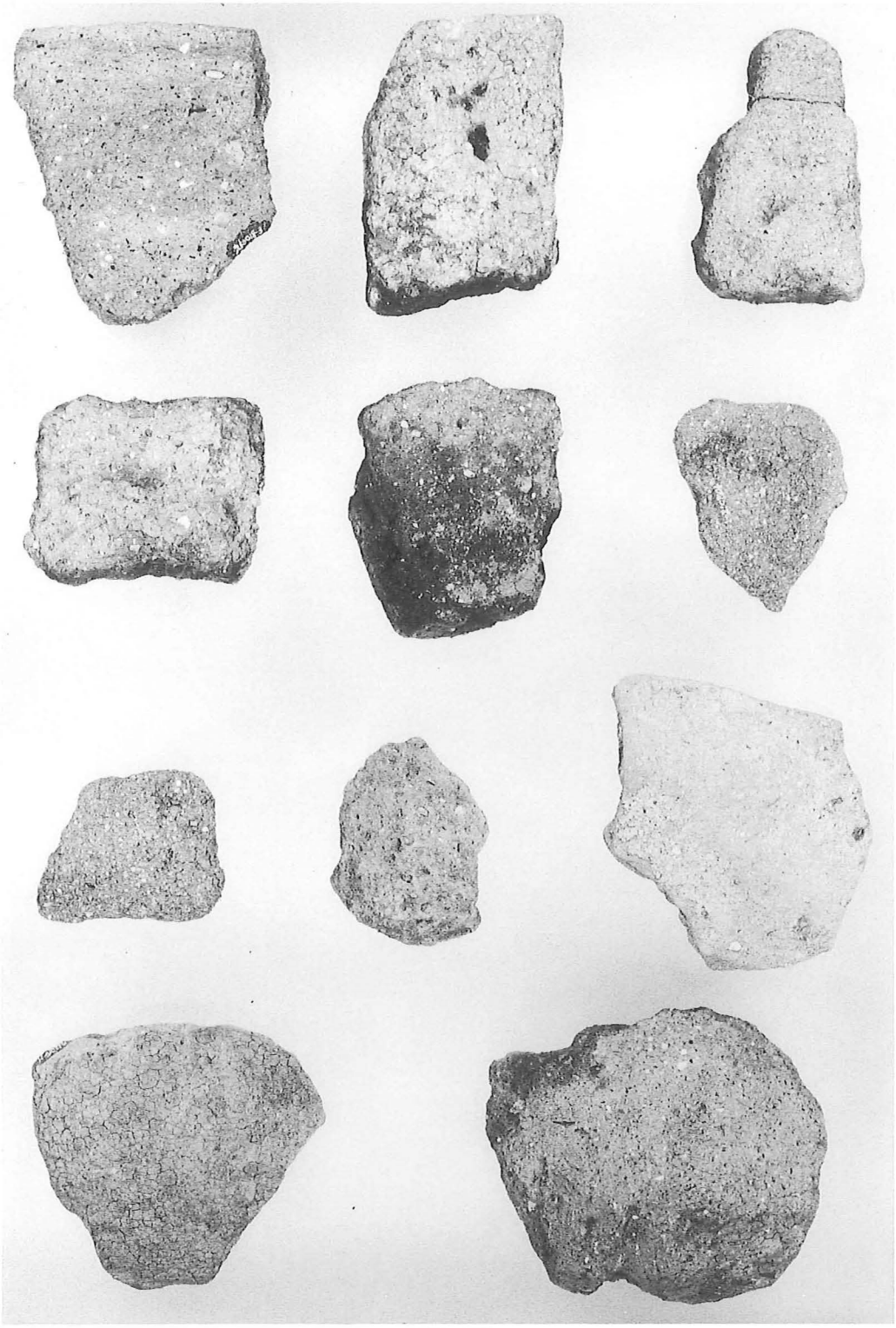
石斧



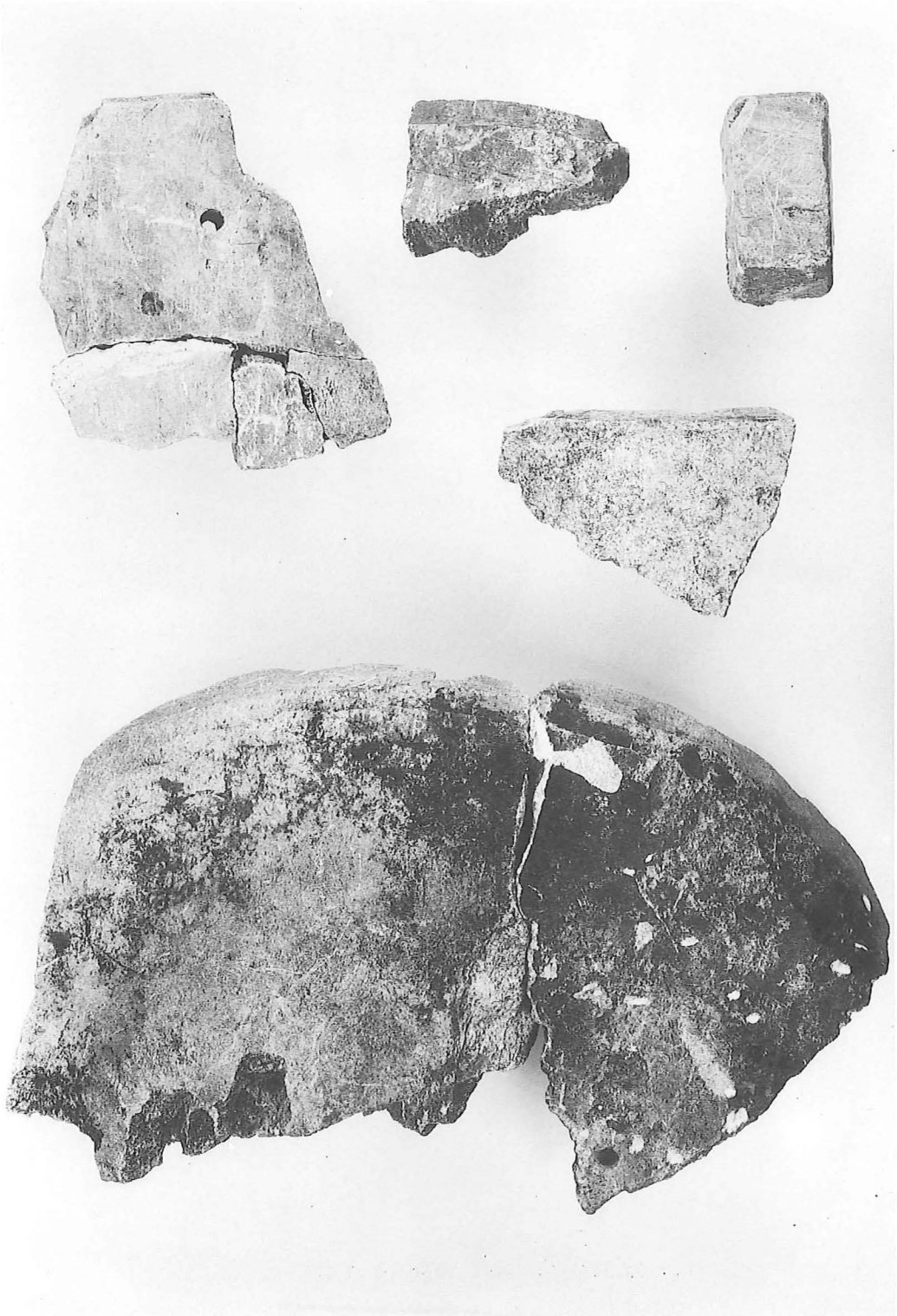
摩耗痕のある石器



凹石・すり石・石皿



縄文土器



石鍋

# 長崎県教育委員会発行調査報告書一覧

第１集　長崎県遺跡地名表　埋蔵文化財包蔵地一覧
第２集　五島遺跡調査報告書
第３集　民族資料調査報告書
第４集　福井洞穴調査報告（図録編）
第５集　深堀遺跡
第６集　男女群島特別調査報告
第７集　宮下遺跡調査報告（図録編）
第８集　対馬――豊玉村佐世保シゲノダン・唐崎の青銅器を出土した遺跡の調査報告――
第９集　宮下遺跡調査報告（解説編）
第10集　堂崎遺跡調査報告（長崎県長与町所在）
第11集　有明海沿岸地区の民俗
第12集　長崎県の民家（前編・後編）
第13集　対馬西岸阿連・志多留の民俗
第14集　里田原遺跡（図録）
第15集　下五島貝津・大串の民俗（本文編・図録編）
第16集　対馬の文化財
第17集　対馬――浅茅湾とその周辺の考古学調査――
第18集　里田原遺跡（略報II）
第19集　壱岐の文化財
第20集　対馬の遺跡
第21集　里田原遺跡
第22集　下五島の文化財
第23集　長崎県民俗地図
第24集　諫早北バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第Ｉ集（図録編）
第25集　里田原遺跡
第26集　原の辻遺跡
第27集　西彼杵半島猪垣分布調査該報
第28集　平戸市野子地域の民俗・福島町土谷の民俗（上・下）
第29集　長崎県のカトリック教会
第30集　旧島原藩薬園跡環境整備報告
第31集　原の辻遺跡（II）――長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡――
第32集　里田原遺跡
第33集　金石城跡緊急発掘調査報告書
第34集　長崎県の民俗芸能・民謡（Ｉ）採譜篇・別冊
第35集　長崎県埋蔵文化財調査集報　Ｉ
柿の本古墳
小野古墳
久津石棺群
遠目塚遺跡
第36集　世知原町開作免の民俗
第37集　原の辻遺跡（III）
第38集　里田原遺跡
第39集　日蘭関係資料
第40集　平戸・上五島地区の文化財
第40集の２　平戸・上五島地区の文化財（美術工芸品の部）
第41集　長崎県の民俗芸能・民謡（II）採譜篇
第42集　長崎県の海女（海士）
第43集　長崎県の民俗芸能・民謡（III）
第44集　松浦市とその周辺地区の文化財
第45集　長崎県埋蔵文化財調査集報　II
源貞遺跡
妙法塚遺跡
浜泊遺跡
大堂遺跡
憩場遺跡
第46集　大村湾の漁労習俗
第47集　長崎県の民族芸能・民謡（IV）
第48集　キリシタン関係資料

第49集　佐世保市とその周辺地区の文化財
第50集　長崎県埋蔵文化財調査集報　III
殿寺遺跡
ひさご塚遺跡・鬼の穴古墳
野田古墳
唐北塔ノ本遺跡
第51集　串島遺跡
第52集a　ケイマンゴー遺跡
第52集b　長崎県の民族芸能・民謡（V）
第53集　諫早・大村・北高来郡の文化財
第54集　九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　I
第55集　長崎県埋蔵文化財調査集報　IV
田崎遺跡
五反田遺跡
山角遺跡
第56集　九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　II
第57集　長崎県埋蔵文化財調査集報　V
鰐川貝塚
長戸古墳・丸尾古墳
開遺跡
第58集　堂崎遺跡――長崎県有家町所在の海中干潟遺跡――
第59集　島原・南高の文化財
第60集　針尾人崎遺跡――佐世保市針尾中町所在――
第61集　長崎唐寺関係所蔵品目録
第62集　長崎・西彼の文化財
第63集　橘湾の漁労習俗
第64集　九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　III
第65集　諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　I
第66集　長崎県埋蔵文化財調査集報　VI
宇久松原遺跡
第67集　長崎県埋蔵文化財調査集報　VII
小野下遺跡
第68集　今福遺跡I　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書第一冊
第69集　九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　IV
第70集　長崎県の農具調査（前編）
第71集　名切遺跡
第72集　九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　V
第73集　西ノ角遺跡
第74集　諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　II
第75集　長崎県埋蔵文化財調査集報　VIII
小栗B遺跡
帆崎遺跡
第76集　楼楷田遺跡　松浦火力発電所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書
第77集　今福遺跡II　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書第二冊
第78集　百花台遺跡
第79集　長崎県の近世社寺建築
第80集　長崎県の農具調査（後編）
第81集　上原遺跡
第82集　長崎県埋蔵文化財調査集報　IX
つぐめのはな遺跡
第83集　殿崎遺跡
第84集　今福遺跡　II
第85集　諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　III
第86集　長崎県埋蔵文化財調査集報　X
前目遺跡
白岳遺跡
一野遺跡
第87集　長崎県遺跡地図
第88集　長崎県の民謡

第89集　特別名勝温泉岳保存管理計画策定書

第90集　中道壇遺跡

第91集　長崎県埋蔵文化財調査集報　XI

松尾遺跡

大久保遺跡

第92集　百花台広域公園建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

第93集　九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　VI

第94集　長崎県埋蔵文化財調査集報　XII

三代遺跡

大屋敷遺跡

第95集　魚洗川B遺跡

長崎県文化財調査報告書第93集

# 九州横断自動車道建設に伴う
# 埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

# VI

1 9 8 9

発　行　長崎県教育委員会©
長崎市江戸町２－13

印　刷　有限会社一式印刷
長崎市田上町342－2